

# 西村茂樹における洋学の基礎的研究

研究課題番号：24520088

平成24年度～平成26年度科学研究費補助金（基盤研究（C））

研究成果報告書

平成27年3月

研究代表者 高橋文博

（就実大学教育学部教授）

# 西村茂樹における洋学の基礎的研究

研究課題番号：24520088

平成24年度～平成26年度科学研究費補助金（基盤研究（C））

研究成果報告書

平成27年3月

研究代表者 高橋文博

（就実大学教育学部教授）

## はじめに

### 1 概括

本冊子は、平成 24 年度、25 年度、26 年度の科学研究費補助金「西村茂樹における洋学の基礎的研究（基盤研究（C）」にかかる研究成果報告書である。

主要な内容は、西村茂樹（文政 11〔1828〕年—明治 35〔1902〕年）による英語原書からの翻訳の手書き稿本の翻刻である。

西村による洋書からの翻訳の多くは、日本弘道会編『増補改訂 西村茂樹全集』（思文閣出版、平成 16〔2004〕年—25〔2013〕年）に収録されている。具体的には、同『全集』第 5 巻、6 巻、7 巻、8 巻、9 巻、11 巻に、英語とオランダ語の原書からの翻訳が「訳述書」として収録されており、全 12 巻からなる同『全集』のかなり多くの部分を占めている。同『全集』に収録された資料は、既刊のものも含むが、手書き稿本からの翻刻も多く、幕末から明治前期にかけての洋学研究にとって重要な意義をもっている。だが、同『全集』に収録されていない、西村による洋書からの翻訳も、手書き稿本の形で、なお多く存在している。

本研究の目的は、前掲『全集』に未収録となった、英語原書からの西村による翻訳の手書き稿本を翻刻するとともに、翻訳原書を探索し、翻訳の仕方の特徴を示すことで、西村における洋学の実態をより明らかにすることであった。英語原書からの手書き原稿の翻刻と限定したのは、本研究担当者の能力によることでもあるが、『泰西史鑑』（前掲『全集』第 7 巻として収録）の翻訳刊行は別として、明治期に入ってから西村の研究対象は、英語原書に限定されているからである。

計画段階で翻刻対象としていたものは、基本的に翻刻できたが、分量が思いのほか多かったために、翻訳の特徴の分析に立ち入ることはできなかった。ただ、西村が、分類して順序立てて教えるところに、西洋の道徳学の重要な特徴を認めていることに鑑みて（「徳學講義」『増補改訂 西村茂樹全集』第 2 巻、236 頁以下）、「解題」においては、原書に立てられている章節区分の翻訳の仕方に言及しておいた。

翻訳原書の探索には相当に難渋したものもあったが、確認できたものは思いのほか多かった。未だ確認できないもの残っていることは遺憾なことである。

本冊子は、前掲『全集』未収録の手書き稿本のかなり多くのものを翻刻しているが、西村による翻訳原稿は、なお、少なからず存在する。このたび、それらを翻刻しなかった理由としては、時間的な制約によることもあるが、断片的なものであることや解読不能な箇所が多いことも大きかった。

本冊子の形における研究成果は、翻訳の特徴分析の不足、原書の確認できない資料の残ったこと、解読できない文字の残ったことなど、十分満足のいくものではない。だが、最も重要な課題としていた手書き稿本の翻刻については、当初の目論見以上に達成できた。これが、西村茂樹における洋学、ひいては近代日本における思想形成、ひいては近代日本形成の研究の一助となれば幸いである。

## 2 研究組織

研究代表者 高橋文博（就実大学教育学部教授）

所属機関・身分 平成 24 年 4 月～3 月 岡山大学大学院社会文化科学研究科教授

平成 25 年 4 月～9 月 山陽学園大学総合人間学部教授

平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月 岡山大学大学院社会文化科学研究科客員研究員

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月 就実大学教育学部教授

## 3 研究経費

平成 24 年度：2,470,000 円（直接経費：1,900,000 円，間接経費：570,000 円）

平成 25 年度：1,300,000 円（直接経費：1,000,000 円，間接経費：300,000 円）

平成 26 年度：780,000 円（直接経費：600,000 円，間接経費：180,000 円）

## 4 研究発表

高橋文博「「明治時代の道徳」を読む」「弘道」第 1079 号、日本弘道会、平成 24 年 8 月、20-21 頁

高橋文博『近代日本の倫理思想—主従道徳と国家』思文閣出版、平成 24 年 9 月、313 頁

高橋文博『増補改訂 西村茂樹全集』とわたくしの課題」「弘道」第 1085 号、日本弘道会、平成 25 年 8 月、20-21 頁

高橋文博「現世を生きる—近世的死生観の傾向」『岩波講座 日本の思想』第五巻、岩波書店、平成 25 年 9 月、233-263 頁

高橋文博「理想主義者としての西村茂樹」「弘道」1089 号、日本弘道会、平成 26 年 3 月、11-16 頁

高橋文博「近代日本における倫理思想の特質」コルネリヤ・イチン、山崎佳代子編『東方からの光：日本文化と我々』ベオグラード大学文学学部、2014 年 6 月、5-13 頁（セルビア語）（日本語版は『近代日本の倫理思想—主従道徳と国家』所収）

高橋文博「近代日本の思想を考える」「日本思想史研究会会報」第 31 号、日本思想史研究会、平成 27 年 1 月、1-9 頁

## 5 研究成果 本冊子

## 6 凡例

○翻刻のために使用した原本は、国立国会図書館古典籍資料室所蔵の稿本である。

○稿本は、電子書籍となっており、大半は公開されているので、公開資料はインターネット上でダウンロードした。

ただし、一部は、館内閲覧のみで公開されていないため、それについては、依頼した複写資料に拠る。

いずれにせよ、電子化されている資料は、現物を確認できないという事情にある。

○翻刻原本の冊子は、少なくとも、三段階の編纂を経ていると推定する。

第 1 段階は、西村茂樹の自筆稿本のとりまとめである。この最初にとりまとめた冊子の表紙部分、あるいは表紙のない場合は本文部分に、泊翁蔵書の印章が押されている。

本文の開始頁に、大抵、次の三つの印が押されている。一つは、上段にやや大きめの四角い「帝國圖書館」とある。下段に二重丸の印で、「帝圖」と真ん中にあり、外側に「昭和 六・一五」とある。帝國圖書館は、国立国会図書館の源流の一つである。

下段の欄外に印により「伯爵松平直亮氏寄贈本」とあり、伯爵松平直亮氏は手書きである。この印は、次の第 2 段階につけられた表紙の裏側に押されていることもある。

第 2 段階は、第 1 段階のまとまりに表紙を付けている。この表紙には、資料のタイトルと「西村茂樹先生自筆」という記載がある。「貴重品」というラベルと、国立国会図書館（旧帝國圖書館）の請求記号のラベルとが貼ってある。

第 3 段階は、第 2 段階につけられた表紙の外側に、また表紙をつけている。第 2 段階の編纂のタイトルと同じタイトルが付けられている。ここにも第 2 段階に貼られているのと同じ請求記号のラベルが貼ってある。

○翻刻原本の編纂の過程を踏まえると、次のことがいえる。

第 1 段階の編纂における表紙につけられているタイトル、そこに含まれている個別資料名は、西村のつけたものである。

第 2 段階につけられた表紙にある「西村茂樹先生自筆」の文字が西村自筆でないのは当然であり、「貴重品」のラベル等も西村のつけたものではあり得ない。

この段階の表紙に、資料名としてつけられたタイトルは、「西村先生自筆」の文字と類似する筆で記されているので、西村のものでない可能性がある。しかし、西村の書き癖に似ているところもあり、西村のつけたタイトルでないと断定することに躊躇するところがある。

第 3 段階の表紙に記されているタイトルは、西村自身がつけたものではない。

○本冊子では、翻刻資料のタイトルとして、第 1 段階の編纂で西村のつけた表紙のタイトル、あるいは、そのうちにある個別資料名とし、それを標題とよぶ。この標題の後に、西村がタイトルをつけているものを内題とよぶ。

○同一の資料名の場合は、原著者の名前を付している。

○第 2、第 3 の段階の編纂で付けられたタイトル、つまり国立国会図書館（あるいは帝國圖書館）において表記している資料名は、請求記号を冠した形で表記する。

例えば、「哲學語解」であれば、八二七一一一六「哲學語解」とする。

○本冊子における資料の配列は、国立国会図書館の請求記号の順におおむね従っているが、同一原書による資料をまとめている場合がある。

○用字は、原本を尊重したが、使用した Word のフォントにより、西村の書き癖、旧字が表示できない場合がある。

- 〔 〕によるルビは、高橋がほどこしている。
- 〔 〕は、原則的に、高橋が施しており、西村による頭注、見出し、補注などである。
- 変体仮名は、通行の字体に改めている。
- 翻訳原書の探索のために使用した、主な図書館の検索システムは、次のものである。
  - ・ 国立国会図書館蔵書検索システム
  - ・ ミシガン大学：Mirlyn Classics
  - ・ Explorer British library
  - ・ オックスフォード大学：SOIO
  - ・ ハーバード大学：HOLLIS
  - ・ コロンビア大学：CLIO legacy
- 「解題」にあたって直接的に参照したのは、次のものである。
  - ・ *Online Encyclopædia Britannica.*
  - ・ *Stanford Encyclopedia of Philosophy.*
  - ・ *Wikipedia, the free Encyclopedia.*
  - ・ *A History of English Philosophy*, by W. R. Sorley, 1921.
  - ・ *The Continuum Encyclopedia of British Philosophy.* Continuum International Publishing Group, 2006.
  - ・ *A History of American Philosophy*, by Herbert W. Schneider: Indian Edition 1969.
  - ・ *Dictionary of Early American Philosophers*, by John R. Shook, Bloomsbury Publishing, 2012.
  - ・ 『岩波 世界人名大辞典』
- 「解題」のために参照した個別論文は、当該の箇所に記しておいた。
- 西村の手書き稿本を、Word への最初の文字起こしをして下さったのは、下に掲げる個人と会社である。個人の身分は、作業実施時期のもので、敬称は略している。翻刻の成果についての責任は高橋にあるが、この最初の文字起こしの作業なくしては、この研究を遂行することはできなかつた。記して感謝の意を表する。

「英國憲法ノ主要ナル原理」…株式会社横浜クレセール

「政体通論」…株式会社横浜クレセール

「道徳學 Alexander Bain」…株式会社横浜クレセール

「ハリス氏文明論講義」…岡山大学大学院社会文化科学研究科大学院生 松本一徳

「人間交際」…株式会社横浜クレセール

「學之門」…岡山大学大学院社会文化科学研究科大学院生 後藤智絵

「利知曼氏洛日克第一」…株式会社横浜クレセール

「彌爾氏洛日克撮要」…株式会社横浜クレセール

「殷斯婁氏道徳學二」…株式会社横浜クレセール

「道德學 Hubbard Winslow」…株式会社横浜クレセール  
「谷蔽氏洛日克 一」…岡山大学農学部学生 田中正浩  
「谷蔽氏洛日克入門第二冊」…株式会社横浜クレセール  
「倍因氏洛日克 一」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「哲學語解」…岡山大学大学院社会文化科学研究科大学院生 松本一徳  
「社會學」…株式会社横浜クレセール  
「社會學譯稿 一」…岡山大学農学部学生 大田真平  
「道德理學」…株式会社横浜クレセール  
「修身學」…株式会社横浜クレセール  
「修徳學」…株式会社横浜クレセール  
「顛利爹氏道德學」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「徳學綱要」…株式会社横浜クレセール  
「宇宙哲學第一冊」…岡山大学農学部学生 大田真平  
「宇宙理學前輯」…株式会社横浜クレセール  
「斯丟亞の性理學 第一綴」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「道義之學叙言」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「修徳之學」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「福氏道德學講義第一冊」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「修治學 第二編」…株式会社横浜クレセール  
「西國道學纂論 上」…株式会社横浜クレセール  
「聖語録第一冊」…株式会社横浜クレセール  
「實在理學譯解」…株式会社横浜クレセール  
「政治學一」…株式会社横浜クレセール  
「演知學一」…株式会社横浜クレセール  
「致知學即洛日克 百科新編 七十一」…株式会社横浜クレセール  
「英國心學」…博士・法学(岡山大学) 安養寺信俊  
「埋尔黒氏道德學」…山陽学園大学総合人間学部卒業生 竹内涼子  
「道學大意譯稿」…岡山大学大学院社会文化科学研究科大学院生 後藤智絵

[付記]

本冊子は、就実大学ホームページに掲載することとしている。

本報告書にかんして、原書、関連文献、誤謬その他の情報提供先は、下記である。

〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原 1-6-1

就実大学教育学部 高橋文博 研究室

E-mail fumihiro@shujitsu.ac.jp

目次

「英國憲法ノ主要ナル原理」	1
「英國憲法ノ主要ナル原理」解題	3
「政体通論卷之一」	3
「政体通論卷之一」解題	14
「道德學 Alexander Bain」	14
「道德學 Alexander Bain」解題	28
「哈里斯氏文明論講義」	29
「哈里斯氏文明論講義」解題	42
「人間交際」	43
「人間交際」解題	51
「学之門」	52

「學之門」解題	.....	67
「利知曼氏洛日克第一」	.....	68
「利知曼氏洛日克第一」解題	.....	86
「彌爾氏洛日克撮要」	.....	87
「彌爾氏洛日克撮要」解題	.....	88
「殷斯婁氏道德學二」	.....	89
「道德學 Hubbard Winslow」	.....	106
「殷斯婁氏道德學二」解題	.....	113
「道德學 Hubbard Winslow」解題	.....	113
「谷蔽氏洛日克 一」	.....	115
「谷蔽氏洛日克入門第二冊」	.....	145
「谷蔽氏洛日克 一」解題	.....	161
「谷蔽氏洛日克入門第二冊」解題	.....	161

「倍因氏洛日克 一」	.....	162
「倍因氏洛日克 一」 解題	.....	196
「哲學語解」	.....	197
「哲學語解」 解題	.....	230
「社會學譯稿 一」	.....	230
「社會學第二冊」	.....	274
「社會學譯稿 一」 解題	.....	281
「社會學第二冊」 解題	.....	281
「道德理學」	.....	283
「道德理學」 解題	.....	300
「修身學」	.....	301
「修德學第一編」	.....	303
「デー氏ノモラル」	.....	315

「頭利參氏修身學」	.....	318
「頭利參氏道德學」	.....	321
「修身學」解題	.....	368
「修德學第一編」解題	.....	368
「デー氏ノモラル」解題	.....	368
「頭利參氏修身學」解題	.....	368
「頭利參氏道德學」解題	.....	368
「德學綱要」	.....	369
「德學綱要」解題	.....	377
「宇宙哲學第一冊」	.....	378
「宇宙哲學第一冊」解題	.....	397
「宇宙理學前輯」	.....	398
「宇宙理學前輯」解題	.....	403

「心學及道學」	.....	404
「心學及道學」解題	.....	454
「福均ノ修身学」	.....	455
「福均ノ修身学」解題	.....	457
「斯丟亞的性理學 第一綴」	.....	457
「斯丟亞的性理學 第一綴」解題	.....	475
「道義之學叙言」	.....	476
「道義之學叙言」解題	.....	477
「修德之學」	.....	477
「修德之學」解題	.....	493
「福氏道德學講義第一冊」	.....	494
「修治學 第二編」	.....	505
「福氏道德學講義第一冊」解題	.....	574

「修治學 第二編」解題	.....	574
「西國道學纂論 上」	.....	575
「西國道學纂論 上」解題	.....	604
「聖語錄第一冊」	.....	604
「聖語錄第一冊」解題	.....	619
「實在理學譯解」	.....	619
「實在理學譯解」解題	.....	624
「政治學一」	.....	624
「政治學一」解題	.....	629
「演知學一」	.....	630
「演知學一」解題	.....	637
「致知學即洛日克 百科新編 七十二」	.....	638
「致知學即洛日克 百科新編 七十二」解題	.....	672

「英國心學」	.....	673
「英國心學」解題	.....	700
「埋尔黑氏道德學」	.....	702
「埋尔黑氏道德學」解題	.....	708
「道學大意譯稿」	.....	709
「道學大意譯稿」解題	.....	717
「ジャネイ道德學」	.....	718
「ジャネイ道德學」解題	.....	735

## 英国憲法ノ主要ナル原理

○英国ノ憲法ヲ学ブ所ノ生徒ハ、常ニ注目スベキ主要ノ原理アリ、故ニ今此書ヲ著ハスニ方リ、先ツ其原理ヲ簡易ニ數ヘ立ザルベカラズ、其原理ノ個條ハ左ノ如シ、

一 英国ハ傳統ノ君主ヲ以テ之ヲ管治セシムベシ、

一 国君ハ巴力門パリスメントノ同意ヲ得ザルノ間ハ、擅ニ法律ヲ造ルコトヲ得ズ、

又民ニ租税ヲ課スルコトヲ得ズ、

一 国君ハ国ノ法律ニ從テ国土ヲ治メ政務ヲ處分セザルベカラズ、若シ國ノ為ス所法律ニ違フトキハ、評議役又ハ名代人タル者其責ニ任ゼザルベカラズ、

一 巴力門ハ国君ノ招呼ヲ受クルノ外ノ權理ニ因テ、巴力門ノ中ニ入ルベキ名義ヲ所有セルノ人、又ハ其他ノ位号ヲ所有セル人々相合シテ形ヲ成シタル者ナリ、但シ其權理位号アレドモ之ニ入ルコトヲ好マザル者ハ勝手ニ辞退スルコトヲ得ベキ者ナリ、

一 巴力門ノ人員ノ一分ハ平民多數ノ保舉ニ因テ之ヲ選定ス、即チ平民ノ羣中ヨリ之ヲ取ルナリ、

一 裁判ノ事ハ獨立セル司法衙門ニ於テ純粹ニ疾速ニ自由ニ之ヲ執行フ

ナリ、

一 法律ニ協ヒタル審問ノ後ニ非ザレバ誰人ニテモ氣候ニ罰金ヲ言付ケ、又入牢サル、コトナシ、又誰人ニテモ其財産ト自由トヲ傷ツケラル、コトナシ、又誰人ニテモ輕重ノ諸刑罰ヲ受ルコトナシ、

○学プロフェッショナルクレシイ師格列西曰ク、英国ノ憲法ノ大原理ハ「マグナカルタ」ノ法英王約翰第一ノ時ノ法及

ヒ其追加ナル「コンヒルマシオ、カルタリユム」ノ法ノ中ニ載タル、明言ノ約束ト含蓄シタル意味トノ二ツニ因リテ立チタル者ナリ、夫々以後追々ニ成立シタル法律、就中「ペチシヨン、オフ、ライト」素未詳第一ノ時及ヒ「ビ

ル、オフ、ライト」維廉第三馬利ノ時ノ二律ノ助ニ由テ益整備ニ至レリ、是等ノ法ノ

成リシハ、何レモ国家安危ノ分界ノ時ニシテ、英国ノ人民能ク嚴格ニ自己ノ權理ヲ説出シ、又嚴格ニ自己ノ義務ヲ認識シ、以テ善美ノ結果ヲ得タリ、此權理ト義務トノ二者ハ、尋常ノ法律ノ個條中ニ組入ルベキ者ニハ非ザレドモ、憲法ノ実体ト為ルベキ者ナレバ、人民自ラ之ヲ發明シ之ヲ固定スルノ人ト為リテ、是ヲ以テ政治上ノ大免許ト為セシ者ナリ、

○刑法ノ律ニ付テハ一千七百零一年ニ定メシ「ハベス、コルポス」ノ律、及ヒ「セツトルメント」ノ律ハ俱ニ上ノ諸法ト同シ功益ヲ為シタル者ナリ、

発端

学士浩伯コッペル曰ク、自由ハ我等ノ快樂ノ性命ノ花ニ光彩ト芬香ヲ與フル者ナリ、若シ自由ナケレバ我等ノ性命ハ宛モ雜草ニ齊シキ者ナリ、又曰ク、天下衆民ノ中ニ、幸福アリテ且衆人ノ上ニ立ツ民ヲ見ルニ、必自由得タルノ民ナリ、吾英国ノ民ノ如キハ、地球上ニ於テ災害ナキ地ニ生レタル民ト謂フベシ

問 政治及ヒ憲法トハ如何ナル物ゾ、

答 立法會ノ成立、立法ノ事ヲ掌ル議員ノ權理義務、司法院ノ成立目的、威權等ニ就テ定メタル国ノ法度ヲ云フ、

学師格列西曰ク、憲法トハ上古ノ時ヨリ今日ニ至ルマデ吾等ノ国民ノ間ニ成立シタル重大ナル原理ナリ、其原理ト云フハ、人民ノ交際ト礼儀トヲ開展シ、且ツ適當ニシ、其躰質ト精神トハ昔ノ俣ヲ替ヘスシテ、

唯其開發ヲ進メ陋習ヲ變ズルニ在ルナリ、  
問 英国ノ憲法ハ如何ナル性質ノ者ナルヤ、

答 制限アル君主政治ナリ、則チ英国ハ制限アル權威ヲ所持セル君主ノ管治スル所ナリ、

問 君主ノ威權ヲ制限スルハ何人ナルヤ、

答 「アリストカラシイ」即チ貴族ト、「デモクラシイ」即チ平民トナリ、  
ロールドボリンゲンフロック  
勞尔德保林伯羅克曰ク、制限アル君主政治ハ政体ノ中正ヲ得タル者ナリ、若シ此中正ヲ失ヒ、一方ニ偏スルトキハ暴虐ト為リ、他ノ

一方ニ偏スル時ハ壞亂ト為ルナリ、  
アナルキイ

問 英国ノ憲法ノ勝レタル秀美ヲ得タルニハ如何ナル道理アリヤ、

答 人民ノ自由、法律ノ公正、陪審ニ由テ審判ノ允當、是ナリ、

問 人民一個ノ權理トハ如何ナル物ゾ、

答 人民自然ノ有様ノ中ニ生活シアルトキ、銘々其人ニ附屬シアル權理ヲ云フナリ、此權理ハ交際ノ外ニ在リテモ、交際ノ内ニ在リテモ、共ニ受ルコトヲ得ベキノ理アル者ナリ、

問 英国ノ人民ハ如何ナル權理ヲ許サレテアルカ、

答 人身安全ノ權理財產ノ權理、自由ノ權理是ナリ、人身安全ノ權理トハ、人民自己ノ生命、肢節、身体、健康、名譽ヲ全フスルコトヲ得ルノ權理ナリ、財產ノ權理トハ人民自己ノ力ニテ得タル物品ハ、之ヲ禁止シ、又ハ之ヲ減少スルコトナク、国土ノ法律ヲ以テ之ヲ保護シ、自由ニ之ヲ用ヒ、之ヲ受ケ、之ヲ處分スルコトヲ得セシムルノ權理ナリ、自由ノ權理ハ所謂國民ノ自由ト云フ者ト同ジカラス、國民ノ自由ト云フハ、暴虐ナル君相ノ支配ヲ免カル、ヲ謂フコトニテ文明ノ国ニハ是ナキコトナリ、學士駱克ローキハ國民ノ自由ヲ名ケテ社會上ノ人民ノ自由ト云ヘリ、是ハ立法權ノ下ニ立ツコトナク、唯衆人協同シテ自由ヲ保ツコトヲ言フナリ、

「英國憲法ノ主要ナル原理」解題

「英國憲法ノ主要ナル原理」は、八二七—一〇三「雜綴」八號に、「社會學第二冊」「道德學 Alexander Bain」とともに合綴されてゐる。この資料については、西村が翻訳において依拠した原書を確認できなかった。

政体通論卷之一

西村茂樹 譯述

### 総論

○凡ソ人ノ性タル皆羣居聚合以テ此世ヲ過スベキ者ニシテ、单身孤立以テ此生ヲ終フベキ者ニ非ス、遠クハ古代ノ史傳ヲ讀ミ、近クハ其身ノ實驗スル処ニ據ルニ皆然ラザルコトナシ、今地球ノ面ニ生活スル処ノ人民其數億ノミナラズ、皆其首領頭目ノ下ニ立チ一定ノ規則ヲ奉ジテ其生ヲ送ラザル者ナシ、是ニ依テ見レハ、人類ニ羣居聚合ノ性アルハ蓋シ偶然ノ事ニ非ズシテ其天賦人類固有ノ性質タルヲ知ルベキナリ、然レドモ天下人民ノ衆キ、其内賢ナル者アリ、愚ナル者アリ、蒙昧ナル者アリ、礼義ニ進ム者アリ、其人品ノ齊シカラザルヨリシテ、其政治ノ状法度ノ道亦各同シカラス

○所謂<sup>天下ノ人物ハ万国ノ人物ハ</sup>人品ノ齊シカラザル者ハ種類ヲ以テ其優劣ヲ定ムベカラズ、其優劣ヲ分ツノ道ニアリ、曰ク身ヲ修ムル孰レカ正シキ、智慮孰レカ秀タル、身體孰レカ強健ナル、此三者ノ勝レタルヲ優等ノ民トシ、此三者ノ及バザルヲ劣等ノ民トス、故ニ天下万国ノ政体ヲ知ラント欲セハ先ツ其国民交際ノ良否、智識ノ明暗、歴史ノ事蹟国土ノ位置ヲ詳ニシ、然ル後政体ノ事ニ論ジ及ブベシ、蓋シ此四者ハ政体ノ由テ生スル処ナリ、  
○今政治ヲ以テ一ノ學術ト為シテ之ヲ見ルトキハ、其内ニ二個ノ原質ヲ

含有セリ、曰ク變不<sup>レ</sup>變、曰ク礼義<sup>レ</sup>經濟<sup>レ</sup>是ナリ、凡ソ民ノ羣居聚合セル者ヲ治ムルニ、其之ヲ治ムル所以ノ方ハ至美ナラサルベカラス、其方ヲ立ル所以ノ理ハ至善ナラサルベカラス、然レドモ亦立法ノ智慧ノ度ニ從テ各地各異ノ政治ナカルベカラズ、例スルニ大比利敦<sup>フレートブリテン</sup>ノ政治ヲ以テ之ヲ赤色ノ印甸土番ニ施ストキハ大ニ其方ヲ誤ルベシ、然ルニ印甸土番ノ如キモ亦其國ニ法度アリ政治アリ、土番等之ヲ視テ完備ノ政治ト為スコトハ猶比利敦人ノ自國ノ政治ヲ以テ完備トスルニ異ナルコトナシ、

○古代ノ歴史ヲ觀ルニ、良善ノ政法ト雖ドモ、時勢ニ合ハス、遂ニ廢格スル者アリ、此ノ如キ政法ハ或ハ地ヲ異ニシ、或ハ時ヲ異ニセバ、頗ル行ハル可キ者ノ如シト雖ドモ、苟モ一時廢格スル時ハ他人復之ヲ行フ者ナシ、

## 第一節

### 政治ノ義

○上文ニ論スル処ニ據レバ人類タル者ハ皆羣居聚合ノ性ヲ具セルコト明ナリ、既ニ羣居聚合スルトキハ其羣居聚合ヲ管理スルノ法ナカルベカラズ、故ニ政治ナル者ハ宜シク之有ルベシ、宜シクコレ無カルベシトヲ論スルヲ須ヒズ、唯其旨趣意向如何ンヲ論ズベキノミ、凡ソ政治ハ其初メ已ム可カラザルヨリ起ル者ナリ、故ニ政治ナル者ヲ立テ民ヲ治メントイフニハ非ズ、唯民ノ為メニ政治トイフ者無カルベカラザルナリ、然ラハ政治ナル者ハ果シテ何如ナル者ゾ、

○民ノ羣居聚合ヲ整理スル者ヲ總テ名ケテ法度トイフ、法度ヲ民ニ施スノ道ヲ政治トイフ、今爰ニ二國アリ、其法度ハ同ジケレドモ、其政治ハ大ニ異ナル者アリ、或ハ政治ハ同ジケレドモ、法度ハ大ニ異ナル者ナリ、此ノ如キ事ハ目今天下ノ諸國ニ於テ多ク見ル所ナリ、

○政治ノ原語ヲ「ガブルンメント」ト云フ、此語ニ三義アリ、一ハ法度命令ヲ施行スルコトヲノミノ義、二ハ法度ヲ行フ政事ノ体ヲ云ヒ、三ハ政事ヲ施行スル処ノ人ヲ云フ、

## 第二節

### 政治ノ旨趣

○屢、歴史上ヨリシテ之ヲ考フルトキハ、政治ノ旨趣ハ、其管理セル万類ノ便宜利益ヲ謀ルノ外ナシ、道理上ヨリシテ之ヲ論スル時ハ其説種々アリ、然レドモ猶深ク之ヲ考フルトキハ共ニ一理ニ歸スベシ、羅基英國<sup>ロッキ</sup>ノ理學ノ大家及ヒ美爾敦英國<sup>ミルトン</sup>ノ詩學ノ大家ノ二家之ヲ論シテ或ハ曰ク、公衆ノ為メニ善キコト、或曰ク最モ多數ノ為メニ善キコト、或ハ曰ク羣居聚合ノ全体ノ為メニ善キコト、或曰ク最モ多數ノ為メニ最モ善キコト、其説各異ナリト雖ドモ合セテ之ヲ論スルトキハ、凡ソ政治ハ羣居聚合ノ全体ヲ安全ニスル為トイフ一語ニ歸スベシ、又前ノ諸論ニ憑ルトキハ政治ノ要ハ最モ善キコトトイフニ外ナラズ、然ルニ唯此最善トイフノミニテハ語意未タ明亮ナラサレハ更ニ其義ヲ詳説セザルベカラズ、

○政治上ニ生スル処ノ善ナル者ヲ尋ヌルニ其目ニアリ、此二者共ニ人間自然ノ性ニ根スル者ニシテ、一國ノ民多少其義ヲ知ラザル者ナシ、其一ハ義法ヲ以テ民ヲ治ムルコト、其二ハ人民交道國ノ安全幸福ヲ進ムルコト是ナリ、

○政治上ニ就テ之ヲ論スルトキハ、第一條ハ陰ニ属シテ檢束ノ事ナリ、第二條ハ陽ニ属シテ擴張ノ事ナリ、檢束ノ事ハ、国民ヲシテ他人ノ威力譎詐ノ害ヲ受ザラシメントスルニ在リ、擴張ノ事ハ、国民ノ力ヲ合セ、全國一体ノ事功ヲ立為サントスルニ在リ、其故ハ其力ヲ聚合スルトキハ、獨力事ヲ為スヨリハ、能ク許大ノ事業ヲ為シ得ベキヲ以テナリ、此區別アルヲ以テ、凡ソ政府ノ事務ハ分ツテ二綱ト為サ、ルベカラズ、其一綱ハ法律審判ノ事ニシテ民法刑法等ノ目之ニ属ス、其二綱ハ、租税ノ事ニシテ、法律審判ノ事ノ外ニ總テ政府ノ成立スル所以ノ事尽ク之ニ属ス、然レドモ此二綱ハ共ニ法度ニ從テ之ヲ定メザルヘカラズ、其所謂法度ナル者ハ、一ハ国民ノ習慣ニ憑リ、一ハ公正ノ道理ニ據テ之ヲ立定セラル者ナリ、故ニ立法ノ事ハ審判收税ノ事ノ由テ生スル処ナレバ政治中ニ於テ最モ至重ノコトト為スベシ、

○此二件ハ政治中ノ緊要ノ旨趣ナリト雖ドモ、此外ニ政治ノ旨趣ナシトイフベカラズ、凡政治アルノ所ハ必ラス其土地ノ界限アリ、又其政治ヲ受クル民數ノ界限アリ、此界限ノ外ハ又他ノ政治アリ、故ニ政治ナル者ハ聳立特抜ノ者ニ非ズシテ聚合連結ノ者ナリ、天下政治ヲ立ル者多シト

雖ドモ土地人民ノ界限ナキ者ハ一モ有ルコトナシ、今航海者、大洋ノ上ニ在ル時ハ、其身ハ政治ノ界限外ノ地ニ居ルト雖ドモ、猶其自國ノ法度ヲ守ラザルベカラズ、然レハ政治ノ及バザル地ト雖ドモ猶人ノ上ニ政治アルコト明ナリ、

○凡ソ土地人民ヲ束ネテ一体ヲ為ス者ヲ、或ハ「ステート」ト称シ、或ハ「レルム」ト称シ、或ハ「キングダム」ト称シ、或ハ「エムパイル」ト称シ、或ハ「レパブリック」ト称ス、共ニ譯シテ國トイフ、然レドモ補カニ之ヲ分ツトキハ、ステートハ  
グロムハ王ノ下ニ合スル數郡ヲイヒ、エムパイルハ無窮ノ威勢ヲ以テ  
テ稱セル事イヒ、レパブリックハ民衆政ヲ以テ稱セル事イフ、又人民ハ相集合スレドモ土地ニ界限ナキ者アリ、此ノ如キ者ヲ称シテ部落ト云フ、部落ノ民ハ一定ノ家居ナキ者多シ、然レドモ一部落内ノ民ハ互ニ協和合同シテ一團ヲ為スヲ見レバ、其形チ較一國ノ民ニ似タリ、

○地球上ニ万国並ビ立ツヨリシテ、上ノ二件ノ外、各国ノ政治上ニ又一ノ旨趣ヲ生セリ、即チ他國ノ侵寇ヲ防クノ義是ナリ、此旨趣ヨリシテ此何レノ國モ軍兵ノ備ナキ者ナシ、然ラハ自國ノ土地ヲ防禦シテ其民ヲ保護スルハ政治ノ旨趣ノ第三件ト知ルベシ、凡ソ政府ノ命ニ服從スル処ノ民ハ、其政府ノ保護ヲ受クベキノ理アリ、故ニ君主政治ノ下ニ立ツ臣隸ハ、其君主兵力ノ保護ヲ受クベク、共和政治ノ下ニ立ツ人民ハ其共和兵力ノ保護ヲ受クベキコトナリ、

○上ニ記セル三件ノ外猶政治ヲ為スノ旨趣一條アリ、光榮ノ頌與是ナリ、人或ハ曰ク、光榮ハ虚名ニシテ実効ナキ者ナリト、然レドモ遠ク古

代ノ歴史ヲ讀ミ近ク開化セル諸國ノ風習ヲ見ルニ、光榮ヲ與フルコトハ政治中ノ一要件ナルコト信ニ疑ヒナシトス、天下ノ人、榮名ヲ以テ富貴ヨリ重シトスル者多シ、凡ソ國ノ為メニ格別ニ尽力スル人アリテ他人モ其人ノ尽力セルヲ許スルトキハ、其人ニ相當ノ賞譽ヲ與ヘザルベカラス、凡ソ非常ノ事功ヲ立ル者ハ其間財力ヲ徒勞徒費スルコトヲ免カレズ、此ノ如キ人ハ、其徒勞徒費ノ過ヲ責メズシテ、國ノ為民ノ為ニ公益ヲ為スノ功ヲ稱シ、若シ其功果シテ大ナラバ之ヲ全國ニ公告シテ民ヲシテ其人ノ恩ヲ知ラシムベシ、

○上文ニ論スル処ニ據テ考フルトキハ、政治ヲ為スノ旨趣左ノ四件ニ歸ス

其一 刑法民法ノ如キ義法ヲ以テ檢束審斷スルコト

其二 人民交通ノ良善及ヒ其幸福ヲ進ムルコト

其三 兵力ヲ以テ國ヲ防守スルコト

其四 光榮ヲ頌與スルコト

凡ソ政治ハ總テ此四件ノ旨趣ヲ以テ行フ者ナリ、此外ニ又立法ノ事アリ、法度ハ政治ノ規則ニシテ四件ノ旨趣モ法度ニ由テ成リ、法度ノ力ニ依テ行ハル、者ナレバ、立法ノ事ハ政治ノ基礎ナリ、故ニ政治ノ旨趣ハ四件アリト雖トモ約シテ之ヲ曰ハ、良善ノ法度ヲ立テ確實ニ之ヲ施行スルニ外ナラズ、然レドモ此外ニ猶法度ノ善不善ヲ論定スベキコトアリ、

○然ルニ史籍ニ據テ考フルニ古ヨリ政治ヲ為スノ旨趣ハ大概一樣ナレドモ未タ政治ノ旨趣ヲ完全ニ行ヒ得タル者ナシ、是ニ依テ觀レバ政治ナル者ハ他ノ學術ト同シク原來不全不完ノ者ナルベシ、然レドモ歲月ヲ經ルニ隨ヒ、漸々粗ヲ去テ精ニ歸シ、缺ヲ補フテ完ニ至ルコト亦他ノ學術ニ同シキ者<sup>(マヤ)</sup>ベシ、凡ソ政治ノ進歩、開擴、政體ノ成立其衰敗、及ヒ其再興、良政治ノ徐々ノ開發等ハ史ヲ讀ム者ノ殊ニ注意スベキ処ナリ、政治ノ史ハ他ノ學術ノ史ニ比スレハ之ヲ讀ムニ最モ力ヲ用ヒサルヘカラス、若シ史ヲ讀ンテ政治ノ進歩變化ニ注意セサルトキハ智識ヲ發明スルコトナク讀史ノ益ヲ得ルコト能ハズ、政治ノ變化ハ、治國ノ道ヲ侵犯妨障スルカ如ク見ユレドモ、良政美法ナル者ハ許多ノ變化ヲ經ルニ非サレハ之ヲ得ルコト能ハサル者ナリ、

### 第三節

#### 政治ノ根原

○政治ノ根原ハ民ノ羣居通交ニ基ストイフコトハ上文既ニ之ヲ論ゼリ、此說ハ政治ノ起ル所以ト政治ノ無カルベカラザル所以トヲ論スルノ通說ナリ、此外ニ猶政治ノ根原ヲ論スル者二様アリ、一ハ歷史上ノ實迹ニ據テ之ヲ論ジ、一ハ學問上ノ道理ニ據テ之ヲ論ズ、古代ノ史籍ヲ通覽シ政治ノ起ル所以ヲ尋ヌルニ、其始メ多ク戰伐<sup>軍</sup>爭鬪<sup>事</sup>ヨリ起リテ、其中ノ勇猛智畧アル者毎ニ政治ノ權ヲ握リテ諸民ヲ統理スルノ人ト為ル、唯齊家法ノ政治<sup>同種ノ民相親マリテ國ヲ治ラシムル者ニテ、其狀恰モ一家ノ如キライス、良ノ猶大ノ民ノ如キ是ナリ</sup>ニ於テハ、差<sup>ズ</sup>是ト異ニシテ其族中ノ長

老タル者、常ニ全族ヲ統理シテ、政治ノ權常ニ長男ノ家ニ歸ス、アラビヤ 亜刺伯ノ民ノ如キ及ヒ總テ一種族ヲ以テ一國ヲ為ス処ノ民ハ皆此齊家法ヲ用ヒ、今日ニ至テモ猶此法ヲ改メザル者アリ、唯蠻夷ノ國然ルニ非ズ、礼義ノ國ト雖ドモ、猶此法ヲ用フル者アリ、方今立君政体ノ諸國ニ於テ皆長者ヲ撰ヒテ位ニ登ラシムル者ハ、蓋シ古代ノ齊家政治ノ遺法ノ存留セラル者ナルベシ、又子タル者ハ自然ニ父ノ威權ヲ繼承スベキトイフコトハ、歐羅巴ノ君主政治ヲ立定スル基本ノ一ニシテ、其原ハ亦齊家法ノ初メニ在ルコトナルベシ、

○所謂齊家法ノ治法ハ今詳カニスヘカラスト雖ドモ、若シ其長老タル者、唯自己ノ意ヲ以テ政ヲ為シ、断テ法度ヲ顧ミザル者ナラバ、其政タル全ク規則制度ナクシテ、長子ノ權ヲ保存スルノコトモ亦有ルコトナカルベシ、若シ長老タル者、唯偏ニ己カ意ノミヲ用ヒズ、法度、風習、公道ヲ以テ事ヲ行ヒシ者ナラバ、所謂長老ナル者ハ法度ヲ以テ政治ヲ行フノ魁首ニシテ、其齊家法ヲ用ヒシハ却テ偶然ノ意想ヨリ出タル者ト為スベシ、

○史籍上ノ実績ニ據テ考フルニ、軍事ヨリシテ起リタル大将ハ、常ニ、羣居聚處セル民ノ全体ヲ統轄ス、齊家法ノ長老ト軍事ノ大将トノ區別ヲ論スレバ、長老ノ事ヲ行フハ常ニ親戚ノ事ヲ主トシ、大将ノ事ヲ行フハ職守ノ事ヲ專ラトス、蓋シ大将タル者ハ親戚ノ緣故ニ菅セズ職任ノ法ヲ建置セシ最初ノ人ナルベシ、是ニ依テ見レハ軍事ノ大将ハ政治ノ体ヲ創

立セシ人ニシテ、尔後數回ノ變化ヲ經テ國民ヲ保護安全スルノ法漸々ニ完備シ、終ニハ政治軍事ト全ク分レテ二ト為リ、大将ノ名ハ唯軍事ノ上ニ存留スルニ至リシ者ナルベシ、

○或ハ軍事ニ長ジ、或ハ勢力アルノ人、其一團聚ヲ指揮官轄セル大将ト為ルハ自然ノ勢ナリ、此大将ノ職、或ハ之ヲ血統ノ者ニ傳フルコトアリ、或ハ其人ノ器ニ因テ得ベキ者ト為シ、一團聚中ノ最モ威力アル者ノミ其職ヲ襲グコトアリ、軍事ニ原ヅキテ政治ヲ立ハ敢テ古代ノ民ニ限ルニ非ス、近代ニ於テ智識ノ最モ開ケタル民ノ間ニモ亦之ヲ行フ者アリ、ナポレオン 譬ヘハ華盛頓ノ如キハ初メミナポル 亞米利加ノ大将ト為リ、遂ニ合衆國ノ最初ノ大統領ニ撰擧セラル、拿破侖 拿破侖保那巴ノ如キモ初メハ法蘭西ノ大将タリシガ、後ニ其國ノ皇帝ト為ル、又瑞典ノ王伯拿脫多ノ如キモ其始メハ大将ヨリ出シ者ナリ、又南米利加ノ合衆國ノ如キハ諸部ノ大将皆大統領ノ位ヲ得ント欲シ、智力ヲ以テ之ヲ争フコトハ、恰モ獵者ノ鹿ヲ逐フ状ニ同ジ、

○道理ニ據テ政治ノ根元ヲ論スル者ハ其說全ク是ニ異ナリ、此說ニ於テハ政治ヲ以テ一ノ學問ト為シテ之ヲ論スル者ニシテ先第一ニ、政治ノ權カノ生スル根原ヲ究メ論ゼザルベカラズ

○世ノ學者、政治ノ權カノ生スル根原ヲ論スルニ方リ、自然ニ其說ニ岐異ヲ生スルコトヲ免カレズ、民主政治ヲ主張スル者ハ皆謂ヘラク、國ノ權カノ原ハ民ニ在リ、故ニ全國一様ニ政治ノ權ヲ執ラサルベカラスト、

君主政治ヲ主張スル者ハ皆謂ヘリ、民ヲ治ムルハ威嚴ヲ用ヒサルベカラ  
スト、因テ諸ノ共和政治ノ敗ル、者ト威逼政治ノ成ル者ノ例ヲ擧テ其説  
ノ證ト為ス、此二説ノ外別ニ一説ヲ立ル者アリ、曰ク凡ソ政治ハ其民ノ  
智慮賢不肖ノ度ニ応シ自然ニ立ツベキ者ニシテ、初メヨリ道理ノミニ憑  
依シテ之ヲ定ムベキ者ニ非ズ、又曰ク、政治ナル者ハ固ヨリ合和ヲ以テ  
体ト為ス者ナレバ、時勢、土地、民情及ヒ習俗ニ從テ之ヲ酌量セサルベ  
カラズ、又曰ク既ニ民ノ智愚ノ度ニ從テ政治ヲ為ストキハ、必ラス多少  
正理ヲ離レ、実験上ニ憑リテ事ヲ為サ、ルベカラズ、又曰ク共和政治ハ  
道理ヲ以テ論スルトキハ極メテ公正ナル者ナリ、威逼政治ハ（未開ノ民  
ニ於テハ）頗ル成功ヲ奏スル者ナリ、又曰ク、凡ソ政治ハ民ノ之ニ応ズ  
ル所以ノ状ニ因テ其良否ヲ定メザルベカラズ、故ニ善キ教育ヲ被ムリ智  
識開明セル民ハ年々歳々其自主ノ力ヲ長シ自然ニ民權ヲ長スルニ至ルベ  
シ、又愚蒙半化ノ民ハ自ら其身ヲ治ムルコト能ハザル者ハ、鉄棍政治ヲ  
以テ鉄棍政治トハ鉄ノ棒ヲ叩キ  
伏セル如キ威嚇ヲ政勢ニアフ其民ヲ威制スト雖ドモ、其民亦甘んジテ之ニ服從スベ  
シ、

○是ニ依テ見レハ理學上ノ政治論ニ兩極アルコトハ恰モ地球上ニ兩極アル  
ルカ如ク其向フ処全ク相反ス、所謂兩極ハ一ヲ民權政治トイヒ、一ヲ君  
權政治トイフ、此兩極ノ外又其中道ニ立ル処ノ一説アリ、其説ハ君民ノ  
力ヲ均齊シテ其過強ナル者ヲ抑フルトイヘル者ナリ、民主政治ヲ主トス  
ル者ノ曰ク、凡ソ全国ノ最上權ハ、全国ノ民ノ心ニ在リ、或ハ政府ノ便

利ヲ用ヒ、或ハ人君ノ思慮ヲ以テ政治ヲ行フハ道ニ背クノ大ナル者ナリ  
ト、比利敦ノ政体ハ、全世界中、他ニ比擬スベキ者ナキ一種ノ政体ニシ  
テ、民主政治ヲ主トスル者モ之ヲ非トスルコト能ハズ、君主政治ヲ主ト  
スル者モ之ヲ可トスルコト能ハズ、其政体タル三種ノ權力ノ合湊セル者  
ニシテ、其内最モ大ナル一種ハ民權ナレドモ其權ヲ執ル者ハ国民中ノ少  
數ニ過ギズ、他ノ一種ハ世襲ノ權ニシテ殊ニ貴族ノ中ニ在リ、第三ノ一  
種國王健業ノ權ニシテ、其權ニ及ブ処最モ廣シ、合セテ之ヲ論スレハ比  
利敦ノ政体ノ旨趣ハ、貴賤尊卑ノ別ナク全国惣体ノ自主ノ心ヲ保佑スル  
者ニシテ即チ公正不偏ノ旨趣ヲ以テ政体ヲ立シ者ナリ、

○然レハ理學ヲ以テ政治ノ原ヲ論スル者ハ固ク君主民主ノ一ヲ執ルベカ  
ラズ、必ラス人民ノ為メニ己ム所アラザル者ト、公平無我ノ心ヲ以テ民  
ノ賢愚ノ度ヲ料ルコトト、各地各国ノ其時ノ内地ノ情状ヲ考フルトニ由  
テ是ヲ定メザルベカラズ、凡ソ君主政治ト民主政治トノ間ノ境界ハ甚廣  
キモノナリ、諸国ノ政治ヲ觀ルニ此中間ニ在ル者甚多シ、其民ノ智愚ノ  
度ニ從テ或ハ民主政治ニ近キ者アリ、或ハ君主政治ニ近キ者アリ、

○凡ソ新造ノ国ハ、其民強健ニシテ、土地日ニ開ケ、人口日ニ増シ、常  
ニ嚴・ナル氣候ヲ冒シ、粗暴ナル夷民ト戦ヒ、以テ国基ヲ開張ス、此ノ  
如キ国ノ民ハ、民主政治ヲ好ム者多シ、民主政治ハ他人ノ力ヲ假ラス人  
民自己ノ心ヲ以テ自由ノ親和ヲ長スル者ナレバ、甚夕道理法度ニ違フノ  
コトナケレハ、嚴刻ノ君主政治ニ勝ルコト疑ヒナシトス、然レドモ民主

政治ヲ立ントスルニハ、其民聰明ニシテ能ク道理ニ通シ、全国ノ意向大抵一ニ帰シ、自然ニ協和一致ノ形ヲ為ス者ニ非サレハ之ヲ行フコト難シ、又旧国ノ民ハ久シク法度ノ束縛ニ慣レ、人生務ムヘキ事業中ノ一分ノミヲ行ヒテ其全体ヲ行フコトヲ知ラズ、其生業ヲ営ムニ大小尊卑ノ別アリ、人々各自ニ其業ヲ為シ、協力シテ事ヲ行フコトヲ務メス、此ノ如キ民ハ威權政治ノ下ニ立テ能ク之ニ服従ス、威權政治トハ、政治ノ權、一人又ハ僅々數人ノ手ニ在リテ公義ヲモ法度ヲモ共ニ政治ノ力ヲ以テ之ヲ制スル者ナリ、威權政治ハ固ヨリ良政ニ非スト雖ドモ政治ヲ為ス者能ク良善ノ法度ヲ撰用シ、公平ノ心ヲ以テ民ヲ治ムルトキハ頗ル良政治ヲ觀ルコトヲ得ベシ、然レドモ此政体ハ全国ノ權、偏ニ在上ノ人ノ手ニ在ルヲ以テ、動モスレハ道理ニ合ハザルノ惡政ヲ行ヒ、豪傑ノ士、民ノ為メニ暴虐ヲ除カントスル者起ルコト多シ、

○今試ミニ理論上ノ政治ノ根元ト為ル者ハ何ゾ、又國ヲ治ムル者何ヲ以テ政治ノ根原トセハ可ナラント問フニ、一定ノ總則ヲ立テ之ニハ答フルハ極メテ為シ難キノコトナルベシ、唯政治ナル者ハ国民ノ景況ニ応シタル一種ノ機關狀ノ構成セル者ヲ以テ之ヲ答フベシ、美ル敦、羅基、特何、及ヒ其他ノ民主政治ヲ主トスル者皆曰ク、政治ノ根原ハ民ノ心ニ在リト、霍畢寺、菲爾麥、及ヒ墮地利ノ問答書、噶國ノ政体、其他威權政治ヲ主トスル者ハ皆曰ク、政治ノ根原ハ君ノ心ニ在リト、此兩說ハ共ニ一偏ニ倚ル処ニシテ未タ正理ニ協ト為スヘカラス、吾儕ノ考フルニ

ハ、政治ノ根元ハ国民ノ聰明ノ度ニ因ル者ナリト為セリ、然レドモ聰明ノ度如何ナレハ、何様ノ政治ヲ立ツヘシトイフ確說ヲ定ムルコト能ハズ、唯民ノ智識能ク開ケ、行事能ク治マリ、能ク人々皆治國ノ材器ヲ具フルニ至ルトキハ、能ク何ノ政体ヲ立チ得ベキカ、是レ明ラカニ推知スベキノコトナリ、故ニ、政治ノ根原ヲ以テ或ハ民ノ心ニ在リ、或ハ君ノ心ニ在リトスル者ハ、其說堅確ナルガ如シ雖ドモ、要スルニ固僻ノ理說ニ屬シテ人民ノ実況ニ適応セザルノ論ナリ、吾故ニ曰ク、良政治ハ機關ノ好ク構成セル者ニシテ、其原ハ人民ノ聰明ノ度ニ在ル者ナリト、

#### 第四節

#### 政治ノ種類

○政治ノ種類ハ通常分チテ三ト為ス、一ヲ君主政治トイフ、一人ヲ以テ万機行フ者ナリ、二ヲ貴族政治トイフ、國中少數ノ人、其特權ヲ以テ政治ヲ行フ者ナリ、三ヲ民主政治トイフ、全国ノ民力ヲ合セテ政治ヲ行フ者ナリ、此三種ノ區別、甚タ疎闊ナルガ如シト雖ドモ、諸國ノ政治ノ狀、及ヒ其旨趣ヲ云フニハ、極メテ適當ナル區別ニシテ、諸國ノ政体、大抵此三者ノ外ニ出ル者ナシ、然レドモ其國名地名ヲ指シテ單純ナル君主政治、貴族政治民主政治ヲ求メントスルハ、亦甚ダ難キ処ナリ、譬ヘハ今共和政治ノ利ヲ論ズル者アリ、不利ヲ論ズル者アリ、其之ヲ論スル者ハ共ニ古代ノ共和政治ヲ引テ證例トス、然レドモ詳カニ之ヲ考フルトキハ、古代ノ共和政治ナル者ハ其名ハ共和ナレドモ其実ハ共和ニ非ズ、

事ヲ論ズル者唯其名ヲ假リテ己ガ説ノ憑據ト為スニ過ギズ、古代ノ共和政治ハ其中ニ奴隸ナル者アリテ全ク民權ヲ得ルコト能ハズ、故ニ此ノ如キ国ノ政治ハ唯特權ヲ有セル都人ガ共和政治ヲ管理スル者ニシテ其実ハ多數ノ貴族政治ト少シモ異ナルコトナシ、又君主政治ノ如キモ同様ニシテ單純ナル君主政治ハ甚タ稀ナリ、滿朝ノ百官尽ク一君ノ意ニ從ヒシトイフコトハ、何レノ時何レノ国ニ於テ有リシコトナルカ、今之ヲ考フルコトハ極メテ難シ、万国ノ状ヲ觀ルニ、君主政治ノ国ト雖ドモ必ラス宰相或ハ議長ナル者アリテ或ハ君主ノ及ハザルヲ助ケ、或ハ君主ノ意ヲ制抑ス、以テ君主一人ノ權ヲ奮フ者ナシ、魯西亜国ノ宰相ノ如キハ、最モ擴狃ノ風ヲ有セシ者ニシテ其法ハ貴族握權ニシテ殺戮ヲ以テ相交代スル者ナリ、其法最モ擴狃ノ蠻風ナリト雖ドモ、宰相ノ人君ノ意ヲ制スルコトハ今ニ至テ猶其法ヲ改メズ、是ニ依テ觀レハ君主政治ノ国ニ於テモ国人ノ多數ハ君主ノ意ニ服從スレドモ全国尽ク君主ノ意ニ服從ストイフベカラズ、大将ノ如キハ一人軍事ノ權ヲ握リ、其下ニ立ツ処ノ將卒ニ百事尽ク大将ノ意ニ從ハザルベカラズ、人君ノ如キハ其權至重ナリト雖ドモ、未タ大将ノ士卒ヲ馭スルカ如キ者ヲ聞カズ、土耳其魯西亜ノ如キハ人君ノ威權至尊ノ極ニ近ク、国民ノ身分至卑ノ極ニ近シト雖ドモ、猶其間ニ權衡アリテ君民共ニ尊卑ノ極ニ達スルコトナシ、若シ目今ノ地位ヨリ差、尊卑ノ度ヲ増ス時ハ、自然ニ其過重ヲ抑制スル者起リテ其權衡ヲ均整ス、一國ノ外猶此ノ如キ国多シ、又藉土ノ法ノ如キハ

種上ノ法ハ戰國ノ餘風ニテ人君其地ヲ専ラニ僭與シ其土

地大小ニ志シ兵車ヲ出テ軍役ヲ勤メシムル者其名ハ君主政治ナレドモ巴命パロン人君ヲ土地ヲ傳リタル者ニニシテ聖憲憲府ノ時ノ封建ノ制ニ似キ者ナリタル者各固有ノ特權アリテ人君ノ威權ヲ限制ス、英王約翰ノ時コハン一十百巴命等魯尼米多リユニミド英國ノ二會シ馬格那查達ノ法ヲ制シ、國王ノ意思ノ權ハ人民ノ利益ノ權ニ勝ルベカラサルコトヲ議定セルカ如キ是ナリ、羅馬ノ教王ノ如キハ君主政治ノ威權アル者ナレドモ亦教宰ノ議會アリ、威尼斯ノ如キハ豪族政治ナレドモ又其内ニ首長アリ、不羅溫薩ハ共和政治ナレドモ亦其中ニ總督アリ、亞米利加合衆國ハ民主政治ナレドモ亦其中ニ大統領ト元老トアリ、法蘭西ノ王路易第十四ルイハ大ニ君權ヲ奮ヒシ人ナレドモ、其時亦国法ト議事院アリ、

自註ニ曰ク拿破侖第一ノ時ニ發行セシ五弗蘭ノ貨幣ノ一個ニ當時法國政体ノ混合政体ナルコトヲ知ルヘキ者アリ、其貨幣ノ背ニハ、法蘭西ノ共和政治ト記シ、面ニハ皇帝拿破侖ト記セリ、

○故ニ理学ノ論ヲ以テ天下ノ政体ヲ分ツテ人君獨裁、豪族專治、平民合和ノ三種ト為ス者ハ、天下ヲ通觀シテ政体ノ極処ノ名ヲ定メシ者ナリ、譬ヘハ万物ノ形ヲ名ケテ方円曲直トイフカ如シ、方円曲直ノ外ニ物ノ形ナシト雖ドモ、真正ニ方円曲直ナル者ハ亦甚ダ罕ナリ、諸國ノ史籍ヲ見ルニ、或ハ君主獨裁ニ近キ者アリ、或ハ豪族專治ニ近キ者アリ、或ハ平民合和ニ近キ者アルノミニテ真ニ純粹ナル三種特別ノ政体ヲ立ル者ハ未タ嘗テ見ザル処ナリ、故ニ此三種ノ者ハ政体ヲ編成スルノ原質ニシテ其配合ノ分量多少一様ナラズ、此國ニハ人君獨裁ヲ多量ニ配合シ、彼國ニ

ハ豪族專治ヲ多量ニ配合シ、又彼国ニハ平民合和ヲ多量ニ配合スルヲ見ル、故ニ人意ヲ以テ推度スル時ハ、此三政体ヲ以テ共ニ完全ナル者トスレドモ実迹上ニ據テ案スルトキハ竟ニ此ノ如キ純粹特別ノ者ヲ見ルコトナシ、毎ニ三体混合シテ一ノ政体ト為ル者多シ、但シ三体配合ノ多少ハ固ヨリ一様ナル者ナシ、是ヲ以テ見レバ、政体ノ種類ヲ精密ニ論究スル時ハ、理學ヲ以テ政治ノ根原ヲ論スルガ如ク、初メヨリ一定ノ形体ナク、惟各ノ国民實際ノ景況ニ從テ其形ヲ為セル者ナリ、

○然レドモ君主獨裁ノ政体ニハ君主獨裁ノ元質ヲ現ハシ豪族專治ノ政体ニハ豪族專治ノ原質ヲ顯ハス、人民合和ノ政体モ亦然リ、

○凡ソ人君ナル者ハ全国ノ人民ヲ統轄シ、其国ノ治体ヲ堅固ニシ、行政ノ根元ト為リ、公義ノ事ハ其名ヲ以テ行ヒ、軍旅ノ元帥ト為リ、他国トノ事務ニ管シ、交親ヲ通ジ、和好ヲ結び、戰爭ヲ起シ、人ニ位階名譽ノ榮光ヲ與フルノ原ト為ル、又其国ニ実ノ君主ナク、諸民ノ公舉ニ由テ撰立シタル大統領首長總督等ノ類ノ如キモ其名ハ各異ナリト雖ドモ行フ処ノ事務ハ君主ノ為ス処ニ異ルコトナシ、

○君主タル者ハ他国トノ交際ニ於テハ、唯要緊ナル志意ヲ顯ハシ、国内ノ政事ニ於テハ公義ヲ顯ハス、君位ヲ以テ子孫ニ傳フルノ法ハ常ニ自然ニ出ルカ如クニシテ其成功甚タ容易ナリ、然ル所以ノ者ハ祖孫相繼テ人君ト為ル時ハ、其公義ノ法永久不朽ノ如キ者ト為リテ何レノ時ニ於テモ初世ノ法ヲ以テ之ヲ裁斷スベシ、凡ソ政治ノ固定セサルノ国、又一時或

ハ黨與ヲ分チ、或ハ教學ヲ興シ、或ハ理説ヲ唱フル者ハ皆公正ヲ行フヲ以テ永世不朽ノ職務ト為ス、故ニ永世不朽ノ人ノ名ヲ以テ公正ノ事ヲ行フハ、理ニ於テ不当ノコトニ非ズトス、凡ソ王者ハ不死ノ稱アリテ、高上ナル政學ノ体ヲ具フル者ナリ、即チ国民ノ永續ト、公正ノ永世不朽ヲ行フヲ以テナリ、是ニ反シテ兵力ヲ以テ一時諸民ノ上ニ立ツ者ノ如キハ、其身死スル時ニ後死者互ニ争鬪ヲ興シ、其中ニ於テ勝利ヲ得テ最上ノ權ヲ執ル者己力意ヲ以テ、又政治ノ法ヲ改メ行フ、

○然レドモ人君ノ威權ニ就テハ猶其義ヲ尋繹セサルベカラズ、若シ人君タル者ハ公義ノ永續ヲ保持スルノ人ナラバ、唯其下ニ君臨スベシ、其民ヲ管治スベカラズ、人君タル者強テ己力意ヲ主張セント欲シ、又ハ意ニ任セテ擅ニ政務ヲ行ハントスル時ハ、遂ニ其臣民ノ心ヲ失フテ其位ヲ保ツコト能ハザルニ至ル、凡ソ君主ナル者ハ一ノ尊貴ナル職掌ト為シテ之ヲ視ルベシ、尊貴ナル人ト為シテ之ヲ視ルベカラズ、惟其職掌ナリ、故ニ曰ク、君主ハ惡事ヲ為ス者ニ非ズト、凡ソ何ノ官職タリトモ、惡事ヲ為スハ其人ニ在リテ官職ニ在ルコトナシ、且ツ君主ノ職ハ唯行政ノ權アルノミニテ、立法ノ權又ハ無上ノ權ヲ握ルコト無シ、故ニ其国ノ法度ニ惡法ナク、君主能ク其官職ノ制限ヲ守リテ政ヲ為ス時ハ、君主タル者ハ自ラ惡事ヲ為スコト無カルベシ、

○凡ソ人君獨裁ノ政体ハ、全国ノ人民ヲ一人ノ手ニ統轄スル者ナリ、豪族專治ノ政体ハ、国ノ威力位階ヲ以テ數人ノ手ニ分配スル者ナリ、軍事

ノ時ハ、豪族タル者其軍ノ大将タルコトハ君主ニ異ナラズ、故ニ君主一國中ノ軍事ノ全權ヲ統轄スル者ナリ、豪族ハ國中軍事ノ分權ヲ掌握スル者ナリ、又藉土ノ法ニ於テハ、君主ハ全国総概ノ主ナリ、貴族ハ一州一郡ノ主ナリ、政治ノ主意ノ第三條ニ本國ヲ防守スルノ件アリ、藉土ノ法ハ、其貴族皆一州一郡ニ占據セルヲ以テ、敵人ヲ防禦シテ自己ノ土地ヲ守ラントスルノ政治多シ、藉土ノ法ノ初メテ起リシ時ハ、其職ハ子孫世及ノ者ニ非ズ、其土地モ貴族等ノ自己ノ所有物ニ非ザリシナリ、然ルニ其後貴族等漸々ニ其職ヲ世襲スルコトト為リ、貴族ノ特權ヨリ、自然ニ其土地ヲ以テ自己ノ家産ト為スニ至ル、此事始メハ習慣ニ依テ成リ、後ハ君主ヨリ賜與スル処ニ依テ之ヲ得タリ、英國ノ如キハ、查理斯第一王ノ時、貴族ハ軍役ヲ免サレ、自由律及ヒ常用律トイヘル法律ニ因テ其土地ヲ有スルコト旧ノ如クナリシナリ、

○豪族政治ノ真正ノ景状ヲ求ムルニ三種ノ情状アリ、第一ハ全国ノ土地ヲ分ケ領ス、第二ハ國王ノ下ニ立テ國權ヲ分チ執ル、第三ハ全国ノ兵力ヲ分チ管ス、此三者ハ藉土法ニ據リタル豪族政治ノ体ナリ、又全国ノ政体、軍法ヨリ成リ、國中州郡ノ建置モ亦軍法ニ依リテ定メタル國ニ於テハ、豪族政治ナル者ハ人民ノ景況ニ応シタル増進ニテ此政体ヲ為セル者ニシテ、當時ノ望ム処ニ副ヒシ処ノ者タルコト明ナリ、又豪族政治ヲ以テ政体ヲ編成スル原質ト為シテ之ヲ論スル時ハ、此政權ハ固定セル土地ノ産業ノ替人ニシテ、其土地土地ノ富貴ハ其人ノ威權ヲ以テ之ヲ為シ得

ベシ、但シ是ヲ為スハ或ハ公告或ハ暗指共ニ之ヲ行フベシ、故ニ豪族政治ナル政体ノ原質ハ、豪族タル者、自ラ其威權ヲ専ラスルト専ラニセザルトヲ論セズ、公然認承スベキ威權ヲ保持シ得ル者ト知ルベシ、

○此論ハ豪族政治ノ根原ト主意トヲ論スル適當ノ説ナルベシ、而ルニ有名無実ノ豪族ナク、又子孫世及ノ官爵ナキ國ニ於テモ亦豪族政治ニ類セル制度ヲ立ル者アリ、亞米利加合衆國ノ如キハ全国ヲ分ツテ數十州ト為ス、其一州毎ニ太守アリ、又元老アリ、太守ハ行法ノ權ヲ執リ、元老ハ立法ノ權ヲ握ル、此兩個ノ官ハ、自然ニ豪族政治ノ形ヲ具フ、若シ此官ヲ以テ子孫世及ノ職ト定ムルトキハ、純然タル豪族政治ト為ルベシ、又華盛頓ノ如キモ永ク大統領ノ官ニ居リ、又此官ヲ定メテ子孫世及ノ者ト為ルトキハ純然タル君主政治ト為ルベシ、然レドモ是特ニ人意ヲ以テ推度スル者ニテ其事ノ果シテ此ノ如クナルベキヤ否ハ、之ヲ臆断スルコト能ハズ、唯法蘭西ノ近世ノ史ハ、其事迹、恰モ今論スル処ニ適合ス、初メ其在職ノ年限ヲ定メテ大統領ヲ立シガ、其大統領タル者、諸民ノ望ニ依テ、皇帝ノ位ニ登リ、且ツ其位ヲ定メテ子孫世及ノ者トセリ、

○然ルニ豪族政治トイフ者ハ初メハ其國交際ノ情状要領ニ因テ成リシ者ナレドモ、多クハ變シテ固形体ノ者ト為リ、或ハ豪族中ノ一家、其富裕名望他族ニ異ナラズト雖ドモ、種類職分自ラ他ノ豪族ニ勝レタリト為シテ専ラ國權ヲ執リ、或ハ交際ノ利益ヲ謀ラズシテ、唯數家ノ豪族ヲ以テ全国ノ政權ヲ握ル等ノコトト為ル、此ノ如キ者ヲ名ケテ真正ノ豪族政治

トイフ、此政体ニハ、必ラス多少ノ弊害流出シ、遂ニ平民政治ノ亂起リテ、早晚其国ノ政体ノ滅亡ヲ致ス者ナリ、凡ソ一国ノ中ニ於テ僅々數家ヲ定メテ是ニ威力ト特權トヲ與フルトイフコトハ交際ノ機関ノ生長ヲ破壞スルノ道ナリ、是ヲ為ス者ハ、造物者之ヲ變革セントスルノ事ヲ、人カヲ以テ強テ之ヲ永續セシメント欲シ、又豪族等偶然ニ得タル幸ヲ以テ、全国人民ノ真正ノ智慮ニ替ントスル者ナリ、

○又上ニ君主アリ、下ニ民會アルノ国ニ於テ豪族政治ヲ行フ者アリ、此ノ如キ者、単ニ豪族ノミヲ以テ政治ヲ行フ者ト其景況大ニ同ジカラズ、君主ナル者ハ政治ヲ固定スルノ力アリ、国民等一時激動シテ大事ニ及バントスル時、君主ノ威ニ因テ容易ニ鎮靖ニ至ルコトアリ、

○土地ノ權、財産ノ權ハ固ヨリ国政ノ權ヲ輕重スベキ者ニ非ズト雖ドモ、他ノ權行ハレザルトキハ、此二物ノ權、或ハ国政ノ權ヲ輕重スルコトアリ、蓋シ土地財産ハ政治ノ一原質ニシテ政体ヲ立ルノ一主意ナレバ、国政上ニ多少ノ輕重ヲ為ストイフハ理ニ於テ不可ナルコトナシ、然レドモ或ハ貴族タル者ハ土地ヲ掌管スル為メニ生シタル者ト為シ、或ハ首領ハ木偶人ニシテ国民ハ數フルニ足ラスト為シ、或ハ官職勢力ハ種族ニ由テ得ベキ者ト為シ、或ハ特權アル家門ト、特權ナキ家門トノ間ニ踰ユヘカラザルノ界限ヲ立テ、或ハ品級ノ權ハ、他ノ權ノ上ニ在リトシ、或ハ自尊ヲ以テ下ニ臨ムノ主要ト為ス者ノ如キハ、豪族政治中ノ最モ弊惡ナル者ニシテ自ら其政体ヲ破壞スル者ト云フベシ、此ノ如キ政治ヲ行

フノ国ハ、其交際、造化ノ寛容セサル状態ト為リ、民權ヲ改復スルノ方術ナク、国力ノ生長開達ノ氣、萎縮シ、其政府遂ニ滅亡シテ綠苔ノ生セタル廢墟ト為リ、後人ヲシテ空シク古代ノ盛大華麗ヲ想像セシムルノ地ト為ルベシ、

○君主政治ト豪族政治ヲ以テ成レル交際ノ原質ハ以上論スル処ヲ以テ大約其要ヲ尽シタリトイフベシ、猶論セサルベカラザル者ハ平民政治ノ性質ナリ、所謂平民政治ナル政体ノ一原質ハ、君主政治豪族政治ト同ジク、別ニ自ラ一個ノ主意アリテ之ヲ建立セシ者ナリ、其主意ハ交際ノ良善幸福ノ伸發是ナリ、民主政治ヲ行フノ民ハ、何故ニ政權ヲ君主ニ委託セズシテ自ら其身ヲ管理セントスルヤ、人民ノ權利、全ク政府ノ威力ニ依テ交渉擾累ラル、ノコトヲ想像シタ後ニ此間ニ答フルコトヲ得ベシ、國中ノ人々皆權利尽ク抑制セラレテ達スルコト能ハズ、其生命、自由、財産、声名、共ニ政府ノ交渉スル所ト為ルトキハ、自己固有ノ意ヲ奮起シ、平民政治ノコトニ思ヒ到リ、自己ノ意ニ由テ平民政治ヲ建立スルコトノ理アルコトヲ考定ス、

○或ハ曰ク、人民ノ意ハ全国中最重ノ權威ナリト、或ハ曰ク、一国ノ事尽ク人民ノ意ニ從ハザルベカラスト、或ハ曰ク民ノ言ハ即チ上帝ノ言ナリト、是等ノ言ハ之ヲ聞クトキハ甚タ美ナルガ如シト雖ドモ到底實事ニ行フコト能

「政体通論卷之一」 解題

「政体通論卷之一」は、八二七—一〇三「雜綴」八號に、「英國憲法ノ主要ナル原理」「社會學第二冊」「道德學 Alexander Bain」とともに合綴されてゐる。この資料については、西村が翻訳で依拠した原書を確認できなかった。

道德學 Alexander Bain

アレクサンダー・ベイン  
亜勒山得 便 著  
西村茂樹蔭畝 譯

第一編

道學ノ理

第一解 道學ノ疑問ノ前言

○諸家ノ道學ノ結構シテノ前引トシテ、并ヒニ諸説ヲ比較シタル上ノ整頓ノ主義ノ前引トシテ、余儕余儕今下ニ考究ヨリ起ル所ノ疑問ヲ擧クベシ○  
第一 先ツ最初ニ問フベキハ道德ノ準度エチカル、スナリ、問、正トト邪トトヲ定ムル所ノ元極テス標識リオン裁斷人イムバ上裁ル即チ準度如何ン、又問フ巴理パトリイ曰フ、何故ニ余ハ余カ言辞ヲ守ラサルヘカラザルカ、此ニ問ニ答フルヲ名ケテ正邪ノ理リイト云ヒ、道學ノ結構ノ要部ヲ為ス者ナリ、  
○余儕、今マ道學、殊ニ今世ノ道學ノ最要ナル疑問ヲ説明シ兼テ簡約ニ之ヲ述ベンカ為ニ主要ナル答辭ヲ擧ケルコト左ノ如シ、  
其一 聖經ニ記スルガ如キ、上帝ノ勝手ナル存意ウヰヲ以テ道德ノ至極ノ準度ト為ス、此説ニ從フ時ハ、凡ソ上帝ノ命ズル所ハ、其後ノ結果如何ンヲ問ハズ、又吾等ノ感覺及ヒ推理ト抵牾スト雖ドモ、尽ク之ヲ以テ正トト定ムルナリ、

其二 霍畢士ホッピスハ以為ク、人君ナル者ハ上帝ノ責任ヲ擔任スル者ニテ、真ニ正ト邪トヲ判決スルノ人ナリ、故ニ道德ト云フモ、君權ト云フモ一

様ナルコトニシテ、道德ハ即チ法律及ヒ君權ノ別名ナリト、霍畢士ノ言ニ從フ時ハ、人君ナル者ハ特殊ノ威權ヲ有シ、人類ヨリノ責任ヲ受ケズ、人カヲ以テ移動スベカラザル者ナレバ、文明ノ民ノ大ニ惡ム所ノ專權ノ君ノ状態ヲ指シテ之ヲ言フ者ノ如シ、

其三 凡ソ人ノ悟性ト道理トヲ定メタル行為ノ中ニ、甚タ適當合宜ノ処アリフヒツトネス、理學者是ヲ以テ至極ノ準度ト定タル者多シ、例ヘハ人アリテ善ク前言ヲ守ル時ハ、其行為ト折合トノ間、約ヲ為スト約ヲ仕遂クルトノ間ニ、自ラ一致協合ノ處アリ、而シテ此ノ如キ一致協合ノ明白ナル所ニハ、其行為自ラ正理ニ協フコトトナルナリ、古托屋斯、格拉克、布來斯ノ諸儒皆此說ヲ遵フ、是ヲ名ケテ心インテルレクチュールノ理論、一名依理ノ理論ト云フ、

○同上ト同シ理論ニ原キテ特殊ノ体ヲ有セル者ハ坎德カントノ說ナリ、坎德ノ言ニ曰ク、汝ノ行為ヲシテ、衆人ノ法則ト為サシムベキ者ハ即チ道德ノ準度ナリト、

其四 凡ソ人ノ心ニハ自然ニ天イントインヨン 聡イヌチンク即チ覺性トフ者ヲ具有シ、之ヲ以テ直チニ正ト邪トヲ區別シ得ル者ナリト云フ、此理論ハ之ヲモラルセンズモラルセンメン、モラルセンメント名ケ、以前ノ理論トハ全ク異ナル者ナリ、此說ハ理學者或ハ之ヲ主持スルノ外ニ、民間ニ行ハル、理論モ亦之ヲ可トスル者多シ、是ヲ以テ此理論ニ他ノ理論ヨリモ之ヲ信スル者甚多シ、唯其義ヲ解釋スルニ精密ヲ得ルコト難キヨリシテ、此理論ニハ許多ノ支派

アルコト下文ニ於テ論スルガ如シ、其中沙弗シャフトスブリイの不利ト許切孫ヒューチエントノミハ其說、目今世ニ行ハル、者ト其旨趣ヲ一ニセリ、

其五 曼得維マンデウヰルハ利己セルフイヲ以テ道德ノ正理ノ極ト為ス、人間第一ノ法則ハ我身ヲ保存スルセルフ、プレセルベーションコトナリ、他人ヲ善クセンガ為メニ力ヲ尽スモ、其目的ハ猶常ニ己ヲ利スルニ在ルト云フ、

其六 利益チイニヤリ一名要益ニヤリタリト云ヘル理論ハ人類全体ノ安全幸福ヲ得ルヲ主ト為シ、是ヲ以テ道德ノ至極ノ準度ト為シタル者ナリ、所謂利益ナル者ハ自己ノ幸福ト他人ノ幸福トヲ兼タル者ニシテ、適當ノ情勢アルニ逢ヘバ、自己ノ利益ヲ以テ他人ノ利益ノ下ニ置クベキコトナリ、此理論ハ總テ前ニ舉タル理論トハ大ニ相反スルノ義アレドモ、其自己ノ疆界中ニ甚タ大ナル横幅ヲ含有セリ、士兌克ストインズムノ学派、耶卑克利エヒクレアンズムノ学派ノ如キハ、共ニ此利益ノ理論ノ指針ノ内ニ在リ、

○以上諸說ノ中ニ於テ最後ノ二說（利己ト利益）ハ行為ヨリ起レル效驗ヲ主トシテ論シ、其他ノ說ハ直チニ其下ニ從属セル定説ホジシヨヲ以テ效驗ト為シテ說ヲ立タル者ナリ、外面及ヒ從属トイフ語ハ、幸福ヲ得ル目的ニ用フルノ語利益、利ニシテ、内部及ヒ獨立トイフ語ハ反對シタル意味ニ用フルノ語其他ノ理ナリ、

○第二 道德ノ理論ニ、單純ナル心性学サイコヲ以テ基本トスル者アリ、其一 良心又道德ノ感覺モラル其他種々ノ名アリト雖トモ、之ヲ要スルニ、正ト邪トヲ分別シ、兼テ邪ヲ棄テ正ニ就カンコトヲ欲スルノ意思チイヲ生

スル所ノ天性<sup>○</sup>ヲ指シテ之ヲ言フナリ、此天性ノアルコトハ衆人ノ共ニ信ズル所ナリ、唯此天性ハ、心ノ中ノ何レノ場所ニ存シテ、其根原ハ何レヨリ来ルカトイヘル疑問アルノミナリ、

○此解ヲ為ス者ニ大要ニ説アリ、其一説ハ謂ヘラク、良心ト云フ者ハ心ノ特立至極ノ力ニシテ、猶抵抗ノ感、味道ノ知、協和ノ覺ト同様ナル者ナリト、他ノ一説ハ謂ヘラク、良心ハ、心ノ他ノ性ニ基キテ生長シ、夫ヨリ傳來セル者ナリト、初メニ記セル道德ノ知覺ト名ケタル理論(其四)

ハ此第一説ニ同ジキ者ニシテ、此理論ニ據レハ道德ノ準度ト道德ノ天性ト云フ者ヲ合セテ一ト為シテ之ヲ論ジタル者ナリ、其他ノ理論ハ多少良心ヲ以テ集合物又ハ傳來物トシテ考ヘタル者ナリ、利益ノ理論ヲ主トスル者ハ、殊ニ此兩者中ノ一個ヲ選ヒ取リタル者ナリ、

其二 道德ノ當務<sup>モラル</sup>リケ<sup>オン</sup>ハ心性學ニ基ストイヘル第二ノ疑問ハ、意思ノ選擇ノ自由<sup>ゼ、フリドム</sup>ナリ、(殊ニ坎德ノ説<sup>カント</sup>)此箇條ニ付テノ想案ノ記事ハ前二已ニ其大要ヲ述ベタリ、

其三 心性學ヲ以テ根拠トスル時ニハ、或ハ、仁惠ノ行為ヲ以テ又我身ノ為メトモ自己ヲ敬スル<sup>セルツ</sup>ノ至極ナ方法ト為ス者アリ、或ハ人心ノ内ニハ、純清ナル無私ノ行為ノ根源アリト為ス者アリ、第一説、即ち自己ニ向ヒテ仁惠ヲ行フトイフ説ニハ、又其論說ノ階級種類アルコト下ノ如シ、

(1) 仁惠ノ行為ヲ為スニ就キテハ、我ヨリ彼ニ尽シタルト恰モ一様

ナル好報ヲ得ベキノ理ナリ、時ニ依リテ、此好報、我行ヒタルト全ク同種類ノ者ヲ以テ得ルコトアリ、然レドモ多クハ(曼得維爾ノ説)賞讃ヲ以テ之ヲ得ル者ナリ、此賞讃ノ言ハ頗ル能ク人心ニ感ズル者ナリ、

(2) 人類ノ構造ノ自然ニ由リテ、人タル者、目前二人ノ難儀ヲ見ルトキハ我心ニ苦惱ノ感ヲ起シ、他人ノ難儀ヲ救ヒテ我心ノ苦惱ヲ免カレントスル者ナリ、此説ハ霍畢士ノ採ル所ニシテ、曼得維爾ハ亦是説ヲ以テ第二ノ意思ト為シテ之ヲ説ケリ、

(3) 吾儕、仁惠ノ行為ヲ為シテ心ニ快樂ヲ覺エルコトハ、温氣ニ觸レ、花ヲ見、樂ヲ聞テ快樂ヲ覺エルト恰モ同様ナリ、故ニ我儕ノ仁惠ヲ行フハ、全ク吾内部ノ快樂ヲ得ル為メニ行フ者ニシテ、外物ノ管係ニ由リテ行フ者ニ非ズ、

○本棠<sup>ベントム</sup>、仁惠ノ快樂苦惱トイフコトヲ言ヘリ、其快樂ハ他人ニ快樂ヲ與フルヨリ生シテ、苦惱ハ、他人ノ苦惱ノ状ヲ目撃スルニ由リテ生スル者ナリ、

(4) 吾儕ノ自然ニハ純粹ナル無私ノ性アルニ非ザレトモ、惟實際ト習慣トニ由リテ全ク無私ノ状ヲ現出スルコトハ、恰モ最後ノ目的ノ為メニ其方法ヲ變換スルニ似タリ、即ち金錢ノ受授等ニ於テ現ハル、ガ如シ、此説ハ惹米士<sup>(シエームス)</sup>、彌爾<sup>ミル</sup>、馬均多西共ニ之ニ從ヘリ、

○自己ニ向ヒテ仁惠ヲ行フトイフコトニ數説アルコトハ今己ニ之ヲ論ジ、且此説ハ己ニ衆人ノ許允スル所トナレリ、是ニ由リテ拔多勒<sup>バットレル</sup>、休摸<sup>ヒューム</sup>、

（アマダムスミス）  
亞當斯密士及ヒ其他ノ学士ハ謂ヘラク、人タル者ハ（甚タ不齊ナレドモ）  
我身ヲ敬重スルノ外、又他人ノ苦惱ヲ救ヒ、他人ノ快樂ヲ増サンコトヲ  
欲スルノ提擲性アリ、而シテ此ノ如キ提擲性ハ自己ヲ恭敬スルコトト相  
關シテ生スル者ニ非サルナリ、

○上古ノ時ハ無私ノ行為ハ道德ノ理論ニ於テハ深ク之ヲ説カズト雖ドモ、  
習慣ニ由リテ能ク之ヲ行フ者多シ、首要ナル徳ヲ算スル時ニ於テモ仁恵  
（ベネボール）ハ其一ニ算ヘズ、惟勇氣ト己ヲ捨ツル（セルフ、サ  
レンス）ハ其二ニ算ヘズ、愛國ノ為ニ己ヲ獻ズルト、仁愛ト友情トヲ以テ勝レタ  
ル徳ト為シテ之ヲ尊ベリ、西塞魯、塞内加、馬古、奧勒流ハ共ニ一般ノ  
仁恵トイフコトヲ以テ可ナリトセリ、

○今マデ論シタル二大題目（道德ノ準度及ヒ心性学ニ管セル道德性）ハ  
之ヲ以テ方今ノ道德説ヲ大抵包括スルニ足ルベシ、斯密士、斯的瓦多、  
抹均多西ハ此二題目ニ付テ更ニ左ノ疑問ヲ發セリ、第一題ニ付テハ、  
問、徳トイフ者ハ、何ノ内ニ成立スル者ナルカ、第二題ニ付テハ問、徳  
ヲ發見シ、又之ヲ進励スル所ノ心ノ力、即チ心ノ良能ハイカナル者カ、  
○然レドモ此二題目ハ古代ノ道德論ニ依着スル者ナリトシテ、未タ之ヲ  
充分ナラズトスル者アリ、今其不足ヲ医治シ、道德ノ通覽ヲ完全ニスル  
為メニ明亮ナル解説ヲ為サントスルニハ、更ニ左ノ數題目ヲ加ヘザルベ  
カラズ、

目、生命上ノ最上ノ目的、即チ善、又最上ノ善ト云フ者ハ何者ノ中ニ

成立スルカトイヘル理論ニシテ、古代モ近世モ此問題ニ答フル主意ノ異  
ナルヨリシテ、其学派ヲ分ツニ至レリ、例ヘハストイクトエビキュリア  
ンストノ両学派ノ異ナルモ此見込ノ異ナルニ由リテ生ジタル者ナリ、  
幸福ハ人生最高ノ目的ニ非ストイフコトハ近代拔多勒及ヒ其他ノ学士ノ  
論説スル所ニシテ而シテ利益（ユチリ）ノ理論ヲ主トスル者ハ亦全ク之ト相反  
セリ、又嚴刻ナル法、即チ隱逸者ノ修身法トイフ者ハ、徳ヲ他人ニ施シ  
テ幸福ヲ得シムルノ外ハ、吾身ニ幸福及ヒ快樂ヲ求ムルト云フコトハ一  
切之ヲ禁止セリ、唯昔ヨリ今ニ至ルマデ最モ多ク行ハル、ノ理論ハ、人  
タル者スベテ己カ等儕ニ対シテ己カ職分ヲ尽シ能ク之ヲ為シ得ルトキハ  
吾身ニ快樂ヲ覺エル者ニテ、是ヲ名ケテ徳ト云フトイヘルノ説ナリ、（人  
心ノ法則ヲ以テ幸福ノ理論ニ貼合スルコトハ附録ヲCヲ参看スベシ）

目、職分ノ種類ハ学派ノ異ナルト理学者トノ意見トニ由リテ一様ナル  
コト能ハズ、古代ノ道學説ニハ四大徳ト云フモノアリ、曰ク智（アリエー  
レシ）曰ク節（カウテム）曰ク義（シヤヌス）是ナリ、近代ノ基督學ノ道學者ハ之ヲ分ツテ、上帝  
ヘノ職分、他人ヘノ職分、我身ヘノ職分ト為セリ、

○夫ノミ同シ道德ノ内ニテモ、其実ニ行フベキ事柄ニ亦多少ノ差異アリ、  
基督教ノ道德ノ條規ハ、猶太教或ハ偶像教ノ道德ノ條規ト相同ジカラズ、  
目、道學ト政學トノ管係ハ甚親密ニシテ、此両學ノ差異ノ点ハ亦甚々緊  
要ナル者アリ、布拉多ハ此両學ノ主意ハ分解スヘカラズトセリ、  
（アラストテレム）  
亞立度徳ハ更ニ両學ヲ混淆シテ説ケリ、霍比士ハ又道德學ト政學トヲ以

テ一法ト為シテ之ヲ説ケリ、

「I. 道学ト神学トノ関係ニ付テハ、方今ノ理学ノ説亦一様ナラズ、教法学校ノ教師ノ如キハ聖經ニ載ル所ヲ遺傳ニ據リテ之ヲ尊信シ、上帝ノ明命ニ向ヒテ自己ノ判断ヲ下サント欲スル者ナシ、故ニ此輩ハ、専ラ聖經ヲ以テ道德ノ規矩ト為シ、或ハ聖經ニ記スル所ニ更ニ附録ヲ加ヘテ其義ヲ敷衍スル者アリ、

○近世ノ理学者ハ多ク謂ヘラク、上命ノ明命セル道德ノ事ハ、専ラ神道ノ為メニ益アル者アリ、故ニ道德ナル者ハ教法ヲ離レテ獨立シ、専ラ人類ノ性ヲ根元トシテ其教ヲ立テザルベカラスト、道德ノ法則ハ聖經ヨリ出タル者カ、道德ノ法則ヲ以テ聖經ヲ試ムベキ者ナルカト云フコトハ循環極リナキノ推理論ナリ、

○神道ハ、道德ノ職分中ニ於テ、一個ノ副加物ト為リ、殊ニ特別ノ命令ヲ以テ之ヲ行ハシムベキコトト為シ、道德ノ條目中ニ特殊ノ條目ヲ立テ神道ヲ信ズル者ノ外ハ強テ之ヲ行フコトヲ要セザル者トセリ、即チ方今道德ノ種類ヲ分チタル中ニ、上帝ニ對セル職分トイヘル條目ヲ立テ他ノ職分ト區別シアル者はナリ、

## 第二編

### 道德ノ準度エチカルス ダンダード

○第一 道德学ハ行為ブラクノ一派ナリ、而シテ其他ノ行為ノ諸派ト同ジク目的トヲ立テ之ヲ定ムルナリ、

道德学ハ、天文学生器学心性学ト異ニシテ、唯知識考想ノミニテ止ムベキ者ニアラズ、必ス其知識ヲ行為ニ施シ、即チ必要ナル目的ニ之ヲ施行スルコト、航海学医学政治学ノ如クナラザルベカラズ、凡ソ此ノ如キ行為ニ属セルコトハ各其学ニ要用ナル目的アリテ、此目的ノ説明ハ、即チ其學術ノ解義ナリ、航海学ノ如キハ其種々ノ知識種々ノ工夫ヲ以テ、尽ク海上ヲ航行スルノ目的ニ用フル者ナリ、

○第二 道德学ノ目的ハ、適當ニ教誡セル行為ノ規則ヲ実行シテ社會間ニ生活セル人類ノ安全ヲ得シメントスルニ在リ、

道德学ノ主意ハ、人類ノ為メニ宜シキニ在ルトイフコトハ甚明白ナリ、盜賊ヲ為スベカラス、人ヲ殺スベカラズ、同意シタルコトヲ完成スベシ、誠実ヲ言フベシ等ノ告誡ノ如キハ假令別ニ道理アルトモ、到底實際上ニ於テ起ル所ノ大ナル悪事ヲ防クニ外ナラズ、」

又其他道德ニ於テハ善ナリトスル所ハ、此人ヨリ彼人ニ對シテ行フ所ノ規則ヲ守ルニ由リテ之ヲ得ルコトナリ、而シテ此規則ハ或ハ各人各個人ノ意向ニハ相反スルコトアルヲ以テ、務メテ此規則ニ同意センコトノ適當ナル誘導ヲ具ヘンコトヲ望ムナリ、

道德学ノ目的ハ或ハ之ヲ正邪ノ準度、正邪ノ法則、正邪ノ元極ト名ケ、道德学中ニ種々ノ異論ノ生スルハ常ニ此準度ノ中ニ在リ、

○第三 道德ノ規則ハ又之ヲ法則ラウ諸法則ラウ、道德ノ法則ラウト名ケ、之ニ二個ノ種類アリ、其一ハ此規則ヲ怠リ、又ハ之ヲ破ル者ニ施ス所ノ罪ヘナル  
チ

ノ規則ナリ、此之ヲ名ケテ刑罰ヒューニシメシトト云フ、此刑罰ヲ施行スル所ノ者ヲ政府ガヴァンメント又政權アウツト云フ、之ヲ施設執行スル所ノ規則ヲ本来ノ法則ラウス、クローバト云フ、當務ノ道德モラリチイ、アウツガトリ職分チエニト云フ、

○第四 其二ハ外面ヨリ称美レドヲ以テ支持スル所ノ規則ニシテ選取セル道德オツブシヨナ功績メリト徳フイチ尊貴ノールネスヲ為ス所ノ者ナリ、

道德ノ職分トイフハ、人ノ行為ヲ以テ、或ル範圍即チ境界ノ内ニ指定

スル所ノ規則、戒勅、條規ノ一組ヲ言フナリ、此規則ヲ施行スルニハ全ク殊別ナル二個ノ意思ノ力ニ因リテ之ヲ仕遂ケシムルナリ、

其一 此規則ノ第一種ハ、モシ此規則ヲ怠リ或ハ破ルトキハ苦惱ヲ受ケシムルトイフコトヲ以テ強テ之ヲ行ハシムルナリ、此苦惱ヲ刑罰又

刑律ト名ク、此事ハ社會ニ生活セル人民ノ常ニ能ク熟知セル所ナリ、此ノ如キ規則ヲ行フ所、即チ職分ヲ怠リ破ル者ニ刑罰ヲ行フ所ハ、

是ヲ政府又政權アウツト云フ、而シテ其規則ハ皆威權アリアウツ即チ為ザルコトヲ得ザルオブリガトト云フ、之ヲ嚴密ニ言フトキハ法律又本来ノ法律ラウ、クローバト

称スベシ、故ニ刑罰、政府、政權、最上權オブリガト、法律、職分等ノ數語ハ、相互ニ解釋スベキノ語ニシテ、其管係ノ異ナルニ從ヒテ

其語ヲ異ニスト雖トモ、其指ス所ハ全ク同一ノ事ナリ、故ニ道學ハ、民政シビルガツ或ハ国法セ、ラウ、オト相類似セリ、惟相似タルノミ

ナラズ、政權オブリガトト全ク一ニ歸セル所多シ、今此二者ト相合一セル所ト相合一セザル所ヲ簡畧ニ説クコト左ノ如シ、

(一) 道德學ノ要用ナル部ハ、国法ニ於テモ、亦之ヲ承認シテ、人身、財産ノ保護約束ノ踐履、相互ノ義務ノ完成ノ若キハ政府ノ法律規則ニ載ル所ニシテ、政府自己ノ械器力ヲ以テ之ヲ運用セリ、又政權ノ力ニ由リテ施行スル所ノ刑罰ハ、總テ之ヲ政權ノ執行オブリガトト名ク、他ニテ行ヘル罰則ニ比スレバ、最モ嚴正ニシテ最モ人情ヲ加フルコト能ハザル者トセリ、

(二) 道德ノ職分ノ中ニ於テ、政府即チ官吏ノ威權ヲ以テ勅令エニスセシメス、唯社會上ノ私論ヲ以テ之ヲ勅令セシムル者アリ、是ヲ名ケテ榮譽ノ法則セ、ラウ、オト名ク、其故ハ若シ此條ノ道德ノ法則ヲ破ルトキハ、其同儕ヨリノ尊恭榮譽ヲ失フヲ以テナリ、一身ニ付テノ勇氣、智慮、意思ニ付テノ貞潔、虔信、及ヒ味道、風俗ニ適合スル等ノ諸件ハ、社會上ニ於テ多少之ヲ記認スル者ニシテ、是等ニ付キテ道德ヲ破ルトキハ、交際間ニテ之ヲ賤辱シ、或ハ之ト交際スル者ナキニ至ルナリ、此ノ如キ者ヲ名ケテ交際上ノ執行オブリガト或ハ民間ノ執行オブリガトト云フ、此交際上ノ法則ハ全ク政治上ノ法則ニ異ナル者ニシテ、奧士丁アウグチンハ之ヲ名ケテ固定セル道德學オブリガト又ハ本来ノ道德學オブリガトト云フ、

公衆ノ思想オブリガト或ハ国法ト一ニ歸スルコトアリ、然ルトキハ若シ国ノ法律、人民ノ感覺ト相抵觸スルコトナキトキハ、民間ノ執行ヲ以テ、国法ノ刑罰ノ上ニ加フ、故ニ此ノ如キ者ハ、国法ヲ以テ刑罰ヲ受タル上ニ、更ニ交際上ノ賤侮ヲ以テ其刑ヲ重ヌルナリ、

刑罰ヲ以テ之ヲ要スル所ノ當務ノ道德オウリガトリモラリチイハ其種類ヲ擧グルトキハ大畧左ノ如シ、

国法ノ内ニ管領スル所ノ者ハ (A) 傷害ヲ防グ諸件 (a) 故意ヲ以テ為シタル傷害、即チイム (b) 故意ニ非ズシテ為シタル傷害、即チグ是ハ破損、又ハ價還ヲ以テ恢復スベキ者ナリ、(B) 服役ヲ為スノ諸件 (a) 約束又ハ相談ヲ踐履スルコト、(b) 以前吾為メニ役ヲ為シタルコトヲ還スコト、但シ其人ヨリ之ヲ要求スルニ非ズ、例ヘハ子タル者ノ職分ノ如シ、(c) 至極ノ要用ナル場合、即チ父母ノ職分、又ハ患難窮乏者ヲ救助スルガ如シ、

民間ノ施行ニ於テハ下ニ記スルガ如キ者ヲ以テ職分ト為ス、(1) 小ナル社會ノ間ノ礼儀 (2) 教法ノ信心、安息日ノ礼拝 (3) 不貞潔、男女ノ間ノ礼儀ヲ失フコト、不作法ナルコト、貞潔ヲ危スル所ノ諸件、殊ニ婦人ニ於テ然リ、(4) 父母ノ其子ニ對セル職分、子ノ其父母ニ對セル職分、但シ国法ニテ要スル所ノ外、(5) 自殺、若シ自ラ思ヒ立チテ為シタルトキハ其身ノ罪、他ヨリ為サシメタルトキハ之ニ管係セル者ノ罪 (6) 大酒、及ヒ己ガ活計ノ方法ヲ怠リタル者、(7) 大ナル不人情、以上ノ七條ノ如キハ之ヲ罰スルハ皆社會ニ在リ、或ハ只之ヲ嫌ヒ惡ムノミデ、公然ト事實ニ頭ハサバル者アリ、或ハ全ク交際ヲ絶チ、良善ナル役目ヲ行ハシメザルコトアリ、

其二 規則ノ第二種ハ、刑罰ヲ以テ支持セズシテ、賞譽ニ由リテ支持スル者ナリ、社會ニ於テハ、惠施セス仁愛ナキ人ヲ罰スルニ代ヘテ、惠施ヲ行ヒ仁愛アル所ノ人ヲ賞美贊譽スルナリ、故ニ仁惠ハ固ヨリ道德中ノ事ナレドモ、是ヲ以テ本来ノ法律ト名クベカラズ、又オウリ當務オウリノ威權アウリ結縛ヒシメノ道德ニ非ズ、唯單純ナル自由ヒツリノ道德ニシテ、之ヲ名ケテ、功績ウツク德トク高崇ナル行為イフルコトト言フベキノミ、

此處ニ在テハ、實際上ノ社會、官職ニ非ルノ材能ヲ以テ、首要ナル權治者アヂニストレトル即チ主管者トナルナリ、国ノ法律ハ自己ノ當務ノ規則ヲ、自己ノ刑罰ノ機關ニ由リテ、十分二人ヲ勅令スルコトヲ得ルナリ、而シテ私社會ノ人々ハ能ク人ヲ賞美シ、尊敬シ、褒譽シ、稱贊スルコトヲ得ベシ、罕レニハ政府ニ於テ、官職、位階、年金等ヲ以テ人ヲ褒賞スルコトアレドモ、此事ハ定例外ノ事ニシテ且其疆界モ至テ狹シ、社會上ノ賞美ヲ受クル所ノ行為ハ仁惠ノ事ヲ多シトス、凡ソ他人ノ為メニ、我身ニ属スル者ヲ棄ツルト、又他人ノ為メニ勞力スルトハ、共ニ其人ノ感恩ヲ得ルノミナラズ、公衆ニ於テ共ニ之ヲ賞贊スルナリ、最モ嚴正ニ且ツ誠実ニ人々ノ職分ヲ尽シ守ルトキハ、殊ニ公同ノ尊敬ヲ得ルナリ、單ナル礼儀ノ如キモ若シ能ク其身分ニ適當シテ恭順ノ意ヲ表スルコト、衆人ニ勝レルトキハ、大ニ衆人ノ賞譽ヲ得ルコトアリ、  
選擇ノ道德オウリ一名賞譽ノ道德オウリハ其一二ノ例ヲ擧クレハ、  
左ノ如キ者はナリ、

(A) 自己ノ了簡ヲ以テ適當ナル職分ヲ善ク行フ者 (a) 年老タル父母ヲ能ク助クル者、此事ハ国法上ニ於テモ頗ル之ヲ稱譽スト雖ドモ、要スルニ人民一己ノ徳ニシテ公衆ノ稱贊ヲ受クベキ者ナリ、(b) 又家倫ニ属セル職分ヲ善ク尽ス者モ同ク公衆ノ賞譽ニ属スル者ナリ、(b) 法律ヲ以テ償還サセ難キ処ノ負債ヲ償還スル者ニシテ、例ヘハ之ヲ償還スルトキハ其人ハ忽チ破産スルガ如キノ場合ニ於テ之ヲ為スナリ、

爰ニ記スル所ノ證例ハ (1) 此事ニ付テハ一定ノ法律ナキ者又ハ法律アレドモ、此中ノ小部分ニ管スルニ過ギザル者、(2) 其證迹及ヒ行為ノ規則ノ為ニ、法律自ラ其抑制ヲ受ケ居ル者ノ類、總テ之ニ属セリ、此ノ如キ場合ニ於テハ、社會ト云フ者之ヲ賞譽スルノ地位ニ進入スルナリ、

(B) 單純ナル徳、即チ仁恵、約束ナク、賞譽ナキニ、能ク他人ヲ恵ム所ノ行為、一人或ハ社會衆人ノ為メニ、苦難ヲ救ヒ、善事ヲ高ムルコト、總テ社會上ノ最高キ尊恭ヲ得ルハ、社會ノ為メニ最高キ用立チヲ為スニ由ルコトナリ、

○第五 修徳ノ目的エチカ即チ修徳ノ道エチカハ、其一分ハ安全ウエル即チ利益ベリシヲ以テ根礎ト為シ、其一分ハ感覺センチヲ以テ根礎トシテ其上ニ樹立ス、  
道徳ノ一分ハ人類ノ災厄ヲ防キ、幸福ヲ進ムルヲ以テ主意トスルコト  
ニ衆人ノ已ニ知リテ甚タ明白ナル所ナリ、然レドモ是ハ道徳ノ全体ニ

ハ非ズ、

感覺シ、又ハ任意ニ好悪ヲ生ズルト云フコトハ、總テ之ヲ感覺ト名クベキ者ニシテ、此感覺ハ主意目的オラセヨリ起ラズシテ、教育、風習、意思ノ力ト、或ハ相結合シ、或ハ相結合セズシテ起ル者ナリ、人心ノ變轉スルコト、例ヘハ猶太人ニ於テハ豚肉ヲ食フコトヲ厭ヒ、歐羅巴人ニ於テハ馬肉ヲ食フコトヲ厭フガ如キハ、餓飢ノ苦、寒ノ苦、音楽ノ不調ノ苦ノ如キ天然ノ感覺ニ非スシテ、専ラ人為ニ係ル者ニシテ、即チ風習ナル者或ハ之ヲ為サシメ、或ハ之ヲ為サシメザルナリ、適度ニ動作シテ疲労ヲ覺ユルハ天然ノ感覺ナリ、カステ良種ノ異ナルニ從ヒ、劳作ヲ厭倦スルハ人造ニ出タル者ナリ、軍職ニ附着セル尊榮ト、執刑者ニ附着セル賤蔑トハ、共ニ任意ニシテ感覺ニ属シタル者ナリ、吾等ノ老年ノ衰頹ヲ安慰センカ為メノ預見ハ正実ノ利益ヲ指定シ、死後ノ身体ノ處置ノ感ハ、全ク人造ニシテ感覺ニ属スル者ナリ、此ノ如キ感覺ハ吾等ノ本来ノ力ノ中ニ在リ、彼ストイクノ学派ニテ、都テ善惡ハ同シ光ライノ中ニ在リト説ケルハ、其学ノ大ナル謬誤ナリ、

○第六 道徳ノ目的エチカハ素ヨリ利益ユチリヲ以テ定準ト為スト雖ドモ、道徳ノ管治モラル即チ威權カウノ主意ヨリ、見込ヲ立ツルトキハ更ニ其界限ヲ廣クセザルベカラザルコトアリ、  
凡ソ一般ノ要用ユスフルニ管スル事ノ外ハ、道徳上ニ於テ必ス做スベキヨフリガトイフ事ハナキコトナレドモ、然レドモ此言モ亦強チニ之ヲ主持

スルコト能ハズ、例ヘハ大氣中ニ於テ日々身体ヲ運動サスルコトハ甚  
タ要用ノコトナレドモ、衆人ヲ強テ是非共之ヲ行ハシムベシトイフ国  
法モナク、亦公衆ノ意見モナシ、道路ノ善良ナルハ利益ノ大ナル助ヲ  
為ス者ナリ、然レドモ人々ニ必ス道路ヲ修補スベシトイヘル義務アル  
コトナシ、

制抑ノ器械ハ通常利益ノ助ナリトシテ理會スルコトハ至テ難シ、然レ  
ドモ其器械ノ用法理ニ背カザルトキハ、是ヲ以テ利益中ノ  
選抜セル種類トナシテ之ヲ看ルベキコトナリ、

利益中ノ或ル者ハ人類社會ノ成立ニ於テ決シテ闕クベカラザル者ナリ、  
若シ人類相交際シテ此世ニ生活シ、禽獸ノ如ク只大羣ニ彷徨散遊スル  
者ニ非サルトキハ道德ノ重ナル職分ハ或ル階級マデハ能ク注目セザル  
ベカラズ、保守リチイトイヘル事ノ裨益ハ、人類相交際ニ付テ、最第一ニシ  
テ且ツ勸從ノ法ナリ、總テ此保守ノ主意ニ管シタルコトハ交際中ニ  
テ要需ノ地位ヲ領スルナリ、然ルニ保守ハ進善トハ反對ノ意アリ、  
凡ソ保守ニ属スルノコトハ正當トナリト言フベク、進善ニ属シタルコ  
トハ便宜ニナリト言フベシ、此二者相合シテ所謂利益ヲ造成スルナ  
リ、而シテ此中ニテ一ハ要迫ニシテ且ツ免不得ナリ、一ハ選取  
ヨリナリ、此二者ノ異ナル所以ヲ又他ノ語ヲ以テ言フトキハ、一ハ現在  
ニシテ一ハ好在ナリ、一ハ現有ニシテ一ハ榮昌ナル現有ナリ、  
一ハ基礎ニシテ一ハ精細ニシテ一ハ榮昌ナル現有ナリ、路上ニ

人ヲ劫ス者ハ刑罰ヲ受クベキコトト云フハ現在ナリ、道路ヲ能ク修補  
スベシト云フハ好在ナリ、公義ハ行ハザルベカラズトイフハ現有ナリ、  
農人商人各自己ノ職業ヲ以テ政府ノ統計ニ記入スベシトイフハ榮昌ナ  
ル現有ナリ、

威權ヲ以テ強勒スベキ人ノ行為ノ規則ハ、法理ノ書ニ於テ残り  
ナク之ヲ記セリ、然レドモ其規則ハ全ク道德ノ理論ニ相管係セル者  
ニ非ズ、凡ソ其規則ヲ置クノ適宜ハ、其器械ノ値ト比較シテ、肝要  
ナルコトノ輕重如何ニ準シテ之ヲ定ムルコトナリ、人ノ行為ノ或ル  
一列ハ、甚タ世上ニ利益アル者ナレドモ、之ヲ強勒シテ行ハシムル  
コト能ハズ、例ヘバ法律ナル者ハ、唯用立ル細小分ノミヲ勸令シ  
得ルモノナリ、若シ其細小ノ部分、法律上ニ於テ無用ナルトキハ、  
之ヲ勸令スルコトヲ止メテ、全ク世人ノ自由ノ感覺ニ任セ、稱讚名  
譽ノミニ付トスベキコトナリ、難破ノ船ヲ助ケ、年老タル父母ヲ養  
育スルノ類是ナリ、又惡事ニ付テ言フ時ハ、法律ニテハ、其性質ニ  
從ヒ、明白ニ其罪状ヲ審明セサルベカラズ、傲慢、譏誚其他輕侮ノ  
類ノ所行ニ至リテ其罪状ヲ審ニシテ之ヲ証明スルコト極メテ難シ、  
又法律ニ罰スル所ノ惡事ハ推究シテ證據ヲ得ルコトノ易キ者ニシテ、  
衆人ノ犯罪者其罪名ヲ追ル、コト能ハザル者ニ限ルベシ、故ニ私通  
ノ如キハ法律ノ界限ノ外ニ出サバルコトヲ得ズ、  
道德ノ規則ニ能ク注意シテ、其内ノ一二條或ハ道德ノ真正ノ目的ヲ失

フコトナキカヲ吟味スルコトハ極メテ適當ノコトナリ、又  
其通りニアルトイヘル道德トス、ベーン、加様ニセネハナラヌトツ、ビー、  
イヘル道德トノ界限ヲ推廣ムルコトモ極メテ適當ノコトナリ、凡ソ法  
律ノ規則モ、道德ノ規則モ之ヲ必行セシメントスルニハ、必ス強勒ノ力  
バウ、オウ、ヲ要スル者ニテ、此力ハ或ル人ハ衆人ノ手中ニ存スル者ナリ、此力  
ヲ有スルヨリシテ、或ハ誤ツテ、公衆ノ安全、即チ一般ノ堅固ニ要用  
ナルコトヨリ過ギタルコトヲ為スコトアリ、凡ソ国民ノ道德路上ニ在  
ル所ノ出来心、想像心、礼儀、好愛、嫌惡等ノ如キ、或ハ一個ノ人民ノ  
勝手ノ意想ニ起リ、遂ニ其小社會上ニ於テ大ナル威權ヲ有スルニ至ル  
コトアリ、全体ノ社會ノ如キハ天然ノ力ニテ成リタル者ナレドモ、猶  
自ラ無用ナル禁制ヲ其中ニ置キ、人民一個ノ自由ヲ得ルヨリハ、其社  
會ノ威力ノ行ハル、ヲ喜ブ者アリ、

第七 道德学ハ其真正ノ部分エッセシヤハ 永 久 変 更 スベカラサル  
者ナリ、及其他ノ一部ハ風俗ト共ニ變更スル者ナリ、

(1) 吾身ヲ防護シテ他人ヨリノ傷害ヲ免カレ、公義ヲ務メ行ハシメ、  
約束ヲ堅ク守ル等ノ為メニ定メタル規則ハ、正真ニシテ根礎トナル部  
分ニテ、永久變更スヘカラザル道德ナリ、是等ノ目的ヲ達セントスル  
ニハ、其規則ナカルベカラズ、風俗ノ専行ヲ以テ其規則ヲ變更スルト  
キハ其目的モ從テ破壊スルナリ、此規則ノ社會ニ要用ナルコトハ、恰  
モ食物ノ一身ノ生活ニ要用ナル、両性相交ハルト、母ノ注意トノ人類

ノ保続ニ要用ナルガ如シ、第一ノ道德ノ規則ハ、兇殺、豪奪、不義不  
信ヲ行ハシメ、及ヒ約束ヲ廢棄セシムルノ規則ヲ以テ之ニ代ルコト能  
ハズ、何則兇殺云々ノ規則ハ、忽チ社會ヲ粉齏スル者ナレバナリ、  
(2) 此第一ノ道德ノ規則ヲ以テ之ヲ實際ニ行ハシムルノ方法ハ、其  
民ノ風俗ニ從ヒテ差異アリ、甲ノ社會ハ其機器粗ニシテ不完全ナレト  
モ、乙ノ社會ハ大ニ進歩シアルト云フガ如キコトアリ、希臘人ハ法律  
ノ機器ヲ進善スルノ首導者ニシテ、羅馬人ハ其後ニ從ヒテ行キタル者  
ナリ、

現在ビトニハ緊要ナラザレトモ、好在ラヘルニハ甚タ緊要ナル規則アリテ、  
風俗上ニ於テ其間ノ差異甚大ナル者アリ、男女ニ管係セル一件ヲ以テ  
十分ニ此事ヲ証拠ヲ示スニ足ルベシ、凡ソ一家ノ成立ハ、社會全体ノ  
成立ニ欠クベカラザル者ナリ、然レドモ其成立ノ模様ニ由リ、此家ノ  
組立方ハ彼家ノ組立方ヨリ社會全体ノ幸福ニ益多シト云フコトアリ、  
然レドモイカナル家ノ組立方ヲ以テ全体ノ為ニ最利益アリトスルカニ  
至リテ人々ノ意見甚一樣ナラズ、最モ開進セル国民ハ一夫一婦ヲ以テ、  
必ス為サバルベカラサルノ務トナシ、此法則ヲ執行センガ為メニ多少  
ノ威權ヲ其説ニ附ス、然レドモ、一男ヲ以テ一女ニ配スルコトハ、永  
世不朽ノ道德ノ部分ナリト定言スルコトハ能ハザルナリ、

道德ノ交際ノ建制法則ユイシチナリ、然レドモ任意ノ法則ニハ非ズ、  
○第八 利益ユイチ即チ人類ノ幸福ハツピネスト云フコトハ、(或ル界限ヲ定メテ)

道德ノ適當ナル準則クリテリオンナリト云フコトハ上文既ニ之ヲ説ケリ、此説ノ憑證ヲ示スノ前ニ先ツ道德ノ準度ニ付テ感覺スヘキ証拠ノ種類ハ何々ナルカト言フコトヲ穿索スルハ至テ簡要ノコトナリ、

是マテ擧ケタル利益ノ義ハ唯全ク其全体ヲ説キタルノミ、故ニ是ヨリハ、將ニ其義ヲ助クル所ノ証拠ト、其義ヲ破ル所ノ異説ヲ擧示セントス、併シ、証拠ノ何レノ種類ヲ以テ此問題ニ答フベキカヲ知ルハ、亦要用ノコトナルベシ、

暗想即チ理論ノ学科ニ於テハ、其他ノ学科ノ説ヲ引用シテ自己ノ説ヲ証シ、以テ至極ノ端ニ至レル定説ヲ得ルニ至ルベシ、余儕、今能ク（ユークリッド）欧克立得ノ比較法ヲ証スベク、重量ノ法則ヲ証スベク、分子ノ比例ノ法則ヲ証スベク、實際ノ法則ヲ証明シ得ベシ、余儕ハ今我身ノ現在ノ感覺ヲ証スベカラズ、又吾身ノ現在スル所ノコト及ヒ猶現有シ得ベキ所ヲ確説スルコト能ハズ、至極ノ定論デタハ到底、自証セルフ、エビデンスニ憑ルニ過ギズ、即チ其憑論スル所ハ、人タル者ハ感覺ヲ生スベキ様ニ造為シアル者ナリト云フヨリハ、更ニ高上ナル証論アルコトナシ、

実験ノ学科ブラクテカルサイエンスニ於テハ、其主義ヲ立ツルニ、天然ノ順序ニ於テセズシテ、人ノ行為ノ目的ニ從ツテ順序ヲ立ツ、此学科ニハ分派ノ目的ゾラフ、目的、アル、トエンドト至極ノ目的アル、トエンドトアリ、分派ノ目的ハ至極ノ目的ヨリ分派シ来ル者ニ証据トナルベキ試験ヲ為シ得ベキ者ニシテ、至極ノ目的ハ此ノ如キ試験ヲ為シ得ベカラザル者ナリ、故ニ此者ハ唯自証セルフ、エビデンスヲ以テ之ヲ得ベキ者ニシテ、其純

粹ナル威權アウソニ之ヲ得タル所ノ人ニ有スルナリ、実験ノ諸学科ニ於テハ、分派ノ目的ヲ有スル者多シ、例ヘハ医療ノ目的ハ健康ニ在リテ、此目的ハ、人類ノ幸福ナル最後目的ノ給助ヲ為ス者ナリ、其他航海術、政治学、教育術等ニ於テモ亦皆此ノ如キ者アリ、是等ノ諸学ニ於テモ、皆安全ウエル、エール即チ幸福ヲ以テ、通用ノ目的、包含廣キ目的、終極ノ目的ト為スナリ、利益ノ理論ニ從フトキハ、道德モ亦此幸福トイヘル目的ノ管下ニ立ツ者トセリ、

幸福ハ人類行為ノ適當ノ目的ニシテ且ツ方正ナル所行ノ標識クリテリオントナル者ナレドモ明確ナル試験ヲ為シテ之ヲ定ムルコト能ハズ、唯人類タル者自身一個ノ判断ニテ之ヲ定ムルヲ以テ、至極ノ納受アツサムフシヨ即終尾ノ納受ト為スコトナリ、

人類ノ願望ニ於テ、幸福トイフコトハ、總テノ行為ノ最高ノ目的ナリト定マル時ハ、彼利益ノ理論ハ確力ナル試験力得タル者トナルナリ、  
○第九 凡ソ世人ノ、人類ノ行為ノ最上ノ目的ヲ論スル者ハ、道德ニ就キテ之ヲ論スル時ハ、常ニ幸福ニ帰着スル者多シ、然レドモ直接ニ幸福ト言ハズシテ、是ヲ節宜ノトニ言出シ、又ハ其義ヲ蘊蓄シテ之ヲ言フ者多シ、

又此幸福ニ付キテ十分ナル衆説一致ト云フコトハナキコトナリ、  
人類ノ行為ノ目的ニ就テノ質問ニハ、思念ウヰ、ノノ起意ノノ理説ヲ以テ之ニ答フルコトヲ得ベシ、思念ノ第一ノ法則ニ拠テ言フ時ハ、凡ソ我輩人類タル者ハ自己ノ為メニ現在及ヒ将来共ニ、快樂ヲ求メテ苦惱ヲ避

クル者ナリ、然ルニ此法律ハ、感覺ヨリ生シタル定意<sup>○</sup>ノ働キノ為メニ妨ゲラル、者ニシテ、是ヨリシテ忿恚、虚大、不條理等ノ起意即チ目的ヲ生スルナリ、此感覺ヨリ生スル中ニ於テ唯一個ノ者アリテ、德行ノ源ト為リ、且一般衆人ニ称譽セラル、者アリ、即チ相憐<sup>○</sup>是ナリ、

定意<sup>○</sup>ノ中ニハ又名譽<sup>○</sup>ノ感覺アリ、此感覺ハ或ハ快樂ヲ棄テ苦惱ヲ求ムルコトアリ、吾儕ハ布拉多ノ所謂安全ナル牡蠣ノ如キ生涯ヲ願ハザルベシ、即チ（亜立斯度徳ノ證例ヲ用フ）永世小児ノ如キ有様ヲ以テ満足スルコトナカルベシ、小児ノ幸福ヲ以テ幸福トスルコトナカルベシ、

○第十 道德ノ目的ノ衆人ノ傾向スル所ニシテ、伏藏スル所ナク之ヲ引受クル所ノ者ハ、人類ノ安全<sup>○</sup>幸福、即チ現在<sup>○</sup>好在<sup>○</sup>ノ聚合シタル者ニシテ一言ヲ以テ言フトキハ利益<sup>○</sup>是ナリ、

此実事ノ証拠ハ下ニ記スルガ如シ、

（一）凡ソ往昔ヨリ今日ニ至リ、又世界ノ各国ニ於テ道德ノ教ヲ説ク者ハ大抵社會ノ安全ニ帰セザルハナシ、異教ニ迷溺シ、或ハ激情ニ起リ、或ハ任意ノ壓抑政治トイヘドモ、亦其政治及ヒ道德ニ付キテノ命令ハ、人ヲシテ他人ノ妨害ヲ防ガシム、人ト人トノ間ニ公義ヲ守ラシムル等ノコトニ非ルハナシ、此如キ目的、或ハ治者ノ為メニ被治者其

壓制ヲ受ケテ之ヲ惡壞スルコトアリ、然レドモ政治ノ目的ハ猶常ニ此処ニ在リテ、或ハ偶然ニ政府ニテ之ヲ保護スルコトアリ、上帝ノ十誡ノ如キモ其中ノ四條ハ教法信向ノ事ヲ管シ、其余ノ六條ハ全ク利益ノ事ヲ説ケリ、即チ惡害ヲ除キ去リ、人類ノ好善<sup>○</sup>ヲ進ムルコトヲ説キタル者ナリ、

（二）公衆全体ノ安全<sup>○</sup>ト云フコトハ、昔ヨリ今ニ至リ道德ノ規則ノ堅固一定ノ論ニシテ、其規則ニ服從セシムルノ意思モ是ヨリシテ發スル者ナリ、法律及ヒ道德ヲ保守スル説ノ世上通行セル者ノ左ノ如シ、若シ兇殺人、盜賊等ヲ宥シテ之ヲ罰セザルトキハ、人々其性命ト財産トヲ安全ニスルコト能ハサルベシ、人々毎ニ争鬪ヲ為シテ絶ユルコトナカルベシ、工業ハ廢絶スベシ、社會ハ忽チ其終リ告クベシ、

是ヨリ更ニ暴虐ノ国ニ於テモ、利益<sup>○</sup>ノ道理ニ由リテ、感覺ヨリ生セル願望ヲ補給スルコトノ為メニハ、甚タ強盛ナル性質<sup>○</sup>アリ、

東方諸國ノ民惡シキ洗濯法モ、其主意ハ猶淨潔ヲ保ツニ根基セリ、人君ヲ以テ神聖ナリトスルモ、社會ノ服從ノ為メニ助ケトナルノ趣意ナリ、賣奴ノ法モ、一時工業ノ衰廢スルニ由リテ之ヲ行フトイヘル言譯アリ、夫婦ノ離縁スベカラズトイフコトハ利益ヨリハ感覺ニ基ク者ナリ、然レドモ是ヲ主張スル者ノ説ハ一般ニ利益ヲ以テ根拠トセリ、

（三）新ナル場合、即チ感覺又ハ情ノ働ヲ為サザル場合ニ於テハ獨リ利益<sup>○</sup>ノミニ倚賴スルナリ、今日ノ活新ナル命令ニ於テハ、社會ノ好善

トイフコトハ、唯利益ニ聽從スルノミヲ以テ權宜ノ道ジャヌヒトト為セリ、今耶穌教ヲ奉スルノ国ヲシテ全ク豚肉ヲ食フコトヲ禁ゼシムル時ハ、人々ノ心ニ於テ、大ナル公衆ノ障害ヲ起シタリト謂モフベシ、若シ豚肉ヲ食フ時ハ一トリキニア動物ノ筋ニ生スル有害ノ物ノ為メニ、果シテ、許多ノ防クベカラザル害ヲ生スルコトナラバ、此開化セル民ガ聖哲人豚肉ヲ養フヲ以テ道德ニ背キタル悪事ナリト定ムルコトハ道理ナルコトナルベシ、併シ今此豚肉ヲ食ハザル民ノ中ニテモ、己ノ自由ノ感覺上ヨリ豚肉ヲ嫌ヒ悪マザル者ハ甚多カルベシ、

(4) 單純ニ感覺ノミヲ根基トシテ、人類ノ安全ト相結合セザル所ノ理論ハ次第々々ニ之ヲ除去ルノ方ニ向ヘリ、

先ツ人主ヲ以テ神聖ナリトスル所ノ見ヲ除ケリ、又異教ヲ信ズル者或ハ魔ヲ使役スル者ヲ絶交芟滅スルヲ以テ道德ノ職分トスルノ見ヲ除ケリ、又基督教ノ安息日ノ法ハ古代ハ甚タ嚴刻ナリシガ、近年ハ法律及ヒ民間ノ習俗共ニ其嚴刻ノ法ヲ廢スルノ利益多キ意見ヲ發セリ、安息日ヲ守ルノ定論ハ、漸々ニ世間ノ利益ヲ主トスルノ說ニ驅逐セラレタリ、

此如キノ意見、都テ進歩ノ論旨ヲ助クル者ト一致スル時ハ、即チ此意見ハ、利益ヲ以テ道德ノ準度ト為シタル者ナリ、此他ノ道德ノ準度ノ利益ノ說ニ相反スル者モ同シク人類ノ意見ト習行トニ據リテ其說ヲ立テタル者ナリ、

○第十一 道德ノ準度ニ就キテ、利益ノ主義ニ抗敵スルノ論ハ、大抵、上文ニ其意ヲ示セリ、然レドモ詳ニ之ヲ言ハントスルニハ、猶更ニ左ノ數條ヲ述ベザルベカラズ、

一 人類ノ行為ノ單純ナル標的、即チ事業トトノ兩者ノ中ニハ利益ヲ要スルコトナシ、人タル者ハ、的實ニ、勸考シテ、又良心ノ選擇ヲ以テ、利益ニ非サル他ノ目的ヲ求ムルコトアリ、例ヘハ徳ナル者ハ自己ニ於テノ目的ニシテ利益ニ關係スル者ニ非ストイヘル說ノ如シ、

此主意ニ付キテハ左ノ條々ヲ觀視セサルベカラズ、

(1) 此書ニ屢記スル所ヲ見レバ、今言フ所ノ定說ハ、甚タ正実ノ論ナリト云フコトヲ知ルベシ、人タル者ハ實、快樂ト苦惱トノ二者ノ為ノミニ行為スベキ者ニ非ズ、其他尚情感ヨリ起ル所ノ幾多ノ行為アリ、其中殊ニ著ルキハ、他人ノ苦惱ト快樂トノ為メニ同情相憐ノ心ヲ發スル者是ナリ、若シ此ノ如キ感情モ、人ノ思念ルノ定則ヨリ變化シ出テ來ル者ナリトスルトキハ或ハ人ノ起念ハ常ニ幸福ニ在リトイフ說ヲ保持スベキカクナレドモ、イカンセン此感情ノ性質ハ必シモ利益ニ非ルモノナルコトヲ、余輩又數、世人カ自己并ヒニ他人ノ幸福ニ抗敵シテ行為スル者アルヲ見タリ、即チ甚シク恐懼スル時、又ハ忿恚、或ハ不和ヨリ生スル所ノ行為ノ如キ是ナリ、

堅固ニシテ保守スベキ定說ハ左ノ如シ、凡ソ人タル者、能ク前後ヲ勘弁シテ、己ガ行為ノ後続ヲ秤リ合セテ、最モ良キ方法ヲ行ハントスル

ニハ、或ル動物、又ハ他人ノ幸福ニ意ヲ用ヒ、之ヲ勉強ノ目的トシテ動クノ性ヲ具ヘタルモノナリ、母ハ全ク自己ノ幸福ノミニ意ヲ用ヒズ專ラ其子ノ幸福ニ意ヲ用フルナリ、何瓦多<sup>ホワード</sup>ハ我身ノ快樂ヲ棄テ、同シ動物ノ困窮ヲ輕クセンコトヲ思ヘリ、

(2) 凡ソ人タル者ハ徳ヲ以テ全ク我身ノ目的ト為シ、敢テ之ヲ以テ幸福ヲ得ルノ方法ト為サズ、然レドモ実事上ヨリ言フ時ハ、接合<sup>コンチ</sup>トイヘル交際<sup>アソシエ</sup>ノ定法ヲ出ルコトナシ、此ノ如キコトハ同シ種類ノ上ニ猶幾多ノ證例アリ、例ヘバ金錢ヲ愛好スルガ如シ、公義、信実及ヒ其他ノ諸徳ハ、多少社會ノ現在ニ要用ナリ、然レドモ福祉アル現在ヲ望ムトキハ更ニ其徳ノ廣大ヲ要スルコトナリ、此ノ如キ場合ニ於テハ方法ハ、目的中ノ要部ヲ分チ取り、方法ヲ以テ目的ト看做シテ可ナルコトアリ、

(3) 義務ノ大ナル數個ノ者ハ、其位格ハ人類ノ安全ヲ得ルニ由リテ生スルコトアリ、其最第一ノ目ヲ擧クレバ信実<sup>ベラシ</sup>即チ誠實<sup>テイ</sup>是ナリ、道徳ノ職分上ヨリ見ルトキハ此者ハ十分獨立ノ望アル者アリ、然レドモ、若シ戰爭ニ於テノ己カ仇敵、狂人、強盜等ヲ欺キ得ルトキハ、衆人皆之ヲ稱譽スベシ、又秘密隱匿ト云フコトモ、或ハ其意ヲ解シ誤ルコトアレドモ、若シ甚シキ惡事ヲ引起スニ非サレバ、人皆之ヲ允許セリ、而シテ此等ノ事ハ、社會上ニ於テ他ノ極惡ヲ防ク為メニ要用ナリシテ、人却テ之ヲ望メリ、然レドモ十分ナル信実ノ準度ヨリ之ヲ言フトキハ、

信実ト秘密、或ハ變形トハ両立シ難キ者ナリ、思想、行為ノ十分ナル開豁公明ニハ反スレドモ、其時ノ模様ニ由リ和順シタル信実、即チ宜ニ適ヒタル信実ヲ為サンガ為メニ、思想ノミニ誠實<sup>アチアル</sup>ツルースヲ賞用スルコトアリ、是則チ誠實ノ舉動ハ、社會ノ一般ノ好在ヲ主トシテ行フベキ所以ナリ、

公義ノコトノ利益ニ相管係セザルトイフコトハ更ニ罕ナルコトナルベシ、若シ公義ナル者人々自然ニ固有セル者ナリトスルトキハ、人ノ起意<sup>チイ</sup>ハ人々ノ為メニ其不幸ヲ防ク

「道徳學 Alexander Bain」 解題

「道徳學 Alexander Bain」は、八二七—一〇三「雜綴」八號に、「英國憲法ノ主要ナル原理」「政体通論卷之二」「社會學第二冊」とともに合綴されている。

この資料は、Alexander Bain (一八二一—一九〇三)の著述 *Mental and Moral Science: A Compendium of Psychology and Ethics* の後半 *Moral Science* 部門の部分訳である。

原書は、書名からわかるように、*Psychology* と *Moral Science* の二部門からなっており、序文、三三頁に及ぶ詳細な内容目次、本文七五一頁、附録九九頁からなる大冊である。一八六八年に初版が出た後、*Psychology* の部門が、同年に *Mental Science: A Compendium of Psychology and the History of Philosophy* として独立した一冊となった。翌一八六九年に *Moral Science* の部門が *Moral Science: A Compendium of Ethics* として独立した一冊となった。それぞれが版を重ねてくる。

この二冊で西村が翻訳したのは *Moral Science* の部門であるが、西村が依拠したものが、初版か、単行本として独立した版かはわからない。いずれにしても、西村翻訳との矛盾はない。

*Moral Science* は、Part I. と Part II. の二つのパートからなり、Part I. には Chapter I から Chapter III があって倫理学の基本問題を概説し、

Part II ではソクラテスからシモン・ジュフロアまでの倫理学説をたどっている。

西村が翻訳したのは、Part I の Chapter I と Chapter II の中途までである。二部門が一体となっている初版では、四二九頁から四四五頁の中途まで、単行本では十五頁から開始される本文冒頭から三二頁の中途までである。

訳語については、*Ethics* の訳語として道學を当てることもあれば道徳學をあてることもあり、必ずしも一貫していない。Part を編、Chapter を解と訳している。

Alexander Bain は、イギリスの心理学者、哲学者で、アバデーン大学の論理学、英語学の教授を勤めた。心理學は、従来、哲學者、生理學者の副次的仕事であつたが、これを専門の仕事としたのは、彼に始まるとされる。Bain については、「心學及道學」も参照のこと。

添田壽一訳述『倍因氏倫理学』(二卷本)明治二十一年(一八八八)年は、*Mental and Moral Science* の *Moral Science* の部門の翻訳である。

また、添田壽一は、*Education as a Science* の一八七八版を翻訳し、明治十六(一八八三)年に『教育學』として出版している。

「倍因氏洛日克 一」「心學及道學」を参照。

第一篇

西村茂樹 講述

文明ノ性質及ヒ其形相

一 人ハ改善スルコトヲ得ベキ動物ナリ

人類ノ他ノ動物ト大ニ異ナルハ、唯其智ノ勝レタルノミニ非ズシテ、漸ニ改進シテ完全（仏語ノ円満ニ同ジ）ニ赴クコトヲ得ルノ天性ヲ有スレバナリ、禽獸ノ如キハ昔モ今モ同シ状態ニテ、千年以前ノ馬ト今日ノ馬ト別ニ異ナルコトナク、三千年以前ノ犬ハ無字ナレドモ、今日ノ犬ハ學問アリト云フコト能ハズ、然ルニ人類ノ如キハ、開闢ノ時ハ文字モナク、家屋モナク、衣服ヲ無カリシナリ、今日ノ状態ヲ見ルニ、開闢ノ時トハ、實ニ雲泥ノ差アリ、以テ其改良ノ天性アルコトヲ証スベシ、人類ノ改善ハ第一ニ其心ニ在リテ、夫ヨリ身体モ才能モ随ツテ改良スルコトナレドモ其本ヲ推ストキハ、全ク其心ヲ養成スルヨリ外ナラズ、心ニニアリ、一ヲ英語ニマインドト云ヒ、一ヲ英語ニインスチンクトト云フ、マインドハ今言フ所ノ心ニシテ、インスチンクトハ和漢ノ學者未タ之ヲ説キタル者アラズ、西説ニ依リテ言フトキハ、インスチンクトハ自識セザル所ノ働ヲ為ス者ニシテ、例ヘバ小兒ノ生ル、ト直チニ乳汁ヲ吸ヒ、危難ニ逢フトキ、或ハ目ヲ閉ヂ、或ハ手ヲ擧ゲ、或ハ身ヲ躲避スルガ如キ、又

禽獸ニ付テ言ワ、雖ノ殻ヲ出ルト直チニ啄ミ、雁ノ時ヲ知りテ南北ニ遷ルガ如キ皆是ナリ、支那ニハ此語ニ当ルベキ字ナシ、佛語ニ業通トイフ者稍相似タレドモ亦異ナル所アリ、余ハ之ヲ譯シテ気性トイフ、心トイフ者ハ之ヲ養育スルトキハ、段々ニ改良スベキ者ナレドモ、此気性ナル者ハ、最初ニ開發シタル限りニテ、更ニ教養ヲ施スコト能ハザル者ナリ、

二 人ト国ト天然ノ類似

○人類トイフ者ハ此ノ如ク改良進歩ヲ為シ得ルトイフコトハ、何レノ人心ニ付テモ皆言フコトヲ得ベキ者ニテ、千人万人ノ心皆改良進歩ヲ為シ得ルノ天性ヲ有スル者ナリ、此人類ノ聚マリタル者ヲ国トモ社會トモ言フコトナレバ、国モ社會モ亦一個人同様ニ改良進歩スルコトヲ得ベキ者ナリ、故ニ国力ノ生長スルトカ、国勢ノ進歩シタリト云フトキハ、即チ其国民ノ心ノ生長進歩シタルナリ、歴史ニ據リテ見ルニ、国力ノ進歩ノ階級ヲ逐ヒテ漸々ニ進ムコトハ、人心ノ階級ヲ追ヒテ漸々ニ開發スルト大ニ相似タル所アリ、其階級ヲ經ル間ニ、或ハ猝然ニ變化ヲ起シ、或ハ特別ノ状態ヲ現ハスコトハ、国ノ有様ト一人ノ心ト甚タ異ナルコトナシ、然ルニ一個人ト一国トハ又大ニ異ナル所アリ、即チ其時ノ事情、一人ニ關スルト全国ニ關スルトハ、大ニ同ジカラザル所アリテ、或ハ相互ニ衝突ヲ為シ、民心ハ改進ニ向カフモノ國勢之ヲ妨クルコトアリ、是カ為メニ国民ハ進歩スルモ、国ハ進歩スルコト能ハザルナリ、（例ハ近年王政維新

ノ時モシ旧時ノ公家政治力武家政治ヲ再興スルカ、封建ヲ持續スル等ノコトアラバ、国民ノ知識ハ開發スルモ、国勢ニ妨ケラレテ、今日ノ開明ニ達スルコトハ能ハサリシナルベシ、又民モ国モ共ニ改進黨ヲ熱望スルノ時ニ方リ、或ハ大障碍来リテ之ヲ妨ケ、是ガ為メニ天然ノ進歩ヲ躊躇彷徨セシムルコトアリ、(例ヘハ朝鮮國ノ如キ、若シ幸ニシテ、君民共ニ文明ヲ望ムコトアルモ、支那ノ勢力ニ支ヘラレテ、容易ニ其志ヲ達スルコト能ハザルガ如シ)、是ニ由テ視レハ文明ノ進歩ニ三様アリ、一ハ民心ト国勢ト同一ニ進歩スル者、二ハ国勢ト民心ト其進歩ヲ異ニスル者、三ハ、他ノ妨害ニ由リテ其進歩ヲ遅クスル者はナリ、

○凡ソ文明ニ進ムベキ原因ハ、獨リ一二ノ国ニノミ之アル者ニ非ズシテ人類ノ在ル所ニハ皆文明ノ原因アリ、文明ハ又一時代ヲ以テ其歩ヲ停ムル者ニ非ズ、永久ニシテ其進歩ノ限リヲ知ルコト能ハザル者ナリ、文明ノ原理ハ、或ル人種ノミ之ヲ利用スベキ者ニ非ズ、文明ノ原理ヲ利用スルハ、人類ノ生レ付キノ權理ニシテ、又天與ノ幸福ナリ、文明ハ後來必ス人類ノ栖息スルノ限リハ弘マリテ、遂ニハ世界ノ各国、皆合シテ一箇ノ大社会ヲ為シ、相親シミ相安シシテ、交際ヲ為スニ至ルベキコトハ、今日ヨリ之ヲ推知シ得ベキコトナリ、

### 三 文明ニ種類アリ

○文明ハ漸々ニ全世界ニ弘マルトイフコトハ吾等ガ信ジテ疑ハザル所ナレドモ、国ニ依リテ其文明ノ度ヲ異ニシ、全世界同時ニ同等ノ文明ニ達

スルコト能ハストイフコトハ亦吾儕ノ信ズル所ナリ、然ル所以ノ者ハ、国々ノ国民ノ性質、及ヒ其國ノ状態、并ヒニ其國ヲ困遶スル諸種ノ景象何レモ同ジカラザルヲ以テナリ、又人種ノ差異ハ是ヨリ大ナル者ニシテ、其文明ニ適スルノ度甚ニ様ナラズ、其適スル者ハ(白人ノ如キ)容易ニ文明ニ進ムベクシテ、適セザル者ハ(黒人ノ如キ)容易ニ文明ニ進ムコト能ハズ、又文明中ノ或ル簡条ノミ之ニ適合スルノ人種アリ(印度ノ民ノ想像ニ長シ、埃及ノ民ノ建築ニ長セルガ如シ)以上論スル所ノ如キハ、古来ヨリノ歴史ヲ把リ、時代ノ變遷ニ由リテ現ハル、所ノ變化ヲ見テ之ヲ知ルベシ、

○或人ノ説ニ曰ク、世界中ニハ文明ニ赴クコト能ハザルノ人種アリト、此説斐学<sup>フレイソ</sup>ノ理ニ合ハザルノ説ニシテ、人類ノ天性ニ通ゼザルノ論ナリ、現今ノ英国法国ノ如キ、古代ノ希臘羅馬ノ如キモ、或ハ時代ニ於テハ一向ナル野蛮ノ民ニシテ、現今ノ阿弗利加及ヒ印度諸島ノ蛮民ノ如キ有様ナリシナリ、然レトモ此四國ノ古代ト今代トニ於テ文明ノ途ニ進ミシコト此ノ如ク甚盛シナリシハ衆人ノ知ル所ナリ、然レハ阿弗利加印度諸島ノ民ノ如キモ、現今欧州ニテ行ハル、文明ハ之ニ適セザルモ、文明中ノ或ル簡条ハ之ヲ行フハ必ス難キコトニ非ザルヲ知ルナリ、凡ソ文明ノコトハ教育ノコトト相似タル所アリ、今衆多ノ生徒ヲ集メテ教育ヲ施サンニ、其年齢モ異ナリ、才智モ同ジカラズ、又以前ニ教育ヲ受タル者モアリ、此ノ如キ生徒ニ、同一ノ学科ヲ教ヘ、學藝上ニ同一ノ進歩ヲ望

ムハ固ヨリ能ハザル所ナレドモ、全ク教育ヲ施スコト能ハザルトイフ生徒ハ一人モアルコトナシ、是ト同様ニテ、諸種諸國ノ民共ニ同一ノ文明ニ進ムコトハ能ハザル所アレドモ、全ク文明ニ進ムコト能ハズト國ハ一モアルコトナシ、即チ黑人モ白人モ、阿非利加モ歐羅巴モ共ニ文明ニ入ルコトヲ得ベキナリ、然レバ甲ノ國ニテ十分ニ行ヒ得ル所ノ文明ノ個條ハ、乙ノ國ニ於テハ、或ハ之ヲ行フコト能ハズ、乙ノ國ノ文明ノ箇條ハ、甲ノ國ノ個條ト全ク異ナルコトアリ、此二者ノ箇條ヲ比較シテ見ルトキハ、文明ノ位格ニ付キテ、大ニ其價値ヲ異ニスル者アリ、然レドモ其劣者トイヘドモ終ニハ必ス其優者ニ達スルコトヲ得ベキハ其理甚タ明白ナルコトナリ、

### 三 人ヲ視ルニ三様アリ、

○文明ノ性質形体ヲ論セントスルニハ、先ツ人類ノ幹能ト其適合スル所トヲ考究ゼザルベカラズ、是ヲ為サントスルニハ、先ツ人ノ位地身分ヲ以テ左ノ三種ニ分ツテ之ヲ見ルヲ宜シトスベシ、

其一 人ヲ以テ一個人トシテ之ヲ見ル者

其二 人ヲ聚合シタル体ヨリ之ヲ看ル、即チ一社會ノ上ヨリ之ヲ

見ル者

其三 人ヲ以テ國ノタイプト為シテ之ヲ見ル者

○〔其二〕 文明ニ依リテ一個人ノ上ニ得タル所ノ利益イカント云フコトハ此処ニテハ之ヲ論ゼズ、唯一個人ノ上ニ就テ見タル所ニテ、凡ソ人

タル者ハ何事モ皆文明ニ進ムコトヲ得ルトイフハ、明白ナルコトナリ、人ハ本ヨリ寒暑風雨ヲ防グ為メニ家屋ヲ造リ、衣服ヲ製スルノ能アリ、夫ノミナラズ、其身体ノ構造ハ是非トモニ文明ノカヲ要スル者ニシテ、又其身体ノ保護ヲ満足ニセントスルニハ、必ス許多ノ工藝ヲ要スルニ至ル者ナリ、禽獸ノ如キハ、天然ニ毛羽蹄角ノ如キ利器アレドモ、人類ハ全ク裸体ニシテ、是等ノ利器ナシ、其裸体タルニ由リテ、其身体ヲ保護セン為メニ、自然ニ奮勵ノ心ヲ衝動シ、以テ工藝上ノ發明ヲ得ルニ至ルナリ、禽獸ノ其自然ノ利器ニ依頼シテ自ラ奮勉セザル者ト大ニ同シカラズ、然ラバ人身ノ裸体タルハ亦文明ニ赴クコトヲ得ルノ天然ノ助ナリ、(アリストテレス) 亞立士度德ガ其ホリチツクノ書ニ曰ク、文明ノ保護ヲ得タル上ヨリ視ルトキハ、人類ハ動物中ノ最上ノ者ナレドモ、若シ此世界ニ生レタル俚ノ姿ヨリ視レバ、動物中ノ最下等ノ者ナリトイヘリ、文明トナルトキハ、人心ノ働モ力モ共ニ強盛トナリ、野蠻ノ時ノ状態ヲ回顧スレバ、人心ノ働甚タ鈍クシテ、蹙者ト健足者程ノ相違アリ、故ニ文明トイフ者ハ、人類ノ最高ノ状態タルハ勿論ノコトナレドモ、又人類天然ノ状態ニシテ、敢テ作為シテ之ヲ為シタル者ニ非ザルナリ、即チ人類ガ天賜ノ才能ト幸福トノ十分ニ成就シタル所ヲ言フ者ナリ、野蠻ノ状態トイフモ、人類天然ノ状態ナレドモ、野蠻ノトキハ、只其動物性ノ才智情欲、即チ下等ノ衝動力ノミ開發シテ（此才智ハ皆抑制ヲ行ハザルベカラザル者）吾身ハ其為ニノミ動作スル者ナレバ、到底文明ノ時ノ心智ノ發達トハ、日ヲ同

フシテ語ルヘキ者ニ非ザルナリ、

〔其二〕 人類聚合シテ一社會、即チ一國民トナリタル上ヨリ視察ヲ下  
スニ二様ノ方法アリ、其一方ヨリ見ルトキハ、人民聚合シテ一社会ヲ為  
スト雖トモ、文明ノ度ノ進ムトキハ、一个と毎ニ其天賦ノ知識才能ヲ  
開發スルヲ見ル、又他ノ一方ヨリ見ルトキハ、其初メハ一个ノ知力性識  
能力ヲ聚メテ成ル者ナレドモ、已ニ聚合シテ一社會トナリタルトキハ、  
其社会上ニ於テ開發セル文明アリテ、其社会上ニ開發セザル所ハ、睡眠  
シテ未タ世ニ發セザルナリ、故ニ同一人ニテモ、社会上ニ立ツトキハ、  
一个人ノ資格ニテコトヲ為ストキトハ、其行為全ク同シカラザル者アリ、  
例ヘバ、今社會ノ文明ノ公論ハ、道路ヲ開通スルニ在リト云フ点ニ在リ、  
然レトモ一个と一人ノ意見ヲ問フトキハ、或ハ道路開通ノ外ニ猶他ノ  
意見ヲ抱持スル者モ多カルベシ、然レトモ社會ノ文明正ニ道路開通ノ点  
ニ在ルヲ以テ、何人ニテモ、社會ニ出テ、コトヲ為ストキハ、道路開通  
ノコトヲ為サズルコト能ハズ、此人一个人ノ資格ニテ其郷土ニ在リテコ  
トヲ為ストキハ、或ハ学校ヲ開クトカ、或ハ農産ヲ殖ストカイフコトヲ  
為ス者モアルベシ、

○二個人ハ此社會ノ一分子ナリ、此一分子ナル一個人ノ合シテ社會ヲ成  
ス所以ハ、畢竟単独ニテハ、事欠クルニ由リテ、自然ニ聚合シタル者ナ  
リ、若シ人々皆自己ノ需用ダケヲ満足スルノ幹能アラバ、敢テ他人ノ助  
ヲ望ムコトハアラザルベシ、然ルニ人ハ一身ヲ以テ自己ノ需用ダケヲ満

足スルノ幹能ナキ者ナルヲ以テ、已ムコトヲ得ズ聚合シテ社會ヲ成スニ  
至ル者ナリ、故ニ最初ハ一村一郷相合シテ、社會ヲ成シ、次ニ全国合シ  
テ一社會ヲ成シ、夫ヨリ二三ノ邦國ト相結ンテ連合ヲ成シ、遂ニ世界万  
國何レモ或ル連合ノ度ヲ以テ、巨大ナル社會ヲ造成スルニ至ルナリ、凡  
ソ文明ノ度ノ進ムニ從ヒ、社會ノ結合ハ漸ク廣大トナリ、其廣大トナルニ  
從ヒ、其連合ノ方法モ漸ク完全トナルナリ、故ニ社會ヲ組立ツルコトハ、  
文明ニ進ムノ精神ナリ、社會ヲ組成セザレバ文明ヲ進ムルコト能ハザル  
ナリ、然ルニ社會ノ組立ニモ大小精粗其等級甚多シ、其人民ノ知識甚タ  
乏キ者ハ、其社會ノ範圍太タ狹小ナリ、禽獸ハ（本ヨリ人類ト其智ヲ比  
スベキ者ニ非ズトイヘトモ）其生レ付ノ俛ニテ、少シモ文明ニ進ムコト  
能ハザル者ナルヲ以テ、其社會ヲ為スコト甚タ小ナルハ、人ノ知ル所ナ  
リ、

〔其三〕 人ヲ以テ國ノタイプト為シテ見ルトハ、凡ソ國ハ一個人ヲ聚  
合シテ、一社會トナリタル者ニシテ、其一社會又ハ其一個人ヲ保護スル  
為メニ、法律ヲ立テ之ヲ管理スル者ナリ、是即チ一个ノ國ニシテ、其國  
中ニ在ル所ノ人ハ皆此國ヲ造成スル所ノタイプナリ、偕此一國ト、國中  
ノ一個人トヲ比シテ之ヲ見ルニ、甚タ相似タル所アリ、先第一ニ一國モ  
一個人モ皆共ニ幼年少年壯年老年ノ時代アリ、先ツ其幼年ノ時ハ、國モ  
人モ共ニ其力量甚タ弱シ、段々生長スルニ從ヒ、其力量モ増シ、從ツテ  
智慧モ増シ、其所有物モ増加スルナリ、其幼年ヨリ壯年ニ至ルノ間ハ、

国モ人モ段々ノ階級ヲ踏ミ、段々變化ヲ經ル者ニシテ、又其間ニ種々ノ困難ニモ出逢ヒ、又種々ノ便益ヲ得ルコトモアリテ、決シテ一挙ニ幼年ヨリ壯年ニ達スルコトヲ得ル者ニ非ズ、彼希臘ノ有名ナル辨士デモステネスガ第二ノオリンチアツクニ於テ演説シタル語中ニ吾等ノ身体ト一国ノ身体ト甚相似タル所アリ、吾身体ノ健全ナルトキハ、体中ニ不調和ノ所アルモ、容易ニ發生スルコトナシ、若シ疾病ニ罹ルトキハ、變急疼痛其他ノ不快並ヒ起ル者ナリ、一国ノ如キモ亦之ニ同ジト言ヘリ、又人類ガ段々生長スルノ間ニ、種々ノ疼痛ニ罹ルト同ジク、国モ亦其生長スルノ間ニハ、種々ノ疾病ニ罹ル者ナリ、然レトモ国ノ少壯ナル間ハ其疾病ニ罹ルコト少ナク、恰モ少年ノ人ハ老年ノ人ヨリ疾病ニ罹ルコト少キガ如シ、又国モ人モ其少年ノ時ハ、其所有物モ事業モ甚々簡單ナルヲ以テ簡單ノ法則ヲ以テ之ヲ支配スルコトヲ得ベシト雖トモ、其漸々ニ生長スルニ及ンデ、其所有物モ事業モ段々錯雜セルヲ以テ、最初ノ如キ簡單ノ法則ヲ以テ之ヲ支配スベカラズ、又国ノ幼年ナル間ハ、常ニ隣近ノ諸國小戦争ヲ為スコトハ、恰モ幼児ガ常ニ其朋友ト喧争スルガ如シ、喧争スルコトハ甚多シトイヘトモ、其和睦ヲ為スコトモ甚速カナリ、夫ヨリ後ハ人モ国モ次第ニ生長シテ幸福ヲ高メ、カモ十分ニ増盛シ、諸事不足ナク完備スルニ至ルナリ、其完備ニ至リタルトキハ、即チ其衰退ヲ初ムルノ時ニシテ、是ヨリ次第ニ衰弱ニ向ヒテ、終リニ至リテ遂ニ死亡スルナリ、又国ト人トハ共ニ其自然ノ生長衰老アルノ外ニ、命運ニ関スル所

ノ不時ノ災害ニ逢フコトアリ、此災害ハ遂ニ其一身一国ノ滅亡ノ原因トナルコトアリ（徳川政府ノ時代ニ亜米利加ノ使者ノ来リシ類）又一国ト一身ノ生命ノ間ニハ、毎ニ健全ト疾病、幸福ト不幸、冬ト夏トノ交代アルノミナラズ、又晝夜ノ交代ノ如キコトモ免カルベカラザル者ナリ、○或ル一個人ガ其品性才智、自ラ他ノ一個人ト同シカラザルガ如ク、或ル一国ノ民モ其品性才智、自ラ他ノ国ト同ジカラザル所アリ、其一国ノ民ノ品性ノ、他ノ国ニ異ナル所以ハ、畢竟ハ其國中ノ一個人ノ品性ノ他国ノ民ニ異ナルヨリ来レル者ナリ、故ニ其国ニ在リテ法律ヲ作ルノ人ハ、此国民ノ品性ヲ知り、之ニ從ヒテ法律ヲ作ルハ極メテ必要ノコトナルベシ、又一国ノ事業モ、一個人ノ事業モ同様ナル所アリ、即チ其目的ヲ立タル方ニ向ヒテ其働ヲ進ムル者ナリ、又其勢力ト利益トノ望ミノ如キモ国ト人ト同様ニシテ、何レモ他人ヨリハ勢力モ利益モ多ク得ンコトヲ欲シ、其極処ヲ言ヘバ、全世界中ニ於テ最高ノ勢力ト利益トヲ得ンコトヲ望ムニ在リ、今古今ノ哲学士ノ所為ニ倣ヒテ、国ト人トノ比喩ヲ立テ見ルニ、人ノ腦ハ国ノ首都ニ同ジク、人ノ神經ハ国ノ知識ノ器械交通ノ方法ニ同ジク、四支及ヒ天然ノ防禦ノ器ハ海陸軍ニ同ジク、消化器呼吸器等ノ内蔵ハ工作通商ノ事業ニ同ジ、筋維脉絡ハ道路河渠ニ同ジク五官ハ国ノ港口ニ同ジ、

## 第五 争競

○凡ソ一国ニテモ一身ニテモ、其中ニ常ニ必ス勢力ト利益トノ争アリ、

一國中ノ人民ヲ通觀スルニ、大約三等ノ別アリ、身分宜シキカ智徳勝レタル人ハ上等ニシテ、之ニ反シタル者ハ下等ナリ、上等ト下等トノ中間ニ在ル者ハ中等ノ民ナリ、此三等ノ民常ニ國中ニ在リテ各其勢力ト利益トヲ得ンガ為メニ相争フ者ナリ、(此事西洋諸國ニハ毎ニ有ルコトナレトモ、東方諸國ニハ之ヲ見ルコト罕ナリ)、然ルニ上等ノ民上位ニ居リ、其威權ヲ以テ下民ヲ支配シ、中等ノ民ハ其中間ニ居テ上下ノ間ヲ調和スルトキハ、其國必ス治平ナリ、若シ之ニ反シテ身分賤シキ者智徳ナキ者上位ニ居リテ上等ノ民ヲ支配シ、中等ノ民ハ唯其威權ノ強キ者ニ附着シ自己ノ分ヲ尽サバルトキハ、其國大乱トナルベシ、人ノ一身ニ付テモ亦同様ノコトアリ、人ノ明智(道理性)、物欲(動物性)ハ共ニ争ヒテ獨リ其勢力ヲ得ント欲スル者ナリ、人ノ心ノ活動スルトキニ當リ、輒モスレバ動物性ノ欲ニ誘惑セラル、トイヘトモ、然レトモ道理ノ性ト云フ者道徳ノ援助ヲ假リテ管理ノ威權ヲ有シ、以テ情欲物欲ヲ制シテ縱逸ナラザラシムルトキハ、其身修マリテ其智モ明カナリ、若シ之ニ反シテ情欲物欲等吾身ヲ管理スルトキハ、道理性ハ其位ヲ失ヒ、動物性ノ力ヨク吾心ノ明智ヲ奪ヒ、道徳及ヒ良心トイフ者ハ隠レテ発見セザルナリ、故ニ國ニ於テモ人ニ於テモ、上等ノ位格ヲ有スル者、常ニ他ヲ支配スルノ威權ヲ有シ、即チ學問ヲ為シタル智ト、純粹ナル道徳ノ性トハ、必ス他ヲ命令スルノ權ヲ把ラザルベカラズ、而シテ鄙劣ナル習慣又ハ無學ノ智ハ、決して其醜惡ナル威權ヲ振ハシムベカラズ、然レトモ動物性ノ情欲トイフ

者モヨク之ヲ制馭シテ適宜ニ發動セシムルトキハ、亦吾身ニ利益アル者ナリ、心トイフ者モシ吾有形ノ身体ヲ忘レテ其働ヲ為ストキハ、反ツテ吾身ノ害トナリ、或ハ其全身ヲ損シ、又ハ身体ノ一分ヲ損スルコトアリ、故ニ動物性モヨク道理性ノ管理ノ内ニ納レテ其働ヲ為サシムルトキハ、相応ノ利益ヲ得ルコト明ナリ、凡ソ知識ノ勝レタル者ハ、知識ノ劣リタル者ニ先タチテ之ヲ導クハ自然ノ勢ナリ、(孟子ノ所謂先覺ヲシテ後覺ヲ覺サシムルト同義) 譬バ人類ガ禽獸ヲ支配スルト恰モ相同ジ、然レトモ智者カ愚者ニ及ボス所ハ唯其感化ノミニシテ、愚者ハ依然トシテ智者ノ下ニ立チ、是ニ由リ、愚者ト智者ト全ク其地位ヲ易ルト云フニハ非ザルナリ、吾儕今猫犬ノ類ヲ飼馴ス、然レトモ其猫犬ハ依然タル猫犬ニシテ、其習慣性質トモ旧ニ依リテ異ナルコトナキナリ、國民ヲ文明ニ導クハ恰モ猫犬ヲ飼馴スルト相同シ、然レトモ飼馴スルトキハ、猫犬ノ天然ノ力ヲ軟弱ニスレドモ、文明ノ如キハ、之ニ異ニシテ、反ツテ國民ノ力ヲ強盛ニナス者ナリ、一國ノ上ヨリ見ルトキハ、知識ノ勝レタル者ハ、自然ニ愚者ノ上ニ立チテ其威權ヲ愚者ノ上ニ及ボス者ナリ、然レトモ國中多數ノ愚者ハ、上ニ在ル智者ノ所為ニ倣フノミニシテ、全ク其性質智力ヲ變化シタル者ニ非ズ、又悉ク愚者ノ事業ヲ閉塞セシメタルニ非ズシテ、唯其方向ヲ替ヘシメタル者ナリ、今人ノ一身上ニ就テ見ルニ、其中最高ナル性能(道理性トカ道徳性トカ云フガ如キ)トイヘトモ、決して最下ナル動物性ノ妨碍ヲ受ケズシテ、其働ヲ逞フスルコト能ハズ、夫ト同

様ニ、一国ノ上ニテモ、智者トイヘトモ、決シテ愚者ノ抵抗ナシニ、善ク其国政ヲ施行スルコト能ハザルナリ、亜立士度徳ノ金言ニ、凡ソ良善ナル国ト云フハ、中等人種ノ最モ多數ナル国ニ如ク者ナシト、又曰ク、凡ソ国民ノ比例ニ於テ、中等人種ノ最モ勢力アル国ハ幸福多キノ国ナリ、其故ハ中等人種ハヨク貴族ノ傲慢ト壓制トヲ抑へ、又下等ノ人ノ貪欲ト躁暴トヲ制スルノ力ヲ有スル者ナレバナリト、(吾邦ノ士族ヲ以テ其例ト為スベシ)故ニ一人ニシテ、若シ縝密ニ己ガ一身ヲ善クセントスル者ハ、獨リ最高ノ道理性ニノミ其身ヲ委託スベカラズ、必ス第二等ノ天性ト道徳ノ力トノ援助ヲ假ラザルベカラズ(苦学シテ身体ヲ顧ミズ、戒律ヲ守リテ身体ヲ苦ムルガ如キ類ハ最高ノ道理性ニノミ其身ヲ委託シタル者ナリ)又人タル者ハ其頭部又ハ生活ニ要用ナル生器ニ病ヲ受クルトキハ、其身体ハ必ス健康ナルコト能ハズ、国モ亦其如ク、其上位ニ在ルノ人、其心術腐壞シ、又ハ軟弱、又ハ動乱スルトキハ、其国ハ決シテ太平ナルコト能ハズ、万民トイフ者ハ、悪事ヲ見習フコトハ至テ易ク、其上ニ立ツ人ニ惡徳アルトキハ、之ヲ真似スルコト甚タ速ナリ、總テ下民ハ在上ノ人ノ行為ニ注目擬似シテ、以テ己ノ固有ノ性ヲ多少變換スルノ癖ヲ有スル者ナリ、

トキハ、其差異反テ多シト、

○一国及ヒ一個人ハ共ニ自己ノ財産ト自己ノ土地トヲ有セリ、又甲ノ国或ハ甲ノ人ハ、乙ノ国又ハ乙ノ人ニ從属スルコトアリ、又国モ人モ他ト共ニ互ニ和好ヲ結ブコトアリ、戦争ヲ為スコトアリ、是等ノ場合ニ於テ、其尤モ注目スベキコトハ、形体上ノ力ヨリハ文明進歩ノ度如何トイフニ在リ、又二者ノ差異ハ智慧ノ教育道徳ノ教育ノ優劣如何ニ在リト云フコトヲ知ラザルベカラズ、

第六 道徳ノ感化

○人類ノ天性ヲ考究シタル由リシテ、政事学ト文明トノ二者ニ於テ、必要ノ條件ヲ了解シ得タリ、又此二者ノ學問ハ、(人学ト政学)其中ニ密ニ相結合スル者ナルコトト、又必ス結合セザルベカラザルコトトヲ了解シ得タリ、故ニ一國モ一人モ同様ナル方法ノ支配ヲ受クベキコトニシテ、又同様ナル主義ニ從ハザルベカラザルコトヲ知レリ、(此事ハ已ニ十分ニ之ヲ解説セリ)、

○凡ソ今日ノ文明ニテハ、国モ民モ共ニ法律ノ支配ヲ受ケザルベカラザルコトトナリ居レドモ、最初ヨリ此ノ如キ者ニハ非ズ、最初ノ野蠻ノ時ハ本ヨリ言フベキ程ノコトモナシ、夫ヨリ後ハ道徳ノ感化ヲ受クルコト尤モ多クシテ法律ハ未タ全ク其形ヲ成サズ、道徳ノ支配ヲ受ケシ時モ亦其時ダケノ文明ニシテ、道徳ノ支配ノ内ニ、已ニ切要ト廣大ト位格トノ最高位ヲ包含セリ、切要トハ君臣父子ノ倫理ヲ定ムルノ類、廣大トハ其

徳ヲ擴メテ天ノ覆フ所、地ノ載スル所ニ及ボサントスルノ類、位格トハ人品ヲ高クシテ禽獸ト異ナラシメントスルノ類ナリ、此道德ノ感化ニ由リテ、国モ人モ唯之ニ感スルノミナラズ、大ニ状態ヲ變化シ、国ハ徳政ヲ行ヒ、人ハ徳行ヲ行フニ至ルナリ、又此道德ノ感化ニ由リテ動カサル、ノミナラズ、更ニ其徳ヲ進ムルコトヲ得ルニ至ルナリ、然レトモ道德ヲ以テ支配スルハ文明ノ一時期ニシテ、其時ハ法律ノ時期ノ前ニ在リテ、法律ノ根元ヲ為ス者ナリ、(支那ノ堯舜三代、埃及ノ黄金時代、エジプト 瑣羅門フロモンノ聖智時代ノ如キ是ナリ)、

## 第七 文明ノ起原

○一人又ハ一国ノ文明ノ根元ハ何物ナルカトイフコトノ穿索ニ付テハ、古来ヨリ学士ノ説區々ニシテ一定セズ、大教長准多利ハ謂ヘラク、人類ノ文明ニ進ムハ、上帝ガ地上ノ最初ノ住民ニ知告スル所ナリ、若シ上帝ノ告示ナキトキハ、人類ノ開化スルトイフコトハ決シテ無キコトナルベシトテ、固ク其説ヲ主持セリ、然レドモ准多利ノ説ハ未タ確論トスルコト能ハズ、其故ハ上帝ガ古代ノ民ニ教ヘタル文明ノコトハ、文明中ノ小部分ニシテ、其訓語ヲ精察シタル上ナラデハ、其果シテ文明ヲ教フルコトナルヤ否ヤヲ知ルコト能ハザル程ノコトナリ、故ニ若シ其言ニ依リテ、上帝ノ意ヲ推ストキハ、上帝ノ教フル所ノ文明ハ甚タ不十分ノ文明タルニ過ギザルトイフコトヲ了解スベシ、又一方ヨリ言フトキハ、後世ニ至リ、段々ニ達シタル文明ノ高度ハ、上帝ノ訓告ノ外ノコトニシテ、

全ク人類ノ智力ヲ以テ、追々ニ進ミ至リタル者ナリ、是ニ由テ視レバ、准多利ノ理論ハ、甚タ不適當ノ説ト称スベシ、凡ソ文明ノ根元ハ、他國ト交際スルニ在リ、早く他國ト交際スルノ國ハ早く文明ニ進ミ、遅ク他國ト交際スルノ國ハ遅ク文明ニ進ム者ナリ、又國民文明ニ進ムトキハ、其國ノ工藝必ス上進スルヲ常トスレトモ、或ハ特別ノコト情アリテ、全体ノ文明ハ甚タ上進シ居レドモ、其中ノ或ル工藝ハ却テ久シク進歩セザル者アリ、又工藝中ノ或ル物ハ至テ上進シ居レドモ、國ノ全体ハ未タ文明ニ進マザル者アリ、故ニ工藝ノ巧拙ノミヲ以テ國ノ文明ヲトスベカラザルナリ、英國ノ如キハ、全体ノ文明ハ甚タ上進シタレドモ、其中ノ或ル工藝職業ハ其進歩甚遅ク、今ニ至リ、未タ完全ノ地位ニ進マザルナリ、

## 第八 外国交際ノ感化

○或ル國ニ於テ、一二ノ工藝ノ特別ニ進歩スルモ、又國ノ文明ノ全体ニ進歩スルモ、共ニ他國ト交際スルヨリ生スルコトハ上ニ之ヲ言ヘリ、之ニ依リテ、或人ハ謂ヘラク、何レノ國ニ於テモ、文明又ハ工藝ノ進歩スルハ、皆此例ニ依ル者ナリト、又或人ハ謂ヘラク、國民自己ノ發明ニ於テ、文明又ハ工藝ノ進歩ヲ致スハ決シテ有ルコトナシト、因テ其例ヲ引キテ希臘ノ工藝ハ埃及ノ工藝ヲ学ヒタルニ由リテ進歩シタル者ナリ、凡ソ世界何レノ國ニ於テモ、工藝ノ進歩スルトイフハ、何レモ他國ノ民ノ工藝ヲ模範トシテ之ヲ学ブニ非ザル者ナシト、然レトモ古今ノ事實ニ據リテ考フルニ、一個人ニテモ一國民ニテモ、一二ノ工藝學術、又ハ文明

ト結合セル職業ハ、或ハ其国民自己ニ之ヲ発見スル者アリ、或ハ他国ノ民ノ所為ヲ学ブ者アリ、諸国ノ実状ヲ視ルニ、工藝ニテモ文明ニテモ、其半分ハ其根元ヲ自国ニ有シ、半分ハ他国ヨリ借ル者ヲ多シトス、自国ニテ發明スルト他国ヨリ借用スルノ比例ノ多寡ハ、大抵其国民ノ品性ニ由リテ異なる者ニシテ、發明ノ多クシテ借用ノ少キモアリ、借用ノ多クシテ發明ノ少キモアリ、一概ニ之ヲ論スルコトヲ得ザルナリ、

#### 第九 文明ノ刺衝物

○国民ノ文明ニ進ムニ付キテハ、最初ニ要用ナル者ハ、国民相互ノ交際ニ関スルコト多シトス、初メ人口ノ漸々増殖スルニ從ヒ、其都邑ノ段々接近スルコトト、人民相互ニ競争ノ為メニ刺衝ヲ受ケ、又相互ニ思想ヲ交換スルガ如キハ、殊ニ文明ノ為メニ要用ナル者ナリ、国民相互ノ交際漸々廣張シテ他国トノ交際ヲ為スニ至リ、初メテ真ノ文明進歩形相ヲ現ハスナリ、又其外ニ何レノ国民ニテモ、身体上ノ必須物ヲ備フルノ外ニ、心ノ要須物ニ注意スルコトヲ得ルノ餘暇アルコトハ亦文明ノ為メニ必要ノコトナリ、是等ノ方法ニ由リテ、人民或ハ國中、或ハ他国ト交際スルコトハ、文明ニ赴クコトノ二個ノ原質ニシテ、其コトハ猶後ニ於テ之ヲ説クベシ、

○或人曰ク、野蛮ノ民ハ文明ノ民ニ比スレバ獨リ其開化ノ後レタルノミニ非ズ、其智力モ養育ヲ受タル民ニ比スレバ至テ微弱ニシテ、到底其野蛮ノ状態ヲ脱スルコトヲ得ルノ力ナキ者ナリト、余ハ之ニ答ヘテ曰ハン

トス、人タル者モシ其智ヲ養育スルトキハ、其力増加シ、其力増加スルトキハ、自ラ文明ニ進ムコトヲ得ル者ナリ、然レトモ此場合ニ於テ文明ニ進ム為メノ欠乏ハ、力ニ非スシテ刺衝ナリ、野蛮ノ民モ亦活動スルノ能力アリ、然レトモ能力ナル者ハ迫リテ活動セシムル者ナキトキハ、自ラ活動セザルナリ、凡ソ人類ノ状態ヲ考フルニ、要望スベキダケノ物ハ其身体ニ具備セル者ナリ、然レトモ更ニ強キ要望ヲ為スニ非ザレバ其状態ハ依然トシテ旧時ノ位地ニ止マル者ナリ、

○凡ソ古来ヨリ經驗ニ抛ルニ、已ニ得タル幸福ヲ保持スルヨリハ、未タ得ザル幸福ヲ求ムルコトノ反ツテ易キヲ見ルナリ、国ノ初メテ起ルトキヲ見ルニ、何レモ百戦ノ患難ヲ經テ其業ヲ興スヲ見ル、然ルニ已ニ之ヲ得タル後、長ク之ヲ保守スルコトヲ得ズシテ、忽チ之ヲ失フ者多シ、其故ハ創業ノ時ハ、他ニ刺衝スル物甚多キヲ以テ、奮發激勵シテ以テ功業ヲ成スコトヲ得レトモ、已ニ之ヲ得タル後ハ、他ヨリ刺衝スル物ナキヲ以テ、其心怠慢シテ忽チ之ヲ失フナリ、

○一身ニテモ一國ニテモ、總テ不足欠乏ヲ感スルヨリシテ、遂ニ文明ニ進ムコトヲ得ルニ至ルナリ、其故ハ欠乏ノ感覺ハ、同時ニ吾心ヲ刺衝シテ之ヲ充足セシメントスルノ意ヲ提起シ、其刺衝ハ奮勵ヲ引起シ、奮勵ハ進歩ヲ引起シ、進歩ハ文明ヲ導ク者ナレバナリ、凡ソ不足ナキ所ノ人ハ活動ノ氣ニ乏シク、常ニ受動ノ有様ニ止マル者ナリ、然レトモモシ不足トイフ物ニ刺衝セラル、トキハ、之ニ由リテ奮力ヲ起シ、竟ニ文明ヲ

進ムルコトヲ得ルニ至ル者ナリ、一國ニ於テモ其状態ハ亦之ニ異ナルコトナシ、

○凡ソ社會成立ノ初ニ於テ、其社會ノ上ニ被ブル所ノ障害ハ、皆人類ノ為メノ刺衝トナリテ、文明ニ進ムノ助ケヲ為ス者ナリ、即チ此ノ如キ障害ニ逢フトキハ、之ヲ免カレントシテ奮カスルヨリシテ、遂ニ人智ノ進歩ヲ起シ、人智ノ進歩ヨリシテ文明ニ昇ルコトヲ得ルナリ、故ニ一國ノ災難ハ反テ其國ノ幸福ヲ進ムルノ基本トナリテ、一國ノ國難ハ永久ノ改革ノ原因トナル者ナリ、

#### 第十 文明ハ人ノ天然ノ状態

○文明ト云フ者ハ、人類ノ最初ノ状態ニ非ズシテ、或ハ人類ノ天然ノ状態ニ背ク者ナキニ非スト雖トモ、之ヲ野蛮ノ状態ニ比スレバ、其天然ノ状態ニ近キコトハ甚多シ、不開化ノ民ノ風俗習慣ハ、人類ノ天性ニ付テ考フルトキハ、其天然ニ反スルコト多ク、甚シキハ、大ニ天然ヲ害スルコトアリ（或ハ面ニ黥シ、或ハ不消化ノ物ヲ食フノ類）文明ノ社會ノ風俗習慣ハ、此ノ如キコトナシ、或ハ文明ノ状ニ由リテ人工ノ風俗ヲ造成スルコトアルモ、亦野蛮ノ時ノ如ク、人ノ天性ニ背クコトナシ、又文明ノ社會トテモ或ハ其時ノ勢ニテ、天然ニ逆フノ風俗習慣ヲ造成スルコトアルモ、早ク其不可ナルコトヲ察シ、務メテ天然ノ状態ニ復センコトヲ求ムル者ナリ、道理トイフ者ハ、文明ト野蛮トノ區別ヲ定ムル者ナリ、文明ノ社會ニテハ道理トイフ物大ニ勢力ヲ有スルコトナレドモ、野蛮ノ

社會ニテハ、道理ハ全ク隠レテ世ニ現ハレザルナリ、

#### 第十一 文明ノ形相

○文明ノ真ノ形相ハ如何ナル者カ、之ヲ考究スルハ極メテ肝要ノコトナリ、文明ハシビルライフ、即チ衣食住ノ完備シタルヲ言ハンカ、蓋シ然ラザルナリ、衣食住ハ文明ノ度ノ少シク進ミタル時代ニ於テ、已ニ或ル度ニマデ開ケタル者ナレバ、是ヲ以テ文明ノ形相ト為スコト能ハザルナリ、然ラハ進歩ヲ以テ文明ノ形相ト為スベキカ、進歩ハ文明ノ度ノ高キ國ニテモ之ヲ為ス者アリ、低キ度ノ國ニテモ、之ヲ為ス者アリ、故ニ進歩ヲ以テ、文明ノ形相ト為スコト能ハザルナリ、其ハ、文明ノ低度ヨリ高度ニ登ラントスルノ國ハ、其進歩ノ度速カニ、已ニ文明ニ至リタル國ハ其進歩ノ度遅キ者ナリ、然レトモ進歩ノ度ノ遅キハ高等ナル國民ノ欠点ナリ、又奢侈ヲ以テ文明ノ形相ナリトスルカ、是大ニ然ラズ、奢侈ハ文明ノ満足トハ其途ヲ異ニスル者ニシテ、文明ノ衰退ノ前兆ヲ為ス者ナリ、又巧術アイテイ  
フヒカルヲ以テ文明ノ形相トセンカ、是又然ラズ、文明ハ真実ニシテ規則正シク、又人類ノ天然ノ状態ヲ保ツ者ナレバ、人智ノ巧ヲ用フル者ハ、決シテ文明ニハ非ザルナリ、

○或ハ曰フ、文明ノ形相ハ、野蛮ノ時ノ習行ヲ廢絶スルニ在リ、戰爭ノ如キ、獵ノ如キ、人民移住ノ如キハ、皆野蛮ノ民ノ習行ナリト、然レトモ是等ノ習慣ヲ廢絶シタリトモ、之ヲ以テ文明ヲ造成スルコト能ハズ、又此ノ如キ習慣ハ實ニ文明ト両立シ難キ者ナリト定ムルコト能ハズ、唯

文明ニ進ムトキハ、是等ノ習慣ニ變化ヲ生シ、従前ハ野蠻ノ風ナリシ者モ、漸々精巧高崇ノ地位ニ達スルコトヲ得ルナリ、

○戦争ハ文明ノ欠乏ノ試験物ニ非ズシテ、国民ノ活動及ヒ真実ノ力ノ良善ナル試験物ナリ、凡ソ戦争ヲ起ストキハ、其敵国ニ對シテ我有ラン限リノ力ヲ出シ、以テ其成功ヲ得ンコトヲ求ムルナリ、故ニ其形体ノ力モ固ヨリ必要ナルガ上ニ、其学術上ノ鍊摩モ亦必要ノコトナルナリ、古代ノ著名ノ大国希臘羅馬ノ如キハ、獨リ其文学智巧ヲ以テ世ニ称セラレシノミナラズ、兼テ其武功ニ由リテ、世間ニ尊重ヲ得タル者ナリ、

○問、然ラバ文明トイフ物ノ形相ハ如何ナル者ゾ、答、文明ハ一個人ニ付テ言フトキハ、教育ニ由リテ、智慧ノ力、道德ノ力ヲ開發奮興シタルヨリ来ル所ノ結果ニシテ、外ニ向ヒテハ、其心ノ働、身体ノ働トモ十分ニ完成シ、内ニ向ヒテハ、動物性ヲ適宜ニ抑制スルコトヲ得ル者ナリ、一國ニ付テ言フトキハ、文明ハ同ジク教育ノ力ニ基スル者ニシテ奮發興起ノ力ニ由リテ、其国民ノ智慧ト道德トノ力ヲ進メテ、他國ヨリ殊ニ超勝ナラシメ、又其政体法律風俗習慣ヲシテ、同ジク他國ノ上ニ出デシメ、其国民ハ高崇ナル治國ノ主義ニ適當シ（例ヘバ愛國心ノ深キトカ、殖産興業ノコトニ勉強スルトカノ類）、其下等ノ種類トイヘトモ猶罪惡、無知、腐敗等ノ穢惡ナル感化ヲ脱スルコトヲ得ル者はナリ、

○故ニ文明ヲ造成スル所ノ第一ノ成分ハ、一個人ニ於テモ、一國ニ於テモ共ニ知識ヲ得ルニ在ルコトナリ、所謂知識ハ普通ノ教育、又ハ専門ノ

職業ノ教育、及ヒ諸学諸術ノ如キ皆是ナリ、此ノ如キ知識ナキトキハ、文明トイフ者ハ決シテ成立セザルナリ、然レトモ知識トイフ物一個ノミニテ文明ヲ造成スルコト能ハズ、知識ハ文明ニ進ム所ノ第一歩ナリ、其次ノ文明ノ成分ハ、已ニ知識ヲ得タル後ニ、道德ノ状態ト、交際ノ状態トヲ共ニ清淨ニ（汚穢ヲ去リテ）以テ其度ヲ高クスルコト是ナリ、是ニ依リ、一個人、又ハ一國民ノ心温和トナリ、（西人ハ野蠻ヲ以テ甚タ残酷ナル者ト定ム）高崇トナリ、而シテ其一國ノ交際ハ、相互ニ援助交親スル為メニ合シテ一体トナルナリ、若シ之ニ反シテ人々ノ交際互ニ分裂破壊スルトキハ、決シテ文明ヲ致スコト能ハザルナリ、凡ソ世間ノ人事ハ甚多クシテ一ト指数スベカラザル者ナレドモ、其知識ト道德ト親厚ノ交際トヨリ出タル事ハ、何レモ文明ヲ完全ニスルノ補助トナラザル者ナシ、此ノ如クニシテ文明ノ最後ノ結果ハ、一身ニテ言フトキハ、其最高ノ天賦、其位格ヲ占メ、最下ノ性ハ之ニ服従スルニ在リ、一國ニテ言フトキハ、上等ノ地位ニ立ツ者ハ、其知識德行共ニ最上等ノ地位ヲ占メ、下等ノ身分ノ者ハ、尽ク之ニ服従スルニ在リ、所謂君子之徳風、小人之徳草ト言フガ如キ是ナリ、

○文明ヲ以テ猶十分ナル有様ニセントスルニハ、凡ソ一國ノ風俗習慣并ビニ其國民ノ好尚スル所ノ趣味ノ如キモ、亦汚穢ヲ去リテ清淨ト為シ、卑陋ヲ脱シテ高尚ニ達セシメザルベカラズ、此事ハ猶後篇ニ於テ之ヲ詳論スベシ、

○又文明トイフ者ハ、実ニ全世界何レノ国ニモ擴張スル者ニシテ、決シテ或ル地方、或ル国民ニ限ル者ニ非ズ、諸国ノ状ヲ觀ルニ、其国民ノ大部ハ、無学ニシテ蠢愚ナルニ、其中ニ文明開化セル民数人アルコトハ常見ル所ナリ、或ル国民或ル時代ヲ以テ、他ノ国民他ノ時代ト比較シテ見ルニ、彼レヨリ此レノ方、大ニ文明ニ進ミタル者アリ、凡ソ文明ノ度ヲ比較スルハ、国民全体ノ度ニ於テ之ヲ觀タル者ニシテ、其中ニ特別(劣等)ノ者アルハ、敢テ之ヲ論ゼザルナリ、又国民中ニ智識ノ勝レタル者アルモ、全国ノ民智、平均度ノ下ニ在ルトキハ猶文明ノ下等ヲ以テ之ヲ論ゼザルコトヲ得ザルナリ、又大光明ハ多ク昏暗ノ世ニ發スル者ニシテ、古来ヨリ教ヲ説テ世ヲ濟フノ聖賢、毎ニ必ス争戦又ハ昏濁ノ世ニ生スル者ナリ、(孔子ノ如キ耶蘇ノ如キ皆然リ)、然レトモ文明ノ弘衍シタルト言フハ、此ノ如キ卓越ノ人ノ少數アルヲ指スニ非ズシテ、全体ノ民智ノ度ノ少シニテモ高上シタルヲ指ス者ト知ルベシ、凡ソ文明ノ開弘ハ、アラユル世界ノ各国ニ及フベキノミナラズ、其国民ノ開化ノ度ハ、大ニ異ナレドモ、竟ニ必ス平等ノ度ニ至ルベキコトハ、亦疑ナキ所ナリ、

## 第十二 文明ノ須要

○凡ソ文明ヲ得ルニハ、之ヲ組立ル所ノ元質アリ、爰ニ言フ所ノ物ハ、其元質ニハ非ザレドモ、文明ヲ得ルニハ又須要ノコトナリ、乃チ人民ノ一所ニ集マリテ都府ヲ為スコト是ナリ、是ニ由リ人々ノ心互ニ相觸合ヒテ、夫ヨリ競争ノ念ヲ生シ、随ツテ種々開化ニ需用ノコト起ルナリ、之

ヲ物ニ譬フルニ、従前ハ踈鬆流動ニアリシ物ヲ、一所ニ聚メテ之ヲ壓搾スルトキハ、其物堅実トナリテ又固有ノ力ヲ生スル者ナリ、人民知識ノ發達ノ状モ亦之ニ似タルコトアリ、

○凡ソ文明ニ進マントスルニハ、道德ヲ完全ニシ、罪惡ヲ消滅スベキハ勿論ノコトナレドモ、是ノミヲ以テ高等ノ文明ニ進ムコト能ハズ、之ヲ實際ニ徴スルニ、文明ハ罪惡ト兩立スル者ニシテ、罪惡ノ行ハル、間ニ於テ、文明ハヤハリ相応ニ進歩スル者ナリ、然レトモ罪惡ハ永ク文明ト兩立スベシト云フニハ非ズ、完全ナル文明ヲ得ントスルニハ、其中ニ罪惡ノ分子ヲ留存スベカラズ、文明ノ正シキ方向ハ、罪惡全ク消滅スルニ在リテ、否ラザルモ、亦罪惡ヲ生スルノ途ヲ減少セントスルニ在ルナリ、

## 第十三 文明ノ元質

○文明ノ形相ヲ以テ有形無形ノ二者ニ分ツ者アリ、又有形ヲ以テ文明ノ形相トシ、無形ヲ以テ文明ノ方法トスル者アリ、然レトモ此區分ハ適當ノ法ニ非ズ、新旧約書ニテハ之ニ反シ、此術ノ方法ハ有形ニシテ、其知慧ノ秀美ト趣味ノ高崇ヲ為シタル形相ハ純然タル無形ナリト言ヘリ、

○文明ヲ進歩セシメ、且ツ之ヲ高崇ニスル所ノ本来ノ原理ハ左ノ四種ノ内ニ包含セリ、其一ハ知慧、其二ハ道德、其三ハ法律、其四ハ土地、是ナリ、知慧ノコトハ次篇ノ第一第三第四第五第六第七段ニ於テ之ヲ論シ、道德ノコトハ同ク第一第二第三第五第八段ニ於テ之ヲ論シ、法律ノコトハ、同ク第五第八段ニ於テ之ヲ論シ、土地ノコトハ第九第十段ニ於テ之

ヲ論ズベシ、

#### 第十四 地勢

○今マ古代ノ歴史ヲ知ラザルノ人アリテ、世界ノ地図ヲ披キテ之ヲ閱セシニ、単ニ其地図ノミヲ以テ左ノ如キ推度ヲ為スコトヲ得ベシ、亞細亞ハ、其人口ハ最初ニ於テ已ニ多数トナリ、文明ハ早く開發シタリシナルベシ、其故ハ此大陸ハ其地位中央ニ在リテ、何レノ地方ヨリモ容易ニ近寄ルコトヲ得レバナリ、歐羅巴ハ其氣候ハ自然ニ文明ニ適シ、其中ニ於テ希臘ハ其位置善クシテ、諸方ノ民、海上ヨリモ陸地ヨリモ之ニ近寄ルコトヲ得ベク、又其氣候モ良善ニシテ、人身ニ利アルコト多シ、以大利モ希臘ト地勢ノ利益同様ナルガ上ニ、其國ノ境域ノ廣サ宜シキニ適セルヲ以テ、此二國ハ古代ニ於テ早く高等ナル文明ノ地位ニ達スルコトヲ得タリ、英國ノ如キハ、島嶼ノ國ニシテ、又希臘以大利ト甚タ遠隔セルヲ以テ、此二國ヨリ民ヲ徙スコトモナク、又此二國ノ人ノ来ルコトモ少ナカリシヲ以テ、其開明スルコト甚遅ク、久シク野蛮ノ状態ニ存セリ、然レトモ一度文明ノ種子ノ此地ニ下リシヨリ、忽チ其根ヲ生シ、堅固ナル文明ノ花ヲ開ケリ、

#### 第十五 英國ノ位置

畧ス

#### 第十六 人種ノ混合

○他ノ人種ヲ相互ニ混合スルトキハ、文明ノ完成ニ大ナル利益ヲ得、モシ之ニ反シテ單純ノ人種ノミヲ繁殖セシムルトキハ、大ニ其品位ヲ悪ク

スト云ヘル理論ハ之ヲ主持スル者甚多シ、此理論ハ之ヲ今日家畜ヲ飼養スル法ニ照シテ考フルトキハ、頗ル其實際ニ適セルヲ覺ユ、凡ソ家畜ヲ養フニ、其種族ヲ混合スルトキハ、單純ノ者ノミヲ飼養スルヨリ、必ス良品ノ者ヲ生スルナリ、故ニ畜類ヲ飼養シテ殊ニ良善ノ種族ヲ生セシメントスルトキハ、必ス他種ヲ混合スルヲ常トス、人種ヲ養成スルモ同シ規則ニ從ヒテ之ヲ為サルベカラズ、然レトモ人類ノ品種ヲ造ルト、畜類ノ品種ヲ造ルトハ、少シク其管理ノ法ヲ異ニスルヲ以テ、人種ノ新造ノ如キハ、之ヲ混合シタリトテ、一々精密ニ其良品ヲ生スルコトヲ期スベカラズ、然レトモ人種ヲ混合スルコトハ、實ニ人類ノ為ニ利益アルコトニテ、從前教育ヲ受ケザル種族ト、文明ノ感化ヲ受タル人種ノ子孫ト、其種ヲ混合スルトキハ其智力品格其ト發達スルコトナリ、故ニ野蛮ノ人種ガ其混合ニ由リテ、文明ノ人種ヨリ智力ノ強健ヲ受ルガ如ク、亦之ニ反轉シテ、文明ノ人種、野蛮ノ人種ト混合スルトキハ、同シ度ヲ以テ、少ナクモ其形体上ノ善良ヲ得ルコトナリ、凡ソ二様ノ人種ヲ混合スルトキハ、一ハ其種類ヲ變化シ、一ハ新ナル種類ヲ造成スル者ニシテ、又兩種ニ屬スル性質（形体道德智慧ヲ併セテ）ヲ堅固ニスルノ益アリ、故人種ヲ混合スルトキハ、夫ニ依リテ兩種ニ屬スル性質ヲモ混合シ、以テ新鮮ナル元質ヲ造成シ、新ナル性質ヲ開發スルハ疑ナキ所ナリ、

○又人種ノ混合ニ由リテ、教育ナキ人種ノ為メニ價值アル智慧ノ性相ヲ發生セシムルコトアリ、其故ハ野蛮ノ民ハ、從前ハ十分ニ其智慧ヲ働カ

スルノ機會ヲ得ルコトナク、又他ノ文明ノ民ヨリ何モ感化ヲ受クルコトナキモ、已ニ文明民ト交通スルトキハ、其刺衝ニ由リテ、従前未タ發セザルノ智ヲ開達スルコトヲ得レバナリ、又不開ノ民ト文明ノ民ト其人種ヲ混合スルニ由リテ、其品性モ相互ニ混合シ、即チ従前未タ播種セザルノ種子ヲ蒔キタルヲ以テ、従前未タ觀ザル所ノ物産ヲ發生スルコトヲ得ルナリ、英國ノ如キハ、三国合併ノコトアリト雖トモ、此事ハ些細ノ混合ナルヲ以テ、著ルキ功驗ヲ見ズ、只其以前、數々他國ヨリ侵攻ヲ被フリシヲ以テ、是ニ由リテ比利敦人種ニ許多ノ混合ヲ生シ、以テ今日ノ如キ、有為ノ人種ヲ造成スルニ至リシナリ、

#### 第十七 氣候ノ感化

「哈里斯氏文明論講義」解題

「哈里斯氏文明論講義」は、八二七—一〇三「雜綴」十四號に「西國學術語林」と合綴されている。

「哈里斯氏文明論講義」は、講義と名づけられており、西村茂樹講述と記載もされているが、George Harris (一八〇九—一八九〇)の著述になる *Civilization Considered as Science* をかなり自由に意識したものである。

この翻訳原書の初版は、一八六一年に出版されているが、確認できた一八七二年版に照らしてみると、西村翻訳と内容的にほとんど一致している。しかし、西村翻訳では、第一篇と始めて第一から第十七まで項目を立てているが、原書一八七二年版ではそのような番号をつけた項目区別をしていない。しかし、原書では、目次で、かなり詳しい内容見出しを立てている。他の版をみない限り確実なことはいえないが、目次の内容見出しにもとづいて、西村自身が、本文に番号づけをして見出しをつけたのである。この資料の「」は西村によるものである。

George Harris は、イギリスのラグビー出身の法廷弁護士であったが、ロンドン人類学協会の活動的なメンバーでもあった。著書に、西村翻訳の原書の他に、*The True Theory of Representation in a State*, & *The Theory of the Arts; or, Art in relation to Nature, Civilization, and Man* などがあり、自伝 *The Autobiography of George Harris* を書している。

亜米利加ニ於テ翻刻スル為メノ緒言

○余今亜米利加ノ生徒ノ為メニ此書ヲ翻刻スレドモ、此書固ヨリ明詳完全ノ書ナレバ原来ノ趣意ニ至テハ少シモ之ヲ改ムルコトナク、又一モ吾臆説ヲ附添スルコトナシ、唯通寶尺度商賣等ニ管係シタルノ其要用ナル者ハ、英吉利語ヲ以テ亜米利加語ニ改メ、以テ亜米利加ノ形勢ニ適合セシメンコトヲ務メタリ、亜米利加ノ生徒ノ此書ヲ讀ム者ハ、「パオント ステルリング」「ストーンウエイト」等ノ語ヲ解セザル者ナキコトハ余モ亦之ヲ知レリ、然レドモ此書ハ原ト道理ヲ論ズルノ書ニシテ、價値等ヲ比較スルノ書ニ非サレバ、余ガ通寶尺度等ヲ亜米利加ノ法ニ改ムル者ハ、生徒ヲシテ無益ノ穿鑿ニ時日ヲ費スノ損ヲ免カレシメントノ微意ナリ、

○此書ノ趣意精神共ニ秀美ト称スベク、其立論單純透明ニシテ能ク高等ノ学科ト相通ズ、亜米利加ノ少年能ク此書ヲ讀ミテ其道理ヲ會得スル時ハ、彼思慮清潔ナル都人、智識超羣ナル立法者ト為ルノ基礎ヲ建ルコトヲ得ベシ、

一千八百七十二年六月

プットナム識

○此小冊子ヲ編著セシ主意ハ、少年輩ノ為メニ人間交際ノ學問ノ下地ヲ教フルト、又此學問ニ用フル言語ト其書物ノ体裁トヲ教ヘンガ為メナリ、此読本ハ數段ニ之ヲ分チ其一段中ニ於テ一讀キニ於テ論スベキノコトハ尽ク詳カニ之ヲ論ジタリ、故ニ此書ヲ讀ムノ生徒ハ先始メノ一段ヲ熟讀シ能ク會得シタル上ニテ次ノ一段ニ及ブベシ、此ノ如クシテ遂ニ全篇ヲ讀ミ終ルニ至ラバ、人間ノ交際ヲ整フル処ノ法則ナル者ハ如何ナル者カト云フコトヲ了解シ得ンコトハ、余カ深ク生徒ニ望ム所ナリ、

○凡ソ知識アル人ハ必ラス皆謹慎ニシテ且ツ聰明ナリト定ムルコト能ハズ、併シナカラ謹慎ニシテ聰明ナル人ハ必ラス知識ヲ具ヘタル人ナリ、人間タル者其一身ノ生活ヲ利益スル為ニ要須ナル事ヲ知り得ルノ後ハ、更ニ人類相與ニ文明ノ交際中ニ生活シ、相互ニ利惠ヲ交際スルノ知識ヲ開クノ外、他ニ要用ナルコトハ無カルベシ、余カ此全篇ニ逐次ニ記録スル所ハ即チ其知識ヲ暢達スル所以ノ者ナリ、

〔オックスフォード〕  
阿斯福ニ於テ識

一千八百七十一年十二月一日

人間交際目録

- 第一 野蠻及ヒ文明ノ生涯
- 第二 麵包
- 第三 麵包ノ分配 借料
- 第四 工人ノ分派
- 第五 進歩ノ行路
- 第六 職業ノ種類
- 第七 工錢ノ高低
- 第八 價ヲ償ハザル工作
- 第九 労作ノ意思
- 第十 労作ノ合併
- 第十一 物價ヲ定ムル賣主ノ權理
- 第十二 職業ノ價值
- 第十三 金銀ノ用
- 第十四 貨幣
- 第十五 貨幣ノ代用
- 第十六 自主及ヒ奴隸
- 第十七 親子
- 第十八 公共ノ教育
- 第十九 各種ノ學問
- 第二十 發明及ヒ書籍
- 第二十一 賣買上ノ拘束
- 第二十二 公共ノ惠施
- 第二十三 政府ノ事務
- 第二十四 租稅
- 第二十五 租稅ハ何レヨリ來ル
- 第二十六 罪人ノ刑罰
- 第二十七 刑罰ノ理
- 第二十八 自由上ノ拘束
- 第二十九 職業手藝上ノ拘束
- 第三十 價値ヲ定ムルノ法
- 第三十一 職業上ノ規則
- 第三十二 職業ノ禁制
- 第三十三 邏卒ノ警視ノ下ニ在ル職業
- 第三十四 貧窮法
- 第三十五 微弱ノ保護
- 第三十六 徙居

## 第一

## 野蠻及ヒ文明ノ生涯

○此書ヲ讀ム人ノ中ニハ稀レニハ都邑ト云フ者ヲ見ザル者人モアルベケレドモ、多分ハ大都廣邑ノ中ニ住居スルカ、或ハ然ラサルモ必ラズ大都廣邑ヲ一見セシコトアリシ人ナルベシ、

○然ルニ此亜米利加州ハ二百年以前マデハ國中ニ都邑モナク城市モナク、其居民ト云フハ皆方今ノ所謂因底亞土番ニシテ、或ハ山野ノ獸ヲ獵シ、或ハ河海ノ魚ヲ漁リ、又ハ草木ノ根ヲ掘リテ食物ト為セシ者シナリ、此事ハ古今ノ亜墨利加ノ童兒女ハ大抵之ヲ知ルナルベシ、

○又他ノ大州ニ於テ英吉利、<sup>イギリス</sup>法蘭西、<sup>フランス</sup>日耳曼等ノ諸國ノ事ヲ考フルニ、其國ニ都邑ノ建チシハ、大ニ亜米利加ニ先ダツト雖ドモ、數百年前ノ昔ハ猶或ハ獸ヲ獵シ魚ヲ漁シ、又牧草ノ蕃茂セル土地ニ於テハ、大ニ畜類ヲ牧飼シ、夫ヲ以テ其身ノ生計ヲ立シ者ナリ、

○英吉利ノ如キモ、古代ノ獵獸牧畜ヲ以テ生活ヲ為セシ頃ハ、其人口甚少クシテ、全國ヲ擧テ僅ニ方今ノ中等ノ都邑ト其人口ノ多サヲ比スベカリシナリ、又人口ノ少キ頃ハ其割合ニ准シテ生活ノ道モ甚少カリシ者ナリ、若シ夏日ニ於テ旱魃連続スルカ、又ハ春月ニ於テ寒氣嚴烈ナルトキハ、人民餓死ノ患ヲ免カル、コト能ハザリシナリ、往古ノ時ハ

<sup>イギリス</sup>英倫ト威勒斯<sup>ウェールズ</sup>トヲ合セテ其人口ノ數、方今ノ百分一二過クルコト

能ハズ、其百分一ノ人民ナル者其幸福安全ヲ得ルノ度、方今ノ英吉利人ニ比スレハ亦百分ノ一二過クルコト能ハズ、今日猶世界上ニ英吉利人ノ祖先ガ數百年前ニ在リシ如キ生涯ヲ為ス者、亦少ナカラズ、即チ亜米利加ノ印甸土番部ハ阿弗利加ノ大部、亞細亞ノ中央ノ諸部ノ民ノ如キハ即チ是ナリ、

○凡ソ未タ開墾セザルノ地ニ居リ、其居民ノ數、土地ノ大ニ比スレハ甚稀疎ナル者ヲ野蠻ノ民ト云フ、居民甚密接シ其生計ノ状、方今英國ノ如ク上進シタル者ヲ文明ノ民ト云フ、野蠻ノ民ハ貧窮、愚昧ニシテ、日々ノ生計ヲ其日ニ營ム者ナリ、文明ノ民ハ、野蠻ノ民ニ比スレハ、富饒ニシテ智慮アリ、其生計ノ如キモ亦後日ノ預備ヲ貯フル者ナリ、同シク人類ニシテ野蠻ノ民ト文明ノ民ト此ノ如キ差異ヲ生スルノ原因ハ如何、

○余今此小冊子ニ於テ此大ナル差異ヲ生スル所以ノ原因ヲ述ベントス、然レドモ其原因ヲ集メテ尽ク悉シテ之ヲ叙セントスルハ、固ヨリ此小冊子ノ能ク望ムニ非ズ、又其原因ヲ論スルニ一條毎二分ツテ之ヲ説クハ、混合シテ之ヲ説クニ勝レリト雖ドモ、是又、此書ノ能ク為シ得ル所ニ非ズ、例ヘハ政府良善ニシテ公平ナル法度ヲ立テ睿明ニシテ誠信ナル政治法ヲ行ヒ、人民善徳アリテ尊敬スベキ行ヲ為スハ文明ヲ致ス原因ノ最大アル者アリ、然レドモ余ハ此書ニ於テ法律政治修身ノ事ハ

舎テ論ゼズ、唯野蠻ノ民一人ノ住居ニ過サル廣サノ土地ニ於テ、文明ノ民百人ノ住居ヲ為ス所以ノ者ハ其理如何、野蠻ノ民ハ僅ナル隣境ノ人民ヲ惡ミ或ハ之ヲ恐ル、ニ、文明ノ民、大都邑ノ中ニ同居シ、又能ク其隣人ニ交ル所以ノ者ハ其理如何ト云フコトヲ論ズルノミナリ、今野蠻ノ民ト文明ノ民ノ状ト一言ニ約シテ之ヲ言ヘバ、野蠻ノ民ハ己ガ要用ナル者ハ皆自身ニ之ヲ作ラザルベカラズ、文明ノ民ハ總テ他人ノ作レル許多ノ物ヲ取テ己ガ用ニ供スルコトヲ得ベシ、

○凡ソ人類ノ生活ニ最モ必用ナル者ハ食物ト衣服ト家屋ノ三物ナリ、人々ノ劳作ヲ為スハ皆此三物ヲ得テ己カ要須ニ供セントスルニ在リ、但シ之ヲ得ルニ直接ト間接ト兩様アリ、例ヘハ農夫ガ田ヲ耕シテ小麦ヲ種ルハ、直チニ己カ食物ヲ得ル為ニ劳作スル者ニテ則チ直接ノ劳作ナリ、鍛工ガ犁ヲ造ルハ、耕作ヲ為シ、然ル後食物ヲ得ル者ニテ則チ間接ノ劳作ナリ、又羊毛ヲ剪ル者ト棉花ヲ植ル者ハ衣服ヲ製スルニ直接ノ劳作ヲ為ス者ナリ、紡織ノ械器ヲ造ル者ハ衣服ヲ製スルニ間接ノ劳作ヲ為ス者ナリ、

○野蠻ノ民ハ自ラ己カ食物ヲ作り、又自ラ食物ヲ得ルニ要用ナル器械ヲ作り、又自ラ衣服ヲ造製シ、又獸皮ヲ縫合ハスルニ要用ノ針線ヲ造ル、文明ノ民ハ己カ生活ニ要用ナル許多ノ物件ヲ尽ク他人ノ手ヨリ得、己ハ又他人ノ為メニ要用ナル物件ヲ造ルナリ、野蠻ノ世界ニ在ル物品ト文明ノ世界ニ在ル物品トヲ比スルニ、文明ノ世界ニ在ル者ハ常ニ能ク

整備シ、其成ルコト速カニ其品充足シ、其値必ス廉ナルコト大ニ野蠻ノ世界ニ在ル者ニ勝レリ、

○文明ノ民ハ己カ要須ノ物ヲ廉價ニ得ル所大ニ野蠻ノ民ニ勝ルノミナラズ、又要須ノ物ヲ得ルニ常度ヲ違ヘサルコトモ大ニ野蠻ノ民ニ勝レリ、例ヘハ新約克<sup>(ニューヨーク)</sup>ノ如キ大都邑ニテハ、常ニ居民ノ食物及ヒ民ノ衣服ノ料ト家屋ノ料トニ至ルマデ一モ此地ニ生スル者ナク皆他ノ土地ヨリ取リテ此地ノ用ニ供ス、約シテ之ヲ言ヘバ、凡ソ居民要須ノ諸物ハ尽ク給フ他所ニ仰ガザルコトヲ得ズ、然ルニ其諸物ノ他所ヨリ此地ニ輸送スルコト時辰儀ノ常度ヲ誤ラザルガ如ク源々トシテ来リ決シ缺乏ヲ患フルコトナシ、野蠻ノ生計ヲ為スノ民又ハ一半ハ文明ニシテ一半ハ野蠻ナル民ノ状ハ大ニ是ト異ナレバ、若シ餓饉ニ逢フトキハ一半ノ民尽ク餓死シ、或ハ疾疫ニ由テ一郷ノ民多ク死亡スル時ハ其疾疫ニ染マザルノ民モ亦生ヲ聊スル能ハザルニ至ル、却テ此ノ如キ民ハ天災ニ罹ルトキハ其禍害ヲ受ルコト文明ノ民ヨリ甚シキ者ナリ、

○凡ソ人民タル者ハ夫々ノ職業アリテ、例ヘハ店ヲ開テ商賣ヲ為シ、或ハ商家ノ書記ヲ務ムル如キ等其他百般ノ職業アリテ、人々各其志ス所ニ從テ其業ヲ執ルナリ、何ノ職業ヲ論ゼズ、總テ其業ヲ以テ己カ生計ヲ立ントスル者ハ、皆熱心ニ其業ニ勉強シ、唯善ク其業ヲ為サンコトヲ務ムルノ外、他ニ少シモ念慮ヲ勞スルコトナシ、然ルニ天下或ハ法度ノ確定セザル国アリ、人間ノ交際ヲ保護スルハ法度ヨリ善キ者ナシ、

然ルニ此法度ナル者確定セザル時ハ、強逼ト云フ者國中ニ行ハレ、是カ為メ二人々恐懼孤疑ノ心ヲ懷キ、自ラ防護スルノ計ヲ為サバ、ルヘカラサレハ、是カ為メニ已カ職業ノ妨碍ヲ為スコト甚大ナリ、

○此ノ如キ法度ナキ國ニ於テハ人民生活ノ道ヲ立ルコト甚タ踈拙ニシテ其生活ノ方法モ甚不規則ナル者ナリ、又劳作ヲ為ス者、常ニ兵器等ヲ執テ能ク警察防守セサル時ハ已カ職業ヲ安全ニ當ムコト能ハズ、凡ソ多數ノ人民、一所ニ集合羣居シ、順序規則ヲ整ヘテ混乱ノ患ナク、又能ク其職業ニ安ンジテ危害ノ慮ナカラシムルノ方法ヲ考究スル者ハ、交際學ノ大主意ナリ、

## 第二

### 麵包

○尔今日ニ食フ所ノ麵包ヲ取り、此麵包ヲ製シテ食用ニ供スベキニ至ルニ幾人ノ工力ヲ費セシカト云フコトヲ考フルトキハ、此麵包ノ為メニ費シタル人工力ハ甚多キコトヲ知ルベシ、先麵包ヲ製スルニ最要ナル工人ハ農夫、磨車工、焼麵者ノ三員ナリ、農夫ハ麵包ノ料ト為ルベキ麵粉穀物ヲ得ル為メ二人力ト獸畜ノ力トヲ併セテ共シ之ヲ勞セリ、農夫ハ亦農具ヲ用ヒザルベカラズ、其農具ハ木匠ト鍛工ノ力ヲ劳作ヲ以テ之ヲ成ス者ナリ、近年ニ至リテハ農具モ大抵機器ヲ用フレバ、木匠鍛工ノ外又機器師ノ勞力ヲ假ラザルベカラズ、鍛工ハ常ニ鐵ト石炭トヲ用フル者ナリ、故ニ之カ為メニ又鍊ト石炭トヲ採ル工人ノ力ト其鍊磨

ノ功トヲ假ラザルベカラズ、

○又磨車工ハ麵粉ヲ磨スル為ニ良品ノ石ヲ得ザルベカラズ、麵粉ヲ篩フカ為メニ細布ヲ織ル織工ノ力ト、金類ノ線ヲ作ル工人ノ力トヲ假ラザルベカラズ、穀物及ヒ麵粉ヲ貯フル為メニ囊袋ヲ織ル織工ノ力ヲ假ラザルベカラズ、又磨車工カ工作ヲ為ス磨車ハ更ニ他ノ工人、即チ木匠ダイク、サシモノシ小木匠、車匠、石工、磚工等ノ勞力ヲ假ラザルベカラズ、若シ水力ヲ用ヒテ磨車ヲ運轉セントスルトキハ、流水或ハ落水ノ力ヲ用フル為ニ許多ノ鍊熟ヲ要セサルベカラズ、若シ風ノ力ヲ用ヒントスルトキハ風ヲ受ル幟カサヲ作ルニ織工ノ勞ヲ假ラサルベカラズ、若シ蒸氣ノ力ヲ用フルトキハ、風水ニ比スレハ更ニ許多ノ學術ニ鍊熟セル人ノ力ヲ假ラサルベカラズ、

○炕麵工モ亦其業ヲ執ルノ前ニ衆人ノ助力ヲ仰カサルベカラズ、先ツ其麵包ヲ木盂ノ内ニ煉ル時ニ、桶工ノ力ヲ假ラサルヘカラス、又炕麵ノ爐ヲ造ル為ニ石又ハ磚ヲ用ヒテ之ガ為ニ磚工或ハ石工ノ力ヲ假ラサルベカラズ、若シ鐵ヲ以テ爐ヲ造ル時ハ、礦工ト鍛工トノ力ヲ假ラサルヘカラス、麵包ノ形ヲ作ルニ又他ノ劳作ヲ要セサルヘカラス、若シ機器ヲ以テ之ヲ作ルトキハ（近年良品ノ麵包ハ多ク機器ヲ用テ其形ヲ造ル）又他ノ工人ノ力ヲ用ヒサルベカラズ、炕麵工又其麵包ヲ製スル時ト賣ル時ニ於テ麵包ノ量ヲ秤ルヲ以テ是カ為ニ稱ト秤トヲ作ル他ノ工人ノ力ヲ用ヒサルヘカラス、此他猶之ニ用フルヘキ工人ノ數許多アリ、

○更ニ一層ノ先ヲ考フル時ハ、是等ノ工力ヲ假ルニハ何レモ貨幣ナクシテハ決シテ得ベカラザルノ事ナリ、貨幣ハ金類ヲ以テ造レル者ニシテ、金類ハ大抵ハ遐遠荒僻ノ地ニ産シ、其地ニ於テ別ニ工作ノ一境ヲ開キ鑿工ノ勞力ヲ用ヒテ工作シテ之ヲ得ル者ナリ、既ニ一境ヲ開クトキハ其工人ノ為メニ食物其他要用ノ物ヲ送ラサルベカラスシテ之ヲ送ルニハ多ク舟船ノ力ニ依ラサルベカラズ、船舶ヲ建造スルノ術ハ極メテ煩重紛錯ノ工ニシテ其術ノ容易ナラサルハ、此書ヲ讀ムノ少年ハ大抵已ニ了解シ居ルナルベシ、金銀ノ類已ニ鑛山ノ工作ヲ經テ都邑ノ地ニ來ル時ハ、更ニ都下人ノ工人ノ勞力ニ依リテ之ヲ純清ニシ、之ニ形ヲ與ヘ、又之ニ極印ヲ打ツ如キ精緻工妙ノ工作ヲ要シテ初メテ貨幣ト為ルコトヲ得ルナリ、

○以上記スル所ハ人間生活ノ要物中ニ於テ最簡單ナル者要物ヲ擧ケ、其單簡ナル物ヲ造ルニ無カルベカラザルノ工力ヲ記セシ者ナリ、  
○然ルニ上ニ記セル工人ハ皆手ヲ以テ勞作スル者ナレドモ此外ニ猶頭腦ヲ以テ勞作スル工人者アリテ又必ス其工人ノ力ヲ假ラザルベカラサルコトナリ、頭腦ヲ以テ勞作スル者ハ通常之ヲ頭人ト稱シ、又或ハ<sup>カゼリスト</sup>財主ト稱スルコトアリ、此工人ハ常ニ他ノ工人ニ命令ヲ施シ、或ハ工作セル物ヲ市場ニ出シ、其物ノ價値ヲ定メ、常ニ其物ノ人生ノ需用ニ應シテ間斷スルコト無キヲ要スル者ナリ、若シ此ノ如キ人アリテ其工作セル物ヲ貿易ノ場ニ出スコト無ケレバ、人間生活ノ為メニ闕クベ

カラザル要物品ノ堅固ナル利益ト規則アル供給ハ決シテ得難キコトナルベシ、

○余儕上ニ野蠻ノ民ハ愚昧ナリト言ヘリ、愚昧ナルガ故ニ野蠻ナルナリ、此ノ如キ民ハ其子孫連続シテ教育ヲ受クルニ非サレハ遂ニ文明開化ノ利益ヲ享クルコトヲ得サルベシ、今一個ノ社會アリテ敢テ其兒子ヲ教育セズ、又已カ知ル所ノ事ヲ以テ其子孫ニ傳ヘサル時ハ、此社會ノ子孫ハ忽變シテ野蠻ノ民ト為ルベシ、又之ニ反シ、祖先ノ智識ヲ繼承スルコト、祖先ノ財産ヲ繼承スルカ如ク、益之ヲ擴張スルトキハ、逆ニ文明ノ民ト為ルベシ、其智識ナル者ニ二種アリ、一ハ熟練セル工人ノ力ニ由テ之ヲ得ベキ者ニシテ、之ヲ得ントスルニハ、或ハ年期ヲ定メ又ハ年期ヲ定メズシテ工人ノ徒弟ト為ラサルベカラズ、然レドモ是ハ知識ノ最小ナル一部ニシテ深ク崇フニ足ラズ、其最大ナル部ハ未來ノ社會ノ為メニ其職務ヲ尽セル学校教師ノ力ニ由テ之ヲ得ベキ者ナリ、  
○上文ノ解説ニ由テ、麵包ヲ製シ、又之ヲ供給スルニ用フル所ノ人力ハ甚ダ許多ナルコトヲ知り得ベシ、  
○凡ソ文明ノ民ハ其交際中ニ在テ互ニ相為メニシ、互ニ相利益スル者ニシテ其事業ハ至テ廣宏ナル者ナリ、然ルニ今文明交際ノ事ヲ説クニ、唯麵包ノ一物ノミヲ掲ケ出シテ此廣宏ナル事ヲ総ベントセバ、恐クハ讀ム者ノ疑ヲ致サン、

○余此書ノ始ニ於テ文明ノ民ハ、同シ廣サノ土地ニ於テ野蠻ノ民ヨリ、

密接シテ住居スルコト百倍ノ多クニ至ルト言フコトヲ記セリ、唯其住居スルコト百倍ノ多キノミナラズ、其食物モ亦百倍ノ多サヲ以テ節度ヲ誤ラズシテ其他ニ供給スルコトヲ得ルナリ、故ニ一地方一都邑二居住スル人民ノ多サヲ量ラント欲セバ、先ツ其民ノ製スル所ト買フ所ノ麵包ノ多少ヲ量ラサルベカラズ、若シ亜米利加全国ヲシテ人民ノ幅濶スルコト新約克ノ如クナラシメバ、食物<sup>不足セザル</sup>ノ民ハ至テ少ナカルベシ、故ニ文明交際ノ状ヲ説クニハ先麵包ヲ以テ始メトシ、又此麵包ノ一物、文明交際ノ大部ヲ領スルコトヲ得ベシ、

### 第三

#### 麵包ノ分配 借料

○凡ソ麵包ヲ製スルニ之ニ助力スル所ノ諸工人ハ各其麵包ノ價ヲ受クルコトヲ得ベシ、此諸工人ノ受ル所ノ麵包ノ代價ノ割合ハ至テ少ナキ者ナレドモ受取ルコトハ決シテ相違ナキコトナリ、故ニ曰ク麵包ノ價ハ、總テ麵包ヲ製スルニカヲ併セタル者ノ頭ノ上ニ配當スル者ナリト、然ルニ又麵包ヲ製スルニカヲ併セサレドモ其價ノ割合ヲ受取ル者アリ、此者ハ則チ田主ナリ、田主タル者ハ決シテ慥カニ麵包ノ其價ノ割合ヲ受ルノ権理アル者ニシテ、他人ヨリノ力ヲ以テ其人ノ財産ニ妨ヲ為スト云フコトハ決シテ能ハザル所ナリ、若シ麵包ヲ製スルニ助力セサル人、又ハ唯田地ヲ耕作スルノミニテ、麵包ノ價ノ配當ヲ受クヘキ理アリト云フ者ハ、必ス田主ナルベシ、

○麵包ノ代價配分ノ姿美ニ此ノ如クナルヤ否ヤヲ知ラント欲セバ、吾身ノ住居セザル他國ノ事ヲ見テ之ヲ考フル時ハ容易ニ之ヲ了會得シ得ベシ、

○凡ソ天下ニ於テ極メテ貴重ニシテ極メテ人間ニ切用ナル物ト雖ドモ、人ノ勞力ヲ經スシテ成タル物ハ、敢テ價アルコトナシ、大氣ノ如キ最モ人間ニ切用ニシテ若シ二分間大氣ナキ時ハ人類必ラス生活スルコト能ハズ、然レドモ人類タル者通常自在ニ大氣ヲ用井テ毫モ其價ヲ出ス者ナシ、水ガ大氣ニ次テ人間ニ切用ナル者ナリ、然レドモ亞米利加合衆國及ヒ歐羅巴ノ諸國ニ於テハ水ヲ得ルコト容易ナルヲ以テ水ニ價スルコトナシ、但シ歐羅巴ノ大都邑殊ニ倫敦<sup>ロンドン</sup>ノ如キハ水ニ價アリ、然レドモ水ヲ需ムル者ノ要用ニ比スレハ水ノ其價ハ至テ僅少ナル者ナリ、故ニ甚ダ吝嗇ナル者ノ外ハ、敢テ水價ノ為ニ苦情ヲ言フ者ナク、價ヲ出サズシテ其水ヲ飲マント欲スル者ナシ、

○今新西蘭羣島<sup>ニュージーランド</sup>中ノ中央ニアル一島ノ事ヲ援キテ麵包分配ノ事ヲ證セントス、始メ英國ヨリ此地ニ還リシ者、此島ニ唯少數ノ野蠻ノ民アルヲ見タリ、然レドモ此島ノ氣候ハ温和シテ宛モ英國ノ氣候ノ如ク、其土性ヲ觀ルニ能ク英國ノ植物ヲ種ウルニ適セリ、島中密林多ケレドモ廣闊ノ地亦少ナカラズ、

○歐羅巴ヨリ始メテ此地ニ遷居セシ民ハ已カ望ミ次第ニ地面ヲ領スルコトヲ得ベク、又其地面ヲ得ルニ些少ノ價ヲ出スコトナシ、而シテ其地

面ヨリ生スル所ノ生産力ノ利益ノ外ハ其他ニ又望ムヘキノ利益アレドモ、最初ノ移民ニハ其望ミハ猶得難キノコトナルベシ、然レドモ追々時ノ遷移ニ由テ其地面上ニ幾多ノ変化ヲ生スル時ハ、其地面ニ就テ大ニ望ムベキノ利益ヲ生スルコトナリ、此ノ如キ変化ノアルハ、殊ニ初メテ都邑ヲ建創スル時ニ在リ、都邑ヲ建ルニハ先ツ道路ヲ定メザルベカラズ、道路已ニ定マル時ハ、道路ニ近キ地面ハ、道路ニ遠キ地面ヨリハ、自然ニ其位價ヲ高クス、若シ都邑ニ海港アル時ハ海ニ近キ土地ハ、海ニ遠キ土地ヨリ、自然ニ其位價ヲ崇フシ、又都邑ニ市場アル時ハ市場ニ近キ地面ハ市場ニ遠キ地面ヨリハ人ノ之ヲ望ム者多シ、此ノ如キ都合ニ出逢フ時ハ、同シ地面ニ於テモ利益ノ多少大ニ懸絶スルコトニ至ルコトアリテ、是ヨリ地面ヲ人ニ貸シテ借料ヲ収ムルノ事ニ及フナリ、

○始メテ開ケシ国ニ於テハ、土地ノ借貸ハ唯都邑ノ地ニ限ルモノナリ、是レ土地ヲ借貸スルノ原因ハ本ト都邑ヨリ起リシ者ナレバナリ、時ノ推遷ルニ從ヒ、土地借貸ノコト、都邑ヨリ擴カリテ田舎ノ地ニ及ボシ、都邑ニ近キ耕地ハ、都邑ニ遠キ耕地ヨリ其位價自然ニ貴クナレリ、其故ハ都邑ニ近キ耕地トテモ、多ク穀物ヲ生スルト云フニハ非ズ、唯其穀物ヲ市場ニ輸送スルニ其費少キニ由レリ、又都邑ニ近キ耕地ハ其地味皆肥沃ナリト云フニハ非サレドモ、人力ヲ以テ土地ヲ肥スノ方法ヲ得ルノ益アルニ由ルナリ、此ノ如キ地ヲ有セル田主ハ、其穀物ヲ市場

ニ出スコト常ニ容易ニシテ、肥糞或ハ耕作ノ械器ヲ其田地ニ輸送スルニ許多ノ費ヲ為スコトナシ、故ニ其田主、若シ其田ヲ人ヲニ賣ラントスルトキハ、其田地ニ掛リタル諸雜費ノ外、又運送ニ便利ヨキト云フコトヲ以テ之ヲ代價ノ中ニ算入シ、以テ其賣販ノ價ヲ定ムルヲ常トス、○人民ノ數増加スルニ從ヒ、其他ノ土地モ漸々ニ之ヲ借ル者多ク、自然ニ土地ノ利益ヲ増スニ至ルナリ、此ノ如クナル時ハ、其土地ヨリ産スル物ハ其價貴カラズシテ却テ漸々ニ低價ト為ルナリ、以前ノコトヲ顧レバ、借人ナキノ時ハ此土地ヨリ生セシ産物ハ皆至テ高價ナリシ者ニテ、凡ソ小麦、牛酪、羊毛、及ヒ其他ノ諸物ノ價、皆甚貴クシテ此地ヲ借ルト雖ドモ其産物ヲ以テ利益ヲ得ルコト能ハザリシ者ナリ、○最後ニ至レバ、凡ソ勞力ニ由リテ産物ヲ生シ得ベキノ土地ハ尽ク之ヲ借りテ餘リナキニ至ル、其土地ヲ以テ最モ利益ヲ生スルノ土地ト為スコトハ農夫ノ事業ニシテ、若シ能ク之ヲ為シ得ルトキハ、土地ノ所有者モ、農夫ノ勉力ノ為メニ自己ニモ其利益ヲ領チ得ルノ利アリ、譬ヘバ、開店商ノ如キモ、其開店ノ事業ヨリ、大ニ其商業ノ利益ヲ得、其利益ハ、多ク地勢ノ便ニ出ルコトナルトキハ、其土地ノ所有者モ亦利益ヲ分チ得ルノ理ナリ、

「人間交際」 解題

「人間交際」は、八二七一—〇三「雜綴」二十四號に、「西国道德字講義第一冊」「學之門」「利知曼氏洛日克第一」「彌爾氏洛日克撮要」などとともに合綴されている。このうち「西国道德字講義第一冊」は、『増補改訂 西村茂樹全集』第2巻に翻刻収録されている。

「人間交際」は James Edwin Thorold Rogers (一八三二—一八九〇) の著述である *Social Economy* の部分訳である。本書は、出版人であるパトナムが「まえがき」でいうように、Rogers のイギリスでの原著を通貨などの単位をアメリカ流に変更した改訂版である。しかし、イギリスでの原著を確認できていない。西村は「人間交際目録」として原書の Lesson I から XXXVI までの項目全部を掲げているが、実際に訳したのは Lesson III の中途までである。

Rogers は、オックスフォード大学の政治経済学の教授をつとめたが、自由貿易論者として知られるコブデンとの親しい関係もあり、政治運動にも関与した。経済学史の上では、彼は、経済史研究の「草分け」的な立場にあるとされるが、経済学理論では、古典派経済学からイギリス歴史主義学派への過渡的位置にあるとみられる。

この原書の翻訳には、明治十四（一八八二）年に小山雄が「社會經濟要略」と題して、Lesson I から Lesson XXI までを訳した上下2冊本がある。また、Rogers の著書 *A Manual of Political Economic For School*

は、明治七（一八七四）年から明治十一（一八七八）年にかけて高橋達郎が「泰西經濟新論」として翻訳出版している。

参照 岸田理「ソロルド・ロジャーズについての一研究」『經濟學論叢』（七六一六）

英國 哈克士黎 著  
日本 西村茂樹 譯

第一篇 自然ナチュト物モノノ學ガク

第一 知チ覺カクト物モノ

○余儕醒覺ノ間ニハ、五官ノ力ヲ以テ、吾等ガ生活セル世界ノ事物ト、又其世界ヲ造成セル所ノ事物ニ付キテ多少知得スル所アリ、余儕ハ常々事物ニ感シ、声ヲ聞キ、香ヲ嗅ギ、明処ニ於テ物ヲ見、又時トシテ物ヲ味フコトアリ、此ノ如キコトヲ名ケテ知チ覺カクト云フ、

○此ノ如キ知覺ヲ得ルトキ、余儕之ヲ物ヲ感シ、物ヲ聞キ、物ヲ見、物ヲ嗅ギ、物ヲ味フト云フ、或ル臭氣ヲ嗅キテハ葱ノ臭ヲ嗅クト云ヒ、或ル風味ヲ嘗メテハ平果ヲ味フト云ヒ、或ル声ヲ聞テ車声ヲ聞クト云フ、或ル物ノ目前ニ現ハレタルヲ樹木ヲ見ルト云フ、吾儕ガ五官ノ助ニ由リテ此ノ如ク感受スル所ノ物モノ又ハ對身オウゼント云フ、

第二 原因應效カウス、エント、エフ、エクト

○余儕、此等ノ物ヲ以テ知チ覺カクノ原因ト稱シ、知覺ヲ以テ物ノ應效ト稱ス、例ヘハ若シ或ル音声ヲ聞ケバ、此ハ車ノ路上ヲ走ルヨリ起ル者ニシテ、此声ハ通行スル車ノ應效ナリト云フ、又或ル焦氣ヲ嗅ク時ハ、或ル物ノ火ニ燒クルナラント想像シ、其原因ヲ求ムルコトヲ務ム、又一ノ樹木ヲ見ル時ハ、或ル物ノ吾眼界ニ發現スルノ原因ナルコトヲ知ルナリ、

第三 物ノ理セリシ 其了解エクスラ

○焦氣ヲ嗅ク時ニ当リ、余儕或ル物ノ火中ニ燒クルヲ看出ス時ハ、之ヲ焦氣ノ原因ヲ檢出シタリト云フ、或ハ此焦氣ヲ嗅クハ何故ナルヤノ理ヲ知レリト云ヒ、又ハ之ヲ了解シタリト云フ、故ニ事物ノ理ヲ知り、又ハ之ヲ了解スルトハ、其原因ヲ知ルヲ云フナリ、然レドモ此事物ノ原因ハ又他ノ事物ノ應效トナルナリ、今若シ燒焦ゲタル藁ヲ見出シ、之ヲ前ノ焦氣ノ原因ナリト考フルトキハ、更ニ進ンテ何物ヲ以テ燒キタルヤト其燒焦ゲタル所以ヲ問フベシ、或ハ發火ノ原因ナリト云フベシ、然レドモ此引火奴ハ人アリテ之ヲ為サレハ、自然ニ發火シテ藁ノ上ニ落ルコトナシ、故ニ引火奴ノ藁ノ上ニ落チタルハ、或人ノ為シタル應效ナリ、而シテ又此人ハ何故ニ此引火奴ヲ藁ノ上ニ投ジタルヤ、偶然ニ之ヲ為シタルカ、故意ニ之ヲ為シタルカ、若シ故意ナラハ其意ハ何如シ、其意ハ即チ此人ガ引火奴ヲ投ジタル原因ナリ、而シテ又此人ハ何故ニ此ノ如キ意アリシヤ、此ノ如ク一問ヨリ一問ヲ引出ストキハ殆ント其際限ヲ見ズ、

○故ニ凡ソ事件ハ、皆之ニ先ツ所ノ原因ノ應效ニシテ、此ノ如ク推考スルトキハ何レノ所マデモ因果ノ源ニ遡ルコトヲ得ベシ、凡ソ、或ル事件ノ原因ヲ發見スルトキハ、其事ヲ了解シタリト云ヒ、又ハ其現存エキノ理ヲ得タリト云フナリ、若シ其原因ノ原因ヲ發見スルトキハ、其了解ハ更ニ明詳トナルナリ、而シテ因果ノ連続ヲ檢出スルコト益々遠ケレバ、此了解益々完全ナリ、然レドモ人類ノ知識ハ其完美ナル者トイヘドモ事

物ノ本原ヲ討究シ得ルノ力ハ甚タ微々タル者ナレバ到底、十分ナル事物ノ了解ハ為シ得ザル者ト知ルベシ、

#### 第四 物ノ性アロバート力

○今一物アリテ、特別ノ応效ヲ呈スルトキハ、是ヲ名ケテ其物ノ性アロバート力又ハ其物ノ力ト云フ、葱ニ臭氣アルハ葱ノ性ナリ、即チ葱ヲ鼻ニ近ツクレハ此特別ノ知覺ヲ起スヲ以テナリ、又流水ハ水車ヲ回轉スルノ力アリト云フ、是常ニ水車ヲ回轉セシムルノ実況アレバナリ、又毒蛇ハ人ヲ殺スノ性アリト云フ、是其刺衝ニ逢ヒテ死スル者アルガ故ナリ、故ニ物ノ性トカトハ、是ヲ有スル物ノ起發セル応效ナリ、

#### 第五 人造物アイト天造物アイト天然物アイト又造化

○五官ニテ知ル所ノ諸物ノ中ニ於テ家屋、家具、車、機器ノ如キハ、之ヲ人造物ト名ク、是人類ノ工藝アイトヲ以テ造リタル物ナレバナリ、而シテ通常之ヲ人ノ作為シタル物ト言フ、然レドモ此外ニ人力ニ由ラズシテ成レル物アリテ、其數ハ更ニ甚多ク、其存在ハ、人類ノ存在スルトセザルトニ關係セザル者ナリ、即チ天ノ如キ、雲ノ如キ、日月星辰ノ如キ、海及ヒ其岩礁沙汀ノ如キ、山谷ノ如キ、草木禽獸ノ如キ皆是ナリ、是等ノ物ヲ天造物ト云ヒ、又之ヲ総稱シテ天然物ト云フ、

#### 第六 人造物トハ、人類ノ力ヲ以テ、天然物ニ別様ノ形ヲ與ヘ、或

ハ之ヲ聚合シ、又ハ之ヲ分解シタル物ナリ、

○天然ト工藝ト、天造物ト人造物トノ區別ヲ為スコトハ極メテ容易ナリ

ト雖ドモ到底人類ハ盡ク萬物ヲ天然ニ仰グト言ハザルコトヲ得ス、凡ソ人力ヲ以テ作りタリトイフ物モ、其物ハ皆天造物ニシテ、人ハ唯之ニ工術ヲ施シタルノミナリ、創造ノ趣意、即チ従前ナキ物ヲ新タニ造ルノ趣意ヨリシテ之ヲ言フトキハ、人類ハ一物ヲモ創造スルコト能ハザルナリ、又人類ガ天造物ヲ取りテ之ヲ工作スルモ、其天造物ガ自己ニ固有セル性質ニ據リテ之ヲ為ス者ナリ、

○人造物トイフ者ハ、実ニ天造物ノ一種ナル人類ト云フ者、其工力ヲ他ノ天造物ニ施シテ之ヲ成ス者ナリ、

○余儕今木ヲ削リ、之ニ釘シテ函トイヘル人造物ヲ作ルトイフトキハ、其言當レリトイフベシ、然レドモ木ハ天造物ニシテ、釘ノ鐵モ亦天造物ナリ、時辰鏢ハ、黄金及ヒ其他ノ金類、沙、青塩ソダ、紅寶石ルビー、等ノ天造物ヲ以テ作りタル者ナリ、袍コートハ天造ノ羊毛ヲ以テ製シ、大衫フロックハ天造ナル綿又絹ヲ以テ造ル、又是等ノ物ヲ造レル人モ亦天造物ノ一ナリ、

○木工靴工及ヒ其他ノ工人画工等ハ、皆天造物ノ性ト力トヲ知り、天然ノ原因応效ノ連続ヲ了得シテ、種々ノ天造物ヲ蒐輯シ工作シテ人間必要ノ人造物ヲ作為スルナリ、

○木工ハ木材ノ性ト力トヲ知ラザレバ椅子ヲ造ルコト能ハス、鍛工ハ、鍊ヲ赤熾スレバ柔軟トナルノ性アルヲ知ラザルトキハ馬蹄鐵ヲ造ルコト能ハズ、煉瓦工ハ粘土ノ性ヲ知ラザレハ其工ヲ為スコト能ハズ、鉛工ハ鉛ニ柔軟ノ性アリテ中等ノ熱度ニ熔解スルコトヲ知ラザレバ、亦其工ヲ

施スコト能ハズ、

○故ニ一事ヲ為サントスルニハ必ス、天然ノ因果ノ法ヲ知ラサルベカラズ、工藝ノ進歩ハ、大抵、天造物ノ性力ヲ了得シ、其性力及ヒ原因応効ノ關係ヲ以テ人生ノ用ニ供スルノ度ニ准ズル物ナリ、

第七 許多ノ天造物及ヒ原因応効ノ連続ハ、人智ノ及バザル所ノ者多シ、

○天造物ノ中ニハ、余儕力之ヲ試檢シ筭用シ得ル者亦少ナカラズ、然レドモ天然物中ニ於テ甚タ巨大ナル物、及ヒ其物ノ因果ノ干係ニ至リテハ、全ク人ノ智力ノ及ハザル所ノ者アリ、太陽ノ東西ニ出没シ、月星ノ空中ニ運行シ、快晴ト暴風雨ト寒ト暑ト互ニ相變化シ、又海上ハ風ノ強弱ノ變換ニ由リテ、或ハ洪浪ヲ起シ、或ハ平穩ト為リ、無數ノ草木禽獸ハ一度ハ生シ、一度ハ死ス、是等ノ事ニ管シテ吾儕人類ハ造化ノ大事業上ニ些少ノ感化ヲモ為スコト能ハザルナリ、又颶風ハ或ル所ヲ損シ、地震ハ他ノ所ヲ壞リ、火山ハ破壊シテ又他ノ所ヲ埋没ス、順和ノ氣候ハ此地ニ豊饒ヲ致シ、旱魃ハ彼地ニ疫ト飢饉トヲ招ク、是等ノ時ニ當リテハ、人カヲ以テ之ヲ如何ントモスルコト能ハズ、到底人類ガ全ク造化ノ法則ニ通セザルノ間ハ、造物者ノ大勢力ノ玩弄物タルヲ免カレザルベシ、

第八 造化ノ順序 事物ハ偶然ニ起ラズ、又不意ノ事件アルコトナシ、

○然レドモ余儕若シ深く注意シテ造化ノ理ヲ窮メントスルトキハ、必ス

先ヅ事物ノ起ルニハ一定ノ順序アリテ、同一ノ原因ハ常ニ同一ノ応効ヲ生スルコトアルヲ見得ベシ、太陽ハ常ニ天ノ一方ニ出テ、他ノ一方ニ没シ、月ノ盈虧ニハ次序アリテ其變毎ニ其時ヲ同フシ、星ニハ常ニ余等ノ住居セル地平線ノ下ニ沈マザル者アリ、四時ノ順序ハ其規則畧ト正シク、水ハ常ニ下キニ就キ、火ハ常ニ炎上シ、草木ハ常ニ種ヨリ生シ、又更ニ種ヲ生シテ再ヒ之ト同シ草木ヲ生ス、禽獸ハ生長ノ後ハ必ス死亡ス、此ノ如キ造化ノ順序及ヒ事物ノ因果ノ關係ノ確固ナルコトハ漸ク已ニ人心ニ習熟セリ、此順序ノ範圍内ニ在ル事物ハ之ヲ了解シ得タリト稱シ、了解シ得ザル所ノ事物ハ、之ヲ偶然ノ事物、又不意ノ事件ト言フナリ、

○然レドモ猶一層精密ニ天然ノ事物ヲ考察スルトキハ、猶廣大ニ普及シ、従前順序ナシト為シタル者ハ、順序ナキニ非ズシテ、其順序ノ甚タ錯雜シタル者ナルコトヲ知り得ベシ、故ニ今日ニ至リテハ、原因ナクシテ起リタル偶然ノ事件アリトイフコトヲ信スル如キ愚人ハアラサルベシ、若シ今偶然ノ事件ト言フトキハ、其原因、即チ其因テ起ル所以ヲ知ラザルノ事件トイフ義ナリ、蓋シ偶然ノ事件トハ無知者ノ名ケタル異名タルニ過ギザルナリ、

○余今窓外ヲ望ムニ風雨大ニ至リ、樹木ノ枝大ニ揺撼ス、或ハ此樹下ニ風雨ヲ避クル者アラン、若シ風雨更ニ烈クナルトキハ、此樹枝ハ摧折シテ、其人ノ頭上ニ落チ之ヲ損傷スルコトアラン、果シテ然ルトキハ、之ヲ不意ノ事件ト云ヒ、此樹下ニ憩ヒシ人ハ偶然ニ出行シテ風雨ヲ愛ニ避

ケ、不意ニ此災害ニ偶ヒタリト言ハシ、然レドモ是皆不意ノ事件ニ非ラズ、風雨ハ大氣上ニ運行セル或ル原因ノ結果ニシテ、其原因ハ蓋シ數百里ノ外ニ在ルコトナルベシ、木葉ノ振動スルハ、風ニ向ヒタル葉ノ面ニ加ハレル風力ノ応効ナリ、樹枝ノ折ルハ、風力ト枝トノ強弱ノ干係ノ応効ナリ、此枝ノ其人ノ上ニ落ルモ、亦或ル天然固有ノ原因ヨリ生ゼル者ニシテ、此人ノ此樹木ニ来リシハ、拾モ此原因応効ノ連続ノ最終ニ當リ、其因応ハ、本ヨリ天然ノ順序ニ從ヒタル者ナリ、即チ其人ノ出行セシニテモ原因アリテ、此樹木ノ下ニ来リシモ亦原因アルナリ、

○然レドモ余儕ノ知識ハ未タ此錯雜ニシテ永続セル因應ニ由リテ樹枝ノ其人ノ上ニ落シコトヲ全ク了解スルコト能ハザルガ故ニ、唯之ヲ不意ノ事件ト云フナリ、

#### 第九 天然ノ法則ラクス、オ、ナチニール 法則ハ原因ニ非ズ、

今精密ナル觀察ヲ以テ、或ル事物ハ、或ル応効ノ原因ナルコトヲ知り、又或ル事件ハ、常ニ同一ノ順序ヲ起ルコトヲ知ルトキハ余儕是ニ由リテ發見シタル真理ヲ名ケテ天然ノ法則ト云フ、彼重量アル物ヲ支ヘザルトキハ、其物直チニ地上ニ落ルガ如キハ天然ノ法則ナリ、通常鉛ノ軟ニシテ且ツ重ク、燧石ノ硬クシテ且ツ脆キモ亦天然ノ法則ナリ、其故ハ凡ソ重キ物ヲ支ヘサレバ常ニ地ニ落ち、鉛ノ軟ニシテ、燧石ノ硬キハ、吾儕力是ニ經驗スル所ナレバナリ、

○故ニ吾儕ガ天造物ノ性力、及ヒ天然ノ順序ニ就テ知ル所ノ事物ハ、皆

之ヲ天然ノ法則ト云フベシ、然レドモ天然ノ法則ハ、造化ノ順序ニ非ズシテ、唯此順序ヲ以テ成リタル事物ニ付キテ定言セル者ナリ、石ノ地ニ落ルハ、天然ノ法則ノ應効ナリトハ、世人ノ漫ニ言フ所ナリ、然レドモ法則トイフハ、凡ソ重量アル物ノ地ノ表面ニ向ヒテ常ニ動ク所ノ現象ヲ定言シタル者ニシテ、其現象ノ原因ヲ言ヒタル者ニ非ザルナリ、

○此点ヨリ之ヲ觀レバ、天然ノ法則ハ、人類カ相互ニ其行為ヲ制センカ為ニ作リタル法律ト相類スル所アリ、租税ニ法律アリ、竊盜兇殺ニ法律アリ、然レドモ此法律ハ人民ガ租税ヲ納ムルノ原因ニ非ズ、又竊盜兇殺ヲ慎ムノ原因ニ非ズ、唯人民カ租税ヲ納メサル時ト、竊盜兇殺ヲ行ヒタル時ニ於テ、其人ニ對シテ施ス所ノ事ヲ記シタルノミナリ、人民カ能ク租税ヲ納メ、又竊盜兇殺ヲ行ハザルノ原因ハ（苟モ一層善良ノ情意アルニ非サレバ）彼等ガ此法律ノ應効ヲ畏ル、ニ在リ、即チ此法律ノ必ス行ハルベキヲ信スルニ在ルナリ、人類ノ法律ハ、或景況ニ付キテ社會ハ如何ナル處置ヲ為スカヲ人ニ知ラシムル者ナリ、天然ノ法則ハ、或ル景況ニ付キテ天造者ガ何事ヲ為スカヲ知ラシムル者ナリ、是等ハ何レモ吾人ノ識性ニ知告スル者ニシテ、若シ吾人ノ識性ヲ感動セシメザルトキハ、唯音声又ハ文字タルニ過ギザル者ナリ、

○右ノ如ク天然ノ法則ト人間ノ法律トノ間ニハ相似タル所アレドモ、亦大ニ異ナル所アルコトヲ知ラザルベカラズ、人類ノ法律ハ有意ノ物ニ告クル命令ニシテ、其人ハ或ハ之ニ從ヒ或ハ之ニ背クコトアリ、而シテ法

律ハ之ニ背ク者アルガ為ニ消滅ニ歸スルコトナシ、天然ノ法則ハ命令ニ非ズシテ、天然不易ノ秩序ノ變セザル者ナリ、其秩序ノ不變ヲ表シ得ルヲ以テ之ヲ法則ト言フナリ、故ニ天然ノ法則ヲ破リ或ハ之ヲ廢止ストイフハ妄言ナリ、此ノ如キ語ヲ發スルハ、其人此法則中ニ真理ニ協ハザル所アルヲ見ルニ由レル者ナリ、然レドモ其真理ニ協ハズト思フ者ハ、造化ノ秩序混乱セルニ非ズシテ、吾人ガ其秩序ヲ表出スルニ其觀察ヲ誤マリタル者ナリ、天然ノ法則ハ萬物画一二歸スル者ニシテ、其中ニ格外ノ物アルコトナシ、

○人類ノ法律ハ人間社會ヲ離レテ別ニ存立スルコトナシ、天然ノ法則ハ造化全体ノ運用ヲ叙シタル者ニシテ、人間社會ハ唯其中ノ一少部分ナルニ過ギザルナリ、

#### 第十 天然ノ法則ヲ知ルハ實行ノ先導ナリ、

○凡ソ世間ノ事ハ一モ偶然ニ起ル者ナク、必ス一定ナル順序ニ循ヒテ起ル者ナリ、天然ノ法則ハ此順序ニ就キテ吾儕力了得セル所ヲ精密ニ叙述シタル者ナリ此天然ノ法則ヲ以テ吾等ノ行為ノ先導トセントスルニハ、吾等ノ知力ノ及ブ限リハ務メテ多ク此法則ヲ知ルハ必用ノコトナリ、  
○何人ヲ論セズ、一國ニ居住シテ其國ノ法律ヲ知ラザルトキハ、必ス困厄ニ罹ルベシ、若シ之ニ由リテ罰金禁獄又ハ絞罪ニ処セラル、コトアルモ、有識ノ人ハ此人ノ愚蒙ヨリ起リタルト言フベシ、是ト同シク世人若シ天然ノ法則ヲ知ラズシテ、此地球上ニ生活セントスルトキハ、其生命

ヲ稟クルモ長久ナルコト能ハズシテ、且ツ其間ニ常ニ苦惱ヲ感スルコトアルベシ、天然ノ法則ト人造ノ法則トノ差異ハ、唯天則ニ召喚審理ナクシテ直ニ現罰アルノミナリ、実ニ天則中ノ或ル者ヲ守ラサレバ、人類ハ半日モ生活スル能ハザルコトアリ、今日數千ノ人類ノ日ニ死亡シ、死亡セザルモ亦困苦ヲ窮ムルハ、畢竟ハ未ダ人類ガ造化ノ法則ヲ研究スルニ熱心ナラザルノ致ス所ナリ、

○前ニモ言シ如ク、工藝トイフ者ハ吾等ノ能ク天造物ノ性ヲ知リテ之ヲ製作シ之ヲ構造スルニ由リテ成ルナリ、凡ソ天造物ノ廣大ナル者及ヒ天則中ノ原因應効ノ連続ノ上ニハ、吾儕直チニ力ヲ及ボスコト能ハズト雖ドモ、此ノ如キ天造物ノ性力、及ヒ事件ノ起滅ノ順序ヲ了得スルトキハ、能ク其害ヲ避ケ其利ヲ享クルコトヲ得ベシ、

○吾儕ハ四時ノ順序ヲ轉倒シ草木ノ生長ヲ變改スルコト能ハズト雖ドモ、是等ノ事ニ付キ造化ノ順序ヲ知ルトキハ、之ニ從ヒテ耕種收穫ノ功ヲ為スコトヲ得ベシ、吾儕ハ己ノ力ヲ以テ風ヲ起スコト能ハズト雖ドモ、風ノ起ル時ハ其力ト方向トニ依リテ、船帆ヲ掛ケ風車ヲ旋轉セシムルコトヲ得ベシ、吾儕ハ雷ヲ緝捕スルコト能ハスト雖ドモ、避雷杆ヲ作り、雷ノ害ヲ避ケルコトヲ得ベシ、避雷杆ヲ造ラントセバ、先ツ雷ノ由テ生スル電気ノ法則ヲ熟知セザルベカラズ、諺ニ曰ク前知ハ預防ナリト、蓋シ天則ヲ知ルハ、吾儕力天造物ニ接スル際ニ起ルベキ事件ノ預防ナリ、

#### 第十一 學問サイエンストハ視察オブザベーショント試驗エキスペリメントト推理リゾニングトニ由リ

テ、天然ノ法則ノ知識<sup>ノウレ</sup>ヲ得タルヲ云フ、

○尋常ノ知識ト學問上ノ知識トハ其間ニ分界ヲ立ツルコト能ハズ、尋常ノ推理ト學問上ノ推理トノ如キモ亦然リ、精密ニ之ヲ言ヘバ、總テ精密ナル知識ハ學問上ノ知識ナリ、精密ナル推理ハ、學問上ノ推理ナリ、視察ト試験トハ學問ニ必要ノ者ナレドモ、亦民間常用ノ視察試験ト異ナルコトナク、只其研磨精審ヲ異ニスルノミナリ、今幼兒ニ新ナル玩具ヲ與フルトキハ、必ス其性ヲ檢シ其用ヲ試ムベシ、余儕ガ一物ヲ見ル毎ニ之ヲ視察試験スルハ亦之ニ異ナルコトナシ、

○然レドモ事物ヲ精密ニ視察スルニ慣ハザルノ人ハ、頗ル之ヲ以テ困難ナルコトト思フベシ、是ヲ以テ尋常ノ事實ニテモ之ヲ精密ニ視察スル人ハ蓋シ百人中ニ一人モ之ヲ見ザルナリ、其視察スルトイフハ、或ハ其事ト共ニ起リタル要用ナル事實ヲ遺漏スル者アリ、今二人訟庭ニ訴フル者アラシニ、二人共ニ誠実ノ者ナレドモ其言フ所互ニ矛盾スルコトアルヲ免カレズ、是レ其訟者ノ一人、或ハ双方共ニ、現ニ目撃セシ事ト、目撃セシコトヨリ推度セシ事トヲ混同スルニ因レル者ナリ、甲ノ訟者ハ、乙ガ己ノ財囊ヲ竊ミタリト言フ、甲ノ此ノ如ク言フハ、乙カ甲ノ傍ニ在リシトキ、甲ノ襖袋ニ其手ヲ觸レタルヲ見タルニ據レリ、然ルニ其實ハ甲ノ財囊ヲ竊ミシハ丙ニシテ乙ニハ非ズ、甲ハ全ク丙ノ竊ミシヲ認メザリシナリ、凡ソ練磨ナキ人ハ、自己ノ所見ヨリ推度セシコトト、真正ノ実見トヲ混合スルコト此ノ如キ者アリ、此事ハ老鍊ニシテ且ツ注意ノ深キ

人ニテモ、或ハ同一ノ誤ニ陥ルコトアリ、

○學問上ノ視察ハ、初メヨリ十分精密ニシテ、此ノ如キ空想ノ推度ニ陥ラザル者ナリ、

○試験トハ吾儕、故ラニ天造物ヲ或ハ聚合シ、或ハ分離シ、或ハ其状態ヲ變シテ其際ニ生スル事實ヲ視察スルヲ言フナリ、故ニ學問上ノ試験トイフハ人エヲ加ヘテ精密ニ知リタル學問上ノ視察ナリ、

○水ノ時アリテ凍ルハ、尋常ノ視察ヲ以テ知ル所ナリ、若シ水ノ變化シテ氷トナルベキ状態ヲ精密ニ檢定スルトキハ、學問上ノ視察トナルナリ、木片ヲ水ニ入レテ其水上ニ浮ブヲ知ルハ、最モ尋常ノ試験ナリ、其水上ニ浮ブ時ニ於テ、木片ガ其同重量ノ水ヲ排擠スルヲ知ルハ、學問上ノ試験ナリ、

○學問上ノ推理ト尋常ノ推理トノ間ニ差異アルコトハ、恰モ學問上ノ視察ト試験ト、尋常ノ視察ト試験トノ間ノ差異ノ如シ、其差異トイフ者ハ學問上ノ推理ハ、其精密ナランコトヲ求ムルノミナリ、精密ニ推理スルコトノ難キハ亦精密ニ視察スルノ難キト相同シ、

○學問上ノ推理ニ於テハ、總テ各個ニ視察セル事實ヲ聚メテ總共ノ規則ヲ立ツルヲ法トス、已ニ此規則ヲ立タル上ハ、此規則ヨリ推シテ決定ヲ為スコトハ、尋常ノ推理ト異ナルコトナシ、今小兒ノ大理石ハ堅キ物ナリト言フトキ、彼已ニ、一個ノ大理石ヲ視且ツ之ニ觸レタルヨリ推シテ大理石ノ全類ニ及ボシタル決定ニシテ、此推理ノ法ヲ學術ノ語ニテ

○<sup>○</sup>○<sup>○</sup>○<sup>○</sup> 帰納法インダクシヨント云フ、若シ此小兒、其齒ヲ以テ大理石ヲ嚙ムコトヲ肯ンセザルトキハ、彼或ハ自識シ、或ハ自識セズシテ、大理石ハ甚堅クシテ人ノ齒ヲ破ルニ足ルトイヘル総共ノ規則ヨリシテ、帰納法ノ反面ナル演澤法○○<sup>○</sup>○<sup>○</sup>ヲ行ヒタルナリ、

○是等ノ推理法ハ、洛日克ノ書ニ於テ詳ニ之ヲ論シタルヲ以テ宜シク就テ之ヲ學フベシ、今此篇ニハ、天然ノ法則トハ、天造物ノ性質ニ付テ行ハル、総共ノ規則ニシテ、無數ノ視察ト試験トヲ聚メテ得タル者、即チ視察ト試験トヨリ帰納シテ得タル者ナルコトヲ知ルヲ以テ足レリトス、凡ソ學問上ノ理論及ヒ習行トノ結果ハ、皆此総共ノ規則ヨリ演澤シタル推理ノ產物ナリ、

○故ニ學問上ノ考察ト常人ノ考察トハ、世人ノ想像スルガ如ク全ク相表裏スル者ニ非ズ、學問上ノ考察ハ、常人ノ考案ノ完全トナリタル者ナリ、學問上ノ推理トハ、尋常ノ推理ヲ最モ精密ニ為シタル者ナリ、尋常ノ知識モ、其精密ト完全トナル度ニ從ヒテ、學問上ノ知識トナルコトヲ得ベシ、

○故ニ學問ニ入ルノ道ハ、尋常ノ知識ヲ得ルノ上ニ在ルナリ、吾儕學問上ノ知識ヲ得ント欲セバ、先ツ丁寧ナル視察ト試験トヲ用ヒテ尋常ノ知識ヲ開張セザルベカラズ、又精細ニ推究シテ天然ノ法則即チ規則ノ結果ヲ論定セザルベカラズ、又此規則ヨリシテ精密ニ推理シ、以テ造化ノ現象ニ真正ノ解説ヲ下サバルベカラズ、此ノ如クシテ始メテ人間日用行為

ノ先導トナルニ足ルナリ、

第三篇 物質 有形物マテリアル 有無オノオノセクト [甲] 鑛物ミネラル ホヂース

第十二 水 (天造物) ウオー タル

○天造物中ニ於テ、吾儕力最モ常ニ見ル所ノ物ハ水ナリ、水ハ何人ヲ限ラス日ト之ヲ用フルヲ以テ人ハ、之ニ就テ其大畧ヲ知レリ、即チ水ニ就テ尋常ノ知識ヲ有セリ、然レドモ、衆人ハ猶水ニ就テ注意セザル部分多カルベシ、凡ソ水ニ就テ知識ヲ得ンコトヲ欲セザルノ人ハ日々之ヲ用フルモ、水ノ性力、及ヒ其發現スル天然ノ法則ヲ知ラザルヲ以テ其淺易ナルコトモ亦了解セザル者多シ、余儕因テ格物ノ學ヲ講スルノ初メニ於テ、首トシテ水ヲ説カント欲スルナリ、

第十三 一杯ノ水

○今人爰ニ硝子杯ニ半分ノ水アランニ、此硝子杯ハ人造物(五章)ナリ、詳ニ之ヲ言ヘバ、硝子杯ハ、工人ガ天造物ヲ聚メ、之ヲ熱シ、之ヲ鎔シテ硝子ト為シ、以テ此形ヲ造成シタル者ナリ、水ハ之ニ異ニシテ天造物ニシテ、川池泉等ヨリ得タル者ナリ、或ハ檐溜ヨリ得ルコトモアリ、

○水ハ許多ノ特性ベキリアアリ、其一ニヲ舉クレバ水ハ透明ニシテ吾儕常ニ之ヲ透視スルコトヲ得、之ニ觸ルレハ冷ヲ感シ、能ク渴ヲ止メ、又砂糖ヲ溶解ス、然レドモ是等ノ特性ハ、首トシテ述フルニ必要ナル者ニ非ザルナリ、

第十四 水ハ空處スエヲ占領シ、物ニ抵抗シ、重量ヲ有シ、且ツ其受ケ

タル運動ヲ他ニ傳送ス、故ニ有形物中ノ一ナリ、

○吾儕カ現ニ見ルガ如ク、水ハ硝子杯ノ中ニ満チテ其深サノ半ニ上レリ、故ハ空処スベヲ占領スルコトヲ知ル、即チ其容積ホリユヲ有スルコトヲ知ル、今若シ此杯ト殆ント同シ大サナル杯ヲ此杯中ニ入ル、トキハ、其底ノ水面ニ達スルトキ、其杯ニ抵抗シ、水ノ幾許ヲ出スニ非ザレバ此杯全ク入ルコト能ハズ、又高処ヨリ水中ニ投ズル人、其水面ニ達スルトキ、強キ搪撃ヲ受クベシ、是レ水ガ低抗力レジスヲ有スルノ證ナリ、

○今モシ杯中ノ水ヲ出シ盡ストキハ、杯ノ甚タ輕クナリタルヲ覺ユ、是水ノ重量ウエヲ有スルノ證ナリ、

○又若シ此杯中ノ水ヲ以テ、弱ク支ヘタル物ノ上ニ傾クルトキハ、水ハ此物ヲ打落スベシ、是ニ由リ、水ハ運動セシムルトキハ、其運動モーションヲ他物ニ傳送トランスシ得ベキコトヲ知ルナリ、此ノ如ク自然ニ発スル所ノ現象フエナハ水ガ其原因トナリテ生スル所ノ應效ナリ、故ニ此ノ如キ者ヲ名ケテ水ノ性フロバチズ（四章）ト云フ、

○凡ソ物ノ空処ヲ占領シ、抵抗ヲ為シ、重量ヲ有シ、他物ニ觸レテ之ニ運動ヲ傳送スル物ヲ総テ物質マッ或ハ有形体フィアルト云フ、故ニ水モ亦物質ノ一種ナルコトヲ知ルベシ、

#### 第十五 水ハ流動体リコナリ、

○水ハ容易ニ空処ヲ占領スレトモ、一定ノ形ヲ有セズ、唯之ヲ盛りタル器ノ形ニ從ヒテ其形ヲ為ス、若シ其杯圓柱形ナルトキハ、此杯ヲ直立ス

レバ、水ノ外面ノ形ハ円形ヲ成ス、又少シク其杯ヲ傾ムクレバ、水ハ些少ノ破綻ナクシテ、楕円形ヲ為スナリ、又如何ナル器ニ入ル、モ、水ハ常ニ其器ノ内邊ニ密接シテ其中ニ充ツルナリ、若シ指ヲ水中ニ入レテ輪轉スルモ、殆ト其妨碍ヲ覺エザルガ如シ、指ヲ水中ヨリ抽キ出スモ、別ニ水中ニ孔穴ヲ留メズ、水四方ヨリ進ミ来リテ指ノ孔ヲ填ムルナリ、吾儕ハ一掬ノ水ヲ擧グルコト能ハズ、指ノ間ヨリ漏出スレバナリ、又水ヲ平地ニ積堆スルコト能ハズ、水ノ全部容易ニ流動スレバナリ、今若シ水ヲ盛りタル杯ヲ少シク傾ケテ、水ノ表面、杯ノ縁ヨリ上ニ出ツルトキハ、此水ハ支撐スル物ナキヲ以テ直チニ流出シ、地ニ落チテ擴散シ、最モ低キ所ニ歸スルカ、或ハ地ノ罅隙ニ滲入スベシ、

○水ハ此ノ如ク常ニ滑脱スト雖トモ、亦幾何カ相抱合スルノ性アリ、今モシ指ヲ以テ水面ニ觸ル、トキハ、些少ノ水ハ其指ニ粘着スルナリ、モシ其時指ヲ徐々ニ水中ヨリ引擧クレバ、指ニ粘着シタル水ハ、細柱トナリテ直立シ、暫時指ヲ離レザルヲ見ルナリ、又早朝露多キトキ、菜葉又ハ草葉ニ点スル球形ノ水滴ノ相互ニ聚合スルヲ見レバ、又其抱合ノ性アルコトヲ知ルベシ、

○凡ソ物ノ中ニ於テ、其全体ノ諸部ノ容易ニ運動シ、之ヲ器物ニ盛レバ、常ニ器ノ内邊ニ密接シテ充滿シ、器ニ盛ラサルトキハ直チニ走散スル物ヲ流動体フロトイフトイフ、流動体ノ中ニ於テ、其諸部ノ飛散セズシテ互ニ相抱合スル物ヲ液体ロイト云フ、故ニ水ハ液体ナルコトヲ知ルナリ、

第十六 水ハ之ヲ壓搾スルコト難シ

○水ハ他ノ物体ノ如ク他物ノ来リテ侵入セントスルトキハ之ニ抵抗スルノ性アルコトハ已ニ之ヲ言ヘリ、然レドモ諸物中抵抗力アル物ニテモ之ヲ壓搾スレバ其容積ヲ縮小シ得ベキ者多シ、水及ヒ其他ノ液体ニ至リテ、之ヲ壓搾スルモ其容積ヲ縮小スルコト能ハズ、即チ液体ノ容積ヲ些少ニテモ減少セントスルニ非常ノ壓力ヲ要セザルベカラザルナリ、水ノ如ク柔順ナル物ニシテ、其壓搾シ難キコトハ、鐵ヨリモ甚シトイフハ頗ル奇異ノコトナルベシ、然レドモ水ノ柔順ナルガ如ク見ユルハ、其容易ニ形ヲ變スルニ由ルナリ、若シ水ヲシテ其形ヲ變セザラシムルトキハ、之ヲ壓搾スルノ極メテ難事ナルコトヲ知り得ベシ、今水ヲ緊密ナル器中ニ入レ、一寸方面<sup>インチ</sup>二十五斤<sup>ポンド</sup>ノ壓力ヲ加フルモ、只其容積ノ二萬分一ヲ減スルニ過ギザルノミ、爰ニ水銃ノ例ヲ舉ケン、今水銃ノ内部ノ圓筒ニ適合スル円栓アランニ、水ヲ筒中ニ蓄フル為メニ水銃ノ此角ヲ水中ニ入レテ円栓ヲ引キ上クベシ、其時銃ノ此角ヲ上ニ向ケテ、些少ノ水ノ出ルマデ、其圓栓ヲ推シ以テ其中ニ水ノミアルコトヲ證シ、其後指ヲ以テ其此角口ヲ固塞シ、夫ヨリ円栓ヲ前ニ推進セントスルトキハ、非常ノ力ヲ用ヒサレバ之ヲ進ムルコト能ハズ、若シ此円栓動クコトアルトキハ、是水ノ栓ニ傍ヒテ漏出スルニ由レリ、今若シ此円栓一寸方<sup>インチ</sup>ノ表面アリテ、緊密ニ圓筒ニ適シ、円筒中ノ水ノ深ガ一寸ナルトキハ、其深サノ十分ノ一ヲ減セントスルニハ、三萬斤ノ壓力ヲ要セザルベカラザルナリ、

第十七 重量<sup>〇〇</sup>トノ義

○今重量ノ性ヲ説クベシ、余儕物ヲ地上ヨリ引揚ゲ、又ハ之ヲ手中ニ保持スルニ、カヲ出スコトヲ覺エルモノヲ名ケテ重量アリト云フ、又地上ヨリ高キ所ニ物ヲ支持シ置キ、其支ヘタル者ヲ取除クルトキハ、其物ハ地上ニ落ルナリ、余儕此物ヲモ亦重量アリト言フ、爰ニ地トイフハ、地球ノ表面ヲ指スナリ、凡ソ重量アル物ハ、地上ヨリ離レタルトキ、之ヲ支フル物ナケレバ、直チニ地上ニ落ツ、故ニ余儕ハ總テ重量アル物体ハ、此如クニ落チントスルノ傾アリト言フナリ、此重量ノ試験ヲ為サントスルニハ、何レノ地ニ於ケルモ、毫モ差異アルコトナシ、夫レ雨ハ水滴ナリ、風無キノ時ニ落ル驟雨ノ状ハ、英國ニ於テ之ヲ見ルモ新西蘭<sup>ニュージーランド</sup>ニ於テ之ヲ見ルモ其差異ヲ見ス、即チ雨滴ハ常ニ余儕ト對址ノ地ニ在ルコトヲ知ルナリ、故ニ新西蘭ト英國ト同時ニ驟雨ノ降ルコトアルトキハ、其雨滴ハ互ニ相反對セル方向ニ落ルコトトナルナリ、即チ兩地ノ中間ニ在ル地球ノ中心ニ向フテ落ルナリ、總テ重量アル物ハ實ニ地球ノ中心ニ向ヒテ落ルノ傾アリ、即チ其物体ヲ支フルコトナキトキハ、雨点ノ如ク、常ニ地ニ落ルナリ、余儕カ物ニ重量アリト言フハ、此落ントスルノ傾ヲ言フナリ、物ヲ重シトイフハ、モシ其物ヲ支持セザルトキハ、地上ニ落ルヲ期スベシト言フニ同ジ、或ハ之ヲ支持スルトキハ、カヲ出サザルベカラズト言フニ同シ、

第十八 重力<sup>〇〇</sup>トノ義

引重力<sup>〇〇</sup>トノ義

○重力トハ元來重量ト全ク同意ナリ、即チ重量アル物ノ、地ノ中心ニ向ツテ落ルヲ云フナリ、然ルニ近時ニ至リ、重力ハ重量ヨリ廣キ意味トナレリ、其故ハ近來許多ノ精密ナル視察ト試驗トニ由リ造化ノ普通ノ法則ヲ知り、凡ソ有形ノ諸物ハ、常ニ他ノ有形ノ諸物ニ接近セントスルコト、拾モ猶雨滴ノ地上ニ落ルニ同ジキコトヲ證シ、又二個ノ物体ハ、其物性ノ如何ニ関セズ、他ニ之ヲ阻碍スル物ナキトキハ、必ス相接近セントスル者ナルコトヲ證セリ、

○此理ヲ更ニ明白ニセンガ為メニ、吾儕今此宇宙間ニ其円徑一寸ノ十分一ナル水滴ノ二球ノミアリト想像スベシ、此二水球ノ容積ハ互ニ相同ジク、其物質ノ分量モ亦同ジ、然ル時ハ此二滴ノ水、其間何程相離ル、トモ、必ス互ニ相接近トシ、其相近クニ及ビ其進行ノ速度漸々ニ増加シ、遂ニ其距離ノ正中ニ於テ、雨滴互ニ會合スベシ、若シ此雨滴中ニ於テ、一滴ノ容積、他ノ滴ノ容積ヨリ大ナルトキハ、其大ナル者ハ其動クコト小ナル者ヨリ遅クシテ、二滴會合ノ點ハ、必ス大ナル者ノ方ニ近カルベシ、今若シ一方ノ水滴ノ大サ地球ノ如ク、他ノ一方ハ元ノ如ク雨滴ノ如ク小ナルトキハ、其地球大ノ者ハ、其小滴ノ方ニ向ツテ動クコト甚々微小ニシテ、殆ント覚知スルコト能ハサルベシ、故ニ其状ハ、大ナル者全ク動カズシテ小ナル者ヲ引寄スルガ如ク見ユルナリ、是則チ一滴ノ雨點ノ、一英里ノ距離ニアル雲際ヨリ地上ニ落ル時ノ如シ、此時ハ地球モ亦此水滴ニ向ツテ、両物ノ中心ヲ繋ク直線上ニ於動クコト、水滴ガ地球ニ

向ツテ動クニ同ジ、唯此両物ガ其線上ニ動クノ多少ハ、其両物ガ含有セル物質ノ多少ト轉比例イソペネネリ、フヲ相為ス者ニシテ、物愈多ケレバ、其動クコト愈少ナシ、即チ三合計ノ規則ルルル、オラ、ニ合フ者ニシテ、即チ地球ノ含有セル物質ノ少量ノ、一滴ノ水ノ含有セル分量ニ於ケルハ、猶一英里ノ距離ト、地球ノ動ク距離トノ如シ、今此合計ヲ算ヘントスルニ、此第四語（地球ノ動ク距離）ハ実ニ覚知シ能ハザル程ノ細微文数ナルコトヲ知ルナリ、故ニ実地ノ測算ニシテハ、降下セル物ニ對シテ、地球ハ不動ナリト看做シテ可ナリ、其ハ降下物ノ物質ハ、地球ノ物質ニ比スレバ甚少量ニシテ算スルニ足ラザレバナリ、

○吾儕ノ知ル所ニ據レバ、水ニ就テ真正ナル事ハ其他ノ物ニ就キテモ亦皆真正ナリ、是ニ依リ、吾儕ハ、凡ソ萬物ハ皆重力ヲ有スト言フコトヲ得ルナリ、語ヲ易ヘテ言ヘバ、物体ハ、其二個常ニ互ニ相接近セントシ、其接近スルニ當リ、多量ノ物質ヲ含有セル物ノ速度ハ、物質少キ物ノ運動ヨリ舒緩ナリ、又其運動ノ速度ハ二物ノ相近ヅクニ從ヒ、益々其速度ヲ進ムル者ナリ、

○余儕力通常引重力ノ法則トイフ者ハ、右等ノ類ノ視察シタル事實ノ完全ナル定論ナリ、（小学ノ格物書ヲ參看スベシ）、

第十九 重量ノ原因 ウエイト 引力アトラク即チ原力ホド

○余儕ハ、物体ニ重量アルノ理ヲ知ルコト能ハズ、凡ソ物体ノ地ニ落ルハ、引重力ノ法則アルガ為メニ非ズ（九章ヲ參看スベシ）物体ノ重力ハ、

物体ノ落ル所以ヲ解説スル者ニ非ズ、已ニ述ベタルガ如ク、重力（グレイビティ）ハ唯重量ノ名ヲ言ヒタル者ナリ、引重力ノ法則トハ唯物体ノ相互ニ接近スルノ状態ヲ言ヒタル者ニシテ、其何ノ故ナルコトヲ説キタル者ニ非ザルナリ、

○重力ヲ稱シテ又之ヲ引力（アトラクシヨント）ト云フ、又地球ハ物体ヲ引クガ故ニ、物体ハ地上ニ落ルト云フナリ、然レドモ「引ク」トイフ語ハ唯「其方ニ依ル」ノ意味ニシテ、「引力」トイフハ唯「其方ニ引寄ルノ力」トイフノ義ニ過ギズ「二物互ニ相引ク」トイフハ、「二物互ニ相接近ス」トイフノ意ニシテ、共ニ唯其事實ヲ記シタルノミノ者ニシテ、其原因ノ如何ンヲ知ラザルコトハ猶前ニ同シ、是ニ付キテ精神ノ注意ヲ加ヘサレハ却テ事實ヲ誤ルコトアリ、例ヘハ引力トイフトキハ、繩又ハ鈎ニテ引クコトノ思想ヲ起シ、物体ノ相接近スルニモ亦見ルベカラザル機具ノ存在スルコトアラントノ想像ヲ生スルコトアリ、

○余儕引重力ヲ謂ヒテ原力（フォース）トイフ、原力ノ字常ニ用フル所ナレバ、其義ヲ了解セサルベカラズ、人若シ或ル物ヲ推シ、或ハ之ヲ引キ、或ハ之ヲ壓シ、或ハ之ヲ動カストキハ、原力ヲ用フトイフ、角觥者ノ原力ハ、其相搏スルニ因ヲ知り、投球者ノ原力ハ、球ノ運動ニ由リテ之ヲ知ルナリ、

○故ニ原力トハ或運動ヲ起サントシ、或ハ推壓ヲ為サントスルトキニ、是力原因ヲ為スカナリ、重力トハ、吾身体ニテ物ヲ支フルトキ吾身ニ覺

ユル推壓ノ原因ナリ、又是等ノ物ヲ放ツテ自由ナラシムルトキ、其物ガ地球ノ中心ニ向ヒテ動くノ原因ナリ、然レドモ此ノ如キ現象ヲ發スルノ原因ハ余儕終ニ之ヲ知ルコト能ハザルナリ、

○引力原力等ノ語ハ、或ハ之ヲ誤用シテ、天造ノ実物ノ外ニ存在セル者トシ、或ハ余儕カ視察セル原因応効ノ連続ノ外ニ在リトスル者アリ、是等皆謬見ニシテ、所謂引力原力ハ、実ハ或ル現象ノ、知ルベカラザル原因ノ名タルニ過キザルナリ、故ニ學問ノ初メニ於テ、此等ノ件ニ明白ナル了解ヲ得ンコトヲ勉ムルハ、必要ノ事ナリ、

○凡ソ兩個ノ物ヲ許シテ自由ニ運動セシムルトキハ、漸々互ニ相接近シ、其接近スルニ從ヒ、其進行ノ速度モ漸々ニ増加シ、兩物相會スルノ前ニ至レバ、其各物ノ進行セル道路ノ長短ハ、其物ヲ含有セル物質ト轉比例ヲ為スト云フコトハ、是即チ天然ノ法則ナリト言フコトヲ知ラサルベカラズ、引重力トハ即チ此ノ如キ事實ノ通稱ナリ、原力トハ、此事實ニ就キ、余儕カ知ル能ハザル所ノ原因ニ付スルノ名ナリ、是等ノ事實ヲ知ルコトハ此學ニ於テ必要ノ事ナレドモ名ノ如キハ単ニ名目ニシテ事實ニ非ザレバ、甚シキ要用ノコトニ非ザルナリ、

## 第二十 氷ノ重量ハ其容積（ヴォリューム）ト相比例ス

○余儕今姑ク重量ノ全体ヲ措テ、特ニ水ノ重量ノミヲ説クベシ、余儕水ヲ充チタル杯ヲ指シテ空杯ヨリ重シト言フ、是レ水ヲ充チタル杯ヲ擧クルニハ、空杯ヲ擧クルヨリ多ク力ヲ用フルガ故ナリ、此杯水ノ分量愈多

キトキハ、之ヲ擧クルノ力モ亦愈大ナリ、若シ小桶ニ水ヲ満テ、之ヲ擧ケントスルトキハ、其力ヲ用フルコト更ニ大ナリ、更ニ大桶ヲ水ヲ湛フルトキハ、之ヲ動カスコトモ亦難カルベシ、是ニ由テ觀レバ、大容積ノ水ハ其重量大ニシテ、小容積ノ水ハ、其量小ナルコト至テ明白ナリ、今一滴ノ水ヲ掌上ニ載ルトキハ、少シモ其重量アルコトヲ知ラズ、然レドモモシ此水滴ヲ掌上ヨリ翻ヘセバ、忽チ地上ニ向ツテ落ツ、然レハ此一滴モ亦重量アルハ明カナリ、今此水滴千個ヲ合スレバ、以テ杯ニ満タスコトヲ得ベシ、一杯ノ水ニ重量アルコトヲ知レバ、一滴ノ水ノ量ハ、一杯ノ水ノ千分一タルコトヲ知り得ベシ、余儕ガ力ヲ用フルヲ覺エルハ、重量ヲ測ルノ疎法ニシテ、重量ニ就キテ微小ノ差異ヲ比較スルコト能ハズ、又極小ノ重量ヲ知覺スルコト能ハズ、若シ重量ヲ精密ニ知ラント欲セバ、其為ニ造リタル精密ノ器具ヲ用ヒザルベカラザルナリ、

## 第二十一 重量ノ測定 天平

○其器具トイフハ即チ天平バランスニシテ、雜貨店ニテ用フル者はナリ、此器ハ一ノ細杆ニシテ、小柱ヲ以テ其中央ヲ支ヘ、自由ニ動くコトヲ得シメ、其兩端ニ各々銅皿ヲ掛ケタル者ナリ、此銅皿兩ツナガラ空虚ナルトキハ、此杆ハ正ク水平ヲ保テリ、若シ銅皿ノ一方ニ重量アル物ヲ入ル、トキハ、此皿ハ直ニ降下シ、他ノ皿ハ却テ上ニ昇ルヲ見ル、然レドモ其空皿ヲ推下クルトキハ、再ヒ杆ヲ水平ニスルコトヲ得ベシ、是ヲ水平ニスルノ力ハ、他ノ皿ニ入レタル物ノ重量ノ大小ニ從ヒテ同ジカラズ、例ヘハ他ノ

皿オンスニ一兩ノ物ヲ載セタルトキハ、一指ニテ之ヲ引上クルコトヲ得ベシ、ポンド一斤ノ物ナルトキハ、更ニ大ナル指ノ力ヲ要シ、十斤ノ物ナルトキハ、腕ノ力ヲ用ヒザルヘカラズ、五十斤ノ物ヲ擧クルニハ更ニ多クノ力ヲ要シ、二百斤ニ及ブトキハ、空皿ヲ引下ゲントスルモ、容易ニ之ヲ動カスコト能ハズ、

○手ヲ以テ空皿ヲ推下グルノ代リニ、重量アル物ヲ其上ニ置クトキ、若シ其物ノ重量、他皿ノ上ニ在ル物ト其重量ヲ齊フスルトキハ、杆ハ恰モ其水平ヲ保ツコトヲ得ベシ、一方ノ皿ガ地球ノ中心ニ向ツテ動カントスルハ、他ノ一方ノ皿ニ異ナルコトナシ、故ニ若シ一方ノ皿、他ノ皿ヲ或ハ引下スコト能ハザルトキハ、兩皿ハ自然ニ平均ノ勢ヲ保ツコトアリ、譬ヘハ同シ臂力ノ小兒ガ互ノ物ヲ引キ合フト同ジ、其力ノ均シキ間ハ、孰レモ他ノ者ヲ引寄スルコト能ハズ、若シ少シニテモ一方ノ者ニ力ヲ添ユルトキハ、忽チ他ノ者ヲ引寄スルコトヲ得ベシ、

## 第二十二 同一ノ事ニ於テ、同容積ノ水ノ重量ハ常ニ同一ナリ 塊團マツ 密度デシ

○度分ヲ盛リタル二個ノ細キ硝子管ヲ天平ノ皿ニ載セテ、能ク平均ノ勢ヲ整ヘ、其後二滴ノ水ヲ一個ノ管ニ入ル、トキ、一天平善良ナルトキハ、此管ヲ載セタル皿ハ少シク降下スベシ、若シ此管ニ盛リタル度分精密ナルトキハ、一管中ニ幾何ノ容積ノ水ヲ入レ、其杆ヲ水平ニセントスルニハ、他ノ管ニ亦同様幾何ノ容積ノ水ヲ入レサルベカラザルコトヲ定ムル

コトヲ得ベシ、是ヲ同一ノ事状ニ於テ同容積ノ水ハ、常ニ同重量ナリト  
言フナリ、

○第十八章ニ於テ、凡ソ物体ハ、相互ニ或ル速度ヲ以テ接近シ、其速度  
ハ物体ニ含有セル物質ノ分量ト轉比例ヲ為スコトヲ説キタリ、

速度ベロシティ、オ  
ス、オ、ス、オ、ストハ物体ガ或ル時間ニ於テ經過セル距離ヲ以テ測定ス

ル速サナリ、例ヘバ爰ニ二物アリテ、其一ハ一秒時ニ一尺ノ距離ヲ

經過シ、他ノ一ハ同時間ニ二尺ヲ經過スルトキハ、第二ノ物ヲ以テ、

大ナル速度ヲ具スト言フナリ、

然ルニ此物質ノ分量ハ如何ンシテ之ヲ測ルベキ、其占領セル空處即チ容  
積ヲ以テ之ヲ測ルベキヤ、將タ其重量ヲ以テスベキヤ、凡ソ諸物体ノ容  
積ハ他ノ物体ノ壓搾ヲ受クルトキハ、其大小ヲ變ジ、殊ニ熱ヲ受クルト  
キハ、其變化最モ著シ、重量ニ至リテハ、之ヲ異ニシテ、地球ノ表面ノ  
同點ニ於テハ、同一ノ物ハ常ニ同一ノ量ヲ保テリ、故ニ吾儕、物ノ重量  
ヲ以テ、其中ニ含有セル物質ノ分量ヲ測定スルナリ、此理ニ由リテ、凡  
ソ同重量ノ物体ハ、其容積ノ大ナル者ハ、其割合ニ比スレバ物質ノ分量  
少ナク、其容積小ナル者ハ物質ノ分量多シ、此容積ト重量トノ比例ヲ名  
ケテ密度トイフ、

○右ノ如ク水ニ付キテ論シタル理ハ、他ニ有形物ニ於テモ亦同一ノ理ナ  
リ、今モシ右ノ一管ヲ空虚ニシ（一管ハ本ノ如ク水ヲ貯ヘ置キ）再ヒ之  
ヲ皿上ニ置キ、更ニ小ナル鉛片ヲ取りテ其中ニ入ル、トキハ、再ヒ横杆

ヲシテ水平ナラシムルコトヲ得ベシ、故ニ此鉛片ハ恰モ若干ノ水ノ重量  
ト同一ナル重量ヲ有スルナリ、鐵片又ハ真鍮片ト鈞合フモノハ水ノ重量  
鉛片ノ重量ト同一ナル重量ヲ有セルナリ、然レドモ鉛鍍真鍮ノ片ハ、之  
ト平均セル水ノ容積ニ比スレバ甚タ小ナリ、故ニ此等ノ金類ノ密度、即  
チ同容積中ニ含有セル物質ノ分量ハ、水ニ比スレバ、甚大ナルコトヲ知  
ルベシ、

○商業上ニ用フル所ノ重錘ウェイトハ、鉛鐵又ハ真鍮ノ片ニシテ、一定セル水ノ  
容積ノ重量ト齊シク作りタル物ナリ、故ニ一加侖ガロンノ水ノ重量ハ十磅ポンドニシ  
テ、一芬多ピントノ水ハ一磅ト其四分ノ一ノ重量アリ、

第二十三 各種ノ実形物ハ、其容積同ジキモ、其重量ハ同ジカ  
ラズ 各種ノ物ノ密度ハ各相同ジカラズ、

○今述べタル事実ヲ一層明詳ニ説クベシ、已ニ言ヒタルガ如ク、一芬多  
ノ升ハ、一磅ト其四分ノ一ノ重量アル水ノ占領スベキ空處ヲ有ス、此空處  
ハ即チ此重量ヲ有セル水ノ容積ナリ、然ルニ今通常ノ一磅ノ錘ト其四分  
一ノ錘トヲ一芬多ノ升中ニ置クトキハ其中ニ充滿セズシテ、只升中空處  
ノ小部分ヲ占領スルニ過ギズ、故ニ一磅四分ノ一ノ重サアル鉛鐵真鍮ノ  
容積ハ同量ノ水ノ容積ヨリ甚小サシ、即チ金類ハ水ヨリ其質甚タ緻密ナ  
ルナリ、金類ト水ノ同容積ヲ比較スレバ、金類ハ水ヨリ大ナル重力ヲ有  
スルナリ、又一個ノ杯ニ水ヲ半分充タシメ、此水ノ上面ヲ杯ノ邊ニ標記  
シテ之ヲ天平ノ皿ニ載セ、他ノ皿ニハ錘ヲ載セテ其平均ヲ得シムベシ、

次ニ此水ヲ去リ、杯ヲ乾カシテ、砂ヲ其中ニ入レ、前ニ標記シタル面マ  
デ充タシムルトキハ、此沙ノ容積ハ水ノ容積ト相同シ、然レドモ以前ノ  
錘ハ此沙ト平均ヲ為スコト能ハズ、若シ其平均ヲ得シメントスルニハ、  
更ニ錘ノ量ヲ加ヘザルコトヲ得ス、故ニ同シ容積ヲ以テ比較スルトキハ、  
沙ハ水ヨリ重キコト明カナリ、又沙ヲ去リテ更ニ鋸屑ヲ入ルトキハ、水  
ト平均シタルトキヨリ、錘ノ重量ヲ減シテ初メテ其平均ヲ保ツコトヲ得  
ベシ、故ニ同シ容積ヲ以テ比較スルトキハ、鋸屑ハ水ヨリ軽キコトヲ知  
ルベシ、更ニ此試験ヲ用フルトキハ、酒精、油等ハ水ヨリ軽ク、蜜ハ水  
ヨリ重ク、水銀ハ水ヨリ大ニ重キコトヲ知り得ベシ、

#### 第二十四 輕重ノ意義

比重○<sup>○</sup>ヘシヒツク  
アラフヒチイ

○余儕常ニ粗畧ニ輕重トイヘル語ヲ用ヒ、其容易ニ堤擧スベキ物ヲ輕シ  
ト云ヒ、堤擧シ難キ物ヲ重シト言フ、又風ノ為メニ散乱セル沙ヲ輕シト  
云ヒ、木塊ヲ重シト云フ、然レドモ已ニ述ベタルガ如ク、沙ト木ト其容  
積同シキトキハ、沙ハ重キ物ナリ、此重複ノ意義ヲ除カンガ為メニ比重  
トイフコトヲ定ム、今或ル温度ト壓力トヲ受ケ居ル水ノ一定ノ容積ノ重  
量ト、或ル他ノ液体固形体ノ物ノ一定ノ容積ノ重量トヲ比較シタル者ヲ  
比重ト云フ、水ヲ一位トスルトキハ、水ト同容積ニシテ二倍ノ重量アル  
物ハ、其比重ヲ二トシ、三倍アル物ハ、三トシ、四倍半アル物ハ、四、半  
トス、故ニ液体固形体ノ物ノ比重トハ、水ノ密度ト相比例シタル密度ヲ  
標スル者ナリ、鋸屑、油、酒精等ハ水ヨリ低度ノ比重ヲ有シ、蜜、沙、水

銀等ハ水ヨリ高度ノ比重ヲ有ス、此義ニ由リテ、前ノ三物ヲ輕シト言ヒ、  
後ノ三物ヲ重シト言フナリ、

#### 第二十五

水ヨリ高度ノ比重ヲ有スル物ハ水中ニ沈ミ、低度ノ  
比重ヲ有スル物ハ水上ニ浮ブ、

○今二杯ノ水アランニ、其一ニ沙ヲ投シ、其一ニ鋸屑ヲ投スルトキハ、  
其狀如何、沙ハ水底ニ沈ミ、鋸屑ハ水上ニ浮フベシ、更ニ其水ヲ攪動ス  
ルモ、終ニ沙ハ水底ニ沈ミ、鋸屑ハ水上ニ浮フベシ、故ニ其同容積ヲ比  
較シ、水ヨリ輕キ物ハ浮ビ、水ヨリ重キ物ハ沈ムナリ、又油ヲ水ニ加フ  
レハ浮ビ、色彩セル酒精ヲ水ニ注ケハ又浮ブ、是ニ反シテ蜜及ヒ水銀ハ  
水底ニ沈ミ、鐵屑ノ如キモ亦沈ムハ皆此理ナリ、

余儕鋸屑ノ常ニ水ニ沈ムヲ見ル、是レ鐵ハ水ヨリ重キガ故ナリ、今爰ニ  
薄キ鋸葉ノ片アリ、之ヲ水ニ投スルトキハ如何、此片ハ同容積ノ水ヨリ  
重キガ故ニ、忽チ水中ニ沈ムナリ、

○然ルニ今鐵葉ヲ以テ造リタル箱ヲ取テ之ヲ水中ニ投スルトキハ、其箱  
ハ全ク水底ニ沈マズ、其頭ヲ水上ニ浮ブコト猶木コルケ榎ノ如シ、此事頗ル人  
ヲ惑ハシム、吾儕ハ已ニ鐵ノ水ヨリ重キコトヲ明白ニ認メタリ、然ルニ  
今鐵葉箱ノ水上ニ浮ブハ、天然ノ法則ノ外ノコトナルカ、蓋シ然ラザル  
ナリ、余儕ガ説ク所ハ、何物ニテモ、其容積、水ノ同容積ヨリ輕キトキ  
ハ、皆水ニ浮ブト言フコトナリ、今此箱ノ重量ヲ量リ、後ニ此箱ノ容積  
ニ齊シキ水ノ重量ヲ量ルトキハ、其重量幾何ナルコトヲ知ルコトヲ得ベ

シ、此箱ノ鍊葉ハ甚タ薄キ者ナレバ、箱ノ内部ノ廣サハ、其全体ノ大サト殆ント相同ジカルベシ、故ニ此箱中ニ水ヲ充テ、之ヲ量ルトキハ、此箱ト同容積ノ水ノ重量ヲ知ルコトヲ得ベシ、其時其水ノ重量ヲ檢スルトキハ、箱ノ重量ヨリ遙ニ大ナルコトヲ知ルベシ、故ニ此箱ハ鐵葉ヲ以テ造リタレドモ、其容積ノ割合ヲ以テ算スルトキハ其重量ハ水ヨリ輕シ、是其水面ニ浮ブ所以ナリ、

○現今通用スル鐵艦ハ厚キ鐵板ヲ綴合シテ造リタル者ナレバ、其重サ數千噸ニ登ルベシ、然レドモ猶能ク水底ニ沈マザルハ聞ク者ヲシテ驚訝セシムルニ足ル、然レドモ是唯極メテ大ナル鐵葉箱ト異ナルコトナシ、其水上ニ浮フ所以ハ、此鐵艦ノ重量ハ、之ト同容積ノ水ヨリ輕キヲ以テナリ、

○水ニハ自身ヨリ輕キ物ヲ支持スルノ性アリ、又其分子ノ容易ニ動揺スルノ性アリ、此二性アルニ由リテ、海河渠溝ノ如キモ皆人間ノ為メニ大道トナルコトヲ得ルナリ、

○若シ水ヲ盛ルベキ箱ノ重サト、之ト同容積ノ水ノ重サトヲ量リテ、箱ノ方少シニテモ輕キトキハ、決シテ水上ニ浮フ能ハザルノ重量ヲ有スルコトナシ、水ハ、之ヲ浮フルニ適シタル重量ヲ得タルトキハ、其分子ハ自由ニ動揺シ、風力、

舵力、槳力ニ由リテ、容易ニ其物ヲ運送スルコトヲ得ルナリ、

第二十六 水上ニ浮フ所ノ物ハ、水面ヨリ下ニ於テ或ハ空地ヲ領

ス、其空地ハ、其物ノ重量ト同一ナル重量アリ、ル水ノ容積ト同一ナル者ナリ、即チ其物体ハ、其同重量ノ水ヲ排除スルナリ、

○水ノ一立方寸<sup>インチ</sup>ハ二百五十二厘半ノ重量アリ、今モシ前ニ出セル鍊葉ノ箱ヲ平方方面ノモノトシ、百立方寸ノ容積アリトスルトキハ、之ト同容積ノ水ノ重量ハ二万五千二百五十厘ナリ、此箱モシ八千四百十六厘ノ重量アルトキハ、其容積ノ三分ノ一ハ水中ニ沈ムベシ、一万二千六百二十五厘ナルトキハ、其半ヲ沈メ、一万六千八百三十二厘ナルトキハ其容積ノ三分ノ二ヲ沈ムベシ、其他ハ之ニ准シテ知ルベシ、今其箱ノ浮ビタルトキ、水面ノ線ヲ箱ノ側面ニ標記スルトキハ、水平ノ下ニ沈ミタル箱ノ容積ヲ知ルコトヲ得ベシ、今其沈ミタル部分ヲ以テ三十立方寸トスルトキハ、箱ノ重量ハ三十二二百五十二半ヲ乘ジタルモノ、即チ七千五百七十五厘ナリ、故ニ水上ニ浮ヒタル物体ノ其水底ニ沈メル部分ハ、排除シタル水ノ地ヲ占メテ其水ノ代リトナルナリ、今若シ此箱ヲ水底ニ壓下スルトキハ、其水中ニ沈ムトキ抵抗力アルヲ覺ユベシ、其壓力ヲ止ムルトキハ、箱ハ直チニ復タ浮ブベシ、是レ水ハ其物ノ底ヲ推上クルガ故ナリ、然ルニ水ハ又箱ノ側面ヲモ推ス者ナリ、何則箱ノ側板甚薄キトキハ凹陷スルコトアレバナリ、又空瓶ニ堅ク栓ヲ施シテ之ヲ水底ニ沈ムルトキハ、其栓ハ瓶中ニ没入スルカ、然ラザレバ、其瓶ハ破碎スベシ、

## 「學之門」 解題

「學之門」は、八二七—一〇三「雜綴」二十四號に、「人間交際」「學之門」「利知曼氏洛日克第一」「彌爾氏洛日克撮要」などとともに合綴されている。

「學之門」は、イギリスの生物学者 Thomas Henry Huxley (一八二五—一八九五) の著述である *Science Primers: Introductory* の部分訳である。

*Science Primers* は Huxley がイギリスの化学者 Henry Enfield Roscoe (一八三三—一九一五) と物理学者・気象学者 Balfour Stewart (一八二八—一八八七) とともに編集したさまざまな学問についての入門書シリーズである。共編者の Roscoe は化学を、Stewart は物理学を担当しているが、他に論理学はジェボンズが担当するなど、当時の代表的な学者が執筆している。

Huxley は *Introductory* を担当しているが、これは学問一般の入門という性格をもっているであろう。本書は、一八八〇年にロンドンで出版された後、アメリカでも出版されている。西村が依拠した版がどれであるかはわからない。

確認できたアメリカ出版のものによってみると、原書は、詳細な目次の後に本文九四頁が大きく三部門に分かれており、I が *Nature and Science*、II が *Material Objects*、III が *Immaterial Objects* となっている。全体を通し番号で六七の項目を立てているが、III の部門は *Mental*

*Phenomena and Psychology* の二つの項目に占められている。西村の翻訳

したのは、最初から始めて第二六番目の項目までである。

Huxley は、ダーウインの進化論の擁護者として知られる生物学者であるから、その立場が自ずとあらわれているといえよう。

## 序論

○凡ソ諸学科中ニ於テ、誤想ト遺忘トヲ受タルコトハ洛日克ヨリ甚シキ者ナシ、故ニ今此学ノ天性ト目的トヲ定ムルコトト、此学ニ管セル誤謬ヲ釐正スルコトトハ、此学ヲ為ス者ニ望ム所ノ第一ノ注意ナリ、

(洛日克トイヘル語ノ種々ノ意義)

○洛日克トイヘル語ハ希臘語(λ o y o s)ヨリ出タル者ニシテ、道理トイヘル意義ヲ表シタル者ナリ、然レドモ此道理ノ語ハ數様ノ意義ヲ包含セリ、其一ノ道理トハ人ノ識性中ノ或ル性能ヲ指ス者ニシテ(此時ハ理性ト譯スベシ)明理学ノ為メニ根基トナル者ナリ、其次ノ道理トハ事物ノ結局ヲ定ムル為メノ証論即チ憑證トナル(此時ハ理由又條理ト譯スベシ)者ナリ、其次ノ道理ハ推理ノ意味ニシテ、以前ニ已ニ知りタル(或ハ許シタル)所ノ事實或ハ意見ヨリシテ推度ヲ為ス所ノ心ノ働ヲ言フナリ、是等ノ事アルニ由リテ、洛日克トイヘル名目ハ夫々ノ時代ニ於テ之ヲ講究スル学士ノ見込ニ從ヒテ多少其範圍ヲ開張シタリ、或ル学士ハ洛日克ヲ以テ「理識ノ正シキ用法」ヲ教フル者ト為シ、總テ人類ノ識性ヲ包括スル者ト為シ、或ル学士ハ、唯前提ニ依リテ終結ヲ定ムル所ノ要法ニ過ギズト為シ、又或人ハ、既ニ允許シタル真理ヨリシテ、他ノ真理(是ニ由リ前ニ真理中ニ包含セルコトヲ知ル)ヲ推演スル者ナリトセ

リ、

(意義ノ異ナルヨリ生スル結果)

○此ノ如ク諸学士中ニ於テ洛日克トイヘル語ノ用法ノ異ナルヨリシテ、自然ニ其間ニ混雜ト反對トヲ生スルニ至レリ、是ニ由リ獨リ其名目ノミナラズ、此学ノ天性及ヒ目的ニ於テモ多少ノ過誤ヲ生シ、其結果ニ至リテハ更ニ大ナル誤謬ヲ為スヲ見タリ、凡ソ洛日克ノ学士中ニ於テ此学ノ範圍ヲ明白ニ定メザル者、又ハ他ノ學問トノ界限ヲ明白ニ區別セザル者ハ、多クハ此学ノ境域ヲ適當ノ界線ノ外ニ擴張シ、カノ及ハザル所ノ約束ヲ完成セントシテ成ラザルヨリ、遂ニ此学ヲ賤ミテ之ヲ委棄スル者少ナカラズ、余儕ハ此学ノ門口ニ於テ、此ノ如キ無益ノ口実ヲ為スコトヲ欲セザルナリ、余儕ハ此學ニ於テ、總テノ問題ニ付テ精密ナル規則ヲ定ムルコトヲ明言セズ、又總テノ場合ニ於テ、或ハ總テノ題目ニ於テ正當ナル判断ヲ作ルコトヲ言ハズ、又總テノ真理ヲ得ル為メニ、廣闊ナル官道ヲ開キタルコトヲ言ハズ、凡ソ此ノ如キ約束ヲ言フトキハ、遂ニハ尽ク失望ヲ招クニ至レバナリ、余儕ハ洛日克ト名目ト其界域トヲ以テ、或ハ他ノ真理ヨリ、此真理ヲ推度スル心ノ働ニマデ限線ヲ定メ、又、以前ニ允許シタル定論ニヨリ、夫ヨリ流出シタル、又ハ夫々其上ニ固定シタル或ル定論ニマデ進行セル心ノ働ヲ以テ界限トセリ、故ニ洛日克ノ適當ナル事業ハ推理即チ論定是ナリ、

(洛日克ノ適當ナル事業ハ単ニ推理ナリ)

(推理ヲ組成スル所ノ原質)

○余儕ハ推理ニ依リテ(余儕カ此所ニ用フル意味ニ從ヒ)其推理ヲ綴合スル所ノ凡テノ原質ヲ理會スルナリ、何レノ推理ノ働ニ於テモ、終結<sup>コンク</sup>シハ必ス前提<sup>イセマ</sup>ヨリ得ルナリ、而シテ其前提ハ皆判言<sup>フツボシ</sup>ヨリ成ルナリ、又其判言ハ名目<sup>テル</sup>ヨリ成ルナリ、是等ノ各個ハ即チ論定ノ成分ナルヲ以テ、總テ洛日克ノ界域内ニ入ル者ト定ムルナリ、

(論定)

○判言ヲ造ル所ノ名目ト、其判言ノ自身トノミニテハ未タ推理ヲ為スコト能ハザルナリ、例へハ人、保那巴<sup>ボナバルト</sup>、矜高、不幸等ノ如キハ皆名目ナリ、「保那巴ハ不幸ナル人ナリ」、「保那巴ハ矜高ナル人ナリ」此ノ如キハ共ニ判言ナリ、然レドモ此語中ニハ推理ノ働ヲ含有セザルナリ、名目ト、名目ヲ集メテ単ナル判言トナシタルトノミニテハ、何程改調ストモ、推理ノ意義ヲ見ザルナリ、

(論定ノ諸分ノ間ニ成立セル結合)

若シ推理ヲ為サント欲スレバ、判言ト判言トノ間ニ成レル或ル結合ニシテ論定ノ形ヲ為ス者無カルベカラズ、其内ニ包含セル事物ヲ明白ニ解説シ、又ハ已ニ保證シタル事物ヨリシテ推度即チ終決ヲ取ラザルベカラザルナリ、故ニ凡ソ論定ハ皆二個ノ部分ヨリ成ル、其一ハ試定サル、者、其二ハ試定サル、者ノ手立ヲ以テ試定ヲ為ス者是ナリ、最初ニ言述スル所ハ、推理ノ行為中ノ堅固ナル者ニ非ズ、或時ハ、試定サル、事物ヲ最

初二出シ、其後ニ道理即チ試定来リ繼グ者アリ、或時ハ最初ニ試定ヲ為シ、其後ニ推度ヲ為ス者アリ、收結ニ至リテハ、其初ニ在ルト後ニ在ルトヲ問ハズ、其辨識シ易カラシガ為メニ、「夫故ニ」「夫ニ依テ」「如何トナレバ」ノ如キ虚字ヲ加ヘテ之ヲ標示ス、此ノ如キ結合、適當ノ法ニ由リテ成立セザル時ハ、名目ト判言トノ數、順序、意味ハ如何ニ相当ナリトイヘドモ、之ヲ論定ト為スコト能ハザルナリ、

(推理ハ弁論ニ限ラズ)

○凡ソ推理、即チ論定ハ專ラ辯論ニノミ限リテ用フル者ト假定セルハ全クノ誤謬ナリ、数学士ハ常ニ推理ヲ事トセリ、然レドモ彼ハ其試定ヲ以テ其判言ヲ堅固ニシ、其反對ノ成立スルコト能ハザルマデ精密ニ之ヲ為セリ、吾儕平日多少自己ノ意見ニ道理ヲ付スルコトヲ為シ、又吾等力知ル所ノ事物ヨリシテ終決ヲ引取シ、又或ル試定ノ種類ヲ以テ此終決ヲ支持シ、又吾ニ反對セル言論ニ対シテ之ニ返答スルコトアリ、此ノ如キ説話及ヒ是ニ類セル要用ナル言語ハ凡テ推理ニ干係ヲ為ス者ニシテ、此ノ如キ時ニ於テ、如何ンシテ道理ヲ演述スベキカ、如何ンシテ明白精密ニ發言スベキカラ教フルハ、即チ洛日克ノ界域ナリ、

(洛日克家ノ職分ハ形而上家修辭家ノ職分ニ異ナリ、)

○然レドモ洛日克ノ適當ナル目的ヲ造ルコトハ、推理ノ働ナリ、推理ニ用フル所ノ心力ヲ分鮮シ、而シテ其種々ノ現象ヲ考究スルハ、メタフィジシアンノ管スル所ナリ、其中ニ於テ專ラ推理ノ法則ニ從フ者ダケハ、

洛日克家ノ注意ヲ望ム所ナリ、凡ソ論定ノ基礎トナル所ノ原理ヲ分解シ、而シテ恒久、一般、最初ノ需用ニ、吾等ヲ導引シ、保持セシムル規則ヲ定ムルハ、洛日克家ノ職分ナリ、洛日克ハ多クハ、上ニ記セル界限中ニ在ル思想ノ法則ヲ以テ其事業ヲ為ス者ナリ、然レドモ言語ハ思想ノ駕車ナルガ如ク、洛日克ハ又或ル度ニ於テ、交際ノ媒介ノ助ヲ為ス者ナリ、然レドモ洛日克ハ其為メニ第二ノ目的タルニ過ギズ、其故ハ言語ハ洛日克力直接ニ干係ヲ為ス思想ヲ發出スル者ナレバ、洛日克ハ自ラ言語ノ下ニ属セザルコトヲ得ズ、言語ノ理学ハ文法家修辭家ノ関カル所ナリ、(推理ノ方法ハ何レノ時モ同一ナリ、)

○推理ノ行為ニ於テハ、其題目ハ、如何ニ差異アルモ、其方法ハ何レモ畫一ナリ、其題目ハ教法ナルモ、法律ナルモ、政事ナルモ、又ハ文字ナルモ、実学ナルモ、又心ノ学ナルモ、物質ノ学ナルモ、其差異ハ何程大ナルモ、推理トイヘルハ語ノ正當ノ意義ヲ以テ限リトシ、其方法ハ何レノ時モ皆同一ナリ、例へハ算術ニ於テモハ、其算法ハ、人ニ付テスルモ、貨幣ニ付テスルモ、里法ニ付テスルモ常ニ必ス同一ノ方法ヲ用フ、又文法ニ於テハ、文辞ヲ分解スルニハ、史書ニ付テモ、詩ニ付テモ、化学ニ付テモ、神学ニ付テモ、其方法ハ何レモ同一ナリ、其他何レノ場合ニ於テモ推理ノ方法ハ皆然ラザルハナシ、凡ソ吾等力為ス所ノ論定ハ、皆或ル他ノ事物ヨリ或ル此事物ヲ推度スルコトニシテ、其推度ハ嘗テ允許シタル事実又ハ言論ヨリ之ヲ取ルナリ、凡ソ吾等力推度ヲ為ス所ノ事物ヲ

名ケテ前提トイフ、其故ハ此語ハ順序ニ於テ常ニ最初ニ居ル者ナレバナリ、又其推度ヲ名ケテ終結トイフ、其故ハ論定ニ於テ常ニ終結ノ地ニ立ち、又試定スル者ナレバナリ、例へバ晴雨針ノ上昇シタルトキハ、吾儕大氣ノ乾燥セルヲ推度ス、又朝ニ於テ天色赤クシテ低ク見ユルトキハ、吾儕其雨ノ降ルベキコトヲ推度ス、此ノ如キ際ニ於テ、最初ノ定言ハ前提ニシテ、後ノ定言ハ終結ナリ、

#### (其例)

○此例ニ依リテ見ルトキハ、終結ハ単ニ必ス一個ノ前提ヨリ定ムルトイフコトヲ知ルベシ、其故ハ此所ニテ、唯一個ノ前提ノミヲ發言シタレバナリ、而シテ論定ノ形姿ハ此ノ如クシテ、已ニ成ルコトヲ得レバナリ、然レドモ更ニ少シク回想スルトキハ、左ノコトヲ考へ得ベシ、即チ若シ之ヲ拒否スルトキハ、更ニ論定ノ堅固ヲ被ルベキ前提アリトイフコトヲ考へ得ベシ、吾儕晴雨針ノ上昇スルニ依リテ、空氣ノ乾燥ヲ推度スルトキ、吾等ノ心中ニ、「凡ソ晴雨針ノ上昇スルトキハ、必ス空氣ハ乾燥セル者」ナリトイフコトヲ保存スベシ、此ノ如キ普通ノ判言、モシ伏匿セル判言ニ由リテ拒否セラル、トキハ、其發表セル判言ニ於テ之ヲ試定スルコトヲ得ザルナリ、モシ此兩個ノ判言ニ於テ共ニ之ヲ允許スルトキハ、其終結ハ必ハ成就スルナリ、

#### (前提ト終結)

○吾儕モシ、「保那巴ハ矜高ノ人ナリ、故ニ彼ハ不幸ナリ」トイフトキハ、

吾儕ハ其終結ハ矜高ハ法国皇帝ノ心中ニ在ルヲ以テ、不幸ハ同人ノ上ニ成立セザルベカラズトイフコトトナルナリ、モシ又此論定スル所ニ抵抗セントスルニハ、或ハ其定言ヲ拒否スルカ、又ハ其定言ヨリ引ク所ノ推度ヲ疑ハザルベカラズ、依テ其抵抗者ハ之ニ答ヘテ、「余ハ、汝方、保那巴ハ矜高ナリトイフ定言ヲ拒否ス、」或ハ「余ハ保那巴カ矜高ナリトイフコトヲ允許ス、然レドモ之ヲ以テ爾ノ終結ヲ証定スルコトヲ拒否ス、」最初ノ場合ニ於テハ、抵抗ハ其發言セル前提ニ對シテ之ヲ行フ、其前提ハ論定ヲ終結スルノ前ニ證定允許セザルベカラザル者ナリ、第二ノ場合ニ於テハ、隱伏セル前提ニ對シテ抵抗ヲ為ス、即チ「矜高ノ人ハ皆不幸ナリ」トイヘルコトヲ拒否シタルナリ、其故ハモシ此事モ允許サレ、保那巴ノ矜高ナリトイフコトモ允許サル、トキハ、夫ヨリ引キタル終結ハ抵抗スベカラザル者ナレバナリ、故ニ、凡ソ論定ヲ為スニハ、必ス本位<sup>グレイ</sup>トイフ者ナカルベカラザルナリ、吾等ノ前提ハ、發言スル者モ伏匿セル者モ共ニ允許承認セラレサルベカラズ、若シ其二者共ニ拒否セラル、トキハ、証定<sup>ブレイク</sup>ハ敗壞スルナリ、又二者共ニ允許サル、トキハ、是ヨリ引キタル正シキ推度ハ、疑惑セラル、コトナク、又拒否セラル、コトナカルベシ、

(推理ノ行為ヲ、完全ナル体ト正シキ順序トニ由リテ為ストキハ、之ヲ推測式トイフ)

○故ニ推理トイフコトハ、何レモ皆他ノ話説ヨリシテ、此話説ヲ推度セ

ル心ノ働ナリ、此事實ハ、以前ニ證明承認シタル他ノ事實ヨリ引キ、又其事實ト結合セルトイフコトヲ見タル所ノ心ノ働ナリ、推理ノ行為ヲ以テ、若シ規則ニ依リテ十分ニ話説セントスルニハ、三個ノ判言、即チ二個ノ前提ト一個ノ終結トヲ用ヒサルベカラズ、然ルトキハ之ヲ名ケテ推測式トイフナリ、

矜高ノ人ハ皆不幸ナリ、

保那巴ハ矜高ノ人ナリ、故ニ

保那巴ハ不幸ノ人ナリ、

「正シキ推理ノ堅固ナルコトハ、言語ノ意味ニ屬セズシテ、前提ト終結トノ間ニ成立セル結合ニ在リ」

○凡ソ正當ナル推理ノ法ハ皆此形式ニ歸スベキ者ニシテ、其論題ハ何タルヲ問ハズ、此ノ如キ形式ノ者ハ皆堅固ナル推理ト名ケテ可ナル者ナリ、然レドモ論定ノ堅固ハ、必シモ名目ノ意味ト判言ノ真理トヲ認識スルノミニ依リテ之ヲ得ベキ者ニ非ズ、凡ソ判言ハ明白ナル言語ヲ以テ之ヲ發出スルコトアリ、十分ニ明了ナラザル言語ヲ用フルコトアリ、全ク理會スベカラザル言語ヲ用フルコトアリ、又前提ハ明白ニ誤謬又不條理ナルカ、或ハ意味ノナキ任意ノ符号ヲ用ヒ又ハ前提ニ貼用スベキ或ル意味ヲ有セル者ヲ用フルコトアリ、此ノ如キ時トイヘドモ若シ其前提允許ヲ得テ、正シキ推度ヲ為スコトヲ得ルトキハ、終結ハ自然ニ之ニ從ハザルコトヲ得ザルナリ、上文ノ例ニ於テハ、誤解セザル言語ヲ用ヒテ話説セル

論定ノ例ヲ示シタル者ニシテ、其中ニ於テ前提ヲ允許シ、終結ヲ拒否スル如キコトハ為スコト能ハザル者ナリ、

(其例)

○今後ニ其名目言語ノ曖昧ナル者ノ例ヲ擧示スベシ、

酸氣アル礦泉ハ皆炭酸ニ富メリ、

此液ハ酸氣アル礦泉ナリ、故ニ

此液ハ炭酸ニ富メリ、

此例ニ於テ、「酸氣アル礦泉」トイフ語ノ意味ヲ明白ニ了解スルコト能ハズ、又「炭酸」トイフ語モ甚タ意味ノナキ言語トナレリ、然レドモモシ此前提ヲ允許スルトキハ、其終結ハ之ニ抵抗スル能ハザル者トナルナリ、

○又更ニ前提ノ全ク誤謬ナル例ヲ示スベシ、

四足獸ハ皆羽翼アリ、

人ハ四足獸ナリ、故ニ

人ハ皆羽翼アリ、

此判言ノ一個毎ニ皆不條理ナルハ、人々容易ニ之ヲ知ルベシ、然レドモ其終結ヲ前提ヨリ引クノ法ハ正シクシテ規則ニ戻ルコトナシ、推理ハ正當ナリ、本位ノ誤謬ナリ、前提モシ真理ナルトキハ、推度ハ同様ニ真理ナルベシ、

○又余等ハアルハベトノ文字ヲ以テ、總テ吾等カ用ヒント欲スルノ語ニ代用スルコトヲ得ベシ、而シテ其方法正當ナルトキハ、是ヲ以テ其推理

ハ完全ナル終結ニ達スルコトヲ得ベシ、故ニ数学ニ於テ余等ハ、AハBニ斉シク、CハAニ斉シ、故ニCハBニ斉シトイフ、是ニ由リ吾等CノBニ斉シキコトヲ正シク推度ス、其故ハ二者各Aニ斉シケレバナリ、而シテ其符号ハ何ナルモ、正シキ規則ニ合フコトトナルナリ、若シ推理ノ行為ヲ完全ニ又適當ノ形式ニ言ハントスルトキハ、左ノ如クナルベシ、

Aハ皆Bナリ Cハ皆Aナリ、故ニ

Cハ皆Bナリ

此推測式ニ於テAヲ以テ悪キ人ニ代用シ、Bヲ不幸ニ代用シ、Cヲ暴政者ニ代用シ、適當ノ形姿ニ從ヒテ整次スルトキハ、左ノ堅固ナル論定ヲ得ルナリ、

悪シキ人ハ皆不幸ナリ 暴政者ハ皆悪キ人ナリ、故ニ

暴政者ハ皆不幸ナリ、

爾ハABCノ文字ノ代リニ、何ノ語ヲモ用フルコトヲ得ベシ、若シ適當ノ形姿ヲ失ハザルトキハ、爾ノ推理ハ常ニ同様ナル終結ニ達スルコトヲ得ベシ、

(推理ノ一般ノ原理)

○是ニ由テ觀レバ、正當ナル推理ノ堅固ナルコトハ、言語ノ意味ニ關スル者ニ非ズシテ、前提ト終結トノ間ニアル結合ニ關スル者タルコトヲ知ルベシ、上ノ例ニ於テ第一ノ前提ノAハ何事ヲ現ハスモ、其全体ニ付テハ、Bヲ以テ之ヲ定ムルナリ、故ニ「Aハ皆Bナリ」トイフ、第二ノ前提

ニ於テハ、Cハ何事ヲ現ハスモ、總テAノ内ニ包含スル者ニシテ、CハAノ一分ナリ、故ニ「Cハ皆Aナリ」トイフ、其後其全体ニ付キテ又ハ全体中ノ或ル部ニ付キテ何事ヲ言フモ、終結ヲ以テ之ヲ決定堅固ニスルコトヲ得、故ニ「Cハ皆Bナリ」ト云フナリ、

○否定ノ論定法ニ於テモ其方法ハ肯定ノ法ニ異ナルコトナシ、

詐偽ノ人ハ幸福ニ非ス

此人ハ詐偽ナリ、故ニ

彼ハ幸福ニ非ズ、是ト同價ヲ有セル形式ハ

AハBニ非ス CハAナリ、故ニ

CハBニ非ズ

此式ハ否定ノ終結ヲ用ヒタル論定ノ堅固ナル者ニシテ、其決定ノ法ハ全ク上ニ記セル者ト同一ノ原理ニ帰スル者ナリ、是ニ由リ左ノ格言ヲ以テ一般ニ貼用スベキ物ト定メタリ、「或ル種類ニ付キテ一般ニ肯定シ又ハ否定スルトキ、其事物ノ何タルヲ問ハズ、其種類中ニ包括セル或ル事物ヲ肯定シ又ハ否定セサルベカラザルナリ」其論定法何程ニ廣衍錯雜スルトモ、此格言ハ凡テノ推理ニ用フベキ一般ノ原理ナリ、若シ能ク注意シテ成形ノ原質ヲ經驗發表折減スルトキハ、速カニ前進セル推理ノ最モ長キ一連ハ、唯此單一ナル働ノ反復ニ由リテ成ルトイフコトヲ知り得ベシ、余儕法則ニ從ヒテ或ル点ヲ證明スルトキハ、其事ノ何タルヲ問ハズ、単ニ其中ニ包括セル種類ニ干係シ、其種類ノ全体ニ付キテ、肯定否定共ニ、

其終結ヲ言頭ハスナリ、

(通常急速ノ事ニ用フル終結ノ論定)

○然レドモ推理トイフ者ハ何レノ場合ニ於テモ、推測式ノ形式ノ外ニ擴張スルコト能ハザル者ナリ、吾儕必要ナリト思フトキニ於テモ、本来ノ定則ヲ或ハ延長シ或ハ經縮スルコトハ甚タ遠慮スル所ナリ、幸ニシテ其事ハ之ヲ為スコトナシ、又時トシテハ一個ノ論定ト名ケシ者ニテモ、猶數個ノ成句ヲ聚合シタル數多ノ論定タルコトアリ、尋常經簡ノ形式ヲ以テ説話スル者ハ、其推理ヲ為スニ二個ノ判言ヲ用フル者多シ、其前提ト終結トノ結合ハ、同時ニ之ヲ認識允許サル、者ナリ、此語法ハ落日克ノ法ニテ原因ト応効トノ間ノ結合ヲ發言スル者ニシテ、例ヘバ、寒暑針ハ三十二度ノ下ニ在リ、故ニ其物ハ氷レリト、此語法ニテハ、応効ヨリシテ原因ヲ推度スル者ナリ、又寒氣強クシテ其物ハ氷レリ、其故ニ寒暑針ハ三十二度ノ下ニ降レリト、此語法ニテ余儕ハ其原因ヨリシテ応効ヲ推度スルナリ、

○此二者ノ語法ニ於テ、其肯定ノ結合ニ疑ヲ生スルトキハ、余儕ハ、各個ノ推度ヲ包含セル總共ノ判言ヲ用ヒザルベカラズ、即チ左ノ如キ完全ナル推測式ノ論定ニ從ハザルベカラズ、

何ノ時ヲ論セズ、寒暑針三十二度ノ下ニ在ル時ハ其物ハ氷ルナリ、

現今ハ、寒暑針三十二度ノ下ニ在リ、故ニ

其物ハ氷レリ、更ニ一例ヲ示サン

何ノ時ヲ論セズ、寒氣強クシテ其物ノ氷ルトキハ、寒暑針ハ三十二度ノ下ニ在リ、

其物ハ今氷レリ、故ニ

寒暑針ハ三十二度ノ下ニ在ルナリ、

此語法ハ、総共ノ判言ト各個別ノ判言トノ間ノ洛日克ノ結合法ナリ、「矜高ノ人ハ皆不幸ナリ、故ニ入（ジュリアス・シーザ）暑塞撤ハ不幸ナリ」ト言フニ同シ、即チ「入暑塞撤ハ矜高ノ人ナリ」トイヘル結合ヲ其中ニ包含セル者ナリ、又其一ハ各個ノ判言ト各個ノ判言トノ間ノ結合ヲ為ス者ニシテ、恰モ「入暑塞撤ハ矜高ナリ、故ニ彼ハ不幸ナリ、」トイフニ同ジクシテ、「矜高ノ人ハ皆不幸ナリ」トイヘル結合ヲ其内ニ包含セル者ナリ、

(誤謬アル論定ノ例)

○然ルニ其論定ハ甚不堅固ナレドモ、前提ト終結トノ間ニ見セカケノ結合ノ成ルトイフハ、屢見ル所ナリ、若シ此外見ノミノ論定、修辭ノ花ヲ以テ飾リ、能辯ノ証拠ニ依リテ進ムトキハ、才智小心ノ人モ其守リヲ失フニ至ルコトアリ、然ルトキハ大胆ナル証言及ヒ單獨ナル議論、自ラ終結アル推理ノ肖似ト特權ヲ占領スルニ至ルベシ、加之、若シ初メヨリ論定ノ中ニ誤謬ノ隱伏セルコトヲ信シ之ヲ期待スルノ人ト雖ドモ、若シ能辯者ノ多言ニ由リテ破覆セラル、トキハ、堅固ナル論定ノ原理法則ヲ自得スル者ニ非ザルヨリハ、竟ニ其誤謬ヲ発見スルコト能ハズシテ止ムニ至ルベシ、次ノ誤謬ナル論定ヲ以テ例トスベシ、

有徳ノ少年ハ何レモ己ノ學問ニ注意ス

此少年ハ己ノ學問ニ注意セリ、故ニ

彼ハ有徳ノ少年ナリ、

○論説ノ熱ニ依リテ、此ノ如キ論定モ亦堅固ナリトシテ通用スルコトアリ、殊ニ其終結此ノ如クナルトキハ、余儕ハ真理ナリトシテ之ヲ信シ、或ハ其真理ナルコトヲ望ムナリ、而シテ或人ハ此論定ノ誤謬ヲ分解表明スルコト能ハザルナリ、其意ニ於テ已ニ此説ノ不堅固ナランカヲ疑フ時トイヘドモ猶其然リ、然ルニ此論定ハ推理上ノ干係ヨリ言フトキハ、左ノ式ト同一ノ者トナルナリ、

象ハ何レモ皆呼吸ス

鷲ハ呼吸ス、故ニ

鷲ハ象ナリ

上文ノ形式(有徳ノ少年)ノ如キモ、人ノ天然ノ智ニ由リ、他ノ同一ノ例(象ハ)ヲ引キテ之ヲ比スルトキハ、其終結ノ甚不條理ニシテ其推理ノ全ク誤謬ナルコトヲ知ルコトヲ得、此法ヲ用ヒテ誤謬ヲ判スルハ、至テ適當ニシテ要用ナルコトナリト雖ドモ、更ニ画一ノ試定法（ユラザルザルテスト）ヲ用ヒテ、此ノ如キ外見ノ論定ニ用ヒテ、一時ニ其誤謬ヲ発見スルハ、更ニ良善ナリトス、此試定法ハ洛日克ノ中ニ自ラ之ヲ具備セリ、今上文ニ記セル所ノ格言ニ依リテ推理ノ法ヲ照ラストキハ、ヨク其中ニ隱伏セル誤謬ヲ発見シ、其口実ヲ剥脱シテ其真体ヲ見ルコトヲ得ベシ、是ヲ為スニハ

先ツ正格ナル推測式ニ從ヒテ論定ヲ發言スベシ、モシ其論定堅固ナルトキハ、上文ノ格言ハ能ク之ニ貼用スルコトヲ得ベシ、或ハ其意味ヲ變ゼズシテ、洛日克ノ規則ニ依リ、其貼用セントスル形式ニ改ムルコトヲ得ベシ、然ルトキハ、推理ノ終結ハ、發言ノ形式ニ由リテ明白ナルコトヲ得ベシ、誤謬アル論定ノ如キハ、決シテ此形式ニ改ムルコトヲ得ズ、若シ甚タ誤謬ニ近キトキ、及ヒ符号ヲ以テ、欺罔スベキ言語ニ代用スルトキハ、画一ナル推理ノ法則ヲ造ルコト能ハザルヲ以テ、其論定ノ不堅固ナルハ容易ニ之ヲ發見スルコトヲ得ベシ、上文ノ例ヲ更ニ引用スベシ、

有徳ナル少年ハ何レモ己ノ學問ニ注意ス

此少年ハ彼ノ學問ニ注意セリ、 故ニ

彼ハ有徳ノ少年ナリ、

是ト同一ナル推理ノ例ハ左ノ如シ、

象ハ何レモ呼吸ス

驚ハ呼吸ス、 故ニ

驚ハ象ナリ

此形式ヲ以テ符号ニ代用スルトキハ、左ノ如クナルベシ、「AハBナリ、CハBナリ、故ニCハAナリ、」正シキ推理ニ用フベキ一般ノ規則ハ左ノ如シ、「凡ソ全種類ニ付テ肯定或ハ否定スル者ハ、其事ノ何タルヲ問ハズ、其種類中ニ包含セル事ニ付テ肯定或ハ否定セサルベカラズ」ト、以上ノ例ヲ以テ言フトキハ、Bハ、Aノ種類ニ付キテ一般ニ肯定シタル者ナリ、

故ニBハ總テAノ種類中ニ包含セル各個ノ事ニ付キテ之ヲ肯定セサルベカラズ、然ルニ次ノ前提ニ於テハ、Aニ干係ヲ有スルコトナシ、Bハ全ク他ノ種類ナルCヲ肯定スルヲ以テ、此CハAト毫モ結合ヲ為スコトナシ、故ニ是ニ由リテ推度ヲ為スコト能ハズ、縱令真正ニ全種類ニ付キテ肯定セル事物ヲ以テ、其種類中ニ包含セル各個ノ事物ヲ肯定スルモ、是ヲ以テ全ク殊別ナル他ノ種類ニ付キテ同シ物ヲ肯定スルヲ以テ、二個ノ種類ニ於テ同一ノ見込ヲ有セザルベカラザルコトナル、是其大ニ誤謬ヲ生スル所以ナリ、以上ノ例ニ於テハ、結合セサル所ノ二個ノ判言ヲ有シ、二個ノ殊別ナル題目ニ付キテ、同一ノ肯定ヲ反復スルナリ、此ノ如キ形式ニテハ、何事ヲモ推度スルコト能ハザルハ明白ナルコトナリ、

○左ニ詭詐ノ推理ニ付キテ更ニ一例ヲ示スベシ、

傲慢ナル人ハ何レモ不幸ナリ、

此人ハ傲慢ニ非ス、故ニ

彼ハ不幸ニ非ザルナリ、

此論定ハ左ノ推理ト恰モ同一ニ歸スルナリ、

犬ハ何レモ動物ナリ、

狐ハ犬ニ非ズ、故ニ

狐ハ動物ニ非ザルナリ、

(第一ノ判言ニ於テハAノ中ニ包含セル者ニ付キテ何ゴトヲモ言ハズ) ○是ヲ符号ヲ以テ記スルトキハ、「Aハ何レモBナリ、CハAニ非ズ、故

ニCハBニ非ズ、」此式ニ於テBハAノ全体ヲ肯定ス、故ニ上文ノ規則ニ從ヘバ、Aノ中ニ包含セル各個ノ事物ヲ肯定スル者ナリ、然レドモ第二ノ判言ニ於テハAノ中ニ包含セル者ニ付キテ何事ヲモ言ハズ、Cノ如キハ全クAノ表出セル種類ノ外ニ在ル者ナリ、故ニ是ニ付キテ論定ヲ為スコト能ハズ、其數ハ凡ソ全種類ニ付キテ真理ナリト肯定セル者ハ、獨リ其種類中ニ包含セル事ニ於テ真理ナルノミナラズ、他ノ種類ニ於テモ亦真理ナリトイフコトナレバナリ、此ノ如キ見セカケノ論定ニ付キテハ、其終結ハ真理ナルモ、虚偽ナルモ、前提ヲ以テ保證スルコト能ハズ、故ニ此ノ如キ論定ハ所謂誤謬ト名クベキ者ナリ、

(洛日克ノ規則及ヒ器眞ハ、其企謀ノ為ニ必要ナリ、)

○以上ノ諸例ニ依リテ、洛日克ナル者ノ完成スベキハ何事ナルカトイフコトヲ見得ベシ、洛日克ノ目的ハ、堅固ナル論定ヲ構造シ證定シ、又其誤謬ヲ發見シ表示スルニ在リ、此企謀ヨリシテ、其重要ナル事業ハ、前提ト是ヨリ正ク引ク所ノ終結トノ間ノ洛日克法ノ結合ヲ明白表示スルガ為メニ、上ニ記セル正シキ推理ノ一般ノ原理ヲ鮮明シ貼用スルニ在リ、此事ヲ為サントスルニハ、明白ニシテ精密ナル種々ノ洛日克ノ器具ヲ必用ナリトス、學術上ノ言語ハ之ヲ用ヒサルベカラズ、

(洛日克ニ於テ用フル術語ハ、他ノ学ニ於テ用フル者ヨリ難カラズ)

分解ト區別トハ之ヲ為サザルベカラズ、一般ノ規則ハ之ヲ設置セザルベカラズ、此ノ如クニシテ、吾等ノ進歩ハ、峻速安全ナルコトヲ得ベシ、

其開達ハ吾等ガ進行スルノ度ニ從フテ之ヲ得ベシ、然ルニ此推理ノ為メノ補助(器眞)トナル者ハ、他ノ要用ナル学科ニ比スレバ、其數モ多カラズシテ、錯雜スルコトモ又甚シカラザルナリ、文法学、算術、化学ノ學術語及ヒ其規則ハ、洛日克ノ術語規則ニ比スレバ、之ヲ理會シ、之ヲ記憶シ、之ヲ貼用スルコト甚タ容易ナラザルナリ、此ノ如キ洛日克ノ器具ハ、最初ニ於テ明白ニ理會ヲ為スベシ、又之ヲ記憶ノ中ニ堅固ニ定ムベシ、又其習熟ト堅定トニ由リテ、其精密ナル貼用ニ熟練シ迅速ナルベシ、而シテ其器眞ニ論定ヲ為ストキニ於テ、吾等ヲ誤リナク導クコトト、吾等ノ囑託ヨリ守護スルコトトノ兩様ニ於テ、廣大ナル必要ヲ失ハザルコトヲ要スベシ、

(洛日克ハ何ノ關係ニ於テ学ニシテ何ノ干係ニ於テ術ナルヤ)

○洛日克ハ学ナルカ術ナルカトイフコトハ、古代ヨリ今日ニ至ルマテ争論ノ決セザル所ナリ、或人ハ之ヲ学ナリト言ヒ、或人ハ単ニ術ナリトイヒ、或人ハ学ニモ術ニモ非スト言ヒ、或人ハ学ト術トヲ兼タリト言フ、余儕ハ此最後ノ說ニ同意スルナリ、推理ノ理論ヲ考索シ、原理ノ分解ヲ作為スルノ間ハ、洛日克ハ正シキ学ナリ、其推度ヲ為スニ方リ、誤謬ニ陥ラザルカ為メニ、習行上ノ規則ヲ執行スルハ全ク術ナリ、洛日克ヲ以テ学トスルトキモ、術トスルトキモ、其性質境域、用法ニ於テハ、共ニ同時ニ混合シテ之ヲ行フナリ、

○洛日克ハ学トシテ見ルトキハ、正シキ論定ノ判言ノ間ニ成立セサルベ

カラサル結合ヲ證定表示スル者ナリ、而シテ又此判言ガ他ノ判言ヨリ推度セラル、所ノ原理ヲ指定シ、何故ニ此ノ如キ前提ヲ以テ引出セル終結ハ抵抗スベカラザル者ナルカトイヘル原理ヲモ指定スルナリ、洛日克ハ又学トシテハ、其題目ノ何タルヲ問ハズ、推理ノ行為ニ於テ得タル法則ト共ニ其働キヲ為シ、而シテ其法則ハ前ニモ言タルガ如ク、一般同一ノ者ナルベシ、又洛日克ハ学トシテハ、推理自身ヲ以テ行為シ、術トシテハ、終結ヲ破壊スル所ノ種々ノ誤謬ヲ発見スルコトヲ得ベキ規則ヲ設置スルナリ、又学トシテハ、自己ニ明白ナル原理ヨリ起上シ、術トシテハ、名目ト判言トノ品性ヲ定メ、推理ノ駕車ヲ整理ス、推理ノ駕車トハ言語ニシテ、洛日克ノ種々ノ形式ニ於テ引受ケザルヘカラザル者ナリ、又学トシテハ、此ノ如キ規則(術ニテ得ベキ規則)ナキトキハ、推理ニ於テ、余等ニ習行上ノ益ヲ與フルコトナク、術トシテ、根元ニシテノ自己明白ナル原理ニ據ラザルトキハ、理論上ノ解説ニ於テ余等ノ要望ヲ満足スルコト能ハザルベシ、学ト術トヲ合セタル者トシテ、或ハ行為上ノ学トナリ、或ハ学問上ノ術トナルナリ、此ノ如キ學術併合ノ者ハ、余等カ已ニ知ル所ノ知識ヲ交通スルノミナラズ、更ニ之ヲ以テ習行ニマデ導キ得ル者ナリ、又余等ノ智慧ヲ以テ自己ノ推理ヲ導ク為メニ、余等ヲ助クル大カノ器具ナリトシテ自賛シ、又吾等ノ心ヲ満足セシムルト、余等ノ推理ヲ他人ノ心ニ貼用シテ恰当ヲ得ルトヲ問ハズ、總テ他人ニ於テ之ヲ用ヒタルトキ、互ヲ證驗スル為メニ、余等ノ助クル大カノ器具ナリトシテ自

ラ称賛スルナリ、

○此ノ如クシテ洛日克ノ性質ト目的トヲ定メンコトヲ務メ、又其適當ノ界限ヲ定メタル上ニテ、余儕ハ其歴史ニ於テ簡單ノ記録ヲ為シ、其後之ニ関セル託言ト誤謬トノ驅除セント欲スルナリ、

○洛日克ノ事ヲ記シタル最古ノ書ハ熱那以利亜ナリ、熱那ノ書ハ此題目ヲ三部ニ分テリ、第一篇ハ效驗エッセンスヲ論ジ、第二篇ハ會話ニ付テノ論定ヲ説キ、第三篇ハ争辯ディバットノ法メソッドヲ論ズ、其法ハ詭巧ノ推理ヲ以テ、敵手ノ説ヲ混亂セシムルニ在リ、此熱那ノ洛日克ヨリシテ所謂詭辯家ソフリストナル者起ル、此詭弁家ハ、争弁ニ用フル武器ヲ十分ニ貯藏シ、熱心ヲ以テ、最モ隱伏セル題目、又ハ最モ價ナキ題目ヲ考究スル者ナリ、希臘人ハ詭弁家ヲ以テ賢才ナル人智ノ再造者ナリト考ヘ、娛樂ヲ為スコトト智力ノ養成トニ付キテハ是ヲ以テ単一ノ道筋ナリトス、是ニ由リ詭弁ヲ信スルコト其度ニ過ギ、時トシテハ價ナキ志謀ヲ試ミシコトアリ、然レドモ此術ニ依リテ、洛日克ハ、其隱伏セル不條理ヲ発見表示スルコト能ハズ、詭弁家ガ哲學ノ地位ヲ領スルコトハ、阿林皮オリンピアノ第三十五ヨリ九十ノ時ニ達セリ、

○此詭弁家ノ説ノ洛日克ニ合セシハ、唯熱那ノ第二部ノミナリ、熱那ガ初メタル論弁ノ問答法ハ、全ク洛日克ノ原理ヲ基礎トシタル者ナリ、瓊克拉克のガ行ヒタル推理ノ法ハ、全ク熱那ノ問答法ヨリ出タル者ナリ、瓊氏ハ紀元前四百年ノ比其説ヲ弘メ、上古ノ哲学士ノ中ニ於テ殊ニ卓出ナ

ル者ト稱セラレタリ、其論定ノ方法ト事物ト共ニ氏ノ才徳ヲ見ルコトヲ得タリ、瑣氏ハ数々公衆集會ノ席ニ出テ、其利益ヲ與ヘント欲スル公衆ト相交ハレリ、瑣氏衆人ト公共ノ談話ヲ為シ、單一ナル疑問ヲ設ケ、公衆ヲシテ自然ニ其惡意ヲ罰シ、其誤謬ヲ發見セシメシコトヲ務メタリ、瑣家ノ問答法ソクラテック、アイアロヂイト稱スル者ハ此人ノ名譽ヨリ出タル者ニシテ、其秀逸ナル遺言ハ、色諾分ト布拉多トノ書中ニ散見セリ、

○然レドモ瑣氏カ推理ノ方法ハ久シカラズシテ壞乱セリ、麥伽拉メガラノ欧克立得、及ヒ其他ノ瑣氏ノ門人等錯綜紛乱セル誤謬ノ教義ヲ取り、瑣氏ガ世界ニ衣被セル哲学ヲ其本国ヨリ驅逐セリ、

○瑣氏ノ門人皆尽ク此ノ如クナリト言フニ非ズ、其中ニ於テ布拉多ハ殊ニ衆ニ抽ンデタル者ナリ、布氏ハ其考究セル他ノ学科ニ加フルニ、推理ノ術ト内部ノ親密ト為セリ、布氏ハ洛日克ニ付キテ顯著ナル論說ヲ為シタルコトナシ、然レドモ、ロヲ極メテ洛日克ヲ稱賛シ、其哲学上ノ考究ニ依リテ、其洛日克ノ開發ノ為メニ道路ヲ造レリ、大凡布氏ノ時代ニ於テ、思想ノ定義、分鮮、彙類ニ付キテ、其規則ヲ發明セリ、然レドモ推理ノ規則ニ付キテハ、著名ナル推測式ノ發見アルマデハ、未タ一モ完全ナル規則ヲ見ルコトヲ得ザリシナリ、

○亞立士度徳ハ大約紀元前三百八十五年スタギリニ生ル、亞氏ハ馬基頓マケドニ乙ノ王宮ニ養ハレ、二十年間布拉多ノ恵ヲカケシ門人ナリ、後亞歷山徳大アレキサンダ王ノ師傳トナル、王ガ哲学上ノ考究ニ付キ必要ノ習学法ヲ得タルハ亞氏

ノ力ナリ、亞氏ガ師範タルノ才智ト、及ヒ其改進ニ付キ好機會ヲ得タルトニ依リテ、王ヲ此時代ノ第一ノ精氣ト為セリ、亞氏ハ倦疲セサルノ勤勉者ニシテ測ルベカラザルノ博学者ナリ、其死後二千年ノ間、人類ノ考思ノ界域ノ上ニ其最上權ヲ執リシコトハ、恰モ其生時ニ於テ、其門人ナル馬基頓王ニ国民ノ自由ト幸福トヲ知ラシメタルガ如シ、

○亞氏ノ著書ハ、大抵諸ノ学科ヲ包括セザルハナシ、然レドモ其中ニ於テ最モ名譽ヲ博シタルハ其論理術ダイレクツスナリ、余儕ハ推理ノ学ノ主要ナル原理ヲ以テ尽ク亞氏ニ帰セント欲ス、其結構ニ用フル材料中ノ或ル物ハ、亞氏ノ以前ニ於テ之ヲ準備セル者アリ、然レドモ亞氏ハ之ニ基礎ヲ置キタリ、而シテ其基礎ハ今日ニ至ルモ、猶亞氏カ初メテ其門人ニ遺留セシ時ト異ナルコトナシ、

○亞立士度徳ノ洛日克ハ其同時ノ人ハ深ク之ニ意ヲ留ムル者ハ無カリシガ如クニ見ユ、亞氏ノ没スルニ臨ミ、其書ヲ以テ其門人ニシテ傳説人ナル帖疴弗拉士多ニ傳フ、帖氏之ヲ以テ塞布西ノ尼流士ニ傳フ、尼流士ハ哲学士ニ非ズト雖ドモ、此價アル宝貨ヲ得タルヲ以テ深ク之ヲ喜ベリ、此時百伽摩ベルガモスノ王亞勒山の黎ノ図書館ニ古人ノ手書ヲ聚藏セリ、尼流士、亞氏ノ書ヲ奪ハレンコトヲ恐レテ之ヲ窖中ニ隱匿セリ、是ヨリ亞氏ノ書窖中ニ在ルコト大約一百三十餘年ナリ、此書ノ窖中ヲ出テシハ、何レノ時ニシテ誰人ノ所為ナルカヲ審ニスルコト能ハズ、然レドモ其間湿氣ト蟲蝕トノ害ヲ被フルコト甚少ナカリシコトハ明白ナリ、其後ニ至リ此書

賣ラレテ<sup>(アペリコン)</sup>亜百利昆ノ手ニ帰セリ、此人ハ書籍ヲ愛スルニ甚タ熱心ナリ、  
亜百氏此書ニ校正挿入ヲ為シタルコト甚多カリシト言ヘリ、是ニ由リ此  
書ノ真面目ヲ害スルコト、却テ往年審中ニ在リシ時ヨリ甚シトイヘリ、  
其後羅馬ノ大元帥<sup>シルラ</sup>蘇拉此書ヲ羅馬ニ携帰ヘリ、然レドモ羅馬人ハ亞立士  
度德ノ大名ヲ深ク稱譽セズ、西塞魯<sup>シセロ</sup>ハ其著書ニ猶此書ノコトヲ稱シテ、  
讀ムベキノ値アル者ナリトイヘリ、然レドモ国人ハ未タ推理ノ学ヲ為サ  
ントスル者ナシ、耶穌紀元ノ第五期ニ於テ<sup>ベチユース</sup>伯周士、初メテ<sup>ラテン</sup>亞氏ノ洛日克  
ヲ拉丁文ニ譯セリ、伯周士ハ上古ノ代ニ於テ最後ノ知識ト稱セラレシ人  
ナリ、羅馬帝国ノ滅亡スルニ及ヒ、所謂暗世トナリテ世界皆無智ノ世ニ  
沈メリ、是ヨリ東方ニ於テ<sup>(サラセン)</sup>撒拉斯人<sup>(アラビヤ)</sup>亞拉伯人ノ間ニ於テ知識ノ天明ニ逢  
フマデハ、洛日克ノ学ニ就テ其踪迹ヲ求ムベキ所ナシ、  
○東方ニ於テ<sup>アルマムン</sup>文学ノ隆興セシハ、第九期ヨリ第十三期ノ終リニ至レリ、  
撒拉斯ノ王<sup>アルマムン</sup>亞爾馬門<sup>シリア</sup>希臘ノ哲学士ノ著書ヲ以テ叙利亞語ト<sup>シリア</sup>亞拉伯語トニ  
譯シ、八塔<sup>(バグダッド)</sup>及ヒ大改羅<sup>(アラビヤ)</sup>ノ文学院ニ於テ之ヲ習学セシメタリ、其中  
ニ於テ亞立士度德ハ衆人之ヲ愛重シ、其洛日克ノ書ハ殊ニ之ヲ尊重セリ、  
因テ推測式ヲ以テ<sup>(コライン)</sup>可蘭ノ書ヲ解説論定スル為メノ最良ノ器具トセリ、  
然ルニ亞拉伯人ノ尊重ハ反テ洛日克ノ為メニ妨害ヲ為セリ、亞爾馬門王  
洛日克ノ原本ヲ破残スルコトヲ初メ、又撒拉斯人カ西羅馬ヲ滅ホシタル  
後、誤謬アル譯本ヲ取りテ之ヲ習学セシヲ以テ、亞氏ノ洛日克ハ大ニ其真  
面目ヲ失ヒ、遂ニ後世、此洛日克ニ付キテ諸学士ノ間ニ大ナル争論ヲ生

スルニ至レリ、

○中古ノ時ニ至リ、種々ノ反抗異論、学士ノ胸中ニ活動セリ、此争論ヲ  
処スル為メニ熟練ヲ得ントスルノ目的ハ、専ラ自由教育ニ在リ、然ルニ  
幾クモナクシテ、此争論ノ種類ヲ助ケタルハ、推測式ノ変性ニアルコト  
ヲ注目セリ、是ヨリ此利益ナル器具ヲ善ク使用セントスルコトハ、人々  
矜高ノ目的トナレリ、此時争論ハ獨リ学校ノ墻壁ノ内ヲ以テ限リトセズ、  
凡ソ美麗、位階、流行等ヨリ成ル所ノ大ナル公會ニ於テハ皆其争論者ノ  
勝利ヲ稱美シ鑑定スルヲ以テ事トセリ、是ニ由リ其勝者ハ、<sup>ナチユールテオロジイ</sup>武技ニ勝利  
ヲ得タル騎士ノ如ク、諸所ヲ徘徊シ、推測式ニ勝レタル者アルコトヲ聞  
クトキハ之ト論辯ヲ較ヘルトスル者多シ、

○此議論ニ用フル所ノ問題ハ、其時ニ於テ貴重注意スル所ノ者ヲ撰ブ、  
余儂<sup>ナチユールテオロジイ</sup>今天然神學ニ付キテ其一二ノ例ヲ示スベシ、此学ハ此頃ハ之ヲア  
ンゲログラフ<sup>ヒイト</sup>名ケタリ、其疑問ノ條ハ、「一人ヨリ以上ノ天使、時  
ノ同一ト、有形質ノ同点トニ於テ、成立スルコトアリヤ」、「天使ハ暗中  
ニ於テ、見ルコトヲ得ベキ物質ナルヤ」、「天使ハ虚空ノ此点ヨリ彼点ニ  
向ヒ、中間ノ点ヲ歩ムコトナクシテ經過シ得ルヤ」、「此ノ如キ類ノ要用ナ  
ル疑問ヲ發スルトキハ、或ハ之ニ同意シ、或ハ之ニ反抗スルナリ、争論  
者ハ相對シテ其位置ヲ占メ、其争論ノ激烈ナルトキハ、或ハ之ニ由リテ  
一般ノ平和ヲ敗リ、政府ノ干渉ヲ煩ハスコトアリ、  
○推測式ハ此争論ヲ処分スル為メニ必要ノ利器ニシテ、善ク之ヲ運用ス

ルトキハ、常ニ捷利ヲ得ベキ者ナルヲ以テ、衆人之ヲ以テ、人智ノ最貴ノ功勳ト為セリ、故ニ推測式ヲ名ケテ、学問ノ総概ノ機関又ハ知慧ノ眼、太陽ノ如ク世界ノ光ヲ為ス者ト称セリ、是ニ由リ亜立士度徳ノ一身ノ上ニ重積セル稱賛ハ、過度不條理ニ非ズシテ真実ヲ得タル者多シ、<sup>ル</sup> 亜立士度徳ノ世ニ出ルノ前ハ、造化ハ未タ完全ノ域ニ達セズ、氏ノ生ルニ及ンデ、造化ハ氏ヨリ最後ノ一打ヲ受ケ、是ヨリ後ハ復進歩スルコトナカルベシ<sup>ル</sup>”

○亜立士度徳ガ文学、学問、又教法ニ於テ得タル所ノ權勢ハ反テ其害ヲ為セリ、若シ、尋常ノ知覚アル人、羈輓(亜氏ノ勢力ヲ言フ)ニ堪ヘザルニ至ルトキハ、如何ニ驚クベキコトアラザルカ、此ノ如キ人ノ起ルハ待ツベカラザル者ニ非ズ、其人ハ一个ノ鞭ヲ揮フテ、現今変性シテ不條理ナル所ノ結構(亜氏)ヲ脱スルコトヲ為サバ、ルカ、此事ハ現実ニ其興起スルヲ見タリ、

(文学ノ再興)

○第十五期ノ時ニ及ビ、其事件ノ利益アル者甚多ク、是ニ由リ文学ノ蘇生ノ導ケリ、即チ洛日克ノ史ニ於テ要用ナル景況ヲ見タリ、千四百五十年<sup>コンスタンチン</sup>君士但丁ノ陷落スルニ及ビ、希臘ノ学士多ク、以大利及ヒ欧州ノ西部ニ通レタリ、此学士ノ力ニ由リテ、希臘ノ哲学士ノ著書、再ヒ世人ノ注目スル所トナリ、此擬似スベカラザルノ産物ヲ学ブ為メニ、幸ナル結果ヲ得タリ、教法ノ改正、亜米利加ノ檢出、印刷ノ發明ノ如キハ大

ニ諸学諸術ニ利益アル感化ヲ與ヘタリ、

(エラスムス、ルテル)

是ヨリ又世界ニ多クノ学士ヲ出シ、其智巧ト、証論ト、抵抗スベカラザル雄弁トヲ以テ、敢然トシテ推測式ノ作者(亜立士度徳)ヲ攻撃セリ、エラスムスト路暢トハ、殊ニ世人ノ尊重ヲ受タリ、路暢ハ、教法ト哲学トノ双方ニ於テ教皇ヲ拒絶セリ、路暢又剛膽ヲ張り、以テ推測式ヲ攻撃ス、若シメランクトンノ在ルニ非ザレバ路暢ハ必ス洛日克ニ十分ナル改革ヲ為シタリシナルベシ、

(ラミュー、デカルト、ライプニッツ、)

法蘭西ニ於テ、ラミュー、デカルト、德逸ニ於テ萊伯尼士ハ共ニ路暢ト同一ノ軌道ニ循ヒ、而シテ英国ニ於テ不朽ナル勞尔德倍根ハ、<sup>ロートベーン</sup>世界ノ学者ヲシテ、スコラツチックノ不條理ナル奴隸ヲ脱セシメタリ、

(スクールメンノ誤謬)

(勞尔德倍根ノ洛日克ノ学)

○スクールメンノ誤謬ハ、<sup>○</sup>嚴酷ニ在リトイフ攻撃ハ之ヲ言防グコトヲ得タリ、然レドモ其誤謬ハ、洛日克ヲ學習シ稱賛スルニ非ズシテ、洛日克ノ性質ト目的トヲ誤マルニ在リ、スクールメンハ、洛日克ヲ以テ或ハ巧妙ナル戲言ニ適スベキ器具上ノ術ナリトシ、之ヲ賤シメ、或ハ有形物ノ考究、真理ノ發明ニ必要ナル器具ナリトシテ之ヲ尊重セリ、此ノ如キハ勞尔德倍根ガ此学ノ結構ノ誤謬顛倒ヲ論ゼル者トハ全ク其主意ヲ異ニセ

リ、但シ倍根ノ名ノ重キニ由リテ洛日克ヲ誹謗スルノ其度ニ過ギタルコトハ之アリ、然レドモ、倍根ハ洛日克ノ正シキ習学ハ之ヲ非トセザリシナリ、其故ハ此ノ如キコトハ不條理ノコトナレバ、倍根ノ智ヲ以テハ之ヲ為サズルコトナレバナリ、倍根ガ高陞センコトヲ務メシハ、此学ヲ改正セントスルコトニシテ、此学ヲ破壊セントスルコトニ非ズ、其著書ヲアウグメンチス サイエンチアリユムノ中ニ之ヲ論ズルノ條甚タ多く、且ツ其中ニハ洛日克ノ学問ト其卓越セル記者（亜立士度德）トヲ稱賛スルノ語モ亦少ナカラザルナリ、

（此題目ニ付キテ駱克ノ誤解）

○勞尔德倍根ノ後ニ於テ、亜立士氏ノ洛日克ニ断然敵抗セシハ駱克ナリ、駱克ハ、著名ナル人智論ノ著者ナリ、今駱氏ノ注釋ヲ讀ムニ、盖シ自己ノ誤解ノ上ニ立テ事ヲ論ゼル者ノ如シ、其論スル所ヲ見ルニ、皆有許スルニ足ルベキノコトニシテ、モシ他ノ洛日克家ガ此ノ如キ同様ナル説モ立ツルモ大人ノ眼ニテハ皆有恕スル限内ニ在ルベキコトナルベシ、駱氏カ此学ニ付キテノ反抗説ハ、当時ヨリ現今ニ至ルマデ、注目スベキ價ヲ重積シタル者ナリ、

○駱克ハ、「推測式トイフ者ハ真理ヲ發見スル為メノ推理ノ適當ノ器械ニ非ズ、」ト言ヒテ之ヲ誹議セリ、吾儕モ亦然ルコトヲ知ルナリ、然ラハ推測式ハ何物ナルカトイフコトハ駱克ハ之ヲ知ラザルニ似タリ、化学ハ数学ヲ練磨スル為メニ益ヲ與ヘザル者ナレバ、之ヲ以テ化学ヲ非謗スベキ

カ、視学ハ吾等ニ地球ノ形成体ニ付キテ何事ヲモ知ラセザル者ナレバ、之ヲ以テ視学ハ全ク廢棄スベキ者ナルカ、真理ヲ發明シ、又ハ吾等ノ知識ヲ廣大ニスル所ノ適當ノ器械ハ觀察ト經驗トノ二者ニシテ、之ヲ以テ、帰納ノ哲学ヲ應用シテ、造化ノ万物ヲ知得スルナリ、洛日克ノ界域ノ如キハ全ク此ノ如キ者ト異ニシテ、惟專ラ推理ノ一事ニ在リ、故ニ此学ニ属セザル所ノ目的ヲ完成スルコト能ハズトテ、是ヲ以テ其学ニ對セル堅固ナル抵抗ト為スコト能ハザルナリ、

○駱克ハ又「推理ノ特別ノ方法ハ、尋常ノ論辯ニ代用スベキ者ナリ」ト考ヘテ抵抗論ヲ發シタリ、然レドモ此ノ如キコトヲ好シテ行フハ、推理ノ特別ノ方法ニ非ズ、都テ正當ナル推理ハ皆洛日克法ナリ、吾等ノ尋常ノ論説ノ如ク十分ナル長語ヲ以テ發言セル推測式ヲ作ルコトハ洛日克ノ主意ニ非ズ、恰モ数学ニ於テ其実試セル元理或ハ判言ヲ、完全ナル長語ヲ以テ記スベカラザルト其理適ニ同ジ、即チ文典法ヲ以テ發言セル者ハ吾等ノ發言ノ各句ヲ分解スルコトヲ指シ得ルガ如シ、是ニ由テ觀レバ、駱克ガ尋常ノ推理ノ單純ニシテ天然ノ整置ト、推測式ノ推理ノ錯綜セル反復混雜ハ共ニ用ヲ為サル者ナリ、

○此他駱克ガ此学ニ付キテ反對説ヲ立テシハ、「凡ソ世間ニハ推測式ヲ作ルコトヲ知ラズシテ、明白正当ニ推理ヲ為シ得ルノ人アリ」トイフニ在リ、此論ハ今日ニ於テ殆ンド人ヲシテ洛日克ノ学ヲ無益ニ帰セシメントスルノ勢アリ、然レドモ動機字ニ於テ見ルニ、學術上ノ知識ナキモ、能

ク峻速ニ其工事ヲ成ス者ハアラザルカ、又音楽工ガ其術ノ法則ヲ知ラズ、唯其味道ト天然ノ才能ト後ニ得タル習慣トノミニ依頼シテ、其工藝ノ卓越ニ達スル者アルカ、是皆決シテ然ラザルナリ、学問上ノ知識ヨリ出タル規則ノ結構ト其手藝ト相交親ヲ為ストイフコトハ、各人共ニ必要ナルハ明白ノコトナリ、故ニ唯習熟ノ智ト一般ノ知覚ト、援助ナキ経験トノミニ依頼シテ、結構アル知識ヲ廃棄セントスル人ハ、嘲笑又ハ哀憫ヲ受ケルノ物体トナルニ過キザルナリ、然ルトキハ、人類ノ知恵ノ事業トモ名クベキ推理ヲ為サントスルニ、何故ニ学問上ノ知識ヲ以テ必要ニ非ズトスルヤ、論定ノ分子ヲ分解スルノ能アリ、又論定ノ安ズル理論ヲ理會スルノ能アリ、又其構造セル規則ヲ知ルノ能アリ、又吾等ガ日々為サベルベカラザル所ノ事ヲ善ク習知セシムルノ能アル所ノ者ヲ以テ何故ニ之ヲ不用ナリトスルヤ、此原理ヲ貼用スルニ方リ、之ヲ完成セントスルニハ、此学問ノ規則ノ外ニ猶善良ノ知覚ト天然ノ才智ト無カルベカラズ、然レドモ此原理ト相親和スルトキハ、論定ヲ為ストキニ於テ、吾等ノ練摩ト堅固トニ器械上ノ援助ヲ得ルコト多カルベシ、

(瓦都ノ洛日克)

○洛日克ニ付キテ此後ニ記スベキ所ノ学士ハ瓦都ナリ、然レドモ洛日克ハ、其朋友ナリト公言セル者ヨリモ、仇敵ナリト公言セル人ニ於テ、多ク不幸ヲ受クルコトナシ、故ニ瓦都ノ論説ノ如キハ頗ル著名ノ者ナリトイヘドモ、此学問ニ多クノ損害ヲ為シタリ、瓦都ガ駱克ガ推測式ヲ攻撃

セル論ノ外面ノ巧ミナルニ由リテ之ニ眩惑セラレタリト見ユ、駱克ハ「上帝ガ人ヲ造リテ双脚ノ動物ト為シ、亜立士度德ニ委托シテ之ヲ道理アル動物ト為セリ」トイフ想念ヲ嘲笑セリ、瓦都ハ早く亜立氏ノ洛日克ハ廣大ナル事物ヲ為スニ不十分ナリトイフコトヲ認識セリ、然レドモ亜立氏ノ推理ノ中ニ隱伏セル誤謬ハ之ヲ発見スルコト能ハザリシナリ、是ヲ以テ瓦氏ハ人ヲ道理アル動物ニ為スコトハ洛日克ノ界域中ノ事ニ非ズ、又其目的ニ非ズト言ハズシテ、反テ洛日克ノ位格ヲ高クシ、所謂ゼ、ライト、ユーズ、オフ、リーズントイヘル結構ヲ造成シ、人類ノ智力ヲ進修シ、一ハ吾身ノ為メニ真理ヲ求ムルノ助ヲ為シ、一ハ之ヲ他人ニ分與スルノ助ヲ為サシメンコトヲ務メタリ、瓦氏曰ク「洛日克ノ目的ハ吾等ノ理識、即チ智力ノ正當ナル用法ヲ教へ、又自身及他人ニ於テ、智力ノ進修ヲ教フルニ在リ、」此目的ハ実ニ一個ノ学問ニ於テ完成セントスルハ、過大ノ目的ナリ、此事ハ、集合セル力ヲ以テ、学問ノ全範圍ヲ包括スル所ノ目的ナリ、故ニ洛日克ノ境界ヲ進メテ此地ニ至ラシメントスルハ、実行スル能ハザル所ノ希望ヲ起シ、此学ヲ以テ功勳ナキ誹謗ニ陥ラシムル者ナリ、瓦都ガ、想念ト、我意ト、判断ノ規則ニ付テ定メタル規則ハ甚タ必要ノ者ニシテ或ル干係ニ於テハ洛日克ト結合スル者モ亦少ナカラズ、然レドモ想念ノ宝库ヲ得ルコト、我意誤謬ノ原ヲ除クコト、各ノ判言ノ真理ト誤謬トニ付テ十分ナル堅固ヲ與フルコト等ヲ吾等ニ教フルハ洛日克ノ目的ニ非ズ、規則ノ結構ニ於テ一モ之ヲ成就スベキ者ナシ、凡

ソ人類ノ心ノ從來ノ位地ノ俛ニアリ、誤謬ノ根元猶甚々多キ間ハ、學問上ノ原理ヲ結合ストモ、各個ノ題目ニ付キテ十分ナル堅固ヲ以テ判断ヲ為スコト能ハズ、洛日克ヲ以テ、此目的ニ適合セル総概ノ知識ノ結構ナリトスルハ、實ニ此題目ニ関シテノ誤見ナリ、然ルニ瓦都ノ論說ハ到底此誤見ヲ以テ通貫スルコトヲ免カレザルナリ、

○推理ニ関セル誤謬ハ其根元ニ様アリ、其一ハ推理セラル、所ノ主身ヨリ起リ、其二ハ推理ヲ為ス所ノ方法ヨリ生ス、而シテ洛日克ガ、適當ニ干係ヲ為ス者ハ、後ニ記セル者是ナリ、凡ソ洛日克ハ、人類學問ノ諸科ニ貼用スルコトヲ得ベキ者ナリ、然レドモ其目的ハ、其為シタル論說ノ真理ナルカ虚偽ナルカ、正當ナルカ不正當ナルカヲ決定スルニ非ズシテ、惟其論說ヨリ引ク所ノ推度ノ果シテ正當ナルコトヲ見ルニ在リ、若シ前提真理ナルトキハ、收結モ（洛日克ノ法ニテ推ストキハ）亦同様ニ真理ナルベシ、若シ前提虚偽ナルトキハ、其論說ハ實ニ誤謬アルモ、其收結ハ洛日克法ニ於テ正當ナラサルベカラズ、若シ其為シタル論說ト、其引ク所ノ推度トノ間ニ誤謬ナキトキハ、洛日克ハ其工事ヲ完成シタル者トイフベシ、其論說ノ真理ナルト、虚偽ナルトハ復之ヲ問ハザルナリ、

○誤謬ノ原由ハ重モニ主体（サブジェクト）ヨリ生シ、推理ノ法ヨリ生ゼズトイフコトハ甚々明白ナリ、是ニ由リ瓦都ノ時代以來、多クノ才学アル著述家ハ洛日克ヲ輕賤スル者多シ、其故ハ、洛日克ハ吾儕ノ論定ニ付キテ真理ト堅固トヲ得ル為メノ大ナル障碍ヲ除去スルコト能ハザレバナリ、然レド

モ、為シ難キ事ヲ為サズルトイフコトヲ以テ、或ル學問ヲ罪スルハ、果シテ正當ナルコトカ、凡ソ自己ノ範圍内ニ在ルコトハ、何レノ学モ皆能ク之ヲ為スコトヲ得ベシ、是ヲ為スニハ、敢テ他ノ学ノカヲ假ルコトヲ要セズ、此理甚々明白ナルニ、何故ニ洛日克ニ付キテハ、之ヲ不十分ナリトスルヤ、化学ハ其己カ分鮮シ結合スル所ノ物質ヲ準備セザルトイフヲ以テ罰責ヲ受クルコトナシ、其故ハ此物質ハ皆單一ニ非ズ、又皆混合ニ非ザレバナリ、若シ此物質、化学者ノ前ニ現出スルトキハ、化学ノ工事起ル、而シテ化学士ハ其分鮮ト聚合トノ工事ニ由リ或ハ單一ノ物質、或ハ混合ノ物質ヲ造出スルトキハ、是ニ由テ其目的ヲ完成スルナリ、凡ソ推理トイフ者ハ、其事實ノ真理ト虚偽トヲ問ハズ、總テ知識ノ根基ノ上ニ立タザルヘカラズ、此知識ヲ得ルコトト、此事實ノ真理ト虚偽トニ付キテハ、洛日克ハ、何事ヲモ為スコトナシ、總テ是等ノコトハ、人々ガ知識ト理會トヲ得ル他ノ方法ニ依リテ其準備ヲ為サズルベカラズ、此知識ヲ得タル時ニ於テ、洛日克家ハ之ニ依據シテ其働ヲ為スナリ、其知識ノ前ニ發現シタルトキニ於テ、洛日克家ハ其術ノ規則又ハ其学ノ原理ニ從ヒテ或ハ之ヲ聚合シ、或ハ之ヲ分解シ、夫ヨリ洛日克ガ適當ニ保證スル所ノ推度ヲ為スナリ、若シ其論定ヲ為ストキニ方リ、不堅固ノ方法、其推理ノ扱ノ中ニ竄入スルトキハ、真理ト虚偽ト緻密ニ混合シ、其虚偽ハ溶解シテ（化学ノ語ヲ用フ）之ヲ分タサルベカラズ、此時ニ於テ洛日克ノ一滴ハ、實ニ此混合物ヲ分離スルノ薬法ニシテ、是ニ由リテ其混合

物ハ、人目ヲ以テ之ヲ見ルコトヲ得ベクシテ、遂ニ離レテ器底ニ沈澱スルナリ、此ノ如キヲ以テ適當ナル洛日克ノ範圍ト云フナリ、若シ洛日克ナル者、ヨク此目的ヲ得ルニ適當セルトキハ、縦令余儕ニ画一ノ総共ノ真理ヲ與ヘシムルコト能ハザルモ、能ク人ヲシテ洛日克ヲ遺忘セシメザルニ足ルベキ十分ナル必要ヲ有スト言フベシ、然レドモ反對論者ハ是ヲ以テ満足スルコトヲ好マザルベシ、

(彌爾ノシステム、オブ、ロジック、)

○余儕力短簡ニ記載セザルベカラザルノ著述者ハ彌爾ナリ、其著書ノシステム オフ ロジック、ラシヨシネチーブ、エンド、インダクチーブハ近頃印行セリ、此書ハ記者ガ忍耐ニシテ透徹ナル思想ヲ現ハシ、心学、形学、徳学ト相結合セル種々ノ抽象的又困難ノ問題ニ付キ、合宜、透明、緊切ナル解説ヲ為シタルヲ以テ、大ニ稱譽ヲ受タリ、此書ハ要スルニ洛日克ノ為メニ過大ノ田野ヲ占領セリ、故ニ才智アル読者ハ適當ノ詮議ニ由リテ、此中ヨリ快樂モ利益ヲモ得ザルヲ以テ、記者ノ説ニ従フ者少ナシ、余儕モ記者ガ推測式ニ付キテ深遠ノ説ヲ為シタル意見ニ同意スルコト能ハズ、其故ハ此書ノ他ノ部分ニ於テ簡畧ニ之ヲ説キタル通りナリ、然レドモ余儕ハ彌爾ノ著名ナル書ノ世ニ出タルハ、洛日克ノ習学ニ付キテ大ナル利益アルコトヲ見タリ、此書ニ依リテ此題目ニ切要ノ件々ヲ提起シタルコトハ至テ明白ナリ、或人ハ洛日克ノ値ヲ立ツルコト過大ニシテ、又或人ハ之ヲ賤シムコト過度ナリ、此二者共ニ誤マレリト雖ド

モ、此二者ノ有ルニ由リテ、洛日克ハ初メテ其眞実ノ功能ト切要トノ適當ノ價ヲ立ツルコトヲ得ルナリ、此学ノ嚴密ナル学問上ノ品性ノ左ノ諸事ニ由リテ證明スルコトヲ得ベシ、推理ノ法ハ、其言語ノ意味ノ如何ニ関セズ、随意ノ符号ヲ用ヒテ之ヲ為スコトヲ得ベシ、此学ノ適當ノ界域ハ、其記者タル者他ノ学科ノ田野ヲ彷徨スルコトナク、自己適應ノ家内ヲ限リテ之ヲ承諾固定セサルベカラズ、洛日克ノ朋友ノ不適當ノ過稱ニ由リテ、過當ノ希望ヲ為スコトハ、道理アル界限ノ内ニ沈没スル者ナリ、洛日克ノ仇敵ナル根深キ謬説ハ、銷滅セントスルノ状ニ赴ケリ、現今ノ著述家ノ中ニ於テ幸福アル結果ヲ此学ニ興スベキ者ハドクトル准多利ナリ、此人ハ都柏林ノ大教長ナリ、此人ノ洛日克ノ著書ハ、此学ヲ以テ、忘失ト謬誤トヨリ解脱セシメ、是ヲ学ブ者ノ為メニ、新ナル生命ト方向トヲ與ヘタル者ナリ、

○洛日克ノ学ハ直チニ民間一般ニ行ハレントスルコトハ希待スベキ所ニ非ズ、凡ソ人ノ想像ニ盈チ知覺ヲ打ツ所ノ趣味ヲ樂ム者ハ其数至テ少ナシ、詩ノ美好、天文ノ超勝奇怪、化学ノ奇ナル經驗ノ如キハ、皆人ヲシテ其学ニ熱心ナラシムルニ足ル、洛日克ノ如キハ之ニ異ニシテ、唯尋常ニシテ衆人ノ了知スル所ノコトヲ論ズル者ナリ、故ニ好シテ洛日克ノ此ノ如キ者ナルコトヲ知り、又其方法ヲ完成セルコトヲ企ツル者ハ甚僅少ニシテ、多数ノ人ハ皆其知識ヲ得ルハ皆他ノ学科ノ力ニ由ル者ニシテ、洛日克ハ之ヲ補助スルノ功ナキ者トセリ、然レドモ余儕ハ、洛日克ハ能

ク之ヲ了知シ、正當ナル主義ヲ以テ之ヲ學ブトキハ漸々ニ名譽ヲ得ル者ナルコトヲ信ゼリ、推理ノ理論ト、其基礎トナル原理ト、其推演ヲ為ス所ノ規則トヲ了解スルコトハ、人類タル者ノ注意ニ値價アル目的ナリ、是等ノ諸分ヲ包括セル學問ヨリ生出セル利益ハ、自由教育ノ要部ナリトシテ之ヲ稱譽セザルベカラザルナリ、

#### 心ノ活用ヲ論ズ

○凡ソ論定ヲ為サントスルニハ、其心ノ活用ニ三様アルコトヲ知ル、其一ハ單一ナル理會レムアル、アツアレヘンシヨニ由リテ、自己ノ意見、即チ想念ヲ得、其二ハ判断シキチニ由リテ吾等ノ想念ヲ比較シ、又吾等ノ同意不同意ヲ發言ス、其三ハ推理リソニ由リテ、或ル判断ヨリ他ノ判断ニ進行ス、但シ第二ノ判断ハ第一ノ判断ヲ以テ根基トシ、又ハ第一ノ判断ノ後ニ從属スル者ナリ、○單純ナル心智ノ活動ノ上ニ付キテ此ノ如キ心ノ働ヲ分解シ、又ハ其現象ヲ考索スルコトハ他ノ学科ノ管スル所ナリ、洛日克ノ界域ノ中ニ在ル者ハ唯推理ノ働ニ属スル者ノミナリ、單一ナル理會ヲ國語ヲ以テ發言スルトキハ之ヲ名目ムト名ク、判断ノ働ヲ外ニ發言スルトキハ之ヲ判言アロボシト名ク、推理ノ働ハ之ヲ論定アキユト名ク、

○然ルニ是等ノ者ハ何レモ多少ノ欠失ヲ免カレザル者ナリ、名目ハ不明イデス了チニ陥ルコトアリ、判言ハ虚偽ハトナルコトアリ、論定ハ誤謬ハラト歸スルコトアリ、故ニ吾等カ工夫セル方法ニ依リテ、此ノ如キ欠失ニ陥ラザランコトヲ務ムルハ尤モ相当ノコトナリ、此洛日克モ亦學ノ原理ニ

本ケル規則ニ依據シテ之ヲ行ハザルベカラザルコトナリ、○故ニ洛日克ハ之ヲ三部ニ分ツベシ、或ハ上ニ記セル心智ノ三様ノ働ニ隨ヒテ其名ヲ命スベシ、第一ハ名目ヲ論シ、第二ハ判言ヲ論シ、第三ハ論定ヲ論スルナリ、

「利知曼氏洛日克第一」 解題

「利知曼氏洛日克第二」は、八二七一—〇三「雜綴」二十四號に、「人間交際」「學之門」「彌爾氏洛日克撮要」などとともに合綴されている。

「利知曼氏洛日克第一」は、John Leechman(一八〇二—一八七四)の著述になる *Logic: designed as an introduction to the study of reasoning* の部分訳である。確認できたのは一八六四年発行の第四版である。これには、第二版、第三版の発行に向けての序文もあり、それぞれ一八四四年、一八四六年の年次を付している。第四版のための序文では、応用のための練習問題等を追加した旨が記されている。

西村の翻訳した箇所は、本文冒頭の一頁から二四頁に至る Introduction の全部である。この部分については入手できた第四版と変更はないようである。

原書のはじめには、西村が翻訳を手がけた、次の書籍の紹介がある。

*Outlines of Moral Philosophy*: By Dugald Stewart

*Outlines of Mental and Moral Science, with Lexicon of Terms*, By David Stuart.

John Leechman は、イギリスのグラスゴー出身のバプテスト派の聖職者であり、伝道師である。彼は、一八三二年から一八三七年まで、宣教師としてインドの伝道根拠地セランプルに派遣され、ここで大学のチーターの勤めもしていた。一八三六年にセランプルで出版された

*Elements of Logic. Compiled for the use of youths in India* はその折のテキストであろう。一八三七年にイギリスにもどった後にも、伝道活動を続けたが、論理学の研究を継続したのである。

序論

○凡ソ事物ノ性質ヲ知ラザルノ間ハ、其事物ニ適當ノ定義ヲ附スルコト能ハズ、其以前ニ之ヲ定ムベキ者ハ唯其考究ノ目的ノミナリ、洛日克ハ、或ハ之ヲ推理ノ学ト為シ、或ハ之ヲ推理ノ術ト為スベシ、其学ト為ス者ハ、余儕推理ノ為ストキニ当リ其心ノ運用ヲ分解スル者ニシテ、其術ト為ス者ハ運用ノ為メノ規則ヲ理會スル者ナリ、然レドモ推理ノ語ハ其包メル所未タ尽サバ、ル所アリ、推理ノ語ハ推測スルコト、即チ（更ニ真正ノ意味ニ於テ）己ニ允許シタル固言ヨリシテ推度ヲ為スコトナリ、然レドモ亞立士度徳及ヒ学校派ノ洛日克家ハ洛日克ノ内ニ名目ト陳意トヲ包括シ、ポルトローヤルノ洛日克家ハ洛日克ヲ以テ思考ノ術ト同一ノ者ト為ス、通常ノ意見ニ於テモ、彙類ノ精密ナルト、前提ニ付キテノ命令ノ廣衍トハ演澤ノ精密ヨリハ、洛日克ノ力ノ明白ナル表号ナリトセリ、又一方ニ於テ、洛日克ノ定義ヲ以テ「真理ノ考索ニ於ル理會ノ働ノ取扱ノ学」ト為ス者ハ、其語ノ包含ハ極メテ廣シトイヘドモ、直覺ヨリ知リタル真理ヲ其中ニ入ル、ヲ以テ、遂ニ誤解ヲ為シタル者ナルベシ、其故ハ外面ニ現ハル、直覺ハ多ク推度ノ働ヨリ得ル者ナレトモ、何物カ真ノ直覺ナルトイフコトヲ考求スルハ、形而上ノ学ニ属シテ洛日克ニ属セザレハナリ、

○洛日克ハ信ベリノ学ニ非ズシテ、證定アル即チ證拠エビデノ学ナリ、凡ソ学科

トイフ者ハ大抵ハ推度ニ非ザルハナシ、此点ニ於テハ洛日克ノ田野ト他ノ学科ノ田野ト相符合セリ、然レドモ其異ナル所ハ、洛日克ハ証據ヲ發見スル者ニ非ズシテ、証據ニ就キテ判断スル者ナリ、凡ソ学ハ皆データヲ以テ組成シテ、是ヨリシテ其決定ヲ為スナリ、洛日克ハ此データノ間ニ如何ナル干係ノ成立セザルベカラザルカトイフコトヲ表示スル者ナリ、凡ソ推度ヲ為ス所ノ諸学ハ、洛日克ノ法則ニ從フカ從ハザルカニ由リテ、或ハ真正トナリ、或ハ否ラザル者ナリ、倍根スコーンハ洛日克ヲ稱シテ、アルスアルチュームト言フ、諸学ノ学トイヘル義ナリ、敏才ゼニユスノ人ハ、時トシテハ、自ラ知ラズシテ洛日克ノ法則ヲ用フルコトアリ、然レドモ夫ハ唯敏才者ノミナリ、学問ノ進歩ハ、其学ニ貼用スベキ洛日克ノ法則ヲ十分ニ知悉スルニ由リテ之ヲ得ベキコトハ、一般ノ規則ナリ、是ニ由テ見レバ、洛日克ハ證據ノ價値ヲ助クル理會ノ働ノ学ト稱シテ可ナルベキ者ナリ、洛日克ハ獨リ、己ニ知レルヨリ未タ知ラザルニ進ムノ活用ノミニ非ズ、其補助トシテ名目、定義、彙類ヲ為ス者ナリ、概念、記憶及ヒ其余ノ心ノ性能ハ、洛日克ヲ以テ其働ヲ為スニ非ズ、洛日克ハ唯是等ノ性能ヲ假定スル者ナリ、故ニ余等ノ目的ハ、證據ニ依リテ定則ヲ作ルノ外ニ、推度及ヒ之ヲ助成スル働ノ運用ヲ分解スルニ在リ、然レドモ余儕ハ此分解ヲ以テ、洛日克ノ実用ニ付テ要須ナル者ノ外ニ出スコトヲ欲セズ、其故ハ、分解ニ於テノ一步ハ、第二步ヲ假ラズシテ良善ナルコトヲ得ベク、而シテ吾等ノ志望ハ単ニ推度ノ運用ノ良ト否トノ差別ヲ見ルニ過ギザレ

バナリ、是ヨリ細密ナル分鮮ハ形而上学ノ関カル所ナリ、若シ此学、自  
巳ノ自識ノ吟味ノ外ニ出テ、又ハ吾等ノ記憶ノ外ニ出ツルトキハ、他ノ  
学問ト同ジク洛日克ニ於テ引受クベキノコトトナルナリ、

「彌爾氏洛日克撮要」解題

「彌爾氏洛日克撮要」は、八二七—一〇三「雜綴」二十四號に、「人間  
交際」「學之門」「利知曼氏洛日克第二」「彌爾氏洛日克撮要」などととも  
に合綴されている。William Stebbing (一八三二—一九二六)の著述で  
ある *Analysis of Mill's System of Logic* の部分訳である。

本書には一八六四年版があり、それが初版であると思われるが、確認  
できたのは一八八八年発行の *New Edition* である。

この版によると、本書は、ミルの「論理学体系」を読者の読解に便宜  
をはかるように圧縮したものである。大幅な省略もあるが、論理学体系  
の順序にそって構成されている。西村が翻訳した箇所は、Introduction の  
全部である。

William Stebbing については、詳細は不明であるが、*Sir Walter  
Raleigh : a biography*、*Some masterpieces of Latin poetry : thought  
into English verse*、*The poets : Geoffrey Chaucer to Alfred Tennyson,  
1340-1892* といった著述をロンドンで出版している。

第三釋 病ヲ受ケタル嗜欲 (第三章 四三頁ヨリ)

嗜欲ハ天然ノ有様ヲ失ハザルトキハ、固ヨリ徳性ニ害ナキコトハ、第二釋ニ詳ニ之ヲ論ゼリ、其道徳ニ害アル者ハ病ヲ受ケタル嗜欲即チ腐敗セル嗜欲是ナリ、因テ第三釋ニ於テ、詳ニ此病害ヲ説カント欲ス、

第一章 病ヲ受クルノ義ヲ論ズ

第一節 病ヲ受クルニ二様アリ

嗜欲ノ病ヲ受クルト云フ語ニ二様ノ意味アリ、其一ハ嗜欲ノ生器、真ニ疾病ヲ受クルヲ云ヒ、其二ハ、自ラ戒慎セズシテ其度ヲ敗ルヲ云フ、道德ノ學ヲ論ズルニハ、必ス此二者ノ病ヲ併セ擧ゲザルベカラズ、先ヅ初メニ云ヘル嗜欲ノ生器真ニ疾病ヲ受クルトキハ、嗜欲発作ノ状、天然ノ有様ニ異ニシテ、或ハ強キニ過ギ、或ハ弱キニ過ギ、或ハ其一ハ強クシテ其一ハ弱ク、或ハ何レモ偏倚ノ性ヲ現ハシテ常人ニ異ナルコトアリ、譬ヘバ視官ノ機関、病ヲ受クルトキハ視力ニ變動ヲ生シ、聴官ノ機関、病ヲ受クルトキハ聴力ニ變動ヲ生スルト相同ジ、第二ニ言フ所ノ自ラ戒慎セズシテ其度ヲ敗ル者ハ、操持ノ力ノ微弱ナルヨリ起ル者ナリ、操持ノ力元來微弱ナルヨリシテ嗜欲ノ放縱ヲ制スルコト能ハズ、漸々其放縱ヲ重ネテ、遂ニ全ク悪シキ習慣ヲ造成スルニ至ルナリ、而シテ此二者ハ相互ニ感化ヲ為ス者ニシテ、嗜欲ノ敗度ハ嗜欲ノ疾病ヲ増シ、嗜欲ノ疾

病ハ亦嗜欲ノ敗度ヲ誘引スル者ナリ、但シ嗜欲ハ一次病ヲ受クル(疾病ト敗度トノ双方ヲ指ス)ト雖ドモ、醫藥ノカト克己ノカトニ由リテ健康ノ姿態ニ復スルコトヲ得ル者ナリ、爰ニ記スル所ハ、皆未タ健康ニ復セザル以前ノ姿態ヲ言ヒ、以テ醫藥ト克己トヲ用ヒンコトヲ切望スル者ナリ、

第二節 生後ニ得タル嗜欲

ステワート氏ハ、此ノ如ク病ヲ受ケタル嗜欲ヲ名ケテ生後ニ得タル嗜欲ト稱ス、其言ニ曰ク『吾儕ノ嗜欲ハ、天然固有ノ者ノ外ニ、更ニ生後ニ至リテ得タル者アリ、烟草阿片其他、人ヲ酔ハシムル藥ヲ嗜ムガ如キハ、皆吾等ガ生前ヨリ固有セル嗜欲ニ非ズシテ、生後ニ及ンデ新ニ之ヲ得タル者ナリ、總テ是等ノ物(烟草阿片ノ類ヲ指ス)ハ人ノ神經ヲ刺衝シテ其部ヲ昏眊セシム、是ニ由リ尋常ノ分量ニテハ快樂ヲ覺エルニ足ラザルヨリシテ、遂ニ分量ヲ多クシ、其度數ヲ繁クセザルコトヲ得ザルニ至ルナリ、』此ノ如キ人ハ嗜欲ヨリ貪欲(是ハ飲食等ノミノ貪欲ヲ言フコトニテ、金錢等ノ貪欲ヲ言フニハ非ズ)ヲ起シ、嗜欲貪欲合シテ一体トナリタル者ナリ、凡ソ飲食ハ吾身ヲ養フ物ナリト云フコトヲ忘ルベカラズ、若シ之ヲ忘ル、トキハ、其嗜欲放縱トナリ、遂ニ吾身體ヲ害スル所ノ貪欲過度ヲ為スニ至ルコトアリ、酒、阿片、烟草、及ビ味ノ濃美ナル食物ハ、輒モスレバ、保養ノ本旨ヲ失ヒテ、身体ヲ傷害スルノ過度ニ赴キ易キ者ナリ、

## 第二章 生前二病ヲ受ケタル嗜欲

嗜欲ハ吾身ノ未ダ生レザル前ニ於テ已ニ病ヲ受クルコトアリト曰ハバ、之ヲ疑フノ人アルベシ、然レドモ造化ノ天則ニ依ルニ、人ノ父母タル者ハ、其身體及ヒ精神中ノ幾分カヲ其子孫ニ遺傳スル者ニシテ、人ノ子孫ノ其形体性質ノ其父母ニ肖似スル所アルハ、此天則ニ基ケル者ナリ、人ノ父母タル者淫蕩放恣ノ惡例ヲ行ヒテ之ヲ示ストキハ、其子ハ亦之ニ倣ヒテ淫蕩放恣トナルハ勿論ノコトナレドモ、其子ノ淫蕩放恣トナルハ、其父ノ惡例ヲ見習フヨリハ、其父ノ惡シキ血筋ヲ受クルニ由リテ然ルヲ多シトス、若シ淫蕩ナル一父アリテ、五人ノ子アル時ハ、一人ノ惡シキ血筋ヲ弘メテ五人ト為スノ理ナリ、西國ノ古語ニ、人ノ父タル者惡事ヲ犯セバ、上帝其罪ヲ罰シテ三世四世ノ子孫ニ至ラシムト言ヘリ、人ノ子孫ガ生前ニ於テ其嗜欲ニ病ヲ受クルガ如キモ、即チ上帝ノ譴罰中ノ一事ナリト知ルベシ、人タル者ハ誰モ禍ヲ子孫ニ遺サンコトヲ願フ者ハアルベカラズ、已ニ餘殃ノ子孫ニ及バンコトヲ惡ミナガラ、吾身ヲ酒色ニ沈溺セシメテ其嗜欲ヲ腐壞セシムルハ、熱ヲ惡ンデ火ニ近ヅキ、混ヲ惡ンデ水ニ入ルト同様ノ誤謬ナリ、

## 第三章 嬰兒ノ時ニ病ヲ受ケタル嗜欲

人ノ嗜欲ハ父祖ノ惡シキ傳來ニ由リテ多少壞惡トナルト云フコトハ、上章ニ述ベタルガ如シ、然ルニ父祖ノ傳來ノ外ニ又嬰孩ノ時ノ養育ノ仕方ト其時ノ習慣トニ由リテモ亦多少壞惡トナルト云フコトハ蓋シ疑ナキ所

ナリ、凡ソ嗜欲放縱ト云ヘル病ノ種子ハ、未ダ物事ノ勘辨ナキ嬰孩ノ時、

已ニ之ヲ體中ニ蒔ク者ニシテ、母タル者モシ好ンデ精神ヲ昏醉セシムルノ飲料(酒、鴉片ノ類ヲ云フ)ヲ飲ムトキハ、其乳ヲ吸フ所ノ嬰兒ハ、母ノ飲ミタル飲料ノ幾分ヲ吸入シ、自然ニ此ノ如キ飲料ヲ服スルノ習慣ヲ為シ、是ニ於テ初メテ嗜欲ヲ壞惡ニスル病ノ種子ヲ體中ニ植エ是ヨリ以來、此種子年ヲ遂ヒテ成長シ、少年ト為リ、壯年ト為ルニ及ンデ、其嗜欲放縱ニ慣レ、多量ノ酒ヲ飲マザレバ止マザルニ至ル、此時ニ至リ、之ヲ檢束シテ適度ヲ守ラシメントスルニハ、非常ノ力ヲ用フルニ非ザレバ其放縱ヲ制スルコト能ハズ、而シテ世間ノ人ヲ見ルニ、爰ニ至レバ、多クハ其放縱ヲ制スルコト能ハズシテ許多ノ惡事ヲ引き出シ、甚シキハ其身ヲ亡ボスニ至ル者アルハ、實ニ憫レムベキノ至ナリ、

故ニ凡ソ兒子ヲ養育スルノ人ハ、其兒子ノ為ニ注意ヲ要スルノ件々少ナカラズト雖ドモ、兒子ノ嗜欲ヲ造成スルノコトモ亦大切ノ責任ナリトシテ、決シテ之ヲ怠ルベカラズ、蓋シ人ノ幼ナルヤ、其最初ニ方リ、善惡ニ感ズルノ心ハ、未ダ十分ニ開發セズト雖ドモ、飲食ノ嗜欲ハ已ニ盛ンニ開發スル者ナレバ、之ヲ制シテ惡習ニ陥ラザラシムルハ、養育上ニ於テ極メテ肝要ノコトト云フベシ、醫師ノ注意深キ者ハ、嬰兒ノ母タル者ニ酔酩スルノ飲料ヲ飲マシメズ、又妄リニ小兒ニ藥劑ヲ飲マシムルコトヲ禁ズルハ良ニ故アルコトナリ、凡ソ純清ナル大氣ニ當リ、淡薄ナル食物ヲ喫シ、身体ヲ強ムル運動ヲ為シ、快樂ナル朋友ノ交遊ヲ為スノ類ハ、

人ノ嗜欲ノ病害ヲ除キ、天然ノ健全ヲ保持スルニ必要ノ諸件ナリ、

#### 第四章 少年ノ時ニ病ヲ受ケタル嗜欲

##### 第一節 遺傳ト習慣トノ病ハ醫治スルコト難カラズ、

人ノ嗜欲ハ、父母ノ遺傳ニ由リテ壞患ト為リ、又ハ嬰兒ノ時ノ習慣ニ因リテ腐敗スルコトアルモ、是ガ為メニ後年ニ至リテ治療シ難シト云フコトハ決シテ無キコトナリ、其治療ノ要法ハ、先ヅ我身年己ニ長シタル時、己ガ嗜欲ノ遺傳又ハ習慣ニ由リテ病ヲ受ケタルコトヲ知ラバ、力ヲ極メテ己ノ私ニ克チ、必ス其病ヲ去リテ徳義ヲ養成セザルベカラズト云フ志ヲ確定スベシ、是ヨリ常ニ道理ノ諫言ニ從ヒテ嗜欲ノ諫言ニ從フベカラズ、又上帝ノ命令、即チ吾良心ノ命令ニ聽順シ、断然ト他ノ誘惑ヲ拒絶シ、専心一意ニ吾職分ト相欸洽スベシ、嗜欲ト戦フ時ニ當リ、嗜欲ノ抵抗力甚タ弱キ時ハ、之ニ克ツモ格別ノ功勳ヲ見ズ、若シ嗜欲ノ力甚強クシテ其争愈大ナル時ハ、其勝利ノ功勳愈光輝アリテ、其榮譽愈高大ナルベシ、故ニ己ノ私欲ニ克タントスル者ハ敵ノ強勢ヲ畏レズ、益奮ツテ之ニ勝タンコトヲ求ムベキナリ、

故ニ嗜欲ハ、父母ノ遺傳ト、嬰兒ノ時ノ習慣トニ由リテ敗壞スルコトアルモ、後來ニ至リ道德力ヲ以テ之ヲ制スルトキハ、能ク其敗壞ヲ醫治スベキ者ナリ、而シテ其醫治ノ果シテ能ク功ヲ奏スルヤ否トニ至リテハ、人々己ガ志ヲ立ツルノ堅固ト不堅固トニ関スルコトニシテ、其志ノ不堅固ナル者ハ、縱令能ク之ヲ療治スベキノ理アルトモ、竟ニ快復ノ功ヲ見

ルコト能ハザル者ナリ、

##### 第二節 少年ノ時ノ病ハ醫治スルコト至テ難シ

然ルニ人ノ少年ノ際、即チ大約十歳ヨリ二十五歳ニ至ルノ間ハ、嗜欲ノ勢最モ烈シク、道理ノ力未ダ熟セズ、故ニ自己ノ氣儘ニ任セテ其欲スル所ヲ行ヒ、遂ニ放縱ニ流レテ惡道ニ墮落スル者甚多シ、論語ニ少時血氣未レ定戒レ之在レ色トアリテ、色欲ニ陥溺スルハ固ヨリ此年時ニ在ルコトニシテ、加フルニ飲食ノ過度ニ由リテ其身體ヲ害スルモ亦此時ニ在ルコトナレバ、此年時ハ実ニ人生至危ノ時ト云フベシ、今嗜欲ヲ制スル能ハザルニ由リテ漸々惡道ニ侵陥スルノ順序ノ大畧ヲ記シ、以テ年少ノ輩ヲ儆戒セントス、

##### 第三節 第一步

目前ノ快樂ヲ取ランガ為ニ節度ナキ欲望ヲ起ス 目前ノ快樂ヲ取ランガ為メニ嗜欲ヲ容ルシテ放恣ナラシムルハ風俗ノ人ノ通情ナリ、少年ノ時ハ、欲望ノ甚タ強キト先見ノ甚タ短キヲ以テ、輒モスレバ此災害ニ罹リ易シ、少年ノ初メテ其嗜欲ヲ縦ニスルヤ、唯其甘味ノミヲ嘗メテ未ダ苦味ヲ嘗ムルコトナク、又之ガ為メニ罪業ヲ犯シタルノ感ヲ生スルコトナシ、故ニ其時ニ當テハ、父母教師ノ教誨ヲモ聽カズ、上帝ノ命令ニモ順ハズ、良心ノ規戒ヲモ用ヒズ、唯自身ノ快意快樂ヲ取ラント欲スルノ外、他ニ顧ミル所ナシ、此ノ如クシテ漸々其放恣ノ増長スルトキハ、是マデ嗜欲ヲ過度ニセシ報應トシテ嗜欲ニ一種ノ惡癖ヲ生シ、此惡癖其韁

ヲ執リテ嗜欲ヲ馭シ、従前ハ少シク他人ノ譏ヲ顧ミシモ、此時ヨリハ、反テ大膽不敵ト為リ、一身敗滅ノ方ニ向ヒテ、駭々ト其歩ヲ進ムルニ至ルモノナリ、

#### 第四節 第二步

悪シキ手本ノ感化 已ニ嗜欲ヲ肆ニシテ之ヲ制スルコトヲ知ラザルトキハ、是ヨリ又悪キ友ヲ得ルニ至ル、悪キ友ハ已ガ嗜欲ヲ助クルヲ以テ、之ト親ムコト甚タ易シ、已一人ニシテ嗜欲ヲ恣ニセシ時ハ、其放蕩未タ甚シカラザレドモ、悪友アリテ之ヲ導クトキハ、其惡ニ赴クノ速ナルコトハ、水ノ下キニ就クガ如シ、初メ吾一人ニテ放恣ニ陥リタルハ特ニ道德ノ路ヲ踏違ヘタル者ナレバ之ヲ迷誤ト稱スベクシテ、其惡ニ進ムノ力、未ダ甚タ強カラザレドモ、悪友アリテ悪キ手本ヲ出シ、其手本ヲ目的トシテ放蕩ヲ行フトキハ、己レ心ヲ定メテ嗜欲ヲ恣ニスル者ニシテ、其惡ニ進ムノ力甚タ強シ、吾身己ニ嗜欲ヲ制スルコト能ハズ、悪友又吾為メニ惡例ヲ出シテ吾ニ示シ、二人相結ンデ共ニ嗜欲上ノ快樂ヲ求メンコトヲ謀ルトキハ、其惡ヲ為ス勢力ノ強キコト、何物モ之ニ抵抗スルコト能ハザルベシ、古語ニ曰ク、愚人ノ交リハ、共ニ其身ヲ亡ボスノ交ナリト、信ナルカナ、此ノ如ク已ニ嗜欲ノ畏ニ懼リタル人ヲ救ハントスルニハ、先ツ其惡友ト絶交セシムルニ非ザレバ終ニ之ヲ救フノ途ナシ、

#### 第五節 第三步

正シカラザル意想 少年ノ輩ハ、輒モスレバ、富貴ノ家ニ生ル、者、

又ハ他ヨリ制抑ヲ受ケザル者ノ、恣ニ放蕩ヲ盡スヲ見テ、益々已ガ嗜欲ヲ發動スルコトアリ、世間ニハ高貴又ハ豪富ノ子弟ナド、衣服風采共ニ當時ノ流行ニ随ヒテ美麗ヲ極メ、豪華放逸ヲ行フ者アリ、定見ナキ少年輩ハ真正ノ秀美ナル者ヲ知ラズ、此輩ガ他ノ制抑ヲ受ケズシテ放蕩ヲ盡スヲ羨ミ、道德ノ貴ブベキコトヲモ、罪惡ノ賤シムベキコトヲモ知ラズ、一意ニ之ヲ羨ミテ其放蕩ヲ師トシ、若シ望ミ通り嗜欲ヲ恣ニスルコトヲ得ルトキハ、唯之ヲ以テ快樂トスルノミナラズ、又之ヲ以テ人ニ誇ルニ至ルナリ、世間ニ若シ己ガ嗜欲ヲ制シ堅ク其身ヲ慎ム人アレバ、却テ之ヲ詆リテ偏固愚迷トナシ、或ハ其金錢ヲ奢費セザルコトヲ嘲リテ貧陋吝嗇トナシ、己レハ他ニ檢束セラレズシテ放蕩ヲ盡スヲ以テ人間尊貴ノ地ニ立テリト為ス、此ノ如キ人ハ所謂恥辱ヲ以テ榮譽ト為ス者ニシテ己ガ驕慢ト嗜欲ト相合シテ其身ヲ敗滅ノ方ニ驅進スル者ナリ、

#### 第六節 第四步

悪シキ想念 此ノ如クナル時ハ、其人ノ想念、己ニ本道ヲ取失ヒ、專ラ悪キ方ニ向ヒテ勇進シ、吾身ヲ滅亡セシムベキ所ノ想念、盡ク吾心中ニ充滿スルナリ、凡ソ酒ト云ヒ、肉ト云ヒ、色ト云ヒ、豪華ト云ヒ、怡遊ト云フガ如キハ、皆少年輩ガ想念ノ赴ク所ニシテ、其嗜欲ヲ腐敗セシムルノ物ナリ、是等ノ物ハ、吾等ノ想念ニ由リテ誘惑ノ力ヲ増ス者ニシテ、其物が自己ニ具有セル快樂ヨリハ、少年輩ノ嗜欲ヲ發動スルノ力反テ甚タ強キコトアリ、想念ナル者ハ吾精神ヲ高崇ニスル為メニ必要ナル能性

ナルニ、若シ誤テ此ノ如キ方ニ向ヒテ進動セシムルトキハ、吾精神ヲ養フ者ヲ轉用シテ吾身ヲ破壊スルノ器具ト為ス者ナリ、

#### 第七節 第五歩

後來ヲ忘卻ス 嗜欲全ク其天性ヲ失フトキハ、殆ンド狂人ト其態ヲ同クシ、唯目前ノ快樂ニノミ惑溺シテ明日アルコトヲ知ラズ、危ブムベキコトアレドモ危ブマズシテ之ヲ冒シ、恐ルベキコトアレドモ、恐レズシテ之ニ觸ル、此ノ如キニ至ルトキハ、吾嗜欲ノ病患ハ、十分ニ成熟シ、敗滅ノ期已ニ近ヅキ、生命ヲ此地ニ保ツノ日將ニ多カラザラントス、縦令猶許多ノ生命ヲ保チ得ルモ、決シテ其未ダ病ヲ受ケザリシ日ノ生命ニ及ブコト能ハザルベシ、嗜欲ノ未ダ病ヲ受ケザルノ時ヲ無罪ノ日、又有望ノ日ト云ヒ、己ニ病ヲ受ケテ本性ヲ失ヒタル後ヲ有罪ノ日又無望ノ日ト云フ、有罪ノ日トナリタル後ハ、太陽ノ耀輝、黄金ノ光ヲ其頭上ニ放ツコトナク、伽陵頻伽かりょうびんがノ如キ天上ノ音楽ノ聲ハ、變シテ生命ヲ破滅スル苦惱ノ声トナリ、一時綠葉繁茂シ、紅花艶發セル草木モ、今ハ凋零萎衰シ、而シテ敗滅ノ證候數々出現シ、悔恨ノ苦痛其身ヲ責メ、此世界ヲ去リテ墓中ニ埋メラレントスルノ恐怖ヲ抱キ、獨リ天ニ向ヒテ大息ヲ発スルノ外他計ナシ、此ノ如キ人ハ若シ巴黎パリイニ在ラバ、誤リテ賭博場ノ穴中ニ入り、明朝ハ其屍ヲ勝戦門セイネ(巴黎ニ在リ)ノ趾カ、又ハ塞納河セイネ(法蘭西国ノ大河)上ニ見ルニ至ルベシ、

#### 第八節 第六歩

結尾 然レドモ若シ幸ニシテ亜米利加ニ生レテ基督ノ教化ニ逢フトキハ(著者ハ亜米利加人ナルヲ以テ此ノ如ク自國ヲ稱賛ス、又基督教ヲ稱賛スルハ彼国人ノ常ナリ)、此ノ如キ自業自得ノ死ヲ取ルコトナカルベシ、凡ソ人タル者道德ノ罪過ヲ犯セドモ、禍害ノ報ノ来ルハ至ツテ徐緩ナル者ナレバ、中途ニシテ已ガ罪過ヲ悟ルトキハ、禍害ノ報ヲ免カル、コトヲ得ベシ、世人多ク最初ニ嗜欲ヲ放縱ニシテ已ガ快樂ヲ極メントスルヨリシテ、漸々ニ已ガ財産ヲ傾倒シ、復タ嗜欲ニ浪費スルノ餘財ナキニ至ル、而ルトキハ、一方ヨリハ已ガ良心起リテ痛ク吾身ヲ譴責シ、一方ヨリハ已ガ嗜欲未ダ満足セザルヲ以テ、更ニ之ヲ満足セントスルノ欲心来リ攻メ、其心中ノ苦惱言ハン方ナシ、此ノ如キ攻撃ニ遭遇スルハ、則チ造物者ガ奇異ノ術ヲ以テ世人ヲ陷溺ノ中ニ拯フ所以ナリ、既ニ嗜欲ノ放縱シタル人ト雖ドモ、此場合ニ至レバ左支右梧シテ如何トモスルコト能ハズ、是ニ於テ初メテ後悔ノ念ヲ發シ、恍然トシテ往日ノ非ヲ悟リ、久シク遺忘セシ道德ノ正路ニ再ヒ立返ラントスルニ至ルベシ、然レドモ此ノ如キ惑溺ノ極處ニ近ヅキ、一時ノ悔悟ニ由リテ頓ニ正人ト為リタル者ハ其例甚タ少ナシ、大抵嗜欲ヲ縱ニシ道德ノ惡業ヲ犯ス者ハ、畢生其非ヲ悟ラズ、醉生夢死ヲ以テ其生涯ヲ了シ、親戚朋友ハ其迷溺ノ中ニ在リテ世ヲ没スルヲ悲シミ、天上ノ惠風ハ空シク此賤丈夫ノ墓上ヲ吹過グルノミナリ、

#### 第五章 嗜欲ノ病ヲ快復スルノ法

### 第一節 心靈ヲ以テ肉体ヲ馭スベシ

前ニ少年ノ輩ガ其嗜欲ニ病ヲ受ケタル後漸次ニ壞惡ニ陥ルコトヲ説ケリ、然レドモ嗜欲病ヲ受ルモ、早ク之ヲ快復スルトキハ、前文ノ如キ禍害ニ罹ラザルコトアリ、是則チ一旦罪業ヲ犯シタレドモ、自己ノ力ニ由リテ其罪惡ヲ消滅シタル者ニシテ、若シ果シテ此ノ如クナルコトヲ得バ、再ビ有徳者トナリ、高崇ノ思想ヲ壞ク者トナリ、幸福ノ人トナリ、一家ノ主人タルニ適當ナル人トナルベシ、然レドモ實ニ之ヲ為サントスルニハ、先ヅ其初ニ一身中ニテ徳性ト罪惡ト烈シキ戦争ヲ為サ、ルベカラズ、其戦争ノ時ニ當リ、最モ堅固ナル忍耐力ヲ起シ、総テ吾肉體ヲ以テ吾心靈ノ下ニ服從セシメ、凡ソ道徳ヲ損スベキ快樂ハ如何ナル者ニテモ皆賤陋汚穢ナル物ナリト云フコトヲ心ニ了得セザルベカラズ、

### 第二節 驕奢放逸ヲ賤視スベシ、

又従前吾身ヲ惑溺セシ流行様ノ驕奢、富豪様ノ放逸ノ如キハ、速ニ之ト断縁セザルベカラズ、此ノ如キ驕奢放逸ハ、頗ル俗人ノ稱譽ヲ受ケ、或ハ是ニ由リテ公衆中ニ威權ヲ得ルコトアルモ、決シテ之ヲ以テ尊貴高崇ノモノナリト誤解スベカラズ、明カニ良心ノ眼ヲ開キテ、此事ハ道德上ノ罪惡ニシテ賤汚鄙劣ナル者ナルコトヲ断定スベシ、己ヲ尊恭スト云ヘル訓語ハ、此時ニ當リ能ク罪惡ニ抵敵シ得ベキノ甲冑ナリ、賤汚鄙劣ノ行為ヲ以テ我身ヲ穢スハ、己ヲ尊恭スル所以ニ非ザルナリ、

### 第三節 想念ヲ善路ニ指向スベシ、

又己ガ想念ノ惡路ニ彷徨セル者ヲ制シ、能ク之ヲ導キテ純清高崇ノ目的ヲ得ル方ニ指向スベシ、惡路ニ向フノ想念ハ、極メテ熱心ナル者ナレバ、善路ニ向フニモ、同じク其熱心ニ以テ進行シ、中途ニ放棄シテ冷淡ナラシムベカラズ、凡ソ小説、凶画、歌謡、音曲、劇場等ノ類、其他実事ヲ記シタル書ニテモ、総テ人ノ想念ヲ悪クシ、嗜欲ノ放縱ヲ助クル者ハ、一切之ニ近ヅカズ、之ヲ畏ル、コト宛モ疫病ノ如クナルベシ、疫病ハ冥々ノ中ニ感染シテ人身ヲ害シ、小説圖画等ノ諸件ハ、冥々中ニ人心ヲ損壞スル者ナレバ、其害タル決シテ疫病ニ下ラザルナリ、

### 第四節 惡友ニ遠ザカルベシ

又惡シキ朋友ニ遠ザカラザルベカラズ、吾身ノ惡キ習慣未ダ全ク消去セズ、良善ノ習慣未ダ全ク堅固ナラザルノ間ハ、惡キ朋友ハ數々吾ヲ誘惑シテ惡道ニ導カントスル者ナリ、故ニ此ノ如キ時ハ、無益ナル曖昧ノ交際ヲ為ス者、及ヒ肉體ノ快樂ヲ喜ブ所ノ交友ハ断然ト之ヲ謝絶シ、心ヲ傾ケテ嚴正ナル道德家ト相親シミ相交ラザルベカラズ、古語ニ曰ク、智者ト共ニ事ヲ為ス人ハ、即チ智者ナリ、愚人ト交ハル者ハ遂ニ其身ヲ破滅スベシトハ此事ナリ、

### 第五節 無罪ノ遊娛ハ禁ズベカラズ、

然レドモ余ハ全ク人ノ天性ニ逆ヒ、耳目鼻口ノ欲ヲ断チ、木食水飲シテ山中ニ隱居スベシト曰フニ非ズ、無罪ノ遊娛ヲ為シ、及ヒ健康ヲ助クル為メノ快樂ノ如キハ、決シテ禁ズル所ニ非ザルナリ、此ノ如キ遊娛ト快

樂トハ、唯少年ノ為ニ禁ゼザルノミニ非ズ、又之ヲ勸メテ行ハシムベキ所ノ者ナリ、若シ無罪ナル遊娛ヲモ全ク禁止スルトキハ、人ノ天性ニ逆フヲ以テ、別ニ反動ヲ起シテ過度ニ其快樂ヲ行ハントスルコトアルベシ、若シ此形ノ快樂ニ於テ、其形ヲ現ハサズルトキハ、必ス他ノ快樂ニ於テ其形ヲ現ハスベシ、若シ遊娛ナル者、無罪ノ姿ニテ現ハル、トキ之ヲ禁ズルトキハ、有罪ノ姿ヲ以テ現ハル、コトアルベシ、

#### 第六節 善キ樂ミヲ樂シムベシ

故ニ少年ノ輩ニハ、先ツ宜シク飲食男女ノ嗜欲ノ快樂ノ外ニ、更ニ高等ナル快樂アリテ、之ヲ養成シ之ヲ寛容スルモ、毫モ吾天性ニ害ヲ為サズルノミナラズ、却テ吾心身ノ益ヲ為ス者ナリト云フコトヲ知ラシメザルベカラズ、即チ平常ノ職業ノ外ニ從事スベキ高等ナル快樂ハ、先ツ諸國ノ文章其他文學ニ属スルコト、趣味ヲ有セル百般ノ技藝ノコト、詩歌ノコト、音楽ノコト、交際上ノ戲遊ノ純清ナル者等ニシテ、是等ヲ以テ快樂トスルノ心ヲ養成スルコト尤モ肝要ノコトナリ、又少年輩ニハ能ク造化ノ万物(山水花鳥ノ類)ノ美麗ト、人工ノ趣味ヲ有セル物トヲ以テ、己ノ想念ヲ満足セシメ、己ガ願欲ヲ高崇ニスルコトヲ務メシムベシ、此ノ如クシテ、其道理心ヲ以テ高崇ナル快樂ヲ樂ムコトヲ知ルトキハ、遂ニ彼鄙劣汚穢ニシテ、且ツ鬼魅ノ窟穴ニ陥ルノ恐レアル肉體ノ快樂ハ、自然ニ之ヲ棄テテ顧ミザルニ至ルベシ、

#### 第七節 二釋ヲ總論ス

前ノ第二釋ニ於テハ天然ノ嗜欲ヲ説キ、之ヲ管理制馭スル所以ノ方法ヲ示シ、第三釋ニ於テハ、病ヲ受ケタル嗜欲ヲ説キ、其病ヲ醫治シテ天然ノ健康ニ復スル所以ノ法ヲ示セリ、少年輩ノ其身ヲ善クセント欲スル者ハ、能ク此二釋ニ述ブル所ノ告示ヲ取リテ、之ヲ今日ノ実行ニ驗シ、之ヲ要スルノ時ニ當リテ、能ク之ヲ吾身上ニ打貼シ、以テ吾嗜欲ヲ治ムルノ道ヲ了得センコトヲ望ムナリ、

#### 第四釋

##### 第一章 天然ノ真情

○真情又感情ト譯スベシ、原語ヲアツフエクシヨント云フ、(第一冊十三葉ニ出ヅル關情ト云フ者是ナリ、關情ノ譯字未ダ穩ナラザルヲ以テ真情ト改ム、以下皆同ジ)、人ヲ愛シ人ヲ憎ムノ情ヲ言フナリ、此真情ト云フ者ハ常ニ多少感動モキ(名義第一冊二十六葉二見ユ其詳ナルコトハ下ノ第六釋ニ出ヅ)ト相伴ヒテ發スル者ナリ、其發スル時ニ當リ、感動ノ原質ヲ、含ムコト強キトキハ、別ニ一種ノ情ヲ現ハス、是ヲ熱情又過情パツシト云フ(支那ニテハ情ノ目ニハ七情八情等アレドモ、情ノ種類ハ唯一個ニシテ、即チ情ノ一字ヲ以テ之ヲ包括セリ、西國ノ心學ニテハ、情ヲ分チアツフエクシヨ、パツシヨノ二種ト為ス、今適當ノ譯字ナキヲ以テ姑ク真情○熱情ノ二語ヲ以テ之ニ填ツ、真情ハ人ヲ愛憎スルノ情ニシテ、熱情ハ喜怒哀怨驚懼等ノ情ナリ、其鮮義ハ後ニ至リテ詳ナリ)、熱情ハ情ノ力ノ強

大ナル者ナレドモ、其情ヲ興セル物ニ對シテ仁慈ノ念ヲ發スルコト甚少ナシ、又熱情ハ衝進ノ力ノ強キ真情ニシテ屢、変性シテ淫欲ニ陥ルコトアル者ナリ、忿怒ノ如キモ亦熱情中ノ一ニシテ、人ヲ敵視スルノ感覺甚強く、道理ヲ辨ズルノ力、大ニ凶失シ、是力為ニ心ノ智識全ク晦ラミ、恰モ狂人ノ如クナルコトアリ、真情ハ全ク之ニ異ニシテ、固ヨリ本来ノ性能ナレバ、他ノ感覺ノ来リテ攪動スルコト無ケレバ、熱情ノ如キ悪性ヲ現スルコトナシ、

## 第二章 真情ト願欲トノ區別

### 第一節 區別ノ常法

真情ハ總テ人類ニ向ヒテ發シ、願欲ハ幸福利益又ハ苦痛困難ナル事物ニ付キテ發ス、是ヲ二者區別ノ定式ト為ス、例ヘバ吾等ハ或人ヲ愛シ或人ヲ憎ム(真情)、吾等ハ或人ノ貨財ノ富、田園ノ美ヲ見聞シテ之ヲ得ンコトヲ欲ス(願欲)、吾等ノ我ガ兒子ヲ愛シ(真情)、又兒子ガ後來ノ幸福ヲ願フ(願欲)、此例ニ據リテ真情ト願欲トノ差別ヲ知ルベシ、即チ真情ノ目指ス所ハ活物ニシテ、願欲ノ目指ス所ハ活動セザル事物ナリ、人類ノ外又禽獸ニ對シテ發スル所ノ真情アリ、凡ソ禽獸ニ對シテ少シモ愛憐ノ情ナキ人ハ、其心性中ノ良善ノ要部ヲ闕クノ人ナリ、然レバ禽獸ヲ愛スルハ亦人ノ常性ト云フベシ、併シ一様ノ真情ナガラ、道理アル動物(人類)ニ對シテ發スル者ト、道理ナキ動物(禽獸)ニ向ヒテ發スル者ハ其性少シク異ナル所アリ、或人ハ其飼犬ガ已レニ忠実ナルヲ以テ甚之ヲ愛

セリ、然レドモ其人ガ已ノ兒子ヲ愛スルニ比スレバ、其真情自ラ一様ナラザル所アリ、又或ル女子ハ猫兒ガ其翫弄ニ適スルヲ以テ甚之ヲ愛セリ、然レドモ己ガ幼キ弟妹ヲ愛スルニ比スレバ、其真情自ラ同ジカラザル所アリ、

### 第二節 事物ニ對スル真情

又人ノ常語ニ、余ハ食物ノ何々ヲ愛シ、飲料ノ何々ヲ愛スト云フコトアリ、然レドモ此愛ハ真情ノ愛ニ非ズシテ、只其物ヲ嗜好スルニ過ギザレバ、是ヲ愛スト謂フヨリハ、之ヲ好ムト謂フヲ以テ適當ナリトス、又人ノ常語ニ吾儕ハ余ノ家ヲ愛シ、冬日ニハ火ノ近傍ヲ愛シ、朋友ノ画像ヲ愛シ、田舎ノ閑靜ナルヲ愛シ、樹下ノ道路ヲ愛シ、景色ノ明媚ヲ愛シ、溪流ノ清キヲ愛スト云フコトアリ、此愛ハ全ク真情ヲ相離レザルノ愛ナリ、前ニ真情ハ単ニ活物ニノミ對シテ發スト言ヒシニ、今此ノ如キ非動物ニ對シテ發スルハ、如何ナル故ゾト尋ヌルニ、畢竟愛ニ列記スル所ノ諸物ハ、皆人ノ精神ト感覺ヲ交フル者ナルガ故ニ、自然ニ人ノ真情ヲ發動スルナリ、若シ頑然タル死物ニシテ、少シモ人ノ精神ニ關係ナキ者ナレバ、決シテ人ノ真情ヲ起スノ理ナシ、又民間ノ常語ニ、此人ハ金錢ヲ愛シ、彼人ハ人ニ稱譽セラル、コトヲ愛スト云ヘリ、細カニ考究スレバ、此二者モ亦実ノ真情ニ非ズ、金錢ヲ愛スルハ願欲中ノ貪婪部分ニシテ、稱譽ヲ愛スルハ亦願欲中ノ虛誇部分ナリ、

### 第三節 真情ノ憎ニ屬セル者

真情ハ前ニモ言フガ如ク特リ愛ノ一方ノミニ非ズシテ、又憎ノ方ニ付キテモ發スル者ナリ、而シテ此情モ亦専ラ動物ニ関シテ發スルナリ、例ヘハ吾等ハ或人ノ傲慢ナルヲ憎ム、或人ノ狡黠ナルヲ憎ム、又吾等ハ蝮蛇、蜂蠆蜥蜴ノ如キ動物ヲ惡ムト謂フ、即チ真情ノ憎ニ属セル者ナリ、其非動物ニ關シテ發セザルコトハ愛ノ真情ニ異ナラズ、故ニ吾等ハ山水草木金石ヲ憎ムト謂ハズ、

#### 第四節 禽獸ノ真情

禽獸モ亦天然ノ真情ヲ有セリ、然レドモ其真情中ニ道德ノ性ヲ寓セズ、禽獸ハ原来道理ノ性ナク、又良心ナシ、故ニ其真情ナル者モ道德ノ力ヲ以テ之ヲ調整スルコト能ハズ、故ニ禽獸ノ真情ハ之ヲ氣性ノ部ニ属シテ人類ノ真情ト一様ニ之ヲ論ゼズ、

#### 第三章 天然ノ真情ノ區分

天然ノ真情ノ最要ノ目ヲ擧グレバ左ノ如シ、

##### 第一 父母ノ真情

##### 第二 子ノ真情

##### 第三 兄弟姉妹ノ真情

##### 第四 夫妻ノ真情

##### 第五 交際上ノ真情

以下此順ヲ逐ヒテ詳ニ此五目ヲ説クベシ、

#### 第四章 父母ノ真情

##### 第一節 真情ノ由テ起ル所以ヲ論ズ

父母ノ真情トハ、父母タル者ガ其子ヲ愛スルノ情ヲ言フナリ、此情ハ吾儕人類ノミニ限ラズ、禽獸モ亦同ジク之ヲ有セリ、此情ハ父母ト其子ト血縁アルノミニ由リテ生スル者ニ非ズシテ、我ハ親ナリ彼ハ子ナリト信スルヨリ起リ、又ハ之ヲ養育スルヨリシテ生スル者ナリ、今牝雞アリテ幾頭ノ雛ヲ養育センニ、最初其母雞ノ未ダ知ラザル間ニ、他雞ノ雛ヲ取リテ其母雞ノ雛ト共ニ置クトキハ、母雞ハ之ヲ愛育スルコト已ガ雛ニ異ナルコトナシ、是其己ガ子ナリト信ズルヨリシテ此情ヲ起ス者ナリ、其他ノ鳥獸モ大抵皆然リ、又人類ニ就テ言フトキハ、嬰兒生レテ其母死シタルトキ、他ノ母其嬰兒ヲ乳養シテ生長セシムルトキハ、其乳養セシ母ノ其子ヲ愛スルコト真ノ母ニ異ナルコトナシ、是其養育スルニ由リテ此情ヲ起ス者ナリ、然レバ実ノ父母ニシテ養育ノ恩ヲ兼ヌル者ハ其愛情ノ深キ、固ヨリ言ヲ待タザルナリ、

##### 第二節 區別心ヲ主トスルノ誤謬

或人謂フ、凡ソ人ニハ彼此ヲ分界スルノ區別心ト云フ者アリ、此區別心アルニ由リテ我子ト他人ノ子トノ間ニ格段ノ注意ヲ異ニシ、是ヨリ五官ノ知覺ヲ離レテ専ラ我子ノミニ深キ愛情ヲ發ス、故ニ父母ノ真情ノ本ハ區別心ヨリ起ル者ナリト、此說一理アルガ如ク聞ユレドモ、要スルニ謬説タルコトヲ免カレズ、父母ノ真情ノ發スル根元ヲ尋タルニ、父母タル者、其孩兒ヲ以テ我子ナリト認ムル時、直チニ其心中ニ特別ノ感覺ヲ生

スルナリ、其感覺ハ即チ父母ノ真情ニシテ、區別心ノ如キ一層膜ヲ隔テタル者ニ非ズ、人心ニ此真情アルハ、人類タル者ノ天賦ニシテ、譬ヘバ血液ノ自然ニ身體ヲ循環シ、胃腑ノ自然ニ食物ヲ願欲スルト毫モ異ナルコトナシ、

### 第三節 父母ノ真情ハ時ニ依リテ少シク其状ヲ變ズ

父母ノ真情ノ發スル根元ハ前ニ記スルガ如シ、凡ソ人タル者皆其子ヲ愛憐養育シテ其生長ヲ遂ゲシムルノ真情ヲ具ヘタルコトハ自然ノ天則ニシテ、即チ人タル者ハ皆子ヲ産スルノ体格ヲ具ヘタルコトト、其天則タルハ恰モ相同ジ、然レドモ其幼兒或ハ病死スルカ、或ハ故アリテ遠ク膝下ヲ離ル、トキハ、父母ガ其子ニ関セルノ真情ハ、年ヲ經ルニ隨ヒ、漸々ニ減少スル者ナリ、此ノ如ク愛情ノ漸々ニ減消スルハ、蓋シ造物者ガ人類ヲ恵ム所以ニシテ、若シ然ラズシテ、其死兒去兒ヲ悲哀思慕スルノ情、久フシテ變ズルコトナキトキハ、其父母タル者ハ、之ガ為メニ已ガ生命ヲ傷害スル者多カルベシ、

又是ト異ニシテ、其小兒ヲ以テ幼年ノ時ヨリ、養父母ニ托シテ養育セシムルトキハ、養父母ハ其小兒ニ對シテ日々心中ニ愛情ヲ生シ、其小兒ノ一笑一啼一喜一驚皆其養父母ノ愛情ヲ増加セシムルニ非ザル者ナシ、是亦造化者ガ人類ニ恵與スルノコトニシテ、此愛情ヨリシテ其小兒ノ身上ニ精密ナル注意ト深切ナル心配ヲ加ヘ、以テ其小兒ヲ保育シテ成長ニ至ラシムルコトヲ得ル者ナリ、

### 第四節 父母ノ真情ノ要用一

此真情ハ父母タル者ガ其子ヲ保護スル為ニ必要ナル注意ヲ喚起サシムルノ用ヲ為ス者ナリ、禽獸ノ其子ヲ育スルガ如キハ、其愛情ノミニ由リテ之ヲ保護スルナリ、故ニ愛情ナケレバ保護スルコトナシ、保護スルコトナケレバ、禽獸ノ子ハ皆死シ盡クスベシ、

人類ハ道德性アレバ、其子ヲ保護養育スルコトハ父母タル者ノ職分ナリト云フコトヲ知レリ、併シ父母ノ其子ヲ養育保護スルハ、全ク已ノ職分ヲ行フト云フ意ノミヲ以テ之ヲ為ス者ニ非ズ、無智ノ愚民ハ、父母タル者ニ此職分アルコトヲ知ラザル者多シ、又其職分アルコトヲ知ル者モ、其人ノ年齢ニ由リ、或ル一時期ノ間ハ、其職分ヲ盡サント欲スルノ念其薄キコトアリ、此時ニ當リ、若シ父母ノ真情トイフ者アリテ、其職分ノ力ヲ助ケ、又ハ其職分ノ代理ヲ為スコトナキトキハ、世間ノ嬰兒タル者ハ、(父母ノ愛育保護ニ依ラザレバ生活スルコト能ハザル者ナレバ)皆甚シキ困苦ヲ受ケ、又ハ死亡ニ至ル者アルベシ、

### 第五節 其二

此真情ハ亦父母ガ其職分ヲ行フニ大ナル助ヲ為ス者ナリ、凡ソ母タル者ガ其子ニ付キテ為ス所ノ労苦ハ実ニ非常ノ難行ナリ、母タル者モシ唯己ガ職分ヲ盡スト云フノミノ心ニテ之ヲ為ス時ハ、決シテ此ノ如ク綿密ニ氣配注意スルコト能ハザルベシ、又父タル者ガ、其子孫ノ計ヲ為スガタメニ、歲月ノ久シキ間、日々勞動シテ厭ハザル者ハ、其子孫ヲ愛スルノ

真情深キニ非ザレバ、決シテ為スベカラザルノコトナリ、又人ノ父タル者、終日職業ニ奔走シタニ家ニ帰ルトキ、其小兒ヲ膝前ニ擁スルノ快樂ハ、聊カ以テ晝日ノ勞ヲ償フニ足ルト云フモ、其天然ノ真情アルニ由リテ然ルヲ致ス者ナリ、

小兒ヲ養育スルニ當リテハ、母ノ氣配苦勞常ニ父ニ勝リ、是カ為メニ困苦艱難ヲ受クルモ、堪忍シテ能ク之ニ耐フ、是ニ依テ見レバ、父母タル者ノ愛情ハ、母ノ有スル所ノ分量、父ノ有スル分量ヨリ多キコトヲ知ル、慈愛深キ母ノ心ハ、古人之ヲ造物ノ工事中ノ最工妙ナル者ト名ケシハ、恐クハ過稱ニ非ザルベシ、凡ソ人道中慈愛ト名クル者ハ、何物モ之ニ比スベキ者ハ非ザルベク、精密ニ寫シ出シタル天神ノ肖像トハ、蓋シ之ヲ言フナルベシ、

父母ガ其子ヲ愛スルノ心ハ、其子ガ父母ヲ愛スルノ心ニ勝レリトハ、世人ノ常ニ言フ所ナリ、父母タル者其子ヲ深愛スルノ心アルヨリシテ、其事ニ發スル者慈惠ノ意アルニ非ザル者ナシ、凡ソ父母ガ其子ニ對シテ為ス所ノ事ハ、子ガ其父母ニ對シテ為ス所ノ事ヨリ多シ、兒子ノ為メニ衣食ヲ具ヘ、注意配慮シ、心痛劬勞シ、堪忍辛抱シ、吾身ノ安全ヲ抛擲シ、吾身ノ生命ヲ忘卻スルニ至ル等ノコトハ、大抵ハ父母ガ其子ニ對シテ行フ所ノ事ナリ、此ノ如キ事ヲ行フテ自ラ厭ハザルハ、勝レタル愛情アルニ非ザレバ能ハザルナリ、故ニ父母ガ其子ニ對スルノ愛情ト、子ガ其父母ニ對スルノ愛情ト其多少ヲ比較スレバ、父母ノ愛情其多量ヲ占ムルハ、

蓋シ天然ノ法則ナリ、

### 第六節 其三

父母ノ真情ハ、道德及ヒ教法ノ目的ヲ助クルノ益アリ、凡ソ父母タル者深ク其子ヲ愛スル時ハ、必ス其後來ノ事ニ慮リ及ブ、後來ノ事ヲ慮ル時ハ、必ス其子ガ後年ニ守ルベキ道德ノ旨趣ヲ教フルコトニ盡力スルナリ、造物者、人類ヲシテ其務ムベキ職分ヲ行ハシメントスルトキハ、先ヅ人ノ父母タル者ノ道德心ヲ提起ス、是其道德ノ最モ能ク行ハル、所以ノ良法ナリ、古ヨリ母ノ真情ヲ以テ其子ヲ教訓シ、是ニ由リテ人子ノ其身ヲ亡滅セントスル者ヲ救ヒ上ゲンコト、其數幾ント量リ難カルベシ、

### 第三章 子ノ真情

#### 第一節 子ノ真情ノ起發

子ノ真情トハ人ノ子タル者ガ其父母ヲ愛スルノ情ヲ謂フナリ、子ノ真情モ亦父母ノ真情ト同ジク、唯血縁アルガ為ノミニテ發スルニ非ズシテ、其父母タリ子タルコトヲ知ルヨリシテ發生スル者ナリ、小兒、其己レヲ乳養スル者ハ己ガ母ナルコトヲ知ルトキハ、其時母ニ向ヒテ自己天然ノ愛情ヲ傾注スルナリ、父ニ於ケルモ同様ノコトニテ、其己ガ父タルコトヲ知リタル後ニ於テ、父ニ對シテ其愛情ヲ發スルナリ、故ハ是ハ我父、是ハ我母トイヘル想像ノ發シタルトキ、初メテ子ノ真情トイフ者ハ發生スルコトナリ、

#### 第二節 子ノ真情ノ開達

子ノ真情ハ父母ノ真情ト同ジク人類固有ノ氣性ナリト雖ドモ、生レテ直チニ開達スル者ニ非ズ、上ニモ言フガ如ク、此情ハ単ニ血縁ノミニ由リテ發スル者ニ非ス、其親子タルヲ知ルニ依リテ發スル者ナレバ、其小兒ガ親子タルヲ知ルダケノ年齢ニ達スルニ非ザレバ開暢スルコトナシ、其最初ニ發スル時ノ有様ハ、父母ノ真情ト較々異ニシテ、父母ノ真情ハ慈惠ノ分多ケレドモ、子ノ真情ハ熱情（解義本釋ノ第一章ニ出ツ）ノ分多シ、熱情ノ分多キヲ以テ、小兒ノ時ハ、其父ヲ愛スルヨリハ其母ヲ愛スルコト深シ、其故ハ母ガ日夜小兒ヲ愛撫シ、之ニ乳ヲ與へ、之ニ甘味ノ食ヲ與フル等ノ恩ハ、小兒ノ為メ、甚タ親切ニ感徹シ、父ガ小兒ノ衣食ノ為メニ勞動スルコトハ、未ダ小兒ノ心ニ感ズルコトナケレバナリ、小兒年已ニ長ジ、其父ガ吾為メニ勞動スルノ恩ヲ知り、是ニ於テ其愛情ヲ

父ト母トニ平等ニ分ツニ至ルナリ、然レドモ嬰孩ノ時、母ガ慈愛ノ恩ハ早クヨリ深ク小兒ノ心中ニ蘊入シ、畢生消磨スルコトナキ者ナリ、或ハ年長ズルノ後、母ノ厚恩ヲ忘ル、者ノ如キハ、真ニ罕有ノ事ト云フベシ、

### 第三節 男兒女兒其愛スル所ヲ異ニス、

凡ソ女子ハ、其父ヲ愛スルコト母ヲ愛スルニ過ギ、男子ハ其母ヲ愛スルコト父ヲ愛スルニ過グル者ナリトハ、世人ノ常ニ言フ所ナリ、此事若シ実ニ然ラバ一理アルコトナルベシ、蓋シ此ノ如キコトノアルハ、男女互ニ相愛スルノ性ヨリ來ル者ニシテ、婦人ノ柔軟ナル性質ト、男子ノ強剛ナル性質ト互ニ利益ヲ相為スニ由リテ然ル者ナリ、而シテ實事上ヨリ見

ル時ハ、父ハ常ニ其男子ヲ管理シ、母ハ常ニ其女子ヲ管理ス、此事タル、恐ラクハ男女相互ニ助ヲ為ス所ノ天然ノ傾向ヲ妨クル者ニ近カラン、凡ソ教養ナル小兒ハ真誠ニ其父母ヲ愛スルコト少ナシ、然レドモ其父母ノ何レノ方ヲ問ハズ、己ヲ罰責スルコトノ輕キ者ニ向ヒテ其愛情ヲ呈スル者ナリ、然レハ剛柔互ニ利益ヲ相為スノ理ハ、亦強ユベカラザル者アルニ似タリ、

### 第四節 子ノ真情ノ要用一

子ノ真情ハ、子タル者ガ其父母ニ服従スル為ニ甚タ要用ナル者ナリ、今鳥獸ノ子ノ如キモ、若シ生レナガラニシテ其父母ヲ慕フノ情ナキトキハ、或ハ日ニ照ラサレ、或ハ飢餓シテ殪ル、ナルベシ、是ニ依テ見レバ、總テ己ヲ保護スル者ニ倚頼シ、其命令ニ聽従スルハ、其身ヲ安全ニスル為ニ欠クベカラザルノコトナリ、人類ノ子ニ於テモ、亦鳥獸ノ子ニ異ナルコトナシ、其幼孩ノ時ハ、自己ノ存意ヲ以テ其身ヲ安全ニスルノ智ナキ者ナレバ、其父母ノ存意ニ随ヒテ、其命令ニ聽従セザル時ハ、決シテ安穩ニ成長スルコト能ハザルベシ、而シテ子タル者ノ真情ハ、實ニ此服従ヲ堅固ニスルノ力ヲ有スル者ナリ、

### 第五節 其二

又此愛情ハ、子ガ父母ニ服従スル為メニ、幸ヲ與フル者ナリ、若シ此愛情ナキトキハ、子タル者欣喜快慰シテ其父母ニ服従スルコト能ハズ、子タル者ガ常ニ怡々トシテ其父母ニ聽従スルハ畢竟此真情アルガ為ナリ、

若シ此真情ナキトキハ、鎖ニテ繋ガレタル懲役人ノ如ク、已ムヲ得ズシテ聽従スルコトトナルナリ、然ルトキハ聽従モ其子ノ幸福ニ非ザルナリ、子ノ愛情ハ又道德及ビ教法ノ目的ヲ助クルノ益アリ、凡ソ人ノ父母タル者ハ常ニ其子ヲ訓誨シ、悪行ト敗亡トニ陥ラザラシメンコトヲ欲セザルハナシ、然レドモ其子ニ父母ヲ愛スルノ真情ナキトキハ、子ノ心中ニ拂戻ノ意ヲ生シテ、深切ナル父母ノ訓誨モ其用ヲ為スコト少ナカルベシ、凡ソ道德及ビ教法ノ旨趣ヲ人ノ子ニ教ヘ込マントスルニハ、父母ノ子ヲ愛スルノ情ト、子ノ父母ヲ愛スルノ情ト、互ニ相合シテ初メテ能ク其功ヲ奏スベキコトナリ、然レハ子ノ愛情ノ道德ニ益アルコトハ、父母ノ愛情ニ於ケルト実ニ大ニ異ナルコトナカルベシ、

#### 第四章 同胞ノ真情

##### 第一節 其解義

同胞ノ真情トハ、一家ノ内ニ在ル兒子、即チ兄弟姉妹ノ間ニ生スル所ノ愛情ヲ謂フ、此愛情モ前ノ親子ノ愛情ト同ジク、彼ハ我兄ナリ、我ハ彼ノ弟ナリ、彼ハ我姉ナリ、彼ハ我妹ナリト云ヘル血縁ヲ知ルヨリシテ生スル者ナリ、然レドモ若シ貪慾妬忌等ノ惡念相互ノ間ニ發スルトキハ、或ハ此真情ヲ破滅スルコトアレドモ、此ノ如キ不幸ニ逢ハザル時ハ、此愛情ハ生涯連續シテ中絶スルコトナキ者ナリ、禽獸ニハ此同胞ノ愛情アルコトヲ見ズ、唯其初生ノ兒子ガ其父母ノ周圍

ニ在リテ生長スルノ間ハ、相互ニ愛憐ノ情アルヲ見ルト雖ドモ、是ハ真ニ同胞ノ愛情ト言フ者ニ非ズ、其故ハ禽獸ノ子ハ已ニ成長シアルノ後ハ、互ニ其同胞ヲ知ルコトナシ、況シテ愛情ノ生スベキ謂ハレアランヤ、其少時ニ相愛スルガ如キ者ハ、唯日々親シク相交ハルニ由リテ生スル所ノ愛情タルニ過ギズ、

##### 第二節 同胞ノ真情ノ要用

凡ソ一家ノ内ニ生スル兄弟姉妹ハ、常ニ其相利害ヲ共ニスル者ニシテ、其初メハ同ジ母ノ乳ヲ吸ヒ、同ジ一家ノ内ニ團欒シ、父母没スルノ後ハ同ジク其遺物ヲ分チ、喜ブベキ事モ歎クベキ事モ、同一ニ之ヲ負擔セザルハナシ、然ルトキハ、若シ此眞實ノ愛情ナキトキハ、必ス相争ヒ相害シ、骨肉ノ間ニ大ナル不幸ヲ生スルニ至ルコトアルベシ、凡ソ兄弟姉妹ガ相互ニ安全ヲ為シ、一家ノ利益ヲ増進スルハ其和合ニ基ク者ニシテ、此和合ト云フ者ハ愛情ナケレバ之ヲ得ルコト能ハズ、若シ此愛情、信實ニシテ永久渝ラザルトキハ、同胞間ニ現出セル和樂ノ光景ハ、実ニ世界上ニ於テ類ヒ希ナル美好ノ景色ナルベシ、今マノ姉タル者ガ其幼弟ニ對シテ深切和柔ナル取扱ヲ為シ、又人ノ兄タル者ガ、其幼妹ノ幸福或ハ欠乏ニ付キテ懇到周密ナル氣配リヲ為スノ状ヲ見レバ、明ラカニ人類天賦ノ美ナルコトヲ知ルコトヲ得ベクシテ、觀ル者ヲシテ愉快ノ心ヲ生セシムルニ足ルベキ者ナリ、

同胞ノ真情ヲ以テ夫婦ノ真情ニ比スルニ、熱情ハ夫婦ヨリ少クシテ、慈

愛ハ夫婦ヨリ多シ、此真情ハ他ニ破ル者ナケレバ、生涯消滅スルコトナキヲ常トシ、而シテ又能ク人ノ兄弟姉妹ヲシテ、各自己ノ利益ヲ棄テ、其兄弟姉妹ノ利益ヲ謀ルノ心ヲ生セシムル者ナリ、蓋シ己ノ利益ヲ棄テ他人ノ利益ヲ謀ルト云フコトハ一家族ノ外ニハ、之ヲ見ルコト能ハザル者ナリ、故ニ同胞ノ愛情ナル者ハ愛情中ノ最強ナル者ノ一ツトシテ之ヲ算スルコトナリ、

## 第五章 夫婦ノ真情

### 第一節 其解義

夫婦ノ真情トハ夫ト妻トノ間ニ生スル所ノ愛情ヲ言フナリ、凡ソ夫婦タル者ハ自己本来ノ身分ノ愛情（人ノ子タリ人ノ兄弟姉妹タルノ愛情）ヲ有スルノ外ニ、男女相嫁娶スルノ後ニ至リ、別ニ夫婦ノ愛情ヲ發スルナリ、夫婦ノ愛情ハ、夫婦トナリタルニ由リテ愛情ヲ發シタル者ニ非ズシテ、愛情アルニ由リテ夫婦トナリタル者ナリ、

夫婦ノ真情ハ基本ハ男女相愛スルノ情ヨリ起ル、故ニ未ダ夫婦トナラザル以前ハ、之ヲ男女ノ真情ト稱スベシ、故ニ其初メ（男女未ダ婚嫁セザルノ間）ニ於テハ、親子同胞ノ真情ニ比スレバ、此男女ノ真情ハ、熱情多クシテ親切少ナシ、然レドモ已ニ禮儀ニ由リテ相婚嫁シタル後ハ、各自己ノ願望ヲ果シタル思ヒヲ為シ、是ヨリ後ハ、従前ノ男女ノ愛情ノ上ニ更ニ正シキ感想ヲ増シ、男女ノ愛情變ジテ夫婦ノ愛情トナル、已ニ夫婦ノ真情トナリタル後ハ、其情次第ニ清貞トナリ、純潔トナリ、親切ト

ナリ堅固トナリ、遂ニ人類ノ感情中ニ於テ、殊ニ勢力アリ、殊ニ永續スル者トナルナリ、

### 第二節 嫁娶ヲ為サズル者

凡ソ男女年已ニ長スルトキハ、其形體精神共ニ婚嫁ヲ為スニ適シ、夫婦ノ愛情ヲ起スベキ仕組トナリ居レドモ、其婚嫁ヲ為スト為サズルトハ、人々ノ好ム所ニ任セテ造物者モ之ヲ強フルコト能ハズ、世間多ク自ラ好シテ婚嫁ヲ為サズ、夫婦ノ愛情ノ味ヲ知ラズシテ其生ヲ畢ハル者アリ、然レドモ人類ノ體格心思ハ自然ニ婚嫁ヲ為スニ適スル者ナレバ、婚嫁ハ造物者ノ意ナルコト明白ナリ、然レハ男女相應ノ年齢ニ至リテ婚嫁ヲ為スハ人類ノ天則ニシテ、生涯ノ幸福モ殊ニ是ヨリ出ヅル者ノ多キハ、亦疑ヲ容レザル所ナリ、

### 第三節 夫婦ノ愛情ノ要用

夫婦ノ愛情ノ人間ニ要用ナル件ヲ擧グレバ大畧左ノ如シ、第一ニ人類ノ永續スルコト、第二ニ親心ヲ合セテ其兒子ヲ養育スルコト、第三ニ夫婦互ニ幸福ヲ相為シ、是ニ由リ其子モ亦幸福ヲ受クルコト、第四ニ一家总体ノ和睦ニ益アルコト、是ナリ、世ニ曰フ、造物者初メ男子ヲ造リ、之ヲ補助センガ為メニ其配偶トナルベキ女子ヲ造レリト、此言未ダ盡サズルニ似タリ、唯其配偶トナルベキ者ヲ造ルノミニテ、其男女ノ心中ニ愛情ヲ造リ成サズルトキハ、夫婦ノ倫ト云フ者ハ、己ムコトヲ得ザル課業ノ如キモノニシテ、是ニ依リテ和合ノ樂ヲ得ルコトハ能ハザルベシ、

若シ人類ニ夫婦ノ愛情ト云フモノナキトキハ、男女結ンデ夫婦ト為ルト云フコトハ、人類ノ義務一偏ノコトトナリ、男女共ニ婚嫁ノ念ヲ起ス者少ナク、遂ニ夫婦トナル者ノ數大ニ減少スルニ至ルベシ、凡ソ夫婦ノ愛情ノ功ハ、人々ノ享福ヲ高クシ、人々ノ困難ヲ輕クシ、人々ノ注意ヲ分チ、(二個ノ家事ヲ二人ニテ注意スルヲ以テ其事ニ手落少ナシ、是本文ノ義ナリ)、人々ノ苦勞ヲ慰サメ、人々ノ悲哀ヲ和ラゲ、人生ノ艱難ナル道路ノ上ニ天上ノ好花ヲ散ズルノ状ヲ現ハス者ナリ、

#### 第四節 一家内ノ真情ノ結論

以上記スル所ノ一家内ニ属セル真情ハ、一家ノ結合ヲ造成シ、之ヲ保護シ、又之ニ幸福ヲ與フル所ノ者ナリ、一家ノ結合ハ、世界上ニ於テ最モ大切ナル結合ニシテ、其他ノ結合ハ、皆此一家ノ結合ヨリ生スル者ナリ、凡ソ造物主ガ尤モ喜悅スル所ニシテ、又人類ノ為ニ尤モ利益アル所ノモノハ、父子夫婦兄弟ノ真情十分ニ開暢シテ、相與ニ和樂協合ノ状ヲ現ハシタル一家ニ勝レル者ナシ、其故ハ一家内ノ真情ハ造物主ノ造為スル所ニシテ、其真情ノ開暢セル所ニ幸福ヲ與フルハ造物主ノ意ナレバナリ、此ノ如ク幸福アル一家ハ、即チ幸福アル社會、幸福アル邦國、幸福アル衆庶ノ萌芽ナリ、故ニ凡ソ一國ニ付キ、世界ニ付キテ望ムベキコトハ、皆之ヲ一家ニ反ヘシテ望ムベキコトニシテ、其一家ニ望ムベキコトハ、皆其一家ノ真情ニ帰着スルノコトノミナリ、

#### 第六章 交際上ノ真情

#### 第一節 其鮮義

凡ソ愛情ハ、吾身ニ特別ナル關係ノ遠ザカルニ從ヒテ次第ニ菲薄トナル者ナリ、人タル者ハ、吾疎遠ナル親類ニ對シテモ多少ノ愛情アリ、吾同郷ノ人ニ對シテモ多少ノ愛情アリ、吾同國ノ人ニ對シテモ多少ノ愛情アリ、然レドモ是等ノ愛情ヲ以テ、吾一家内ニアリ父子夫婦兄弟ノ愛情ニ比スレバ其厚薄大ニ差等アリ、併シ厚薄ハアレドモ、共ニ天然ノ愛情ニシテ、他ヨリ借り来リタル者ニ非ズ、吾等、他人ヨリ我從兄弟ヲ愛スルハ、吾等ガ一家ノ血液其人ノ血管中ニ流注セルコトヲ感ズレバナリ、此感ハ即チ前ニ言ヘル同胞ノ愛情中ノ一分ヨリ来レル者ナリ、吾等、又吾等ノ同種類(黒人トカ白人トカ)ノ人ヲ愛スルモ是ト同シ理ニシテ、亜米利加人ノ如キハ、印度人合<sup>ホツン</sup>多<sup>ド</sup>人ヨリモ英吉利人ヲ愛セリ、是一ハ其狀貌性質ノ相似タルニ由リ、一ハ英吉利人ノ血液ハ、亜米利加人ノ血管中ニ流通シタルヲ以テナリ、

按ズルニ歐米人ハ同種族ヲ愛スルノ説アレドモ、吾邦人ノ如キハ是ト異ニシテ、其學問ノ異同ニ由リテ愛情ノ厚薄ヲ生ズル者ニ似タリ、即チ漢學ヲ修ムル者ハ支那人ニ親シク、洋學ヲ修ムル者ハ歐米人ニ親シキガ如シ、全ク學問ナキノ人ハ歐米人ト支那人トヲ見ルコト共ニ同一ニシテ其間ニ愛情ノ厚薄アルヲ見ズ、或ハ支那朝鮮ハ同文ノ國ナレバ相親和シテ歐人ノ跋扈ヲ制セザルベカラズト曰フ者アレドモ、是ハ政治上ノ方略ヲ言ヒタル者ニシテ、道德ノ感覺ヲ言ヒタル

者ニ非ズ、是吾邦習慣ノ歐米人ニ異ナルニ由ル者カ、又ハ歐米人ノ言フ所未タ真理ニ協ハザル者アルカ、未ダ明ラカニ之ヲ判断スルコト能ハズ、

### 第二節 他種ノ民ノ婚嫁

是ヲ以テ若シ交際ノ状常法ニ異ニシテ、天然ノ定規ニ從ハザルトキハ、真情ノ感モ或ハ能ク發達セザルコトアリ、人ノ通常、同種ノ民ト婚嫁シ、夫婦共ニ一様ノ国民タランコトヲ望ムハ、上節ニ言フ如キ理アルヲ以テナリ、然ルニ若シ他種ノ男子ト他種ノ女子、例ヘバ英吉利人ト支那人ト婚姻スルガ如キハ、其望ム所ノ幸福利益共大ニ同シカラザル所アルヲ以テ、夫婦間ノ真情、大ニ尋常ノ者ニ及ブコト能ハズ、此ノ如キ婚姻ハ交際ノ常法ニ違ヒ、夫婦ノ氣性協和シ難キ所多キヲ以テ、之ヲ名ケテ自然ニ違フノ婚姻ト言ハザルコトヲ得ズ、

### 第三節 近キ親族間ノ婚嫁

又甚近キ親族ノ間ノ婚姻ハ、元來其血縁ノ方ニ於テ相互ニ愛情ヲ有シ居ルヲ以テ、自然ニ夫婦タルノ愛情ヲ有スルコトナシ、故ニ近親間ノ婚姻ハ何レノ國ニ於テモ、昔ヨリ之ヲ禁ズルコトトナレリ、蓋シ近親間ニ於テ婚姻ヲ結ブトキハ、精神身體共ニ之ガ為メニ損壞シ、其極処ニ至レバ、遂ニ其種族ノ絶滅ヲ來タスノ恐アレバナリ、然レハ夫婦ノ愛情ハ、男女共ニ同ジ國民ニシテ、其養育モ趣好モ大抵相同ジク、而シテ一家族ニ非ザル者ヲ以テ結縁シタル者ノ間ニ發スルヲ、殊ニ真正ノ者ナリトスベシ、

### 第四節 同郷ノ人、同學ノ人

凡ソ吾同村同郷同國ノ人ニ對シテ真情ノ發スルハ、其理甚タ鮮シ易シ、蓋シ同村同郷同國ノ人ハ、平生常ニ交際ヲ相為スト、又其利害ヲ齎シクスルトニ由リテ相互ニ愛情ヲ發スル者ナリ、又同村同郷同國ノ人ハ、常ニ意見ヲ同クシ、趣好ヲ同クシ、主義ヲ同クシ、習慣ヲ同クシ、加フルニ、其平生ノ生計ノ状態、貧富ノ内情ヲモ了知セルヲ以テ、他村他郷他國ノ人ニ比スレバ、其愛情自然ニ親厚ナリ、又親戚ニモ非ズシテ、他ノ同村同郷同國ノ人ヨリ、更ニ親シキ愛情ヲ發スルハ、學問ヲ同ジクスルノ人ニシテ、或ハ直チニ相交ハリ、或ハ他ノ方法ニ由リテ同學ノ友トナル者はナリ、是ニ由リ同門ノ學友、同シ學社ノ會友、同シ宗教ノ門徒ノ如キハ、同一ノ意見、同一ノ趣好ヲ有シ、又其交情ヲ提起スルニ利アル會合ヲ為スヲ以テ、其親愛ノ情、他ノ常人ニ比スレバ甚タ厚キ者ナリ、吾同村同郷同國ノ人ハ普通ノ愛情アルノミニテ、親戚ノ如キ特別ノ愛情アル者ニ非ズ、然レドモ是等ノ人ノ中ニテ遠ク他國ニ赴キ、多少ノ年ヲ經テ歸國スル者アルトキハ、吾等其人ニ對シテ特別ニ親愛ノ情ヲ發スル者ナリ、又平日ハ深く相交ハラズ、言語ヲ通ズルコト稀ナルノ人ニテモ、若シ數千里外ノ他國ニ於テ其人ニ邂逅スルトキハ、相互ニ特別ノ親愛ノ情ヲ發スル者ナリ、

### 第五節 吾本國ニ對セル愛情即チ愛國心

凡ソ利害得失ニ関シ、法律制度ニ関シ、艱難辛苦ニ関シ、勝利功勳ニ関

シ、幸福ニ関シ、吾本國ノ民ニ對シテ特別ノ感覺ヲ有スルヲ名ケテ愛國心ト曰フ、想像イマジネーショント交親インタフトノ二性殊ニ首トシテ此愛國心ヲ導キ出ス者ナリ、

大國ノ民ヨリハ、小國ノ民ハ愛國心ヲ有スルコト真実ニシテ且ツ強烈ナリ、沃土ノ民ヨリハ、瘠土ノ民ハ愛國心ヲ有スルコト同ジク眞實ニシテ強烈ナリ、小國ノ民ハ、平生常ニ相接スルコト大國ノ民ヨリ親シク、且ツ其利害ヲ共ニスルコトモ、大國ノ民ヨリハ互ニ相近シ、加フルニ其國力ノ微弱ナルヲ以テ、互ニ倚賴シテ力ヲ相為スノ心亦深シ、是其愛國心ノ眞實ニシテ強烈ナル所以ナリ、又瘠土ノ民ハ、平日職業ニ勞動スルコト甚タ強ク、即チ共ニ患難ヲ與ニスル所ノ民ナルヲ以テ、同情相憐ムノ意殊ニ深シ、瑞西スイスノ民蘇格蘭スコットランドノ民、拉比蘭ラビドノ民ノ如キ、其相憐愛スルノ情甚タ厚キ者ハ、蓋シ是ニ基スル者ナリ、

然ルニ古代ノ羅馬、現今ノ比利敦及ビ亞米利加ノ合衆國ノ如ク、疆土廣大ニシテ、其國勢高ク他國ノ上ニ出ヅル者ハ、其國民ノ一致協合スルノ状全ク小國ト異ニシテ、國民皆本國ノ光榮ヲ以テ心ト為ス、此心ヨリシテ本國ヲ愛シ、國法ヲ尊ブノ念ヲ強感ニスル者ナリ、

#### 第六節 眞情ノ総論

凡ソ天性ニ出ヅル所ノ眞情中ノ重ナル者ト、及ヒ其主要ノ在ル所トハ、上文ニ於テ已ニ悉ク之ヲ説ケリ、若シ天性中ニ全ク此眞情ナキ時ハ、人類ハ早く既ニ此地上ニ其種ヲ断絶スベシ、或ハ幸ニシテ然ラザルモ、人

類ノ状態ハ全ク歎喜温和ノ景色ヲ失ヒテ、淒涼愁慘ノ有様トナルベシ、眞情ナル者ハ全ク天賜ニシテ、人類ノ造為セシ者ニ非ザレバ、眞情ノ秀美ヲ稱譽スルニ至リテハ、人類自ラ其功ニ當ルコト能ハズシテ、其榮譽ハ悉ク之ヲ上帝ニ帰セザルベカラズ、人類ニ眞情アリタルノミニテハ、未ダ全ク道德ノ尊位ヲ得タリト稱スベカラズト雖ドモ、若シ全ク眞情ナキカ、或ハ其眞情ヲ誤用シタルトキハ、其人ノ状態ハ果シ何如シ、只罪惡ヲ以テ己ガ天性ヲ傷害シ、人間ノ棄物ト為リテ止マンノミ、耶穌教ノ經書ニ、天性ノ眞情ナキ人ハ、人類中ノ最下等ニ位スル者ナリト曰ヘルハ、是ガ為ナリ、

眞情ハ上帝ノ命令ニ由リテ其働ヲ為ス者ナレバ、之ヲ抑制シ之ヲ顛壞スルハ道德ニ背ケル罪業タルコト固ヨリ言ヲ待タズ、上帝ノ命ニ服従スルノ意ヲ以テ眞情ヲ働カシムルハ、道德ニ於テモ、教法ニ於テモ共ニ稱美スル所ナリ、凡ソ人類ノ行為ノ至善ト謂フ者ハ、皆天理ニ從ヒテ眞情ヲ使用スルニ由リテ得ル者ナリ、其他此地上ノ歡樂ノ純清ナル者、及ビ天上ノ歡樂ノ神妙ナル者モ、皆高崇至靈ナル眞情ヨリ涌出スルニ非ザル者ナシ、

米国 ハバド ウィンズロウ 著  
日本 西村茂樹 譯

ナリト考ヘタリ、

〔第三節 区分〕

〔天然ノ意ノ力〕

〔・・・〕

第一 天然ノ意ノ力ナチュラール、モ  
チーフ、ポワール

第二 道アル意ノ力ラショナル、モ  
チーフ、ポワール

第三 道德ノ行為モラル、  
アクション

第四 道德ノ本旨プリンシプル、  
オブ、モラリティ

第五 職分ノ條目コード、オブ、  
デューティ

第一段 パート 天然ノ意ノ力ナチュラール、モ  
チーフ、ポワール

第一篇 チャプター 知ノ力ト、知ノ働トヲ區別ス、(第一章)

〔第一篇〕

〔第一釋〕

〔第一章〕

〔第一節 心智本能ヲ知ト意ト二分ツ〕

○人智ノ本能インテリ  
ジェンスハ、概シテ之ヲ二個二分ツ、一ヲ知イニテ  
レトイフ、知ハ知ルノ本能ニシテ、吾儕此本能ノ直接ノ力ヲ以テ、能ク  
事物ヲ知り得ルナリ、又意ハ動クノ本能ムー  
ビングニシテ、吾輩、此本能ノ直  
接ノ力ニ由リテ、能ク活動スルナリ、或ハ理學上ノ精究ヨリシテ、此二

〔総論 発端〕〔原本 十九頁 冒頭〕  
〔第一節 道德學之本旨解義〕〔以下「」は頭註の語である。西村が本  
文を整理している。〕

○道德ノ理學モラル、フ  
ヒロソフィハ、人類ノ責任レス  
ポンスト職分ヂ  
ュー  
ティトヲ論スルノ

學ナリ、(責任ハ曾子ノ任重而途遠ノ任ノ如シ、職分ハ朱子大学ノ序ノ、  
無不有以知其性分之所固有、職分之所當為、而各俛焉以尽其力ノ職分ニ  
全シ)此學ハ道德ノ主義プリン  
シプル(又本義、本旨、帰趣)ヲ考究稽察シ、其或

ハ不可己ネセツ  
シナイヨリ成ルカ、事物ノ天然ヨリ成ルカヲ知り、又其主義ハ、是  
ニ服従スベキ所ノ一定ノ法則インスチテ  
ューションナルカヲ考定スルナリ、

此次二三節アリ、教法ノコトニ涉リ、国人ニ其益少キヲ以テ之ヲ畧ス、  
〔宗教ニ関スル内容であるので省略したのであろう〕

〔第二節 行為之差別〕

○道德學ハ又人類ノ行為ノ本原ヲ考究シ、是ヲ自然ノ行為ナチュ  
ェラール  
アク  
ショント道德  
ノ行為モラル、  
アク  
ショントノ二個ヲ分チ道德ノ行為ヲ、又分チテ正ライ  
トト邪ロ  
ントノ二者  
二分ツ、而シテ之ヲ教フルニハ、順序次第ヲ立テ、其組立ノ適當協合ナ  
ランコトヲ務ム、

○余輩ガ定ムル所ニテハ、道學ノ全部ヲ五段ニ分チテ教フルヲ以テ適當

者ヲ合セテ一ト為シ、活潑ナル意想ノ感覺ヲ以テ之ヲ兼ネシメントスル者アリ、然レドモ実事ノ上ヨリ判断スルトキハ、此合一ノ説ハ、要用ノ者ニ非サレバ、吾輩ハ之ヲ以テ高閣ニ束ヌベキ者ト為セリ、

### 〔第二節 知ノ活動性意ノ活動性〕

○此種ノ心智ノ力ハ、共ニ活動性アクチブノ者ナリ、然レドモ其活動ノ状ハ、二知各異ナリ、知ノ活動性ハ、思考ススキユレニ属シ、其目的ハ知識ノ上ニ在リ、意ノ活動ハ行実フラクチカルニ属シ、其目的ハ行為アクシヨノ上ニ在リ、知ノ試験ハ、心知学インテルクチュエルヒロソフィニ属シ、意ノ試験ハ道德学ニ属ス、

### 〔第三節 道德ノ力〕

○凡ソ責任ヲ有スル所ノ行為ハ、尽ク意ヨリ出ツルヲ以テ、或ハ意ヲ名ケテ道德ノ力モラルトイフ、然レドモ意ノ中ニモ、亦道德ノ性相ヲ有セズシテ、要用ナル所ノ役目アリ、尤伽多士低瓦ハ、意ヲ称シテ活動ノ力アクチブトイヘリ、然レドモ知ノ力モ、其方向ハ異ナレドモ、亦活動ノ力ヲ有スル者ハ、士低瓦ノ名義ハ未タ当ラザルニ似タリ、

カト灵能トノ語意(第二章) 畧ス

意ノ力ノ義ニ用ヒタル種々ノ語(第三章) 畧ス

意ノ力ノ二種(第四章)

#### 〔第一節 意力ノ第一種〕

○吾儕ノ意ノ力ハ、知ノ力ト同ジク、二個ノ種類アリ、其一ハ吾等ヨリ劣等ナル禽獸ト共有スル者、其二ハ言譯ヲ為シ得ベキ動物ノミ専有スル

者ナリ、其第一種ニ属スル者ハ、欲アツベ情アフエ願望アザ決意ホリシ等ニ名クルニ自然ノ意ノ力ナチュラールモヲ以テセリ、〔原書二十四頁〕

#### 〔第二節 意力ノ第二種〕

○其第二種ニ属スル者ハ、良心コンセンヌ趣味テイ道理アル志意ラフヨナナリ、余儕今爰ニ於テ、志意ト禽獸ノ決意ト二分チテ別種ノ者トス、盖シ志意ハ、推理リヲ為スコトヲ得ル者ナレバ、之ヲ道理アル者ト為ス、決意ノ如キハ全ク気性インスチノ管理ヲ受クル者ナレバ、之ヲ禽獸ニ属スルナリ、此第二種ノ者ヲ、吾儕名ケテ、道理アル意ノ力ラシヨナルキト云フ、

#### 意ノ力ノ用(第五章)

#### 〔第一節 知力ノ想像〕

○吾儕今マ、意ノ力ナクシテ、単ニ知ノ力ノミヲ有スル動物ノ状ヲ想像セン、但シ此ノ如キ動物ノ世上ニ成立セルコトハ未タ聞カザル所ニシテ、只之ヲ假立シタルノミナリ、此ノ如キ動物ハ、道德及ヒ宗教ノ品性ヲ得ルニ適セズ、又情ト感動トノ諸種ヲ発スルニ適セサルベシ、唯寒冷ニシテ枯燥セル知ヲ有スルノミナルヲ以テ、其状ハ宛モ沍寒氷結セル北極地方ノ如ク、唯凍沍シテ娛樂ナキ月光ノ照耀スルノミナルベシ、

#### 〔第二節 意力ノ性相〕

○是ニ由リ我儕今左ノ記スルガ如キコトヲ考驗スベキ所ノ灵能ヲ求メザルベカラザルノ勢ニ迫レリ、則チ我心ニ美麗ベユフル高大グダ愛喜チヤ等ヲ起サシメ、又天命ヲ以テ、恩典ヲ得ンコトヲ望ムノ心ヲ起サシメ、又劳苦ヲ救

ヒ、性命上ノ重担バルデンヲ輕クセンコトヲ欲スルノ心ヲ作り、又實際上ニ於テ、情深キ哀憐ト温暖ナル施舍トノ如キ貴珍ナル念ヲ生セシメ、又殊ニ道德ト宗教トノ品性ヲ保持スル為メニ卓越ナル榮譽ヲ得、兼テ仁愛ナル上帝ノ高崇ニシテ不朽ナル幸福ヲ得ンコトノ念ヲ造為スル所ノ灵能ヲ求尋セザルベカラズ、此ノ如キ灵能ハ即チ意ノ力ニシテ、是ヨリ以下、当ニ詳ニ之ヲ考究セント欲スルナリ、

最初ニ働ク所ノ灵能ハ何者ゾ〔第六章〕〔原書二十四頁〕

〔第一節 知力ト意力トノ關係〕

○知ノ力ト意ノ力トハ常ニ親密ニ相結合シ、相互ニ係属スル者ナリ、吾ガ感情、願望、心懷ニキノ如キ、意ニ属ス、愈々熱心ナルトキハ、吾ガ認識ベルセフ ションハ（知ニ属ス）愈々活潑トナル、又吾等ノ認識愈々明白ナルトキハ、吾等ノ感覺（意ニ属ス）ハ愈々鋭烈トナルナリ、乍併其活動ノ前後ヲ論ズルトキハ、知力先キニ動クカ意力先キニ動クカ、諸家ノ論スル所未タ一二帰セズ、丟伽多士デユガルド スチユアート低瓦ハ、意力先キニ動クト為シ、其言ニ曰ク「吾等ノ活動セル心向プロベン シンチイハ意ナリ、意ハ吾等ヲ導キテ、知力ヲ發動セシム、故ニ知力ハ、心向ノ欲スル所ノ目的ヲ得ル為メノ器具ナリ、”

〔第二節 知力ト意力トノ前後〕

○此説ハ、真理ニ協ヘリ、然レドモ全体皆真理ナリト云フコト能ハズ、總テ感覺ノ働ヲ為ス場合ニ於テ、即チ感覺ニ由リテ心智ノ働ヲ為ス場合ニ於テハ、意力先ツ其働ヲ為ス、其他ノ場合ニ於テハ、都テ知力先ツ其

働ヲ為ス、例ヘバ、物欲先ツ願望ヲ起發シ、此願望（意ニ属ス）其物欲ヲ充タシメン為メニ思想ヲ發スルナリ、此場合ニ於テハ、意力先導者タリ、又其他ノ場合ニテハ、直覺ナル真ト偽トノ認識（知ニ属ス）各々夫ニ相應シタル心懷ヲ發動ス、此場合ニ於テハ、知力先ツ其働ヲ為スナリ、

〔第三節 知ノ諸性〕

○故ニ知ハ、數能ク心向ヲ提起スルノ方法ト為リ、心向ハ亦其目的ヲ得ンガ為メニ、知ヲ以テ器具ト為シテ、再ヒ其働ヲ為ス、乍併、最初ニ發スル知ト後ニ用フル知トハ、同シ灵能ノ知ニ非ズ、最初ニ發スル者ハ、則チ直覺コンググノ力ナリ、後ニ用フル者ハ、其目的ヲ得ル方法ニ供スル謀ニシトイノ力ビンダ即チ適合ノ力アタラシナリ、後ニ用フル者ハ、單一ノ灵能ニ非ズシテ、原来ノ灵能ヲ集合シタル者ナリ、吾儕ニ於テ、如何ニ知ヲ用フルカヲ注意セザルベカラズ、即チ唯之ヲ既ニ願望セル目的ヲ保持スル為メノ器具ニ用フルノミナラズ、又其願望ヲ發起スル為ノ方法トシテ之ヲ用フルナリ、是ニ用フル知力ハ直覺ノ外更ニ諸力ヲ用フベクシテ、想像イマヂネ ションノ如キハ其尤ナル者ナリ、

〔第四節 実質物 空想物 知力 意力 行為〕

○知力ノ働キノ直接ノ目的ハ知識クニレナリ、知識ハ意力ヲ發起シ、意力ハ行為ヲ發起ス、知力ノ中ニ於テ、想像ト名クル者ノ直接ノ目的ハ知識ノ代權者サステトナルコトナリ、審ニ言ヘバ、実質物リリノ代リニ空想物フンシヲ出シテ其場所ニ置クナリ、故ニ此想像ハ知識ノ如ク、感覺ヲ動カス

ニ適當スル者ニシテ、願望及ヒ心懷ヲ發動スルノ切ハ、却テ実質ノ知識ヨリ多キコトヲ屢々実験セリ、

意ノ力ノ働キニ、天然ト道德ノ別アリ〔第七章〕〔原書二十六頁〕

〔第一節 意ノ力ニ、天然ト道德トノ別アリ〕

○吾儕、已ニ意ノ力ト知ノカトヲ區別シ畢リ、更ニ意ノ力ノ働即チ有様ノ中ニ、單純ナル天然ノ者ト、道德ノ性相ヲ具フル者トヲ區別シテ説カント欲ス、因テ先ヅ、イカナル者ヲ天然ノ行為トシ、イカナル者ヲ道德ノ働トスルカトイフコトヲ示スベシ、

〔第二節 天然ノ意力ヲ説ク〕

○天然ノ働即行為ト云フモ、敢テ美麗ニアラズ、愛スベキニ非ズ、欲スベキニ非ズトイヘル行為ヲ指スニ非ズ、又智慧アル願望道德ノ秀美ヲ包含セザル働ノミヲ指スニ非ズ、天然ノ行為中ニ於テ、自ノ最高ノ位地ニ進ム者アリ、蜜蜂ノ気性及ヒ其他ノ禽獸ニモ亦之ニ類シタル最高ノ智徳ヲ顯ハス者アリ、又人類ノ單純ナル気性ニ於テモ、之ヲ見ルコトアリテ、此ノ如キ者ハ皆単ニ、人類天然ノ構造上ノ活動ヨリ出ル者ニシテ、全ク上帝ガ直接ノ造作指導ニ歸スル者ナリ、果シテ、是ヲ以テ、天然ニ出テ、人造ノ品性ニ係ラザル者トスルトキハ、此ノ如キ行為ハ、道德ノ位格ヲ有セル動物ノ愛スベキ気性ト名クベキ者ニシテ、人類ノ道德ノ位格トハ自ラ差別ノアル者ナリ、人類ノ良心即チ人間ノ職分ニ管スルノコトハ、總テ此天然ノ行為ノ中ニ入込ムコトナキコト、脉ノ打撃ニ於テ、意ノ力

ヲ為スヨリ多キコトナシ、

〔第三節 道德ノ意力ヲ説ク〕

○道德ノ行為ハ、人タル者ハ自ラ道德ノ執行人<sup>エグゼクティブ</sup>ト為リ、其身ニ責任ヲ負擔スルノ義ヨリ生スル部分ナリ、故ニ其行為、若シ能ク正理ノ規則ニ協フトキハ、其身ニ道德ノ秀美ヲ附着シ、若シ然ラザルトキハ、其身ニ道德ノ罪惡ヲ附着スルナリ、凡ソ道德上ノ各個ノ行為状態尽ク皆正理邪曲ノ二者ニ非ザルコトナク、之ヲ行フテ其責任ヲ擔フ人ハ、即チ執行者自己ノ身ナリ、

〔第四節 意ノ天然、非天然、及其正邪〕

○吾等ノ情、欲、懷、決意ノ如キ者、単ニ自然ニ發起シテ別ニ意想ヲ用フルコトナキトキハ、是等ノ諸意、皆天然ノ意力ニシテ、品性<sup>キャラクター</sup>ノ者ニ非ズ、此諸意能ク吾等ヲ提起シテ、性命ヲ保存防護セシメ、干係ヲ養育保護セシメ、災害ヲ輕フスルコトヲ求メシメ、吾儕天然ノ欠乏ヲ備フルコトヲ求メシム、○若シ然ラズシテ為ストキハ之ヲ非天然<sup>アンナチュラル</sup>ト名ク、若シ人タル者深ク其職分ヲ守ルベキコトヲ信ジ、光明ナル良心ニ服従スルトキハ、其諸意ハ皆道德ノ正理ナリ、若シ良心ノ法則ヲ破ルコトヲ許シテ恣ニ之ヲ為サシムルトキハ、此諸意ハ道德ノ邪曲ナリ、故ニ是等ノ諸意、或ハ放縱シテ其度ヲ過ギ、又ハ鄙劣或ハ禁制スベキ事物ニ向ヒテ発スル時ハ、即チ邪曲トナルナリ、

〔第五節 道德ノ意力モ亦天賜ナルコトヲ説ク〕〔原書二十七頁〕

○上ニ記セル規則ヲ貼用シタル所ニテ、吾儕其中ニ、仁恵アリ、愛スベク、美麗ナル所ノ感覺ト行爲トノ許多ノ類アルヲ見タリ、是等ハ上帝ガ純ニ万物ニ賜與スル所ノ物ニシテ、彼動物ニ賜與スル所ノ気性ト敢テ異ナルコトナシ、是等ノ諸意ハ、上帝ガ造為シ賜與セル精純ナル性質ノ者ナレドモ其人身ニ附着シテ道德ノ位格ヲ為スニ至リテハ、皮膚ノ色ノ天然ナルニ及ブコト能ハズ、是等ノ者ハ、実ニ上帝ノ創作ノ工事ニシテ、其工作セル万物ノ中ニ於テ、万物自己ニ其行爲ヲ為ス者ナリ、

天然ト道德トノ區別ノ詳解(第六章)〔原書一七頁〕

〔第一節 尊重ノ天然及ヒ其道德上ノ善〕

○單一ニ身体ノ構造ヨリ生シタル尊重トモニチ願欲ハ、本来ハ道德ノ性相ヲ有スル者ニ非ズ、此願欲ノ、心ノ為メニ天然ニシテ且ツ要用ナルコトハ、身体ノ吸収ニ於ルガ如シ、今尊重ノ欲ト呼吸トヲ比較シテ見ルニ、其道德ノ品性ヲ具ヘザルコトハ一様ナリ、然レドモ若シ此尊重ノ願欲ヲ以テ、或ハ卑劣ナル目的ノ方ニ向ケ、又ハ他人ノ称譽ヲ得ンガ為メニ甚シク之ヲ熱求スルトキハ、忽チ正直ノ主義ヲ顛倒シテ、道德上ノ邪惡トナルナリ、

〔第二節 勢力ノ天然及ヒ其道德上ノ善〕

○又勢力ノ願欲ノ如キモ、其初メ自然ノ構造ヨリ發シタルトキハ、全ク無罪ニシテ唯必要ナル利用ヲ為ス者ナリ、然レドモ若シ此勢力ヲ以テ、惡シキ方ニ向ケ、或ハ己ガ情勢ヲ管理シ、又ハ公義ト仁愛トヲ乘リ越ス

トキハ、甚シキ惡事トナルナリ、此ノ如キトキハ、此力勢ノ願欲ハ謀反及ヒ暴政ノ巨大ナル起意ナリ、

〔第三節 尊重ノ道德上ノ善〕

○今試ミニ前文ノ場合ヲ反轉シテ之ヲ見ルトキハ、大ニ異ナル所アリ、尊重ノ願欲ノ如キモ、正路ニ其方向ヲ取ルトキハ、人ノ品性上ニ於テ最モ高上貴重ナル感覺ヲ引起ス者ナリ、若シ之ヲ以テ上帝ノ方ニ向クルトキハ、道德及ヒ敬虔ノ最高ノ原質ノ一ト為ルナリ、凡ソ人タル者ハ、上帝ヨリ來ル所ノ榮譽ヲ求ムルヨリ光明高大ナル事業アルコトナシ、

〔第四節 勢力ノ道德上ノ善〕

○勢力ノ願欲ハ、頗ル危険ニ陥ルノ恐アル者ナレドモ、若シ能ク之ヲ仁恵ノ目的ノ方ニ向クルトキハ、其品性ニ強力ト廣大トヲ配與シ、屢々其旨趣ヲ以テ、人類ノ大慈惠者ト為スコトナリ、其身ヲ公衆ノ前ニ出シ廣大ナル仁慈者トナラントノ力勢ト利勢トヲ願望シ、又其願欲ノ純情ト起見ノ誠実トヲ保守スルコトハ、著名ナル華盛敦ワシントンガ品性ニ同ジキ品性ヲ造成スルノ方ナリ、

〔第五節 天然ノ感情〕

○天性ノ感情アッフェクツィオンハ、唯無罪ナルノミナラズ、若シ此感情ナキトキハ、人ハ鬼魅ト為ルベキホド、人類ニ大切ノ者ナリ、母ノ其小兒ヲ愛スルコトハ、本来ニシテ且ツ單純ナル氣性ナリ、若シ正シク之ヲ管理スルトキハ、此感情ハ品性中ノ最モ美麗ナル原質ノ一個ナリ、凡ソ感情深キ所ノ母タ

ル者、其幼弱ノ孩児ノ為メニ、心遣ヒシテ勞ルコトナキ誠心ヨリ出タル  
顔色ハ、其快樂ノ状、他ニ之ニ及ブ者ナカルベシ、又此母タル者、其小  
児ノ我俣ニ堪ヘ、其罪過ヲ忘レ、其苦痛ヲ輕クシ、其快樂ヲ喜ビ、又常  
ニ相憐アイシム温ナルノ流水ト、成熟セル教諭ノ智トテ以テ、小児ノ精神ノ孔  
中ニ注入シ、其幼年ヨリ成長ニ至ルマデ、性命上ノ誘惑、患難ト戟ヒ勝  
タンコトノ祈願ヲ忘ルコトナキハ、母ノ心肝中ニ天與ノ最貴ナル感覺ア  
ルニ非ンバ、安ソ能ク此ノ如ク我身ヲ忘レテ兒子ノ為メニ心ヲ  
尽スコトヲ得ンヤ、

#### 〔第六節 感情ノ道德上ノ惡〕

○然レドモ感情ハ若シ其度ヲ過ゴストキハ、痴情ノ愛ト為リ、唯其小児  
ノ過惡ニ堪フルノミナラズ、反テ其過惡ヲ賞讃スルニ至ルコトアリ、又  
小児ノ為メニ此適當ナル感情ヲ保守スルニ非ラズシテ、自己ノ為メニ感  
情ヲ保守スルコトトナリ、又更ニ高崇ナル上帝ニ對セル感情ヲ棄去リ、  
若シ其小児、吾愚痴ヲ受ケザル時、反テ其小児ニ對シテ喃喃々怨語ス、此  
ノ如クナルトキハ、感情ハ全ク道德上ノ罪惡トナルナリ、此ノ如キ感情  
吾心ヲ支配スルトキハ、都テ精妙ナル心ノ感覺ヲ奪ヒ、道德ト宗教トノ  
主義ヲ倒壞スルナルベシ、天然ノ感情ハ仁愛アリテ甚タ大切ノ者ナレド  
モ、或ハ愚痴トナリ、或ハ自分勝手トナリ、或ハ他ヲ除キ去リテ一個ニ  
偏スルトキハ、遂ニ悲觀スベキ結果ヲ得ルニ傾ク者ナリ、  
○故ニ耶穌基督曰ク 〃吾ヨリ父母ヲ愛スル所ノ人ハ、吾見ル所ニテハ、

價アル者ニアラズ、又吾ヨリ、子女ヲ愛スル所ノ人ハ、吾見ル所ニテハ  
價アル者ニ非ズ”

#### 〔第七節 感情ノ道德上ノ善〕

○今、人ノ母タル者ヲシテ、其子ヲ愛スルノ感情ヲ易ヘテ、之ヲ上帝ヲ  
愛スルノ感情トナシ、其目的ノ性ヲ改式シ、自ラ責メ、自ラ謙シ、以テ  
之ヲ勉ムルトキハ、登リテ上帝ニ對セル聖道ノ敬虔ト為ルヲ得ベシ、此  
敬虔ハ上帝獨リ之ヲ要求スルノ権理アル者ニシテ、母タル者、亦獨リ此  
敬虔ヲ尽スベキノ権理アル者ナリ、此ノ如クナルトキハ、母タル者ノ感  
情ハ、其適用ノ範圍ノ内ニ歸シ、正シキ品性ヲ得ルニ至ル、此ノ如シト  
雖ドモ、其母ハ之ニ由リテ其子ノ愛ヲ減削スルニ非ズ、母ハ固ヨリ上帝  
ヲ愛スルコト已ガ子ヨリ甚シト雖ドモ、母ノ慈愛心ハ、為メニ道德ノ理  
ニ因リテ整頓セラレ、即チ基督敎ノ感情ト為ルコトヲ得ルナリ、  
○此感情ハ、小児ノ過惡ヲ賞譽シ又之ヲ保護スルガ如キノ感情ニハ非ザ  
ルナリ、此感情モ亦真実銳烈ナリト雖ドモ、痴愛ノ感情トハ自ラ差別ア  
ルナリ、又決シテ他人ニ對シテ己ガ心肝ノ泉源ヲ閉鎖スル所ノ感情ニ非  
ズシテ、総テノ人類ニ對シテ、己ガ心肝ヲ開闊廣張スル所ノ感情ナリ、  
又上帝ノ意思ニ抵抗シ、其法則ト天命ニ抵牾シ、又自己ノ目的ヲ頑守ス  
ル者ニ非ザルナリ、快樂ノ心ヲ以テ、上帝ガ崇高ナル要望ヲ認識シ、最  
値アル浮世ノ目的ヲ放棄シ、唯 〃上帝之ヲ與ヘ、上帝之ヲ奪ヒ、獨上帝  
ノ名ヲ歎喜ス”トイフノミ、是則チ真正ノ道德ノ秀美ニシテ、卓越ナル

美麗ト云フベキ者ナリ、

〔第八節 道德学ノ鮮義ノ結〕

○道德理学ノ、真正ニシテ完全ナル結構ハ、人ハ如何ナル物ナルカ、人ハ如何ナルコトヲ為シ得ベキ物ナルカ、人ハ如何ナル物トナラザルベカラザルカ”トヲ并セ説カサルベカラズ、故ニ道德ノ主義ハ、天然ト默示トノ二者ナルコト明白ナリ、

第二釋 天然ノ嗜欲ナチエララル  
アッベタイト

〔第二釋 天然ノ嗜欲ヲ論ス〕

〔第一章 嗜欲ノ性ヲ説ク〕

〔第一節 嗜欲ニニアリ〕

○嗜欲ハ吾等ノ天然ノ一種ノ偏性フリス  
シチイニシテ、其目的ハ、吾身ノ消費ウチ  
スヲ補給スルト、吾種族ヲ永續セシムルトニ在リ、吾等ガ今所有スル二個ノ嗜欲ハ恰モ愛ニ記セル目的ニ適合スル者ナリ、其中ノ一個ハ幼時ヨリ早く已ニ活動シ他ノ一個ハ成年ニ至リテ始メテ開發ス、此ノ如ク開發ニ前後アレドモ、二者共ニ同ク本来ノ構造中ニ具備セル者ナリ、

〔第二節 嗜欲ト願欲トノ差別〕

○或ル学士ハ渴カヲ以テ饑ウトハ別種ノ者ナリトシ、嗜欲ノ數ヲ以テ三個ナリトス、嗜欲ハ、是ニ由リテ願欲テザ  
ルヲ發動シ、嗜欲願欲相混合シテ始メテ結果ヲ現ス、身体ノ消費ヲ補給セントスルノ偏性ハ、平常身体ノ構造ノ中ニ存在ス、願欲ハ此偏性ノ提起スル者ニシテ、平常身体中ニ存在セズ、

只其格別ノ身体ノ有様及ヒ心智ノ有様ノ上ニ存在スルナリ、身体ノ有様ニ依リテ、嗜欲ハ、願欲ヲ流動物ヲ得ル為メニ提起シ、或ハ固形物ヲ得ル為メニ提起ス、嗜欲ヨリ生スル願欲ノ個々ハ其數許多ニシテ量リ難シ、然レドモ消費ヲ補給セン為メノ偏性ハ、何レノ時ニ於テモ唯一個ニ過クルコトナシ、

○愛ニ記セル嗜欲ト願欲トノ差別ハ甚肝要ノコトナリ、嗜欲ノ自体ハ、天然ニシテ且ツ無罪イシノセントナリ、只嗜欲ニ由リテ發スル所ノ願欲ハ、其方向ノ正ト不正トニ從ヒテ、或ハ善徳ト為リ、或ハ罪惡トナルナリ、此説明ハ天然ノ嗜欲ト天然ノ願欲トノ兩件ニ貼用スベキ者ナリ、

嗜欲ノ己ム所アラザルコト

〔第二章 嗜欲ニ付キテノ疑問〕

○道理ト經驗ナル者ハ、吾等ノ性命ヲ保存シ、吾等ノ種族ヲ永續サスル為メニ十分ナル方法ヲ指定スル者ナレバ、嗜欲ナル者ハ、吾等力為メニハ過剩ナル者ナルベシ、問、嗜欲ハ數々吾等ヲ奴隸ニシ、吾等ヲ苦惱サスル者ナリ、然ルニ何故ニ此物、吾等ノ天性中ニ固植シアルヤ、又問、吾等、常ニ嗜欲ノ支配ヲ受クル人ヲ賤シム、吾等ノ身体ノ構造ハ、高崇ナル道理ト良心トノ指向ニ由リテ活動スル者ナリ、然ルニ何故ニ吾等ノ身体中ヨリ此嗜欲ナル者ヲ除キ去ラザルヤ、以下論説スル所ハ、此疑問上ニ多少ノ光輝ヲ以テ照耀スル者ナリ、

嗜欲ハ提起者ナリ、

〔第三章〕

○若シ嗜欲ノ力アリテ之ヲ提起スルニ非ザレバ、道理力ノ精密モ、經驗ノ學問モ、共ニ其嘗テ熟考セル所ノ、要用ナル目的ヲ達スベキ方法ヲ、思ヒ出スコトノ功ヲ失フベシ、若シ已ニ利アル目的ニ付キテ、烈シク事ヲ務メ、又ハ其内ニ併吞セラレ居ル時、或ハ之ニ反シテ吾性命ヲ保持スルニ甚艱難ナル景況ノ内ニ在ル時、強キ嗜欲ノ提起スルコトナキトキハ、吾身ハ榮養ノ不足スルニ由リテ忽チ死亡ニ赴クベシ、故ニ嗜欲ナル者ハ其天性ニ於テ、又其健康ナル有様ニ於テハ、價ヲ立テ難キ程ノ提起者ナリ、嗜欲ハ、道理ノ力ヨリ見レバ、賤ムベキ者ナレドモ、若シ此物ナキトキハ、人類ハ永ク此地ニ消滅シタルナルベシ、

「殷斯婁氏道德學」一 解題

「道德學 Hubbard Winslow」解題

「殷斯婁氏道德學」二 は、八二七—一〇四「殷斯婁氏道德學」一 植寧氏道德學」のうちに合綴されている。「植寧氏道德學」は、『増補改訂 西村茂樹全集』第8巻に翻刻されている。「植寧氏道德學」については「シヤネイ道德學」の「解題」で言及する。

「道德學 Hubbard Winslow」は、一三五「実在理學譯解 谷蔽氏洛日 克入門第二冊」のうちに「実在理學譯解」「政治學」「宇宙理學前輯」「谷蔽氏洛日 克入門第二冊」「演知學」「道德學」とともに合綴されている。

「殷斯婁氏道德學」二「道德學」 Hubbard Winslow は、Hubbard Winslow (一七九九—一八六四) の著述になる *Elements of Moral Philosophy: Analytical, Synthetical, and Practical* の部分訳である。本書の初版は、一八五六年にニューヨークで出版されている。西村翻訳は、初版と矛盾するところはない。

初版によって、本書の構成をみると、Preface の後に、詳細な内容目次を置き、本文として、Introduction を掲げた後に、Part I から Part V の五部門を立て、各 Part の下にいくつかの Chapter を置いている。それぞれの Chapter の中は、おぼろげに見出しを付けて分節しているが、Part や Chapter とは違っていて、見出しに番号は付けられていない。

「殷斯婁氏道德學<sup>二</sup>」は、原書の Part I の Chapter III から IV までの部分を翻訳している。これより前の部分、つまり、Introduction と Chapter I と II の部分は、『増補改訂 西村茂樹全集』第8巻に「新須婁氏道德學」として翻刻されている。したがって、このたび翻刻した「殷斯婁氏道德學<sup>二</sup>」はこの『全集』収載分を直接引き継ぐものである。ただし、『全集』収載分は、単なる翻訳とは異なっており、講義稿本である。「殷氏<sup>一</sup>」というように、基本的に翻訳しながらも、西村が Winslow の説を紹介する形をとり、時折、彼の意見を交えもしている。

「道德學 Hubbard Winslow」は、原書の Introduction の冒頭から Part I の Chapter II の第二頁まで、つまり原書本文二二三頁末までを訳している。したがって、この部分は、『全集』収載分に包含されている。しかし、『全集』収載分は、講義稿本であるのに対して、この資料は、若干の省略を含みながら、翻訳としての形をとっている。

そして、「道德學 Hubbard Winslow」は、講義稿本の前段階とみられる。例えば、「道德學 Hubbard Winslow」では、Part を段、Chapter を篇と訳しているが、『全集』収載分では、Part は篇、Chapter は積となっている。また、頭註において、Part を篇、Chapter を釋と記している。『全集』収載分が頭註にしたがって改訂されているとみられる。

なお、「道德學 Hubbard Winslow」では、nature なつし natural の訳語に、はじめは自然を当てているが、後に天然と改めている。そして、

頭註では、天然への修正を一貫しており、それは『全集』収載分にも踏襲されている。

Hubbard Winslow は、アメリカのバーモント州生まれの牧師・著述家である。一八二四年に出版した *Discourses on the Nature, Evidence, and moral Value of the Doctrine of the Trinity* によって一躍注目されて、次に評判を上げていった。哲学関係の書物には、西村の翻訳した原書と同年一八五六年に出版した *Elements of Intellectual Philosophy: designed for a Text-Book and for Private Reading* などがある。

谷蔽氏洛日克 一

谷蔽氏洛日克第一冊目錄

第一篇

洛日克トイヘル語ノ義及ヒ其目的

(一) 洛日克トイヘル語

(二) 誤謬ノ原因

(三) 洛日克及ヒ斐洛所斐

(四) 洛日克及ヒ勦多立克<sup>(レトリック)</sup>

(五) 洛日克ヲ以テ術トスルノ説ニ抵抗ス

(六) 天然ノ洛日克

(七) 整理セル誤謬ノ形姿

(八) 方法

(九) 分解法聚合法

(十) 洛日克ニ応用セル分解法聚合法

一 分解法 二 聚合法 三 史傳

第二篇

洛日克ノ分解法

(十一) 分解セル推理法

<sup>(アリストテレス)</sup> 亞立士度德ノ定規

第三篇

洛日克ノ聚合法

(十二) 定言ヲ為ス時ニ於テ心ノ或ル作用及ヒ其狀態

一 領會 二 判斷 三 推理

第四篇

(十三) 名辭

(十四) 單一ナル名辭ノ區分

(十五) 名辭ノ性質及ヒ分量

第五篇

名辭ト干係セル洛日克ノ活用

(十六) 抽象概括

(十七) 綱目特性

(十八) 固有偶有

(十九) 綱及ヒ目ノ種々ノ階級

(二十) 実体論名目論

(廿一) 名辭ノ定規

(廿二) 名目及ヒ実体の定義

(廿三) 定規ノ規義

(廿四) 區分

(廿五) 簡畧ナル再説

第一篇

洛日克トイヘル語ノ義及ヒ此学ノ目的

洛日克トイヘル語

○洛日克ハ希臘ノ  $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$  トイヘル状詞ヨリ立タル者ニシテ此状詞ハ、学<sup>サイエンス</sup>ト術<sup>アート</sup>トノ兩義ヲ兼タル者ナリ、又此状詞ハ  $\lambda\omicron\gamma\omicron\sigma$  トイヘル名詞ヨリ出タリ、ロゴスハ思想<sup>イデオロギ</sup>ト説話<sup>ミythos</sup>トノ兩義ヲ兼ヌ、故ニ古代ノ学士ハ是ヲ心中ノ事物ト心外ノ事物トニ區別シタリ、此二者ヲ併合スルトキハ、ロゴストイヘル語ハ談話<sup>ディスキュス</sup>トイフコトト為ル、是ニ由リ或ハ学士ハ洛日克ヲ以テ単ニ「国語ヲ話シ又之ヲ記スルノ学ト為ス、然ルトキハ、洛日克ハ其一分ハ修辭<sup>レトリック</sup>ト混シ、又、文法学<sup>グラママー</sup>ト混スルノ恐アリ、又或ハ学士、談話トイフコトヲ以テ、単ニ記号ヲ書シ、音声ヲ以テ語ルノミナラズ、又思想ヲ發表スル者ナリトシテ、洛日克ヲ以テ思想ノ法則ノ学ナリトセリ、即チメタフヒジックスノ一派ニシテ心ノ働ヲ穿索シタル者ナリトイヘリ、是ハ上ノ説ヨリハ差ト正当ヲ得タル者ナリ、其他ノ多数ノ学士ハ、洛日克ハ言語ト思想トヲ併合シテ真理<sup>ヴェリタス</sup>ヲ推講<sup>プロテクト</sup>スル者ナリトシテ学問研究ノ主位ニ立ツテ事ヲ為スベキコトヲ要望スルナリ、是ニ由リ、洛日克ヲ以テ有形無形及ヒ修徳ノ哲学ノ事業ノ混淆スルヨリハ更ニ廣キ

誤謬ヲ生シ、是等ノ諸学ノ役ヲ為ス器具ナリトセズシテ、實ニ是等諸学ノ事ヲ有セリトスルニ至ル者アリ、

○故ニ此学ヲ研究スルノ初ニ於テ、先ツ洛日克トイヘル語ノ意義ト此学ノ真正ノ職掌トヲ定メ、然ル後此学ノ習学ニ取掛ルヲ以テ必要トスベシ、恰モ我身ヲ困逸セル濃霧ノ外ニ我身ヲ挺シデ、然ル後吾工作ヲ為スベキ田野ニ就キテ劳作ヲ為スベキガ如シ、

(一) 誤謬ノ原因

○世ノ著名ナル思考者、多ク書ヲ著ルシテ、却テ学者ノ心思ヲ混雜セシメタリ、其故ハ其学生ハ、洛日克ノ結構ニ付キテ、自己ニ正当ノ意見ヲ立テシニ、著述者ハ反テ古代ノ誤謬ト擾雜トノ説ヲ以テ之ニ示シ、又他ニ精妙ノ説アルヲ知ラズ、惟自己ノ所見ノミヲ以テ真正ノ洛日克トシ、他人ノ説ヲ以テ誤謬トセルヲ以テナリ、又或ハ偏ニ哲学士ノ意見ト調和センコトノミヲ務ムル者アリテ、其情ハ愛スベシト雖ドモ、其本ハ無学ノ精神ヨリ来レルヲ以テ、其結果ニ至リテハ、誤謬粗漏ノ結構タルヲ免カレザル者アリ、

○哲学ノ諸大家ノ定メタル結構ハ是ニ異ニシテ、彼此互ニ其助ヲ為ス者アリテ、其相協合スル上ニ於テ真正ノ学ヲ見ルコトヲ得ル者アリ、然レドモ猶其中ニ多少誤謬アルコトヲ免カレザルコトナレバ、読ム者ハ、其名ノ大ナルニ眩シテ其誤謬ヲ標出スルコトヲ忘ルベカラザルナリ、

○余儕ハ先ツ識性中ノ諸ノ機能ヲ區別スルコト、百物ヲ其定名ニ依リテ

称呼スルガ如クナランコトヲ務ムベシ、総テフヒジツクス、メタフヒジツクスニ属スル所ノ者ハ洛日克ノ名目ノ中ニハ包括スベカラズ、唯洛日克トイヘル語ヲ以テ定メタル結構ノ界域ヲ最初ニ於テ表出センコトヲ欲スルナリ、若シ能ク此事ヲ為シ得ルトキハ、最初ニ於テ為スベキ事業ヲ完成シタル者ニシテ、是ヨリ此学ノ事業ハ容易ニ進前スルコトヲ得ベキナリ、

○洛日克トイヘル語ハ、半明半暗ノ意アルヲ以テ、此語ノ意義ヲ正当ニ理會スルハ殊ニ要用ノコトナリ、目今ノ哲学士ガ亞立士度徳ノロジツクヲ以テ倍根ノロジツクニ比較スルト云フガ如キハ、正ニ誤謬ノ中ニ落ちタル者ナリ、亜氏ハ其オルガノンニ於テ、洛日克ノ意見ヲ述べ、倍根ハノビユム、オルガノン即チ新オルガノンニ於テ其意見ヲ述べタルガ如キハ、現時ノ哲学士ノ誤謬ヲ養ヒ成シタル者ナリ、洛日克ハ人類ニ賜與セラレタル推理ノ原理ヲ支配スルノ學ナリ、造物者ガ人類ニ推理ノ原理ヲ賜與セラレタルハ、人類ニ言語ヲ賜與セラレタルト恰モ相同ジ、故ニ洛日克ト云フ者ハ固ヨリ亞立氏ノ洛日克ニモ非ズ、又倍根ノ洛日克ニモ非ズ、惟理識ノ規則トシテ人類ニ賜與セラレタル一般ノ洛日克ニシテ、何レノ時何レノ人ト雖ドモ、協合工妙ニ之ヲ用フルコトヲ得ベキ者ナリ、

(三) 洛日克及ヒ斐洛所斐

○凡ソ真理ノ境域中ニ於テ心ノ前進ヲ現ハスニ要用ナル斐洛所斐(哲学)ノ語是ナリ、此語ハ斐洛所法(哲学士)トイヘル語ト共ニ古代ノ賢哲

(比答臥拉)ノ用ヒシ者ニシテ、其頃希獵ニテ用ヒシ<sup>ピタゴラス</sup>トイフ語ハ、混雜ヲ生シ易キヲ以テ、哲学ノ語ヲ撰用シタル者ナリ、哲学ノ語ハ、百科ノ學ニ用フベクシテ、心学、道德、実物ノ諸学ニ於テ、殊ニ高座ヲ占ムルコトヲ得ベキ者ナリ、但シ哲学士トイフ語ハ、智性ノ事業中ノ或ル一事ヲ求ムル者ヲ指シ、哲学ノ語ハ、或ル事物を指スニ不適當ナルカ、或ハ一物ヲモ指サザルニ至ル時ハ、復其上座ノ地位ヲ全フスルコト能ハザルナリ、

○然ルニ哲学トイフ語ハ、不精密不足ニシテ、洛日克トイヘル語ト常ニ相混雜シ、争論ノ際ニ於テ、明白ナル定義ヲ欠クヲ以テ、哲学ト洛日克トニ於テ、共ニ不精密、牽強、衝突ノ結構ヲ生スルノ患アリ、此ノ如キハ此学ノ志望ヲ混乱セシメ、学者ヲシテ動モスレバ困難危苦ノ中ニ陥ラシムルモノナリ、哲学洛日克ノ二語ニ明白ナル區別ト定義トヲ興ヘンガ為メニ、<sup>ラフトン</sup>布拉多ノ門人ハ、洛日克ヲ以テ、哲学ノ一分ニシテ、又其器械ナリト論定セリ、又ストイクノ学派ニテハ、哲学ヲ三派ニ分テリ、其一ヲフヒジツクス即チ理論上ノ哲学、其二ヲエチツクス即チ実行上ノ哲学、其三ヲロジツク、即チ他ノ二学ノ補助分ニシテ、又其器械ナリ、

○哲学洛日克ノ二語、及ヒ此二語ノ用法ノ誤謬ニ付キテハ、人心ノ向慕ト軟弱トヲ見ルコトヲ得ベシ、人々ガ真理ヲ考究シ整定セントスルノ願望ハ常ニ暗昧疑惑ト結合シ、是ニ由リテ每歩ニ其考究ヲ困難ナラシムル者ナリ、

○希臘語ハ至テ精密ナル者ニシテ、東方ノ勢力アル學術ハ多ク之ヲ以テ移植シタル者ナリ、然レドモ哲學洛日克ノ語ニ付キテハ、左ニ訳セルヨリ明白ナル解義ヲ有スルコト能ハズ、曰ク哲學ハ知識ヲ得ルヨリハ寧ロ知識ヲ愛スルノ義ニシテ、是ニ由リテ真理ヨリ真理ヲ推歩シ、疑惑不明ノ海ノ中ニテ一層ハ一層ヨリ前進スル所ノ術ナリ、洛日克ハ言辭談話ノ術ニシテ、其真正ナル者ハ、明白ナラザル疑問ヲ解キ、之ヲ理會スルニ、二個ノ反対ノ意見ヲ域定スルコトヲ得ル者ナリ、

○哲學ノ義ハ許多ノ解義アレドモ、余儕ハ謂ヘラク「哲學ハ最後ノ原因ヲ求ムルノ學ニシテ、最後ノ原因ハ、人心ノ最初ノ法則ト同一ニ歸スル者ニシテ、万物ノ原因ヲ討索シ、又衆學ヲ以テ獨一二歸着服從セシムルノ傾向ヲ有スル者ナリ、」此解義ハ真理ノ考究（主觀トシテ）、物料ノ比較、觀察經驗ノ彙類會聚トヲ包括スルコトヲ得ル者ナリ、

○洛日克ハ、吾儕ハ謂ヘラク、判断ニ由リテ、思想ノ働ヲ單一ナル直覺理會ヨリ導キテ單一ナル推理ニ至ラシメ、夫ヨリ此推理ノ働ニ由リ、既ニ知リタル真理ヨリ未タ知ラザル真理ニ進行シ、又之ニ由リ言論ノ誤謬ヲ防ク所ノ學ナリト、

#### (四) 洛日克及ヒ修辭

○洛日克ト修辭トノ間ニ精密ナル線ヲ画スルコトハ從來難シトスル所ナリ、今兩語ノ區別ヲ立ツルコト左ノ如シ、修辭ハ談話ニ於テ思想ヲ造為シ、整頓シ、發言スルノ術ニシテ、約シテ之ヲ言ヘバ談話ノ術ニシテ、

ナリ、修辭ハ又談話ヲ構造スルニ付キテ、名目判言論定ヲ定メ、或ル結果ヲ生スルカ為メニ、言語ヲ以テ之ヲ整理シ之ヲ衣被ス、○洛日克ノ職分ハ修辭ニテ為シタル働ヲ証定シ、其論定ノ堅固ナルカ不堅固ナルカヲ解明スルニ在リ、修辭トノ干係ヨリ言フトキハ、洛日克ハ攻駁ナリ、試験ナリ、道理ノ争論ノ仲裁人ナリ、誤謬虚偽ノ表明人ナリ、

○此見込ヨリ言フトキハ修辭ハ文法ヲ包括ス、故ニ談話ハ文法ニ因リテ正當トナリ、修辭ニ因リテ美好ト為ル、然レドモ其誤謬アルコトハ猶洛日克ニ於ケルガ如シ、

○故ニ洛日克ノ名ハ、其大体ハ氣促ノ名ニシテ、若シ言辭論ヲ以テ之ニ當ルトキハ、其主意ヲ了解スルコト能ハザルベシ、是ニ由テ見レバ洛日克ハ言語ノミヲ以テハ何事ヲモ為スコト能ハズ（判言ト論争トニ於テ、名目ヲ以テ之ヲ整理スルノ外ハ）、又意義ノミヲ以テ、何事ヲモ為スコト能ハズ（但シ推論ニ干係スルコトハ格外ナリ、即チ正ニ知リタル二個ノ者ヨリ、是ト結合ヲ有セル第三ノ者ニ及ブガ如キ是ナリ）、此解説ニ依ルトキハ、吾儕洛日克ト云ヘル語ノ解義ヲ定ムルコトヲ得、即チ洛日克ハ推理ノ學ニシテ又其術ナリ、推理ハ真理ヲ求ムルガ為メニ、思想ノ至極ナル働ニシテ、真理ナル者ハ、吾等ガ考認ノ能力ニ由リテ得ル所ノ目的ナリ、

○學ト術トイヘル二語ノ義ヲ考フルニ、精密ナル意味ヨリ言フトキハ、術ハ學ヨリ其義廣シ、其故ハ術ノ習行ハ學ノ原理ノ貼用ヲ包括シ、學ハ

又理論ノ状態ノミヲ為シテ、習行ノ事ハ之ヲ講ゼザレバナリ、学ハ全ク人心ヲ以テ基本トシテ推理スル所ノ原理ヲ考究スルコトナリ、実行上ノ規則ヲ定ムルガ為メニ此原理ヲ貼用スル者ナリ、故ニ洛日克ハ単一二言フトキハ推理ノ術ト名クベシ、己ニ術ト名クルトキハ、実行ノ法則及ヒ方法ニ関セルヨリハ、人ノ推理ノ組立ニ関スルコトハ甚タ少々ナリト知ルベシ、

○洛日克ノ結構ハ亜立士度徳ノ時ヨリ自己ニ開發シタル者ナリ、今之ヲ解説スルノ前ニ於テ、先ツ此構造ニ対シテ抵抗セル論議ノ道理ニ類セル者ヲ擧テ之ヲ示スベシ、

(五) 洛日克ヲ以テ術トスルノ説ニ抵抗スルノ論

○人タル者ハ世界一様ニ皆推理ヲ賜與セラレタリ、此賜與アルニ由リテ人々皆其思想ト思想トヲ結合シ、適當ナル收結ニ達スルコトヲ得、又言語ノ賜與アルニ由リ、人々ノ間ニ其意ヲ通ズルコトヲ得、是ニ由リ人々自己ノ洛日克ヲ以テ、自己ニ用フルヲ得ルコト、恰モ上帝ノ直接ノ賜與ノ如キ者アリ、

○人々皆推理ヲ為サル者ナシ、其中ニ於テ又其自ラ用フル洛日克ニ注意セザル者甚多シ、此ノ如キ有様ナルヲ以テ、鋭敏ナル人ト雖ドモ、洛日克ニ対シテ抵抗説ヲ為ス者アリ、其人ノ意ニ謂ヘラク、人ハ洛日克ノ規則ヲ知ラズ、又洛日克ノ活用ヲ知ラザルモ、猶推理ヲ為スコトヲ得、善ク推理ヲ為スコトヲ得、然ルトキハ洛日克ノ規則トイフ者ハ甚タ不要

用ノ者ナリト、

○此抵抗論ハ道理ニ合フ様ニ見ユレドモ、其実ハ許多ノ謬見ヲ含メリ、此論ハ洛日克ニ限ラズ、総テ他ノ術ニ対シテ抵抗スル者ヲ以テ、余儕ハ他ノ証例ヲ出シテ明白ニ其誤ヲ正スコトヲ為スベシ、凡ソ小兒ノ中ニ、未タ文法ヲ学バズシテ適當精密ニ説話スル者多シ、算術ヲ学バズシテ計算ヲ為スニ驚クベキカヲ有スル人アリ、然レドモ文法字ト算術トハ之ガ為メニ廢スルコト能ハズ、而シテ此ニ学ノ規則ハ、精密ニ説話シ正當ニ算計スルガ為メニ動カスベカラザルノ基礎ナレバ、是ニ由リ微弱ニシテ遲鈍ナル智性（人類ノ多数ハ皆是ナリ）ヲ導キテ虚飾ノ誤謬ヲ免カレシムルカ為メニ必要ノ者ナリ、此外ニ又音楽ノ如キモ同一ノ理ニシテ、此ニ術ニ於テモ、天性甚タ敏捷ノ者アリ、然レドモ猶人々歌詞繪画ノ大家ノ定メタル法則（音声ト耳ト眼トノ原理ニ據リテ定メタル者）ニ從ヒテ苦學スル者ヲ非トスルコトナシ、但シ其法則ハ特別ニ其術ニ秀拔センコトヲ望ミタル者ニハ非ザルナリ、

○今認識ノ能力明白ニシテ、速カニ其判断ヲ成シ得ル人ハ、規則ニ依ラザルモ精密ニ推理スル者多シ、然レドモ益々其精密ヲ堅固ニセンガ為メニ不變ノ基礎ヲ求メテ之ニ據ル者亦少ナカラズ、敏捷ナレドモ、蕩搖ノ心ヲ有スル者アリテ、極メテ精密ナル試法ヲ用フルニ非ザレバ、其誤謬ヲ發見スルコト能ハザルガ如キ危殆ノ推理ヲ為ス者アリ、此推論ハ、自身ニテハ勿論其誤謬タルコトヲ知ル能ハザルナリ、此ノ如キ精密ノ試法

ハ固ヨリ衆人皆之ヲ行フコトヲ得ベキ者ニ非ザレバ、遂ニハ自身ヲ欺キ又他人ヲモ欺クニ至ル者ナリ、是皆洛日克ノ尋常ノ法則ヲ知ラザルニ因ル者ナリ、凡ソ宗教ノ信用ノ妄想、社會ノ交際上ノ謬見、政事ノ理論ノ怪僻ナルガ如キハ、一タビ洛日克ノ法則ヲ以テ之ヲ照ラストキハ、忽チ其誤謬ヲ発見スルコトヲ得ル者ナリ、

○加フルニ洛日克ハ、推理ノ全体ノ原理ヲ開發スルノ学ニシテ、總テ精密即チ帰納ノ諸学ニ一様ニ貼用スベキ者ナレバ、是(洛日克)ニ依リテ吾等ヲ指導スル所ノ規則ノ完全ニシテ誤謬ナキ者ヲ定ムルハ、極メテ必要ノトコトニシテ、彼上文ニ記セル異論者ノ説ヨリ起ル所ノ種々ノ誤謬ハ亦能ク之ヲ防禦セザルベカラザルコトナリ、

(六) 天然ノ洛日克ナチュールロジック

○余儕ガ推理セントスルトキ、人心ヲ支配スル天然ノ法則アリ、ロジカルシステム洛日克構造ノ反對者ハ之ヲ名ケテ天然ノ洛日克トイフ、余儕ハ此名ヲ採用シ、又此法則ニ從フトキハ、其推理ハ正當ニシテ且ツ十分ニ此法則ヲ貼用スルノ力アルコトヲ信セリ、然レドモ現今人類ノ零落セル有様ニ於テハ、其為ス所ノ推理、或ハ僻見ニ因リテ偏頗シ、或ハ熱情ノ為メニ混乱シ、以テ公然ノ誤謬ノ中ニ陷入スルヲ常トス、故ニ或ル題目ニ付キテ正當ニ推理スルトイフ者ハ、多クハ自己ノ利益、流行、想像ノ勝レタル等ヲ用ヒテ之ヲ為シ得ルナリ、是ヲ以テ同等ナル心思ノ明白ナル人ニ於テ、同一ナル前提ヨリ殊異ノ收結ヲ為シ、又ハ殊異ノ前提ヨリ同一ノ收

結ヲ取ル者アリ、故ニ又同一ノ人ニシテ別異ノ時ニ在リテ、其景況ノ異ナルニ由リテ、殊別ノ推理ヲ為ス者アリ、此ノ如キ原因ヨリシテ、人々ノ天然ノ法則トイフ者ハ、其推理ヲ為スニ當リテ、完全ナル指導トナルコト能ハザルナリ、此他又推理ハ此根元ノ法則ヨリ出タル直接ノ收結ヲ以テ限リトセズ、猶甲ノ收結ヨリ乙ノ收結ヲ引クコトアリ、故ニ推理ハ其誤謬ヲ防クガ為ニハ、天然ノ法則ノ外ニ、猶其他ノ法則ヲ用ヒザルベカラザルナリ、

○然レドモ洛日克ノ学ヲ構成セントスルニハ、必ス此天然ノ法則、即チ順序整ヒタル心ノ正當ナル推理ノ援助ニ本ヅカザルベカラズ、

○此心ヲ以テ正當ナル觀察ヲ為シ、以テ各個ノ場合ニ於テ誤謬ノ原因ヲ除カント欲スルトキハ、善ク推理ノ為メニ規則ヲ定ムルコトヲ得、此規則ヲ以テ他ノ場合ニモ貼用スルトキハ、誤謬ノ原因ヨリ起リタル虚偽ノ論証ヲ発見スルコトヲ得ベシ、

○凡ソ規則ヲ支配スル法則ヲ仕組ムノ以前ニ一ノ道理リイズンアルコトハ、恰モ文法ヲ作ルノ前ニ言語アルガ如シ、其道理ハ推理ヲ組立ル者ナリ、天然ノ洛日克ヲ整定スル者ナリ、殊ニ推理ノ力ニ依リテ誤謬ヲ防禦スル者ナリ、其推理ハ完全ナル洛日克ノ学ヲ構成スル者ナリ、

○余儕ハ是マデ洛日克ノ誤解ヨリ生スル混雜誤謬ノ全体ニ付キテ之ヲ論ゼリ、各別ニ付キテノ誤謬ハ、總テ此全体ノ誤謬ヲ構造セントスルヨリシテ生スル者ナリ、

(七) 整理セル誤謬ノ形姿

○尋常ノ不適當ノ語ニテ数学ノ推理、道德学ノ推理、推測式ノ推理、帰納法ノ推理トイフコトヲ言ヘリ、是人ヲ誤マラシメテ、推理ハ許多ノ種類アリト想ハシムルニ至ル者ナリ、是則チ十分ナル誤謬ノ原因ナリ、○此ノ如キ種々ノ推理ノ名アルハ、惟洛日克ヲ以テ、思想ノ種々ノ題目、及ヒ種々ノ状態ニ貼用スルノ方法ヲ言ヒタル者ナリ、洛日克ハ何レモ同一ナリ、題目ハ各々差異アリ、○此種々ノ名目ノ上ニ久シク留住スルハ無益ノコトナリ、然レドモ是ヲ以テ明白ニ言論シ注意シテ思考セザルベカラズトイフハ、世間一般ノ誤解ナルヲ、洛日克ノ著者ハ反テ書ヲ以テ廣ク其説ヲ世ニ弘メタリ、○余儕今良善ナル数学家ノコトヲイフトキハ、其人ハ数ト量トノ考究ニ付キテ迅速且ツ堅固ニ洛日克ヲ用フル者ヲ指スナリ、又神学ノ大家ナリト言フトキニ、其人ハ許多ノ神学ノ学力ヲ積重シ、夫ヲ完成スルガ為メニ洛日克ヲ貼用スル者ナルコトヲ知レリ、其他ノ学科ニ於テモ皆同様ノコトナリ、○概シテ之ヲ觀ルニ、造化ノ界域ト人心ノ界域トニ付キテハ、是ヲ深思熟考スルモ、猶動搖シテ定マラザル所アル者ハ(積聚セル貯蓄ノ量ニハ異同アレドモ)何レモ皆其車輪ヲ推シテ洛日克ノ法度ノ中心ニ向ハシメザルベカラズ、又其利益ヲ聚合利用スルノ前ニ於テ、其法言ヲ貼用セザルベカラザルナリ、

○洛日克ノ利益ハ、學問上ニ於テ其條目甚多シ、獨リ論定ノ堅固ナル試法トナルノミナラズ、其結構ト方法トヲ得タルニ由リテ、人心ヲ強健ニシテ又之ヲ習練スルナリ、又一般ニ用フル言語ノ意義ヲ定メ、總テノ学科ニ此学ノ規則ヲ適用スルコトヲ得ベカラシム、故ニ何レノ学科ニ於ケルモ、画一ノ法ヲ以テ之ヲ考究スルコトヲ得ルナリ、

(八) 方法ト

○方法ハ或ル結果ヲ生セシムルガ為メ、新ナル真理ヲ定ムルガ為メ、又此両真理ヲ鮮明教示スル為ニ、事實ヲ秩序シ整理スルコトナリ、此語ハ希臘ノ *Μεθοδος* ヨリ出ヅ、此語ハ、「或ル結果ヲ得ン為メニ通行スル道路」トイヘル義ナリ、方法ハ何レノ学科ニテモ皆之ヲ用フレドモ、洛日克ニ於テハ殊ニ大切ナリ、○凡ソ利益アル知識ヲ得、理論ヲ以テ実行ニ施シ、又学科ニ付キテ明白、區別、結合、ノ想念ヲ得シメントスルニハ、如何様ニ其脚步ヲ取ルトモ、必ス方法ヲ立テサルベカラズ、方法ノ語ノ界域ハ、其用フ所ノ題旨ノ異ナルニ從ヒテ廣狭一様ナラザル者ナリ、インベステーション○考究ノ方法ハ学科ノ種類ニ由リテ些少ノ差異アリ、然レドモ通常ハ之ヲ二綱ニ分ツ、其一ヲ分析法アナリシストイヒ、其二ヲ聚合法アグレジテト云フ、分析法ハ通常真理ノ秘密ノ考究ニ用ヒ、聚合法ハ、教示ノ目的ニ之ヲ用フルナリ、○或ル学科ノ發明進歩ノ固定ノ段階ハ之ヲ三級ニ分ツ、曰ク解説デスク

リプチーブ曰ク帰納インダク（又經驗ト名ク）曰ク演繹デダク又精密ナル階級ト云フ、

○先ツ初メニ解説ニ依リテ学科ノ現今ノ状態、其欠ノ之須要、明白ナラザル原因等ヲ話シタル後、更ニ經驗即チ帰納ノ觀察ニ進ムナリ、是ニテ許多ノ特別ノ事実及ヒ例證ヲ聚合シテ総概ノ法則ヲ定メタル後、更ニ進ンテ、此法則ニ據リテ猶知ルコトヲ得ベキ特別ノ事実ヲ演繹スルナリ、

○此考究ノ段階ハ実物理学道德学ニ於テ、同様ニ之ヲ適用スルコトヲ得ベシ、但シ其實際ニ於テ、両者些小ノ差異ナキコト能ハズ、其故ハ道德学ハ、動搖混雜セル心智精神社會ノ現象ニ属セルヲ以テ、吾等ヲ困遶セル外世界（実物）ノ學ニ比スレバ、其法則ヲ求ムルニ、（其法則ヲ求ムルニ）最モ精密堅固ノ才智ヲ要スレバナリ、

○又其經驗ノ根元ニ至リテモ、両者共ニ同一ナルコト能ハズ、吾儕ハ此兩者ニ付キテ、全ク相反対セル者ヲ見ルナリ、造化ノ世界（実物）ハ動搖シテ變化シ易シ、然レドモ明白ニ吾等ノ五官ニ現ハル、ナリ、又之ヲ管理スル所ノ法則ハ神異ニシテ美妙ナリ、然レドモ恒久ニシテ不變ノ者ナリ、道德界ハ變化ナクシテ永遠ノ者ナリ、然レドモモシ助ナキ道理ヲ以テ考究經驗スルトキハ、蕩搖シテ且ツ暗昧ナリ、又之ニ付キ、實在ニシテ抵抗スベカラズトスル所ノ抽象ノ決定ハ惟僅少ニシテ不満足ノ者ナリ、

○余儕ハ此後ニ於テ方法ノ題目ニ付キ更ニ明細ナル解説ヲ為スベキ機會

アルベシ、惟此所ニ於テハ、洛日克ニ貼用スベキ方法ヲ説クノミヲ以テ其希図トスル所ナリ、

○余儕ハ今單一ナル学科ノ方法ヲ説クベシ、此方法ハ諸学科ヲ彙類スル為メノ道路ヲ作ルベキ者トナシ、総テノ学科ニ貼用スベキ者トシテ之ヲ説クナリ、各個ノ考究ニ於テ、方法ヲ分解聚合ノ二類ニ分ツコトハ、何レノ学科ニ於テモ同一ニ用フベキコトナリ、

（九）アナリシス 分解法 シンテシス 聚合法

○此二法ノ性質ヲ明白ニ解説センガ為メニ、日常ノ事ヲ引テ其例トスベシ、今或人ニ甚タ錯雜セル器具、例へハ、船ノ如キ物ヲ作ルコトト使用スルコトトヲ教ヘントスルニハ（此人ハ未タ船トイフ物ヲ見タルコトナシト假定シ）其第一歩ニハ先ツ十分ニ建造シタル船ニシテ、將ニ海上ニ浮ベントスル準備ヲ為シ尽ク船具ヲ備へ、人数ヲ配リタル完全ノ現状ト、至極ノ希謀ト、用法トヲ示スベシ、即チ之ヲ造作スル為メニ知ラザルベカラザルコトヲ尽ク知ラシムベシ、是則チ船舶建造ノ學問ノ第一教ナリ、其第二歩ハ船ノ一部分ヲ取崩シ、更ニ全体ヲ解キテ各個ノ小片ト為シ、其組立タル各部ト、其構造ニ於ケル諸部相互ノ管係ヲ知ラシムルニ在リ、○其第三歩ハ如何シテ此各部ヲ製作スルカトイフコトヲ示シ、又各部ヲ以テ、船舶再造ノ法式ニ從ヒテ之ヲ綴合スルコトヲ教フルニ在リ、○此一續キノ方法ヲ分解法ト名ク、或ル事物ヲ分解シテ其元質ニ至ラシムル者ナリ、

○或ル学科ノ考究ニ於テ此法ハ至極大切ノコトナリ、最初ニ整齊ナル順序ヲ以テ其学科ヲ分解シテ元質ニ至ラシメ、以テ其学ノ志謀ト目的トヲ現ハシ、是ニ由リ吾等ヲシテ審カニ其種々ノ形姿ニ付キテ習学スルコトヲ得シムルナリ、

○此働(分解法)ハ又学科ノ単一<sup>シムラリ</sup>ナルコトヲ現ハシ、其單一ハ全ク造化ノ教示ニ因ルコトヲ知ラシム、今此世界ニ動物植物ノ無数ノ形姿アリ、然レドモ造化ガ其上ニ為ス所ノ分解ハ、只其工事中ノ少数ノ部分、即チ少数ノ元質ニ過ギズ、其無数各異ノ形姿ヲ生セシムルハ、各異ノ配合ヲ以テ同一ノ元質ヲ綴合スルニ由ルナリ、是即チ造化ノ大ナル単一<sup>シムラリ</sup>法ナリ、凡ソ有形、心智、道德、ノ諸学ニ於テ、何レモ許多ノ形姿ヲ現ハストイヘドモ、其実ハ造化及ヒ心智共ニ少数ノ元質ヨリ聚合スルニ過ギザル者ニシテ、其然ル所ヲ以テ明示スルハ、即チ分解法ノ力ナリ、

○有形学ノ分解法ハ殊ニ精密ニ之ヲ為スコトヲ得ベシ、又其物ハ何レモ知覚ニ入ル者ナルヲ以テ、心智精神ノ学ニ比スレバ、之ヲ理會スルコト至テ易シ、有形物ノ分解法ハ其大種類(キングドム)或ハハイゼネラノ如キ)ヨリ始メテ、認識シ難キホドノ小細ナル微塵ニ至ルマデ之ヲ視察スルナリ、此微塵ハ、其物ヲ再造セントスルトキハ、本原ノ元質トナル者ナリ、凡ソ精密ナル分解ヲ為サントスルニハ、忍耐強キ勞力ニ非ザレバ之ヲ得ルコト能ハズ、然ルニ偶然ナル經驗ニ由リテ、或ハ偉大ナル結果ヲ得ルコトアリ、然レドモ其事ハ注意セル分解ニ反スルヨリハ、寧ロ分

解ノ証據トナルベシ、ロージャルペーコンガ火薬ヲ創製シタルハ、之ヲ求メタルニ非ズシテ偶然ノコトニ出タル者ナリ、然レドモ火薬ハ偶然ノ發明ナリトイフコトハ之ヲ廃止セザルベカラズ、即チ之ヲ分解シテ硝石木炭硫黄ト為サザルベカラズ、一度此成分ヲ知ルトキハ、吾儕ハ随意ニ火薬ヲ製スルコトヲ得ベシ、学科ハ決シテ偶然ノ上ニ進行スル者ニ非ズ、变化ナキ恒久ノ法則ニ随ヒテ運動スルトキハ、学科ノ運動ハ常ニ安全ナリ、

○不完全ナル分解法ハ、盲目ノ意見ヨリハ却テ大ナル誤謬ヲ發出持續セシムル者ナリ、<sup>コペルニコス</sup>ガリレオ<sup>ガリレオ</sup>ト伽利略トガ太陽中心ノ真正ナル理論ヲ定メシコトニ於テ、之ヲ徵スベシ、此時ヨリ以前ニハ天文学字ニ付キテ不完全ニシテ虚偽ナル分解法アリテ、星象ノ感觸ニ付キ信用ヲ堅クシ、是ニ依リテ正當ナル分解法ヲ排除シ、<sup>トレミイ</sup>多利買ノ時代ヨリ幾多ノ学士ヲシテ天象ノ動機ニ関シテ虚偽ノ結構ヲ造ラシメ、以テ真正ノ学科ノ車輪ノ運轉ヲ阻礙シタリ、

○分解ノ法既ニ畢リタル後、余儕ハ自然ニ<sup>シムラリ</sup>聚合<sup>シムラリ</sup>法ニ移リ行カザルコトヲ得ズ、

○既ニ分解シテ一片トト為シタル後、更ニ再造ノ工事ヲ為サザルベカラズ、各個ノ元質ヲ取りテ細密ニ之ヲ考驗シ、是ヲ以テ再造ノ科ニ足ルベキコトヲ十分ニ了解シ、其後之ヲ以テ再造ノ工事ニ取掛ラサルベカラズ、此片ヲ以テ彼片ニ合セ、許多ノ心力ヲ勞シテ徐々ニ船舶ヲ建造シ、以テ

其全ク落成スルニ至ル、其後之ヲ水ニ浮ベ、其帆ヲ風ニ張り、實際ニ其運行ヲ見、是ニ至リ余儕ハ始メテ船ヲ建造スルコトヲ知り、總テ此ノ如キ利用アル物ヲ造ルノ幹能ヲ得タリト称スルコトヲ得ベシ、

○此作用ヲ聚合法ト名ク、此法ハ種々ノ形状性質ノ材料ヲ聚メテ再造ノ功ヲ成スノ工事ナリトイフハ、自ラ明白ナルコトナリ、

○世間ノ學士、学科ヲ考究スルカ、為メニ、専ラ聚合法ノミヲ採リテ分解法ヲ怠棄スル者多シ、然レドモ学科ノ分解法ハ、聚合法ノ為メニ大ナル準備ヲ與フル者ニシテ、現今学科ノ著書ヲ此順序ニ從ヒテ編成セル者ハ吾等ノ為メニ真実ノ教学法ヲ與ヘタル者ト云フベシ、一二ノ学科ニ於テ、聚合法ノ真正ナルハ、分解法ノ堅固適當ナル比例ニ由リテ得ル者ナレバ、専ラ分解法ヲ行ヒテ、或ル學術ヲ理會スルノ規則ヲ定メントスルハ、頗ル適當ノコトト称スベシ、

○分解法ノ規則ハ要スルニ、左ノ數項ニ帰宿スベシ、

其一 凡テ学科ノ總共ノ論說ノ憑據ナキ者ハ一切之ヲ信ゼズ、其憑

據ハ、適當ナル明証<sup>エビデンス</sup>ノ原理ニ由リテ定メタル者ニ限ルベシ、

其二 学科上ノ各個ノ件ハ、是ヲ分解スルニ必要ナルヲ度トシテ、或

ハ之ヲ幾多ノ部分、又ハ許多ノ元質ニ分解スベシ、

其三 此ノ如キ元質ヲ明白ニ了解シ、又ハ相互ニ有スル所ノ干係ヲ理

會シ得ンガ為メニ、之ヲ方法様ニ整頓スベシ、

此ノ如ク為シタル後ニ、聚合法ニモ亦之ト一對ノ規則アリ、

其一 元質ノ分子ト名目ヲ付スベシ、其名目ハ曖昧ノ意ナキヲ要ス、  
其二 此分子ヲ綴合スルニ、他ヨリ異議ヲ容ル、コト能ハザル明白ナル定則ニ依リテ之ヲ行フベシ、

其三 此名目ト定則トヲ用ヒテ其收結ニ達セントスルニ、必ス證據ニ憑リテ之ヲ試定セザルベカラズ、

○此分解ト聚合トノ法ハ、学科ヲ考究スルニ於テ活動セル方法ノ二個ノ職分ニシテ、又總テノ学科ノ為メノ必要ナル器具ナリ、分解聚合ノ兩規則ヲ適當ニ貼用スルトキハ、吾等ノ學問ニ大ナル利益ヲ起シ、吾等ヲシテ誤謬ニ遠ザカルコトヲ得シム、分解法ト聚合法トハ、抽象概括定義區分ノ諸方ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得ベシ、其事ハ後ニ之ヲ説クベシ、此所ニ於テ、余儕ハ方法ノ題目ノミヲ論ズ、其故ハ方法ヲ以テ洛日克ノ學ニ貼用セント欲スレバナリ、洛日克ハ之ヲ学科トシテ習ハントスルニハ、此方法ノ規則ニ據ラザルベカラザルナリ、

(十) 洛日克ニ貼用セル分解法聚合法

○余儕今此方法ヲ以テ洛日克ノ學ニ貼用セントス、抽象即チ方正ノ洛日克ハ或ル題目ニ干係スルコトナク、専ラ思想ノ法則ト推理ノ規則トヲ解説スル者ナリ、応用ノ洛日克ハ此規則ヲ以テ学科ノ考究ニ関セル諸題目ニ貼用シタル者ナリ、余儕目今解説セントスルハ其第一ノ者ノミナリ、○余儕善ク此方法ヲ學ハンガ為メニ、後來連続セル歩々ヲ領會スルノ前ニ於テ、先ツ本題ノ全体ヲ以テ左ノ如ク之ヲ区分スルヲ必要ナリトス、

其一 洛日克ノ分解法

○分解法ニ於テ先ツ此学ノ図謀ト活動トヲ示シ、而シテ其希図ト目的トヲ顯ハシタル後、之ヲ分解シテ種々ノ小分子ト為シ、是々ノ小分子ハ之ヲ綴合シテ何々ノ希図ニ達セントスル者ナルコトヲ説ク者ナリ、

其二 方正<sup>ホルマル</sup>ノ洛日克ノ聚合法

○聚合法ハ全ク分解法ヲ反轉シタル者ナリ、而シテ此ノ如キ分解法ハ、聚合法ヲ以テ堅定スベキ学問ノ總共ノ目的タルニ過ギザレバ、余儕ハ洛日克ノ分解法ハ簡短ニシテ總概ナルヲ以テ足レリトシ、聚合法ハ精細ニシテ綿密ナル注意ヲ要セザルヘカラサル者トス、余儕ハ分解法ニ標示シタル小分子ヲ個々ニ考察シ、以テ適當ナル干係ニ從ヒテ之ヲ綴合センコトヲ務メザルベカラズ、

○余儕ガ既ニ知ル所ノ題目ニ付キテ研究セントスルニハ、殊ニ聚合法ヲ以テ適當ノ手段トス、故ニ此時ニハ最モ精細詳密ニ此法ヲ講求セザルベカラズ、又未タ知ラザル所ノ学科ヲ考究セントスルニハ、分解法ハ殊ニ必要ニシテ價值アル手段ナリト知ルベシ、

○洛日克ノ總共ノ聚合法ニ付キテハ又誤謬ヲ論スルノ篇中ニ之ヲ記載スルコトアリ、此ノ如クシテ推測式ノ用法及ヒ学科上ノ成語ヲモ其処ニ於テ之ヲ記述スベシ、

其三 洛日克ノ史傳

○洛日克ノ史ハ通常ハ篇首ニ置クナレドモ、余儕ハ之ヲ以テ方正ノ洛日

克ノ後ニ之ヲ出セリ、其故ハ余儕ハ史傳ヲ以テ、惟吾儕ガ知ル所ヲ託シ、又此学ノ誤謬ト障碍トノ原因ヲ善ク理會シ得ルダケノ者ト定メタレバナリ、余儕モシ洛日克トハ如何ナル者ナルカトイフコトヲ知ルトキハ、其歴史ハ甚タ要用ニシテ利益アリ、モシ然ラザルトキハ要用モ利益モナキ者ナリ、

○洛日克ハ其主要ナル時代ニ於テ斐学（哲学）ノ他ノ種類ト混淆錯雜スルヲ以テ、尋常ノ歴史ヲ讀ム者ニシテ、其混雜セル他ノ学科ヨリ洛日克ヲ分離セシムルノ智見ナキ者ハ、其歴史ヲ讀ムモ無用ナル勞力タルニ過ギザルナリ、

第二篇

洛日克ノ分解法

(十二) 分解セル推理法

○洛日克ヲ以テ一個ノ術トシテ之ヲ学ブニ、分解法ヲ用ヒントスルニハ、先ヅ「洛日克ハ推理ノ術ナリ」トイヘル定義ヲ立ツルヲ以テ第一トスベシ、

○推理ハ、既ニ知リタル二個ノ判断ヲ綴合シテ、之ヲ推演シテ第三ノ者ヲ造リ出スナリ、此推理ヲ以テ言語ニ發スルトキハ之ヲ定言<sup>アーギュメント</sup>ト云フ、

○定言ヲ以テ、單一ナル最後ノ形容ヲ作ルヲ、洛日克ノ語ニシテ推測式<sup>シロト</sup>ト名ク、更ニ廣キ意味ヲ以テ言フトキハ、推理ハ、數多ノ定言ヲ綴合

連続スルコトヲモ包括スルナリ、

○推測式ハ三個ノ表言<sup>シヨロボヨ</sup>ヨリ成ル所ノ定言ナリ、其第一ノ表言ヲ大前提<sup>マジョル</sup>ト名ケ、第二ノ表言ヲ小前提<sup>マイジョル</sup>ト名ケ、第三ノ表言ヲ收結<sup>コウケツ</sup>ト名ケ、此ノ如キハ前提ノ通常ノ順序ナリ、然レドモ推理ハ時ニ依リテ此順序ヲ變改スルコトアリ、

大前提 Aハ皆Bナリ || 人ハ皆死スベキ者ナリ

小前提 Cハ皆Aナリ || 印度人ハ皆人ナリ

收結 故ニCハ皆Bナリ || 印度人ハ皆死スベキ者ナリ

○表言ハ何レモ二個ノ單辭ヨリ成ル、一ヲ題目<sup>サマゼ</sup>ト云ヒ、二ヲ解釋<sup>アツレチ</sup>ト云フ、人ハ自己ノ心ヲ満足センガ為メ、又真理ヲ論證センガ為メ、又誤謬ヲ除カンガ為メニ、推理ヲ為スナリ、此ヲ為サンガタメニ、数多ノ推測式ヲ綴合スルコトアリ、是ヲ聚合定言<sup>コンバウシド</sup>ト云フ、聚合定言ハ之ヲ分解シテ單一定言ト為スコトヲ得ベシ、單一ナル推測式ニ於テ、兩前提中ノ一個ヲ以テ、既ニ領會セル者ト為シテ之ヲ發言セズ、以テ短縮セル推測式ヲ作ルコトアリ、是ヲ簡畧推測式<sup>エンチ</sup>ト云フ、例ヘバ

(小前提) 塞撤<sup>カエサル</sup>ハ人ナリ

故ニ 塞撤ハ死スベキ者ナリ

○此例ハ大前提ヲ隱匿シタル簡畧推測式ナリ、其大前提ハ「人ハ皆死スベキ者ナリ」トイヘル語ナリ、此語ニ本ヅキ「塞撤ハ人ナリ」トイフコトヲ得ルニ由リテ「塞撤ハ死スベキ者ナリ」トイフ語ヲ以テ收結シ得ベ

シト信ジタル者ナリ、然レドモ若シ此簡畧推測式總テ不分明ニ見エルトキハ、隱匿セル前提ハ尽ク之ヲ掲出セザルヘカラズシテ、定言ノ堅固不堅固ハ其前提ニ由リテ定マルナリ、聚合ノ定言ハ、通常完全ニ發言シタル推測式ヲ用ヒズシテ、簡畧推測式ノ数个ヲ合セ用フル者ナリ、

○推測式ノ根元トナル者ハ亞立士度徳ノ定規<sup>チクチ</sup>ナリ、即チ亞氏ガ定言ノ為メニ立タル總共ノ根法ナリ、

○此所ニテハ未タ洛日克ノ史(經驗ト誤謬トノ史)ヲ説クノ順序ニ非ストイヘドモ、此学ノ初メテ明白ナル表章ヲ得タルノ時ト、此学ニ付テ定立ノ功アル人トヲ知ルハ、極メテ利益アルコトナリ、希臘ノ光明ナル時代、即チ布拉多<sup>プラト</sup>ノ数学、希臘人ノ心ヲ進メテ、亞立氏ノ出世ノ待ツノ準備ヲ為サシメ、腓立<sup>フレリツ</sup>ノ奮勉、亞歷山大<sup>アレキサンデル</sup>ノ功業ノ前途ヲ開キシ時代ニ於テ、洛日克ノ結構初メテ成レリ、此結構ハ其後永年ノ間、強烈ナル試験ヲ經驗シ、大ナル變化ナクシテ今日ニ現存セル者ナリ、此学(洛日克)ハ歐羅巴ノ宗教迷信ト無知文盲ノ時代ニ於テ、一時伏匿シシテ其形ヲ隠クセリ、加フルニスクリル<sup>リ</sup>ノ理家ト宗教家ト共ニ甚シク之ヲ攻撃セシカドモ、幸ニシテ真理ノ生氣ニ頼リテ、道德ノ破壊、哲学ノ妄想、異教ノ怪論ノ中ニ在リテ時世ノ打墮ニ遇ハズシテ今日ニ存在セリ、亞立氏ノ分解法ハ、今日ニ在リテ洛日克ノ全圖ヲ作ルコト、恰モ従前ノ衆多ノ時世ニ於ケルガ如シ、

○亞立氏ハ、数年ノ間辛苦考究シタルノ後ニ於テデク<sup>チ</sup>ユム<sup>デ</sup>オム<sup>ニ</sup>

エトニユルロノ法ヲ定メタリ、デオムニハ肯定ノ推理法ニシテデニユルロハ否定ノ推理法ナリ、通常ノ符号ヲ以テ記スルトキハ左ノ如クナルベシ、

亞立士度徳ノ定規

肯定

Aハ皆Bナリ

Cハ(一)皆(二)或ハAナリ

故ニCハ(一)皆(二)或ハBナリ 故ニCハ(一)Bニアラズ、(二)ニアラズ

或ルCハBニアラズ

否定

AハBニアラズ

Cハ(一)皆(二)或ハAナリ

故ニCハ(一)Bニアラズ、(二)ニアラズ

肯定否定ヲ分チテ記スルトキハ左ノ如シ

肯定

(一)

Aハ皆Bナリ

Cハ皆Aナリ

CハBニアラズ

否定

(二)

Aハ皆Bナリ

或ルCハAナリ

或ルCハBニアラズ

(三)

AハBニアラズ

Cハ皆Aナリ

(四)

AハBニアラズ

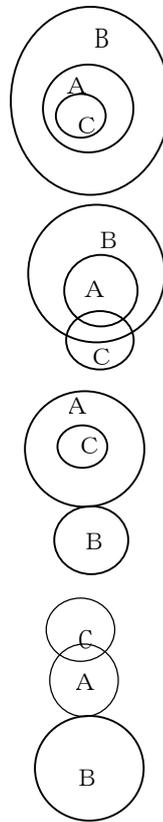
或ルCハAナリ

CハBニアラズ

或ルCハBニアラズ

○若シ幾何学ノ意味ニ依リテ此推測式ヲ記スルトキハ左ノ如クナルナリ

一 二 三 四



此定規ノ義ヲ解説センガ為メニ之ヲ譯出スルコト左ノ如シ、

ホールクラツツ

○全体ニ付キテノ解釈ハイカ様ニ之ヲ為ストモ、必ス其全体ノ間ニ包

括セル全個或ハ数個ニ付キテ之カ解釈ヲ為サルベカラズ、解釈ハ或ハ肯定シ或ハ否定スルコトヲ目的トス、

○故ニ肯定ノ定規ニ付キテ見ルニ、其大前提ニ於テハ、BハAノ全体ヲ解釈、即チ肯定ス、其小前提ニ於テハ、Cノ全個又ハ数個ハAノ全体ノ中ニ包括セル一分又ハ数分ナリ、其收結ニ於テハBノ数分ヲ解釈シタル者ニシテ、大前提ニ於テハ此数分ヲ包含シタル全体ヲ解釈シタルナリ、○此亞立士氏ノ簡單ナル定規ハ推測式ノ根基ニシテ、推測式ハ推理ノ共通ノ原理ナリ、此所ニテハ唯其事實ヲ述フルノミニテ足レリトシ、其証定

ハ後ニ於テ詳ニ之ヲ説クベシ、推測式ヲ作ル所ノ表言ハ、更ニ之ヲ分解スルコトヲ得、此表言ハ二個ノ名辞ト一個ノ連辞トヲ以テ成ル、初メノ名辞ハ之ヲ題目ト名ケ、後ノ名辞ニ之ヲ解積ト名ケ、此二語ノ間ニ在リテ之ヲ接合スルノ語ヲ連辞ト名ケ、

題目

連辞

解積

( Men )

( are )

(Mortal)

題目

連辞

解積

( Men )

( are not )

(trees)

○亜氏ノ定規ハ推測式ノ根基ニシテ、推測式ハ推理ノ一般ノ原理ナルコトハ上文ニ已ニ之ヲ言ヘリ、是ニ付テ左ノ義ヲ知ラザルベカラス、凡ソ定言ノ堅固ナル者ハ、其本来ノ形姿ノ如何ニ管セズ、總テ推測式ノ形姿ノ中ニ置カザルヘカラス、而シテ亜氏ノ定義ハ直チニ推測式ノ形ニ貼用スルコトヲ得ベキ者ナリ、又一方ヨリ言フトキハ、若シ其定言、此形姿ニ從ハシムル能ハザル者ナルトキハ、其定言ハ不堅固ノ者ナリ、故ニ此定言ハ獨リ適當ナル推理ノ車駕タルノミナラズ、又洛日克ニ於テ誤謬ノ試験法トナルベシ、吾儕ハ定言ノ形姿ヲ考案スル毎ニ必ス此試験法ヲ回想セザルベカラザルコトナリ、

○吾儕カ数学ヲ學ブニ於テ、特別ナル算数字ヲ用フルノ道理ハ左ノ如シ、第一ニハ其仕事ノ簡單ニシテ迅速ナルコト、第二容易ク是ヲ概括シ得ルコトナリ、洛日克ニ於テ符号ヲ用フルモ、亦全ク之ト同シ理ナリ、例ヘ

ハ、余今左ノ推測式ヲ記スルニ

善良ナル人ハ皆幸福アリ

約翰ハ善良ナル人ナリ

故ニ約翰ハ幸福アリ、

余ガ此定言ハ惟「約翰ハ善良ナル人ニシテ又幸福アリ」トイフ一事ニ限

リテ言ヒタル者ナリ、然レドモ、余若シ

Aハ皆Bナリ

CハAナリ

故ニCハBナリ

ト記スルトキハ總通ノ形式トナリテ、其題目ト其尋問ノ事ノ異ナルニ從ヒテ許多ノ場合ニ貼用スルコトヲ得ルナリ、故ニ此學ニ從事スル者ハ、此總通ノ形式ニ從ヒテ個々ノ例ヲ作り、而シテ此形式ヲ心中ニ定住シ、各个ノ場合ニ於テ洛日克ノ貼用法ニ習熟スルヲ以テ肝要ノコトトスベシ、○亜氏ノ定言ハ是ニ據リテ堅固ノ定言ヲ作ルコトヲ得ベキ者ナレドモ、或ハ精密ニ此定義ニ適合セザル場合モアリ、因テ此定規ノ外ニ、更ニ誤謬ヲ発見シ、定言ノ堅固ヲ定ムル為ノ規則數條ヲ後篇ニ記シ以テ之ヲ示サントス、洛日克ヲ學ブ者ハ宜シク是ニ據リテ定規ヲ以テ最後ノ証憑ト為シテ、之ヲ貯藏シ置キ、以テ狡猾ナル詭辯家ノ説ニ抗敵センコトヲ求ムベシ、若シ人アリテ洛日克ヲ知ラザル人ハ定言ノ堅固不堅固ヲ定ムルガ為メニ許多ノ労力ト迂遠ノ語トヲ用ヒザルベカラズシテ、且ツ大

ニ誤謬ニ陥ルノ恐アルコトアランニ、洛日克ニ熟セル者ハ、其時ニ説話ノ題目ニ吟味スルニ及バズシテ、直チニ亜氏ノ定言ヲ用ヒテ推理ノ体格ヲ造成シ、明カニ其定言ノ缺失ヲ指定スルコトヲ得ベシ、而シテ先ツABCノ如キ符号ノ文字ヲ以テ総通ノ形式ノ堅固不堅固ヲ定メタル後、又此形式ニ属スル所ノ各個ノ例ニ就キテモ、一々其堅固不堅固ヲ定ムルコトヲ得ベシ、

○今洛日克ノ分解法ヲ畧説シタル後ニ、更ニ是マテ説明シタル件ヲ再ヒ簡畧ニ之ヲ摘説スベシ、曰ク、洛日克ハ推理ノ術ナリ、推理ニ付キテハ簡單ナル共総ノ原理アリ、推理ハ其中ニ名辞ト表言ト定言トヲ包含ス、名辞ハ直覺ト概念トノ二様アリ、此ノ如キ名辞ハ、判断ノ働ヲ以テ之ヲ結合シテ種々ノ表現ヲ作ル、而シテ表言ハ前提ト收結トヲ接合シテ定言ヲ作ルナリ、以上ノ作用ハ何レモ思想ノ法則ト一致シテ進行セサルベカラズ、推理ノ根基トナル者ハ垂立氏ノ定規ナリ、此定規ハ推測式ノ単一ナル形姿ナリ、

○推測式ハ二個ノ前提ト一個ノ收結トヲ以テ成ル、此三個ハ表現ナリ、而シテ表言ハ何レモ三部ヨリ成ル、二個ノ名辞ト一個ノ連辭是ナリ、余儕今洛日克ノ形式ノ元質ヲ説クニ、此順序ヲ反轉シテ、名辞ヨリシテ始メントス、

### 第三篇

#### 洛日克ノ聚合法

(十二) 定言ヲ為ヌ時ニ於テ心ノ或ル作用及ヒ其状態

○推理ノ作用ノ聚合法ヲ論スルニ方リ、吾儕ハ先ツ定言ニ近ヅクトキノ心ノ或ル働キト状態トヲ理會セサルベカラザルナリ、洛日克家ハ其干係ノ近キ者ニ從ヒテ許多ノ名ヲ擧ゲシガ、余儕ハ其數ヲ減ジ、定メテ三個ト為サントス、

○所謂三個ハ、其一ハ領會ラップレヘ、其二ハ判断シヤジ、其三ハ推理リッソ即チ明理マネシ是ナリ、此三者ノ未タ發セザル前ニ當リテ、注意アウツテシトイフ者アリテ、三者ノ先行ヲ為スナリ、注意ハ特立ノ性能ニ非ズ、惟智性ニ属セル意思ノ働ナリ、領會ハ事物ニ付キテ單純ノ念ナリ、五官ニテ認識シタル事物モ、心ニテ自識シタル事物モ共ニ同一ニ領會スルナリ、想念デアイハ此領會ヨリ生レタル心ノ働ノ果実ナリ、

○吾身体ニ具セル五官ノ働ニ由リテ、吾等ヲ困遶セル身外ノ万物ヲ知ル、此知識ヲ得ル最初ノ一步ハ知覺センセーション是ナリ、知覺ハ五官ノ生器ノ上ニ感スル印象ナリ、知覺ハ不可知ノ方法ヲ以テ其知覺セル万物ヲ心ニ還リ以テ認識ヲ生ス、心ト五官トノ結合ニ由リテ事物ヲ認識スルト同時ニ、心ニ於テ其事物ヲ領會ス、即チ心ニ之ヲ保持スルナリ、是ニ由リテ心中ニ想念ナル者ヲ作ル、即チ其事物ノ智性ノ知識ヲ生スルナリ、

○想念ニハ單一ト重複ノ二様アリ、單一ナル想念ハ一個ノ事物、又ハ個々相干係セザル數個ノ事物ノ念ナリ、此念ハ通常一語ヲ以テ之ヲ發言ス、例ヘハ約翰、人、川、ノ如シ、或ハ接続詞ニテ結合セル數語ヲ以テ發言

スルコトアリ、例へば、約翰并ヒニ彼得<sup>ピートル</sup>、人及ヒ小児ノ如シ、重複ノ想念ハ、彼此相互ニ干係セル數個ノ事物ヨリ成ル、例へハ逍遙スル人、樹枝ノ一束ノ如シ、

○領會ノ働ニ由リテ生シタル想念ヲ、言語ヲ以テ發表スルトキハ之ヲ名辭<sup>ムネ</sup>ト名ク、然ルニ名辭ヲ表スル所ノ言語ニ、或ルハ曖昧不明ナル者アルモ、洛日克ノ管スル所ニ非ズ、其故ハ洛日克ハ、惟概括名辭、又ハ抽象名辭ヲ以テ事ヲ為ス者ニシテ、言語ノ明白不明白ヲ區別スルノ學ニ非ザレバナリ、故ニ洛日克ニ於テ、名辭ハ明白ニシテ曖昧ノ意義ナキ者トシテ之ヲ扱フコトナリ、洛日克ノ名辭ハ、領會ノ作用ニ由リテ得タル想念ヲ、言語ヲ以テ發表シタル者ナリ、

## 二 判斷<sup>シヤク</sup>

○判斷ハ或ル心ノ作用ニシテ、モシ領會即チ名辭ニ二個ノ事物アリテ、共ニ余カ知ル所ノ者ナルトキハ、其二個相互ニ協合スルカ協合セザルカヲ表明スル者ナリ、故ニ余モシ何人ガ約翰ニシテ、豪傑トハイカナル物ト云フコトヲ知ルトキハ、左ノ如ク表明スルコトヲ得ベシ、

約翰ハ豪傑ナリ 或ハ 約翰ハ豪傑ニ非ズ

故ニ判斷ニハ二種アリ、二個ノ名辭相協合スルトキハ之ヲ肯定<sup>アツク</sup>シテ名ケ、二個ノ名辭相協合セザルトキハ、之ヲ否定<sup>ナク</sup>シテ名ケ、判斷ノ作用ヲ言語ニ發出スルトキハ之ヲ表言<sup>アハサフ</sup>ト名ク、

○此條ニ於テ更ニ注目セザルベカラザルコトアリ、洛日克ハ專ラ其形式

ニ於テ發言セル抽象ノ表言ヲハ承認スベキコトニシテ其表言ノ真理ト虚偽トヲ辨論スル者ニ非ズ、即チ表言ニ於テ真理ナリトシテ採用スルトキハ、随ツテ之ヲ免許スベキコトナリ、

○例へバ今「AハBナリ」ト云フ表言ヲ為ストキハ、洛日克ハAハ実ニBナリトシテ之ヲ引受クルナリ、若シ此共通ノ形式ヲ以テ一个ノ事物ニ貼用シタルトキ、其事ノ虚偽トナルコトアルモ、洛日克ハ此虚偽ニ付キテ其責ニ任ゼズ、又虚偽ノ前提ヲ用ヒタルニ由リテ定言ノ中ニ誤謬ノ点ヲ見出スコトアリモ、又其責ニ任ゼザルナリ、世ノ人多ク誤リテ洛日克ハ直チニ言語ヲ以テ之ヲ為ス者ニシテ、判斷ハ言語ヲ以テ表出スル者ナリト想フヨリシテ更ニ大ナル誤謬ニ陥ルナリ、代数学ハ預シメ方程式<sup>エクワション</sup>ヲ以テ適當ノコトナリト定メ、然ル後x及ヒyハ其式ヲ固定スルノ價値アル者トシテ之ヲ發開スルナリ、洛日克ノ形式モ亦代数学ノ如ク抽象ト概括トノミヲ用ヒ、洛日克ノ表言ハ常ニ真正ノ者トシテ之ヲ引受クルナリ、

## 三 明理<sup>ラシヨネ</sup>

○明理ハ二个以上ノ判斷(即チ二个以上ノ表言)ヲ有シタルトキ、甲ノ判斷ヲ根基トシテ乙ノ判斷ニ進行シ、又其二者ノ結合ヨリシテ進前スル所ノ心ノ作用ナリ、故ニ左ノ如キ二个ノ表言ヲ有スルトキハ、

人ハ皆死スベキ者ナリ、

塞撤ハ人ナリ

余儕ハ此二个ノ表言中ニ包括セル事實ヲ考へ、二个ノ表言ノ結合ヨリシ

テ「塞撤ハ人ナリ」トイヘル最後ノ表言ヲ推演スルナリ、

○明理ノ作用ヲ以テ言語ニ發スルトキハ之ヲ定言<sup>イキエト</sup>ト云フ、此定言ヲ以テ單純ナル洛日克ノ形式ヲ作ルトキハ之ヲ推測式<sup>シロシ</sup>ト云フ、此單純ナル洛日克ノ形式ハ其前提ト收結トヲ作ル為メニ一定ノ順序ヲ要スルナリ、  
○今左ノ如キ推測式ヲ作ルトキハ

大前提 AハBナリ 人ハ死スベキ者ナリ

小前提 CハAナリ 塞撤ハ人ナリ

收結 CハBナリ 塞撤ハ死スベキ者ナリ

余儕此推測式ハ三個ノ表言ト三個ノ名辭トヨリ成ルヲ見ル、三個ノ表言ハ大前提小前提收結ニシテ三個ノ名辭ハABCナリ、推測式ニ於テ此名辭ヲ何レモ二回<sup>シ</sup>繰返シテ用フルナリ大前提ト收結トニ用フル名辭(B)

ヲ大名辭ト名ケ、小前提ト收結トニ用フル名辭(C)ヲ小名辭ト名ケ、  
兩前提ニテ用フル名辭(A)ヲ中名辭ト名ケ、大名辭ハ常ニ收結ノ解釈トナリ、小名辭ハ題目ノ解釈トナルナリ、

○明理ノ働ヲ廣張セント欲スルトキハ、洛日克ノ法則ニ從ヒテ此推測式即チ收結ヲ許多連接スルニ由リテ之ヲ為シ得ベシ、

#### 第四篇

#### (十二) 名辭<sup>ク</sup>

○名辭ハ言語ヲ以テ發出セル<sup>〇</sup>想念ナリ、是ニ單一ト複雑トノ二種アリ、  
二個ノ名辭ヲ合セテ表言ヲ作ル、此事ヨリシテ名目<sup>ムネ</sup>ヲ生ス、其故ハ二

個ノ名辭ハ表言ノ界段ヲ作ル者ナレバナリ、

○單一ノ名辭ハ吾領會セル單一ノ事物ヲ言フ者ニシテ、通常一語ヲ以テ成ル者ナリ、即チ人、馬、野、等ノ如シ、複雑ノ名辭ハ吾領會セル數個ノ事物ヲ、其互ノ干係ニ於テ發言スル者ナリ、即チ善キ少年、走ル馬、ノ如キ是ナリ、

○名辭ハ任意ノ者ナリ、吾領會ヲ他人ニ傳送セントスルトキニノミ用フル者ニシテ、若シ國語ノ異ナルトキハ同一ノ事物ヲ別異ノ語ヲ以テ言ハザルコトヲ得ズ、故ニ英國ニテホルス(馬)ト名クル物ヲ法國ニテハシエバルトイフ語ヲ用ヒ、西班牙ニテハカバロトイフ語ヲ用ヒテ之ヲ表出スルナリ、故ニ言語ハ領會ノ作用ニ非ズシテ、其作用ヲ表出センガ為メノ任意ノ符号ナリ、

○然レドモ言語ハ推理ヲ作ル為メニ必須ノ者ナリ、言語ノ裝飾ヲ採用セザルノ間ハ、推理ヲ応用シ、又試定スルコト能ハザルナリ、

○専ラ名辭トシテ用フルノカアル言語ハ之ヲ自用語<sup>カクゴ</sup>ト名ケ、他ノ名辭ヲ作ル補助ヲ為スノ語ハ之ヲ副用語<sup>シヤクゴ</sup>ト名ケ、故ニ人、馬、約翰、ハ自用語ニシテ、此處、與フ、及ビハ副用語ナリ、

○偶然ノ經驗ニ由リテ言辭ノ種類ノ上ニモ亦左ノ如キコトヲ發見セリ

其一 名詞<sup>ナウン</sup> 主位ニ用フルトキハ、名詞ハ自用語トナル、有位<sup>ボツ</sup>ニ

於テハ「人ノ」ト言フガ如ク其人ノ所有セル事物ヲ示サザルベカラズ、  
客位<sup>カクゴ</sup>ニ於テハ之ヲ支配スル語ヲ示サザルベカラズ、

其二 状詞 アドゼクティブ

状詞ハ何レモ副用語ナリ、「約翰ハ善良ナリ」トイフトキハ、状詞ハ自用語トナルガ如ク見ユレドモ、善良ナル人又ハ少年ヲ指スコトナレバ、畢竟ハ副用語ナリ、

其三 活詞 ワーブ

自用語ノ更ニ過度ナル者ニシテ、或ハ之ヲ過自用語 ハイスト稱スベシ、其故ハ活詞ハ數連辭ト解釈トヲ其中ニ包含スレバナリ、テコレマ「人ガ逍遙ス」トイヘル句ノ如キハ「逍遙ス」ノ一語ハ「逍遙シアリ」ト

イヘル二語ト同シ勢力ヲ有スル者ナリ、然ルトキハ「逍遙シ」ハ解釈ニシテ「アリ」ハ連語ナリ、

○活詞ノ不定法ハ其実ハ活詞ニ非ズシテ、名詞ノ主位トナルナリ。「自國ノ為メニ死スルハ幸福ナリ」トイヘル句ノ如キハ、「自國ノ為メノ死ハ幸福ナリ」ト言フニ同ジ、「死スル」トイヘル不定法ハ「死」ト云ヘル名詞ヲ以テ十分ニ發言スルコトヲ得ルナリ、

其四 其他ノ言辭ノ種類ハ何レモ副用語ニシテ、他ノ語ト結合シ名辭ヲ作ルコトニノミ之ヲ用フルナリ、現在分詞ノ形ヲ為ス所ノ語ハ或時ハ不定法ト為シ、或時ハ名詞ト為シテ之ヲ用フ、余儕ハ是ヲ以テ上ノ例ニ代用スルノ法ヲ示スベシ、「自國ノ為メニ死スルコトハ幸福ナリ」ト云フコトハ、上ノ二例ト同様ノ義トナルナリ、

(十四) 單一ナル名辭ノ區分

○單一ナル名辭 シムブルハ是ヲ分ツテ特別 シキユト普通 ユムトノ二者トス、  
○特別ノ名辭ハ特別ナル一個ノ物ヲ言フノ辭ニシテ、通常人名地名

物名等ナリ、即チ約翰、費拉特費、特拉華ノ如シ、  
(ワイルデルフイユ) (テラウエア)

○普通名辭ハ、全種類中ノ一個又ハ數個ヲ言フノ辭ナリ、即チ、人類、軍隊等ノ如シ、普通名辭ヲ以テ特別名辭ト為サントスルトキハ、「此」トイヘル指示代詞ヲ普通辭ノ前ニ加フルナリ、即チ此人此河ノ如シ、此ノ如クスルトキハ、人ト河トノ名ヲ言フニ異ナルコトナシ、即チ此人ハ約翰ナリ、此河ハ特拉華ナリ、普通名辭ハ種類ヲ表スル者ナルヲ以テ或ハ、之ヲ通名 アッペラト名ク、數多ノ事物ニ共通ノ名ヲ與フレバナリ、

○故ニ此通名ハ、數多ノ事物ニ共通セル性質アルヲ發見スルトキハ、其特異ノ性質ハ之ヲ注目セズ、此數多ノ事物ニ惟一ノ名ヲ命スルヲ以テ、學問ノ則ヲ為スコト甚大ナリ、此名ヲ稱シテ普通名辭ト言フナリ、普通名辭ハ又其着目ノ次第ニ依リテ、綱 セニユ或ハ目 スベシト名クルナリ、

○普通名辭ハ其性ノ異ナルニ從ヒ、之ヲ抽象 アクトト具體 コンクト二分ツ、抽象名辭ハ、理想ノ語ニシテ、之ヲ以テ其事物ニ固着セル性質ヲ抽象シテ言ヒタル者ナリ、然レドモ、敢テ其事物ノ本体ニハ管係ヲ有セザルナリ、故ニ堅キコト長キコト美麗ナルコト等ハ抽象名辭ナリ、此語ハ許多ノ事物ニ固着セル者ナレドモ、直チニ其何々ノ事物ナリト云フコトハ之ヲ指定セザルナリ、

○具體ノ名辭ハ同ジク事物ニ固着セル性質ヲ言ヒタル者ニシテ、其事物ト同時ニ吾心中ニ現ハル、所ノ者ナリ、故ニ堅キ、長キ、美麗ナル等ハ具體ノ名辭ナリ、是ヲ言フトキハ、或ハ堅キ或ハ長キ或ハ美麗ナル或ル

事物ヲモ共ニ連帶シテ發言スルナリ、

○具体ノ名辭ハ又表出名辭デイント含蓄名辭コンテノ稱アリ、其故ハ或ハ抽象セル性質ヲ表出シ、或ハ其事物ノ意味ヲ包容スルヲ以テナリ、故ニ「堅キコト」トイフハ抽象名辭ニシテ、理想ノ名詞ナリ、惟堅キコト言タルノミニテハ何ノ事物ヲモ指定スルコトナキヲ以テ空漠ノ想念タルヲ免カレス、若シ「堅キ」トイフトキハ自然ニ何物カ堅キトイヘル間ヲ發スルニ至ルベシ、然ルトキハ之ニ答ヘテ「名」ナリト言フベシ、故ニ堅キトイヘル具体語ハ、堅キコト言ヘル性質ヲ表出シ、名トイフ語ハ、其性質ノ固着セル物体ヲ含蓄スル者ナリ、

○名辭ハ又之ヲ絶對アブリト管係リレト二分ツベシ、絶對ノ語トハ少シモ他ノ事物ニ干係ヲ有セザルノ語ナリ、管係ノ名辭トハ他ノ事物ニ干係シ、又ハ事物ト錯綜セル語ヲイフ、又二者相互ニ必要ノ干係ヲ有スルヲ對立ノ語コルレト云フ、父ト子、君ト臣、兄弟ト姉妹トノ如キハ對立ノ語ナリ、或ハ一語ニシテ、一物ヨリ多キ干係、即チ、對立ヲ有スル者アリ、例ヘバ、姪トイフ語ハ、伯父伯母ト相干係シ、父ノ因ミ母ノ因ミトイフ語ハ兄弟姉妹ト相干係スルナリ、

#### (十五) 名辭ノ性質及ヒ分量

○名辭ハ更ニ之ヲ分量ト性質ト二分ツベシ、名辭ノ分量ハ、多少トイフコトヲ考案ノ中ニ取ル所ノ語ナリ、名辭ノ性質ハ其事物ノ状態ニ付キテノ想念ナリ、

○性質ニハ常在エウセント偶有アクシデトノ二者アリ、常在ノ性質ハ、其性質ナキトキハ、其事物ノ現存ヲ知ルコト能ナザル者ニシテ、即チ人ニ於テ知覺ノ智慧、物ニ於テ長サ廣サ等ノ如キ者はナリ、偶有ノ性質ハ、事物ガ或ル一時ニ於テ有スル所ノ性質ニシテ、其他ノ時ニハ、之ヲ有セザル者ナリ、墻壁ノ白色ナルコト、人身ノ健全ナルコト等ノ如キ是ナリ、

○又同意義シノニト名辭アリ、是ハ同一ノ領會ヲ發言スルニ二様ノ言辭アルコトナリ、然レドモ通常ノ習慣ニ於テハ、此ノ如キ語ニ精密ノ區別ヲ立テズトイヘドモ、洛日克ニ於テハ、是ヲ意義ノ小種類ト為シテ區別ヲ立ルナリ、例ヘバハッピネストフェリシチイノ如キハ同意義ノ語ナリ、然レドモ言辭學ニ於テハ、其意義ヲ區別シテ之ヲ説クナリ、即チハッピネスノ語ハ己レノ快樂ヲ其好運ニ歸スルコトニシテ、フェリシチイハ単ニ快樂ノ状態ヲ言ヒタル者ナリ、

○不兩立ノ名辭インコムハ同シ題目ノ上ニ解釈トシテ兩辭ヲ並べ用ヒ難キ者ナリ、即チ熱ト冷、覺ト睡トノ如シ、正面ノ名辭ガチ其前ニ現セル事物ノ真ノ存在ヲ言フ所ノ語ナリ、其反對ヲ反面ネガチトイフ或ル事物

又ハ性質ノ存在ヲ拒否シ、又ハ其不在ヲ固言スル者ナリ、

○又失亡アブリト名クル名辭アリ、此語ハ屢々反面語ト混雜スル者ナリ、然レドモ二語ノ間ニハ要用ナル実ノ區別アリ、失亡語ハ其種類ノ一個物ニ缺失セル或ル性質色相ヲ言フ者ニシテ例ヘハ、唾ノ如キ痴呆ノ如キ是ナリ、其故ハ人タル者ハ通常言語ト智慧トノ賜與ヲ受ケ居ル者ナレバナリ、

反面語ハ之ニ異ニシテ、其題目ニ歸セザル所ノ分量又ハ性質ノ欠亡ヲ表スル者ナリ、

○名辭ハ其分量ニ從ヒテ幾多ノ種類ニ區別シ、以テ其數ト大小トヲ發言スルナリ、故ニ余儕ハ通常數ト順序トノ區別ヲ為セリ、即チ二十、一百、二、ノ如シ、又固定（ボシチー）（文法書ノ意義ニ依ル）、比較、超勝ノ言辭アリ、即チ、善良、ヨリ善シ、最モ善シ等ノ如シ、

○殊ニ洛日克ノ法ニ協フ所ノ區別ハ全稱語（オーストリヒ）ト分稱語（アンヂストリ）ト是ナリ、全稱語ハ領會セル事物ノ全体ヲ言フ者ニシテ分稱語ハ其一分ヲ稱スルノ語ナリ、此一分ハ通常不定ノ分ニシテ、或ル（サ）僅カ（ヒユ）種々（セ）等ノ語ヲ以テ發言スルナリ、總テノ人ハ全稱語ニシテ或ル人ハ分稱語ナリ、

### 第五篇

#### 名辭ト相管係セル洛日克ノ効用

#### （十六）抽象概括（アブストラクシオン、エン）

○認識（コグニ） 直覺（インチュ） 概括（コセツ） 認識ハ吾等ノ心ニ事物ノ感觸スルコトニシテ、即チ其事物ヲ知ルコトナリ、直覺ハ一個ノ事物、例ヘバ此家、官廳、約翰（ヨハ）、哈德遜河等ノ如キ一個ノ事物ヲ認識シ、即チ知ルコトナリ、吾心單一ニ一個物ノミニ向ヒテ注クトキハ直覺トナルナリ、是直覺トイヘル術語ノ用法ナリ、概念ハ種々ノ事物ヲ聚合シテ一個ト為シテ心ニ造ル所ノ念ナリ、例ヘバ川、人、家、ノ如キ是ナリ、此概念ハ抽象ト概括トノ作用ニ由リテ之ヲ造成スルコトヲ得ルナリ、

○抽象ハ或ル事物ノ性質ヲ見テ、其中ノ一二ヲ抽キ取り、其餘ヲ打棄タル者ナリ、故ニ吾儕薔薇ヲ見ルニ、其色ト香トノミニ注目シ、其餘ノ品性ハ一切棄テ顧ミズ、此ノ如クシテ抽象法ヲ行ヒ得ルナリ、吾儕今或ル花ニ就キテ其色ト香トヲ抽キ取り、他ノ花ニ於テモ亦此ノ如クナシ、許多ノ花ニ於テモ亦此如ク為ストキハ何レノ花ニ於テモ皆同様ノ物（色香）アルヲ發見ス、是ニ於テ是等ノ花ニ薔薇トイヘル共通ノ名ヲ與フ、此ノ如キトキハ即チ概括トナルナリ、抽象ハ總テ混（コンヒエニスト） 合ヨリ分（ヂスチンクト） 別ニ赴ク者ニシテ、即チ之ヲ區別シ、單一ニスルナリ、抽象ニハ正面反面ノ兩者アリ、即チ他ノ物ヲ反拒シテ、此一二ノミヲ採ルコトナリ、

○概括ハ許多ノ事物アルトキ、其間ノ差異ヲ注目セズ、唯或ル性質ノ同一ナル所ノミヲ注目シ、其同一ナル所ニ依リテ之ニ共通ノ名ヲ命ズルナリ、是ニ由リテ總體即チ一般ノ概念トイフ者ヲ得ルナリ、

○抽象ハ概括ノ働ヲ完成セザルモ之ヲ為スコトヲ得ベシ、然レドモ概括ハ抽象ナシニ之ヲ為スコト能ハズ、然レドモ普通ノ場合ニテハ、概括ヲ為サンガ為メニ抽象ヲ為スヲ常法トス、凡ソ物ノ共通（コムモン）ノ名目、即チ種類ノ名ヲ得ントスルニハ、抽象概括ノ二法ヲ用ヒサルベカラズ、總テ共通ノ名トイフ者ハ、或ハ高等或ハ下等ナル概括法ヲ行フヨリ生スル所ノ結果ナリ、故ニ下等ノ概括法ヲ行フトキハ、茶薔薇トイヘル通名ヲ得、較ト高キ概括法ヲ行フトキハ薔薇（ローズ）ノ名ヲ得、更ニ高キ法ヲ行フトキハ花（フワ）ノ名ヲ得、夫ヨリ一等高キ概括ヲ為ストキハ、植物（フタ）ノ名ヲ得ルガ

如キ是ナリ、然レドモ通名ヲ以テ種類ノ名トスルトキハ、更ニ之分ツテ目<sup>ス</sup>トシ綱<sup>ト</sup>ト為スベシ、又此目ヲ綱トニ属スル或ル物ヲ言フトキハ、又之ヲ特性<sup>チ</sup>固有<sup>エ</sup>ニ分ツベシ、或ル学士ハ名辞ノ本体ヲ領會スルガ為メニ名辞中ノ物体ヲ以テ常在<sup>エ</sup>ノ部又本質<sup>ス</sup>ト名ク、

○普通名辞ニテ称スル種類<sup>クラ</sup>トイフ語ハ、之ヲ内包<sup>イン</sup>外包<sup>エキ</sup>ニ分チテ領會スベシ、内包トハ(又包含<sup>コ</sup>ト名ク)其間ニ事物ノ小ナル種類ニシテ、更ニ多クノ種類ヲ有スル者ヲ包含シ、外包トハ事物ノ大ナル種類ニシテ、其下ニ些少ノ小差異ヲ有スル者ヲ包括ス、故ハ目ハ綱ヨリハ多クノ内包ヲ有シ、綱ハ目ヨリハ多クノ外色ヲ有スルナリ、

(十七) 目<sup>ス</sup> 綱<sup>ス</sup> 特性<sup>チ</sup>

○目ハ概括ニ由リテ得タル種類ニシテ、其内ニハ唯一個物、又ハ附属ノ種類ノミヲ包含スル者ニシテ、「其自身(目)ハ全ク綱ノ内ニ包含セラル」者ナリ、故ニ亞拉伯馬ハ馬ノ目ニシテ、馬ハ四足獸ノ目ナリ、而シテ四足獸ハ又動物ノ目ナリ、綱ハ夫ヨリ高等ノ概括ニ由リテ得タル種類ニシテ、其下ニ二個又ハ其以上ノ目ヲ包括セル者ナリ、故ニ動物ハ四足獸及ヒ二足獸ノ綱ニシテ、四足獸ハ馬、牛、鹿等ノ綱ナリ、而シテ二足獸ハ人ノ綱ナリ、

○或ル場合ニ於テハ、目反テ綱ヨリ多クノ意義ヲ包含スルコトアリ、例ヘハ今四足獸ハ綱ニシテ馬ハ目ナルトキ、馬ハ總テ四足獸ノ意義ヲ包括シ、

其上ニ又專ラ形状、大小、習慣等ノ如キ特ニ馬ニノミ属セル意義ヲモ包括スルナリ、此ノ如キ專ラ馬ニノミ属スル形状大小等ハ一般ノ四足獸ニハ属セザル者ナリ、

○是故ハ目ハ物ノ全体ヲ言ヒ、綱ハ物ノ全体中ノ一分ヲ言フ者ナリ、其一分トイフハ、材<sup>アマリアル(マテリアル)</sup> 質ノ部分ニシテ、同一ノ綱ノ下ニ立ツ目ニハ總テ同様ニ所有スル分ナリ、故ニマン<sup>ト</sup>トイフトキハ、此名ニ負ヘル動物ノ全体、即チ完全ナル本体ヲ言フ者ニシテ、アニマルト言フトキハ惟マ<sup>ン</sup>ノ材質ノ分ノミヲ指スコトトナル、此材質ハマン<sup>ヲ</sup>以テ動物ノ種類ノ内ニ入ルコトダケヲ以テ限リトシタル者ナリ、

○物ノ特性<sup>チ</sup>ハ其物ノ他物ニ特異ナル部分ニシテ、之ヲ以テ其特性ナキ者ト其種類ヲ區別スルナリ、而シテ若シ此特性ヲ以テ物ノ綱、即チ物ノ材質分トヲ結合スルトキハ、是ニ依リテ目、即チ全体ヲ造成スルナリ、故ニ人ハ目ニシテ、動物ハ綱ナルトキハ、賢<sup>ナ</sup>キハ特性ナリ、然ルトキハ人(目)ハ賢<sup>キ</sup>(特性)動物(綱)トイフコトニナルナリ、此例ニ由リテ見ルトキハ綱ハ幾多ノ目ヲ包含シアリトイヘドモ、目モ亦綱ト特性トヲ包含セルヲ以テ、其包括セル所ハ反テ綱ヨリ多シ、綱ノ如キハ唯材質ノ分、即チ其全体ニ通用スル分ヲ言フニ過ギザルナリ、綱ハ大ナル外包ヲ有ス、即チ多クノ種類ト多クノ一個物トヲ包括ス、目ハ許多ノ内包ヲ有ス、即チ特例ノ差異ノ外ニ綱ニテ發言セル部分ヲ包括セリ、

○特性ニハ三種ノ區別アリ、其一ハ綱ニ属スル者<sup>セ</sup> 例ヘハ人ト木トノ

間ノ差異ノ如シ、其二ハ目ニ属スル者<sup>スベク</sup>、例ヘハ馬ト牛トノ差異ノ如シ、其三ハ一個物ニ属スル者<sup>イテ</sup>例ヘハ兩詩人ノ排倫ト摩尔特ノ間ノ差異ノ如キ是ナリ、然レドモ此数者ハ上ノ綱ノ干係ヨリ言フトキハ、三者共ニ目ニ属セル差異ト称スベキナリ、

(十八) 固有<sup>プロバ</sup>偶有<sup>アクシ</sup>

○今綱ト目、及ヒ特性ノ間ノ差異ヲ、普通名辞ヲ以テ言フノ法ヲ述ベタル後、更ニ目ト相結合セル事ヲ説カントス、其事ハ之ヲ二様に分ツ、其一固有。一般ニ此体(目)ニ結合セル者ニシテ、其目中ノ各個物ニ属セル者ナリ、其二偶有ニシテ、唯偶然ニ目中ノ一個物又ハ数個物ニノミ結合シテ全目ト相結合セザル者ナリ、

○固有ハ又ハ之ヲ二様二分ツ、其一ハ一切<sup>ユニラ</sup>即チ目中ノ悉皆ノ一個物ニ属シテ、特別ニ或ル目ニ限ラザル者ナリ、例ヘハ呼吸ノ如シ、総テ人タル者ニ悉ク属スル事ナレドモ、又必シモ人トイヘル目ニ限レル者ニ非ズ、其二ハ一切及ヒ特別ノ者ニシテ、例ヘハ言語ノカノ如シ、此事ハ人トイヘル目ノ所有セル者ニシテ、又特別人ニ限レル者ナリ、或人ハ是ニ又第三ノ種類ヲ加フル者アリ、特別ニシテ一切ナラザル。性ヲイフ、例ヘハ詩ヲ作ル才能ノ如キ是ナリ、然レトモ此説ハ誤謬タルコトヲ免カレズ、何則此才能ハ一個人ニ限ル者ニシテ、目ニ属スル者ニ非ズ、故ニ固有ニ非ズシテ偶有性ノ者ナリ、

○其二偶有。偶然ニ目ニ結合スル者、或ハ其中ノ或ル一個物ニノミ属

スル者ナリ、偶有ニ二様アリ、一ハ分離スベキ者ニシテ、二ハ分離スベカラザル者ナリ、分離スベキ偶有ハ一個人トノ具体ナルコトヲ感スルトナク、又其人ニ付キニ一般ノ念ヲ変スルコトナクシテ分離スルコトヲ得ルノ状態ナリ、例ヘバ約翰ハ逍遙ス、或ハ休息ス、此例ニ於テ逍遙スルト休息スルトイヘル偶然ノ状態ハ一個人ノ必要ノ部分ニ非ズ、若シ此人此二個ノ行為ヲ為サズルトキハ此二個ノ状態ハ忽チ之ヲ分離スルコトヲ得ベキ者ナリ、

○分離スベカラザル偶有ハ一個人ヨリ分離スルコト能ハザル者ナリ、例ヘバ費拉特<sup>フイラルワイエ</sup>費ニ生レタリ、一千八百年ニ生レタリトイフガ如シ、分離スベカラザル偶有ハ其人ノ一代ノ記録トナル者ナリ、是ヲ言フニハ綿密ナランヨリハ恰当ナランコトニ注目スベシ、其故ハ一個人ノ生活上ニ現ハル、分離スベキ偶有モ、其誤謬ニ依リテ分離スベカラザル偶有トナレバナリ、故ニ若シ約翰ハ、或ル日都府ヲ逍遙セリ、又ハ疲労シタルニ由リテ其後休息シタリト言フトキハ、其人ノ一代ノ記録ヨリ除キ去ルコト能ハザルノ事実ニシテ、或ル土地、又ハ或ル時日ニ生レタリト言フ者ト異ナルコトナシ、然レドモ其事ノ要用ニ非ザルガ故ニ、是ヲ以テ其人ノ一代ノ記録ニ登載セザルナリ、

○上文ノ諸章ニ於テ綱<sup>セシエ</sup>目<sup>スベシ</sup>真<sup>エツセ</sup>体<sup>エツセ</sup>性<sup>エツセ</sup>固<sup>エツセ</sup>有<sup>エツセ</sup>偶<sup>エツセ</sup>有<sup>エツセ</sup>ノ意義ヲ解明シタルニ由リ、更ニ此解明ヲ明白適當ニセンガ為メ、是等ノ普通名辞ヲ聚合シテ一ノ文章ヲ作ル、学者之ヲ以テ模範ト為シ、更ニ自ラ幾多ノ

例ヲ作ルヲ宜シトスベシ、此文章ハ兼テ又概括ノ諸方ヲ聚合シテ一個ノ  
体ト為スコトヲ得ル者ナリ、

約翰(一個物)ハ人(目)ナリ呼吸スル(一切ニシテ特別ニ非サル  
固有)所ノ賢キ(特性)動物(綱)ハ言語ノ能力(一切ニシテ且ツ特  
別ナル固有)ヲ有シ、睡椅ノ上ニ居リ(分離スベキ偶有)而シテ費  
拉特費ニ生レタリ(分離スベカラザル偶有)

○綱、目、特性、固有、偶有ヲ現ハシタル各个ノ普通名辞ニ與ヘタル洛  
日克ノ名目ハ解釈ヲ為シ得ベキ者ナリ、即チ解釈ヲ為シ得ル所ノ或ル事  
実ナリ、

#### (十九) 綱及ヒ目ノ種々ノ階級

○最高級ノ綱サムモンハ衆物ノ最上種類ニシテ、此上ニ更ニ綱ヲ有スルコト  
ナシ、綱ト目ト同時ニ發言スル所ノ名辞ハ之ヲ從属サフアルノ綱及ビ目ト  
名ケ、例ヘバ四足獸トイヘル語ハ馬ノ綱ニシテ、動物ノ目ナリ、  
○最高級ヨリ漸々降下セル下等ノ綱ヲ從属ノ綱ト名ク、最下ノ目ヨリ  
漸々降下セル目ヲ從属ノ目ト名ク、

○綱ヲ以テ幾多ノ目ニ分ツトキハ其幾多ノ目ハ之ヲ同列ナル目コオルガ又均  
齊ナル目コトト名ケ、以テ此數目ハ互ニ從属スル者ニ非ザルコトヲ示ス、  
故ニ四足獸ヲ以テ馬、牛、獅、等ニ分ツトキハ、是ヲ馬科ウマ猫科ネコ洞角科ツノ  
ヲ表出スル者トシテ、之ヲ同列ノ目ト名ク、

○目ノ中ニテ、自身ノ下ニハ復、他ノ目ヲ有セズ、惟一個物ヲ表セルニ

過ギザル者ハ之ヲ最下目ヒマト名ク、然レドモ或ル学科上ノ考究ニ於テ、  
上下ノ界限ノ中ニ位スル者(真正ノ最高位最下位ニ非ザルモ)ハ、便利  
ニ從ヒテ、其界限ノ上方ニ在ル者ヲ最高綱ト名ケ、其下方ニ在ル者ヲ最  
下目ト名ケルコトアリ、或ル事ヲ考究スルトキニ、假リニAヲ以テ最高  
綱トシ、Cヲ以テ最下目トスルガ如シ、又普通ノ用法ニ近接綱アロキニユ  
遠距綱リモトトイフコトアリ、近接綱ハ己ノ上方ニ最モ近キ綱ニシテ、  
遠距綱トハ目ヨリ最遠キ綱ヲ言フナリ、故ニ四足獸ハ馬ノ近接綱ニシテ、  
動物ハ馬ノ遠距綱ナリ、近接綱ハ目ノ上ニ最モ近キ綱ナラザルベカラズ、  
遠距綱ハ遠ク離レタル綱ナレドモ、亦必シモ最高綱ヲ指スニ非ズ、最高  
綱ハ最モ遠ク離レタル綱ナレバナリ、

○綱目特性固有偶有ノ如キ普通(共通)名辞ハ何レモ相干係シテ之ヲ用  
フル者ナリ、是等ノ語ハ一ノ文章ニ於テ、此意義(綱目等)中ノ一個ヲ  
以テ之ヲ用フル者ナルガ故ニ、若シ他ノ場合ニ於テ之ヲ用フルトキハ、  
全ク他ノ意義(此文章ニテハ綱トナル者ヲ、他ノ文章ニテハ、目ト為ス  
ガ如キ)ニ之ヲ用フルモ妨ナキコトナリ、故ニ今赤トイフ語ヲ用フルト  
キハ、其場合ニ依リテ或ハ綱トシ、或ハ目トシテ之ヲ用フルコトアルベ  
シ、

○赤ハ綱ナリ、其下ニ薔薇色、猩紅、朱、ノ如キ幾許ノ目ヲ有セリ、又赤  
ハ色トイヘル綱ニ属スル目ナリ、白青黄等ト共ニ同列ノ目トナルナリ、  
赤ハ又赤薔薇ノ特性ナリ、赤薔薇ハ他ノ薔薇トハ區別アリ、赤ハ又血ノ

○固有ニシテ、家ノ偶有ナリ、但シ其家ヲ赤色ニ塗リタルトキハ、分離スベキ偶有トナリ、赤キ名ヲ以テ作りタルトキハ、分離スベカラザル偶有トナルナリ、故ニ文章ヲ分解スルトキニ於テ、能ク注意シ、其中ニ用ヒタル普通名辞ニ真正ノ價值ヲ立テザルベカラズ、

(二十) 実体論リアリ 名目論ノミナ

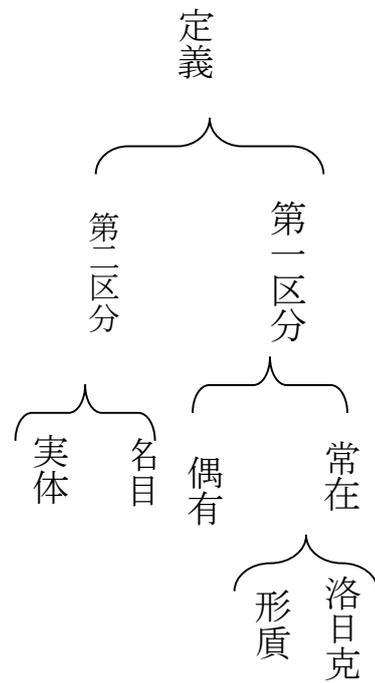
○普通名辞コモンナームノ題目ニ付キテ年久シキ争論アリ、一ヲ実体論ト云ヒ、一ヲ名目論ト云フ、此二者深ク神学及ヒ教法ノ政畧ト相淆雜スレドモ、元来ハ全ク普通名辞ノ意義ヨリ起リタル者ナリ、此争論ハ終ニハ歴史上ニ於テ著ルキ記載ヲ見ルニ至レリ、実体論者ハ謂フ、普通名辞ハ何レモ実ニ現在セル事物ナリ、綱モ目モ共ニ実ノ事物ナリト、名目論者ハ謂ヘラク、普通名辞ハ或ル無形ニシテ不定ナル念ヲ表出スル為ノ者ニシテ、其指ス所ノ一物ナレドモ、能ク衆物ニ貼用スルコトヲ得ベキ者ナリ、故ニ目トイヒ綱トイフモ、共ニ天地間ニ之ニ對称スル実物ナキ者ノ名ナリト、○争論ノ題目ハ此ノ如ク價值ナク見ユル者ナリ、然レドモ深ク之ヲ点檢スルトキ、其中ニ困難ト詭謀トノアルコトヲ知ルナリ、此争論ハ其決着セル効驗ヨリ考フルトキハ其効能ノ甚タ乏シキコトハ他ノ詭計アル争論ト異ナルコトナシ、然レドモ争論ヲ好メル希臘人殊ニ其甚シキスクールメンガ此論題ニ付キテ能ク人ヲ惑ハスニ足ルノ巧猾ナル説ヲ有セリ、然レドモ其説ノ價值ハ猶至テ低キ者ナリ、○余儕今学者ノ為メニ此問題ノ真正ノ性質ヲ述べ、更ニ左ノ解説ヲ以

テ此困難ヲ解カント欲ス、綱ト目トハ固ヨリ単ニ一般ノ想念ニシテ、心中ニノミ成立スル者ナリ、然レドモ此名辞ハ此ノ如キ想念ハ普通名辞ヲ以テ之ヲ表出スルナリ、然レドモ此名辞ハ其実ノ根據ヲ実ノ一個物ニ取り、此根據ヨリシテ其名辞ヲ得ルニ至ルナリ、

(二十一) 名辞ノ定義アフレヒニシヨ

○定義ハ專ラ洛日克ニ用フル言辞ノ義ヲ定ムルナリ、其方法ハ此名辞ヲ以テ或ル他ノ名辞ト區別シ得ルヲ以テ限リトスル者ナリ、○名辞ノ用法ノ區別ナキヨリ起ル所ノ誤謬、及ヒ人々其名辞ヲ種々ノ意味ニ用フル等ノ事實アルニ由リ、其反對ノ意義アル兩者ヲ結合シテ一ノ定義ノ中ニ帰セシムルコトハ甚タ大切ノコトナリ、○定義ハ通常合成ノ表言カテゴリカル、ノ形ヲ以テ之ヲ為ス者ナリ、其題目トナルハ、今定義ヲ立ントスル名辞ニシテ、其解釈ハ本来ノ定義ナリ、例ヘバ、「人ハ賢キ動物ナリ」トイヘルガ如キ、此全句ヲ以テ定義ト称スルナリ、然レドモ細密ニ言フトキハ、全句ヲ以テ定義トスルハ未タ当ラザル所アリ、今「人トイヘル者ノ意義ハ如何ン」ト問フ者アルトキハ「賢キ動物ナリ」ト答フベシ、此答語ノミ人トイヘル語ニ付キテノ真正ノ定義ト云フベシ、○定義ハ先ツ第一ニ之ヲ二種ニ分ツ一ヲ常在エッセンスト云ヒ、二ヲ偶有アクシデントト云フ、常在ノ定義ハ又之ヲ分ツテ形質フォルムト洛日克ロジックト二者ニ分ツベシ、定義ノ第二ノ区分ハ名目ノミナト実体リアト是ナリ、此區別ノ義ヲ解説スルノ

前ニ於テ、通考ニ便センガ為メニ先ツ表様ヲ作りテ之ヲ学者ニ示スベシ、



○常在ノ定義ハ今定義ヲ立テントスル事物ニ常在セル部分ヲ示ス語ニ付  
 キテ定ムル所ナリ、故ニ汽船トイフ語ハ、船身、機関、輪屋、烟筒等ヲ以  
 テ成ル所ノ物ナリ、又蒸氣ノ力ヲ以テ水上ヲ駛行スル船ナリト意義ヲ定  
 ムベシ、此二様ノ定義ハ其間ヲ登スル人ノ品性ト其知ラント欲スル事柄  
 トニ從ヒテ何レニカ適合スルコトヲ得ベシ、然レドモ何レモ名辞ノ指定  
 セル物体(船)ニ常在セル部分ニ依リテ其定義ヲ立テタルニ非ザルハナ  
 シ、又此常在ノ部分ハ互ニ差異アル二様ノ種類アリト云フコトヲ注目セ  
 サルベカラス、即チ其一ハ形質部ニシテ其二ハ洛日加部ナリ、形質部ハ  
 実ニ手ヲ以テ之ヲ分解スルコトヲ得ベキ部ニシテ、洛日加部ハ、唯心ノ  
 ミヲ以テ分解シ得ベキ部ナリ、又船ニ付キテ形質部ノ常在定義ヲ立ンニ、  
 「船身、船具、檣等ヨリ成ル所ノ物」ト云フベクシテ、是等ハ皆形質上  
 ニ於テ分解スベキ部分ナリ、又洛日加部ノ常在定義ヲ立ンニハ、之ヲ綱

目特性ニ分タザルベカラズ、即チ其綱ハ航海具ニシテ、其特性ハ、特別  
 ノ建造ナリ、其特別ノ建造ヲ聚合スルトキハ、船トイヘル目トナルナリ、  
 船(目)ハ航海具(綱)ニシテ、特別ノ建造(特性)アリ、

○故ニ洛日加部ノ常在定義ハ何レノ場合ニ於テモ綱ト特性トヨリ成ルコ  
 トナリ、洛日克ハ全ク洛日加部ノ定義ノミニ干係スル者ナレドモ、又洛  
 日加部ノ定義ノ區別ヲ知ランガ為メニ、他部ヲモ考驗セザルベカラズ、  
 又時トシテ形質部ノ定義ト洛日加部ノ定義ト相符合スルコトアレドモ、  
 是ハ至テ罕ナルコトナリ、

○偶有ノ定義アタシテセントアル即チ記誌テスクリハ其目的タル物ニ属スル景況ヲ表出  
 スル者ニシテ、即チ其物ノ固有プロバ偶然デラシト是ナリ、此定義ハ動物又ハ  
 物体ヲ記載スルニ、其材質部マテリア(即チ綱)ヨリハ審カニ之ヲ記スルコ  
 ト得ル者ナリ、又其目的トナル物ノ特性ニシテ、是ニ由リテ、其同列ノ  
 目ヨリ此目ヲ區別スルコトヲ得ル者ナリ、

○上文ニ記シタル所ニ由リテ左ノ事ヲ知ルベシ、吾儕事物ノ目ヲ記載セ  
 ントスルニ方リ、其一物物ノミニ固着セル偶然オカシヲ以テ固有トシテ之ヲ用  
 フルコトヲ得、別ニ其全目ノ每個物ニ通有スル固有アレトモ、是ハ全ク  
 注目セザルナリ、此外ニ又一般ノ固有ト特別ノ固有トヲ用フルコトアリ、  
 其故ハ此二者ハ目中ノ各一個物ニ属シ、是ヲ以テ其物ノ品性ヲ看出ス者  
 ニシテ、若シ此固有ナキトキハ、其一個物ヲモ認ムルコト能ハザルナリ、  
 然レドモ若シ一般ノ固有ノミヲ用ヒテ、特別ノ固有ヲ用ヒザルトキハ、

惟其目ニ共通スル所ノ品性ヲ標識スルノミニシテ、其中ノ一个物ヲ定示スルコト能ハズ、故ニ若シ人ヲ以テ、只生活シテ呼吸スル者ナリト記載スルトキハ、其人ヲ定ムルコト能ハズ、故ニ人名傳ノ如キ一個人ノ事ヲ記載セントスルニハ、分離スベキ偶有ノ定義ヲ用ヒザルベカラズ、其定義ハ其人ニ固着セル部分ニ非ズ、又必須ナル部分ニ非サレドモ、其人ヲ記載スルニ方リテハ、其人ノ為メニ固着シテ其必須ニシテ分離スヘカラザルノ偶有トナルナリ、例ヘバ、「維廉ハ諾滿的ノ丟克ニシテ、一千零六十六年、英國ヲ截取セリ」ト云フコトハ、諾滿的ノ丟克及ヒ英國ヲ截取セルトイヘル、分離スベカラザル偶有ヲ以テ之ヲ記載スルナリ、

(二十二) 名目及ヒ実体ノ定義ミネル、エンド、リヤル、デフヒニーション

○吾儕今定義ノ第二ノ区分、即チ名目ト実体トノ定義ヲ説クベシ、名目ノ定義ハ事物ノ名トシテ用ヒタル名辞ノ意義ヲ示ス者ナリ、簡單ニ之ヲ言ヘバ、名目ヲ定ムルコトナリ、故ニ「千里鏡ハ遠距ノ物体ヲ見ル器械ナリ」、「撮影術ハ太陽ノ光ニ依リ、感シ易キ板上ニ印セル画ナリ」、「デカロギイハ天ノ訓誠ヲ記シタル卓ナリ、」

○実体ノ定義ハ事物ノ自身ヲ分解シ解説スルコトニシテ、事物ノ名目ヲ分解シ解説スル者ニ非ズ、故ニ千里鏡ノ実体ノ定義ハ其製作、其力勢、及ヒ此器具ノ用法ヲ解説スルコトニシテ、デカロギイノ実体ノ定義ハ惟其訓誠ノ語ヲ誦スルノミナリ、

○学科サイエンスノ研究ニ於テハ、其目的ハ実体ノ定義ヲ得ルニ在リ、而シテ其

定義ノ満足完全ナルホド其研究ノ價值ハ高大トナルナリ、然レドモ洛日克ノ如キハ只事物ノ名目ヲ以テ之ヲ為シ、題目ノ実物ヲ以テ之ヲ為サ、ル者ナレバ、獨リ名目ノ定義ノミヲ以テ実体ノ定義ヲ用フルコトナシ、實ニ一般ノ事理ヲ通考スルニ、名目ノ定義ノミニテ、反抗ノ意見ヲ鎮定スル為メニ十分ナルコトナリ、其故ハ其論題ハ一個物又ハ一種類ノ指示スル所ノ名目ニ在ルコトニシテ、定義ハ直チニ其名目ヲ解説スル者ナレバナリ、

(二十三) 定義ニ付キテノ規則

○洛日克家ハ定義ニ付キテノ規則ヲ定メテ三條ト為シ、若シ定義ヲ為サントスルトキハ、是ニ依リテ公正適當ノ定義ヲ得ンコトヲ欲スルナリ、○其一 定義トイフ者ハ總テ其物ノ名ヨリハ更ニ明白ナル念ヲ心ニ得シメザルベカラズ、或ハ是ニ由リテ其本来ノ名ハ、不用トナルニ至ラシムルヲ肝要トス、定義ノ明白ナルハ、之ニ反面ノ属性ヲ加フルトキハ、全ク反対トナルナリ、故ニ人トイフ語ヲ定メテ四足獸ニ非ズト言フトキハ、未タ此意義ヲ満足スルニ足ラザルナリ、

○學術上ニ於テハ、多く通常ノ語ヲ以テ學術ノ語ヲ解釈シ、以テ知識ナキ人ノ為ニ便スルナリ、然レドモ衆人ノ皆知レル牛トイヘル語ノ定義ヲ属スニ牛ハ再嚙リエミノ四足獸クワトトリナリト言フトキハ、此規則ヲ破ルコトナルナリ、學術ノ辭書ニハ、尋常ノ語法ニテハ許多ノ言語ヲ費セル者ヲ一言ニテ之ヲ了スル者アリ、更ニ此規則ニ伴行スル所ノ精密ナル注意アリ、

定義ノ性質ハ我對話スル所ノ題目、及ヒ其人ニ從ハザルベカラズト云フコト是ナリ、

○其二 定義ヲ須ク恰當アトクナラザルベカラズ、即チ今定義ヲ立ルニ必要ナル事物ノ外ハ之ヲ包含スベカラズ、又定義ヲ立ルニ必要ナル鮮積ヲ排除スベカラザルナリ、故ニ余、鳥トイフ語ノ定義ヲ立テ、「翼ヲ以テ大氣中ニ飛フ所ノ動物」トイフトキハ、此定義ハ廣キニ過ギタル者トイフベシ、此ノ如ク言フトキハ、鳥ノ外ノ動物、蝙蝠、飛魚等ノ如キモ、此内ニ包含スレバナリ、又「翼アリテ能ク歌フ所ノ動物」ナリト定義ヲ立ツルトキハ狭キニ過グルノ病アリ、鳥ノ中ニモ歌ハザル者アレバナリ、

○其三 第三ノ規則ハ、此如キ規則ヨリハ寧ロ他ノ二事ヨリ生レタル注意是ナリ、即チ定義ニ用フル所ノ語ハ、其事物ヲ定ムル為メニ完全ニシテ且ツ適當ナル種類ノ語ヲ用ヒザルヘカラザルコトナリ、

○余儕モシ過剰ノ言語ヲ用フル時ハ、其意義ヲ混淆シ贅言オラスキニノ病ヲ犯スコトトナル、若シ又過少ノ言語ヲ用フルトキハ、曖昧オリチイノ病ヲ犯スコトトナルナリ、故ニ今「四角ハ平等ナル側面ヲ有スル四个側面ノ形ナリ」トイフトキハ、真理ニハ協ヘドモ、定義ハ不完全ナリ、此ノ如ク定義ヲ立ツルトキハ、平等ナル側面ヲ有シテ正角ナラザル所ノ他ノ平行方形パラレログラムヲモ此内ニ包括スレバナリ、又平行方形ハ四个ノ側面ヲ有スル形ニシテ、其反対セル側面ハ平等ニシテ且ツ平行セリ」ト言フトキハ、此定義ハ過剰ノ言語ヲ用ヒタル者ニシテ、側面ノ平等ヲ言フトキハ、已ニ其

中ニ平行方形ヲ包括スルナリ、

○第一ノ場合ニ於テハ、四角ノ定義ニ於テ、總テノ他ノ形体ヲ排除セザルヲ以テ此誤ヲ生セリ、第二ニ於テハ、凡テ四个ノ側面ヲ有セル形体ニシテ、其反対ノ側面ハ平等ナルモ、平行ナラザル所ノ物ヲモ之ヲ許容スルヲ以テ此誤ヲ致シ、ナリ、贅言ノ病ハ通常ハ循環定義アラヒニシクイヲ用フルヲ多シトス、循環定義トハ、定義ニ於テ已ニ定マリタル語ヲ用フルコトナリ、「権理ハ或ハ之ヲ為シ或ハ之ヲ為サムル所ノ人類ノ力ナリ」「法律ハ正當ナル命令ナリ、」「悪ハ善ニ非ザルノコトナリ、」

○爰ニ記スル所ノ例ハ、通常誤謬ノ定義トシテ引用スル所ノ者ニ比スレバ寬闊ニシテ且明白ナルガ如ク見ユルナリ、然レドモ此例ハ誤謬ヲ見ルニ最モ分明ニシテ又規避スベキ危難ノ性質ヲ知ラシムル為メニ殊ニ適當ノ者ナリ、

○余儕若シ定義ヲ用フル必要ヲ見ルトキハ、是ニ付テ又尋常說話ニ用フル所ノ定義ニ、或ハ不精ニシテ胡乱ナル者アルヲ見タリ、其語ハ流行ニ從ヒテ、其意義ヲ牽強シテ用フル者ヲ多シトス、余儕此ノ如キ者ヲ總稱シテ言語上ノ虛偽ワラビトイフ、余儕ハ今之ニ付キテ精密ナル定義ノ價値アルコトヲ説カントス、因テネセツシチイトネセツサリイトイヘル二語ヲ引キテ其例ト為スベシ、此二語ヲ用フル者、其上帝ヲ信ズルト、信ゼザルトニ由リテ、或ハ之ヲ以テ變化ナキ上帝ノ法則ニ協合セルノ義トシ、或ハ運命ニ関セル盲目ノ命令ニ從フ義トセリ、政治学ノ意味ニ於テハ、

ネセツサリイトイヘル状詞ヲ以テ比較ノ階級ニ用フベキ者トシ、合衆國ノ国立銀行ノ利益ヲ論ズルニ、豫メ國憲ノ同意ヲ得ルノ必須ナルコトヲ言ヒ、其必須ヲ三様ニ分チ、甚タ必須ベリ、ネセツサリ勝レテ必須アフリユート、ネセツサリ不可無ノ必須インジステンサ、ネセツサリトセリ、又教法ニ於テ或ル者ネセツサリ之ヲ救拯スルニ普通ニ必須セネリ、ネセツサリニシテ或ル者ハ之ヲ救極スルニ勝レテ必須アフリユート、ネセツサリトイヘリ、必須トイヘル語ハ本ヨリ勝レテノ義ニ用フル者ニシテ、其他ニ此ノ如キ者ナキヲ標スルコトナレバ、固ヨリ比較スベキ者アルコトナシ、然ルニ上文ノ如キ用法ヲ為ストキハ、已ニ此述語ノ本意ヲ失ヘリ、若シ余儕不定ニシテ誤謬多キ例ヲ集メテ明白ナル定義ヲ立ントセバ、奇怪ナル法国革命乱ノ軍閥ニ用ヒタル自由リベル、イコ、ラテ平等リチ、イ、ニチ友愛ニチ、イ、ニチノ語ヲ用フルヲ宜シトス、是等ノ語ニ付キテハ何人モ決シテ他ノ想念ヲ有スルコトナク、明白ナル定義トスルニ堪フベキ者ナレバナリ、

○適當ナル定義ノ至テ大切ナルコトハ、上ニ言フガ如クナレバ、余儕ハ其定義ニ付キテ反対ノ定義ヲ立ルコトナク、又空漠ニシテ不定ナル意見ヲ發言スルコトナク、其言論ノ間、常ニ其定義ニ一致セル意味ヲ用ヒザルベカラザルナリ、

(二十四) 區分ヂビシ

○凡ソ種類ヲ示ス所ノ普通名辭ヲ以テ幾多ノ部分、即チ意義ニ区分スルトイフハ、至テ大切ノコトナリ、一個物ハ、其名ヲ以テ知ルベキガ如ク、洛日加ノ区分ニ適當セザル者ナリ、普通名辭ハ要スルニ目ト綱トニ過ギ

ズ、(一般ノ語ニテハ種類ト称ス) 是其区分スベキ所ナリ、

○区分法ハ之ヲ二様ニ分ツベシ、一ヲ形質トイヒ、二ヲ洛日加トイフ、或ル學士ハ之ニ數ノ区分ニューメ、トリカルヲ加ヘタレドモ適當ニ非ズ、

○形質ノ区分ハ又之ヲ分割ハルシト名ク、万物ヲ其組立タル形質ニ從ヒテ之ヲ分ツ者ナリ、一個物ハ固ヨリ形質ノ区分ニ適當セル者ナリ、故ニ一ノ樹木、例ヘハ橡ノ如キハ是ヲ幹、枝、二分ツベシ、此二者ハ又皮、心、葉等ニ細分スベシ、又一個人、例ヘハ約翰ノ如キハ、形質上ヨリ之ヲ頭、腕、胴、脚等二分ツベシ、此種ノ区分法ニテハ洛日克ハ何事ヲモ為スコト能ハズ、

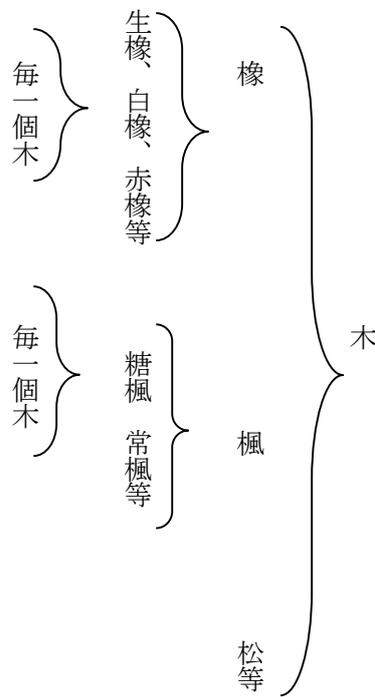
○洛日加ノ区分ハ唯心中ニ於テノミ之ヲ為シ、獨リ種類ニ關シテ之ヲ用フ、即チ綱ヲ分チテ幾多ノ目ト為シ、目ヲ分チテ幾多ノ一個物トスル者ニシテ、正シキ順序ニ於テ最高綱サムモン、サムニスヨリ起リテ最下目インシマニ至ル者ナリ、故ニ木トイヘル綱ハ洛日加ノ法ニテハ、橡、楓、ヘムロック、松、杉、榆、等二分ツベシ、其橡トイヘル目ハ、赤橡、白橡生橡、賤橡等二分ツベシ、而シテ此諸種ノ橡ハ又一個人ノ橡木ニ細分スベシ、

○適當ナル区分法ニ於テハ、其分子レシス(目ヲ表セル)ハ綱ヲ為ス所ノ全体ヨリハ少ナルベク、其分子ノ一個(一個物ヲ表スル)ハ目ヲ作ル所ノ全体ヨリ少ナルベシ、而シテ此区分ノ正當ナルコトヲ証定センニハ、分子(目)ノ或ル物ニ付キ、其最高綱ヲ表出スルニ適セシメザルベカラズ、例ヘハ今木ヲ以テ最高綱トスルトキハ、橡木、生橡或ハ生橡ノ一個ヲ表

出スルコトヲ得シメサルベカラズ、

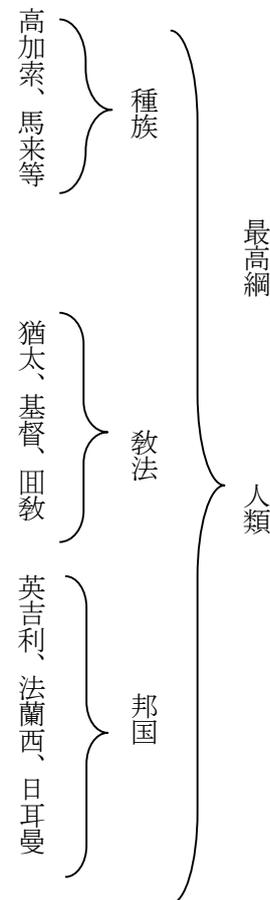
○同一ノ名辞ニテモ、洛日克上ニテハ、人種教法等ニ從ヒテ之ヲ分タザルベカラズ、即チ人種ニ於テハ高加索人、馬來人<sup>マレー</sup>杯ニ分ツベク、教法ニテハ儒教宗人、猶太宗人、回教宗人、基督宗人等ニ分ツベク、邦国ニテハ亞米利加人、英吉利人、仏蘭西人等ニ分ツベシ、此ノ如キ縦横ノ区分<sup>クロツス</sup>ハ、互ニ之ヲ錯雜スベカラズ、例ヘハ人類ヲ以テ高加索人回教人亞米利加人等ニ分ツハ虚偽ニテ且ツ無益ノ區分法ナレバナリ、

○區分法ノ原理ヲ左ノ表様(樹木ヲ反轉シテ示ス)ニ由リテ之ヲ示スベシ、此表様ハ明白均齊ニシテ自恣ナルコトナク、以テ能ク区分ノ諸部分ヲ整頓スルコトヲ得ベキ者ナリ、



○區分法ニ於テ、從ヒテアツコル<sup>グツ</sup>トイフ助詞ノ熟語ヲ用フルコトハ、誤謬ヲ避クルノ單一ナル手段ナリ、故ニ人類ハ是ヲ種族、教法、邦国等

ノ中ニ<sup>ツイン</sup>區分スベカラズ、唯之ニ從ヒテ區分スベシ、



○同列ノ目ハ最高綱ニ對シテハ何レモ同一ノ線ニ立タサルヘカラズ、即チ彼ト同一ノ干係ノ地位ニ立タザルベカラズ、又從屬ノ綱<sup>サブツル</sup>トイフ者ハ之ヲ廢スベキ者ニ非ズ、此綱ハ必ス其干係ノ地位ニ之ヲ置カザルベカラズ、今木トイヘル語ノ区分ニ橡ヲ出ストキハ、適當ナリトイヘドモ、若シ木トイヘル綱ヨリ直チニ糖楓トイヘル目ヲ出ストキハ、此間ニ於テ橡ト同列ナル楓ヲ脱スルヲ以テ、不都合ノ区分ヲ為シタルコトナルナリ、即チ或ル同列ノ目ヲ以テ或ル從屬ノ目ト同一ノ地位ニ置キタルナリ、他語ヲ以テ言フトキハ、綱ト目ト一個物トノ差異ハ、各正當ナル整頓法ニ從ヒテ之ヲ定メザルベカラズ、其要ヲ摘ンテ之ヲ言フトキハ、

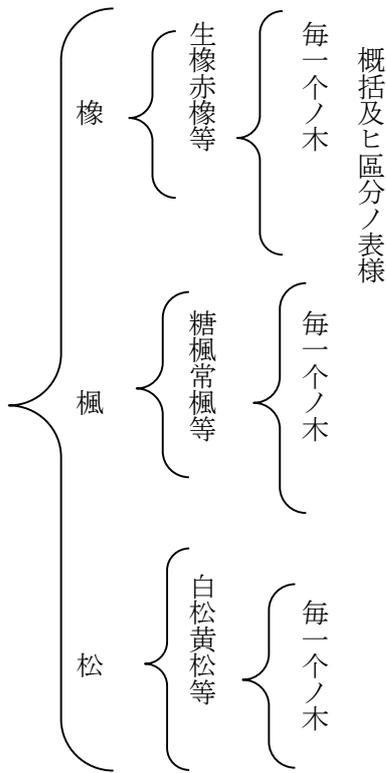
第一 凡ソ目ハ綱ヲ構成スル者ニシテ、目ト目トハ互ニ相排除セザルベカラズ、

第二 總テノ目ヲ總括シタルトキハ、其目ヲ分テル綱ト同一ニ歸セザルベカラズ、

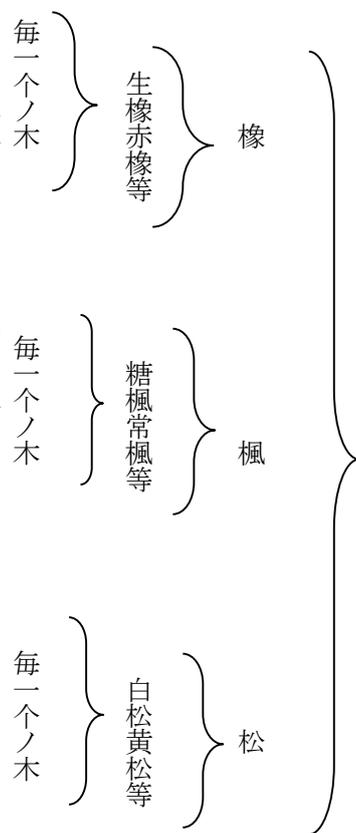
第三 区分法ハ一个ノ單純ナル原理ニ從ヒテ之ヲ為サザルベカラズ、  
 以上言フ所ニ依レバ、区分法ト概括法トハ全ク反対ノ状態ヲ為スベキ者  
 ナリ、

○概括法ハ許多ノ一个物ノ間ノ差異、及ヒ許多ノ目ト目トノ間ノ差異ハ  
 之ヲ注目スルコトナク、惟彼等ガ共通シテ所有スル所ノ性質ヲ注目シ、  
 (此共通ノ性質ハ綱ト目トヲ造ル者ナリ) 其物ニ共通ノ名ヲ與フルナリ、  
 区分法ハ前ノ概括法ニ依リテ得タル綱ヲ注目シ、概括法ニテ排除シタル  
 種々ノ差異ヲ以テ之ニ加ヘ、其差異ハ之ヲ種々ノ分子トシテ之ニ別々ノ  
 名ヲ命スルナリ、

○概括ト区分トハ全ク反轉ノ状ヲ為ス者ナレバ、今一ノ表様、即チ重複  
 セル樹木ノ一例ヲ出シテ之ヲ示スベシ、此例ニ由リテ見ルトキハ、一个  
 物ノ木ヲ概括シテ樹木トイヘル綱ヲ作り、樹木灌木及ヒ其他ノ草木ヲ概  
 括シテ植物トイヘル最高綱ヲ作ルコトヲ得ベシ、



樹木



○所謂数学上ノ区分、即チ数ニ付キテノ区分トイフ者ハ、惟形質上ノ姿  
 態タルニ過ギズ、故ニ余ハ麵包ヲ以テ薄片ニ分チ、平果ヲ以テ片ニ分  
 ツコトヲ得、但シ其片ノ平等、又ハ相互ノ大小ニ或ハ干係シ、或ハ干係  
 スルコトナシ、若シ是ニ付キテ平等又ハ干係ニ注目スルトキハ、之ヲ数  
 ニ付キテノ区分トイフ、然レドモ是ハ惟形質上ノ区分ニシテ、例ヘバ半  
 分、三分ノ一、十倍トイフ類ノ如キ者ナリ、

○区分ト定義トイヘル二個ノ題目ヲ比較スルトキハ、区分ハ總テノ後ニ  
 在リテ、定義ノ為メニ、順序ノ整ヒタル種類ヲ為スナリ、其故ハ今樹木  
 ノ意味ヲ解説セントスルニハ、目前ニ於テ洛日加法ノ区分ヲ為シ、以テ  
 總テノ目ヨリ下リテ一个ノ樹木ト為スノ外ニ良善ノ方法アラザレバナリ、  
 ○洛日克ノ名辭ノ区分法ハ是ヲ用フル学科ノ種類ニ從ヒテ其種類ヲ異ニ  
 スル者ナリ、故ニ人種學士ハ人類ノ種族ヲ以テ分チ、神學士ハ教法ヲ以

テ分チ、政治學士ハ邦國ヲ以テ分テリ、此ノ如ク其区分法ハ異ナルモ其原理ハ皆同一ナリ、但シ前ニ言ヒタル縦横区分法ハ全ク之ト其原理ヲ異ニセル者ナリ、

(二十六) (二十五) 簡畧ナル再説

○今此名辭ノ篇ニ於テ既ニ述ベタルコト、及ヒ之ニ管セル諸種ノ活用ノコトヲ再ヒ簡畧ニ之ヲ説カント欲ス、

第一 名辭ハ心ニ領會セル事物ヲ發言スル為メノ者ナルコト、及ヒ正シキ区分法ニ由リテ、名辭ノ幾多ノ種類ヲ解説スルコト、

第二 普通名辭ハ抽象ト概括トノ作用ニ依リテ之ヲ得ベキコト

第三 綱目特性等ノ間ノ區別・

第四 名辭ノ定義及ヒ定義ヲ為スニ付キ正当ナル規則

第五 形質及ヒ洛日加ノ差異ヲ有セル名辭ノ区分、及ヒ洛日加ノ

區分ノ特別ノ注意

○此次ノ篇ニ於テハ名辭ヲ合セテ表言ヲ作ルノ事ヲ論ゼントス、即チ二個ノ名辭ノ知識ヨリシテ、之ニ付キテ同意不同意ヲ固言セントスルコトナリ、

谷蔽氏洛日克入門第二冊

第六篇

(廿六) 表言フログシ  
シヨンス

○表言ハ「言語ニ發セル判断ノ行為」ニシテ、三部ヲ以テ成ル、一ハ題目サセクト二ハ解釋レテクト三ハ連辭ラナリナリ、題目ト解釋トヲ表言ノ名辭タイ又兩端ト名クルナリ、

○題目ハ、最初ニ在ルヲ以テ適當ノ位置トス、即チ解釋ヲ要スル(或ハ肯定シ或ハ否定スル)或ル事物ヲ指ス言辭ナリ、解釋ハ其事物ヲ、或ハ肯定シ、或ハ否定スル所ノ言辭ナリ、

○連辭ハ正格ノ表言ニ於テハ、題目ト解釋トノ協意不協意ノ發言ヲ結合スル言辭ニシテ、常ニ to be トイヘル活詞ヲ用フルナリ、モシ連辭ニ肯定ノ語ヲ用フルトキハ協意ヲ發言シ、否定ノ語ヲ用フルトキハ、不協意ヲ發言スルコトトナルナリ、

題 連 解 題 連 解

A is B = (Caesar) is (a tyrant) .

題 連 解 題 連 解

A (is not) B = (Caesar) (is not) (a tyrant) .

否定ノ小詞 (not) ハ、連辭ノ一分ナリトイフコトヲ知ラザルベカラズ、○凡ソ尋常ノ語法ニテハ單一ノ表言ノ如ク見ユル者モ、單一ナル洛日克

西村茂樹 譯稿

ノ形態ヲ以テ發言スルトキハ其語ヲ轉倒シ、又ハ省畧ノ語ヲ用フルコトナリ、故ニ I hope to see you, I desire to remain. ト云フトキハ其題目ハ常ニ最後ニ在リ、然ルニ其真ノ意義ハ左ノ如シ、

題 連 解

(To see you) is (the thing what I hope, or my hope) .

○又轉倒ノ一例トシテ、トイヘル中性ノ代名詞ヲ用フルノ格ヲ示スベシ、尋常ノ語法ニテ It is true that I think so. 真正ノ洛日克ノ形態ハ左ノ如クナラザルベカラズ、

題 連 解

(That I think so) is (a true thing) .

○学士中ニハ、否定ノ判断トイフ者ハアルコトナシト言ヒ、依テ連辭ニ附屬セル拒否ノ文字ヲ以テ非ナリトスル者多シ、謂ヘラク John is not happy. (否定ノ表言)ハ John is unhappy (此ノ如クスレバ肯定トナル)ト同一ノ意義ヲ表スル者ニシテ、惟其拒否ノ語ヲ以テ連辭ヨリ解釈ニ移シタルマデノコトナリト、然レドモ此ノ如ク為シタレバトテ、是ヲ以テ全ク否定法ヲ消滅シタリトイフニハ非ズ、而シテ此ノ如キ場合ハ判断上ニ甚多キ事ナレバナリ、肯定ノ言辭ハ常ニ界限アリテ且ツ明白ナリ、否定ノ言辭ハ界限ナクシテ且ツ否定ナリ、故ニ man ト言ヘバ把持シ得ベキ言辭語ナレドモ、not man ト云フトキハ、凡ソ天地間ニ於テ人類ニ非ル者ハ悉ク之ヲ包括スルノ語トナルナリ、

コレユラ

○連辭 連辭ハ通常 to be ナル活辭ノ指示法ノ現在ヲ用ヒ、過去ト未來トハ共ニ之ヲ用ヒズ、故ニ Caesar was the conqueror of Gaul, ト言フハ、 Caesar is the historic personage the conquered Gaul, ト同シ價値ヲ有スルナリ、又 I shall be glad to see you, ト言フハ I am the person who will be glad to see you, ト言フニ同シ、然レドモモシ現在時ノ不要ナルコトヲ見出ストキハ、他ノ時ヲ以テ發言スルコトアリ、然ルトキハ連辭ト解釈ト共ニ一言ヲ以テ之ヲ言フコト多シ、例ヘハ The sun shines トイヘル表言ニ於テ shines トイフ語ハ之ヲ分ツテ is shining ト為スコトヲ得ベシ、然ルトキハ是ハ連辭ニシテ shining ハ解釈ナリ、又拉丁希臘ノ語ニ於テハ、一語ヲ以テ表語ヲ作ルコトアリ、例ヘバ amo, (I love or I am loving) エロベト e, (I am striking) ノ如シ、然レドモ普通ノ法則ニテ、表言ハ題目解釈連辭ノ三部ヲ以テ發言スルヲ以テ常トセリ、

○然レドモ表言ヲ以テ題目等ノ三部ヨリ成レル一句ナリト言フコトハ、全ク形体上ノ定義ニシテ、此学ノ趣意ノ完全ナル者ニ非ズ、洛日加ノ定義ヲ以テ言フトキハ、「表言ハ或ハ肯定シ或ハ否定スルノ句」ナリト云フベシ、而シテ表言ハ目、句ハ綱ニシテ、或ハ肯定シ或ハ否定ストイフコトハ特性、即チ此句ト彼句トノ差異ヲ確言シタル者ナリ、表言トイフ語ハ、言語論ヨリ言フトキハ、此ノ如キ嚴密ノ意義ヲ有セズ、惟寬ニ句ノ諸類ヲ言ヒタル者ナリ、然レドモ洛日克ニ於テハ、上ニ言ヘルカ如キ

定義ノ界限ヲ立テザルベカラザルナリ、是ニ由リテ吾儕ハ謂フ、合成正格ナル表言ハ其文法ノ意味ニ於テハ、指示インディケイティブ、イムプレト法ヲ包括ス、其故ハ特別ナル肯定及ヒ否定ハ、唯此法(指示法)ノミヲ以テ發言シ得レバナリ、故ニ命令法、接続法、不定法ノ如キハ皆之ヲ用ヒザルナリ、

○余儕此法(指示法)ヲ更ニ細密ニ考フルトキハ、此法中ニ包括セル疑問ノ形イタ、ロイ、テイフ、ホムハ之ヲ除去セザルベカラズ、其故ハ疑問ノ形ヲ用フルトキハ、表言中ノ一分ヲ缺失シ、之ヲ補フニ應答ノ語ヲ以テセザルヘカラザレバナリ、單一ナル疑問ノ形ハ左ノ如シ、

Is A B? = Is man mortal ?

是ニ付キテ、モシ其応答肯定ナルトキハ、ゴトイヘル連辭ヲ用フルヲ通法トス、此連辭ハ上ノ疑問形ニハ缺タル者ナリ、然ルトキハ左ノ如ク書スベシ、

A is B=Man is mortal.

此他疑問ニハ更ニ左ノ諸形アリ、What is A ? What is B?ノ如シ、是ニ応答スルハ、解釋ト題目トヲ用ヒテ之ヲ補充スベシ、又接続法インフニッチヤ、ブ、ムニ於テ、左ノ形姿ヲ取ラサルベカラズ、此法ハ之ヲ擬定法ヒボテト名ケ、ロホーシジョンノ種類ニ属スル者ナリ、

If A is B, C is D.

尋常ノ場合ニテハ、擬定法ハ接続法ヨリモ指示法ヲ用フルヲ多シトス、  
If A is B, C is Dト言フヨリハ、寧ロ

If A be B, C will be D.ト言フ者多シ、

○不定法ニハ種々ノ形姿アリ、故ニ to ride is pleasantノ表言ハ、riding is pleasant, horseback exercise is pleasant 等ノ形ヲ以テ之ヲ發言スルコトヲ得ベシ、此不定法ハ活詞ノ形体ナレドモ、名詞ノ價值ヲ有スル者ナリ、

(廿七) 表言ヲ以テ單一ト聚合ト二分ツ

○吾儕今表言ノ形体ニ付テ考フルトキハ、表言ハ其形体ニ從ヒテ單一ト聚合トノ二種二分ツベキコトヲ知ルナリ、

○單一ノ表言ハ唯一個ノ題目ト解釈トノミアリテ is 又ハ is not トイヘル連辭ヲ以テ結合スル者ナリ、單一ノ表言ハ又合式カケゴノ表言リカト名ケ、即チ題目ト解釈トノ間ニ一致セル單一ノ肯定ト否定トノ二者アルノミナリ、

○聚合ノ表言ハ、一個ヨリ多キ題目ト一個ヨリ多キ解釈トアリテ、單一ナル表言ヲ二個以上併合セル者ナリ、即チ The Delaware and the Schuylkill are rivers in Pennsylvania. ノ如キ是ナリ、聚合ノ表言ハ、其形体ニ從ヒテ更ニ之ヲ合式カケゴ方法メソッド約束リミット原因カワ離接チス等チーフニ区分スルナリ、

○聚合ノ合式表言ハ、單一ノ合式表言ノ如ク、其解釈ハ單一二題目ノ堅固ヲ或ハ肯定シ或ハ否定スルナリ、Alexander, Caesar and Napoleon were ambitious of military glory.

○方法ノ表言ハ題目ト解釈トノ間ニ於テ、或ハ同意シ或ハ同意セザル方

法ヲ言フ者ナリ、即チ Caesar conquers Pompey by unfair means. ト言フガ如シ、

○約束ノ表言ハ、単一ナル合式ノ發言ヲ *H* トイヘル接続詞ニテ連続スル者ナリ、故ニ *If A is B, C is D.*

右ノ如ク便利ノ為メ、接続詞ヲ初頭ニ置クヲ通法トス、最初ノ合式ノ表言 (*A is B*) ヲ前行○*A*先行ト名ク、後ノ表言 (*C is D*) ヲ後繼○*C*後繼ト名ク、

○原因ノ表言ハ単一ナル表言ノ、真実ナル道理ヲ言ヒタル者ナリ、故ニ *Because A is B, C is D.*

○離接ノ表言ハ二個又ハ其以上ノ表言中ノ一個ヲ以テ真実ナリト言定ムル者ナリ、故ニ *Either A is B, or C is D.*

此表言ニハ *either* 又ハ *or* トイヘル接続詞ヲ用フルヲ常在トス、

○表言ハ猶此外ニ亜立士度徳ノ二種ノ法式ニ依リテ (此法式ハ後ニ之ヲ記ス) 是ヲ分量○*some*分量ト性質○*either*性質ト二分ツベシ、分量トハ題目中ノ幾多ヲ、

解釈ニ於テ或ハ肯定シ或ハ否定スルナリ、*some or all A is B.*

○性質ハ解釈ノ種類方法、即チ其解釈ハ肯定ナルカ否定ナルカニ関スル者ナリ、*whether A is or is not B.*

(廿八) 表言ノ分量及ヒ性質

○表言ノ分量ハ其題目ノ全部又ハ一分ヲ指スニ由リテ定マル者ナリ、若シ其解釈題目ノ全部ヲ同意シ、或ハ同意セザルトキハ、其表言ハ之ヲ総稱

ユールト名ク、*All men are mortal, no men are trees.*

此ノ如キハ総稱ノ表言ナリ、其故ハ題目ノ全体ヲ指定シタレバナリ、若シ其解釈、唯題目ノ一分ヲ同意シ或ハ同意セザルトキハ、其表言ハ之ヲ特稱○*some*特稱ト名ク、*some men are brave, few men are good,*

*many men are not prudent,* ノ如キ特稱ノ表言ノ例ナリ、

○表言ノ性質ニハ又二個ノ種類アリ、題目ノ性質ト解釈ノ性質ト是ナリ、表言ハ題目ノ性質ニ從ヒテ又之ヲ真実○*truth*真実ト虚偽○*fiction*虚偽ト二分チ、解釈ノ性質ニ從ヒテ之ヲ肯定○*affirmation*肯定ト否定○*negation*否定ト二分ツ、

○洛日克ハ題目ノ性質ニ付キテハ、直接ニハ何事ヲモ為サザルナリ、其故ハ *A is B* トイフ表言ノ形式ハ洛日克ニ於テ既ニ真正ノ者ト允許サ

レ、此形式ニヨリテ説話ヲ為ス者ナレバナリ、洛日克ハ説話ノ細密ニ付キ之ニ干係スルコトナシ、既ニ表言ノ真実ヲ允許シタル後ハ、唯其表言

ヲ適當ニ用フルコトヲ務ムルノミ、若シ其中ニ虚偽アルトキハ、其害ハ定言○*assertion*定言ト及ボスナリ、然レドモ其事ハ洛日克ノ誤謬ニハ非ズ、洛日克ニ

於テハ、題目ノ性質ハ偶然ノ者ニシテ、常在○*constant*常在ノ者ニハ非ザルナリ、

○洛日克ニ於テ表言ノ常在ノ性質ハ、其發言 (解釈) ノ性質ナリ、而シテ此性質ハ上ニモ言タルガ如ク、連辭ノ状ニ管スルナリ、モシ連辭肯定ナルトキハ、表言モ亦肯定トナルナリ、

*All A is B.*

*Some A is B.*

若シ連辞否定ナルトキハ、表言モ亦否定トナルナリ、

No A is B.

Some A is not B.

○分量ト性質トニ從ヒテ此区分ヲ為スコトノ為メ、及ヒ定言ヲ作ルガ為メニ用フル未来ノ働ヲ簡單ニセンガ為メニ、余儕符号ノ字ヲ用フルナリ、凡ソ表言ハ何レモ総稱ト特稱トナラザルベカラズ、又是ト同時ニ肯定ト否定トナラザルベカラズ、是ヲ合セテ四個トナル、此四個ハ単一ナル表言ニ屬スル種類ニシテ、以下ニ符号ヲ以テ示ス者是ナリ、

総稱肯定 All X is Y 符号A.

総稱否定 No X is Y 同 E.

特稱肯定 Some X is Y 同 I.

特稱否定 Some X is not Y 同 O.

総稱表言ノ符号ハ全包語（オオケゴト）ノ符号ト同一ノ者ナリ、即チ総稱ノ肯定ニ於テハ all 又ハ every ヲ前ニ加ヘ、総稱ノ否定ニ於テハ、no ヲ加フ、○是ニ付キテ特別ニ注目セザルヘカラサル件アリ、総稱ノ否定ハ no A is B ト記スル形式ヲ以テ正トスベシ、此形式ハ一見シタル所ニテハ、all A is not B ト同様ナルガ如クニ見ユ、然レドモ其実ハ同一ニ非ズ（或ハ同一ノ意味ニ用フルコトアルモ）故ニ all soldiers are not cruel ト云フコトハ not soldiers are cruel ト云フコトトハ其意味ヲ異ニセリ、初ノ語ハ総稱ノ表言ニ非ズシテ、特稱ノ表言ナリ、其故ハ

或ル兵卒ハ暴悪ナレドモ、或ル兵卒ハ暴悪ナラズトイヘルニ意義ヲ包含スレバナリ、

○英国ノ聖經ノ反譯者ハ、或ハ罕レニ、総稱ノ法ヲ以テ言フベキ所ニ、此式ヲ用フル者アレドモ、甚不適当ノコトナリ、希伯来ノ詩篇ニ、悪人ヲ言フ所ニ、All his thoughts are is no God [原本では、次のようになっている。All his thoughts are 'there is no God;'] トアルヲ、反譯者ハ God is not in all his thoughts ト記セリ、反譯者ノ意味ハ God is not in any of his thoughts ト云フコトナリ、

○特稱ノ表言ノ符号ハ、不全包語（オオケゴト）ノ符号ト同ジ、即チ特稱ノ肯定表言ハ、全体中ノ一分ヲ指シタル者ナレバ、some, few, several, many, 等ノ語ヲ前頭ニ置キ、特稱ノ否定ニハ否定ノ連辞ヲ前頭ニ置クナリ、○然レドモ或ハ表言ニ前詞ヲ用ヒザルコトアリ、然ルトキハ余儕表言ノ題目ニ於テ総稱カ特稱カト定ムルコトヲ止ムルナリ、此ノ如キ其分量ヲ包括スルノ前詞ヲ用ヒザル表言ヲ不定ノ表言（イシヤラヒニト）ト云フ、此表言ハ洛日克ノ式ノミニテハ其分量ヲ了解スルコト能ハザルナリ、余儕其時ハ其表言ノ意義ヲ察シ、イカナル前詞ガ之ニ適當スルト云フコトヲ見ザルベカラズ、例ヘバ men are artists. ノ如シ、○此表言ノ意義ヲ考フルトキハ、some men are artists ナルコトヲ知ルナリ、此前詞ヲ加ヘテ見ルトキハ、之ヲ特稱ノ表言ト称シテ恰当ナ

ルミシ、

○Birds fly. 此表言ハ何レノ鳥ニモ真実ナリ、是ニ恰当セナル all ノ語ヲ前ニ加フルトキハ、明白ニ総稱ノ表言ナルコトヲ指示シ得ベシ、

○単一ナル表言シキユール、トハ単一ノ名辭タームヲ以テ題目トスル者ナリ、

Alexander was a conqueror.

Caesar was ambitious.

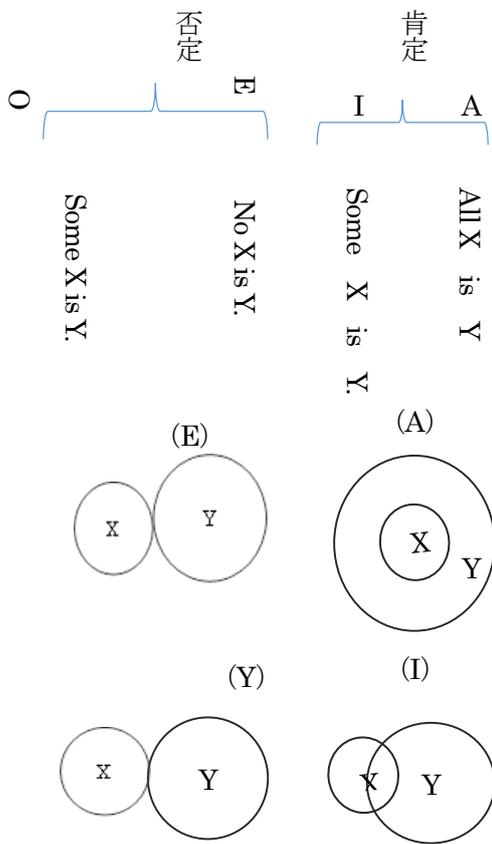
此表言ノ分量ニ付キテハ、最初ニ見タル所ニテハ、之ヲ特稱ノ表言ナリト思フベシ、然レドモ其見込ハ誤リニシテ、其実ハ総稱ノ表言ナリ、其故ハ若シ Alexander was a conqueror ト云フトキハ、亜歴山大ノ全体ヲ指シタル者ニシテ、即チ亜歴山大トイフ語ハ、其人ノ十分ノ廣サニ就キテ言ヒタル者ナレバナリ、

○故ニ一般ノ規則トシテ単一ノ表言ハ常ニ総稱ノ表言トナルナリ、此外ニ尚表言ニ付キテ幾多ノ區分アリト雖ドモ、皆奇異ノ例ニシテ必要ノ例ニ非ザレバ之ヲ言ハズ、以上記スル所ハ後篇ニ論述セントスル洛日克ノ用法ヲ理會スル為メニ、何レモ闕キ難キ者ナリ、

(廿九) 表言ノ名辭ノ包合

デストリビューション

○既ニ表言ノ分量ト性質トヲ論シ、又此表言ハ後ニ論セントスル推測式ヲ作ル為メニ必要ナル者タルコトヲ注目シタル後、更ニ表言ノ名辭ノ包合トイフコトヲ了解シ、此包合ニ付キテ規則ヲ定メント欲ス、若シ四個ノ合式ノ表言ヲ幾何學ノ意味ニ由リテ之ヲ解クトキハ、

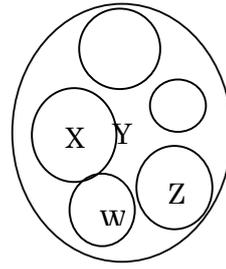


最初ハ先ツ其題目ニ付テ論ゼシニ、AトEトハ、今考案スル題目ノ全体ヲ指ス者ニシテ、此題目ハ all 又ハ no ノ前詞ヲ以テ示セルガ如ク、全包セルノ語ナリ、又IトOトノ題目ハ some トイヘル前詞ニテ示セルガ如ク、唯其一分ヲ指ス者ニシテ全包セザルノ語ナリ、

○是ニ付キテノ規則ハ、今題目ノ形ニ於テ見タルガ如ク至テ簡單ノ者ナリ、曰ク、凡ソ総稱ノ表言ハ、其題目ハ全包語ナリ、特稱ノ表言ノ題目ハ全包語ニ非ザルナリ、

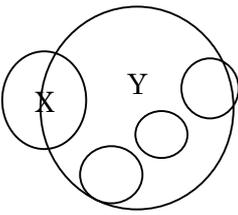
○然レドモ此ノ如キ表言ノ解釈ハ此ノ如キ前詞ナキヲ以テ、如何ンシテ其全包ナルカ、全包ナラザルカヲ判スルコトヲ得ベキヤ、各个ノ場合ニ於テ、題目ト解釈トノ干係ヲ検査スルトキハ題目ノ全包ハ、其中ニ解釈ノ全包ヲ含マザルト云フコトヲ見得ベシ、

○余儕今第一ニ All X is Y ト定言スルトキハ、決シテ Y ノ内ニ包括シアラザル他ノ事物ヲ言ハザルナリ、其故ニ固ヨリ X ハ尽ク Y ナレドモ、W モ亦 Y トスルコトヲ得ベク、Z モ亦 Y トスルコトヲ得ベケレバナリ、今幾何學ノ図ヲ以テ之ヲ示ス時ハ



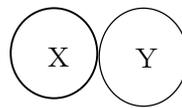
此図ニ示スガ如ク、Y ノ内ニ包括スベキ事物ハ X ノ外ニ尚甚タ許多ノ空地ヲ存スルコトヲ見ルベシ、故ニ Y ノ全体ハ、all X is Y トイヘル表言ヲ以テ尽スベキ者ニ非ズ、又解釈ノ Y ハ総稱ノ肯定表言ニ於テハ全包ノ語ニ非ザルナリ、

○若シ Some X is Y トイヘル表言ヲ擧クルトキニ於テモ亦同様なル推理ヲ用フルコトヲ得ベシ、其故ハ此 Some X ノ外ニ尚 Y ニ属スベキ許多ノ事物アレバナリ、図ヲ以テ示ストキハ、



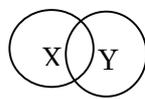
○然ルトキハ Y ノ全体ハ、此場合ニ於テ擧用スベキ者ニ非ズ、而シテ特

稱ノ肯定表言ノ解釈モ全包ノ者ニ非ザルナリ、故ニ肯定ノ表言ハ其総稱ト特稱ナルトヲ問ハズ何レモ其解釈ハ全包ノ語トナルコト能ハザルナリ、○今又 no X is Y トイヘル総稱ノ否定ニ付テ考フルトキハ、甲ノ一分ハ乙ノ一分ニ属セズト云フコトヲ定言スルノ前ニ於テ X ノ全体ト Y ノ全体トヲ了得セザルベカラズ、故ニ



吾儕前ニ既ニ X ナル題目ノ全包トナルコトヲ言ヘリ、又是ニ依リテ「凡ソ総稱ノ否定表言ニ於テハ、其解釈モ亦全包ナルコトヲ知ルベシ、」

題目ノ全体ト解釈ノ全体ト接觸シテ相入ラズ、即チ吾儕ハ全ク二者ノ一致ヲ拒否スルコト能ハザルナリ、又 Some X is not Y トイヘル特稱ノ否定表言ヲ解釈スルニ於テハ、上文ト同一ノ推理ヲ用ヒサルベカラズ、即チ吾儕ハ Y ノ一分ハ some X ニ属セスト断言スルノ前ニ、先ツ Y ノ全体ヲ了知セザルベカラザルナリ、



是ニ由リテ特稱ノ否定表言ノ解釈モ亦全包トナルベキコトヲ見ルベシ、

○以上ノ四個ノ結果ヲ合セテ之ヲ見ルトキハ、二個ノ規則ヲ定ムルコトヲ得ベシ、

其一 総稱表言ノ題目ニシテ、特稱ノ表言ニ非ザルノ題目ハ全包トナル

コトヲ得ベシ、

其二 否定表言ノ解釈ニシテ肯定表言ニ非ザル解釈ハ全包トナルコトヲ得ベシ、

凡テ総稱ニ於テハ題目ヲ全包トシ、否定解釈ニ於テハ解釈ヲ全包トス、

○今適當ナル管係ヲ知ラシメンガ為メニ、形式ニ依リテ名辭ノ包含廣張ヲ示シ、以テ之ヲ學者ノ心中ニ固定セシメントス、

合式ノ四種

表言 題目 解釈 単一ノ形式

A 総稱肯定 全包 不全包 All X is Y.

E 総稱否定 全包 全包 No X is Y.

I 特稱肯定 不全包 不全包 Some X is Y.

O 特稱否定 不全包 全包 Some X is not Y.

○又此外ニ尚洛日克ノ方式アリ、是ハ専ラ表言ノ上ニ関スル者ニシテ、其主意ハ定言ヲ作ルガ為メニ表言ヲ為ス者ナリ、是ヲ名ケテ轉換コンバージョント

言フ、余等ハ名辭ヲ轉換スルコト能ハズ、又或ル記者ガ為ス如ク定言ノ轉換ニ付キテ、學術ノ法ヲ以テ之ヲ説ク者ニ非ザルナリ、

(三十一) 轉換コンバージョン

○轉換ハ題目ヲ以テ解釈ト為シ、解釈ヲ以テ題目ト為シ、以テ表言ノ位置ヲ轉換スル者ナリ、故ニA is Bトイヘル表言ヲ轉換シテB is Aトスルガ如キ是ナリ、此ノ如キ轉換ノ外ニ他ノ變化ヲ為サザルトキハ、之

ヲ単一ナル轉換ト云フ、然レドモ四種ノ合式ノ表言ノ実験ニ依ルニ、単一ノ轉換ノミニテハ事足ラズ、必ス轉換シタル表言即チコンバーション、本来ノ表言即チエキスポジタノ真理ヲ保有スルヲ見ルナリ、単一ナル表言ノ例ハ、

All men are mortal.

此ノ如キ表言ハ之ヲ左ノ如ク轉換シテ記スルコト能ハズ、

All mortals are men.

○洛日克ニ於テハ推度イルレト名クル形式ノ外ハ之ヲ轉換スルコトヲ許サズ、本来ノ表言エキスノ真理ヨリ轉換セル表言コンバージョンノ真理ヲ推度シタル者ナリ、

○此理ヲ簡明ニセンガ為メニ、此表言ヲ代ル々々轉換シテ示スベシ、

1. (△) All X is Y=All men are mortals.

是ハ前ニモ言タルガ如ク、此表言ハ単一二之ヲ轉換スルコト能ハズ、是ヲ轉換スレバ、左ノ如クナルナリ、

All Y is X=All mortals are men.

其故ハY (即死朽) ハ人類ノ外猶他ノ種族ヲモ包括スレバナリ、

○故ニ余儕ハ表言ノ分量ヲ限リテ総稱ヨリ特稱ニ至ラシム、即Yノ如キハ本来ノ表言ニ於テ不全包ノ者ナレバ、之ヲ轉換スルニ方リテ、総稱ヨリ限リテ特稱トスルナリ、是ヲ為スニハYノ上ニsomeトイヘル前詞ヲ

加ヘテ之ヲ轉換スベシ、

Some Y is X=Some mortals are men.

此ノ如キ推度法ノ形式ハ、其性質ヨリシテ之ヲ制限ノ轉換ト名ク、

コンビネーション、バリエーション、リミテーション

○是ヲ以テ觀ルトキハ、総稱ノ肯定ノ轉換ハ特稱ノ轉換トナル、即チAハ轉換スルトキハIトナルナリ、又総稱ノ否定ヲ轉換スルトキハ、

2. (E) No X is Y = No men are trees.

XトYトハ共ニ十分ニ廣衍シ即チ全包括トナルヲ以テ、単一ニ之ヲ轉換スルコトヲ得ベシ、

No Y is X = No trees are men.

総稱否定ノ轉換ハ、同シク総稱ノ否定トナルベシ、特稱ノ肯定ニ於テモ亦全シ

3. (I) Some X is Y = Some men are cruel.

此表言ハ題目モ解釈モ共ニ十分ノ廣衍、即チ全包括ニ非ザルコトヲ見ルベシ、故ニ此表言ハ単一ニ之ヲ轉換スルコトヲ得ベシ、

Some Y is X = Some cruel (beings) are men.

凡ソ特稱ノ肯定ノ轉換ハ、特稱ノ肯定ヲ保持ス、特稱ノ否定ハ別ニ之ヲ言ハサルベカラズ、

4. (O) Some X is not Y = Some quadrupeds are not

horses.

此表言ハ特別ノ困難ヲ現ハスナリ、余儕此表言ヲ以テ単一ニE及ヒIニ於テノ如ク轉換スルコト能ハズ、若シ此ノ如クスルトキハ、Xナル者ハ本来ノ表言ニ於テ全包括トナリ、轉換シタル表言ニ於テハ全包括トナラザル

ヲ以テ、左ノ如キ不都合ヲ生スルナリ、

Some Y is not X = Some horses are not quadrupeds.

又A (I)ノ場合ニ於ルガ如ク、界限ヲ設ケテ轉換ノ法ヲ反轉シテ之ヲ用フルコト能ハズ、然ルトキハ、特稱ヨリ総稱ニ移レバナリ、

All Y is not X = All horses are not quadrupeds.

此困難ニ打勝ントスルニハ、not トイヘル否定ノ小詞ヲ以テ連辭ヨリ取除ケ、之ヲ解釋ノ語ニ附着セシムベシ、故ニ尋常ノ Some X is not Yノ代リニ左ノ如ク書セザルベカラズ、

Some X is (not Y) = Some quadrupeds are (not horses).

此ノ如クスルトキハ、Oナル表言、即チ特稱ノ否定ヲ止メテ、I即チ特稱ノ肯定ト為スナリ、其故ニ(not Y)ノ場所ニハ、他ノ符号Zノ類ヲ置キ、単一ナル轉換法ニ由リテ置替ルコトヲ得レバナリ、然レドモ若シ轉換ヲ為ストキハ、労苦ナシニ、左ノ如ク言フコトヲ得ベシ、

Some (not Y) is X = Some (not horses) are quadrupeds.

是ヲ尋常ノ語法ニテ言フトキハ、其意味ヲ完全ニスルコトヲ得ベシ、

Some (being which are) not horses are quadrupeds.

此ノ如キ者ヲ反対ノ位置、即チ不是<sup>〇</sup>ニシテ之ヲ以テ為シタル轉換ト云フ、

○吾儕ハ此方法ニ由リテ推度ノ轉換ノ規則ヲ定ムルコトヲ得タリ、曰ク、凡ソ本来ノ表言ニ於テ全包括トナラザル所ノ語ハ、轉換シタル表言ニ於テハ、決シテ全包括トナルコト能ハズ、

○推度ノ轉換ノ諸種ヲ管筒状ニ整頓センガ為メニ、其關係ニ從ヒテ之ヲ簡明ニ記載スベシ、Pノ字ヲ以テ界限ノ轉換トシ、Sヲ以テ單一ナル轉換トシ、不ヲ以テ不是ノ轉換トシ、以テ左ノ表ヲ作レリ、

推度ノ轉換法  
インレチーフ  
コンバージョン

本来ノ表言

轉換ノ方式

轉換シタル表言

- |                      |    |                   |     |
|----------------------|----|-------------------|-----|
| (A) All X is Y.      | P. | Some Y is X.      | (I) |
| (E) No X is Y.       | S. | No Y is X.        | (E) |
| (I) Some X is Y.     | S. | Some Y is X.      | (I) |
| (O) Some X is not Y. | K. | Some(not Y) is X. | (I) |

愛ニ記セル者ハ正格ナル轉換ノ形式ナリ、然レドモ猶此外ニ附加スベキ轉換ノ方法アリ、其法ハ総稱ノ肯定ニ於テ之ヲ見ルベシ、

All X is Y = All men are mortals.

此表言ハ上ノ規則ノ外ノ方式ヲ以テ轉換スルコトヲ得ベシ、即チ題目ノ上ニモ、解釈ノ上ニモ共ニ否定ノ小詞ナル not トイフ字ヲ置クコトヲ得ベシ、然ルトキハ其轉換ノ形式ハ左ノ如シ、

All (not) Y is (not) X = All (not) mortals are (not) men;

詳ニ之ヲ言ヘバ、All (who are not) mortals are not men. 是ヲ尋常ノ語法ト為ストキハ None but Y can be X = none but mortals can be men.

○(E)ハ單一ニ轉換スベキ者ナレドモ、亦界限ヲ立テテ之ヲ轉換スル

コトヲ得ベシ、若シ総稱ノ形式ヲ有スルトキハ、

No A is B = No men are trees.

右ノ如キ形式ニハ、左ノ如ク轉換スルヲ通法トス、

No B is A = No trees are men.

然レドモ夫ヨリ小ナル者ヲ指ストキハ、又左ノ如ク言フコトヲ得ベシ、

Some B is not A = Some trees are not men.

○学術上ヨリ言フトキハ、此ノ如キ所ニハ総稱ヲ用フルノ理アルモ、特稱ヲ用フルヲ以テ更ニ宜シトスベキコトナリ、然レドモ総稱ノ成立セルヲ以テ、夫ヨリ特稱ヲ推度シタル者ナリ、

○更ニ此外ニ轉換法ノ題目ニ付キテ特ニ示スベキコトアリ、夫ハAノ形式即チ総稱ノ肯定ヲ標スル所ノ表言ニモ、罕ニハ單一ノ轉換法ヲ行フベキ者アリ、此ノ如キ表言ノ名辞ヲ、轉換スベキ名辞ト名ク、即チ題目モ

解釈モ同一ノ勢力ヲ有スルナリ、例ヘバ All common salt is chloride of sodium トイヘル表言ニ於テ、吾儕ハ之ヲ轉換シテ all chloride of sodium is common salt. トイフベキ正理ヲ有セリ、

All the good are saved ト云ヘル表言ヨリシテ All (who are) saved

are good. トイヘル推度ヲ為シ得ベキ正理ヲ有セリ、適當ナル定義ハ多ク此種類ノ中ニアリ、是等ノ表言ノ外ニ更ニ数学上ノ表言アリテ、轉換セル名辞ヲ以テ、單一ノ表言ヲ作レリ、但シ此二個ノ表言ハ轉換ノ如ク見ユレドモ、実ハ別々ノ表言ニシテ、別々ニ證明セザルベカラザ

ル者ナリ、故ニ All equilateral triangles are equiangular. 此表  
 言ニ付キテ、見セカケノ轉換法ハ、 All equiangulartriangles are  
 equilateralニシテ、真理ニ協ヘル者ナリ、然レドモ本来ノ表言ヨリ推度  
 セシ者ニ非ズシテ、幾何學士ガ別々ニ考案シタル者ナリ、即チ表言ノ轉  
 換シタルニ非ズシテ、別々ノ表言ヲ述ベタル者ナリ、

○上ニ記シタル轉換法ハ専ラ單一ナル合式ノ表言ヲ示シタル者ナリ、此  
 外ニ尚聚合ノ表言モ亦此法ヲ貼用スベキノ理ナリ、若シ然ルトキハ如何  
 ンシテ之ヲ轉換スルカト云フコトニ考ヘ到ラザルベカラズ、然レドモ聚  
 合ノ表言ハ、之ヲ解キテ單一ノ表言ト為シ得ベキヲ以テ、能ク單一ノ表  
 言ヲ轉換スルコトヲ知ラバ、聚合ノ表言モ亦之ヲ轉換スルノ法ヲ知ルコ  
 トヲ得ベシ、

此法ハ亦轉換法ノ如ク、表言ヲ合セテ定言<sup>アイキユメント</sup>ヲ作ルトキニ於テ特別ノ  
 價値ヲ有スル者ナリ、

(卅一) 反對<sup>オウボウ</sup>  
シヨウ

E ○

FN TI FC 對反量分 FN TI TC 對小

質 交 對 反

質 互 反 對

對 交 互 對

NT IF CF 對反量分 NT IF CF 對

A I

此圖式ニ記スル所ヲ釋センニ、總稱表言ノ AトEトハ性質反對<sup>コソトウ</sup>  
 ケ、肯定ト否定トノ關係ニ、於テ只性質ニノミ差異アルナリ、第二ハ特  
 稱ノ IトOトニテ之ヲ小反對<sup>サウコトウ</sup>ト名ク、是又獨リ性質ニノミ差異アル  
 ナリ、二個ノ肯定ト二個ノ否定トハ共ニ分量反對<sup>サウブツタ</sup>ト名ク、分量ニノミ  
 差異アルナリ、總稱ノ肯定ト特稱ノ否定、及ヒ總稱ノ否定ト特稱ノ肯定  
 トハ共ニ之ヲ交互反對<sup>コソトウ</sup>ト名ク、分量性質共ニ差異アルナリ、  
 ○吾儕応用ノ洛日克ニ於テ言ヒシ如ク、表言ノ真正ト虛偽トヲ定メント  
 スルニハ表言ノ体裁<sup>タイサイ</sup>ヲ知ラザルベカラズ、次ニ之ヲ述フベシ、

(卅二) 表言ノ体裁<sup>タイサイ</sup>

○表言ノ体裁ハ、表言ニ用フル名辭ノ結合ノ性質ナリ、尋常ノ語ニテハ、  
 之ヲ「表言ノ精密ナル意義」トイフ、

○名辭ノ結合ノ性ヲ考フルトキハ、吾儕之ニ三個ノ種類アルヲ見出セリ、

一ヲ必須ネセツトイフ、肯定ノ表言ヲ以テ發言スル者ナリ、ニヲ不能イムボツト云フ、否定ノ表言ヲ以テ發言スル者ナリ、ニヲ偶然コンケント云フ、特稱ノ表言ヲ以テ發言スル者ナリ、

必須ノ体裁  
真実

虚偽

○余儕イニ今 men 及ヒ mortal トイヘル二个ノ名辭ヲ用ヒ、連辭ヲ以テ之ヲ接合スルトキハ、此二个ノ接合ノ性質ハ何ノ種類ニ属スルヤ、答、是則チ必須ナリ、吾儕ハ肯定ノ連辭ト all トイヘル小詞ヲ前ニ加ヘテ此表言ヲ述ブルナリ、

(A) All men are mortal.

(E) No men are mortal.

(I) Some men are mortal. (O) Some men are not mortal.

不能ノ体裁ニ於テハ、凡テ否定ハ真実ニシテ肯定ハ虚偽ナリ、

不能ノ体裁

真実

虚偽

All men are mortal.

(E) No men are trees.

(A) All men are trees.

(O) Some men are trees. (I) Some men are trees.

○又吾儕前ト相似タル表言ヲ作ル為メニ men 及ヒ trees トイフ名辭ヲ用フルトキハ此二語ヲ連接スルノ性ハ不能ニ属スルナリ、即チNo トイヘル前詞ヲ用ヒテ其做不得コトヲ發言スルナリ、

偶然ノ体裁

真実

虚偽

No men are trees.

○又 men 及ヒ handsome ト云フ語ヲ用フルトキハ結合ノ性質ハ偶然ナルナリ、或人ハ美麗ナリ、或人ハ美麗ナラズト云フガ如シ、故ニ偶然ノ体裁ヲ發言スルトキハ、其表言ニ some トイヘル小詞ヲ加フルヲ法トス、

(I) Some men are handsome. (A) All men are handsome.

(O) Some men are not handsome. (E) No men are handsome.

此実験ニ由リ、吾等カ認識スル所ハ左ノ如シ、若シ性質反對ニ於テ、甲ノ一個真実ナルトキハ、乙ノ一個ハ虚偽ナラザルベカラズ、然レドモモ

シ甲ノ反對虚偽ナルトキハ、乙モ亦虚偽ナラサルベカラズ、又小反對ニ於テ、甲ノ一個虚偽ナルトキハ、乙ノ一個ハ真実ナラサルベカラズ、然

レドモ甲モシ真実ナルトキハ、乙モ亦真実ナラサルベカラズ、交互反對ニ於テハ、若シ甲ノ一個或ハ真実或ハ虚偽ナルトキハ、他ノ一個ハ全ク

○今表言ノ三様ノ体裁ヲ驗視スルトキハ、左ノ事實ヲ見ルナリ、必須ノ体裁ニ於テハ、凡テ肯定ハ真実ニシテ、否定ハ虚偽ナリ、

ニ於テハ、若シ甲ノ一個或ハ真実或ハ虚偽ナルトキハ、他ノ一個ハ全ク

Some men are not handsome.

Some men are handsome.

Some men are not handsome.

之ニ反シ、或ハ虚偽、或ハ真実ナラザルベカラズ、

○更ニ分量反対ノコトヲ言ハサルベカラズ、若シ総稱 (A 或ハ E) 真実ナルトキハ特稱 (I 或ハ O) モ亦真実ナルベシ、

(A) All men are mortal ト言フトキハ (I) Some men are mortal ト云フコトヲ其内ニ包括ス、

(E) No men are trees ト言フトキハ (O) Some men are not trees ト云フコトヲ其中ニ包括ス

○若シ特稱 (I 或ハ O) 真実ナルトキハ、総稱 (A 或ハ E) ハ真実ニ非ズ、

(I) Some islands are fertile ト云フコトハ、之ヲ推度シテ (A) All islands are fertile ト云フコト能ハズ、

(O) Some islands are not fertile ト云フコトハ (E) No islands are fertile ト云フコトヲ其内ニ包括セズ、

○然レドモ特稱モシ虚偽ナルトキハ、総稱モ亦虚偽ナラザルコトヲ得ズ、故ニ some men are trees ト云ヘル虚偽ノ特稱ハ、又 All men are trees ト云ヘル虚偽ノ総稱ヲ生スルナリ、

○以上ノ推度法ヲ合セ見ルトキハ左ノ規則ヲ言フコトヲ得ベシ、此規則ハ還元法<sup>レダク</sup>ノ題目ニ近接スルガ為メニ之ヲ記憶ニ存セザルベカラズ、

第一 性質反対ハ共ニ虚偽トナルコトヲ得ベシ、然レドモ共ニ真実トナルコトヲ得ベカラズ、

第二 小反対ハ共ニ真実トナルコトヲ得ベシ、然レドモ共ニ虚偽トナルコトヲ得ベカラズ、

第三 交互反対ハモシ此一個虚偽ナルトキハ他ノ一個ハ必ス真実ナリ、此一個真実ナルトキハ、他ノ一個ハ必ス虚偽ナリ、

第四 分量反対ニ於テハ、惟総稱ノ肯定ヨリシテ特稱ノ肯定ヲ推度シ、特稱ノ否定ヨリシテ総稱ノ否定ヲ推度スルナリ、

○図ノ四隅ニ記セル N (必) I (不) C (偶) ノ文字ハ必須、不能、偶然ノ体裁ヲ標シタル者ナリ、又 T ハ真実ニシテ F ハ虚偽ノ標ナリ、

○轉換及ヒ反対ニ於テ此表言ヨリ他ノ表言ニ赴ク所ノ道路ハ、或ル学士ハ之ヲ直接ノ推度ト名ク、

○此反対ノコトニ付キテハ、<sup>○○○○</sup>聚合ノ表言ニ於テモ亦其義ヲ説クベキコトアリ、聚合ノ表言ハ単純ナル合式ノ表言トハ其形式ヲ同フセザレトモ、

又容易ニ之ヲ分解シテ単一ノ表言ト為スコトヲ得ベシ、是等ハ共ニ下篇ニ於テ之ヲ説クベシ、

(卅三) 聚合ノ表言<sup>コンポジション</sup>  
<sup>ヒポテシス</sup> 聚合ノ表言ハ二個以上ノ表言ヲ単一ノ連辞ヲ以テ接合シ、又ハ擬定法ヲ表示セル接続詞ニ由リテ接合スル者ナリ、

○故ニ聚合ノ表言ハ之ヲ二種ニ分ツ、一ヲ合式ノ表言ト云ヒ、二ツ擬定ノ表言ト云フ、

○聚合ノ合式表言ハ又之ヲ二種ニ分ツ、一ヲ綴合<sup>コヒュラチ</sup>ト云ヒ、二ヲ反意<sup>オピポジツィオン</sup>

チスケレ  
チーフト云フ、

○綴合ノ表言ハ、接合ノ性アル接続詞ヲ以テ、二个以上ノ題目ヲ同一ノ  
解釈ニ綴合シ、又ハ二个以上ノ解釈ニ綴合ル者ナリ、

Men, horses and birds are animals.

○反意ノ表言ハ二个ノ単一ナル表言ニシテ、其外面ハ互ニ反対シテ両立  
シ難ク見ユルヲ合セタル者ナリ、

Fox, though dissolute, was a patriot.

此例ノ中ニ第二ノ表言ヲ包括セリ、即チ dissoluteness ト patriotism ト  
ハ通常両立シ難キ者ナリ、

○聚合ノ表言ニハ沈黙即チ包含ノ意ヲ存スル者多シ、是ヲ以テ其意ハ  
聚合ナルモ、単一ノ形式ヲ為ス者多シ、

○擬定ノ表言ハ、二个以上ノ単一ナル表言ヲ、接続詞ニテ結合シタル者  
ナリ、此接続詞ハ通常表言ノ首ニ之ヲ置クナリ、

○擬定ノ表言ハ、之ヲ約束状、コンヂョナル 離接状、チスジャンクテーフ 原因状ノ三種ニ分ツ、此三  
種ノ名ハ、擬定法ヲ發言スル接続詞ノ性ヨリ得タル者ナリ、

○約束状ノ表言ハ、トイヘル接続詞ヲ以テ之ヲ發言ス、

If A is B, C is D=If John return, Harry will go.

離接状ノ表言ハ either 及ヒ or トイヘル接続詞ヲ以テ發言ス

Either A is B, or C is D=Either the day will be fine  
or cloudy.

原因状ノ表言ハ because トイヘル接続詞ヲ以テ其支節ヲ接合ス

A is B because C is D.

John is well because he is prudent.

○合式ノ表言ニ於テハ、其聚合セル所ノ表言ヲ分解シテ各個単一ノ表言  
トスルコトヲ得、即チ上文ニ記セル接合ノ表言ノ如キモ是ヲ分チテ左ノ  
如キ三個ノ表言ト為スコトヲ得ベシ、

Men are animals.

Horses are animals.

Birds are animals.

又反意ノ表言ニ於テハ、之ヲ二个ニ分ツコトヲ得ベシ、

Fox was dissolute.

Fox was a patriot.

○擬定ノ表言ハ合式ノ表言ト異ニシテ、其自体中ニ定言ノ萌芽ヲ含ミ、  
而シテ其擬定ハ收結ニ達センガ為メニ堅固ナルカ、不堅固ナルカラ望ム  
ニ在リ、故ニ

If A is B, C is D.

此表言ニ於テハ C is D ナル定言、即チ收結ヲ言ハント欲スルニハ、

惟ヨク

A is Bヲ知ランコトヲ要スルナリ、

○約束状ノ表言ハ、之ヲ総稱肯定ノ合式表言ト看做シテ、合式ノ形式ニ

變スルコトヲ得、夫ニ付キ其前行ハ題目ニシテ後繼ハ解釋トナル、然ルトキハ、The case of トイフ三語ヲ用ヒテ、約束ノ形式ヲ廢スルナリ、即チ If A is B, C is D トイフニ代ヘテ

(The case of) A being B, is (the case of) C being D. 此ノ如クナルトキハ純粹ナル合式ノ形式トナルナリ、○離接ノ表言ハ之ヲ約束状ニ變スルコトヲ得ベシ、

Either A is B, or C is D, is equivalent to if A is not B, C is D.

又左ノ如クスルトキハ、重複ノ發言ヲ要セズシテ、合式ノ形体ト為スコトヲ得ベシ、

The two possible cases in this matter are that A is B, and that C is D.

通常ノ法ニ於テ又離接ヲ以テ約束ノ形式ヲ變スルコトアリ、此法ハ殊ニ自然ニ近キ者ナリ、

○原因ノ表言ハ  
Because A is B, C is D.

此表言ハモシ because ヲ以テ真実ナリト定ムルトキハ合式ト為スコトヲ得ベシ、故ニ

A is B, therefor C is D.  
○○○  
二句法ニ於テ題目ヲ有シタルトキ、欠失ノ前提ヲ供給ス、即チ原因ノ

表言ハ若シ其原因 (A is B トイヘル第一ノ表言ニテ示シタル) 疑ハシキトキハ、直チニ約束状トナルナリ、

If A is B, C is D.

此表言ノ如キハ全ク約束状ト為シテ之ヲ見ルベキ者ナリ、

○此ノ如クシテ何レノ表言モ皆約束状ト為ルコトヲ得ルトキハ、如何ンシテ轉換法ヲ是等ノ約束状ノ表言ニ用フルコトヲ得ルカ、若シ約束状ニ轉換法ヲ用ヒントスルトキハ、尽ク否定法ニ轉換セサルベカラズ、故ニ

If John has the smallpox he is sick, トイヘル表言ハ

If John is not sick he has not smallpox

ト轉換セサルベカラズ、此轉換法ニ於テハ、其後繼ノ否定ヨリ推シテ前行ノ否定ニ及ブ者ナリ、

○此否定ヲ用ヒザルトキハ轉換ヲ為スコト能ハズ、其故ハ余儕ハ後繼ノ肯定ヲ推シテ前行ノ肯定ニ及ボスコト能ハザレバナリ、故ニ

If John is sick he has the smallpox.

此後繼 (sickness) ハ smallpox ノ外他ノ前行ヨリ發出スルコトヲ得ベキ者ナリ、

(卅四) 新ナル分解 ニコトア  
ナリテウツ

○表言ノ題目ヲ終ルノ前ニ於テ解釈ニ或ル度ノ分量ヲ定ムルコトハ又必要ノコトナリ、即チ解釈ノ前ニ前詞ヲ置クコト、恰モ題目ノ前ニ前詞ヲ置クト同ジクシテ、其全包ト不全包トヲ見ルコトヲ得、是ニ由リテ合式

ノ表言ニ新ナル形式ヲ増加セリ、故ニ *all men are animals* トイヘ  
 ル代リニ *all men are some animals* ト書スルナリ、是ニ由リテ洛  
 日克ノ語法ニ精密ヲ加フルノミナラズ、或ル場合ニ於テハ別種ノ表言ヲ  
 定ムルニ精密ヲ加フルコトヲ得ルナリ、例ヘバ

*All A is (all) B.*

時トシテハ此ノ如ク解釈ニ分量ヲ加フルニ由リテ他ノ想念ヲ知告シ得ル  
 コトアリ、然レドモ此ノ如ク變化シタル表言ノ中ニ包含セザルコトノミ  
 知告スルコトヲ得ベシ、

*All men are sinners,*

此表言ハ吾等ノ規則ニ由リテ *some sinners* ト書スルコトヲ得ベシ、若  
 シ此ノ如キ前詞ヲ用フルトキハ、トイヘル語ノ意味ニ付キテ疑問起ルナ  
 リ、即チ天使ト悪魔トハ其内ニ包含セルヤセザルヤ、又禽獸ノ悪行ハ其  
 中ヨリ除去セルヤ否ヤト、然レドモ若シ左ノ如ク書スルトキハ、

*All men are (all) sinners,*

吾儕ハ此合式法ヨリシテ、總テ他ノ動物ヲ除去スルナルベシ、此解説ノ  
 分量ハ旧式ニ於テ自ラ其文中ニ包含セル者ナレドモ、若シ發言ニ頭ハス  
 トキハ新思想即チ新判断トナルナリ、然レドモ此新判断ハ本来ノ形式ノ  
 基礎ノ上ニ坐スル者ニシテ、旧式ノ表言ノ外ニ別ニ何物ヲモ生出スルコ  
 ト能ハザルナリ、故ニ解釈ニ分量ヲ加ヘテ其表言ヲ廣クスルモ一モ利益  
 ヲ得ル所ナク、反テ判断ノ混淆ト洛日克ノ形式ノ錯雜ヲ生スルノミナリ、

○吾儕モシ合式ノ表言ニ於テ解釈ニ分量ヲ付スルトキハ、是ニ付キ定式  
 ノ外更ニ四个ノ形式ヲ作ラザルベカラズ、

固定ノ形式

新形式

<i>A' All A is B.</i>	<i>All A is all B.</i>	<i>X'</i>
<i>E' No A is B.</i>	<i>No A is some B.</i>	<i>Y'</i>
<i>I' Some A is B.</i>	<i>Some A is all B.</i>	<i>U'</i>
<i>U' Some A is not B.</i>	<i>Some A is not some B.</i>	<i>Z'</i>

此新形式ニ於テ、余儕ハ X'ノ式ニ於テ此ノ如ク言ハント欲ス、

*All equilateral are (all) equi-angular.*

「谷蔽氏洛日克 一」解題

「谷蔽氏洛日克入門第二冊」解題

「谷蔽氏洛日克 一」は、八二七—一二二「谷蔽氏洛日克」に単独で

まとめられている。内題は「谷蔽氏洛日克第一冊」となっている。

「谷蔽氏洛日克入門第二冊」は、一三五「实在理學譯解 谷蔽氏洛日克入門第二冊」のうちに「实在理學譯解」「政治學一」「道德學 Hubbard Winslow」「宇宙理學前輯」「演知學」とともに合綴されている。

谷蔽氏洛日克 一」「谷蔽氏洛日克入門第二冊」は、記述の様式もまったく共通することから、一連のものとして翻訳されたと推定できる。

これらは、Henry Coppée（一八二一—一八九五）の著述である *Elements of logic; designed as a manual of instruction* の部分訳である。

本書について確認できたのは、一八七二年出版の改訂版である。初版に寄せた序文の日付は一八五七年になっている。西村翻訳は、確認できた一九七二年版と矛盾するところはない。

一八七二年版によってみると、本文は、Chapter I から Chapter XIII まですべて構成されており、すべての Chapter にわたって通し番号をつけて Section として区分をし、それぞれの Section には見出しをつけている。一部の Section はさらにいくつかの小区分を設けている。

西村は「Chapter を篇と訳し、Section を通し番号にしている」とになる。

「谷蔽氏洛日克 一」は Chapter I から Chapter V までを翻訳している。「谷蔽氏洛日克入門第二冊」は引き続きの Chapter VI を翻訳しているのである。

Henry Coppée は、フランス系のアメリカ人で、教育者、著述家である。ペンシルバニア大学でイギリスの文学と歴史の教授をつとめた後、Lehigh University（ペンシルバニア州にある）の初代が学長となっている。

なお、明治三三（一八九〇）年に、*Elements of logic; designed as a manual of instruction* に依拠した清水友輔訳述「論理學」上が出版されている。内題には、「論理學 第壹卷」となっているが、下巻ないし第二巻の所在は不明である。原書の一八七二版に依拠しており、西村の訳さなかった序文を訳しているが、本文の翻訳箇所は Section 三四まで、つまり西村の翻訳したところまでである。

演繹洛日克第一冊

亞勒山德 倍因 著  
西村茂樹 蔭畝 譯

序論

「二章」洛日克ハ簡畧ニ之ヲ言フトキハ、真理ソルニ干係シタル教義ノ形体及ヒ其規則ヲ論ズル者ナリ、

洛日克ノ職分ハ後文ニ於テ区分ヲ立テ、精密ニ之ヲ論スベシ、現今ノ所ニテハ、余儕ノ洛日克ハ其主觀ノ何事タルニ関セズ、總テ事物ノ真理ニ関シテ論スル者ナリト見テ可ナルベシ、又洛日克ハ一方ヨリ見ルトキハ理論性ノ者ニシテ、之ヲ施行スルノ目的ヨリ見ルトキハ実行性ノ者ナリ、

此序論ニ於テ余儕力論スル所ハ左ノ如シ、

- (甲) 洛日克ノ心學上ノデータ、即チ其原基
- (乙) 洛日克ノ第一ノ主義
- (丙) 学科ノ彙類
- (丁) 洛日克ノ範圍ニ付キ種々ノ意見
- (戊) 洛日克ノ區分
- (甲) 洛日克ノ心學上ノデータ

「二章」洛日克ハ心ノ法則、及ヒ其働ノ干係ヲ論スル者ニシテ、又是ニ由リ次第々々ニ其範圍ヲ拡張スル者ナリトイフコトハ衆說皆同シ、

學校用ノ尋常ノ洛日克、即チ推測法シロチス一名演繹アタクノ洛日克ニ於テハ其之ヲ解説スルニ左ノ識性ノ働ヲ要ス、其一ハ認識ヘルセラ即チ単一ナル理會、其二ハ抽象アブスト即チ念ノ造成、其三ハ判斷シヤゼ、即チ詮言ノ設置、其四ハ推理ミシク即チ前提ヨリシテ推度ヲ為スコト、是ナリ、  
歸納ノ洛日克インダクテイニ於テハ其造成ノ法ハ原因ストイヘル想念ニ基ク者ニシテ、其原因ト結合セル所ノ心ノ知識ノ根元ニ付テハ、二個ノ反対セル意見アリ、其一ハ全ク經驗ヨリ出ル知識ナリトシ、其二ハ、其一分ハ直覺ト氣性ヨリ生スル知識ナリトスル者是ナリ、  
万物ノ現象ヲ解説シ、其理論ト界限トヲ表出スルコトハ、洛日克ノ一分ナリ、是ヲ為サントスルニハ、心智ノ構造ニ干係シテ其說ヲ立テザルベカラズ、此事ハ略克ガ明言スル所ノ目的ニシテ、其著書ニ於テ之ヲ述ベタリ、此エッセイハ心ノ學ニ於テ大ナル助ケヲ為シト者ナリ、

此場合ニ於テハ、心學ノ諸部ハ、洛日克ノ規則方法ト相錯綜シ居レトモ、其最初ニ於テ尽ク發現スルコトヲ得ル者ナリ、然レドモ心學ニ属セル解説ハ自然ニ簡畧ナラザルベカラザル者ナリ、

- (伊) 差異、關係チスクリミナシヨ
- 「三章」吾等ニ感覺ヲ為サシムルニハ印象イムプレッションニ變化ヲ生セシメサルベカラ

ズ、是二由リ感覺ニ両面ヲ生ス、是ヲ差異ト關係トノ法則ト名ク、

凡ソ同一ノ印象ヲ久シク連続スルトキハ、自然ニ其自識ヲ亡失スル者ニシテ、其変化スルコトノ大ナルニ随ヒテ、自識スルコトモ亦大ナル者ナリ、変化ナキ觸、同調ノ音声ハ自ラ其感覺ヲ止ムル者ナリ、寒温ノ感覺ノ如キモ、同一ナル者連続スルトキハ、熱ト寒トノ自識ヲ失フナリ、又之ニ反シテ印象ノ変化ノ如キハ、其不意ナルト大ナルトノ度ニ准シテ、感覺ニ大小ノ差ヲ生スル者ナリ、急峻ナル變換ハ聳動刺衝ヲ起ス者ニシテ、暗室ニ在リタル後、太陽ノ光ニ面スル一瞬、渴シタル後、水ノ最初ノ一口、貧窮ヨリ富裕ニナリタル最初ノ時間ノ如キハ、總テ最高ナル感覺ノ度ヲ起ス者ナリ、夫ヨリ後ハ其聳動ノ度漸々ニ弛緩スルヲ常トスルナリ、

是二由テ觀レバ余儕ノ知覺及ヒ感覺ノ働ノ状態ハ、其感覺ノ度ノ正シキ證據トナルコト能ハズ、必ス現今又ハ以前ノ状態ヲ併セ考ヘテ其說ヲ立テサルベカラズ、今日百磅ヲ所有セル人アリ、其人自ラ富裕ナリト思ヒ居レドモ其感覺ハ決シテ十分ナル定規トナスコト能ハズ、此人ハ数年以前ハ、至テ貧窮ノ人ナリ、然ルニ今別二人アリテ、以前ハ千磅トナレリ、此兩人共ニ百磅ノ所有者ナレドモ、其感覺ハ兩人甚タ相同ジカラサル者アルベシ

〔四章〕 知識<sup>ノ</sup>ニ於テモ亦感覺ト同様ニ變化、即チ移動アリ、而シテ知ルコトノ働ハ、常ニ兩個ノ事ヲ包含セリ、

吾儕今知識トイフ者ヲ以テ吾心ノ状態ナリトシテ考フルトキハ、亦感覺ト同様ナル法則ニ從フ者ナリ、吾儕ハ寒ヨリノ變化ニ由リテ熱ヲ知り、暗ヨリノ經過ニ由リテ明ヲ知り、卑ノ反對ニ由リテ高ヲ知ル、世間ニハ他ノ干係ヲ離レ獨立絶對ノ物ノ知識ヲ得ルコトナシ、余儕モシ靜定トイフコトヲ知ラサルトキハ、運動トイフコトノ知識ヲ得ルコトナシ、

吾儕ハ配偶中ニ於テ、其一個ヲ他ノ一個ヨリ多ク注意ス、此場合ニ於テハ、吾儕唯一個人ノ性質ノミヲ考フルナリ、又余儕寒ヨリハ熱ヲ思考シ、曲線ヨリハ直線ヲ注意ス、一ハ吾思想ノ頭明<sup>ノ</sup>主觀ニシテ、一ハ幽陰<sup>ノ</sup>主觀ナリ、吾等ノ移動ニ二個ノ方向ヲ有スルトキ、即チ熱ヨリ寒ニ赴クトキト、寒ヨリ熱ニ赴クトキハ、此二個ノ場合ニ於テ別々ノ感覺ヲ有スルナリ、若シ上昇ノ方ニ赴クトキハ熱ヲ自識スルコト多ク、下降ノ方ニ赴クトキハ寒ヲ自識スルコト多シ、其方ニ向ヒテ進ムトキハ頭明ノ自識ヲ有シ、其方ヨリ來ルトキハ、幽陰ノ自識ヲ有スルナリ、

關係ノ主義ハ、洛日克ニ於テハ廣衍ニシテ切要ノ題目ナリ、故ニ其事ハ名目<sup>ノ</sup>ノ條ニ記シ、定義<sup>ノ</sup>ノ條ニ記シ、詮言<sup>ノ</sup>即チ肯定ノ條ニ記ス、又誤謬ノ大分ヲ修正スルノ條ニ於テモ之ヲ記ス、

〔五章〕凡ソ印着ヲ受ルニ、中間ニ多少ノ時ヲ隔テ、再ヒ是ヲ反復スルト

キハ吾儕其時新ナル自識即チ別殊ノ自識ヲ感ズ、此感覺ハ、別異ノ時ニ於テ、同一ノ自識ヲ生スル者ナリ、

余儕、今燃焼セル蠟燭ヲ見タリ、然ルニ人アリテ其蠟燭ヲ持去リ、時ヲ過ギテ再之ヲ吾前ニ致セリ、吾儕ハ其時光輝ノ現在ヲ見ルノ外ニ以前ノ蠟燭ト同一及ヒ反復トイフ感覺ヲ生セリ、此感覺ハ吾知性ノ働ニ関スルコトハ、前ニ出セル差異ノ感ト其力大抵異ナルコトナシ、又吾儕ハ印着ヲ反復スルトキニ最初ノ景況ヲ多少変化スルトアルヲ經驗セリ、而シテ其変化ノ大小ニ応ジテ、感覺ニモ亦大小アルコトヲ知レリ、此同一ノ自識ノ度ハ甚タ廣キ者ニテ、今日ノ昨日ニ同ジトイフコトヲ知ル最低ノ自識ヨリシテ、一物不変<sup>アイデンティティ</sup>ノ如キ高等ノ知識ニ及ブコト、譬へバ牛董<sup>ニウチュウ</sup>ガ石ノ地ニ落ルコトノ一樣ナルヨリシテ、月ノ地球ノ方ニ傾クノ理ヲ考究シ得タルガ如シ、

(波) 知識ハ差異ト同一トヲ結合ス

〔六章〕吾等ガ事<sup>ウチノコト</sup>ニ付テノ知識ト云フ者ハ、差異ナル事<sup>コト</sup>ヲ差異ナリトシ、同一ナル事<sup>コト</sup>ヲ同一ナリトスルニ在リ、此外ニ又知識ノ根原トナル者アリ、即チ差異ト同一トヲ包括セル心ノ留<sup>レト</sup>記<sup>キ</sup>力<sup>リキ</sup>ノ一<sup>イチ</sup>名<sup>ナ</sup>記憶<sup>キョク</sup>リ<sup>リ</sup>是<sup>コト</sup>ナリ、熱ヲ知識スルコトハ其一ハ熱ト寒ト差異ノ感觸ヲ連続ナリ、其二ハ別々ノ景況ニ在テ同一ノ感觸ヲ受クル所ノ反復ナリ、

熱ト寒トノ移動ハ、熱ノ第一ノ考認ナリ、然ルニ此移動ノ外ニ他ノ移動アリテ他ノ感覺ヲ為ス者アリ、余儕或時ハ温ノ知覺アリ光ノ知

覺ニ移動スルコトアリ、温ト光トハ同シカラザル物ナルヲ以テ、此ニ物ヨリシテ我身ニ新ナル差異ノ自識ヲ生シ、是ニ由リ温ニ新ナル意味ヲ生シ、光ニモ新ナル意味ヲ生ス、熱ナル者ハ単ニ寒ノ反対ナルノミナラズ、又光輝ノ感覺ノ反対ナリ、故ニ凡ソ熱ヨリ移リ行ク所ノ新規ノ知覺ハ、其差異ノ自識ヨリシテ熱ノ為メニ拒否ノ意味ヲ與フル者ナリ、此ノ如キ者ハ味ニ非ス、嗅ニ非ス、堅硬ニ非ス、音聲ニ非ザルナリ、

凡ソ吾心智上ノ印象、知識、時<sup>シルレンツ</sup>令ノ想念ノ如キハ、皆之ト相比較スル物ト或ハ相反対シ、或ハ相合スル所ノ差異ノ合計ナリ、吾儕ハ或ル物ヲ圓ト名ク、其物ハ方形長方楕圓等ト名クル物ニ異ニシテ、總テ他ノ円ト名クル物ト同一ナリ、則チ余儕數見タル種々ノ物ト結合セル中ニ於テ、此形状ハ何レモ皆同一ニシテ、特ニ吾等ニ感觸スル所ノ者ナリ時令ノ重量ニ関シテモ、亦同様ナリ、吾儕ハ分量ニ差異アルコトト同一アルコトトヲ知レリ、余儕時令ハ或ル物ヨリ重ク、或ル物ヨリ輕キコトヲ知レリ、是則チ差異ナリ、而シテ第三ノ物ハ、心ニ時令ト同シ量ナリ、是即チ同一ナリ、或ル結<sup>コンクレート</sup>聚セル物体ノ知識、想念及ヒ回想ハ、差異ト同一トノ心ノ働ヲ併合シタル者ナリ、此心ノ働ハ、留<sup>レ</sup>住<sup>シ</sup>性<sup>セイ</sup>即チ記憶ト名クル力ニ由リテ、人心ノ中ニ固定保持シ得ル者ナリ、此留<sup>レ</sup>住<sup>シ</sup>力ニ由リテ現今ノ印象ヲ以テ、過去ノ印象ト比較スルコトヲ得、是ニ由リテ想念、

知識、思想ト名クル所ノ心ノ貯蓄ヲ積重スルコトヲ得ルナリ、

(仁) 主身オウゼン 客身キヤクシン ト名クルニ様ノ知識

〔七章〕時令、家、山、星ノ如キ物ヲ知ル知識ハ之ヲ客身又ハ客觀ト名ク、

是等ノ物ハ皆有形物ニシテ、吾身外ニ在ル者ナリ、快樂、苦惱、想念ノ如キハ主身又主觀ト名ク、即チ吾等ガ身内ノ物ナリ、余儕此二種ノ物ヲ以テ許大ニ積聚スルコトヲ得、然レドモ或人ノ心ノ客觀ヨリハ客觀ヲ多ク積重シ、或人ノ心ノ客觀ヨリハ主觀ヲ多ク積重セリ、

(保) 一個即チ結聚イソチケツポウ 認識ニシチ (一) 概括及抽象カクハツク ノ知識

〔八章〕一定ノ時ニ於テ室中ニ几案アリトイフコトノ知識ハ一個及ヒ結聚ノ知識ノ最高等ノ者ナリ、或ル時ニ於テ、或ル几案ニ干係スルノ知識ハ 概括及ヒ抽象ノ知識ナリ、同一トイフハ心智ノ力ニ依リテ種々各々ノ几案ヲ心中ニ持チ来スナリ、夫等ノ几案ハ互ニ不同ノ点ハ固ヨリ多シトイヘドモ、其中ニ一個共通セル同一ノ点アルニ由リ、其点ニ注目シテ之ヲ心中ニ持来タシ、其几案ニハ尽ク共通セル性質アルコトヲ定ムルナリ、是ヲ名ケテ心ノ概括力トイフ、此力ハ吾等ノ知性中ニ於テ最著ルキ機能ノ一個ニシテ、同一又ハ一様ト名ケタル力ノ、実ニ外面ニ發表セル者ナリ、

(○) 概括ノ知識、一名抽象ノ想念ト名クル者ノ性質ニ付テノ  
争論

〔九章〕概括ノ知識ハ、密ニ之ヲ言フトキハ、許多ノ単特ノ聚合シタル中ニ存スル同一ノ事実ヲ言フニ過ギズシテ、此外ニハ一物モアルコトナシ、其同一ノ事実ハ共通ノ名ヲ用ヒテ之ヲ標示スル者ナリ、

凡ソ圈ト云ヒ、円ト云ヒ、動物ト云ヒ、聖智ト云フガ如キ概括ノ名ハ、或ル状態ニ於テ一致セル者ニ名ケテ、其同一ヲ表スル者ナリ、但シ其物状態中ニ於テ、一致セザル分ハ措テ之ヲ顧ミザルナリ、

其事物ノ状態中ノ同一ナル点ト云フ者ハ、其事物ノ本体ヨリハ分離シテ成立セル者ナリ、此ノ如キ意見ヲ持スル者ヲ実体學ズムト名ク、

実体學ハ布拉多プラトヨリ出タル哲學ノ或ル学派ニテ信スル所ノ教義ナリ、其意ニ謂ヘラク、凡テ天地間ノ万有ノ中ニ、概括シテ圈ト名クル物アリ、其物ハ質体モナク、大小モナク、色モナク、唯圈ノ形アルノミナリ、人類ノ模範トスル公正トカ善良トカ云ヘル物ノ現存セルモ亦之ト同シ理ナリト、然ルニ「スコラチック」ノ教義ニ於テ甚シク之ヲ駁撃シタルニ由リテ、実体學ノ教義ハ一時消滅シタリ、然レドモ此実体學ハ更ニ外界ノ獨立、又ハ心神別在等ノ教義ニ由リテ其遺意ヲ存シ、凡ソ外界ノ物ハ単ニ吾知覺ノ認識ニ由リテ之ヲ知り、心灵ハ唯其形体トノ結合ニ於テノミ之ヲ知ルコトヲ得ベシト云フ説ヲ立テタリ、

又他ノ一説ハ凡ソ差異ノ間ニ存スル一致コムニノ事実トイフ者ハ唯其同一ノ点ノミヲ吾意思ノ中ニ現出セシメ、其差異ノ点ハ全ク措テ顧ミザル者

ナリ、此ノ如キ意見ヲ概念学<sup>コンセプト</sup>ト云フ、

單一ナル圈<sup>サークル</sup>トイフ物ハ、世間ニ現存スルコトナシトイヘドモ、吾儕ハ各個ノ圈<sup>サークル</sup>体物ノ所有セル物質、色、大小等ノ如キ性質ヲ外ニシテ、唯丸キ形ノミヲ考成スルコトヲ得ベシ、

此考案ハ正当ナル者ニ非ズ、凡ソ心ノ力ハ車輪ノ如キ時令ノ如キ結聚ニ依ルトキハ、此心ノ力ヲ餘リ過大ニシタル者ナリ、吾儕ハ円<sup>サークル</sup>トイフコトニハ多ク注目シ、其大サニハ少シク注目ス、然レドモ大小又ハ色ヲ少シモ考フルコトナクシテ、唯円ノミヲ考フルコトハ能ハザル所ナリ、

抽象ノ考案、即チ或ル性質ノ上ニ吾心ヲ聚合スルノ尋常ノ方法ニ凡ソ性質ヲ有セル各種ノ物体ニ付テ、相互ニ代ル<sup>レ</sup>考ヘ得ベキコトナリ、余儕ハ種々ノ円<sup>サークル</sup>キ物ヲ見込ニ由リ、能ク円<sup>サークル</sup>トイフコトヲ考ヘ得タリ、但シ其種々ノ円<sup>サークル</sup>キ物ハ、其物質、大小、色等ハ皆同シカラザルナリ、余儕各個ノ円<sup>サークル</sup>キ物ヲ見ルニ、其中ニ円<sup>サークル</sup>トイヘルコト他ニ勝レテ見エ、其他ノ性質ハ大ニ劣等ノ地位ニ立ツ、然レドモ全ク消滅シタルニハ非ザルナリ、其吾等ガ或ル物ノ上ニ一往一來セル心ノ働ノ結果ナリ、常ニ抽象ノ支架トナル所ノ大ナル事實ハ、差異ノ中ニ於テ同一ナル処アル事物ヲ聚合スルコト是ナリ、

吾儕常ニ單一ナル事物ヲ用ヒテ、衆多ノ表様トナスコトハ恰モ幾何学ニ於テ図式ヲ用フルガ如シ、余儕ハ幾何学ノ推理法ニ於テ、許多

ノ圈<sup>サークル</sup>状ノ物ヲ以テ、之ヲ考案ノ中ニ置クコトナシ、余儕圈<sup>サークル</sup>トイフコトハ、唯一個ノ形ノミヲ以テ之ヲ學ブ、大小、色、物質ノ如キハ單獨ノ図式ニ於テモ亦離ル<sup>レ</sup>コト能ハザルノ事實ナレドモ、猶此ノ如キ者ニハ少シモ注意ヲ加フルコトナシ、

洛日克家ガ総念、概念、抽象ノ想念等ノ語ヲ用フルトキハ、此語中ニハ數多ノ事物ニ於テ同一ナル性質ノ外ニアル或ル物ヲ包含スルコトヲ許サミルナリ、

(土) 一個ハ概括ノ聚合ナリトイフ想念

〔十章〕今個物、例ヘハ樹木ヲ認識スルトイフトキハ、其認識ハ唯其瞬間ニ在リテ為セル單一ナル知覚ノ印象ノミニ非ズシテ、許多ノ概括セル印象ノ聚マリタル者ナリ、

余儕今樹木ヲ見ルトキハ、其種ノ相、即チ其色、形状、大小等ヲ感ズルナリ、此種々ノ印象ハ、吾等ノ同一、則チ比似トイヘル心ノ働ニ由リテ、従前受タル印象ヲ喚起ス者ナリ、故ニ樹木トイヘル想念ハ單一ナル本原ノ知覚ヲ以テ現出シタルニ非ズシテ従前ノ知覚ト混和シテ現出シタル者ナリ、樹木ノ各個ノ相ハ樹木ノ種類ヲ定ムル者ナリ、綠色棕色ノ如キハ唯色ノ小種類ノ印象タルニ過ギザルナリ、故ニ吾等ノ心中ニハ結聚ト抽象トノ二者相混合シテ分解スルコト能ハズ、

單純ナル結聚ハ彙類ト抽象トヲ為スコト能ハサルヲ以テ經驗ノ用ニ

供スルコト能ハズ、凡ソ吾等ノ知識ハ、同時ニ二道ヲ歩ム者ナリ、即チ単一ハ概括ヲ生シ、概括ハ又単一ヲ反生ス、若シ世間ニ一ノ結聚物ナキトキハ、已ニ知リタル他ノ結聚物ト共通セル性質ヲ知ルコト能ハズ、然ルトキハ、余儕ハ只其結聚物ノ上ニノミ注目シ、専ラ結聚物ノ自身ヲ以テ比較シ概括ノ想念ナキ所ニ於テ、結聚セル単一物ノ想念ヲ造成スルコトナルベシ、併シナガラ、此ノ如キ結聚ハ、余儕力嘗テ知リタル結聚トハ決シテ同様ノ物ニ非ザルベシ、故ニ余儕ハ此ノ如キ想念ヲ作ルノ位置ニ適セザルナリ、

〔十一章〕結聚セル一個物ノ特別スベシトイフコトハ、他ノ一個物ト混淆セザル所ノ一定ノ會聚<sup>デヒート</sup>セル者ナリ、

一個物ノ上ニ指定セル、許多概括ノ性質ハ之ヲ以テ不定又ハ共通ノ者トシテ委棄スルコトナク、必ス一定又ハ特別ノ性質トシテ之ヲ認メザルベカラズ、余ハ今見タル所ノ樹木ハ、嘗テ実体トナラザリシ所ノ性質ヲ聚合セルニ由リテ、他物ノ外ニ獨立シタルナリ、若シ又此ノ如キ聚合ニ由ラザルトキハ、其認識ノ時之ニ伴ヒタル外面ノ状及ヒ其時ト場所トノ模様ニ由リテ他物ノ外ニ獨立スルコトヲ得ルナリ、時令ノ如キハ場所ト時トノ添加物ニ由リテ獨立シタル者ナリ、〔十二章〕現出<sup>アウテヒル</sup>ト再現<sup>アウテヒル</sup>トノ區別ハ概括ノ一定ノ會合ト不定ノ會合トノ間ニ在リ、

今余ガ手中ニ在ル或時令ハ現出ナリ、國ノ一般ノ通貨トナレバ時

令ハ再現ナリ、此事ハ何レノ場所、何レノ景況ニモ通用スルコトニテ、或ル一定ノ場所、一定ノ時間ニ限ラザルナリ、

〔十三章〕一個物ノ名ハ概括ノ會<sup>コンフリエークス</sup>合ヲ以テ其品性トスル者ニシテ、此二者ハ互ニ相一致スル者ナリ、

罕レニハ概括ニ干係セザルノ名ヲ有スルコトアリ、即チ一個ノ人ニシテ愷<sup>フエサル</sup>撒ト名クルガ如シ、此ノ如キハ固有有名、即チ意味ナキ名ニシテ、譬ヘバ此物ト彼物トヲ區別スルカ為メニ、意味ナキ符合ヲ用フルガ如シ、然レドモ大抵ハ物ノ名ハ、認識セル其物ノ状態ニ從フ者ナリ、即チ會聚セル概括ヲ指シテ名トスル者ナリ、大ナル巖<sup>グレイタク</sup>特法ノ建築、四十ノ剛強ナル男、或ル堅固ト特別ナル重量トヲ有シ、或ル形体ヲ以テ現ハレタル六角ノ水晶ノ如キハ、其物ノ想念ト精密ニ一致セル名ノ例トスベキ者ナリ、

博言字ノ説ニ依レバ、凡ソ結聚セル物体ノ最初ノ名、即チ日月父母ノ如キモ概括ノ意味ヲ有スル者ニシテ、ムーンハ測度スル物、フハー<sup>フ</sup>ハ養育スル人ト云フ義ヨリ出タリ、凡ソ一物ヲ念ズルニ、其同時ニ於テ彙類ト概括トノ意味ヲ知ラズシテ之ヲ為スコトナシ、故ニ一個ノ名ハ、其中ニ一個物ト概括トノ二ツノ意味ヲ包括スル者ナリ、

(知) 同一<sup>アグリー</sup>メント即チ比<sup>シム</sup>似<sup>シム</sup>トイヘル心ノ機能ハ推理<sup>リゾニグ</sup>ノ根元

ナリ

〔十四章〕推理ハ何レノ姿態ニ付テ見ハルモ皆同一ノ働ナリトスベシ、

即チ一物ヲ以テ、或ル他物ニ比シテ其同一ナルコトヲ知ルノ働、是ナリ、

推理ノ一般ノ表様ハ、或ル特別ノ事実ヨリシテ同シ種類ノ他ノ特別ノ事実ヲ推度スル者はナリ、其二个ノ事実ハ、其知告ノ方法モ同シク、其性質ノ移過ノ推義モ同様ナル者ヲ言フナリ、余今石ヲ池中ニ投ゼンニ先ツ激動ノ響ヲ發シテ水底ニ沈ミ、其石ノ落ちタル所ヨリシテ波紋ヲ四方ニ開帳スルナル、余儕他ノ石ヲ以テ同シ池ニ投スルトキハ、同様ナル効驗ノ一連ヲ生スルト云フコトヲ推度シ、推理シ、又假定スルナリ、而シテ吾儕ハ又此推度ヲ廣メテ、他ノ池、又ハ他ノ水ノ渟蓄セル所ニマテ及ボスナリ、是則チ推度スルコトナリ、  
推理スルコトナリ、實際ノ經驗ノ上ニ超越スルコトナリ、知ラザル事ニ付キテ証說スルコトナリ、此時心ハ、其場合ノ同様ナルニ由リ、午後必ス生スベキ事ヲ前見スルノ進歩ヲ取ル為ニ提起セラレトナリ、今一掬ノ乾葉ヲ取りテ之ヲ池ニ投スルニ、石ヲ投スルト同様ノ効驗ヲ現ハスベシトイヘル推度ヲ為ス者ハ決シテ之アラザルベシ、吾儕ハ気性上ノ信用ニ於テモ世界上ノ經驗ニ依リテモ、差異アル景況ノ下ニ同一ノ應效ヲ生スルトイフコトハ、決シテ期待スルコト無カルベシ、

推理ノ此方法（同一ヲ根元トスル法）ハ恒久常由ノ法ニシテ、禽獸ノ知性ニモ亦及ブベキ者ナリ、或ハ禽獸ハ林莽ノ中ニ於テ、其休蔭所ヲ求ムルニ慣ヘリ、是其甲ノ林莽中ニ蔭所アルヲ以テ、甲ト同一

ナル乙ノ林莽中ニモ亦陰所アルベキヲ推度シテ之ヲ求メ得タル者ナリ、狗ハ生面ノ人ニ、異状ノ杖ヲ以テ威サルトキハ大ニ恐怖ヲ生ス、是ニ由リ、以前ノ人ニ半ハ類似セル人ニ逢フトキハ復旧ノ如キ恐怖ヲ起ス者ナリ、

推理ノ第二ノ方法ハ、一個又ハ少数ノ場合ヨリシテ、全体ノ場合ヲ推度スル者ニシテ、例ヘハ余儕數回ノ試験ノ後ニ、凡テ石ハ皆水ニ沈ム者ナリ、植物ヲ以テ本原トスル物ハ、皆燃焼スベキ者ナリ、凡ソ動物ハ皆他ノ動物ヨリ轉生スルコトヲ得ベキ者ナリト云フコトヲ決定スルガ如キ是ナリ、是ヲ名ケテ帰納法インダクショント云フ、更ニ學術ノ意義ヲ以テ言フトキハ、  
單特ユニークヨリ他ノ單特ヲ推度スルニ非スシテ、  
單特ヨリ總體ユニークヲ推度スル者ナリ、  
帰納法ヲ行フトキハ心ノ活用ハヤハリ比似ナリ、即チ一事ヨリシテ、他ノ同一ナル事物ヲ知ルコトナリ、凡ソ吾等ノ知識ノ中ニ來ル全種類ノ事実ヲ、心ノ中ニ聚合スルコトハ比似ノ働ナリ、余儕之ニ由リ、精密ナル一般ノ定論トスルノ見込、即チ帰納ノ詮言プロポシジョンヲ以テ一致ノ点ヲ比較スルヲ得ルノ能アルコトヲ知ルナリ、

推理ノ第三ノ方法ヲ演繹デダクショント云フ、是亦比似ヲ求ムルヲ以テ其法ノ根基トスルナリ、今石ノ水ニ沈ムコトアルニ由リ、余儕、或ル物体ハ水ニ沈ムナルベシト推度ス、（是則チ演繹ナリ）其物ハ皆肖似セル者ニシテ即チ一般ニ石ト名クル物ノ通有セル諸点ヲ有スル者皆是

ナリ、余儕已ニ一般ノ原理ヲ會得シタル後、其原理ヲ貼用スベキ場合ヲ見出スコト、及ヒ此ノ如クシテ吾知識ヲ演繹様ニ開衍スルコトハ、皆比似ニ由リテ之ヲ為スコトヲ得ルナリ、

(利) 知識ノ根元ハ經驗ニ在リ

〔十五章〕 吾等ガ世界万物ノ知識ヲ得ルコトハ其実物タルト心タルトノ別ナク、皆自識セル經驗ノ結果ナリ、

有形物即チ外世界ノ物ニ付テハ、吾等カ活動ニ伴ヒタル固有ノ五官ヲ用ヒ、差異、同一、留住トイヘル知性ノ三法ニ依リテ其知識ヲ得ルナリ、吾儕ハ能ク視、能ク聴キ、能ク觸レ、能ク味ヒ、能ク嗅ギ、又吾運動ヲ抵抗スル物ト廣張セル物トニ由リテ、吾等ノ自動力ヲ起シ、又其印象ヲ或ハ区分シ或ハ一樣ナリトシ、又恒久ニ聚合スルコトヲ為シ、及ヒ目前ノ物ヲ以テ他ノ物ト相結合シ、總テ此ノ如キ仕方ニ由リテ(其詳ナルコトハ後篇ノ心象学ノ條ニ於テ之ヲ述ブ) 想像、想念、思想及ヒ知覚ニテ經驗セル諸物ノ貯蓄ヲ聚積スルナリ、心、即チ内部ヲ知ルコトノ知識ニ至リテハ五官ノ力ハ之ニ働キ及ブコト能ハズ、吾等ハ直接間接ニ吾等ノ感覺、思想、發意ヲ自識シ、及ヒ常ニ是等ヲ聚合シテ貯蓄スルコトヲ得、吾儕ハ又種々ノ快樂苦痛、及ヒ其發動ノ順序ヲ回想シ、又單ニ事物ノミナラズ、其事物ノ想念ヲ知り、又此概念ノ起發連続ノ方則ヲ知ルナリ、故ニ吾儕ハ吾心何程強ク実物ノ中ニ透入シアリトイヘドモ、容易ニ之ヲ呼返スコ

トヲ得、是吾心即チ主觀ノ活動ノ事實ナリ、

〔十六章〕 或ル人ハ謂ヘラク、吾等ノ知識ノ或ル部分ハ經驗ノ結果ニ非ズシテ、直覺インシュチュ即チ吾心ニ固有セル者ナリ、此ノ如キ者ハ、全ク実物ニ関セル五官ノ働キヲ離レタル者ニシテ、乃チ主觀ノ自識ニ属セル特別ノ現象ナリト、

哲学ノ進歩ノ種々ノ時代ニ於テ、直覺即チ知識ノ先天ノ元質ニ関シテ種々ノ論說アリ、現今ニ至リテハ、全ク其論說ニ反対ノ說起レリ、其反対ノ說アル者ハ、殊ニ時、空、質体サツ、原因ノ四個ノ念ナリ、其古說ニ謂フ、此四個ノ念ニ付キテハ經驗ニ因ラザル所ノ者アリ、故ニ此物ニ付テハ、特別ノ根元ヲ求メサルベカラズ、又其新說、即チ經驗ノ理論ヲ主トスル者ノ說ニハ活動ノ力ト、五官及ヒ自識ノ力ト相合シ、識性ノ能力ヲ以テ之ヲ助クルトキハ、總テ是等(時空等)ノ念ヲ造ルコトヲ得ベシト、今此四件ノ念ヲ逐一ニ説カンニ、先ツ時トイフ者ハ抽象ナリ、則チ他ノ抽象ト同ジク、各個ノ物、即チ心ノ感覺ノ中ニ於テ、或ル同一ナル点ヲ注目シタル者ナリ、凡ソ吾等ノ經驗ハ、主觀客觀ヲ論ゼズ、多少連続スル者ト考察セリ、時トイフ者ノ性質ハ、連続セル物ノ、連続セル状態ヲ彙類シ、比似シタルニ外ナラズ、此連続セル物ノ差異同一ノ經驗ヲ離レテ別ニ時トイフ物アルナシ、但シ実体学リアリズムノ僻說ハ、姑ク舍テ之ヲ論ゼス、又自己ニ成立セル時ノ念トイフ物アルコ

トナシ、但シ概念学ノ誤謬ノ見ハ之ヲ取ラザルナリ、連続セル物、及ヒ連続セル有様ナクシテ、時ノ直覚アリト言フハ、自己擔着ノ誤ニ陥レリ、又連続セル物ノ経験ノ現在セル前ニ於テ、連続ノ点ヲ區別シ、又ハ比較スルトキハ余等ハ時ノ想念ヲ造ルコト能ハザルナリ、其次ハ空間即チ廣張<sup>エキス</sup>ナリ、是ハ総テ物<sup>デ</sup>質ニ通用シテ心ニ属セザル事實ナリ、廣張ハ堅固ナル物質ト、及ヒ其物質ノ塊ノ間ノ空隙トニ属スル者ニシテ、共ニ同様ノ感覺ヲ以テ之ヲ測ルコトヲ得ベシ、即チ受動ノ知覺ノ助ヲ假リテ、筋ニ属セル運動ノ感覺ヲ以テ之ヲ知ルナリ、

先天ノ哲学者ハ、空間ヲ以テ実験ヨリ来ル者ニ非ズ、或ル物ヲ認識スル前ニ於テ心ノ中ニ固有セル知覺ニシテ、即チ外物ヲ認識スル為メノ心ノ有様ナリイフコトヲ主張セリ、

此意見ニ反対セルノ説ニ謂ヘラク、空間ハ抽象ヲ以テ見ルトキハ廣張セル物体ト同一ノ者ニシテ、其間ノ空隙ハ、通常空虚ト名クル者ト同一ナリ、吾儕ハ是等ノ物(空間、廣張セル物体、空虚)ヲ以テ其一致セル各個ノ点ヲ比較シ得、又ハ事ニ臨ンデ其等ノ物ヲ比較ノ上ニテ考フルコトアリ、此ノ如クシテ余儕ハ空間トイフ物ヲ考フルナリ、是則チ名目学ト相適合スルノ意見ナリ、生レ得テ空間ヲ知ルトイフコトハ概念学ノ種類ナリ、

單純ナル直覺説ヲ言フ者ハ、空間ヲ以テ知識ノ根元及ヒ幾何学ノ定

理ノ根元ナリト言ヘリ、蓋シ直覺ヨリ出ルトキハ、経験ヲ以テ解説スベカラザルノ品性ヲ有スレバナリ、此定理ニ付テハ、先天ノ黙示ハ獨リ總念ノ姿ノミナラズ、又原理ノ形ヲ為セリ、其見込ハ異ナレドモ、事實ニ至リテハ同様ナリ、二個ノ直線ハ空間ヲ閉ヅルコト能ハズ、「同じ物ト齊シキ所ノ物ハ皆相互ニ齊シ」トイフガ如キハ空間ノ直覺ヲ非トスル者ノ主持セル意見ナリ、

原因ノ總念ニ付テモ亦直覺ノ論者アリテ之ヲ主持ス、原因ノ總念、專ラ總念ニ依ル者アリ、又原理ニ依ル者アリ、「凡ソ実験ハ、何レモ皆其原因ヲ有ス」トイフカ如キ語ハ、總念ト原理トニ通スルノ語ナリ、又「造物ハ画一ノ者ナリ」ト云フコトト「嘗テ有リシ所ノ事ハ、必ニ將ニ有ルベキノ事ナリ」ト云フハ、其語ハ異ナレドモ、同一ノ義ヲ表シタル者ナリ、原因ニ付テノ争論ハ左ノ如シ、経験ヲ主トスル者ハ、各個ノ実験ハ必ス原因ノ法則、即チ画一ノ法則ニ従ハザルベカラザルコトヲ注目セリ、直覺ヲ主トスル者ハ、各個ノ実験ハ原因ヲ有セザルベカラズト云フコトハ、経験ヨリ来ルニ非ズシテ、既ニ有リシ所ノ事ハ復必ス有ルベシト云ヘル見込ヨリ起ル者ナリト言ヘリ、

質体ノ總念トハ実物ト心トノ現象ノ基底ニ、知ルベカラザルノ下層アリテ之ヲ質体又ハ実体又ハ恒久ノ存在物ト名クルトイフコト是ナリ、此總念ハ経験ヲ以テ得タル者ニ非ズ、即チ此總念ハ全ク経験ノ

外ニ在ル者ナリ、然ハ或ル哲學家ハ是等ノ想念ハ皆信用スベク又之ヲ採取スベキ者ナリトシテ其説ヲ主持セリ、

心ニ就テ言フニ、所謂質体トハ、人身同一ベルンツルア  
イデンチテイノ別名、即チ人ノ心性現存ト言ヘルコトノ別名ナリ、此質体ハ自識セル生命ノ流動ヲ為セル感覺思想意向ヲ尽ク受容包括セル帆布ナリ、

是ニ反対セル論者ノ言ニ曰ク、質体ト云ヘル念ハ全ク幻想、不相応、不用者ナリ、質体ト云フコトノ真正ノ意味ハ実物ニ付キテ言フトキハ、總テ有形ナル物体ニ共通スル所ノ点ニシテ、是等ノ物ヲ尽ク概括スベキ事實ナリ、即チ抵抗力、鈍性、運動力、動機性ト名クル者是ナリ、質体ト云フコトヲ心ノ上ニ付テ言フトキハ、心ノ概括セル性質ニシテ、總テ心ト云フ者ヲ比例シテ見ルトキハ、尽ク同一ナル事實アリ、乃チ実物ニ反対シテ、心ト云フ名ヲ下スベキ所ノ標識ナリ、其一致概括セル点ハ、感覺發意識性ニシテ、此三種性ハ種々ノ度ヲ以テ心ニ固着セル者ナリ、

(奴) 知識ノ根元ニ反セル信用ベリノ性

「十七章」凡ソ人心ニハ經驗ニ於テ知ルヨリモ、反テ多ク信用ニ傾クノ性アル者ナリ

人身ノ信用ニ付テハ最初ニ一種ノ偏性アリ、乃チ何物ニ拘ラズ皆何レモ永續スベシ、此地此日ニ於テ存在セル所ノ物ハ、何レノ時ニ於テモ亦存在スルナルベシト云フガ如キ是ナリ、此ノ如キ全ク生得ノ

信用ハ經驗ノ力ニ由リテ阻碍短縮セラル、ナリ、即チ經驗ヲ得タル上ニテ、從前過度ニ信用シタルコトヲ發見シ、次第々々ニ其信用ヲ退去セシメ、事物ノ眞実ノ見込ヲ受用スルニ至ルナリ、

次ニ記スル者ハ、此ノ如キ傾キノ一般ノ通例ナリ、未タ經驗セザルノ前ニ、吾等ハ現今ニ感スルガ如ク、何レノ時モ同様ニ感スルナルベシ、他人ノ感スルコトモ、吾等ト同様ナルベシ、吾等ノ前ニ起發スルコトハ、衆人ノ前ニモ同様ニ起發スベシ、或人カ吾等ニ語ル所ハ皆眞実ナルベシ等ノ如キ是ナリ、天然ノ心ノ強力ニ由リテ心中ニ此保証ヲ作ルナリ、經驗ハ此信用ヲ造成スル者ニ非ズ、反テ此信用ヲ阻碍シテ又之ヲ寛和スル者ナリ、

吾儕ガ一部分ノ經驗ヲ為シテ是ヲ以テ全体ノ證據ナリト思フコトハ、盲目ナル氣性状ノ輕率ヨリ起ルコトニテ、此ノ如キ意見ハ世間ニ実ニ在ル事物ノ證據ト為スコト能ハズ、吾等ハ右ノ如ク自己ノ信用ヲ事實ノ外ニ開擴スルノ性アル者ナレバ、又吾等ガ一分ノ偏見ヲ以テ天下公共ノ論說ニ抵抗スルコトアル者ナリ、是則チ人類天性ノ虚弱ナル所ニシテ、數々誤謬ノ僻見ニ陥ル所以ナリ、

吾等ハ現事ヲ以テ各個ノ原因ニ貼用セント欲シ、屢々原因応效ノ一般ノ論ヲ定ムルコトアリ、然レドモ其考フル所ノ説ヲ以テ他事ニ貼用スルニ、或ハ自身ニモ甚シク相合ハザルコトヲ發見スルコトアリ、故ニ眞実ナル原因ノ法則ハ吾等カ天性ノ信用トハ全ク同ジカラザル

所ニ存ル者ト知ルベシ、

(留) 經驗ノ証拠ヲ除キテハ、其他ニ真実ノ事物アルコトナシ

〔十八章〕 吾等ガ信用ノ偏性ハ、数々吾等ヲ誤謬ノ中ニ導ク者ナレバ、

吾等ハ吾等ノ気性ノ如何ニ管セズ、獨リ經驗ノミヲ以テ真実ヲ定ムルノ  
準度ト為サザルベカラズ、

信用ノ天然及ヒ其根元ヨリ考フルトキハ、上文ノ如キ理ニ帰スルコ

トハ、避クベカラザルノコトナリ、現今ノ天賦イネノ主義ヲ保持スル

人トイヘドモ、猶天賦トイフコトノ原理ハ、其人カ実ノ事物ト相逢

フトキニ非サレバ起発スルコトナシト云ヘリ、是則チ天賦ノ意見ハ

全ク經驗ノ尺度ニ從ハサルベカラズトイヘル義ニ適ヘル者ニシテ、

実ノ事物ニハ天然ニ知ルベキ者ハ、一モ有ルコトナケレバナリ、余

儕カ原因ニ付テノ直覺トイフ者ハ唯其原因応効ノ許多ノ事實ヲ觀察

シタル時ニ於テノミ發現スル者ナリ、故ニ其直覺アル者ハ常ニ吾等

ノ經驗ト交錯混合シテ其獨立ノ位置ヲ保チ難キ状態ノ者ナリ、余儕、

直覺ハイカナル事物ヲ自身ニ指令スルカト云フコトヲ發見スルノ方

法ナシ、故ニ洛日克上ノ確実ヲ求ムルニ方リテハ、直覺トイフ者ヲ

其中ニ算入スルコトヲ得ズ、其確実ヲ求ムベキ者ハ、唯觀察ト經驗

トニ在ルコトナリ、

(遠) 吾等ノ知識ハ吾等ノ知覺ヲ以テ限トス、

〔十九章〕 余儕ハ、如何ナル物ガ吾等ノ諸種ノ知覺ニ觸レ、イカナル物

ガ其知覺ト調和シ在ルカトイフコトヲ知り、又吾知識ハ其知覺ヨリ遠ク  
擴張スルコト能ハズト云フコトヲ知レリ、

吾等ハ五官(受動)ト筋(自動)トニ於テ数個ノ知覺ヲ有セリ、其中

ノ或ル者、モシ其感ヲ受クルトキハ、吾儕ハ知識即チ經驗ヲ得ルナ

リ、吾儕ハ能ク視、能ク聴キ、能ク味ヒ、能ク嗅キ、其他種々ノ生器

上ノ感觸ヲ知レリ、余儕ハ又抵抗ト活動トヲ知レリ、余儕ハ種々ノ

感動ノ状態、即チ愛、怒、恐等ヲ知レリ、余儕ハ自己ノ区分比似ノ

働ヨリシテ多クノ經驗ヲ得タリ、余等ハ是ニ由リテ知識ノアルハベ

ツトヲ有セリ、吾等ハ又最初ノ感覺ヲ結合シテ、會聚セル体ヲ構造

スルコトヲ得、吾儕オレンジ、人類、及ヒ全地球ノ想念ニマデ達スル

トキノ如キ是ナリ、然レドモ又吾儕何程勉力スルトモ、此最初ノ知

覺ノ外ニ知識ヲ及ボスコト能ハズ、若シ天地間ノ万物、吾等ノ五官

ニ印着スルノ性力ヲ有セザルトキハ、余儕其万物ノ性質ヲ認知スル

ノ方法ヲ失フナルベシ、

此理ニ依リテ考フルトキハ、万物ノ性相ヲ離レテ獨リ其質体ノミヲ

注目スルコトハ、竟ニ為ス能ハザルノコトナルベシ、余等ハ知覺ス

ベキ性相ニ由リテ其物体ヲ知り、感覺思想發意等ヲ自識スルニ由リ

テ心ヲ知ルナリ、此五官ト自識トニ感セザル所ノ物ハ、一モ之ヲ知

ルコト能ハザルナリ、

(乙) 洛日克ノ第一ノ原理ホリスト、ブ  
リシシブル

「二十章」洛日克ニハ普通ノ原理ヲ有セリ、其一、其名ニ協ヘル学科ヲ造成スルノ原理ニシテ、其二ハ実行上ノ規則方法ノ基礎トナル所ノ原理ナリ、

此原理ニハ種々ノ名ヲ命セリ、或ハ思想ノ法則トイヒ、或ハ推理ノ根元定理ト云フ、洛日克ハ此ノ如ク各種ノ学科ヲ通貫シ、又学科上ノ方法規則ヲ定ムル所ノ共通ノ原理ヲ包含スルヲ以テ諸学ヲ包括スルノ学ト称セラレタリ、

洛日克ノ第一ノ原理ハ左ノ如シ

(子) 成形コシキテシイ又ハ整合ノ原理即チ必須ノ真理ネセツサリイ

(丑) 演繹ノ原理

(寅) 帰納ノ原理

(子) 整合コシキテシイノ原理 必至ノ真理ネセツサリイ

「二十一章」凡ソ言辞ノ或ル姿ヲ以テ定メタル所ノ事実ハ、他ノ姿ヲ用ヒテ之ヲ言フモ亦同様ノコトトナルナリ、此事ハ説話ニ由リテ其意ヲ通スルト同ジク、推理ヲ為スタメニハ根元ノ要須ナリ、

凡ソ言語ハ同シ事実ヲ言フニ、別異ノ語ヲ用フルコトアレドモ、其義ハ一ニ帰スルコトアリ、円ト圏トハ其語ハ異ナレドモ意味ハ相通ズ、故ニ円ナル物トイフハ圏ナル物ト同一物ヲ表スルコトアリ、物質ハ重シトイフコトト、物質ハ引力ヲ有スルトイフコトトハ、言語ハ異ナレドモ意義ハ全ク同ジコトナリ、モシ其一方ノ語真理ニ協ヘル

ナラバ、他ノ一方ノ語モ亦真理ニ協ヘルナリ、是ヲ整合ノカト云フ、又数多ノ事実ヲ一个トニ定ムルノ代リニ、総括セル一語ヲ以テ尽ク之ヲ肯定スルコトヲ得ル者アリ、則チ水星ハ楕円形ニ回轉ス、金星モ楕円形ニ回轉スト云フノ代リニ行星ハ皆楕円形ニ回轉ストイヘル総括ノ一語ヲ以テ其事実ヲ定ムルコトヲ得ルナリ、此総括ノ定言ヲ推シテ考フルトキハ、整合ノ法則ニ由リテ各個ノ事実ヲ定ムルコトヲ得ルナリ、即チ「土星ノ軌道ハ楕円ナリ」ト知ルガ如シ、其他之二準シテ知ルベシ、

此整合トイフコトナキトキハ、此人ト彼人トノ間ニ知慧ノ交通ヲ為スコト能ハサルベシ、若シ肯定ヲ為ス者、其言語ノ差異アルニ関セズシテ肯定スルニ非ズンバ、他人ハ其人ノ思フ所ヲ察スルコト能ハザルベシ、然ルトキハ推理論弁トイフコトハ決シテ為シ能ハザルベシ、

自己整合ハ種々ノ言語ヲ用フトイヘドモ、之ヲ肯定スルニハ必至ノ真理ネセツサリイヲ用ヒテ書記スベキコトナリ、「凡テノ実物ハ皆重シ、故ニ実物ノ一分ハ亦重シ」ト此ノ如キヲ名ケテ必至ノ推度トイフナリ、尚精密ニ之ヲ言フトキハ、同價イコウバ、暗示イシヨウ自己整合ノ定言ト名クベキ者ナリ、

必至ノ真理ニハ、同一ノ事実ヲ言フニ、甲ノ形ヨリ乙ノ形ニ移リ行クト、別々ノ事実ヲ言フニ、甲ノ形ヨリ乙ノ形ニ移リ行クトノ間ニ、

明白ナル差異アリ、若シ吾儕「何者A及ヒBハ共ニ朽腐スベキ者ナリ、故ニAハ朽腐スベキ者ナリ」トイフトキハ唯自身ニAヲ反復シタルニ過ギズ、又、「何則Aハ朽腐スベキ者ナリ、故ニBハ朽腐スベキ者ナリト云フトキハ、同一ノ事実ヲ肯定シタル者ニシテ、即チ同一ノ事実ヲ肯定スルノ根基トナル者ナリ、此一躍ヲ為スタメニハ、余儕ハ唯言語ノ意味ヲ知ルコトヲ要トシ、他ノ一躍ヲ為スニハ、世界ノ事実ヲ商量セザルベカラザルナリ、

暗指、即チ整合ノ真理（不適當ニ必至ノ真理ト名クル者）ハ、万物ノ法則ヲ注目スルノカトハ、全ク別種ナル心ノカヲ以テ同價ノ言語ヨリ得ル所ノ臆度ニシテ、此為ニ特別ノ気性ナキトキハ、此真理ヲ發現スルコトナク、又此真理ヲ信用スルコトナシトイヘル臆説ハ、一時盛シニ世ニ出タリ、然レドモ此臆説ニハ完全ナル根基トイフ者アルコトナシ、縱令特別ノ気性トイヘドモ、言語ノ整合ハ之ヲ為シ得ベキ者ナリ、他人ト交話スルノ際ニ於テ、他義ヲ以テ解スルコト能ハザル所ノ言語ハ、勢必ス整合ノ方法ニ帰セシメザルコトヲ得ズ、否ラザルモ其或ル点ニマデ向ハシメザルコトヲ得ズ、此時ニ於テハ自己保存<sup>セルフ、プレザルベーション</sup>トイヘル漠然タル気性ノ外ニハ別ニ他ノ気性ヲ要スルコトナシ、若シ自己保存ノ気性ナキトキハ、恐クハ必至ノ真理ヲ觀察セントスルノ注意ヲ起スコト能ハザルベシ、若シ余儕ノ言語ノ此姿態ニ於テ、吾意見ヲ保持シ、他ノ姿態ニ於テ之ヲ拒否スルトキ

ハ、吾心ノ中ニ於テ自己反對ノ事物ヲ發現スルコトナカルベシ、純粹ニ經驗ヲ主持スル所ノ哲学ト、吾等ノ習慣上ノ事実トヲ合せ取リテ考フルニ、吾等ノ性能ニ、言語ノ種々ノ姿態ニ於テ、吾等ノ見込ヲ定ムルニ十分ナル働ヲ有スルモノナルコトヲ知ルナリ、

「二十二章」整合ノ理ニ付テハ「思想ノ法則」ト名クル定則アリ、同一ノ原理、反對ノ原理、<sup>エキスクリアティブ</sup>排除ノ原理是ナリ、

同一ノ原理ハ「AハAナリ」「有ル物ハ物ナリ」「人ハ人ナリ」ト云フ如キ姿ハ、即是ナリ、<sup>フラット</sup>布拉多ノ言ニ依レバ「想念ハ自身ト一様ナリ」ト云フモ亦此中ニ算入スベシ、

適當ノ語ヲ以テ言フトキハ、是等ノ例ハ整合ノ原理トシテ考フルコト能ハズ、是等ハ他ノ言語ヲ以テ同シ事実ヲ言ヒタル者ニ非ズシテ、同シ言語ヲ以テ同シ事実ヲ言ヒタル者ナリ、同シ言語ヲ以テ同シ意味ヲ言フトキハ、全ク同シ事トナルト云フコトハ、過剩ノ肯定法ナリ、吾等ガ注意シテ防ガザルヘカラザルコトハ、種々ノ言語ヲ以テ同一ノ事実ヲ言フコトノ誤解ナリ、

此評語ハ妥當ナリトイヘドモ、其陳説ノ意ヲ解説スルトキハ、同一ノ姿態ニ其原理ノ有スルコトアルヲ知ルベシ、乃チ其意味ヲ述ヘテ言フトキハ、Aナル物ハ其言辞ノ上ヨリ見ルトキハ一様ナラストイヘドモ、其帰スル所ハヤハリAナリト云フ義ナリ、是則チ整合ノ一般ノ法則ヲ言フ所ノ粗ナル仕方ナリ、若シAハabcd等ニ齊シク、

又 a b c d 等ヲ包含スルトキハ、余ハ少シク語法ヲ易ヘテ A ハ其包  
括セル物ノ全部ニ齊シト言フナリ、凡ソ全体ハ一分ノ合致ナリ、組  
織シタル物質ハ、単一ノ性質ノ聚合シタル者ナリ、

反對ノ原理ニ於テ、「同一ノ事物ハ A ト非 A トナルコト能ハズ」「此  
室ハ熱ト非熱即チ寒ト共ニ存スルコト能ハズ」若シ余儕或ル事實ヲ  
肯定スルトキハ、同時ニ於テ其事實ニ否定スルコト能ハズトイフハ、  
整合ノ原理ノ望ム所ナリ、余儕確言ヲ為シタルトキハ、此原理ニ由  
リテ持續サルミナリ、此原理ハ又更ニ一步ヲ進ムルコトヲ得、凡ソ  
各個ノ事物ト各個ノ肯定トハ關係ノ法則ニ由リテ各反對ノ意見又ハ  
反對ノ肯定ヲ有スル者ナリ、吾等ガ直線ト名クル物ニハ、其反對ナ  
ル、即チ否定ナル曲線トイフ物アリテ之ニ応答スルナリ、余儕モシ  
或物ヲ以テ直線ナリト肯定スルトキハ、其物ヲ曲線ナリトイフコト  
ヲ否定スルノ準備ヲ為サズベカラズ、若シ此人ハ智者ナリト肯定  
スルトキハ、又此人ハ愚者ナリトイフコトヲ否定セザルヘカラズ、  
是ハ落日克ノ中ニ其大分ヲ領スル所ノ同勢ノ形姿（モイハシメト、ホムト）ト称スル者  
ナリ、是ニ由リテ觀レバ反對ノ法則ハ包含ノ意味ヲ有スル者ニシテ、  
此意味ハ同一ノ法則ニハ甚乏シキ所ナリ、  
排除ノ原理（ハイカン）ハ凡ソ事物ハ有ト無トノ何レカニ歸セザル  
ベカラズ、反對説ノ一個真理ナルトキハ、他ノ一説ハ誤謬ナルベシ、  
此法則ハ全体ノ分量ニ付キテノ判言ト、各個ノ分量ニ付テノ判言ノ

相反セル者ヲ示シタル者ナリ、例ヘバ凡テノ人ト、或ル人トノ如シ、  
則反對ノ原理ノ通法ナリ、若シ全体ノ分量、各個ノ分量ノ或ル者ニ  
反對スルトキハ、其反對ハ通貫セル反對ニ非ス、即チ十分ナル反對  
ニ非ザルナリ、十分ナル反對ハ、「凡テノ人ハ死スベキ者ナリ」、  
「人ハ決シテ死スベキ者ニ非ザルナリ」ト云フガ如キ反對是ナリ、  
一分、即チ不十分ノ反對ハ、「凡テノ人ハ死スベキ者ナリ」、「或ル  
人ハ死スベカラザル者ナリ」又、「凡テ人ハ死スヘカラザル者ナリ」、「  
或ル人ハ死スベキ者ナリ」ト云フガ如シ、此一分ノ反對ニ於テハ  
中間ノ肯定トイフモノアルコトナシ、若シ其一個真理ナラサルトキ、  
又モシ凡テノ人ハ死スベシトイフコトノ真理ナラサルトキハ、或人  
ハ死セザルベシト言フコトハ真理ナラザルベカラス、此間ニハ第三  
ノ真理ヲ生スルコトナシ、然レドモ全体ノ反對ニ於テハ例ヘバ、「凡  
テノ金剛石ハ珍貴ナリ、金剛石ハ皆珍貴ナラズ」トイフトキハ、其  
中人ト為ルベキ中間ノ判言アリ、「或ル金剛石ハ珍貴ニシテ、或ル  
金剛石ハ珍貴ナラズ」ト言フコトヲ得ベシ、故ニ排除ノ法則ハ、不  
完全ナル整合ノ偶然事ナリ、亜立士度徳、是ヲ以テ分量ニ属セル判  
言ノ彙類ヨリ出ル者トナシ、最初ノ法則ニ由リテ過重ニ之ヲ尊ビタ  
リ、  
整合ノ原理ハ、落日克ノ部門ノ根基トシテ、之ヲ直接ノ推度（間接  
ノ推度、即チ推測式ト相反セル者）ト名ケ、「同價ヲ有セル判言ノ

姿態」ト名ク、其名ノ此ノ如ク一樣ナラストイヘドモ、其詳義ハ同  
一ニ歸スルナリ、判言ノ変改ノ義ハ、重モノナル題目ノ一个ナリ、

(丑) 演繹ノ第一ノ原理ホストプリンシプル  
オフ、デタクシヨ

「二十三章」演繹ノ法ハ総概ノ判言ヲ以テ、其下ニ來ル各個ノ場合ニ貼  
用セシムル者ナリ、

下ニ記スル所ハ演繹ナリ、「凡テ信石ハ皆毒アリ」、「此物質ハ信石  
ナリ、」故ニ此物質ハ毒アリ」此事ハ前ニ出セル言語ノ整合、暗  
示、同價トハ別ノ事ナリ、

「凡テ信石ハ皆毒アリ」故ニ或ル信石ハ毒アリ」ト言フトキハ、同  
價ノ肯定ヲ有セリ、併シ演繹ニ於テハ、其他ノ意ヲ取り、「此物質  
ハ毒アリ」トイフ決定ヲ為スノ前ニ、「此物質ハ信石ナリ」トイフ  
第二ノ確言ヲ為サハルヘカラス、整合ニテハ、言語ノ變化ヲ以テ、  
最初ノ肯定ヲ引出スコトナレドモ、演繹ニ於テハ、最初ノ二个ノ肯  
定ヨリ肯定ヲ引出スコトナリ、故ニ演繹ニテハ、決定ヲ為スタメニ、  
正當ナル姿態ヲ以テ二个相互ニ干係ヲ有スルコトナリ、

此方法ヲ名ケテ間接ノ推度メチエト、イ  
ンフエレンストイフ、則チ最初ノ判言ト決定ト  
ノ間ニ中間ノ系帶、即チ踏梁アルナリ、余儕單純ナル整合法ヲ以テ、  
「凡テ信石ハ皆毒アリ」ト云フコトニ依リ、「此壺中ノ物質ハ毒ナ  
リ」ト定斷スルコト能ハズ、又「実質ハ皆滅尽スベキ者ニ非ズ」ト  
言フコト由リシテ、「精氣ハ滅尽スベカラズ」ト定斷スルコト能ハ

ズ、此両者共ニ中間ノ繫帶ナカルベカラズ、「壺中ニ在ル物質ハ信  
石ナリ」精氣ハ実質ナリ」トイフコトヲ言ハザレバ、上言ニ付テ  
決定ヲ為スコト能ハザルベシ、

「廿四章」演繹法ノ格言根理オムン即チ第一ノ原理ハ、其發言ノ状ニ由リテ  
其形態甚多シ、今之ヲ合セテ二種ニ歸セシム、

(其一) 凡ソ全種類ニ於テ眞実ナル物ハ、其下ニ屬セル小種類ニ於  
テモ尽ク眞実ナリ、

(其二) 凡ソ同シ事物ト同コトモシセル事物ハ、何レモ相互ニ皆同在セ  
ル者ナリ、○此解説ハ否定ノ推理ニ於テモ之ト同勢ノ形体ヲ有スル  
ナリ、

第一ノ形姿ハ、推測式ノ解説ニ適當セル者ノ一ナリ、此姿ハ推理ノ  
演繹ノ表様ニシテ、総概ノ原理ハ其下ニ來リ屬スベキ景況ノ上ニ働  
ク為スコトヲ頭ハス者ナリ、  
第二ノ形姿ハ第一ノ者ト同一ノ勢價ヲ有スル者ナリ、此法ハ演繹ノ  
推度ノ間接性ヲ高ムル為メニ利益ヲ有スル者ニシテ、彼直接ノ推度  
及ヒ整合法ノ同一ナル判言ニ反対スル者ナリ、今二個ノ事物アリテ、  
其同時ニ現存セルコトヲ能ハザルトキハ、或ル第三ノ事物ト同在セ  
ルヲ見テ、其二個同時ニ現存セルコトヲ知ルナリ、其義ヲ理會スル  
トキハ、忽チ其原理ヲモ信用スルナリ、然レドモ實ハ人々ノ經驗ヨ  
リ之ヲ信用スルニ堪ルコトナリ、

此第二ノ形姿ヲ其反面ノ姿ヨリ言フトキハ左ノ如シ、(其二)凡ソ其全種類ニ非ナリトスル所ノ事物ハ其種類ノ下ニ属セル小種類ニ於テモ亦非ナリ(其二)第二ノ事物ト同在セル第一ノ事物アリ、此第二ノ事物ニ由リ、第三ノ事物同在セザルトキハ、其第一ノ事物ハ第三ノ事物ト假定シタル者ナリ、

「二十五章」演繹ノ根理ハ、万物ヲ画一ナリト、假定シタル者ナリ、此根理モシ經驗ニ依リテ立ツトキハ、此本分ノ義ハ甚明白ナリ、余儕數ト同シ事物ト一致スル所ノ事物ハ、又相互ニ一致セルコトヲ注目ス、然レドモ何レノ時モ皆然リト定ムルコト能ハズ、吾等ハ此世ニ生シザル以前ノ事物ハ注目スルコト能ハズ、吾等ノ智力ノ達セザル所ノ事物ハ注目スルコト能ハズ、此上ニ更ニ生スベキ所ノ事物ハ注目スルコト能ハザルナリ、然レドモ吾等力注目シタル場合ヨリ、推シテ未タ注目セザル場合ニ推廣ムルハ敢テ之ヲ遲疑セザルナリ、余儕故ニ「万物ハ画一ナリ」ト定メ、「凡ソ今日見ル所ノ事物ハ、景況総テ変セザルトキハ明日モ亦必ス之ヲ見ルベシ」ト定ムルナリ、余儕ハ又此根理ハ、經驗上ノ物ナリト云フコトト、及ヒ直覺性ナリト名クルコトトヲ拒否セリ、凡ソ直覺ハ猶万物ノ画一ナルコトヲ假定セリ、若シ万物画一ナラザルトキハ、直覺ヲ以テ認知信用スル処ノ事物ハ真理ニ非ザルナリ、故ニ吾等ガ洛日克(及ヒ数学)ノ推理ノ假定説ニ於テ、其真理ハ更ニ廣深ニシテ、乃チ万物ハ画一ナリト

イフコト是ナリ、故ニ此ノ如キ根理ハ至極ノ原理ニ非スシテ只第二ノ原理、次位ノ原理ナリ、又他ノ枝ヲ有セル幹ヨリ分出セル原理ナリ、此根理モシ真理ナラバ、此上ニ更ニ真理アリ、是ヨリ廣キ原理ノコトハ、其応效ヲ示スガ為メニ更ニ後ニ於テ之ヲ説クベシ、

(寅) 帰納ノ、第一ノ原理ホーリストフ  
リンシブル

「二十六章」余儕今<sup>レ</sup>已ニ知リタル事実ヨリシテ、未タ知ラザル他ノ事実ヲ推度ラントスルトキハ、余儕ハ或ル証人ヲ有スル処ノ、真正ノ推度法ヲ行フナリ、純粹ナル証人ハ造化ノ画一ニホセルキチイ、  
オフ、ナチコルトト云フコト是ナリ、

今一木片ヲ火中ニ投スレハ、其木片ノ焼滅スルヲ見ルナリ、余儕此時他ノ木片ヲ投スルモ、同様ニ焼滅スルコトヲ推度ス、此事ハ即チ凡ソ一回發生シタル事ハ、其狀況同シキトキハ、又再ヒ發生ストイフコトヲ証スルニ因ルナリ、他語ヲ以テ言フトキハ、造化ハ画一ナリト云フコト是ナリ、

万物(造化)ノ画一ハ竟ニ二項ニ帰ス、(其一) 同在ノ画一、(其二) ハ接統ノ画一是ナリ、先ツ同在ノ画一ヲ説カンニ、「自動セザルノ物質ハ重力ヲ有ス」ト云フコト、是ハ「不自動」ト名クル物質ノ特別ノ性ハ、何レノ時、物ニ於テモ、重量トイヘル性ト組合フ者ナリ」トイフコトナリ、

此同在ノ画一トイヘル証憑ハ、各個ノ画一ニ付キテ特別ニ為セル觀察ナリ、或ル場合ニ於テ、二個ノ物体相互ニ結合スルコトアランニ、

余儕ハ此物体ハ常ニ必ス相互ニ結合スル者ナリトハ断定セザルナリ、余儕ハ種々ノ時、種々ノ場所、種々ノ景況ニ於テ、別々ニモ相結合ヲ注目セサルヘカラサルナリ、若シ十分ナル究索ノ後ニ於テ、一個モ反對ノ景況ヲ見ルトキナキトキハ、其時、其結合ハ万物ニ通シテ流行スル者ナルコトヲ決定スルナリ、

〔二十七章〕接続ノ画一ニ付テハ、其考究ノ勞ヲ短縮スルノ方法ヲ発見セリ、是ヲ原因應効カウス、エント、エンフ、エクトノ法則、一名推度ラジヨンノ法則ト名ク、今是ヲ演述スレバ、「各個ノ現事イデハ或ル他ノ現事アリテ、之ニ先行セリ」 「各個ノ現事ニハ必ス或ル前件アンテシデントアリ、其前件ノ發スルニ由リテ、此現事ヲ生スル者ナリ」、

「各個ノ應効ハ其原因ヲ有セザルベカラズ」トイフ猶疑問ヲ免カレザルノ言ナリ、原因ナル語ハ、應効ヲ包含シ、應効ナル語ハ原因ヲ包括スレバナリ、此語ヲ改正スルトキハ、「各個ノ現事ニハ、以前ノ現事アリテ相照応ス、以前ノ現事ヲ生シタルニ由リテ今ノ現事ヲ生スルナリ」、又「以前ノ現事起ラザルトキハ、今ノ現事ハ發生セザルベシ」 「凡ソ先項ハ許多ノ景況ノ聚合ナリ、譬ヘハ人ノ健全ハ、許多ノ狀況ノ應効ナルガ如シ」  
應効ニハ又重複ノ原因ヲ有スルコトアリ、其情景ニ由リテ画一ノ原理モ或ル制限ヲ受ク、又ハ改調ヲ為スコトアリ、故二人ノ死（應効）ハ、飢餓、或ハ打撃、或ハ毒藥等ノ數原因ヲ有セリ、故ニ以上ノ諸

件ノ内、何レニテモ十分ニ之ニ罹ルトキハ、必ス死ヲ得ルナリ、然レドモ卒然ノ死ハ、必シモ其飢餓タルコトヲ試定スベカラズ、惟其卒然ニ於テハ、各個ノ應効ヲ生スル処ノ凡テノ原因ハ皆之ヲ発見スルコトヲ得ルナリ、

原因ノ法則ヨリシテ此ノ如キ數件ヲ引キ出スコトヲ得ルナリ、「若シ原因在ラザルトキハ應効モ亦在ラザルベシ」 「若シ原因存在スルトキハ、應効モ亦存在スベシ」 「凡ソ應効ノ止息ノ外ニ除去シ能ハザル処ノ力ハ皆原因又ハ原因ノ一分トナルベシ」 「凡ソ應効ノ止息ノ外ニ除去シ得ル処ノ力ハ原因ニハ非ザルベシ」 「原因ト應効トハ相互ニ比例ヲ以テ入レ替ル者ナリ」

〔二十八章〕画一ト原因ノ法則ハ、其干係ニ付キ許多包含セル姿態ヲ以テ現ハル者ナリ、則チ力ノ保存、力ノ頑固、力ノ關係、力ノ同勢等ノ如キ是ナリ、

此説ハ輓近ニ於テ成立シタル概括論ナリ、  
伽利略ガリレオ、ニユート牛董ハ物質力又ハ（動機力）メカニカ、ルホルス即チ塊ヲ成シタル物質上ノ力ニ就テハ其力ノ保存ノ法則ヲ定メタル者トナスベシ、若シ一個ノ球走リテ他ノ球ニ觸レ、以テ之ヲ動カストキハ、第二ノ球ニ與ヘタル力ハ、第一ノ球ノ失セシカト全ク相均シ、  
ラ破西ラポアジハ凡ソ重量アル物質ハ、皆永存スル者ニシテ、其物質ノ微分ハ決シテ消滅スル者ニ非ズ、又新タニ生出スル者ニモ非ズト論定セ

り、或ハ焚燒シ、或ハ蒸發スルモ、其微分ハ只其位置ヲ變ズルノミニシテ、其物ニ固有セル不自動及ヒ重量トイヘル性ヲ失フコトナシ、近年ニ至リ此物質力（動機力）ノ外ノ諸力、即チ熱、化力、電氣、神經力ノ如キモ亦皆同様ニ永存スル者ナルコトヲ証定セリ、乃チ是等ノ力ハ新ニ生出スルコトモナク又消滅スルコトモナシ、唯或ル度ニ於テ互ニ變化ヲ為スノミナリ、熱ハ動機力ヲ生スルノ力アリ、化力ハ熱ヲ生シ、電氣ハ總テ他ノ力ニ變成ス、其變化ノ際ニ當リ、其力ハ毫モ亡失スルコトナク、又毫モ生出スルコトナシ、熱ハ蒸氣機ニ於テハ最初ノ起動者ナリトイヘドモ、忽ニシテ熱ノ姿ヲ失フ、又物質力消滅スルカ如ク見ユルトキ、例ヘバ大砲ノ彈丸、大岩石ニ中ルトキハ其動機力ヲ費シ尽スガ如シ、然レドモ其彈丸ノ運動力ハ變シテ熱トナリ、石ト彈丸ト相觸ルルノ処ニ於テ其熱度高フスルコト、恰モ其打撃セル運動力ノ比例ニ準スル者ナリ、此力ノ分量保持ノ法則ハ、帰納ノ洛日克ニ於テ、勝レタル要点ヲ占ムル者ナリ、又此法則ハ總テノ実形ノ諸学ヲ困擁シ、又之ヲ痛貫スル者ニシテ、其学ノ一科ハ、只此法則ノ一分ヲ開達スルニ過ギザルナリ、

(丙) 知識チノ性、及ヒ其彙類

「二十九章」知識ハ萬物ノ点檢ニ付キテノ肯定アツクハイメヨリ成ル者ナリ、此肯定ハ信用ノ主觀トナル、其信用ノ至極ノ標号ハ行為アツクハイメナリ、

二ヲ二回スレバ四ナリ、太陽ハ或ハ昇リ或ハ降ル、依ル所ナキ物件ハ地上ニ落ツ、熱ハ水ヲ沸騰セシム、動物ハ食物ト大氣トニ養ハル、調和ハ心ニ協フ者ナリ、是ノ如キ類ハ万物ニ付キテノ肯定、即チ知識ナリ、余等ハ彼等ヲ信ズ、而シテ彼ニ對セル行為ニ由リテ、余等ノ信用ヲ標示ス、余儕モシ水ヲ沸騰セシメントスルトキハ必ス火ヲ用フ、是ノ如キハ吾等ノ肯定ノ信用ナリ、

「三十章」第一ニ知識ニ要スル処ノ者ハ真理ツル是ナリ、

其肯定スル処ヲ以テ實地ニ試ムルニ、能ク事實コトハ二一致スルトキハ、其肯定ハ真理ナリ、是則チ直接ノ試験ナリ、又肯定ノ真理ヲ試ムルニ、他ノ者ト比較シテ之ヲ定ムルコトアリ、是ヲ間接ノ試験トイフ、

凡ソ其事實ニ反對スル処ノ者ハ何レモ皆虛偽ナリ、

「三十一章」知識ニハ各個オノオノト總体サマシトノ二者アリ、

凡ソ一個ノ事物ニ關スルノ肯定、例ヘバ此家ハ堅固ナリ、愷撤ハ勇猛ナリ、或ル病者ハ恢復セザルベシノ如キハ各個ノ肯定、即チ一個ノ肯定ナリ、其肯定スル所、一ノ題目ニ止マレバナリ、又事物ノ全種類ニ關スルノ肯定ハ、例ハ「建築物ハ其重力ノ中心線、其基礎ノ外ニ出テザルトキハ必ス堅固ナリ、」 「總テ著名ノ大将ハ皆勇猛ナリ」 「四肢ノ硬直ナルハ死ノ標ナリ」ノ如キハ、總体ノ肯定ナリ、其故ハ是等ハ皆數限ノ外ニ廣張スレバナリ、

「三十二章」同一ノ事物ト同一ノ思考トヲ數々反復スルヨリシテ、無數

ノ総体トイフ者ヲ知ルナリ、

若シ世間ニ全ク單獨ナル物アリテ他ニ之ニ比似スヘキコトナキトキハ、其物ハ自身一己ヲ以テ法則ヲ立テザルベカラス、又川海泉湖ニアル水トイヘル通常ノ物質ノ代リニ、別ニ千種ノ物質アラシメバ、余儕ハ天ニ從ヒテ肯定ヲ増加セサルヘカラス、又現今人ノ知レル六十三原質ノ代リニ、此原質ヲ改調シテ六千原質ト為シ、以テ此地球ヲ造成スルトキハ、余等ノ知識ノ容量ニ大ナル増加ヲ為サザルヘカラス、又六十三原質ノ代リニ、只六個ノ原質ノミ有ラシメバ、吾等ノ実物ニ付キテノ知識ハ甚タ少数ノ肯定トナルコトナルベシ、

〔三十三章〕最モ高等ナル概括ニ依リテ知識ヲ得ルトイフハ、甚タ望ムベキノコトナリ、

此道理ハ明白ナリ、総体ノ肯定トイフハ、多数ノ各個ノ肯定ヲ合シテ一ト為シタル者ナリ、此法ハ人類ガ了識ヲ為スニ至テ儉約ノ術ナリ、総体ノ法則ハ吾等ヲ威勢アル高処ニ置ケ、是ニ由リ一見シテ、事実ノ廣大ナル排列ヲ通覽スルコトヲ得ルナリ、重力ノ法則、力ノ保存ノ法則、化学ニ於テ一定ノ比例ノ法則、心ノ干係ノ法則ノ如キハ、何レモ数千ノ小肯定ヲ包含セル者ナリ、

〔三十四章〕知識ノ完全ナル姿態ハ學サイエンスナリ、学ノ特別ナルコト左ノ如シ、

(其二)学ハ知識ニ真理ヲ與フルガ為メニ、特別ノ方法ニ及ヒ貼用ヲ行

フ、

学問セザルノ人ハ事物ヲ試定スルノ心配ナクシテ、容易ニ肯定ヲ為ス、学問アル人ハ之ニ異ニシテ試験ヲ為スニ通常ノ方法ヲ用フルノミナラズ、更ニ自己ノ学ニ関セル知識ヲ試定センカ為メニ、明白ナル言語上ノ器械ヲ用フ、此器械ハ、或ル廣サマデハ、凡テノ学科ニ適用スルナリ、而シテ又或ル廣サマデハ各個ノ学科ニ特別ニ適合スル者ナリ、此通常ノ器械ハ洛日克ノ内ニ包有セリ、

〔三十五章〕(其二)学ノ姿態ニ於ケル知識ハ務メテ總概アブストラクトセンコトヲ要ス、

單一ノ事実ナリトモ、モシ真理ニ協フトキハ、学ニ於テハ、之ヲ斥去スルコトナシ、之ニ反シテ学ハ常ニ此ノ如キ事実ヲ聚合スルコトヲ務ムルナリ、然レドモ学ハ事実ヲ總概スルコトノ利益アリテ且ツ勢力アルコトヲ知ルヲ以テ、其總概ノ働ヲ進メテ其極端ニ至ランコトヲ欲スル者ナリ、両三個ノ事実ヲ精妙ニ注意シテ其真理タルコトヲ知ルハ、其事実ダケニハ價值アルコトナレドモ、其法ヲ以テ学科ヲ組立ルコト能ハザルナリ、

〔三十六章〕(其三)学ハ万物ノ夫々ノ本分エッセンストヲ包括スル者ニシテ、即チ相類似セル処ノ事実ト總概トヲ聚合スル者ナリ、

凡ソ万物ノ行動勢力ハ、其天性ニ随ヒテ各別ナル者ナレバ、各別ニ之ヲ考究セザルベカラザルナリ、天上ノ星象ヲ保持スル所ノ力ハ、

燃焼、磁石、植物動物ノ生長力トハ別種ノ力ナリ、心ノ機能ノ如キモ、亦他ニ之ニ比スベキ者ハ甚罕ナリ、是ニ由リ世界ノ万物ニ付キテノ肯定即チ真理ハ分レテ種々ノ部分トナル、而シテ其區別ヲ觀察スルコト、及ヒ其類似セル事実ヲ合セテ彙類スルニ、明白ナル合宜アリ、行星ニ関セル事実ト、人心ニ関セル事実トヲ聚合シテ考察スルトキハ、必ス吾了識ヲ混乱スルナルベシ、

〔三十七章〕 (其四) 凡ソ学ハ吾知識ヲ蒐輯シ、分類シ交通セシムルノ目的ニ適センカ為メニ、サブセクト 題目ニ付キテ順序即チ整頓ヲ要スル者ナリ、

現象ノ部分ニ干係セル事実ト総概トヲ聚合スルノ外ニ、学ハ更ニ其材料ヲ適當ナル整頓ノ中ニ置カサルベカラス、

此整頓法ハ種々ノ学科ニ随ヒテ同シカラス、而シテ其整頓ノ全体ニ付キテ、下ノ諸点ニ注意セサルベカラス、

(其一) 容易ニ知り得ベキコトヨリ始メテ、漸々ニ容易ニ知り得ベカラザルコトニ及ブベシ、若シ或ル事物、又ハ総概スル所、他ノ事実ニ從属シ、又ハ豫メ之ヲ假定スルトキハ、其他ノ者ヲ以テ最初ニ説話ヲ始ムベシ、

(其二) 或ル教義ヲ試定スル為メニ要須ナル物ハ、試定ヲ受クル事物ニ先立ザルヘカラス、相連結スルノ学、即チ演繹ノ学(例ヘハ幾何学ノ如キ)ニ於テハ、各个ノ肯定ハ、總テ其前行セル或ル物ニ從属ス、故ニ其学ノ進化ハ、方法状及ヒ規則状ニ開發スルナリ、

(其三) タリム 言語ノ意味ハ、夫ニ使用スルノ前ニ明白ニ之ヲ示サザルヘカラス、故ニ主要ナル語ノ鮮義ヲ以テ始メトスルハ、通常ノコトナリ、

〔三十八章〕 学科ノ彙類ハ上ニ記セル見込ト相合一センコトヲ要ス、乃チ第一ニハ、造化ノ法則ヲ以テ其(学)部ヲ分タザルヘカラス、第二ニハ其部中ニ於テ、干係セル單獨ノ順序及ヒ相互ノ從属ノ順序ニ從ハサルベカラス、

若シ造化ノ働ニ於テ、全ク彼此ニ分裂シテ相接セザル者アルトキハ、学科ノ特別ノ順序ヲ立ツルコト能ハザルベシ、然レドモ各種ノ力、即チ重量、熱、動物成長、心、等ノ如キ者ハ、其働ヲ為スニ於テ、相互ニ混合スル者ナリ、又凡ソ現象トイフ者ハ何程アルモ、皆分量ノ法則ニ從ハザル者ナシ、故ニ分量トイフ者ハ事物ノ或ル種類トハ全ク離レテ考究スルコトトナレリ、是ニ由リ分量ノ法則ハ凡テノ学科ノ部ニ於テ、尽ク其準備トナルコトナリ、然レドモ分量ノ法則ハ此学ガ他ノ学ノ為メニ基址ヲ作ルノ単一ナル方法ニハ非ザルナリ、夫故ニ種々ノ学科ノ中ニハ、從属ノ順序アリテ、学者ノ為メニ、或ル度ニマデ其連続ヲ指定シ、学科上ノ研究ノ中ニ於テ、段々ノ進化ヲ指定スルコトヲ得ル者アルナリ、

〔三十九章〕 学科ニハ抽象アブストラクトト聚結コンククトトノ二者アリ、数学ハ専ラ分量ヲ論ズル者ニシテ、長サ、重サ、熱、等ノ如キ分量

ノ特別ノ種類ニ関スルコトナキ者ナレバ、之ヲ抽象ノ学トイフナリ、此学ハ全ク他ノ学ト異ナルコトアルヲ以テ、凡テノ学中ノ尤モ抽象ナル者ト称スベシ、此学ニ於テ論スル所ノ性質ハ、凡テノ性質中ニ於テ尤モ総概ナル性質（物ノ数ヲ言フ）ニシテ、相補助セル他ノ属性トハ、分離ノ最高度ニ居ル者ナリ、是ニ反シテ動物学ハ実動ノ事物、即チ聚結セル物ノ大部（動物ノ全世界）ヲ彙類シ記載シタル者ナレバ、是ヲ聚結ノ学ト名クベシ、

抽象ノ二点ニ於テ、数学ト相争賽スベキ者ハ洛日克ナリ、洛日克ノ第一ノ原理ハ、上ニモ言ヒタルガ如ク、整合ノ法則、演繹ノ法則、画一ノ法則ヲ包括セル者ニシテ、衆学中ノ最勝ノ者ナリ、此三个ノ法則ハ、分量ノ法則ヨリモ更ニ廣キ者ナリ、分量ニ次テ造化物ニ有セル総概ノ性ノ運動○モキシナリ、凡ソ有形ノ物ハ運動セザル者ナシ、或ハ其塊体ニ於テシ、或ハ其微分子ニ於テシ、或ハ兩者ヲ兼テ運動スルコトアリ、此運動ノ法則モ亦分量ノ法則ノ如ク、各个ノ物体ニ干係スルコトナクシテ、之ヲ定ムルコトヲ得ル者ナリ、是ニ由リ運動ニ付キテ抽象ノ学ヲ立ルコトヲ得、是ヲ或ハ抽象ノ動機力、或ハ理論ノ動機力又ハ道理上ノ動機力トイフ、其意義ハ「ギネマチックス」ノ義ナリ、又運動ノ原理ヲ、実ノ物体、即チ固形流動気状ノ物ニ貼用スルトキハ、夫々ノ名称ヲ有スル処ノ、結聚ノ動機力ヲ構成スルコトヲ得ルナリ、

抽象ハ又之ヲ単一ト称シ、結聚ハ又之ヲ複雑ト称ス、若シ抽象ニ於テ真理ナル者、結聚ニ於テ真理ナラザルトキハ其道理ハ偶然ニ在リテ必然○ニ非ス、抽象ニ於テ真理ナル者ハ、実ニ結聚ニ於テモ真理ヲ指定スル者ナリ、抽象ハ唯結聚ト相一致シタルノ名ナリ、故ニ抽象ニ於テ真理ナル法則ハ、モシ結聚ニ於テ真理ナラザルトキハ、必ス抗逆ノ言ナルベシ、然レドモ結聚ニ於テ反対ノ力ヲ有スルコトハアルナリ、則チ単一ニ働キタルカト複雑ヲ以テ働キタルカトハ、其中ニ実ニ反対ノ点アルナリ、今運動ノ抽象法則ヲ言ハンニ、現今ノ状態ナル物体ノ堅固ハ摩擦或ハ反対ノ障碍ニ由リテ其結聚ヲ失フナリ、堅固ニナラントスルノ傾キハ、他ノ力ノ感化トノ組合ニ由ル者ニシテ、吾儕之ヲ和合ノ結果ナリト筭スルナリ、自ラ好シテ為ス所ノ働ノミハ或ル效驗ヲ有スル者ニシテ、之ヲ聚合スルノ原質ハ其效驗ニ付キテハ、復タ其責任ヲ有セザルナリ、

「四十章」現今ノ定意ニテハ、学科ハ左ノ如ク彙類スベキコトトス、第一洛日克、第二数学、第三動機学メカニクス、即チ動機格物学メカニクス、第四微分格物学モルキユラ第五化学、第六生理学バイオロジイ、第七心学サイコメ、是ナリ、此各个ノ學ニ於テ、夫々ノ現象ノ本分アリ、合セテ之ヲ見ルトキハ、是等ノ学科ハ総テ知り得タル現象ヲ包含スル者ナリ、而シテ今定メタル順序ハ、單一ヨリ始メテ複雑ニ進ム者ニシテ、又獨立ヨリ、從属ニ赴ク者ナリ、是則チ習学及ヒ進化ノ順序ナリ、

(其二) 洛日克ハ前ニモ述ベタルガ如ク、凡テノ原理ヲ最モ普通ニシテ最モ根元ノ者ヲ包含スル学ニシテ、即チ整合演繹画一ノ原理是ナリ、洛日克ハ、自己ヨリ更ニ根元トナル者ナクシテ、凡テノ他ノ学科ニ根元ヲ與フル者ナリ、故ニ明言スルトセザルトニ論ナク、洛日克ノ「データー」ヲ取ラズシテ、其他ニ学科ヲ立ルコト能ハザルナリ、

(其三) 数学ハ分量ノ抽象学ニシテ、分量ノ法則ハ毎ニ務メテ聚合ヲ要スル者ナリ、

(其四) 動機学又動機物理学又動機哲学<sup>メカニカル、フヒロソフヒイ</sup>ハ運動<sup>○モーション</sup>ト力<sup>○ホル</sup>トノ学ナリ、運動ハ物ヲ以テ一塊体ト為シテ見タル上ヨリ言フ所ノ運動ニシテ、カハ運動セル物塊ノカヲ指ス者ナリ、此学ニモ抽象ト結聚トノ二者アリ、抽象ハ即チ理論上ノ部ニシテ(キネマチックス)平均ノ法則ト運動ノ法則トヲ論スル者ナリ、是ハ物ヲ一塊物トシテ見タル上ヨリ言ヒタル者ニシテ、其物ノ特別ナル種類ニハ干係セザル者ナリ、動機学ノ結聚法ヲ用ヒタル者ハ天文学、地上隕石ノ学、静重学、水静学、動重学、水動学、音學ノ如キ者、是ナリ、

(其五) 微分格物学ハ有形物ノ微分子ノ運動、及ヒ其整排法ヲ論ジタル者ナリ、此学ハ固形、流動、気状ノ三体ノ構造ノ為メニ必要ナル凝結力ト粘着力トヲ論シ、又熱、光、電気等ノ諸学ヲモ此中ニ包括スルナリ、

(其六) 化学ハ微分学ノ続キニシテ、化成ト名ケタル特別ノ結合カト

分解カトアリテ、物ノ性質ヲ変化スルコトヲ説キ、以テ此学ノ特性ト為ス、

造化ノ哲学<sup>ナチュール、フヒロソフヒイ</sup>ト名ケタル学科ハ久ク世ニ行ハレタル者ナルガ、此学ノ中ニ動機学ト微分学トハ包括シアレドモ、化学ハ之ヲ包括セザルナリ、平心ニ考フルニ、化学ヲ以テ微分学ノ一分トシテ論ヲ立ルモ、頗ル適當ナル整定法ナルベシ、又事实上ヨリ觀ルトキハ、化学ノ働ハ熱ト電気ト相結合シテ離レザル者ナリ、但シ尋常ノ解説ニテハ、熱ト電気トハ全ク化学トハ別種ノ物トシテ之ヲ論スルコトナリ、

動機格物学ト微分格物学ト併セテ之ヲ觀ルトキハ、彼力ノ永存トイヘル大教義ノ根原ノ景況ヲ尽スコトヲ得ル者ナリ、

(其七) 生理学<sup>バイオロジイ</sup>ハ現象ノ新田地、即チ生命ノ現象、生活セル形体ノ現象ヲ論シタル者ニシテ、生器ヲ以テ作りタル構造物ト及ヒ其恒久ノ進化ト、再生トノ説ヲ其内ニ包含セリ、此学科ハ前ノ諸学科ノ後ニ在ルヘキ者ナリ、其故ハ生活セル形体動機ト微分トノ格物学ノ法則ニ從ヒ之ニ生命トイヘル特別ノ法則ヲ加ヘタル者ナレバナリ、生理学ハ之ヲ植物生理学動物生理学ノ二種ニ分ツ、一ハ植物ノ構造分類記載ヲ尽シ、一ハ動物ノ構造分類記載ヲ包含セル者ナリ、植物学、動物学、人類解体学、生器学ハ何レモ生理学中ノ結聚ノ部分ニシテ、学科ノ為メニ必要ナル部ナリ、此生理学ニハ抽象ノ姿ヲ具フ

ル者ナシ、蓋シ生命ノ法則ハ、生活セル植物動物ヲ離レテ之ヲ見ルコト能ハザル者ナレバナリ、生理学ヲ以テ結聚抽象ニ分タントスルニ最モ近キ者ハ、一方ニ於テハ、生語學(植物動物共ニ)ニシテ、他ノ一方ニ於テハ植物動物ノ分類ト其詳細ナル記録ト是ナリ、

(其七)「サイコロジイ」即チ心ノ學ハ、造化ノ現象中ニ於テ無對ノ部分ナリ、此学科ヲ以テ諸學ノ最後ニ置クハ、左ノ二条ノ理由ニ由ル者ナリ、其一ハ悪キ偏性ノ力ニ依リテ、此學ヲ増大ニシ、以テ大ナル聚合体ト為セリ、是ニ由リ、學者ハ此學ヲ以テ、以前ニ記シタル諸學ヨリ供給ヲ受クル者ト為シ、諸學ノ習學ヲ以テ此學ノ準備ト為スナリ、其二ハ心ハ固ヨリ無對ノ主身ナリトイヘドモ、有形ノ生器ハ尽ク之ト相結合セルヲ以テ、此學ヲ以テ聚合体ノ者トシテ之ヲ考フルナリ、目今ハ其有形ノ生器ハ、人身生器學ト名ケテ、生理學ノ最後ノ部中ニ加入セリ、

以上ノ七種ノ学科ハ、其物質タルト心タルトヲ論ゼズ、皆世界ニ於テ嘗テ已ニ知リタル処ノ法則ニ基キ、而シテ其法則ヲ最モ都合ヨク習學シ理會セシムル為ニ適當ナル順序ヲ定メテ表示スル者ナリ、此学科ニ通曉セル人ノ為ニハ、如何ナル現象モ決シテ奇怪トイフ者アルコトナシ、今適當ノ語ヲ以テ言フトキハ、凡ソ現象ノ法則ハ四項ノ中ニ理會セザルヘカラス、其一ハ摩壓ノ動機力モチカス其二ハ微分ノ動機力(即チ格物學)其三ハ生理學、其四ハ心學ナリ、洛日克ト數

學トハ、現実ノ事物ヲ善ク理會スル為メノ補助學ナリ、

アラゴストコソント奥吉士都坤篤ハ、天文学ヲ以テ動機學ニ属セルトイフ通常ノ説ヲ斥ケ、是ヲ以テ特別ノ学科ノ一種トセリ、其理由ハ、天文学ハ全ク重カヲ以テ主トシ、他ノ学科ト異ナル特別ノ現象ヲ有シ、単ニ數字ト抽象ノ動機學トノミノ助ヲ以テ開發スル者ナリト言フニ在リ、坤篤ノ意見ハ或ハ必要ナラザル卓見ナリト考フル者アレトモ、然レドモ其理由ハ、實ニ疑ヒナク又甚タ明白ナル事實ヲ保ツ者ナリ、引重ノ力ハ特殊ニシテ且別立ノ者ナリ、此力ハ他ノカト合併セズシテ、獨リ天象ノ上ニ働キ、以テ天文学ニ著ルキ獨一ノ品性ヲ與フル者ナリ、

〔四十一章〕聚結ノ学科ハ種々ノ附添ノ題目ヲ以テ成レル者ニシテ、氣象學、礦物學、地質學、地理學ノ如キ是ナリ、是等ノ学科ハ根元ノ諸學ニ於テ説ク所ノ外ニ於テ、別種ノ働ヲ有スルコトナシ、

此諸學ハ何レモ其學ニ於テ特別ニ習學スベキ一羣毎ノ現象アリ、氣象學ハ大氣ニ付キテ論ジタル者ニシテ、其現象ハ動機學ト微分ノ格物學トノ法則ニ從フ者ナリ、礦物學ノ如キモ同シ法則ニ從フ者ニシテ、動機學ト微分格物學ノ法則ノ外ニハ礦物ヲ構成スル他ノ造化力アルコトナシ、此學ノ目的ハ礦産ノ諸物ヲ彙類シ、記述スル為メニ整然タル仕組ヲ定メ、以テ能ク之ヲ理會考認セシムルニ在リ、地質學ハ格物學ニ生理學ヲ添加シタル者ナリ、其論スル処ノ場所ハ、地球ノ殼ニシテ、人ノ近クコトヲ得ベキヲ以テ限リトセル者ナリ、地

質学ハ、大地ノ表面ノ学ニシテ、又前ノ二学ノ如ク記述セル所ノ学ナリ、然レドモ其現象ニ付キテ別ニ新ナル法則アルニ非ズ、

聚結ノ学ニ於テ、殊ニ其人心ニ干係スル者ハ、交際ノ学、即チ政治学及ヒ社会学ナリ、此学ハ人心ノ法則ヲ以テ、増大セル社會ノ上ニ貼用セル者ナリ、此他又言語学ヒロコイアリ、即チ全世界ノ言語ノ理論ニシテ、兼テ目今人ノ言フ処ノ国語ヲ彙類スル者ナリ、

〔四十二章〕以上ニ述フル処ノ学科ハ、未タ知識ノ全体ヲ尽スコト能ハズ、更ニ習行上ノ学プラチカルサイエンストイフ者ナリ、

最後ニ記スベキ知識ハ、習行、即チ行為ノ先導タル所ノ学ナリ、此学モ人類ノ要須ニ応シテ幾多ノ部類アリ、而シテ又多少ノ知識ノ精密ヲ要スル者ナリ、此学ノ一名ヲ術アト云フ、

知識ノ形相ニ依リテ考フルニ、此術ハ実験上ノ術、又ハ学科上ノ術ト名クベキ者ナリ、実験上ノ術ハ専ラ其術ノ練習ニ由リテ得タル所ノ知識ノ進ミタル者ナリ、凡ソ術ハ、学トナル以前ハ何レモ皆実験ナリ、例ヘハ農業、航海、冶金ノ如キ是ナリ、此外ニ尚実験ノ術アリ、医学ノ大部ノ如キ是ナリ、

若シ学ヲ以テ術ノ上ニ加フルトキハ、其術ハ学科上ノ術トナルナリ、航海術ノ如キ、数学、動機学、天文学、視学、氣象学ヲ以テ之ヲ助クルトキハ、学科上ノ術トナル、土木術、建築術、染術、及ヒ一般ノ工術ノ諸派ノ如キハ皆学科上ニ立ツ処ノ術ナルヲ以テ、之ヲ学上ノ術、

即チ習行上ノ学ト名クルナリ、其他此学ノ殊ニ人心ト相結合セル者ハ、道德学、洛日克(習行ノ上ヨリ見タル所)、味道学(美学)、文法学、教育学、政治学、法理学、法律学、理財学ノ如キ者、皆是ナリ、

今記シタル諸学(道德学以下)ハ、或ハ理論上ノ結聚学、或ハ習行ノ学ト称スベキ者ナリ、其表様ノ状ニ由リテ、或ハ理論上ノ結聚ニ属スル者アリ、或ハ習行ノ学ニ属スル者アリ、故ニ政治学ハ政治ヲ教フル処ノ順序アル形体ニシテ、其根元ノ真理ヨリ間断ナク開達セル者ナルコトハ、動機学、化学、心学ト相似タリ、此学ハ殊ニ為政ヲ以テ目的トシテ編制シタル者ニシテ、政治ノ術ノ為メニ根理及ヒ指向ノ一揃ヲ造立シタル者ナリ、而シテ又多少ノ学科上ノ教義ト総概ノ推理トノ補助ヲ假ル者ナリ、此注目ハ理財学、法理学、道德学ニ於テモ亦適合スベキコトナリ、

〔四十三章〕習行ノ学ニ於テハ、其知識ハ、専ラ其見込タル事物トノ干係ヲ以テ選擇整排スル者ナリ、故ニ習行ノ学ノ定義ハ其目的ドモニ在ルナリ、

理論ノ学(抽象結聚共ニ)ト習行ノ学トハ、其題目ノ選擇ニ付キテ大ナル差異アリ、甲ノ学ニ於テハ、其知識トナル者ハ殊ニ天然ノ現象ノ或ル部ヲ目ザスコトニテ、即チ運動、生活、心ノ如キ是ナリ、乙ノ学ニ於テハ、其知識トナル者ハ、理論ノ学ノ中ヨリ選擇セル者ニシテ、之ヲ以テ其自己ノ目的ニ適合セル順序ヲ以テ排列スルナリ、

理論ノ学ニ於テハ、殊ニ節畧シテ且ツ理會シ易キ姿ヲ以テ、同種類ノ現象ノ一羣ニ関セル知識ヲ得ルナリ、而シテ其知識ハ諸種ノ術ニ貼用スベキモ、単一ナル一個ノ術ヲ限リテ貼用スベキ者ニ非ザルナリ、習行ノ学ニ於テハ、其知識ハ其企謀セル術ヲ助クルヲ以テ主要トスルコトナリ、

習行ノ学ノ定義ハ其目的ニ在リト云フコトハ、亜立士度徳カ其論說ニ於テ主持スル所ナリ、故ニ徳学ニ於テ、余ハ最初ニテロス、即チ道德ノ目的ヲ定メ其上ニ道德ニ関セル種々ノ意見ヲ帰宿セシムルナリ、洛日克ハ、理論ノ方ヨリ言フトキハ、其天然ノ分際デバメントヲ論定スル者ニシテ、習行即チ術ノ方ヨリ言フトキハ（実験上ト學術上下共ニ）其目的ヲ以テ論定スルコトナリ、

（丁）洛日克ノ定義、及ヒ其範圍ニ付キテ種々ノ意見

〔四十四章〕洛日克ハ第一ニハ推理ノ術ト名クベク、第二ニハ推理ノ術及ヒ学ト名クベシ、

第一ノ説ハ「アルドリック」ノ定義ニシテ、第二ノ説ハ准多利ホトリイノ改正説ナリ、両説共ニ洛日克ニ習行ノ性アルコトハ之ヲ許セリ、第二ノ説ニ於テハ、習行ハ学ヲ以テ根基トスル者ナリト云フ義ニシテ、他語ヲ以テ言フトキハ、「洛日克ハ習行ノ学」ト名クベシ、

〔四十五章〕推理トイフ語ハ不十分ナリ、其ハ一個ノ解説ヨリハ多クノ事ヲ受用シ、其ニハ洛日克ノ目的ヨリ言フトキハ、狹隘ニ過グルノ患

アリ、

推理ノ語ハ、或ハ単ニ演繹ニ於テノミ之ヲ用ヒ、或ハ演繹ト帰納ト合シタル全体ノ推度ニ於テ之ヲ用フ、狹キ意ヨリ言フトキハ、洛日克ナル者ハ、演繹ノ推理、即チ推測式ヲ以テ限リトスベキ者ナリ、廣キ意味ニテ、其中ニ帰納ヲモ包含スベキコトナリ、此狹キ意味ハ、通常洛日克ノ論法ニ用フル者ナリ、然レドモ必ス此説ヲ用フベシト主張スル者モ亦至テ少ナシ、帰納法又ハ応用ノ洛日克トイヘル名ニ於テ、帰納ニ属スルコトノ解義ハ准多利ワニトリ、哈米尔敦ハミルトン、覃孫及ヒ其他ノ諸家ノ考案セル処ナリ、

又洛日克ノ最廣キ意味ヨリ言フトキハ、推理ノ語ハ猶狹キニ過ギタリ、余儕、洛日克ノ書ニ於テ、常ニ推理ノ語ヲ以テ包括スルコト能ハザルノ題目アルヲ見タリ、彙類、定義、区分等ノコトハ、推理ノ内ニ包括シ難キ者ニシテ、各其規則ヲ有シ、或ハ善ク成就シ、或ハ悪ク成就スル者ナリ、余儕ハ「洛日克ニ属セル」トイフ語ヲ定義并ニ確言ニ之ヲ用フルナリ、

〔四十六章〕其三洛日克ヲ以テ「思想ノ法則ノ学」ト為ス、

此解義ハ前ニ出セル推理ヲ以テ洛日克ト為セル狹隘ノ見ヲ療スベキ者ナリ、思想ト云ヘル語ハ洛日克ノ中ニ包含セル心ノ働ヲ蓋フ二十分ナル廣サアリ、加之、思想ハ猶洛日克以外ノ事ヲモ為ス者ニシテ、凡ソ識性ト同在セル心ノ働ハ、皆其中ニ包括スルヲ得ルナリ、彼記

憶トイヒ想像ト云フガ如キハ皆思想中ノ一分ナリ、故ニ思想ノ語ヲ  
専ラ洛日克ノミニ用ヒントスルトキハ、「道理ニ立テノ思想<sup>チスカシ</sup>」又  
「精密ニ仕上タル思想<sup>エラホレチ</sup>」<sup>フ、サウト</sup>等ノ語ヲ用ヒテ其意味ヲ狹隘ニシ、思  
想ヲ以テ特ニ學術上ノ働ヲ為シ、専ラ真理ヲ得ル所ノ性能トシテ考  
ヘザルベカラズ、此ノ如ク考ヘタル所ニテ、思想ハ二様ノ働アル者  
ト為ス、其一ハ抽象ニシテ、其二ハ推理ナリ、而シテ抽象ト名クル  
力ハ廣キ意味ヲ用フルモ、猶其全部ヲ蓋フコト能ハザルナリ、  
此ノ如ク思想ノ語ニ其界限ヲ立ルモ、「思想ノ法則」ト云ヘル語ハ、  
猶他ノ駁論ヲ受クルコトヲ免カレザルナリ、乃チ思想ノ法則ノ語ヲ  
明白ニ解説スルトキハ洛日克ニ属スルヨリハ、寧ロ心学ニ属スルヲ  
以テ適當トスベキニ似タリ、思想ノ法則、又ハ思考ノ法則ト云フト  
キハ、自然ニ心学ニ於テ吾等ノ思想ノ起發連続法則ヲ指定スルコト  
トナリ、即チ想念ノ伴生ノ法則ヲ解説スルコトトナルナリ、  
此困難ハ畢竟思想ノ法則ト云フ語ヲ勝手ニ解説スルニ由リテ起ル  
所ナリ、或人ハ正格ナル言語ヲ以テ此語ヲ解説シ、以テ其困難ヲ避  
ケンツレドモ、猶全ク混雜ヲ免カル、コト能ハザルナリ、問、思  
想ノ法則トハ、思想ニ有スル所ノ法則ナルカ、又ハ思想ハ此ノ如ク  
ナラザルベカラズト云フ法則ナルカ、モシ思想ノ法則ハ此ノ如キ者  
ナリト言フトキハ、純粹ナル心学ナリ、若シ思想ハ此ノ如クナラザ  
ルベカラズト言フトキハ、心ノ自然ノ發動ヲ制馭スル為メニ、或ル

原理ヲ用ヒザルベカラズ、此原理ハ、洛日克ノ為メニ最要ノ元質ニ  
シテ、明白ニ論定セザルベカラザル者ナリ、

以上記スルカ如キ種々ノ解説ヲ費シテ、初メテ「思想ノ法則」トイ  
ヘル意味ノ疑ハシキ成語ヲ解擇スルコトヲ得ルナリ、若シ此語ニ適  
当ノ界限ヲ施ストキハ、今言フ所ノ意義ニ適合セル成語ヲ作ルコト  
ヲ得ベシ、故ニ「思想ハ此ノ如クナラザルベカラズ」ト言フトキハ  
適當ノ思考トナルコトナレドモ、又其思想ニ付キテ準度ヲ示サズル  
ベカラズ、而シテ其準度ハ真理ナルカ虚偽ナルカノ界ニ在ルコトナ  
リ、<sup>(ハミルトン)</sup> 哈米爾敦曰ク、思想ノ目的ハ真理ニ在リト、是ナリ、

「四十七章」其四ハ洛日克ハ「真理ヲ追趕スルニ於テ、了識ノ働ノ学」  
ト定義ヲ為ス者アリ、

此定義ニ付キテ三個ノコトアリ、其一ハ洛日克ハ学科ノ法ヲ以テ為  
セル習行<sup>プラクテス</sup>ノ分際ニシテ、即チ習行ノ学ナリ、其二ハ凡ソ習行ノ学  
及ヒ各個ノ術ハ、学科ニ関スルト關セザルトヲ問ハズ、皆夫々ノ目  
的ヲ有セザルベカラズ、而シテ洛日克ノ目的ハ真理ヲ得ルニ在リ、  
其三ハ此追趕ニ於テ用フル所ノ方法ハ、人類ノ了識ノ働ノ中ニ之ヲ  
考究スベキコトナリ、

第一第二ノ説ハ、之ニ反對論ヲ發スルコトハ至テ難シ、洛日克ハ現  
今考究シタル処ニテ、或ル理論上ノ形相ヲ有スルハ疑ナキ所ナリ、  
然レドモ其主要ナル目的ハ習行ニ在ルナリ、若シ真理ヲ求ムル為メ

ニ学科上ノ考究ハ必要ニ非ズトスルトキハ、落日克トイフ者ハ、成立スルコト能ハサルベシ、

第三ノ説、即チ洛日克ノ方法ハ了識ノ働ノ中ニ於テ之ヲ求ムベシト云フコトハ、或ル一个ノ方法ナリトシテ之ヲ許スベキモ、此学ニ必須ナル單純ノ方法ナリト定ムベカラズ、

〔四十八章〕 上文ノ定義ハ眞理ノ種類ニ由リテ少シク改調セザルベカラズ、眞理ノ種類ニ二アリ、一ヲ直接トイフ、直覺即チ直接ノ自識ニ由リテ知ル者、二ヲ間接トイフ、他ノ眞理ノ媒介ニ由リテ知ル者ナリ、

此二者ノ區別ハ根元ノ者ニシテ、又必要ノコトナリ、自識上ニ現出セル事實ハ、例ヘハ余ハ飢タリ、余ハ音ヲ聞ケリ、余ハ樂メリ、余ハ談話セリ等ノ如キハ、法則又規則ヲ要スルコトナクシテ、之ニ返答スルコトヲ得ベシ、是等ハ皆其事ノ自体ニ於テ、最後ノ決定ヲ為スコトヲ得ベシ、余儕此ノ如キ知識ヲ避ルコト能ハズ、又此事ノ証拠ヲ他ノ方法ニ求ムルコト能ハザルナリ、上ニ記セル如キ直覺ノ自識ハ、即チ至極ノ「データ」ナリ、

第二ノ種類ハ直覺ノ自識ニ非ズシテ或ル他ノ事實ノ媒介ニ由リテ得ル処ノ眞理ナリ、例ヘバ太陽ガ地上ニ昇リタリト云フコトハ、間隔、即チ間接ノ知識ナリ、其直覺ヲ以テ知ルベキ者ハ光線ノ知覺ナリ、此直覺ノ事實ヨリシテ、他ノ事實、即チ「太陽地平線ノ上ニ在リ」ト云フ事實ヲ推度スルナリ、余ハ「寒氣ヲ感ス」ト云フハ直接

ノ眞理ナリ、他人ガ寒氣ヲ感スルトイフハ間接ノ推度ナリ、直接ノ事實ハ視ト聴トノ知覺ナリ、此知覺ヨリシテ、余ハ他人ガ寒氣ヲ感スルノ事實ヲ推度スルナリ、他人ノ感覺思想ハ總テ此法ヲ以テ之ヲ知ルナリ、

吾身ノ在ラザル時ニ於テ起發セル事ヲ知ルハ、皆間接ノ知識ナリ、又直覺ノ知識ハ總テ現在ノ時ヲ以テ限リトス、過去ノ知識、未來ノ知識ハ皆間接ノ者ナリ、

故ニ間接ノ眞理ハ皆推度ニ由リテ得タル者ナリ、今或ル事物アリテ、其自体ニ於テ知ルコト能ハズ、其事物ニ干係セル第二ノ事物ニ由リテ之ヲ知ルトキハ、其知識ハ間接、即チ推度ノ者ナリ、其時直覺ノ事實ハ今推度セル事實ノ試験、即チ証據トナル者ナリ、今大氣ノ溫度、花氏ノ三十二度ノ下ニ在ルトイフ事實ハ雪ノ降ルトイフ現象ニ由リテ推度スルナリ、雪ハ推度ノ媒介ニシテ、大氣ノ寒冷トナリシ試験、即チ証據トナルナリ、雪ノ溶解スルト云フコトハ、大氣ノ少シ温暖トナリタルコトノ証據トナルナリ、

凡ソ此ノ如キ推度ハ種々ノ現象ト現象トヲ結合スル所ノ系帯ナリ、若シAガBノ証據ナルトキハ、AトBトハ事物ノ天性ニ於テ相結合セル者ナリト知ラザルベカラズ、此ノ如キ結合ノ系帯ヲ保固ニスル為ニハ或ル心ノ働ヲ要ス、即チ觀察、帰納、演繹是ナリ、此働ヲ成サントスルニ方リ、吾儕數々差錯ヲ為スコトアリ、故ニ之ガ力ヲ為メニ

預メ用心ヲ為サバ、ルベカラズ、此用心ハ即チ洛日克ノ規則ナリ、直接ノ真理ニ付キテハ、此ノ如キ用心、即チ規則ハ必要ノ者ニ非ズ、此事ニ関シテ生スベキ主要ノ差錯ミステ（差錯ハ数々誤謬エラーノ根元トナル）ハ、直接ノ真理ト推度トヲ混淆スルニ在リ、余儕ハ専ラ推度シテ知ル所ノ事物ヲ直接自識スト云フコトヲ得ルナリ、最モ著ルキ一例ヲ挙クレバ、余ハ距離チスタヲ見ルト云フコトヲ自信ス、然レドモ其実ハ（巴黎パリケレイ其他学識アル衆人ノ説）全ク距離ヲ推度シタルナリ、此時余ノ直接ノ自識ハ唯色ト筋ノ引張運動トニ過ギズ、是等共ニ距離ノ表号サイナレドモ、直チニ是等ヲ以テ距離ノ事実ト為スコト能ハズ、

今爰ニ直覚即チ直接ノ自識ヲ以テ知ルベキ所ノ物アリ、即チ最初ノ状態ナル吾等ノ知覚及ヒ動感ノ如シ、又他ニ推度即チ間接ノ考認ヲ以テ知ルベキ所ノ物アリ、則チ他人ノ感覺、証據ノ事実、学科ノ概括ノ如シ、又其間ニ常々中間ノ地面、即チ両物ノ外端アリテ、直覚ト推度トヲ相混合スル者アリ、又甲ノ人ハ直覚ナリトシ、乙ノ人ハ推度ナリトスル者アリ、此事モ殊ニ名高キ疑問ノ中ニ在リ、神ノ現存ノ如キハ、或人ハ直覚ヲ以テ之ヲ知ル、即チ自識ノ直接ノ暗示ヲ以テ之ヲ知ル、此判断ハ先天ニ属セリ、或人ハ意思ヨリ之ヲ推度セリ、此判断ハ後天ニ属セリ、通常ノ意見ハ此二者ヲ合セタル者ヲ以テ最モ多シトスルナリ、又余儕力有形世界ヲ認識スルコトハ黎德ライド、

哈密尔敦ハ共ニ直覚ナリト考ヘタリ、他ノ諸人ハ之ヲ非トシ、心ヲ留メタル五官ヲ以テ之ヲ直覚スル者ナリト云ヘリ、実ニ知識ノ根元ニ付キテノ反対ノ意見ハ、皆直覚ト推度トノ中間ノ地ニ在ル疑題ナリ、

「四十九章」洛日克ハ専ラ推度ヲ以テ事トスル者ナリトスルトキハ、其定義ハ（彌尔ノ説ニ據リ、前ニ記シタル諸説ヲ改正シテ）左ノ如クナラザルヘカラス、「洛日克ハ了識ノ働ノ学ニシテ、其働ノ証拠ノ價位エスチメーションヲ助ケル者ナリ、」

証據ノ價位ハ、洛日克家ノ大ナル職分ナルハ、明白ノコトナリ、真理ヲ固定スルノ見込ヲ以テ、真偽虚偽ノ試験ヲ為スコトハ洛日克ノ事業ナリ、

洛日克家ハ發明デスカニ付テ告知ヲ為ス者ナルカ、又ハ洛日克ノ試法ニ依レル堅固ナル方法ヲ知告スル者ナルカ、此事ハ公然タル疑問ナリ、彌尔ハ其解義ノ中ニ明白ニ之ヲ言述セザレドモ、其書ノ題目中ニハ左ノ二項ヲ別々ニ掲載セリ、其一ハ「証拠ノ原理」其二ハ「学問上ノ考究ノ方法」是ナリ、

「五十章」現今ノ書ニ於テ洛日克ハ左ノ如クニ之ヲ見ルベキ者トス、

第一ハ 理論ニ属セル抽象ノ学トシテ之ヲ見ル、

第二ハ 試験即チ証據ニ関セル習行ノ学トシテ之ヲ見ル、

第三ハ 真理ヲ求ムルノ助トナル方法ノ体トシテ之ヲ見ル、

第一洛日克ハ前ニモ言ヒタルガ如ク、凡テノ肯定ニ付キテ其根元ノ法則ヲ定メ、此法則ヨリシテ推度ヲ為シ、以テ適當ナル形式ヲ作ル者ナリ、此見込ヨリ言フトキハ、洛日克ハ数学ト共ニ理論ノ学ナルヲ以テ、其開達貼用ノ廣サニ至リテハ、大ニ数学ニ及バズト雖下モ、或ル点ニ於テ、一様ノ學トシテ考フルコトヲ得ベシ、推測式ノ進化ハ理論ノ働ヨリ生シタル者ニシテ、此形式ハ演繹法ノ最勝ノ法則、即チ根理ヨリ導キタル者ナリ、又同様ノ方法ヲ以テ原因ノ帰納法ヨリ、帰納排去インダクティフノ規則ニ變化スル所ノ推度ヲ為スコトヲ得ベシ、爰ニ記セル洛日克ノ理論上ノ形相ニ付キ、古代ノ洛日克家ハ之ヲ教示チテシテシテ指導グトノ二者ニ分ツ、教示ハ暗想ニ属シ、指導ハ習行ニ属セリ、近代ニ至リ托摩爾侃及ヒドハモ爾ルハ理論上ノ開發ヲ証例シテ解説シ、又洛日克ト数学ト密ニ同一ノ所アルコトヲ説キ、二者ヲ以テ勝レタル抽象ノ學トセリ、

第二洛日克ヲ以テ、試験即チ証據ニ属セル習行ノ學トスルコトハ、凡ソ理論上ノ洛日克ノ決定ハ、真理ト虚偽、完全ノ証據ト不完全ノ証據トヲ區別スル所ニ其價位ヲ有スル者ナリ、此事ハ推測式并ニ帰納ノ排去、及ヒ定義ノ理論等ノ必要ノ部ナリ、托摩爾侃及ヒハ爾ノ理論ノ開達ハ、余儕ノ知識ノ現今ノ状態ニ於テ洛日克ニ貼用スルヨリハ、更ニ其上ニ超出セル者ナリ、故ニ二人ノ説ノ如キモ、譬ヘハ二千年以來用フルコトナキ円錐分コニクノ如ク、此精密ニ構成セル形

式モ一旦習行ノ説ニ反轉スルニ至レルナリ、

現今ノ書ニ據ルトキハ、証據ノ方法トイフ者ハ、廣闊ナル円鑲ヲ有スル者ニテ、演繹モ帰納モ共ニ其内ニ包含スルナリ、其道理ハ左ノ如シ、其一ハ帰納法ハ適當ニ言フトキハ、凡テノ知識ノ根基トナル者ナリ、其二ハ、帰納ノ法モ數ト誤謬ニ罹ルコトアリ、而シテ之ヲ改正シ得ベキコトハ、恰モ演繹法ノ誤謬ニ同ジ、其三ハ、洛日克ノ利便ヲ以テ專ラ演繹ニ限レルトスル者ハ古來ノ著述ニ徴スルモ其數甚タ少ナシ、

第三洛日克ハ方法メソト即チ辨理プロセノ形体ナリ、洛日克ハ真理ヲ試ムルコトニ於テモ、亦之ヲ開發スルコトニ於テモ、共ニ余儕ノ了識ヲ助クル者ナリト云フコトハ、已ニ適當ノ説ナリトシテ之ヲ允許スル所ナリ、若シ其法、総概ノ法ニシテ、凡テノ學問知識ニ適スベキトキハ、殊ニ然リトス、但シ特別ノ学科ニ適用セル特殊ノ意義ヲ混合スル者ハ此限ニ非ザルナリ、

洛日克ヲ以テ方法ノ用ト為スノ説、此外ニモ猶許多アリ、哈美尔敦ガ「思想ニ於テ默識シ居ル者ヲ、論説ニ於テ之ヲ公白セシムル」トイフガ如キモ亦其一ナリ、通常ノ推理ニ於テハ屢々遺漏缺失アリ、困難曖昧ニ逢フニ及ビテ初メテ此遺漏ヲ補給スルコトノ要用ナルヲ知ルナリ、

方法説ノ第二點ハ推理ノ証論即チ連鎖ヲ以テ決定不決定ヲ心ニ現

ハス容態ナリト稱スベキ者ナリ、推測式ハ此用法ノ大ナル者ナリ、然レドモ推測式ヲ以テ限リトスル者ニ非ス、帰納ノ元則ハ、帰納法ヲ用ヒテ事實ヲ識定スル為ノ方法ニ付キテ十分ナル説ヲ與フル者ナリ、而シテ此試定法ヲ以テ適當ナル綱領ノ下ニ從ハシムルトキハ余儕ハ明カニ幾許ノ量ニ至ルベキカト云フコトヲ知り得ベシ、是ト同様ナル元則ニ據リテ、試験ノ何ノ種類ガ此場合ニ於テ注目セルルカト云フコトヲ知り得ベシ、

更ニ方法ノコトヲ説カンニ、吾心ヲ以テ、已ニ知リタル事實、及ヒ前提ヲ吾心ニ發現セシメ、以テ其中ニ包容スル決定ヲ報告シ、又ハ默識セル事物ヲ發シテ証論トナス為メニ或ル方法ヲ有セリ、此方法ハ發明ヲ為スニ至テ慥ナル援助ナリ、

思想ノ伴生ノ法則ハ、演繹及ヒ帰納ノ發明ヲ助クル為メニ貼用スベキ者ナリ、演繹学ノ大目的ハ事實ト原理トノ二者ニシテ、共ニ真理ノ大數ヲ開發スル為ノ用ヲ為ス者ニシテ、而シテ識性ノ力ハ或ル方法ノ姿態ヲ引受ルニ由リテ、援助ヲ得ル者ナリ、

余儕ハ最後ノ附録ニ於テ洛日克ノ方法ヲ以テ、發明ノ術ト為シテ、之ヲ論述スルコトアルベシ、

(戊) 洛日克ノ区分

「五十一章」知識ヲ發見シ、及ヒ証明スル為メニ四個ノ主要ナル働アリ、其一ハ事實ニ関セル者ニシテ、其二ハ事實ノ概括ニ関セル者ナリ、即チ

第一ハ觀察、此中ニ經驗ヲ包含ス、第二ニ定義、即チ抽象、第三ニ帰納、第四ニ演繹ナリ、

(壹) 觀察オクサ

「五十二章」若シ總テノ学科及ヒ題目ニ通シテ觀察スルノ規則アルトキハ觀察ハ帰納ノ洛日克ノ一分ナルベシ、

事實ヲ確固ニスルコトハ、凡テノ学科ニ付キテ根基トナルコトナリ、

是ヲ為サントスルニハ、觀察及ヒ經驗ニ依頼セザルベカラズ、有形世界ノ事物ニ付キテハ、此二者ハ覺官ノ働ニ由リ、主体ノ心ニ付キ

テハ、自識ノ力ヲ假ラサルヘカラズ、四個ノ主要ナル働ノ中ニ於テ、

洛日克ノ為メニ、觀察ハ其留意スルコト多カラザル者ナリ、モシ觀察トイフ者、全ク直覺ノ者ナルトキハ、(一分ハ直覺ノ者ナリ)觀察ハ尽ク洛日克ノ外ニ驅出スベキ者ナリ、然レドモ觀察ハ実ニ直覺

ヨリハ許多ノ事ヲ為ス者ナリ、

凡ソ余儕カ事實又ハ觀察ト名クル者ハ、罕レニハ單一ナル自識ノ印象ヲ為スコトアリ、余儕今リス黎斯ノ高潮ハ、倫敦ノ高潮ヨリ其時間ハ少シク後ニ在リト云フ事實ヲ話ルベシ、此事ハ覺官ノ上ニ感スル單

一ノ印象ノ外ニ在ルコトナリ、此事ハ廣キ界圍ノ概括ニシテ、種々ノ觀察ヲ比較シタル結果ナリ、即チ或ル高等ノ概括ニ干係セル事實

ナリ、即チ此地球ノ上ニ消長セル潮汐ノ法則ニ干係セル者ナリ、此ノ如キ事實ヲ確固ニスル為メニハ、帰納ノ働ヲ要スルコトニテ、凡

ソ試験ヲ慥ニスベキコトハ、皆之ヲ使用スルナリ、穀倉ノ戸ノ前ニ在ル牝雞ガ其雛ナル卵ヲ生シタリト云フコトハ、同シク帰納法ノ概括ナリ、此事実ヲ確固ニスル為メニハ、幾多ノ觀察ヲ用ヒザルベカラズ、獨リ單一ノ成分ヨリ出テ、更ニ廣キ所ノ概括アリ、然レドモ其差異ハ唯概括ノ度ノ高低ノ差異ニ在ルノミナリ、

觀察ニ付キテノ最後ノ意見ヲ述フルトキハ、觀察ナル者ハ窮屈ニ言フトキハ、<sup>○</sup>單獨（インデビ  
エルサレム）ノ者ナリ、此ノ如キ歴史上ノ事件ニ於テ之ヲ見ルベシ、即チ耶路撒冷ノ攻取ノ如キハ單獨ノ働ナリ、然レドモ此働ハ

直覺ニ非ス、其故ハ今予ハ北方ヲ指ス磁針ヲ觀察スト言フトキハ、余ハ覺官ノ上ニ受タル印象ヲ以テ以前ノ知識ヨリ得タル推度ノ中ニ包括ス、余儕ノ磁針ニ就テ見ルコトト磁針ノ方位ハ北ニ在ルトイフコトヲ知ルハ、従前ノ知識ヨリ生スル者ナリ、故ニ單一ナル觀察ハ、直覺ト推度トノ混合ナリ、而シテ余等ガ此二者ヲ結合スルノ習慣ハ、觀察ノ働ニ誤謬ヲ生スル原因ノ一個ナリ、

凡ソ觀察ハ何レモ皆（有形界ニ就テ言フ）覺官ノ習練ヲ要スベキコトナリ、觀察ノ精密ナルハ、覺官ノ分別力ノ精密ナルナリ、凡ソ覺官ノ鋭敏ナル者ハ、一分ハ天性ニシテ、一分ハ特別ノ物体上ニ為ス習練ノ結果ナリ、天象ノ觀察者ハ、觀象臺ニ於テ習練ノ、格物者化學者ハ、各其工場ニ於テ習練シ、解剖家ハ其解剖室ニ於テ習練シ、博物家ハ或ハ山野或ハ博物館ニ於テ習練シ、医者ハ病院ニ於テ習練

ス、

覺官ヲ以テ分別スルノ外ニ、良善ノ觀察者ハ、更ニ推度ト觀察トノ混合ヲ防ギ、以テ其欺罔ヲ避ケンコトヲ學ブナリ、又高等ナル精密ヲ得ンカ為メニ或ル工術上ノ規則及ヒ其豫防ヲ學ヒ知ルナリ、例ヘバ觀察ヲ反復スルト比較スルトノ如キ、中數ヲ取ルガ如キ、器械ノ偏重ノ原因ヲ除キ去ルガ如キ者ニシテ、是ニ數學ノ信ズベキ或ル形式ヲ加フルナリ、其形式ハ觀察セル事實ノ堅固ヲ得ル為メニ更ニ其助トナル者ナレバナリ、此規則ハ又大抵種々ノ主觀ニ付キテモ適合スル者ナリ、

「何ヲ觀察ト云フ」コトヲ知ルハ、何レノ学科ニ於テモ特別ノ陪伴（アッフェバ  
ニメント）ナリ、所謂觀察トハ、錯雜セル夥中ヨリ、其主要ノ形相ヲ選擇スルコトナリ、古來ヨリ過キ去リシ処ノ世界ノ人民ノ數ハ其多キコト殆ント海濱ノ砂ノ如シ、政治學家歴史學家ハ、此無數ノ人民中ニ於テ、政治學ノ元極トナルベキ事ヲ政治學ノ事實トシテ之ヲ注意シ記載スルコトヲ務ムルナリ、此ノ如ク政治學上ノ觀察ニ用フル力ノ名ヲ、或ハ分析シタル推理ト云フナリ、此ノ如キ識性ノ能力ハ、工術又ハ規則ノ助ヲ假リテ成ル者ニ非ルナリ、

凡ソ學問ナキ心ニテハ、屢々觀察ニ誤謬ヲ生スル者ナリ、觀察ヲ習練スルハ、普通ノ觀察ニ於テモ、一学科ニ於テ習練ヲ為スト同様ノコトナリ、凡ソ教育ヲ受タル人ハ、少ナクモ觀察、即チ經驗ノ學ノ

一科ニ付キテ、習行上ノ手術ヲ知ラザルベカラズ、所謂觀察ノ學トハ、博物學、格物學、化學、生體學ノ如キ是ナリ、或ル洛日克家ハ、洛日克ノ範圍中ニ歸納法ヲ加フルコトヲ非ナリトシ、歸納法ハ各箇ノ學科ニ別々ニ存スル者ナリト言ヘリ、此語ハ觀察ニ付キテ論スル說ヲ反復シタル者ナリ、觀察ト歸納トハ其場合同シカラズ、觀察ノ方法ハ學科ノ異ナルニ從ヒ差異アリトイヘドモ、歸納ノ方法ハ、觀察ノ如ク差異アラズ、天文学ニ於テノ歸納法ハ化學生體學心學ニ於テノ歸納法ト異ナルコトナシ、歸納ノ問題ノ區別ハ、歸納ノ學科ヲ分タザル所ノ區別ナリ、故ニ歸納ニハ普通ノ洛日克アレドモ、觀察ニハ普通ノ觀察アルコトナシ、

(貳) 釋義テフヒニ

〔五十三章〕釋義ハ或ハ單一ナル性質ヲ限リトシテ之ヲ概括シ、或ハ許多ノ性質ヲ合セテ一夥ト為シ、以テ之ヲ概括スル所ノ働ナリ、釋義ハ、概括セル働ノ最初ノ者ニシテ、又單一ノ者ナリ、今各個ノ事物ヲ取り、其單一ナル性質、即チ円ノ如キ、白ノ如キ、重ノ如キ辛辣ノ如キ者ヲ以テ互ニ比較スルトキハ、其結果ニ於テ一ノ總念○ヲ作ル、其總念ハ即チ釋義ナリ、故ニ此總念ナル者ハ、混合セル者、即チ一致セル許多ノ点ヲ表出シタル者ニテ、例ヘバ「生活」トイフ念ノ如シ、然レドモ此生活トイフコトヲ許多湊合スルモ、生活トイフ念ハ、猶總念タルコトヲ失ハズ、

總念ノ見込ヲ以テ為シタル概括ノ働ハ、左ノ形相ヲ取ル、曰ク彙類曰ク抽象曰ク概括名曰ク釋義是ナリ、此中ニ於テ最後ノ釋義トイヘル語ヲ以テ、以上ノ諸語ノ代理トシテ之ヲ引受クルナリ、

單一單純ノ態ヲ以テ比似ト概括トノ働ヲ見ルコトハ、此部分ニ於テ之ヲ説キ、他ノ働ト結合シテ現ハル、概括ハ次ノ部分ニ於テ之ヲ説クナリ、

總念ハ總テ「分解」テフヒニト名クルコトト相干係スル者ナリ、而シテ此分解ナル働ガ總念ノ概括ト相連結スル所以ハ、下文ニ於テ畧説スベシ、

分解ハ抽象ノ添加物ニシテ、且ツ其結果ナリ、分解ノ語モ二様ノ意義アリ、其一ハ具体ナルコト實物ヲ分解スルコトニテ、例ヘバ水ヲ分解スルニ於テ其水中ニ包含セル塩分ト汚穢物トヲ分離スルガ如シ、此事ハ至極ノ知識ト精密ノ手術ヲ要スル所ノ巧ミナル工事ナリ、又此事ハ実ノ分解ニシテ、其混合物ヲ取り、之ヲ別々ニ為シテ見スルナリ、

分解ノ第二類ハ、抽象ヲ以テ為ス所ノ分解ナリ、此法ハ全ク心知上ノ働ニシテ、其混合物ヲ分離シテ見セシムルコト能ハズ、余儕今抽象法ニ依リ、重量、流動、透明、屈折力、溶解力ノ如キ種々ノ性質○(何レモ水ニ付テ言フ)ヲ考フルトキハ、余儕ハ吾心ノ中ニ於テ、水ト名ケタル(純清ナル)具体物ヲ分離シテ、種々ノ性質ト為スナ

リ、然レドモ其実ハ之ヲ分解スルコト能ハザルナリ、此ノ如ク見ルトキハ水トイフ物ハ、之ヲ幾夥ニ分チテ之ヲ彙類スルコトヲ得ル者ニシテ、其一分ハ皆水ノ属性ト名クル者ナリ、故ニ水トイヘル具体物ハ、種々ノ力ノ集合結聚セル者ニシテ、若シ其力ヲ別々ニ述ブルトキハ其具体ハ抽象様心智上ニ於テ分解スルコトヲ得ベキモ、真実ニ之ヲ分解スルコトヲ得ザルナリ、

故ニ分解ハ概括ノ属性ナルヲ以テ、常ニ概括ヨリ成長スルナリ、或ハ彙類シ、或ハ概括スルノ行為ハ、其天性ヲ抽象様ニ分割スルコトナリ、若シ余、時令ヲ彙類スルニ、或ハ円体ヲ以テシ、或ハ白体ヲ以テシ、或ハ直径ヲ有スル体ヲ以テシ、或ハ銀ニテ造レル体ヲ以テシ、或ハ貨幣タル体ヲ以テスルトキハ、余ハ此具体セル時令ヲ、円、白、大、物質、貨幣等ノ属性、即チ抽象ニ由リテ分解スルナリ、原因ノ排除及ヒ生産ノ能力ハ皆帰納ノ問題ノ一部ナリ、若シ是ヲ為サントスルニハ心ヲ以テ先項ト分離セシメザルベカラザルヲ以テ、亦準備セル分離ヲ以テ必要トスルナリ、今或ル不潔ノ水ハ病ヲ生スル源ナルコトヲ発見スルトキハ、最初ニ先ツ其水ヲ分解セザルベカラズ、而シテ此水中ニ種々ノ物質ノ混合スルヲ見ルマデハ其中ノ如何ナル成分ガ毒ヲ有スルカト云フコトヲ穿索スル能ハザルナリ、此例ハ具体ノ分解ニ適用スベキコトナリ、又余儕、石灰ガ水ニ溶解スルノ原因ヲ穿索スルトキハ、余ハ心ノ中ニ分離スベカラザル水ノ性

質ヲ分解セザルベカラズ、余儕ハ化学親和力ヨリシテ、水ノ溶解力ヲ區別セザルベカラズ、然ル後ニ此二者又ハ或ル性質ヲ考究スルコトニ進ムハ、石灰ノ溶解ノ先項ナリ、

#### (參) 帰納

〔五十四章〕 帰納ハ単一ノ場合ヲ注目スルニ方リ、結合セル性質ヲ概括スルコトナリ、

帰納ニ於テ、余ハ常ニ二個ノ事実、又ハ二個ノ性質ノ判言、即チ一致ヲ以テ之ヲ為ス、此事ハ単一ナル性質ヨリ成レル總念トハ全く相反セル者ナリ、

「鉄ハ隕石ノ性質ヲ引受ク」トイヘルハ、鉄ト磁石トノ二個ノ性質ヲ結合シタル總念ノ判言ナリ、此念ノ中ノ一個ノミニテモ単一ニ釋義ヲ定ムルコトヲ得ベシ、然レドモ帰納ノ法ト為スコト能ハザルナリ、釋義ト帰納トニ共通スル状態ハ概括ナリ、单个ニ離立シタル場合ハ、判言上ノ結合ヲ為シ得レドモ、帰納ヲバ為スコト能ハザルナリ、「此磁針ハ鉄ヲ以テ造リタル者ナリ」トイフ判言ハ、帰納トハナラズ、其故ハ此判言ハ単一ノ事実ヲ言ヒタル者ナレバナリ、

学科ノ考究ノ大部ハ、帰納法ノ概括ニ由リテ成ル者ナリ、此時ハ、總念ハ帰納ノ判言ノ為メニ切要ノ成分トナルナリ、

#### (肆) 演繹

〔五十五章〕 演繹ハ帰納ノ貼用ト廣延トニ付キ、新ナル場合ヲ與フル者

ナリ、

今総概ノ判言ヲ為ストキハ、之二次ケル働ハ、其判言ヲ以テ新ナル場合ニ持来スコトヲ得ルナリ、余儕ハ帰納方法ノ助ニ由リテ「鉄ハ磁気ヲ有セル物質ナリ」ト云フコトヲ満足ス、而シテ余儕ハ又判言ヲ以テ(望マレタル時期ニ於テ)鉄ノ單獨ノ標本ト為ス、是ニ由リ、全世界ノ鉄ヲ聚メテ考フルニ、皆此判言ノ下ニ置クコトヲ得ベシ、然ルトキハ、地球ノ磁気ノ原因ヲ指定スルコトヲ得ベシ、此方法ハ演繹ノ働ニシテ、推測式ヲ以テ之ヲ開達スルコトヲ得ル者ナリ、

○此(戊)号ニ録セル洛日克ノ区分中ニテ、觀察ハ洛日克ノ一分ト為スベキ者ニ非ザルヲ以テ、其題目ハ三個ニ帰セサルコトヲ得ス、其一ハ釋義、其二ハ帰納、其三ハ演繹是ナリ、然ルニ此釋義ヲ以テ始め、演繹ヲ以テ終ルトイヘル順序ハ、之ヲ解説スル為メニ甚々都合ヨキコトナリ、若シ洛日克ヲ以テ最初ニ学ブコトナシ、即チ瓊克<sup>クラーク</sup>的ノ説ニ依リテ此学ヲ為サントスルトキハ、此順序ハ全ク天然ノ順序ナリ、然レドモ其景況ニ由リテ此順序ヲ反轉スルコトアリ、即チ演繹帰納釋義トナスコトナリ、亜立士度德ハ自身ハ此学(洛日克)ノ諸部ヲ尽ク研究シタリシナレドモ、其最モ力ヲ用ヒシハ、推測式ニ在リ、是ヲ以テ其門人等ハ帰納ト積義トヲ棄テ専ラ推測式ノミヲ研究セリ、其後帰納釋義ノ二部ノ再興スルニ及ビ、是ヲ以テ推測式ノ後ニ在ルベクシテ、前ニ在ルベキ者ニ非ズト定メタリ、

其他ニ此順序ヲ反轉サスルノ理ハ、正格ナル演繹ノ品性ヨリシテ之ヲ為シタル者ニシテ、総概ノ判言ヲ為スハ、帰納ノ法ヲ假ラズシテ、能ク其働ヲ為シ得ベシトイフニ基キタル者ナリ、

「倍因氏洛日克 一」 解題

「倍因氏洛日克 一」は、八二七—一四「倍因氏洛日克」に単独でまとめられている。内題は、「演繹洛日克第一冊」である。

「倍因氏洛日克 一」は、Alexander Bain の著述になる *Logic: Deductive and Inductive* の部分訳である。本書は、もともと *Deductive and Inductive* の二つの部分がそれぞれ独立の書物として、一八七〇年にロンドンで出版されたが、恐らく同じ年に合冊されたものと思われる。というのも、確認できた版は、ニューヨークで一八八七年に出版された改訂であるが、Bain が序文で二つの部分を包含した旨の記述をしており、その年次が一八七〇年となっているからである。

西村が翻訳に際して依拠したものは、合冊本であろうと思われる。それは、「読書次第」において、論理學を学ぶ書物について、ベインのロジックのことを大冊で読みたいとする一方、Whatley の *Elements of Logic* と Jevons の *Elementary Lessons in Logic* を簡易の書であるからどちらかを選ぶのがよいとしているからである。(『増補改訂 西村茂樹全集』第5巻) ベインの論理學書が分冊であれば、これら二書に比べて大冊という程のことはないのである。

確認できた合冊本は、本文として、Part. I Deduction と Part II. Induction の二部門からなり、Part には Introduction や Book I や II があり、Part II には Book III から VI までがある。

西村が翻訳したのは、Introduction だけである。小区分して五五まで番号を付しており、これを章と訳している。

「倍因氏洛日克 一」の内題は「演繹洛日克第一冊」であるが、この冊は原書の分冊を指しているのではなく、他の例に照らして、西村の翻訳の第一冊の意味であり、引き続き翻訳を続ける意図があったと思われる。

ベインの論理學は、「心ノ法則、及び其働キ」(西村翻訳の第二章)を視野に入れており、普通に論理學と考えるものよりは範囲が広がっている。原書の Book V には *logic of the Science* を設けて、数学、物理学、化学、生物学、心理学、分類、実践、政治學、医学のそれぞれ論理學を記述している。

明治十六(一八八三)年に出版されている森田隆智訳「政治論理法」は、この原書の Book V の *Logic of Politics* つまり政治學の部分の翻訳したものである。

「道徳學 Alexander Bain」 「心學及道學」を参照。

緒言

一 本書ハ全ク日本弘道會々員ノ為メニ講演スル所ノ稿本ナリ、近年哲學大ニ本邦ニ流行シ、著書ニ演説ニ、哲學ヲ説ク者甚多シ、然レドモ哲學ハ素ト深遠ノ學ナレバ、一二ノ西人ノ著書ヲ以テ其全骸ヲ尽クスコト能ハズ、況シテ譯書ノ如キハ、能ク原書ノ真意ヲ寫シ出セル者ハ極メテ少ナシ、是ヲ以テ世ノ哲學ト稱スル者、或ハ其論ノ一偏ニ僻スル者アリ、或ハ全ク誤謬ヲ免カレザル者アリ、余常ニ之ヲ憂ヒ、哲學ノ真面目ヲ寫シテ人ニ示サント欲シ、哲學ノ書ヲ讀ム毎ニ其ヲ摘録シテ數卷ヲ成セリ、然レドモ其稿本蕪雜ニシテ且ツ遺漏多ク、未タ以テ人ニ示スニ足ラズ、此比英國人ラツトホルドトムソ  
 ンノ著ハセル哲學大全ヲ得タリ、其書ハ千八百八十七年（明治二十年）倫敦ニテ發行セル者ニシテ、古來ヨリ哲學名家ノ説ヲ網羅シテ殆ンド完備ヲ為シタル者ナリ、余因テ此書ヲ以テ原本ト為シ、又嘗テ摘録セル所ノ草稿ヲ参考シ、以テ此講筵ヲ開クコトト定メタリ、  
 一 現今本邦ニテ用フル諸學諸術ノ譯語ハ妥當ナラザル者極メテ多シ、現ニ本講ノ本題タル哲學トイヘル語ノ如キモ、西語ノフヒロソフヒイヲ譯シタル者ナレドモ、甚タ不穩當ノ語ニシテ、文學者ノ嗤笑ヲ免カレザル者ナリ、其他サイエンスヲ科學ト譯シ、フヒジックスヲ

理學ト譯スルガ如キハ皆其本義ニ協ハザル者ナリ、其他此ノ如キ類枚舉ニ違アラズ、然レドモ已ニ習慣ヲ成セル者モ多ケレバ、今遽カニ之ヲ改ムルコト能ハズ、故ニ已ムコトヲ得ズシテ、俗間ノ譯語ヲ用フルコトモアレドモ、講義ノ時ハ務メテ原語ヲ用ヒテ演説シ、怪僻ノ譯字ヲ用ヒザラント欲ス、

一 日本弘道會ノ本意ハ道德ヲ國中ニ弘ムルニ在リ、哲學ノノ如キハ道德ノ為スニ至テ必要ノ者ナレドモ、日本道德ノ教ハ別ニ考究スル所アリテ、專ラ哲學ノ説ノミニ依ルコト能ハザル者アリ、本講ヲ聽ク者ハ余ガ意ヲ誤解セザランコトヲ望ムナリ、

明治二十二年一月 六十二老人西村茂樹識ス

緒言ニ言フ所ノ趣意ヲ以テ此草稿ヲ編輯セシガ後思フ所アリテ弘道會員ニ講演スルコトヲ止メ專ラトムソン氏ノ著書ヲ譯スルコトトセリ、現ニ序論ノ第三解ノ後半ヨリハ專ラ反譯文ノミナリ、因テ題号ヲモ改メテ哲學語解ト云フ、

哲學語解第一冊目錄

序論

第一解 斐洛瑣斐ト云ヘル語ノ解義

第二解 理學(哲學)ノ區分

第三解 理學(哲學)ノ原始

第四解 哲學ノ畧史

第五解 現今英國哲學ノ狀況

哲學語解解稿本一

東京 西村茂樹 手記

序論

第一解

斐洛瑣斐フヒロソフハイ(哲學又理學)ト云ヘル語ノ解義

○斐洛瑣斐(以下単ニ斐フヒロソフハイ 學又理學ト記ス)ト云フ語ハ古來ヨリ學士ノ

用法一定セズ、此語ハ元來希臘ヨリ出シ者ニシテ、其原義ニ依リテ之ヲ分解スレバ智ヲ愛スト云ヘル義ナリ、希臘ノ古賢ピクゴラス比答歐拉曰ク、余ハ自智者ト稱スルコト能ハズ、惟智ヲ愛スル者ト稱シテ可ナルベシト、

此智ヲ愛スルノ原語ハ即チ斐洛瑣斐ナリ、然レドモ智ヲ愛スルヲ以テ

直ニ斐學ト名クベカラズ、智ヲ愛スルハ斐學ノ語ノ根原タルニ過ギザルナリ、古代ヨリ學士ノ斐學ヲ解スル者ノ言ニ曰ク、凡ソ人タル者ハ

誰人モ知識ヲ得ンコトヲ願ハザルハナシ、無知ハ甚タ苦惱ノ者ナリ、

知識ハ甚タ愉快ナル者ナリ、人タル者ハ皆万物ノ現象ヲ以テ困遶セラ

レ、其現象ハ又常ニ變化シテ止ムコトナシ、因テ先其現象ト原因トヲ

知ランコトヲ求メ、多々ノ種類ヲ以テ一個ノ法則ニ帰宿セシメ、更ニ

其方有ヲ以テ、束ネテ一元ニ纏メンコトヲ欲セザルハナシ、此ノ如ク

勉強スルトキハ其事ハ即チ理學ナリ、斯ストイク兌古派ノ理學家ハ斐洛瑣斐ノ

語ヲ以テ三種ノ學ヲ包含スト説ケリ、其一ハ洛日克ロジック、即チ思想ノ學、

其二ハ希日克ヒジック、即チ方有ノ學、其三ハ耶底克エチックス、即チ行為ノ學、是ナリ、

○老尔德倍根ロールドベーン曰ク、人ハ理學(斐學)ノ力ニ依リテ、一方ハ上帝ノ事、及

ヒ吾身ヲ困遶セル方有ノ中ニ進入シ、一方ハ其光ヲ吾身ニ反映シテ、

之ヲ考察スルナリ、是ニ由リ總テ研究スベキ事ヲ聚合シテ之ヲ三個ノ

學ニ帰セシム、一ハ上帝ノ理學、二ハ方有ノ理學、三ハ人類ノ理學、

是ナリ、是ニ由テ視レバ、理學ノ研究ノ對身トナル者ハ一ニ上帝、二

ニ方有、三ニ人類ナリ、此ノ如ク理學ノ意義ヲ擴張スルコト大ニ行ハ

レタリシハ、當時ノ書籍ヲ閱スル者ハ自ラ知ル所ナラン、

○吾等ノ學問ヲ以テ尽ク此三種ノ内ニ包括ストイヘル説ニ付テハ敢テ異

論ヲ發スル者ナシト雖ドモ、其後ニ至リ、此三種ノ上ニ更ニ頭オウ初ノ理學

トイフ者ナカルベカラズ、即チ万有ノ原因ト此學問ノ原理ヲ求メザルベカラズト云フ説起レリ、遂ニ斐學ヲ以テ第一ノ原理ノ學問ホーネストブトイヘル定義ヲ立テ一時一定ノ姿ヲ成セリ、第一ノ原理トハ萬殊中ノ一帰デワシチイトイヘルト同一ノ義ニシテ、全世界ノ万物ノ根元ヲ推極ムルノ意ナリ、是ヨリ以來此學ノ鮮義ヲ為ス者ハ大 約左ノ如シ、曰ク、斐洛學ハ原因及ヒ原理ノ學ナリ、曰ク此學ハ總體ノ學問、總體ノ物象ガ其上ニ安着セル原理ヲ考究スル者ナリ、此學ハ推理ノ力ヲ用ヒ、人智ヲ以テ理會スベカラザル最高等ノ問題ヲ解釋スル者ナリ、曰ク此學ハ人類ノ知識ノ確實ナル根元ヲ經驗シ、又人類ノ知識ノ真理ニ協フベキ價值アルコトヲ確實ニスル者ナリ、曰ク此學ハ万有ノ原因ヲ考究シ、總テノ現事物ヲ束ネテ一元ニ帰セシメ、以テ其性質ヲ確實ニスル者ナリ、曰ク此學ハ特別ナル一科ノ學術ニ用フル者ニ非ズシテ、學問全体ニ通用スベキ者ナリ、人タル者ハ第一ニ事物ノ現象ヲ驗ス、然レドモ此現象ノミヲ以テ満足セズ、必ス其原因ヲ推考シ、既ニ其原因ヲ得タルトキハ、己ガ得タル知識ノ價值ヲ定メンコトヲ求ムルナリ、故ニ斐洛瑣斐ハサイエンス材 表ハバートスベンサー(例言ニ出ツ)ノ母ニシテ、材表ヲ支配スル者ナリ、又材表ノ材表ナリ、哈巴多士邊撒ハ更ニ其義ヲ精密ニ定メント欲シ、概括法セメラヲシノ最高度ノ學問トシ、因テ曰ク、材表ハ一部ヲ總括シタルノ學問ナリ、斐洛ハ全体ヲ總括シタルノ學ナリト、

○以上ノ諸説ニ因リテ理學ノ何物タルカヲ了解スルコトヲ得ベシ、推理

學ノ範圍ノ大小ヲ論ズルニ至リテハ、諸家大ニ其説ヲ異ニスル者アリ、コント坤篤派ノ學士ハ活物學バイオロジイ社會學ソシヤロジイヲ以テ理學ノ内ニ加ヘズ、是ニ反シテヘーゲル黑傑爾派ノ學士ハ理學ノ記録ハ理學ナリト云ヒ、法式ニ因リタル人類ノ想ヲ連續シ、以テ理學ノ全系ヲ作ル者ナリト言ヘリ、覃孫タムソン曰ク理學ノ範圍ヲ定ムルニ左右ノ兩極端ニ走ルコトヲ戒メザルベカラズ、即チ一ハ人類學問ノ全体ヲ包括セントシ、一ハ理學ヲ以テ単ニ無形學メタフィジクスニ限レルガ如ク論ズル者はナリ、吾儕ハ其中道ヲ歩ミ、理學ヲ以テ人類ノ知識ト行爲トノ原理ヲ究ムルノ學問ナリト定メント欲ス、然ルトキハ理學ノ事業ハ左ノ二問ニ答フルニ在リ、曰ク吾等ハ何事ヲ知ルコトヲ得ベキヤ、曰ク吾等ハ何事ヲ為サザルベカラザルカ、曰ク吾等ハ何事ヲ望ムベキカ、是ナリ、

○以上ノ鮮義ニ依リ、理學ガ他ノ學術知識ト異ナル点ハ左ノ如シ、第一知慧ト異ナル所ハ、知慧ハ全ク天稟ニ基シ、理學ハ道理ニ據リテ之ヲ論ズ、第二ナチュエーラル有 學ト異ナル所ハ、万有學ハ万物ノ最初ノ原因ニ達スルコトヲ得ル者ニ非ズ、第三アート技術ト異ナル所ハ、技術ハ原因即チ原理ヲ考究スル者ニ非ズシテ、惟其法則ニ依リテ之ヲ學ブ者ナリ、第四宗教ト異ナル所ハ、宗教ハ證據ヲ尋ネズ、專ラ本尊トスル者ヲ信仰スル者ナリ、第五、通常一般道理ヲ考究スル者(理屈好き)ト異ナル所ハ、彼ハ學問上ノ結構ヲ以テ道理ヲ論ズルコトヲ知ラザレバナリ、

## 第二解

理學ノ區分

○理學ノ名稱ハ上ニ記セルガ如ク、其解義人々異ニシテ、到底一定ノ説ヲ得ルコト難シ、然レドモ諸家ノ解義ヲ通考スルトキハ、其學問ハ大要ハ之ヲ領會スルコトヲ得ベシ、是ヨリ以下理學ノ区分ニ付キテ其綱要ヲ解釋セントス、

○第一 心象學サイコロジイ 心象學ハ現今世間ニ言フ所ノ心理學ナリ、心ノ學ニニアリ、一ヲ無形學メタフヘジツク (墨大希日克) トイヒ、二ヲ心象學サイコロジイ (賽格洛示) ト云フ、無形學ハ專ラ空想ヲ以テ人心ヲ説キ、心象學ハ人心ノ現象フテナヲ知り、又現象ヲ概括スルノ方法ヲ學フ學ナリ、

○近世諸方ニ於テ暗想スベキムレシヨノ理學即チ無形學ヲ賤ム者多ク起リ、之ト同時ニ有形ノ諸學大ニ其勢力ヲ増シ、其考究ヲ精密ニシ、頗ル世人ノ耳目ヲ驚カセリ、又是ヨリシテ心ノ現象ヲ驗シ、種々ノ學科ヲ以テ此學アウグストコ (心象學) ニ結合スルノ方法ヲ考案セリ、法國ニ於テハ奧古都坤篤殊アウグストコニ無形學ヲ嘲笑シ、其大著述ニ於テ、人類ノ天性ハ其尋常社會上ノ生活ニ於テ觀ルコトヲ得ベキ者ナリト論ジテ、大ニ社會學ノ必要ナルコトヲ倡道セリ、德國ニテ更ニ是ヨリ精密ナル考究ヲ為シ、殊ニ知覺ト運動トノ現象ニ付キテハ、詳細ナル解釋ヲ付シタル者アリ、現今德國ニテ行ハルハ心象學ノ課業書ハ、此法ニ依リテ得タル概括説ヲ多シトス、其中或ハ數學ノ法則ニ據リテ説ヲ立ツル者アリ、英國ニ於テ發行セル心象學ノ書ハ徳人ノ考究ニ基キ、更ニ獨立ノ意見ヲ以テ成ル者多シ、

亞米利加及ヒ印度ニ於テモ、心象學ノ研究ハ英國ト其法ヲ同フスル者頗ル多シ、

○心象學者ハ或ハ謂ヘラク、凡ソ心ニ管セル學問ハ無形學家ノ説ヲ採ルコトヲ要セズ、心象學ノミヲ以テ十分ニ之ヲ解釈スルコトヲ得ベシト、然レドモ是等ノ人ノ著ハセル理學ノ書ヲ視ルニ、多ク無形學ノ種子ニ依リテ其礎ヲ成シタル者アレバ、其揚言ト事實トハ全ク同シカラザル者アルコトヲ見ルベシ、今日、世ノ心象學者ハ動モスレバ、自己ノ意見ヲ伸張シ、其反對家ヨリ援助ヲ假ルコトナクシテ、十分ニ其學科ノ全軀ヲ構造センコトヲ求ムル者多シ、然ルニ其結果ノ如何ヲ視レバ、其成功至テ小ニシテ、其深く考ヘタル志謀ハ尚中途ニ懸リテ未タ其帰着スル所ヲ見ズ、其事實ニ至リテハ無形學ヲ信ズル無智者ト其効驗同一ノ度ニ在ル者アリ、然レドモマスタルワルドハ其著ハセルエインサイクロペチアブリタニカニ於テ、撒黎サレイハ其アウトラインスニ於テ、共ニ心ノ存在エキシスア (無形學家ノ主義) ヲ説ケリ、

○現今已ニ少シク心象學ノ志謀ヲ制限センコトヲ望ムノ傾アルニ際シ、更ニ一方ニ於テハ、無形學ノ志謀ヲ大ニシ、完全ナル學問ト為サントスル者アリ、故ニ哈未尔敦ハメルトン、實盾學ロヂイ及ヒ無形學ジツクヲ以テ推度マノ心象學インフレンチアト稱シ、曼塞爾マンセルハ此學ヲ以テ精神ノ真ノ天性ヲ考フル者ト為シ、之ヲ道理上ノ心象學サイコロジイト名ク、若シ無形學家ノ説ヲ十分ニ開暢セシムルトキハ、心象學サイコロジイノ名ヲ用フルヲ以テ真ノ利益トスベキ

カ、或ハ心象學ノ語モ、無形學ノ語ト同様ニ其意味曖昧トナルカ、共ニ未タ知ルベカラザルナリ、

○第二 洛日克ハ古今ノ學士皆之ヲ以テ斐洛瑣斐ノ中ニ加フベキ者

ト定メタリ、此學ノ目的ハ論理ノ智<sup>デスカルテス、インテレクト</sup>ノ法則ヲ考究スルニ在リ、

希臘ノ時ニ於テ、世ノ學士早ク辯論ノ方法ノコトニ注意シ、

亞立士度德<sup>アリストテレス</sup>ノ出ルニ及ビ、拔羣ノ學識ヲ以テ、洛日克ノ術ヲ發明セリ、

其洛日克ハ今日言フ所ノ演繹法<sup>デダク、インテレクト</sup>ナル者ニシテ、此法ニ於テハ、亞立

氏一代ニシテ已ニ完全ノ地位ニ達セリ、世人此洛日克ヲ以テ事理ヲ精

密ニ聚合區分スル為メニ必要ナル學科ト為シ、布拉多<sup>プラト</sup>、亞

立士ノ二派學校ニ於テハ、常ニ之ヲ考究スルコトト為セリ、

○希臘ニテハ、一時大ニ學士間ニ討論辯說ノ流行セシコトアリ、是ニ

於テ洛日克ハ論敵ニ勝利ヲ得ルノ要術ト稱セラレ、法律ニ於テモ教法

ニ於テモ、及其他ノ意見ヲ述ブルニ於テモ、學士ノ集會ニ於テハ之ヲ

用ヒザル者ナキニ至レリ、然ルニ洛日克ニ據リテ得タル所ノ勝利ハ之

ヲ真理ト比較スルニ、其中ニ真理ノ分子ヲ含有スルコト甚多カラズ、

此ノ如クニテハ、終ニハ洛日克ノ價值ヲ墜サンコトヲ慮リ、更ニ良法

ヲ發明センコトヲ求ムル者多シ、然レドモ洛日克ハ人智ノ活動ヲ分析

シテ其判斷ヲ得ル所以ヲ究メタル者ナレバ、其得タル所ノ價值ハ偶然

ニ非ズシテ、實ニ眞價アル者ナリ、故ニ洛日克方簡單ナル方式ヲ以テ

錯雜ナル智力ノ働ヲ指定シタルコトハ學問上ニ於テ甚タ利益アルコト

ト云フベシ、

○凡ソ人ノ知識ハ原理ヨリ降りテ事實ヲ得ルコトアリ、事實ヨリ登

リテ原理ヲ得ルコトアリ、故ニ演繹法ノ洛日克ハ、他ノ洛日克、即

チ學術上ノ發明ヲ以テ得タル洛日克ノ助ヲ假ラザルベカラズ、然ル

ニ古代ノ事物ノ考究ハ偶然ニ出タル者多キヲ以テ、後世ノ經驗觀察

シテ得タル者ニ比スレバ、其確實ナルコト之ニ及バズ、是ヲ以テ後

世ノ考究ハ、亞立氏ノ推測法ト相合ハザル所アリテ、是カ為メニ、

此推測法ヲ疑フ者多ク起ルニ至レリ、此時ニ於テ世人ハ謂ヘラク、

現今世ニ行ハル、所ノ洛日克ハ、一偏ノ學問ニシテ、真理ノ洛日克

ハ更ニ此外ニ在ル者ナリト、故ニ弁論ノ種類ハ、現今ノ推測法ヲ以

テ盡スコトヲ得ベキ者ナルカト云フコトハ當時ノ問題トナレリ、遂

ニ洛日克ノ全躰ノ法則及ヒ大前提<sup>マジョール、プレマイズ</sup>ノ形成ヲ改造シテ學問上ノ考

究ニ適セシメントスルノ志謀、大ニ學士間ニ起ルニ至レリ、

○倍根<sup>ペーレン</sup>ノ時ニ至リ、所謂歸納<sup>インダクティフ</sup>ノ目的ヲ以テ考究スルノコト起リ、

世ノ學者ノ志望ヲ充タスコトヲ得ントスルノ傾ヲ生セリ、此歸納法

ハ今日ニ至ルマデ、世ノ學士之ヲ考究シ、以テ古代ノ法ノ闕失ヲ補

ヒテ、其完全ニ達センコトヲ求ムル者ナリ、此時ニ至ルマデ材<sup>サイエンス</sup>袁ノ

學士ハ、専ラ自己ノ道上ヲ進ミテ他ヲ顧ミルコトナク、只自己ノ經

験ニ由リテ得タル指導ニ依頼シ、其知識ノ正當ナルト正當ナラザル

トノ道理ハ何ニ由リテ定ムルカヲ解説スル者少ナシ、又洛日克家モ

專ラ自己ノ道路ノミヲ進行シテ他ヲ顧ルコトナク、新ナ材衰ノ知識ヲ得ルコトニ注意セズ、又其後ヲ継グ者ヲシテ、同ジク確實ナル知識ヲ求ムルコトヲ知ラシメザル者多シ、

○然ルニ近年ニ至リ、理學ノ諸家ノ勉強ト學才トニ由リテ、以上ノ缺處ヲ救済スルコトヲ得、此十九世紀ニ至リ、所謂歸納法ノ洛日克インダクチブ・ロジックト云フ物、初メテ世上ニ成立セリ、始メ演繹法ト歸納法トハ其

論理上ニ於テ兩立スルコト能ハザルノ姿ヲ現ハシ、ガ、深ク之ヲ考究スルトキハ、此二法ヲ結合スルトキハ、能ク人類ノ知識ヲ調均スルノ功アリ、又既ニ認許サレタル法則ノ範圍中ニ在リテ、能ク人智ノ活動ヲ自在ナラシムルノ益アルコトヲ知り、因テ洛日克ノ改進ヲ為スハ全ク此方向ニ從フベキヲ假定セリ、已ニシテ万物ト人智ト相互ノ關係ヲ知り、又人ノ知識ハ造物者ノ思想ノ寫本ナルコトヲ十分ニ領會スルニ至リシカバ、演繹歸納二法ノ兩立セザルト云フ考案ハ自然ニ消滅スルニ至レリ、近年洛日克ノ著書多ク世ニ出テ、此學ヲ改正シ擴大シ、以テ能ク諸ノ學科ニ適合スルヲ得ベカラシムルヲ見ルトキハ、此學ノ品位利益共ニ前代ニ於テ未ダ達セザルノ地位ニ達シタルコトヲ知ルベシ、

○第三 無形學メタフヒ ハ斐洛瑣斐ノ如ク意味ノ一定セザル語ナリ、元來ハ「有形學ノ後」ト云フ義ニシテ、亞立氏ノ學問ニ此名ヲ用ヒ物ビトヲ物トシテ學ブノ學問ナリトセリ、然レドモ尚其他ノ意味ニ之ヲ用フル者

モアリ、然ルニ世間ノ習慣ニ由リ、自然ニ此語ノ意味ヲ擴メテ、凡ソ実形ナキ物ヲ學ブノ學問ニ皆此名ヲ命ジ、心性ノ學、道德ノ學ノ如キモ皆此名ノ内ニ包括スル者アリ、或ハ心知ノ法則ノ學ノミニ此名ヲ命ジテ心知ノ斐學インテルレチユアト名クル者アリ、

○無形學ハ古代之ヲ總概ト各別トノ二種ニ分テリ、其總概ノ者ハ之ヲオントロジイト名ケ、凡ソ宇宙ニアル現物ハ其有限ト無限ト精冥ト形体トヲ論ゼズ、悉ク之ヲ研究シ、又此ノ如キ現物ヲ通觀シテ、既成エキシス未成ニシエンノ本質エッセンス存在エキス 獨一ユニ同一ニ殊異シフ等トシテ考察スルノ學ナリ、各別ノ無形學ハ或ハ之ヲニューマトロジイト名ケ、之ヲ三部ニ分ツ、其一ヲ天然神學ナチュラールト云ヒ、其二ヲ理識宇宙學ラシヨナルト云フ、宇宙ノ根元及ヒ順序ヲ考究スルノ學ナリ、其三理識ノ心學ラシヨナルト云フ、心ノ天性 能力、命運ヲ考究スルノ學ナリ、此各別ノ無形學ノ對身トナル者ハ、一ハ神、二ハ世界、三ハ人心ナリ、此說ハ坎德カントノ純粹道理リイタジニ記セル三想念ノ說ト相符合セリ、

○近年ニ至リ、墨大希メタフヒジックス（無形學）ノ語ニ制限ヲ立テ、專ラ知性及ヒ道德性（坎德ノメタフヒジックス、オフ、エチツクスノ如キ）ノ究 竟及ヒ 必 至ノ原理、并ヒニ是等ノ物ノ自成ノ存躰（現象ト異ナル）ヲ指ス時ニノミ之ヲ用フルコトナレリ、

○然ルニ實驗ヲ主トスル所ノ心象學盛ンニ起ルニ及ビ、材衰ヲ依據トシテ其說ヲ立テ、墨大希ヲ以テ實用ナキ空論ナリトシテ、大ニ之

ヲ擯斥セリ、然レドモ虚冥學、神學ヲ奉ズル者ニ在リテハ其說大ニ  
実験家ノ言ト異ナル者アリ、今其二ニヲ擧グレバ無形學ノ想念ハ一  
定セルヲ識ノ定義ヲ推インフエレンス度シタル者ナリト云フ者アリ、又不朽ノ魂  
魄、恒久ノ上帝、物ノ範圍ニ付テハ心象學家ノ証據ハ蓋然プロバブルノ者タル  
ニ過ギズト言フ者アリ、又此外ニ超絶○○○○ノ哲學タランスセンデメンタ  
ルフヒロソフヒイ  
ト云フ者アリ、諸種ノ実験ハ、此ノ如キ結果ヲ生スル者ニ非ズト言  
ヒ、又人類ノ心ハ直インヘイション覺ノ能ヲ稟ケタル者ナレバ其眞実ヲ証定ス  
ルコトハ經驗上ノ事實ニ勝レリト云フ者アリ、

○無形學ニハ類似ノ學科アリ、其一ヲ推考學エヒタ  
モロソイトト云フ、此語ハ或ハ  
無形學ト同一ノ考究ヲ為ス學科ニ用フルコトアリ、要スルニ推考學  
ハ無形學ト多少同様ノ性質ヲ有スル學問ナリ、其二ヲ實質學ロジック  
オントト云  
フ、物ジグノ學ニシテ、人智ヲ以テ量ルベキ物ヨリ其量ルベカラザル  
物ヲ引抽シテ、此學ヲ立タル者ナリ、英國ノ心象學者ハ皆此實質學  
ヲ以テ空想ナリトシテ之ヲ廢センコトヲ務メタリ、近キ數年間ニ於  
テ此學ニ多少ノ改革ヲ加ヘタリト雖ドモ、畢竟ハ日耳曼ノ學派ヲ信  
ジタル或ル少數ノ人士ノ之ヲ考究スルニ過ギズ、然レドモ亦此世期  
ニ於テ、蘇國ニ著名ノ學士 プロフェツソル傑理尔出テ、實質學ニ於  
テ幾多ノ著書アルコトハ之ヲ抹却スベカラズ、傑氏ノ出シ以來、英  
國ニ在ル黑傑尔派ヘーゲルノ學者ハ知識ト存エキンス  
ケレス在ト互ニ關係アリト云ヘル  
哲學ノ說ヲ研究スル者多シ、故ニ今日ニ在リテハ、知識ト存在トノ

究竟ノ暗想ハ、未タ消滅スルノ期ヲ見ザルナリ、

○第四 道德學エチックス、オク、モラ  
ール、フヒロソフヒイハ人類ノ行為ト處世トノ道理ヲ論究スルノ  
學問ナリ、此學ハ必ス実行ト相伴ハザルベカラザル者ナリ、然ルトキ  
ハ徒ニ理論ノミヲ説ク者ニ比スレバ一般ニ利益ヲ為スコト甚タ大ナ  
ルベシ、或ハ謂フ、道德學ハ何物カ有ルト言フヨリハ寧ロ「何物カ有  
ラザルベカラズ」トイフコトヲ究メザルベカラズ、現實ノ事ヲ説クヨ  
リハ、理想ヲ以テ説クヲ必要トスベシト言ヘリ、此說ニ反對スル者ハ  
謂ヘラク、若シ以上ノ說ヲシテ果シテ適當ナラシメバ、道德學ハ材サイエンス衰  
トシテ視ルトキハ、其力甚弱キ者ナリ、其故ハ材衰ハ現實ノ知識即チ  
事實ノ學ナレバナリ、然レドモ學識アルノ士ハ、此學問ハ道德ノ品性、  
狀態、行為ヲ聚成スル為メニ甚深ノ利益アリト云フコトハ一般ニ之ヲ  
信スル所ナリ、

○道德學ハ其低度ノ処ニ就テ之ヲ言フモ、一個人ノ幸福ト社會ノ福祉  
トヲ増進スルニ足ル者ナリト云フコトハ何人モ之ヲ拒否スル者ハナ  
カルベシ、道德ノ善惡ト云フコトハ、認識ノ理論ト、思想ノ連合ニ注  
意セザル人トイヘドモ、亦之ヲ以テ同一ノ物ナリト言フ者ハナカルベ  
シ、故ニ徳トハ何物ゾ、罪惡トハ何物ゾ、良心ノ威權トハイカナル物  
ゾ、道德ノ法則ノ根元ハ何物ゾト云ヘルガ如キ問題ハ、際限ナキ必要  
ノ問題ニシテ、無差別ニ之ヲ聞ク者ハアラザルベシ、又是等ノ問題ハ、  
凡ソ人類ノ性質才能ニ付キテ適當ナル見解ヲ有スルノ人ハ、皆之ヲ以

テ、高ク浮世ノ利益ノ上ニ置クコトヲ知ラザル者ナキ

○実行上ノ目的ニ付キテ、人ハ何事ヲ為サルベカラザルカ、又何事ヲ為スベカラザルカト云ヘル問題ハ、極メテ尋常ノ問題ノ如クナレドモ、是ニ付キテ種々ノ異見アルコトヲ免カレズ、今モシ正當ナル行為ハ如何ナル物ゾ、何ノ道理アリテ其行為ヲ正當ナリトスルカト云フコトヲ研究スルトキハ、直チニ之ニ管シテ哲學上ノ異論ハ蜂起スルナルベシ、人ハ唯習慣ニ從ヒテノミ行為スベキ者ニ非ズ、必ス道理ニ從ヒテ行為スベキ者ナリト言フ説ノ起ルトキハ、哲學ハ必ス道理ノ基礎、人ノ天性ノ究竟ノ理想ヲ考究スルニ至ルナリ、此事ニ付キテハ、希臘ノ暗想時代ヨリ、許多ノ疑問モ起リ議論モ生セシナリ、基督教ノ西國ニ行ハル、ニ及ビ、其教化ノ力ハ極メテ大ナリシカドモ、猶許多ノ道德上ノ異論ヲ合セテ一定ニ歸セシムルコト能ハザリシナリ、古代ニ於テ道德ノ學派ニ士允格派ストイックアリ、耶卑古勒派エビキュレアン等アリシガ如ク、近世ニ至リテモ亦直覺派、利益派、超絶派トランスセン形質派ナチラ等ノ諸學派アリ、是等ノ諸派ノ學士ノ中ニハ、道德ノ勢力ハ、人類ノ形質ノ構造ニ出ヅルトスル者アリ、人類ノ職分ハ政治上ノ法律及ヒ形骸上ノ罰責ヨリ生スルトスル者アリ、人類ノ義務ハ、最上ノ法則、即チ上帝ノ恒久ノ道理ニ出ヅルトスル者アリ、○道德ノ學ハ、或ハ人類社會ノ状態ニ從ヒテ其變化ヲ受クルコト多シ、古代ノ希臘ノ都府、羅馬ノ王国、及ヒ近代ノ欧州諸國ノ制度風

俗ハ、其時ノ道德ノ趣意形体ニ感化ヲ及ボスコト少ナカラズ、中古耶穌教門ノ勢力ノ隆盛ナリシ比ハ、其時代ノ道德ニ教法ノ意味ヲ混ジタルコトハ衆人ノ知ル所ナリ、又教法ノ中ニテモ其宗派ノ異ナレルニ從ヒテ、道德ノ理論、道德ノ行為ヲ説クコト各同ジカラズ、其差異ハ政事ト宗教トノ差異ヨリモ却テ深キ者アリ、然レドモ古來ヨリ經歷セル時代ノ中ニ於テ、其社會ノ状ハ、或ハ道德ト宗教トヲ別々ニ理會シタルコトアリ、又ハ全社會ト一個人トヲ論ゼズ、宗教ノ思想深ク其中ニ透入シ、善ト云ヒ惡ト云フモ、一ニ宗教ノ旨趣ニ從ヒテ之ヲ定メタル時代アリ、又宗教自身ノ如キモ、或ル時代ニ於テハ、専ラ教化ヲ主トセシコトアリ、或ル時代ニ於テハ、専ラ靈魂ノ事ヲ考究セシコトアリ、耶穌僧徒ノ力ニ依リテ宗教的ノ道德ノ社會ニ及ビタル状態イカン、之ニ反シテ心理學ノ理ヨリ推シテ道德ノ原理ヲ開發シタル状態イカント云フコトハ、教門ノ歴史ニ因リテ知ルベキノミナラズ、専ラ道德ノ學ヲ為ス者モ亦能ク知ル所ナリ、現今學士ノ論スル所ノ社會ハ教法ノ威權ヲ以テ基礎トセズシテ、全般ノ快樂ヲ以テ基礎トシ、此目的ヲ達センガ為メニ、人、相互ノ義務ヲ尽スベシト云フコトハ、今人ガ道德ノ教義及ヒ道德ノ準度ヲ變化セントスルノ勢ニ向ヒタル者ナレバ、此勢ヲ知ルモ亦道德學ノ為メニ必要ノコトナルベシ、

○或ル哲學士ハ道德學ヲ以テ、心象學ヨリ開發セル者ナリト言ヒ、或

ル學士ハ道德ノ法則ハ人類社會ノ關係ヨリ生ズルト言ヘリ、後ノ論ハ最近ノ學士ノ多ク言フ所ナリ、

○第五 社會學ソシヤロジイハ社會ヲ成シタル上ニ就テ、人類ノ關係ト状態トヲ論ジタル學問ナリ、近來此學ヲ為ス者ハ、社會ノ未ダ進歩セザル人民ノ習慣定例等ニ注意シ、或ハ野蠻ノ民ノ交際ノ状ヲモ考察スル者多シ、或ル學士ハ謂ヘラク、審カニ道德ノ感覺、想念ノ根元ヲ知ラント欲セバ、初世ノ人民ノ風俗習慣ヲ考察セサルベカラズト、然レドモ學士ノ多數ハ謂ヘラク、人民行為ノ良否ハ、其時代々々ノ社會ノ状態ニ從ヒテ之ヲ考ヘザルベカラズト、而シテ凡ソ社會學ノ語ヲ採用スルノ學士ハ皆、道德學ハ觀察ヲ以テ基礎トシタル學問ニシテ、其奉ズル所ノ法則ハ、威權アル訓誡ヨリハ寧ロ実験上ノ概括ニ出ル者ナリト云フコトヲ信ゼリ、

○第六 政治學ホリチカルハ盟約上ヨリ結合ヲ成セル人類ノ状態ヲ論ジタルノ學問ニシテ、小ニシテ一族民、大ニシテ一國民、共ニ此盟約ヨリ生出シタル相互ノ義務ト干係トヲ論シタル者ナリ、文明ノ社會ニテ言フ所ノ國家トイフ者ハ、人類ノ交際性ノ開發ト全体ノ安全ニ管セル巨大ナル勢力ト相合シテ、利益及ヒ尊重ノ性ヲ有スル者ナリ、政治ノ躰ニ至リテモ、人々ノ見ル所同シカラズ、或人ハ謂ヘラク、政治ハ至テ尊貴ニシテ、神聖ノ実アル者ナリト、或人ハ謂フ、政治ハ其自身ニ固有セル品性勢力ニシテ國民ノ威權ナリト、或ハ謂フ、政治ハ単ニ警

察ノ事ニ過ギザル者ナリト、

○政治學ハ通常道德學ト相結合セル者トシテ之ヲ論セリ、支那ノ儒道ノ如キ、亦然リ、布拉多ノレパブリックトイヘル書ヲ見ルニ、此二者ヲ分ツテ二トスルコトヲ言ハズ、亞立士氏ノ如キハ道德學ヲ以テ政治學ノ入門トセリ、近代英國ノ哲學書ヲ讀ミタル者ハ彼利ガ道德ト政治トヲ合セテ一書ト為シ、本業ベジナムノ如キモ、道德ト法律トヲ合セテ一書ヲ作りタルコトヲ記憶セルナルベシ、又道德ノ根元ハ政治學ニ在リト云フコトヲ主張セル學士ノ如キモ亦此ニ學ヲ分チテ殊別ノ者トスルコトヲ欲セザルナリ、然レドモ今日全体ノ學士ノ議論ヲ見ルニ、古來ノ論旨ノ如何ニ管セズ、二學ヲ分ツテ之ヲ論究セントスル者甚多キニ至レリ、

○第七 天然神學ナチュールデオロジイハ法國ノ語ニテテオチゼイト言ヒテ亦之ヲ哲學ノ部内ニ加フベキ者ト定メタリ、此學ノ目的ハ、默示レベレンヨン、即チ神託トイフコトヲ離レテ、專ラ上帝トイフ物ヲ知ラントスル者ニシテ、人類知識ノ最上頭ヲ占メントスルノ學問ナリ、凡ソ有神教テイヲ信ズル學派ノ中ニ於テモ、其上帝ノ存在、性質、法則、ヲ定ムル所ノ定規ハ各多少ノ異同アリト雖ドモ、人心ニ神トイヘル念ヲ生セシメ、道德ノ感覺ト證據トニ依リテ此念ヲ堅固ニセシメタリトイフコトハ何レモ其說ヲ一ニセリ、不可思議說アグナスヲ信ズル者ニ於テハ、有神教者ト少シク其說ヲ異ニスレドモ、亦人智ノ構造活動ヲ基本トシテ（默示ヲ取除キ）

神ノ存在スルト云フコトヲ信セリ、一神教モラテイト万有神教パンテイトハ其教義同シカラズト雖ドモ、天神ガ人類ノ知識ト宇宙ノ秩序ノ基礎ヲ定ムルトイフニ至リテハ、共ニ同一ニ帰シ、又上帝ヲ無シトイフトキハ、全く哲學ヲ顛覆スルニ至ルベシト云フコトハ、兩教共ニ言フ所ナリ、今公正ノ見ヲ以テ考フルニ、宇宙間ニハ実ニ智慧、公正、仁愛、ヲ具ヘタル無限ノ勢力アルトイフコトハ、衆人ノ信スル所ナリ、此推究ハ有形上ノ定則ヨリハ、寧ロ無形上ノ定則ニ出ルヲ多シトス、又蘇國ノ學士ニハ黑傑爾ヘーゲルノ説ト其見ヲ同フスル者アリ、謂ヘラク、凡ソ宇宙間ニハ精霊ニ属セル原氣スピリチュアル・プリンシプルアリテ、其間ニ磅礴シ、吾等ノ高等ノ性ハ、之ト相合シテ以テ敏インテリジブル慧ノ力ヲ得ル者ナリト、輒近ニ至リ、世人ノ暗想ハ、宇宙間ニ在ル究竟力アルチメイト、パワーノ性質ヲ知ランコトヲ務ムルコトヲ多ク、是ニ由リ、一方ニハ少數ノ無神論者アリ、他ノ一方ニハ超トランス・センサント勝ノ力量及ヒ至極ノ原因ニ付キテ其理論ヲ考究スル者頗ル多シ、但シ是等ハ耶穌ノ宗教ヲ信スル者トハ、其説全ク同シカラザル者ナリ、

### 第三解

#### 理學（哲學）ノ原始

○上古人類ノ此世ニ生スルノ始、身軀ヲ養フノ具初メテ備ハリ、社會ノ状態、安靜ニ至ル時、人、初メテ其己レノ性質ト其境遇トニ由リテ知ル所ノ事物ヲ考究スルノ念ヲ發スルナリ、是ニ由リ人々獨リ心中ニ考フル所ト、人心ト人心ト相接觸摩擦スル所トハ、共ニ能ク人ヲシテ其

思想意念ヲ發セシムルナリ、其初二方リ、事物ヲ思考想察スルノ人シシハ、先ツ其思想ヲ、廣大ナル宇宙ノ事ニ向ケ、宇宙ハ其動靜ニ由リテ、或ル光アスケクト景ト或ル片フラグメント屑トヲ示セリ、吾等ハ五官ノ能ニ由リテ、此光景ト片屑トヲ知り、又万物ノ變化ヲ見テ奇異ノ念ヲ發セリ、天地間ノ現象ハ其數限リナシト雖ドモ、人智ノ巧妙ナルヤ、自然ニ之ヲ知り之ニ通ズルニ至レリ、然レドモ人類ノ智力ハ惟之ヲ知ルノミヲ以テ満足セ、更ニ其知リタル所ヲ聚合シテ、之ヲ理會シ、又之ヲ解説シ、又之ヲ調整センコトヲ求メタリ、是ニ由リ暗想推考スベキ・ユレ・シヨ（多少材マテリアル 衰ノ性質ヲ含メリ）ト云フコト起リ、以テ斐ヒロソフ・ヒイ學ノ曙光ヲ發セリ、人ノ知識ノ進ムニ從ヒ、有形フジシカル・サイエンス學ノ範圍ヲ明カニ定メサルベカラザルコトトナシ、凡ソ此世界中ニ同時ニ相並ンデ存スルモ、前後相繼續シテ生存スルモ、總テ同一ノ事実ト同一ノ法則ニ從フ所ノ物ヲ考究スルヲ以テ、有形學ノ界域ト為サントセリ、然ルニ有形學士ノ中ニ、又熱心ナル暗想家アリテ、有形學ヲ以テ此ノ如キ範圍ノ中ニ限レルヲ不可トスル者アリ、○然ルニ其後ニ至リ、學士間ニ自身ヘム・セヲ以テ万物ユニト區別スベキ者ナリトノ考ヲ發シ、遂ニ人類ノ行為ト天地ノ運用トノ間ニ明白ナル區別ヲ立ント欲シ、是カ為メニ潛心思考スル者甚多シ、人類ノ自識セル・フ・コンシエンスノ力ハ、至テ強盛明瞭ナル者ニシテ、常ニ変乱セズ消滅セザル所ノ証據ヲ現ハセリ、是ニ由リ、人々自身ヲ以テ万物ノ照鏡ニシテ又勢力ノ中心ナルコトヲ了知シ、人心ノ能ハ実ニ巧妙ニシテ、人々ノ經

験スル所百殊百異ナリト雖ドモ、其中常二同一ニシテ替ラザル者アル  
コトヲ學ビ知レリ、世間或ハ人身ハ廣大ナル天地間ノ一塵埃ニシテ、  
僅ニ自ラ呼吸スルニ過ギザル動物ナリト言フ者アリ、或ハ人身ハ決シ  
テ、天地ノ無限ナル大力妙用ト、其力量變化ヲ比較スベキノ價アル物  
ニ非ズトイフ者アリ、或ハ人類ハ唯時限ヲ定メテ此世ニ生出シタル受  
造物ニシテ、彼天地ノ界限ナク始終ナキ廣大無辺ノ物ト並べ論スベキ  
物ニハ非ズトイフ者アリ、然レドモ是等ノ見ハ妄斷ノ見ト言ハザルベ  
カラズ、此ノ如キ説ヲ述フル者トテモ、其中心ハ蓋シ必ス此説ヲ以テ  
満足セルニハ非サルベシ、人類ノ勢力ハ、此ノ如キ詭弁ニ屈服スル者  
ニ非ザルナリ、人類ハ小天地ニシテ宇宙ノ大天地ト相一致スル者ナリ  
ト云フコトハ、衆人ノ中ニ自然ニ發生スル所ノ感覺ナリ、獨リ是ノミ  
ナラズ、心ハ能ク万物ヲ支配ス、心ハ万物ヲ抑制シ、指向シ、強迫ス、  
心ハ万物ヲ認識シ、領會ス、心ハ又智慧ノ力ニ依リテ、万物ニ意義ヲ  
與ヘ、又万物ノ現実ナルコトヲ定ムル等ノ意見ハ、衆人ノ信ジテ疑ハ  
ザル所ナリ、是ニ由リ衆人皆心ハ有形物ヲ離レテ獨立セル物ナルヲ解  
説セリ、然レドモ其物ノ実質ニ至リテハ、心トイフ語ノ外ハ、明力ニ  
之ヲ知ルコト能ハズ、深思熟考ノ力ハ能ク心ノ根元ト心ノ本質トヲ明  
カニスルコトヲ得ルカ、得ザルカ此事ハ學士ガ其精カヲ尽シテ已ム時  
ナキノ問題ナルベシ、ソクラテス 瑣克拉的(通常此人ヲ以テ、人身ヲ考究スル斐  
學ノ始祖トス) 以來、世ノ學士輩出シ、何レモ人類ノ天性生活ヲ以テ

研究ノ問題ト為シ、人類ノ万物ニ超絶スル所以ヲ証驗セント欲シテ止  
ム時ナシ、是ヨリシテ世間ニ心象學、社會學、道德學ノ諸學士ノ踵ヲ  
接シテ現ハル、ニ至レリ、

○然レドモ是等ノ研究ハ未タ以テ斐學上ノ動力ヲ發洩シ尽スニ足ラズ、  
年久シキ人智ノ經驗ニ因リテ、心トイフ者ハ、天地間ノ万物、自己(心)  
ノ勢力、及ヒ其活動ヲ考究スルノミニテ満足セズ、進ンテ是ヨリ高等  
ナル獨一、万物ヲ包含セル原因、即チ上帝ヲ知ランコトヲ求ムルニ至  
レリ、此上帝ノ説ニ至リテハ、諸家ノ考フル所大同ジカラザル者ア  
リ、或ハ曰フ、人ノ上帝ヲ知ラント欲スルハ、其迷想ヨリ出ル者ニシ  
テ、決シテ完全堅固ナル結果ヲ得ルコト能ハズト、或ハ曰フ、人類ガ  
自然ニ上帝ノ存在セルコトヲ考出ザル者ハ、(知識ノ開發或ル度ニ在ル  
者ハ何レモ同様ニ) 人類ノ智ノ造化ノ界域ニ進出スルノ徴ニシテ、要  
スルニ心象學ノ法則ニ背ク者ニ非ズト、或ハ曰フ、吾儕ウヰ理外ノ理ウヰヲ究  
メメント欲スルモ、良善ナル方法ヲ得ルコト能ハズ、上帝ノ事モ之  
ト同様ニシテ、吾等ノ想像ト動感トノ外ニ出ルコトナシ、吾儕ガ事理  
アンタリストタンゲン 領會スルハ、万有ト人身トヲ問ハズ、必ス觀察ト經驗トノ二  
者ニ依ラザルコトナシ、上帝ニハ此二者ヲ施スコト能ハザレバ、竟ニ  
領會ノ地ニ達スルコト能ハザルナリト、是等ノ諸論、近代ニ至リ漸々  
ニ整頓シテ材焉サイエンスノ姿ヲ成シ、遂ニ所謂不可思議論アグノステシズム(造化ノ力ハ人類ノ  
智ヲ以テ測リ知ルベカラズトスル者)ノ基礎ヲ為セリ、此教義(不可

思議論ハ、吾等ノ知識ハ、知覺ト現象トヲ以テ限リトシ、法則ニ合ハザル説ト、想像トハ、全ク之ヲ廢棄スル者ナリ、

○是ニ由テ觀レバ、不可思議論ハ、今日ニ在リテ、學問上ノ考察ヲ主トセル諸名家ノ大抵同意スル所ナリト云フハ明ナルコトナリ、然レドモ古來ヨリノ歴史ヲ視ルニ、知覺以上ノ力シユエベルヲ考究シ、又万物ノ原因ト歸一トヲ尋繹セント欲スルコトハ、人類ノ天性ニ深く固有スル所ノ動力ナリト云フコトハ、之ヲ知ラザルベカラザルナリ、

#### 第四解

#### 斐學(哲學)ノ畧史

○從來斐學ノ史ヲ記スル者ハ、希臘人ヲ以テ始メトスルヲ常トス、然ルニ近年ニ至リ、帰納法ノ考究ノ範圍ヲ廣ムルト、學問上ニ比較法ヲ用フルコトノ傾キヲ生セルヨリシテ、東國人ノ暗想學[Speculation]ヲ以テ、斐學ノ原始ノ中ニ加ヘントスルノ意ヲ發セリ、實ニ印度人ノ性質ハ、無形學ノ想案ニ於テ特別ナル嗜好ヲ有セルハ、至テ明白ナルコトナリ、\*印度ノ宗教、印度ノ哲學ト云フ者ハ、其大体ヨリ視レバ共ニ同一ノ物ナリ、韋陀ウエダス及ヒウエダンタス、トイフハ、婆羅門僧徒(及ヒ哲學士)ノ文學ノ宝库ニシテ、物モノノ妙用ノ想考ヲ包含スルコト甚多シ、此書ハ實ニ認識ノ問題ヨリハ現存エキンスノ問題ニ関スル者ニシテ、認識ノ事モ亦印度人ガ深く注意スル所ナリ、又印度人ハ哲學上ノ心性ト道德トノ原質ヲ區別スルコトハ、心ノ自体ヲ區別スルヨリ却テ粗ナ

リ、東國ニ於テニ大競争ノ學問トモ稱スベキ婆羅門ト佛教トノ二者ハ本ヨリ同一ノ者ニハ非ザレドモ、左ノ点ニ至リテハ、亦互ニ相一致セリ、即チ暗想ト實際トヲ以テ、人類思想ノ混雜ナルト、人類生命ノ艱難ナルトヲ鮮積センコトヲ欲スルニ至リテハ、ニ教共ニ相同ジ、

〔西村による頭註〕\*印度ニハ又摩奴マニユノ古典アリ、又迦毘羅仙人ノ教論、溫露迦仙人ノ勝論、

○希臘ノ民ハ古代ニ於テ知識ト趣味トニ於テ、勝レタル天性ヲ有スル者ト稱セラル、希臘ノ民ハ建築ト彫像トニ於テ尤モ完全ナル形式ヲ作り出シ、又戯曲ノ如キハ暫時ニシテ其最高点ニ達セリ、人能ク文學ニ長ジ、事實ノ記録、想像ノ文章共ニ極メテ高妙ナリ、單ニ思想ノ力ノミニ就テ言フトキハ、希臘ノ民未ダ必シモ諸國ノ民ニ超越セリト云フベカラズ、唯希臘ノ民ハ、文學上ニ於テ一ノ模型ヲ造リ、他國ノ民ノ知識ヲ聚メテ、尽ク其模型ノ中ニ入レタリ、熱勒ゼレルノ言ニ依ルニ、希臘ノ宗教ハ殊ニ理想イデアノ性質ヲ帶ビ、是ヲ以テ職業トセル僧侶モナク、又神教風ノ獨斷ドグマチスムモナシ、是則チ此山國ノ民ガ思想ノ自由ヲ馳騁スルコトヲ得タル一原因ナリ、希臘國ノ社會ノ間ニ現出セル人事ノ變化ハ甚多キヲ以テ、是ニ由リ剛勇奮勉創始ノ精神ヲ發出シ、以テ人類ノ好奇暗想ヲ發動スル所ノ万有ノ現象ヲ、統一シ鮮釋スルコトヲ得ベカラシメタリ、

○世界形質論コスモハ希臘ノ古代ノ詩人殊ニ\*黑西窩ヘシオドガ神奇狀ニ之ヲ說

キシヲ始メトス、道德ノ學ハ、此國ノ聖人ト稱セラル、人ノ訓言ヲ以テ始メトス、又人類ノ性質ヲ深く考究シタルハ、\*\*和墨耳ノ詩篇ニ於テ、始メテ之ヲ見ル、然レドモ古代ニ於テ所謂斐學ナル者ノ發達セルハ、希臘ノ本國ヨリハ、小亜細亞ニアル以阿尼人（希臘ノ植民地ノ民）ヲ早シト為ス、吾等此時代ノ學士ノ暗想ニ付キテ得タル知識ハ、猶浮動シテ定マラザル者多キヲ見ル、然レドモ其考究ノ目的トシタル者ハ、何レモ造化ノ大ニ在リ、其學士ノ視察考究ヲ提起シタル所ノ萬有ノ現象ハ、近代人智ノ大ニ進歩セル時ニ方リテモ、猶完全ノ發明アル者多カラザルニ、以阿尼ノ聖賢ハ耶穌生前六世期ニ於テ、已ニ自己ノ智ヲ以テ悉ク其理ヲ判断センコトヲ試ミタリ、米勒多ノ\*\*大列士ハ、水ヲ以テ万物ノ根元ニシテ、又其原質ナリト為シ、亞拿西曼得ハ混沌無定ヲ以テ造化ノ究竟ノ原質ト為シ、\*\*亞拿西麥尼ハ、大氣ヲ以テ万物ノ原因ニシテ、又其勢力ナリトセリ、是等ノ思考者ノ考究スル所ハ、何レモ同一ノ線路上ニ在ル者ニシテ、余儕ヨリ之ヲ視レバ、何レモ材焉ノ法則ニ合ハザル者ト看做サザルコトヲ得ズ、是等ノ學士ハ、万有ノ神奇ノ秘密ヲ解釋セントスルニハ、万殊ヲ合セテ一元ニ帰セザルベカラズトセリ、是ハ學士等ノ目的ニシテ其決定ニハ非ザルナリ、

〔西村による頭註〕 \* 黒氏、紀元前八世期ノ人ナリトイフ、

\*\* 和氏前ト同時代)

\*\* 大氏、六百四十年前、神武二十二年

\*\* 亞氏六百十年 神武五十一年

○以阿尼派ハ希臘ノ斐學ノ初階ニシテ、吾知覺ニ入ル所ノ事物ニ初メテ考察ヲ加ヘ蒙昧ノ人民ノ為メニ牖戸ヲ開キタル者ナレドモ、未タ其想像ヲ鮮積シ、道德ニ合ハスルコトノ智力ヲ有セザリシナリ、此諸學士ハ何レモ万有ノ總躰ヲ觀察シタル者ニシテ實物學派ニ近キ者ナリ、然レドモ未タ虚灵ト実物トノ區別ヲ明白ニ注目セザリシヲ以テ、真ノ実物論ト名クルコト能ハザルナリ、是ヨリ後ニ起ル學士ニハ其暗想發達シテ漸々高妙ノ地ニ進ムヲ見ルナリ、

○以阿尼派ニ繼テ起ル者ハ比答臥拉派ナリ、此學派モ世界形質論者ナレドモ、其前ノ諸家ト異ナル所ハ數ヲ以テ万物ノ本質ト為スニ在リ、數ノ性質ハ甚駭クベキ者ニシテ、算術ニ由リテ得ル所ノ結果モ亦甚タ駭クベキ者ナリ、是ニ由リ當時ノ數學者ハ數ヲ以テ最高等ノ徳ト利益トヲ具ヘタル者ト為セリ、比答臥拉ノ説ハ、他ノ數學者ト異ニシテ、數ヲ以テ天地間万物ノ原質ト為シテ之ヲ鮮積セリ、比氏ノ數ヲ論スルコト廣大ニ過グルヨリ、遂ニ空想ノ誤見ヲ生シ、學問中ニ包含セル必要ノ利益ヲ見ルコト難カラシムルニ至レリ、

〔西村による頭註〕 \* 比氏五百七十年 綏靖十二年

○比答臥拉派ノ哲學ノ史ニ必要ナルハ、此外更ニ道德ト宗教トノ意見ヲ述べタルコトナリ、此學派ガ道德ニ付キテ信ズル所ハ獨リ徳誼ノ事

ノミナラズ、更ニ高逸アスセチズム離俗ノコトニアリ、又學派ニテ言フ所ノ宗教ナレリシヨソル者ハ現今ノ歐人方言フ所ノ宗教ノ語ト少シク其意義ヲ異ニセリ、然レドモ此學派ニテハ魂魄ノ輪廻ヲ信ジ、是ヲ以テ人ヲ道德ニ進ムル為メニ必要ナリト説ケリ、

○然ルニ希臘ノ斐學士ノ中ニハ、以阿尼家ノ実物學ト比答臥拉

派ノ神秘學ミステチシズムト相反対セル意見ヲ主持セルノ間ニ立チテ、\*單純ナル宇宙ノ知識ヲ以テ其學ノ主旨トスル者アリ、此學派ヲ耶列亜的エレアチツクト云フ、

即チ希臘斐學中ノ唯識論イデアリスチスムナリ、此學派中ニ於テ殊ニ著名ナルハ斐熱那セノフハネス發尼ト巴麥尼バルメニデスのナリ、熱氏ハ此學派中ノ神學者ト稱セラレ、巴氏ハ無形學者ト稱セラレタリ、巴氏ハ思想ト思想スル所ノ事物(即チ思考シキト物)トハ共ニ同一ノ物ナリト説ケリ、此學派ニハ熱那及ヒ麥立メリツシユス立蘇シキト物ノ諸家出デ、其後ヲ繼ゲリ、

〔西村による頭註〕

\*ピユール インテレクチュアル、ピユール、オフ、ユーニバース、

\*熱氏四百九十年 懿德二十一年

○耶列亜の派ノ説ト左右ノ兩端ニ立テル所ノ斐學家ハ\*黒拉古利多ヘラクリトスナリ、耶列亜的ハ獨一ユナイチイトイフコトヲ主持シテ多數アウリョート云フコトヲ排撃シ、又有ルヒトト云フコトヲ主トシテ、成ルベカミト云フコトヲ拒否セリ、黒氏ハ謂ヘラク本質サフスハ一個ナレトモ常ニ活動シ、常ニ變化スル者ナリ、万物ハ皆流動体ニシテ、永久ニ物ヲ成スハ造化ノ法則ナリ、此間断ナキ變化ヲ於テ常ニ其用ヲ為ス者ハ火ナリ、火ニ因リテ万物生シ、

終ニ再ヒ火ニ帰宿ス、純粹ナル火ハ精神ノ本質ナリト、此意見ニ就キテハ、黒氏ノ説ト同時ノ以阿尼ノ諸哲家ノ説ト相契合セル所アリ、然レドモ黒氏ノ説ハ耶列亜派ト相類スル所アリ、即チ黒氏ハ本質ノ單一トイフコトヲ信ジ、又天地間ニハ道理ニ協ヘル法則ノ流行スルト云フコトヲ信ゼリ、黒氏ハ蓋シ思考ニ富メルノ哲家ナルベシ、其残缺セル遺言ヲ看ルニ、智見ノ高尚ナルトコロヲ知り得ベシ、黒氏ハ民間ニ之ヲ「泣哲家」ト稱シテ其區別セリ、

〔西村による頭註〕 \*黒氏五百年 懿德十一年

○其次ニ記スベキ大家ハ西齊里シシリアノ哲家 淹百多エムベド克勒キレスナリ、淹氏ハ上ノ兩

説(耶列亜ト黒氏)ヲ推究シテ其効果ヲ見ルニ至ラシメタリ、淹氏ハ又初メテ四元質ノ説テ立テ、万物ノ元質ハ水土火氣ノ四者ニ在リト言ヒ、此四元質ヲ通貫シテ愛ラフ憎ヘトノ二個ノ原理流行セリト言ヘリ、淹

氏ノ四元質ハ佛家ノ地水火風ノ四大ト其説ヲ同フセリ、此新奇ナル万物ノ結合論ハ、後年ニ至リ遂ニ空漠ナル幻想論トナレリ、淹氏ハ其性エトナ

物ニ感スルコト至テ強キ人ニシテ、世ニ傳フル所ニ依レバ、自ラ挨徳納山ノ火坑ニ踊リ入リテ死セリト言ヘリ、若シ此言ヲ以テ信ナリトスルトキハ、淹氏ノ詩篇ニ記セル上帝ニ對セル願望ト宛モ相符合セル者ナリ、

○微塵論アトミ又分子論ハ亦希臘時代ノ勢力アル哲學論ナリ、全体ノ原理ハ千七百年代ノ末ニ法国ニ起リ、其後更ニ日耳曼ニテ再興セル無神

ノ実験論ノ為メニ前路ヲ開キタル者ナリ、此學派ノ創立者ハ留瑟布リユーシッブスニシテ、更ニ之ヲ説明シタル者ハ\*特摩古利多デモクリトス（笑哲家ライイグツト称ス）ナリ、是等ノ二人ハ天地間ニ於テ微塵ト空虛トノ外ハ一モ之ヲ考究スルコトナシ、又天地間ノ万物ヲ以テ微塵ト空虛トニ歸スルノ外ニ他ニ之ヲ論說スルコトナシ、此學派ニテ説ク所ノ有形ト動機トノ原理ヲ以テ万物ヲ解釋スルコトハ、現今世ニ流行スル學理ト不思議ニ暗合セル所アルヲ見ルナリ、

〔西村による頭註〕 \*特氏四百六十年 孝昭十六年

○此時代ニ於テ実形ノ理ヲ主張スル所ノ學士ハ多ク謂ヘラク、凡ソ万物ハ自己ニ其造形ノカヲ有シ、又精神ヲモ存在スルコトヲ得シム、其力ハ宇宙ノ自然ノ秩序ヨリ流出スル者ナリト、\*此説ニ付キテハ、\*アナキサゴラス 巫那撒菽拉殊ニ堅固ナル意見ヲ定メ、他人ニ比スレバ、道理ニ協ヘル説ヲ述ベタリ、巫那氏ハ謂ヘラク、心ハ万物ヲ構成スル所ノ力ニシテ、兼テ其運動ト秩序トノ原因ナリト、

〔西村による頭註〕 \*五百年、懿德十一年

○以上、列舉セル所ノ四人（黒拉古利多ヘラクリトス、淹百多克勒エムベドケレス、留瑟布リユーシッブス、特摩古利多デモクリトス）ハ世ニ之ヲ称シテ以阿尼派ノ暗想家ノ第二ノ開發者ト云ヘリ、

○上ニ記セル所ノ希臘ノ古代ノ斐學家ハ、宇宙全骸ノ理ヲ觀察センコトヲ欲シ、又有形物ノ事実ヲ究メ、以テ実質ト精霊トノ解釋ヲ為サン

コトヲ務メタリ、此考察法ハ其根基トスル所不十分ニシテ、此法ニ由リテ發見スル所ノ理ハ、未タ確實ナルコトヲ得ザル者アリ、其後更ニ有力ノ考察者（哲家）出ルニ及ビ、従前專ラ宇宙ノ万物ニ向ヒテ為シ、注意ヲ轉ジテ、之ヲ人類ノ要需ニ関セル事物ニ向ケタリ、初メテ此變化ヲ起シタリシハ所謂詭辨家ソフイニシテニシテ、此派ノ學士此説ヲ以テ大ニアテニス 雅典（希臘ノ名都）ノ人民ノ注意ヲ喚起セリ、此學士ハ皆斐學ノ思想ヲ以テ、公衆ニ對シテ講談ヲ為シ、以テ自己ノ學派ノ擴張ヲ謀リシ者ノ如クニシテ、要スルニ其人ハ大抵能ク教育ヲ受ケ、能弁ニシテ巧思アリ、又好名ノ性ヲ有セル者ナリ、此派ノ學士ノ功過ニ至リテハ、世論甚タ一致セズ、或ハ世ニ大功アリト云フ者アリ、或ハ大害ヲ為シタリト云フ者アリ、然レドモ此學士ガ、人ニ考究ノ念ヲ起サシメ、其知識ヲ開擴シ、又政事ノ學ヲ進メテ高等ノ地ニ達セシメ、雅典ノ富者少年ニ辯論ノ術ヲ教ヘタルコトハ、疑フベカラザルノ事実ナリ、此派ノ學士中ニ於テ最モ卓越セルハ、\*布羅大菽拉プロタゴラス、ゴルヂアス、プロナコス、ヒシレテス 希比亞ノ四人ニシテ、布羅氏ハ道德ノ教ヲ以テ名アリ、プロナコス 弔氏ハ革文ト政事學ニ長シ、ヒシレテス 布祿氏ハ文法語學ニ遠ク、ヒシレテス 希氏ハ博ク諸藝ニ通ゼリ、蓋シ詭弁家ノ説ノ自ラ懷疑派スケツフニ傾ケルハ、疑ナキ所ニシテ、其論スル所ヲ視ルニ、何レモ堅固ナル信用ベリイトイフコトハ尽ク之ヲ破壊セザルハナシ、

\*〔西村による頭註〕 \*布氏四百八十年 懿德二十一年



スルナリ、居勒内克ノ學派ヲ唱フル者ハ、アリスチツプス 亜利賈甫ナリ、此學派ハ居

匿ノ學派ト全ク相反シ、快樂ヲ以テ人類第一ノ善ト為ス者ナリ、此兩  
學派ニ於テ説ク所ノ心性ト行為トニ就キテノ意見ハ一旦消滅シタリシ  
ガ、上古ノ時ニ於テ嘗テ一時再興シ、近代ニ至リテ更ニ再興スルヲ見  
タリ、此二學派ハ何レモ インテレクチュール 知性ノ暗想ノミヲ主トシ、之ニ頼リテ道  
徳學ノ結構ヲ立テ、又道德ノ格言及ヒ行為ヲモ定メタリ、是其此ノ如  
ク左右ノ兩端ニ偏倚スル所以ナリ、

○此ノ如キ教學ハ素ヨリ瑣氏ノ學ノ一偏ヲ得タル者ナレバ、是ヲ以テ  
瑣氏ノ學ノ正統ト為スベカラズ、瑣氏ノ學ノ正統ト為スベキ者ハ、\*  
ブラト 布拉多、アリスト 亞立士度徳ノ二人ニシテ、此二人ハ実ニ全世界ノ大哲學家ナ  
ルノミナラズ、全歷代中ノ大哲學家ト稱シテ可ナル者ナリ、

○\* 布拉多ハ理想ノ大家ナリ、此人、吾知覺ニ感シ、又變化無常ナル  
万有ヲ以テ、人類ノ知識ノ限リトセズ、更ニ道理トイフ物アリテ、恒  
久不變ノ真理ヲ為ス者ナリト考ヘタリ、布氏ガ理想ノ理論、アイデアス 理想  
ノ理論、メタフセジカル 無形ノ善ノ理論ハ、此人ノ特殊ノ考究ニ出シ者ニシテ、其  
問答書ハ、其文義極メテ艱深ナレバ、善ク之ヲ讀ムニ非ザレバ、其義  
ヲ領會スルコト能ハザルナリ、道德ノ事ニ付キテハ、布氏ハ謂フ、ステト 国家  
ハ道德上最高ノ利益ヲ有スル者ナリ、一個人ハ公衆ニ服従セザルベカ  
ラズ、国家ハ一團ノ全体ニシテ、其中ノ種々ノ道德ヲ聚合シ、又之ヲ  
発散セシムル者ナリト、

〔西村による頭註〕 \* 布氏四百二十九年 孝昭四十七年

○古代ノ賢哲ノ中ニ於テ、布氏ハ素ヨリ卓越ノ識者ナレドモ、\*  
アリスト 亞立士度徳ノ如キハ、更ニ博大ノ識者ト稱スベキナリ、アリスト 亞氏ハ布氏ノ  
門人ナリシヲ以テ、常ニ布氏ヲ恭敬シ、其意見ノ異ナル時トイヘドモ  
亦其恭敬ヲ失フコトナシ、其著書ヲ視ルトキハ、其師ノ感化ヲ受シコ  
ト甚深キヲ知ルベシ、此事ハ布氏ガ瑣氏ニ於ケルモ亦然リ、アリスト 亞氏ノ如  
キハ當時世人ノ所有スル所ノ知識ハ、何レモ其一身ニ具有セザルコト  
ナシ、アリスト 亞氏有形學、無形學、洛日克、華文學、道德學、政事學ニ於テ  
皆著書アリ、此諸學科ノ中ニ於テ、全クアリスト 亞氏ガ創立セル學科モ亦之ア  
リ、アリスト 亞氏ガ學問ノ方法ノ特性ハ、總テ經驗ヲ以テ本トスルニ在リ、而  
シテアリスト 亞氏ガ哲學ノ主旨ヲ知ルコトヲ得ルハ、其結果ニ於テ見ルヨリハ、  
其方法ニ因リテ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、後來ノ諸學士ノ言ニ依ルニ、  
アリスト 亞氏ノ道德ノ學ハ希臘ノ昔ヨリ今日ニ至ルマデ、許多ノ學士ノ著述セ  
ル許多ノ書ノ中ニ於テ殊ニ價值アル者ト認定スルコトヲ得ベシトナ  
リ、アリスト 亞氏ハ主樂學派ノ人ニ非ズ、其説ニ依ルニ、凡ソ人類ノ行為ノ目  
的ハ、ハツピネス 幸福即チ安全ニ在リ、是ヲ得ントスルニハ、人類ノ能力  
即チ道理トイヘル物ノ活動ニ因ルベキ者ナリト言ヘリ、アリスト 亞氏ノ理想ハ  
專ラ合理ノ活動ヲ主トセリ、然レドモ亦貴重ニシテ自由ナル天性ノ  
働ヲ妨碍スルコトナカルベシトナリ、

〔西村による頭註〕 \* 三百八十四年 孝安九年

○布拉多垂立士度德二氏ヨリ後、希臘ノ諸哲家ノ説ハ、漸々其考究ノ範圍ヲ狭クシタリ、希臘ノ初世ノ哲學家ハ、其目的ハ皆宇宙ノ理ヲ鮮釈スルニ在リ、瑣氏及ヒ其門流ナル布亜ノ二氏ハ殊ニ人類ノ知識ノ性質ト其堅固トヲ得ンコトヲ務メタリ、然ルニ其後ノ諸學士ハ此ノ如ク廣博ニシテ錯綜セル學問ヲ變改シ、専ラ一個人上ノ事ニ注意ヲ用ヒタリ、是ニ由リ其考究ノ精密ナルコトハ、却テ前代ノ諸大家ニ勝レル者多シ、

○耶穌生前三百年ノ頃、熱那トイヘル哲家出テ雅典ニ於テ、大ニ講説ヲ開ケリ、此人ノ學派ハ之ヲ士兌格ト稱ス、斯兌格トハ、苦樂ヲ同視スルノ義ナリ、熱那及ヒ其門人ナル古倫的、基利失朴等ノ著ハセシ哲學ノ書ハ希臘ヨリ羅馬ニ傳ハリ、數百年ノ間、著名ノ學士ノ考究スルノ物トナレリ、斯兌格ノ學ハ古代ノ希臘ノ哲家ノ如ク、宇宙間ノ万物ニ付キテ考究ヲ為シ、其説ヲ定メテ曰ク、世界ハ上帝ノ身体ナリ、上帝ハ世界ノ精神ナリト、因テ之ヲ万神教ノ實物學パンテイアリズムト稱セリ、其道徳ノ説ハ、道理オモト秩序オモト法則オモト三者ヲ以テ、宇宙間ニ貫通流行スル者ナリトシテ之ヲ信ゼリ、斯兌格ノ學ノ修身ノ要ハ、天然ナチュト相協合センコトヲ求ムルニ在リ、謂ヘラク道理ハ有形ノ万物ヲ支配シ、天然ハ人ノ精神ト生命トヲ支配スル者ナリト、又此學派ニハ徳ユートイフ者ヲ非常ニ崇重シ、彼居キョウソク匿カクレノアラユル快樂ヲ尽ク棄捐スベシト言フガ如キニハ非ザレドモ、又人タル者ハ事情シルカムヲ離レテ獨立シ、其安全ヲ天然ト道理トノ上ニ求メザルベ

カラズト言ヘリ、斯兌格ハ又落日克ノ學ヲ進歩セシメタルコトニ於テ其名後世ニ著シ、

○斯兌格ト同時ニシテ互ニ其意見ヲ異ニスルノ學派アリ、之ヲ耶卑古連ト云フ、此學派ハ耶卑古路及ヒ其門人ノ建ル所ナリ、耶氏ハ其行為簡率ニシテ當時世上ニ名譽高カリシ人ナリ、然レドモ此學派ハ永ク後代ノ誹議スル所トナレリ、有形學ハ此學派ニテ習學スル所ナレドモ、其主意ハ重ニ世人ノ迷信ヨリ出ル恐怖ヲ論シ、天命災ナルコトヲ知ラシムルニ在リ、其道徳ノ説ハ、究竟善ヲ以テ快樂プレチニアリト為シ、徳ヲ以テ快樂ヲ求ムルノ方法ナリト説ケリ、故此學ノ教義ハ現今ノ主義教及ヒ利益論ト甚相似タル者ナリ、其道徳及ヒ仁愛ノ品性トイフモ、總テ快樂ト利益トヲ根本トシテ之ヲ造成セリ、然ルニ此教義ノ結果ハ、道徳ノ獨立ノ根基ヲ破壊シ、人類ノ感覺ヲ以テ正理ノ天則ニ代ヘタルヲ以テ、竟ニ腐敗ノ害ヲ見ルコトヲ免カレザリシナリ、

○布拉多ノ學派ヲ亞加特美ト云ヒ、垂立士度徳ノ學派ヲ理究リキユム、又伯利巴の底ト云フ、之ニ斯兌格ト耶卑古連トノ二學派ヲ加ヘテ是ヲ希臘ノ四大學派ト稱ス、雅典ニ於テハ、此四大學派ノ行ハル、コト數百年ノ久シキニ及ベリ、此他尚著名ナル一學派アリ、懷疑派スkeptツト稱スル者ナリ、此學派ヲ創メシ者ハ比羅ピロニシテ、其後ニ至リ、耶西的摩、亞革力巴、塞内多、炎比利孤等ノ諸家ヲ出セリ、

○希臘ノ是等ノ哲學ノ諸大家ハ何レモ其學業ヲ以テ羅馬ノ學士ニ傳ヘタリ、羅馬人ハ武勇ニ、法律ニ、信心ニ於テハ、他國ニ勝レリトイヘドモ、(暗想)ト辯舌ノ才ト至リテハ、大ニ上ノ三者ニ及バザリシナリ、是ヲ以テ是等ノ事ハ、常ニ之ヲ其屬國ノ民(此時希臘ハ羅馬ニ亡ボサレテ其屬國トナレリ)ヨリ學ベリ、布拉多派ノ加尔尼得カルニデーデス、亞立士派ノ古利多勞クラトラウラス、斯兌格派ノ直窩尼熱デオニゼネスノ如キハ、希臘學ヨリ出タル羅馬ノ哲學家中ニ於テ、殊ニ著名ノ者ナリ、又耶卑古連ヨリ出タル者ニモ路古勒周リュクレチユストイヘル名家アリ、此人ハ殊ニ詩學ニ長ジ、其作ル所ノ韻語ハ、能ク特摩古利多、耶卑古路ノ主意ヲ演述セリ、其後ニ至リ、斯兌格ノ學派ヲ奉ズル者ニ三人ノ大家ヲ出セリ、其一ヲ塞内加セネカト云ヒ、差マカ後レテ馬古奧勒流マルクス・アウレリユス、耶卑古の多ノ二人アリ、是等ノ斯兌格學ノ著書ハ、皆耶穌ノ教義ヲ奉ズル者ニ非ザレトモ、其論說ノ位格ハ最高等ノ地位ニ達セリ、然レドモ此ノ如キ名家ノ著書ト信仰トハ、大ニ社會ニ感化ヲ及ボサズシテ止ミタリ、

○西塞祿シセロハ拉丁ノ哲學家中ニ於テ最モ卓越ノ名アル者ナリ、西氏ハ自ラ新亞加特美アカデメイノ門流ト稱スレドモ、其実ハ反テ斯兌格ト相似タル所多シ、西氏ヨリ以前ニ出タル哲學家ノ事迹ト學說トハ、西氏ノ書ニ依リテ後ニ傳ハル者多シ、

○基督教ノ起ルニ及ビ、世界ノ万事ヲ一新セリ、此教義ハ人類ノ知識ノ高等ナル力ヲ進メテ、全ク従前ノ習慣ヲ變化セシメントスルニ在リ、

又此教法ハ一個人ト社會トニ通ジテ深厚ナル道德ノ基礎ヲ建テタリ、然レドモ此教法ニテ為シタル事業ヲ以テ、単ニ道德力ノミノ功績ナリト思フハ皮相ノ見ナリ、此教義ハ上帝ノ默示ナルコトヲ自ラ明言セリ、降生ト贖罪トノ二事ハ、上帝ガ、人類ト聖父トノ間ノ通路ヲ準備セル橋梁ナリ、上帝ハ明カニ人類ニ告知シ、人類ハ尽ク上帝ニ服従ス、神學テオロギイ、或ハ之ヲ完全ナル心象學ト稱ストハ此教法ノ光輝ヲ反射スル者ナリ、此教義ニ於テハ世界ヲ以テ上帝ノ工作物ニシテ、人類ノ為メニ靈魂ノ教育ヲ指示スルノ方法ナリトセリ、

○基督教ノ教法ヲ信ズル者、及ヒ基督時代ニ在リテ此教義ノ保護者タリシ諸家ハ總テ哲學ノ想念ヲ以テ其防禦ノ材料ト為シ、又哲學ノ疑問ハ、默示ノ佑助ヲ以テ之ヲ鮮釈スルコトヲ得タリトセリ、如斯丁馬ル底ハ自ラ曰ク他ノ學問ニ於テ之ヲ求ムルモ得ルコト能ハザリシ事ハ、基督教ノ中ニ於テ之ヲ発見セリト、克勒面亞勒山得模ハ其著書ニ於テ曰ヘラク、天則ハ猶太人ノ教師ニシテ、斐學ハ異教者ヲ論シテ基督教ニ帰セシムル為メノ教師ナリト、拉丁ノ師父ノ中ニ於テ奧古斯丁アウグスティンハ其斐學ニ博通セルト、斐學ノ精神ニ貫徹スルヲ以テ諸人ニ勝レタリト云ヘリ、總テ基督教ノ神學家ハ古代ノ哲學者ノ中ニ於テ殊ニ布拉多ノ學說ヲ尊重セリ、

○第三世期ヨリ第六世期ノ間ニ於テ、アレキサンドリイ乙亞勒山德黎、羅馬、雅典ニ新布拉多派ト稱スル學派起リテ、專ラ人ノ知識力ト精神力トノ事ヲ考

究セリ、新布拉多派ハ、古代ノ哲學ノ精神ヲ傳ヘタル最後ノ學派ニシテ、當時專ラ耶穌宗教ト反對ノ地ニ立テリ、此學派ノ初期ニ於テ有名ナル學士ハ、布羅底那、剝尔非利ノ二人ニシテ、終期ニ於テ著名ナルハ揚不利孤、布祿克路ノ二人ナリ、新布拉多派ノ學士ハ、又神秘學ミステックト云ヘル武器ヲ執テ、當時流行セル懷疑派ノ說ヲ攻撃セリ、此學派新布拉多派ニテ言フ所ノ、直覺ヲ以テ絶対ノ真理ヲ知ルベキコトト、純清透明ナル精神ヲ以テ、上帝ノ示現ヲ知ルベキコトトノ二說ハ、當時其歩ヲ止メタル心學ヲシテ、其位置ヲ移動セシムルニ足ル者ナリシ、此學派ノ致知學即チ知識ノ學ト云フ者果シテ此ノ如クナルトキハ、其宇宙學コスモロジーナル者ハ、多少抽象的超絶的ノ者ナルベシ、其說ニ曰フ獨一上帝ヨリ道理ヲ生シ、道理ヨリ世界ノ精神ヲ生シ、世界ノ精神ヨリ有形ノ万物ヲ生ス、一個人ノ精神ハ道理性ト知覺トヲ兼有スル者ニシテ、善ク情欲ヲ滅絶スルトキハ、恒久不朽ノ神ト交通結合スルコトヲ得ベシ、

○是ヨリ後、羅馬ノ滅亡セルコトト、基督教ノ欧州諸国ニ開弘スルコトトハ、數百年間專ラ歴史上ノ事迹ナリシ、此時代ハ一モ哲學進前ノ兆ヲ見ルコトナク、只數名ノ哲學家ノ僅ニ其名ヲ後世ニ傳フル者アルノミ、第六時期ノ時伯周ペチニスアリ、古經典ノ最後ノ學士ト稱セラル、第九時期ニ約翰耶里熱那ジョンエリゼナアリ、宗教哲學チツクノ天明ニ現シタル晨星ナリト稱セラル、此二人ノ外ハ世ニ哲學ヲ以テ人ニ知ラレタル者ナシ、

○第十一時期ニ安泄倫アンセルムノ出シヨリ、第十四時期ニ維克力弗ウヰクリフノ出シマデノ間ヲ宗教哲學ノ時代ト稱ス、此三百年間ノ哲學ハ、神學ノ侍婢タルニ過ギズ、其哲學ヲ學ブ者ハ皆宗教者ニシテ、唯是ヲ以テ宗教ノ解釈ト防護トニ用ヒタル者ナリ、此間ニ一人モ大問題ヲ發シテ、哲學ヲ以テ宗教ヨリ獨立セシムルノ識見ヲ開キタル者ハ無カリシナリ、當時ノ哲學者ノ中ニ於テ、亞伯拉アベラルドノ敏捷ナル洛日克、聖維古多セントウヰクトルノ深奧ナル神秘論、倫巴コンバルドク的ノ彼得ピートルノ銳利ナル神學、亞尔伯多アルベルト馬格那マクナノ廣博ナル學術全書、托馬亞基拿トーマスアクイナスノ獨斷ナル反抗論、同蘇各多ドンスコツトノ工妙ナル醫術ノ如キハ、基督教ノ歴史中ニハ一モ之ニ勝レル者アルヲ見ザルナリ、然レドモ波羅特士プロテスタント敦敦ノ全体ノ意見ニハ、宗教哲學ノ才幹學力ハ此頃大ニ衰ヘタリト云ヘリ、近世ノ神學ノ精細ナル方法ハ、其定義、演繹、証論、共ニ大ニ中古ノ時ニ異ナレリ、此宗教哲學ノ初期ニ於テハ、欧州ノ學士ハ、亞拉伯學士アラビヤノ尽力ニ由リテ僅カニ亞立士度德アラビヤノ書ヲ見タルニ過ギザリシガ、其後半期ニ至リテハ、此學派ニテハ、何レモ亞立氏ノ書ヲ信奉シテ、卓越ナル名論トセリ、又之ト同時ニ宗教哲學ノ或ル大家ノ中ニハ深く布拉多ノ說ヲ信ジテ之ヲ奉ズル者モアリシナリ、

○実躰學リアリズム、名目學ノミナリズムノ異見ハ、中古ノ時ニ於テ、屢々大ナル爭論ヲ起シタリ、実躰學ハ本ト宗教ヨリ來レル者ナレドモ、大ニ之ニ抵抗スル者アリタリ、第十一時期ノ終ニ魯泄林ロツセリン出テ、初メテ名目學ヲ唱ヘ、尋テ第

十四世期ノ時ニ於テ、阿坎力ヲ尽シテ実体學ノ基礎ヲ破壊センコトヲ務メタリ、アベラド 亞伯拉出テ、コンセフシヨナリズム 想念學ヲ唱へ、其說ヲ、前ノ兩極端ノ說ノ中間ニ立テタリ、

○道理ト云フ者、漸々ニアウツリチイ 威權ト云フ者ニ反對シテ其位置ヲ占ムルニ至レリ、中古ノ時代ニ於テ、教門ノ威權及ヒ聖書又ハ教門ノ諸師ノ著ハセル諸書ノ威權ノ如キモ皆道理ニ依リテ其威權ヲ保ツコトトナレリ、是ニ因リテ學士思考ノ法差、セ 變改シ、從前久シク持續セシ挾制ハ、之ヲ輕視スルノ時節到來セリ、學問ノ蘇生ト、獨立思想ノ蘇生ト伴ヒ起リ、遂ニ教法改革ノ大舉アルニ至レリ、第十五世期ノ中葉ニ於テ、希臘ノ學士等欧州ノ西部ニ來リ、偶々セ 印書法ノ發明アリテ、大ニ人智ノ上ニ活動ヲ起シ、中古ノ世ノ鎖杻ハ棄擲セラレ、自由ノ時代將ニ來ラントセリ、此時ヨリ布拉多ノ學說大ニ流行シ、從前久シク行ハレシ亞立士度德ノ學說二代ハレリ、蓋シ布氏ノ說ハ自由ノ義ヲ説クニ頗ル便利ナレバナリ、万有ヲ考索スルコトハ、或ル妄想ノ口実ニ之ヲ用ヒタリ、然レドモ又改革ノ口実ニモ之ヲ用ヒタル者ナキニ非ズ、其中或ハ天文學宇宙學ノ為メニ真正ノ基礎ヲ立タル者モアリ、是ニ由リ一般ノ知識力活潑トナリ、困難ノ問題ト利益アル問題トヲ解釈センガ為メニ、大ニ獨立ノ思想ヲ奮起セリ、是近世哲學ノ之ニ繼テ起リシ所以ナリ、

○英國ノロールト 勞爾德倍根、其著書ニ於テ、初メテ學問ノ性質上ニ新法ヲ案シ出セリ、是ヲ哲學ノ新紀元ノ初メトス、倍根ノ方法ハ猶未熟ナル者ア

レドモ、是ヨリ改革ノ端ヲ開キ、古代ノ威權ノ支配セ、レイン、オ 漸々ニ除キ去リタリ、然レドモ人心ニ関シ、全ク經驗上ノ理學ヲ用ヒシハ、デカルト 法國ノ德加多ヲ以テ其始祖ト為スベシ、德氏ハ獨リ人心ノ考究ノミナラズ、其疑点、其信仰、其理想ノ根脚、其二元論ノ結構、共ニ後代ノ衆理學者ノ則ヲ取ル所トナレリ、德氏ハ己ガ一身ノ現存ヲ信ズルノ外ハ、セ 尽ク他ノ万物ノ現存ヲ疑ヘリ、而シテ此一事実ヨリシテ上帝ヲ信シ、更ニ此宇宙ヲ信ゼリ、德氏ノ教義ハ、凡ソ万有ハ其大サヲ有スルヲ以テ其區別ヲ立テ、思想ヲ以テ本性トスル心トハ、全ク別物ニシテ、万世ヲ亘ルモ、竟ニ合シテ一トナルコトナシト説ケリ、此説ハ德氏ニ創マリ、欧州大陸ノ諸理家ニハ此偏說ヲ信ズル者多シ、心ト物トノ間ノ鴻溝ニ橋梁ヲ架セント欲シ、ギエリシクス 稽林斯ハ偶然ノ原因ル、カウゼス ノ理論ヲ説キ、マレブランス 馬勒伯朗ハ万物ハ上帝ノ中ニ在リトイヘル理想ノ教義ヲ創案セリ、右等ノ諸說ハ、遂ニ德氏ノ二元論ニ反對スル所ノ一元論モニズム 及ヒ士畢那撒スピノザノ万有神教ヲ生スルニ至レリ、士氏ノ教義ノ簡單ナルト深奥ナルト及ヒ其万物ノ元質アルコトヲ信ジ、物ト心トハ特ニ原質ノ形状ナリト説クコト、又道德ハ絶對ノ必至ナリト説クコトハ、今世期ノ諸學士中ニモ之ヲ信スル者多ク、再ヒ世間ニ蘇生スルニ至レリ、

○英國ニ於テ理學哲學ノ進路ハ種々ノ流派ニ分レタリ、概シテ之ヲ見レバ、此國ノ理學論ハ心象學ニ傾ク者多クシテ、オントロジイ 実質學ニ傾ク者少ナシ、インヂビチ 自立ニアリチイト云フコトハ此國ノ學問ノ要鍵ナリ、ロツキ 駱克ノ論說ハ獨

リ英国ノミナラズ、大ニ欧州ノ諸国ニ行ハレタレドモ、之ニ抵抗スル者モ亦常ニ多カリシナリ、駱克ノ徳加<sup>デカ</sup>ル<sup>ルト</sup>のニ於ケル、老徳希伯爾<sup>セルビユリ</sup>ノ塞爾<sup>セル</sup>善利<sup>ビユリ</sup>ニ於ケル、其意見ノ相反スルノ状如何ントイフコトハ、明詳ニ之ヲ判断スルコト能ハズ、然レドモ駱氏方無知ノ平民ノ悟性ト觀察トニ訴フルコトト、其想念ノ新道路ト、衆想念力総テ感覺ト回想ト（經驗ノ二方）ニ干係スルコトト、知識ノ種類ノ解釋ノコトトハ、吾等ガ見ル所ニテハ、或ハ謬迷ノ説モアリ、或ハ不完全ノ説モアルガ如クナレドモ、其説ク所ハ、当時英国人ノ資質ニ適合スルヲ以テ、其學説ハ久シク此国ニ行ハレタリ、駱氏ハ又懷疑派ノ為メニ其道路ヲ開キタリ、然レドモ氏ハ自ラ懷疑派ヲ信スル者ニハ非ザリシナリ、伯基黎<sup>ベルケレイ</sup>ハ有形ノ元質<sup>マテリアル</sup>ト云フコトヲ却ケタリ、駱克ハ信用ノ基礎ト云フコトヲ取ラズ、信用トハ何物ナルカヲ知ラズト説キタレドモ、有形ノ元質<sup>マテリアル</sup>ハ反テ之ヲ信ゼリ、休慕<sup>ヒューム</sup>ハ信用ニ付キ、駱氏ト同シ道路ニ從ヒ、更ニ性<sup>ヒューム</sup>ノ元質、有形ノ元質ヲ併セテ、共ニ之ヲ信ゼザリシナリ、休慕ハ哲學家トシテハ、純粹ナル現象家<sup>フェネメニスト</sup>ニシテ、後ニ懷疑家トナレリ、故ニ此人ノ説ニ於テ、道理トイヘル声ハ、常ニ天然トイフ声ニ反抗セリ、

○上ニ記シタル哲學ノ理論ト、殆ント同一ノ流行ヲ為シタルハ、道德ノ思想及ヒ其理論ナリ、霍畢士<sup>ホップス</sup>ハ、古代ノ道德主義ノ教法ニ根スルノ説ヲ改革シ、道德ノ根基ヲ人類ノ利益ト國家ノ最上權ノ上ニ定メタリ、

謂ヘラク國家ノ最上權ハ正邪ヲ造ルニ十分ノ力アル者ナリト、駱克ハ知識ノ本ハ一個人ノ感覺ニ在リト定メタリシガ、道德モ亦根元ハ知識ニ同シト言ヘリ、駱克ハ又快樂ヲ以テ道德上ノ善ノ証驗ナリトセリ、此説ニ依リ、駱氏ハ近世ノ主義<sup>ドニスト</sup>及ヒ利益教ノ發明者ト稱セラレタリ、○霍畢士駱克ノ説、一時大ニ世ニ流行シタレドモ、之ニ抗論スル者モ亦少ナカラズ、道德ノ善、即チ正トイフ者ハ、獨立ノ基礎ヲ有スルト云フ説ヲ唱フル者アリ、岡比蘭<sup>カムベルランド</sup>及ヒ摩爾<sup>モール</sup>ハ、仁愛ヲ以テ、上帝ノ指定シタル法則、即チ原理ナリト言ヘリ、拔多勒<sup>バットレル</sup>ハ良心ハ獨リ他ニ超越シテ、之ニ從属セル諸性能ヲ管理スルノ權勢アルコトヲ説ケリ、此二者ノ中間ニ立チテ、第十八世期ノ時ニ著名ナル道德ノ感覺<sup>モラル</sup>ノ學說行ハレタリ、此説ハ常ニ沙<sup>シャ</sup>の土<sup>テス</sup>不利<sup>フレイ</sup>、夫底遜<sup>フチン</sup>ノ名ト相結合セリ、亞當斯<sup>アダムス</sup>蜜帖<sup>ミス</sup>ノ同情ハ道德ニ十分ナル鮮積ヲ與フベキ者ナリト云ヘル説ハ、上ノ道德感覺ノ説ト相密着スル者ナリ、感覺ノ道德説ハ、休慕ニ至リテ其最後ノ開發ニ達シタリト云フベシ、休慕ガ道德ニ関セル論旨ハ、其識性理學ニ於テ論スル所ト其意ヲ同フセリ、休慕ノ暗想ノ思考ハ第十八世期ノ教學ニ於テ其極端ニ達セリ、是ニ因リ遂ニ之ニ抵抗スルノ諸論ヲ提起セリ、

○德逸ニ於テ第十八世期ノ間ニ流行セル哲學ハ、萊伯尼<sup>ライブニツ</sup>子ノ學ニシテ、其後窩爾<sup>ウオルフ</sup>弗少<sup>フ</sup>シク其學ヲ改定セリ、萊氏ハ心ト物トノ間ノ交通ヲ論ジテ、偶然<sup>オウカシヨナ</sup>ノ原因<sup>ルカウセス</sup>ト云フコトヲ非トシ、著名ナル前定<sup>プレエスタ</sup>ノ調和<sup>リスト</sup>トイフ

モニ。元子。トノ教義ヲ説ケリ、又學師改爾多ノ言タルガ如ク、  
 連続セル奇怪ノ説ヲ廢シテ、全体ヲ包含セル奇怪ノ説ヲ立テタ  
 リ、改氏ハ又窩尔弗ノ教學ヲ以テ、宗教哲學ノ蘇生ナリト言ヘリ、  
 ○德逸ニハ此頃ヨリ新ナル運動起レリ、坎德ハ初メ當時流行セル  
 獨斷教ヲ棄テ、樂天教ノ路ニ循ヒテ教導セリ、然ルニ坎氏ハ休慕ノ為メニ  
 其睡眠ヲ喚起セラレテ、尔後大ニ其學識ヲ進長セリ、坎德ハ初メハ宗  
 教哲學ヲ學ヒタレドモ、敢テ之ニ依着セズ、又懷疑ノ説ノ如キ單一ナ  
 ル識性論モ亦之ヲ信受セズ、以テ哲學ノ一期ヲ開キ、其學説ハ當時  
 諸哲家ノ最上頭ニ位セリ、然レドモ坎德ガ決定セル所ノ者モ未タ一般  
 ノ信認スル所トナラザル者少ナカラズ、  
 ○坎德ノ理學（哲學）ハ純粹ノ道理ト習行ノ道理トノ兩者ヲ鑒定評論  
 スルヲ以テ評論學ノ名ヲ以テ世ニ知ラル、坎氏ノ目的ハ、人類ノ知識  
 ニ付テ堅固ナル定説ヲ立ントスルニ在リテ、殊ニ經驗ノミヲ以テ知識  
 ヲ説クベカラズト云フニアリ、其故ハ人心ノ状態、形状、順序ノ如キ  
 ハ、經驗ヲ為スタメ、即チ經驗自身ノ為メニ必要ナル者ナレバナリ、  
 又坎德ハ謂ヘラク、凡ソ知識ハ皆相関ノ者ナリ、事物ノ本骸ハ吾等  
 ノ知ルコトヲ得ベキ者ニ非ズ、故ニ上帝ノ知識（上帝ノ知ルコト）不  
 朽ノ知識ノ如キハ純粹ノ道理ノ基礎トナル者ニ非ズト、然レドモ道德  
 ノ天性ノコトニ至リテハ、坎氏ハ其他ノ知識ヨリハ深奥ノ処ニ透入シ  
 テ之ヲ説ケリ、坎氏ハ又自由ト職分ト上帝トヲ以テ總テノ実体ノ中ノ

最モ神聖ナル者ト為シ、良心ノ命令ハ最モ威權アリテ十分ナル管制ヲ  
 為スベキ者ナリト説ケリ、坎氏ノ道德ノ後驗説ニ至リテハ、未タ一人  
 モ断然トシテ之ニ抵抗スル者ハアラザリシナリ、  
 ○休慕ノ懷疑論ノ反動トシテ、蘇国及ヒ德國ニ於テ異説ヲ唱フル者甚  
 多カリシナリ、黎德ノ常識論ハ殊ニ衆人ノ尊重スル所トナリシ、黎  
 德ノ説ハ全般ノ同意ヲ以テ、人類ノ通常ノ信奉ノ基礎ト定メタリ、黎  
 氏ノ學説ハ士的瓦多又之ヲ継ゲリ、哈未尔敦ハ蘇国ノ哲學ノ教義ヲ更  
 ニ廣博ニセント欲シ、天然ノ実骸學、即チ二元論ト知識ノ相関トノ二  
 學説（少シク兩立シ難キ所アレドモ）ヲ合セテ一ト為サンコトヲ務メ  
 タリ、  
 ○再ヒ法国ニ返リテ哲學ノ状ヲ見ルニ、此国ノ學ハ英国ヨリ其衝動ヲ  
 受シ者ナレドモ、第十八世期ニ於テ、此国ノ哲學ノ運動ハ、頗ル奇異  
 ノ状ヲ現ハセリ、昆底軋ノ感覺説ヨリシテハ歴史ニ依リテ按スルニ、昆氏  
 ノ學ハ噶仙底ヨリ出デズシテ、却テ駱克ヨリ出タリ、昆氏ハ謂ヘラク、  
 凡ソ人心ノ知識ハ皆知覚ヨリ之ヲ得ルナリ、心ノ真ノ能力ト云フ者ハ、  
 知覚ノ變化シタルニ外ナラズト、此語ハ頗ル放恣ナル説ナレドモ是ヨ  
 リ猶放恣ナル説出デ、其後ヲ継ゲリ、萬學派（日特婁ノ立タル學派  
 ノ名）ノ懷疑説ニ於ケル、特拉麥多利、鐸尔巴、的士丟埜多拉西ノ唯物  
 論ニ於ケル、黑尔勿丟ノ利已道德ノ如キ皆是ナリ、  
 ○法国ニ於テハ今世期ノ初メニ於テ、唯物論ト感覺論トニ抵抗スルノ

諸説連リニ起レリ、緬埜毘蘭メーレンデピランハ觀念學ノ泥濘ヲ出テ、虛妄學ノ岩石ノ

上ニ基礎ヲ定ムルマデニ其學識ヲ進メタリ、古參クーザンハ蘇國ノ黎德ト德國

ノ坎德ヨリ其學識ヲ受ケ、遂ニ折中學エクレクト名クル一ノ理學ヲ建テタ

リ、汝弗疊ジヨフロイト羅雅哥尔耶ローヤルコルヤハ其心思ノ高崇ナルヲ以テ世ニ稱セラレタリ、

然レドモ此二人ノ理學ハ寧ロ文學ノ方ニ傾キタル者ナリ、

○今世期中葉ニ於テ、法国ニ卓越ナル學士出テ、大ニ従前ノ教學法

ヲ改革セリ、其人ハ奥古士都坤篤アウゴストコントニシテ、坤氏ハ蓋シ現今ノ學問上ノ

精神ノ為メニ降生シタル者ナリ、其學理哲學ヒロソフヒイ（人類ノ信仰、即チ

宗教ヨリ離レテ考ヘタル者）ハ、凡ソ觀察ハ皆學問上ノ實驗ヲ以テ定

ムルト云フコトヲ說ケリ、是則チ坤氏ガ學科彙類法ノ由テ起ル所ニシ

テ、殊ニ心象學ノ如キハ、社會學ト結合セル生理學バイオロジイナリトシテ之ヲ說

ケリ、

○英國ノ今世期中葉ノ斐學（哲學）ハ霸結黎パーケレイ、哈多黎ハルトレイ、休慕ヒュームノ說キタル道

路ニ循フニアリ、但シ英國ノ哲家ハ、霸氏ノ學中其神學ノ一部ハ之ヲ

知ラザル者多ク、之ニ由リ其想念論ヨリ出タル世界ノ秩序ノ如キハ、

他説ヲ以テ之ニ代ル者少ナシ、又休慕ノ說ノ中ニテ、社會ノ毒害ヲ為

スベキ懷疑的虛無論ハ幸ニシテ之ヲ信スル者ナカリシナリ、又休氏ノ

教學ノ特殊ナリシコトハ、經驗的心象學ニ深く意ヲ注ギ、之ヲ以テ

瓜蔓Association 連念想ノ原理ヲ發見センコトヲ求メタリニ在リ、哈多黎ト休慕ト

ノ定メタル原理ハ、其後彌爾ミルノ父子及ヒ倍因等バイン之ヲ用ヒテ心象學ノ疑

問ヲ鮮積スルノ材料トセリ、又三家ハ之ニ因リテ、心ノ内部ノ能力ノ

想像論ニ許多ノ不要ノ者アルコトヲ發見セリ、

○進イボリエーション化ノ理ヲ以テ心性及ヒ道德ノ事ニ貼用セルハ、哲學家ガ近時

ノ務ムル所ナリ、其事ハ次ノ鮮ニ於テ之ヲ詳説スベシ、

○德國ノ斐學ノ狀ハ、坎德以來著ルク進歩セリ、然レドモ其系統順序

ヲ審ニスルハ極メテ困難ナリ、然レドモ其要ヲ摘スレバ下ノ五條ニ歸

着スルガ如シ、（一）德國ノ想念學イデア（又理想學）ハ速ニ成長セリ、

希克フビヒテの學ハ主觀ノ想念學ナリシガ、舍尔林シエルリッテハ客觀ノ想念學ヲ以テ之

ニ繼ギ、黑傑尔ヘーゲルハ絶對ノ想念學ヲ以テ之ニ繼ゲリ、然レドモ三家ノ想

念學ニ是等ノ區別アルコトハ通常ノ讀者ハ了解シ能ハザル所ナリ、（二）

此想念學ニ反對シテ現今德國ニ行ハル、モルレシヨット、ホグ、ビュヒネル、マリア起ル、是ヲ唱フル

者ハ摩勒モルレシヨット、何砮多ホグ、蒲希尼等ノ諸家ニシテ、其說ノ主トスル所ハ

古代ノ微塵論ヲ改良シテ、現今ノ學術ニ協ハシメタル者ナリ、（三）坎

德ノ斐學ノ中ニ於テ其一邊ノミ開發シタル者ハ宵辺浩尔シヨームンハウエル、及ヒ

芬花多曼フォンハートマンノ厭世教ウシシナリ、宵氏ノ說ニ依レバ坎德ガ不可知のトスル所

ノ絶對ノ成立トイフ者ハ他物ニ非ズ、即チ意思アソソナリト云ヘリ、

芬氏ハ不可識ト云フコトニ付キテ大ナル考究ヲ為シタリ、此二家ハ

殊二人ノ生命ニ関セル理論ニ於テ名ヲ得タリ、又此二家ハ何レモ人ノ

生命ヲ以テ憂愁多クシテ其望少キ者ナリトシテ其說ヲ立タリ、（四）

黑尔巴ヘルバルトハ坎德以後ノ想念學ノ進歩ノ伴侶ニアラス、西物勒シウエグレルハ黑氏ヲ以

テ萊伯尼士ノ微塵（元子）論ノ進歩シタル者トセリ、（五）ウルリチ鳥尔利知及  
ヒ洛泄ロツエハ共ニ虚妄説ノ解釈ニ従事スル哲學者トシテ世ニ頭ハレタル人  
ナリ、

## 第五解

### 現今英国斐學ノ狀況

○最後ノ半世期ニ於テ、英国ニテ哲學再興ノ運ヲ開ケリ、此ノ如ク人  
智ノ開發セシハ其原因一様ナラザレドモ、其初メハワイリアムハミルトン維廉哈未尔敦ガ  
臺丁堡（エジンバラ）ノ大學校ニ於テ為シタル講義ト、同氏ガ臺丁堡評論ヲ助ケタル  
ニ在ルコトニシテ、是ニ由リ斐學ノ歴史ト無形學論理學ノ問題トノ  
考究ニ関シテ大ニ人心ヲ開誘シタリ、又英国ニ於テ、有形學ニモ光輝  
アル進歩ヲ為シタリシガ、其事ハ二條ノ道路ニ循ヒテ進メリ、其一路  
ハ有形學ノ進歩スルニ從ヒ、総テ學者ヲシテ嚴密ナル學問ヲ為サ、ル  
ベカラズトイヘル心ヲ提起セシメタリ、然レドモ又是ニ由リ一方ニ於  
テハ、古来ヨリ觀察經驗ノ及フベカラザル所ト為シタル題目、即チ吾  
等ノ人体ノ存在、灵魂ノ存在、有形ノ万物、上帝ノ存在ト其命令トノ  
如キ、従前ハ専ラ信心ノ基礎トシタリシ者ニ就キテ、更ニ進ンテ暗想  
ヲ試ミントスルノ心ヲ提起シタリ、他ノ一路ハ「アックスマフォード阿斯佛ノ再興」  
レドモ、又総テ要用ナル學問上ノ問題ニ関シテ獨立ノ思想ヲ奮起セシ  
メタリ、今世期ノ間ニ於テ、欧州大陸ノ學術ニ秀デタル國民ト交際日

ニ繁キニ依リテ、斐學ノ如キモ、其他ノ學術ト同ジク、廣ク思想ノ交  
通ヲ為セリ、日耳曼（ゲルマン）ノ思想ニ関セル諸書、超勝、実験、厭世、唯物、耶  
穌ノ如キ諸教學ハ、尽ク英国ノ語ニ譯シ、国人ノ著ルキ要望ニ應ジタ  
リ、亜米利加人モ亦斐學ノ書ヲ著ハシテ英国ニ送ル者少ナカラズ、此  
国ノ斐學ハ蘇国ノ斐學ニ基スル者ニシテ、常識（コモンセンス）ノ原理ニ依ル者ナ  
リ、其外ニ又英国ノ瓦勒斯（ワレス）、達因、斯邊撒ノ進化主義ヲ取り、之ヲ解  
釋シ之ヲ批評シ、之ヲ擴張スル者亦多シ、又印度及ヒ其他ノ植民地ニ  
於テモ、惟本國ト政治貿易ノ干係ヲ通ズルノミナラズ、兼テ利益少キ  
哲學ノ關係ヲモ交通セリ、英国ノ學生ハ、學師格拉克、馬黎及ヒ葱尔佃  
ノ著書ヲ見テ英人ノ堅固ニシテ獨立セル思想ノ遠ク異邦ニ及ヒタルノ  
証トシテ大ニ之ヲ喜ベリ、

○此頃ヨリシテ英国ノ學生間ニハ、心象學ヲ以テ廣漠ナル哲學ニ代ヘ  
ントスルノ傾キヲ生セリ、是レ其初メ倫敦ノ大學校ノ經驗ヨリ出デ、  
廣キ地面ニ蔓延シタル者ナリ、此意見ハ蓋シ當時ノ不可思議論ヨリ起  
リシ者ニシテ、遂ニ實質學ヲ以テ無益ノ者ト為シ、無形學ノ問題ヲ以  
テ解スベカラザル者ト為シ、而學共ニ人類ノ注意勉力ヲ費スノ價ナシ  
ト為シ、者ナリ、是ニ由リ従来稱スル所ノ心性學（メタルフ）トイフ者ヲ以テ  
造化學（ナチユラル）トイフ一派、即チ人類學ノ一派ト為シ、觀察ト經驗トノ方法ヲ  
以テ其義ヲ明瞭ニシ、人類ノ天性ト品質トヲ頭ハス所ノ現象ヲ彙類セ  
ント欲スルニ至リ、是ト同時ニ心ノ現存（エキステン）トイフノ説ノ取ルベカラザ

ルノ義ヲ公然ト問題ニ掲出セリ、此心ノ説及ヒ其他ノ無形學ノ諸説ハ、共ニ他ノ學問、即チ本来ノ斐學ト云フ者ノ中ニ驅逐セラレ、心象學ノミハ全ク獨立ノ地位ヲ保ツコトナレリ、然レドモ心象學ノ考究ハ、哲學ノ論定ヲ假ルニ非ザレバ之ヲ成スコト能ハザルヲ以テ、身性ノ併立及ヒ其応効ノ如キハ、殊ニ學問上ノ知識トシテ之ヲ取ラザルベカラザルコトトナレリ、是ニ由リ雲度准都、何古曼（其二德人）ノ心象學ニ関セル諸説ノ如キハ、英國ノ万有學ナチユーラルヒストリイノ為メニ富饒ナル鑛原ヲ與ヘタリ、又物別ウエーベルガ觸ノ方法ニ由リテ知ル所ノ區別ノ力ノ説、赫希尼フエヒネルガ刺衝ト之ト相通セル知覺トノ關係ノ法則ノ説ノ如キハ、英國ノ學校ノ課業書ニ於テ、久シク衆人ノ知ル所トナレリ、的因ティンノ才智トイヘル書ハ、法國ノ書ヲ譯セル者ニシテ、能ク心象學ノ事實ヲ備ヘ、又其本原ノ確ナルト、書法ノ良ナルトヲ以テ、此種類ノ書中ニ於テ、凡庸ノ書ニ非ズト認メラレタリ、此外ニ撒黎サレイノ如キモ、其數部ノ著書ニ因リテ心象學者ノ中ニ其地位ヲ占メタリ、

○當代ニ於テ解剖學、生器學、病理學ノ三者ノ進歩スルニ從ヒ、自然ニ方ニ於テハ心ノ活動ト、一方ニ於テハ神經ト腦トノ間ノ學問ヲ結合スルニ至ルノ傾アリ、凡ソ人心ヲ論ズル所ノ學士ハ、此兩者ヲ結合スルコトニ付テ同意ヲ表セザル者ナシ、但シ其中ニハ、其學説ニ於テ決定スル所、其前提ニ適合セズト言ヒテ之ヲ議スル者ナキニ非ズ、博士カーペンター、メンタルメンタルヒシオロシヒシオロシ加邊打カベナノ心性生器學ハ此主義ヲ以テ論定セル書中ニ於テ最モ世間ニ

廣ク行ハレシ者ナリ、博士毛示黎モウズレイノ心ノ生器學ハ此事ニ管シ、必要ナル事實ヲ擧クルコト多シ、博士肥利爾フエリールノ腦ノ官能ハ數回ノ印刷ヲ為セル者ニシテ、其書ハ深奥ナル教義ヲ示スヨリハ、理論者ノ為メニ材料ヲ與フルコト却テ多シ、博士加得烏ガ心ト腦トノ關係ハ虛冥學家ノ朋友タルノ地位ヲ以テ其事實ヲ表示シタル者ナリ、博士拔士底安バスチアンノ「腦ハ心ノ機關」ハ單純ニ生器學ノ法ニ依リテ其説ヲ立テ、心ハ腦及ヒ神經ノ功用ニシテ、自識スベカラザル神經ノ働ハ、心ノ中ニ包藏スル者ナリト説ケリ、此説ハ全ク唯物論ナリ、

○現今學者ノ間ニ普ク行ハレタル哲學ノ状態ハ、進化的エボリューションナル、不可思議ノ説ナリ、心象學者ハ単ニ心ノ事實ヲ記シ、又之ヲ彙類センコトヲ務メ、嚴密ナル哲學上ノ疑問ヲ解釋スルコトヲ為サズ、不可思議家ハ、經驗ノ領地ノ外ニアル所ノ事物ヲ知ルノ能ナシト説ケリ、実理家即チ坤篤コントノ學ヲ奉スル者（総テ坤氏ノ初年ノ説ヲ信ジ、晩年ノ説ヲ奉ゼザル者）ハ皆何レモ神學ト無形學トハ之ヲ擲棄セリ、哈巴多斯（ハートスベンサ）辺撒（ヘーバートスベンサ）ハ、謂ヘラク、余ハ、凡ソ天地間ニ不可知ナル者ノ存在シテ又其働アルコトヲ信セリ、即チ万物ニ通セル主觀客觀、及ヒ上帝ノ自身ノ如キハ、其現存セル者ナルコトヲ推察スレドモ、其如何ナル物ナルカヲ知ルコト能ハズ、斯氏又言フ、体形、即チ実物ノ性相ノ結合ハ經驗ニ於テ之ヲ知ルト雖ドモ、其之ヲ結合セル所ノ形迹ハ不可知ノ者ナリ、又通常表示セル心トイフ物ノ中ニ於テ、知覺、觀念等ヲ結合スル所ノ形迹ハ、又

不可知ノ者ナリ、吾等方領會セル所ノ事實ハ此哲學ニ於テハ、之ヲ名ケテ単ニ不可知ノ表現ト名クルナリ、凡ソ知ルコトヲ得ベキ事物ハ、表現ノ外ニ何ヲ以テ之ヲ知ルベキヤト問ハ、吾儕ハ之ニ答フルコト能ハザルベシ、世人ハ大抵全ク表現ノミヲ以テ此ノ如キ知識ヲ得タリト為スナルベシ、又表現ナキ所ノ事物ハ、其存在セルコトヲ疑フナルベシ、然レドモ斯邊撒ノ斐學ハ不可思議說ヨリハ、進化說ニ據ルコト多ク、積極ノ元質ハ、消極ノ元質ヨリ之ヲ採用スルコト多シ、斐學ニテ之ヲ論スルトキハ、此人ノ說ハ、學術ノ決定ノ高等ナル概括ヲ以テ成ル者ナリ、總テ解説ヲ與フルコト能ハザル所ノ法則、及ヒ上帝ノ智力ニ歸スル能ハザル所ノ法則ハ、尽ク天然及ヒ人心ノ働ノ至極ノ能力即チ道理トシテ之ヲ論ズルナリ、実物ト人心トノ間ノ溝渠ニ橋梁ヲ架セントスルコトハ敢テ之ヲ望マザルナリ、斯氏ハ有力ナル<sup>リアリズム</sup>実體說ノ防護者ナリ、但シ其敵論ナル<sup>アイデアリズム</sup>想念說ニ管セル理論ハ或ル誤解セルガ如ク見ユル者アリ、<sup>デュアリズム</sup>二元論ノ如キハ之ヲ以テ不可知ノ表現ノ重複セル者ト考ヘタリ、然レドモ物ト心トハ共ニ進化ト<sup>デツクリュージュン</sup>溶化トノ最高ノ法則ニ從ハザルベカラザル者トセリ、凡ソ天地間ニアル有生天生ノ諸物ノ運動、又ハ人心ノ活動、及ヒ社會ノ形体ト變化トノ如キ、進化學者ハ何レモ皆節調ノ法則ノ下ニ屬スル者ト為シ、依テ哲學ヲ以テ諸學ノ學、即チ知識ノ全体中ノ勝レタル知識ナリト考定セリ、<sup>リユース</sup>○留斯ハ、哲學ノ浮虛ヲ證センガ為メニ「哲學ノ人物史」ヲ著ハシ、又

心象學ハ單ニ生理學ノ發達シタル者ト云フコトト、心ノ有形ノ根礎ハ何物ナルカト云フコトヲ証センガ為メニ「生命ト心トノ疑問」ト云ヘル書五冊ヲ著ハセリ、此學士ハ、最初ノ步級及ヒ學科上ノ步級ニ於テハ坤篤ノ說ヲ奉ジ、進化ノ理論ニ於テハ、達因ト斯邊撒トノ說ヲ採レリ、

○米國ニ於テ進化哲學ノ說ヲ表現シタル者ハ、<sup>フヒスグ</sup>希士格ナリ、然レドモ此人ハ英國ノ進化學士ノ如キ不可思議說ハ之ヲ取ラズ、其著書ナル「宇宙哲學」ハ進化說ガ大西洋ヲ踰エテ對岸ノ學士ヲ把握シタル明白ノ證トシテ之ヲ見ルコトヲ得ベキ者ナリ、

○以上ノ說ハ<sup>リスミツク</sup>節調ノ主義ト大ニ相協合セルヲ見ル、此節調ノ主義ハ、生器的心象學及ヒ進化的不可思議論ノ極端ニ走リタル者ニシテ、是ニ由リ遂ニ他ニ反對ノ意見ヲ抱ク者ヲ生スルニ至レリ、<sup>フラセル</sup>學師弗拉色ガ之ニ付テ論シタルガ如ク、當時ノ學者間ニハ、前說ニ反シテ不可思議論<sup>ノスチシズム</sup>及ヒ諾斯士論ヲ撰取スル者多シ、又人類ノ無知ナリトイフ說ニ抵抗シテ、今代ノ學士ノ中ニ於テ、人類ノ、純全ノ真理ヲ知ルノ能アリト主張スル者アリ、英國蘇國ノ後<sup>ホストカシチアン</sup>坎德即チ<sup>(ヘーゲル)</sup>黑傑爾ノ說ヲ奉ズル者ハ所謂<sup>ライヨナル、アイデアリズム</sup>道理的の想念論家ニシテ、<sup>パーケレイ</sup>霸結黎ノ主觀的及ヒ神學的の想念論ト大ニ異なる所アリ、又<sup>メツセルス</sup>墨泄尔ノ<sup>センセーションヨナリズム</sup>知覺的の想念論トモ更ニ異なる所アリ、彌爾及ヒ倍因ハ<sup>デヒツド、ヒュム</sup>霸結黎ノ真統ナリト雖トモ、其神學士ノ意味ヲ取ラズシテ、反テ大關休模ノ<sup>デヒツド、ヒュム</sup>懷疑說ヲ取レリ、彌爾倍因ノ說ハ、黑傑爾ノ絶對ノ

想念説ヨリ出タルコトハ疑ナキ所ナリ、然レドモ二人ノ説ハ、德國ノ先輩ヨリハ、英國ノ先輩ノ説ト比シテ、哲學ノ別種ノ形式ヲ作りタル者ナリ、其論法ニ於テハ殊ニ然リ、休模ノ教義ハ、英國ノ學者、殊ニ學問ノ理論ヲ專トシタル者ハ之ヲ採レリ、若シ學師哈士黎ハクスレイガ休模ノ書ノ批評及ヒ斐學ノ疑問ニ付キテノ一時ノ發言ヲ以テ、此人ノ正當ノ様式トシテ見ルトキハ、此時ノ英國ノ學者ハ、休模ノ現象説實驗説ノ破裂ノ為メニ、全ク感動ヲ受ケザリシ者ト見エタリ、蓋シ休氏ノ説ハ、當時英國及ヒ欧州ノ大陸ニ普ク傳播シタル者ナリ、

○或人ハ謂フ、知識ハ(習慣及ヒ連想ノ外ハ)尽ク知覚センセーションヨリ成ルト、或人ハ謂フ、經驗ハ(其印象又ハ寫像ノ如キ狭キ意味ニテ)識性ノ所得ノ全部ヲ為ス者ナリト、或ハ言フ人類及ヒ上帝ヲ以テ人体ト為シテ信ズルハ無益ナル迷想ナリト、現今ノ推理的及ヒ理想的派ノ學士ハ、是等ノ説ヲ以テ全ク誤見ナリトシテ之ヲ論ゼリ、學士格倫グレンハ休模ノ哲學書ノ序文ト、其道徳プレロゴマナ、オフ、エシツクスノ叙畧トニ於テ曰フ、經驗ハ、經驗ヲ作ルノ力、即チ心ノ本来所有セル力ヲ造ルコト能ハズ、又曰フ、識性ノ干係(知覚ノ印象ニ非ズ)ハ、眞実ノ本質ヲ作ル者ナリト、又此人及ヒ同シ學派ノ學士、十分ノ精力ヲ奮ヒテ、実物ハ尽ク心ニ付属セル者ナリト説キタリ、此ノ如キ理想説ハ獨リセンセーションナリズム感覺説ヲ顛覆セルノミナラズ、兼テ唯物説ヲモ顛覆セントスル者ナリ、蓋シ唯物論ハ現時大ニ民間ニ行ハレテ、其中ニハ或ル反對ノ相ヲ現スル者モ亦少ナカラザルナ

リ、此現今ノ理想説ハ、阿オックスフォード斯佛アラスゴノ大學校ト格拉斯奇グラスゴウノ大學校トニテ養成セラレタリ、甲ノ大學校ニテハ學師瓦ワ勒斯レス、格倫グレンノ二人、哲學ノ學生ヲ教フルニ、英國風ノ黑傑爾ケイルド學ヲ以テセリ、乙ノ大學校ニ於テハ教頭敬爾多ケイルド、學師義德瓦イドワードケイルド圭グイ多ド殊ドニ流行ノ感覺説實驗説ニ反對シテ其説ヲ立テタリ、此諸學士ノ以前ニ於テ聖安多流アンドリュースノ學師肥利爾フェリール、其堅固ナル想見ヲ以テ大ニ感覺論ニ抵抗ヲ為シタリ、博士夫底遜斯打林ハ「黑傑爾ノ秘密」トイヘル書ヲ英國ニ弘メタルヲ以テ信用ヲ得タル人ナルガ、此學士又當時ヤ、衰色ヲ呈シタル唯物説ノ為メニ明白ナル人答ヲ為シタリ、學士哈合的ハバートノ「經驗學者ノ眞実ノ意見」ト云ヘル書ハ、緻密ニシテ有力ナル証論ヲ載セ、世間ニ行ハル、謬説ノ最モ甚シキ者ヲ挙テ其誤ヲ辨ジタリ、

○然レドモ上ニ記シタル極端ノ諸論ハ廣ク哲學思想ノ田野ニ分配スルコトヲ許サレザリシナリ、蘇國ノ學流ハ未タ全ク消滅セズ、(此學流ハ着実ナル觀察ノ上ニ進行シ、絶対ナル理想説ノ先天論ヲ信ゼズシテ、是ト同時ニ英國ノ學士ガ多ク執ル所ノ感覺的實驗論ニ反抗スル者ナリ)臺丁エジンズノ學師弗拉色フラセルハ霸結黎ノ出版者ナルガ、其著者ハ自己ノ本来ノ意見ヲ記スルヨリハ、寧ろ他人ノ書ヲ批評スルコト多シ、然レドモ其書ヲ讀ムトキハ、弗氏ハ虛妄哲學ノ弁護人タルノ證ヲ見ルコトヲ得ベシ、直覺派ノ道徳論ト非唯物派ノ心象學説ノ要論ハ學師加得烏カデルウノ著書ヲ見テ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、學師設得セツトハ黎德リードヲ保護スルノ意

ヲ以テ、蘇國ノ學士ノ希望ヲ述ベタリ、其論ズル所ハ蓋シ坎徳ノ説ニ依リテ、休模ノ説ニ答フルニアリ、

○博士馬奇西マツコシハ白哈斯ベルハストヨリ布林士敦プリンストンニ迂リ、久シク其地ニ教授シタリト

イヘドモ、之ヲ目シテ阿爾蘭人アイルランド亞米利加人ト為スコト能ハズ、此人

ノ文學教法哲學ハ共ニ純然タル蘇各蘭人ナリ、馬氏ノ著ハシタル、

蘇國ノ哲學ト云ヘル書ハ、北比利敦ブリテンニ於ケル無形學ノ廣博ニシテ注意

深キノ証トスベクシテ、馬氏ハ更ニ其學ニ就キテ、新道路ヲ踏開キタ

ルコトヲ見ルヲ得ベシ、又馬氏ハ其年久シキ講學ノ間ニ於テ、天然宗

教ノ真理ヲ証明シ、又之ニ依リテ種々ノ誤見ヲモ立定セリ、此誤見ハ

其門派ノ間ニハ一時大ニ信用ヲ得タリ、馬氏ハ又其「心ノ直覺」ト云

ヘル書ニ於テ哲學ヲ構造スルノコトヲ務メタリ、又其心象學ト動感ト

ニ付キテ著ハセル課業書ハ、其久シク從事セシ學校ニ於テ大ニ聲譽ヲ

博シタリ、

○エール莫爾大學校ノ博士諾亞波爾ノアボルテル的ハ馬氏ト相似タルノ説ヲ把持シ、馬氏ノ

説ニ付テ大ニ相反対スルコトナシ、諾氏ハ其「人ノ識性」ト云ヘル書

ニ於テ、心象學ノ倉庫ニ大ナル助勢ヲ與ヘタリ、

○博士麻底紐マルチニウノ説ハ特殊ノ者ナリ、麻氏ハ哈多黎ハルトレイ、布利士多黎プリイストレイ、本堂

等ノ諸家ノ學ヲ修メ、晩年ニ至リ、其早年ニ受タル學問ノ鎖紐ヲ解脱

センコトヲ務メタリ、麻氏ハ自ラ精神スピリチュアルノ自由ナルコトヲ發見シ、

遂ニ他人ニモ同様ノ自由ヲ求メシメンコトヲ務メタリ、已ニ哲學ノ變

更ヲ為シタル後ニ、麻氏ハ不適當ナル有形學フヒシクスノ説ヲ哲學ニ貼用スルコトヲ廢シ、又定道説デテルシニスムヲ以テ、道德ノ自識ト兩立シ難キ者ト為シテ之ヲ卻ケ、更ニ有形學ノ法則ハ、認識、味道、道德ノ法則ニ貼用スベカラザルコトヲ發見ゼリ、

○洛日克ハ古代、即チ亞立士子ノ光輝ヲ尊敬スル者ナリトシテ見ルト

キハ、近代ノ論説ニ付キテハ、要用ト認ムベキ者甚多カラザルナリ、

世ニ行ハル、所ノ此學ノ課業書ハ、古代ノ者ヲ再刻シタルニ過ギズシ

テ、近代ノ課業書ト云フモ、唯古代ノ書ノ迹ニ隨ヒテ之ヲ記シタルニ

過ギザルナリ、襄曼塞爾ザンマンセル、其洛日克ブレロクメナ、ロジカ總論ト云ヘル著書ニ於テ、總テノ

推理ノ根元ヲ考究セリ、近代演繹ノ洛日克ニ於テ、新ニ増加シタル者

ハ賓位プレヂャットノ分量ヲ測ルノ教義ナリ、此教義ハ哈美尔敦ノ發見スル所ニ

シテ、其門人斯邊撒倍尼士スベンサル其著書、「洛日克ノ形成ノ新分析」ニ於テ詳

ニ之ヲ解釈セリ、學師摩尔侃モルカンモ亦此教義ノ發見者ナリ、此法ハ大教長

坦孫其著書「思想ノ法」ノ中ニ新形式ヲ作りテ之ヲ標示セリ、然レド

モ此教義ハ一般ニハ唯洛日克中ノ一奇説トシテ之ヲ觀ルニ過ギザリシ

ナリ、其後學師士坦黎スタンレイ熱本其「同一ノ變置」トイヘル著書ニ於テ、尋

常ノ洛日克ノ正格ナル形式ヲ解釋シ、謂ヘラク凡ソ推理ハ皆言辭ノ同

一ト變更トノ上ニ成ル者ナリト、

○歸納法ノ洛日克ハ休物尔ヒューウエル、彌尔ミル、熱本ノ勉力ニ由リテ、大ナル進歩

ヲ為シ、觀察者考究者ノ為メニ幾多ノ定則ヲ立テタリ、是ヨリ歸納法

ナル者ハ復タ臆測ノ工事ニ非ズ、又庸医ノ仁術ニ非ザル者トナレリ、  
 ○英国ニ於テ、現今道德哲學ノ状態ハ、心性哲學ト同様ニシテ、其  
イテレクテニル  
 根基ノ論ニ管シ、諸學士ノ考フル所大ニ相同シカラザル者アリ、凡ソ  
 道德學ニ管セル疑問ハ、甚多クシテ、皆錯綜セル疑問ナリ、曰ク至善  
チーフクツト  
 トハ何物ゾ、曰ク生活上ノ法則ハ何物ゾ、曰ク正シキ行為ノ準度ハ何  
ライフ  
 如、曰ク善ト云フコトハ、心性中ニ在ルカ、行為ノ上ニアルカ、曰ク  
 道德ノ性相ハ道理ニ依リテ之ヲ定ムルカ、又感覺ニ從ヒテ之ヲ名クル  
フハカルチイ  
 カ、曰ク道德ノ能力即チ良心ハ、單一ナル者カ、複雑ナル者カ、曰  
 ク良心ハ教育スルコトヲ得ベキカ、得ベカラザルカ、曰ク良心ハ固有  
 ノ者カ、後ニ得タル者カ、曰ク良心ハ外部ノ反射即チ社會又ハ政治ノ  
 勢力ノ反射ニ非ズシテ、其他ノ物ナルカ、曰ク道德ハ宗教ノ信仰、宗  
 教ノ准許ヲ離レテ成立スル者カ、曰ク快樂ハ正理ノ最上ノ効驗ナルカ、  
 曰ク快樂ヲシテ苦痛ヨリ多カラシムルハ、一般人類ノ力ニテ為シ得ベ  
 キコトナルカ、又ハ人類ノ力ノ及バザル所ナルカ、曰ク吾快樂ハ吾苦  
 痛ヲ償フノ方法アラザルトキハ、吾性命ハ價值アル者ナリヤ、曰ク道  
 徳ヲ行フニ、人類ヲ以テ、単ニ知覺アル動物ナリト見テ之ヲ為スベキ  
 カ、又ハ永世不朽ノ天父ノ子ナリト見テ之ヲ為スベキカ、曰ク基督教  
 ハ道德ヲ十分ニ發達スルニ必要ナル者カ、曰ク吾等ハ道德ニ付キ、進  
ナチユラリスム  
 化説唯理説ニ依ルベキカ、又ハ道德ノ形骸、道德ノ法則ハ道理以上ニ  
 在ル者トスベキカ、

○以上ハ何レモ緊要ノ問題ニシテ、吾同国（英国）吾同時ノ諸學士ノ  
 間ニ各異論アル所ナリ、此ノ如キ疑問ノ起ルハ、現時上等ノ地位ニア  
 ル學者ガ勉心熱望ヲ以テ、學問ニ力ヲ用フルノ徴ヲ見ルベキ者ナリ、  
 今英国ノ道德學士ノ説ヲ通觀スルニ、道德哲學ト宗教ノ根原トノ間ニ  
 ハ密着ノ結合アルトイフコトヲ信セザルハナシ、今日唯理ノ道德ト  
ナチユラリスム  
 稱スル教旨ノ中ニハ、宗教ノ証據ト、宗教ノ生命トノ為メニ危險ヲ與  
 フベキ徵候ノ隱伏セリトイフコトハ之ヲ察セザル者ノ多キガ如シ、然  
 ルニ目今人類ノ性質ト人類ノ生命トノ事ニ管シテ二様ノ理論アリ、此  
 論ハ二个相互ニ反対ノ方向ニ進行シ、決シテ和熟スルコト能ハザルノ  
 勢アル者ナリ、其一説ニ曰ク、人類ハ一個ノ動物ニシテ、惟他ノ動物  
 ヨリ高等ノ構造ヲ受ケタルノミ、其快樂ト苦痛トノ感覺ノ度モ、他ノ  
 動物ヨリハ至テ大ナルヲ以テ、是ガ為メニ發スル所ノ衝動力モ、更ニ  
 遠大ノ境ニ達スルコトヲ得ル者ナリト、此説ニ依ルトキハ、道德ナル  
 者ハ進化ノ元質ノ要部タルニ過ギザル者ナリ、他ノ一説ハ曰フ、凡ソ  
 人類ハ道理ト良心トノ特權ヲ有シ、造物者ガ人類ヲ特ニ造成シタル惠  
 ニ對シテ責任ヲ有スル者ナリ、故ニ感覺上ノ現象ハ皆服属性ノ者ニシ  
 テ、人類眞成ノ生命トイフ者ハ、正理ト、職分ト、仁義トヲ以テ解説  
 スベキ者ナリト、  
ヘドニズム  
 ○現時ノ主樂教ハ即チ利益學ト名クル者ニシテ、多クハ今日ノ実験  
ユニチカチイ  
 哲學ヲ信ズル者ノ執ル所ナリ、本堂ノ單純ナル主樂教ハ其伸張頗ル  
ベシタム  
エムヒリカル  
フヒロンフヒイ

其度ニ過ギ、是ニ依リ之ヲ調和均齊セント欲スル者モ亦少ナカラズ、彌爾ノ利益説ハ、一方ニハ「最多數ノ最大幸福」ト云ヘル一般人民ノ感想ヲ以テ基トシ、一方ニハ本業ガ快樂ハ其性質ヲ以テ論スベカラズ、唯其分量ヲ以テ論スベシト云ヘル奇怪ナル説ヲ破リシヲ以テ、大ニ世人ニ賞揚セラレタリ、然レドモ彌爾ガ最後ノ説ハ、單純ナル主業教ト兩立シ難キ者ナリ、而シテ所謂最大ノ幸福トイフ者ハ實際ニ之ヲ適用スルノ至難ナルコトハ、甚タ明白ナルコトナリ、此ノ如キ一般ノ主業教ニ左祖スル者ハマスタル西日威克、マスタル勒士利士提反等ナリ、然レドモ此主義ニ於テ最モ學問上ノ發達ヲ得タルハ、哈巴多斯辺撒ノ説ニシテ、斯氏ハ之ヲ道理的利益説ト名付タリ、本業ト彌爾トハ行為ノ結果ヲ算シテ、之ヲ以テ正ト邪トヲ定メント欲シタリシモ、斯氏ノ此ノ如キ方法ハ、學問上ヨリハ寧ロ実験上ニ歸スル者ニシテ、道德學トイフ者ハ「原因ノ普通」ト云ヘルコトヲ認識セル方法ノ上ニ在ル者ナリト論ゼリ、故ニ斯氏ハ進化ハ道德ノ真正ノ證據ニシテ、人間社會ノ完全ナル有様ノ中ニアリテ、「完全ナル生命」ヲ進ムル所ノ行為ヲ以テ、是ヲ正シキ行為ト名クベシト論定シタリ、斯氏ガ利己<sup>エゴイ</sup>利他<sup>アルトロ</sup>ノ兩主義ノ干係ヲ論シタル説ハ甚タ利益アル者ニシテ、社會ノ分裂ノ危險ヲ除キテ、其他ニハ之ヲ許容スルコト能ハズト説ケリ、然レドモ斯氏ノ全体ノ論旨ヲ考フレバ、

本来ハ終ニ利他ノ勝利ニ歸スルト説キタル者ノ如シ、斯氏ガ最モ奇怪

ナル説ハ、其<sup>データ</sup>「オフエシツクス」ニ言フ所ノ「進化ハ遂ニ義務ヲ破壊スベシ」ト云ヘル預言是ナリ、然レドモ斯氏ハ倍因ト同ジク、義務ハ或ハ地上或ハ天上ヨリノ責罰ヲ恐ル、ヨリ生スト言ヘルコトハ宜シク記憶スベキ所ナリ、此言ハ「<sup>モラリチイ、オフ、コンスコエンス</sup>效驗ノ道德」ヲ説ク者、更ニ其意ヲ張大ニシテ、道理ノ外ニ馳出スル者甚多キヲ見ルナリ、

○<sup>ホヂ</sup>實理學<sup>ピチイ</sup>モ亦其道德ノ教義ヲ有セリ、汎ク之ヲ觀ルトキハ何レモ其先生（坤篤）ノ主義ヲ奉ジ、一個人ト一國民トノ道德ヲ併セ説ケリ、「他人ノ為メニ生活セヨ」ト云ヘルハ、此學派ノ格言ニシテ、「利他」ハ即チ其學ノ表章ナリ、此言ハ人類ノ利己心ヲ破ルニハ、價アル者ナレドモ、是ヲ以テ絶対ノ道理ト為スコト能ハズ、彼基督ガ「汝ハ隣人ヲ愛スルコト汝ノ身ノ如クナルベシ」ト言ヘル社會ノ生活ノ法則ニ比スレバ、劣等ノ言タルヲ免カレズ、此學派ガ利己説ニ<sup>ニ</sup>抵敵スルハ價値アルコトナリ、然レドモ基督教ヲ以テ利己ノ宗教ナリト言ヘルハ、正理ヲ誤レル者ニシテ、實理學ハ恐クハ之ヲ以テ自己ノ信用ヲ得ルコト能ハザルナリ、英國ニテ此學派ヲ信ズル所ノ諸學士ハ、貪慾ト誇大トノ學説トヲ防禦スルガ為メニ何レモ大ナル勇氣ヲ顯ハセリ、

○然レドモ利益教ハ全ク道德ノ田野ヲ占領スルコト能ハザリシナリ、此學説ニ抵抗スル者多キ中ニ於テ、<sup>マウリス</sup>學師毛里西ハ其「良心」ト云ヘル著書ニ於テ、學師倍因ガ道德ノ義務ト云フコトハ廢棄スベキ者ナリト云フ説ヲ駁論セリ、倍因ノ説ニ依レバ、良心ハ全ク教育ト習慣トノ結

果ニシテ、責罰ヲ恐レ、又ハ之ヲ經驗スルヨリ起レル畏懼心ニ由リテ固定セル者ナリト言ヘリ、毛里西ハ、倍因ガ此説ノ不正ナルコトヲ明白剴切ニ論駁シ、倍氏ノ書ヲ讀ム者ニ善キ判斷ヲ與ヘタリ、今道德及ヒ勇氣ノ最高ノ衝力ハ責罰苦難ヲ畏ル、ヨリ生スト言ヒテ、勢力ト正理トノ區別ヲ破壊シタル所ノ教義ニ敵シテ、與ニ正當ノ道理ヲ防護スル所ノ人ハ誰ナルヤ、

○主樂教ガ其學ノ基礎トセル快樂ヲ以テ道德ノ準度トスルノ説ハ、四方ヨリ有力ノ攻撃ヲ受タリ、列幾ガ其「欧州道德史」ニ記セルガ如キ一時ノ攻撃ハ姑ク之ヲ畧ストスルモ、學師格羅多ノ説ノ如キハ之ヲ採ラサルベカラズ、此人ハ其深奥ノ學力ヲ以テ、利益教義ヲ排撃シタルノミナラズ、更ニ其著書「道德理想」ニ於テ新ナル道德ノ教義ヲ創立センコトヲ務メタリ、格氏ハ又主樂教派ガ（道德ハ其結果ニ於テ觀ルベシト云ヘル見ヨリシテ）主張セル習慣ト云フ説ヲ非難シ、カノ働ト理想ノ目的トハ能ク習慣ヲ尊クシ、又之ヲ支配スル者ナリト考ヘタリ、

○現今ノ哲學論、即チ「阿斯佛ノ黒傑尔派」ト名クル者ノ中ニ於テ、學師額倫ト伯拉多黎トノ二人ハ、殊ニ其著書ニ於テ、主樂教ノ唱フル所ヨリ更ニ秀美ナル説ヲ述ベタリ、今額倫ト彌爾トノ説ノ同ジカラザル根元ヲ尋タルニ額倫ノ説ニ依レバ、人ハ天地間万有中ノ一分ニ非ズシテ、永世不朽ノ自識（造物者ノ知識）ガ、自身ヲ再生スル者ニシテ、其知ル所ノ物質ハ必シモ定マリタル原因アル者ニ非ズ、意思ハ

知識ニ非ズ、願欲ニ非ズ、又二者ノ相結合セル者ニ非ズ、唯人タル者ガ自ラ善ナリト想念シタル者ヲ実行スル為メノモノナリ、額倫ノ説ハ、坎徳ガ「全力ヲ良善ナル意思ノ上ニ用フ」ト云ヘル説ト相一致スル者ナリ、利益學ニ於テ道德ノ善ヲ以テ快樂ナリト定メタルモ、理想家ニ於テハ「定義ヲ立ツルハ難ケレドモ、能ク満足スルコトヲ得ベキ或ル物」ナリト云ヘリ、又其教ニテハ一個人ノ完全、社會ノ進善ト云フコトハ、上帝ノ自識ノ中ニ生スル理想ニシテ、一個人ノ心中ニモ多少完全ニ再生スル所ノ者ナリ、道德ノ善ハ之ヲ推シ上ゲテ、道德ノ目的、即チ道德ノ理想ト為スコトヲ得ベシ、額倫ハ馬底紐ト同様ニ、道德ノ性相ヲ定ムルニ、行為ノ結果ニ依ラズシテ、意端ニ於テ之ヲ求メンコトヲ勉メタリ、額氏ハ、「效驗ヲ以テ道德ノ善ヲ定ムル」トイフ説ヲ非ナリトセリ、然レドモ又謂ヘラク、道德ハ其効驗ニ就キテ之ヲ見ルモ、決シテ吾等ノ意見ヲ吞滅スルガ如キ十分ナル快樂ヲ得ルコト能ハザル者ナリト、

○理想ノ道德ト 効驗ノ道德トノ間ノ疑問ハ、學師索尔勒其「唯理ノ道德」トイヘル書ニ於テ明詳ニ之ヲ論ゼリ、其中二人ハ天然ノ法則ニ從ヘル天然ノカノ産物ナリトイヘル哲學ハ、極メテ道理ニ合ハザルノ説ナリト論ゼリ、

○博士馬底紐ハ他ノ學士ト離立セル道德學家ナリ、馬氏ガ其論文ニ於テ述ヘタル理論ハ、後來更ニ精究シテ「道德理論ノ形式」トイフ書ニ

記載セリ、馬氏ハ彼道德ハ快樂苦痛ノ性ヲ具ヘタル行為ノ結果ニ於テ之ヲ見ルベシト云フ説ヲ非ナリトセリ、然レドモ亦人ハ行為ノ正邪ヲ認識スル為メニ直覺ノ能力ヲ賜與セラレタリトイフ説ヲ取ラズ、謂ヘラク、人ハ其人品ノ高下ニ從ヒ、其意端ノ力ニ由リテ正邪ヲ判断スル者ニシテ、徳ト云フ者ハ劣等ナル意端ヲ卻ケテ、高等ナル意端ヲ取ルニ在リト、是ニ由リテ馬氏ノ説ヲ名ケテ道德ノ選擇理論トイヘリ、馬氏ハ又曰フ、意端ノ度ノ何如ハ、規則正シキ昇進ノ法ニ依リテ其高低ヲ見ルコトヲ得ベシ、行為ナル者ハ、意端ノ希望及ヒ主義ノ為メニ提起セラレテ生スル者ナリ、公正トイフコトハ高等ナル意端ヲ選取スルヨリシテ成ル者ナリト、

○直覺派ノ道德論モ現今有力ノ學士ノ之ヲ維持スル者多シ、博士(ヒューエル)休物尔ハ知識ト道德トノ兩界ニ於テ、共ニ人心ニ生得ノ力ヲ有セリトイフ説ヲ持セリ、蘇国ニ於テハカイザルウエド學師加特烏「道德哲學ノ手冊」トイヘル書ニ於テ（明白ナル法則ヲ有セズト雖ドモ）堅固ナル考案ト、オカアル論説トヲ載タリ、此人ノ説ハ全ク道理上ノ道德論ヲ表出セル者ニシテ、凡ソ道德ノ法則ハ永世不變ノ干係ヲ有セル事物ノ天性ノ上ニ在ル者ニシテ、其法則ハ全ク道理ノミヲ以テ成ル者ナリ、ト言ヘリ、此説ハ主樂教ニ反スルノミニ非ズ、又感覺説ノ道德論ニモ反スル者ナリ、此學派ハ即チ直覺主義ト稱スル者ニシテ、識性ナル者ハ、直覺ヲ以テ、道德ノ行為ニ生スル所ノ干係ト區別トヲ知ルコトヲ得、又此ノ

如キ行為ト、之ヲ成就シ之ヲ敗壞スル所ノ法則トノ間ノ干係ト區別トヲ知ルコトヲ得ル者ナリトス、アルギル亜尔岐ノデューク丟克ハ其「万有ノ一致」トイヘル著書ニ於テ、カヲ極メテ道德ノ獨立トイフコトヲ説キ、殊ニ義務トイヘル想念感覺等ノ獨立ナルコトヲ論ゼリ、

○上文ニ記スル所ニ由リテ觀レバ、現今ノ道德學ニハ二個反對ノ教義アルコトハ明白ナリ、其一ハ、人ハ万物ノ一分ニシテ、其行為ハ意端ノ管理ヲ受クル者ナリ、其意端ヲ分析シテ見ルトキハ、快樂ト苦痛トイヘル感覺ノ外ニ出デズ、故ニ人ハ已ムベカラザル為ニ生レテ、已ムベカラザル事ヲ為ス者ナリト言ヘリ、其一ハ人ハ精霊アリテ道理ヲ具ヘタル動物ニシテ、上帝ノ法則ヲ理會シ、尊敬シ、自己ノ意端ヲ或ハ採リ或ハ棄テ、獨立ノ人類タルコトヲ行ヒ、自ラ好シク道德ノ理想ヲ執ル者ナリト説ケリ、此後説ハ亦其中ニ分派アリテ、其差異ハ、無形學ノ學派ノ異ヨリ出タリ、即チ嚴格ナル蘇国ノ教義ハ、一個人ヲ主トシテ其説ヲ立テ、サ井エンテヒック、ドクトリン黑傑尔派ノ教義ハ、人類全体ト、永世無究ノ主義トノ中ニ一個人ノ主義ヲ雜ヘタル者ナリ、然レドモ此教義ヲ執ル者ハ何レモ世ニ稱スルサ井エンテヒック、ドクトリン科學教義ニ言フ所ノ人ハ全ク万有中ノ一物ニシテ、有形諸物ト同ジク、重學ノ法則及ビ不抵抗ノ法則ノ支配ヲ受クル者トイヘル説ヲ非斥セリ、

「哲學語解」解題

「哲學語解」は八二七—一六「哲學語解」に単独でまとめられている。

「哲學語解」は、John Radford Thomson (1811—1918) の著述 *Dictionary of Philosophy in the Words of Philosophers, 1887* の部分訳であり、Introduction だけをすべて翻訳している。本書は、哲学术語の辞典であるが、西村の翻訳した箇所である Introduction は、簡略ではあるが、ギリシヤ以来の哲学の歴史を辿り、当代のイギリス哲学の状況に及んでいる。進化論の影響にも言及し、John Fiske の「宇宙哲学」に触れているのも注目される。

西村は、この資料の内題を、はじめは「哲学全論講義」としていたが、全論講義を赤線で見え消して語解に改めている。このことは、資料の冒頭からも明らかのように、純然たる翻訳ではなく、原書の哲学概説ないし哲学史をもとに講演原稿とするために翻訳しているのである。

John Radford Thomson は、New College で聖職者としての教育を受け、エジンバラ大学でも学んだ。彼は、Mill Hill の著名な牧師といわれ、また、New College と Hackney College で心理学と道徳哲学の教授をつとめた。彼は、オーギュスト・コントの人類教を無神論と偶像崇拜であるとし、ペシミズムを批判するなど、反キリスト教的思想に対して、キリスト教の優位性を一貫して主張している。

社会学譯稿 一

社会学第一冊目錄

第一篇

此學科ノ定義及ヒ歴史

第一章ヨリ第六章ニ至ル 定義

第七章ヨリ第十七章ニ至ル 歴史

第七章 貿易法メルクアンテル 第八章 節儉法レヒトス

第九章ヨリ十三システム章ニ至ル 當斯密帖及ヒ全世界ノ教義

第十四章ヨリ第十七章ニ至ル 邦國学ノ教義

第二篇

社會ノ開發 邦國

第十八章ヨリ二十二章ニ至ル 社會ノ開暢

第二十三章ヨリ二十九章ニ至ル 邦國、及ヒ其性質、其根元、其

事業

第三十章ヨリ三十五章ニ至ル 邦國進歩ノ方法及其目的

第三篇

財貨及ヒ其性質

第三十六章ヨリ 財貨及ヒ價值ノ定義

第三十七章三十八章 人類ガ造化ノ要須

第三十九章ヨリ四十三章ニ至ル 肥沃ニスルノ方法

第四十四章ヨリ四十八章ニ至ル 人類ノ頑固、造化ノ恩恵ヲ破ル

第四篇

人口ノ學及ヒ其經濟

第四十九章ヨリ五十二章ニ至ル 人口ノ増加ニ因リテ財貨ノ増加

第五十三章ヨリ五十五章ニ至ル 健全ト生命ニ関セル政府ノ職

第五十六章ヨリ六十一章ニ至ル 馬爾索ノ人口法則

第六十二章ヨリ六十六章ニ至ル 經驗ニ依據シテ馬氏ノ說ヲ黜ク

第六十七章ヨリ七十三章ニ至ル 馬氏ノ說ハ事物ノ道理ニ及ス

社會學第一冊

北米合衆国 耶利覃孫 著

日本 西村茂樹 譯

第一篇

社會學ノ定義

第一章 社會學ハ（吾儕ガ此語ヲ用フルノ意味ニ從ヘバ）人類ノ學問

ノ要須ニ依テ、人類ヲ以テ、社會ヲ成ス者ト見做シ、又其有形物

トスルトキニ採用スベキノ術ハ邦國ノ經濟ノ即チ政治上ノ經

濟ニ在リ、其名義ノ如キハ、余儕ハ邦國經濟ノ名ヲ撰用スルナリ、

第二章 或人ハ、人ノ學問ト云フ者ナシト言ヒテ此說ニ抵抗セリ、其

言ニ曰ク、凡ソ學問トイフ者ハ、前以テ其働ト其反動トノ見

ユル物ヲ以テ之ヲ為ス、余儕其事物ノ働ト反動トヲ見テ、其事物ヲ管

理スル所ノ法則ヲ考定スルナリ、坤篤ガ學問ノ試験ハ預言ノ力ナリト

言ヒシハ、是ナリ、故ニ化學ト云ヘバ、或ル化合ハ二個ノ元質ノ結聚

スルニ由ルトイフコトヲ前言スルコトヲ得、然ルニ人類ハ此ノ如キ法

則ヲ以テ之ヲ管理スルコト能ハズ、人ハ感情ト意思トヲ有シ、自己ノ

意ヲ以テ自由ニ活動スルヲ以テ、他人ヨリシテ其活動ヲ前言スルコト

ハ能ハザルナリ、

○此抵抗說ハ事相ヨリ除キ去ルコト能ハザル所ノ真理ナリ、余儕モシ此

理（人ト物ト同一ナラザルノ）ヲ知ラザルトキハ、人類ガ事物上ノ安  
全ヲ成就スルノ状態ヲ誤解スルナルベシ、若シ人ヲ以テ物ト為シテ之  
ヲ考ヘ又之ヲ論ズルトキハ、人タル者ハ物ヲ利用スルノ便ヲ失フベシ、  
人ヲ以テ物ト為ストキハ、人ヲ不幸ニ陥レ、又道德上ノ位格ヲ下スナ  
ルベシ、其故ハ凡ソ人ガ善行智計ヲ為スハ、其自由ノ意思ヲ以テ、其  
望ム所ノ方向ニ働カシムルニ由リテ生スル者ナレバナリ、

○然レドモ、「人ノ学」トイフ者ヲ造立スルハ、各個人ノ為ス所ノ行為ノ  
筋ヲ先見スルノ力ニ由リテ成ル者ニ非ズ、凡ソ人ノ此世界ニ在ル、其  
意思ヲ以テ物ヲ創造スルコト能ハズ、造化ノ結構及ヒ天然ノ進路ノ如  
キハ、人ノ力ヲ以テ之ヲ變化スルコト能ハズ、人タル者モシ造化ノ法  
則ヲ破ルトキハ、必ス其二応セル罪責ヲ受クルナリ、故ニ若シ人タル  
者、其道徳性ノ結構ニ反シタル行為ヲ犯ストキハ、其人ノ道徳ハ大ニ  
降り、不幸ト後悔トノ結果ヲ得ルナルベシ、其故ハ天地間ニ「道徳ノ  
結果及ヒ其天造ノ進路」アルニ由リ、之ニ依リテ道徳ノ学トイフ者ア  
リテ吾等ニ預言ヲ為スナリ、其預言ハ人々ノ行為ヲ各个ニ説キタル者  
ニ非ズシテ、人類ノ行為ノ全体ニ就キテ其応効ヲ説キタル者ナリ、又  
人間社會ノ上ニハ「經濟上ノ結構及ヒ其天然ノ進路」アリテ、其法則  
ヲ奉スル所ノ民ハ、有形物ノ安全、即チ富ヲ得、其法則ニ従ハザル者  
ハ、一人ノ上ニモ、全国民ノ上ニモ貧乏ヲ得ルナリ、其法則トハ如何  
ナル物カトイフコトヲ学ブハ、社會学ノ事業ナリ、其法則ニ従ヒテ國

民ヲ管理スルハ政事家ノ事業ナリ、是ヲ國民經濟ノ術ト云フ、

○人類ハ意思ヲ有セル動物ナルヲ以テ、其行為ハ皆自己ノ起意ヨリシテ  
生スルナリ、此事ハ將ニ有形ノ富ニ干セル行為ニ於テ然ルナリ、凡ソ  
滿天下無數ノ人類ハ皆同一ノ起意ヲ以テ結合スルヲ見ル、衆人ノ缺乏  
スル所モ皆同一ナリ、衆人ノ望ム所モ亦皆同一ナリ、其故ハ人々、其  
為サント欲スル所ヲ先見スルノ力ハ大抵同様ナルコト、他ノ学科ニ於  
テ物ノ行為ヲ先見スルト相同シケレバナリ、然レドモ衆人大概ハ同一  
ナレドモ、全ク同一ナリト云フニ非ズ、其故ハ衆人其目的ヲ定ムルコ  
トハ同一ナレドモ、其方法ニ異同アレバナリ、是ニ由リテ其行為上ニ  
智ト不智トノ差別ヲ生スルニ至ルナリ、

○第三章 社會学ハ他ノ天然ノ学ト比シテ之ヲ見ルトキハ、其確然（サシテ）ヲ  
欠クコトアリ、然レドモ其利益（利益）又感得（感得）ト譯スベシ）ヨリ言フ  
トキハ、他ノ学問ノ提起シタルヨリ高等ノ利益ヲ為スナリ、凡ソ吾人  
類ノ種類ニ付キテ特別ニ之ヲ論ジ、又吾等ガ命運ニ関シテ論スル所ノ  
学ハ、甚タ吾身ト密接ノ關係ヲ有スル者ナリ、又凡ソ吾等ノ國民、又  
ハ人種ノ榮来ニ付キテ論スル所ノ学科ハ、日月食ヤ、化学ノ發明ヲ前  
言シタル者アリ、吾身ニ感スルコト甚タ深切ナリ、縱令卓越光明ナル  
化学天文学ノ確然タリトモ、英国人民ニ感スルコト馬高礼（マカウレイ）ノ推考ニ及  
バザルナリ、馬氏曰ク「新西蘭ノ旅人、英国ニ来リ、破壊セル  
ウエストミンスター（ウエストミンスター）セント、ボウル  
惟士関斯德ノ橋上ニ立チ、聖保羅ノ礼拝堂ノ廢墟ヲ寫スノ時アルベ

シト、(馬氏ノ言ハ、国民盛衰ノコトニ直接ニ関スルヲ以テ、天文等ノ学ニ比スレバ人ヲ動かスコト切ナリ)、凡ソ他ノ学科(人生学ノ外)ハ皆獨立ノ價值ヲ有セリ、然レドモ其物ヲ以テ人類ノ所有トナシ、又ハ人類ノ幸福ヲ加フルコトニ用フル時ニ及ビ初メテノ人類ニ利益感化ヲ為スコトヲ得ベシ、吾儕今化學士ニ問ハントス、光ト温トハ炭氣ヨリ生スルコトナク、水ノ分解ヨリシテ生出スルノ時節ニ逢フコトアルベキカ、又格物学士ニ問ハントス、電氣ハ何処ニモ周遍スル者ナレバ、遂ニハ電氣ヲ以テ吾起<sup>モーター</sup>意トシテ用フルノ時アルベキカ、輕氣球ヲ以テ安全且ツ迅速ニ大氣中ヲ通行スルコトヲ得ルノ時アルベキカ、是等ノ疑問ハ、其学問ニ於テハ、敢テ至大ノ問題トイフニハ非ズ、然レドモ余儕ノ為ニ感覺ヲ起スコトハ、其他ノ抽象ノ問題ニ比スレバ、却テ甚タ大ナリ、

○第四章 吾儕カ所謂社會学ハ、人類ヲ以テ社會ノ中ニ成立スル者(社會ヲ成シタル者)トシテ之ヲ看タル者ニシテ、其他ノ有様ヲ以テハ之ヲ看ザルナリ、古代ノ法学者及ヒ政治学士等、上古ノ人民ノ天性ト、野蠻ノ時ノ状態トヲ説キ、夫ヨリ相互ノ約束トイフコト起リ、其約束ニ依リテ初メテ社會トイフ者ノ成立スルコトヲ説ケリ、此事ハ世界皆同一ニシテ別ニ異説アルコトヲ聞カズ、即チ何レノ所ノ人民モ皆多少完全ニ組織セル社會ノ中ニ成立スルナリ、人民ハ其初メハ一家ノ社會ノ中ニ生ル、此社會ハ己カ選擇ヲ以テ得タル者ニ非ズ、是ヨリ一族ノ

社會トナリ、一国ノ社會トナレドモ、皆一家ノ社會ノ増大シタル者ナリ、是ニ由リ人類ノ有形ノ富トイフ者ハ、全ク此事實(社會ノ構造ヲ云フ)ノ上ニ定マル者ニシテ、而シテ此事実ト相結合スル者ナリ、人民其初メ野蠻ノ貧窮ヨリシテ富饒トナルノ助ヲ為ス者ハ、社會ノ力ニシテ、即チ其富ヲ防護スルノ力ナリ、每一個人ノ安全堅固ト云フコトハ、其國ノ政治ノ方法ノ巧ミナルト、治術ノ物ヲ成就セシムルトノ働ニ属スルコトナリ、民ノ財産ニ權利ヲ與ヘ、是ニ由リ其財産ヲシテ永續ノ物ト為サシムルハ社會ノ力ニ頼ルコトナリ、凡ソ有形ノ富ヲ得ル為メニ、此一代ヨリ他ノ一代ニ分配スル所ノ運送法ハ(眞実ノ財産、知識及ヒ職業ノ練熟、方法)惟此世ニ永ク生残りテ恒久ヲ目的トスル物体(社會)ノ外ハ之ヲ為スコト能ハザルベシ、又或ル他ノ一代ハ新ニ其基礎ヲ始ムルコトアルベシ、是ニ由リ社會学トイフ者ハ、社會ノ有様ヲ理會スルヲ以テ始メトシ、特別ニ富トイフコトノ学問ヲ為スニ非ズ、又一個人ノ状態及ヒ願望ニ付キテ之ヲ論ズル者ニ非ズ、

○社會学ハ実行スル上ニ就テ言フトキハ、国民經濟ノ術ナリ、經濟、即チ一家ノ節儉<sup>ケチ</sup>ト云フ語ハ、善ク貯蓄スルノミナラズ、又善ク費スコトヲモ指スノ名ナリ、此語ハ人類社會ノ最モ單一ニシテ他ノ社會ハ皆是ヨリ發生スル者(一家)ヨリ借用シタルナリ、国民<sup>ナショナル</sup>トイフ状詞ハ、節儉ノ義ヲ擴メテ全社會ニ及ボスノ意ニシテ、所謂全社會ハ公義ヲ以テ相交ハリ、天然ノ權利ヲ保全スルノ所ニシテ、社會ノ主意ハ、全国

民ノ生命ト財産トヲ以テ之ニ信任スルノ義ヲ有スル者ナリ、

○第六章 国民ノ經濟ト云フコトハ、社會學ト云フ者ニ比スレバ、甚タ

古代ノ者ナリ、甲ハ国民ノ成立セシト同時ニ有ル者ニシテ、乙ハ大約  
亜米利加檢出ノ比ヨリ之ヲ考ヘ初メタル者ナリ、其立テ、一ノ學問ト  
シタリシハ、僅ニ一百年以前程ノコトナリ、此事ハ他ノ學問ト同様ノ

コトニシテ、總テ學ハ術ニ比スレバ甚タ後世ニ至リテ定マル者ナリ、

地未斯多其利ガ小都府ヲ以テ大都府ニ為スコトヲ知レリ(術)ト言ヒ

シハ、布拉多、亞立士度德ガ政治學ヲ立テタルヨリハ遙カニ以前ノコ

トナリ、布匹ヲ染メ食物ヲ煮ルコト、其他許多ノ化學上ノ應用ハ、古

代ノ歴史ニ於テ見ル所ナリ、然レドモドクトル、プリイストレイガ初

メテ養氣ヲ發見シテ、化學ノ根基ヲ立タリシハ、僅カ百年以前ノコト

ニシテ、近時ノ著名ノ事件ナリ、或時ハ學ト術トノ二者、久シキ年月

ノ間、互ニ些少ノ干係ヲ為シ、又ハ干係ヲ為サズシテ成立スルコトア

リ、數百年前、音樂ノ學トイフ者アリ、之ヲ學ブ者ハ、何レモ実ニ練

熟セル樂人ニ非ズ、又其時ノ音樂ノ術トイフ者ハ、少シモ音樂ノ學力

アル者ニ非ザリシコトアリ、

○凡ソ人類ノ經驗ニ依ルニ、學トイフ者ハ、其干係ノ術ニ大ナル仕役ヲ

為ス者ナリ、化學ノ如キモ、其初メハ工業上ニテ之ヲ施用シタリシガ、

プリイストレイ、ラボアシー等ノ大家出テ其法則ヲ定メタルヨリ、從

前ノ工術ニ大ナル進歩ヲ為シタリ、是ト同シク經濟學ノ如キモ、社會

上ノ財貨ヲ支配スルノ法則ヲ發見シタル以來、国民ノ經濟法ニ大ナル

良善ノ變化ヲ為シタリ、古代ノ実験規則ユラリカ家ノ或ル者ハ、經濟學

ヲ以テ正當ノ者トシ、又他ノ者ハ之ヲ邪ナル者トシテ之ヲ罪シタリ、

而シテ此邪ナリトスルノ意見、一時大ニ諸方ニ弘マレリ、是ニ由リ此

ノ如キ明白ニ正當ナル方法ヲモ之ヲ棄擲スルノ危難ニ近ツキタルコト

アリ、然レドモ能ク精密ニ注意シテ其事實ヲ通覽スルニ由リテ、能ク

之ヲ防禦スルコト得タリ、

○此學ノ最初ノ歩度、即チ動機メカニト名クル時代ニ於テハ、所謂実験ノ

規則ト稱スル者、教義中ニ於テ將ニ其首位ヲ占メタリ、然レトモ漸々ニ

單純ニシテ少數ナル學問上ノ原理サイエンチフヒツヲ發見スルニ及ビ、竟ニ実験

ノ規則ヲ是下ニ置クニ至レリ、一タビ此ノ如キ原理ヲ把握シテヨリ、此

原理ニ依リテ試定セル規則ハ極メテ平易ニシテ且ツ安全ナル者トナレリ、

是ニ至リテ經濟學ハ進ンデ動重學ヂミカルノ地位ニ至レリ、

○第七章 上古ノ民ハ未タ政治經濟、即チ國民經濟トイフコトヲ知ラズ、

惟其經濟ノ義ヲ説キタル者ハ、其時代ノ人ノ文章ノ中ニ散見スルノミ

ナリ、即チ勞力ヲ分ツノ利益、物品交易ヨリ變ジテ貨幣ヲ用フルニ至

ルノ次第、價值ト利益トノ差異ノ如キハ、皆經濟上ノ事實ヲ言ヒタル

者ニシテ、將ニ亞立士度德ハ能ク此事ニ注意シタリ、是等ノ意見ハ即

チ社會學ノ萌芽ヲ為ス者ナレドモ、之ニ繼キテ其法則ヲ考究スル者ハ

久シク起ラザリシナリ、

○威尼斯<sup>(ベニス)</sup>、熱那<sup>(ジェノバ)</sup>二両都邑ノ富盛ヲ致シ、ヨリ、歐羅巴ノ諸国競争ノ念ヲ生シ、是ニ於テ初メテ經濟ノ學ヲ為サントスルノ意ヲ發セリ、此事ハ第十六期ノ以大利、西班牙、仏蘭西、英吉利ノ文學ノ書ニ於テ見ル所ナリ、此時代ノ社會ノ景況ニ由リテ、經濟學トイフ者、其形体ヲ成スコトヲ得タリ、此時代ハ歷史上ニ所謂ナシヨナリストノ時ナリ、歐羅巴人初メテ世界一層ノ意見ヲ棄テ、各国別々ノ語言文學ヲ以テ、數個獨立ノ邦國ヲ立テ、教法ノ如キモ亦國ニ依リテ別立スルノ意見ヲ立テタリ、ハ西班牙風ノ事物、是ハ英吉利風ノ事物トイフコトハ、西班牙英吉利人ノ耳ニ於テ、甚タ稱譽スベキコトトナレリ、他國ノ土地ヲ費シテ獨リ自國ノ疆域ヲ廣大ニセントスルハ、如何セバ可ナラント云フコトハ、當時政治家ノ大問題トナレリ、將ニ教法ノ熱心ヨリシテ歐洲ノ全部ヲ二個ノ敵國ニ分チタルトキニ於テハ、此思想最モ深カリシナリ、此目的ヲ達セントスル方法中ニ於テ貨幣ヲ饒多ニ貯蓄セント云フコトハ、將ニ良巧ノ方法ナリト見エタリ、貨幣ノ飢饉トイフコト、耶蘇ノ紀元ノ頃ニ始マリ、第十五世ノ頃ニ至リテ其極ニ達セシニ、幸ニシテ亜米利加及ヒ東印度ノ発見アリシニ因リ、急ニ貨幣ノ供給ヲ得、將ニ西班牙ハ特ニ非常ノ富ヲ致シ、是ニ由リ歐洲諸國ノ民、何レモ其生業ノ面目ヲ改メザルハナシ、他國トノ貿易ヲ營ムニ由リ、自國ト他國トノ貨財ノ均勢ハ、何ヲ以テ之ヲ得ベキカ、國中ノ貨幣ノ循環及ヒ必要ノ時ニ當リ、國民ノ之ヲ使用スルノ法如何セハ可ナラント云フコ

トハ、此時ノ問題トナレリ、此時ニ當リ所謂貿易法<sup>メルカント</sup>トイフ者起リテ此問題ニ方法ニ立テタリ、此貿易法ハ、其定ムル所ノ規則ハ、大ニ從前ノ誤謬ヲ正シ、且ツ主トスル所ハ、間接ノ方法ヲ用ヒテ國內ノ職業ヲ勸励シ、外國ニ發賣スベキ商品ヲ饒多ニシ、他國ノ貨幣ニブレミ<sup>エーム</sup>ヲ置クコトナリ、自國ノ金ノ輸出ヲ禁止スルコトナシト云フニ在リ、此教義ハ今真実ノ學トナレリ、然レドモ未タ所謂動機<sup>メカニエル</sup>ノ時期タルコトヲ免カレザルナリ、

○然レドモ此學科ハ此時代ニハ、其勢力自ラ政治學ノ下ニ付屬シ、政治ノ目的ハ能ク經濟學ノ見込ヲ左右スルコトヲ得タリ、故ニ經濟學ニ於テ考究スル所ノ題目ハ、此學ノ自己ニ立案スル所ノ者ニ非ズシテ、大抵政治界ノ威權ヲ有セル者ノ立案スル所ナリ、然レドモ此時代此學ニ於テ考究スル所ハ、未タ經濟學ノ要ハ、國民ノ安全ヲ求ムルニ在リトイヘル意見ヲ十分ニ主張スルコト能ハズ、其最後ノ目的トイフハ、理論ニ於テモ、實際ニ於テモ、共ニ王家ノ金庫ニ貨幣ヲ充滿セシムルトイフニ過ギズ、而シテ其實際ハ又遙カニ其理論ノ後ニ落チタリ、故ニ其初メハ此ノ如キ不合理ノ理論モ未タ其接觸スル所アルコトヲ覺エザリシナリ、其後獨賣<sup>モノポリイ</sup>權ヲ恣ニ定メ又ハ之ヲ他國人ニ賣リ、一國中ノ州ト州トノ交易ニモ亦關稅ヲ課スルコト、他國トノ貿易ノ如ク、穀物ノ輸出ノ如キモ全ク輸出スルト同様ニ禁止セラレ、以テ其價格ノ甚タ低下スルヲ致セリ、是ニ由リ、一方ノ手ヲ以テ養成スル所ノ勲業

ノ如キモ、過重ノ税ト任意ノ規則ヲ立ツルトニ由リテ、他ノ一方ノ手ヲ以テ之ヲ破壊スルガ如シ、當時政治ノ大家コルベルノ如キハ、此教義中ニ於テ、良善ノ法ハ盡ク行ヒ、不良ノ法モ其一ニ行ヒタル人ナルガ、王家ノ矜驕ニ由リテ、国民ノ軍儲ヲ費消シ、王家ノ迷溺ニ由リテ、良善ナル勲業人ヨリ數百万ヲ奪ヒシヲ以テ、此人ノ志謀モ全ク瓦解シ、遂ニ傷心ニシテ死スルニ至レリ、

○第八章 経済学ノ第二ノ教義ハエコノミスト一名フヒジオクラトストイフ学派ニシテ、法国ノ路易第十五ノ時、医師ニシテ考家ナルクエスネイノ立タル所ナリ、従前ノ貿易法ハ、其度ヲ過ゴシテ術ノ下ニ服属セシヲ以テ、此節儉法ハ全ク其反対ニ出テ、是ニ由リ両学派ノ間ニ大ナル隔絶ヲ生シタリ、此教義ハ其初メ些少ナル単純ノ想念ヲ以テ此学ノ正鵠ト考へ、幻想ヲ以テ演繹法ノ理論ヲ作り、遂ニ活動セル社會ト與ニ運動スルコト能ハザルノ説ヲ立タリ、此教義ニテ宣言スル所ノ目的ハ、「思想ノ天然ノ道筋ヲ得ル」トイフニ在リ、此時代ニ於テ天然トイフ語ハ、開化<sup>○</sup>シテ<sup>○</sup>トイフ語ト反対ノ意義ヲ有スル者トセリ、

○クエスネイノ意見ニテ、天然ハ(クエスネイハ土地ノ生産力ヲ以テ天然ト考へタリ)国民ノ富ノ根元ニシテ、耕作ノ勞ノミ獨リ生産ノ勉力ト名クベク、其他ハ皆枯瘠ノ勉力ト称スベシト、此勉力(生産ノ勉力)ヲ以テ生産セル物ノ中ニテ、其農人及ヒ其家計ノ費用ヲ引キ去リ、其餘ニ得ル所ノ物ヲ以テ貨財ノ根元トス、即チ土地ヨリ生スル所ノ利益

ノ産物ト名クベキ者ナリ、此他ノ勞力ニ因リテ生スル所ノ價值ハ、其原物<sup>○</sup>ト其勞作者ノ食用ノ費トヲ照シテ其多少ヲ量ルベシ、故ニ棉糸ヲ以テ織リタル布ハ、其レニ用ヒタル生粗ノ棉糸ト、其レニ費シタル穀物(工人ノ食ヒタル分)トノ形ヲ變ジタルマデノ物ニシテ、其價值ハ共ニ同一ナリ、此新形体(織物)ヨリ得ル所ノ利益ハ原物ト食物(工人ノ)トヨリ多シトイヘドモ、富ノ分量ハ共ニ同一ナリ、是ニ由リクエスネイハ斷ジテ謂ヘラク、治国ノ術ハ、此ノ如キ枯瘠ノ勉力ヲ勞シテ通商工作ヲ營ムコトヲ止メ、但農業耕作及ヒ穀物ノ貿易ニ付キテノ抑制ヲ除キ去ルノミヲ以テ最良法トスベシト、耕作ノ業ノミ獨リ富ヲ生スベキ者ナルヲ以テ、農業ノミ獨リ國ノ重荷ヲ負擔セザルベカラル者ナリ(其負擔ノ法ハ種々アレドモ、チュルゴーハクエスネイノ高弟ナリシガ、其理論中、幻想ニ渉ル者ヲ棄テ、其理財ノ宰相トナルニ及ビ、其師ノ教義中ニ於テ、獨リ專賣ノ法、密ナル組合、輸出ノ税ヲ廢スルノ件々ノミヲ採用セリ、

○第九章 経済学ノ第三ノ教義ハ亞當斯密士ノ立タル所ナリ、斯氏ハ蘇格蘭ノ学師ニシテ、クエスネイノ朋友ナリ、斯氏ノ大著述ウエルス、オフ、ネーションハ五年ノ歲月ヲ費シタリトイフ、其書ニ依ルニ氏ハ其初ハフヒジオクラトスノ教ヲ受タリシガ、其中ヨリ自己ノ特見ヲ以テ此学ノ進歩ヲ看出セリ、氏ハ富ノ根元ハ勉力ノ三大業(農工商)ノ中ニ在ルトイフ説ヲ主張セリ、然レドモ其最初ハ生産ノ力ヲ農業ニ帰

シ、最後ハ外国ノ貿易ニ帰シ、商品ノ生産ト交易トノ用ヲ為サズル勉力ハ総テ不生産<sup>クテシラ</sup>ト名ケテ之ヲ殊別セリ、氏ハ又勉力ノ三大業ノ天然ノ成長ニ因リテ、人類ハ野蠻ノ貧究ヨリシテ、有形ノ富饒ニ至ル者ナリト考へ、政府ガ三者中ノ或ル者ヲ指定シ養育スルコトハ、衆多ヨリ出タル財本ヲ、狭小ナル海峡ノ中ニ投入スルガ如シト言ヒテ之ヲ非議セリ、氏ハ又エコノミストト同ジク、人民ノ勉業生活ニ関シテハ、政府ハ純然タル受動ノ姿ノ者ナリト言ヘリ、國民ヲシテ悉ク自己ノ好ム所ニ從ヒテ勉業ヲ為サシメ、其得ル所ハ、自己ニテ最モ利益アリト考フルコトニ用ヒシムルトキハ、社會ハ大ナル利益ヲ受クルナルベシ、氏ハ競争ノ自由ヲ許ストイヘル主義ヲ以テ、國民勉強ヲ為スノ直根<sup>タツブネ</sup>ヲ發見セリ、一個人ハ合シテ社會ヲ為ス者ナレバ、其一個人ノ光明活<sup>セルフヒス</sup>發ナル利己ハ全体ノ豊富ノ根元ナリ、一個人ノ為メニ善キ事ハ、全社會ノ為メニモ亦善キ者ナリ、若シ其所ニ利益價值ノ不平等アルトキハ、財力又勞力ハ、海峡ヲ過ギテ其一方ニ流れ、以テ天然ノ平均ヲ得ルニ至リテ止ムベシ、

○斯密士ノ重ナル誤謬ハ、其表題ニ於テ約束シタルコトヲ仕遂ケザルニ在リ、ウエルス、オフ、ネーシヨン、國民ノ富ノ義ヲ論ズルノ約束ナリシニ、國民トイフコトヲ忘レタルガ如ク、總テ全体ノ文面ハ國民トイヘル形体ハ全ク無キガ如ク見ユルナリ、斯氏ノ説ク所ニテハ、世界ハ惟一政府ノ下ニ立チ、勞力ト財本トノ運用ヲ制スル所ノ界限ナク、國

民ノ開化ト勉力ノ状態トノ不齊ナク、生産者ト生産トノ間ニ競争トイフ者無キガ如クニ見ユルナリ、故ニ斯氏ハ其表題ニ関シテ解説スベキ要目ノ題目ヲ忘卻シタリ、斯氏ハメルカントルノ教義ノ専ラ政治上ノ目的ニノミ偏スルヲ非ナリトシテ、フヒジオクラトス派ト（此点ニ付テハ）其意見ヲ同フシ、更ニ進ンテ他ノ一方ノ極端ニ走り、遂ニ其論スル所ハ國民經濟、又政治經濟ニ非ズシテ、全世界ノ民ノ經濟トナリ、其事ハ歷史上ノ実迹ニ於テ見ルコトナク、又後來モ成立スル能ハザルノ事ヲ論ズルコトトナレリ、

○斯氏カ此考案ハ、其時代ニ於テ大ニ人心ニ協ヒタリ、此時歐羅巴ハ前世期ニ行ハレタルナシヨナリストノ意見ノ反動ヲ起シタル時ニシテ、此後法國ノ革命亂ニ於テ、致知学<sup>ロジカル</sup>法<sup>エツフェクト</sup>ノ効ヲ以テ精密ナル理論ヲ為シ、最モ位價アル説ヲ顯明スルニ至ルマデハ、此意見ヲ取戻スコトハ無カリシナリ、此時歐洲ニテ教育ヲ受タル人ノ矜高及ヒ先導トナル人ノ心（例へバ、レツシング、ゲーテノ如キ）ニハ、愛國心ヲ以テ、光明ナル開化ニ價値ナキ物トシテ之ヲ棄去リ、「世界ノ都人士」タルコトヲ以テ自ラ期スルニ至レリ、

○第十章 前代ノナシヨナリストノ反動ニテ、バルク、ヒヒテノ二人コズモホリチカルノ主義ヲ始メシガ、衆人此説ニ左袒スル者甚多カリシナリ、此教義ノ世ニ行ハル、コト殆ンド一百年ニシテ、之ヲ信スル者ハ將ニ英國人ニ多く、又歐洲ノ大陸及ヒ亞米利加ノ学士ニモ之ヲ贊成

スル者甚多カリシナリ、

○法蘭西ニテハ、ジャン・バツプチスト、セイ、更ニスミスノ論ヲ整頓

シ、其言説ヲ明白ニシ、其形体ヲ完全ニセリ、是ニ由リ法国ノ文学大

ニ其名ヲ揚ゲタリ、セイノ著論ニ由リテ世界經濟ノ学其完全ノ地ニ達

シ、其書ノ首ニ於テ国民ト言フ語ハ、甚タ厭フベキノ語ナリトシテ之

ヲ除キ、財貨ノ生産、及ヒ其分配其消費ハ、總テ抽象状ニ之ヲ考フル

コトトナレリ、然レドモ其書ハ猶政治經濟ノ名ヲ存セリ、セイハ更

ニ富ノ意義ヲ廣メ、無形ノ物ヲモ亦富ノ中ニ算入セリ、此時外国トノ

貿易ニ權衡ヲ失ハシムルハ其罪首トシテ受動ノ政術ニ在リトシテ、衆

人將ニ之ヲ攻撃セルヲ以テ、氏ハ貿易ノ理論ニ最モ深く意ヲ注キタリ、

氏初メテ商品ハ悉ク商品ト易フル者ナリトノ理ヲ考へ、貨物ノ輸入

ニ制限ヲ為サントスルニハ、先ツ其輸出ノ力ニ同様ノ制限ヲ立テサル

ベカラズト言ヘリ、セイノ後ニ出タル法国ノ學士ハ多ク英国ノ理論(ス

ミス氏ノ)ヲ精密ニ仕上ケンコトヲ務メテ、其上ニ許多ノ増加ヲ為ス

コトハ無カリシナリ、法国ノ文学社會ニハ、世界經濟ノ説ヲ、防護加

勢スル者却テ英国ノ人ヨリ多シト雖ドモ、セイ以来ハ單純ニ此教義ヲ

主持スル人ハ亦之ヲ見ザルナリ、

○英国ニ於テハ、マルサス、前人ノ見込ノ反面ニ於テ其論説ヲ立テ、国民

ノ貧究ネーションズトイフコトヲ論シタリ、(国民ノ エッセイ オフ・ポピ

ユレーションニ出ヅ、此書ハ一千七百九十八年ヨリ一千八百廿六年マ

デニ五圃ノ印刷アリ)、此比、欧州ノ貧民ノ種族ハ、政府ノ政治悪シク、

以テ国民ノ貧究ヲ来シ、ト云フコトヲ唱へ、囂々政府ヲ責メ、以テ政

治上ノ混雜ヲ致シタル時ニ方リ、マルサス(保守黨員)挺出シテ經濟

ノ理ヲ説キ、貧窮ノ原因ヲ論ジ、其貧窮ヲ来タシ、ハ、全ク政府ノ管

理ノ外ニ在ルコトニテ、政府ハ其責ニ任ズベキ者ニ非スト言ヒ、以テ

囂々者ノ口ヲ閉ヂシメタリ、氏ノ意ニ謂ヘラク、貧窮ノ原因ハ人口ノ

過多ニ増加シタルニ在リ、人口ノ過多ナルニ由リテ、生活ニ必要ノ物

品ノ不足ヲ生シタルコトナレバ、下等ノ民族ハ自ラ制御シテ人口ノ増

加ヲ防ガザルベカラズト、此頃衆人ノ意見ハ、大抵政府ハ国民ノ榮譽

安全ヲ保護スルト同ジク、又其財貨ヲモ保護セザルベカラズ、惟受動

ノ政治ヲ行ヒタルノミニテハ、未タ十分ニ其職任ヲ尽シタリト稱スベ

カラスト言ヒ、相一致シテ政府ト經濟家トヲ責ルヲ以テ、頗ル危殆ノ

景況ニ陥ラントセシヲ、マルサスノ發明ニ因リテ、此景況 ヲ転化ス

ルコトヲ得タリ、故ニマルサスノ此發明ハコスモポリチカルノ教義ニ

於テハ、実ニ天降ノ名論ト言フベキ者ナリ、

○マルサスノ意見ニテ、国民ノ全体ノ状ハ、常ニ安樂ト貧窮トノ間ニ揺

擺セリ、其富饒ニ疾速ノ増加ヲ得ルトキハ、忽チ将来ノ事ヲ亡失シテ、

俄ニ人口ノ増加ヲ致ス、是ニ由リ、困究ノ年ハ、切カニ豊饒ノ年ノ後

ニ繼グナリ、凡ソ工錢ウエトイフ者ハ、揺擺ノ中間ニ天然ノ定度アリテ、

若シ其工錢、此定度ノ上又ハ下ニ在ルトキハ、必ス久シキヲ保ツコト

能ハザルナリ、財本<sup>カヒ</sup>ハ労働者ノ工錢トナル者ニシテ、所謂工錢財本<sup>ウエシ</sup>ト稱スル者ハ、自ラ其国ニ定數アリ、若シ工錢ノ度ヲ高くセント欲セバ、財本ヲ増加スルカ、財本ヲ配分スル国民ノ數ヲ減スルカノ二法ノ外ニ他術アルコトナシ、

○是ヨリ少シ後レテ大關利加多<sup>ダビツトリカド</sup>出テ、此題目ニ付キテ更ニ考究ヲ加ヘ、社會中ノ諸種ノ等類ノ異ナルニ從ヒテ、其狀態（貧富）ノ甚タ平等ナラザルノ原因ヲ探ランコトヲ務メタリ、馬撒<sup>マルサス</sup>ハ多利黨<sup>トリリス</sup>ナルヲ以テ、其言フ所彼ノ如シ、利加多<sup>ホイグス</sup>ハ輝格党<sup>トリス</sup>ナルヲ以テ其言フ所之ニ反シ、謂ヘラク貧富ノ均齊ナラザルハ、自然ニシテ避クベカラザルノ原因ヨリ出タル者ニ非ズ、惟人造ノ專賣法<sup>モノボリイ</sup>ト借地法<sup>レント</sup>ヨリ出タル結果ナリ、最初ニ其土地ニ住居セル民ノ中ニ於テ、幸ニ肥沃ノ地ヲ得タル所ノ小數ノ民ハ、自ラ專權ヲ有スルノ種族トナリ、其民ハ怠惰ニシテ、他民ノ勞力ノ上ニ生活シ、他民ハ天然ノ肥沃ノ土地（專權ノ民ノ所有セル）ヲ借用スルヲ以テ多クノ借地料ヲ地主ニ納メザルコトヲ得ズト、此理論ハ馬撒ノ論トハ、全ク其起意ヲ異ニスレドモ、又馬撒ノ主義ノ補助トシテ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、蓋シ二者ノ論ハ、凡ソ社會上ノ不合理ノコトハ、「天然ノ景氣」又ハ「天然ノ景況ナリト考ヘタル」コトヨリ生スルコトヲ表示シ、最後ノ決定ニ於テ、競争ノ主義ハ兩者ニ於テ、共ニ勲業ノ直根ナルコトヲ現ハシ、又受動ノ政治<sup>パッシフポリシイ</sup>ハ兩者共ニ良善ナル法ナルコトヲ証シ、国民ノ干涉ハ勝ツベカラザルノ事實ニ敵シテ戦フ者ナ

リトシテ之ヲ惡メリ、

○利加多ハ（セイ及ヒトルレンスノ説ニ從ヒ）又外國貿易ノ理論ヲ精究セリ、謂ヘラク貨幣ハ交易ニ於テハ、純粹ナル受動ノ器具ニシテ、其土地ニ所有スルノ分量ニ從ヒテ、其買入ノ力ヲ變ズル者ナリト、故ニ其国ノ貨幣ヲ枯渴セシムルコトハ、両国共ニ利益ナキコトナリ、惟商品ト其多少ヲ比較シ、若シ賣ルトキ、其国ノ有様ヲ惡クシ、買フトキハ、其国ノ有様ヲ善クスルノ度ニ於テ、貨幣ノ買入力ヲ増加スルトキハ、以テ其弊ヲ救フコトヲ得ベシ、

○英國ノ構造時代<sup>コンストリクチフ、ベリオド</sup>ハ利加多ヲ以テ其終リト為シ、是ヨリ後ノ學士ハ、大抵ハ古人ノ教義ニ付キテ解釋ヲ為ス者ニシテ、所謂評決時代<sup>クリリチカド</sup>トイフ者始マレリ、

○第十一章 一千八百三十三年ノ比、英國ノ考思家ハ新ナル論說ノ道路ヲ取レリ、其說ハ器械ニ偏シ枯燥ニ陥ルコト少ナク、新鮮ニシテ堅固且ツ輕快ナリ、而シテ經濟ノ学モ亦其風ノ一分ヲ得タリ、千八百三十五年<sup>セニオル</sup>、初メテ馬撒ト利加多ト二人ノ説ニ付キテ有力ナル評決ヲ下セリ、セニオルハ殊ニ經濟ノ学ニ於テ、富（財貨）トイフ者ハ、抽象狀ニ考ヘサルベカラズシテ政治ノ意味ハ全ク此中ニ加フベカラズ、富ハ政治ノ範圍内ニ進入スベキ道理アル者ニ非ズ、特ニ政治家之ト協同シテ其政事ヲ行フニ過ギズ、故ニ富ハ政治家ニ干係セル許多ノ考案中ノ一タルニ過ギザル者ト主張セリ、是ニ由リ英國ノ經濟教義ニ於テ、

明白ニ学ヲ以テ術ヨリ分離スルコト、恰モ一時音楽ノ学ヲ以テ術ヨリ分離セシト相同シ、然レドモ此精密ナル區別ハ（富ヲ以テ政治ヨリ分離スルコトノ）學士等モ之ヲ認定スル者少ナク、政治家ノ如キモ、其說ニ従フ者ハ殆ント之ヲ見ザルガ如シ、

○托馬ツーク（ヒストリイ オフ プライス）ハ其著書ニ於テ、彼ノ貨幣ハ勲業ニ對シテ全ク受動ノ姿ニシテ、勲業増加スルトキハ、貨幣ノ位格ヲ増シ、勲業衰退スルトキハ、貨幣ノ位格ヲ減ズルトイフ說ヲ駁論セリ、故ニ氏ノ說ハ、間接ニハ貿易上ノ不平均ハ国民ニ害ヲ為ス者ニ非ズトイフ理論ヲ助クルコトナルナリ、

○杜倫敦ハ、工錢ニハ天然及ヒ必要ノ度アリトイフ理論ハ、左ノ事實アルヲ以テ之ヲ防護スルコトヲ得ズト言ヘリ、其事実ハ、一ニハ其度ト云フ者ハ人々ノ勝手ヲ以テ定メタル者ナルヲ以テ画一トイフコトアルナシ、二ニハ労働者單一ニ現ハル、トキハ、財本ハ、其工錢ヲ、妥當ニシテ天然ナル度ノ下ニ押シ付クル者ナレドモ、其労働者結合シテ現ハル、トキハ、其工錢ヲ高上スルコトヲ得ルナリ、故ニ工錢資本ハ、財本ノ増スニ從ツテ変化シ、國中ノ労働人ノ中ニ其割合ヲ以テ分配スルコトヲ得ルトイフ理論ハ全ク空想ナリ、將ニ英國人ハ此理論ニ依リテ、人民ノ一地 聚合スルヲ止メ、各処ノ小田地ニ分散シテ其劳作ヲ為サシメシハ、反テ農業上ニ不幸ノ結果ヲ生シタリ、

○恰巴的斯邊撒ハ（半分ハセニオル、及ヒハウレット、スクロープ之ニ

先行シ、グレグ之ニ後繼セリ）、事實ノ證據ヲ擧テ、マルサスノ理論ヲ駁シタリ、氏ハ曰ク、社會ノ最初ニ於テハ、人力ノ寡少ナルニ由リテ、生活ノ必要物ニ不足ヲ生セシコトアリシカドモ、夫ハ其時代ニ限ルコトニテ、人口ノ増加スルト交際ノ親密ナルトニ由リテ、其不足ヲ漸々ニ減少スルニ至リタリト、

○日耳曼及ヒ英國ノ借地ノ歴史ヲ講スル者ハ皆謂ヘラク、リカルドシ地代ノ原因及ヒ其性質ハ歴史ニ據リテ之ヲ保護スルコト能ハズ、上古ノ時ノ土地ノ約束ハ今之ヲ知ルコト能ハズ、其地代ヲ地主ニ納メシハ、蓋シ習慣ニ由リテ定メシ者ニシテ、競争ニ因リテ之ヲ為シタル者ニ非ズ、又其習慣法ノ變シテ自由ノ約束トナリシハ、社會ノ進歩ニ由リテ勤業ノ目的ノ立チシ者ナリ、然レドモ其變化ハ甚タ完全ナラズシテ、其擅取ニ至リテハ、或ハ審官或ハ經濟家ノ定ムル所ナリトイヘドモ、貧民ニ對シテ不利ヲ為スコトニハ、十分ナル原因ヲ有スルコトナリ、

○潤斯丟亞的彌爾ハ、セニオルガ学ヲ以テ術ト分チタルコトニ付キ、力ヲ極メテ之ヲ論ジタルノ外ニ、更ニ勞力ト財本トヨリ出タル產物ノ分配法ノ全体ヲ以テ、人造力ニシテ、行廢共ニ殆ト意ノ如クナルベキ者トセリ、氏ハ又マルサストリカルドトノ說ヲ採用シ、謂ヘラク現今ノ工錢ノ方法ニ從フトキハ、勞作者ガ後來ノ幸福ヲトスルコト能ハズト、因テ若シ実試スベキ良法ナキトキハ、工錢ノ方法ヲ廢スルニ如カズト

言へり、此意見アルニ由リテ、ミルノ説ハ、其一半ハ社會党ノ奉守スル所トナリタリ、社會党ノ望ム所ハ、現今ノ社會ヲ改造シ、政府ノ管理ヲ擴メテ、勲業ノ指令ヲモ為サシメントスルニ在リ、

○其中正ノ見ヲ立ツル者ハ何レモ現今ノ競争、約束、工錢ノ結構共ニ敗壞セルヲ見テ、更ニ其交際法ヲ變革シ、人々自ラ其需用者トモナリ、又其供給者タルノ自由ヲ與ヘンコトヲ欲セリ、

○是等ノ説ヲ立ツル者ハ皆彌爾ノ教義ニテ認許シ教授シタル精神ト方  
法トヨリ發出セル者ナリ、此學士等ハ勲業者ノ生活上ノ事實ニ付キ、  
歸納法ヲ用ヒテ決定ヲ為シ、以テ従前、一端ノ前提ヨリ推度スル所ノ  
演繹法ニ代ヘタリ、学師ケールンハ、舊時ノ諸學士ノ方法ト決定トヲ  
(其中ニ於テ改調ト廣延トヲ為スハ免カレ難シトイヘドモ)採用シ、  
後世ノ記者ノ不幸ナル論説ヲ除カシコトヲ務メタリ、

○第十二章 亞米利加ニテ、コスモポリチカル世界民ノ教義ヲ信スル者多く、其中惟汎  
ク此主義ヲ防護スル為メニ書ヲ著ハシタル人ハ少ナカラザレドモ、学  
問上ノ点ヨリ其要旨ヲ論定シタル者ハアラザルナリ、故ニ法蘭西ノ信  
仰者ヨリハ、此教義ヲ為メニ助ヲ為スコト少ナシ、何則亞米利加人ハ  
其教授法ニ付キテ、一モ材料ヲ増加スルコトナク、又其論説ノカト形  
姿ノ巧トハ、英國ノ先輩ニ勝ル者無ケレバナリ、

此中ニ記入スベキ者ハコンンデイ、ラゲツト、トーマス、クーパー、  
ラウレンス、ウエイランド、ブリアント、ウオーカル、ペリイ、ウ

エルス等ナリ、

○第十三章 以上記載シタル諸學士ハ、一人モ亞當斯密士ガ謬謬ノ要点  
ヲ指摘シタル者アラズ、但シ其中ニ於テマルサス、セイ、リカルドノ  
如キハ、皆スミスノ説ヲ基礎トシタル者ナレドモ、其一部分ヨリ見ル  
トキハ、互ニ差異アルヲ以テ、其差異ノ点ニ至リテハ、互ニ異見ヲ懷  
ケルコトハ之アリ、合シテ之ヲ見レバ、此諸學士ハ何レモ世界民ノ教  
派ニ属スル者ニシテ、其説ハ専ラ單獨ナル富ノ義ニシテ国民ノ富ヲ説  
ク者ニ非ズ、故ニ此教派モ亦學ト術トノ間ニ全ク分離ヲ為シ、其学ヲ  
説クニ、他ノ考案ヲ多ク其中ニ雜ヘ、錯綜シテ以テ其義ヲ定メ、然ル  
後ニ術ニ及ブナリ、経済学ノ結構トイフ者モシ生活力ヲ有スル者ナ  
ルトキハ、此論旨(著者ノ論旨)ハ其生活セル部分ニ關係スベシ、又  
此論旨ノ一部、洛日克ノ成蹟ヲ得ベキ者ナルトキハ、其一部ハ衆人ノ  
降服ヲ受クルニ堪ヘタル洛日克ノ力量ヲ現ハスコトヲ得ルナルベシ、  
○吾儕モシ此決定ヲ以テ経済学ノ全体ヲ決スルトキハ、コスモポリチカル  
ルノ教義ノ如キハ、エーアノーション惟空漠ナル意見ノ外ハ、何物モ存在スル者ナカル  
ベシ、所謂空漠ノ意見トハ、一個人ニ利益アル所ノ貿易ハ、全社會ヲ  
モ利益スル者ナリ、故ニ政事家ノ一个ノ職分ハ、専ラ勲業ヲ允許シテ  
自由ナラシムルニ在リト言フガ如キ是ナリ、此教派ノ有名ナル門下ノ  
人ハ、相繼續シテ此空漠ノ意見ヲ以テ此学ノ根基及ヒ支柱トシタルコ  
トハ、吾等ノ明カニ之ヲ見ル所ナリ、

○第十四章 經濟學ノ國民ノ教義ハ、亞米利加日耳曼ノ近世ノ學士及ヒ

政治家ニ於テ之ヲ見ル、然レドモ余儕ハ猶亞當斯密士ヲ以テ此教義元祖ト定メントス、其故ハスミスガ二説兩立セザルノ意見ヲ立テ、殆ント此兩主義ノ歸スル所ヲ定メントセシヲ以テナリ、斯氏ヨリ少シ以前ニ出タルコロイニイ(阿爾蘭)ノ大教長パークレイ(其間人トイフ書ハ一七三五ト一七五二トニ出版セリ)、國民政治ノ意義ヲ説キ、又之ニ據リテ經濟ノ道理ヲ説ケリ、故ニ國民主義ハスミスヨリ早クパークレイニ其榮譽ヲ與ヘザルベカラズ、パークレイノ書ハ、主要ナル疑問六百條ヲ連続シタル者ナレバ、読ム者ハ其中ノ經濟ノ主意ヲ注目セズシテ看過スルコトアリ、然レドモパークレイノ諸説、將ニ貨幣ノ性質功能ノ説ノ如キハ、其卓出セル者ニシテ、近代ノ貨幣ノ説ノ先鞭トモ稱スベキ者ナリ、

○政治家及ヒ政事報告等ノ書ヲ觀ルトキハ、日耳曼ノ哲學ノ大家ナル フイヒテノ如キモ亦國民學家ヲ主張スルノ人ナルコトヲ知ル、同氏カ千八百〇一年ニ發行セルデルゲシロツセネハルデルススタートノ書ハ、専ラ經濟ヲ論ジタル者ニハ非ザレドモ、其序文ニモ言フ如ク、其附録ニ於テ法理ヲ論ジ、又政事論ノ緒端ヲ示セリ、氏ハ謂ヘラク國民ノ富ハ三 大 勤 業ノ均勢ヲ得ルニ在リテ、政府ハ完全ナル法律ヲ立テ、其生産ト永続トヲ堅固ニセザルベカラスト、又本國物産ノ交易(同緯度ノ内ニ生産セザル物ノ外)ヲ以テ野蠻ノ異物ナリトシ、又

現時歐洲ニ行ハル、自由貿易ハ、上古國ノ形体ヲ成サバル以前ニ成ル者ナリト考ヘ、金銀ノ代リニ紙幣ヲ代用スルトキハ、忽チ之ヲ閉止スベシト言ヘリ、蓋シ紙幣ハ一國內ヲ限リテ通用シ、金銀ハ何レノ國ニモ通用スル者ナレバナリ、又コスモポリチズムノ意見ノ如キモ、是ト同ジク天下ニ國及ヒ國民トイフ者ノ成立シタル時ニ於テ始メテ之ヲ言フコトヲ得ベキ者ナリ、若シ強テ何レノ土地ニモ、アラユル物ヲ流通セシメントスルトキハ、却テ何レノ土地ニモ何物モ存立スルコトナキニ至ルベシ、

其他日耳曼ノ哲學士ニテフランツ、バーテル、ワグネル、クラウス、エツセンマーエル、政治學士ニテアダム、ミューレル、ロベルト、フォン、モール、經濟學士ニテストロインセー、ネベニユース、ヘルマン、ビューシ等ハ皆受動理學ニ抵抗スル者ナリ、

○撒每耳迭羅コレリヂイハ英國ノ詩人ニシテ、尋テ哲學士ナリ、此人千八百十七年ニ書ヲ著ハシテ、深ク當時英國ノ政事家ガ貿易ニ関セル精神ノ(理論實際共ニ)平均ヲ失ヘルコトヲ歎息セリ、然レドモ未タ精密ニ其經濟法ヲ醫治スルノ説ヲ述ベザリシナリ、氏又政治家ノ此精神ハ、邦國民ノ精神ヲ以テ之ヲ反抗照明シ、理論實際共ニ其進善ヲ為サシムベキコトヲ説ケリ、氏謂ヘラク、此教義(世界民ノ教義)ニテ根元ノ格言トシテ尊重セル者モ尚幾多ノ精察ヲ要スベキ者アリト、故ニ此教義ニテ言フ所ノ「事物ハ總テ其基源ニ遇着ス」トイヘル格言ノ

如キモ、左ノ如ク言フトキハ、更ニ明白確實ナルベシ、「事物ハ常ニ其  
反対者ノ解説嘲笑ニ由リテ、其基源ヲ發見スル者ナリ、然レドモ人ハ  
事物ニ非ズ、人ハ人ノ基源ヲ發見スル者ニ非ズ」ト、氏ノ高弟モウリ  
スハ全ク氏ノ精神ヲ傳ヘシ者ナリ、氏ボリチカル エコノミイ トイヘル  
学ノ中ニ種々ノ教義アルコトヲ言ヘリ、曰ク、其一ハ疑ナキ事實ノ説  
話ナリ、其一ハ事實ニ付キテ必要又ハ奇怪ナル視察ナリ、其一ハ事實  
ヨリシテ法則ヲ求メントシ、多少其效驗ヲ得タル者ナリ、其一ハ生粗  
ニシテ冷淡ナル道德ノ奇言ナリ、

○第十五章 日耳曼ニテハ、千八百十五年ノ和議以來、受動政治ノ主義  
固守セシニ由リ、自ラ世界民ノ法ヲ學ブコトトナリシガ、フレデリツ  
キ、リスト出ルニ及ビ、大ニ民主主義ノ要用ヲ説キ、邦国民經濟ノ法  
ヲ学ノ基礎ノ上ニ建立シ、以テ之ヲ防護セリ、リスト氏幾多ノ議論ニ  
勝利ヲ得テ、ツオルウエライン（列国会議シテ海關稅ノ法ヲ一定スル  
コトヲ言フ）ノ基礎ヲ定メタルノ後、千八百二十五年、氏ハ合衆國ニ  
赴キ、此新世界ニ於テ実行スル社會成長ノ法則ヲ知ラント欲ス、此國、  
國民政治ノ保護法ニ因リテ速ニ其富ヲ増加シタルヲ見テ、大ニ其學問  
ノ田地ヲ廣ムル事ヲ得、千八百二十七年「オートライン、オフ、アメ  
リカン、ポリチカル、エコノミイ」トイヘル小冊子ヲ著ハセリ、此小  
冊子ハ氏ガ後年ニ著述セル「ダス、ナシヨナール、システム、デル、ポ  
リチセン、エコノミイ」トイヘル書ノ萌芽ナリ、此書ノ題号ヲ以テ、

書中ノ旨趣ト、リストノ意想トヲ知ルコトヲ得ルナリ、リストノ意見  
ニ從ヘバ、國民トイフ者ハ、勤業ト政治トノ大塊ニシテ、其勤業ノ能  
力ノ平均ニ由リテ標識ヲ為ス者ナリ、モシ自國ノ民ノ間ニ用ヲ為ス相  
互ノ交易ニ付キテ其妨碍ヲ除キ去ルトキハ、富裕幸福ヲ得ルニ至ルベ  
キ者ナリ、若シ衆多ノ國民、何レモ其人員、財本、勤業ノ開達ニ於テ  
同一ノ地位ニ在ルトキハ、何レノ國民モ相互ニ自由貿易ヲ為シテ少シ  
モ障碍ヲ見ルコトナカルベシ、然レドモ歴史上ノ実績ニ依ルニ、常ニ  
小數ノ國ノ民、巨額ノ富ヲ有シ、其財本ノ力ヲ以テ他ノ國民ノ勤業ヲ  
壓シテ己レニ附屬セシメントスルノ力ト意トヲ兼有スル者ナリ、故ニ  
モシ貧ナル國民、其國ニ於テ自由貿易ヲ為サンコトヲ望ムトキハ、其  
國民ノ勤業ノ如ク、受動ノ状態ニ存留スベカラザルナリ、

○第十六章 亞米利加ノ學士ニハ此國ノ建国ノ以前ヨリ、經濟學ニ付キ  
テ邦國主義ヲ防護スル者頗ル多シ、其中ニ於テアレキサンデル、ハミ  
ルトン、テンチ、コクス、マツテウ、ケレイ、チャールス、インゼルソ  
ルノ如キハ其尤ナル者ナリ、然レドモ是等ノ學士ノ主旨ハ、學問上ヨ  
リ邦國經濟ノ根基ヲ論ジタル者ニ非ズシテ、惟直接ニシテ明白ナル利  
益ノ目的ヨリシテ、經濟ノ畧ヲ説キタル者ナリ、

○學問上ヨリ邦國經濟ノ根基ヲ論ズルコトハヘンリイ、ケレイ初メテ是  
ヲ為セリ、其著書ヲ見ルニ、邦國經濟ノ學ヲ、動機ヨリ初メテ動重學  
ノ地位ニ至リシ者ニシテ、即チ真正ノ學ト為シタル者ナリ、氏ハ「メ

ルカントルスクール」ニ於テ見ル所ノ実験上ノ規則ヲ取ラズ、又「エ  
コノミスト」ノ教義及ヒ亞当斯密士ノ教義ニ於テ 言フ所ノ邦國ノ習  
慣生活ニ活氣ヲ與ヘザル幼細ノ暗想ヲ取ラズ、惟少數ナル大原理ノ上  
ニ立ツ所ノ經濟ノ教義ヲ提出シテ人ニ表示セリ、其原理ハ人類生活ノ  
態ノ実狀ヲ察シ、何レノ地ニ於テモ、直チニ之ヲ実行スルコトヲ得ベ  
キ視察ヨリ生シタル者ナリ、此原理ハ經濟トイヘル事ノ天然ノ構造及  
ヒ其進路ヲ支配スル所ノ法則ナリ、又人類ノ天性ト、其天性ニ相協合  
シテ造為セラレタル外物トノ法則ナリ、

○此原理ノ發見ハ、其中ニ「インダストリアル、スクール」ト名クル先  
論ノ決斷ヲ包含シ、又「ヂスマルサイエンス」ト名クル決定ヲ包含セ  
リ、其故ハ上ニ記シタル天然ノ法則ハ、國民ガ富ニ赴キ、又富ノ均齊  
ヲ得ルノ法則ナレバナリ、此法則ヲ自由完全ニ行フトキハ、何レノ國  
モ貧窮岑寂無法ヨリ昇リテ富裕社會秩序ニ達スルコトヲ得ルナリ、凡  
ソ人類ノ經濟ノ歴史トイフ者ハ、自然ニ隨從セル野蠻ノ状態ヨリ自然  
ノ力ヲ使用スル都人士ノ地位ニ登ルノ説話ナリ、而シテ其進歩スル毎  
ニ最多數ノ民、即チ最モ貧窮ナル人民、將ニ殊ニ大ナル利益ヲ受クル  
ナリ、此事ハ、上帝ガ人類ニ對セル政治ヲ証見スルニ足ルベク、又彼  
「ソーシアリスト」「コムミニunist」ノ如キ破壊主義ニ抗敵シテ、人  
民開化ノ進歩スルヲ証見スルニ足ルベキ者ナリ、  
○凡ソ野蠻ノ状態ノ久シク留存セルト、文明ノ界域内ニ野蠻ノ風ノ再

現スルトハ、天然ノ法則ノ応効ニ非ズシテ、天然ノ法則ヲ破リタルヨ  
リ起ル者ナリ、或ル一國又ハ更ニ廣キ境界ニ於テ、悪キ法律ヲ建ルト、  
法律ノ欠失トニ依リテ、富裕均齊及ヒ勉業ノ平稱ヨリ生スル利益ノ調  
和ヲ妨クル者ハ數々之ヲ見ル所ナリ、此ノ如キ勉業ノ進路ノ活動ニ関  
セル妨碍ヲ除去スルコトハ政府ノ單純ナル職分ナリ、

マスターケリーイノ著書ノ主要ナル者ハ欧州ノ八國ノ言語ニテ  
既ニ之ヲ反譯セリ、又此人ノ教義ヲ奉スル者ハ英法德伊ノ諸國ニ  
甚多ク之ヲ見ル、

○第十七章 此二教義（世界教義ト邦國教義）ノ差異ハ惟其説ノ詳畧ニ  
於テ同シカラザルノミナラズ、實ニ其基礎及ヒ原理ニ於テ同シカラザ  
ル者アリ、何レノ教義ニ於テモ、共ニ自己ノ教義ヲ以テ學ノ名ト位格  
トヲ得ベキ者トシ、他ノ教義ヲ以テ學ノ名ト位格トヲ許スベカラザル  
者トセリ、

○此二教義ハ又其方法ニ於テ差異アリ、英國ノ教義ハ數學ノ演繹法ヲ  
取レル者ニシテ、其初メニ原理ヲ執持シ、以テ特殊ノ事實ニ配當セル  
者ナリ、故ニ此學ハ先ヅ己ガ知ル所ニ依リテ人類ノ品性ト傾向トハ此  
ノ如キ者ナリ、社會ヲ成セル人類ノ經濟法ヲ管理指導スルニ必要ナル  
原理ハ此ノ如キ者ナリト定メテ己ガ手ニ把持シ、己ガ意見ヨリ外ノ原  
質ハ皆不定ノ者ナリトシテ之ヲ委棄シ、獨リ己ガ見込タル者ノミヲ以  
テ確然ノ者ナリトスルナリ、サンデーレビユーニ所謂「執意ニ建立

セル学」ト稱シ、彌爾ガ「執意ヨリ出タル道理ニシテ、事実　リ出タル道理ニ非ズ」トイヘルハ、適ニ此教義ニ当ル者ナリ、

○亜米利加及ヒ日耳曼ノ教義ハ觀察ト概括トノ帰納法ヲ用ヒタル者ニシテ、此法ハ是ニ由リテ天造ノ諸学ニ、光輝アル結果ヲ生セシ者ナリ、此二国ノ教義ハ先初メニ廣ク經濟力ノ活動ノ事實ヲ考へ、其集合錯綜セル事實ヲ以テ、經濟ノ全体ヲ管理セル一般ノ法則ヲ推サンコトヲ務メタル者ナリ、故ニ此学ハ執意ノ原理ノ上ニ人工ノ方法ヲ工夫スルコトナク、専ラ天然ノ構造ト進路トニ從ヒテ其說ヲ立ル者ナリ、

○此差異ハ以下ノ篇ニ於テ詳ニ之ヲ説クベシ、

## 第二篇

### 社會ノ發達　邦國

○第十八章　亞立士度德曰ク「人ハ政治ノ動物ナリ」ト、人類タル者ハ政治ノ結構ヲ以テ組織セル同儕ト相交際セザルノ間ハ其天性ノ完全ヲ得ルコト能ハズ、凡ソ立国ノ根元ヲ論ズルニ、其歴史上ノ状態ハ種々一様ナラズト雖ドモ、人類ノ天性ニ付キテノ事實ハ、十分ナル原因トシテ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、

○社會ノ最初ノ形姿ハ一家<sup>ファミリー</sup>ナリ、家ハ国ト同ジク全ク天然ノ者ナリ、一家ノ交際トイフ者ハ、其家中ノ分子タル者ノ相互ノ反射ノ行為ニ由リテ成立セル者　ニ非ズ、人タル者ハ誰人モ好シテ家ヲ成シ又ハ家ヲ

成サズランコトヲ欲シテ生レ出タル者アラズ、但シ後年自己ノ行為ヲ以テ、家ノ界域ヲ脱出スルコトハ、之ヲ能クスベキコトナリ、家ハ道徳上ノ人体ベルソナ　トナリ、又獨立ノ生命ヲ有スルコト国ト同ジキ者ナリ、故ニ家<sup>リチイ</sup>ニ包含セル多量ノ者ヲ包含セル所ノ全体ナリ、即チ構造物オルガニシテ、増進物<sup>アドヴァンスト</sup>ニハ非ザルナリ、

○第十九章　<sup>ニズム</sup>ノ廣大セル者ハ一族<sup>ファミリー</sup>ナリ、凡ソ一家ノ相合シテ數家トナレル者ト、又ハ此家ト他ノ家ト相隣接スルノ干係ヨリシテ、其隣交ノ情感ト相互ノ保護ノ必要トニ由リテ數家相聚合シ、殊ニ政治上ノ必須ト其天然ノ気性トニ由リテ結合シテ一個ノ族トイヘル全体ヲ成スナリ、此ノ如キ一族ヲ以テ、法ニ協ヒタル想像ヲ以テ一家ノ伴侶ト考へ、其衆子ヲ以テ一家長ノ下ニ立テル者ト為セリ、其家長ハ衆子共有ノ父ニシテ、生死共ニ此父ヲ尊シテ勇武ノ神徳アル者トシ、教法ノ旨趣ヲ以テ其全族ヲ結合スルナリ、其生活セル首長ハ、争訟アル毎ニ之ヲ裁判スルノ神命ヲ受タル者トシ、其裁判スル所ノ條例ハ、神命ナリトシテ尊重スル所ノ法律トナルニ至ルナリ、

○第二十章　族<sup>ファミリー</sup>トイフ者漸々擴マリテ(悉皆ニハ非ザレトモ)都邑<sup>シティ</sup>トナルナリ、初メ敵兵ノ不意ノ攻襲ニ備フル為メニ此上ニ作リシ城塞ハ聚合ノ中点トナリ、人民爰ニ其居ヲ定ムルニ至ル、隣敵ニ勝利ヲ得タル人、又ハ隣敵ノ帰降ヲ受タル者ハ、其人民ノ數ヲ増シ、随ツテ其勢モ強威トナリ、其民衆ノ居処ハ、防禦ニ便ナル塁壁ヲ以テ之ヲ圍遶ス

ルニ至レリ、其居民ノ本族ノ奉ズル神ハ、其都邑ノ守護神トシテ之ヲ崇敬ス、其新民ノ如キ各其本来ノ民族ノ奉スル所ノ神ヲ尊崇スルナリ、都府ノ最初ノ住民ハ、其本土ノ民トイフヲ以テ、其威權自ラ新來ノ民ニ勝リ、又其都邑ノ法律ト神道トニ通ゼルトイフヲ以テ、遂ニ貴族政治ノ基本ヲ開クニ至レリ、然ルニ此事ヨリ新古ノ居民ノ間ニ争議ヲ生シ、年久クシテ遂ニ相議シテ一ノ條規ヲ定メ、其新民モ亦多少ノ權理ヲ有スルニ至レリ、

○第二十一章 他ノ都邑ヲ攻伐シテ之ヲ取り以テ許多ノ都邑ヲ併合スルトキハ、其捷利ヲ得タル都邑ハ時トシテ帝國ノ位格ヲ作ルコトアリ、或ハ又數多ノ都邑相合シ、互ニ相保護スル為メニ條約ヲ定メ、交戦ノ事ヲ以テ中央議會ニ委託シ、衆都邑共有ノ金庫ヲ置クコトアリ、初メ族トナリ、都邑トナル間ハ、未タ國ノ形体ヲ成サストイヘドモ、攻伐ト協和トニ由リテ衆都邑相合スルトキハ、始メテ國ノ形体ヲ完成スルナリ、上古ノ歴史ヲ觀ルニ、猶太ト埃及トノ外ハ國ノ形ヲ成シタル者甚少ナシ、而シテ此二國ニ於テ、其國中ノ各個ノ民族ハ猶其自家ノ系ヲ保チテ永久消滅スルコトナシ、

○第二十二章 羅馬帝國ノ滅亡後、歐羅巴ノ西部ニ於テ真正ノ邦國ノ形ヲ造成セシハ、丟度尼族<sup>チュートニツク</sup>ノ建立セシ諸王國ヲ以テ第一トス、丟度尼族ハ都邑ニ居ルコトヲ厭ヒ、常ニ廣闊ナル原野ヲ愛セリ、其後都邑ヲ造ルニ及ビ、其都邑ヲ以テ旧來ノ土地ノ保有者ニ委託シ、此保有者ニ

貢稅ヲ納ムルコトトス、丟度尼族ハ其廣闊ナル原野ヲ以テ分ツテマルクト<sup>市場</sup>為ス、分配ノ義ナリ、其一マルク<sup>市場</sup>中ノ保有者ハ、或ル一家族ノ仲間ニシテ、皆同一ノ名ヲ稱セリ、此マルク<sup>市場</sup>ノ數部、人民政治思想ノ力ニ由リ、合シテハンドレットトナリ、ハンドレットハ又合シテシャールト<sup>シャルル</sup>為リ、シャールハ又合シテ國トナルナリ、此シャール以下ノ區域ノ内ニ於テハ、或ハ長者或ハ長老、或ハ首長トイフ者、各其上座ヲ占ムルナリ、此方法ニ由リテ、人種<sup>種</sup>レイトイフ者ハ、小ナル一族ヨリ大ナル邦國ノ構造ニ及ブマデ行キ渡<sup>ス</sup>リ、而シテ強力アル都邑ノ政治トイフ者ハ未タ十分ニ開暢セザルナリ、都邑ノ政治トイフ者ハ軍法ノ壓制、國帝ノ壓制ノ外ニ於テ、都邑ヨリ大ナル政治ノ形体ヲ定ムルコトヲ妨クル者ナリ、

○丟度尼ノマルク<sup>市場</sup>ノ民治ハ上古ノ世界ノ仕方ト同様ノ方ヲ以テ漸々ニ成長シ、人種ノ政治ヲ限りテ都邑政治ヲ建ルニ至レリ、然レドモ此都邑政治、邦國ノ成長ヲ妨クルニ十分ナル勢力有スルノ前ニ於テ、邦國ハ己ニ固定セル实体ヲ立テタリ、邦國併合ノ第一ノ障礙ハ籍土<sup>パロン</sup>ノ法ナリ、此法ハ其保有セルヨリ寧ク奪取セル土地ニ於テ其土地ノ豪族<sup>パロン</sup>ニ大ナル勢力ヲ與ヘタル者ナリ、然ルニ日耳曼ノ外、丟度尼ノ諸國ニ於テハ、皆國王ハ國民ト結合ノ勉力ニ由リテ分地ノ勢力ヲ棄擲シ、中央政府ノ力ヲ以テ最第一ノ地位ニ置ケリ、此ノ如クシテ邦國ノ感覺トイフ者、其他ノ政治上ノ集合ヲ廢絶セシムルニ至レリ、

○第二十三章 邦国ハ現今ニテハ、一個ノ固定ノ形体ニシテ、恰モ古代ノ時ノ都邑ニ於ケル、歴史以前ノ時代ノ民族ニ於ケルガ如シ、邦国ノ性質ニ付キテ種々ノ精密ノ定義ノ外ニ、尚各界ノ位地ヨリ考フル所ノ意見アリ、其別左ノ如シ、

(一) 地理学上ヨリ言フトキハ、邦国ハ同一ノ語ヲ言ヒ、同一ノ政治ノ下ニ立チ、變改ナキ土地ノ面ニ住居スル所ノ民ナリ、其地面ハ獨立ノ民ノ為メニ要用ナル天然ノ分界ナリ、

(二) 政治学上ヨリ言フトキハ、邦国ハ外面ヨリ妨碍ヲ防禦シ、自己相互ノ間ニ公義ヲ行フ為メノ構造ナリ、凡ソ人類ノ天性ハ皆正理ヲ有セリ、此正理ヲ循守シ堅固ニセン為メニ、国民ハ政治上ニ於テハ、合シテ一体トナラザルベカラザルナリ、

(三) 道德学上ヨリ言フトキハ、邦国ハ責任ト威權トヲ具ヘタル道德ノ人体ナリ、其生命ハ国民各個ノ中ニ之ヲ有セズシテ、邦国全体ノ中ニ之ヲ有スル者ナリ、

○第二十四章 以上三條ノ意見、及ヒ此他ノ意見ハ、邦国ニ付キテ、歴史上ノ意見ノ元質ナリ、歴史上ノ邦国ハ一ノ構造体ニシテ、即チ自己ノ生命ヲ以テ活動セル政治ノ形体ナリ、故ニ邦国ハ一人ノ系統ノミニ付キテ見ヲ立タル者ニ非ズ、衆人ノ系統ヲ合セタル者ニシテ、或ハ死シ、或ハ未タ生レズ、或ハ今生活セル者モ皆其中ニ包括セリ、邦国ハ又自己ノ恒久ナルコトヲ考定シ、自己保存<sup>セルフ、フレイヤ</sup>ヲ以テ第一ノ法則

ト為シ、自己ノ死亡消滅ニ付キテ一モ防備スルコトナシ、其性質中ニ「現存ノ形ヲ廢止ス」トイフ道理ヲ有セズ、一個人ノ生以テ之ニ比擬スルトキハ、極メテ其當ヲ失スルコトナルナリ、凡ソ邦国ノ目的ハ自身ノ完全<sup>ヘルフエ</sup>ニ在リ、此目的ヲ達センガ為メニ、常ニ益々大ニ益々自由ナル生命ヲ得ントスル方ニ傾向スルナリ、故ニ邦国ハ其法則ニ依リ、其政治上ノ正理<sup>ライト</sup>ヲ以テ天然ノ正理ヲ実ニセンコト務ムル者ナリ、其政体上ニ緩徐又急劇ノ變化アル毎ニ、管理ヲ受クル者ノ缺失ヲ補ヒ、又ハ勢力ヲ増スコトヲ得ルナリ、又勉<sup>インダストリイ</sup>業ニ付キテハ、常ニ其土地ノ性ト民ノ力トヲ開發スルコトヲ務メ、以テ人民ノ要須ハ、皆獨立シテ自由ニ十分ナランコトヲ望ムニ至ルナリ、

○第二十五章 邦国ヲ以テ道德ノ形体トシテ見ルトキハ、其他ノ道德ノ形体ト同ジク、必ス至極<sup>アルチマイ</sup>ノ本原<sup>ト、オチン</sup>ナカルベカラズ、其本原ハ或ハ上帝ノ直接ノ造作ナリト考フル者アリ、或ハ上帝ノ受造物ガ構作スル所ナリト考フル者アリ、吾等ガ知ル所ノ古代ノ都邑ニ殘レル傳説ヲ見ルトキハ、或ハ上帝ノ獨一ヲ以テ造レルカ、或ハ上帝ノ法則ニ依リテ成レルカ、何レニモ其本原ハ神慮ニ出ツルト云フコトヲ知り得ベシ、而シテ凡ソ今日上帝ノ意志ヲ以テ支配セル世界ヲ内ニ生活スル者ハ、一人モ邦国ハ上帝ノ意志ノ続キニ由リテ成立セルトイフコトヲ疑フ者ハアラザルベシ、上帝ハ、最初ノ單獨ノ人民ヲ以テ一家族ト為サシメタリ、上帝ハ邦国ノ、境界ヲ定メタリ、然ルニ依リテ邦国ノ法律ハ威

權アル者トナレリ、其故ハ此法律ハ上帝ノ意志ヨリ生出シタル者ナレバナリ、然レドモ邦国ノ法律ハ其外貌ハ全ク国民ノ造為シタル者ナレバ、上帝ノ意志ハ内ニ隱伏シテ外ニ発見セザルナリ、邦国ノ權理ハ国中人民ノ權理ニ勝リ、又其中ニ人民ノ社員ヲ所有スルノ權理アルハ是ガ為ナリ、故ニ邦国ハ既ニ生命ヲ賜與セラレタル上帝ヨリ、又威權ヲモ賜與セラレ、ナリ、

○第二十六章 国ノ創立ニ兩説アリ、其一ハ曰フ、国ハ上帝ノ造ル所ナリ、上帝ヨリ差遣セラレタル者ナルヲ以テ其威權限ル所アリ、其一ハ曰フ、国ハ全体皆上帝ノ造レル所ニ非ズ、自己ニ本原ヲ有セルヲ以テ、其威權ニ限制セラレ、所ナシ、其第二ノ意見ニ從ヘバ国ノ為ス所ニハ邪曲アルコトナシ、其故ハ国ノ意思ノ上、又ハ意思ノ外ニ依據スベキ法律モナク道德モアラザレバナリ、凡ソ国ノ法律ヨリ高等ナル法律ニ訴フル者ハ之ヲ反逆トシテ罪スベキコトナリ、故ニ無神ノ理論ハ動モスレバ国ノ勢力ヲ以テ壓制ノ政治ニ導ク者ナリ、今日ニ在リテハ、無神ノ主義ヲ執ル所ノ人、幸ニシテ其主義ノ本意ニ反シ、政論ニ於テ自由ノ説ヲ執レリ、然レドモ其人モシ勢力ヲ得ルトキハ、其位地ノ變ニ由リテ其人ヲ導キテ壓制ノ政畧ヲ執ラシムル者ナリ、恒久ニシテ壞レザル自由主義ヲ保持スル者ハ、獨リ国ヲ以テ上帝ノ創造威權ニ成レリト信ズル所ノ人ノミナリ、実ニ国トイフ者ハ上帝ノ威權ヲ以テ管理ノ委托ヲ命ゼラレタル者ナリト考フルトキハ、此主義ヲ奉スルノ人ハ

壓制ノ志望ヲ助クルニハ適當セザル者ナリ、然ルニ旧約全書ノ教義ハ左ノ如シ、國ハ人民相合シテ一体ヲ為スニ由リテ成リタル者ニシテ、政治トイフ者ハ此事実ノ結果ニシテ、又其多數ナリ、執政者ハ言語ノ本義ヲ以テ言フトキハ、舟ノ舵工ノ如キ者ニシテ、其舟ニ通路ヲ指定スル者ナリ、然レドモ国ノ舟ニ運動力ヲ與フルハ執政者ノ職務ニ非ズ、其運動力ハ政治ノ全体ノ生活力ニ由リテ發生スル者ナリ、

○第二十七章 上帝邦国ヲ造ルト為ストキハ、必ス之ヲ造ルノ趣意ナルベカラズ、其趣意ニ二アリ、一ハ總テノ邦国ニ共通セル或ル元質ニ付テ之ヲ見、一ハ或ル邦国ニ存セル特別ナル元質ニ付テ之ヲ見ル、各個ノ邦国ハ各個ノ人ト同ジク各其事業アリ、各個ノ邦国ハ皆選擇セラレタル人民ナリ、其国民ハ何レモ世界ノ道德ニ於テ其固有ノ部分ヲ執レリ、若シ其国民上帝ノ趣意アルコトヲ認識スルトキハ、希伯來ノ語ニテ之ヲ「上帝ト盟約セル民」トイフ、旧約全書ノ主要ナル旨趣ハ、此ノ如キ国民ノ風俗ト、此民ヲ管理セル道德ノ法則ヲ表示スルニ在リ、即チ其書ハ猶太ノ国民ニ特有セル風俗上ニ於テ、上帝ト盟約セル民ノ真心ノ状態ヲ現ハシタル者ナリ、

○第二十八章 邦国ノ事業タルベキ共通ノ元質ハ正理ノ結構ニ在リ、一家トイヘル語ニ於テ之ヲ知ルベシ、邦国ノ一家ト異ナル所以ハ、一家ハ情感ノ結構ニ在リ、又邦国ハ廣大ナル人類ノ集合トイヘル稱ニ異ナリ、其故ハ邦国ノ成立スルニ及ンデ、正理トイフ者始メ

テ其体ヲ成シテ堅固トナレバナリ、公義チヂラス即チ正理トイフ語ハ、布拉多ノ創造スル所ニシテ、実ニ邦国ノ元氣ナリ、故ニ邦国ノ事業ハ、国民ノ良心ニ由リテ公義ナリト理會セル理想ニ從ヒテ之ヲ為サザルヘカラズ、此理想ハ国民ガ其事ヲ実行センコトヲ務ムル毎ニ、明白ト完全トノ度ヲ進ムル者ナリ、其初ニ於テハ、此理想ノ望ム所ハ、惟正理ヲ以テ其国民ヲ取扱フノミニ在リ、其後ニ至リ、分解法ヲ用ヒテ、邦国ハ人ト人トノ間ノコトヲ判断シ、上帝ハ国ト国トノ間ノコトヲ判断スルコトヲ知レリ、是ヨリ国ト国トノ間ニ行ハル、法則トイフ者ヲ立ツルニ至レリ、

○公義ハ邦国ノ元氣ナルトキハ、公義ヲ破ルト、我俟ナルト（即チ邦国ノ不正理）ハ国民ノ生活ト其現存トノ災害タルコト明カナリ、此不正理ハ人々ノ間ヲ連結スル所ノ綁帶ヲ弱クスル者ナリ、故ニ国民生活ノ要用ハ、此ノ如キ連結ヲ寛フスルニ在リト説ク者ハ、邦国ハ惟破壊スルニ由リテ保持スル者ナリト説クニ異ナルコトナシ、若シ邦国ニテ其正理ヲ要望スルコトヲ止ムルトキハ、レーゾンデトレヲ委棄スル者ニシテ、其実行上ニテ全く反対ノ状ヲ現ハス者ナリ、此ノ如キトキハ、政治ノ形体ヲ失ヒテ盜賊ノ羣トナルヲ見ルナリ、

○第二十九章 公義ニ二様アリ、其一ハ邦国ノ職分ハ、其自己ノ界域ノ内（或ハ外）ニテ悪事ヲ為シタル者ヲ処スルニ公義ヲ以テシ、既往ニ於テ他人ノ正理ヲ犯シ、将来ニ於テ之ヲ犯サンコトヲ防グガ為メニ

之ヲ罰スルナリ、其二ハ邦国自己ニ公義ヲ為スコトニテ、良好ナル方向ニ於テ国民ノ生活ヲ完全且ツ自由ニ開發センコトヲ務ムルナリ、邦国ノ第一ノ職分ハ自己保存セルス、プレザルベーションニ在リトスルトキハ、此職分ノ中ニ「国民生活ノ進歩」ヲ包括セザルベカラズ、「邦国ノ目的ハ惟生活スルノミニ非ズシテ、高上ニ生活セザルベカラザルナリ、」

○第三十章 「造化ノ命令ニ依ルトキハ、事物ノ進歩ハ、生活機關ノ各部相互ノ差異ト、各部ト全体トノ差異ニ由リテ之ヲ得ベキコトナリ、高等ノ生活物ハ、造化ノ順序力ニ由リテ、其機關ノ各部ト各部トノ差異、及ヒ其各部ト全体トノ差異甚大ナリ、下等ノ生活物ハ、其機關ノ各部ト各部トノ差異、及ヒ其各部ト全体トノ差異太タ多カラズ、」（ゲーテ）、

○「ヴォルフゲーテフオンベール等ノ諸家ノ考究ニ由リテ、凡ソ變化ノ続キハ、種子開發シテ草木トナリ、卵子開發シテ動物トナルガ如ク、総テ一様ノ構造ヨリ進シテ各異ノ構造トナルトイフコトノ真理ナルヲ見定メタリ、故ニ最初ニ於テ惟此二個ノ物質ノ部分ノ間ニ差異アルコトヲ見ルノミナリ、此構造物ノ進歩ノ法則ハ即チ万物ノ進歩ノ法則ナリ、凡ソ此地球ノ開進歩、其面ニ住居セル人民ノ開進、社會ノ開進、政治、工業、商業、言語、文学、諸学諸術ノ開進ハ、何レモ同様ニシテ、皆單一ヨリ進化シテ錯綜ニ趣キタル者ナリ、上古ノ天地草昧ノ時ヨリ、變化シテ後世ノ文明ニ至リシハ、開進ノ実ニ成立セルニ由ルナリ、

リ、吾儕最下等ノ社會ナル野蠻ノ状態ヲ見ルニ、同一ノ智力、同一ノ職業（但シ男女ハ其職業ヲ異ニス）ヲ所ノ人民、相聚合シテ同一ナル社會ノ形体ヲ為スニ非ザル者ナシ、其人民ハ何レモ兵士ナリ、獵人ナリ、漁人ナリ、作器者ナリ、建築者ナリ、婦人ハ皆何レモ賤役ヲ執ルノ人ナリ、其一家ハ何レモ自身ノ満足ノ為メナリ、而シテ其聚合ト防禦トノ目的ノ外ニ他家ヲ離レテ別々ニ生活スルトイフコトアルノミ（恰巴的斯辺撒）

○以上ノ諸論ハ、國民ノ生命ニ付キテ、其實質ニ關スルコトハ真理ニ協フコト多シトイヘドモ、精神ニ關スルコトハ、其真理ニ協フコト少キモノトス、此事ハ殊ニ社會學ノ主意トスル（第二章ヲ看ルベシ）直接ニ天然ノ法則ノ管理ヲ受クル所ノ管係ニ貼用スベキ者ナリ、國民生命ノ高等、即チ其精神ニ於テハ、完全ナル國民ノ品位ハ、或ル意味ニ於テ、成形セル政治体ノ再生物ナリ、即チ其者ハ自由ナル道德ノ成形ナルガ如シ、

然レドモ使徒保羅パウロハ社會ノ精神上ノ形姿ノ同一ナルコトヲ言ヘリ、曰ク形体ハ一肢節ニ非ズシテ、衆肢節ヲ以テ成ル者ニシテ、其衆肢節ハ何レモ同一ノ職務ヲ為ス者ニ非ズ、眼ハ手ニ向ヒテ、余ハ汝ヲ不要ナリトスト言ハザルナリ、

○第三十一章 邦國ノ品位ノ十分ニ開達セル姿態ハ、即チ其生活上ノ錯雜セル姿態ニシテ、其原質ハ分ツテ三種ト為スベシ、一ヲ勉業インダストリ

ノ質ト云ヒ、二ヲ法律ジュールノ質トイヒ、三ヲ養育カルチャーノ質ト云フ、第二ノ質ハ其中ニ政治ノ生活ノ質、人民ノ自由ト道德トノ進歩、立法ニ關シテ開暢等ヲ包括シ、第三ノ質ハ識性ノ活動、革術文章及ヒ諸學ノ進歩ヲ包括シ、第一ノ質ハ形器上ノ人民ノ幸福ヲ包括セリ、此三質ノ各個ノ十分ノ開發ハ、政治体ノ最高ノ幸福ニ必要ノ者ナリ、

○第三十二章 主要ナル目的ヲ以テ邦國生命ノ十分ナル開達ヲ求ムルトキハ利己セルクヒトイフコトハ敵ヲ罪スベキコトニ非ズ、總テ其身分ノ界限ノ中ニ就テ之ヲ見ルトキハ、人ノ情感ハ殊ニ強烈勇猛ノ者タルハ自然ノ理ナリ、一家内ノ生活ニ付キテ言フトキハ、自己ノ妻ヨリ他人ノ妻ヲ愛スル者ハ道德ニ背クノ人タルベシ、又他人ノ子ヨリ自己ノ子ニ於テ情感ノ薄キト云フハ天然ニ反シタルコトナリ、自己ノ國民ノ為メニ給備シ、殊ニ自己ノ一家内ノ者ノ為メニ給備スルト云フコトハ、國民ノ首長及ヒ其仲間タル者ノ第一ノ職分ニシテ、一家ニ於ケルモ、亦是ト同様ノコトナリ、

○自己ノ國民ノ利益ノ為メニ行動スルヲ以テ第一義トスレドモ、又他ノ國民ノ開發ヲ妨礙センコトヲ求ムベカラズ、人タル者ハ常ニ他ノ邦國ノ安全ニ付キ、温和ノ心ヲ以テ之ヲ求望スベキコトニテ、其之ヲ妨礙スルノ行為ハ務メテ之ヲ除カザルベカラズ、自國ノ民ノ為メニ強猛純情ノ情感ヲ發スルトキハ、他國ノ愛國心アル民ノ為メニハ又同一ノ同情發セサルベカラズ、近年マウリスノ言ニ曰ク、余ハ

英吉利人ナルトキハ、世人ノ皆英吉利ナランコトヲ望ム、余ハ法朗西人ガ世人ノ皆法朗西人タランコトヲ望ミ、日耳曼人ガ世人ノ皆日耳曼人タランコトヲ望ムヲ知り、又能ク此二国ノ人ヲ敬重セザルベカラザルコトヲ知レリ、余ハ毎ニ是等国人ノ位地ノ高貴光明ナルコトヲ知ルトキハ、益々自己ノ位地ノ高貴光明ナルコトノ價ヲ知ラザルベカラズ、吾等ハ區別心ヲ立テ、之ヲ見ルトキハ、吾等ハ他国ノ為メニハ少シモ用ヲ為ス者ニ非ズ、吾等ハ他国人トハ別々ノ道路ヲ歩ム者ナレバナリ、吾等ハ人類共通ノ倉庫ノ内ニ其分頭ヲ輸入スルコトヲ為サズナリ、”

○第三十三章 勉業ノ事務ハ本業三個ノ種類ヲ包括ス、曰ク農業曰ク工業曰ク商業是ナリ、邦国ノ勉業上ノ等級ハ、此三業ノ善ク平均ニ開發現存スル状ヲ以テ其高下ヲ定ムルコトナリ、若シ三業中ノ或ル者、其開發ヲ妨ケラレテ、善ク伸張スルコト能ハザルトキハ、政治ノ体ハ為メニ困難ヲ受クルナリ、此ノ如キトキハ、此者一個ノ失費ニ依リテ他ノ者ノ利益ヲ得ルコトアリ、然レドモ邦国ハ固ヨリ一個ノ生活ニシテ、衆多ノ死体ノ聚合セル物ニ非ザレバ、社員ノ一人ハ、幸ニシテ是ニ由リテ難義ヲ受ケザルモ、社會ノ全体ハ、自ラ難義ヲ受ケザルベカラザルコトトナルナリ、

○第三十四章 邦国ヲ構造セル分子中ノ一個(二個人ヲイフ)ハ、何レモ相互ノ倚托ト相互ノ援助トヲ以テ目的トスル者ナリ、獸類ノ一羣

ハ一個獸ノ聚合ナリト雖ドモ、其羣ノ全体ヲ見ルニ、各異ノ分子ヨリ成ル者ニ非ズ、惟其一個獸ノ多数ニ聚マリタルノミナリ、盜賊ノ羣ノ如キモ、真正ナル構造ノ法式ニハ合ハザル者ナリ、惟兇暴無法ナル一個人ノ夥多聚合シテ盜賊ノ全体ヲ為シタル者ナリ、邦国ノ如キハ是ニ異ニシテ、其中ニ在ル人ハ、各異ノ職業ヲ有シ、又各異ノ獨人体ヲ有シ、人々何レモ邦国ノ全体ニ対シ、夫々ノ職務ヲ為スベキノ地位ヲ有セリ、故ニ其分ノ状態ノ殊異益々大ナルトキハ、邦国全体ノ結合益々堅固ナリ、国内ノ社員相互ニ職務ヲ以テ相助クルコトナク、惟他ノ国ノ社員ノ為メニ力ヲ出ストキハ、勉業上ニ於テ、其国ハ下等ノ地位ニ居ル者ト言ハザルコトヲ得ズ、

○第三十五章 古今ノ歴史ニ依リテ考フルニ、邦国ノ進長ハ皆内部ヨリ發スル者ナルコトヲ見タリ、国ト国ト相接スルトキハ、互ニ幸福ヲ交換シ衝衝ヲ相為スハ常ニ見ル所ナリ、然レドモ他国ヨリ受クル感化ハ或ル定限アリテ、夫ヨリ以上ハ却テ妨碍ヲ受ケ、又ハ国民ノ気性ヨリシテ、互ニ妬忌ヲ生シ、以テ害ヲ自国ニ被ラシムルコトアリ、此ノ如キコトハ、工藝文学言語法律政治学等諸歴史、及ヒ国民生活ノ上ニ於テ常ニ見ル所ナリ、

○人民生活ノ或ル図謀、人類改良ノ或ル計画ニ付キテ、帝王ノ威權ト、世界同視ノ兼愛トヲ主張スル者ハ、共ニ邦国ノ建立ハ、天命ヲ以テ成レル世界造成ノ一分ナルコトヲ知ラザル者ナレバ、其意見ハ常ニ誤謬

ニシテ又甚タ混雜ナル者ナルコトヲ知ルベシ、

### 第三篇

ウエルス  
ナチエール  
財貨及ヒ其性質

○第三十六章 吾儕ハ今進シテ「邦國ノ財貨ノ性質ト其原因」トヲ説クノ場合ニ至レリ、財貨ト云ヘル語ニハ二様ノ意味アリ、其一ハ「人類ガ其必要ト趣味トノ為メニ供給セル所有物ノ會聚」トイフコトニシテ、其二ハ「此ノ如キ物ノ甚タ多量」ナルヲ言フコトナリ、第一ノ語ハ民間常用ノ語ニシテ、財貨ハ、人類ノ性質ニ付キテ其勢力ヲ量ルノ尺度ナリ、第二ノ語ハ學問上ノ語ニシテ、中等ノ度ヨリ多ク伸張シタル勢力ヲ指ス者ナリ、

○財貨ノ語ト密ニ相結合セルハ價值ヴァリュートト云ヘル語ニシテ、此二語ハ互ニ反対ノ意義ヲ有セリ、故ニ財貨ヲ以テ人ノ性質ノ上ニ付テ其勢力ヲ量ルノ尺度ナリトスルトキハ、價值ハ人類ノ性質ノ勢力ヲ量ルノ尺度ナリト言フベシ、即チ財貨ヲ得ンガ為メニ努力スルトキハ、之ニ對シテ現ハル、所ノ抵抗ナリ、天造物ノ中ニテ或ハ何レノ地何レノ時ニモ發生シテ人類ノ消費ニ供スル者アリ、此ノ如キ物ハ、人類ニハ甚タ利益アリトイヘドモ、嘗テ價值ヲ有スルコトナシ、又水ノ如キモ、大都邑ノ用ニ供スルガ為メニ、其湧出汲取ノ場所ヲ變セシムルコトアリ、此ノ如キ物ハ其運送ノ費用ニ准シテ、其水ニ價值ヲ有スルナリ、又或ハ

其場所ヲ變スルノミナラズ、工作ノ力ニ依リテ其形体ヲ變ズルコトアリ、此ノ如キ時ハ其價值更ニ高シ、又或ハ其抵抗ヨリシテ、不足ヲ生スルコトアルトキハ、之ヲ或ル度ヨリ下ニ低落セシムルコト能ハズ、然ルトキハ其價值ハ更ニ昂貴スベシ、

○第三十七章 人ハ身体ノ所有者トシテ、造化ト緊密ナル關係ヲ有スル者ニシテ、其身体ハ有形界ノ一分ヲ為ス者ナリ、故ニ人ハ常ニ造化ノ供給ヲ要スルナリ、人ノ身体ハ代ル／＼耗損シ又回復シテ止ムコトナシ、運動ノ呼吸、知覺、消化、血液ノ運行、及ヒ思想ノ如キモ、皆身体ノ組織ヲ耗損スル者ナリ、若シ其耗損ヲ回復スルコト能ハザルトキハ、自然ニ消磨シテ死亡スルニ至ルナリ、

○其他又人ノ生活力ハ、或ル分量ノ動物熱アルニ由リテ増進スルコトヲ得ル者ナリ、此熱ハ内部ヨリノ供給ニ由リテ生スル者ニシテ、又外面ニ於テ、過度ノ光線（多クノ氣候ニ於テ）ヲ防クコト干盾ナカルベカラズ、

身体ヲ構造スル所ノ化成ノ物質ハ、殊ニ養氣（酸素 水素 炭素 窒素）輕氣（炭素 氮素）炭氣（炭素）淡氣（氮素）ヲ多シトス、初メノ二質ハ水ヲ造レル物ニシテ、全身百分中ノ七十五分ヲ領シ、尋常食物ニ於テ、百分中ノ八十三分ヲ領スル者ナリ、ベルゼリユース（ベルゼリユース）ハ曰フ、生活セル形体ハ、水中ニ散漫セル塊物トシテ之ヲ見ルベシト、

他ノ化学士ハ又戲言ヲ以テ之ヲ述ベテ曰ク、人ハ六桶（バケツト）ニ充滿セ

ル水中ニ五十斤ノ炭氣ト淡氣トヲ浮ベタル者ナリト、

糊<sup>スタ</sup>ハ尋常食物ニ於テ多量ノ元質ヲ為ス者ナリ、然ルニ此物ハ毫モ形体組織ノ中ニ入ルコトナシ、惟生活熱ヲ生スルカ為メニ、全ク肺臟中ニテ消費シ、炭酸トナリテ吐出スルナリ、

○第三十八章 是ニ由リテ見レバ物質ニ属セル人生ノ必須ハ食物ト衣服トニ在ルコト明カナリ、此二者ヲ求ムルガ為メニ発スル所ノ意端ハ、

人類ノ大ナル動作ヲ生スルニ至ルナリ、人類ノ腦ノ廣大シ、其交際ノ開張スルニ從ヒ、其他ノ物欲ハ身体ノ中ニ發生シ、意端ハ進ンデ行為トナル、然レドモ其中ニ於テ衣食ノ二者ノ何ノ人類ニモ行渡ラザル所ナシ、他ノ物欲ハ之ヲ好ムモ好マザルモ自由ナレドモ、衣食ノ二者ハ飢ト寒トニ逼ラル、ヲ以テ、止メント欲シテ止ムコト能ハズ、又他ノ物欲ハ安慰ノ為メ奢侈ノ為メニスル者多ケレドモ、衣食ノ二者ハ必須ニシテ、決シテ廢スベカラザル者ナリ、

○造化ノ三物（動植礦物）ハ同様ニ此要望ヲ充タシムル者ニ非ズ、人類ノ衣服食物ハ全ク動物植物ヨリ之ヲ得ルト云フモ可ナルベシ、（但シ此中ニ除了スベキ件アルハ明白ナルコトナリ）、動物ハ全ク植物ノ供養ヲ受クル者ニシテ、植物ハ動植質ノ多量ニ混合セル土壤<sup>ソイル</sup>ヨリ其供養ヲ受クルナリ、惟植物中ノ最下等ノ者ハ、或ハ礦物ノミヲ以テ自ラ養フ者アリ、

○第三十九章 余儕此地球ノ開發ノ傳説ヲ尋ネテ、植物、即チ土壤<sup>ソイル</sup>ノ

未タ其面ニ成立セザルノ前ニ及ブコトヲ得、其時ニ當リ、造化ノ大力、已ニ此土壤ヲ造成センガ為メニ其働ヲ為セリ、凍結ノ力、及ヒ其他ノ猛力、岩石中ニ侵入シ、岩石ノ大塊ヲ碎キテ、細末ナル沙ト為シ、岩石中ニ吸入セル水ハ、大寒ノ為メニ卒然ト膨張シ、以テ岩石ノ稜角ト平面トヲ磨消シ去レリ、

○植物ノ初メハ石<sup>リチエン</sup>耳<sup>モッス</sup>ト苔蘇トナリ、是等ノ物、初メテ岩石ノ面ニ其生ヲ托シ、徐々ニ其堅剛ノ石塊ヲ破碎シテ沙粒トナシ（石耳等ノ内ニ含蓄セル酸氣ノ力ニ由リテ）自身ノ衰落セル灰ヲ以テ之ニ混和シ、以テ其色ヲ染ム、是則チ此後ニ生スル較々高等ノ植物ノ為メニ準備セル最初ノ土壤ナリ、此ノ如ク植物ノ類連続生育シテ、其土壤ハ次第々々ニ深クシテ又肥沃トナレリ、

ゲーテハ進歩ノ法則ヲ論ジテ、各部分全体トノ差異、各部相互ノ差異ニ在リトセンガ（第三十章ヲ參看スベシ）オーケンハ更ニ大ナル彙類ヲ立テ、其開發ノ階級ヲ論ゼリ、先ツ最初ニ生スル者ハ「アコチレドンス」（石耳苔蘇ノ類）ナリ、是等ハ根ナク幹ナク皮ナク材ナク葉ナク種子ナシ、其次ニ生スル者ハ「モノコチレドンス」（草、百花、椰子ノ類）ナリ、是等ハ枝ナク、又真ノ葉ナケレドモ、木ノ如キ幹ト、脉管アル皮ヲ有セリ、然レドモ一種ニシテ此三者ヲ併有スル者アラズ、第三ニ生スル者ハ「ヂコチレドンス」（果木、材木等）ナリ、是等ハ以上ノ諸部ヲ一身ノ中ニ具有スル

者ナリ、

○此ノ如ク植物ノ連続シテ成長スルニ由リ、岩石ノ面ニ土壤ヲ造成スルコトハ、太平洋中ノ珊瑚島ニ於テモ亦見ル所ナリ、(少シク其趣ヲ異ニスレドモ)、其初メ珊瑚蟲ノ貝殻、海水ノ平面ノ上ニ岩石ノ壁ヲ現出スルニ及ビ、波浪ニ破碎セラレシ砂塵忽チ来リ聚マリ、其中ニ他ノ珊瑚ノ残片モ之ニ混合セリ、椰子ノ海水ニ漂ヘル者、此海濱ニ流レ着シ、遂ニ根ヲ此処ニ托ス、其葉ノ凋落セル者積ミテ新ナル土壤トナリ、其枝上ニ宿スル鳥ハ、其ノ植物ノ種子ヲ銜ミ来リ、是ニ由リ初メハ荒瘠ナリシ岩石ノ上ニ許多ノ草木ノ生長ヲ見ルニ至レリ、

○第四十章 植物ガ其成長ノ為メニ礦物ヨリ取ル所ノ養料ハ、獨リ其根ニ因リテ土壤ヨリ取ルノミニ非ズ、其葉ニ依リテ大氣中ヨリ取ル者モ亦多シ、若シ然ラザルトキハ、植物ノ根ノ達スル所ハ、土壤ノ深サヲ以テ限リトシ、夫ヨリ以下ハ成長スルコト能ハサルベシ、然ルニ西半球ノ曠野ニ於テ、土壤ノ深サ六尺ニ至ルヲ常トス、然レドモ植物ノ根ハ猶其生長ヲ増スコトアリ、植物ノ食料ニテ主要ナル者ハ大氣ノ元質ノ一個ナル炭酸<sup>○カルボニアツクサイド</sup>ナリ、此炭酸ハ上古ノ地質學時代ニ於テハ、其分量甚多ク、地面ノ植物ハ、是ノミニテ成長シタル者ナリ、最初地面ニ生シタル植物ハ、苔蘚<sup>モツスヘルン</sup>羊齒ノ類ニシテ、多量ノ炭酸ヲ吸収シ、迅速ニ成長シテ一時大ニ繁茂ヲ極メタリ、此植物ノ枯朽セル遺体ハ、無數ノ歲月ノ間ニ受タル重壓ニ依リ、現今人ノ知ル所ノ石炭ト為レリ、吾

儕此石炭ヲ以テ薪材トスルニ由リ、一旦之ヲ造ルガ為メニ大氣ヨリ給與シタル炭酸ノ少分ヲ再ヒ大氣ニ償還セリ、此ノ如クシテ上古ノ時繁茂シタル植物ノ体中ヨリ今日ノ新ナル植物ノ食料ヲ給備スルコトナルナリ、凡ソ此地面ノ上ニ於テ枯朽シタル所ノ物ハ、其実ハ決シテ消滅シタルニ非ズ、海中ニ沈没シタル者ノ外ハ決シテ消滅スル者アラズ、  
“大氣ハ巨大ナル受物ノ器ニシテ、万物ハ是ヨリ生シ、又此中ニ還歸スルナリ、故ニ大氣ハ植物ノ為メノ搖籃ニシテ、動物ノ為メノ柩棺ナリ、”(ドクトル、ドレーペル)

炭酸ハ化学ノ法ニ由リテ量ルトキハ、大氣中ノ千分ノ一ヲ領スル者ナリ、

○第四十一章 植物ノ葉ハ、動物ノ口ト肺トノ用ヲ為ス者ナリ、葉ノ面ヨリ多量ノ大氣ヲ吸ヒ、以テ其内ニ在ル炭酸ヲ飲ミ、之ト其材中ノ纖維ニ送ルナリ、若シ夏ノ初ニ於テ、悉ク植物ノ葉ヲ摘ミ取ルトキハ、其植物ハ窒息ト飢餓トニ由リテ枯死スベシ、植物ハ洪大ナル大氣ノ倉庫ヨリ其食物ヲ取り、大氣ハ又其亡失スル所ノ分ヲ、他ノ植物ノ枯死ト、動物ノ呼吸ト、木材石炭ガ薪トナリテノ費消トニ由リテ之ヲ償フコトヲ得ルナリ、若シ植物枯死スルトキハ、其百分一ノ小部分ハ再ヒ大氣ノ中ニ還リ、其大塊ハ土ニ歸シテ、初メハ土壤ヨリ取ル所ハ少ナカリシカドモ、今ハ土壤ニ其富ヲ加フルナリ、

○植物ガ養料ヲ取ルノ分量ヲ比較スルトキハ、大氣ヨリ取ル者大約十分

ノ九二居ルコトヲ經驗ニ由リテ之ヲ知りタリ、或時柳樹ノ重サ五斤ナル者ヲ箱ノ中ニ栽エ、善ク乾カシタル土壤重サ二百斤ヲ精密ニ量リテ、箱ノ中ニ入レ、塵沙等ノ入り来リテ土壤ノ分量ヲ變ゼンコトヲ慮リ、金類ノ板ヲ以テ其箱ヲ蓋ヒ、大氣ノ流通ノ為メニ其板ニ細小ナル穴ヲ多ク穿チ、之ヲ濕潤スルハ獨リ雨ノミニ頼レリ、數年ノ後ニ其樹ヲ抜き、其土ハ精密ニ聚拾シテ之ヲ乾カシ、後之ヲ量リシニ、柳樹ハ六十斤ノ重サトナリテ、土壤ハ僅八両ヲ減ズルニ過ギザリシナリ、

プロフエツソル フレーゼル氏余ニ語リテ曰ク、氏ガ賓西汪尼ニテ地質ヲ調査シタリシトキ、岩石ノ罅隙ニ柳樹ノ生スルヲ見タリ、其処ニハ少シモ土壤アルコトナク、惟絶エス水ノ灌注シテ此罅隙ヲ濕スノミナリト、

○第四十二章 故ニ土地ノ肥沃ハ人力ヲ以テ成シ得タル事實ニ非ズシテ、既往ノ大運動ニ由リテ之ヲ成シ得タル者ナリ、モシ人類現今ノ有様ヨリ更ニ大ナル要望ヲ生スルコトアルトキ、造化ハ其用ニ供スルコトヲ得ルダケノ準備ヲ為シ置クコトナリ、或ハ土地ノ一分、其用法ヲ悪クシテ其肥沃ヲ失フトキトイヘドモ、造化ハ猶之ヲ恢復センガ為メニ其力ヲ用フルナリ、故ニ東勿吉尼<sup>バイシニア</sup>ノ烟草田ノ如キハ、是ニ由リテ大ニ其地味ヲ悪クシタリトイヘドモ、其地ニハ自然ニ松杉叢生シ、其長キ直根ハ、其悪クシタル土壤ヨリ更ニ深く生長シ、礦物ノ在ル所ニ達シ、其葉ノ枯落シ其幹ノ腐敗シタル後ニ、其上面ノ土地ヲ肥沃ニスル

ナリ、又園圃家ガ種ウル<sup>クロベール</sup> 苜蓿ノ如キモ、同ジク造化ノ與ヘタル土性恢復ノ器械ニシテ、其根ヲ深く土壤ノ下層ニ達セシメ、全ク礦物ノミヲ以テ其養料ト為スナリ、

○第四十三章 土壤ハ既ニ言ヒタルガ如ク、礦物植物ノ混合セル者ナリ、礦物ハ其分量ハ至テ少ナシト雖ドモ、其要用ノ目的ニ對シテハ、少シモ不足アルコトナシ、礦物ハ土壤ヨリ下層ノ地ニ甚多シ、而シテ良善ナル土壤ニ於テハ、多ク珪<sup>シリシウスサンド</sup> 沙及ヒ粘土<sup>クレイ</sup>トナリテ発見スルナリ、礦物ノ第一ノ用ハ、土壤ニ氣孔ヲ通ゼシメ、又容収ノ能ヲ生セシム、植物ノ用ハ、土壤ヲ緻密ニ為シ、能ク保持スルニ堪ヘシム、此ニ物ノ常ニ過量ナルハ、其土壤ニ欠乏アルトキ、適宜ニ之ヲ分配センガ為ナリ、

○珪酸<sup>シレキス</sup>即チ沙ノ火石ハ、植物ノ体中ニハ骨骸トナリテ再現ス、穀物又ハ草類ノ莖ノ弱クシテ折レ易キ者モ珪酸<sup>シリカ</sup>ノ薄キ被覆ニ依リテ、種子ノ実ノル時トイヘドモ、猶直立ノ姿ヲ失ハズ、一埃<sup>エーケル</sup>加ノ小麥ニ大約九十三斤ヨリ百五十斤ノ珪酸ヲ包含ス、土壤ヨリ得ル所ノ果実又ハ種子ニ至リテハ、礦物ノ元質ヲ含有スルコト甚少ナシ、樹木ノ幹ト身トニ於テハ、礦物ノ分量較々多シ、其礦物ノ分量ノ尤モ多キハ葉ナリ、葉ハ即時ニ土壤ニ變化スルコトモアリ、又ハ一時獸畜ノ食物トナリテ後ニ土壤ニ變スルコトモアリ、樹木ノ葉ハ礦物ヲ含ムコト其身ヨリハ十五倍多シ、

○第四十四章 人類ノ頑固ニシテ遲鈍ナルヨリシテ、造化ノ仁惠アル

趣意ニ對シテ能ク其恩意ニ奉答スルコト能ハズ、土壤ノ肥沃ノ如キハ、永久ニシテ廣延ナルモ、猶之ヲ破壞シテ其性ヲ悪クスルコトハ、一ニシテ足ラズ、

(一) 輪轉シテ種植スルノ法ヲ行ハザルニ因ル、例ヘハ小麥ノ如キ畑草ノ如キ、其他此ノ如キ同一ノ植物ヲ年ニ同一ノ地ニ種植スルニ由リテ、土壤中ノ或ル同一ノ元質ヲ失ヒ去ルナリ、アルバニ亜巴尼ノ近旁ノ地ニ一時ハ一埃加ニ小麥五十五ブツセル<sup>「ブツセルハ一九四四年」</sup>穫シガ、現今其量大ニ減ジテ僅ニ二十五ブツセルニ過クルコトナシ、又輓近ノ内亂ニ於テ屢々戰爭アリシ諸地ノ如キハ畑草ノミヲ植ルニ由リテ大ニ其地力ヲ弱クセリ、總テ合衆國ノ南部ニテ奴隸ヲ使用シテ耕作スルノ土地ハ何レモ同一ノ惡結果ヲ得タリ、

○第四十四章 (二) 土壤ヨリ恒久ニ肥沃ノ原質ヲ奪ヒテ之ヲ回復スルコトヲ為ザルニ因ル、若シ、土壤ノ中ニ於テ植物ヲ養成スベキ元質中ノ一个ヲ失フトキハ、其成長ヲ妨クルコト、元質ノ全部ヲ失フト異ナルコトナシ、<sup>ポットス</sup>野外ヨリ十四頓ノ秣草ヲ刈リ去ルトキハ、是ニ由リテ其土壤ニ<sup>カス</sup>鱒沙二桶、<sup>ソーダ</sup>石灰二桶、<sup>カルボイ</sup>青塩二桶、<sup>デミチヨール</sup>綠礬一桶、<sup>カルボイ</sup>燐酸一糜大塊及ヒ其他ノ成分ヲ失フ、(學師ジョンストン)、

○凡ソ鳥獸ノ食物ニ必要ナル所ノ物質ハ土壤ノ肥沃ヲ保持スルニモ亦必要ナル者ナリ、是等ノ食物、動物ノ消化器ヲ通行スルノ際ニ於テ糜碎

シテ細末ナル分子トナリ、之ニ有機ノ元質ヲ加ヘテ其性肥膏トナル、此元質ハ動物ガ大氣中ヨリ取ル所ニシテ、食物ヨリハ淡氣ニ富メリ、英國ノ或ル地方ニ於テ、<sup>オイルカスク</sup>油餅及ヒ其他ノ高價ナル物ヲ以テ畜類ヲ飼フ、其目的ハ專ラ土地ヲ肥スニ在リ、此方法ニ由リテ、<sup>ランカシャー</sup>蘭加社ノ沼澤地ハ高等ナル肥沃ノ土地トナルコトヲ得タリ、

○故ニ土壤ノ產物ヲ以テ田圃ノ近旁ニ於テ之ヲ消費スルトキハ、其土壤ノ肥沃ヲ保持シ、又ハ其肥沃ヲ増加スルノ方術ヲ手中ニ掌握スル者ト云フベシ、若シ之ニ反シテ、其物產ヲ消費スルガ為メニ、之ヲ遠方ニ運送スルトキハ、土壤ノ肥沃ヲ恢復スルノ力ハ明ラカニ減卻スルトナルベシ、極メテ肥沃ノ土壤ナリト雖ドモ、若シ其所有者、其天造ノ產物ヲ以テ、或ハ陸ニ或ハ海ニ、遠隔ノ市場ニ運送スルトキハ、其土壤ハ、次第々々ニ枯衰スルニ至ルベシ、

○第四十六章 土壤ノ肥沃ヲ回復スルノ方法モ力モ此ノ如ク具備シ居レトモ、常ニ十分ニ之ヲ使用スルトイフハ甚タ罕ナルコトナリ、余ガ國ノ大都邑ニ在ル溝渠ハ何レモ多量ノ肥沃ノ料ヲ流シテ河ニ入り、其末ハ尽ク海ニ歸シテ肥沃ノ料ヲ亡失スルナリ、例ヘハ市加<sup>シカゴ</sup>俄府ノ如キハ其近旁ノ地ハ天然ニ瘠土ナリ、屠場ノ殘骨遺膏ニ富メルヲ以テ、此都府ハ、近旁ノ地ヲ十分ニ肥沃ニスルコトヲ得ルノ方術ヲ有スル者ト云フベシ、然ルニ莫大ノ費用ヲ以テ大ナル裝置ヲ為シ、此ノ如キ肥料ノ全額ヲ以テ<sup>イリノイス</sup>伊理奈河ト<sup>ミスシツ</sup>未西必失河ニ流シ、其末ヲ以テ<sup>アキシコ</sup>墨西

灣中ニ帰セシム、然ルニ一方ニ於テハ、此土工ヲ以テ剛膽ニシテ智慮アル者トシテ之ヲ稱賛セリ、比利時人ハ開化ノ人民中ニ於テ獨リ此法ベルヂユム(都府ノ肥料ヲ使用スルノ法)ノ要用ナルコトヲ能ク注目セリ、英吉利人ハ比利時人ノ所為ニ倣フベキコトヲ其國民ニ命令セリ、

○第四十七章 (三) 土地ノ肥沃ハ又樹木ヲ斬伐スルニ由リテ之ヲ

フコト多シ、蓋シ樹木ハ地ノ表面ニ降ル雨ノ分量ニ大ナル干係ヲ為ス者ナリ、高印度ノ或ル部ニ於テハ、樹木ヲ全ク斬伐セルヨリシテ井水ハ涸レ、雨ノ降ルコトナシ、是ニ由リ其土地ハ將ニ荒原ニ變ゼントスルノ状態ニ逼レリ、本若ノ地モ是ト殆ント同シ災運ニ遭ヘリ、英軍ガ其地ヲ取りシトキ、廣大ナル地面ニ一箇ノ樹木ヲモ見ザリシナリ、

此時モシ樹木ヲ植ルコトヲ始メテ其荒蕪ヲ防護セシニ非ザレバ、其地ハ忽チ沙漠トナリシナルベシ、(ヌビヤ) 弩比亞、(スベロ) 巴比倫ノ平原、猶太ノ地ハ、

古代ノ傳説ニ據レバ一時ハ甚タ肥沃ノ地ナリシガ如シ、然ルニ目今ハ樹木ヲ伐り尽シタルヲ以テ、悉ク瘠土トナレリ、歐羅巴人ガ、初メテウェルド 威尔的岬、(カナリ) 加那黎島、(セントヘレ) 三厄里那島ニ居ヲ定メシ頃ハ、是等ノ諸島ハ何レモ樹木多く、且ツ土地モ肥エタリ、然ルニ妄リニ樹木ヲ斬伐セシヨリ常ニ早魃ノ患アリ、是ニ由リ巨多ノ居民ヲ養フニ足ルベキ地力ハ尽ク消磨シ去レリ、(ロシアル) 法蘭西、(ロシアル) 倫巴多、及ヒ西班牙ノ大部ノ地味ノ漸々ニ瘦瘠セルハ、其原因ハ上ニ記セルト皆同一ノコトナリ、倫巴多ニ於テハ、其土質ハ輕鬆ニシテ碎キ易キ性ナルニ、樹木ヲ斬伐シタルヲ以

テ、其土壤ノ流レテポト 破河及ヒ其支流ニ入り、終ニアドリア 亞得亞海ニ歸スルノ勢ヲ促ガシタリ、是ニ依リテ此國ノ農業ニ甚シキ損害ヲ與ヘ、其損害ハ後來モ益々増進スルノ恐れアリ、天然ノ法則ニ於テ、樹木ノナキ所ハ、降雨ヲ中點ニ集メテ大ナル風雨ヲ起シ、適宜ニ湿润セル驟雨ヲ閉止スルニ至ル者ナリ、此ノ如キ土地ノ河川ハ、或ハ暴漲シ、或ハ涸渴シ常ニ適度ノ水量ヲ保ツコト能ハズ、ア 亞拉伯人ハ、早ク早魃ト樹木ノ無キトハ互ニ相依ル者ナルコトヲ注目シ、古代全国ニ通行セル法律ノ中ニ於テ此預防ヲ記載セル條目アリ、先知者及ヒ大教師等ガ他國ヲ征伐スルガ為メニ師ヲ出ス毎ニ、其大將ニ此事ヲ命ジ、若シ之ヲ用ヒザル者ハ背教ヲ以テ論スベシト言ヒテ之ヲ戒メタリ、

○第四十八章

此ノ如キ土壤ヲ壞惡ニスルノ行為ハ、皆政府ノ力ニ由リテ之ヲ抑制シ之ヲ改正スベキ者ナリ、一個人ノ利己ノ見ハ、其見ル所甚タ短シ、邦國ハ其土地ノ最上ノ所有者ナレバ、無益ニ地力ヲ費消スルコトヲ防禦スルニ十分ノ權利ヲ有セリ、政府ハ国土ノ所有者ナリ、但シ一個人ノ所有者トハ其所有ノ意味ヲ異ニセリ、凡ソ一個人ノ所有ニ適セザルノ地ハ邦國ノ財産ナリ、河川及ヒ国内ノ諸水、并ヒニ港澳漁場等ノ如キ是ナリ、

○殊ニ農人ト工人トヲ相隣並シテ住居セシムルコトト、土産ノ消費ヲ田圃ヨリ甚タ遠カラザルノ地ニ於テ之ヲ行フコトトハ、邦國政治ノ一疑問ナリ、其故ハ此事ハ一個人ノ力ノ能ク及ブ所ニ非ザレバナリ、

## 第四篇

### 人口學及ヒ其經濟

○第四十九章 吾等ノ行星上(地球ノ面)ノ生活物ノ進化ハ、初メニ植物、次テ動物(禽獸)ノ順序ヲ畢リ、遂ニ人類ノ發生ニ至レリ、是即チ社會學ノ題目ノ根元ナリ、凡ソ人類生出ノ以前ニ現ハレタル造化ノ大活動力ハ、全ク人類ニシテ此地上ニ住居スルニ適セシメ、又造化ガ人類ニ與ヘタル智力ヲ十分ニ働カシメシカ為メノ準備ナルガ如シ、土地ハ尽ク人類ノ手ニ賜與セラレ、大ニ人類ノ數ヲ増加シ、以テ土地ヲ服従スルコトノ命令ヲ受タリ、

○第五十章 土地ヲ服従シテ造化ノ万物ノ主人ト為ルコトハ、即チ余ガ前ニ述ベタル貧乏ヨリ富饒ニ還ルトイヘルト同シ意ニシテ、惟其言語ヲ易ヘタル者ナリ、而シテ造化ノ命令中ニ包含セルガ如ク、貧富ノ進遷ハ、人口ニ増加ニ從ヒテ都合ヨク行進セリ、社會ノ最初ノ階段ニ於テ、人類ハ惟其同儕ト互ニ相離レテ住居シ、造化ノ大勢力ヲ利用スルノ力足ラズ、是ヲ以テ其衣食常ニ窮乏ナリ、民ノ家室ハ処々ニ散在シ、其民族ハ單獨寂寞ノ姿ヲ為セルヲ以テ造化ノ援助ヲ得ルコト毎ニ不齊ナリ、其故ハ是等ノ民ガ造化ヲ得ル所ノ衣食ハ、大概ハ後効ナク又荒殘ニ類セル勞力ヲ以テ之ヲ取りタル物ニ過ギザレバナリ、最初ニ採リテ己ガ用ニ供シタル物ハ野獸禽鳥及ヒ林中ノ果実ノ類ナリ、其

後馴養スベキ家畜ノ皮ヲ剥ギテ衣服トナシ、其乳ト肉トヲ以テ食料トセリ、礦物ノ開掘、穀物及ヒ棉花ノ種植等ノコトハ、未ダ全ク之ヲ知ラザリシナリ、

○第五十一章 然ルニ人口ノ漸々増加スルニ從ヒ、土地ノ天然ノ物産ニテハ其生ヲ養フニ足ラズ、是ニ至リ、還リテ農業ニカヲ尽スノコト起ル、従前人民ノ僅少ナルガ為メ、土地ヲ管理スルコトヲ禁ゼラレシガ如ク見エタル者モ、今ハ人類ノ勉勵ヲ以テ造化ノ力ヲ使用スルコトヲ得、初メハ、野生ノ獸ヲ殺シテ食用ニ供セシノミナリシヲ、今ハ之ヲ養ヒ、或ハ耕耘シ、或ハ輓車ノ勞ニ服セシメ、初メハ山岡ノ腹ニ野生セシ草木モ、今ハ之ヲ育種スルコトヲ務メ、其種子ヲ擇ビ、養法ヲ改良シ、以テ食料衣料ノ量ヲ増加スルコトヲ得、岩石ノ上ニ落ル瀑布ト、無益ニ吹キ過クル風ノ如キハ、共ニ用ヒテ磨車ヲ動カサシメ、人ノ怠棄シタル泥炭石炭ハ共ニ採リテ薪材ノ料ニ供セリ、勞力ノ分配(即チ分業)ハ社會ノ夥伴ヲシテ、其職業ヲ區別セシメ、工事ノ分類セシヨリ、人々各個ノ業ニ十分ノ時間ト注意トヲ用フルヲ以テ、其事業ハ何レモ生産多ク成功著ルキコトヲ得タリ、器具ノ如キモ幾多ノ發明アリ、其最後ニ機器ノ創造アリテ、夫ヨリ生スル偉大ノ力ハ、尽ク人類ノ用ヲ為シ、以テ筋力ノ用ニ代リ、是ニ由リ必要ノ物品ハ其價低下シ、以テ多數ノ人民ヲシテ多量ニ之ヲ購求スルコトヲ得ベカラシム、

○第五十二章 人類ノ勉業ノ開發ノ初歩ニ於テハ、人口ト財貨トノ數、

共二同一ノ大步ヲ以テ進行セリ、是ニ於テ其衣食ノ方法ヲ得ルヨリハ、人口ノ増加ニ由リテ其不足ヲ感スルノ苦痛ヲ生セリ、然レドモ幸ニシテ、人々互ニ密接シテ其居ヲ定メ、交際ヲ為シテ相援助スルコトヲ知リシヨリ、其衣食ヲ得ル為メニ幾多ノ良法ヲ工夫シ出セリ、是ヨリ改革進歩ヲ為ス毎ニ、社會運動ノ迅速ノ力ニ由リテ、抵抗トナルベキ物ハ、漸々ニ減消スルヲ以テ、其效驗ヲ得ルコト甚タ多シ、人々皆自己一生ノ為メニ勞動スルノミナラズシテ、又其子孫ノ為メニモ之ヲ為セリ、而シテ其勞力ノ良善ナル結果ハ、其子孫タル者カ事業ヲ為スニ極メテ容易ニシテ、且ツ成功ヲ為シ易キノ利益アリ、他人ハ勞力セリ、爾ハ他人ノ勞力ノ中ニ入り込ミタリ、“(ヨハネによる福音書)四三八)

○第五十三章 故ニ國民ノ生命ト健全トヲ守リ護シ、人口ノ増盛ヲ妨クル事物ヲ除キ去ルコトハ道德ノ意見ヲ離レタル邦國ノ經濟政略ノ巧ナル者ナリ、己レノ生命ト身体トハ自己ニ防護スベシト命令スルコトハ、實ニ其權理ト相干係セル義務ナリ、然レドモ此見込ヨリシテ、軍事ノ剛健、勉業ノ幸福、國民ノ満足ニマデ及ボスコトハ良善ノ政府ナリ、凡ソ何レノ國民ニテモ、生産ノ為メニ土地ヲ能ク耕種スル者ハ、國民一個人ノ上ニ分配セル食物衣服其他必要安慰物ノ分量ハ必ず多數ナリ、又何レノ事由ヲ論ゼズ、總テ人口ヲ減少スルノコト、及ヒ國民ノ健全ト力量トヲ減ズルノコトハ、皆其交際ト援助トノ力ヲ減少スル

コトナルヲ以テ、必ス貧困ニ傾クノ理アル者ナリ、凡ソ古代ノ人口稀少ニ返ル者ハ即チ古代ノ貧乏ニ返ル者ナリ、

○第五十四章 然レドモ又左ノ問ヲ發スル者アラン、此事ニ政府ノ関渉スルハ如何ナル必要アリヤト、凡ソ人ノ胸中ニハ自身ヲ保守スルノ気性ヲ稟ケ居ル者ニシテ、是ニ由リテ常ニ吾身ノ事ニ深く注意スルナリ、此自身保守ノコトハ、我身一人ノ働ト、人々随意ノ援助トニ頼ラザルベカラズ、若シ我目前ニ危難ノ事現ハル、力、又ハ心ニ危難アラシコトヲ知ルトキハ、此気性ハ直チニ其力ヲ逞フスル者ナリ、然レドモ其危難隱伏シテ外ニ現ハレザルトキハ(實ニ其危難アレドモ)此気性ハ安穩ノ状ヲ保テリ、此ノ如キ場合ニ於テ、其危難ヲ免カレ安全ヲ保タントスルニハ、學問上ヨリ得タル生命ト健康トノ精密ナル知識ヲ以テ之ヲ回想前見シ、之ニ関セル準備ヲ為スニ非ザレハ能ハサルナリ、政府ハ良善ナル判断ヲ以テ其意見ヲ命令スルコトヲ得、其意見ハ全局ヲ通觀シテ之ヲ定ムル者ナルヲ以テ、人民ノ偏固ナル意見ニ勝ルコト遠シ、故ニ政府ノ行為ハ其全体上ノ利益ヲ為スコト多シ、政府ハ此ノ如キ事ヲ為スモ、敢テ人民自己ノ為メニ謀レル判断ヲ踏破スルニ非ズシテ、其判断ヲ助ケテ成功ヲ得シメタル者ナリ、人民ハ會議ノ外ハ自己ノ事ニ效驗ヲ得シムルコト能ハズ、然ルニ其會議ナル者モ亦法律ヲ以テ之ヲ堅固執行セシムルニ非ザレバ其実功ヲ奏スルコト能ハザルナリ”(潤土丟亞の彌爾)、故ニ英國ニ於テ新タニ法律ヲ立テ、磨

車場工作場ニ於テ、既ニ嫁シタル婦人ノ為メニ執業ノ時間ヲ定メタルガ如キハ、是等ノ種類ノ人民ノ為メニ助ヲ為シタル者ナリ、元來此ノ如キ婦人トイヘドモ、磨車ノ主人ト、自由ニ己ガ意ヲ以テ其約束ヲ定ムルヲ得ルコトナレドモ、事實ニ於テハ、過度ノ劳作ヲ禁スルノ法律アラザルノ間ハ、其自由ヲ享有スルコト能ハザリシナリ、

○其他ノ場合ニ於テモ、政府干渉ノ道理ハ、法律ト其基礎ヲ同フシテ、人民力自死スルヲ禁止シ又之ヲ預防スルニ在リ、今其窓前ニ糞堆ヲ置キ、窓下ニ汚溝ヲ貯ヘテ之ヲ除カントモセズ、又ハ塵埃充滿シ、或ハ大氣ノ流通悪キ家屋ニ住居スルノ民ハ、皆其人ノ無知ニ歸スルナリ、政府ノ職分ハ、此ノ如キ民ヲ強ヒテ、其自己ノ手ヨリ毒藥ヲ出スガ如キ所行ヲ改メシムルノ權理アリ、或ル場合於テハ、無知ニ非ズシテ此ノ如キ事ヲ為ス者アリ、セツフヒールドニ於テ刃ヲ磨スル工人ノ如キハ至テ高キ給料ヲ得ルナリ、其故ハ此工事ハ至テ危険ニシテ、十年或ハ十五年ノ間ニ多クハ禍害ニ罹ルコトアリ、然ルニ若シ其死亡ノ危険ヲ減セシメントスルノ方法ヲ言フ者アレバ、工人ハ之ガ為メニ其工價ノ減センコトヲ恐レ、力ヲ極メテ其說ニ抵抗スルナリ、<sup>短カ</sup>キ生命、欣喜ナル生命<sup>トイフ語</sup>「バーソロミュー・ロバート」**Bartholomew Roberts**の言葉<sup>ハ</sup>、此ノ如キ危険ヲ甘ズル人民ヲ言ヒタル者ナリ、

○第五十五章 然ルトキハ政府ナル者ハ国民每一個ノ生命ト健全トノ

保管者ナリ、政府ハ其職務ヲ尽スガ為メニ幾多ノ條目アリ、(一) 公共ノ淨潔ヲ勸メ、溝渠ノ開通ヲ利シ、旅人ノ為メニ良善ノ道路ヲ作ルコトニテ、是等ハ夫々ノ都府又ハ土地ヲ限りタル政治ニ由リテ之ヲ行フコトヲ得ベシ、(二) 傳染病ノ流行セル土地ヨリ來レル船舶及ヒ旅人共ニ檢疫消毒ノ法ヲ行フコト、(三) 傳染病ノ流行スルトキハ、預防ノ方法(淨潔ニスルコト、種痘スルコト等ノ類)ヲ行フコトヲ命ズルコト、(四) 醫術ヲ學フニ適當ナル学校ヲ免許シ、<sup>醫士ニ學位ヲ與ヘ、葬</sup>埋ノ前ニ於テ、死者ト其死ノ原因トノ証書ヲ記セシムルコト、(五) 不熟過熟腐敗混淆セル食物ヲ賣ルコトヲ禁ズルコト、(六) 婦人小兒ニ過度ノ勞力ヲ為サシムルコト、及ヒ工作場ニ於テ、是等ノ者ニ夜業ヲ為サシムルヲ禁ズルコト、(七) 危険ナル職業ト破裂シ易キ機器トハ、預ジメ工人ト公衆トノ安全ヲ料リタル上ニテ之ヲ許シ、常ニ政府ノ監督ヲ怠ルコトナカルベシ、

○今記スル所ハ国民ノ生命ト健全トノ害ヲ防ガンカ為メニ退守<sup>ネカチーフ</sup>ノ方法ヲ述ベタル者ナリ、更ニ同シ目的ヲ達セシメンガ為メニ、進取<sup>ホジチーフ</sup>ノ方法ヲモ述ヘザルベカラズ、其法ハ幼者ノ為メニ撰生ノ法ヲ公然教示スベシ、公共ノ浴場、園圃、体操場ヲ建築スベシ、都府ニハ必ス清淨ノ水ヲ多量ニ貯ヘ、以テ各家ニ供給スルコトヲ得シムベシ、

凡ソ免許ノ藥劑トイフ者ハ尽ク政府ニテ之ヲ免許スベキ者ナルカトイフコトハ一個ノ疑問ナリ、藥劑ナル者ハ大抵ハ疾病ノ或ル場合ニ

於テ功能アル者ナリ、然レドモ若シ適當ナル助言者ナク、無分別ニ之ヲ用フルトキハ、大ナル危害ヲ招クノ恐れアリ、其他又全く虚偽ヲ唱へ、善モ惡モ少シモ效能ナキ者モアリ、

○第五十六章 然ルニ以上ノ法案ニ抵抗セル總共ノ反對論アリテ、此題目ノ論說ノ大分ヲ占領セリ、其論ニ曰ク、凡ソ人口ノ増加ヲ破滅スルノ勢力ヲ妨ケ、其増加ヲ養成スルノ方法ハ、国民ノ利益ヲ為サズシテ、却テ其不幸ヲ促ガス者ナリ、若シ天下ニ二人口ノ増加ヲ防グノ勢カナキトキハ、国民ノ口數ハ、十五年毎ニ其數ヲ倍シ、其割合ハ幾何學ノ法ニ從ヒテ進ミ、此人口ヲ度活スル所ノ需要物ハ、僅カニ算術ノ割合ヲ以テ増加スルニ過ギザルナリ、故ニ二百年ノ間、全地球ヲ通觀シテ現今ノ人口ヲ十億ト為シ、他ニ其増加ヲ妨クル者ナキトキハ、其増加ノ割合ハ左ノ如クナルベシ、一、二、四、八、十六、三十二、六十四、百二十八、二百五十六ノ如シ、又其需要物ノ如キハ、一、二、三、四、五、六、七、八ノ割合ヲ以テ増加スベシ、故ニ二百年ノ間ニ、人口ハ二百五十六倍ヲ増シ、需要物ハ僅ニ九倍ヲ増シ、三百年間ニハ、人口ハ四千〇九十六倍ヲ増シ、需要物ハ僅ニ十三倍ヲ増スニ過ギズ、二千年ノ久シキニ至レバ、兩者ノ差違ハ殆ント算數スルコト能ハザルニ至ルベシ(レビニューチーアルマルサス)、

馬尔素ノ エッセイ オフ ポピュレーションハ、千七百九十八年ニ發行セリ、馬氏ノ主義ハ是ヨリ先キヘルレンシワンド(蓋シ法

國人)既ニ之ヲ言ヘリ、(千七百八十六年ニ發行セル同人ノ著書、然レドモ廣ク世ニ行ハレシハ馬氏ノ説ヲ多シトス、初メテ馬氏ノ説ヲ駁セシハゴットウ井ンナリ(其著書ホリチカルジヤスチスニ於テ)、是ヨリサツドレル、アリソン、ドウフルデイ、セニオ、クエテレットノ諸家出テ、交々之ヲ攻撃セリ、英國ニ於テ最後ニ馬氏ノ説ヲ駁セシハ恰巴の斯邊撒ト俱勒格トナリ、俱氏曰ク、馬氏ノ説ハ、理財ニ著名ナル學士多ク之ヲ信用セリ、又曰ク、馬氏ノ説ヲ疑問シ、又ハ之ヲ攻撃スル學士多キモ、未タ衆人ノ心中ノ凝結ヲ破碎スルカヲ具ヘタル者ナシ、又曰ク教育ヲ受タル人ノ中ニモ猶堅固ニ其説ヲ信ズル者多シ、

○第五十七章 若シ馬氏ノ意見ヲ以テ正當ナリトスルトキハ、国民ノ幸福ヲ得ルハ、人口ノ増盛ニ非ズシテ、反ツテ其増加ヲ防遏スルノ效能ナリト言ハサルベカラズ、其防遏ニ二法アリ、(一)ハ定在法ニシテ戦争飢饉流行病ノ如キ是ナリ、(二)ハ防禦法ニシテ、男女ノ穢行、又ハ自ラ好シテ獨身ヲ守ルガ如キ者是ナリ、馬尔素及ヒ其門人ガ其理論ヨリ推度シタル實際論ニ據レバ、政府タル者ハ人民ノ自由ヲ妨グルコトナク、其為サント欲スル所ニ任セテ人口ノ増加ヲ防ガザルベカラズト言ヘリ、此説ハ氏ノ貧窮ヲ以テ人口過多ノ結果ナリト考ヘタル者ナレバ、總テ公私ヲ問ハズ、貧民ノ為メニ防備ヲ為スノ説ニ反對シタル者ナリ、又其貧窮ハ其注意疎漏ニシテ、自ラ放縱スルノ応報ニシテ、

又上帝ノ法則ヲ破ル者(貧民ヲ指ス)ト、上帝ノ責罰トノ間ニ無益ノ干渉ヲ為スノ應報ナリト考ヘタル者ナリ、若シ貧民ノ為メニ防備ヲ為サント欲セバ、貧民ノ種類ノ増加セザル方法ヲ立ツルヲ以テ必要トスベシ、此論ヲ主張スル者ハ、公衆ヲシテ此題目ニ付テ、強ク其意見ヲ起サシメ、又貧富ノ別ナク、総テ国民ノ間ニ此説ヲ弘メンコトヲ望メリ、ジヨン スチユアート ミルモ亦物産ヲ生スル大家ノ、過酒或ハ其他ノ体欲ノ過度ニ付キテハ、同様ノ感覺アルコトヲ述ベタリ、

○以上ノ理論ヨリシテ又一個ノ推度ヲ生セリ、即チ工錢ノ至テ高キハ甚タ喜フベキコトニ非ズトイフ是ナリ、其故ハモシ工人過多ノ工錢ヲ得ルトキハ、自然ニ後來ヲ慮ルノ念ヲ亡失スレバナリ、又工錢ノ値大ニ増ストキハ、勞力ヲ為スノ市場ハ忽チ充滿シ、是ニ由リテ工錢ハ再び其天然ノ値ヨリ下リテ工人ハ皆其苦ヲ受クベシ、故ニ工錢ノ高キハ偶然一時ノコトタラザルベカラズ、若シ工錢ノ高キニ慣ルレバ、其後ハ我身ヲ制スルノ力ヲ失ヒ、終ニハ其不幸貧窮ヲ増加スルニ至ルベシ、

○第五十八章 此理論(馬尔素ノ論)ハ英国及ヒ其他ノ諸国ニ行ハレ、皆人民ノ困窮スルハ、歐羅巴ノ諸国ニ住民ノ過多ナルニ出ル者ニシテ、善ク之ヲ鮮明セル名論ナリトセリ、此理論ハ敢テ政治社會ノ上ニ立ツ主張ヲ誹議スルコトナク、又貧民ヲ處置スル方法ニ付キテ其失計ヲ責ルコトナシ、然レドモ他ノ主義ヲ持スルノ人ニシテ、亦真実ニ此 理論ヲ喜ブ人アリ、カルメルス及ヒ少ミルノ如キハ常ニ社會ノ

上進ト国民ノ幸福トヲ求メンガ為ニ心ヲ勞シタル人ナレドモ、亦馬尔素ノ説ヲ採ルコトアリ、

○第五十九章 馬尔素及ヒ其最初ノ門人ハ、人口ノ増加、需要物ノ數ニ超過スルトキハ、国民ノ幸福ノ為メニ甚シキ妨碍ヲ為ス者ナリト云フコトヲ主張シテ止マザリシナリ、馬氏ノ著書ノエッセイ オフ ポピユレーションハ數々改版セシガ、其中或ハ反抗論者ヲ攻撃スルノ声音稍低キ者アリシカドモ、最後ノ出版ニ至リテハ、猶馬氏ガ本来ノ論旨ヲ執リテ少シモ變セザリシナリ、馬氏實ニ其意ノ如クナランコトヲ望マバ、社會ノ教育ト知識ト其度ヲ進メ、世人尽ク馬氏ノ書ヲ讀ミ、其義ヲ了得シ、自ラ好シテ人口ノ増加ヲ防ガントスルノ意ヲ發スルノ後ニ非ザレバ、其説ヲ実行スルコトハ能ハザルベシ、(馬氏自ラ十一人ノ子ヲ設ケタリトノコトハ、ドシスモンヂ、余ニ語レリ)、マツクローフ又謂ヘラク、「人類ガ其數ヲ増加スルノ力ハ、需要物ノ増加ニ超越ストイフ原理ハ、永年ノ間ニ於テ之ヲ試験スルニ非ザレバ決スルコト能ハザルナリト、葱米斯彌爾ハ言フ「国民ノ貧窮ニ陥ル原因ニ付キテハ左ノ二説アリ、其一ハ人口ノ増加ハ**カピタル**增加ニ比スレハ其度甚々速ナリ、其二ハ財本ノ増加ハ他ニ之ヲ妨碍スル者アリテ、其天然ノ力ニ從ヒテ増加スルコト能ハズ、国民ノ貧乏ハ必ス此二者中ノ一個ニ在ルベシ、弥爾氏ハ此中ノ後説ヲ黜ケ、前説ヲ以テ其事實ニ適当セリトス、其言ニ曰ク、「人口ノ増加何程徐緩ナリトイフトモ、財本ノ増加ハ更ニ

徐緩ナリ、故ヲ以テ工錢ハ甚タ低下シ、国民ノ或ル部分ハ衣食足ラズシテ死亡ニ至ルガ如キ者アリ、

○第六十章 馬氏ノ門人ノ中ニ於テモ、其後ニ出タル者ハ、全ク其師ト反對ノ意見ヲ懷クニ至レリ、例ヘハ需要物ノ増加ハ、人口ノ増加ヲ妨クル者ナリト言フガ如シ、大教長ウエートリイ准多利ハ此反對セル兩説ニ付キ、其説ヲ為シテ、此二説ハ恰モ求心力離心力ノ反對ノ二力アリテ、地球ヲ同一ノ軌道ノ中ニ保ツガ如シト、因テ謂ヘラク、余等ノ人口ハ此五百年ノ間ニ大ニ増加セリ、然レドモ需要物ガ此五百年ノ間ニ増加シタル割合ハ、大ニ人口ニ及ハザルナリ、塞尼阿セニオルモ亦同様ノ見込ヲ以テ其説ヲ述ベテ曰ク、「余人口増加ノ現実ノ力ハ、需用物ノ増加ヲ壓スルコトヲ信ゼリ、余ハ通例ノ意見ヲ拒否セリ、余ハ之ニ反對スルノ意見ヲ信ゼリ、」然レドモ塞尼阿又言ヘルコトアリ、「歐羅巴ノ小部分ニ人口ノ少キ国アレドモ、其国必シモ他国ヨリ富メリト云フコト能ハズ、此後或ル方法ヲ設ケテ、人口ノ増加ヲ防ギタリトモ、是ニ依リテ其国ノ富ヲ致ストイフコトハ、能ハザルコトナルベシ、

○第六十一章 潤土丟垂的彌爾ハ、此題目ニ付キテ英国ノ學士ノ諸説ヲ尽ク蒐メテ之ヲ出セリ、弥爾ハ因テ謂ヘラク、馬爾素ノ述ブル所ノ意見ハ、此疑問ニ付キテノ堅固ナル元質ナリ、其他ノ説ハ大抵不堅固ニシテ変化シ易キ者ナリ、故ニ其抵抗者ノ説ニハ、一モ馬氏ノ説ヲ打破シテ望ナキニ至ラシムベキノ確論アルコトナシ、若シ社會ノ全体真

ニ光明ナルニ至ルトキハ、必ズ人々自ラ制御シテ不幸危難ノ傾ニ至ルヲ防禦スルニハ十分ノ成効ヲ奏スルコトナルベシ、人類開化ノ上進トイフ者ハ、人ノ高等ノ性質、其下等ノ性質ニ打勝ツニ由リテ之ヲ得ル者ナリ、人類ハ此事ニ付キ、其未來ノ成果ハ之ヲ自己ノ掌中ニ有セリ、若シ人々此事実ノ干係如何ンヲ知ルトキハ、自己ノ智ヲ以テ能ク自身ヲ制馭スルコトヲ得ベシ、社會道德家ハ此事ニ付キテ異説ヲ述ベタリ、曰ク、高等ノ性質アル人ガ、是ニ付キテ常ニ勝利ヲ得ルト云フハ、彌爾氏ガ言フ如キ自ラ抑制スルコトヲ為シ得ベキ人ノミ能ク之ニ勝ツコトヲ得ベシ、此如キ人ハ是ニ由リ、或ル吝嗇又ハ利己ニ陥ルノ患アリト、欧州大陸ノ中ニテ或ル国ノ制法規律ハミルガ之ヲ賞揚スル所ナリ、夫等ノ国ニ於テ、哲學者ノ為セル獨居生活ノ法ハ其教義ノ如何ニ関セズ、不幸ニモ社會ノ公衆ノ為メニハ降辱落下ニ赴クノ道路トナルナリ、○然レドモ余儕ハ狹隘ナル經濟學ノ界域ノ内ト、ミルガ皮相ノ見トニ據リテ定論ヲ立ツルコトヲ欲セズ、此事ニ付キテ天然ノ法則ノ存スルコトアルヲ以テ、才學ノ士喋々トシテ己ガ説ノ適當ナルヲ説クトイヘドモ、世間ノ公衆ハ、竟ニ其説ヲ信ジテ之ニ從フ者アルコトナシ、然レドモ彌爾ガ言フ如ク、社會ノ實際ニ就キテ其現状ノ如何ンヲ見テ、之ヲ彼理論ニ比較スルトキハ、其理論ハ遂ニ其自説ヲ防守シ能ハザルベシ、「社會ノ實際ヨリ見ルトキハ、此事ニ付キ、法則ナシトイフコトハ之ヲ証定スルコト能ハズ、惟或ル反對ノ原理アリテ法則ニ反對スルノ

方法ヲ作ルノ用ヲ為スベシトイフコトハ之ヲ証定スベキコトヲ得ベキ者ナリ、彼(盖シ馬爾索)ハ物料ノ開進マテリアルシヲ以テ破格即チ反對ノ原理ト為ス、即チ人類ノ力ノ成長シテ天造物及ヒ其利益ニ越ユルヲ言フナリ、彼ハ物料ノ開進歩ヲ以テ破格ナリト言フトイヘドモ、是則チ法則ナリ、貧窮ニ赴クヲ以テ法則ナリト言フトイヘドモ、是則チ徒然タル破格ナリ、此点ニ付テ同シ英國人ノ中ニモ、本題ヲ主張スル者(貧窮ニ赴クヲ以テ法則トスル者)ト、今此処ニ於テ論説スル者(開進歩ヲ以テ法則トスル者)トハ其思想ノ根原ニ於テ大ナル差異アリ、乙ノ論者ガ、人類ノ未來ヲ以テ甚タ望ミアル者ト考ヘ、益々其道筋ニ從ヒテ上進シ、其界限底止スル所ヲ知ラザル者ナリト前見セリ、甲ノ論者ハ、未來ヲ以テ望ナキ者ト考ヘ、然ラザルモ甚タ暗昧夢中ノ如キ者ナリトシ、造化ノ力ハ竟ニ人類ヲシテ貧窮ニ陥ラシメ、又之ヲ廢滅セシメントスル者ナリト前見セリ、

○第六十二章 馬氏ノ理論ハ古來ノ実験ニ徴スルニ頗ル其信シ難キヲ覺ユ、人口ヲ以テ需要物ヲ壓スルト云フコトハ、人口ノ最モ寡少ナル時代ト、其場所トニ限レル特別ノ状態ニシテ、人口稠密ナル時ニ於テ見ルベキコトニ非ズ、マスターマツコルロック言ヘリ「若シ上ノ如キ理論ヲ主持スル人アラバ、其人ハ英國及ヒ欧州全部ノ五百年又ハ八千年以前ノ状態ヲ以テ、今日ニ比較シテ見ルベシ、然ルトキハ其驚クベキ進歩ヲ見テ、己カ説ノ非ナルヲ悟ルベシ、此五百年或ハ千年ノ間ニ於

テ、需要物ノ増加ハ却テ人口ノ増加ニ勝リ、勞力社會ノ徒ノ如キハ、一般ニ相応ノ財産ヲ有シ、往昔富裕ノ大族ニテモ為スコトヲ得ザルノ奢侈ヲ為スニ至レリ、」

○其至極ノ例トシテ比利時ノコトヲ援引スベシ、此國ノ發蘭德州ハ、土壤ハ甚タ狭クシテ其人口ノ稠密ナルコトハ全世界ニ冠タリ、大ナル工業及ヒ盛ナル農業ヲ営ムコト能ハザレドモ、其人民ノ快安ノ度ハ至テ高ク、更ニ猶増進スルノ勢アリ、スイス端西ハ其人口ノ稠密ナルト、国民全体ニ快安ヲ得ルノ度トハ此弗勒美州ニ次ゲリ、歐羅巴ノ人口今日ニ二倍スルモ、其土壤ハ以テ其人民ヲ養フニ足ラザルノ患ナカルベシ、今歐羅巴ノ土壤ノ中ニテ、其三分ノ一ヲ以テ耕種ニ適セズトシテ、之ヲ除キ去リ、其三分ノ二ヲ以テ每人ニ二埃加エタクルヲ配当スルコトハ、八億人二分ツコトヲ得ベシ、即チ現今歐洲人口ノ三倍ナリ、併シ蘇黎ノ如キハ一人ニシテ一埃加ト四分ノ一ヲ所有セリ、

比利時ハ一方里ニ人口四百四十二ニシテ其發蘭德州ハ一千八百ナリ、端西ノ四州ハ其中數ハ殆ンド比利時ニ近シ、即チ巴悉バセルハ四百二十、アルゴビエ亞尔疴ハ三百九十八、トルゴビエ獨尔疴ハ三百六十八、シユリック蘇黎ハ三百六十五ナリ、又倫巴多ハ三百七十、アインザンビ英倫及ヒ威爾斯ハ三百五十、荷蘭ハ三百、伊大利ハ二百二十五、法蘭西日耳曼阿爾蘭ハ一百八十、奧地利ハ一百六十四、端西ハ一百五十七、西班牙ハ九十、歐羅巴士尔其ハ七十六、魯西亜ハ三十、瑞典ハ二十二ナリ、

○亜細亞ハ人民發生ノ最初ノ地ナルコトハ普通ノ説ナリ、然ルトキハ(或ル土地ニ於テハ)最モ年久シキ間、人口ノ次第二増加セルヲ以テ殊ニ悲愴ノ状ヲ現ハスベキノ理ナリ、然ルニ亜細亞ノ人口ハ歐羅巴ニ比スレバ、其稠密ノ度ハ三分ノ一二過ギズ、亜細亞ノ中ニテ殊ニ人口ノ衆多ナル地、即チ印度ノ如キハ却テ此多數ノ人口ニ給スルノ需要物ニ富メリ、

支那ノ人口ノ多少ニ付キテハ、此国ノ其他ノ傳説ト同ジク甚タ信用シ難シ、千八百六十四年ノ民籍ニ依レバ、方一里ニ付キ二百六十人ト記スレドモ、其統計表モ亦信ヲ置クニ足ラズ、千八百十二年ノ民籍ニ依レバ方一里ニ付キ二百八十三人トナルナリ、

オーストラリア  
亜米利加亜弗利加塊 大和ハ其人口甚タ稀薄ナリ、是等ノ諸国ハ需用物ノ數能ク其人口ヲ養フニ足ルベキヤ否ハ、未タ之ヲ算定スルノ方法ヲ得ザルナリ、

○第六十三章 現今実ニ既ニ開墾セル土壤ハ、農學ノ進歩今日ノ度ニ至ルトイヘドモ、其全地面ニ比スレバ、其割合ハ甚少ナキヲ見ル、英國ニ於テ小麦ノ生産ノ中數ハ一埃加ニ二十六ブツセルナリ、然レドモ若シ五十七又ハ六十ブツセルノ生産アルトキハ、他国ヨリ麵包料ノ為メニ四分ノ一ノ輸入ヲ仰クコトハ甚タ無益ノコトトナルナリ、英國ノ中ニテ、學問上ヨリ為シタル耕種ノ地ハ甚タ僅小ナリ、千八百七十三年ノ官府ノ報告ニ據ルニ、全国ノ地面ハ七百五十万埃加アリテ、其沃

土ノ半分以上ハ未タ開墾ニ及バザリシトアリ、セニオル塞尼阿ハ謂ヘラク、百年以來、食物ノ生産四倍ヲ増シ、千八百三十五年以來ハ、殆ンド十倍ヲ増シタリ、土性ノ甚タ瘠タル地トイヘドモ、農業化学ノ熟練ニ由リテ、變シテ沃土ト為スコトヲ得タリト、故ニハクスタブル謂フ、白堊ノ原野ニテ惟牧羊ニノミ適セル地ニテモ、二年ノ間ニ一埃加ノ地ヨリ、蕪菁二十五噸ヲ産出セリ、是ヲ為スニ、沃土ニ些少ノ收納ヲ求ムルヨリモ少数ノ費用ヲ以テ之ヲ得タリト、

○此ノ如キ良善ナル方法ハ、人口稠密ニシテ、互ニ援助スルニ易ク、人心皆進取ノ氣ヲ提起シタル時代ニ於テノミ之ヲ得ベキコトナリ、

大比利敦ノ地面ハ五千六百八十一万五千三百五十三埃加アリ、其中既ニ開墾セル者ハ三千一百十万二千六百埃加ニ過ギズ、其二百八十一万一千零七十八埃加ハ材木ヲ得ル為ノ森林又ハ畋獵ノ地トナシ、殘餘ノ二千三百五十二万五千六百七十五埃加ハ猶天然ノ俛ニアリ、此中ニテ威爾斯ハ大約二百萬埃加、英倫ハ大約七百五十萬埃加ニシテ、其余ハ蘇格蘭ナリ、此国ノ北部ト西南部ハ殊ニ山岳多シ、其沃土ノ中ニ於テ百分ノ十八ハ既ク開墾セリ、スカンヂナグヅ井斯干的那維ノ諸国ハ其外面ノ地勢ハ蘇格蘭ト相比スベシ、スウェーデン歐羅巴ノ諸国中、其統計ノ確實ナル国ヲ以テ視ルニ、未タ其土地ヲ自然ニ放棄スルコト此国(斯干的那維)ノ如キ者アラズ、ヴェルデンベルグ澳地利ハ百分ノ八ヲ開墾シ、バウアリア巴威畧ハ百分ノ大半、ヴェルデンベルグ威敦堡ハ五分弱ヲ開墾セリ、

○第六十四章 文明国ノ古代ノ記録、及ヒ現今ノ野蠻国ノ状態ヲ見

ルニ、常ニ平時ノ貧乏、屢次ノ飢饉、連続ノ疾病ニ逢ハザルハナシ、  
薩越(サクン)ノ古史及ヒ中古ノ史家ノ記スル所ヲ見ルニ、此国ニ八年々同様  
ナル飢饉ノ禍アリ、英国ノ如キモ亦欧州諸国ト同一ニ此災ヲ受ケタリ、  
其後人口増加シ、或ハ三倍或ハ四倍トナルニ及ヒ、瑞典波斯ノ如キ人  
口稀少ナル国ノ外ハ、復旧時ノ如キ飢饉ノ事ヲ聞クコト罕ナリ、若シ  
飢饉ノ禍アリト聞カバ、其原因ハ旱魃カ又ハ先見シ難キ災難ニ在リ、  
其他又其人民ノ荒廢スルハ、其国人經濟学ノ理ニ達セズ、巨多ノ人民  
ヲ一個ノ地ニ聚合シ、以テ单一ナル食料ニ倚頼スルニ由ルコトニシテ、  
若シ不幸ニシテ其倚頼セル食物ヲ獲ルコト能ハザルトキハ、其人民ハ  
悉ク飢餓ニ陥ルノ患アリ、然レドモ此ノ如キハ未開ナル社會ノ常態ニ  
シテ、勉業ノ已ニ開發セル社會ハ其物産ノ増加ト人口ノ増加ト相伴フ  
ヲ以テ、此ノ如キ禍患ニ逢フコトナシ、「アル蘭ノ如キハ貧乏ニシテ人  
口甚多キ国ナレドモ、人口八百万ヲ有スルトキ(千八百二十九年)ヲ  
以テ、古代ノ人口稀少ニシテ、惟獵獸捕魚ヲ業トスル民ノミアリシ時  
ニ比スレバ、其需用物ノ欠乏ハ反テ甚タ少ナキヲ見ルナリ、」吾等ノ本  
国(北米合衆国)ノ如キモ、最初欧州ヨリ来リシ移民ノ大分ハ飢餓等  
ノ為メニ死亡シ、其植民地ハ一旦破滅セリ、其故ハ民數稀少ニシテ相  
援助スルノ力ニ乏シカリシヲ以テ、竟ニ氣候風土ノ侵襲ニ抵抗スルコ  
ト能ハザリシナリ、其後ニ生レタル者ハ、其生命ヲ保全センガ為メニ

患難辛苦ニ耐ヘ忍ブコト年久シカリシナリ、人口ノ増加スルニ從ヒ、  
飢饉ハ減少シ、今ヨリ百年前ニ至リシ比ハ、二三百万ノ人民ハ衣食ノ  
供給ニ不足ヲ告グルコトナカリシナリ、是等ノ土地ハ往昔白人ノ未タ  
来ラザルノ前ハ、僅ニ四万許ノ印甸土蕃ヲ養フニ過キザリシ所ナリ、  
今日ニ至リテハ、此同一ナル地面ノ上ニ猶幾多ノ人口ヲ増加シ此人民  
ニ給スル所ノ需用物ハ古代ヨリ益々豊饒ナルニ至レリ、

○「土地ヨリ産スル天造物ヲ進長スル方ニ向クルコトト、其居民ノ企謀  
ノ精神ヲ喚起スルコトト、相互ノ援助ノ繩索ヲ以テ共通ノ利益ヲ結合  
スルコトトハ、其方法ノ如何ニ管セズ、何レモ飢饉ノ災禍ヲ輕クス  
ルニ足ル者ナリ、此全論ハ惟四語ヲ以テ之ヲ尽スコトヲ得ベシ、曰ク  
光明ナル政治ト現今ノ開化ト是ナリ、此四語ハ飢饉ノ為メニ单一ノ方  
劑ナリ、若シ此四語全ク成立スルトキハ、縦令食物遺乏スルコトアル  
モ、人民ヲ勦絶スルガ如キコトナシ、又此四語成立セザルトキハ、政  
府ニテ非常ノ尽力ヲ以テ或ハ之ヲ輕減スルコトヲ得ベキモ全ク之ヲ避  
クルコトハ能ハザルナリ」(翰他ノアンナルスオフルーラルベンガ  
ル)、

○第六十五章 歴史ニ據リテ按スルニ、古代ヨリ其国ノ人口大ニ減少  
スルコトアルトキハ、馬尔索ノ固定防禦法ノ主意ニハ適フベキモ、其  
実ハ甚タ危殆ノ運ニ陥リタルナリ、ヂュロウ、ド、ラ、マユエ及ヒザ  
ムプトガ考究スル所ニ據レバ、左ノ事件ハスコラルスガ一般ニ論定シ

テ誤謬ナキコトトセル者ナリ、曰フ、羅馬帝国ガ夷狄ノ為メニ滅ボサレタル主要ナル原因（此原因ノミニ限リタルニハ非ズ）ハ、其人口ノ大ニ減少シタルニ在リ、希臘ガ衰亡シタルハ、波斯トノ戦争ノ時ヨリ、其人口ノ大ニ減ジタルニ由レリ、又伊大利ノ如キモ加達額トノ戦ヨリ（カレタゴ）其人口大ニ減少セリ、伊大利ノ自由ノ民（シスアルピン）ガウルヲ除キ）ハ此比ハ大約三百〔万〕人アリ、其人口ノ大ニ減ジタルハ、ジヤストリユームリベロリユムノ法律ヲ作りタルヲ以テ之ヲ知ルベシ、此法律ハ婚嫁セル者ニ利益ヲ與ヘテ、獨身生活スル者ヲ落膽セシムルノ法ナリ、センソルメテルリユスガ婚姻ハ快樂ナラザル人ノ為メノ義務ナリトイフコトヲ演説シ、其後奥古士都愷撒ノ議政官再ヒ之ヲ誦読シ、更ニ之ガ為メニ幾條ノ法律ヲ發行シタレドモ、竟ニ永続セザリシナリ、アントニアス亜多尼約ノ大飢饉ト大疫疾トハ羅馬帝国ノ破壊ヲ為シタリト云フコトハ、當時ノ疑問ナリ、基督教ノ弘行スルヨリ、公衆ノ道德ヲ恢復シ、一家ノ生活ヲ清淨ニスルコトヲ希待セシニ、獨居ヲ以テ教法上ノ美德ト為シ、ヨリ、此希待ハ遂ニ画餅ニ帰スルコトトナリタリ、最後ニ至リ「羅馬ハ人ノ缺亡ニ由リテ滅亡セリ、」

シレー施黎ノローマンイムベリアリズムヲ看ルベシ、プロレタリアトトイフハ、羅馬ノ人民中ノ最下ノ種族ニ與ヘタル名ナリ、此種族ハ最モ怠惰ニ安ズルノ民ナレドモ、其子ヲ生ムニ及ンデ、較々其強力ヲ發スル者ナリ、

○「羅馬ノ諸州郡ガ安多尼約ノ時ヨリ甚シク其人口ヲ減ゼシコトハ馬ル索ノ臆説ヨリ見レバ甚タ奇異ナリトスル所ナリ、羅馬ノ隆盛ノ時ハ、カレタゴ亞弗利加ノ北部ハ殊ニ人口繁庶ニシテ、小亜細亞、叙利亞ノ如キモ、其人口亦甚タ多カリシナリ、メリヴェールノ説ニ依ルニ、小亜細亞ノ地ハ、一時ハ二千七百万ノ人口アリ、マツコロフノ説ニ從ヘバ、現今小亜細亞ノ人口ハ其四分ノ一ニ過ギズト、然レドモ今日此地ノ氣候不良トナリ、土性礪瘠トナリタルニ非ザルナリ」（グレック格勒克）

○以上記スル所ノ諸説ハ皆防禦法（馬爾索ノ説）ノ勢力アル効能ヲ見ルニ足ルベキ者ナリ、凡ソ吾儕ガ社會ノ廢滅セントスル大害ヲ恐ルハ、人口ノ増長ヨリハ、寧ロ防禁法ノ増長ニ赴クノ時ニ在ルナリ、

○第六十六章 現今諸國ノ人口ノ増加ヲ其官府ノ記録ニ依リテ見ルニ其差異甚シクシテ、一般増加ノ度ヲ定ムルノ法ト為スコト能ハザル者アリ、此ノ如キ差異ハ決シテ防禁法ノ力ニ由リテ然ル者ニ非ザルナリ、英國ニ於テハ、一時ハ四十七年ノ間ニ其人口ノ二倍セシコトアリ、其時年々死者ノ數ハ四十四人一人ノ割合ナリ、法蘭西ニテハ、其死者ノ數ハ同様ナレドモ、其増加ハ英國ニ及バズ、但シ之ガ為メニ衰微ヲ為スニハ至ラザリシナリ、普魯西ニテ、増加ノ數ハ英國ニ同ジ、但シ其死者ノ數ハ三十二人ニ付キ一人ナリ、合衆國及ヒ下加拿他（カナダ）ニ於テ他國ノ民ノ移住ヲ許セルヲ以テ四十年ノ間ニ二倍ノ人口ヲ増加セリ、墨西奇ノ或ル部ハ其増加是ヨリ多シ、

○羅馬ノ時代ニ於テ●<sup>ガウル</sup>盧ノ人口ハ大約一千三百万ナリ、耶穌生後第十四期ノ比ハ法蘭西ノ界域ハ現今ノ三分一ニ過ギズ、其戸數ハ二百五十万ニシテ、人口ハ一千万又ハ一千万ノ間ニ在リ、其稠密ノ度ハキロメートル(英國ノ一方里ノ八分三ヨリハ多シ)ニ三十二人トス、千五百十五年ニ於テハ、其人口較々減シテキロメートル三十二人トナレリ、千五百九十九年ニハ三十四人、千六百九十八年ニハ三十九人、千七百七十二年ニハ四十五人、千八百五十年ニハ六十四人、千八百六十七年ニハ七十一人四分、千八百七十二年ニハ六十七人三分ナリ、人口ノ俄ニ増シタルハ千八百十六年ヨリ千八百二十五年マデ十年ノ間ニシテ、即チ拿破侖ノ大戦争ノ後ナリ、此間ニ八年々ノ増加一千ニ付キ七半ナリ、千八百四十八年ニハ其増加減シテ三分ノ一二至リ、千八百七十年ニハ、其増加全ク停止セリ、

○英國ニ於テハ都鐸<sup>トドル</sup>朝ニハ人口ノ増加セシコトナシト云ヘリ、現今ノ世期ニ於テ、千八百十一年ヲ初メトシ、六個ノ民籍ニ依リテ見ルニ、十年毎ニ其増加ノ度ハ百分ノ十四、十八、十六、十四、十三、十二トナレリ、是ニ由リテ見レバ此国モ亦法国ト同シク、拿破侖ノ戦乱ノ間ハ其數大ニ減シ、戦乱ノ後ニ急ニ増加シタル者ナルベシ、夫ヨリ後ハ増加ノ度頓ニ減ジ、此ノ如クシテ止マザルトキハ、遂ニ人口ノ増加ヲ停ムルコトモ亦法国ノ如キニ至ルノ時アルベシ、

○阿尔蘭ノ人口ハ馬尔素ガ数々引用スル所ナリ、第十八世ノ後ノ四

分一時ニ於テ、此国ノ繁昌ノ運ニ向ヒシトキハ、其人口ハ千七百七十七年ニハ二百六十九万零五百五十六ナリシガ、千八百零五年ニハ、五百三十九万五千四百五十六ノ數ニ昇レリ、然レドモ此統計ハ官府ノ記録ニ出タル者ニ非ザレバ、是ヲ以テ確實トスルコト能ハズ、第一ノ統計ハ家税ノ額ニ由リテ算定シタル者ニシテ、第二ノ統計ハ或ル一個人ノ記録ニ出タル者ナリ、若シ此記録ヲ以テ真實ナリトスルコトハ、此国ノ人口ハ近キ三十六年ノ間ニ百分ノ五十一ヲ増加シタル者ニシテ、即チ千八百四十一年ニハ其人口八百七十五千二百四十一トナレリ、其後千八百四十六年八月五日、一夜ノ蝗虫ノ為メニ番薯ニ大害ヲ受タリ、是ニ由リ其明年此国民ハ大ニ飢餓ニ困メリ、盖シ番薯ハ阿尔蘭人が生命ノ杖トスル所ナリ、然レドモ此時代ニ於テアル蘭ノ人民ハ其稠密ノ度英倫ニ及バズ、是ヲ以テ未タ人口ノ過多ヲ以テ需用物ヲ壓スルノ害ヲ見ザリシナリ、其故ハ阿尔蘭人ハ此時多量ノ穀物ヲ英倫ニ輸出シ、其本国ニ於テ猶甚シキ食物ノ不足ヲ見ザレバナリ、千八百七十四年ニ至リ、此国ノ人口大ニ減ジ(重モニ垂米利加ニ移住シタルニ由リ)五百三十万一千三百三十六人ニ至レリ、即チ百人ニ付キ三十七半ヲ減ジタル者ナリ、若シ馬尔素ノ說正理ニ協フコトナラバ、此ノ如ク人口ノ減ジテ需用物ノ壓潰ヲ除キ去ルトキハ、幸福アル結果ヲ生スベキノ理ナリ、然レドモガールウエイノ学師ケイルン氏ガ千八百六十五年ノ著書ニ左ノ如ク言ヘリ、〃余儕ハ今日ノ阿尔蘭ノ劳力者ノ現状ヲ以テ之

ヲ二十年以前ノ勞力者ニ比スルニ、未タ堅固ナル進歩ヲ見ルコト能ハ  
ストイヘドモ、亦進歩ノ状ノ微スベキ者ナキニ非ズ、工錢ハ騰貴シ、  
食物モ之ニ准シテ美好トナリ、衣服ハ廉價トナリ、其形体上ヨリ言フ  
トキハ、其状態ハ少シク高上シタルヲ見ルナリ、”

○第六十七章 馬尔索ノ理論ノ真理ニ合ハズシテ、其事實ノ實際ト  
異ナル所ハ左ノ理ヲ以テ之ヲ知ルベシ、

○凡ソ天地間ニ或ル一定ノ法則アリテ、若シ現在セル所ノ生活物、劣  
等ノ姿態ナルトキハ、其増加弘衍スルコト甚多ク、高等ノ姿態ナルト  
キハ、其増加ノ度大ニ之ニ及バズ、故ニ植物ノ如キハ、其全体ヨリ見  
ルトキハ、動物ヨリハ其増加スルコト甚速ナリ、番薯ノ芽ノ如キハ一  
年ノ間二十倍ヲ増加シ、小麦ノ粒ハモシ豊作ナルトキハ、二百倍ヲ  
増加ス、植物ヲ自由ニ繁殖セシムル所ノ園丁ハ其植物ヲ枯死セシム、  
然レドモ深キ注意ヲ以テ其花瓣ヲ倍シ、人工ヲ以テ之ヲ完全ニ至ラシ  
ムルコトヲ知ル所ノ園丁ハ、植物ノ成実ヲ妨クルナリ、曠原ニ生スル  
野薔薇ハ常ニ完全ノ子実ヲ得レドモ、園中ノ薔薇ハ是ト同一ノ子実ヲ  
産スルコト能ハズ、

○動物ニ於テモ亦同様ナリ、クリナボレリス 鯨 兔 (小魚ノ名) ハ其大羣ハ僅ニ鯨魚  
ノ一口ニ供スベキ者ナルガ、其増加ハ常ニ百万ヲ以テ算フ、鯨魚ノ如  
キハ之ニ異ニシテ、其増加ノ遅キコトハ人類ニ同シ、家兔ノ牝牡ハ數  
年ノ中ニ其増加スルコト千ヲ以テ數フベシ、野象ノ牝牡ハ十二頭ニ過

ギズ、家象ニ至リテハ、能ク注意シテ之ヲ養ヒ、頗ル自由ヲ與フルト  
イヘドモ、遂ニ生産ヲ止ムルコトアリ、

○第六十八章 此天然ノ法則ハ、動物ノ最高等ヲ以テ自餘ノ者ト比較  
スル時ニ於テ、猶其力ノ現存スル者ナリヤ、造化万物ノ品等ハ何故ニ  
人類ノ品等ト相反對スルヤ、凡ソ人類ノ食物トナル所ノ物ハ、造化ノ  
命令ニ由リテ人類ノ下ニ附屬スル者ナレバ、其増加ハ自ラ人類ノ増加  
ヨリ速カナラザルベカラザルノ理アリ、

○此法則ハ人類ト他ノ動物ト比較ノ間ニ成立スルノミナラズ、人ト人  
トノ間ノ比較ニモ亦成立スル者ナリ、人類ノ中ニテ其高等ノ者ハ其  
増加ノ度甚タ遅シ、或ル国民又ハ国民中ノ或ル種族ノ開達教育ノ高等  
ニ位スル者ハ増加セズシテ却テ減少シ、或ハ其種族ノ消滅ニ歸スルコ  
トアリ、「英才ノ人ハ永存ノ幸福ヲ得ルコト能ハズ」トイフハ俗諺ナリ、  
古代ノ希臘ト伊太利トニ於テハ、富豪ノ民、又ハ特權ヲ得タル家ハ、  
常ニ消滅ニ赴クノ勢アリ、奥古士都ノ時、元老トナルベキ世家ハ大ニ  
減ジテ僅ニ五十戸トナリシヲ以テ、平民ノ内ヨリシテ羅馬ノ元老ヲ撰  
舉シタルコトアリ、法蘭西ニ於テハドトーケウ井ルハ或ル一地方ノミ  
ニテ二百年ノ舊家ヲ尋ネシニ、種々ノ原因ニ因リテ一百年ノ間ニ消滅  
シ尽セリ、ガリツク マスタルグレグハ謂フ、法国ニ於テ加尔力ノ品性ハ此地ニ  
其名ヲ得タル所以ニシテ、貴族籍土ノ法ノ行ハル、間連続シタル者ナ  
レドモ、近年高等ナルフランキ佛郎克種族ノ消滅シタルニ由リテ此品性モ共ニ

消滅シタリト、英國ニ於テハ玫瑰花ノ戦ノ時之ニ加ハリシパロシ巴倫バロン(貴族)ハ英國貴族政治ノ時尚少數ヲ有セシガ、其血統ノ子孫ハ都鐸ノ朝ヨリ後ニハ留存セザリシナリ、又維廉勝主ト共ニ来リシノルマンディ諾滿的ノ英族ハ其數、全國民四十二人ノ一二当リシガ、大關休模ダグレットヒュームノ時ニ至リテハ其子孫ノ存スル者惟一人ナリト云ヘリ、此國ノ貴族ハ新ニ選任セラル、者アルニ管セズ、其全國民トノ割合ハ第十五世ノ始ニ於テハ八十八人ノ一二減ジ、現世期ノ初ニハ一万二千五百人ノ一二減ゼリ、此ノ如キ世家ノ断絶スルハ其嗣子ナキニ因ル者多シ、又千六百十一年ヨリ千八百十九年ニ至ルマデ新ニ貴族トナル者一千四百人ニシテ、此中七百八十三家ハ今日既ニ断絶セリ、合衆國ニ於テハ人口ノ増加殊ニ他國ニ勝ルレドモ全國同一ニ此ノ如ク増加セルニハ非ズ、新英ノ諸州ニ於テハ二百年以來、其自國ノ民ノ増加スル者四万五千ヨリ四百万ニ昇レリ、然レドモ今日増加ノ度却テ甚タ遅シ、其近年増加ノ減ゼシハ、他ノ地方ニ移住スル者甚多キニ因スルトイフ、又是ヲ以テ婚姻ノ間ニ生スル生子ノ數ニ婦スル者アレドモ其道理ハ未タ十分ナラズ、最モ精密ナル考案ニ據ルニ、最初ノ時代ニハ、夫婦ノ間ニ平均六人ノ子ヲ設ケシモ、近年ニ至リテハ減ジテ四人トナレリ、佛蘭格林曰ク(千七百五十一年) 亞米利加人ノ婚姻ハ歐羅巴人ニ比スレバ殊ニ能ク行渡リ、其年齡モ一般ニ早キ方ナリ、若シ歐羅巴ニ於テ毎年百人中ニ一ノ婚姻アリトストキハ、亞米利加ニ於テ、二ノ婚姻アルノ割合ナリ、若シ

欧州ニテ夫婦ノ間ニ四人ノ子ヲ産スルトキハ、(其婚姻スルノ年齢ハ大抵遅シ) 亞國ニ於テハ八人ト算スルコトヲ得ベシ、" 又他國ヨリ移住セル民ハ其人口ノ増加スルコト甚速ナリ、是等ノ民、其教育生養ノ度、亞國ノ民ト同等ノ地位ニ登ラザルノ間ハ、其増加ノ力ハ猶永ク連続スベシ、新約克ニューヨークニ於テ千八百六十五年ノ民籍ニ據ルニハ、此國ノ夫婦ノ四分ノ一二近クハ皆子ナシ、其四分ノ三ノ餘ノ者モ、平均シテ算スルトキハ、一人ヨリ多ク子アル者ハ甚タ少ナシ、

其極端ニ就キテ論ズルトキハ、吾身ニ付キテ利害ヲ考フルノ智増進スルトキハ、自然ニ婚姻ヲ避ケ又ハ之ヲ遅クセントスル念ヲ生シ、是ニ由リテ人口ノ増加ヲ減スルニ至ルナリ、社會ノ財貨増殖シ、又財貨ヲ以テ自己ノ身分ノ元質ナリト考フルニ至ルトキハ、少年輩ハ其父母ガ初メタル所ニ於テ生計ヲ初ムルコトヲ好マズ、其先人ガ休止スル所ニ於テ生計ヲ初メザルベカラザルコトトナルナリ、馬尔索ガ道德ヲ以テ人口ヲ阻遏スルノ意見ニ付キ、吾等ガ之ニ抵抗スルノ点ハ、此ノ如キ人巧ニシテ過度ナル智慮ハ、社會ノ悪キ傾向ノ為メニ、良善ナル阻遏トナラズシテ、其阻遏トイフ者、己ニ甚タ悪クシテ又哀シムベキ方法ニシテ、是ニ由リテ社會ノ健全幸福道德ヲ低落セシムベキ者ナリ、

○第六十九章 種類クラッセニ付キテ觀察スルモ、邦國ニ付テ觀察スルニ異ナラズ、開化ノ高等ト心智養成ノ高度トハ人口増加ノ上ニ自然ノ阻

過ヲ為ス者ナリ、心ノ進長ト人数ノ増殖トハ均稱ノカヲ為シテ、二者相互ニ其反對ヲ為ス者ナリ、

○然レドモ社會ノ悪シキ經濟ヲ以テ、全ク造化ノ構造ト進路トヲ妨ゲザルトキハ、心ノ進長ハ亦人口ノ増殖ノ天然ノ結果ナリ、人類ノ天性ニハ自ラ貧窮野蠻ヨリ進ンデ富饒開化ニ至ルベキ傾キヲ固有セル者ナリ、然レドモ此傾ハ惟人々其儕輩ノ相互ノ援助協同ニ倚賴シ、造化ノ力ニ勝ヲ得タルトキ、及ヒ其交際協同ガ人工ノ為メニ妨碍ヲ受ケザル時ノミ、其働ヲ頭ハスヲ得ル者ナリ、凡ソ土地ノ料理其宜キヲ得タル所ニテハ、其人口甚多ク（其數ハ従前嘗テ之ニ達シタル所ノ數及ヒ其達スベキヲ願フ所ノ數ヲ指ス）勉業ノ法工ミニ起リタル土地ニテハ、其居民皆其衣食ニ豊ナリ、此場合ニ於テ、其民數多ケレバ多キホド人力ヲ以テ天然ニ勝ツノ力益々大ニシテ、人々ニ分配スル所ノ需用物ノ量モ益々多シ、

○故ニ吾儕是ニ依リ、人口ノ増減ハ人民自己ノカヲ以テ之ヲ管理スルコトヲ得ベキ者ナルコトヲ發見セリ、人口ノ増加ハ開化ニ進ム者ニシテ、開化ハ不適當ノ人口ノ増加ヲ阻遏スル為メニ一ノ效驗アル方法ナリ、  
『豊盛ノ過度ナルコトハ自然ニ開化ノ進歩ヲ為シ、開化ノ進歩ハ自然ニ豊盛ノ度ヲ減ジ、終ニハ其過度ダケヲ消滅スルナリ』（恰巴的斯邊

撒）

○第七十章

マスターダブルデイハ初メテ生器學ノ道理ヲ根據ト

シテ左ノ事實アルコトヲ主張セリ、曰ク豊饒ニシテ完全ナル食物ハ人類ノ繁殖ヲ減ズルノ效驗アリ、此事ニ就キテハ明カニ示スベキ事實アリ、然レドモ腦ノ開發果シテ此傾キヲ有スルヤ否ニ至リテハ猶未タ確然タラザル所アリ、此事ハ人類ノミナラズ、高等ノ禽獸ニ於テモ亦然リ、此ノ如キ例ハ印度ニ於テ參養セル象ニ於テ見ル所ナリ、凡ソ人類ノ腦ノ開張スルニ從ヒ、其欲望ノ目的トナル者其數ヲ増ス、其數ヲ増ストキハ人類一切ニ共通セル天然ノ欲望ハ却テ強熱ノカヲ減ズル者ナリ、人類ハ一時過度ニシテ當然ナラザルカヲ以テ現存セシコトナリ、此ノ如キハ自ラ抑制スルコトヲ知ラズシテ久シク放恣ニ任セシ時代ノ結果ニシテ、又野蠻ノ時代ノ遺物ナリ、例ヘバ酒精アルコールノ類甚シク嗜好スルガ如キハ、古代ノ有形物ヲ以テ歡樂ヲ取ル野鄙無智ノ俗ヲ僅ニ免カレ酩酊ヲ以テ歡樂トスル時代ノ遺物ナルコトヲ證スルコトヲ得ベキ者ナリ、

○此特別ナル事情ニ付キテ、人類体格中ノ化成ノ元質（殊ニ燐）ノ如キハ此考究ト密ニ相結着スルコトヲ見ルナリ、然レドモ余儕ハマスターダブルデイ共ニ生器學上ニ於テ、人口繁殖ニ反對セル他ノ原因ノアルコト、及ヒ民族、邦国、家族ガ其原因ナキモ死亡セズトイフコトヲ發見セリ、

○第七十一章

又造化ノ償還法則○○○トイフ者アリテ、其生産ノ數ノ少キホドニ、其一個物ノ生命ハ長キ者ナルコトヲ知レリ、造物者ハ

之ヲ産出スルニ力ヲ勞スル者ハ注意ヲ加ヘテ之ヲ保護スルナリ、

○此法則ハ又人類ノ品種ノ間ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、數百年以來、人類ノ生命ハ、其中數ニ於テ、或ハ數日、或ハ數月、或ハ數年、其長サヲ増シタリ、是ハ其半分ハ造化ノ測ルベカラザル原因ヨリ来リ、其半分ハ医学ノ進歩ト人々撰生法ヲ知リテ之ヲ行フニ由レリ、故ニ馬高礼<sup>マコウレイ</sup>ガ言シ如ク、倫敦ニ於テ第十七世紀ノ平常ノ年ノ死亡ノ度ハ、第十九世紀ノ瘵病<sup>コレラ</sup>ノ流行セル年ヨリ多シ、現時ノ貧窮ナル婦人ハ、其良善ナル医療ヲ受クルコト第十七世紀ノ時ノ女王ノ受タル医療ニ勝レリト、千六百五十五年ヨリ千八百四十五年ニ至ル間ノ死亡ノ度ハ、二十三人ノ一ヨリ減ジテ四十人ノ一二降レリ、法蘭西日耳曼ノ統計表ヲ見ルニ、富裕ニシテ教育ヲ受タル人民ハ、貧窮ニシテ教育ナキ人民ニ比スレバ、其生命ノ長キコト少クモ三分ノ一二及ベリ、

○又異教ヲ奉ズル国ノ界域中ニ悪キ疫疾ノ發生セザルコトハ、他ノ教法ト比シテ基督教ノ大ニ進前セシ徵候ナリ、基督教ノ政府ハ常ニ人民ノ健全ヲ謀ルノ政ヲ行フニ、回教及ヒ其他ノ異教者ハ常ニ行賽又ハ祭日ヲ祝ヒテ、為メニ悪疫ヲ養成スルコトアリ、然ルニ基督教ノ其地ニ入ルヨリシテ、此ノ如キ風俗ハ忽チ廢絶スルニ由リテナリ、

○第七十三〔七十二〕章 社會ノ悪キ經濟法ハ、国民ノ全体ガ智能ヲ開キ文明ニ向フノ妨碍ヲ為ス者トイフコトハ、既ニ假定セリ、是ニ由リテ此国民ノ上ニイカナル結果ヲ生スルカ、其事ハ之ニ属スル人

民ノ種族ノ生活力ト弾力トニ由リテ其結果ハ同一ナラザルベシ、

(一) 回教ノ政治ノ下ニ立テル州郡ノ如キハ、其壓制ヲ受クルガ為メニ精神及ヒ神經力ノ屈抑ヲ生シ、是ニ由リ生氣ナキ感化ヲ人民ニ及ボスコトナリ、敵ニ攻圍セラレタル都府ノ民ハ明カニ生氣ナキ者ナリ、(二) 然レドモ通常真正ナル阻遏法ノ除却、智性ノ進長安慰ノ増加ハ人口ノ急速ナル増加ヲ致ス者ナリ、枯死セル人ハ枯死セル植物ト同ジク随意ニ蕃殖スル者ナリ、人類ノ品性ヲ降シテ禽獸ト同等ノ物ト為ストキハ、其蕃殖スルコト亦禽獸ノ如クナルベシ、人類ノ數實ニ其度ヲ過グルトキハ、社會ノ全体ハ深ク貧窮ノ底ニ沈ムベシ、此ノ如キ結果ハ殊ニ邦國ノ財貨、少數ノ人民ノ手ニ聚マルトキニ於テ之ヲ見ルベキ者ニシテ、若シ邦國ノ財貨、人民ノ全頭ニ分配シテ平均ヲ得ルニ近キ時ハ、其結果ハ全ク之ニ反スベシ、此ノ如キコトヨリシテ人口ノ過剩トナルハ、天然ノ法則ノ效驗ニ非ズシテ、我俣ニ其法則ヲ障碍スルニ由ル者ナリ、

○第七十八〔七十三〕章 人類ガ食物ヲ生産スルノ歴史ハ通常之ヲ三期ニ分ツベシ、初二期ニ於テハ、人類ガ其食ヲ得ルハ惟隨意ノ獵獲ニ在リ、故ニ地上ノ產物中ニ於テ、人類ノ食用トナル物ハ其小部分ニ過ぎザルナリ、第二期ニ至レバ、牧畜ノ業起ル、是ニ至レバ人々其許多ノ指揮ト些少ノ勞力トヲ用ヒテ其欠乏ヲ充タシムルコトヲ知ル、然レドモ若シ新ニ牧場ヲ發見スルトキハ、其親族ヲ率井テ移轉セザル

コトヲ得ズ、而シテ又其輩儕ヲ保護スルガ為メニ權理ヲ有セズ、並ビニ安全ヲ有セザルナリ、第三二期ニ至リ、土地ヲ耕耘スルコトヲ知り、政治体ノ伴侶ヲ為シ、一定ノ家居ヲ有スルニ至レリ、其第一期ニ於テ、一埃加ノ地ノ產物ヲ以テ百人ノ食ニ供セシガ、第二期ニ至リ、是ヲ以テ十人ノ食ニ供スルコトトナレリ、又他人ノ羈管ヲ離レテ獨立ニ勞カスルコトヲ得、又他人ト親シク交際ヲ結ブコトヲ得、交際ノ運動速カニ流行シ、是ニ由リ更ニ其勢力ヲ強クスルコトヲ得タリ、造化ノ抵抗ハ減少シ、需用物ノ上ニ人口ノ壓迫スルコトハ（第一期ニ於テ甚強ク、第二期ニ於テモ猶強カリシモノ）今ハ大ニ消退セリ、是ニ由リ人類ノ天然ノ惰性ニ克チ、進前スルノ力ヲ添ヘタリ、是ニ由リテ見レバ、土地ガ荆棘ノ叢トナルノ運命ハ已ニ尽キ、人類土地ノ領土トナルニ依リテ是ヲ耕耘スルノ困難ハ、以テ能ク人類ノ力ヲ開發伸張スルニ足ルベキコトヲ知ルベシ、

○第七十四章 人類ガ其力ヲ以テ勝ヲ造化ニ制スルコトハ、社會ノ周密堅固トナルニ從ヒテ、益々其成長ヲ連続スルナリ、社會ノ進歩スルトキハ、鐵ノ如キ石炭ノ如キ家ノ如キ船ノ如キ羊毛ノ如キ棉花ノ如キ、皆旧時ニ比スレバ僅少ノ勞力ヲ以テ之ヲ取ルコトヲ得ルナリ、人口大ニ稠密トナルトキハ、鐵管ヲ都府ノ中央ニ貫キ、以テ水ヲ給スルコトヲ得、是ヲ人々河邊ニ就キ、桶ヲ以テ水ヲ運送スルニ比スレバ、其勞力ノ少キハ言ハズシテ知ルベキナリ、又抽水器ホムプヲ以テ水ヲ汲ムガ

如キハ、社會進歩ノ一段落ナレドモ、之ヲ鐵管ノ法ニ比スレバ尚大ニ不便利ナルコトヲ免カレズ、故ニ人口ノ増加ニ從ヒテ「時ヲ節用スル」ノ事モ随ツテ起ル、例ヘバ大直錘ヲ石炭床ニ下ストキハ、是ニ由リ薪料ニ木材ヲ費シ之ヲ伐ルニ勞力ヲ費ス等ノコトナシ、而シテ此事ニ費シタル時ヲ以テ木材ヲ鋸截シ、又ハ其他必要ノ工事ニ轉用スルコトヲ得ルナリ、磨車ノ製ノ未タ興ラザル以前ハ、數千人ノ手ハ穀物ヲ磨碎スルコトニ費シタリ、然ルニ磨車ノ成リシ以來ハ、此事業ハ少数ノ人ノ工事トナリ、其餘ノ人ハ從前手磨ヲ轉廻セシヨリハ、良善ナル工事ニ就クコトヲ得ルナリ、以上記スル所ノ事ノ如キハ、社會ノ全運動ヲ現ハス事實ノ標本タルニ過ギザル者ナリ、

○恰巴斯辺撒ハ謂フ「人口ノ強壓ハ開進ノ直接ノ原因ナリ、先第一是ニ由リ種族ノ廣布ヲ興シ、次二人ヲシテ從前ノ奪掠ノ風ヲ棄テ、耕作ニ從事スルコトヲ得シメ、次ニ地上ノ表面ヲ淨潔ニスルコトヲ得シメ、次二人ヲシテ社會ノ構造ヲ為サシメ、社會ノ感覺ヲ發セシム、次ニ物産ノ改良進歩ヲ為サシメ、又練熟ト智慮トヲ増サシム、次ニ社會ノ周密ナル交際ヲ為シ、相互ニ援助スルノ風ヲ起サシム、此ノ如クシテ地球上ニ適當ノ人口生殖シ、其風俗習慣ヲ以テ高等ノ状態ニ上セタル後、總テ人類ノ要領ノ事物ヲ以テ完全ノ方法ニ為シタル後、自身工事ト感覺トヲ以テ社會ノ生活ニ適當セシムルホドニ其智慧ノ開發シタル後、人口ノ強壓ハ漸々其終リヲ告ルコトトナルナリ、”

耶利覃孫 著

西村茂樹 譯

第五篇

土地ノ經濟

○第七十五章 余儕既ニネーションヲ以テ、永続セル地面ヲ占領スルノ民ナリトイフ定義ヲ立テ、又ネーショント云フトキハシチゼント云フヨリモ更ニ超勝ナル意義ヲ以テ之ニ歸スベキ者ナリト定メタリ、此ネーションヲ供養スル經濟ヲ考フルトキハ、廣ク一般ノ農業經濟ヲ通觀セザルベカラズシテ、殊ニ注意シテ農業ノ進歩ト其農業ヲ営ム人民ノ進歩ノ為メニ障碍トナル者（殊ニ法律上ノ障碍）ヲ除去セザルベカラズ、又一個人ノ行為ヲ以テ容易ニ為シ難キ進歩ノ方法ヲ求メサルベカラザルナリ、此如キコトハ国民ノ勉業ニ関シ、政府ノ行フベキ適當ノ職分トイフベキ者ナリ、然レドモ農業ノコトハ、国民ノ保存ニ付キ、特殊ノ管係アルヲ以テ、政府ハ之ニ付キ更ニ大ナル責任ノ上ニ立ツコトナリ、世間ニハ政府ヲ以テ、勉業ノ利益ノ範圍ノ外ニ置クコトヲ好ム人多シ、是等ノ人ハ謂ヘラク、凡ソ公共ノ政治ノ意見ニテ民事ニ干渉スルコトヲ求ムル所ニテハ、土地ノ所有者ヲ以テ、国民ノ財産ノ保管者トシテ之ヲ取扱ヒ、特別ニ所有者トシテ之ヲ取扱ハザルナリ、

○第七十六章 凡ソ勉業ノ方法ノ一般ノ進歩ハ、是ヲ助クル者ノ數ト其

カトノ増加ニ依リテ之ヲ得ルトイフコトハ前篇ニ於テ之ヲ言ヘリ、其言ハ実ニ農作ノ事ニ於テ適合セリ、時ノ進歩スルニ從ヒ、從前所有セシ土地ノ上ニ於テ、少キ費用ヲ以テ多キ收穫ヲ取ルコトヲ得、又從前ハ耕作ニ適セザルノ地モ今ハ之ヲ淨掃シ乾燥ニ為スコトヲ得タリ、勞カト資本トノ分量ノ多キト共ニ夫々ノ利益ヲ為シ、收穫ハ常ニ大ニ其割合ヲ増スヲ以テ、同一ナル田地ノ上ニ、極メテ安全ナル見込ヲ以テ、其資本ヲ用フルヲ得ルナリ、殊ニ勞力ノ分配ハ農業ニ其助ヲ為スコト多シ、古代ノ耕作ノ業ハ、諸ノ生業中ニ於テ、殊ニ人ノ愚トスル所ニシテ、又一個ノ頭人トナルコトハ能ハザリシ者ナリ、其家屋、其衣服、其粗拙ナル器具、其他農人ガ所有セル物ハ、皆何レモ自身ニテ製作シタル者ナリ、然ルニ夫々ノ工業ニ練熟セル者ノ出ルニ及ビ、農人ノ為メニ種々ノ農具ヲ作りテ之ニ供セルヲ以テ、農人ハ其勞力ヲ費スコト少ナクシテ、精巧ナル器具ヲ有スルコトヲ得ルニ至レリ、

○第七十七章 古代ノ耕作ハ所謂廣衍方法エキステシレフナリナリ、即チ少量ノ資本ヲ廣大ナル地面ニ用フル者ナリ、獵人ハ其地面ヲ要スルコト牧人ヨリ廣大ナルベシ、牧人ハ又其地面ヲ要スルコト農人ヨリ廣大ナルベシ、半蠻時代ノ拙陋ナル農業ハ後世耕作ノ術大ニ開ケ、農人多クノ資本ヲ投スル時ニ比スレバ、其地面ヲ要スルコト廣大ナルベシ、故ニ古代ノ半蠻ノ民ガ飢饉ノ為メニ住居シ難キ土地モ、今日ニ至リテハ人口稠密ノ土地トナル者多シ、

○英國ノ中古ノ時ノ耕作ハ即チ此点ニ在ル者ナリ、其時土地ニ小麦ヲ植ル者ハ、凡ソ一百五十万ノ人口ヲ養フニ足ルヲ以テ十分ナリトシタル者ナリ、當時ノ人口ハ二百万或ハ一百五十万ノ間ニ在リ、而シテ此人民ハ何レモ大抵食物ヲ作ルコトヲ以テ其業トセリ、都府ノ民ノ如キモ、又田舎ニ出テ其收穫ノ工事ヲ助ケ、大学校ノ長キ休業ハ、其三万ノ生徒ヲシテ家ニ帰り農事ヲ助ケシムル為メニ設ケタル者ナリ、穀物ノ種子ヲ田地ニ蒔クハ今日ノ如クナレドモ、其收穫ノ利益ハ大約今日ノ四分ノ一二過ギザリシナリ、然レドモ當時英國ノ氣候ハ他ノ欧州北部ノ氣候ト共ニ今日ヨリハ温暖ニシテ、被覆ナクシテ葡萄ヨク生熟シ、葡萄酒ノ如キモ、法蘭西製ノ如キモノヲ製出シ得タリ、地面ノ水抜ハ甚タ不十分ニシテ、耕耘スルコトモ至テ浅ク、肥料ヲ用フルモ其土地ニ限りアリ、<sup>〔フランス〕</sup>佛蘭德ノ農民、英國ノ糞土ヲ輸入セル時ノ如シ、<sup>〔イギリス〕</sup>收穫ハ至テ貧ニシテ、之ヲ費消スルコトモ亦速ナリ、此時ハ土地ノ半分ハ耕作セズシテ荒蕪セルヲ以テナリ、此ノ如クシテ得タル收穫ハ巨多ノ費用ヲ掛ケザレバ之ヲ貯藏スルコト能ハズ、<sup>〔フランス〕</sup>農作ノ器具ハ甚タ粗拙ニシテ、鋤ノ如キモ重大ナル木ト鉄トノ工作物ナリ、四馬ヲ以テ僅ニ地上ヲ曳クコトヲ得ベキノミニテ、地ヲ深く鑿スルコト能ハズ、金類ハ至テ少ナク、僅ニ<sup>〔アルマンデー〕</sup>諾滿的ヨリ輸入スルノミナレバ、旱魃ノ年ニ於テ鋤鉄ノ摩損破毀ハ、農事費用簿ノ大分ヲ填メタリ、冬時ニ至レバ、僅少ノ枯草アルノミニテ、青草ハ全ク無キヲ以テ、羊ノ如キハ大抵マ

ルチンマス<sup>〔養牛名〕</sup>ニ於テ之ヲ殺スヲ常トス、此時生存スル者ハ、大抵冬寒ノ間ニ餓死ス、牛ノ如キモ亦同シ、牧畜改良ノ事ハ敢テ之ヲ行フ者ナシ、千五百四十七年ノ末ニ於テ、海軍ノ為メニ買ヒシ犢牛ハ、其値四百磅ニ下ザリシナリ、園菜ハ僅ニ之ヲ栽培シ、<sup>〔エリザベス〕</sup>以利沙伯女王ノ時ニ於テモ猶貴人ノ食饈ニ供スルガ為メニ、園菜ヲ大陸ヨリ輸入セシナリ、此ノ如キ菜蔬ノ不足、及ヒ一般塩漬ノ食ヲ用ヒシヨリ、民間ニ壞血病又ハ癩病流行セシナリ、

プロヘツソル ソロルド <sup>〔イアンティン〕</sup>ロージャルガ英國農業史ヲ参看スベシ、

○第七十八章 後世ノ農業ハ用力法ナリ、即チ多量ノ資本ヲ僅少ノ地面ニ費ス者ナリ、此法ハ其貯蓄ヲ以テ其田地ノ管理ニ用ヒ、其得ル所ハ其費ス所ヨリ多キヲ以テ、始メテ貨財ノ原ヲ作ルコトヲ得、又此法ハ上面ノ土壤ヲ廣ムルヨリモ、却テ深く下層ノ土壤ニ入り、舊田地ノ下ニ新田地ヲ得、又此法ハ<sup>〔ローティン〕</sup>易作ノ術ヲ発見シ、年々交代シテ土地ヲ耕作シ、土地ニ間澤ナル賠償ヲ與フルヲ以テ、一年兩度ノ收穫ヲ得ルノ益アリ、又此法ハ田園中ニ牧畜ノ數ヲ増加シ、畜類ヲ以テ、被覆アル所ニ養フヲ以テ、自然ニ土地ノ疲瘠ヲ改治シ、其肥力ヲ益スノ方法ヲ得、此法ハ又人工ヲ以テ水抜ヲ作ルヨリシテ、土地ノ寒冷及ヒ粘土又ハ低下ナル土地ノ不利ヲ改良スルコトヲ得テ、收穫ノ利益ヲ増シ、又秋雨ノ害ヲ除クコトヲ得、此法ハ又牲畜ノ種子、器具ノ改良ニ付キテ高等ナル功績ヲ収ムルコトヲ得、<sup>〔イギリス〕</sup>此ノ如キ農業ノ習熟ハ、唯耕作ヲ

業トスル人民ノ多數ナル土地ニ於テノミ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、又一方ヨク見ルトキハ、農事ハ此ノ如キ習熟ニ由リテ初メテ為シ得ベキコトヲ知ルナリ” (ラヴエレイ)、

○第七十九章 耕作ニ於テ良善ナル結果ヲ得ルハ、著大ナル地面ニ著大ナル資本ヲ投ズル (撒<sup>サケ</sup>遜<sup>セン</sup>ノ一分ノ如ク) ニ由ル者ナレドモ、耕作ノ實際上ヨリ觀レバ、全体ノ好結果ヲ得ルハ、其田地ノ小ニシテ、其所有者ハ実ニ耕作ニ熟スル者タルニ在リ、土地ノ区分ニ付キテ進歩ヲ為スハ、(或ル界限ヲ以テ) 農業上ノ利益ナリ、之ニ反對セル者ハ農業ニ退歩ヲ為スナリ、

○此事実ハ上古ノ時ニ於テモ、已ニ之ヲ知レリ、瑣羅門王<sup>ワロモン</sup>ノ言ニ多量ノ食物ハ少量ノ土地ヲ耕作スルニ由リテ之ヲ得ベシトアルハ此事アリ、又摩西<sup>モーゼ</sup>ノ法律ハ、人民ニ土地ヲ分配シタル後、再之ヲ他人ニ渡スコトヲ禁ゼリ、然レドモ人々其資産ヲ増殖セントスル熱心アルニ由リテ、此法律ハ遂ニ無効ニ帰セリ、又以賽亜<sup>イサイア</sup>ハ家ヲ以テ家ニ合セ、田野ヲ以テ田野ニ合セ、国土ノ中央ニ居ルノ外、復其所ナキニ至ルヲ以テ、人民ノ災禍トシ、此ノ如キ災禍ハ土地ヲ荒廢シ、人民ノ食料ノ平均數ヲ減スベキ者ナリト言ヘリ (V、八ヨリ十二至ル)、

○羅馬人ガ以大利ノ地ヲ占領スルニ及ビ、國中ノ小大所有地ハ、貴族ノ大ナル産業ノ中ニ併吞セラル、額拉起貧民<sup>グラツキ</sup>ノ産業ヲ保持センガ為メニ其力ヲ勞セシモ其益ナカリシナリ、其最初ノ方法ハ共同ノ土地ヲ取込

ムニ在リ、從來以大利ハ衆民共同ノ土地アリテ、牧畜ヲ為シ、農業ノ為メニ必要ナリシ者ナリ (此ノ如キ仕方ハ古代ノ亜的架<sup>アンティク</sup>ニ於テ、梭倫<sup>ソロン</sup>法律ヲ立テ、之ヲ禁<sup>サ</sup>ジタリシモ、拉塞特蒙<sup>ラセデモン</sup>ニ於テ、反テ之ヲ行フコトヲ允許セリ) 布利尼<sup>ブリニ</sup>此仕方ノ結果ヲ述ベテ曰ク、”巨大ナル産業ハ以大利ヲ傾倒セシメタリ”ト、此言ノ如ク以大利ノ半島國ハ、貨財物産ノ總テノ原質ヲ大ニ衰微セシメタリ、是ニ由リ羅馬ノ諸帝ハ、國民ノ食料ニ供センガ為ニ亜弗利加及ヒ埃及ヨリ小麦ヲ買ヒ入タリト云ヘリ、其後夷狄ノ此國ニ攻入スルニ當リ、此巨大ナル産業ヲ破壊シ、再ヒ小民ニ分配スルコトトナリ、是ニ由リ以大利ノ民ノ子孫、復其食ヲ得ルコト旧時ノ如クナルコトヲ得タリ、

○第八十章 歐羅巴ノ西部ニ於テ英吉利ト西班牙ノ二國ハ、古代ノ以大利ノ実迹ヲ再演シ、殊ニ英國ニ於テ、政治上ニ於テ此ノ如キ事ヲ施行シタリ、

○此二國ニ於テ (社會ノ初歩ニ於テハ全國大抵同様ニ) 土地ハ國民各個ニ所有スルニ非ズシテ、多クハ村里ニ住居セル自主ノ民ノ聚合體ニ於テ之ヲ所有セリ、此ノ如キ土地ハ、其村里ノ周圍ニ在リテ二重ノ圈ヲ画シテ之ヲ其村里ニ屬セリ、其外圈ノ大圈ハ共同ノ地ニシテ牧畜ヲ為スノ所ナリ、其内圈ノ小圈即チ村里ニ接スル所ハ之ヲ三部ニ分チ、村民各之ヲ所有スルコトヲ得、然レドモ其全体ノ田地ハ、習慣ノ方法ニ依リ、一村共同シテ之ヲ耕作シ、又回轉法ヲ以テ收穫ヲ得ルヲ以テ、

其三分ノ一ハ年々之ヲ耕作セズ、代ル々々牧地トシテ之ヲ留存スルナリ、村里中ニ在ル各個人民ノ居室ト其庭トハ其民ノ所有物ニシテ、之ニハ租税ヲ課セザルナリ、

○村民ノ産業ト位格トノ漸々同等ニ登ルニ及ビテ、遂ニ社會中ニ<sup>アリストクラチック</sup>豪族政治ノ結構ヲ現出スルニ至ルナリ、其豪族ノ居室ハ多ク城郭ニシテ、其近傍ニ在ル他ノ人民ノ家ニ勝レ、村里中ノ利益アル分配ハ皆豪族ノ手ニ歸シ、土地ヲ耕作スル労働ノ事業ハ、劣等ノ村民ノ負擔トナルコト、恰モ此民カ此事業ニ固有セルガ如シ、英國ニ於テ<sup>ノルマン</sup>諾爾曼攻載ノ如キ社會ノ改革アルモ、貧民ノ負擔ハ其重量ヲ除カズシテ、却テ之ヲ増加セリ、後ニ至リ、此小民ハ皆借地人<sup>ウイレインズ</sup>トナリ、其耕作セル土地ハ豪族ノ所有者ヨリ借りタルノ義トナリ、其借料ノ為メニ租税ヲ豪族ニ納ムルコトトナレリ、小民ノ勞力ノ價ハ甚タ低廉ノ者トナリ、地主自己ノ好ミヲ以テ其勞力ノ値ヲ變スルコトヲ得、是ニ由リ借地人ハ一定ノ借料ヲ以テ帳簿ニ登記サル、所ノ借地ノ身分トナレリ、社會ノ改進スルニ從ヒ、勞力ハ其値ヲ増シ、勞力ヨリ多ク物産ヲ生スルヲ以テ、土地ハ物産ノ數ヲ減ゼリ、是ヨリ下民ハ漸々富裕ニ向ヒ、地主ハ反テ貧乏ニ赴ケリ、農人ハ其初メ借地人タリシ者、今ハ自由ノ田地所有者トナル者アリ、其故ハ豪族ハ數々金錢ニ事欠クコトアリシヨリシテ、大ナル田地ヲ以テ古キ襪子<sup>貴族</sup>指<sup>指</sup>スノ中ヨリ出シテ<sup>小民</sup>廬舍<sup>小屋</sup>ヲ中ニ轉入スルコトアレバナリ、<sup>貴族</sup>藉土ノ貴族ノ土地ハ大抵小ナル區画ニ配分サレタリトイ

フハ事実ナリ、此結果ヲ為シタルハ其原因甚多シ、“(ソロルド、ロ―ジャルス)、地主ハ多ク(殊ニ<sup>メスヒ</sup>黑疫ノ流行ニテ死人多ク、勞力供給ノ大ニ減ジタル後)此約束ヲ廢シ、借地人ヲ以テ奴僕ト為シ、其人ノ手ヲ以テ旧時ノ奉仕ヲ為サシメンコトヲ望メリ、然ルニ下民ノ為メニ幸ナルコトハ、旧時ノ習慣ナル者ハ甚タ勢力アル者ニシテ、此時未タ自由ノ知識ナキヲ以テ、此習慣トイフ者強盛ナル權利ヲ有セリ、借地ノ形式及ヒ其大小ヲ定ムル所ノ習慣至テ堅固ニシテ、貴族ヲシテ能ク其産業ヲ守ラシムルニ足ルベキ者ナリ(妄リテ兼併ヲ行フコト能ハザルノ義)、ワット、<sup>タイレル</sup>ガ新法ヲ立ルニ及ビ、國民之ニ抵抗シテ争乱ヲ起セリ、此亂ハ幾クモナクシテ撲滅サレシカドモ、貴族ハ此ノ如キ争乱(保守ノ主義ヨリ出タル)ヲ深ク惡マズシテ、却テ己ノ要望ヲ廢棄セリ、

○第八十一章 平民ガ再ヒ土地ヲ領取スルコトヲ間接ニ防ガンガ為メニ所謂<sup>モンテロー</sup>占地<sup>ジュエル</sup>ノ法作ル、此法ハ<sup>ヘンリー</sup>顛利第三ノ時、著名ナルメルトンノ法律ト稱スル者ナリ、此法律ニ依リテ、貴族ハ村里ノ外圍ノ地ニテ、其地ノ借地人又ハ自主ノ民ノ為メニ必要ナラズト認ムル地ハ、其幾分ヲ<sup>借地</sup>困ヒ取ルコトヲ得ルナリ、其後又發行セル法律ニ依リテ、マルクノ中ニ在ル貴族ノ土地モ亦困ヒ取ルコトヲ許サル、是ニ由リ古代ノ衆人共耕ノ習慣ハ遂ニ廢絶ニ歸セリ、此法制ハ、此國ノ農業ノ經濟ヲ全ク改革シタル者ニシテ、其之ヲ完成シタルハ第十六世ノ時ニ在リ、此事ハ

早カレ遅カレ一度ハ為サブルベカラザルノ改革ナリ、古代ノ共耕シテ租税ヲ納ムルノ法ハ、勉業ト志謀トノ為メニハ、大ナル障礙ヲ為ス者ニシテ、農民ハ唯習慣ト傳說トノミニ由リテ其業ヲ為スノ害ヲ免カル、コト能ハズ、是カ為メニ勉業ノ為メニ鋭烈ナル精神ヲ奮ヘリ、是等ノ旧法ヲ廢シタル後、土地ノ所有者ハ其困ヒ込ミタル地ヨリシテ巨額ノ税ヲ出スコトヲ恐レテ、多ク之ヲ牧地ニナシタリトイヘドモ、其地ニ小麦ノ生産スルコトハ是ヨリ増加シ、以テ耕作ニ大改良ヲ為スノ途ヲ開ケリ、

○然トモ此ノ如ク古代ノ土地ヲ共耕スルノ法ヲ廢絶シ、各自獨立ノ農民ノ起ルニ付キテハ、其勢必競争者ヲ生スベキコトナレバ、之ヲ調均セシメテ之ヲ精密ナル法律ト又其註釋トヲ闕クベカラザルノ運ニ向ヘリ、然ルニ此時存在セル者ハ巴力門ニテ定メタル不規則ナル言語上ノ法則ト、之ヲ補助スル者ハ腐敗セル法官ノ註釋アルノミ、而シテ其法則ハ殊ニ土地ニ付キタル利益ヲ大ニシタル者ナリ、サー トーマス モール 瑣 托馬 摩爾ハ當時ニ在リテ議員ノ説ニ反對ノ見ヲ有セル者ナリ、其言ニ曰ク「農民ハ其身ヲ窮処ニ陥レ、或ハ欺罔又ハ抑壓ノ為メニ、其身ヲ自己ノ外ニ置キ、或ハ邪惡ナル処置ノ為メニ、尽ク其地ヲ賣ラザルベカラザルニ迫レリ」ト、共有物タリシ牧地ハ不平等ニ分チテ之ヲ困ヒ取り、又貴族ガ要望スベカラザル三部ノ田地モ之ヲ占領シテ自己ノ所有ト為ス、農民ハ勢力欺罔ノ為メニ其田地ヲ奪領セラレザルトキトイヘドモ、尚其共有

地ヲ困ヒ取ラル、ニ由ヨリテ、其氣力ト幸福トヲ失ヒ、遂ニ其身ヲディアボレル 日 傭ノ地位ニ沈メタリ、ラチメル 農民ハ英國ノ大部ニ於テ、其普通ノ權利ヨリ生スル利益ヲ失フノミナラズ、此失亡ヨリシテ、許多ノ場合ニ於テ其特別ニ所有セル田地ヲモ失ヘリ、農民ハ元來二個ノ産物ニ由リテ生活シ、其農業ノ事モ是ヨリ發出セル者ナリ、

○第八十二章 テューター 都鐸ノ朝ニ至リ、教地ノ制ヲ廢シ、教院ニ付屬セシ土地ヲ以テ、是ヲ新ナル貴族ニ分配セシヨリ、下民ノ困難更ニ一層ヲ加ヘタリ、此新ナル土地ノ所有者ハ、借地人(佃戶)又ハ自主ノ民(土地ヲ所有セル)ヲ以テ、一モ權利ヲ有セザル者トシテ之ヲ取扱ヘリ、是ニ由リ下民ノ呼号ハ止ムトキナシ、終リニ至リ、政府ヨリプロテクトル ソーメセツト 保護官 索麥塞ニ此事実調査ノコトヲ委任シ、大商賈ノ害惡、一般ノ不公平等ノコトヲ一々証拠ヲ舉テ報告セシム、索麥塞頗ル能ク其事ヲ調査シタリトイヘドモ、是ヲ医治スルノ方ヲ申報セザリシナリ、此時ヨリ英國ニ所謂危難種族タシセルウ云フ者起リ、都府ノ狹路背巷等ニ聚合ス、其者ハ大抵財ヲ奪ハレタル修道士ト産ヲ失ヒタル農民トナリ、郷士ノ種族ユーンハ元來治平ニモ戰時ニモ国内ニモ他国ニモ、寺院ニモ政府ニモ、共ニ国民中ノ勢力アル者ナリシガ、此比ヨリ大ニ其人數ト威カトヲ減ジ、常ニ借地料ノ為メニ強壓ヲ被ブルニ至レリ、教長ヒューゴ 休額 拉地麥ノ言ニ曰ク「吾父ハ郷士ナレドモ、自己ノ土地ヲ所有セズ、惟一歳中二三磅又ハ四磅ノ所得アル借地ヲ有スルノミナリ、此借

地ヲ耕作シテ一家六人ノ糊口ヲ為セリ、吾父ハ更ニ百頭ノ羊ヲ牧シ、吾母ハ三十頭ノ牝牛ノ乳汁ヲ搾取セリ、吾父ハ又国王ヨリ給料ヲ賜與セラル、トキハ、其身ト馬ト共ニ武器ヲ装シテ国王ニ謁スルノ資格アリ、吾父ガブラックヘツスノ戰場ニ赴キシトキ（千四百九十六年）為メニ其鎧ノ釦子ヲ嵌メシコトヲ記憶セリ、父ハ余ヲ学校ニ送レリ、余ハ今（千五百四十九年）ハ国王ノ前ニ於テ講説スルノ地位ヲ有セザルナリ、父ハ又余カ姉妹（六人）ニ各五磅（即チ十二ノ一ポンド）ノ資産ヲ給シテ之ヲ嫁セリ、此姉妹ハ何レモ上帝ヲ敬畏スルコトヲ教育セラレタリ、父ハ又近旁ノ貧人ヲ善ク待遇シ、多少ノ施物ヲ貧人ニ與ヘタリ、是等ノ費用ハ皆上ニ言ヘル借地ノ利益ヲ以テ之ヲ辨セリ、今日ハ此借地ニ付キテ一年二十六磅ノ地代ヲ出サバルベカラズ、故ニ此借地ノミヲ以テハ国王ニ職務ヲ致スコト能ハズ、兒子ヲ教育婚嫁スルコト能ハズ、又貧人ニ一盃ノ酒ヲ與フルコト能ハザルナリ、”

○第八十三章 （スチューアート） 士丟亜の朝ノ諸王及ヒ高門（クロムウエヒ）空ノ時ニ於テ、郷士ノ種族（フレンズ）再ヒ其數ヲ増シ、又少シク民間ノ尊重ヲ得ルノ運ニ向ヘリ、吾儕愛國ノ学士ガ是ヲ以テ英国ノ光輝ニシテ （フレンズ） 法 人ノ畏ル、所ナリト記セルヲ見タリ、（ロート） 勞 德 蓋 瑟 尔 古格ハ謂フ、英国民ノ三分ノ一ハ記録簿ニ登レル人ナリト、其意ハ貴族ヨリ土地ヲ借レルヲ以テ、貴族ノ帳簿ニ其借地人ノ名ヲ登記セラル、コトヲ免カレザル者トイヘル義ナリ、（コー） 古格又曰ク “此登簿人ハ堅固ナル土地ノ上ニ立定シ、其主人翁（貴族）

ノ怒ヲモ敢テ怖ル、コトナシ、風氣ノ大響ニモ畏縮スルコトナシ、惟大ナル機會ニノミ注目シ、殊ニ其借地法ヲ精密ニ完成センコトニ注意セリ、此ノ如クシテ登簿者ハ自己ノ安全ヲ知りタル後ハ其主人翁ノ蹙面ヲ為スニ任セテ、復深ク之ニ挂慮セザルナリ、” 勞 尔 德 馬 高 黎 方、（マカウレイ） 千六百六十年ニ算スル所ニ依レバ、土地ノ所有者ハ十六万人ニシテ、其家族ヲ合セテ国民全數ノ七分ノ一ニ居レリト、此時代ニ於テ登簿者及ヒ是ト同様ナル借地法ハ、服役ノ借地法ト變ジ、国王ノ支配ノ下ニ立ツコトトナレリ、十八世ノ中葉ニ至リ、土地ヲ以テ小ナル所有者ニ分配スルコトハ妨碍ナク之ヲ行フコトヲ得ルニ至レリ、然レドモ此時ヨリ以後ハ、此事遂ニ廢絶シ、勢力ヲ中心ニ集ムルノ傾向起レリ、故ニ此時ヨリ以後ハ、英国ノ借地ノ歴史ハ唯平民ガ貧人ノ權理ヲ蔑視シテ土地ヲ困ヒ込ミ、従前ノ習慣ヲ顧ミズ、小ナル所有地ヲ吞併シテ大ナル田産ヲ作り、国民ガ高等ノ利益ヲ顧ミズシテ、郷士ノ種族ヲ絶滅セシムル等ノコトヲ記スルニ過ギズ、千七百零一年ヨリ千八百六十七年マデノ間ニ、英国中ノ田地牧地ノ三分ノ一ハ富人ノ為メニ併合セラレタリ、其方法ハ預メ土地ヲ取ランガ為メニ金錢ヲ貸シ付クルニ由リテ之ヲ成ス者多シ、

○年限ヲ定メテ土地ヲ貸スコトハ常例外ノコトトナリ、中古ノ時ハ九十年ヲ限リテ貸シタル者ハ今ハ九年ヲ以テ限リトシ、且ツ其數モ中古ノ時ヨリハ甚少ナシ、土地ハ大抵ラツキレントトナル、即チ市場ニ於テ

定ムル所ノ最高ノ借料ヲ以テ之ヲ貸スナリ、此ノ如キ土地ハ大抵巨大ノ産業ノ内ニ合併セリ、是ニ由リ所有者ノ數ハ減シタレドモ、其所有地一個ノ面積ハ増大セリ、其土地中ノ少人口ハ市場ニ出ツルコトアリ、然ルトキハ想像ノ價ヲ以テ是ヲ田舎ニ住居セル富人ニ賣與スルナリ、勞作ヲ為ス種族ハ次第々々ニ貧窮ニシテ、且ツ他人ニ從屬スルコトトナル、工錢ヲ授受スルニ由リテ生シタル外ニ、地主ト小民トノ間ニ一種ノ情愛アリシ者、今ハ之ヲ亡失セリ。實ニ國中ニハ復タ真ノ農業ノ民ルラル、ボビコレーショントイフ者ヲ見ズ、所謂農業ノ民ハ政治交際經濟ノ目的ヲ完成スル者ナリ、土地ヲ有セル郷士ハ其數已ニ大ニ減シ、政治上ニハ少シモ其勢力ヲ有セザル者ナルガ、猶益々其數ヲ減ズルノ勢アリ、借地ノ田戸ハ其借地ノ安全ヲ失ヒ、政治上ノ獨立ヲ失ヒ、又自己ノ田地ヲ耕作スルノ幸福（往年ハ嘗テ之ヲ得タリシ者）ヲ失ヘリ、終リニ至リ、貧小ノ農民ハ真実ノ意味ニテ其土地ヲ失ヒ、又其要望ノ外ノ義ヲ以テ有セル土地トノ結合ヲ失フノミナラズ、經濟上ノ点ニ於テ、前世期ノ時ニ在テ彼等カ立チタル地位ノ下ニ降レリ、是ニ由リ其土壤ハ天賜ノ利アリテ、多數ノ幸福ノ人民ヲ養フニ足ルベキ土地モ、今ハ開化ノ世界ニ於テ、稀少ニシテ且ツ幸福ナキ農民ヲ有スルニ過ギザルナリ、

“ 一時ハ小民ヨリ豪族ニ至ルマデ、共ニ土地ヲ所有シ、小地ヲ有セル者ハ大地ヲ得ンコトヲ望ミシニ、今ハ大地ヲ所有セル者ハ小地ヲ有セル者ヨリ其地ヲ取ルノミナラズ、兼テ小民ノ廬舎、加之、居室ヲモ

奪フニ至レリ、一時ハ最下等ノ地位ヨリ最上等ノ地位ニ登レル者アリシガ、今ハ何レモ最上等ノ下ニ立チテ、夫々ノ等級ノ内ニ在リテ運動ヲ為スコトトナレリ、”

○第八十四章 衆人其事相ノ此ノ如キニ至レルヲ觀テ其原因ヲ考へ、往昔社會ノ傾向專ラ土地ノ分配ニ在リシトキニ人民ノ働甚タ強健ナリシコトニ考へ到ラザル者ナシ、或人ハ曰ク此ノ如ク土地ノ状態ノ悪シクナリシハ久シク藉土（封建）ノ法ヲ行ヒシト、英國ニ於テ借地法ラント、テニ行ヒシ故ナリト、余儕ハ此見ヲ以テ最モ誤レリトス、藉土法ヨリ生シタル借地ノ法ハ、豪族ヲ費サシメテ小民ヲ益スルニ甚タ有力ナル者ナリ、此借地法ノ形式ハ半定ハフテハイネドニシテ且ツ抵抗論アル權理ト共ニ、查尔斯第一ノ復位ノ時ニ於テ、英國ノ法律ヨリ除去シタル者ナリ、實ニ英國ノ良善ナル大族ハ、高等ノ民ト下等ノ民トノ關係ノ意味ヲ知ル為ニ、又土地ノ義務ノ意味ヲ知ル為ニ、新ナル形式ノ中ニ旧時ノ精神（藉土ノ法ヲ永続セシ所ノ）ヲ保持セリ、小民ノ借地ハ地券ナクシテ自ラ安心セリ、其故ハ當時ノ大族ハ不正ノ術ヲ以テ小民ヨリ利益ヲ取ラザルコトヲ知レバナリ、大族ノ言ニ、小民ノ家族ハ其堅固ナルコト借地券ニ勝レリト、

○又或人ハ是ヲ以テ長子ノ權理ヲ重ンズル法則ノ不正ニ歸セリ、謂ヘラク此法ニ依リテ民ノ全産業ハ尽ク長子一人ニ歸シ、其兄弟姉妹ハ之ニ與カルコトヲ得ズト、此規則ハ實ニ弊害アル者ナリ、然レドモ此規則

ハ小ナル田産ヲ併呑スルノ媒トナルヨリハ、寧ロ大ナル財産ヲ分割セズシテ保守スルト云フニ過ギザルナリ、実ニ巨大ノ金額ヲ地主ノ手ニ附シテ之ヲ買ヒ取ルコトアルヨリシテ、直接ノ併呑ノ術ノ行ハレシコトハアリシナリ、然レドモ此規則ハ此時代ニ作りシ者ニ非ズ、英國ノ郷土ガ零落ヲ初メシヨリ以前ニ、久シク行ハレタル者ナリ、

○或人ハ又是ヲ以テ土地ノ賣買ニ付キテ適當ノ記録法ト授受法ナキニ歸セリ、是亦実ニ大ナル欠典ナリ、然レドモ是亦上ニ記セル貧富両民間ニ弊害ノ起リシヨリ久シク世ニ行ハレタル者ナリ、此欠典ハ富民ヲシテ貧民ノ土地ヲ買収スルニ甚タ我侷ナルコトヲ到サシメシ者ナリ、

○第八十五章 此真正ノ原因ハ哥勒利日力指定セシ如ク、英國ニ於テ農業ノ經濟ノ中ニ、單純ナル商賣ノ格言ヲ持込ミタルニ在リ、元來英國人ノ長セル商業ノ精神ハ、此國ノ農民ノ大數ガ其田地ヲ離レシ時ニ於テ大ニ其度ヲ進メタリ、此事ハ前時期ノ中葉ニ在リシコトナリ、英國ノ經濟ハ<sup>「アダム スミス」</sup> 斯密士ノ時ヨリ(大ナル例外アレドモ)此精神(商賣)ノ表号トナレリ、此精神ニ依リテ公衆ノ意見ヲ作り、之ヲ以テ立法ノ趣意ヲ抑制シ、又諸族ノ民ノ勉業ノ方法ヲ抑制セリ、又之ニ依リ、地主ヲシテ其邦國ヲ保管スルノ意見ト、其土地ニ帰スル義務ト、其土地ヲ耕作スル小民ヲ保管スルノ意見ヲ失ハシメタリ、又之ニ由リテ人ヲシテ商賣物ノ産出ト、之ヲ廉價ニスルヲ以テ、其事業ノ大目的ト為サシメタリ、

「社會學譯稿 一」解題

「社會學第二冊」解題

「社會學譯稿 一」は、八二七—一七「社會學譯稿」に単独でまとめられている。

「社會學第二冊」は、八二七—一〇三「雜綴」八號に、「英國憲法ノ主要ナル原理」「政体通論」「道德學 Alexander Bain」とともに合綴されている。

「社會學譯稿 一」「社會學第二冊」は、Robert Ellis Thompsonの著述である *Social Science and National Economy* の部分訳である。

原書は、一八七五年に初版が出ており、確認できた一九七五年版と西村翻訳に矛盾するところはない。

原書本文は、Chapter I から Chapter XII からなり、すべての Chapter に通し番号を付して三四六項目としている。西村は、Chapter を篇とし、通し番号の項目を章としている。原書は、目次で項目の内容を簡略に示しており、西村も、それを踏襲して「目次」立てている。

「社會學譯稿 一」では、Chapter IV の終わり、項目七十四まで訳している。目次の終わりに「七十三章ニ至ル」としているが、正しくは「七十四章ニ至ル」とするところである。「社會學」は、項目七十五から八十五まで、つまり Chapter V の前半まで訳している

「社會學譯稿 一」の目次の見出しは、「社會學第一冊目録」となつて

いるから、これと「社會學第二冊」は一体のものである。第一冊、第二冊の区分は、原書の区分にもとづくものではなく、恐らく、西村の翻訳作業上の都合によるものであろう。

ところで、改めて注意したいことは、西村が、「社會學」という用語を用いていることである。これは、Social Science の訳語であるが、Social を交際と訳していた時期があるから、社会と訳すことは訳語における転換である。

また、この社会学の内容である。西村には、別に「社會學講義」という著述がある。『増補改訂 西村茂樹全集』第2巻）そこでは「社會學ハ原語ソシオロジイトイフ。社会学ノ訳字甚ダ穩当ナラズ。(中略) 姑ク習慣ニ従ヒテ社会学ト訳ス。」と述べて(同、五八九頁)、社会学を Social Science の訳語とするのとは異なっている。

「社會學譯稿 一」第一章では、社会学は「人類ヲ以テ、社會ヲ成ス者ト見做シ、又其有形物ノ要須ト其安全トノ干係ヲ論ズル者ナリ」されている。そこで、この学問を実用にもたらず場合には、ナシヨナル エコノミーという名義がよろしいとするのである。

この第二章で、コントに言及しているが、コントのソシオロジイとしての社会学と、ここで社会学と訳したものとは異なっているのである。Society' Social の訳語、また、Social science の訳語が不安定であったのである。

Robert Ellis Thompson は、一八四四年に北アイルランドに生まれ、十三歳の時、家族とともにアメリカに移住した。彼は、はじめ数学の教師としてペンシルバニア大学に勤務し准教授になった後、一八七四年に Social Science の教授となった。一八七五年に出版されたこの翻訳原書は、教授としての第一作ということになる。

英国 若ル日果沐<sup>ゼオルジゴーム</sup> 著

日本 西村 茂樹 譯

第一篇

道學ノ根基ヲ論ズ

○余カ道徳学ノ序論ニ於テハ、衆説ヲ聚メテ尽ク之ヲ論挙スルコト能ハズ、余ガ此學ヲ講説スルノ務ハ、壯麗ノ語ヲ以テ道學ノ位格ヲ宣揚スルニ非ズ、又、公私ノ幸福ニ就キテ、道學ノ最モ肝要ナルコトヲ演述スルニ非ズ、惟目今此學ノ成立セル現状ヲ説キ、更ニ後篇ニ於テ之ヲ學フ所以ノ方法ヲ示スニ過キザルノミ、故ニ余ハ、汝等ガ余ノ講説ノ詳細ヲ闕クト、其議論ノ簡畧ナルトヲ尤ムルコトナカランコトヲ望ムナリ、余又汝等ガ此講説ノ最初ノ意味ノ深艱ナルニ由リテ、其心ヲ屈セサランコトヲ願フ、余ハ務メテ其意義ノ了解シ易キコトヲ欲スルナリ、後篇ニ至リテハ、漸々實際ニ及ヒ、意味モ自ラ平易ニ至ランコトハ今ヨリ預メ汝等ニ約スル所ナリ、

○余儕カ此學ニ於テ第一ニ考究スベキコトハ道學ノ根基ナリ、即チ道徳ノ本分タル所ノ天然ノ基礎<sup>オチエラル、ハオデューションズ、モラル、オクリゲーション</sup>、是ナリ、

○此事ニ付テハ二個ノ疑問アリ、其語氣ハ甚相近シト雖ドモ其意味ハ甚相異ナリ、故ニ能ク注意シテ之ヲ分別セザルベカラズ、其一ハ曰ク、如何ナル行為ヲ以テ有徳ノ行為トスルカ、其二ニ曰ク、行為ヲ有徳ニ為ス

ハ如何ナル者ゾ、第一問ニ答ヘントスルハ、甚難キ事ニ非ズ、曰ク我同儕ヲ愛スルハ有徳ノ行為ナリ、恩アル者ニ報ユルハ有徳ノ行為ナリ、我身ノ本分ヲ尽スハ有徳ノ行為ナリ、上帝ヲ愛スルハ有徳ノ行為ナリ、此ノ如キ類猶許多アルベクシテ之ニ反スル者ハ悪行タルベキコトハ大抵衆人ノ能ク知ル所ナリ、然レドモ第二問ニ於テ、此ノ如キ行為ハ何故ニ有徳ナルカ、余カ同儕ヲ愛シ、又ハ人ノ恩ニ感シ、人ノ窮ヲ救フコトハ何故ニ有徳ノ行為ナルカト問フニ及ンデハ、古来ヨリ理學者ノ之ニ答フル所以同シカラズシテ、或ハ全ク相反對スル者アリ、徳ハ何物ヲ以テ徳ヲ構造セルカトイヘルコトヲ發見セルハ、道學ニ於テ根基ト為スベキノ要点ナリ、此要点ノ立チシニ由リ、吾等ノ如キ道學ヲ考究スル者ヲシテ、其門ロニ於テ先ツ一個ノ困難ニ逢ハシメタリ、

○凡ソ人タル者ハ一定セル知慧ト身体トノ構造ヲ受得スルトイフコト衆人ノ知ル所ニシテ、道徳ノ天然ノ根基ヲ尋ヌルハ、必ス知慧身体ノ管係ノ間ニ於テスベキコトナリ、然ルニ理學者ガ此構造ニ就テ了知スル所甚タ完全ナラズ、是道徳学ノ今ニ至リテモ猶明快ヲ欠ク所以ナリ、

○人タル者ハ、最モ重要ナル道徳ノ心情<sup>エモシナル者</sup>ヲ固有セルカ、固有セザルカノ事ニ付キテ、理學者ノ議論一定ニ歸スル事能ハズ、所謂道徳ノ心情トハ、仁愛或ハ公正ノ感覺ノ如キ是ナリ、此論一定セザルニ由リ、道徳ノ根原ヲ考究スルニ付キテ、確乎タル基礎ヲ定ムルコト能ハザルナリ、第十七期ノ時霍比寺<sup>ホッペス</sup>、書ヲ著ハシテ此事ヲ論ゼシヨリ、理學者ノ起

リテ霍比寺ノ説ヲ駁撃スル者甚多シ、霍比寺ノ説ニ、政府ノ官吏ノ命令スル所ノ法則ハ、道德ノ至極ノ準度ナリト言ヘリ古得富士ハ謂ヘラク、余等ガ邪正ヲ辨別スルノ根元ハ、心ノ内ニ真ト偽トヲ區別スルノ良能アルニ由リテナリト、曼德維ルハ道德ハ公衆ノ賞譽ヲ求ムルガ為メニ、自己ノ利益ヲ棄擲スルニ由リテ得ル者ナレバ、徳ヲ名ケテ、傲慢ノ上ニ詔諛ノ生シタル政畧ノ子孫、トイヘリ、度トク格拉克クラックハ徳ハ事物ノ宜キニ合フ様ニ行為スル中ニ存在スト云ヘリ、馬マスタ休母ヒュームハ要益ユウイキハ徳ノ結構及ヒ方法ナリト言ヘリ、度、許知孫ヒューチンハ人ニハ道德ノ感覺トイフ者アリテ、徳ノ根元ヲ為スト言ヘリ、度、伯利ペーリイハ、人ニハ此ノ如キ良能アル者ニ非ズ、徳トイフ者ハ、永世ノ福ヲ求ムルノ心ヨリシテ上帝ノ意思ニ從ヒ、人類ニ対シテ善キコトヲ為スニ由リテ之ヲ得ル者ナリト言ヘリ、度、亜當アダム斯米士スミスハ、交感ノ情シニスハ道德ノ褒賞ヲ得ル根元ナリト言ヘリ、度、黎徳リード馬ステア斯低瓦スティーヴ、度、托馬伯羅温トーマス・ブローケンハ、道德ノ良能モラルト云フ者アルコトヲ主張セリ、（サ）沙ゼーム葱米士マツキント末金多詩マツキンハ良心ハ交際ヲ立ル者ナリトイフ、度、拉弗瓦多老ラルフワルドラウ、千八百三十四年格拉斯哥グラスゴウニ於テ道学ノ書ヲ公行セリ、其書ニ謂ヘラク、良心ナル者ハ、判断ヲ除ケバ復他ニ一物ナシト、

○以上ノ諸説ヲ併セ看ル時ハ諸家ノ論スル所ノ徳ノ根基ナル者ニ大ナル差違アリテ、未タ道德學ノ上ニ起レル争論ヲ裁断スルノ論者アルコトヲ見ズ、故ニ道德ノ理學ニ於テ、徳ノ成立スルコト即チ、其成立ノ可能ホツシト云フ者ハ、猶未タ疑問ノ中ニ在ルナリ、度、瓦多老ワルドラウ曰ク、古今ノ理

学者徳ヲ論ズル者ハ化學者ノ水ノ成分ヲ論ズルト相似タルコトアリ、其検査考究セントスル所ノ水、若シ慢流ナル河川ノ床ヨリ取ル者ニシテ、其川ハ工場アル大都邑ノ中ヲ流レ、尋常ノ汚瀆ヨリ吐出スル者ナル時ハ、其水ハ簡一ノ雜物ト、化成上ノ親和力トニ由リテ、此中ヨリ出タル泉源ト一体ト為リテ甚タ汚穢トナレリ、此ノ如キ汚穢ノ水ヲ各分析シテ其成分ヲ知り、世界ノ水皆此ノ如キ成分ヲ含メリト思ヒ、其説ヲ天下ニ公行セバ果シテ如何ン、古今理學者ガ、世間尋常ノ人ノ有様ヲ觀テ、其道德ノ根基ヲ論ズルハ、汚水ヲ分解セル化學者ト同様ニシニシテ大ニ其真ニ違フコトナルベシ、此ノ如キ化學者ハ常ニ汚水ヲ分析シテ自ラ足レリトシ、其原ニ遡リテ山中ノ泉水ノ清淨ヲ求メザル者多シ、

○瓦多老ハ今論スル通り、人心ノ結構ニ依據リテ、道德ノ根基ヲ求ムルコトヲ非ナリトセリ、瓦多老更ニ左ノ論ヲ以テ益其説ニ力ヲ添ヘタリ、曰ク、（サ）教長拔多列バットレレハ云フ、人類ノ性ノ道德ニ適當セルコトハ、時辰儀ノ時刻ヲ測ルニ適當セルガ如シト、然レドモ時辰儀ノ如キハ之ヲ取扱フ者大ニ其用法ヲ誤ルトキハ、其運動力及ヒ之ニ付属セル諸部ノ力尽ク其常度ヲ失ヒ、或ハ早キニ過ギ、或ハ遅キニ過ギ、或ハ固定シテ動カズ、或ハ動揺シテ定マラザルノ害ヲ生ズ、若シ之ヲ本来ノ常度ニ復セシメントスルニハ、全ク之ヲ改造シ殊ニ其大運動力ヲ調整セザルベカラズ、誠ニ看ヨ、古今ノ如キ零落セル人類ノ性質ハ、果シテ時辰儀ト比較シ得ベキ者ナリヤ否、時辰儀ハ其全部ノ機器尽ク順序ヲ失ヒタル者ニシテ、

大発條ハ己ニ毀折シ、其機關ノ諸部尽ク抗敵ノ働ヲ為セリ、拔多列ハ時辰儀ノ譬喩ヲ假リテ人ノ性質ヲ説クト雖ドモ、其相同シカラザルコト此ノ如シ、時辰儀ハ能ク調整シタル時ハ、全ク其順序ヲ乱ルコトナシ、此事ノ比喻ハ人間最初ノ有様、即チ造物者ガ始メテ人ヲ造リタル時ノ有様ニ用フベクシテ、今日ノ如ク其良性ヲ失ヒタル人類ノ比喻ト為シ難シ、此ノ如ク悪キ方ニ変ゼル人性ハ再ヒ調整シテ順序ヲ齊フルコトヲ得ベキ器械ニ非ズ、即チ其種々ノ運動ヲ制スベキ所ノ本来ノ力ハ既ニ破摧亡失シ、之ニ反スル所ノ不正ノ力之ニ代リシヲ以テ、造物ノ大自在力ヲ以テ之ヲ再造スルニ非ザレハ、再ヒ本来ノ性ニ復スルコト能ハザル者ナリト、

トヲ得ザランコトヲ、此ノ如キ人ハ余カ説ヲ容レザルコト、前ニ引用セル異説ノ諸人ト異ナルコトナカルベシ、前ニ引用セル諸人ハ皆有名ノ學士ナレドモ、其自ラ決定セル所ハ、唯自己ノ自覺力オオコシキ又ハ人類ノ活動ニ注目シタルノミニテ、人ノ心ノ本来ノ能力ヲ究知スルコトヲ務メズ、譬ヘハ今爰ニ過食過飲スル人アランニ、胃腑ノ本来ノ能力ヲ知ラザル者ハ之ヲ見テ、人類ノ性ノ固有ノ趨向ト為シテ其人類ノ用法ヲ知誤マレル悪事ナルコトヲ知ラザルガ如シ、故ニモシ骨相学ナキトキハ、余ハ吾足踵ノ立定所ヲ知ルコト能ハズ、余又嘗テ骨相学ニ頼ラス獨リ推理ノミヲ以テ道学ノ根礎ヲ求メンコトヲ務メシカドモ遂ニ得ルコト能ハザリシナリ、若シ心ト形体トニ天造自然ノ通和ナキ時ハ、人類ノ職分ヲ判断スルノ途ナカルベシ、余故ニ汝等ガ能ク骨相学ノ主義要領ヲ會得センコトヲ望ムナリ、然ル後、余其主義要領ニ依據シテ、今日甚混淆錯雜セル道学ノ結節ヲ解カント欲ス、余又此学ノ主義ニ頼リテ更ニ造物者ノ他ノ工事ナル美麗智慧等ノコトニテ説キ到ルコトヲ得ベキヲ知ルナリ、

○余ガ此講説ニ於テハ道学ノ根基ヲ以テ全ク骨相学オオコシキノ上ニ在リト定メタリ、故ニ余カ講説ハ、善ク道德ノ学ニ心ヲ用フル人、及ヒ腦ハ諸機關ノ集合セル所ニシテ、一機關亦各個ノ能力ヲ具フルト云フコトヲ了知セル人、体格ノ其他ノ組立モ同様ニシテ、能力ノ大小ハ機關ノ大小ニ準スルトイフコトヲ了知セル人ニ之ヲ聞カシメント欲スルナリ、若シ此形体ノ真理ノ證據ヲ了知セザルノ人ニ対シテハ恐クハ快ク余カ講述スルコ

○第一徳学ハ即チ造化学オオコシキヨリ成ル者ナリ、瓦多老ハ人ノ心ヲ以テ時辰儀ノ如キ物ナリトシ、若シ其大発條ヲ折り、機關ノ諸部、反抗ノ運動ヲ起ストキハ進ムベキ者却テ退キ、或ハ忽然トシテ進ミ、忽然トシテ退ク者ナリト云ヘリ、此説ヲ信用スル者ハ唯心ノ分解力ヲ知ラズ、史書ノ暗紙ノ外ハ真理ヲ試ムルコトヲ知ラザル人ノミナルベシ、骨相学士ノ如キハ心ノ機關ヲ了知セルヲ以テ其見已ニ早く其上ニ出タリ、今マ人腦ハ

心ノ機関ノ集合セル者ナリト云フ説ヲ以テ定論ト為ス時ハ、問フ其機関ヲ作ルハ何人ニシテ其機関ニ此ノ如キ其妙ノ力ヲ與ヘタルハ何人ゾ、是ニ答フルハ唯一様ノ語アルノミ、曰ク上帝ナリト、故ニ吾儕若シ心ノ機関ト其職分トヲ学ヒ知ルトキハ、直チニ人心ノ本来ノ泉源マテ遡ルコトヲ得ベシ、吾儕今心ノ機関職分等ヲ記シ、自以テ已ノ所為ナリト思ヘドモ、其実ハ上帝ノ手指ヲ以テ印記シタル者ナリ、心ノ機関已ニ上帝ノ造為スル所ナレバ、心ノ働ニハ自ラ一定ノ範圍アリテ之ヲ脱スルコト能ハザルコトヲ知ルベシ、故ニ吾等力此学ヲ為スノ第一歩ハ此範圍ヲ明ニ発見シテ範圍ノ内外ノ境界ニ一條ノ線ヲ画スルニ在リ、然ル時ハ前ニ記セル理学者ガ自己ノ自覺ト、人類ノ動作トノミニ依據シテ説ヲ立ル者ニ比スレハ其大ニ勝レルコト甚明白ナリ、

〔原書三十頁半ばまで〕

### 第三篇 〔原書六十六頁から〕

道德ノ本義ヲ知ルコトノ利益、一人自己ノ職分 存養セルツ、カ  
ルチユル

○余既ニ前篇ニ於テ、人ノ行為ニ邪正アル所以ノ理、并ヒニ職分ヲ忘ルニ由リテ罰ヲ受ケ、之ヲ成就スルニ由リテ賞ヲ受ル所以ヲ論ゼリ、今更ニ其説ヲ進メテ、教長バットレル拔多列力其著書ノ「自然及ヒ明命ノ神教ノ分解」書名ニ於テ可賞スル所ノ意見ヲ説カントス、拔多列曰ク「現今ノ実境ニ就テ論スル時ハ、凡ソ人類ノ幸福ヲ得ルト、又患難ニ逢フトハ大抵ハ人類ノ自己ノ力ニ由リテ之ヲ得ルコトナリ、總テ快樂ト苦悩トハ共ニ自己ノ行為ヨリ生スル者ニシテ、吾儕、造物者ヨリ、此後來ノ成果ヲ先見スルノ智ヲ賜ハレリ、凡ソ幸福ノ種類ト等級トハ皆我行為ノ種類ト等級トニ由リテ得ル者ニシテ、是ヨリ外ニ幸福ノ種類等級アルコトヲ見ス、又我儕今日ヲ安全ニ經過スルハ智慧ト注意トニ由リテ得ル者ニシテ其他ニ之ヲ得ヘキノ途アルコトヲ知ラズ、又之ニ反シテ、自己ヲ痛苦セシムルハ、皆自己ニ暴怒ヲ発シ、情慾ヲ制セズ、我偃又ハ怠惰等ニ由リテ之ヲ得ルノ外他道アルヲ聞カズ、然ルニ人々其必ス苦悩ヲ受クルノ途ナルコトヲ知りテ、猶此ノ如キ惡徳ヲ行フ者ノ多キハ是自己ニ苦悩ヲ樂ム者ノ多キナリ、教示、先例、經驗ニ據リテ之ヲ見ルニ、是ノ如キ惡徳ヲ行フ苦悩ヲ樂ム者ハ遂ニ賤侮、貧困、疾病、死亡ヲ得ルニ至ルベシ、縱令惡徳ヲ行フ者ハ尽ク悪シキ結果ヲ得ルトイフニハ非ザレトモ、凡ソ邪正ノ行為ノ應報ノ常ノ此ノ如クナルコトハ衆人ノ普ネク信スル所ナリ、”

○世間ノ人ノ通感<sup>コムモ</sup>ハ皆以上ノ説ニ同意スベシ、余ハ更ニ此抜多列ノ説ヨリ進行スルコト一步ニシテ、造化自然ノ整理ノ順序ヲ説カントス、抜多列カ言フ所ノ後來ノ成果モ亦此外ニ在ラザルナリ、此事ハ理學ノ実体上ノ要点ニシテ、前人カ道學ノ基礎ニ付キテ種々ノ異説アルモ、今余カ其事ニ付キテ演述スル所アラントスルモ、皆此内ニ在ルコトナリ、從來先哲ノ道學ノ基礎ヲ論スル者皆吾儕人類ノ体格ノ構造ノコトニ説キ到ラザルヲ以テ、是ヲ自然ノ情勢ニ揆ルトキハ、或ハ相齟齬シテ合ハザルコトアリ、凡ソ古人ノ人心ノ結構ヲ論ズルト、造化ノ法則ノ運用ヲ論スルトハ、共ニ虧欠アリテ完全ナルコト能ハズ、是ヲ以テ道學ノ根元ヲ論スルニ到リテモ亦從テ缺失ノ論多シ、此ノ如キ學士ノ道德ヲ論ズルハ、譬ヘバ人ニ単ニ技術ノミヲ教ヘテ、其技術ノ根元トナル所ノ學問<sup>サイエ</sup>ノ本義ヲ教ヘザルガ如シ、

○伯利ノ道德説ト余カ道德説ト異ナル所以ハ下ニ説ク所ヲ以テ其得失ヲ了解スベシ、今爰ニ醸造ニ熟練スルノ人アラン、其人能ク一定ノ時限ノ間大麦ヲ水ニ漬スコトヲ學ヒ、又其大麦ヲ數時ノ間石床上ニ攤グルコトヲ學ビ、又之ヲ甕中ニ乾シテ麦芽トスルコトヲ學ビ、又其麦芽ヲ磨碎シ、熱湯ヲ灌キテ之ヲ混交スルコトヲ學ビ、又其濃液ニ葎<sup>ホツ</sup>ヲ加ヘテ煮、其液ヲ放冷シ、已ニ冷タルトキ醱酵<sup>ホツ</sup>ヲ之ニ加フルコトヲ學ビ、又數日間之ヲ置テ醞釀<sup>ホツ</sup>セシムルコトヲ學ベリ、尋常才智ノ人ハ能ク此法ニ習熟シテ良善ノ麦酒ヲ釀造スルコトヲ得ベシ、然レドモ此ノ如キ變成醱熟ス

ルハイカナル天然ノ化成ノ力ニ由リテ然ルカヲ知ル者ハ甚罕ナリ、醸造者ハ常ニ麦芽ノ沸醱或ハ早キニ過キ、或ハ遅キニ過クル時ハ良品ノ麦酒トナラザルコトヲ知レリ、然レドモ經驗ヲ積ム時ハ、或ハ其遲速ノ度ヲ量ルコトヲ知レドモ、確乎ト之ヲ判断スルノ力ハ甚タ乏クシテ、治療ヲ為サント欲シテ反テ之ヲ損害スルコトアリ、約シテ之ヲ言ヘバ此醸造者ハ、良品ノ麦酒ヲ醸シ得ル所以ノ法則何如ンヲ知ラザレトモ、習慣ノ練歴ニ由リテ工ミニ麦酒ヲ醸スコトヲ知リタル者ナリ、此醸造人ガ醸製ノ法則ヲ知ルコトノ難キハ左ノ故ニ由リテナリ、大麦ハ有機体ノ物ニシテ、其變化ヲ生スルハ、一ハ自己ノ構造ニ由リ、一ハ其水ニ漬スト多ク重積スルトニ由リテ生セル濕潤ノ氣ニ大氣ノ感ヲ受ルニ由リ、其他其原因ノ知ルベカラザル現象トニ因ル者ナレバナリ、又麦芽ヨリ得ル所ノ濃液ハ、温度、電氣、及ヒ其他ノ感ニ由リテ容易ニ變化スベキ者ナレドモ、學問ノ力ナキトキハ其此ノ如ク變化スル所以ヲ知ルコト能ハズ、若シ麦酒ニ用フル料物、スベテ木石ノ如キ純ナル受動物ナルトキハ其習慣ヨリシテ、一般ノ規則ヲ知ルコトヲ得ヘシト雖ドモ、大麦ノ如キハ活動物<sup>エッセ</sup>ナルヲ以テ、其變化活動スル所以ハ、外面ヨリ來レル諸物及ヒ諸物ノ結合ニ因ル者ナルヲ以テ、醸造者若シ學問上ヨリ其物料ノ性質ヲ知り、其物ノ外ニ感觸スルヨリシテ一様ナラサル變化ヲ生スルコトヲ知ルニ非サレバ、決シテ其物ノ成果ヲ確定スルコトハ能ハザルベシ、此人、學問上ヨリ其料ノ性質ヲ詳明シタルノ後始メテ之ヲ以テ、何レノ時ニモ能ク適応ノ醸

法ヲ行フコトヲ得ルナルベシ、此ノ如クシテ猶其結果正確ナラザル者ハ、即チ其學問ノ猶缺失アルノ徵候ナリト知ルベシ、

○此説明ハ道學ノ論旨ニ用フルコトヲ得ベシ、吾等人類ノ狀ヲ經歷上ヨリ見ル時ハ亦一個ノ活動物或ハ進動物ニシテ、固有ノ材能ハ其逢フ所ノ時ト地トニ由リ、人々同シカラズシテ、又他人ヨリ受クル所ノ奮勵抗逆等ニ由リテ各其活機ノ發動ヲ異ニセリ、此ノ如ク其逢フ所ニ從ヒテ發見スル現象ヲ理會スルハ、唯人類ノ天性ヲ了知スル者ノミ之ヲ能クスルコトヲ得ベシ、又此天性ヲ知ルヨリシテ、人タル者ハ何故ニ特別ノ行路ヲ踏マザルベカラサル者ナルカノ道理ヲ知り、職分ヲ勤ムルコトヲ賞美ト相結合シ、之ヲ怠ルコトト罰責ト相結合スルノ理ヲ知ル時ハ、其職分ヲ尽スコト、單ニ命令ノミニ因ル者ニ比スレハ甚善カルベシ、尋常ノ心思ノ人ハ唯、規則ノミヲ理會シ且之ニ習熟スルハ通常ノ心思ナリ、然レドモ實ニ其規則ノ基礎ト自然ノ定法トヲ知ラサル時ハ、遂ニ其事ノ要緊ナルト威勢アルトヲ了解セズシテ、明カニ義務ノ深理ニ達スルコトヲ得サルベシ、音樂ニ巧ミナル者ハ能ク他ノ樂人ニ節奏ノ微妙ヲ感セシムルコトヲ得、然レドモ若シ樂ヲ聴クノ人音樂ニ達セザル者ナル時ハ、何程力ヲ勞スルモ遂ニ其人ヲ感セシムルコト能ハズ、然レドモ此ノ如キ人ニ音樂ノ微妙ノ理ヲ教ヘンガ為ニ、問答法ヲ用ヒテ、己ガ會得スル所ヲ標示スル時ハ、是ニ由リテ音樂ノ法則ヲ人ニ觀覽セシムルコトヲ得ベシ、此ノ如ク觀覽スベキ所ナキ者ハ良善ナル音樂トハ言ヒ難カルベシ、

○凡ソ造化ノ法則ハ或ハ各個獨立ニ其功用ヲ逞フスル者ナレドモ、其間ニ自ラ管係シテ離レザルノ迹アリ、以テ其全体ヲ提擧スルコトヲ得ベシ、此管係ニ因リテ考究スル時ハ、各個ノ法則ニ循從スルハ、其他ノ法則ヲ觀スルノ益ヲナシ、一個ナリトモ法則ニ從ハザルハ、其餘ノ法則ニ服從スルノ能幹ヲ減退スル者ナルコトヲ知ルベシ、

○例ヘバ形体フィジカルノ法則ニ服從スル所ノ人ハ總テ形体ノ害ト患難トヲ避ケ、生活上ヨリ起レル利益ト生活外ヨリ生セル利益トヲ同様ニ受クルナリ、故ニ此ノ如キ人ハ常ニ生器オルガニクノ方則、道德ノ法則、心知ノ法則ノ中ニ其身ヲ置クニ甚都合ヨキコトナリ、

○生器ノ法則ニ從フ時ハ、能ク身体ノ堅固ヲ保全スルコトヲ得ベシ、若シ吾儕ヨク我筋骨ノ組立ハ、造物者ガ我等ニ形体ノ働ヲ為サシムルガ為メニ賜與セル者ニシテ、腦ハ感覺知慧ノ働ノ為メニ賜與セル者ナルコトヲ知ル時ハ、我カ身体ヲ堅強ニスルハ、我利用幸福ノ願望ノ根元ナリトイフコトヲ了解シ知り得ベシ、身体ヨク康堅ナル時ハ、是ニ由リテ、益々形体ノ法則ヲ守ルコトヲ得ベク、又我身ノ其他ノ職分ヲモ勉メ行フコトヲ得ベシ、即チ道德心知ノ法則ニモ從フコトヲ得ベシ、能ク生器ノ法則ニ從ヒ、身体ノ健康ヲ保守スル時ハ、或ハ以前ニ形体ノ法則ニ戻リテ其身体ヲ害スルコトアルモ、更ニ良法ヲ以テ之ヲ恢復スルコトヲ得ベシ、又生器ノ法則ニ從ハザルノ人ハ我身ニ行フベキ其他ノ法則ニ從フコトヲ得ザルノ不利ヲ生スルコトアリ、例ヘハ過度ニ精神ヲ勞シ、又ハ身体ノ

運動ヲ怠ル所ノ諸生ハ、其神經ト筋トノ力ヲ弱クシ、是力為ニ身体疲羸シ、適當ノ行作ヲ為スコト能ハズ、即チ重力ノ法則ト闘フトキハ、常ニ苦惱疲倦シテ之ニ堪ルコト能ハズ、此ノ如キ人ハ亦病ヲ受ルコト易シ、若年ノ時、淫蕩ヲ以テ生器ノ法則ヲ破リタル人ハ壯年ニ至リ、十分ノ心智ヲ發スルコト能ハズ、

○道德及ヒ心知ノ法則ニ服従スル時ハ、即チ己カ体格ノ法則ニ随ヒテ、心智ノ全力ヲ働カセ、且ツ之ヲ以テ適當ノ目的ニ向ハシムル時ハ、吾等ノ行為為ク快暢満足ニシテ、之カ為メニ直接ノ快樂ヲ覺ユルノミナラズ、更ニ吾等ヲ困遶セル外物ト闘ヒ、是ヲ以テ我利益ト意思トニ服属セシメ、又吾生器ヲシテ以テ堅固活動ノ力ヲ失ハシメザルノ快樂ヲ得ルナリ、

○約シテ之ヲ言ヘバ、吾儕ヨリ造化者ノ建造シタル法則ニ従フ時ハ、人々互ニ相助ケテ自己ノ安全ヲ調護シ、此世界ハ皆吾等ガ快動シテ愉快ナルカヲ伸ハスコトヲ得ルノ原野トナルナリ、若シ之ニ反シテ造化ノ法則ノ一個ヲ犯ス時ハ、不従順ノ行為ヲ為スノ罰ヲ受クルノミナラズ、更ニ他ノ法則ニ順従スルノ力ヲ損敗スルノ悪行ニ陥ルコトナリ、凡ソ造化ノ法則ニ獨立自主ノ結構アルコトハ衆人ノ知ル所ナリ、然レドモ別ニ結合及ヒ協和<sup>ハルモ</sup>ノ行作ト云フコトアリテ、是ヲ以テ万物ノ状及ヒ其現象ニ適合セシメ、更ニ自他ノ間ノ管係ノ理アリテ相互ノ感應アルトイフコトハ又衆人ノ了解セル所ナリ、

○上帝ノ法則ノ本意ヲ知ラント欲セバ、先ツ第一ニハ世界萬物ノ状ヲ真

正ニ觀察スルコトヲ学フベシ、決シテ錯誤ノ想像ナキコトヲ務ムベシ、第二ニハ人類ノ構造、即チ人類ノ形体及ヒ心智ヲ以テ精細ニ万物ト比較スベシ、吾等固ヨリ此世界ハ樂園ニ非スシテ、吾身ハ天使ニ非ルコトヲ知レリ、然レドモ太陽及ヒ世界ノ運行シテ定度ヲ失ハザルコトヲ説ク時ハ、造物者ノ大自在力ヲ知ルベキガ如ク、人類ノ形体心智ノ原質ト能力トヲ説クトキハ、明白ニ人類ノ智慧仁愛公正ヲ知ルコトヲ得ベシ、

○此ノ如ク上帝ノ法則ノ全体ヲ解説シタルノ後、始メテ上帝カ吾等ノ構造ト他人トノ管理ニ付テ、吾等ニ垂示スル職分ノ事ニ説及ボスベシ、

人ヲ以テ獨立一個ノ物ト為シタル時ノ職分

○人類ノ諸種ノ職分ヲ説カントスルニ、先ツ第一ニ人ヲ以テ一個獨立ノ物ト為シ、自己ノ体格ト万物ノ構造トニ因リテ生スル所ノ職分ヲ説カントス、

○人類ノ此地面ノ上ニ生ズルヤ、其目的ハ、己ノ知識、清潔、慈惠、善心ノ助ニ因リテ、或ル職分ヲ行ヒ、之ニ由リテ、人類タルノ幸福ヲ受用スルニ在リ、神学者ハ上帝ヲ敬重スルヲ以テ更ニ此外ノ目的ト為ス、吾儕ガ考フル所ハ、上帝ノ法則ニ服従スルコト、即チ己カ職分ヲ完成スルコトヲ以テ人間第一ノ須要ト為スベク、幸福ヲ受用スルコトハ、其職分ヲ完成スルノコトニ従フ所ノ自然ノ伴侶ナリ、上帝ヲ敬重スルト云フハ即別ニ方法アルニ非ズ、即チ此二者ノ集合ノ結果ナリ、上帝ノ法則ノ簡易、明白、美麗、仁厚ナルヲ見ル時ハ、其睿智ト能力トヲ知ルコトヲ得ベク、

又上帝ノ道理ヲ附與シテ造リタル物<sup>モノ</sup>能ク上帝ノ意思ニ通悟シ、上帝ト協和シデ動作シ、上帝ノ善心ヲ以テ與フル所ノ幸福ヲ受用シ、其貴重ナルカヲニ由リテ養成進善スルコトニ由リテ其品格ヲ高クスルコトニ注目スル時ハ、上帝ノ榮光非常ニ高大ナルヲ見ニ足レリ、余等上帝ノ此榮光ヲ高進セントスルニハ、造物者ノ恵ミアル願望ヲ完成シ、造物者カ志謀ノ執行ヲ助ケ成スニ在リ、以上論スル所ノ人類ノ生存ノ目的果シテ道理ニ違ハザル時ハ、凡ソ自然ノ法則ニ順從スルハ、上帝カ吾等ニ命ジタル確乎タル職分ニシテ、自然ノ法則ヲ破リ又ハ之ヲ怠ルハ、上帝ノ意思ニ忤フ所ノ罪業即チ惡事タルコト明ナリ、故ニ我身上帝ノ形体及ヒ道德ヲ遺却シ、上帝カ此人民ヲ管理スルノ志謀ニ反シ、此身ヲ以テ苦惱不幸ノ現物ト為シ、上帝ヨリ法則ヲ破ルノ罰ヲ受ケ、吾身ノ無智愚昧ヨリシテ、上帝ノ造為セル世界ヲ以テ闕失ノ世界ト為シ、惟上帝ノ功德ヲ讚頌シ、

神位ニ対シテ經典ヲ諷誦シ、其他ノ信心者ノ礼式ヲ行フノミニシテ、上帝ノ榮光ヲ高クセントスルモ決シテ能ハザル所ナリ、然レドモ上帝カ吾等ニ告示スル所ノ法則ハ一個毎ニ同様ニ之ヲ觀察セザルベカラズ、凡ソ神道ノ趣意ハ上帝ヲ崇敬シ其意思ニ服從スルニ在リ、故ニ今マ吾輩ガ日々世間ノ義務ヲ務メ行フコトハ、即チ神道中ノ要素ノ部分ヲ完成シタル者ナリ、

○吾儕、能ク我身ノ健康堅固ヲ保守シ、我心ヲ以テ道德ト神聖ノ道トニ習知セシメ、以テ我知識ヲ満實セシメ、我身ノ全体ヲ以テ幸福安全ノ身

ト為シ、以テ上帝ニ對スル時ハ、是ヲ名ケテ實ニ上帝ノ善徳ト榮光トヲ發揚シタリト云フベシ、

○此意想己ニ定マル時ハ、人類一己ノ第一ノ職分ハ、我身ヲ知ルコトト上帝ノ法則ヲ知ルコトトニ在リ、余ハ余ガ上帝ヨリ賜ハリタル心智ノ力ニ、上帝ノ法則ヲ知ルベキノ能アルコトヲ了解シ、形体心智共ニ其法則ニ從ヘハ快樂ヲ得、之ニ違ヘハ苦惱ヲ得ルノカアルノミナラズ、若シ自己ノ知識ニ因リテ、吾身ノ行為ヲ以テ、体外ノ万物ト和協セシムルコトヲ知ラサル時ハ、外物ノ感ニ由リテ障害ヲ受ル者ナルコトヲ知レリ、故ニ今爰ニ言フ所ハ、吾身第一ノ職分タルニ相違ナカルベシ、

○知識ヲ得ルコトハ道德ノ職分ナリトイフコトハ上文己ニ之ヲ言ヘリ、凡ソ人類身形ノ智力構造ハ固ヨリ人ヲシテ幸福ヲ得ルニ適セサル時ハ能ハズ、父母ノ如キ、社會ノ仲間ノ如キモ共ニ自己ノ職分ヲ行フニ適セサル者ト云フベキナリ、而ルニ人類ニハ幸福ヲ受クベキノ能力ヲ具有セルヲ見レバ、此幸福ト云フコトハ上帝ノ命ズル所ニシテ、上帝ノ人類ニ對シテノ職分ナルベシ、凡ソ知識ノ種類ハ甚タ許多ナリト雖ドモ吾等カ知ラサルベカラサルノコトハ上帝ノ意思ト其法則トナリ、聖經ニ記載スル所ノ職分ヲ吾等ニ教示スルハ神明ノ役目ナリ、造化ノ法則中ノ此部分ヲ世人ニ教示スルハ理學者ノ役目ナリ、

○知識ナキノ人ハ天命ノ避ケ難キ不都合ト難渋トヲ受ル者ニシテ、己カ身体ノ健康ハ却テ己ノ撰生ヲ害シ、己カ兒子ハ頑凶ニシテ不順トナリ、

己ノ事業ハ成功ニ至ルコト難シ、知識ナキ者ハ是等ヲ以テ上帝ノ譴怒ト為シ、又ハ此地球上ニ於テ免カルベカラザル人類ノ運命ト為ス、若シ其人教門ノ信者ナル時ハ、精神ヲ凝シテ崇拜ヲ行ヒ、以テ其願望ヲ上天ニ乞フ、然レドモ猶上帝ノ眷顧ヲ蒙ラザルトキハ、其罪ハ己ガ造物者ノ志謀ヲ知ラザルト、其法則ヲ了解セザルトニ歸セザルベカラズ、故ニ此神道ノ職分ニ加フルニ、更ニ幸福ヲ得ルノ前導トシテ造物者ノ示シタル自然ノ有様ヲ知ルコトヲ以テスル時ハ、己ノ行事ト生命トニ於テ吉昌ヲ得ベキコトハ預メ之ヲ期スベキナリ、

○然レドモ造化ノ情形ヲ明詳細実ニ了知シ得ルコトハ近代ノ事ニシテ三百年以前、帰納理學 インダクティフヒイノ創起ノ時ヲ始メトシテ學術上ノ大發明ハ多クハ近キ五十年六十年ノ間ニ在リ、此理學ノ實驗ニ據ルニ、凡ソ人タル者ハ單獨ノ物トシテ考ヘシ処ニテ、改正進歩ノ質ヲ具ヘタル者ナルコトヲ知ル、其進歩長進ノ時間ニ、幼稚弱年等ノ時代アリテ、方今ノ有様ハ猶智慧開發ノ初期ニ在ルナリ、歐羅巴亞米利加ノ民ハ己ニ道理ノ生活ノ花ヲ開キタリト雖ドモ、其他ノ世界ノ大部ハ猶暗昧ノ地ニ埋没セリ、歐羅巴ニ於テ、人類ノ真ノ位地ヲ觀視シ且ツ其價ヲ定ムルノ心知ヲ有スル者ハ蓋特別ノ天才アル者アリ、是等ノ人ハ其知識ノ助ニ由リテ己カ眼力ノ達スル処ニ有徳幸福ノ原野アルコトヲ望見シ得タリ、其内ニ進入セントスルニハ道路猶遙ナリト雖ドモ、遂ニ其原野ノ美麗ニシテ豊感ナルコトヲ發見スルコトヲ得ルハ十分ニ允許ヲ受タル所ナリ、

○造化ト造化ノ法トヲ學ブコトハ、道理アリテ責任アル動物イナノ第一著ノ職分ナリト云フコトヲ知ル時ハ、由來世ノ少年輩ニ教示セシ事ハ、要益ノ趣意ヨリ之ヲ見レバ、甚タ無益ナリシコトヲ了解シ得ベシ、今少年輩モシ身体ノ構造其運用及ヒ肺臟ノ働ノ法則ヲ學ビ知ル時ハ、大氣ノ俄ニ變化シ、身体及ヒ心思共ヲ過度ニ勞動シ、空氣ノ流通セザル室ニ眠ル等ノ諸件ノ身体ニ害アルコトヲ知り、己カ居住セル地ニテハ大氣ヲ清淨ニスルコトヲ務メ、禮拜堂、戲場、講説所、及ヒ其他ノ公同集會ノ家屋ヲ建築スルコトニ於テ、能ク注意シテ寒温ノ度大氣ノ流通ヲシテ、己カ身体ノ構造ト適合セシメンコトヲ務ムベシ、即チ此知識ニ由リテ、能ク害ヲ避ケテ利ニ就クコトヲ得シムルニ至ルナリ、若シ己ガ無知ヨリシテ此法則ヲ了知セザル時ハ、我身ヲ以テ、我身ヲ害スル所ノ外物ニ觸抵シ、是カ為ニ吾身体ト心知トノ健康ヲ失フニ至ルベシ、又是ト異ニシテ、少年輩、彼羅慕路列慕士兄弟ハ牝狼ノ乳ニ由テ養育セラレ、ユネアス ウニユス威奴士ノ子ニシテ威奴士ハ愛ノ女神ナリト云ヒ、又韃靼ニハ「アクレト」「チシホン」「メグラ」トイヘル兇惡アル三個ノ女神アリテ、地球上ノ各処戰爭ト疫病トヲ發動シ、此三女神ハ死後ニ至リ蛇蝎ノ鞭ヲ以テ其罪ヲ罰セラルト云ヒ、又入必的尔ジュビテル サケン撒但ノ子ニシテ百神ノ首長ナリ、其居所ハ阿林波山ニシテ、シクロプスト名クル一眼ノ大人ヲ役使シ、其工場ハ埃德納山ノ中腹ニ在リテ、其所ニテ電條ヲ鍛鍊シ、怒ヲ發スルトキ之ヲ世界ニ擲下スト云フ如キ、其他ノ此ノ如キ詩賦上ノ靈言ニシテ實用ニ益ナキ怪

談ヲ学ヒ知リシナルベシ、総テ外教ニテ言フ所ノ此ノ如キ人神混合ノ説ハ、モト詩人或ハ彫像者ノ空想ニ出タル者ニシテ実形モナク威力モナク、人類ノ幸福上ニ毫モ感化ヲ及ボスコトナシ、今爰ニ一ノ少年アリテ己カ日夜ノ業ヲ此ノ如キ空怪ノ学問ニ費サズトイヘトモ、敢テ天譴ヲ蒙ルコトナシ、又此ノ如キ知識ヲ得タリトモ之ヲ以テ賞美ヲ得ルコトモナク、凶害ヲ避クルコトヲ得ルコトモナシ、又入必的尔ガ其長人ト共ニ武器ヲ造リ戦争ヲ起スノ史ヲ学ハズト雖ドモ、入必的尔敢テ其人ニ向ツテ電火ヲ擲ツコトナシ、又兇惡ノ三女神ノ傳ノ如キモ、或ハ之ヲ以テ撒但サタン、其父「セーリユス」ヲ傷フシ時、其創ヨリ出シ血ノ一点中ヨリ産出セシト言ヒ、或ハ之ヲ以テ「プリュト」ト「プロセルピン」トノ女子ナリト言フ、此ノ如ク其説一致セザレトモ、之ヲ詳明セザルカ為メニ此女神ヨリ災禍ヲ受シコトナシ、又北狼、羅馬ノ開創ヲ乳養セシトイフ説ヲ信ゼザレトモ此牝狼来リテ我等ヲ嚙ムコトナシ、其他古代ノ怪誕ノ説話ヲ誤ナク話セザルガ為メニ竟ニ禍ヲ蒙フリシ者アリシコトヲ聞カズ、獨リ上帝ノ法則ヲ学フコトヲ怠ルトキハ、凶害不幸必ス其人ノ身ニ及ブベシ、○然レドモ古典ヲ讀ミテ此ノ如キ奇異ノ事蹟ヲ知ルハ、全ク無用迷惑ノ所行トノミ言フベカラズ、「アイヂアリチイ」美譽ヲ加ヘタル想像ノ意ハ趣意ハ多ク詩学ノアイヂアリチイ怪説ノ中ニ存セリ、然レドモ此怪誕ヲ以テ想像術ヲ養成スルコト能ハズ、又怪誕ノ説ト美妙ノ味トヲ分別セントスルニ、言語ノ力未之ヲ分ツ十分ナルコト能ハズ、若シ想像術ニ達セント欲セバ敢テ此ノ如キ奇怪ノ説

ヲ讀ムコトヲ要セズ、造化自然ノ諸書ノ中、及ヒ和墨耳（ホメロズ、ウケルジル）、勿日爾（オビト）、阿威（オビト）の等ノ著書ノ中ニ、微妙ナル味道ヲ養成スルニ十分ニ物質ヲ具ヘタレハ就テ學フトキハ、其材料ニ乏キコトナカルベシ、

○神道ノ學士、其徒弟ヲ教育スルニ却テ上帝ノ自然ノ法則ヲ教示セザル者多シ、諸派ノ講師等、少年輩ニ惟教法信隨ノ意ヲ教ヘ込ムコトノミヲ勉メテ、上帝ノ智慧ト意思トノ造化ノ書籍ニ記載セル者ヲ誤リナク之ヲ教フルコトヲ務メズ、故ニ教門ノ徒ハ善キ教育ヲ受ケタル者ニテモ、造化ノ本体、造化ノ法則、及ヒ其賞美ト罪責トノコトニ至リテハ之ヲ知ルコト甚タ完全ナラズ、凡ソ世ノ善ク教育ヲ受タリト云フ者ハ、唯工妙美麗ナル傳奇ヨリ成レル古代ノ文学ヲ学フニ過ギズ、又人民ノ大部ハ讀ムト書クトノ教育ヲ得タレドモ未タ教師ナク書籍ナク又在上ノ人ノ勧誘ナク自己ノ力ヲ以テ知識ヲ得ルノ途ニ進ムコト能ハズ、其他無數ノ民ハ少シモ教育ナクシテ其生ヲ送ル者ナリ、今天下ノ諸国ヲ見ルニ、一モ自然ノ順序ニ從ヒテ交際ヲ行ヒ、又之ニ從テ自己一身ノ生活ノ志謀ヲ立テザル者ナシ、故ニ一身ノ構造ニモ許多ノ混淆セル機關アリ、殊ニ社會ノ交際ニハ錯雜紛互ノ關係アリテ、屢自然ノ順序ヲ撓乱セントスルコトアルハ亦常ニ知ラザルベカラザルノコトナリ、故ニモシ人類ノ幸福ヲ得ルハ惟其人ノ知識ト德行トノ度ニ准ズルトノミ思フハ大ナル謬ナリ、縱令知識ト德行ト共ニ上進スト雖ドモ能ク混淆セル我身ノ構造ノ機關ヲ知り、殊ニ紛更錯雜セル交際ノ状ヲ知りテ、己ガ学ビタル自然ノ良性ニ適合セ

シムルコトヲ知ラサル時ハ、亦遂ニ幸福祉祥ヲ受ルコト能ハザルベキナリ、

○我一身ニ就キ、即チ我身ヲ以テ一個獨立ト者トシテ考フル時、能ク我身ノ職分ヲ尽シ、我身ノ幸福ヲ高ムルコトハ何如ナル事ヲ為スニ在ルカトイフコトヲ知ルハ頗ル容易ナルコトニ非ス、凡ソ吾等ノ命運ロツトハ固ヨリ確ト定マリタル者ニテ、人力ヲ以テ其命運ヲ変シ又ハ之ヲ進善シ得ルコトハ甚微細ノ部分ニ過ギズト云フコトハ衆人ノ信スル所ナリ、若シ天命デステイノ大力ヲ以テ此吾身ノ小力ヲ指揮スル時ハ、吾等ノ力ヲ以テ変化進善シタリシ部分モ忽チ其能力ヲ失フコトハ是又衆人ノ固ク信スル所ナリ、今若シ俗間ノ人左ノ問ヲ發セバ、何ヲ以テ之ニ答ヘントスルカ、爰ニ勞力ヲ業トスルノ民アリ、其職業ハ或ハ終日構渠ヲ穿テ、或ハ石ヲ割リ、或ハ終日荷物ヲ運送スルニ在リ、而シテ日已ニ没スルノ後ハ食ヒ、眠リ、子孫ヲ生育スルトニ在リ、此ノ如キ人ニ学科ヲ教フルモ何ノ益ヲ為スカ、又爰ニ店商アリ、其職業ハ小ナル商賣ヲ為シ、帳簿ヲ誤ナク記シ、他ノ借財ヲ償却スルノミニ在リ、此ノ如キ人ニ造化ノ法則ヲ教フルトモ何ノ要用ヲ為スカ、之ニ答テ曰ク、上ニ記セル勞力人店商力為ス所ノ事業ヲ以テ人間ノ職分ヲ尽シタリ言ハゞ、世間ノ勞力人店商ハ皆人間ノ職分ヲ尽シタル完全無闕ノ盛徳者ナルベシ、然ルニ此等ノ業ヲ為ス者ノ上ニモ、更ニ高崇ナル目標アリテ、造物者モ自然ニ之ヲ養成セントスルコトアルハ衆目ノ能ク知ル所ナリ、今勞力人又ハ店商人カ日ニ營ム所ノ業ハ此標

的ニ達スルノ途ニ非ズ、トイヘドモ其標的ニ達スルコトヲ得ルハ亦甚明確信シ易キノコトナリ、若シ是等ノ人惟其日々ノ業ニノミ從事シテ他ニ求ムルコトナキ時ハ、遂ニ其高貴良善ナル賜與ヲ享クルコト能ハズシテ、道徳神聖智慧等ヲ具ヘタル身トナルコト能ハザルベシ、

○此論ニ抵敵スル者ノ説ニ曰ク、是等ノ勞力人ハ既ニ其天賦ノ材能ノ極界ニ達セリ、若シ此書ヲ以テ信ナリトスルトキハ所謂學問ナル者ハ其業ヲ其人ノ為ニハ何ノ利益ヲモ為サズル者ナリト、然レドモ彼等ノ今日ノ状態ハ、人類生存ノ真ノ甘美ヲ得ルトハ猶遠ク、交際ノ状ト、其間ニ交ハレル我身ノ有様モ猶幾多ノ改正ヲ為サズルベカラズ、我身ト身外ノ万物トニ就テ知識ヲ得ルハ、是等ノ利益ヲ生スル為ノ良手段ナリト云フコトヲ了解スル時ハ、知識ヲ得ルトイヘル職分ハ百事ヲ改善進修スルノ根據ナリト云フコト知り得ベシ、若シ人民ノ大部分ハ現今ノ無知、患苦ノ有様ノ上ニ出ルコト能ハザルト定マリタルコトナラバ、上帝其公正ト仁恵トノ徳ヲ此世界ニ表彰ストイヘル想案ヲモ直チニ打棄テザルベカラズ、○余今、汝等ヲシテ真実ニ此思案ヲ了解セシムルコトハ頗ル容易ナルコトニ非ズ、然ル所以ハ、此事ニ就テ古理学ト新理学ト大ニ其意見ヲ異ニスレバナリ、古理学ノ説ハ人類ノ性質ヲ根據トセズ、惟政治上ノ史記ノミヲ根據トシテ言フ者ナリ、其説ニ謂ヘラク、天命ハ人々ニ各種ノ運ヲ與フル者（此一点ハ新理學者ノ説モ亦同ジ）ニシテ、上帝ノ世界ノ人衆ニ賦與スル所ノ地位職業ハ自ラ分レテ兩種タラサルコトヲ得ズ、即チ其

大半部ハ、人間社會ノ需用ノ為ニ身体ヲ勞動スルノミヲ以テ定職トシ、他ノ小半部ハ、學問ニ因リテ知識ヲ開キ、才智ヲ研クヲ以テ其定地ト為ス、故ニ身体ヲ勞スル種族ノ民ハ、若シ其自己ノ身心、身外ノ百物ニ付テ自己ノ身分ヨリ高崇ナル智見ヲ開ク時ハ、反テ其身ノ幸福ヲ害スルノ基トナルベシト云フコトハ「ユトーピアン」古代ノ理學者ノ久シク論定スル所ナリ、其故ハ此ノ如キコトハ上帝ノ此人民ニ賦與セシ所ノ分限ニ背クヲ以テナリト、此言ハ古代ノ理學者ノ久シク論定セシ所ナリ、故ニ古理學者ハ人々其智力ヲ奮ヒテ、固有ノ性質ノ外ニ擴張スルヲ以テ人類ノ職分ニ非ズト為ス、此說ニ據リテ言フトキハ、凡ソ工作ヲ業トスルノ民ハ、其職業ノ棟梁ト為リ、聖經ヨリシテ教法ト道德トノ職分ヲ知り、能ク其職分ニ慣習シ、工人ノ家ヲ興起シ、好高ノ心ニ因リテ動クコトナク、學問ニ因テ光輝ヲ發スルコトナク、才能ニ由リテ修煉スルコトナク、子孫永世皆我身ト一樣ナル位地ニ沈没シ畢ルナリ、故ニ古理學ノ說ハ、人類ノ性質ヲ以テ、一定不動ニシテ、其利益モ亦皆天ノ命スル所ニシテ常ニ己レヨリ高等ノ人類ニ服屬シ、下等ニ位セル人類ハ少シモ位格ナキ者ト為セリ、

○新理學ハ古理學ト異ニシテ、人ノ本性ヲ知ルヲ主トスルヲ以テ、其說モ世界ノ人々ハ人毎ニ各種ノ地位品性ノ分配ヲ受タリト為ス、其故ハ人々其身体ト智慧ノ賦受ニ於テ各同シカラザル者アレバナリ、然レドモ能ク人類ノ良能ヲ熟見スルニ、人タル者ハ何レモ左ノ數個ノ良能ヲ具有

セルコトヲ發見セリ（人ニ由リテ大小ノ別アレドモ）、其一ハ自己ノ性質ヲ觀視回想スルノ力、其二ハ其性質ヲ修煉シ完全ナル構造タランコトヲ望ム所ノ感覺、其三ハ世間一般ノ幸福ヲ望ム所ノ仁慈ノ感覺、其四ハ公正ナルコトヲ喜フ所ノ良心ノ感覺、其五ハ人ノ靈魂ヨリ生シテ教法ノ源ト為ル所ノ願望、恭敬、驚怖及ヒ我身ノ現存ニ付テ仁愛ナル造物者ヲ愛親、崇敬、順從スル所ノ感動是ナリ、此ノ如キ賦與ヲ得タル人類ハ惟動物機ヲ以テ構造シタルノミナラズ（動物機ハ蒸氣機滑車槓杆等ヲ用ヒテ之ニ代フルトキハ却テ大人類ノ体格ノ上ニ出ヅ）更ニ其天賦ノ心智ヲ高進シ、智慧德誼幸福ノ三者ヲ以テ日ニ益々高崇ノ位地ニ登スコトヲ得ルハ明白ニシテ疑ナキ所ナリ、

#### 第四篇

##### 身体及ヒ心知ノ健全 道德ノ職分 娛樂

○人類一己ノ職分ノ知識ニ次グ者ハ其知識ヲ用ヒテ身体及ヒ心知ノ健全ヲ保守スルニ在リ、若シ身心ノ健全ヲ欠ク時ハ、能ク其職分ヲ行ヒ遂グルコト能ハズ、身心ノ健康ヲ得ルコトノ我身ニ利益アルコトハ衆人ノ同意スル所ニシテ、既ニ「身心ヲ健全ニスルコトノ我身ニ利益アリテ又我身ノ職分ナルコトハ敢テ先知人ノ預言ヲ要セズ」ト云フニ至レリ、衆人能ク健康ノ利益ヲ知ルト雖ドモ、然レドモ真ニ我身ヲシテ健康ナラシムルノ知識ヲ得ル者ハ至テ少ナシ、人タル者ハ誰カ火ニ入り水ニ陥ルノ害

ヲ知リテ之ヲ避ケザル者アランヤ、然レドモ湿润ナル衣服ヲ着テ我身ニ害ヲ及ボシ、学問或ハ家業ノコトニ付テ過度ニ脳ヲ勞シテ又ハ過度ノ快楽ヲ求め、或ハ其他ノ行為ニ由リテ、健康ノ根柢ヲ破壊スルコトニ至リテハ、却テ之ヲ犯ス者多シ、

○凡ソ一家或ハ一身ノ上ニ起ル所ノ身体ノ病弱又ハ不時ノ死亡(感覺ノ破裂及ヒ許多ノ失亡等之ニ伴フ)ノ源ヲ尋タル時ハ、知ラス識ラスシテ徐々ニ生器ノ法則ヲ破ルニ出ルニ非ザルコトナキコトヲ發見シ得タリ、其始メハ誠ニ微細ニシテ著ルキ害ヲ為スコトナキガ如クニ見ユレドモ、其微細ナル者ハ即チ生器ノ為メニ至テ大切ナルコトニシテ、遂ニ是ヨリ漸々其損害ヲ増大スルニ至ル者ナリ、今爰ニ一人アリテ其性甚タ職務事業ニ熱心勦勵シ、務メテ衆人ニ勝ランコトヲ求め年久ク之ヲ行ヒテ休息セズ、是カ為メニ其腦ヲ過勞シテ其身ノ健全ヲ敗ルコトアリ、此人ノ父母又ハ家人ハ皆生器ノ法則ヲ知ラズ、悉ク此人ノ勦強ヲ賞賛シテ後來ノ光榮ヲ待タザルハナシ、然ルニ此人或ハ偶熱病勞瘵瘵衝等ノ病ニ犯サル、トキハ数日ノ中ニ忽チ衰弱シテ俄然トシテ死ニ就ク者ナリ、此ノ如キ成行ヲ見ルトキハ、天命ノ行路ト我儕ノ自然ノ感覺及ヒ希望ト相和合セザルカ如シ、然レドモ能ク審ニ最初ノ原因ヲ迹ネ考フル時ハ、此ノ如キ成果ヲ得ルハ、決シテ怪ムベキノコトニ非ズシテ、又天道ニ嫉怨ノ意アルニ非ルコトヲ知ルベシ、凡ソ人ノ日常ノ行為ノ中ニ於テ、傍人之ヲ見テ之ヲ善ナリトシ、後來ノ好結果ヲ待ツコトアルモ、其実ハ大ニ自然

ノ法則ヲ誤解セルヨリ起ルコトアリテ、能ク之ヲ察スル時ハ、此ノ如キ人ト災禍トノ間ニ一ノ鍊鍊アリテ固ク兩者ヲ結合シ居ルト云フコトヲ知ルベシ

○此他ニ猶健全ト生命トヲ敗ルベキノ原因アリ、則チ人類構造ノ法則ヲ知サルニ由リテ偶然ノ不注意ヨリ生スル行為是ナリ、此事ニ付テ、左ニ一例ヲ擧テ之ヲ示スベシ、爰ニ一人ノ壯年ノ士アリ、官府ニ奉仕シテ、常ニ坐シテ事ヲ執ルヲ以テ職トス、一日出テ郊外ニ射獵シ、大ニ筋力ヲ勞セリ、此人平生ノ職業、着坐ニ在ルヲ以テ終日ノ馳驅ノ為ニ其体甚疲憊シ、夜ニ入レハ身体熱ヲ發シ、徹夜大ニ發汗セリ、明朝臺丁堡ニ往カントスルニ、外套ヲモ着セズ、四輪車ニ坐シテ走レリ、是ニ由リ其皮膚、寒慄シ、發汗ヲ抑遏シ、其血液ニ生器ノ害ヲ為スベキ結果ヲ生シ、忽チ肺臟ニ病ヲ受ケ、數週日ノ中ニ忽然トシテ墓中ニ入レリ、

○今論セシ所ノ事ニ付テ、文学世界ニ知ラレタル医博士ヨリ書翰ヲ投寄セラレシコトアリ、其書ハ人類結構ノ吟味ト題セル者ニシテ最切要ノ文章ナリ、其文ニ曰ク「余ハ人類生器ノ法則ヲ破リタルニ由リテ、今日ニ至ルマデ殆ト生命ヲ失ハントセシコト四圍アリ、余カ十五歳ノ時腦ノ熱病ヲ受ケ(学問ヲ過度ニ勦強セシニ由リ)殆ント命ヲ失ハントセリ、其後十九歳ノ時、相撲ト飛躍トノ為ニ無理ナル努力ヲ為シタルニ由リ「ペリトニチス」(腹肚ノ裏面ノ膜ノ衝)ヲ病ミタリ、夫ヨリ、今ヨリ九年前、法蘭西ニ在リテ拉彼知亜ノ大廊ニ於テ解体ノ術ヲ行ヒシ時、十二

月ノ天ニ於テ、外套モ帽子モナク、久シク放開セル窓墻ノ下ニ立チシニ由リ「ニユウモニア」(肺臓ノ焮衝)ニ罹レリ、其後千八百二十九年、極寒ノ朝、外套ヲ被ラズシテ、舞踏ノ伴侶ト共ニ家中ヲ徘徊シタリシニ由リ烈シキ熱病ヲ受ケ、床ニ臥スコト四月、後十八月ヲ經テ未タ全ク恢復セザリシナリ、此四回ノ病患ハ尽ク我ヨリ之ヲ生シタル者ニテ、基本ハ生器ノ法則ヲ知ラザルニ起レリ、敏慧ナル人ハ己ニ自ラ覺リテ早ク之カ豫備ヲ為シ、此ノ如キ病ニハ罹ラザルノコトナリ、余是ニ由リテ、若シ能ク吾身ニ付テ適當ノ注意ヲ為ス時ハ、總テ災害病患及ヒ此類ノ諸件ハ、大抵ハ之ヲ除キ去ルヲ得ルコト、常人ノ想察スルヨリ大ナルコトヲ考ヘタリ、而シテ是ヲ為スノ法ハ庶民ヲシテ我等ノ形体ヲ管理スル所ノ法則ヲ學ヒ知ラシムルヨリ要ナルハナシ、<sup>(ロバート)</sup>カ

此書翰ノ記者ハ「ドクトル、羅伯マクニシ」ナリ、此人此書ヲ記セシ後、又熱病ノ為ニ其命ヲ殞セシハ、真ニ悲ムベキノコトナリ、○凡ソ人身ノ健康ニ最モ要用ナルコトハ、身体ノ首要ナル生器ヲ、規則整ヒ且ツ鈞合ヲ得タル動作ニ由リテ保護スルニ在リ、甚タ緩怠ナルベカラズ、又甚タ動作ニ過クベカラズ、此ノ如ク程善キ働キノ結果ハ、吾身ノ生命ニ付テ快ヨキ自覺ヲ得ルコト是ナリ、此自覺ハ、總テ吾心ノ奮励ヲ除キ去リ、内面ノ方ニ本来ノ感覺ヲ向ケタル時ニ実験シ得ル者ナリ、<sup>(ロバート)</sup>理学ノ朋友嘗テ余ニ左ノ言ヲ示セリ、彼ガ自己ノ健康ヲ十分ニ理會スルハ、惟彼ノ足ヲ草土ノ上ニ固定シ、両手ヲ以テ無心ニ左右ノ脇ニ垂レ、

眼ハ空曠ノ処ニ遊バセ単ニ身体ノ構造ノ上ヨリ、快活ノ感ヲ生シ其心ヲ以テ蒼天ノ上ニ昇セ、上帝ニ向ヒテ、我性命アル人類タルヲ謝スルガ如キ想ヲ為ス時ニノミ在リト、此ノ如キ安靜ハ、十分ナル吾身ノ健康ニ伴ヒテ生スル所ノ快樂ニシテ、吾身ニ取リ、甚タ驚クベク思ハル、者ナリ、凡ソ吾身ノ生器ハ之ニ遊戲ヲ與フル時ハ、必ス快樂ヲ覺ユルコトハ造物者ノ意ナルコト疑ナシ、而シテ其遊戲ヲ以テ十分ナル満足ヲ為スハ、人類ヨリ劣レル獸畜ノ性ナリ、人タル者ハ固ヨリ獸畜ヨリハ貴キ道理ヲ受ケ得タリト雖ドモ、其生器ノ性質ヲ觀ルトキハ、其遊戲ニ由リテ快樂ヲ得ルハ獸畜ト大ニ相異ナルコトナシ、然ルニ快樂ニ二様アリ、一ハ身体ノ諸器ヲ適度ニ動作セシムルニ由リテ得ル所ノ者、一ハ男女ノ情ノ快樂ニシテ、此快樂ハ物欲中ノ不正ノ念ヨリ生スル者ニシテ、後來ハ必ス永キ苦惱ヲ受ル者ナリ、然レドモ衆庶ノ無智ナルト、悪シキ習慣トニ由リテ是非ヲ轉倒シ、身体ノ快樂トイヘバ、男女ノ情欲ノ外、其他ノ事ニハ此語ヲ用ヒザルニ至レリ、身体ノ健康ヨリ生スル所ノ快樂ノ感ハ精緻ニシテ清淨ナリ、而シテ又道德ノ扶持ト賞美トアリ、故ニ人欲ノ悪シキ快樂トハ全ク一致セザル者ナリ、今日開化ノ人民ノ形体ヲ以テ、其自然ノ準度ヲ失ヒタルヤヲ考フルニ、完全ナル本来ノ健康ヲ保存シ得ル者ノ甚少キヲ恐ル、ナリ、余儕己ガ身体ノ事ニ回想スル時ハ、不快、不安心、不十分ノ感覺ヲ發スル者甚多シ、此安全ナラザルノ感覺ハ皆漸々ニ生活ノ職掌ヲ妨害シタルノ結果ニシテ、将来ノ病患ノ先導ナリ、此ノ如キ不

快ノ感覺ノ根原ハ、吾等カ習慣行為及ヒ身体ノ有様、共ニ生器ノ法則ヲ  
謬レル者ニシテ、後來吾等ノ社會益上進シテ、事々物々ニ改善ヲ為スノ  
後ニ非ザレバ、安全ナル幸福ヲ得ルコトハ至テ難キコトナルベシ、

○吾等ノ自己ノ形体ト、吾等ヨリ下レル動物ノ生活ノ方法トヲ相比較シ  
テ見ルコトハ至テ肝要ノコトナリ、蓋シ造物者禽獸ニ付スルニインスタンクト性ヲ

以テシ、是ヲ以テ自己ノ行為ト習慣トヲ節制スルコトヲ知ル者ニシテ、  
又禽獸ノ体格ハ大人類ノ体格ニ類似スレバ、其行為ヲ以テ、造物者カ  
我等ニ教ユル模本ト為スニ足ル者ナレバナリ、我等モシ能ク禽獸ノ行為  
ニ注意スル時ハ、彼等カ己ノ生器ニ適合セル舉動ヲ為シテ、能ク自己ノ  
健康ヲ保存スルコトヲ知ルコトヲ得ベシ、總テ禽獸ハ其自然ノ性ニ随フ  
トキハ其行為ハ甚淨潔ナル者ナリ、汝等飛鳥ノ類ヲ見ヨ、常ニ其羽翼ヲ  
溪川等ニ就テ洗フ者ナリ、又家猫ノ如キハ自ら注意シテ其清淨滑澤光彩  
アル外皮ヲ保持セリ、犬ハ常ニ生草又ハ藁中ニ其身ヲ反轉シ、馬ノ如キ  
モ原野ニ在ル時ハ、梳ヲ以テ其毛ヲ搔クコトナキヲ以テ又犬ト同様ノ舉  
動ヲ為ス、豚ノ如キハ世人ノ常ニ視テ汚物ノ極トスル者ナレドモ、其性  
質ハ固ヨリ汚穢ヲ好ム者ニ非ズ、惟養豚者ノ習慣ヲ以テ常ニ豚ヲ糞堆ノ  
中ニ飼フヲ以テ此惡名ヲ得タル者ナリ、若シ豚舎中ノニ蒿禾ノ乾淨ナル  
所アレバ、豚ハ必其内ニ在リテ臥ス者ナリ、然レハ受造ノ諸物ハ何レモ  
皆其身体ノ保護スル為メニ其力ヲ用フルコトヲ知ルベシ、  
○又禽獸ハ己カ食物ヲ求ムルニ、其生器ニ適應スルダケノ勉強ヲ為シテ

之ヲ得ル者ナリ、而シテ其得タル所ノ食物ハ煮熟ノ勞ヲ為サズシテ、恰  
モ其身体ノ良能ヲ以テ之ヲ消化スルコトヲ得ベキ者ナリ、罕レニ食物ヨ  
リ病ヲ發スルハ、其食量ノ過分ナルカ、食物ノ性ノ不良ナルカニ因ル者  
ナリ、是等ハ動物ノ自然ノ有様ニ付テ之ヲ言フ者ナリ、若シ数月ノ間、  
牝牛ヲ人家ニ畜ヒ置キ、夏月ニ至リ之ヲクローフルヒルト苜蓿原ニ放ツトキハ或ハ過食  
ニ由リテ病ヲ生スルコトアリ、然レドモ若シ之ヲ山岡ノ上ニ放ツトキハ、  
十分ノ勞動ヲ以テ、初メテ己ニ腹ニ充ツルノ食物ヲ拾ヒ取ルコトヲ得ル  
ナリ、是ニ由テ觀レハ、禽獸ガ勞動シテ漸々食物ヲ得ルハ蓋シ造物者ノ  
命ズル所ナリ、今禽獸ノ体格ノ状ヲ考ヘ、其人類ト甚タ相似タルコトヲ  
知ル時、禽獸ノ習慣ト体格トニ現ハル、所ノ智ト仁トハ、以テ吾儕カ我  
身ヲ守護スル所ノ師ト為スニ足ルコトヲ了解スベシ、

○人類ハ禽獸ト異ニシテ、禽獸ノインスタンクト性ノ代リニ、道理ノ性ア  
リテ、是ニ由リテ我身ヲ以テ永久ノ世界ト、人々相互ノ管渉トニ、適合  
セシムルコトヲ知り、其事ニ向ヒテ都合ヨキ様ニ、我身ヲ行フコトヲ勤  
ムルナリ、總テ吾身ノ健康ニ關セルコトヲ完成スルノ職分ヲ發見シ得ル  
ハ、皆吾身ノ形体ノ構造、行動ノ方法、四肢諸部ノ働クベキ目的ヲ實驗  
シ得ルヨリ生スルコトナリ、此演題ハ下ニ於テ詳ニ之ヲ説クベシ、凡ソ  
人ノ皮膚ニハ無數ノ細孔アリテ、身体中ノ不用物ヲ外ニ排泄スルノ用ニ  
供ス、此細孔ヨリ排泄スル所ノ汚穢物ノ量ハ少ナク之ヲ量ルモ、二十四  
時間ニ二十四オン穩斯ニ下ラズ、若シ此細孔壅塞シ、汚穢物、血中ニ混合ス

ル時ハ、是カ為ニ身体ノ健康ヲ害スベシ、蓋シ身体ノ健康ハ血ノ良否ニ  
関スルコト大ナレバナリ、此蒸発物ノ性ハ、其中ニ含メル水分ハ常ニ蒸  
散セルヲ以テ、其残余ノ分ニ稠厚トナリ、以テ皮膚ノ孔ヲ塞ク者ナリ、  
故ニ數々皮膚ヲ洗ヒ其小孔ヲ開キ、以テ蒸発ヲシテ常々止ムコト無カラ  
シメサルベカラス、故ニ衣服ノ如キハ蒸発物ノ通路ヲ自由ニスルカ為メ  
ニ、清浄ニシテ且氣孔多キ所ノ者ヲ撰ブベシ、然レドモ此ノ如キハ未タ  
皮膚ノ全能ヲ尽シタル者ニ非ズ、皮膚ハ吸入ト發散トノ二者ヲ兼タル生  
器ニシテ、若シ外物ニ觸ル、トキハ、之ヲ其氣孔中ニ吸入シテ遂ニ血中  
ニ導入ス、故ニ若シ身体ヲ清浄ニスルコトヲ怠ルトキハ吾身ニ二様ノ害  
ヲ被フル、其一ハ是ニ由リテ氣孔ヲ塞キ、其蒸発ヲ抑遏ス、其二ハ皮面  
又ハ衣服ニ留マル所ノ汚物ヲ体中ニ吸入シテ、遂ニ害ヲ其身ニ及ボスナ  
リ、皮膚ノ構造、此ノ如クナルヲ以テ、身体ト衣服トヲ淨潔ニナスコト  
ノ必要ナルコトハ甚明白ナリ、此職分ヲ行フハ、惟命令ニ由リテ強ユル  
ヨリハ、明詳ニ皮膚ノ質ヲ説キ、其切要ヲ示ストキハ、容易ニ之ヲ務ム  
ルコトヲ得ベシ、東方ノ或ル国ニ於テハ、身体ヲ清浄ニスルコトヲ以テ、  
教法ノ職分ト為ス者アリ、而シテ吾カ本国ニ於テ、此職分ヲ怠ルヤ否ノ  
コトニ付テハ、今之ヲ詳説スルコトヲ要セズ、若シ民智ノ度、光明ノ地  
ニ進ム時ハ、清潔ノコトハ、其節度、尊敬、教法ノ事ニ関シテ切要ナル  
職分ナリトイフコトヲ知ルニ至ル者ナリ、

論ズルコト皮膚ニ於ルト同様ナリ、而シテ身体及ヒ心智ノ勞動、節度ヲ  
守ルコト、大氣ヲ流通サスルコトノ注意、衣服ノ適応ナルコト、其他此  
類ノ事ノ切要ナルコトハ、上帝自ラ其指ヲ以テ我等体格ニ記録セシ者ナ  
リ、然レドモ此事ハ骨相學ニ屬スルコトニテ、汝ハ其學ニ於テ此題目  
ノ必要ナル件ヲ學ヒ知りタルナルベシ、今予之此注目ヲ分ツテ二個ノ件  
トス、其一ハ骨ト筋トノ働キニシテ、即チ勞動ナリ、勞動ハ人タル者ノ  
形体ニ必無カルベカラサルノコトニシテ、則チ健康及ヒ快樂ノ源トナル  
者ナリ、然レドモ勞動ノ度ヲ過ゴストキハ却テ苦惱ヲ覺ユ、而シテ順序  
ノ能ク整ヒタル社會ニ於テハ苦痛ヲ覺ユルホドノ勞動ヲ為ス如キコトハ  
之ナキノ事ナリ、其二ハ腦ノ働キニシテ、即チ心智ノ活用ナリ、心智ノ  
活用ハ、其用ユル所ノ職分ノ異ナルニ從ヒ或ハ智ノ働トナリ、或ハ徳ノ  
働キトナリ、或ハ動物分ノ働キトナルナリ、故ニ心智ヲ活用セサルハ、  
即チ腦ヲ活用セサルコトナリ、腦ハ人類全体ノ神經ノ根原ナレバ、若シ  
之ヲ活用セサル時ハ、其ノ為メニ大ナル責罰ヲ受ルナリ、即チ困倦、感  
覺、不安心、恐怖、苦勞、無益ナル願望、夜間睡ラレズ、其他總テ苦惱ヲ  
通ル、コト能ハザル所ノ不快ノ自覺等ニシテ、性命ヲ毒シ、不幸ヲ招ク  
所ノ諸事ハ皆是ヨリ生スル責罰ナリ、又規則ニ協ヒタル心智ノ活用ト、  
適當ナル身体ノ勞動ト相合スル時ハ、則チ活潑喜樂ノ感覺、自己ノ職分  
ヲ行フニ由リテ得タル心中ノ快活、飲食ノ消化、夜中ノ安眠等ノ賞美ヲ  
得テ、少シモ身体ニ苦惱ノ痕迹ヲ留メズ、快樂ニ歲月ヲ過ゴスコトヲ得

ルナリ、

○身体ト心智ヲ適度ニ勞動スルコトハ、吾身ノ健全ヲ保存スルニ必要ナルコトハ上文ニ數々之ヲ論スルガ如シ、然ルニ之ニ反シテ身体ト心智トヲ過度ニ勞動スルコトハ却テ健康ノ害トナルコトナレバ、又此事ニモ能ク注意セザルベカラズ、英国ノ社會ノ状ヲ以テ觀ルトキハ、吾等ガ今日ノ營生ノ上ニ於テ、今記セル所ノ兩極ヲ避ルトイフコトハ至テ難キ事ナリ、凡ソ初ヨリ富貴ノ家ニ生タル人ハ、勞動ヲ行ハントスルノ意甚乏シ、此ノ如キ所ノ人、就中婦人ニ於テハ、身体ト心智トヲ動作スルコトノ道理ニ協フト云フコトヲ知ルコトナキヲ以テ、健康ノ幸福ヲ害スルコト甚多シ、又祖先ヨリ富貴ナラザルノ人ハ、其富貴ヲ得ント欲シテ、過度ノ勞作ヲ以テ此社會ニ必要ナリト妄想ジテ已カ生活力ヲ消費スルニ至ルコトアリ、今日此輩ノ營業ノ状ヲ見ルハ、日出ノ前數時ヨリ已ニ其業ヲ鞫メ、最後ノ時刻（第八時）ニ至リテモ未タ其業ヲ休スルコト能ハザル者多シ、亜米利加合衆國ニ於テモ其社會ノ状ハ英國ニ同ジク、人民ノ得ル所ノ結果モ亦英國ニ同ジ、「ドクトルカドワエ加得威ハ英國學士ノ領袖ナリ、其著ハス所ノ形体教育ノ書ニ於テ、政体ノ分黨、教法ノ異論等ハ、人ノ腦ヲ過勞シ、或ハ發狂ニ至ラシメ、然ラザルモ飲食ノ消化ヲ害シ、其害スルノ度ハ世人カ臆測ヨリ甚シトイフコトヲ論ゼリ、加得威又曰ク、狂病ト不消化トハ毎ニ相依レル者ニシテ、此病ヨリ彼病ニ變スルコト數ナリ、狂病ハ其病間ニ於テ精神ノ常ナル時ハ、不消化ノ症ヲ現ハス者ナリ、又

最初ニ胃病アル者轉シテ狂病トナルコトモ多シ、然レドモ尽ク皆然リト言フニハ非ズ、狂病ノアル家系ノ中ニ於テハ、狂病ヲ發スル者ヨリハ胃病ノ為メニ悩ム者却テ多シ、又狂病ト胃病トハ一樣ノ法ヲ以テ其病ヲ輕減スルコトヲ得ベシ、又此二病ノ發スルハ多クハ其原因ヲ同フスル者ナリ、憂愁、妬忌、忿怒等ノ情ハ、消化力ヲ衰減シ、不消化病ハ注意、事務ヲ退ケ、腦ヲ休息スルニ由リテ之ヲ療スルコトヲ得ベシ、温泉アル地ニ旅行スルコトノ此等ノ病ニ効アルコトハ此理ナリ、又商賣ノコトニ付テ熱心ニ計畧ヲ案シ、或ハ甚シク富利ヲ得ンコトヲ欲スル等ハ、政論ノ党派、教門ノ異宗ト同様ニ、過度ニ腦ヲ勞スル者ナリ、狂病者ト不消化病者ノ英國ニ多ク、合衆國ニ更ニ多キハ、全ク之ニ原因スル者ナリ、○以上ノ理論ハ甚明白ナリト雖ドモ尚之ニ抗歎スルニ様ノ異説アリ、其一ニ曰ク、凡ソ平常健康ニ注意スル人ハ反テ健康ヲ損スル者ナリ、此ノ如キ人ハ其頭中ニ常ニ鬱憂病ニアル妄想ト恐怖トヲ充ツルヲ以テ病衰不恙ノ習慣ヲ養ヒ成セリト、此異説ニ答テ曰ク、此ノ若キ人ハ、自身ニ其健康ニ付テ不安心ヲ懷クノ前ニ已ニ病者ト成リ居ル者ナリ、此人ハ已ニ神經病力不消食病ニ犯サレ、其身ノ平和ヲ傷リ、其精神ニ不安心ノ感ヲ生シタル者ナリ、此ノ如キ人ノ漸々健康ヲ失フハ理ノ当ニ然ルベキ所ナリ、其精神ノ不安心ニシテ不快ナルハ、已ニ生器ノ順序ヲ失ヒタルニ由リテ生スル者ナレバナリ、此人ノ健康ニ復セント欲シテ復スルコトヲ得ザルハ、知識ヲ求ムルヲ知ラザルニ由リ、竟ニ其成功ヲ得ルコト能ハザ

ルナリ、凡ソ健康ヲ恢復セントスルニハ、能ク堪忍シテ食物ノ定則ヲ守リ、規則ニ適ヒタル動作ヲ為シ、及ヒ快樂ト寛心ノ事等ヲ為ス（総テ生器ノ法則ニ從ヒタル治療法）ヘキニ、然ルコト能ハス、或ハ賣藥ヲ服シ、或ハ愚昧ナル注意ヲ行フニ由ルナリ、爰ニ記スル所ノ恢復法ハ真ニ適當ノ法ニシテ、之ヲ行フ者ハ、虚弱又ハ鬱憂病ノ人トナルノ患ナシ、凡ソ世上ノ人ヲ觀ルニ、善ク生器ノ法則ニ從ヒテ従前ノ病患ヲ除キ去ルコトヲ得タル者其數甚タ多シ、〔原書九二頁段落〕

「道徳理學」解題

「道徳理學」は、八二七―一二九「道徳理學」に「修身學」「修徳學」「徳學綱要」と合綴されている。

「道徳理學」は、George Combe(一七八八―一八五八)の著述である。Moral philosophy, or, The duties of man considered in his individual, social, and domestic capacities の部分訳である。Moral philosophy は一八四〇年に出版されている。Preface と詳細な内容細目の後に、本文の三頁から三六四頁までを lecture I から lecture XX と分節し、三六五頁から三七二頁までが附録という構成である。骨相学の立場から道徳を論ずるものである。

西村は、「道徳理學」では、lecture を篇と訳しており、本文冒頭から lecture I の中途の原書二〇頁半ばまでと、lecture III の全体と lecture IV の中途、原書六六頁から九二頁の中途までとを翻訳している。

George Combe は、エジンバラに生まれてエジンバラ大学に学んだが、彼の主たる活動は骨相学の研究と振興に向けられ、一八二〇年代から一八四〇年代にかけて、骨相学の最も代表的な唱道者であった。彼の哲学はスピルツハイムの学説に依拠している。彼の最初で、そしてもつとも広く読まれた著書は、一八二八年に出版された *The Constitution of Man Considered in relation to External Objects* である。これによって唯物論者、無神論者として非難された。

修身學

米合衆国 顛利 著

日本 西村茂樹 譯

序論

(エシックスノ義)

第一章 修身學<sup>グク</sup>ハ人ノ職分ノ學<sup>ヒトノマン、ヂユトイ</sup>ナリ、此學ハ或ハ修德學<sup>ルサ</sup>

ト云フ、職分ノ學ト云ヘル義ナリ、

(方法)

凡ソ人ノ性命行為ニ關係スルノ學亦少ナカラズ、修身學亦其一ナレドモ、  
其他ノ學ト異ナル所ハ、此學ハ専ラ職分トイフコトノ義ヲ主トシテ説ク  
者ニシテ、或ハ此主義ヲ以テ、人ノ行為ニ適用セシムル者アリ、或ハ此  
主義ヲ人ノ行為セシメ以テ人ノ品行性<sup>カク</sup>質<sup>ク</sup>ヲ造成セシムル者アリ、其結  
構此ノ如ク異ナルニ由リ、其「エシックス」トイヘル語ノ鮮義モ亦一様  
ナラズシテ、或ハ之ヲ以テ職分ノ法則<sup>セ、ラウス、オ</sup>ト為ス者アリ、或ハ人ノ職分  
ノ學<sup>サイエンス、オラ、ヂユ</sup>ト為ス者アリ、或ハ人ノ品行性<sup>サイエンス、オラ、ヒ</sup>質<sup>エーマン、カラメル</sup>ノ學<sup>ト</sup>ト為ス者  
アリ、

此學ノ方法ノ異ナルヨリシテ其學ノ名義ニモ些少ノ異同ヲ生スレドモ、  
其學ノ実体ハ敢テ変ズルコトナク、又変ズルコトヲ欲セザルナリ、此學  
ハ算術又ハ修辭ノ如キ本来ノ藝術<sup>アル</sup>トニ非ズ、故ニ適應ノ様式<sup>エキセル</sup>工課<sup>サイエ</sup>

ヲ定メ、學フ者ヲシテ登下ニ其定ムル所ノ職分ニ習熟セシムルコト能ハ  
ズ、又人ノ行為ニ就テ此學ノ主義ノ適合セシムルコト能ハズ、要スルニ  
此學ハ人ノ職分ノ主義ヲ明カニ人ニ指定シ、或ハ其主義ヲ行為ニ適合セ  
シメ、或ハ其主義ニ據リテ品行ヲ造成スルコトヲ得ル為メニ適當ノ學問  
ナリト知ルベシ、又此學ノ論說スル所ハ、職分ノ主義ノ方法ヲ立ルト同  
シ地ニ在リテ、或ハ又其主義ヲ職分ニ適セシムルト、又品行ノ造成ニ於  
テ其結果ヲ見セシムル等ノ方法ヲ定ムルト同シ地面ノ上ニ立ツ者ナリ、  
(心學ノ根基ノ上ニ建ツ)

第二章 德學<sup>グク</sup>ハ心學<sup>サイコ</sup>ヲ根基トシテ其上ニ建ツ者ナリ、故ニ德學ハ

心學ノ定ムル所ニ從ヒ、心知ノ現象ノ種類ト數ト并ヒニ其根元ト關係ト  
ヲ説ク受領セザルベカラス、心學ニ於テ人ノ働ヲ大別シテ三種ト定ム、  
其三種中ノ一種ヲ取りテ德學ノ根基トスルコトハ、此學ノ限界外ノ事ナ  
リトイヘドモ、亦德學ノ法則ト形体トニ管係スルコト大ナレバ、決シテ  
棄ツベキノコトニ非ザルナリ、

德學ハ心學ニテ論スル所ノ人心ノ三大力中ノ一ナル意思<sup>ウキ</sup>トイフ者ヲ引  
受ケテ已ガ物ト為スナリ、偕此意思トイフ者ノ主要ナル能力ハ何者ゾ、  
其働キハ如何様ニ變化シテ發スル者ナルヤ、又心ノ其他ノ二大力、即チ  
感覺<sup>センシビ</sup>知慧<sup>インテリ</sup>ト如何ナル關係ヲ有スルカト云フコトヲ考究スベキコ  
トナリ、德學ニテハ此ノ如ク意思ノ性質ト管係トヲ知りタル上ニテ更ニ  
意思ノ十分ナル働キヲ以テ管理スベキ法則ト、意思ノ自ラ此法則ノ下ニ

立テ働ク所ノ模式トヲ論究セサルベカラズ、

(演智学味学ヤ同列ノ学)

又演智学ロジック、サイエンスハ心学ノ中ヨリ知慧ノ一大力ヲ引受ケ、其本来ノ性質ト其關係トヲ考究シ、然ル後、其必要ナル法則ト確然タル様式トヲ考定スベキコトナリ、凡ソ知慧ヨリ生スル産物ハ思想トカナルヲ以テ、演智学ハ是ヲ思想ノ学ト名ケテ可ナルベシ、而シテ思想ノ完全ハ実理ワルニ在ルヲ以テ演智ノ学ハ又之ヲ実理ノ学ト称スベシ、味学エッセニ於テハ又心學中ヨリ感覺ノ一大力能ヲ引受ケ、其性質ト其變化トヲ論究スルコトナリ、然ル後其法則ト法則ノ下ニ立ツ所ノ一般ノ方法即チ有様トヲ顯示スルナリ、感覺ノ純粹ナル指物オラセハ様式ホルニ在ルヲ以テ味学ハ又之ヲ様式ノ学ト称スベシ、而シテ様式ノ完全ハ美麗ナル者ナレバ、味學又之ヲ称シテ美麗ノ学ト為スベシ、

意思ノ働ノ完全ナルハ職分ニ在リ、故ニ徳学ハ又之ヲ職分ノ学ト名クベシ、

○第三章 故ニ徳学ハ演智学、味学ト共ニ學問ノ組合ノ為シ、各心學ニ於テ定メタル心ノ三大現象ノ一個ノ上ニ立ツ者ナリ、此三學ハ諸學ノ由テ生スル所ノ根本ト為リ、且三學相管係シテ同シ列位ニ立ツ所ノ學問ナリ、

維廉哈美尔敦、此三學ヲ名ケテ心理學ノモロジカルサイエンスト言ヘリ、其故ハ三學各々心ノ三大力ノ一個ノ法則ヲ顯ハス者ニシテ此三大力、心ノ働キノ実アハヲ開

示セル心學ニ本ヨリ出タル者ナレバナリ、

(規法)

○第四章 徳学ノ本来ノ規法ハ第一ニハ職分ノ仕事アヲ精密ニ分解シ、職分ノ内ニ入ル所ノ仕事ノ分子ハ其中ノ如何ナル者ニシテ、其職分ヲ為スノ状ハ如何ントイフコトヲ定メ、更ニ職分ノ確然タル本義フリシヲ定ムルニ在リ、第二ニハ職分ノ仕事ト為リテ現出スル状ハ、人間ノ実験上ニ徴スルニ其變化其多キ者ナレバ、能ク其總体ノ數ト種類トヲ考定スルニ在リ、

修徳學第一編

理論上ノ修徳 職分又義務ノ性質

第一解

義務<sup>デューティ</sup>ノ仕事<sup>ジョブ</sup>ノ分解

(義務ノ證例)

○第五章 羅馬人ノ傳説ニ言ヘルコトアリ、耶穌生前二百五十年ノ頃、羅馬ノ将ニ列古侶<sup>レギウリス</sup>ト云フ人アリ、此人加爾達額<sup>カルタゴ</sup>ノ俘虜ト為リシガ、加爾達額人、羅馬人ト俘虜ヲ交換センガ為メニ、列古侶ヲ伴ヒテ羅馬ニ遣ハシ来リ、預シメ誓ヲ立テ、曰ク若シ事成ラスンハ復加爾達額ニ還ルベシト、然ルニ列古侶ガ羅馬人ニ語ル所ノ説話ニ由リテ其事成ラズ、列古侶ハ加爾達額人ノ約ヲ守リ、其朋友ノ之ヲ留ムル者アルモ断然其言ヲ用ヒズ、再ヒ加爾達額ニ至リ、遂ニ加爾達額人ノ為メニ殺サレタリ、西塞魯<sup>シセロ</sup>此事ヲ論ジテ論ジテ謂ヘラク、列古侶既ニ加爾達額人ト誓ヒシ上ハ、決シテ其他ノ事ヲ為スベカラズ、列古侶ガ其誓ヲ守リテ加爾達額ニ還リシハ當代ノ誓ヲ守ル者ノ模範ト為スニ堪ヘタリト、

羅馬人カ此傳説ハ実事ナルカ否サルカ、今之ヲ審ニシ難シ、然レドモ爰ニ言フ所ノ列古侶ノ舉動ハ衆人ノ之ヲ認メテ、義務<sup>デューティ</sup>ノ行為<sup>アクト</sup>ヲ行ハスナリトスル所ナリ、列古侶ガ其誓約ヲ踐ンデ加達額ニ還ルハ、列古侶ノ義務ナリ、列古侶自ラ其事ノ已カ義務ナルコトヲ知り、再ヒ加達額ニ還リシハ、即チ義務ノ行為ナリ、列古侶ハ加達額人ニ對シテ為サベカ<sup>ベカ</sup>ラサルコ

トヲ<sup>オ</sup>為シタルナリ、英語ノ義務<sup>デューティ</sup>ナル語ハ、拉丁ヨリ法蘭西ヲ經テ来リタル者ニテ其本義ハ為サベカ<sup>ベカ</sup>ラザルノ義ナリ、列古侶ハ已ヲ恭敬スル為メ、己ノ良心ノ為メニ、我身ニ對シテ其誓約ヲ守ラザルベカラサルコトヲ為シ得タルナリ、列古侶ハ加達額ニ歸リタルニ由リテ已カ負債ヲ清還シタルナリ、

此時列古侶ハ如何シテ其負債ヲ得タルヤ、義務ハ何レヨリシテ生シタルヤト云フコトヲ問フハ必要ノコトニ非ルナリ、唯此處ニテハ列古侶ハ加達額ニ還ラサルベカラザルノコトヲ負ヒタル者ニテ、其加達額ニ歸リタルハ、即チ義務ヲ行ヒタル者ナリト云フコトヲ知ルノミニテ十分ナルコトナリ、

(三原質)

今マ列古侶ノ行為ヲ細カニ檢スル時ニハ此中ニ卓越ナル三個ノ原質ヲ發見セリ、此原質ハ三個相互ニ關係ヲ為ス者ニシテ、若シ其一個ヲ換ルトキハ、其行為ノ性質モ之カ為ニ変換シ、他ノ原質ト為ルニ至ルベシ、所謂三個ノ原質ハ其人一ハ為スヘキ人ニシテ即チ列古侶ナリ、其二ハ其人ニ對シテ為スベキ一人或ハ衆人ニシテ、即チ加爾達額人ナリ、其三ハ行ハザルベカラザルノ行為ニシテ即チ加爾達額ニ還ル事ナリ、此三個ノ原質ハ此事ニ付テノ原質ヲ全ク言尽シタル者ニテ、此外ニハ一モ原質アルコトナシ、故ニ之ヲ名ケテ完備ノ原質ト云フ、

吾儕今マ列古侶カ簡單ナル行為ニ付テ三個ノ原質ヲ定ムルコト左ノ如シ、

曰ク義務ヲ行ハサルベカラザル所ノ人、其人ニ義務ニ向クル所ノ一人或ハ衆人、義務ヲ卸出スル所ノ行為是ナリ、此三個ノ原質ニ適當ナル国語ヲ施ストキハ、左ノ如シ、曰ク道誼ヲ行フ人、即チ執行フ人、道誼ノ標的即チ其目的トナル物、道誼ノ行為是ナリ、是ヨリ本書ノ諸篇ニ於テ、順序ニ從ヒテ、諸種ノ原質及ヒ其結構ヲ詳説スベシ、

## 第二解

義務ノ主意 徳誼ヲ行フ人

(徳誼ノ人ノ定義)

○第六章 徳誼ノ人トハ其職分ヲ行フニ適應セル人ヲ云フ、故ニ徳誼ノ人ト云フハ義務ヲ行フニ適スル人ト云フニ同シク即チ又義務ヲ為サズルベカラサルノ人、義務ヲ全ク仕遂ル所ノ人ト言フコトナリ、又職分ヲ行フニ適スル人ト云フニ同シ、即チ職分ヲ為サズルベカラサルノ人、又職分ヲ全ク仕遂ル所ノ人ト云フコトナリ、

○今論ズル所ニ於テハ既ニ徳誼ヲ以テ人ノ職分ニ定メタリ、故ニ徳誼ノ人ト云フ時ハ、職分ノ主題ト為ル者ハ人ナリ、此ノ如ク其疆界ヲ狭クシテ論ズルトキハ、職分ヂエニト云フ語ト、徳誼ウーチトイフ語ト相類似ノ意味トナルナリ、徳誼ハ拉丁語ノ成人マンフトイフ義ノ語ヨリ出タル者ニシテ、即チ人ノ状態ニ就テ言フトキハ、誠実又完全セル成人ノ行為トイヘル義ト、誠実又完全ナル成人ノ為スベキ行為トイフ義ヲ合セタル者ナリ、

(心知ノ性)

○第七章 徳誼ノ人トハ職分ヲ行フニ適應セル人トイフコトニ定マルトキハ、人ノ心、即チ精神ノ本来ノ性質ヲ知ルハ最モ必要ノコトナルベシ、凡ソ人ノ心ハ其行為ノ理性ヨリシテ左ノ三種ノ性ヲ有ス、曰ク感覺センシビ曰ク知慧インテリ曰ク意思フリイ是ナリ、

(第一行為スベキ性質)

○第八章 徳誼ノ人ハ本来行為スベキノ動物ナリ、

此説ヲ以テ定則トスル時ハ、更ニ左ノ二條ノ解義アルベシ、

第一 人タル者ハ唯行為スル時ノミ徳誼ノ人タルベシ

第二 人ノ天性ハ、人ヲシテ行為セザルコトヲ得ザラシムル者ナリ、

此二條ノ論題ノ當否ヲ試ミントスルニハ、上文ニ既ニ記シタル職分ノ解ニ注目スベシ、職分ハ行為ナリ、職分ヲ為サズルベカラズト云フハ是ヲ為スコトノ行為ヲ言フナリ、職分ヲ全フシタルト云フハ、行為ニ由リテ之ヲ全フシタルナリ、

凡ソ徳誼トイフハ總テ行為ノ性質ニ属シタル者ナリ、徳誼ノ人トイフハ、徳誼ヲ行為シ得ベキ人、徳誼ヲ行為スル人、徳誼ヲ行為シタル人ヲ云フナリ、故ニ今マ徳ノ有様モラル、徳ノ情形シヨ、徳ノ状態モラル、徳ノ性質モラルニシテ、スホク、徳ノ品性モラル、カケル、徳ノ責任モラル、レスボ、トイフトキハ其中ニ自然ニ行為シヨ、シヨ、行為シ得ル性質トイヘル義ヲ含有スルナリ、此理簡易ニシテ明白ナルコト此ノ如シ、若シ此行動アクチ、トイヘル原質ヲ除去スルトキハ

徳誼ノ理論ニ大ナル謬誤ヲ生シ道ヲ害スルコト鮮ナカラズ、蓋シ此行動ハ百事徳誼ヲ以テ成ル所ノ行為ニ限レル者ナリ、

第二條ニ於テハ凡ソ徳誼ノ人ハ、固有ノ天性ニ由リテ、自ラ行為セザルコトヲ得ザル者ナリ、行為スルコト、即チ道德ニ随ヒテ行為スルコトハ、人タル者ノ天性ニシテ、譬へハ支柱スル物ナケレバ地ニ墜ルハ石ノ天性、枝葉ヲ發生スルハ草木ノ天性、食物ヲ求ムルハ禽獸ノ天性ナルト相同ジ、人或ハ時ニ由リテ甚狹隘ナル界限ノ内ニ行為スルコトアリ、然レドモ其内ニ在リテ行フダケノ行為ヲ禁止セラル、コトナシ、人ノ行為ニハ微弱ナルアリ強壯ナルアリ、或ハ行進セントスル舉動ヲ抑制セラル、コトアリ、然レドモ或ル度ノ所マデハ行為スルコトヲ得ルナリ、怠惰トイフモ全ク不動インテラナルニ非ズ、

## (第二 感覺)

○第九章 徳誼ノ性ニ具ハレル三職ノ一ハ感覺セシヤナリ、列古路ハ、嘗テ加達額人ニ誓ヒシ言アレバ、必ス加達額ニ還ヘラサルベカラズトイヘル感覺ヲ発セリ、此感覺ナケレバ、縦令加達額ニ還ルモ恐クハ道德ノ行為ニ非サルベシ、唯一身ニ道德ノ責ヲ負ヒタルヲ知ルヲ以テ已カ屍ヲ以テ加達額ニ還リ、少シモ其危難ヲ知ラザル者ノ如シ、完成スベキ所ノ職分ハ、為サズルベカラサルノ感覺ヲ以テ成ルナリ、心學ヲ理ヲ以テ職分ノ感覺ヲ分析スルトキハ左ノ原質ヨリ成ル者ナリ、(一) 列古侶ガ其誓約ヲ記憶セルヨリシテ其感覺上ニ為ス所ノ印記イラレ

(二) 加尔達額ニ歸リテ其誓約ヲ全フセント欲スル所ノ衝力イム即チ天性ノ志向シヤイナリ、列古路ノ記憶ハ誓約ノ意想ヲ常ニ感覺ノ上ニ保存シ、其誓約ヲ完成セント欲スルノ衝力常活動シテ止マズ、此ノ如ク印記ト衝動ト合スル所ノ感覺ヲ名ケテ願望イラト云フ、

列古侶ノ地位ニ當リ、及ヒ尋常ノ職分ノ時ニ當リ、其職分ヲ完成セントスルニハ必ス之ニ反対セル方ニ向ヒテ亦願望或ハ衝力ヲ生スル者ナリ、此時列古路ハ俘虜交換ノコト成ラサル時、若シ再ヒ加達額ニ還ルトキハ其為ニ凌辱苦責又ハ残酷ノ死ヲ受ルコトヲ知レバ、之ヲ避ケントスルノ願望モ亦必ス極メテ強カルベシ、又羅馬ニ在ル所ノ同国人、朋友、親戚ノ真実ニ之ヲ抑留スルノ意ヲ満足セシメントスルノ願望モ亦極メテ強カルベシ、此二ツノ願望ノ外ニ其己カ職分ヲ完成セント欲スルノ願望アリテ此一願望ノ威勢ハ遠ク他ノ二願望ノ上ニ在リ、列古路力断然トシテ加達額ニ還ルコトヲ決セシハ、此一大願望アルガ為ナリ、此願望ナキ時ハ其加達額ニ歸リシモ未タ判然トシテ道德ノ行為ト定ムルコト能ハズ、

○第十章 道德ノ性質ニ要緊ナル第二ノ職ハ知慧イテリナリ、列古侶ハ其職分ニ感覺ヲ生スルカ如ク亦能ク其職分ヲ知レリ、若シ是ヲ知ルノ知慧ナキトキハ職分モナク、亦其職分ヲ完成スルコトモ無カルベシ、列古侶ハ初メニ其誓約ヲ為シ、コトヲ知ル、其記憶力ノ助ヲ以テ嘗テ為シ、誓約ヲ呼出シタル時、其誓約ヲ認メテ信実ト為シ、為サズル業ヘカラサル不離ノ事ト為シ、又列古侶ガ能ク了解セル行為ニ牽累スルノコトト為ス、若シ

列古侶嘗テ此ノ如キ誓約ヲ為シ、コトヲ知ルコトナク、又之ヲ為スルトキハ繫而不離ノ事タルコトヲ知ルコトナク、又其誓約ハ列古侶ガ必ス踐行スルコトヲ望ムトイフコトヲ知ルコトナキトキハ、縦令列古侶ハ再ヒ加達額ニ伴ヒ行カル、トモ、之ヲ以テ其職分ヲ完成シタリト云フヘカラズ、又以テ道德ヲ行ヒ得タリト云フベカラザルナリ、

故ニ智慧、即チ職分ヲ知ルコトハ、総テノ道德ニ於テ必緊ノ事ナリ、而シテ此知ハ職分ノ三個ノ性質ニ係管スル者ナリ、

第一ハ其事ヲ眞実ナリト知ルコト、即チ其事ノ現存セルヲ知ルコト

第二ハ其事ハ我身ニ繫而不離ノ義務、即チ應做的ノ事ナルヲ知ルコト

第三ハ其事ハ我身ノ行為ニ連繫スルコトニテ、其行為ニハ又各個ノ性質アルコトヲ知ルコト、

此各個ノ行為ノ性質ハ之ヲ職分、即チ道德ノ眼ヨリ之ヲ認可セサルベカラズ、即チ

其一ハ行為ノ旨趣意<sup>モチ</sup>即チ目的<sup>オラセ</sup>

其二ハ此目的ヲ成就スル為メニ務ムル所ノ各個ノ行為

其三ハ此行為ヲ勉ムル所ノ方法

若シ、其職分ヲ行ハントスルモ、能ク此三個ノ性質ヲ詳知スルニ非ザレバ、其行フ所亦眞ノ職分ヲ尽スニ適當セザル者ト云フベシ、

(自主ノ意思)

○第十一章 道誼ノ性ニ必緊ナル第三ノ職ハ自主ノ意思<sup>フリイ</sup>ナリ、

列古侶ハ加尔達額ニ還ルコトヲ決定セリ、此決定ハ、意向<sup>ボリシ</sup>即チ意思ノ行為ヨリ生スル者ナリ、列古侶ノ決定ハ羅馬ヲ去ル以前、其親戚朋友及

<sup>(元老院)</sup>

ヒ西那多ニ訣別スルノ以前、旅行ノ道路ニ足ヲ擧クル以前ニ成リタル意

思ノ信実ノ行為ナリ、此決定ハ直チニ之ヲ実事ニ施行シタルヲ以テ是ヲ名付テ執行シタル意向<sup>エキキエトチ</sup>云フ、列古侶既ニ元老院ニ於テ断然トシ

テ其加尔達額ニ還ルコトヲ公言シタルノ後ハ或ハ西那多ニ訣別スルノ前急病ニ由リテ猝然トシテ死シ、又彼是ノ事故起リテ其加尔達額ニ帰ルヲ妨

ケ、其決定ヲ実行スルコト能ハザルコトアルモ、猶之ヲ稱シテ道德ニ協

フ者ト為スベク、其職分ヲ完成シタル者ト稱スベシ、若シ列古侶後ニ其

思慮ヲ変ジ、加尔達額ニ還ルコトヲ欲セズト雖ドモ、其始メニ決断セル者確実ナル時ハ、亦道誼ニ協フ者ト為スベシ、唯此ノ如キハ、其感覺知慧

精神ノ力微弱ニシテ之ヲ進取スルコト能ハサル者ナレバ、其事ハ不十分ナレドモ、亦之ヲ稱シテ職分ノ眞実ノ行為ト為スベシ、或ハ他ノ事故ニ

由リテ、其加尔達額ニ還ラントスルノ意向ヲ阻逗シ躊躇<sup>ウヂウヂ</sup>不決ナラシムルト

キハ、此躊躇不決ト云フ者ノミ道德ニ協ハザル者ナルベシ、然レドモ躊躇不決ハ遂ニ列古侶ノ決断ヲ妨ケテ加尔達額ニ還ラシムルコト能ハサレバ

列古侶ノ行為ハ到底道德ニ協フ者トナルナリ、

列古侶カ此決定ハ自ら主トスル所ナレバ、此決定ハ即チ自主ノ意思ノ行為ナリ、自主ト云フコトハ人ノ意思中ニ於テ緊要ナル部分ヲ領セルコト

ハ心性學ニ於テ詳ニ之ヲ説ケリ、此自主ナル者ハ総テノ職分ニ於テモ又

總テノ道德ニ於テモ亦甚タ緊要ノ者ナリ、列古侶ハ、其加尔達額ニ返ラント欲セル單一ノ決定ヲ妨阻サレタレドモ、是ヲ以テ其決定ヲ廢絶セシムルニ足ラズ、天下復此決定ヲ廢スルニ足ルノ力アル者ハアラザルベシ、其加尔達額ニ返ルコトノ如キハ誰人モ偏リテ之ヲ為サシメタル者ナシ、却テ其朋友ノ苦留ハ其還帰ノ決定ヲ動揺セシメタリ、列古侶ハ此時、行クベキカ、行クベカラザルカ、二個ノ中ヲ選ミ取ルコトヲ得ベクシテ、此中ノ一個ハ緊要ノ職ニシテ自主ノ意思ヲ以テ選ムベキ者ナリ、他ノ一個ハ他人ヨリ逼リテ之ヲ為サシメントセシ者ナリ、而シテ列古侶ハ此時何ノ方ニモ決定ヲ為スコトヲ得ベキ場合ニ在リ、蓋シ此時ノ情状ヲ察スルニ、還帰セサルニ決定スルハ反テ還帰ニ決スルヨリ易キ勢アリテ、此方ニ誘導スルノ力至テ強キニ似タリ、然レドモ列古侶ハ自主ノ意思ヲ以テ断然トシテ加尔達額ニ還帰スルコトヲ決定シタリ、

故ニ自主ノ意思ハ總テノ道德ニ於テ緊要ノ原質ナリ、モシ此原質ナキ時ハ職分ノ行為、即チ徳誼ノ行為ハ遂クルコトヲ得ベカラズ、凡ソ自主ノ意思ハ第一ニハ選擇即チ決定ノ能幹ヲ與ヘ、第二ニハ逼促ヲ須ヒズシテ、自己ニ道德ノ能幹ヲ與フル者ナリ、

(道德ノ良能ノ定義)

○第十二章 總テ職分ヲ行フ毎ニ三件ノ本事<sup>フツク</sup>ノ助ヲ以テ發出スル所ノ行為ヲ名ケテ道德ノ良能<sup>モラル</sup>ト云フ、故ニ道德ノ良能トハ人ヲシテ其職分ヲ完成セシムル所ノ品質<sup>メメント</sup>ナリ、

此良能ノ中ニ感覺、知慧、自主ノ意思ノ三本事ヲ有スル者ナリ、

道德ノ良能ハ知慧ノ良能ニ異ナリ、道德ノ良能ノ主要トスル者ハ職分ニ在リテ知慧ノ良能ノ主要トスル者ハ知識<sup>チシ</sup>ニ在リ、凡ソ一様ノ行為ニシテ、道德ノ行為トモ知慧ノ行為トモナル者アリ、人ノ行為能ク道理ニ合フ時ハ道德ノ行為トモ知識ノ行為トモ為ルコトニテ、即チ道德ニモ属シ、亦知慧ニモ属スルナリ、又其一時ノ情状ニテ、其一方ノミ、他ノ一方ニ超越スル時ハ、其時ノ光景ヲ以テ単ニ一方ノ行為トスルコトアリ、又之ヲ選ビテ一方ノ行為ト定ムルコトアリ、道德ノ良能ハ道德ノ感覺ニ異ナルコトハ良能ト能幹ト異ナルガ如シ、即チ一ハ他動ニシテ一ハ受動ナリ、然レドモ凡ソ人ノ道理アル行為ハ毎ニ他動ト受動トノ両面アリテ、其事実觀察共ニ、其一方ノ勝レタル方ヲ取リテ或ハ道德ノ行為ト名ケ、或ハ道德ノ感覺ト名クルナリ、

(類語)

道德ノ良能トイフ語ハ、密ニ之ヲ言フトキハ行実<sup>フタクチ</sup>ノ道理<sup>ルリシ</sup>ノ道德ノ感覺<sup>セル</sup>、良心<sup>シニス</sup>等ノ語ト同類ノ者トナル、元来此道德ノ良能トイフ語ハ、密ニ狭ク之ヲ言フ時ハ元来人ノ職分、即チ自主ノ意思ノ行為ニ関セル事ノ中ニテ、感覺ト知慧トノ二分ヲ其内ニ包含シテ、原来ノ自主ノ意思ト云フ者ヲ其中ニ包含セズ、凡ソ職分ノ行為ハ是ヲ分解スルトキハ二分ト為ルベシ、其一分ハ本来ノ自主ノ意思ニシテ、其一分ハ自主ノ意思ト相伴フ所ノ感覺ト知慧トノ結合シタル者ナリ、道德ノ良能トイフ語ハ此第

二分ノ者ニ命スル所ノ語ニシテ、行実ノ道理、道德ノ感覺、良心等ノ語ハ共ニ第一分ノ者ニ命スルノ名ナリ、

道德ノ良能トイフ語ハ、人ノ心ヲ以テ活動ノ者ト定メ、其心ノ性ヲ以テ根據ト為シタル者ナリ、即チ心ノ活動ノ一部分ニシテ人ノ職分ト相關係スル者ヲ名ケタル者ニシテ、職分ヲ知り職分ヲ感シ、職分ヲ行フコトヲ云フナリ、

行実ノ道理トハ人ヲ以テ道理ヲ知ル者ニシテ禽獸ニ異ナル動物ナリトイフコトヲ根據トシテ言フ所ノ語ナリ、即チ職分ニ關係セル行為中ニ道理ニ協ヒタル部分ヲ指シテ言フ義ナリ、而シテ其包含スル所ハ道德ノ感覺、道德ノ智慧共ニ其中ニ在リ、

道德ノ感覺トハ、人ヲ以テ職分ノ意想ノ感アル者トシ、其感ハ自主ノ意思ノ上ニ印記スル者ナリト定メテ言フ所ノ語ナリ、故ニ此語ハ単ニ職分ニ關係セル感覺ノミヲ表示スル者ナレドモ亦自主ノ意思ノ行為ト相結合セル知慧ヲモ含有スルコトナリ、  
良心ハ道德ノ界限中ヲ出デザル所ノ自覺ナリ、故ニ人タル者其職分ヲ行フ時之ヲ自覺スル所ノ知慧及ヒ感覺ヲ標示スル者ナリ、

(良心ノ三種ノ本事)

○第十三章 良心ハ道德ヲ行フ人ノ行為及ヒ状態ト為ル者ニシテ、其道德ニ顯ハル、上ニ於テ三種ノ本事アリ、此三種ハ皆各別ニ現出シテ互ニ相結合セズ、其第一ノ本事ハ職分ヲ認識スルト、及ヒ之ヲ覺知スルトナ

リ、

(第一良心ノ覺知)

凡ソ我等ノ目前ニ道德ノ行為現出スルトキハ、其事ノ我等ニ管スルナルカ、他人ニ管スルカヲ論ゼズ、又其事ハ既ニ為シ畢リタルカ、未タ為サベキ所ナルカ、為サミルベカラザルコトナルカ、或ハ全ク夫レト反對ナルコトナルカトイフヲ覺知スルヲ以テ肝要ノコトト為スベシ、凡ソ職分ノ行為、或ハ道德ノ行為ハ共ニ固有ノ性質アル者ナレバ、能ク良心ノ力ヲ以テ之ヲ認識シ覺知スルコトヲ得ベキコトナリ、良心トイフ者ハ本ヨリ認識ト覺知トノ二性ヲ含有スル者ニテ職分ノ行為ナリト考フルトキハ常ニ此二性ノ働ヲ現スルナリ、

(第二 催逼ノ力)

良心ノ第二ノ本事ハ、其職分ヲ完成センガ為メニ強迫シ、催逼スルノ力ナリ、良心ハ元來定要<sup>トリイ</sup>命令<sup>コトマシ</sup>、強率<sup>コソト</sup>ノ性質アリ、良心ノ志意ハ時ニ他ノ勢力ニ推壓セラレ、其真正ノ權ハ或ハ抵抗サル、コトアリ、然レドモ良心ノ力ノ及フ所ノ境界ハ、必ス強テ職分ヲ行ハシムル者ナリ、

故ニ余儕ハ真正ノ權ヲ以テ良心ニ歸スルナリ、  
良心ニ此ノ如キ強迫シ、強率スルノ力アルハ天性<sup>イニシチ</sup>ノ自然ニ有スル者ナリ、此力ハ物欲ノ進衝力及ヒ強率カト同ジク我儕人類ノ身中ニ居処ヲ

占タル者ナリ、然レドモ其中ニ於テ良心ハ最有力ニシテ最モ命令ノ力アル天性ナリ、其故ニ良心ハ我儕人類ノ最高ノ部分ニ其居處ヲ占領スル者ナレバナリ、良心ノ強迫力ハ自主ノ意思ヨリ生ズ、其意思ハ固ヨリ自主ナレバ服従スルモ服従セサルモ意ノ如クナリ、此自主ノ意思ヨリ来ルヲ以テ、真正ノ權アルト定ムル所以ナレバ、此一段ニ至リテハ大ニ物欲ニ異ナル所アリ、

故ニ良心ハ靈魂ノ主君ト名ケテ可ナルベシ、良心アルニ由リテ、心ノ真正權ヲ認識シ、覺知シ、又囑托スルコトヲ得ル者ナリ、凡百ノ命令ハ、其本務（オブリガト）ト同ジク其初メハ本原ヨリ生ジ（或ハ吾身ヨリ、或ハ同儕ヨリ、或ハ造物者ヨリ）一旦良心ヲ經過シテ後吾身ニ達スル者ナリ、他ノ良能ト才質トニ超越セル、靈魂ノ正大ノ最上權ハ全ク良心ニ属スルナリ、故ニ良心ハ其本来ノ性質ヲ以テ言フモ、其行為ヲ以テ言フモ、共ニ法則ノ建立者ト名クベシ、又或ハ凡百ノ外部ノ真正權ノ機関及ヒ中保（メヂユム）ト名クベシ、良心ハ又自然ノ憲法ノ權理ニ由リテハ主君ニシテ、外部ノ真正權ノ代理ナルベシ、

然レドモ良心ハ法ヲ立ツルノ人ニシテ、法ヲ行フノ人ニ非ズ、故ニ其本事ハ立法ニシテ行法ニ非ズ、良心ニ法則ノ創案ヲ發ス（プレスライイ、フレスライイ、テウ）良心ハ或ハ順從シ、或ハ順從セザルノ自主ノ意思ナリ、

良心ノ本事ニハ、受動ノ質アルコト他動ニ同ジ、其受動ノ如キモ亦之ヲ視テ行為ト為スナリ、受動ノ一面ヨリ之ヲ言フトキハ良心ハ亦本務ノ官

ト名ケテ（セシス、オラ、オブリケーション）可ナルベシ、

此分鮮ハ心性学ノ法ヲ以テ之ヲ説クトキハ忽チ明晰ナルベシ、凡ソ良心ノ行為ハ、自主ノ意思ヨリ来ル、而シテ良心ノ行為ハ、自然ニ正ト邪トノ二個ノ性アルコトハ恰モ太陽ニ光ト円トノ性アルガ如シ、靈魂ハ常ニ此両性ノ印記ヲ受ク、即チ此両性ヲ覺知スル者ナリ、

### （第三 是非）

良心ノ第三ノ本事ハ、是非スルコト、即チ善トシ惡シ、トスルコトナリ、凡ソ我儕良心ニ此是トシ非トスルノ性ナキ時ハ、十分ニ道德ノ行為ヲ審定スルコト能ハズ、我儕、彼列古侶ガ其誓約ヲ守リ、加達額ニ、返リ苦責死刑ヲ受クルモ變ゼザルコトヲ是トシ、又列古侶若シ其本務ヲ守ルニ非サレハ、縦令同様ノ死ヲ致スモ亦之ヲ非トスルナリ、

故ニ良心ノ本事ハ三條アリ、（一）我職分ヲ認許シ、覺知スルコト（二）必ス職分ヲ完成スルコトヲ欲ス（三）或ハ是トシ或ハ非トスルコト等ナリ、

### （快樂苦痛ノ源）

○第十四章 良心ノ三條ノ本事ノ外ニ更ニ第四ノ能（フヘンダ）アリ、即チ快樂（ニルト）痛苦（ペー）トニテ、常ニ正邪ニ伴ヒテ發スル者ナリ、然ルニ此快樂痛苦ノ本事ハ唯自己ノ行為ノミニ管係シテ決シテ他人ノ行為ニ管係スルコトナシ、故ハ此第四ノ本事ハ前ノ三條ノ本事ト少シク其性ヲ異ニセリ、三條ノ本事ハ各其属スル所アレドモ、此第四條ノ者ニ至リテハ全ク修治學

ク<sup>エシツ</sup>スノ特異ノ注目ヲ要スル者ナリ、人タル者己カ職分ヲ完成スル時ハ、道德ノ自然ノ法則ニ由リテ、自己ニ満足ヲ覺ユ、即チ快樂ヲ覺ユルナリ、吾儕是ヲ以テ良心ノ満足又良心ノ快樂ト云フ、未タ職分ヲ行ハザルノ前ト雖下モ、若シ之ヲ行ハントスル心組ヲ為ス時ハ、此快樂ハ已ニ預メ、其行為ヲ待チ居ル者ナリ、若シ他人能ク其職分ヲ行ヒ成ス時ハ、吾身ガ嘗テ満足シ快樂セシト同様ナル満足快樂アルコトヲ察シテ之ヲ信ズルナリ、

又全ク之ニ反シテ其職分ヲ壞ル時ハ、道德ノ形体ノ自然ノ性ニヨリテ、吾心ニ不満足、即チ苦痛ヲ生スルナリ、此苦痛ハ他ノ苦痛ト區別スルガ為ニ之ヲ悔恨<sup>レモ</sup>ト云フ、

良心ノ賞譽ヲ受ケテ快樂ヲ覺エ、其譴責ヲ受ケテ苦痛ヲ覺ユルト云フコトハ、職分ヲ執行スル所ノ法則ヨリ来ルコトニテ、即チ法律准行ノ一部分ニシテ、善事ヲ為スト惡事ヲ為ストノ應報<sup>レハ</sup>ナリ、

此ノ如キ行為ヲ做スノ人ヲ、名ケテ稱譽<sup>メ</sup>罰責<sup>ム</sup>ノ該當人<sup>ト</sup>ビシクト云フ、此人ノ行為ハ即チ此人ヲ以テ快樂ト苦痛トノ管係ノ中ニ置ク者ニテ之ヲ名ケテ功績<sup>ト</sup>トイフ、此ノ如クニシテ惡事ニ管係スル者ハ之ヲ名ケテ失德<sup>ト</sup>トイフ、

凡ソ良心トイフ者ハ知慧ト感覺ト向様ノ働ヲ顯ハス者ナリ、故ニ良心ハ其一方ニ於テハ認識、直覺、判断等ノ知ヲ顯ハシ、一方ニ於テ感覺ノ能ヲ顯ハスナリ、若シ此二原質ノ一個ヲ除キ取ルトキハ道德ノ義ヲ講明セ

ントスルニ混雜紛擾ヲ生スベシ、良心ヲ以テ行<sup>ハ</sup>実<sup>ニ</sup>ノ道<sup>ニ</sup>理<sup>ヲ</sup>ニ同シ者トシテ論ヲ立ル者ハ、感覺ノ一原質ヲ遺シ、良心ヲ以テ道德ノ感<sup>ス</sup>ニ同ジトスル者ハ知慧ノ原質ヲ遺シ、共ニ完全ナル良心ノ論者トイフコトヲ得ズ、

### 第三解

職分ノ向頭者物<sup>ト</sup>チセクト、オ  
ズ、ヂユケイ

#### (職分ノ向頭者ノ定義)

○第十五章 職分ノ向頭者トハ、其人ニ職分ノ帰向スル人ヲイフ、

吾儕職分ノ行為ヲ分解スルトキハ其内ニ三個ノ原質アルコトヲ知レリ、其一ハ職分ノ主任<sup>ト</sup>ナル者、即チ職分ヲ擔負シ且之ヲ為シ遂クルノ人ヲイフ、其二ハ職分ノ帰向シ、且ツ之ヲ為シ遂ケラル、所ノ人ヲイフ、其三ハ職分ヲ為シ遂クル所ノ行為ヲイフ、列古侶ハ其還ルベキ職分ヲ加<sup>ル</sup>爾達額人ニ向ヒテ之ヲ為セリ、加尔達額人ハ即チ職分ノ向頭者ナリ、

○第十六章 職分ノ向頭ト為ル者ハ必ス人類ニ限レリ、

列古侶ハ加達額ノ城郭ニ向ヒテ職分ヲ尽スベキ譯ニ非ス、又其牢獄ニ向ヒテ職分ヲ尽スベキ訳ニモ非ズ、又法則或ハ原理ニ向ヒテ尽スベキ譯ニモ非ズ、惟加達額人ニ向ヒテ其職分ヲ尽シタルコトニテ、即チ己レガ人タルヲ以テ、人タルノ職分ヲ尽シタル者ナリ、故ニ其加達額ニ還ルノ職分ハ金石ニ向ヒテ之ヲ行フベシトイフコトハ必ス無キコトナリ、然レ

ドモ無益ニ寶石ヲ破壊セヌトイフコトハ人タル者ノ職分ナリ、此義ヲ推シテ考フルニ、其粗ナル意見ヨリ言フトキハ寶石ハ巨万ノ價アル者アレバ自己ニ破壊ヲ受ケザルダケノ位格ヲ有ストイフベシ、然レドモ審ニ之ヲ考フル時ハ、所謂職分トハ一ハ寶石ヲ造作セシ造物者ニ向ヒテ之ヲ行フコトニテ、造物者ノ意ハ必ラス寶石ヲ毀損セザルニ在ルヲ以テナリ、二ハ寶石ヲ所持セル人ニ對シテ其職分ヲ行フコトニテ、モシ其寶石ヲ毀損スルトキハ其所有者ハ許多ノ損失ヲ受クレバナリ、三ハ我身ニ對シテ其職分ヲ行フコトニテ、徒ニ造物ヲ破壊スルトキハ道德ノ性ヲ傷フヲ以テナリ、凡ソ金石ハ已ニ身ニ職分アルトイフコトヲ知ルコトナリ、又他人ニ對シテ要望<sup>ヨウボウ</sup>ヲ發スルコトナリ、又自己ニ為スベキコトヲ止メテ補還ヲ受クルトイフコトハ決シテ無キ者ナリ、

又職分ハ草木ニ對シテ行フベキ者ニ非ズ、然レドモ美麗ナル花ヲ足ヲ以テ踐潰シ、又ハ生長セントスル者ヲ毀傷スルノ類ハ疑ヒナク惡事ト稱スベキコトナリ、然ル所以ハ此職分ハ草木ニ歸スル者ニ非ズシテ、草木ヲ造ル所ノ造物者ニ歸シ、又草木ヲ養ヒテ其美麗ヲ受クル所ノ人ニ歸シ、又我身ニ歸スルナリ、吾身ノ天性ハ無益ニ破損シ、又ハ赦シ難キ遺忘等ノ行為ニ由リテ傷害スベカラザル者ナレバナリ、

又職分ハ動物ニ對シテ行フベキ者ニ非ズ、粗ナル識見ヨリ言フトキハ馬ハ貴キ動物ナレバ之ニ對シテ注意ト愛憐トヲ行ハザルベカラズト云フ者ナリ、然レドモ此注意ト愛憐トノ職分ハ馬ニ對シテ行フ者ニ非ズシテ、

一ハ造物者ニ對シ、二ハ馬ヲ愛養スル人ニ對シ、三ハ我身ニ對シテ之ヲ行フナリ、無益ニ動物ヲ虐スルハ天性ノ禁セラル、所ナレバナリ、凡ソ動物ハ己カ身ニ對シテ職分アルコトヲ知ラズ、又補還<sup>ボウタン</sup>ヲ知覺スルコトナシ、故ニ動物ニハ權理<sup>ケンリ</sup>トイフモノナシ、

#### (權理)

○第十七章 道德ノ旨趣ニ於テハ職分ノ對頭ニ權理アリ、列古侶ガ職分ヲ為シタルハ、加尔達額ニ還ルノ一事ニシテ、此事ハ加尔達額人ニ在リテハ其權理ナリ、權理ハ職分ト相通親スル者ナリ、權理ハ職分ヲ包藏スル者ナリ、職分ノ無キ所ニハ權理モ亦無シ、權理一個毎ニ各是ト相對セル職分アリ、凡ソ世界上ノ受造物ハ各其成立ノ目的ヲ達スル為ノ權理ヲ所有セリ、是則チ造物者ノ其物ニ附與シテ其物ヲ成立セシムル所ノモノナリ、造物者ノ万物ノ創造スルニ方リ、其物ノ成立ヲ完全ニセンカ為メニ其物ニ就テ各其方法ヲ備ヘ置ケリ、是則公共ノ真理ナリ、罕レニ此定格ニ外ル、コトノアルハ、他ノ一物ニ附屬スルノ目的ヲ以テ造立シタル物ノミナリ、

凡ソ受造物ハ大宇宙ノ一分子ナレバ、互ニ相感スルノ理アリテ、相互ニ行フベキ職分ノアル者ニシテ、是ニ由リ亦其職分ニ相對セル所ノ互ノ權理アル者ナリ、同一ノ行為ニシテ、職分ノ主任者ヨリ言フ時ハ職分ト為リ、職分ノ對頭者ヨリ言フトキハ權理ト為ル、列古侶ノ加尔達額ニ還歸スルハ列古侶ヨリ言フトキハ職分ニシテ、加尔達額人ヨリ言フトキハ權理ナ

り、

(職分權理ニ於テノ善)

○第十八章 凡ソ職分ト為シ、權理ト為ス所ノ事物ノ要切ナル性質ハ善トハ經驗ニ於テモ又ハ覺知ニ於テモ共ニ善キコトヲ目ザス所ノ者ナリ、他語ヲ以テ之ヲ解ク時ハ幸福ヲ目ザス所ノ者又ハ幸福ヲ生スル所ノ者ヲ云フナリ、

○故ニ善ハ職分ヲ完成スルニ由リテ之ヲ得、或ハ權理ノ威勢ヲ要望スルニ由リテ之ヲ得ル者ニシテ、其善ト名クルハ、惟善ノ値直アル者ノミヲ指スコトニシテ、實ノ善ハ反テ要用ノ者ニ非ルナリ、列古侶ノ加達額ニ還歸スルハ、真実ハ加達額人ノ為ニハ甚悪シキ事ナレドモ、其値直ヨリ見ル時ハ加達額人ノ權理ノ為ニ甚タ善ナルガ如ク、加達額人ノ為ニ幸福ヲ與フルガ如ク見ユルナリ、故ニ加達額人ハ列古侶ノ還歸ヲ以テ心ニ満足セリ、

職分及ヒ權理ニ於テノ善ハ間接イソダイトナリ、加達額人ノ望ム所ノ善ハ、羅馬人ヲシテ其名將ヲ失ハシメ、又恐ルベキ強敵ノ危難ヲ免カレ、又速カニ列古侶ヲ殺シテ其報復ノ念ヲ決スル等ノコトアレバナリ、

實ノ善、假定ノ善、間接ノ善、遠隔ノ善ハ、共ニ其職分ニ於ケル者ニ對向シテ又權理ニ於ケル者アリ、凡ソ職分ヲ完成スルヲ夫ニ由リテ理會シ得ベキ善ヲ為シ出スコト能ハズ、又權理ノ如キモ自ラ満足スルト雖ドモ、

善ヲ生スルコト能ハザルコトハ、同シク理會スルコト能ハザル者ナリ、

○第十九章 人類ノ職分ハ其職分ノ向頭者ニ管係スルノ状ニ由リテ之ヲ數種ニ分タザルコトヲ得ズ、人ノ職分ノ性質ハ本ヨリ行動ノ性アル者ナレバ、其職分ハ惟行為ノ達スル所ニ於テノミ成立シ、職分ノ向頭者ハ其行為ノ及フ所ノ物ノミヲ指スナリ、

凡ソ人ノ行為ハ其身ニ感スルコト最モ近クシテ且切ナリ、法度ニ協ヒタル行為ヲ為ストキハ人生ノ自然ノ法則ニ由リテ、自己ニ快樂ノ種類ヲ覺ユルナリ、又我身ノ行為ハ、或ハ直接又ハ間接ニ同戴ウエルロ天者ウメンニ感スルコトアリ、又一種ノ仕方ニ於テ上帝ニ達スルコトアリ、此外又更ニ天使及ヒ其他ノ無形ノ靈物ニ相接スルコトアリ、然レドモ此最後ニ記セル物トノ關係ハ全ク他ノ理由方法ヲ以テ論スベキコトナレバ此処ニテ別ニ之ヲ舉論セズ、故ニ此一項ヲ除ケバ、人類ノ務ムベキ職分ノ大ナル者ハ其對向者ノ異ナルニ從ヒ之ヲ三種ニ區別ス、

第一 我身ニ對セル職分

第二 同戴天者ニ對セル職分

第三 上帝ニ對セル職分

第四解

道德ノ行為

(道德ノ行為ノ定義)

○第二十章 道德ノ行為トハ職分ヲ成就シ仕遂ケタルコトナリ、尚詳ニ

之ヲ言ヘバ道德ノ行為ハ職分ノ主任者ノ行為ニシテ、職分ノ対向者ニ向ヒテ之ヲ為シ遂ケ且ツ之ヲ仕拂フ所ノ行為ヲ言フナリ、

道德ノ行為ハ、其主任者ト對頭者ト及ヒ其對頭者ニ向ヒテノ舉動活動トヲ包括スル者ナリ、其上ニ又主任者ノアル種類、對頭者ノ或ル種類、舉動ノ或ル種類トヲ包含ス、是等ノ種類ハ皆道德ト名ケテ恰當ナル者ノミヲ云フ、道德ノ行為ハ更ニ其主任者ニ管係スルト、對頭者ニ管係スルトヲ以テ他物ト識別ス、殊ニ其行為ノ自己ノ本来ノ性質ニ由リテ他物ト識別スルナリ、

余故ニ先ツ道德ノ行為ヲ以テ其主任者ニ管係セル所ノ者ヲ舉ゲン、若シ主任者ノ道德ノ行為ヲ為ス所ノ職分ノ主旨ト為ル者ハ何ナルカト問フトキハ、余ハ之ヲ答ヘテ愛ナリト言ハシ、凡ソ完全ナル道德ノ行為ハ愛スル所ノ行為ナリ、

又職分ノ對頭者ニ管係セル道德ノ行為ヲ標示センニ、其對頭者ヲ善ク待遇スルニ在リテ、完全ナル道德ノ行為ハ尽ク此善クスルトイヘルコトノ内ニ在ルナリ、善クスルトハ即チ人ヲ惠ムノ義ナリ、又我身ノ自己ニ管係セル道德ノ行為ヲ標示スルトキハ、正直ト一語之ニ当ル、我一身ノ完全ナル行為ハ即チ正直ノ行為ナリ、

若シ今完全ナル道德ノ行為ヲ分解シ見ルトキハ三個ノ原質アルコトヲ知レリ、曰ク愛、曰ク善、即チ惠、曰ク公正、是ナリ、是等ノ諸徳ハ道德ノ主任者ヨリ之ヲ言フトキハ、皆之ヲ愛ノ働キト稱シテ可ナルベシ、道德

ノ對頭者ニ就テ言フトキハ其働キハ善事、即チ慈惠トナルベシ、主任者ヨリ對頭者ニ對シテ行フ所ノ舉動ヨリシテ言フトキ、即チ發程ヨリ到着ニ至ルマデノ間ニ就テ言フ時ハ、公正ノ語ヲ以テ之ヲ標示スベシ、

(分説)

○第二十一章 此解説ニ據リテ言フトキハ、完全ナル道德ノ行為トハ、完全ナル愛ノ行為ヲ指シテ言フモ可ナルベク、完全ナル善即チ惠ノ行為ヲ指シテ言フモ可ナルベク、又完全ナル公正ノ行為ヲ指シテ言フモ可ナルベシ、

(的切ナル三個ノ原質)

又愛ヲ以テ職分ノ完成ト為ス時ハ、惠ハ其結果ニシテ公正ハ其舉動ナリ、惠ト公正トヲ除キテ別ニ愛アルニ非ズ、又善即惠ハ、愛ト公正トヲ離レテ獨立スル者ニ非ス、愛ハ善ノ源ニシテ公正ハ善ノ處分ナリ、又愛ト善トナキ時ハ正シキ行為ハ成立スルコト能ハザル者ナリ、道德ノ義ヲ考究論説スルトキニ於テハ愛ノ行為ニモ完全ナル道德ノ行為ト言フコトヲ得ベク、善即チ惠ノ行為ヲモ同様ニ言フコトヲ得ベク、公正ノ行為ヲモ同様ニ言フコトヲ得ベシ、若シ此三原質ヲ其見込ノ外ニ驅除スルトキハ、遁ルベカラザル謬誤ノ結果ヲ得ルナリ、

(道德ノ三様ノ結構)

故ニ完全ナル道德ノ結構ハ、愛ノ上ニモ立ツベク、善即チ惠ノ上ニモ立ツベク、公正ノ上ニモ立ツベクシテ、此三者ハ共ニ道德ノ主義ト為ル

コトヲ得ベキ者ニテ、三者皆何レモ皆相管係セル並立ノ主義ヲ所有セル者ナリ、

(第一ニ愛ノ上ニ樹立ス)

先ツ第一ニ愛ノ上ニ樹立セル道德ノ結構アリテ、其愛ハ十分堅固ニシテ且完全ナルコトヲ要スル者ナリ、此愛トイフ者自己ニ道德ノ行為トナリテ樹立シ、職分ノ主任者ニ其見込ヲ向クルナリ、凡ソ道德トイフ者ハ其主任者ノ天賦ノ外ニ及ブコト能ハザル者ナレバ、其主任者ノ全クノ性質ニ及ブ所ノ道德ノ結構ハ、必ス完全ニ為サザルベカラザルナリ、又其結構ハ主任者ノ天性ノ上ニ建立スル者ナレバ、必堅固ニシテ威權アラザルベカラザルナリ、人トイフ者ハ物ヲ愛スルノ動物ナレバ、愛ハ即チ人ノ職分ナリ、人ハ愛ノ良能ヲ賜與セラレ、愛ヲ為スコトヲ得ベキノ性アリ、故ニ愛ハ人タル者ニ備ハレル自然ノ法則ナリ、又道德ノ結構ハ善即チ恵ノ主義上ニ成立スルコトアリ、善ト恵ハ道德ノ主任者ヨリ其対頭者ニ施ス所ノ者ナリ、此結構ハ立場ヲ道德ノ行為ノ上ニ取り、其眼ヲ、道德ノ対頭者即チ行為ノ旨趣ニ着クル者ナリ、此結構ノ主義ハ愛ト正トノ主義ト相並立スル者ナレトモ、亦自己ニ於テ堅固ニシテ且完全ナル体ヲ備フル者ナリ、此主義ノ堅固ナルベキ所以ハ、總テノ道德ノ行為ハ、此対頭者ニ對セル行為ト同様ニ善ヲ主トセザルベカラスシテ、人ハ即チ此目的ヲ行フベキ為メニ造物者ノ造為セル者ナレバ是ヲ以テ此身ニ具ハレル天則ト為シテ之ニ依遵セサルベカラズ、譬ヘバ旅

行ヲ為ス者ノ、預メ其進行ノ遠近ヲ測リ、其行クベキ道路ヲ定ムルガ如シ、又此主義ノ完全ナルベキ所以ハ、凡ソ道德ノ主任者其職分ヲ行ハントスルニハ、其全体尽ク善即チ恵ノ目的ヲ以テ之ヲ行フベキコトニテ其行フベキ職分ハ尽ク善ノ中ニ包含シ盡スコトナリ、

又道德ノ結構ハ公正トイヘル主義ノ上ニ建立シ、又堅固ニシテ且完全ナルコトヲ得ル者ナリ、此時公正ハ道德ノ行為上ニ其脚ヲ立定シ、其眼ヲ此行為ノ方向ニ定ムルコトナリ、此公正ハ根基ヲ職分ノ行為ノ要緊ナル本性上ニ置ク故ニ、極メテ堅固ナル者ナリ、(愛ノ心ヲ以テ善ヲ行フニハ、其目的ハ公正ヲ主トセサルベカラズ)又此公正トイフコトハ總テノ道德ノ行為ニ於テ、其挙動ノ全体ヲ包括スル者ハ、之ヲ完全ト称シテ可ナルベキコトナリ、

故ニ道德ノ結構ハ三個ノ主義ノ每一個ノ主義ヲ以テ之ヲ建立スルコトヲ得ベキ者ナリ、其一ハ愛ヲ以テ建ツベキ結構アリテ、人類ノ行為ノ本体作用共ニ愛ノ法則ニ據テ之ヲ行フナリ、其二ハ善(又福祉)ヲ以テ建ツベキ結構アリテ、人ノ性命行為ノ本体作用俱ニ恵ノ法則ヲ奉ジテ之ヲ行フ者ナリ、其三ハ正ヲ以テ立ツベキ結構アリテ、本体作用共ニ公正ノ法則ヲ表明スル者ナリ、是等ノ結構ノ廢壞スルコトハ其建立ノ時ト同ジク、其基礎ト為ルベキ主義ヲ認取スルヲ怠ルヨリ生スル者ニシテ、此主義ハ実ニ總テノ道德ニ深く関涉セル者ナレバナリ、其道理ハ甚明白ナリ、凡ソ道德ノ行為者ナク、又道德ノ目的者ナク、又行為者ヨリ目的者ニ行

フ舉動ナキトキハ、全ク道德トイフ者ナキガ如ク、若シ総テノ道德ノ内

デー氏ノモラル

ニ此三原質相並ンテ管係ヲ相為ストイフコトヲ認識セザル時ハ、其所ニハ完全ナル道德ノ結構ナキト知ルベシ、

〔原書三十一頁末まで〕

○七十九章 心算ノカヲ以テ身体ヲ管スルノ条目ハ左ノ如シ、第一

惰

性ニ傾ク処ノ形体ノ意向ヲ抑制スルコトナリ、所謂惰性

ハ一ニ安逸ヲ好ム、二ニ労働を厭フ、三ニ怠慢ニ安ンズ、是ナリ、

○此三者ハ他ノ物体ト同ジク身体上ニ常存スル癖性ニナリ、故ニ常ニ之ヲ警動シ、之ヲ提撕セザルベカラズ、

○八十六章 チャンセロル ケント 曰ク、財産ヲ得ントスルノ感覺ハ

人 ヲシテ怠惰ヲ去リテ勤勞ニよ赴カシメントスル為ノ刺激機ナリ、此感覺ヲ擴ムルトキハ、以テ土地ヲ開墾スベシ、以テ政府を建立スベシ、以テ審院ヲ建立スベシ、以テ生活ノ安慰ヲ得ベシ、以テ要用ナル工藝ヲ進ムベシ、以テ通商ノ精神ヲ強クシ、以テ味道ノ生長ヲ助クベシ、以テ棄捨ノ施行ヲ為スベシ、以テ仁恵ノ感覺ヲ廣ムベシ、

○八十八章 財産ノ權利、義務、ニ管シテ、三個ノ要件アリ、一ハ之ヲ得ルコト、二ハ之ヲ保ツコト、三ハ之ヲ處置スルコトナリ、人ハ一物ヲモ社界ノ中ニ造リ出スコト能ハズ、又一物ヲモ助ケテ結果ニ至ラシタルコト能ハズ、故ニ人ハ己ガ保有スベキ物ハ必ず何レヨリカ之ヲ得ザルベカラズ、已ニ得ル者ハ之ヲ保有セザルベカラズ、其保有シタル物ハ、遲速共ニ自己ニ之ヲ處置セザルベカラズ、

○八十九章 財産ヲ得ルニ數法アリ、其一ハ衆人ノ用ヒザル者ヲ取りテ

己ガ用ニ供スルコト、即チ新ニ土地ヲ発見スルガ如シ、其二ハ勞力ニ由リテ之ヲ得ルコト則チ或ハ礦山ヲ開キ、或ハ土地を耕ス等ニ由リテ新ナル價值ヲ生ゼシメ、又新ナル價值ノ物ヲ産出セシムルガ如シ、其三ハ此物ト彼物ト交易スルニ由リテ得ルコト、其四ハ贈遺、又ハ遺物相續ニ由リテ得ルコト是ナリ、

○九十章 財産ニ管係セル義務ハ左ノ如シ、○第一 財産ヲ得ルコトニ付テノ義務 人タル者ハ自己ノ利益ノ為ニ固性インシテノ法則ニ從ハザルベカラズ、自己ノ利益トハ正シキ受得ト、正シキ財産ノ用法ト及ビ此固性ヲ棄ルヨリ生ズル諸惡ヲ避クルコトノ中ニ成立セル必用ニテ許多ナル徳ヲ養成スルコト是ナリ、又他人ノ利益ノ為ニ固性ノ法則ニ從ハザメベカラズ、他人ノ利益トハ、他人ノ得分ノ為ニ配付ヲ為スニ適セラルコトイフナリ、此篇ニ論ズル一体ノ規則ハ總テ衆人ノ所有ノ貨財ノ數ヲ増加シ、其財産ヲ無益ニ消費破壊スルコトヲ防グ以テ主意トシタル者ナリ、

○第二 高崇ナル道理ニ隨ヒテ財産ヲ受得シ保有シ、使用スルコトハ人ノ職分ナリ、故ニ財産即チ貨財ハ只方法ト為シテ之ヲ取扱フベク、目的ト為シテ之ヲ取扱フベカラズ、財産ハ自己ノ為ニ之ヲ求メ之ヲ保ツベカラズ、只之ヲ起発シ之ヲ完成スル者ノ為ニ之ヲ求メ、之ヲ保ツベシ、又之ヲ得、之ヲ保ツニ、共ニ均平ノ道理ト符合スベクシテ、更ニ又上帝及ビ國ノ高崇ナル願望ニ服從セザルベカラズ、又之ヲ求メ、

之ヲ処分スルニ、共ニ我品行ヲ高ムル処ノ諸徳ト相親和スベキヲ要ス、其徳ハ醒起、企謀、勉強、裁智、節儉、仁惠等ナリ、

#### 婚姻ノ權利義務

○百四十四章 婚姻ノ權利義務ハ夫婦相合シテ一家族ヲ為スヨリシテ其間ニ生ズル者ナリ、

權利ト義務トハ婚姻ノ約束ヲ以テ、根基ト為ス者ナリ、○夫婦ノ暮シハ、一男一女、互ニ愛情ヲ交換シ、生活上ニ於テ互ニ相助クルトイヘル約束ニ起原スルナリ、

百四十五章 多娶ハ、世間ニ生ル、男女ノ數ノ相齊シキヲ見レバ、明カニ上程ノ禁ズル所ナルコト知ルベシ、○凡ソ威權アル命令ハ、男女ノ構造中ニ記載セルヨリ明カナルベシ、即チ一家族ノ構成ハ、一男一女相配合スルヨリ適宜ニナルハナシ、○多娶ハ道德上ノ惡事ノミナルナラズ、更ニ婦人ノ位格ヲ賤蔑シ、真正ノ一家ノ暮シノ立方ニ適合セザル者ナリトイフ考ヲ生ズルコトハ推測ラルベキコトナリ、

百四十六章 婚姻ノ約束ハ、愛情利益トノ互ノ交換ナレバ、男女共ニ自由ニ其智慧ヲ働カセ、心ノ底ヨリ決定ナスコトヲ得シムベシ、○故ニ婚姻ノ約ヲ為スベキ男女ハ各己ニ繋着セル務ヲ十分ニ理會シ、己ノ了簡ヲ以テ之ヲ処置シ得ベキノ年齢ニ至ルヲ待タザルベカラズ、又此男女ハ惟父母ノ相談ヲ受クベシガ、父母ノ威權ヲ押シ付ケトヲ受ケザルベシ、是レ十分ノ自由ヲ押潰サレザルガ為ナリ、若シ男女ノ年齢十分

ニ成長セザルカ、曾テ見知ラザル所ノ人ト婚姻ヲ約スルカ(自由ナル愛情ノ發スル機会ヲ得ズ、又ハ或ル目的ニ由リテ臣屬中ノ人ト約束スルカ(自由ノ智慧ノ愛情ノ働ヲ許サズルカ)ノ時ハ、社會ノ風俗上ニ道德ノ不満足スルナルベシ、

百四十七章 婚姻ノ約束ハ道德上ヨリ言ヘバ死亡ノ外ハ破解スルコトナシ、○婚姻ノ結合ハ凡ソ人類中ノ結合ニ於テ最モ親密ニシテ最モ破ルベカラザル者ナリ、聖經ニ於テ嚴ニ訓誨セル子ノ道トイヘドモ、夫婦ノ下ニ立タザルベカラズ、若シ止ムコトヲ得ザルトキハ、男女若シ其父母ヲ棄テ、モ二人一塊肉ノ約束ヲ遂げ、利益、愛情、役目ノ徹底ノ混合ヲ為スコトヲ要スベシ、男女十分ニ互ノ信愛ノ心ヲ顯シタルヲ以テ、生涯之ヲ相親交スベクシテ、他ニ親交ヲ求ムルコトハ堅ク禁スル所ナリ、故ニ夫妻ノ義務ハ、夫婦何レノ方モガ十分ニ義務ヲ行ヒ得ベキ間ハ、之ヲ廢スルコトナシ、既ニ夫婦ノ中一人死去スルカ、他ノ男兒よト婚姻ヲ結ブニ由リテ此結婚ノ消滅スルマデノ間ハ、其義務ヲ行ハザルベカラズ、故ニ、此二者ノ外ニ於テ、法律ニ於テ夫婦ノ離縁ヲ許スコトハ、純粹堅固ナル道德ト背馳スルヨリ起ルコトナリ、即チ愛情ノ消失、愛情他ニ移ルコト、暴虐ナル等ノコト、存命上ニ於テ離縁スベキ理アリトス、古代ノ習慣法ニテハ同居ト床トヲ為サズルノ離縁ハ、之ヲ允許スルコトアレドモ、真ノ離縁トイフコトハ、只一ヶ條(他人ト婚姻ヲ約ス)ノ外ハ、生涯許サズルコトト為リ居レリ、又婚姻ノ

約ハ其他ノ諸約ト同ジク、欺詐ヲ行ヒタルトキハ、之ヲ解クコトヲ得ベク、又禁止内ノ親族トノ約ハ同ジク之ヲ解クコトヲ得ベシ、

百四十八章 婚姻ノ約ハ、平和ノ社會ノ大利益ナルノミナラズ、又道德教法ノ利益ニモ大ニ助アメ者アレバ、嚴正ナル規式ヲ為シテ、其約束ノ堅固ヲ示シ、更ニ社會ノ事無ニ入込ムベキ始メナルコトヲ公衆ニ表示スベシ、○此規式ハ政法及ヒ教法ノ兩途ニ管係スル者ナレバ、政府ヨリ其保護ヲ與ヘ、教法ヨリハ、其尊信ノ下ニ立チテ新生計ヲ立ルコトヲ許サズルベカラズ、然レドモ此規式ハ只外面ノ證拠堅固ヲ示スノミニテ、男女ノ真ノ生活ハ兩人ノ互ノ自由ノ約束ノ中ニ固定スル者ナリ、

百五十四章 父母ノ義務、○子ニ從フ所ノ管係ヲ基本トス、即左ノ如シ、其一ハ、形体及ビ道德ノ傷害ヲ防グコト、其二ハ小兒ノ父母ニ倚賴セルノ間、其身体及ビ心志ノ為メニ要用ナル貯ヘ、其三ハ、困難及ビ疑惑ノ時ノ助言、其四ハ、其子ノ一家ノ有様ニ適合シ、又ハ後來社會ノ交際ニ適合セル身体及ビ智慧ノ教育ト習練、其五ハ、智ト愛トヲ兼ネタル規則、然レドモ、又威權アリテ、必ズ此規則ニ依ラシメザルベカラズ、之ヲ執行スルニ良心、後悔、羞恥等ヲ以テ、賞罰ト為サズルベカラズ、○小兒ノ權利、此父母ノ義務ニ対向シタル者ニシテ、即チ防護、補給、助言、教育等ノ權利ナリ、

百五十五章 子ノ義務ハ父母ニ服屬セルニ基シタル者ニテ、父母ノ義務

ト其廣サヲ同フスル者ナリ、其一ハ、父母ノ愛情ニ対シテ感恩ノ愛情、

顯利爹氏修身學

其二ハ、父母ノ保護注意ニ対シテ歡喜ノ安慰、其三ハ、父母ノ威權ニ好ンデ服従ス、其四ハ、一家ノ利益ノ為メ、誠実ノ服役、其五ハ、父母ヲ以テ最高ナル權トシテ尊敬ス、○父母ノ權利ハ此義務ニ対向シタル者ニシテ、即チ感恩、安慰、服従、使役、尊敬ナリ、

○第百〇八章 凡ソ仁愛ノ主義ニ根セル、他人ニ対シテノ職分ハ、其立場ト階級トニ從ヒ、之ヲ三種ニ分ツ、憐愛ニ於テ仁愛ノ感覺ヲ顯ハシ、親厚ニ於テ仁愛ノ性質ヲ顯ハシ、慈惠ニ於テ、仁愛ノ行為ヲ顯ハス、○第百〇九章 凡ソ我同類ノ人間ニ対シテ憐恤ノ感覺ヲ養成發顯スルコトハ人タル者ノ職分ナリ、

○異教ノ徒モ基督ノ徒モ。共ニ憐恤ヲ以テ道德ノ一ト認可セリ、希臘ノ經典ニ人タル者ハ他人ノ利益ニ注意セザルベカラズトアリ、基督ノ教ニハ、他人ト喜歡ヲ共ニシ、他人ト悲泣ヲ共ニスベシトアリ、凡人タル者ノ同類ニ対シテ行フベキ根元ノ職分ハ、其天性ニ由リテ定メタル処ニテ、真ニ憐愛スルニ在リテ、同儕ノ真ノ利益ニ付キテ、其憐愛ノ心ヲ増益スルニアリ、

○憐愛ノ職分ハ天下一般ナリ、此職分ハ人タル者ヲシテ人タル者ニ行ハシムル者ナリ、

○憐愛ノ度ト形状トハ、其人ノ關係ニヨリテ差異アリ、又其憐恤ヲ發セル緣由ヤ其人ノ模様トニ由リテ一樣ナラズ、

民ノ国ニ対スル職分

○二百三十四章 國民ノ国ニ対スル根本ノ職分ハ、眞実ノ忠義ロイヤル  
ドゥティ是ナリ、

本国ヲ愛スルトイフコトハ人々ニ固有セリ、若シ十分ニ此感覺ナク、又力ヲ出シテ此事ヲ行フカナキ者ハ真正ノ人又完全ノ人ト為スヘガラズ、国トイフ者ハ、人ノ真正ニシテ温熱ナル感情ヲ發セシムベキノ一物ナリ、其国ノ保命、利益トヲ謀ルトイフコトハ、其原ハ同郷、同都ノ人ヲ一般ニ愛スルトイヘル感情ヨリ起リタル者ナリ、人ハ相互ニ憐恤シ相互ニ感情ヲ通ズルトイフコトハ、国ト民トノ天法ノ原質トナル者ナリ、

国民ノ上ヨリ言フトキハ、此根元ノ感情トイフ者ハ、第一ニ其国ヲ敬崇シテ高大尊重ノ物ト為シ、其結構、代議人、其行為、其權理共ニ之ヲ尊ブノ心ヲ形作ル者ナリ、故ニ国民タル者、其高官者ノ惡事ヲ語ルコトハ道德ノ禁ズル所ニシテ、其国君ヲ敬重シ、及ビ其政体ノ結構ト名代人トヲ尊敬スルトハ、共ニ道德ノ望ム所ナリ、自由政治ノ国ニ於テ、此事ニ付テ道德ノ主義ニ反スルノ罪ヲ犯スコトハ多クシテ且大ナリ、故ニ此ノ如キ国ニ於テハ殊ニ道德ノ主義ヲ遵奉カルコトハ最モ切要ニシテ、政府ノ威權ヲ執ル者ニ對シテ不敬又ハ不當ノコトヲ行フハ殊ニ之ヲ戒メザルベカラザルコトナリ、政略ノ方法モ取扱ノ行為モ、国民、官人ニ對シテ禮儀恭敬ヲ行フノ間ハ、都テ人民ニ對シテ適當ナル保護ヲ為サザルベカラズト為セリ、

○二百三十五章 国民ノ国ニ對スル第二ノ職分ハ服従ナリ、

国ハ正義ノ居場処ニシテ、威權ノ根源ナリ、国ヨリ發スル所ノ命令、

一般ノ道德ニ協フトキハ国ヨリ猶豫ナク之ニ服従スベシ、若シ其命令或ハ道德ニ協フカ協ハザルカ疑ハシキトキモ、猶國ハ高キ裁判ノ為ス所ニシテ、大抵ハ正義ニ協ヒテ居ル者トイフコトヲ考ヘテ之ニ服従スベシ、国ノ法律ニ抵抗スルモ可ナリト言フハ、其国ノ命令、全ク高崇ナル道德ノ法則ニ反抗シタル時ノミナレバ、其場合ハ甚明白ニ知易シ、若シ人民ノ良心全傷害ヲ被ブルデナケレバ、縦令國ノ命令ハ道德ニ合ハズ、又、不公正ナリト假定ストイヘドモ、之ニ服従セザルベカラズ、

今マ国ニテ兵ヲ起サントスルニ、其根源ハ至テ不公正ナリト察セラレドモ、国ヨリ軍費及ビ兵役ヲ課セラル、トキハ、国民ハ其命令ニ抵抗スベキ者ニ非ズ、蓋シ此事ヲ為スハ、国民ノ職分ヲ尽ス譯ニテ、即チ平和ノ利益ヲ為サントスル方正ノ主意ニ協フ者ナリ、固ヨリ国民ハ其戰爭ニ付テ道德上ノ責任ヲ負フコトナケレバ、国民自己ノ良心ハ、國ニ服従ヲ為シタリトテ之ガ為ニ損傷ヲ受クルコトナシ、国民ハ本ヨリ政府ノ所置ノ可否ヲ選ンデ服従スル否トヲ定ムルノ職分ナキ者ナレバ、自己ノ本心ヲ證ニ立テ、其忠義ノ服従ヲ怠ルノ言譯ト為スコトヲ得ズ、若シ之ヲ行フテモ可ナリト許容スルトキハ、一己ノ判断ヲ以テ公衆ノ判断ヨリ貴キ者ト為サザルコトヲ得ズ、是甚ダ道理ニ當ラザルノコトナリ、又国民人々自己ノ眼ニ見ル所ヲ以テ正義ニナリト定メテ、之ヲ執行スルヲ得ルトキハ、社會ノ法則、順序ハ全ク地ニ委スルニ至ルベシ、又政府ニテ、其命令ニ服従セザル者ニ罰ヲ與ヘテ公同ノ正義

ヲ保全セシムルトイフハ、道德ニ於テ甚好マザル所ナリ、若シ政府ノ意思、国民ニ支ヘラレ、一モ其執行ノ実効ヲ挙グルコト能ハザルトキハ、政府ノ威權ハ押シ破ラレタル者トイフベシ、罰ヲ受ケテ服従スルトイフコトハ、有功ノ服従ニ非ズ、古語ニ曰ク、服従スルコトハ、損害サル、ヨリ善シト、是ヲ言フナリ、

○二百三十六章 国民ノ政府ニ対セル第三ノ職分ハ供給<sup>○サツボ</sup>是ナリ、凡ソ政府トイフ者ハ其人民ノ供給ニ由リテ生活シ活動シ、完成スル者ナリ、故ニ国民ハ政府ノ生活ト活動トニ必用ナルコトノ為メニハ、租税ヲ納メ、又其身ヲ服役ヲ為サズルベカラズ、国民ノ政府ヲ助クルハ、スベテ政府ノ政畧ト政法トニ従ヒテ之ヲ為スベキコトナリ、自己ノ為メ又ハ徒党ノ為メノ利益ヲ思ヒテ、政府ノ命令ニ反対抵抗スルハ不忠ノ民ナリ、若シ犯罪人アルトキハ政府ヲ助ケテ其罪ヲ囚ヘザルベカラズ、是ハ罪人ヲ憐レムノ哀憫ノ情ハ、政府ノ公正ヲ助クル梨惠ノ下ニ屈従スベキ者ナレバナリ、又愛国心ノ奮熱ニ過グルヨリシテ却テ愛国ノ本旨ヲ誤ルコトアリ、例ヘバ私ニ義團ヲ結ビテ好シデ政府ヲ助クルコトノ如キハ、反テ中道ヲ過ギタルコトトイフベシ、此ノ如キコトヲ為ストキハ、政府ノ意外ニ他人ノ利益ヲ損害シ、他人ノ權利ヲ破ルコトヲ生出スレバナリ、此ノ如キハ道德ノ本旨ヲ失フ者トナルナリ、此ノ如キコトヲ為スハ市場ニ於テスルモ宜シカラズ、隣人ニ対シテ行フモ宜シカラズ、一家ニ於テ行フモ宜シカラズ、即チ政府ニ対シテ行

フモ宜シカラザルハ、同様ノコトナリ、真ノ忠義ノ民トイフ者ハスベテ政府ノ法則ニ協ヒタル仕方ニ向ヒテ真実ニシテ働キアル供給<sup>○</sup>ヲ行ヒ、一新ノ利益及ビ結党ノ目的等ハ尽ク其下ニ服属セシムベシ、凡ソ己ガ本国ヲ以テ一私ノ利益ト結党ノ弁理ノ中ニ沈没セシムルハ、甚ダ不忠ナル都人、貧ナル愛国者ナリ、

○二百三十七章 凡ソ国民タル者、其生國ヲ去リテ他國ニ轉居シ、使用極ニ尽スベキ処ノ忠義ヲ轉ジテ之ヲ他國ニ尽スコトノ法則ニ協ヘルヤ否ヤトイフ疑問ハ、國ニ依リテ未ダ一樣ニ帰スルコト能ハズ、一度臣屬タリシ者ハ、永久ニ臣屬タルベシトイヘル訓語ハ、古代ハ之ヲ遵奉セリ、然レドモ世運漸ク開ケ、人類ノ權利ト自由トノ進ムニ従ヒ、此ノ如キ訓語ニ世人ノ尊敬ヲ得ルコト、古代ノ如クナルコト能ハズ、而シテ自己ニ本國ヲ去ルトイフコトモ衆人ノ認許スル処ナルニ至レリ、國ト國トノ自由ノ交際、睨ト定マリタル列國ノ公法、人身ノ自由ノ大ナル允許、土地人民ノ増加スルニ由リテ国力ノ強大ニナル等ノ諸件ハ皆此人民自由ノ選擇ノ支限ヲ取除クルノ助ケヲ為ス者ナリ、凡ソ国民ノ此土ニ生レテ此政府ニ服従スルトイフコトハ、原ト地理上ノ極メテ簡易ナル管係ナレバ、此管係ノ性質ヨリ言フトキハ、国民其居処ヲ變ジテ兼テ國民ノ職分ヲモ移轉スルトイフコトハ、決シテ近世スベキ者ニハ非ザルナリ、

○然レドモ國民自己ニ生國ヲ去ルノ權利ヲ行フニ方リ、又道德上ノ制限

アリ、即チ其本国危難災害ノ時ニテ国民ノ供給援助ヲ要スルトキニ方  
リ、其本国ヲ忘去ルハ、道理ノ惡事トスル所ナリ、又是ヨリ惡シキハ  
一信任ノ愛ニ居リナガラニ心ヲ懷キ、又ハ約束シタル服従ヲ破リテ、其  
生國を去リ、忠義ヲ他國ニ轉スルコトナリ、

顯利參氏道德学

### 第三編 國家ノ職分

#### 第一節 國家 其目的及ビ道德ノ性質

第一百十章 國家ハ一定ノ地界ノ内ニアリテ、人民ガ世間ノ普通ノ利益  
ヲ進ムル為メニ組立タル天然ノ社會ナリ、

此定義ハ首要ナル國家ノ性質ヲ包括スル者ニシテ、更ニ個別ノ分鮮ヲ  
要スルナリ、

#### (二) 國家ノ根元

第一百十一章 國家ハ天然ノ社會ナリ、其初メハ上帝ノ命令ニ成ル者  
ニシテ、恰モ蕾ヨリ花ヲ開キ、幹ヨリ枝ヲ生ズルト相同ジ、人類歴史  
ノ最初ノ一光線中ニ於テ、人類ハ道德ヲ以テ組織セル社會ノ中ニ生活  
スルトイフ事實ヲ發見シタリ、造化ガ要望セル道德ノ法則ハ其初メ極  
メテ小ナル一家ノ組織ノ中ニ於テ之ヲ見タリ、即チ父母ノ威權是ナリ、  
然ルニ人類其數ヲ増スニ及ビ、父母トイヘル一家族ハ甚小ナル者トナ  
リ、許多ノ伴類一家ノ内ニ聚合シ、是ヨリ家族ノ數モ大ニ増加シ、人  
類ノ天性ガ互ニ相認許スル所ノ道德ノ干係モ、其初メハ只一個ノ家族  
内ノ各人ヲ約束スルニ過ぎザリシガ、遂ニハ幾多ノ家族ヲモ皆之ニ  
從ハシムルコトトナレリ、家族ノ漸々弘張スルニ及ビ、終ニ種族シウタクト  
イフ者ヲ生ズルニ至レリ、然ルニ其増加擴大ノ勢ハ益強クシテ、種族

ノ増加スルモ、亦家族ノ増加スルガ如ク、遂ニ道德ヲ以テ組成セル国家ノ形体ヲ造成シ、是ニテ人類ノ成熟ノ有様ニ達セリ、即チ今ノ国民ノ状態ヲ備フルニ至リタリ、此ノ如キハ、則チ人類タル者ノ天則ナリ、人類ノ性質ニ於テ、其社会ヲ形作りタリ、凡ソ政事ノ社会、国民、国家トイフ者モ、其本ヲ推セバ、尽ク上帝ノ命令ニ出タリ、上帝ハ此ノ如ク人ヲ造リ、其存立ノ状態ハ宜シク此ノ如クスベキ者ナリト定メタリ、凡ソ人類ノ所有セル力ハ皆上帝ノ命ジタル所ナリ、

### (二) 国家ハ社会ヲ構造ス

百六十二章 国家ハ単ニ一個人、又ハ家族ノ聚合セル大塊ノミニ非ズ、又共通ノ利益ヲ得ンガ為メニ、堅固ニ合セタル一ノ結合体ナリ、国家ハ其聚合セル体ニ於テ各、働キヲ為スニ、人々皆同一ノ目的ヲ有ス、国家ハ其中ニ、之ヲ組成スル夥伴ヲ包含ス、此夥伴ハ、其羣居スルヨリシテ、互ニ或ハ權利ヲ生ジ、又相互ノ義務ヲ負荷スル者ナリ、国家ハ又其中ニ共通ノ命運ニ於テ希望ト恐怖トノ共通ノ分ケ前ヲ取ルコトヲ包含ス、此事ハ相互ノ同情ヲ高メ、相互ノ役目ヲ勉タルニ由リテ得タル者ナリ、又国家ハ、其中ニ各個ノ利益ノ多数多種ナルト相一致セル種々ノ職業ヲ包含ス、此各個ノ利益ハ、単一ナル全体ヲ結合シ、高等ヨリ下等ニ至ルマデ、種々ノ階級アレドモ、其物処ト其方法トニ從ヒテ、共通セル一目的ヲ成効センコトヲ務ムル者ナリ、生活セル単一ノ体ト同ジク、国家ノ生命ノ最初ハ、僅ニ認識シ得ベキホドノ萌芽ナリ、然レドモ幾多ノ人類ハ、

初メヨリ道德ノ或ル法則アリテ、之ヲ抱擁シ、此人類ヲ抑制シ整理シ、又之ヲ活動セシムルコトナキトキハ、恒久ニ其干係ヲ守リテ同居同栖スルコト能ハザルナリ、十分ニ開發セル政治ノ組織ハ、利益アル社会生活ヲ以テ現ハル、者ニシテ、国家自身(国民)ハ其終リニ於テ、多クノ官職ヲ置き、許多ノ夥伴ヲ以テ単一ノ形体ヲ作り、何レモ多少完全ナル服屬ヲ為シ、相互ノ扶持ト同情トニ由リテ諸種ノ職分ヲ完成スルナリ、眞実ニシテ且ツ大切ナル意味ニ於テ国家ハ、自己ノ生命ヲ有セリ、之ヲ政治ノ形体ト名ク、共通ノ利益ノ為メニ、種々ノ道路ニ就テ協力スル所ノ官職ヲ以テ組立タル者ナリ、

### (三) 国家ノ範圍

百六十三章 国家ハ連続セル土地ノ内ニ生活セル人民ノ一致社中ナリ、其適當ナル境界ハ界地ナリ、適當ナル土地ノ内ニ生活セル總テノ人民ハ国家ノ分子ナリ、通常人民ハ共通セル根元ヲ有セリ、家族ハ弘マリテ種族トナリ、種族ハ遂ニ國民トナルナリ、然レドモ血縁ノ続キ合ハ只国家ヲ助ケ成スニ過ギズ、血縁ハ本来ノ一致及ビ生存ノ本原ニ非ズ、國民トイフ者ハ種々ノ民族ノ聚合ヨリ起ル者ナリ、國民ハ他國ノ血脉ヨリ来リテ共ニ此地ニ生涯スル者ヲモ受容ス、凡テ認許サレタル土地ノ内ニ居住スル者國民ノ規則ニ於テ、之ヲ臣屬サブジクトト為スナリ、此臣屬タル者ハ國ヲ保存スルノ務ヲ分担シ、其防禦及ビ注意ニモ任ズルナリ、其社会ノ働キハ其国外ニ至リテハ消散スルナリ、彼ノ利益、希望及ビ命運ハ皆共通ノ

經驗ヲ以テ之ヲ係束スルナリ、家族ノ結合ハ血統ノ同一ナルニ依リテ成リ、国民ノ結合ハ住所ノ同一ナルニ由リテ成ルナリ、

(四)

百六十四章 人ハ物ニ異ナリ、人タル者ノ必緊ノ性ハ働ノ根元ヲ有スルニアリ、則チ力ヲ有スルニアリ、国家ハ人ノ聚合セル者ナレバ、殊ニ力ナカルベカラズ、国家ノ力ハ国民ノ力ノ聚合シタル者ニシテ、合シテ単一ノ働ヲ為スベキ者ナリ、余等ガ国家トイヘル概念ハ即チ力トイヘル概念ナリ、国家ノ力ハ絶対ノ者ナリ、即チ一個人ノ力ノ集マリタル者ニシテ又其一個人ニ干係スル者ナリ、故ニ通常ノ国家ヲ称シテ単ニ力トイヘリ、欧州ノ諸力トイヘルガ如キ是ナリ、国家ノ力ハ一個人ノ力ニ比スレバ之ニ超越セル者ナリ、国家ノ力トイフ語ハ、類似ノ意味ニ之ヲ用フルナリ、

国家ハ必要ナル力ヲ以テ成立ツ、国家ハ唯状態ニ非ズ、又只關係ニアラズ、唯眞実ノ力ナリ、其故ハ人民ノ利益ヲ防護シ保持シ、益々之ヲ進歩セシムルニ必要ナル力ニアレバナリ、力アルヲ以テ其人民ハ働クコトヲ得、聚合セル力ナルヲ以テ、社會ノ力ヲ平均セシムルコトヲ得ルナリ、

百六十五章 政治ノ力、即チ国家ノ力ハ、其他ノ精神上ノ力ト同ジク、其居所及ビ其根元ハ自由ノ意思是ナリ、故ニ国家ハ一個人ノ如ク其意思ニ由リテ働クナリ、国家ノ強力ハ聚合セル意思ノ強力ヲ以テ之ヲ

量ルベシ、国家ノ各種ノ働キハ、意思ニ用フル語ヲ以テ、之ヲ言フベシ、即チ決定、決断、順序、法制、法律ノ如キ是ナリ、而シテ是等ハ志望ヲ外ニ發現スルノ語ニシテ、是ニ服従シ、之ヲ執行スル所ノ他ノ意思ニ向ヒテ、話シ掛クルナリ、

国家ノ力ハ、社会ノ力ノ聚合シタル者ナレバ、自然ニ他ニ勝レタル力トナルナリ、勝レタル意思ノ力ナルヲ以テ、社会ニ対シテ制治シ、管理スルノ力ヲ有スルナリ、故ニ其力ハ、政事社会ニアル、或ル一個人、又ハ社会ノ一部ノ力ヨリモ甚強キ者ナリ、

政治ノ力ハ、一個人ノ力ト同ジク其必要トシテ、有形物ノ助ケヲ以テ働クナリ、又政治ノ力ハ自己ノ政務ニ力ヲ添へ、又自己ノ力ヲ益々積重ス、又国家ノ存立ニ必要ナル所ノ有形ノ所有物ヲ集積シ、保持スルナリ、

百六十六章 聚合力即チ政治力ハ其単一ノ機關、即チ官職オラセシニ依リテ、其力ヲ現ハスナリ、集合体ノ一分、例ヘバ立法体ノ如キモ、其形体ハ一個人ノ唇ヨリ發スル者ノ集合シテ成ル者ナリ、此ノ如キ官職ハ即チ国家ヲ現出スルナリ、其官職ハ其名ニ依リテ、其標章ヲ着ケ、其威權ヲ執行シ、其利益ノ為メニ働ナリ、世界ニテハ、国家トイヘバ、只其人ト其行為トニ由リテ之ヲ見ル、然レドモ官職ハ国家ヲ代表スルノミナラズ、又国家ガ活動シ、生活シ、其生命ヲ養育シ發表スル所ノ適当ナル機關ナリ、官職ハ又進退ノ機關ガ多少麻痺疾病スルガ如ク、不完

全、不信用、腐敗スルコトアリ、然レドモ進退ニ機関ノ必要ニシテ、之方適當ナル役目ヲ為シ、以テ都合ヨキ生活ヲ保ツト同ジク、国家ヲ代表セル官職モ亦寔ニ政治ノ体ニハ又必要ナル機関ナリ、国家ノ集合体ノ機関方不信用ニシテ腐敗スルモ身体中ノ機関ナル手足一分ノ麻痺疾病ニ由リテ非難ヲ受クルヨリ甚シキコトハナシ、

#### (五) 国家生命ノ目的

百六十七章 国家ハ、其仲間ニ共通スル所ノ世間上ノ利益ヲ保護シ又之ヲ進ムル為メニ成ル者ナリ、国家ノ直接ノ目的ハ、其聚合セル仲間ヲ、外面、即チ世間上ノ干係ニ於テ安全幸福ヲ與フルヲ以テ正当ナル行為トナス、余儕、今、家族、国家、宗門ヲ以テ、天然ニ人類ノ間ニ成ル所ノ三ノ同列ナル種類ト見做ストキハ、其中第一ノ者、即チ家族ハ其目的ハ未成人、即チ児童ヲ其幼年ノ間、(安全幸福ヲ與ヘル)養成スルヲ以テ他ノ二者ニ異ナリトス、第二ノ者、即チ国家ハ其直接ノ目的ハ青年ノ人々ニ世間上ノ安全幸福ヲ與フルニアリ、第三ノ者、即チ宗門ハ、其直接ノ目的ハ、成年ノ人ヲ以テ不朽ノ性ヲ有スル者ト為シ、利益トスル所ヲ以テ之ニ安全幸福ヲ與フルナリ、

国家生命ノ適當ノ目的ハ、人類ノ現世ノ安全幸福ヲ進ムルニアリトイフコトハ左ノ三件ヲ考ヘテ明カニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、其一ハ国家ハ人類ガ只形体ヲ有スル間ノミ成立シ居レル者ニシテ固ヨリ自身ニ不朽ノ質ナシ、其二ハ其範圍ハ、地理ノ界域ヲ以テ限リトスル者ニ

シテ其注目其注意ハ其外形ノ物ニ止マル、其三ハ總テ歴史ニ記スル所ニ依ルニ、国家ガ適當ノ働キハ人類現世ノ間ニ止マル、モシ之ヲ越ルトキハ、範圍ノ外ニ軼出スル者トシテ常ニ有害ノ結果ヲ見ルナリ、

国家ガ人ノ現世ノ利益ニ注目スルコトハ、更ニ有形ノ利益ノ外ニ及ブナリ、人類ノ外体即チ身体手足及有形ノ財産ノ外ニ及ブナリ、国家ノ外部ノ知覺ノ力ニ依リテ、只一個人トシテ他ノ一個人ノ上ニ働キ得ルナリ、然レドモ其働ハ間接ニ有形ノ物ノ外ニ及ブナリ、人ノ名譽ハ、其人ニ存セル勝レタル價值ニシテ現世ノ利益ナリ、此名譽ハ、有形物ニ非ザレバナリ、知慧、道德、宗教ハ共ニ無形ノ利益ナリ、是等ハ人ノ身体ニ属セズシテ無形ナル精神ニ属スルナリ、其上ニ又人ノ不朽ノ魂体ニ属スル所ノ利益アリテ、恒久ナル未来ニ依リテ其人ノ位地ヲ作ルナリ、然レドモ、人ハ現世ニ属スルコトダケハ、適當ニ国家ノ注意ノ中ニ入ルナリ、何故ニ国家ハ宗教ノ監督及ビ之ニ管スル問題ノ管理ヲ為サルカトイヘル道理ハ、宗教トイフ物ハ国家ノ領分ノ外表ニ立ツ者ニ非ザルヲ以テ、国家ノ眞実ノ品性ノ外ニ立ツ者ナレバナリ、国家ハ宗教ガ其適當ナル場所ニ於テ現ハル、トキハ之ヲ妨碍スルハ為シ能ハザル所ナリ、国家ハ種々ノ方法ヲ以テ宗教ヲ為シ、又之ヲ認許セザルベカラズ、其行為ノ界限ハ、国家ノ眞ノ想念ニ依リテ定メラルベキ者ニシテ、宗教家ガ現世上ノ行為ヲ以テ認許サル、ナリ、凡ソ政事社会ニ通ズルスベテノ現世ノ事ハ咸国家ノ領分ノ内ニ入ルベキ者ナ

り、然レドモ何故ニ国家ハ宗教ニ対スルコトハ其少部分ヲ為スニ過ギザルカ、国家ナル者ガ宗教ヲ待スルハ、其現世ニ管スル部分、即チ其生命其利益ニ対スルダケヲ管理スルニ止マリ(即チ其小部分)、其大部分ナル人類ノ不朽ニ関スルコトハ之ヲ管理セザルナリ、宗教ノ全体ニ至リテハ、別ニ他ノ手中ニ於テ之ヲ管理スルナリ、其場所ハ、宗教ノ現世ノ身分ヲ管スルモ却テ国家ニ勝ルコトアリ、故ニ国家ニ於テハ、人家ノ現世ノ利益ニ必要ナルコトノ外ハ、總テノ宗教ノ指導管制ハ之ヲ為サズ、ルヲ以テ尤モ智慮アル処置ト称スベキナリ、

道德ハ宗教ヨリハ猶多ク国家ノ注意ヲ要ス、其故ハ凡ソ現世ノ利益ハ単ニ道德ノ干係スル所ナレバナリ、公共ノ平安、公共ノ保護、有望ノ業事、現世ノ勤勉ハ、直チニ社会ノ道德ニ属スル者ナリ、

知識ハ、道德及ビ宗教ノ根基ニシテ、人民ガ国家ニ於テ適當ノ主權ヲ働カス為メニ欠クベカラザル者ナレバ、政治社会ノ現世ノ幸福ニ大切ナル干係ヲ有スルナリ、現世ノ安幸ヲ希望スルヨリシテ、教育トイフ者ハ、国家ニ於テ正当ニ注意スベキ事物トナルナリ、故ニ人民ノ安幸ニ干セル、適當ナル現世ノ事物ハ、皆国家ノ行為ノ界域ノ内ニ在ルモノナリ、

乍併、前ニ記シタル現世ノ安幸ニ干セル国家ノ行為ノ界限ノ外ニ尚其他ノ界限アリ、即チ現世ノ利益ニ共通ノ利益ナラザルベカラズトイフコト是ナリ、国家ハ一個人ノ為ノ者ニアラズ、只社会ノ為ノ者ナリ、

各ノ一個人ハ社会ノ仲間トシテ之ヲ見ルナリ、若シ国家ニ於テ一個人ノ為メニ行為スルコトアラバ(實際屢アルコトナリ)、決シテ私惠ヲ以テ之ヲ為スベカラズ、其他ノ一個人又ハ一種族ニモ、国家ハ之ト同一ノ取扱ヲ為サズ、ルベカラズ、

此適當ナル国家行為ノ特別ナルコトハ、總テノコトヲ、一般ニ、又成ルベク正当ニスルニ、都合ヨク、又エミニスルナリ、一個人又ハ一種族又ハ一部分ニノミ尽シテ、其他ノ者ニ尽スヲ否拒スルコトハ国家道德ノ根本ノ元理ヲ破壊スル者ナリ、

乍併、タトヒ国家ノ生命ノ行為、直接ノ目的ハ現世ニ在リトイヘドモ、其生命及ビ行為ハ、道德及ビ心灵上ノ利益ニ干係セズトイフニ非ズ、初メニ於テ、形体ハ精神ノ代リ、現世ハ恒久ノ代リトシテ、国家ノ直接ノ仕事ハ只形体ト現世トニ在ルコトナレドモ、道德及ビ精神ノ利益ニハ、其配下トナリテ、其働ヲ助力セザルベカラズ、国家ノ行為ハ直接ニ是等(道德精神)ノ利益ヲ為スコトナシト雖ドモ、正当ノ道理ヲ以テ、是ヲ補助セザルベカラズ、人身ノ心臓ハ血脉ノ養力、能ク望ム所ノ進行ヲ為シ得ルトキニ之ヲ為スナリ、血脉循環ノ結構ハ、全身ノ安康ヨリシテ成ル者ナリ、其働キハ其状態ト相感応スル者ニシテ、其強弱ノ度ハ、全身ノ強弱ト相干係スルナリ、国家モ亦此ノ如ク、其働キハ直接其身体即チ現世ノ状態ニ於テ之ヲ為スト雖ドモ、間接ニハ其身体ノ成立スル根元ノ精神ノ用ヲ為スナリ、国家ハ此精神ノ力ニ由

リテ高等ノ性質ヲ得、又之ニ由リテ其活動ノ尺度ヲ得ルナリ、

第二ニ、国家ハ人民ノ社会（人民ハ道德及ビ心灵ノ体ナレバ、決シテ其高等ナル性質ヲ放棄スルコトナシ、道德ノ性トイフ者ハ、常ニ有形ノ体ノ中ニ在リテ呼吸シ生活ス、国家全体ノ自由ナル行為ハ、タトヒ直接ニハ世界上ノ目的ヲ以テ之ヲ為スト雖ドモ、猶道德上ノ義ヲ以テ、之ヲ定斷シ、之ヲ標識セザルベカラズ、

第三ニ、国家ノ行為ハ、タトヒ現世ノ利益ヲ基礎ト為スト雖ドモ、時トシテハ、道德又ハ心灵ノ光輝ニ由リテ其利益ヲ高進センコトヲ求メザルベカラズ、喩ヘバ医術ノ如シ、其目的ハ、身体ノ健全ヲ致ストアレドモ、數、其身体ノ健全ヲ得ル為メニ心ノ働キモ差凶セザルベカラズ、国家モ此ノ如ク高等ナル現世ノ安幸ヲ求ムルノ間ニ於テ、社会ノ宗教ノ状態ニモ注意セザルベカラザルナリ、此間接ノ方法ヲ行フニ付キテ、民ノ知識ヲ養ヒ、美術ヲ進メ、道德及ビ宗教ノ進歩ヲ謀ルコトハ極メテ必要ナリ、

故ニ、人ノ外面ニアル社会ノ生活ハ一個人ノ仲間ノ、聚合セル道德ノ安康ニ服属スル為メニ、身体ノ人身上ノ生命ト同様ニ保持スベキ者ナリ、

#### (六) 国家ノ道德性

上文ニ言フ所ニ依リテ、国家ハ其適當ノ意義ニ於テ、道德ノ範圍ノ中ニ在ルトイフコトハ明白ナリ、国家ノ行為ハ人類ノ行為ニシテ、人

類ノ行為ハ寔ニ道德ナリ、国家ノ直接ノ目的ハ、一個人ノ高等ナル道德性ニ従属スルニアリ、一個人ハ即チ国家ノ社会ヲ組成スル者ナリ、国家ハ道德ノ性ヲ有セル者ヲ以テ事ヲ為ス、而シテ其外部ノ安幸ハ大抵道德ノ状態ニ属ス、故ニカ国民ノ良心ヲトイヘル語ハ、只比喩ノ辞ニ非ズ、国家ノ聚合ハ行為ハ一個人ノ行為ノ如ク、眞實ニシテ又自由ナリ、其行為ニ正アリ邪アリテ、推進スルト抑制スルトノ干係アリ、一個人又一国ノ悪シキ行為ニ付キテ自ラ恥ルノ感覺アリ、政治ノ体ニハ其行為ノ正ト邪トニ依リテ正当ナル返償ヲ待タザルベカラズ、一個人ハ其現世ノ利益、眞正ノ現世ノ範圍ニ於テ勞力シタル所ニテ、自ラ其道德ノ性ヲ保有シ、眞實ナル道德ノ形姿、彩色ヲ以テ、全ク外面ノ行為ヲ貫通セザルベカラズ、国家モ夫ト同様ニ其現世ノ範圍ニ於テ、其国家ヲ組成セル仲間ガ一般ニ標現セル道德ノ天性ヲ顕サザルベカラズ、凡ソ国家ガ自ラ行為セントスル所ノ目的、及ビ国家ガ全体ニ自身ヲ管理スル所ノ政略、及ビ此政略ヲ施行スル為メニ行フ所ノ特別ノ方法等ハ、何レモ単体ニシテ堅固ナル道德ト相一致セザルベカラズ、其立法、其市民ノ權利ノ法律ノ下ニ立テル裁判、此如ク裁判シタル法律ノ管理ハ何レモ道德ノ原理及ビ其規則ニ由リテ管理セラレザルベカラズ、不道德ノ法律、不公正ノ判決、腐敗シ且邪曲ナル管理ハ人々ハ之ニ服従セズ、又之ヲ嫌惡スルナリ、故ニ国家ハ、其目的ニ於テ、又其目的ヲ完成セントスル方法ニ於テ、自ラ道德ノ管理ニ服属スルベキ

トイフコトヲ認識シ、而シテ自由ニ此管理ニ服従スルコトノ為メニ、何事モ道德ニ依リテ活動セザルベカラズ、此事ハ国家ガ道德ノ性ヲ有セル本来ノ生命ヨリ脱出セザル者ナリ、是ニ由リ、国家ナル者ハ、其目的ヲハ純単ナル現世的ナリト雖ドモ、単純ナル道德ノ法ノ結構ナラザルベカラズ、例ヘバ木工ガ其職分ハ単ニ建築ヲ為スノミニ在レドモ、其人ハ道德者ナラザルベカラズ、即チ道德ノ賞誉ヲ受クベキ様ニ建築シ、道德ノ希望ニ一致セル正路ニ依リテ建築シ、其工藝ハ自身ノ道德性ノ位格ト美麗トヲ以テ被覆セザルベカラザルガ如シ、

百六十九章 フランシス リーベル ガ其政治道學トイヘル書ニ国家ノ定義ヲ説キテ曰ク、国家ハ法律ノ社会（シニユル）ニシテ、正理（ライ）ノ干係ノ上ニ建テタル者ナリ、恰モ家族ガ、親戚ノ干係ノ上ニ立チ、其行為ノ原理ヲ同ク正理ノ上ニ定メ、此原理ヲ活動セシメシメガ為メニ愛ノ原理ヲ用ヒ、而シテ單純ナル法律ノ干係ヲ、其内ニ包括スルハ、恰モ相同ジトイヘリ、此国家ニ干セル威權ニハ大ナル反對説アリ、第一ニハ曰フ、正理ノ干係ハ、政事社会ノ特色ナル根元ニ非ズ、其故ハ正理ハ専ラ国家ニノミ属スベキ者ニ非ザレバナリ、正理ハ寔ニ家族ノ中ニ存在スルコト、恰モ国家ノ中ニ存在スルガ如シ、凡ソ人類ノ交際ニ於テハ所謂法律ノ干係、又正理ノ干係ト称スル者ハ、總テノ人類ノ間、及ビ其行為ノ間ニ通貫スル者ナリ、又次ニ單純ナル法律ノ干係トイフ者ハ、家族ノ關係ニ用ヒタル語ト其意味ヲ異ニシテ専ラ国家ニノミ用フベキ

者ニ非ズ、国家ノ關係ハ“人道ノ大ナル目的”ニシテ、其本ヲ正理ノ干係ニ生ズ、即チ適當ナル法律ノ干係ニ生ズルナリ、然レドモ家族ノ關係モ、同ジク人道ノ大目的ニシテ、其家族中ノ或ル者ノ間ノ法律干係ヨリ生ズルナリ、余儕之ヲ名ケテ、婚姻ノ正理（又權理以下同シ）父子及兒子ノ正理、兄弟ノ正理ト名クルナリ、国家及ビ家族ノ干係ニ於テ、此目的ヲ除キ去ルトキハ、法律ノ干係ノ消滅スルナリ、然ルトキハ国家及ビ家族ノ定立スルコト能ハズ、又支柱ヲ得ルコト能ハズ、一定ノ界限ヲ有スルコト能ハズ、又制裁ヲ有スルコト能ハズ、第三ニハ、若シ法律ノ干係ナル者、国家ヲ初ムル適當ノ干係ナルトキハ、此干係ハ宗教ノコトニモ關スルコト、世間ノコトト同ジキヲ以テ、国家ハ、其管理及ビ注意ヲ宗教ノ利益ニマデ及ボスコト、猶現世ノ利益ノ如クナルベシ、故ニ我儕ハ此ノ如クニシテ、国家ト宗教ノ間ノ実行上ノ區別ハ全ク銷磨セルヲ見ルナリ、又若シ国家ト家族トガ互ニ単ニ下ノ事ニ由リテ區別サル、トキ、即チ正理ハ一方（国家）ヲ活動セシムル原理ニシテ、一方（家族）ニハ此原理ナキヲ以テ之ヲ以テ二者ヲ區別スルコトキハ、愛ノ原理ハ全ク国家ヨリ拒絶セラル、コトトナルナリ、然ルトキハ、愛國心、忠君、本国ノ愛情トイフガ如キハ全ク空名トナリ、之ヲ德ト名クルコト能ハズ、此全体ノ意見ハ、国政ニ干セル或ル誤謬ノ教義ニ反對スルガ如ク見エテ、頗ル是ニ似タリトイヘドモ、論理上ヨリハ誤謬ノ威權ニシテ、実行上ニテハ、頗ル害毒アル誤リトイフベシ、

単ニ法律ニノミ適合シ、単ニ誠心ナキ外面ノ政事上ノ希望ハ、国家ニ  
対シ、国民ノ道德上ノ義務ヲ完成スルコト能ハズ、国家ハ、外面形式  
上ノ服従ノ外ニ要望ヲ為サズルヲ以テ真理ナリトスルトキニ於テモ猶  
然リトス、実ニ、単一ナル法律ノ干係(法律ヲ初メ、又法律ヲ連続サス  
ル)ヨリハ、更ニ廣ク更ニ深く、更ニ早キ、真実ノ忠義トイフ者アリ、  
此忠義ハ法律ノ廢絶セルトキトイヘドモ其強力ヲ保チ、其勢力ヲ有ス  
ル者ナリ、

百七十章 国家ハ真正ナル道德ノ身分トナリテ、其行為ノ適當ナル目的  
ニ向ヒテ、其国法ノ良善ナル意思ヲ養ヒ、国家ガ行フベキ效能アル仁  
恵ヲ為シ、其同情ヲ以テ嚴正ナル正直ノ上ニ施行スルコトノ義務ヲ有  
セリ、

国家ガ道德ノ干係ハ之ヲ三種ニ分ツベシ、其一ハ自身ニ対シ、其二ハ市  
民ニ対シ、其三ハ他ノ国家ニ対スル、是ナリ、其上帝ニ対スル干係ハ、  
別ニ其篇アリ、故ニ爰ニハ之ヲ言ハズ、

## 第二節 チヤウ 国家ガ自身ノ關係ニ於ケル權利ト義務

### (一) 存立エキシステンス

百七十一章 一個人ニ於テ論ジタルガ如ク、国家ニ於テモ亦其自身ニ関  
係セル權利ト義務トアリ、国家ノ權利ハ之ニ相応スルノ義務アリ、其  
一ハ存立エキシステンス、其二ハ自治セルフル、オマ、アマノミイ、其三ハ成長グロ、ウス、是ナリ、  
百七十二章 (二)此三者、国家ハ所有スベキ所ノ權利ニシテ、又存立

ノ為メニ、之ニ一致スル所ノ義務ナリ、

此国家ノ發生ハ正當ナルヤ否ヤトノ疑問ハ、国家存立ノ為メニ適當  
ナル範圍ノ中ニアル者ニ非ズ、存立ノ事實ニ由リテ、發生ニ付キテノ  
疑問ハ定マルナリ、

百七十三章 国家ノ發生ニハ、三様ノ事實アリ、第一ハ家族ノ成長シ  
タル者ニシテ、即チ家族成長シテ種族トナリ、種族成長シテ国家トナ  
ルナリ、此ノ如キハ上古ノ国民ニ於テ見ル所ナリ、

第二ハ已ニ有ル所ノ国家ヨリ分離シテ成ル者ナリ、是ニ付キテハ疑  
問アリ、問、謀叛者ハイカンシテ正シキ国家トナルコトヲ得ルヤ、答  
テ曰ク、国家ノ法律ニ分離ヲ許スノ條目アル者ハ国家ノ法律トシテ之  
ヲ見ルベカラズ、国家ハ決シテ輕々ノ原因ヲ以テ、自ラ分離スル者ヲ  
認許スベキニ非ザルナリ、国民ノ一部分ガ、従前從属シ居ル国家ノ体  
ヨリ分離スルトイフコトハ、寔ニ已ムコトヲ得ザルノ極端ニ達シタル  
者ニ非ザレバ之ヲ允許コト能ハザルナリ、此ノ如キ分裂ハ常々強壓ヲ  
以テ之ヲ行フ者ニシテ、是ヨリ騒動ノ起ルハ、避クベカラザルコトナ  
リ、忍ブベカラザルノ壓制ト、堅固ナル政事生命ノ妨碍トニ逢ヒタル  
トキ、健全ナル存立ヲ保ツニ足ルベキ強力ト多勢トヲ所有セルトキニ  
於テノミ、能ク分離ヲ為シ遂グルコトヲ得ベシ、

第三ハ、是マデ存立セル社會ノ増大アグレゲーションシタルコトニアリ、人民ノ  
集合体ハ、其構造ニ於テ、適當ノ數アル者ナリ、種族ノ聚合シタルニ

於ルモ、他ノ国家ニ付属シタルニ於ケルモ、種々ノ国家ノ集合シタルニ於ケルモ、人類ノ天然ノ気性ニ由リテ、共通ノ利益ヲ得ンガ為メニ合一シテ正シキ国家ノ体ヲ為スコトヲ得ルニ至ルナリ、

百七十四章 然レドモ国家ハ天運ノ命令ニヨリテ成立シタル時ニ於テ、其兒子ノ存立ヲ保ツベキ、最高ノ權利ト義務トヲ有セリ、最高ナル上帝ノ法則ト、一般ノ道徳ノ法則ニ從ヒタル所ニ於テ、左ノ格言ハ尤モ自己ニ必要ノ者ナリ、曰ク『国民ノ安全幸福ハ最上ノ法則ナリ』、其權利及ビ義務ハ左ノ三様トス、第一ハ保持<sup>○</sup>第二ハ防衛<sup>○</sup>第三ハ正当ナル規則ヲ力行ス<sup>○</sup>、是ナリ、

百七十六章<sup>百七十五ヲ脱</sup> 国家ノ保持ハ、公共及ビ市民ヨリノ幫助ヲ要スルナリ、自己ノ保持ノ為メニ、固有ノ幫助ヲ用フルノ權利義務アルコトハ、疑問ヲ要セザルミトナリ、

又一人ノ市民ニ依頼スル前ニ、国家ガ自己ノ幫助ヲ用フルコトハ、一般ノ規則トナリテ、疑問ヲ要セザル所ノ国家ノ義務ナリ、市民ノ援助ヲ得ルコトノ必用及ビ都合ハ、国家ノ單純ニシテ最上ナル判官ナリ、若シ自己ノ存立ノ為メニ其事ヲ要スルハ己ノ義務ナリト判断スルトキハ、市民ノ財産ト其力トヲ採リテ我用トスルハ、国家ノ權利ナリ、

一個人ノ財産及ビ勞力ヲ用フルノ多少及ビ其方法ニ付キテハ、国家ハ己ノ意ノ如ク之ヲ為スニ十分ノ權利アリ、然レドモ政事上ノ道徳ノ原理ヲ守リ、公然タル必要ノ外ニ強取ヲ為スベカラズ、人民ノ力ニ応

ジテ、成ベク其負担ヲ平等ニ温厚ニ之ヲ配当スベシ、一個人ノ利益ニ對シテハ仁惠ノ意ヲ以テ之ヲ取扱フベシ、社会公共ノ利益ニハ、堅実ナル注目ヲ為スベシ、

百七十七章 国家ハ、モシ必要ナルトキハ、適當ノ方法ヲ以テ市民ノ財産ヲ取ルノ權利アリ、(一) 国家ガ『所謂最上ノ領地』<sup>エミメント</sup>ノ權利アリ、即チ市民ノ土地又ハ其他ノ財産ヲ取りテ我物トナシ、又相應ナル返償ヲ與フルノ最高權利ヲ有セリ、(二) 国家ハ自己ノ保持ノ為メニ、市民ニ課税スルノ權利アリ、(三) 其外又、戦争、及ビ社会ノ安全順序ヲ乱スルノ謀叛其他ノ悪事ヲ鎮壓スル為メ、及ビ平日ノ国事ノ為メニ市民ノ身体ヲ用フルノ權利アリ、此權利ハ政事社会ノ性質ニ基スル者ナリ、政事社会ハ全ク人類ノ現世ノ生活ノ社会ヲ組立タル者ニシテ、スベテ公共ノ現世ノ利益ト權利トヲ表出シタル者ナレバナリ、国家ガ法律ヲ以テ之ヲ許シ、又之ヲ防護スル所ノ財産、及ビ之ヲ補助シ養成スル所ノ人身ノ力ハ、道徳上ノ相互ノ義ニ依リテ、其必要ノ時ハ、之ヲ国家ニ給聘セザルベカラズ、又国家ノ生活ニ必要ナルトキハ、全ク自身ヲ犠牲ニ供スルニ至ラザルベカラズ、

百七十八章 国家ヲ保持スルノ首要ナル者ハ租税ナリ、租税ニハ直税<sup>○</sup>アリ、間税<sup>○</sup>あり、直税ハ本来ノ税ニシテ間税ハ職業ノ税ナリ、直税ハ之ヲ人ノ上下財産ノ上下ニ課ス、人身ニ課スル者ハ、分頭税<sup>カテゴリー</sup>ニシテ、財産ニ課スル者ハ財産税ナリ、間税ハ国家内ニ生ズル所ノ産

物ニ課スルアリ、之ヲ運上<sup>○</sup>、<sup>○</sup>トイフ、他国ヨリ入港スル物産ニ課スルアリ、之ヲ入口税<sup>○</sup>、<sup>○</sup>トイフ、商業ニ課スルアリ、之ヲ印税<sup>○</sup>、<sup>○</sup>トイフ、所得ノ上ニ課スルナリ、

種々ノ財源ヨリ採ル所ノ租税ノ分量ニ付キテハ前ニモ言タルガ如ク、政府ニ随意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ベシ、其決定ハ、種々ノ社会、種々ノ状態トニ依リテ其多少甚一様ナラザル者アリ、是ニ付キテ、其選擇ト分殊トニ管スルコトハ共通ノ考案ヲ定メ置カザルベカラズ、

#### 百七十九章

(一)直税ハ間税ニ比スレバ人民ノ心ニ感ズルコト強シ、故ニ直接ハ動モスレバ国家人民トノ摩軋ヲ起シ、遂ニ財産ヲ匿シ、價値ヲ偽ハリ、是ヨリ財産ノ目錄不正実ヲ致スナリ、一方ヨリ言ヘバ直税ハ、人民ガ国家生活ノ意味ト、立法者ガ責任ノ感覺ヲ活動セシメ、是ニ由リテ過度ノ徴収ヲ防グノ利アリ、合衆国ノ如ク、全体ノ一国民ト幾多ノ各地ノ社会(幾多ノ国家、幾多ノ土地)トヲ以テ成立スル国ハ、總テノ間税ヲ以テ、全クノ大国家ニ供シ、直税ヲ以テ各地ノ社会ニ供スルヲ宜シトスベシ、同一ノ土地ニ於テ估價ノ税ヲ取ルハ二重ノ費用ヲ出スノ想ヲ為シテ、殊ニ人民ノ不平ヲ起スニ至ルベシ、加フニ合衆国ノ憲法ニ於テ本来ノ国財ハ直税ニ由リテ支給スベキ者ニシテ、其直税ハ、戸数ニ配布スル者ナレバ、国民ノ財産ノ不平等ナルヨリシテ、各国家ノ租税ハ自ラ不平等ナルノ理ナリ、

間税ハ之ヲ出ス者ハ直税ノ如ク、強ク感ゼズ、故ニ直税ヨリ正シク

配当シ、十分ニ収集スルコトヲ得ベシ、夫故ニ人民ノ不平怨言モ直税ヨリ少ナシ、只間税ニ於テハ、商品ノ價ヲ偽ルト、密賣トノ二者ハ重ナル欺罔ノ計ナリ、然レドモ入口税ハ、外国トノ交易ヲ妨グル者ナレバ、自由貿易ノ弁護人ハ之ヲ以テ国家ノ不利ナリト説ケリ、

#### 百八十章

(二)分頭税<sup>カピテシヨ</sup>ハ、正シキ税ナリ、其故ハ人ハ財産ト同様ニ政治体ノ中ノ成分ニシテ人身上ノ干係アルコトヲ考ヘ得レバナリ、然レドモ分頭税ハ国家歳入ノ少部分タラザルベカラズ、歳入ノ大部分ハ財産ニ於テ之ヲ負担セザルベカラザルナリ、

#### 百八十一章

(三)運上<sup>エキイス</sup>ハ人々ノ職業ヨリ生ズル産物ノ上ニ課スル者ナリ、国家ノ義務トシテ、主トシテ養成スベキ産物ニ税ヲ課スルハ、重困ナリトイヒテ、之ニ反対スル者ナリ、然レドモ或ハ過剰、或ハ害毒ノ恐アリ、或ハ無益ナル物品、例ヘバリキユー<sup>ル</sup>、烟草ノ如キハ、之ニ反対スルノ理由ナシ、故ニ此ノ類ハ、人民ガ堪ヘ得ルダケハ十分課税スルモ不可ナルコトナシ、

#### 百八十二章

(四)入口税ハ、入港セル商品ニ課スル者ニシテ、政府ノ歳入ニ於テ、其首要ノ部分ヲ占ムル者ナリ、此ノ税ヲ選取スルニ利益アル考ハ、此税ハ専ラ国家ノ用ニ供スベキ者ニシテ、都府ノ用ニ供スベキ者ニ非ズトイフコトハ、多数ナリ、此税ノ収集ハ、政府ノ直接ノ管理ヲ以テ必要ノ船舶ヲ造リ、海岸ノ防禦ヲ為シ、又灯明臺、礁標ヲ立テ、障碍物ヲ除却シ、其他、此ノ如キ類ノコトヲ行ヒ、航海ノ安全ヲ計リ、

以テ貿易ヲ利スルノ用ヲ為スナリ、此税法ハ、総テ入来スル所ノ他國ノ貨物ハ尽ク政府ノ監督ヲ受ケ、尽ク其貨物ノ種類ト分量トヲ詳悉シ、其有害ノ物ヲ防ギ、有利ノ物ヲ増シ、又国内ノ利益アル工業ニ勢力ヲ與ヘ、方向ヲ示スガ為メニ、政府ヨリ必要ノ知告ヲ為スニ其助ケヲ為ス者ナリ、

入口税ハ、他ノ税ニ比スレバ納税者ニ於テ其苦ヲ感ズルコト甚少ナシ、納税者ハ自身ノ好ミ其都合トヲ以テ納税スルコトハ恰モ物ヲ買フガ如ク、自己ノ選擇スルヨリ多クノ金ヲ出スコトナシ、此納税ハ、直接ニ政府、即チ一般ニ不快ニ思フ器械(收税人)ト衝突スルコトナシ、故ニ此税ハ通常平穩ニ之ヲ收ムルコトヲ得ルナリ、

國ノ保持、國家ノ保持、都府ノ保持ノ為メノ歳入ヲ別々ニ收入スル國ニ於テハ、國ノ保持ニ供スル入口税ハ、他ノ租税ニ比スレバ納税者ニ於テ費用少ナク、苦難少ナキ者ナリ、

其他海關稅(通常稅則ト名ク)ハ政府ヲシテ、間接ニ社会ノ為メニ多少ノ利益ノ功能ヲ養ハシムルノ利アリ、凡ソ稅則ノ宜ヲ得タル者ハ、多少其中ニ區別ヲ立テザルベカラズ、精密ナル平衡ノ稅則、即チ凡テノ入口貨ニ同一ニ課スル税法ハ、之ヲ実行スルコト甚難ク、又道理ニ叶ハザルノ法ナルベシ、區別トイフコトハ、其貨物ノ来ル國トノ干係ニ由リテ之ヲ定ムベシ、即チ國々ノ條約ニ由リ、其物産ヲ取扱フニ、或ハ互ニ自由ヲ約シ、或ハ義務ヲ約スルニ由リテ、同じカラザル

者トス、

區別ヲ立ルトイフコトハ、歳入ノ利益ノ為ニ必要ノコトナリ、希望スベキ貿易ハ、平準ノ稅則ヲ十分ニ負荷セシムベカラズ、寔ニ稅額ヲ何程ニシタラバ、尤モ多ク歳入ヲ得ベキカトイフハ、今日稅則ヲ定ムルニ付キテ主要ノ疑問ナリ、稅則ヲ高スルトキハ、其物ノ輸入ヲ禁止スルコトトナルナリ、稅額高キトキハ、之ヲ買フ者ハ高キ値ヲ出サ、ルベカラズ、然ルトキハ、其入港ハ減少スルナルベシ、是ニ由リテ見レバ、高キ稅ハ、低キ稅ニ比スレバ、國家ノ歳入ヲ減ズルノ理アリ、加之、或ハ貨物ノ如キハ、收税ノ費用ヲ除クトキハ、國家ノ歳入トナル者ハ甚僅少ナルニ至ルコトアリ、稅則ニ付キテノ巧ナル原理ハ、貨物ハ衆モ多ク、最モ善ク收税スベシトイフニアリ、

區別法ハ公衆ノ道德ノ為メニ利益アリ、有害ノ貨物ハ、禁止稅ヲ以テ之ヲ国内ニ入ル、コトヲ許サズ、危險又ハ無益ノ貨物ハ高稅ヲ課シテ十分ニ國ニ入ルヲ妨グベシ、蒸溜セルリキユール及ビ烟草ノ如キ是ナリ、ナリ、又奢侈ノ貨物ハ、必要又ハ安慰ノ貨物ヨリ高等ノ稅ヲ課スベシ、絹布及ビ酒<sup>ウヰ</sup>ノ如キハ平均中等ヨリ稍、高キ稅ヲ課スベシ、區別法ハ、又社会ニ於テ、國家ノ維持ヲ分担スルノ力弱キ者ノ為メニ利益スベシ、凡ソ稅則ヲ以テ定メタル稅ヲ歳入ト為スニ付キ、反對者ノ主トシテ論ズル処ハ、富者ト貧者トノ間ニ區別ヲ為サズトイフニアリ、貿易ハ貨物トシテ收税セズ、只買ヒタル物トシテ收税スルナリ、

若シ総テノ市民、平均ノ税則ノ下ニアリテ同一ノ貨物ヲ買フトキハ、貧者モ富者ト同一ニ国家ヲ保持スルコトトナルベシ、此税法ハ、買者ガ自由ニ物ヲ買フヨリ生ズル者ナレバ、他ノ税法ニ比スレバ、納税者ノ力ヲ以テ比例スベキ者ナレドモ、猶以上ノ威權(貧富同一ニ国家ヲ保持イルノ見ハ、頗勢力アル者トイフベシ、然ルトキハ同一ノ貨物ハ、其重量ニ随ヒテ同一ニ課税セザルベカラザルニ依リ、更ニ左ノ公平ノ税則ヲ必要トスルナリ、即チ奢侈ノ貨物ハ尤モ重ク課税シ、便利及ビ安慰ノ物ハ少シク輕クシ、生命ニ必用ノ物ハ、尤モ輕クセザルベカラザルコトトナレリ、

區別法ハ又国内ノ物産ノ利益ノ為メニ必要ナリ、国ノ實力ヲ増加スルハ国家ノ尤モ務ムベキコトナリ、而シテ国ノ實力ハ、主トシテ、国民ガ生産ノ為メニ努力スルノ結果ニシテ、国民ノ所有物、即チ財産ノ上ニ存スルナリ、故ニ正当ノ法ヲ以テ国ノ財産ヲ増サンコトヲ欲スルハ国家ノ主要ナル目的ナリ、故ニ国家ハ其行政ノ諸部、殊ニ税則ヲ定タル事業ニ於テ国土ノ工業<sup>インダストリー</sup>ノ産物及ビ分配ヲ妨ゲザルノミナラズ、又之ヲ高進スルコトヲ以テ職分ト為サザルベカラズ、国土ノ産物分配ハ、實力ヲ増スノ基本ナレバナリ、此国内ノ種々ノ工業ハ自然ノ税則ノ區別法ヲ要望スル者ナリ、

入口税ヲ以テ歳入ノ原トスルニ反対スル者ノ説ハ左ノ如シ、(一) 此法ハ他国ノ物産ニ課税スル者ナリ、然レドモ其物ハ国内ニ於テ消費ス

ルヲ以テ、生産者ノ利益トナルナリ、若シ禁止ノ意味ヲ以テ課税スルトキハ、生産者ハ之ヲ愁訴スルノ權利ヲ有セズ、其故ハ、全国民ト一人トヲ論ゼズ、之ヲ買フコトヲ嫌フノ自由權利ヲ有スレバナリ、

(二) 此法ハ他国トノ交易及ビ交際ノ妨碍ヲ為スト、此事ハ実ニ然リ、此言ハ有力ナル反対説ナリ、然レドモ此税則ヲ廢止セザルモ、其徴収ノ法ニ能ク注意スルトキハ、其害ヲ見ズ、商人及ビ他国ノ人ガ之ニ付キテ怒ヲ發スルハ、税則ノ自体ヨリハ寧ロ収税者ノ傲慢、不法、無礼ナルニアリ、税則ヲ以テ歳入トスルニ反対スル声ノ高キ者ハ、人民ノ多数ニ非ズシテ、唯己ノ特別ノ工産ガ不完全ナル歳入法ノ名ノ為ニ不公平ナル課税ヲ受タル者ト、及ビ之ト相結合スル者ヨリ發スルヲ常トス、

(三) 此税ノ収集ニ付キテハ動モスレバ大ナル腐敗ヲ起スコトアリ、此事ハ実ニ然リ、然レドモ此罪惡ハ、何レノ收税法ニ於テモ竟ニ避クベカラザルノ一ナリ、

(四) 此税法ハ国ト国トノ間ニ疎通又怨恨ヲ生ズルノ本ナリ、此事モ亦実ニ然リ、然レドモ實際ニ於テ見レバ、其界限ハ甚狭ク、寔ニ數フルニ足ラザルノ小數ニ過ギズ、

百八十三章 (五) 印税<sup>○</sup>及ビ凡ソ職業ノ上ニ課税スルコトハ、国家必要ノ極ニ逼ルトキニ於テノミ之ヲ允許スルコトハ得ベシ、凡ソ国民ノ幸福ヲ望マバ、成タケ妨碍ナク其職業ヲ営マシメザルベカラズ、只納税

者ニモ頗ル不都合ヲ感ゼシムル者ナレバ、此税法ニハ反対スル者多シ、只此税ハ大国民ニ取リテハ、價值ナキホド少額ナレバ歳入ヲ煩スコトモ甚少ナシ、

百八十四章 (六) 所得税ハ、盖シ納税者ニ尤モ惡シク感ズル者ナリ、

所得トイフ者ハ、元來其中ヨリ税ヲ納ムベキ性質ノ者ニ非ズ、所得ハ人々之ヲ隱匿スルコトヲ得ベキ者ナリ、元來人々ノ秘藏スル

所ノ物ニ対シ、公然ノ眼ヲ以テ其中ニ透入セントスルコトハ、甚嫌フベキノコトナリ、所得税ハ、財本ノ積重ヲ妨グル者ナリ、故ニ所得税ハ動モスレバ欺罔ヲ以テ之ニ返報シ、貴本家又ハ生産的企謀ノ為メニ出金セントスル自由ノ傾向ヲ混乱シ、又納税者ト国家との間ニ絶エズ衝突ヲ起ス者ナリ、故ニ所得税ハ、国家ガ必要ニ逼リテ、最後ニ行フ所ノ歳入ノ手段ナリ、只古クシテ富メル国家ニテ、其国民ノ財本ニ巨多ノ残金アル国ニ於テハ、之ヲ課スルヲ許スベキノミ、

百八十五章 自防<sup>セルス、デ</sup>防<sup>フェンス</sup>ハ、国家ノ天然ノ權利ニシテ又其義務ナリ、然レドモ此事ハ、他ノ国家ノ權利ヲ踏潰セズ、又国民ノ權利ヲ壓シテ、背叛争騒乱ニ至ラザルヲ度ト為スベシ、若シ他ヨリ侵襲ヲ受クルトキハ、己ノ力ヲ以テ我身ヲ防禦セザルベカラザルコトハ、生活セル物ノ天然ノ法則ナリ、天然ノ猛力、例ヘバ地震火災ノ如キニ抵抗シ、禽獸虫豸ノ侵害ニ抵抗シ、スベテ有形ノ力即チ動物力ノ妨害ニ抵抗スルト同様ニ、其市民ヲシテ人類ノ猛力ニ抵抗シ、我自由、秩序、所有物ノ侵犯

ニ抵抗セシメザルベカラズ、其侵犯ハ他国ヨリ来ルモ、国内ノ動乱ヨリ来ルモ同様ナリ、之ヲ防禦スルハ、一個人ノ防禦ト同ジク堅忍辛抱ヲ為サザルベカラズ、然レドモ抵抗セズシテ苦痛ヲ受クルニモ界限アリ、其界限ヲ踰レバ不道德トナルナリ、其最後手段ハ戦争ナリ、此ノ如キトキニ方リテハ戦争モ亦正理ナリ、博愛<sup>ロビエシ</sup>ノ精神、此世界ノ中ニ進歩スルニ及ビ、治安トイフコトハ自然ニ世界ニ流行スルコトトナルベシ、然ルトキハ戦争ノ機会及ビ戦争ヲ允許スルノ場合ハ漸々ニ減少スベシ、然レドモ不完全ナルコトノ世界ニ留存スル間ハ、法則ニ合ハザル押付けノ行ハル、コトアリテ、戦争ハ未ダ全ク止ムコトハナカルベシ、

自己ヲ防禦スル為メニ国家ハ、己ノ領分内ニアル所ノ社会ノ貨財ヲ取りテ、之ヲ己ノ用ニ供スルハ主權ノ決断ヲ以テ之ヲ適當ニ応用セザルベカラザルナリ、平和ノ習慣、及ビ此習慣ノ中ニ成長スル所ノ權利ハ、法制ト雖ドモ、亦為メニ其他ヲ避ケザルベカラズ、法律ハ戦争ノ時ニハ沈黙スルナリ、国家ハ一個人ノ所有ヲ取りテ己ガ物ト為シ、又ハ之ヲ破壊スルコトアリ、又人民ヲ以テ其籍ニ登録スルナリ、然レドモ此強大ナル国家ノ力ハ、只全社会ノ幸福ノ為メニ働クベキ者ナレバ、明白ニ己ムコトヲ得ザルノトキニ於テ、至極ノ堪忍ト注意トヲ以テ動キ、又講習ノ資財ノ平均ヲ失ハザル様ニ之ヲ使用セザルベカラザルナリ、

百八十六章 威權ノ保持 國家ガ其正当ナル規則ヲ強行スルノ權利及ビ

義務ハ、國家存立ノ道德ニ屬スル者ナリ、國家ハ管理スル勢力ヲ以テ成立ス、管理ヲ止ムルトキハ其勢力モ消滅ス、國家ノ意思ハ、其範圍内ニ於テハ、無上ノ者ナリ、其意思ヲ行ヒ、且ツ之ヲシテ実効アラシメルコトハ國家ノ權利ニシテ義務ナリ、若シ然ラザルトキハ、國家ノ意思及ビ意思ノ權利ヲ要望スルコトハ不都合ノコトトナルナリ、國家ガ正当ニ己ノ意思ヲ遂行スルノ方法ハ、其天然ノ界域ニ由リテ定メザルベカラズ、即チ社會ノ現世<sup>レキ</sup>ノ利益ヲ以テ界域ト為サザルベカラズ、凡ソ現世ノ利益ハ國家ノ意思ト合シテ一体トナル者ナレバ、其之ヲ行フ方法ハ、此目的ヲ完成スルトイフ途ヲ取ラザルベカラズ、スベテ現世ノ勢力ハ、其界限ノ中ニ於テハ其至極ノ処マデ之ヲ用フルヲ以テ正当ト為スベシ、其法律ノ力ヲ強ムル為メニ、刑罰ノ制裁ヲ用ヒテ、財產及ビ自由、生命マデヲ取ルコトハ（スベテ現世ノ方法ニ由リテ行ヘル現世ノ制抑）何レモ國家ノ体ニ於テ所有スルノ權利ナリ、唯完全ニ整備シタル社會ノミ、此ノ如キ形身上ノ制抑ヲ行フコトヲ得ベシ、利益上ヨリ見ルトキハ、國家ノ威權ノ為セル制抑ハ畏怖スベキコトニ非ズ、人身又ハ財產ヲ損害スルトイフ意味ハ、法律中ニハ、含有スルコトナシ、然レドモ社會ノ中ニ法則ヲ守ラズ又ハ不從順ナル者アル間ニ彼等ニ向ヒテ劍ヲ揮フハ必要ノコトナリ、此事ヲ以テ、人類ノ性質中不朽ニシテ高等ナル性質ヨリ推理スルハ大ナル誤ナリ、此事ハ、現世ノ利

益ノ為メニ管理ヲ受ケ居ル人類ノ身體ヨリ推測スルヲ以テ、論理ニ協フ者トスルナリ、之ヲ事實ニ徴スルニ人ハ或ル時ニ於テ、又或ル地球ノ場所ニ於テ有形ノ体ヲ受ケ居ル者ニシテ、即チ現世ノ界域ノ内ニ居ル者ナレバ、其状態ニ從ヒテ、現世ノ干係ノ上ニ働キ、現世ノ勢力ト一致シテ働カザルベカラザルコトナリ、現世ノ目的ハ、正当ニ現世ノ方法ニ由リテ得ラル、者ナリ、國家ハ現世ノ勢力ヲ有スル者ナレバ、現世ノ制抑、即チ外形、身體ノ制抑ヲ用フルコトハ、其正シキ規則ヲ強ムル為メノ正シキ方法ナリ、

百八十七章 國家ノ威權ヲ保ツ為メノ正当ノ方法ハ、法律ノ制裁ヲ行フニアリ、然レドモ之ヲ行フテ、政府ガ其制裁ヲ作り、之ヲ施行スルノ方法及ビ精神ハ、全ク其威權ヲ保持スルニ在リトイフコトヲ忘ルベカラズ、不公義、不道德、獷狽、偏頗、我欲、我俛、不注意ノ立法、行政等ハ何レモ國家ノ威權ヲ亡ス者ナリ、國家ノ威權ハ全ク政治社會ノ形體ノ尊崇、信仰ノ上ニ安定スル者ナリ、智アリテ正シキ法律ハ、秩序ヲ守リ、智慮アル人民ト共ニ國家ノ支柱ナリ、

法律制裁ハ忠義ニシテ法ヲ守ル者ヲ賞美シ、法ヲ守ラザル者ニ刑罰ヲ施スニアリ、

百八十八章 賞譽ハ、忠義及ビ服従スル者ニ對シテ立法者ガ其愛好ノ意ヲ表示スルナリ、其賞譽ニハ、愛國心及其行為ニ付キテ、公衆ノ認識シタル者、軍人及ビ文人、勲功アル者ニ、記念碑、賞賜、租税ノ輕減等

ノ類アリ、然レドモ此事ハ国家ノ威權ニカヲ添フル為メニ、其効能ハ甚ダ少分ナリ、

只秩序ト忠義トノ精神ヲ強ムル為メニ甚切要ノコトナリ、善ク之ヲ施行スルトキハ、国民ガ政府ニ対シテ、感情的ノ信用ヲ篤クスル者ナリ、百八十九章 責罰ハ立法者ガ不順ノ者ヲ惡ミ、且ツ之ヲ表章シテ同一ノ

決定アルコトヲ示シタル者ナリ、責罰ハ法律ノ必要ノ部分ナリ、其故ハ力ヲ用ヒテ左ノ問ヲ發スル者アリ、問、法ヲ破ル者ニ対シテ至極ノ憎惡ヲ表章セザル処ノ法律ハ之ヲ法律ト名クルコトヲ得ルヤト、刑罰ノ律ハ、忠義アル服従ト、社會ノ大目的トニ対シテ、無差別ノ精神ヲ以テ定メタル者ナルトキハ、適當ナル威權ノ笑具トナルベシ、若シ立法者、無差別ナルトキハ、何故ニ臣民ハ其通ナラザルヤ、社會ノ道德ノ意味、即チ正ヲ愛シ、邪ヲ惡ムトイフコトハ、普ク立法ノ中ニ通貫セザルベカラズ、而其多分ハ、刑罰ノ立法ナリ、刑法ノ大目的ハ、法律ニ従ハザル者ヲ落胆セシメ、又之ヲ豫防スルニアリ、

百九十章 刑罰ノ直接ノ目的ハ、罪惡ノ防禦ニ在リト雖ドモ、更ニ刑罰ニ依リテ他ノ目的ヲ達スベキコトアリ、此目的ハ罪惡ノ防禦ト善ク相調和シテ、更ニ之ヲ補助スル為メニ大ニ地面ヲ領セリ、故ニ刑罰ニ於テ得ベキ此第二ノ目的ハ社會ニ道德ヲ教示スルコトナリ、此ノ如キ表明ハ人民ノ心中ニ十分ナル公正ノ効果ヲ得ル者ナリ、此事ハ刑法ヲ作ルニ於テ 明白ニ其目的ヲ知ルコトヲ得ベシ、立法ノコトハ国家ノ

最高ナル知識ヲ表章スル者ナルト同様ニ刑法ハ社會ノ道德ノ平均ノ進歩ニ於テ之ニ適合スルコトヲ得ベキ者ナリ、然レドモ敢テ人類ノ同情及ビ恭敬ノ外ニ馳出スル者ニ非ズ、刑法ナル者ハ明カニ、正シキ意見ヲ尊敬シ法律ノ威嚴ヲ恭敬シ、秩序ヲ愛シ、邪曲ヲ憎ムベキコトヲ教フルヲ以テ目的ト為シタル者ナリ、

百九十一章 上ニ記セル二條ノ目的ニ次ギテ、刑法ノ第三ノ正シキ目的アリ、即チ罪人ヲ改善スルコト是ナリ、

百九十二章 国家ガ行フ処ノ刑罰ノ方法ハ、特別ノ罰金、禁獄、及ビ身体上ノ苦痛ナリ、刑罰ノ方法ハ、社會ノ有様、及ビ人民ノ品性ニ依リテ差異アリ、古代ノ歴史ニ據レバ、惡ヲ為ス者ニ返報スル主意ニシテ其中ニ等級アリ、傷クル者ニハ傷罪ヲ為シ、嚙ム者ハ嚙罪ヲ行ヒ、人ヲ殺ス者ハ其生命ヲ奪フ類ナリ、此事ハ蓋シ必須ニ近キ者ナリ、加フルニ此事ハ天然ノ気性ノ知告ニ依ル者ニシテ、其犯人ノ行ヒタル全部又ハ一部ノ罪ニ応ジテ之ヲ施スナリ、罰金ハ今日猶開明ノ国家ニ於テ、時トシテハ禍害ヲ受タル一党ヨリシテ之ヲ収ムルコトアリ、公共ノ秩序ニ對セル罪惡ニ於テモ、尚一個人ノ訴訟ニ任スルコトアリ、然レドモ文明ノ度ヲ進ムルニ從ヒ、精密ナル返報ノ法律ハ之ヲ除去セラレ、罪惡ノ責罰ハ、一個人ノ手ニ任カセズシテ、公共ノ感觸ニテ之ヲ処置スルコトトナレリ、

刑罰ノ第二ノ目的、即チ社會ニ道德ヲ教示スルコトニ付キテハ、総

テ刑罰ヲ行フニ、無益ニ仁愛ノ感情ヲ打撃シ、又ハ公共ノ礼法ニ反抗スルノ刑法ヲ禁止スルナリ、社会ノ漸々ニ進歩スルニ從ヒ、公共ノ前ニ於テ罪人ヲ罰スルコトハ段々ニ之ヲ廢シ、多クハ刑罰ヲ行フ二人ノ見ザル所ニ於テ之ヲ為スニ至レリ、

百九十三章 刑罰ノ等級ハ (一) 罪ノ性質ニ依リテ同ジカラズ、天然ノ公義ノ原理ハ左ノ如ク定マル、凡ソ他ノ事情アルモ之ヲ棄テ、罪惡ノ最モ惡ムベキ者<sup>ヘンソク</sup>ヲ以テ最重ノ

刑ニ処セザルベカラズ、

百九十四章 (二) 刑罰ノ輕重ハ、其罪惡ヲ發見スルノ難キト、其証拠ヲ得ルノ難キト依リテ其等級ヲ定ムベシ、發見スルニ難シトイフハ、タトヘバ夜ニ於テ犯セル惡事ハ、晝ニ於テスル者ヨリ重キニ刑ニ処セザルベカラズ、

百九十五章 (三) 刑罰ノ輕重ハ其犯人ノ多数及ビ強力ヲ以テ其等級ヲ定ムベシ、徒党ヲ結ビテ惡ヲ為スハ、一個人ニテ罪惡ヲ為スヨリ其罪重シ、

百九十六章 (四) 刑罰ハ社会ノ道德ノ感覺ニ依リテ其輕重ヲ異ニセザルベカラズ、其罪惡、單純ニシテ堅固、又一般ニ通達セル者ハヤ、輕キ刑罰ニ処スルヲ必要トス、

百九十七章 凡ソ自身ヲ管理シ、自己ニ構成セル法律ヲ作り、其自己ノ成 法ヲ布告シ、其自己ノ法律ヲ解釈シ施行シ、合セテ之ヲ言ヘバ、他国ノ手段ヲ受ケズシテ、自己ノ国事ヲ処分スルハ、国家ノ權利ナリ、是ヲ自治ノ權利トイフ、即チアウトノミイ、是ナリ、

百九十八章 自治ノ權利ハ、国家ガ所有スベキ權利ノ内ニ包含セリ、国家ノ真ノ意思ハ社会ノ現世ノ利益ヲ支配スル為メニ、勢力ヲ組立テ、単一ナル一体ヲ作ルニアリ、管理ノ威權ヲ自由ニ活動セントスルニ、外ヨリ来リテ之ニ干渉スルコトアルトキハ、国家ノ位格ヲ害シテ、州郡ト為サシムルガ如キ者ナレバ、悉ク之ヲ排除セザルベカラズ、

自治ノ權ハ、政事ノ威權ヲ以テ、国家、各地、都府等ニ分配シタリトテ是ニテ其力ヲ衰弱セシムルニ非ズ、然レドモ国家ノ構造、生命ヲ一結セシムル為メニ、都府ノ政ハスベテ国家ノ政ニ服屬セザルベカラズ、此服屬ノ法ニ依リテ、種々ノ州郡ニ分チテ其土地ニ政令ヲ行ハシムルハ、巧ミナル政畧ナリ、此州郡モ亦界域内ニ於テ、現世ノ民事ニ付キテ直接ニ管理ヲ為スナリ、更ニ夫ヨリ小ナル各地ノ社会ニマデモ、同ジク其政事ヲ行ハシムルナリ、此事ハ各個ノ市民ニ其各人ノ事ヲ処スル自由ヲ與ヘ、以テ全体ノ国家ノ利益ト相伴ハシムルノ筋道ナリ、

百九十九章 国家ガ自己ノ自治ヲ保ツコトハ、其權利ナルト共ニ亦其義務ナリ、国家ハ屈撓セザル堅固ヲ以テ、他国ヨリノ命令干渉ヲ拒絶シ、己ノ行為ヲ獨立ニシ、其適當ノ干係ト責任ノ度ヲ詳ニシ、又事故尊恭

ノ義ヲ忘ル、コトナクバ、以テ己ノ幸福ト健剛ヲ保ツベシ、是則チ国家ノ義務ナリ、服屬セル主權ハ、国家ノ名義ト其廣大ナル体トニ反対スル者ナリ、

二百章 国家ノ自治ハ其憲法ニ依リテ、各種ノ分界ヲ為ス、国家ノ立法、国家ノ司法、国家ノ行政、是ナリ、

国家ハ自主ナルモ、亦一定ノ規則アリテ何レモ責任ノ下ニ立ツナリ、自治ノ分界異ナルニ從ヒ、其責任ノ方法モ、其分界ニ依リテ一様ナラズ、国家ヲ構造スル処ノ人民ハ、其聚合シタル行動ニ於テ上帝ニ責任ヲ負ヒ、又或ル度ニ於テ国家ニモ責任ヲ負フナリ、国家ノ政治ノ各部分ハ、人民ニ対シテ責任ヲ負ヒ、之ニ干スル礼儀ト相互ノ尊恭ヲ失ハザル様ニスベシ、其共ニ政治ヲ為ス所ノ各部ニ対シテモ責任ヲ負フ、其故ハ多少官事ヲ往復シ、共ニ政事ノ勢力ヲ保ツベキ者ナレバナリ、凡ソ責任ノ種類ト其定度ハ、夫々ノ干係ニ依リテ甚同一ナラズ、人類ノ上ニハ決シテ絶対ノ自治トイフコトアルナシ、責任ハ数千万ノ形体ト定度トヲ以テ、一個人又ハ一社会ヲ論ゼズ、人類行動ノ種々ノ仕方ノ中ニ發現スル者ナリ、只是ニ付キテ起ルハ、左ノ疑問ナリ、曰、誰人ニ対シ、幾許ノ廣サヲ以テ如何ナル方法ニ依リテ、此責任ナル者ハ認許サレ、且ツ強メラル、者ナルカト、

二百〇一章 国家ノ定法オルガラ（憲法）ハ其政治ノ原理及ビ形体ニ関シ、政治社会ノ意思ヲ發表セル者ナリ、此法ハ基礎ノ法ニシテ、政治社会ハ

全活動ハ、皆之ニ支配サレ常ニ之ヲ以テ最高ノ者ト認許サル、者ナリ、是ニ依リ、憲法ハ、政治威權ノ元來ノ座位、即チ社会自体ノ外ハ、他ノ上ニ上告スルコト能ハザル者ナリ、

元初法ハ、人民ノ認識開進ノ歴史ニ於テ、成文ノ憲法又ハ其一分又ハ其断片トナリテ、十分又適當ノ政体ヲ現ハス者ナリ、元來自由ナル社会ニ於テハ、此方ハ人民ノ指示ニ依リテ成リ、或ハ其時状ノ許ス限リハ、人民公然ノ意思ニ依リテ、認許セラレテ後ニ成ル者ナリ、古代ノ歴史ニ於テハ、蓋シ、外部ノ勢力ニ依リ、單一ナル政事形体ノ中ニ於テ構成シテ、国君ノ允許ヲ經テ其成就ニ至ルヲ見ル、英国ニ於テジョン約翰王ノトキハ大憲章、フランス法 国ニ於テ路易十八世ノトキノ完全ナル允許ノ如キ、是ナリ。又或ハ国家ト管理ヲ受タル人民トノ両勢力ノ間ノ約束ニ由リテ成ル者アリ、其上ニ又定マリタル習慣ハ、国家ノ基元法ノ上ニ増加ノ面目ヲ 現ハス者ニシテ、此事ハ、主權アル社会ノ同意又ハ意思ヲ其中ニ包含スルナリ、下ニ記スル所ハ国家ノ元初ノ法律ノ企謀及ビ目的ナリ、(一) 指定サレタル一個人又ハ人民ノ團體ニテ成レル社会ガ所有セル政治管治ノ力ヲ賜與スルコト (二) 其賜與サレタル勢力ガ働クベキ界限及ビ方法ト形姿トヲ定ムルコト、是ナリ、

此ノ如キ賜與ニ非ズシテ、他ノ直接又ハ包含ノ中ニ得タル勢力ハ、常ニ社会自身ノ中ニ貯藏スル者ナリ、廢棄ノ權、改革ノ權、元初法ノ即チ憲法ヲ改正スル權ノ如キハ、常ニ其中ニ含蓄シアルコトアリ、其

変化改革ヲ為ルノ方法ハ何レモ其器械ニ依リテ指図サル、ト雖ドモ、其權ハ固ヨリ含蓄シテ所有スルナリ、

元初ノ法律ハ、故ヲ以テ國家ノ外面ノ構造ト其形体ヲ創立造成スルナリ、此構造ハ、社会ノ交際ノ生活力ヲ以テ、之ヲ表章スルナリ、

最モ成熟シ最モ安全ナル國家ニ於テ行ヘル政事組織ノ機能ハ之ヲ三分ニ分ツヲ常トス、此三部分ハ國家自治ノ範圍ニアリテ之ヲ定ムル者ナリ、曰ク立法、曰ク司法、曰ク行政、是ナリ、

二百〇二章 國家立法ノ役目ハ、國家ガ自己ノ働、及ビ國民ノ働ナル政事ノ為メヲ、法律ヲ定ムルコトナリ、立法ハ國民ノ意見ノ座位ノアル所ナリ、其法ヲ定ムルハ、全ク國民ノ良心ノ許ス所ニ依ルナリ、但シ、正シキ道德ノ高等ナル威權、又ハ國家ノ基本タル法律(元初ノ法、即チ憲法)ニ反スルトキハ、此限ニアラズ、

尤モ文明ニ進ミタル國民ニ於テハ、立法ノ勢力ハ、通常二種ノ各異ナル名代人ノ合同セル働キニ委 托スルナリ、其一ハ殊ニ人民ニ近キ者ニシテ、直接ラ人民ノ選挙ニ由ル者ニシテ、其在任ノ期ハ少シク短カシ、是ヲ名代院、又ハ平民院ト名ク、其他ハ殊ニ保守ノ体ヲ以テ成ル者ニシテ、其在任ハ少シク長ク、國家ノ他ノ役員、又ハ構造体ニ由リテ撰挙セラル、者ナリ、此立法者ト行政者トノ結合ハ、其法律ヲ完全ニ政事ニ施行シ、又ハ他國トノ干係上ニ於ケル事務ヲ行フニ、尤モ希望スベキコトナリ、

立法官ノ命令ハ少クモ、直チニ一般ノ安全ト一般ノ尊敬トヲ保ツコトニシテ、之ヲ名ケテ成文法コトイフトイフ、此スタチユートハ、國家ノ法律ノ大分ヲ造成スル者ナリ、

二百〇三章 凡ソ國家ノ法律、即チ元初法、成文法、不言法ノ如キヲ以テ、之ヲ各個ノ場合ニ応用スルニ臨ミ、詳ニ之ヲ解釈スルハ、司法官適當ノ役目ナリ、不言法ハ(通常習慣法ト名ク、以テ成文法ト區別セリ)社会ノ習慣ニ於テ認識受用シタル者トシテ、天然ノ公義ヲ原理トシテ、之ヲ解釈スルナリ、

司法ノ行為ニ付キテ允許サレタル場合ハ、只市民、官吏、即チ政事社会ノ間ニ起ス所ノ争論ノ場合ニ於テ其働ヲ為スナリ、司法ノ威權ハ実ノ争訟ニ於テ争論スル疑点ノ外ニ出ヅルコト能ハズ、其役目ハ、單一ニ、現在ノ場合ニ於テ、特別ニ応用スル法律ノ解釈ニ過ギズ、其決斷スル所ハ、更ニ高等ノ威權ガ之ヲ廢止スルマデ、必ズ其先決トシテ之ニ從ハザルベカラザル者ナリ、司法ノ解釈ハ特別ノ尊恭ヲ保ツベキコト者ナリ、獨リ法律ノ判断ガ、都合ト方正トノ兩者ヲ待ツニ依リテ然ルノミニ非ズ、又互ニ己ヲ利益スル所ノ争訟ノ反対ガ、此場合ニ於テ真理ノ完全ナル機會ヲ與フル者ナレバナリ、

司法ノ疆域ハ國家ノ法律ノ諸種、即チ元初法、成文法、習慣律等ニ及ブコトヲ得ベキ者ナリ、司法ハ是等ノ法律ヲ以テ、道德ノ高等ナル原理、一定セル習慣、即チ社会ノ不文法ト相協合セシメテ之ヲ解

積スルナリ、モシ成文ノ法律ノ布告、元初律又ハ一般ノ道德ト相協合

セザルトキハ、司法ハ、是ヲ以テ国民ノ政治ニ用フベキ法律ニ非ズト

宣言スルナリ、法律ニ非ズトイフコトヲ取極ムルハ都合ヨキコトナリ、

司法ノ範圍ハ、イカナル物ガ法律ナルカトイフコトヲ宣言スルニアリ、

二百〇四章 司法ハ法律ノ正理レガト、レガトノ區別ヲ認定ム、法律

ノ正理ハ成文法及ビ習慣法ニテ解釈シタル正理ナリ、衡平ハ、人ノ知

レル法律ノ中ニ入ラザル所ノ正理ニシテ、即チ一般ノ法律ヲ以テ之ヲ

律スルコト能ハズ、只事実ト必要トヲ保護セザルベカラザルヨリ起ル

所ノ正理ナリ、時トシテ、此司法ノ行為ノ二事ニ付キテ、国家ハ別々

ノ審院ヲ建ルコトアリ、一ヲ法律ノ審院トイヒ、一ツヲ衡平又蓋瑟勒チヤンセリ

ノ審院トイフ、又或時ハ、一个ノ審院ニテ法律ト衡平トノ両者ヲ裁判

スルノ權ヲ與ヘラル、コトアリ、此ノ如キ審院ニテハ、一端ニテ法律

ヲ裁判シ、一端ニテ衡平ヲ裁判ス、此二事ヲ裁判スル場合ニ於テ、習

慣ト法律トノ固定セル原理ニ依リテ之ヲ行フ、但シ、其兩者ノ互ニ抵

觸セザルヲ度トス、

二百〇五章 国家ノ行政ノ職分ハ、立法部ノ成文法及ビ命令ト、司法部

ノ判決トヲ施行シ、若シ然ラザレバ、他ノ二部ハ明白ニ政事ノ用ヲ為

スコト能ハズ、行政部ハ国家政治ノ首トナリテ、他ノ国家ト相交際ス

ルニ、自ラ出テ之ニ臨ムベシ、是行政官ノ職分ナリ、行政官ハ、一般

ニ社會ノ状態ヲ監視シ、立法又ハ人民ニ適當成ル方法ヲ勸ムルコトヲ

掌ルベシ、

#### 第四篇 政治ノ成長ホリチカ

二百〇六章 成長スルコトハ国家ノ權利ナリ、其適當ナル政治ノ生命

ニ成熟及ビ最高ナル完全ヲ與フルコト是ナリ、国家ノ大ナル錯綜セル

目的ハ、人民ノ現世ノ安全幸福ヲ進ムルニ在ルヲ以テ、政事ノ各部ニ

於テ、社會ノ現世ノ幸福ヲ最高ノ度ニ高ムルコトハ国家ノ權利ニシテ

又其

務ナリ、

成長トイフコトハ、生命ノ元來ノ性質ナリ、社会ノ勝レタル気性ハ

一般ノ幸福ヲ擴張スルニアリ、而シテ人物ノ根元ノ法則ハ、適當ナル

方法ト適當ナル界限ノ中ニ於テ服従ト満足トヲ要スルナリ、道德ノ利

益ハ、此成長ノ為メニ損害セラル、コトナシ、スベテ道德ノ利益ハ、

上帝ノ命令規則ノ下ニ立チテ、世界全般ノ中ニ調和サレ、構造サル、

者ナレバ、此ノ如キ国家ノ成長ハ其要望スル所ナリ、其成長トイフハ、

長成イニク改善イム完全ヘ等ルヲ表示スル者ナリ、

二百〇七章 国家ノ成長ハ、其諸部ニ普ク達スル者ナリ、其中ノ或ル者

ヲ除却スルトキハ、国家ノ性質ニ良善ナル基礎ヲ見ズ、是ガ為メニ定

法トシテ種々ノ界限ヲ立ツ、然レドモ此界限ハ国家ノ本来ノ形体ヲ為

ス者ニ非ズ、国家ノ成長進歩ヲ求ムル所ノ部分ハ左ノ如シ、(一) 土地

(二) 人民 (三) 政治結合ノ堅固 (四) 財貨及び有形ノ元貨 (五)

人民ノ健康(衛生)ノ状態 (六) 公共ノ知識 (七) 公共ノ道德

二百〇八章 殊ニ此方法(国家ノ進歩及び本来ノ成長)ニ用フベキ政事ノ行動ハ、或ル格言ニ依リテ之ヲ行フベシ、此格言ハ、一般ノ適當相応ヲ發言シ得ル者ナレバナリ、

(一) 政治上ノ幸福ヲ進行セントスルニハ、国家ガ成立セル一ノ目的ヲ堅ク守リテ進マザルベカラズ、其目的トハ国民一般ノ現世ノ安全幸福ナリ、一般ノ幸福ニ必要ナルコトハ、一個人、一種族、一部分ノ人ノ行動モ之ヲ允許スベシ、

(二) 總テ政事ノ行為ハ、根元ナル道德ノ界線ノ内ニ於テ之ヲ行ハザルベカラズ、即チ礼儀、公正、仁愛ノ如キ、是ナリ、

(三) 如何ナル事ニテモ、一個人ノ注意、企謀、及び社会、又ハ土地ノ會合ニ委托セザルベカラズ、此格言ハ、凡ソ国家ノ高等ナル完全ハ、其臣民ノ尤モ富シテ正当ナル活動ノ中ニ在リトイヘル原理ニ依レル者ナリ、故ニ此活動ハスベテ習行上ノ方法ニ於テ衝動、強力サレザルベカラズ、又此格言ヲ助クル為メニ、其他ノ考案アリ、其レハ、一個人、或ハ各地ノ會衆ハ、イカナルコトガ一般ノ幸福ニ要用ナリトイフコトヲ定ムルノ能力アリ、而シテ彼等ハ又其施行ノ方案ヲ工夫スルノ資格アリ、故ニ彼等ハ通常国家ノ役義上ノ名人ヨリハ、十分ニ巧妙ニ且ツ經濟的ニ之ヲ為スコトヲ得ルナリ、(二百二十一章ヲ見ヨ)

レイセズレ フフアイルトイヘル格言ハ、凡ソ希望スベキ公共ノ利益ハ之ヲ人民ニ任カスベシト言ヘル義ナリ、此言ハ堅固ナル格言ナリ、然レドモ国家ハ公共ノ利益ヲ防護シ、進歩セシムルヲ以テ、其權利ニシテ義務トイフコトハ決シテ之ヲ忘ルベカラズ、故ニ此本義ヲ放棄シテ、此格言ヲ応用スベカラズ、

#### 第一解 土地ノ開擴

二百〇九章 国家ハ其土地ヲ擴ムルノ權利アリ、土地ノ廣ムルノ方法三アリ、(一)ハ附加○アリ、(二)ハ獲得○アリ、(三)ハ捷利○アリ、

(一) 附加ハ他ノ国家ニ属セザル土地ヲ附添スルナリ、吾境界ヲ接シテ他国ノ所有トナラザル所ノ土地ハ、国家ハ之ヲ併セテ吾領地ト合シテ一体トスルノ權利アリ、是ニ付キ、其土地ハ他国ノ所有ナルカナラザルトイヘル疑問ハ屢起ルコトナリ、游牧又ハ漂泊ノ民ハ堅固ナル領地ヲ得ルノ權利ナシトイフコトハ、一般ニ承知スル所ナリ、是等ノ民、一定ノ居処ヲ營ミ恒久ノ利用ヲ為サンガ為メニ改良ノコトヲ考ヘ付クニ至ルトキハ、初メテ、強盛国ガ之ヲ認ムル所ノ權利ヲ得ルコトナリ、一般人間ノ決定セル要望ノ明白ナル基礎トシテ、強盛ナル国ガ少弱ナル社会ヲ奪領スルコトハ、久シク准许サル、コトナリ、例ヘバ火災ノトキニ方リ、其都府ヲ救護スルガ為メニ人家ヲ破壊スルコトハ、一般ニ罪ナシトスルニ相同ジ、土地ハ元來人類ノ住居スベキ所ナリ、故ニ少数ノ野蛮人ガ廣大ナル土地ニ散居シテ、之ヲ所有スルコトモナク、

之ヲ改良スルコトモナクシテ之ヲ保子居ルハ、人類増加トイヘル天然ノ法則ニ反スル者ナリ、然レドモ弱キ少数ノ者ハ、強キ多数ノ者ノ利益ノ為ニ其所有物ヲ放棄スルコトヲ認許スルハ、明白ナルコトナリ、若シ此ノ如キ放棄ガ人類ノ利益ニ於テ必須ナリト決定サル、トキハ、尤モ温和ナル方法ト尤モ十分ナル報酬ハ之ヲ命ゼラル、コトナルベシ、  
(二) 獲得ハ隣接セル国家ヨリ之ヲ買フ者ナリ、百七十三章ニ記セル 解散トイフコトハ全体ノ安幸ノ外ニハ、道德ニ於テ允許スベキコトニ非ズ、然レドモ此ノ如キ除外例ハ亦見ルコトアリ、獨立ノ国家ニ於テモ、約束ニ由リテハ或ハ他ノ国家ト合シテ一ト為ルコトアリ、  
(三) 土地ノ捷利ハ、只戦争ノ時ニオイテノミ允許セラル、ナリ、其外ニ又正シキ防禦ノ時ニ受タル損失ヲ償還スルトキニ於テ允許サル、ナリ、

### 第二解 人民ノ増加

二百十章 国家ハ其人口ヲ成長セシムルノ權利アリ、故ニ公共ノ健康ヲ高進シ、又ハ快樂ナル生活ノ方法ヲ勸メ、其他此ノ如キ目的ヲ以テ為シタル適當ノ方法ニ依リテ自然ニ人口ヲ増加セシムルハ正当ノコトナリ、此事ハ又他国ノ民ノ来リテ移住セントスルノ心ヲ強ムル者ナリ、此方法ヲ為スニ付キテ限制スルコトハ、他国ノ民ヲ弱クシテ自ラ損ズルコトナク、又自国ノ生命ニ同化セザル所ノ原質ヲ採リテ、自己ノ強力ト結合トヲ損害セザランコトヲ務ムベシ、殊ニ名代人ノ發言ヲ以テ

政事ノ法則ヲ分與スル所ノ自由ナル政体、然ラザレバ廣大ナル境域ニ於テハ、国家ハ、大ナル儆戒ナクシテ、或ハ愚昧或ハ貧乏ナル外国人ヲ以テ、我市民ト同一体ト為スコト勿カレ、

### 第三解 公共ノ進歩 量衡尺度 貨幣 通信

二百十一章 国家ハ内部ノ強力ヲ増ス為メニ、其人民間ノ十分ナル結合調和及ビ内部交通ヲ高ムル權利アリ、

此人民仲間ノ結合及ビ公正セル内部ノ行動ヲ強ムル所ノ主要ナル方法ハ左ノ如シ、

(一) 旅行及ビ商賣ノ貫通 (二) 商事貿易ノ必要ナル方法 (三) 其民間

ニ於テ知識ノ交換ノ方法 是ナリ、

二百十二章 公共ノ進歩 凡ソ国民ヲシテ其人身ト財産トニ付キテ、相互ニ最良ノ交際ヲ為サシムルコトハ、社会ノ完全ナル生活ニ付キテ欠クベカラザルコトナリ、凡ソ溝渠ノ如キ鉄道ノ如キ公共ノ道路ヲ開キ又ハ之ヲ保持スルコトハ、通例一私人又ハ其土地ノ企謀ニ任カスルコトアルモ、国家ハ、其全体ノ社会ニ於テ最高ノ幸福ニ干係スルノ眼ヲ以テ此ノ如キ通路ヲ供備シ、保持スルトイフコトハ、其權利ニシテ又其義務ナリ、又明白ナル必須ノ場合ニ於テ此道路ヲ延長スルコトアルトキ直接間接ニ之ヲ補助シ、又此ノ如キ公共ノ通路ガ他ヨリ妨碍ヲ受ケ居ルヤ否ヲ見ルコトハ是又同ク国家ノ權利ニシテ又其義務ナリ、  
二百十三章 量衡尺度 人類ノ為メノ道路ノ必要ナルガ如ク、財産ノ交

換ニ付キテハ、商業交換ノ準度、即チ其器具ハ其必要ナリ、故ニ量衡及ビ尺度ニ付キテ一國ノ準度ト、一國ノ流通貨幣ハ明白ニ必要ノ者ナリ、此二者ヲ定ムルコトハ、元來政事主權ノ特權トシテ認許サル、所ナリ、

初メニ記シタル方法ニ付キテハ、何レノ國家ニ於テモ大ニ希望スベキコトハ其命令シタル量衡ト尺度トハ堅固ニシテ動カスベカラズトイフニアリ、其全國ヲ通ジテ同一ナルベキニアリ、簡單ニシテ使用法ノ甚容易ナルニアリ、成ベク他國ニテ定メタル者ト相通用スルコトヲ得ベキニアリ、貨幣ノ方法ノ如ク、其分割法及ビ其名目ハ通常個人社会ノ便利ニ依リテ之ヲ定ムベシ、而シテ又漸々ニ國民ヲ進歩ノ中ニ導カントトヲ務ムベシ、現今ニ於テ商業ノ状態ノ傾向ハ、一般ニ十進法デシマルヲ用ヒントスルニアリ、是ハ殊ニ人ノ習熟スル所ニシテ又一般ニ廣マリ易ク、又都合ヨキ法ナレバナリ、所謂量衡及ビ尺度ノ準度ハ物理學ト天文学トニ由リテ得タル或ル干係ニ於テ定ムルヲ巧智ナルコトトスベシ、即チ大地ノ子午線ノ周圍ヨリ得タル弓形ト、赤道ニ於ケル引重ノ力ニ依リテ之ヲ定ムルヲ宜シトスベキナリ、

二百十四章 貨幣モネイ 國家ハ其貨幣ニ干スル權利及ビ義務ヨリシテ、社会ノ幸福ノ為メヲ其至極ニマデ至ラシムルノ義務アリ、凡ソ貨財ノ増加ハ、殆ンド全ク貨幣ノ交換ヲ便利ニスルニアリ、此企謀ヲ達セシメントスルニハ、之ガ為メニ便利ナル器具インストルメントヲ作ルトイフハ避クベカラ

ザルノ要須ナリ、貨幣トイヘル語ハ、種々ノ意味アリトイヘドモ、其嚴ナル意味ニ於テ即チ此器具ヲ表示スル者ナリ、

故ニ貨巾ハ、商賣ノ價值ノ交換ヲ便利ニスル為メノ名代人トイフベキ者ナリ、貨幣ハ價值ノ名代人ナリ、價值ノ名代人ニシテ自身ハ價值ニアラズ、貨幣ノ片ハ、自身ニ其固有ノ價值ヲ有セリ、其未ダ貨巾トナラザル前、即チ極印セザルノ前ハ只其本来ノ價值ダケヲ有セル有形物ナリ、此物ハ已ニ極印ヲ打タル後ハ、其固有ノ價值ヲ保持ス、其價值ハ或ハ名代シタル價值ト同位格ナルコトモアリ、或ハ夫ヨリ減少スルコトモアリ、若シ其極印ヲ削落スルトキハ、全ク貨巾タルコトヲ失フナリ、黄金ハ貨巾ニ作ルコトヲ得ベク、又極印スルコトヲ得ベク、故ニ貨巾トスルコトヲ得ベシ、然レドモ其有スル價值ハ甚小ナリ、其名代人トナリテ現ハル、價值ハ、其本来ノ價值ト相干係スルコトナシ、其價值トイフハ、黄金ガ其貨巾トナリタル上ニ生ズル價值ナリ、此事實ハ貨巾ノ本来ノ性質及ビ其利用ニ付キテ明白ニシテ精密ナル意見ナリ、貨巾トナリテノ純然ノ價值ハ、全ク其名代人タルニ依リテ存ス、故ニ貨巾ノ增多、貨幣ノ過多ナル結果ハ、社会ノ富ヲ加フル者ニ非ズ、貨巾ハ唯單一ニ鑄造シタル重サニ二三グレイン、或ハ二五八グレインニシテ、十分ノ一ノ交ゼ物シタル黄金一片ニ過ギズ、只商賣ノ價值ノ証拠トナル驚金ニシテ、之ヲ以テ物貨ノ價值ヲ増加スルノ力アル物ニ非ズ、

貨巾ノ純ナル職分ハ媒介メヂユタルニアリ、交易セル價值ノ交換ヲ便利ニスルノ器械ナリ、此ノ如キ媒介ノ必要ナルコトハ容易ニ之ヲ示スコトヲ得ベシ、農人ハ穀物ヲ作ル、然レドモ彼ハ衣服、沙糖、茶、家屋ヲ作ルコト能ハズ、彼ハ其作ル所ノ穀物ヲ尽ク己ノ需用ニ供セズ、反テ上ニ記シタル如キ己ガ作り得ザル諸物ヲ必要トスルナリ、故ニ彼ハ此ト彼トヲ相交換セザルベカラズ、然レドモ己ガ必用トスル衣服ト恰モ相平均スルダケノ穀物ヲ裁縫師ニ與ヘ、己ガ要スル沙糖ト茶トニ平均スル穀物ヲ雜貨商ニ與ヘルコトハ、殆ンド為シ得ベカラザルコトナリ、彼其時ニ於テ、己ガ残余ノ穀物ヲ磨粉車カ又ハ商家ニ與ヘルトキハ、彼ガ必用ナリトシテ、裁縫師又ハ雜貨商ニ拂フベキ代價ヲ粉車ト商家トヨリ受ルコトヲ得ベシ、然ルトキハ彼ガ穀物ノ代リニ必用ナル衣服、沙糖、茶等ヲ得ルニ大ナル便利ヲ得ルナルベシ、貨巾ハ、彼ノ為メニ精細ニ其働ヲ為ス、是則貨巾ノ第一ノ役目トシテ、交換ノ器械トイヘル物、是ナリ、

貨巾ガ便利ヲ為ス所ノ交換トイフコトハ、商賣ノ價值ニ属スルコトナリ、是ニ依リ貨幣ハ、市場ニ於テ價值ヲ有セル或ル物ヲ以テ、同じ市場ニ於テ同等ノ價值ヲ有セル物ト交換スルノ便利ヲ為スナリ、

二百十五章 然レドモ貨巾ハ交換ノ器械トシテ、價值ノ進度及ビ國家ニテ引受タル價值ノ合一ヲ豫定スルノ力アリ、貨巾ノ片ハ、物ヲ賣ルベキ價值ヲ表出ス、即チ貨巾ハ市場ニ於テ、受取ルベキ價值ガ、市場ニ

於ケル他ノ賣品ノ價值ト同等ナリトイフコトヲ表示スルナリ、凡ソ市場ニ於テ、或ハ賣リ、或ハ買ヒ、或ハ交換スル物品ニ、或ル價值ノ進度無カルベカラズトイフハ、極メテ必要ノコトナリ、此企謀ノ為メニ、他ノ市場ノ物品ノ價值ノ干係ヲ定ムルガ為メニ或ル物ヲ採用セザルベカラザルナリ、世界ノ各自ガ種々ノ時代ニ於テ、此進度ヲ定タルガ為メニ種々ノ物品ヲ用ヒタリ、金ト銀トハ、此用ニ供スル為メニ直打タル金類トシテ一般ニ之ヲ採用セリ、凡テ商品ノ價值ハ、之ヲ造出スルノ費用ニ依リテ定マル者ナリ、金ト銀トノ價值ハ、他ノ人工ヲ以テ作り出セル二個ノ貨物ニ

比スレバ、其價值ノ變化スルコト少ナシ、今各製造物ノ費用ヲ以テ、〔金銀ノコトを云フ〕他ノ製造物ノ費用トノ平均數(中數)ヲ算スルトキハ、只時代ニ於テ些少ノ變化アルノミナリ、故ニ金ト銀トハ他ノ物産ノ進度トシテ久シク之ヲ採用セリ、貨幣ノ進度ヲ定メントスルニハ、先ヅ其物質ノ價值ヲ定ムルコト、及ビ此物産金銀ノ費用ヲ以テ他ノ一般ノ物産ト比シテ、以テ其價值ヲ示サンコトハ國家ノ義務ナリ、

又如何ナル物質ノ分量ヲ以テ精密ノ價值ノ一致ヲ定ムルトイフコトモ亦國家ノ義務ナリ、例ヘバ流通貨中ハ、十分ノ九ノ金ニシテ其重サ二五八グレインニシテ之ヲ一イーグルニ價スル者ナリトイヘルガ如キ、是ナリ、若シ物産金銀ノ費用ニ變化ヲ生ズルトキハ、其一致ヲ為ス所ノ分量ニモ變化ヲ生ズルハ明白ナルコトナリ、此貨巾ノ分割又ハ聚合

ニ付キテ夫々ノ名目ヲ付ス、且ツ其使用ニ便スルガ為ナリ、此ノ如キ  
價值ノ尺度及其一致ノコトハ其貨巾制度ニ於テ預シテ考定スル所ナリ、  
然レドモ貨巾トイフ物ハ其自身ハ價值ノ尺度ニ非ズ、貨巾ハ只重サニ  
五八グレイ<sup>ニ</sup>ニシテ、十分ノ一混合物アル黄金ノ片ニシテ之ヲ以テ價  
値ノ準度一致、尺度ヲ立ル物タルニ過ギズ、而シテ夫ニ付キテ極印シ  
通貨トシ、イーグルト為シタル者ナリ、

貨巾ハ元來價值ノ名代人トシテ現ハレタル者ナレバ、先第一ニ其貨  
巾ノ物質タル者ハ多少自分ニ價值ヲ有セル物ナルモ、又ハ金ノ價值ニ  
平均セル名代物、即チ其名義ノミヲ所有セル物、タトヘバ、紙ノ如キ  
物ナルモ、共ニ區別ナク使用セラル、者ナルトイフコトヲ知ルベシ、  
事實ニ就テ見ルトキハ、尤モ商業ノ盛ナル国々ハ皆両物ヲ兼用スルヲ  
見ル、即チ黄金ト紙幣トヲ以テ共ニ流通貨幣ト為シ、種々形状及ビ規  
則ヲ設ケテ、此二者ヲ結合セシムルナリ、元來貨巾ハ單一ナルヲ希望  
スル物ナルニ、實際ハ之ニ反シテ此ノ如キ両様ノ物ヲ用フルナリ、自  
己ニ價值ヲ有セル通用貨幣ヲ用フル者ニ反対セル説ハ左ノ如シ、(一)黄  
金ノ如キ物ハ、貨巾トシテ十分ニ用フベキ丈ノ分量ハ、世界ニ産セズ、  
故ニ商業世界ニ十分ニ使用スベキ分量ハ終ニ之ヲ供給スルコト能ハズ、  
(二)其價甚貴シ、(三)金貨ハ多量ニ運載スルニ不便利ナルノミナラズ、  
又盜竊、失亡ノ患アレバ、商業ノ用ニハ不適當ノコト多シ、  
名目ノミノ價值アル貨巾、即チ紙幣ニ対スル反対説ハ左ノ如シ、(二)

其利用ハ之ヲ發行セル国家ヲ以テ限リトス、即チ其運用ハ土地ヲ限レ  
リ、(二)他国ニ於テ用ヒントスルニ、其價值ニ換用セントスルコト極メ  
テ容易ナラズ、(三)此貨ハ、之ヲ以テ國際ノ平均ヲ得ンガ為メニ預メ注  
意シテ其規則ヲ定メ置カザルベカラズ、是ヲ為サントスルニ、国家又  
ハ其官吏ガ之ヲ見通シ、之ヲ廢棄スルコトニ付キテ強ク欺罔セラル、  
コトアリ、

二百十六章 貨幣ノ性質ニ付キ、簡短ノ解説ヲ為スコト上ノ如シ、是ニ  
由リテ、国家ハ如何ナル原質ノ物ヲ用ヒテ其國ノ貨幣制度ニ合体シ、  
尤モ工ニシテ堅固ナル經濟法ヲ立ルコトヲ得ベキヤトイフコトヲ容易  
ニ決定シ得ベシ、

(一) 貨巾ヲ作ル基礎ハ、之ヲ以テ適當ナル準度及ビ價值ノ一致ヲ定ム  
ルニアリ、故ニ貨幣ハ、堅固ナルベシ、画一ナルベシ、他国ニテ用フ  
ル物ト協合スベシ、而シテ精密ニ注意シテ其製作ノ費用ヲ以テ、一般  
ニ他ノ商品ノ費用ニ比シテ其價值ヲ立テザルベカラズ、  
(二) 其全体ヲ区分シ、又ハ重積スルニハ、專ラ用法ノ便利ヲ主トシテ  
之ヲ定ムベシ、殊ニ、十進法ヲ選取スベシ、  
(三) 之ニ用フル物質ハ、若シ其固有ノ價值、其表出ノ價值ト同一ナル  
物ヲ用フルトキハ、殊ニ左ノ法ヲ用フベシ、其干係ノ價值ニ於テ堅固  
ナルベシ、永久保持スベシ、種々ノ印記ヲ受テ之ニ堪フベシ、偽造ス  
ルニ難カルベシ、使用スルニ便利ナルベシ、美麗ニシテ人ノ好ミヲ引

クベシ、

貴金屬ハ他ノ物質ニ比スレバ、此性質ヲ有スルノ度甚ダ多シ、然レドモ一个ノ物質ニシテ能ク種々ノ價值ニ相当スルコト能ハズ、金ハ総テ大ナル價值ノ為メニ之ヲ選用スベク、銀ハ之ヨリ小ナル價值ニ用フベシ、又或ル劣等ノ金屬ハ、更ニ下等ノ名目ニ之ヲ用フベシ、

(四) 一種ノ流通貨巾ヲ用フルトキハ、其準備ハ亦全ク別々ナリ、(一)紙幣ハ容易ニ真貨ニ換用スルコトヲ得ベシ、又或ル他國ノ商用貨幣ト同價ヲ保タシムベシ、然ラザレバ、真正ニ價值ヲ表出スルコト能ハズ、然ルトキハ全ク偽幣タルコトヲ免カレズ、(二) 故ニ紙幣ハ精密ナル準備ヲ為シテ、常ニ其所有者ノ意思ニ依リ、黄金又ハ其他ノ貨幣ニ交換スルコトヲ得シムベシ、(三) 偽造ヲ防ギ久ク保存スベク、數、償還及ビ再出ニ依リテ其美麗ヲ保ツコトハ尤モ希望スル所ナリ、

(五) 國ノ貨巾制度ハ、商場交換ノ平價ヲ保ツ為メニ、凡テノ爭論ノ上ニ立ツノ威權ナカルベカラズ、スベテ法ニ適ヘル貨巾ハ、商業ノ願望ヲ調和スル為メニ、法ニ適ヘル看守人タラザルベカラズ、

(六) 貨巾制度ハ成ベク其變化ヲ少クセザルベカラズ、甲党ヲシテ、乙党ヨリ低下セル價值ヲ受ケシメンガ為メニ、甲党ニ其義務ヲ負ハシメ、又ハ創作ノ時ニ於テ思考シタルヨリハ、高キ價值ヲ拂ハシメンガ為メニ、流通ノ價值ヲ變ゼシムルコトハ、明白ニ不正理ノコトナリ、

(七) 流通ノ分量ハ、精密ニ商賣ノ要用ニ適合セシムベシ、其分量ハ場

合ニ依リテ大ニ異同アリ、則チ國ノ貧富ニ由リテ異ナリ、人口ニ由リテ異ナリ、貿易ノ時候ニ由リテ異ナリ、

然レドモ或ル一定ノ分量ヲ定ベキ絶対ノ必要ハアラス、若シ國ノ流通額、商賣ノ要須ヨリ過多ナルトキハ、自然ニ商品ノ法則ニ從ハザルベカラズシテ、自ラ其平準ヲ見ルナリ、若シ金貨ノ數過多ナルトキハ、或ハ之ヲ工藝ノ為メニ鎔銷シ、又ハ他國ノ價アル者ト交換スルナリ、若シ又紙幣過多ナルトキハ、之ヲ收回シテ商売ノ平準ヲ得ルニ至ラシムベシ、然ルトキハ、真ノ貨巾ノ過剩ナルヨリハ其危害少ナシ、若シ劣等ナラザル金ヲ有スルトキハ、其貨巾トスルノ量ハ、其貯藏セル豫備ノ金塊ノ量ニ過グベカラズ、若シ紙ナルトキハ、金ト同ジク、收還即交換ノ為メニ、同量ノ準備ヲ要スルナリ、不正ノ國家ニテハ、或ハ貨巾ヲ悪クシ、或ハ收還ノ方法ナクシテ紙幣ヲ發行スル者アリ、腐敗又ハ劣悪ナル用法ニ供スル者アリ、此ノ如キ不正ノコトハ、只國人ノ厭惡ヲ招クニ過ギズ、不得已ノ場合、例ヘバ戰爭ノ時ノ如キハ、國家ハ、商賣、貿易ヨリ、強テ、借用又ハ補助ヲ為サシムルコトアリ、恰モ國家ガ國民ノ財産ヲ取りテ己ガ物トナシ、又徵兵ノ法ヲ行フガ如シ、必要ニハ法律ナシトイフコトハスベテ此ノ如キ時ニ於テ慣行スルコトニ適用スベキ疎鬆ナル格言ナリ、若シ逼リテ要取スルガ如キ、必須ナキトキハ、單一ナル公義ノ見ヲ以テ、國ノ貨巾ハ常ニ真実ノ貨巾<sup>モネイ</sup>ナランコトヲ望ムナリ、即チ其面及ビ印記ハ、真実ノ價值ニ一致センコ

トヲ表出センコトヲ望ムナリ、此ノ如キ真実ナル貨幣ニ在リテハ、過多ニ製出スルモ実ノ危険ヲ見ルコトナシ、貿易ノ原理ハ、之ヲ禁ズルコトモナク、又之ヲ恐れ、コトモナシ、

貨巾付屬ノ物ヲ發行スルハ、敢テ恐れベキコトニ非ズ、貿易ノ交換ハ尚物ト物ト、即チ商品ト商品トヲ以テ相交換ス、我ハ帳簿ヲノ信用ヲ以テ之ヲ行ヒ、或ハ交換ノ切手又手形ヲ以テ之ヲ行フ、廣大ナル貿易ニ於テハ、其交換及ビ其調理ハ大抵此法ヲ以テ之ヲ行フ、大ナル流通貨幣アル所ニ於テモ、猶、取引ノ集合セル多数ノ接受、即チ其十分ノ九ハ、只信用ハ手形又ハ切手ノミニテ、貨巾ヲ用フルコトナクシテ、其用ヲ弁ズルナリ、故ニ大數貨巾ヲ備ヘ置クコトハ、此場合ニテハ必要ノコトニ非ズトセリ、只此ノ如キ要用ナル交換ノ法ヲ用ヒントスルニハ、其尤モ希望スル所ハ、安全ナリ、同一ナリ、堅固ナリ、  
二百十七章 知識ノ交通イタルコム ニュゲン 人民ノ高等ナル社会ニ必要ナルコトハ、相互ニ其心ト心ト、思想ト思想トヲ相交通スルニアリ、社会ノ諸部ノ間ニ於テ同情ナル利益ハ 互ニ相報道ヲ怠ラザルニアリ、相互ニ援助スルノ方法モ亦此中ニ存ス、故ニ堅固ナル政事ノ智ハ、通信ノ便利ノ為メニ準備ト保持ノ方法トヲ命令スルナリ、若シ社会ノ安幸ニ必要ナリト認ムルトキハ、国家ハ自己ノ注意及ビ管理ノ下ニ於テ、電信及ビ郵便ヲ行ハザルベカラズ、之ヲ保持スルニ幾許ノ費用ヲ要スベキカトイフコトハ、政事上ノ利便ニ干セル問題ナリ、

#### 第四解 国資ルレツノ發達

二百十八章 国家ノ外部ノ力ヲ成長セシムルノ權利アリ、国家ノ力ハ單純ナル現世的ナリ、故ニ現今ノ世界ノ利益ノ為メニ力ヲ尽サザルベカラズ、

現世ノ勢力ハ之ヲ二種ニ分ツ、道德及ビ実物モノアル、是ナリ、此二者ハ国家ノ自体ノ中ニ於テ、政治上ノ形体トシテ現ハレ、一方ニハ国民ノ間ニ分配スベキ物トシテ現ハル、ナリ、正当ナル方法ニ於テ、現世ノ道德及ビ有形物ノ強力ヲ増加スルコトハ、国家ノ權利ニシテ又其義務ナリ、此二者ハ国家ノ中ニ包有シ、兼テ国民モ之ヲ所有スベキ者ナリ、此二者ノ勢力ノ倉庫倉庫ト実物モノヲ以テ、各件毎ニ精密ナル區別ヲ立ツルコトナク、共ニ外面ノ強力ヲ成長セシムベキコトハ、国家ニ於テ便利ナルコトナリ、道德力ノ増進ノコトハ、後文ニ於テ詳ニ之ヲ説クベシ、此処ニ於テハ特ニ有形物ノ増加ヲ以テ限リトスベシ、即チ国家ノ有形ナル国資ト財貨ノ増加、是ナリ、

国家ノ天然ノ資原ハ、地下ノ財産ニ属スル物ニテモ(石炭、鉄、貴金、及ビ其他ノ物)又ハ土地ノ表面ニ在ル所ノ森林及ビ天候ノ下ニアル肥土ニテモ、何レモ人類ノ勉力ニ依リテ利益ヲ生ジ、其産物ヲ増加スルコトヲ得ベシ、故ニ国家經濟ノ学ハ、有形ノ財貨、勉強ノ産物ニシテ、各個物品ノ交換スベキ價值ハ、全ク其物ヲ生ズルニ付キテ費シタル力ニ属ストイフ本来ノ元理ヲ考究シタル者ナリ、此原理ハ、有形物ノ

總体ト又種々ノ變形トニ干シテ適用スベキ者ナリ、然レドモ生産スル  
勉力ハ、有形ノ富ヲ増ス所ノ情態及ビ方法ナリトイフコトハ、安全説  
ナリ、故ニ国家ハ、其有形ノ力ヲ成長セシメント欲セバ、其財貨ノ増  
加スル所ノ、人民ノ工業ヲ保養セザルベカラズ、  
インダストリー

二百十九章 此人民ノ工業(事業)之ヲ分ツテ三大部分ト為ス、(一)開發

デベロ  
ピング(二)本来ノ生産プロダク  
ティブ(三)分配ディストリ  
ビュー 是ナリ、

開發ノ事業ハ人類ノ需用ニ價值アル物ヲ、自然ヨリ採取スルコトナ  
リ、此事業ハ主トシテ礦山ノ富ヲ開發スルコトナリ、而シテ政事ノ道  
徳ノ原理ニテモ、十分ニ其開發事業ノ格別ナル種類、即チ採掘シ鑄鍊  
トノ事業ヲ行フベキコトヲ解説スルナリ、

生産ノ事業ハ二個ノ首要ナル事業ヲ包括ス、一ハ農業ニシテ一ハ工  
業ナリ、

分配ノ事業ハ産物ノ必要ナル交換ヲ為ス所ノ事ニシテ、国民中ニ商  
業ヲ営ム者ヲ以テ之ヲ表明ス、然レドモ亦海ニ陸ニ運送ヲ業トスル所  
ノ人民ノ働ニ属スルコト多シ、

故ニ余儕ハ国ノ生産事業ノ大ナル代表トシテ、開礦、農耕、工藝、  
交易ノ諸業ヲ首トシテ指定スルナリ、

二百二十章 此生産事業ノ諸部ノ干係ニ於テ、国家ノ道徳ノ定義ハ、構  
造セル国家ノ固有ノ性質ト、現実ノ記録トニ據リテ容易ニ定ムルコト  
ヲ得ベシ、余ガ數言ヘルガ如ク、国家ハ社会一般ノ現世ノ安全幸福ノ

為メニ成立セル者ナリ、故ニ此一般ノ安幸ヲ得テ、最高ノ度ニ達セシ  
メンコトヲ勉ムルハ、国家ノ政治上ノ權利ニシテ又其義務ナリ、是ニ  
付キテハ、中ニ(地理上ノ境界ト、其事ノ成立スベキ目的ト)於テ、之  
ヲ成業スルニ道徳ノ原理ヲ破ラザル間ハ、其物産ヲ増加スルコトニ於  
テ、其国土ノ界域ト結局学ノ界域ノ内ニ於テ其界域ヲ立ルコトナシ、  
凡ソ国家ノ真正ノ性質ト、構造シタル政事ノ組織ニ於テ、其集合及ビ  
構立シタル才幹ニ於テ、其一個人ノ市民ニ由リ、又ハ其内ニ包括セル、  
土地限リノ少ナル社会ニ由リテ、此生産的ノ勉業ノ上ニ道徳上ノ邪曲  
ヲ行フコトナシ、歴史ニ依ルニ、政府ハ自己ノ名義又ハ自己ノ指示ニ  
依リテ、開礦ノ事業ヲ進行シ、又森林又ハ牧地、田畠ニ於テハ、監督  
又ハ養成ヲ行ヒ、人民ノ防護必須ニ於テ自己ノ要用ニ必要ナル生産的  
ノ工業ヲ監督養成シ、又道路運送ノ便ヲ備へ、商品ノ分配ヲ成就セシ  
メ、又自己ノ必用及ビ国民ノ利益ノ為メニ其用法ヲ指示スルナリ、歴  
史ノ証スル所ニ依ルニ、政府ノ職分ハ、唯消極的、唯防禦的ノ範圍ヲ  
以テ限リトスベシトイヘル陳説ハ、尤モ道理ニ反スルノ語ナリ、国家  
ノ權利義務ハ之ニ反シテ積極的ニ政事社会ノ生産的ノ事業ノ全体ヲ高上  
シ強盛ニシ、養育スルニアリ、

此積極的ノ養育ハ、時期ノ要スルトキハ、生産的ノ事業ノ各個ノ部分  
ニノミ之ヲ施スベキコトアリ、国家ハ構造体ノ全体ナリ、其安全ハ、  
各人民ノ健康ナル状態ト、其職務トニ属スルナリ、若シ各個ノ肢体(人

民病氣又ハ衰弱スルトキハ活動ナル機関トシテ、国家ハ其疾病ヲ医治シ、其強壯ヲ回復シ、其職務ヲ刺衝スル為メニ準備ヲ為サズルベカラズ、其国家ノ權利ニシテ又義務ナリ、此原理ハ平易ナル道理ニシテ、又通覺ノ原理ナリ、並ビニ比例ト經驗ノ命令ヲ受クル所ナリ、

然レドモ、国ノ生産的の事業ヲ高進スルコトニ付キ、国家ニハ二个大ナル界限アリ、第一ハ国家ニテ之ヲ為スノ目的の照準ハ、單純ナル全般ノ安全幸福ニ在ラザルベカラズ、故ニ特別ナル生産的の事業ヲ以テ目的トナスベカラズ、只政治全体ノ安全健強ノ為ノミニ付キテ、開墾、農耕、工作、商賣ノコトニ国家ハ自ラ之ニ干係セザルベカラズ、又一個人、一会社、一地ノ社会等ガ利益ノ為メニ、之ヲ補助スベカラズ、只全般ノ安康ノ為メニ之ヲ衝動補助セザルベカラズ、

第二ニハ、一個人又ハ土地ヲ限レル社会ニ於テ、慥カニ其力ニ堪ヘズ、之ガ為メニ放擲ニ帰セントスル場合ニ於テハ、国家ハ更ニ事業ノ範圍ヲ廣メテ、此ノ如キ者ヲモ、補助セザルベカラズ、是ニ付キテノ大原理ハ、已ニ二百〇八章ニ於テ之ヲ述ベタリ、即チ此ノ如キコトハ一個人又ハ一土地ノ企謀ニ委任スルヲ以テ安全ナリトイヘリ、此界限ノ十分ナル道理ハ、国家ノ道德上ノ權利ニ於テモ、尚直接ニ国ノ生産的の事業ニ干係スルコトヲ許セリ、

(一) 凡ソ國中各個人ノ人員ハ、何レモ全般ノ幸福ヲ最高度ニ高ムル為メニ活潑ナル事業ヲ為スコトニ従事スルハ、政事全体ヲ最高ノ度ニ健

全強固ニ為スニ甚必要ナルコトナリ、血液ノ運行ヲ以テ、自然ノ搏動ニ打任カスルヨリハ、更ニ搏動ノ力ヲ助ケテ其運行ヲ進ムルハ、身体ノ為メニ甚利益アリ、

(二) 一個人ノ企図ハ、聚合体、殊ニ政事上ノ企図ニ比スレバ、更ニ注意届キ、更ニ便巧ニ、更ニ費用少ナク、更ニ完全ナル者ナリ、

(三) 政府ガ公共ノ企図ヲ施行セント欲シテ、之ガ為メニ不條理、腐敗、仕損ジ等ニ陥ルコトハ甚怕ルベキコトニシテ、之ヲ防禦シ医治スルハ頗ル難事ナリ、此失誤ハ甚大ナル者ニシテ、全般ノ幸福ヨリ言フトキハ、政府ニ於テハ、此ノ如キコトハ、其官事ヲ以テ此ノ如キ企図ヲ為スコトヲ全ク廃止センコトノ希望セザルベカラズ、

(四) 生産的の事業ニ於テ、政府ガ之ニ競争スルハ、一個人ノ企図ニ損害ヲ與ヘ、又其氣力ヲ弱ラスル者ナリ、若シ政府ガ上ニ記シタル界限ノ外ニ於テ、又特別ナル必須ナル場合ノ外ニ於テ、自ラ生産的の事業ニ手ヲ下ストキハ、一個人ノ企図ヲ押潰シ、甚恐ルベキ害ヲ生ズルナルベシ、

故ニ下ニ言フ所ハ堅固ナル政事の道德ノ格言ナルベシ、曰ク国家ハ、下ノ場合ノ外ハ、決シテ自ラ生産的の企図ヲ為スベカラズ、其場合ハ第一ニハ、一個人又ハ一土地ノ企図ニテハ、其コトヲ引受ケ能ハザルトキ、第二ニハ公共ノ利益ニ於テ、政府ノ自ラ企図センコトヲ望ムトキ、是ナリ、官府ノ腐敗又ハ不能ヨリ、政府ノ競争ノ為メニ人民ノ企図ニ

紛雜ヲ起サレタル時ニ於テモ猶十分ナル宥ヲ行ヒテ政府ニ其事ヲ希望スル時ニ於テハ亦宜ク然ルベシ、凡ソ世上一般ノ断定ハ、生産的事業ヲ政府ガ自ラ行フハ不可ナリト定マリ居レリ、但政府ガ為サズルベカラザル明白ナル必須ノ場合ニ於テノミ政府ガ自之ヲ行フヲ允許スルナリ、大抵ハ適當ナル生産的の事業ハ一個人又ハ一地方ノ企謀ニ任カスルヲ以テ尤モ宜キヲ得タル者ト為ス、文明ノ度ノ進ムニ從ヒ、自然ニ何レノ國民モ此習慣ニ一致スル方ニ傾キ居レリ、

二百二十一章 國家ガ其國民又ハ一地ノ社会ニ於テ生産的の事業ヲ興サントスルトキ、之ヲ長養スルノ方法、ニアリ、曰ク直接、曰ク間接、

直接ノ方法ハ賞與、是ナリ、例ヘバ希望セル農事ノ物産ヲ作り、山林ヲ保護シ増植シ、害獸ヲ殺戮シ、物産ノ妨碍ヲ除キ、必要ナル方法又ハ物産ノ発見アルトキハ、之ヲ與ヘテ以テ其事業ノ勢力ヲ添ヘルナリ、

間接ノ方法ハ、其市民ニ安全及ビ有功ノ企圖ノ素地ヲ與フル者ニシテ、例ヘバ、他國ヨリ來ル穀物ノ物産ニ入口税ヲ課スルガ如キ、是ナリ、

故ニ國家ハ、此方法ニ於テ、先初メニ國民ガ正当ナル物産ニ其安全ノ權利ヲ與フルガ為メニ、此法律立テ以テ一個人ノ企圖ヲ養成スベシ、此事ハ、国内ニ於テ、一個人ノ希圖ヲ健全ニスル為メ其根基トナルベキ情形ナリ、幸福アル國ノ政事ノ法律ハ大抵ハ其全体ノ法律ニ於テ生

産的の事業ノ權利ヲ保全スルヲ以テ主要トス、又特別ノ法律ヲ立ルコトモ、亦何レノ國ニモアルコトニテ其主意ハ同一ナリ、即チ發明ニ付キテノ特許、著書ニ付キテノ版權ノ如キ、是ナリ、又産物ノ交換ニ付テモ同ジ結果ヲ得ンガ為メニ安全ナル道路ヲ開キ、又之ヲ保持スルナリ、故ニ政府ハ交易ノ事業ヲ刺衝シ長養センガ為メニ、通商ノ企圖ヲ防護シ、高進センガ為メニ、自國ノ海軍ヲ他國ノ海上ニ送ル等ノコトヲ為サズルベカラズ、凡ソ諸事業ノ中ニ於テ政府ノ防護ヲ最モ多ク要スルハ通商事業ヲ第一トス、而シテ此事ハ殊ニ巧ミナル經濟法ナリ、

二百二十二章 第二ノ場合ニ於テハ、外國ヨリ來レル物産ニ入口税ヲ課シテ、国内ノ特種ノ生産的の事業ニ力ヲ添フルハ、國家ニ於テ必用ノコトナリ、此処ニ応用スベキ政治道德ノ一般ノ原理ハ、次ノ記スル所ノ如シ、第一ニ政事ノ上ノ智術ニ干シテ、根元ノ格言アリ、凡ソ物産ヲ作ルノ選擇ハ、政府ニ於テ之ニ干渉スルコトナク、一個人ニ委任セザルベカラズトイフコトナリ、凡ソ世界ニ於テ最良ナル者ハ、各個ノ國ニ於テモ亦最良ナリ、各國ハ聚マリテ世界ヲ成スベキ者ナレバナリ、此事ハ大量ナル政畧ニ於テ甚巧妙ナル術ナリ、一個人ハ夫々ノ政事社会ヲ組立ル者ナレバ、其一個人ノ選ビニ任カストキハ、久シキ間ニハ、其作り出ス所ノ物品ハ、自然ニ最良ニシテ少ナクシテ價値アル物ヲ作り出スニ至ルベシ、國民ト國民トノ間ノ商賣ニ自由ヲ與ヘルハ、殊ニ世界ノ利益ノ為メニ希望スベキコトナリ、是ガ為メニ人民ノ勉強力ヲ

強メ、又之ヲ高進スベシ、故ニ自由交易ハ一般ノ規則トシテ、国家ノ為メニ智アル政畧トイフベシ、然レドモ自然ニ推理ヲ以テ先見スベキ通り、之ヲ實際ニ応用スルニハ亦例外アルコトヲ知ラザルベカラズ、

第二ニハ自由交易ノ原理ハ、国内ノ事業ノ為メニ不利益ヲ為ザル様ニ応用セザルベカラズ、故ニモシ国内ノ産物国家ノ必要ニ於テ、之ニ課税セザルベカラザルトキハ、外ヨリ来ル所ノ同様ノ物産ハ少クモ同一ノ課税ヲ免カルコト能ハザル様ニスベシ、

第三ニハ特別ノ必須アルトキハ、国家ハ、他国ヨリノ供給ヲ離レテ、或ル物品ハ自国ニ於テ製造セザルベカラズ、故ニ凡ソ戦争ニ於テ必要ナル物品ハ、国家ガ自己ノ界域ノ内ヨリ産出セザルベカラザルコトハ明白ナル智慧ノ命令ナリ、然ラザルトキハ、自国存立ハ、他ノ大国ノ任意ニ依リテ廢絶サル、ノ恐アリ、此ノ如キ自防ニ必要ナル物品ハ、之ヲ作ルノ

人民ヲ保護スルハ、政府ノ義務ナリ、而シテ十分ニコレヲ保護セントスルニハ、悪心アル外国ノ競争ヲ防禦シ得ルニ至ルマデ之ヲ為スヲ必要トス、自由交易ノ原理ハ軍事防備ノ物品ニ関シテ、或ハ之ヲ廢止セザルベカラザルコトアリ、海軍ノ勢力ヲ助クル為メニ強力ナル商船ヲ保存スルコトモ上ニ同一ナル自防ノ利益ヨリシテ、自国ノ船舶建造ヲ励マス為ニ、量ルベカラザル自由交易ノ利益ヲ犠牲ニセザルベカラザルコトアリ、故ニ木材、鉄、其他ノ船舶建造ニ必要ナル材料ノ如キハ

他国ヨリノ入港ニ対シテ特別ノ入口税ヲ課シテ、国内ニテ船舶ヲ作ルコトヲ励マスハ、甚智計アルコトナリ、船舶ニ関シテ、他国ノ勢力ニ依頼スルハ、今日世界交通ノ時ニ方リテ、自ラ防護スルノ必要ト両立シ難キ者ナリ、故ニ国家必須ノ場合ニ於テハ、絶対ナル自由交易ノ政畧ヲ棄ルハ、允許スベクシテ又希望スベキコトナリ、

第四ニ、国家ハ其国資ノ十分ノ發達ヲ求ムルガ為メニ特別ナル生産的事業ヲ励マス為メニ破格ノ場合アリ、故ニ新ナル国ニ於テ、天然ノ国資未ダ十分ニ發達セズ、加フルニ、財本完備セズ、工錢モナク、機械不十分、市場遠ク、其他物産ヲ廉ニスルノ方法ニ妨碍ヲ與フルノ国ニ於テハ、国家ノ自利セルライニ義務ニ據リテ、私人ノ希圖ニ道理アル担保ヲ與ヘテ、他国ヨリ来レル強盛ニシテ利益多キ物産ノ併吞ヲ防グベキコトナリ、競争トイフコトハ実ニ貿易ノ生命ニシテ、必要ナル刺衝ニシテ又整理者、又沮遏ナリ、然レドモ人ト人トノ間ノ競争ハ、屢々強暴、仇怨、壓制、及ビ破壊トナルナリ、新事業ノ最初ノ産物ハ、常ニ價ノ高キ者ナリ、天然ノ国資ニ於テハ、大ナル利益ヲ有スル者ニテモ、其企圖ノ幼稚ナルトキ、若シ他ヨリ保持スル者ナキトキハ、其貿易ニ於テ、他国ノ妬忌ニシテ不遠慮ニ競争ニ対シテ、自ラ其立脚ヲ固ムルコト能ハザルナリ、今一時ノ補助ハ国資ノ發達ノ目的ヲ堅固スルコトヲ得(然ラザレバ進歩スルコト能ハザル者)永ク商品ヲ廉價ニ賣ル事ヲ得ベシトイフコトハ、信ズヘキ言ナリト雖ドモ、国家ノ干涉ハ、實ニ

一個人ノ企望ヲ助クル為メニ、衆人ノ允許スル所ナリ、正シキ入口税ノ條約ニ由リテ、他国ヨリ來レル破壊的ノ競争ヲ防止スルコトハ、政事道德ノ適當ナル原理ニ依リテ、之ヲ禁止セラル、コトナシ、禁止ノ税法ハ罕ニ必要ナルコトアリ、物品ノ過多ナルニ由リテ物價ノ下落ヲ防グ所ノ規則立チタル税法ハ、人民ノ常識ノ命令ニ由リテ、工ミナル經濟學ノ法ニ由リテ、常ニ負荷セラル、者ナリ、

#### 第五解 公共ノ健全

二百二十三章 社会ノ健全ノ為メニ注意ヲ加フルハ国家ノ權利ニシテ又其義務ナリ、

身体ノ健全トイフコトハ現世ノ人類ノ幸福ノ基礎ナリ、国家ガ此事ニ注意スルハ、全ク現世トイヘル範圍ニ於テ之ヲ行フベシ、此注意ハ一個人又ハ一地ノ社会ニ委託シテ安全ヲ得ル者ニ非ズ、国家ガ種々ノ方法ヲ以テ、積極的ニ此事ニ干渉スルハ高上ナル全般ノ安全幸福ノ為メニ非難スベカラザルコトナリ、衛生ノ法律トイフモノハ、イツモ必ズシモ巧妙ナル者ニ非ズ、此法律モ或ハ悪シク之ヲ取扱フコトアリ、然レドモ或ル廣サマデハ、此法律ハ必要ノ者ナリ、檢疫規則ハ、傳染病ノ防止ニ必要ニシテ、又衛生ノ法律ニテ命ズル所ノ街衢ノ清潔、家ノ痛風、汚物ノ排棄、避病院、貧病院及ビ施薬院ノ設立、信任スベキ医療ノ承認ノ準備、一般ノ種痘ノ勸奨等ノ如キ者ト、其他此ノ如キ類ノ者ハ、何レモ全ク一個人ニ委任シ能ハザル所ノ国家ノ必要ノ事件ナ

リ、

#### 第六解 公共ノ教育

二百二十四章 国民ノ知識ヲ得シムルコトハ、国家ノ權利ニシテ又其義務ナリ、

知識ハ人類ガ現世ニ於テ、殊ニ貴ブベキ幸福ナリ、知識トイフ名ハ固ヨリ不朽ニ持續セザルベカラザル者ナレドモ、現世ニ於テ為スベキ事實ハ全ク国家ノ範圍ノ中ニアリ、知識ハ現世ノ利益ニシテ、又共通ノ利益トナルベキ者ナレバ、之ニ注意シ、之ヲ養成スルコトハ全ク国家ノ事業ニ属スルナリ、

国家ガ此注意ヲ為スノ權利義務ハ、其政治ノ堅固、安全及ビ幸福ノ為メニ之ヲ行フ者ナリ、自由ナル民政ノ国ニ於テハ、其固有セル發言選舉ノ事ヲ行フコトナルニ、之ヲ為スニ其知識ヲ必要トスルナリ、又人民ガ責任ノ意味ニ於テ政府ノ勢力意見ニ必要ナル制抑ヲ加フルモ亦一般人民ノ知識ヲ要スルナリ、一般ノ知識ハ、又国家ノ幸福ノ為メニ有形ノ国貨ヲ作ルニ必要ナリ、生産的ノ事業ニ於テ熟練セル勞力ハ、不熟練ノ勞力ニ比スレバ、其價値ノ大ナルコトハ、十分ナル經驗ニ由リテ知ル所ナリ、或ル職業ニ於テ、人類ハ、動物ニ比スレバ甚價値アル者ナリ、知識ハ人ノ幸福ノ方法又状態ナリ、其人民ノ現時ノ幸福ヲ高進スルハ国家ノ範圍内ノコトナリ、其上ニ又知識ハ人身ノ不朽ノ状態ノ最初ノ原質ナリ、而シテ国家ハ、国人ノ為メ、自己ノ為メニ非

ズ、其範圍及ビ其職業ノ内ニ於テ、人タル者ハ不朽ノ体ナルヲ以テ、其後來ニ於ケル最高ノ目的ヲ得シムルガ為メニ、現世ノ社会ニ於テノ状態ニ注意ヲ加ヘザルベカラザル者ナリ、之ガ為メニ知識ヲ進ムルコトハ、国家ノ範圍ノ内ニ帰スル所ノ現世ノ利益ヲ得ルノ一ナリ、

或ル状態ニ於テハ、教育ノ利益ヲ以テ一個人ノ手ニ任カスルコトヲ以テ却テ良善ナルコトアリ、此ノ如キ利益ヲ、能ク適當ニ保持スルコトハ国家ノ義務ナリ、若シ或ル点ニ於テ此一個人ノ注意、不適當ナルハ、国家ハ之ヲ援助スルノ主意ヲ以テ、常ニ之ヲ監視シ之ヲ整理シ、又之ヲ奨励セザルベカラズ、經驗ニ依ルニ、従前国家ニ於テ過度ニ此事ヲ行ヒタルハ、未ダ見ザル所ナリ、

二百二十五章 国家ガ其臣民ノ為メニ普通教育ヲ施ザルベカラザルノ度ハ、一方ニ於テハ国家ノ富ト能力トニ関シ、一方ニテハ、人民ノ状態ニ関スルナリ、貧究ナル社会ニ在リテハ、進歩セル教育ノ為メニ、其兒子ニ時間ヲ與ヘ、労働ヲ減ゼシムルコトモ為シ能ハザル者アリ、又教育ヲ受ケシムルガ為メニ其費用ヲ出スコトモ能ハザル者アリ、世間ノ社会ニハ、其人民ノ教育ニテ国民ノ通常ノ知識（投票リ發言、生産的ノ事業ノ如キ）ヲ十分得シメザル者ニテモ、猶之ヲ国家トシテ認定センコトヲ望ム者モ罕レニハ之アリ、然レドモ国家ハ何故ニ其臣民ノ強力ト豊富トノ為メニ為シ得ルダケ、其国民ニ高等ノ教育ヲ施スコトヲ求メザルカ、其理想ヲ教育上ノ管理ノ上ニ用ヒザルカ、此ノ如キハ

實ニ道理ナキノコトトイフベシ、其時ノ状況ハ、十分ニ過度ノ傾向ヲ和調スルコトヲ得ベシ、其多数ノ者ハ、唯教育ノ最低度ノ位地ニ達スルコトヲ得ベシ、其少数ノ者ハ、熟練セル勞力ト称スルホドニ達スルコトヲ希望シ得ベシ、夫々極々ノ少数ノミ、尤モ物吝ミセヌ教育ノ制度ニ於テ、尤モ高等ナル地位ニ達スルコトヲ得ベシ、教育ニ干セル国家ノ格言ハ左ノ如シ、尤モ高等ニ、尤モ善良ニ、尤モ普通ナル教育ヲ行フ為メニ、新立ノ準備ヲ補助スベシ、其準備ニ国家ノ目的ト、人民ノ状態ガ之ヲ允許スル所ノ者ナルベシ、

二百二十六章 国家ガ教育ニ注意スル適當ノ方法ヲ論ゼンニ、第一ニ、其全国民ノ教育ヲ実施スベキ方法ヲ励マサバ、ルベカラズ、強逼就学ノ如キハ、全社会ニ現世ノ幸福ヲ與フルガ為メニ必要ナリトシテ、正當ナル政事ノ範圍ニ在ルベキコトト定メタリ、小兒ガ都合ヨク教育サルベキコトハ、恰モ小兒ガ都合ヨク衣服ヲ著、家居シ、食養サル、ト同様ナリトイフコトハ国家ガ常ニ見ル所ナリ、

第二ニ、国家ハ、適當ナル方法ヲ以テ、堅固ナル普通教育ノ利益ノ為メニ一個人又一地ノ社会ノ上ニ、勉強ノ氣ヲ奨励シ、又之ヲ養成セシムルコトヲ務ザルベカラズ、更ニ一般ノ知識及ビ堅固ナル學問ノ目的ノ為メニ更ニ進ンデ種々ノ道路ヲ開カザルベカラズ、此事ハ国家ノ權利及ビ職分トシテ、學術文字工藝ヲ奨励セザルベカラズ、

第三 国家ハ、陸軍海軍ノ如キ自己ノ必要ノ途ニ人ヲ訓練センガ為

メニ適當ナル規則ヲ定メザルベカラズ、国民進歩ノ度ノ高キ処ニハ、  
国政及ビ外交ヲ習練センガ為ニ必要ノ学校ヲ立ルナリ、

第四 国家ハ、直接又ハ間接ヲ以テ、其地々々ノ社会ニ就テ、總テ  
ノ小兒ヲ教育センガ為メニ尤モ普通ナル習練ノ学校ヲ準備セザルベカ  
ラズ、又情状ノ許ス限り最モ速ニ、生産ノ技術ヲ習練スル為メニ更ニ  
高等ナル学校ヲ準備セザルベカラズ、職業的ノ学校ニ於テモ、猶法律  
上ノ注意ヲ要スベキコトニテ、政府ノ直接ノ補助ヲ為スヲ以テ宜シト  
スベシ、

#### 第七解 公共ノ道德

(原本 二二七七七七七七七七七)

二二七 国家ハ社会ニ於テ堅固ナル道德ヲ高進スルハ、其權  
利ニシテ又其義務ナリ、

国家トイフ者ハ真正ナル道德ノ力ナリ、此力ハ聚合力ナルヲ以テ其  
力強大ナリ、道德ノ性ハ、一個人ニ属セリ、故ニ国家ノ行為ハ、スベ  
テ道德ノ性質ヲ有ス、国家ハ道德ニ干シ、有形ノ必須ニ由リテ加ヘタ  
ル制抑ノ上ニ立チテ自由ナリ、国家ハ、他人(己ノ国民)ノ幸福ニ付キテ  
同情ヲ有セリ、則チ国家ハ仁愛ヲ為シ得ベシ、正直ヲ為シ得ベシ、又  
自己ノ自由ナル選擇ニ從ヒテ、之ト反対ナルコトヲ為シ得ベシ、国家  
ハ責任ノ下ニアリ、世人ハ国家ヲ判断シ、之ヲ賞シ又之ヲ罪ス、返報  
ハ天命ニテ定マリタル者ヲ以テ之ニ加フ、其返報ハ此世界ノ界内ニア  
ルヲ以テ其報少ナカラズ、国家ニ對セル返報ハ只現世ヲ以テ限リトス、

其故ハ国家ハ全ク現世ノ物ナレバナリ、

国家ハ、自ラ適當ナル道德トシテ、自己ノ道德ノ性質ヲ有スルトシ  
テ眞實ニ道德ニ從ヒテ行為セザルベカラズ、其行為ハ又自己ノ道德性  
ト同様ナル性質ノ者ト協合同情ナラザルベカラズ、故ニ国家ハ自己ノ  
本来ノ性質ノ命令ニ從ヒ、何レノ所ニモ、アラユル方法ヲ尽シテ道德  
ヲ高進セザルベカラズ、

之ニ加フルニ、道德ノ利益ハ人類中ニ於テ最高ノ者ニシテ、国家ハ  
国民一般ニ人類ノ最高ノ利益ヲ進メザルベカラザル者ナレバ、其行為  
ハ将来將ニ來ルベキ高等ノ目的ニ注目スベキコトナリ、

堅固ナル道德ノ利益ハ、單純ナル一個人、及ビ一家族、又ハ土地ヲ  
限レル社会ノ注意ニ委托スベキ者ニ非ズ、或ハ此ノ如キコトアルトキ  
ニ於テモ、其事ハ、国家ノ法律ノ界限ノ内ニ在ラザルベカラズ、故ニ  
国家ノ適當ノ義務ハ、實ニ己ニ手ニ於テ施行セザルベカラザルコトナ  
リ、然レドモ世界ハ、此ノ如キ完全ノ状態ニ達スルハ、前途尙遙ナリ、  
故ニ夫マデノ間ハ国家ハ一個人及ビ一地ノ社会ノ道德ノ利益ノ行為ヲ  
援助スルノ義務ニ付テハ、未ダ容易ニ其肩ハ卸スベカラザルナリ、  
二二八 国家ガ正当ニ又効力アル様ニ、堅固ナル道德ノ高上ニ付  
キテ働クニハ種々ノ方法アリ、

(一) 国家ノ自己ノ行為ヲ以テ、安全ニシテ勢力アル模範ト為サザルベカ  
ラズ、其立法ノコト、司法ノコト、行法ノ政ヲ行フ、及ビ其法律ヲ執

行スルコト等、皆礼義アリ、公正ニシテ仁惠アルベシ、堪忍シ、温和ニシ、慈悲深カルベシ、深切ニ、寛裕ニ、為メニナル様ニスベシ、自分勝手ナク、偏頗ナク、正直ナルヘシ、其管理ヲ撰ブニハ、悪心ナル者、腐敗セル者、酒食ニ耽ル者ヲ除キ、價値アル者、忠厚ナル者、身ヲ持スル清潔ナル者ヲ用フベシ、又其場所ヲ管理スルニハ、総テ悪事ヲ煽動シ又、其器械トナル者ヲ斥逐シ、其立法ノ院、及ビ之ヲ周圍セル者、其司法ノ院、監獄及ビ其他之ニ類セル政府ノ建造物、街衢及ビ政府管轄ノ家屋ニ於ケル大氣ノ清淨ヲ保存シ、又国家ガ管理ノ内ニアル所ノ人民及ビ場所ニテスル行為ハ、其市民及ビ世界ニ向ヒテ道德ノ原理ノ例ヲ示サザルベカラズ、実ニ国家ノ全体ノ生命ハ、道德ノ意味ヲ表明スル者ニシテ、量ルベカラザルノ力ヲ以テ、人民ノ生命ノ上ニ証例ヲ示シ、他ノ国民ノ品性行為ノ上ニモ同ジク有力ノ好例ヲ示ス者ナリ、

(二) 国家ハ又堅固ナル道德ヲ高進センガ為メニ、凡ソ人民ノ道德ヲ低落シ、及ビ之ヲ腐敗セシメントスル者ハ、皆其社会ニ駆斥セザルベカラズ、不道德ナル書物映画ノ發行ヲ禁止シ、腐敗スベキ觀セ物ヲ許容セズ、賭博場、戯曲店、娼家ヲ押潰シ、公然ノ醜態、喧嘩、悪シキ遊戯ヲ禁ズ、又租税及ビ入口税ニ區別ヲ立テ、全ク之ヲ禁止スルコト能ハザルモ、凡ソ不当又ハ過度ニ誘惑シ、又公衆ノ嚴肅、淨潔、徳誼ヲ害スベキ物品ノ如キ、内国ノ産ト外国ノ産トヲ論ゼス、其勢力ヲ挫カザルベカラズ、リキジュールノ商賣ニ付キテハ、公衆ノ威權ノ認許ト、

恩謝金ヲ納ムル(所謂免許法)トニ由リテ之ヲ當ムコトヲ許ルス、此事ハ誘惑及ビ過度ヲ認許称美シタルニ非ズ、立法部ノ意見モ成タケ之ヲ制抑シ、除去セントスルニ在ルコトヲ表スル者ナレバ、真正ナル道德ノ利益ヲ失フコトナシ、

(三) 国家ハ又其傾向ニ於テ、人民ノ習慣、風俗、事業ニ純清ニシテ徳誼アル者ニハスベテ、其奨励ヲ做シテ、社会ノ堅固ナル道德ノ利益ヲ、直接ニ積極ニ之ヲ高進スルコトヲ得ベシ、故ニ国家ハ、国家及ビ人衆ノ利益ノ為ニ、其身ヲ献シ、勇剛ノ行為ナル者ハ之ヲ称美シ、愛国者及ビ公共ノ仁愛者ノ為ニハ記念碑ヲ立テ其功德ヲ後ニ傳ヘ、又徳誼及ビ博愛ノコトニ尽力スル者ハ種々ノ方法ヲモツテ之ヲ援ケ、又其人民ノ正直、純清、有徳ニ為メニ、真正ノ同情ヲ以テ為シタル出金者ト組合テ一体ト為ルコトヲ得ベシ、国家ハ、現世ノ範圍、現世ノ方法及ビ其器械タルヲ以テ限リトスル者ナレバ、直接二人ノ真心<sup>ト</sup>及ビ良心ニ(道德本来ノ居処)注目スルコト能ハズ、其行為ハ、只外部即チ觸知スベキ部分ニ止マルナリ、然レドモ凡ソ精神ノ外部ニ發見スル者、凡ソ中心ヨリ外部ノ生命ニ發出スル者ハ総テ国家ノ觀察、其識了、其整理ヲ受クベキコトナリ、其中心ニ反抗スル激動及ビ壓低ハ之ヲ管理セザルベカラズ、此人類ノ最高ノ利益ニ、冷淡ニシテ心ニ掛ケザルコトハ、甚天運ノ主宰者判断者ナル上帝ニ對シテ不忠ナリ、然ルトキハ、其国民ノ為メニ甚危険ニシテ、遂ニ国家ノ自殺トナルベシ、国家ハ、自ら

道德ナラザルベカラズ、道德ニ從テ行為セザルベカラズ、其社会ニ道德ヲ励マサバルベカラズ、然ラザレバ、国家ハ衰殘シ死亡スベシ、凡ソ歴史トイフ者ハ殊ニ、其公共ノ道德ニ不注意ナルヨリ、其国ニ降り來レル返報ノ記録ナリ、

## 第五篇

### 国家及ビ国民

二百二十九章 国家ニ關係スル道德ノ第二ノ大部分ハ、国家ト其分支トノ間ニ存スル所ノ道德、是ナリ、此部ニハ、国民ノ国家ニ対スル權利及ビ義務ヲ包括ス、

国民<sup>シテ</sup>トイヘル語ニハ、廣クシテ鬆ナル義ヨリ言フトキハ、總テ国家ノ地面ノ城内ニ居住スル者ハ、一時他ヨリ寄留スル者マデモ之ヲ称スル語トナルナリ、夫ヨリ一段精密ナル意味ニ於テ、其国土ニ生ル者、又ハ他国ヨリ來リテモ、法律ニ依リテ、全ク国民ト認許サル者ヲ以テ限リトスルナリ、合衆国ノ憲法ニ曰ク、凡ソ合衆国内ニ生レ、及ビ帰化シテ国民ト認許サレタル者ニシテ、此国ノ威權ニ服従スル者ハ、合衆国ノ国民、及ビ彼ガ居住スル所ノ各州ノ居民タリ、婦人及ビ小兒ハ、此定義ノ内ニ包括セリ、更ニ狭キ意味ニ依リテ、言フトキハ、国民ナル語ハ、其国ノ政事ノ權ノ分配ノ權利ヲ有スル者、即チ發言及ビ官職ニ選舉サル、ノ權アル者ヲ以テ限リトス、国民ノ權利

ハ通常之ヲ名ケテ国民權<sup>シテ</sup>トイフ、然レドモ時トシテハ、国民全体ノ權利ト發言被選權利トノ間ニ區別線ヲ画スルコトアリ、後ニ言フ者ヲ政治權<sup>ホリチカ</sup>ト名ケ、前ニ言フ者ヲ更ニ狭キ意味ヲ以テ国民權トトイフ、他国人及ビ内地出生ノ

夫人小兒ハ、合衆国ノ法律ニ於テ、国民權ハ之ヲ所有スルコトヲ得レドモ、政治權ヲ有スルコト能ハズ、

是ニ付キテ、權利ト義務ノ間、及ビ義務ト主觀ト客觀トノ間ニ重複ノ干係アリトイフコトヲ知ラザルベカラズ、何レノ權利モ皆義務ヲ包含セリ、義務ノ主觀ニ属スルノ各ノ權利義務ハ、客觀ニ属セル一致ノ義務ト權利トヲ包含ス、

故ニ国家ト国民トノ間ノ道德干係ノ全田野ハ、国家ニ於ケル人民ノ權利義務ヲ十分ニ通觀シテ再調査セザルベカラズ、

### 第一解 国家ニ於ケル一个人ノ權利

二百三十章 国家ニ於ケル一个人ノ第一ノ權利ハ、其人身ノ存立シ、及ビ其大目的ヲ妨碍セラレズシテ進行スルコトヲ得ルノ權利ナリ、

人ハ造物者ガ或ル国家ノ中ニ生存センコトヲ希望スル者ナリ、而シテ国家ハ、土地面ニ於テ或ル界域ヲ充実スル為メニ希望サル者ナリ、人ハ政事社会ヲ構造スル一支体トシテ生活シ、其命運ヲ以テ其界域ノ内ニ抛ツ者ナリ、人ハ其權利ヲ認識シ、之ヲ破壊サル、コトナカランコトヲ要望スルハ正当ノコトナリ、

其上二人ハ国家ヨリモ長生スルコトヲ希望サル、ナリ、国家ハ単ニ現世ノミ成立スル者ナレドモ、人ハ猶未来不朽ニ生活スルコトヲ得ベキ者ナリ、人ノ最高ニシテ最真ナル利益ハ此後不窮ノ時ニアリテ、現世ノ界限ヲ以テ限定スベカラズ、人ノ性質中ノ或ル部分ハ、社会的、現世的ナレバ、大ナル命運ハ、社会及ビ現世ノ有様ノ中ニ於テ造り出スナリ、此現世ノ命運ハ上帝ガ不朽ノ利益ヲ進メンガ為ノ目的ヲ以テ定メタル者ナリ、故ニ国家ハ、一個人ノ不朽ノ安全幸福ヲ慥ニスルヲ以テ第一ノ義務トナシ、決シテ其權利ヲ妨碍セシムベカラズ、人ハ其自己ノ高等ノ目的ヲ遂ゲンテシテ勉行スルニ方リ、国家ノ之ヲ妨害セントスルヲ免除セシムベキノ權利アリ、国家ハ自己ノ為メ、此勉行ヲ勸奨スベカラザルコトハ至テ明白ノコトナリ、国家ハ、人体トシテ之ヲ見ルトキハ、永久ノ安幸ニ意ヲ用フル所ノ不朽ノ性質ヲ除外シテ、其体ヲ構造シタル者ナリ、故ニ自己本来ノ目的ニ反対シ、其支体<sup>人民</sup>ノ最高ナル共通ノ利益ヲ妨グルガ如キハ、不智ノ甚シキ者ニシテ、自ラ其強力ヲ荒敗シ、其適當ノ目<sup>的</sup>ニ反抗シテ働クコトトナルナリ、

猶此上ニ保守スベキコトアリ、人ハ国家ヨリ妨碍ヲ受ケズシテ、其不朽ナル性質ノ最高ノ目的ヲ進取スルノ權利ヲアルノミナラズ、更ニ国家ヲシテ、此適當ナル勉行ニ同情ヲ表セシメンコトヲ要望スルノ權利アリ、而シテ国家ハ、其現世ト社会トノ性質ノ界限ヲ越ルコトナキトキハ、人民ノ此勉行ヲ援助スルコトヲ得ベシ、此同情ト援助トハ、單純ナル心灵ノ利益ニ及ブコトノ希望ハ必要ノコトニ非ズ、国家ハ己ノ行為ヲ以テ国民ノ高等ナル生命ニ熱望スル所ト相協合スレバ、夫ニテ十分ナリトス、

二百三十一章 第二ニ、国民ハ国家ノ相当ナル範圍ノ外面ニアル所ノ現世ノ利益ヲ有スベシ、故ニ人民ハ国家ヨリ妨碍ヲ受ケズシテ、自ラ注意スルコトヲ許セラレザルベカラズ、

凡ソ国民ガ一個人トシテ得ベキ所ノ利益ハ、只現世ノ性質ノ者ナレドモ、他人トノ社会ヲ為ス上ニ干係セズ、故ニ全ク国家ノ領分ノ外圍ニ属スル者ナリ、人民ハ自己ノ為メニ此利益ヲ整頓シ養成スルハ其權利ナリ、只其利益ヲ注目スルニ於テ、国人共通ノ現世ノ田野ヲ破壊スベカラズ、此田野ハ国家ニ属スル者ニシテ、我等ハ只他人ト共ニ分度ニ随ヒ、又其利益ニ干係スル有程ニ随ヒ、其職分ヲ分ツコトヲ得ベキ者ナリ、凡ソ人民ハ自由ノ思想、自由ノ意見、自由ノ良心ニ干シテ、私有ノ權利、即チ人有ノ權利アリ、又用事、交際、住居ヲ選ビ、衣服、飲食ヲ定メ、又身体ノ管理、心灵ノ性質ノ養成、日々ノ職業ノ各個ノ歩武ヲ定ムルコトニ付キ、無数ナル私有ノ働アリ、此ノ如キ事ヲ為スニ臨ミ、公共ノ礼式、公共ノ道德、公共ノ利益ニ反対スルノ悪事ヲ犯サレバ、其人ハ、国家ノ妨碍ヲ受ケズシテ、運動スルコトヲ得ルノ權利アリ、更ニ之ヨリ以上ニ於テモ、其実行上ニ於テ、之ヨリ廣ク及

ブコトアリ、凡ソ国民ガ適當ナル一個人ノ利益ニ対シテ、同情ヲ表シ又間接ニ之ヲ補助スルコトハ、国家ノ義務ニ帰セザルベカラズ、是ニ干スル原理ハ、此議論ノ全部ヲ通貫スル者ナリ、則チ真正ナル国家ノ生命ハ、スベテ真正ナル人民ノ生命ト十分ナル協和ノ中ニ有セリ、此双方ノ利益ハ、決シテ相衝突スルノ利益ニ非ズ、此双方ノ目的ト要望トハ、相同ジカラズト雖ドモ、彼等ノ均分セル道路ハ、常ニ相並行シテ走ルナリ、

二百三十二章 第三二ハ、更ニ直接ニ更ニ固定的ニ、国民ハ国家ニ対シテ、其利益ノ損害ノ防護ヲ要望スルノ權利アリ、其損害ハ国民同士ヨリ受クルモ、国家ノ官府ヨリ受クルモ、外国人ヨリ受クルモ同様ナリ、

国民ハ其国内ニ於テモ、又ハ他国ニ在リテモ、其防護ヲ要求スルコトヲ得、即チ人民ノ生命、肢節ノ權利、運動ノ自由、得ルコト、保ツコト、用フルコトニ於ケル財産ノ權利、荣誉及ビ品性ノ權利ニ付キテハ、国家ハ宜シク之ヲ認定スベクシテ、又不道理ノ侵襲ニ逢フトキハ、之ヲ防護セザルベカラズ、国民ハ損害ヲ脅迫サレタルトキト、己ニ損害ヲ受タル後、之ヲ回復スト、両様ノ要望ヲ為スコトヲ得、国民ニ対シテ十分ニ、實際上ニ其防護ト回復トヲ行届カシムルコトハ、国家ノ第一ノ義務ナリ、

二百三十三章 第四ニ絶対ナル必要ノ場合ニ於テハ、国民ハ国家ヨリ救護補助ヲ受クルノ權利アリ、

故ニ国家ハ、国民ノ貧窮無告ニ対シ、其聾盲ニ対シ、其不具疾病ニ対シ、之ヲ救フノ準備ヲ為サルベカラズ、其救護補助ハ、只現世ノ欠失ノ為メニ、外面ノ方法及ビ器械的ニ之ヲ救助スルヲ要ス、然レドモ其方法ハ、人ノ全キ性質ノ必要ニ注目シテ之ヲ同情ヲ表シ、又間接ニ之ヲ軽減セザルベカラズ、甚シキ悲痛ノ如キハ、直接ニ其人ニ対シテ同情的ノ救助ヲ施サルベカラズ、若シ之ニ施與スルコトアルモ、カ、ル高等ノ注意ヲ欠クトキハ、人道ニ非ズトイフベシ、外部ノ心配ヨリ来レル心ノ苦惱ニ対シ、親切ナキ所ノ冷淡ヲ以テ身体上ノ必要ヲ助クルコトハ、国家ノ希望ニ反対スルコトニシテ、甚政事ニ拙キ者トイフベシ、

## 第二解 国民ガ国家ニ対スル義務

二百三十四章 国民ガ国家ニ対スル根元ノ義務ハ真正ナル忠誠ロヤル是ナリ、

本国ヲ愛ストイフコトハ、人類ノ衷心ニ固有スル者ナリ、此感覺ヲ十分且強力ニ働カスコトナキ人ハ、真正ニシテ又完全ナル人ト称スベカラズ、一个ノ国土ノ働ガ其国ニ用立ツハ、国民ガ眞実ニシテ温氣ナル感情アルヲ必要トスルナリ、其保持其勉強トイフ者ハ何レモ其根基ハ国民ガ寛大ナル愛情ニ本ヅカザルハナシ、国家ト国民ト相互ノ同情及ビ感情ハ双方ニ於ケル性質ノ第一ノ法則ナリ、

国民ノ方ニ於ケル此根元ノ感情ノ外ニ現ハル、者ハ、第一ニ国家ノ

機関、全權人、及び其行為權利ヲ以テ最上權ノ者トシテ之ヲ尊重スルニアリ、故ニ國民ハ大官ノ惡ヲ言フコトヲ禁ジ、國王ヲ尊敬スルコトヲ望マル、是等ハ政事社会ノ代人(全權)及ビ機関ナレバナリ、自由政体ニ於テハ、道德ノ原理ニ反対セントスルノ罪惡、頗ル多ク且ツ大ナリ、故ニ道德ノ此原理ヲ教ヘ込ミ、又其党派ノ熱心ヲ抑ヘテ、國家ノ威權ヲ表スル者ヲ賤侮シ、輕蔑セザラシムルコトハ、最モ必要ノコトナリ、政略ノ方法、政務取扱ノ行為ハ、皆國民ガ官府ノ役人ニ対シテ為セル礼式ト恭敬、及ビ國政ノ行動ヲ尊敬スル度ニ從ヒテ之ヲ決定スルナリ、

二百三十五章 國民ノ國家ニ對セル第二ノ特別ナル義務ハ、忠誠ノ中ニ籠モリタルコトニシテ、即、順從<sup>オベデ</sup>是ナリ、國家ハ正当ナル威權ノ座所ニシテ、又其根源ナリ、其命令ガ一般道德ト相一致スル間ハ、疑惑ナキ順從ヲ以テ、之ニ服事セザルベカラズ、道德上ニ於テ疑アル場合ニ於テモ、猶國家ハ高等ノ裁判所ニシテ、大抵ハ道理アル者ナリトイフコトヲ回想セザルベカラズ、其國法ガ、道德ノ高等ナル法則ニ反対スルト、假定スベキトキニ於テハ、之ニ抵抗スルハ明白ノ理由アラザルベカラズ、若シ一個人ノ良心、全ク破壞セラル、ニ非ザレバ、道德不公正ナリト想像セル法律ナリトモ、猶之ニ服從スルヲ適當トス、戰爭ハ其初メハ不公義ナリト想定スルヨリ起ル者ナリ、故ニ人民ハ租稅及ビ徵兵ニ反対シテ之ヲ訴訟スルコトヲ得ズ、國民ハ卻テ國家安全ノ

為メニ利益ナルコトヲ為スハ、正法ニ協フノコトナリ、道德ノ責任ハ彼等ノ上ニ固定セザル者ナル故ニ、其人民タルノ義務ヲ為スコトニ於テ、其一個人ノ良心ヲ損害スルコトナシ、人民ハ己レノ進取スベキ範圍ノ外ニ在リテ、一己ノ良心ノ了否スル所ヲ以テ、傾倒セントスル時世ノ愛國ノ職分ヲ尽サ、ルノ言譯トスルコトヲ得ズ、若シ此事ヲ允許サル、トキハ、一個人ノ決斷ハ、社会ノ決斷ノ上ニ在リト言ハザルコトヲ得ズ、若シ人々己ガ眼ニ於テ正理ナリトスルコトヲ行フヲ許シタルトキハ、社会ノ秩序ハ破滅スベシ、其他猶背戻ノ徒ニ加フルニ罰金ヲ以テシテ、公共ノ正義ノ満足ヲ得ントスルコトモ、道德ニ於テハ之ヲ允許セザルベシ、若シ國家ノ意思、之ヲ制裁スルノ実ナクシテ其反抗ヲ受クルトキハ、國家ニ於テ服從ト金錢上ノ徵收トノ間ノ自由ナル選擇ヲ勘考セザルトキハ、國家ノ威權ハ忽チ破壞スベシ、罰金ノ罪ヲ受クルコトハ有功ノ服從ニ非ズ、服從スルコトハ献身スルコトヨリ善シ、〔旧約聖書〕サムエル第一、15・22〕

二百三十六章 忠誠ナル國民ノ第三ノ義務ハ、國家ヲ扶持<sup>サツポ</sup>スルコト是ナリ、國家ハ其支分派ヨリ扶持ヲ得ルニ由リテ、生活シ、運動シ、其目的ヲ成就スルナリ、國民ハ租稅ヲ出サ、ルベカラズ、又其生命ト勞力トヲ以テ國家ノ用ニ供セザルベカラズ、國民ハ國家ノ政略及ビ方法ニ從ヒテ之ヲ助ケザルベカラズ、國民ハ其個人又ハ党派ノ目的ニ從フコト

ノミヲ為シテ、国家ガ進歩上政務ニ反抗シ又ハ妨碍スルハ不忠義ナリ、又罪人ヲ 發見シ、又ハ其刑罰ヲ助クルハ国民ノ義務ナリ、彼ガ罪人ノ苦難ニ対シテ發スル同情ハ、政事ノ公正ノ利益ノ下ニ屈服セザルベカラズ、此愛國ノ熱心ノ事ニ付キテハ、甚誤解ヲ生ジ易キ者ナリ、党派ガ取扱上ノ扶持ハ、他ノ利益ヲ損ジ、他ノ權利ヲ破リテ、動モスレバ過度ニ走ル者ナリ、此事ハ務メテ不道德ノ道路ニ入ラザルヤウニ為サ、ルベカラズ、政略ニ於テノ虚言ハ、市場ニ於テノ虚言、諸人ニ対スル虚言、家族ニ於ケル虚言ト同様ニ、邪曲ニシテ賤シムベキコトナリ、真正ナル忠義ハ、政府ノ法ニ叶ヘル行為ニ対シテ、手早ク爽快ナル効力アル扶持ヲ正当ニ行フベシ、一身上又ハ党派上ノ目的ト利益トハ、其下ニ服属セシメザルベカラズ、己ガ本国ヲ、己ノ私ノ便益又ハ党派ノ利益ノ下ニ沈没サスル者ハ、賤シキ愛國者ニシテ、不忠ナル国民ナリ、

二百三十七章 凡ソ国民ハ、其忠義ヲ、己ノ本国ヨリ他ニ移スハ正当ナルコトナルカ如何トイフコトハ、諸國ニ於テ尚未定ノ問題ナリ、一度國民タル者ハ永久ニ國民ナリ”トイヘル格言アリ、往古ハ一般ニ之ヲ奉行シタリ、然レドモ開化ノ進ムニ從ヒ、人々ノ權利、人々ノ自由ニ随テ進歩シ、是ニ由リテ此格言モ古代ノ如クニハ、尊重サレザルコトトナレリ、而シテ自ラ國ヲ去ルトイフ權利ハ認許サル、ニ至レリ、國ト國トノ間ニ自由ナル交流、更ニ定マリタル万国公法、人々ノ自由

ノ大ナル允許、土地人民ノ増加ニ由リテ国力ノ増盛等ハ、自然ニ人民ノ自選ニ於テ、古代ノ如キ制限ヲ取除クルニ至レリ、国家ト國民トノ干係ノ根元ハ単ニ或ル土地ノ界限ノ中ニ生活スルトイフニ起リタル者ナレバ、此干係ノ性質ニ由リテ見ルトキハ、國民ガ其土地ヲ移シテ、國民ノ身分ヲ變ズルトイフコトハ、敢テ禁スベキコトニ非ズ、

然レドモ國民ガ、自ラ國ヲ去ルトイフコトニ付キテハ、尚道德ノ制抑アリ、己ノ生國ガ必要又ハ混雜ニ際シ、國民ノ扶持援助ヲ必要トスルトキニ於テ、其國ヲ去ルハ邪曲ノコトナリ、己ノ職任ヲ欺キ、又約束ノ義務ヲ破リテ、己ガ住処又ハ忠義ヲ他ニ移轉スルハ、更ニ惡シキコトナリ、加之、國民ノ身分トイフ者ハ甚高崇ニシテ且神聖ナル者ハ數、其忠義ヲ變換スルガ如キ輕薄ノコトハ、重キ國民ノ身分ニテハ為シ得ベカラザルコトナリ、新ナル国家ノ住所ハ恒久ノ者トナリ、新ナル社会ニ於テ政事上ノ義務ヲ行フベキ權利ヲ得ントスルニハ、久シキ歲月ノ經過ヲ要スルナリ、又何レノ國モ歸化ノ状態ヲ得ル權利ヲ許サレザルベカラズトイフコトハ、心ノ中ニ浮ブ者ナリ、若シ人類ノ權利ト利益ハ甚大ニシテ、(非常ノ時ノ外ハ)国家ハ、移住民ヲ防ギテ其門戸ヲ閉ヅルコト能ハザルトキハ、国家ハ自獲ノ原理ニ據リテ、國民ノ身分ノ十分ナル權利ト特權トヲ許スルコトヲ拒絶スルコトヲ望ムナリ、國際法ニ於テハ、或人其本国ヲ去リテ他國ニ歸化シタル者(國民ノ身分ヲ得テ)ニ時其本国ニ歸リタルトキ、最初ヨリ本國ニ居リタル者ノ如ク、

政事上ノ責任ヲ保持スベキヤトイフコトニ付キテハ尙未決ノ争論ナリ、此事ニ関シテ、国際法ノ進歩ハ国民ノ自由ノ為メニ利益多シ、

此結合ニ付キテ注目スベキ價アルハ左ノコトアリ、シセロハ、此場合ニ於テ、国民ガ法律上ノ關係ヲ保持スルモ棄擲スルモ自己ノ随意ナリト為シ、之ヲ以テ羅馬人ノ自由ノ最強キ原理ノ中ニ加ヘタリ、

#### 第六篇 國際ノ道德

二百三十八章 國家ニ屬セル道德ノ第三大部分ハ、國ト國トノ間ニ成立スル道德ナリ、

國ト國トノ間ノ權利ト義務トハ、國際法ト名クル者ノ主要ナル部分ヲ作ル、

國際法ト之ヲ二部ニ分ツ、其一ヲ公法トイフ、國家ト國家トノ關係ニ付テ論ズル者ナリ、ニヲ私法トイフ、國民ト他ノ國家、又他ノ國家ノ人民ニ干係スルコトヲ論ズルナリ、

二百三十九章 一個人ガ國家ノ威權ノ上ニハ更ニ現世ノ威權ナキガ如ク、國ト國トノ間ニハ、彼ニ義務ヲ負ハスベキ普通ノ法律ヲ作ルベキ適當ノ立法部アルコトナシ、國際法ノ体ヲ造リ立ツル所ノ原理ト規則トハ、道理ト習慣トヲ基トシテ之ヲ定ム、即チ國家構造ノ緊切ナル性質及ビ國家ノ風習ト特別ナル行為ト是ナリ、更ニ之ヨリ直接ニシテ特別ナル根元ノ左ノ如シ、(一)テキスト、ライター、オフ、アウソリチイ、

(二)條約、(三)國家ノ命令、殊ニ航海及ビ捕拿船ニ干スル命令、(四)裁判

ノ先例、(五)明白ナル意見、(六)歴史、

國際法ハ其性質ニ於テ、文明ノ進歩ニ從ヒテ共ニ成長セザルベカラズ、人類ノ道德ノ進歩スルトキハ、道德ニ屬セル各個ノ規則モ、更ニ完全ナル習慣ト相結合スルガ為メニ多少其姿態ヲ變ゼザルベカラズ、國家常ニ親密ノ方ニ長進シ、兄弟ノ如キ干係ヲ増シ居ル者ナリ、平和ノ交換ハ漸々其數ヲ増シ、戦争ノ殘虐ハ、漸々ニ其數ヲ減ズルナリ、國ト國トノ争論ヲ決断スルニ於テ、道理ハ勝ヲ獸力ノ上ニ制ス、國際道德ノ原理ハ、益其光明ヲ放チ、先例ハ益其數ヲ増シ、國際ノ規則ハ、漸々増加シ、完全ニシテ順序ノ立チタル法律ノ体ヲ造立スルニ至レリ、二百四十章 國家ハ真正ナル道德ノ人身トナリテ、一個人ニ屬セル者ト同様ナル權利及ビ義務ニ從ハザルベカラズ、只其國家ト一個人ト異ナル点ハ左ノ如シ、(一)政事ノ生命ノ直接ノ目的及ビ方法ハ、現世ニアリ、人身ノ目的ハ其時限ヲ通貫シテ無窮ノ未來ニ達ス、(二)政事ノ生命ハ集合的ナリ、人身ノ道德ハ一個的ナリ、(三)國家ハ主權ナリ、個人ハ或ル度マデ國民ノ規則ニ從フ者ナリ、

此變形ニ屬シテ、國家ノ權利ト義務トハ特別ノ点ニ於テ、一個人ノ權利義務ノ中ニ包含セラル、其事ハ前ニ已ニ言ヒタル總テノ義務ノ元素ヲ為ス者ニシテ、即チ愛<sup>○</sup>仁<sup>○</sup>正<sup>○</sup>三者ナリ、而シテ此中ノ有ル物ガ、其中ニ於テ殊ニ秀拔ナル者トシテ區別サレタリ、

第一鮮 國際ノ好意<sup>グットウイット</sup>

二百四十一章 国家ハ殊ニ同情ノ利益及ビ好意トイヘル勝レタル義務ノ上ニ坐ヲ定メテ、其權利ト之ヲ一致スル義務ヲ行ハザルベカラズ、国家ハ正シク自身一個ノミニテ生活スルコト能ハザルハ、恰モ人類ガ自身ノミニテ適當ニ生活スルコト能ハザルガ如シ、他ノ国家ノ好意ヲ求ムルコトハ、国家ノ義務ナリ、

国家ハ冷薄ヲ以テ他ノ社会ヲ見ルベカラズ、妬忌偏執ヲ放棄シテ、他国ノ真正ノ幸福ヲ喜バザルベカラズ、国家ノ生命ノ大目的ヲ成就スルコトハ、人類ノ目的ト十分ニ協合シテ以テ之ヲ助クルニアリ、又之ト同様ニ他国ノ不幸困難ハ之ニ同情ヲ表セザルベカラズ、悪疫、基金、大火ノ如キハ何レノ国ニ於ケルモ、世界ヨリ其苦難ヲ受タル者ニ恤憫ノ心ヲ発センコトヲ望ム、此ノ如ク注目サルベク、又憫レムベキ災難ニ対シテ、国家ハ、其道德ノ義務ノ下ニ立チテ、総テ実行上及ビ道理アル救助ヲ與フルノ情ヲ養ハザルベカラズ、

此同情及ビ好意ハ、人類ノ利益ヲ高ムル為メニ適當ノ協力ヲ為ス道理ノ基礎及ビ有様ナリ、又状態ヲ変化セントスルノ願望ヲ命ジタルトキ、相互ノ特別ノ同盟ノ基礎ナリ、

此同情ノ感情及ビ好意ノ情ノ中ニハ、返報ノ感覺ヲ包含ス、即チ親切ヲ受タルヲ満足スルノ返報、及ビ悪シク待遇セラレタルニ対シテ寛容及ビ宥恕ノ如キ、是ナリ、

恩ニ感ゼズトイフコトハ国家ニ於テモ、一個人ニ於ケルト同ジク甚

悪キコトナリ、而シテ堪忍ト赦宥トイフコトハ同ク貴ブベキコトナリ、返報、即チ悪ヲ以テ惡ニ報ユルノ返報ハ、国家ニ於テハ、一個人ノ道德ニ於ケル、ヤヤ廣キ基礎ヲ有セリ、其故ニ国家ハ此難義ヲ恢復スル為メニ、現世ニ於テ最高ノ者ニ非ザレバナリ、国家ハ又一個人ノ如ク未来ヲ有セズ、一個人ハ現世ニテ受ケタル虐待ヲ未来ニ返報スルコトヲ待ツコトヲ得ベキ者ナリ、

二百四十二章 他ヨリ施セル惡害ニ対シテ之ニ返報スルコトハ完全ナル性質ニ於テ之ヲ応用スルコト能ハズ、此干係ハ、完全ナル有様ニ入ルベキ門戸ヲ有セズ、此ノ如キ有様ニ於テ成ル所ニ対シテ、殊別ノ義務ヲ負ハスル者ナレバ、只人類ガ道德不完全ノ有様ニ於テノミ生ズル者ナルコトヲ知ルベシ、

次ニ記セル者ハ国家ガ返報ヲ為スヲ允許スル場合ヲ知ルコトヲ得ベシ、(一)犯罪者ハ其為ス所ノ惡ニ対シテ同様ノ公義ヲ以テ彼ヨリ返報サル、トイヘドモ、之ヲ愁訴スルコトヲ得ズ、(二)我ニ向テ損害ヲ為スル者アラバ、之ニ対シテ適當ノ防禦ヲ為スコトハ、道德上ノ利益ニ歸スベシ、又人類自体ノ利益ニ歸スベシ、(三)人類ノ氣性ハ、此返報ノ制裁ヲ貸スコトノ為メニ其氣性ヲ起セリ、(四)大洪水以前及ビ摩西ノ法律ハ神ノ威權ヲ與ヘタル所ナレドモ、共ニ返報ノ事ヲ許セリ、故ニ返報トイフコトハ惡事ニ非ズ、報復ハ、神ノ特許ヨリ禁止サレテアル者ニ非ズ、(五)福音書ノ赦罪ノ原理ハ、除外例少ナクシテ之ヲ行ヒ

得ルコト能ハズ、(六)家ノ安全ハ或ル必要ニ於テ余義ナク返報ヲ行ハザルベカラズ、

然レバ返報ノコトハ允許サル、者ナリ、然レドモ之ヲ定ムルニ、明白ニシテ堅固ナル道德ナカルベカラズ、

二百四十三章 政治上ノ返報ハ(一)ハ本来ノ報復<sup>○ヒンシク  
チーブ</sup>(二)ハ和睦<sup>○ハ  
アル</sup>ナリ、

和睦ノ返報ハ、力勢ヲ奮フコトナク、他国ニ対シテ国家タル者ガ行為ノ規則ヲ実行スルニアリ、

此事ハ他国ノ利益ト不利益ヲ感ズルコトニシテ、之ヲ行フノ方法ハ種々アリ、自由交際ノ交易及ビ旅行ノ上ニ施ス所ノ抑制、例ヘバ往来切手ノ如キ、入港税ノ如キ、入貨税ノ如キ、本国又ハ植民地ニ於テ港口ヲ閉鎖スルガ如キ、及ビ国家威權ノ間ニ於テ、制限ノ交際アルガ如キ、又ハ国家及ビ人民ノ間ニアル党派上ヨリ制限ノ交際アルガ如キハ、何レモ此責任アル抑制ニ反対シテ明言スルコトヲ許サル、ナリ、又国家ノ安全ヲ危クスル所ノ兵隊ノ招募、陸軍海軍ノ募兵、公共ノ擁護ノ利益ニ於テモ、他ノ国家ノ上ニ於テ同様ナル取扱ヲ余義ナクスルナリ、此ノ如キハ和睦ノ返報ノ例ナリ、

本来ノ報復ノ返報ハ国家上ノ損害ニ対シテ之ヲ償フニ怖ルベキ方法ヲ行フナリ、其法ハ、犯罪者ニ属スル人民及ビ財産ノ上ニ奪掠ヲ行フナリ、新ナル国際法ノ傾向ハ、報復ノコトニ付キ、国家ヲ制シテ、無

罪ノ人民ニハ此ノ如キ奪掠ヲ赦シ、又私人ニ奪掠ヲ許スノ文書ヲ與フルヲ禁セントスルニ至レリ、而シテ其奪掠ノ如キモ、只他国ノ人民ノ貨財ニノミ及ボシテ、人命ハ之ヲ赦スコトナレリ、

### 第二解 国際ノ礼義、信実、公義、徳恵

二百四十四章 国家ハ權利義務ニ従ハザルベカラズ、其權利義務ハ、其望ヲ対身ノ上ニ定メザルベカラズ、礼儀、信実、公義、徳恵ノ如

キ、是ナリ、

(一) 礼義<sup>○コル  
アル</sup>又丁寧ハ、道德ノ原理トシテ、他ノ国々ト交際シ、又ハ相互ニ交通スル上ニ於テ其外面ノ行為ニ於テ恭敬ヲ顯スナリ、国家ノ身持ハ、一個人ノ身持ト同ク、恭敬アリ、高慢アリ、親厚アリ、反撥アリ、丁寧アリ、反戾アリ、礼義アリ、粗野アリ、此原理ガ交際上ニ働ク所ノ方法ハ甚多シ、実ニ此原理ノ諸種ノ形態ハ、国際ノ法ニ於テ、認識スル所ニシテ、是ニ由リ種々ノ規則ノ体ヲ造成シ、之ヲ総稱シテ国家ノ礼義トイフ、<sup>○コトイ  
オウ  
ネーションズ</sup>

恭敬ノ方法ノ中ニ於テ、勝レタル者ヲ恭惠スルコトニ付キテ、夫々ノ国家ガ優等ナルト劣等ナルトニ従ヒテ、名代ニ対シテ或ル區別ヲ生ズルナリ、獨立国ハ、同等ナリトイフコトハ、国際法ノ根元ノ原理ナリ、然レドモ年齢ノ高キト、勢力ノアル、其他此ノ如キコトニヨリテ是等ノ者ニ或ル恭敬ヲ致ストイフコトハ、敢テ此原理ヲ破ル者ニ非ズ、欧州ノ或ル国々ニテ君主ノ尊敬ト称スル者ノ如キキ、他ノ国家ニ先チ

テ之ヲ恭敬シ、公使ノ送ルモ、第一等ノ位階ノ者ヲ大使アンバサドールトシテ此國ニ送ルナリ、其他又名称位階等ニ付キ、特別ノ尊敬アルナリ、欧州ノ諸國ハ干係上先行スベキ者ハ其後ニ立ツナリ、而シテ其干係ノ上ニ於テ、常ニ主權ノ争論アリ、

二百四十五章 國家ノ禮義ハ、其同等トイフコトト、人ニ比擬シタル道徳トノ上ニ立ツ者ニシテ、其習慣ト風俗トヲ以テ定メテ法律ト為シタル仕方ニ依リテ、其禮義ノ方法ハ甚一様ナラズ、其禮義ヲ破ルノ次第ニ由リテ、戰爭ノ原因トナルナリ、禮義ノ規則ニ於テハ、次ニ記スル者ハ、其主要ナル種類ナリ、

(一) 各ノ國家トイフ物ノ存立シ居ルトイフコトヲ、適當ナル方法ナリトシテ認許サル、ヲ以テ禮義ノ規則ト為ス、新タニ起リタル國家ニ付キテハ、即チ國家ノ一部又ハ謀反者、其見込ミノ通り、獨立ヲ固定シ得ルトキニ於テハ、他ノ國家ハ獨立ノ者ト認定スルハ、其禮義ナリ、然レドモ其新國ノ獨立ハ堅固ニシテ、新國タルノ恒久安定ヲ得タル者トイフコトヲ判断セザルベカラズ、又一國內ニ於テ、政府又ハ管理ヲ改革シテ、全ク成功ニ至リタルトキハ、新ナル政府又ハ新ナル君主ヲ認許スルコトハ、同ク國際上ノ禮義ナリ、他ノ國家ヲ認許ラフターニシヨスルノ權利義務トイフコトハ、國際ノ禮義ノ第一ノ原理ナリ、

(二) 國際禮義ノ第一ノ原理ハ、公使レグイ發遣ノ權利ナリ、何レノ國家モ皆他ノ國ニ公然ノ重臣ヲ他國ニ送り、又他國ノ重臣ノ來ルヲ受クルノ

權利アリ、此權利ハ之ト相干係スルノ義務ヲ有セリ、良善ノ道理ナクシテ、使節往來ノ交際ヲ拒絶スル者ハ、甚シキ無禮ニシテ、十分ニ之ヲ責ムルノ道理アルナリ、此ノ如ク委任サレタル公使ノ身上ヨリ、通常ノ其土地ノ法律ノ支配ヲ赦サル、ナリ、

維也納ワイエンノ會議(一八一五)及ビアイキス、ヲ、シヤヘルノ會議(一八一八)ニ於テ公然ノ使節タル者ヲ左ノ四種ニ分ツ (一) 全權大使アンバサドール及ビ教皇ノ大使 (二) 主權ヨリ委任セラレタル全權公使コンボ (三) 主權ヨリ委任セラレタル在留公使レシデント (四) 外務大臣ヨリ委任サレタル弁理公使、是ナリ、

(三) 國際禮義ノ第三ノ規則ハ、國旗トイフ物ハ、海上ニ於ケルモ港內ニ於ケルモ、必ズ之ヲ祝セザルベカラザルコトナリ、旗ハ國家ノ符号ナリ、之ヲ敬重シ、之ヲ侮慢スルコトハ、恰モ國家ヲ敬重シ侮慢スルト異ナルコトナシ、

(四) 禮義ノ第四ノ原理ハ、其主權ノ人、及ビ其陸軍海軍ハ、他ノ國家ノ界域內ニアルトキハ、民法刑法共ニ、總テ其土地ノ法律ノ支配ヲ宥除スルナリ、

(五) 國際禮義ノ第五ノ原理ハ、其國家、其國民ノ權利ヲ害セザルノ限りハ、何レノ地ニ在リテモ、他國ノ法律ノ執行ニ從ハザルベカラズ、遺言者ガ住居セル國ノ法律ノ限りハ、何レノ地ニ在リテモ、他國ノ執行ニ從ハザルベカラズ、身又ハ動産ノ整理ニ於テ、其成功ヲ得シメザル

ベカラズ、不動産ニ於テハ、欧州大陸ノ何レノ地ニ於テモ亦然リ、亦人々ノ資格、タトヘバ国民權、年齢、破産、結婚、離縁等ノ如キハ、或ル国ノ法律ニ於テ定メタル者ハ、其人ノ住居セル他ノ国ニ於テモ亦之ヲ允許スルナリ、

二百四十六章 第二 信実 国ト国トノ交際ハ、人々ノ間ト同ジク、同一ナル道德ノ根基ノ上ニ立ツナリ、

国ノ習慣ニ於テ、或ル度マデハ敵人ヲ欺クコトヲ許シタリ、併シ其他ノ者ニ対シテハ、決シテ之ヲ許サズルナリ、戰爭ニ於テハ、此ノ如キ場合ニ在リテハ、敵軍ニ真実ヲ知ラシムルノ權利ナシトシテ、伏兵、木砲、偽旗等ヲ養フルコトヲ許セリ、此ノ如キコトハ戰爭ニ於テ、兩党共ニ愁訴スルコトモ抗論スルコトモナク、固ヨリ希待シ、及ビ習行スル行為中ノ一分ナリ、此ノ如キ敵ヲ欺クトイフコトハ、戰場ニ在リテハ、信実ヲ告ゲザルベカラザルノ權利ヲ有スル者ナレバ、之ヲ欺罔スルモ敢テ罪惡ニ非ズト雖ドモ、其事ニ依リテ、其人ノ位格ヲ損ズル如キ行為ハ、之ヲ允許スベカラズ、又造物者ノ許サズル所ノ行為ハ、之ヲ為スベカラザルハ明白ナルコトナリ、凡ソ敵ヲ欺クニ二方アリ、其一ハ我多数ノ敵ヲ現サズランガ為メニ伏兵ヲ置クノ類ナリ、其二ハ我国危ノ状ヲ示ス為メニ白旗ヲ立テ、以テ敵ヲ危殆ニ陥ル、類ナリ、道德上ヨリ見ルトキハ、此二者ノ間ニ精密ナル區別アルコトナリ、凡ソ道德不十分ノ場合(戰爭)ニ於テ、完全ナル道德ヲ行ハント欲シ、人

ヲ殺ス戰場ニ於テ、愛及ビ好意ノ命令ヲ敢行セントスルハ至難ナルコトナリ、

二百四十七章 第三 公義 他ノ国家及ビ他国民ノ權利ヲ恭敬スルコトハ、国家ニ於テモ又一個人ノ如ク之ヲ為サズルベカラズ、國際ノ公義ニ於テ希望サル、所ノ勝レタル權利ハ左ノ數條ニリ、

(其一) 凡ソ各ノ国家ハ、其原来ノ所有、又ハ戰捷、又ハ讓與ニ因リテ、或ル土地、或ル財産ノ所有ヲ他ノ国家ヨリ認許サル、コトヲ望ムノ權利アリ、平静ナル使用又ハ占領ニ於テ、年月ヲ經過スルトキ(即チプレスクリプション)モ其国家ニ堅固ナル所有ノ名称ヲ與フルナリ、国家以内ニアル所ノ財産ハ何レモ領分内トイフヲ以テ、其国家ニ属スルナリ(百七十七章ヲ見ルベシ)海上ニアル船隻ハ尚其国家ニ属スル界内ノ物ナリト解釈シ、其船隻及ビ其船中ニアル所ノ財産ハ国家ノ真正ノ界内ニアル財産ト同一ノ權利ヲ有スルナリ、

(其二) 国家ハ其臣民ニ忠義ヲ為サシムルノ權利アリ、或ル国家ノ人民ハ其本国ニ抗シテ戰フコトアルトキ之ヲ助クルハ、此權利ヲ破リタル者ナリ、忠義ヲ為サシムルノ權利ハ、其人ガ自ラ本国ヲ去ルニ依リテ消滅ス、然レドモ全ク国ヲ退去スルマデハ此權利尚存スルナリ、

(其三) 各国家ハ皆大洋上ヲ通航シ又ハ其上ニテ通商スルノ權利アリ、国家ノ裁判權ガ近接セル海上ニ及ブコトハ通常國際法ノ允許スル所ナリ、即チ陸地ヨリ三海里マデノ一線、及ビ岬角ト岬角トノ線内ニアル

所ノ海上ハ皆是ナリ、海上ヲ視察シ、探討スルノ權利ハ、戰時ニ於テハ戰爭ノ權利トシテ認許セラル、ナリ、然レドモ戰爭ニ非ザルトキハ之ヲ行ヘバ、允許セラレザル所ナリ、但シ表明セル約束アル者ハ此限ニアラズ、

二百四十八章 仁恵ノ義務ハ、國際ノ道德ニ於テモ、一個人ノ道德ト同一ノ原理ナリ、此事ハ全ク表顯セル善意ノ効果ナリ、文明ノ度ノ漸々ニ進ムニ從ヒ、國權及ビ禮儀ノ援助ヲ以テ國際間ノ善意ヲ表彰スルコトハ、歷史上ニ明白ニ見ユルナリ、

### 第三解 國家ノ義氣インシテ アリキ

二百四十九章 直接ノ義務ノ行為ノ中ニ在ル所ノ權利ト義務トノ種類ハ、正直、眞実、義氣等ノ如キ者ヲ包含スルナリ、是等ハ國家ニ於テハ、一個人ノ如ク亦之ヲ保持スベキ者ナリ、國家ハ自身ニ對シ、及ビ相互ニ事ヲ処置スル所ノ世界ニ對シテ、相互ニ感及スル此行為ヲ十分ナル義氣ニ於テ之ヲ為サバカラス、決シテ他ノ權利ヲ破ルコト勿カレ、常ニ其表明セル目的ニ向ヒテ進マンコトヲ要スベシ、

### 第四解 戰爭

二百五十章 戰爭トイフコトヨリシテ、國家ト國家トノ間ニ特別ノ權利ト義務ヲ生ズ、是ヲ戰爭ノ權利ライイト、オ  
フ、ウチルトイフ、戰爭ハ、獨立セル國家ノ間ニ於テ、其力ヲ以テ相争フナリ、

是ニ付キテ左ノ疑問ハ起レリ、戰ハイツモ、罪ナシトシテ之ヲ允許

スベキ者ナリヤ、完全ナル道德ノ状態ヨリ言フトキハ、凡ソ善意トイフモノハ、人ヨリ人ノ間ニ行キ渡ラザルベカラザル者ナレバ、其点ヨリ言フトキハ、戰ハ起ルベキモノト假言スベカラス、故ニ戰爭ハ或ル所ニ於テハ、道德上ノ欠失トシテ之ヲ論ズルコトアリ、然レドモ之ヲ國內ノ争トシテ見ルトキハ、其争者ノ一方ニ必ず特種ノ罪惡アリト定ムルコト能ハザル者アリ、國ト國トノ戰モ亦之ニ同ジ、眞正ノ意味ヨリ言フトキハ、世間ニハ、公義ナル國ト國トノ戰爭モアリ、亦公義ナル國內ノ争モアルナリ、凡ソ戰爭ハ、完全ナル普偏道德ト兩立シ難キ者ナレバ、其意味ヨリ言フトキハ、罪惡ナル者ナリ、然レドモ或ル戰爭ハ、其兩党ノ或ル者ニ特別ノ非難ヲ加フベカラザルコトアリ、攻撃ノ戰爭モ、亦防禦ノ戰爭ノ如ク、之ヲ允許スベキコトアリ、タトヒ戰爭ノコトニ非ザルモ、或ル國家ノ上ニ幾多ノ權利重積スルトキハ攻撃ノ戰ヲ宣告スベキコトアリ、又返報ノ場合ニ於テ、戰ヲ起スコトハ、一般ニ之ヲ允許シ居レリ(二百四十二  
章ヲ見ルベシ)

然レドモ、防禦ノ戰爭ニテモ、モシ、道德ノ不完全ヨリ起リ、已ムコトヲ得ザルニ迫ルニ非ズシテ、之ヲ行フトキハ、甚シキ罪惡ノコトナルナリ、唯單純ナル忿怒ト止ヲ得ザルニ迫リテ防禦ノ戰ヲ起スト、モハヤ温和ノ手段ヲ以テ之ヲ避クルコト能ハザル場合ニ於テハ、防戰ニ於テ無數ノ損失ト困難ヲ受ケ、又ハ他ノ社会ニ難儀ヲ及ボスコトアルモ、無罪トシテ之ヲ允許スルナリ、戰爭ハ屢々アルガ如ク、之ヲ主權

者ノ間ノ最後ノ義論ラスタアル  
ギニメントト名クベキ者ナリ、

戦争ハ事実ナリフハ、戦争ノ權利ハ事実ノ起ルト同時ニ生ズ、此權利ハ、戦争ノ原因ノ完全ニ属スル者ニ非ズ、又其正理ナルニ由ル者ニ非ズ、国ト国トノ間ニ戦争ノ起ルトキハ、其戦争ニ干スル或ル事ヲ標出シテ、戦争ノ權利ハ其事ニ属スルトイフコトヲ示サバルベカラズ、故ニ戦争ハ、兵器ト公正トヲ以テ、公共ニ為ス所ノ争ナリト名称セザルベカラズトハ有力ノ定義ナリ、(權利ハ此事ヨル起ルナリ)

二百五十一章 故ニ戦争ハ公共ヲ以テ之ヲ行ハザルベカラズ、戦争ハ一人ノ間ニハ成立スルコトナシ、只主權アル国家ノミ、本来ノ戦争ノ敵味方トナルナリ、戦争ハ実ハ兩國ノ敵味方共ニ其事ニ係リ合フトキニ起ルナリ、モシ其両敵、人道ノ利益ニ於テ十分ニ同一ノ比較ヲ有スル者ナルトキハ、或ル戦争ノ權利トイフモノ此時ニ於テ認許サル、ナリ、例ヘバ俘虜ヲ交換スルガ如キ、奪掠ノ訴状ヲ金塊ノ水師ニ任スルガ如キ是ナリ、但シ此水師ハ、其船中又ハ乗込員中ヨリシテ、海賊ニ類セル性質アル者ヲ除去セザルベカラズ、現今ノ戦争ニ於テハ、徒党又ハ小數ノ一揆ノ如キ、正シキ戦争ノ法律ノ保護ヲ與ヘズシテ、只之ヲ以テ強盜又ハ兇殺人ト同ジク、法律以外ノ者トシテ、之ヲ罰スベキ者トセリ、戦争ノ国ニ於ケル一人トシテノ国民ハ、敵国ノ人民トハ自ラ仇敵ノ状態タラザルベカラズ、然レドモ彼等ハ国家ニテ兵隊ヲ組織スルニ非ザレバ、出テ此戦争ニ干係スルコトナシ、故ニ國中ニア

ル人民ノ私産ハ、戦争ノ奪掠ヲ免カル、ヲ得ルナリ、若シ一人タル者、国家ノ命令ナク、自己ノ意ヲ以テ公共ノ敵ト戦フトキハ、陸ニ於テハ破法ノ者ニシテ、海ニ於テ海賊トナリ、共ニ保護ノ權利ヲ失フ者ナリ、規則アル戦争ニ於ケル敵手ハ、主權アル国家ノミナリ、

二百五十二章 第二、戦争ハ、兵器ノカヲ以テ之ヲ為サバルベカラズ、射遠ノ器ニ毒藥又ハ破壊スベキ化合藥ヲ用ヒテ敵ヲ苦シメ、又ハ野蠻ノ慘酷ノ法ヲ行フ如キ、総テ尋常ノ器械ヨリハ其他ノカヲ用フル者ハ何レモ戦争ノ權利ヨリ論ジテ之ヲ不仁ナリシテ禁制スルコトナリ、戰ノ單純ノ目的ハ、敵ヲ困ラセ、又弱ラセテ、彼ヲシテ我々望スル所ニ服從セシムルニアリ、然レドモ規則アル戦争ニ勢力アル習慣、追々成長シ、遂ニ戦争ニ用フル方法ト器械トニ制限ヲ置クニ至レリ、併シ正シキト、正シカラザルトノ區別ノ根原ハ、容易ニ解スベカラザル者アリ、毒藥及ビ或ル害毒アル化合藥ノ如キハ之ヲ禁止ストイヘドモ、烙丸、破裂彈、水雷火ノ如キハ之ヲ用フルコトヲ得、

二百五十三章 第三、戦争ハ少ナクモ或ル公正ナル要望ヲ公然表出スルノ根元ナリ、

此意味ヨリ言フトキハ戦争ハ公正ノ者ナリ、唯些細ナルコトヲ口実トスルノ戦、単ニ他国ニ克チ、土地ヲ奪ハントスルノ戦、又遊戯ニ出ヅル所ノ戦ハ、今日ノ道德ハ之ヲ誹難スルナリ、又戦争ノ位ト功果トニ界限ヲ施ス為メニ正理ノ要望ヨリシテ、起ル所ノ戦争アリ、此事ハ

殊ニ美妙ニ又公平ノ方法ヲ以テ之ヲ行ハザルベカラズ、欺詐ノ一方、即チ前ニ述ベタル所ノ二百四十六章詭計、伏兵、木砲ノ如キハ之ヲ罪ト為スベカラズ、然レドモ本来ノ詐偽ハ之ヲ禁ゼザルベカラズ、休戦ノ旗、會談ノ希望、降伏ノ申出ノ如キハ、信実ヲ以テ之ヲ取扱ヒ、一時敵対ヲ息メ、往来手形ヲ與ヘ、安全ノ道案内ヲ為シ、免許ヲ與ヘル等ハ之ヲ行ハザルベカラズ、間牒ハ戦時ニ於テハ、之ヲ行フコトヲ許ルス、然レドモ捕ヘラル、トキハ、戦争ノ已ムヲ得ザルヨリ死刑ニ処セラル、ナリ、間牒ノ行為ハ、道德上不法ノコトトハ認めザレドモ、其危険ノ者ナルヲ以テ刑死ヲ免カレザルナリ、

二百五十四章 直接ニ戦争ヲ為ス兩敵ノ外ニ、尚戦争ノ影響ヲ受クル所ノ他ノ国アリ、是ニ由リテ、戦争ノ權利、非戦者ノ權利ノ區別アリ、非戦者ハ兩敵国ノ双方ノ人民及ビ中立国ト其人民トナリ、

戦争ノトキ、戦者双方ノ人民ハ共ニ敵国又ハ其人民又ハ其同盟国ニ對シテ通商上ノ交際ハ之ヲ禁止スルコトナリ、故ニ此間ニ於テ、敵国ノ人民ト私ニ約束ヲ結ブコトハ訃報ノコトナリ、敵国ノ人民ノ財産ハ、没収サルベキ物トナル、然レドモ、国家ガ敵ノ人民ニ負ヘル負債ハ、破滅スルコト能ハズ、抵抗セザル者又ハ捕虜ノ生命ハ、之ヲ損壞スベカラズ、陸上ニアル個人ノ財産ノ如キモ、亦然リ、治平ノ用ニ供スル家屋、工藝ノ記念碑、學術ノ倉庫ノ如キハ一般ニ戦争ノ奪掠ヲ免ルベキ者トス、土地ノ奪略ハ、戦争ノ普通ノ目的ヲ達スルニ必要ナリトシ

テ之ヲ允許スルナリ、

二百五十五章 戦争ノ起ルトキ、必ズ其隣国ノ利益ニ干係ヲ生ズ、是ニ由リ其隣国ニ或ル權利ト義務トヲ生ズ、通常中立国ノ利益ハ習慣上ニ於テ之ヲ保護スルコトナレリ、大洋上ニ於テハ中立国ノ船ハ決して妨碍サル、コトナシ、タトヒ敵ノ財産又ハ其ミニストル又ハ兵器ヲ載タル者ニ於テモ亦然リ、然レドモ封鎖ヲ行ヒタルトキニ於テハ、其監査探索ノ權ハ其戦争ノ国ニ屬セリ、亦中立国ハ兩敵ノ間ニ立テ嚴ナル不偏不党ヲ守ラザルベカラズ、亦兩敵ガ其境域内ヲ、通行スルコトヲ許スベカラズ、又其領地内ニ於テ船舶ニ武器ヲ備ヘ、又ハ戦ヲ支度ヲ為シ、又ハ兵士ノ召募スルコトヲ許スベカラズ、又其港内ニ軍船ヲ停泊セシムベカラズ、又其廻哨船ガ港内ニ於テ、敵船ヲ捕獲スルコトヲ許スベカラズ、但シ、天氣ノ困難ニ逢フトキハ格別ナリ、其他スベテ中立国ノ土地ニ於テ逮捕ヲ行フハ不法ノコトナリ、以上ハ戦時ニ於テ、中立国ニ屬スル処ノ國際法ノ大要ナリ、

「修身學」解題

「修徳學」解題

「デー氏ノモラル」解題

「顛利參氏修身學」解題

「顛利參氏道徳學」解題

「修身學」「修徳學」は、八二七一―一九「道徳理學」に、「道徳理學」

「徳學綱要」と合綴されている。「デー氏ノモラル」「顛利參氏修身學」

は、八二七一―三〇「理學問答」のうちに、他の多くの断片的な資料とともに合綴されている。

「顛利參氏道徳學」は、八二七一―六七「埋尔愚道徳學 顛利參氏道

徳學」に「埋尔愚道徳學」と合綴されている。

これら五つの資料は、Henry Noble Day (一八〇八―一八九〇) の著

述である *The Science of Ethics: An Elementary System of Theoretical and Practical Morality* の部分訳である。原書は、一八七六年に初版が

刊行されており、一八八三年版もあるが、確認できた一八七六年版と西村翻訳に矛盾はない。

原書は、Preface の後に内容細目を掲げている。本文は、大きく

Introduction、Book I、Book II とかならっており、Book I は Theoretical

Morality、The Nature of Duty と題され、Book II は Practical Morality、

Duties and Rights と題されている。Book の内は、さらに区分を立てて

おり、Book I は下位区分を Chapter としている。Book II は、より細

かい区分をしており、Introduction を設けた後、二つの Division を立て、

第一の Division の下には Chapter、第二の Division には二つの Part を

立ててその下に Chapter を置き、第二の Division の下にはまた Chapter

だけとしている。ただし、最初に置かれた全体の Introduction も含めて、

全巻に三〇七の通し番号を付して項目を立て、各項目には、それぞれ内

容見出しが付いている。

西村は、「修身學」では、原書の Introduction の部分をすべて訳し、

「修徳學」では Book I の Chapter I から IV までを訳している。つまり

通し番号にして一から二十一までを訳している。

Book を篇、Chapter を解、通し番号を章と訳している。

「顛利參氏道徳學」では、Book II の第二の Division の Part III のす

べて、通し番号の百六十から二五五を訳している。Part は篇、Chapter に節の訳語を当てている。

「デー氏ノモラル」では、原書の通し番号の七九、八六、八八、八九、九〇を訳しており、これに続いて「婚姻ノ權利義務」の見出しのもとに、

一四四から二四八、一五四、一五五を訳している。

「顛利參氏修身學」では、通し番号一〇八、一〇九、一三四から一三

七の項目を訳している。

Henry Noble Day は、アメリカの哲学者であり、オハイオ州のウエス

タン・リザーブ・カレッジの神学教授をつとめ、後にオハイオ女子大学の学長となった。美学、論理学、心理学の著述を著しているが、一八六〇年代後半から一八八〇年代にかけて隆盛を極めた **Mental Philosophy** のテキストの代表的な著者として、ジョセフ・ハーブン、ローレンス・ヒコック、ジェームズ・マツコシらとならび挙げられる人物である。

## 徳學綱要

英国 木伽士低瓦 著  
オニガトステワート

日本 西村茂樹 譯

## 序論

### 第一解

理學ノ目的、及ヒ理學ヲ探究スルノ方法

○第一章 凡ソ理學ヲ以テ研究スベキ所ノ諸事、及ヒ我身ノ行為ヲ指導スル所ノ事実上ノ學問ハ、皆其起發セル事件ニ付テ、其既往ヲ觀察シテ将来ヲ推測シ、其事件ニ一定不變ノ順序<sup>オル</sup>アルコトヲ假定スルナリ、

○第二章 有形世界ノ現象ニ於テモ、無形、心灵ノ現象ニ於テモ、同シ情勢ニハ同シ結果アリテ之ニ結合ヘキノ理ナルカ吾儕今其理ヲ究メテ完全堅固ノ説ヲ立ント欲ス、凡ソ人事ノ行路ヲ整理スル所ノ法則<sup>ラ</sup>ハ極メテ微妙ニシテ見難キ者ナリ、然レドモ人事ノ或ル種類ヲ以テ之ヲ實驗ニ參觀スルトキハ、其人事ノ順序ニ於テ自然ニ一定ノ規則アルコトヲ尋ネ得ベシ、此順序ヲ以テ更ニ他ノ人事ニ比較スルトキハ一般ノ人事ノ惣則ヲ觀察スルコトヲ得ベキコトナリ、

○第三章 我等ガ造化ノ法則ヲ知ルハ、全ク觀察ト經驗トノ力ニ頼ル者ナリ、其故ハ人事ニ此ノ如キ順序アリテ毎ニ前後相結合ストイフコトハ、吾儕ノ推理論ノミヲ以テ預メ之ヲ論定スルコト能ハザル者ナレバナリ、吾儕ハ惟經驗ニ由リテ、此ノ如キ事件ニハ、必此ノ如キ事件ノ相伴ツテ

出ツルトイフコトヲ知ル、故ニ若シ一事起ル時ハ、預メ必ス他ノ事起リテ来ルコトヲ待ツ、然レドモ此ノ如キ知識ハ全ク実事オトヨリ之ヲ得ル者ニテ、実事ノ外ニ我知識ヲ及ボスコト能ハズ、

○第四章 凡ソ事件ノ引續キノ間ニハ確乎タル結合アルコト（是ヲ以テ全世界ノ順序ヲ必ス者）ヲ定ムルコト、吾儕ノ觀察スベキ現象ヲ志録スルコトト、其現象ヲ以テ一般ノ法則ニ適合セシムルコトトハ、理學ノ最モ肝要ナルコトナリ、此ノ如キ根元ノ真理ニ着目セルハ、理學者中ニ於テ勞尔德倍根ロールトベークンヲ始メトス、古代ノ人ハ惟理學ヲ以テ惟原因スノ學問ト為ス、是ニ由リ其冥想常度ヲ誤リ、人類ノ良能ノ及バサル所ノコトヲモ為サシメントスルニ至レリ、

○第五章 今マ自己ノ将来ノ行為ヲ調整スルノ見込ヲ以テ、起発セル事件ヲ觀察スルトキハ、理學者ノ至極ノ目的ト、浅慮ノ人ノ己レニ考案スルト、大ニ相異ナルコトナシ、唯我儕ハ無學ノ人ヨリモ許多ノ知識ヲ有セルコトナレバ、我等ノ思謀ヲ以テ事物ノ順序ニ適當セシメテ之ヲ確定シ、又我等ノ志謀ヲ仕遂ルガ為メニ、自然ノカト働トヲ用ヒテ己ノ學問ヲ助クルコトヲ得ルナリ、

○第六章 理學者ノ知識ハ我身ニ関セル事件ニ於テ、無學ノ人ト其品質ヲ異ニス、其異ナル所ハ種類カニ在ラズシテ階級グニ在リ、又之ヲ得ル所ノ方法マニ在リ、第一ニハ情勢ヤノ結合ニ巧術チヲ用フルコト、即チ經驗ケンニ由リテ、自然ノ結合ケンヲ發見ス、此結合ハ觀察ノミニテハ之

ヲ得ルコト能ハザル者ナリ、第二ニハ万物総体ノ自然ノ法則ヲ吟味スルコトト、之ヲ集合シテ其道理ヲ推究スルコトトニ由リテ、事件ノ順序ヲ踪迹シ得ベシ、此順序ハ惟事実ヲ觀察スルノミニテハ其得ル所甚タ不規則ナリ、此第二ニ記スル所ノ心ノ取扱ハ之ニ理學フノ名ヲ命ズルコトヲ得ル者ナリ、之ヲ理學ト為シテ論說スルノ目的ハ、如何ナル方法ヲ以テ之ヲ指引スベキカヲ説キ明スニ在ルノミナリ、

○第七章 単ニ觀察ノミニ因リテ了知セル自然ノ行勢コハ其界限ニ窮極アリテ、其境域ハ、吾等ノ五官ヲ以テ觀察セル、画一ナル現象ノ外ニ出ルコト能ハズ、此事ハ、造化ノ法則各一個毎ニ別々ニ働クトキ、及ビ種々ノ法則、同様ノ仕方ヲ以テ一ツニ結合スル時ニ生出スルナリ、然レドモ此ノ如ク種々ノ法則、一ツニ結合スル時ハ其成果ノ如キハ其結合ノ情勢ニ随ヒ、其場合毎ニ必ス差異アリ、而シテ其成果ヲ知ラントスルニハ預メ待チタル現象ハ何レノ法則ニ管係シ居ルカトイフコトヲ知り、又其成果ニ些少ノ変化ヲ生スルハ何ノ方法ニ由ル者カトイフコトヲ理會シ、而シテ後ニ其成果ヲ前言スルコトヲ得ルナリ、

○第八章 故ニ理學ノ第一歩ニ於テハ宇宙間ニ顯ハル、紛雜セル現象ノ簡單ニシテ且ツ一般ナル法則ヲ定ムルニ在リ、此法則ヲ會得シタル後ニ、其聚合セル現象ヨリ生スル結果ノコトニ論シ及ボスナリ、第一歩ニ於テハ、我等ノ研究ヲ分解テノ路上ニ行ヒ、第二歩ニ於テハ聚合テノ法ニ從フナリ、

○第九章 此ノ如キ理論ノ方法ハ（通例此法ヲ帰納法インダクティブト名ク）

勞尔徳倍根ノ時、実体上ニ此論法ヲ用ヒシヨリ、速ニ其歩ヲ進メタル者ナリ、倍根ノ著書ノ發行ハ、実ニ學問ノ歴史ニ於テ肝要ナル一時期ナリ、然レドモ此ノ如キ理学ノ研究法ノ改革ハ、獨倍根一人ノ功トノミ言フベカラズ、其故ハ倍根ノ見解ハ、固ヨリ同時ノ諸人ノ上ニ卓出セリト雖ドモ、其此ノ如キ見解ヲ得タルハ、彼ガ生活セル間ノ年時ニ起發セル情勢ト性質トノ助ヲ假ルコト少ナカラズ、蓋シ倍根ハ己ノ才學ヲ以テ、特ニ来ラントスル所ノ事件ヲ速ニシタルコトハ恐クハ疑ナキ所ナルベシ、

## 第二解

前ニ論シタル主義ヲ以テ、之ヲ人心ノ理學ニ応用スルコト、

○第十章 近々二百年以來ニ起レル理学ノ考究法ノ改革ハ、全ク有形体ノ物ノ考究ニノミ限レル者ニアラザレトモ、其他ノ學問ノ考究ニ至リテハ有形体ト同シ進歩ヲ為スコト能ハズ、心知道徳ノ兩理学ノ本義ニ至リテハ、猶可センシチ疑シムトイヘル教説ノ世ニ行ハレシヲ以テ之ヲ知ルベシ、然ルニ其後ニ至リ、帰納法ヲ以テ其疑フベキ題目ヲ融解シ以テ可疑ノ教説ヲ改正スルニ至レリ、

○第十一章 有形世界ノ知識ハ、吾等ノ觀察ニ由リテ得タル事ニ上ニ落着スルト同様ニ、人ノ心ノ知識モ亦吾輩ノ自覺コンシユニ由リテ得タル事ニ上ニ落着スルナリ、此ノ如キ事實ノ細心ノ經驗ヲ以テ、先ツ人身構造ノ一般ノ本義ヲ知り、後更ニ進ンデ、形体ノ學問ト判然殊別ナル人

心ノ學問ヲ造成スルナリ、此研究ノ法ニ付テハドクトルリード黎徳、許多ノ價値アル模範ヲ開示セリ、

○第十二章 今時ノ理學者ノ中ニ書ヲ著ハシテ、此ノ如キ、心ノ學ニ帰納法ヲ用ヒテ決定ヲ取ルノ説ヲ駁スル者アリ、其言フ所ヲ、往時牛ニユトシ董ガ重力ヲ説キシトキ之ヲ駁論セシ者ト恰モ相同ジ、曰ク此ノ如キ説ハ亞立斯度徳已ニ之ヲ言ヘリ、惟其言隱微ニシテ知り難キノミト、凡ソ吾等ノ理学ノ研究ハ、有形ト無形トニ関セズ、每一個ノ事實ト、一般ノ事實トノ關係ヲ知ルニ過ギズ、而シテ其最モ益ヲ得タル研究トイフハ、未タ前人ノ説キ出サバル所ノ天法ヲ發見シテ真理ヲ決斷スルニ在ルコトナリ、

## 第三解

人ノ知識、殊ニ人心ノ理學、及ヒ之ト結合セル諸學ノ進歩ノ遲緩

ノ原由

- 第十八章 此原由ト為ル主要ノ者ハ大約左ノ諸件是ナリ、
- (一) 思想ノ器械ト交際ノ中人ノ兩用ヲ為セル言辞ラングノ不完全
  - (二) 理学ノ適當ナル目的ノ謬誤、及ヒ理学ノ研究ヲ為ス方法ノ謬誤
  - (三) 各個ノ事實ヲ審ニ習學セズシテ、直チニ總体ノ主義ヲ把握セントスル癖性
  - (四) 事實ヲ尋着スルコトノ困難、人心ノ理学ト直チニ關係セル諸學ニ於テハ殊ニ然リ、
  - (五) 一生ノ大部ヲ無益ノ文學等ニ費消ス、

(六) 大名ヲ尊崇スルヨリ起リタル偏見アレチユ及ヒ其地限りノ教育ヨリ生シタル偏見

(七) 単一ノ意見或ハ奇怪ナル意見ヲ預メ好シト為ス、

(八) 界限ナキ疑惑ノ癖性

以上論スル所ノ趣意及ヒ其排列

○第一章 道德ノ理学ノ目的ハ我身ノ智ワイトト徳ユイチニ管セル一般ノ規則ヲ尋着スルニ在リ、此規則ハ自然ノ光輝ニ由リテ発見スル者ニテ、即チ人身ノ形氣ヒューマン、コンノ主義ト、人身ノ遭遇セル情勢トヲ考試エキサミネスルニ由リテ之ヲ得ル者ナリ、

○第二章 二章ニ言フ所ノ見込ヲ以テ、我等ノ形氣ノ主義ヲ考試スルトキハ、吾等ノ研究スル所ハ左ノ三件ト為ル、

- (一) 人類ノ知慧ノ力インテレクチュール、ペーワーノ研究
- (二) 活動ノ力及ヒ道德ノ力ノ研究

(三) 人類ヲ以テ国政ノ全体中ノ仲間トシテ研究スルコト

○第三章 以上三件ノ内、初メノ二件ハ、人類ノ性質ノ尋常ノ区分ニシテ、明悟アンダースタンドノカト、意思ウキノ力ヲ以テ之ヲ了解スルコトヲ得ル者ナリ、則チ極メテ上古ノ時ノ区分トスベク、又道德ノ理学ノ全体ヲ尽シタル(政治ノ仕組ノ效驗ヲ除キ) 区分トスベシ、然ルニ人類タル者ハ野蛮ノ民ノ外ハ、皆政治上ノ交際ヲ以テ相結合セラレザル者ナシ、此ノ如ク協同ノ

基礎ヲ立ルノ主義ハ吾等人類ノ形氣ノ、正実ニシテ且一般ナル主義ト定メタリ、此考試ナキ時ハ、世界ノ中ニ吾身ヲ置クベキ適當ノ意想ヲ得ルコト能ハズ、又我等ノ同シ人類ニ対シテ行フヘキ切要ナル職分ヲ知ルコト能ハズ、此第三件ノ目ハ、爰ニ今論スル所ノ外、更ニ最初ノ二件ト密ニ相結合ス、此結合ニ因リテ能ク人類ノ進歩及ヒ幸福ヲ為スノコトハ下文ニ於テ之ヲ記スベシ、

○第四章 快樂フレジト苦惱ペートノ二者ハ知覺アル動物ニ備ハリタル感ニシテ、上ノ三件ニ次ギテ之ヲ第四件ノ條目ト為スモ可ナルガ如シ、然ルニ此二感ハ特別ニ之ヲ記載セズシテ、上ニ論シタル三者ト合セテ一体ト為ストキハ、人心ノ理学ニ於テ却テ許多ノ便利ヲ與フル者ナリ、即チ智慧ノ主義、及ヒ道德ノ主義ニ際シ、快樂苦惱ノ起発セル情状ヲ注視シテ其主義ニ結合セシムルヲ以テ最モ宜シトスベキコトナリ、

#### 第一篇

人ノ知慧ノ力インテレクチュール、ボーワール、オフ、メン

人ノ知慧ノ力ノ主要ナル者ヲ算スルトキハ左ノ如シ

- (一) 自覺コンシユ
- (二) 外物ヲ認識スルノ力パワース、オフ、エキスマルナル、ベルセブション
- (三) 注意アンテンション
- (四) 了識コンセンサ
- (五) 選抜アフストラククション
- (六) 意想ノ交親アワツシキエクション、オフ、アイチアス
- (七) 記憶メモリー
- (八) 想像イマジネーション
- (九) 判断及ヒ推理ノ力パワース、オフ、ジュージメ、アント、アンド、リレーニング

○第五章 爰ニ記セル人知ノ良能ハ、多少高下ノ階級アレドモ、要スル  
ニ人類タル者ノ共ニ所有セル所ナリ、此外ニ又混淆セル心ノ力、即チ心  
ノ幹能アリテ、学問或ハ事務ノ習熟ニ因リテ漸々ニ其形ヲ成スコトヲ得  
ルナリ、即チ味道テイノ力、詩ノ巧才、画ノ巧才、音楽ノ巧、算術ノ巧、及  
ヒ生涯百般ノ行事ノ習熟ニ由リテ得タル所ノ心知ノ才皆是ナリ、此ノ如  
キ集合錯雜セル心知ノ力ヲ把リ、之ヲ分解シテ、吾天質ノ簡單ニシテ、  
且ツ概括セル本義ニ配合セシムルコトハ、理學ノ詮議ニ於テ、最切要ナ  
ル論題ナリ、

○第六章 我形氣ノ此一枝心知ヲニハ又更ニ又副加セル良能ト副加セル主  
義アリ、此良能ト主義トハ吾等ノ智慧ノ改進ニ就テ甚切要ナル者ニシテ  
之ト甚密ニ相结合セル者ナリ、殊ニ氣候ナル表示ヲ以テ吾等ノ思想ノ分  
配スルノ良能、及ビ倣ニセル似サスルコトノ主義等是ナリ、

### 第一解

#### 自覚コンシユ スナス

○第七章 自覚トハ、我心ノ感覺或ハ思想ニ付テ、直チニ頭ハル、所ノ  
知識ニシテ、即チ概シテ之ヲ言ヘバ、心ノ現在ノ働ト共ニ生スル所ノ知  
識ナリ、

○第八章 現在ノ心ノ働ノ中ニ於テ、自覚ハ殊ニ分離セザルノ伴侶ナリ、  
○第九章 自覚ノ知ノ信スベキコトハ、古来ヨリ之ニ抵抗スルノ説アル  
コトヲ見ズニテ、此証據ニ付テハ未タ疑問ヲ起セシ者ナケレバナリ、而

シテ自覚アルコト証據ハ、其他ノ信スベキ証據ト同ジク、吾身体ノ構造  
ヲ以テ根基トシテ之ヲ論定セル者ナリ、

○第十章 吾等ハ吾身ノ自己ノ現存ヲ自覚スルトハ言ハズ、其故ハ時ノ  
順序ヲ以テ言フトキハ、現存セルトイフ実事ヲ知ル所ノ知識ハ、此感覺  
ヲ得ル所ノ自覚ニ後ル、者ナレバナリ、

○第十一章 自覚ト記憶トヨリシテ意思イシナル者ヲ造成ス、而シテ其意  
思ナル者ハ、人類ハ同一ナリトイヘル証拠ヲ以テ吾身ニ印記スル者ナリ、

### 第二解

#### 外物ヲ認識ベルセフシヨスルノ力ヲ論ス、

### 第一節

吾等ノ種々ノ官ヲ以テ認識スルノ法則

○第十二章 我等ノ外物ト相接スルノ官ハ其數五アリ、此數ハ精密ナル  
理學者モ亦之ニ同スル所ナリ、然ルニ或ル著論家ハ五官ヲ以テ、一ノ感覺  
リフイニ出ルト為シテ、五官ノ稱ヲ廢セントスル者アリ、然レドモ此説ハ開  
化ニ過ギタルノ論ニシテ、之ヲ以テ研究ノ主題ト為サントスルノ意思ヲ  
生セザルナリ、

○第十三章 吾等ノ五官ノ内ニ於テ其二官、即チ觸ト味トハ、外物ト我  
身ノ機関ト相接セザレバ之ヲ生スルコト能ハズ、其他ノ三官ハ、中間ニ  
在ル物ノ助ニ由リテ我身ニ離隔スル物ヲ知ルコトヲ得ルナリ、

○第十四章 外物ヲ知ルコトノ方法ニ就テ、精密ナル思考イシヲ造成セン

トスルニハ、二種ノ語ヲ用フルヲ以テ切要ノコトト為スベシ、其語ハ一  
ヲ知覚シヨントト云ヒ、一ヲ認識ヘルセラト云フ、知覚トハ外物ノ五官ノ機関上ニ  
印記スルヨリシテ、心ノ有様ニ動キ変態ヲ生ズルコトナリ、(此動キハ、  
外物ノ知識ヲ假ラズシテ、心ノ中ニ自覚スル物ナリ) 認識トハ、吾等ノ  
知覚ノ助ニ由リテ、外物ノ性質ヲ知ル所ノ知識ヲ云フ、此二語ヲ區別ナ  
ク用フル時ハ、理学ノ考究ニ大ニ混乱ヲ生ズベシ、

#### 嗅味聴

○第十五章 嗅ト味ト聴トニ由リテ得ル所ノ物ノ状態リチイハ唯之ヲ称シ  
テ或ル知覚シヨントノ原因スト為スベシ、故ニ此性質ニハ第二ノ状態セカンドリイ  
ノ名ヲ命ズルナリ、此第二ノ状態ト相結合セル知覚ニ由リテ、直チニ物  
ノ性質ナチュヲ知ルコトヲ得ベシ、此知覚ハ大サト形トヲ有スル者ナリ、  
理学者之ニ名クルニ物ノ第一ノ状態ファイマリイヲ以テスルナリ、

○第十六章 觸ト視トノ二官ヲ除キテ之ヲ見ルトキハ、嗅味聴ノ三官ニ  
テハ外物ヲ明カニ知ルコト能ハザル者ナリ、

○第十七章 然レドモ此三官ノ内ハ何レノ官モ、我心ニ物ノ數、時、原  
因、成立、人類ノ同一、及ヒ其他ノ諸事ノ簡單ナル意思ヲ與フルコトヲ  
得ル者ナリ、

#### 觸

○第十八章 觸ノ知覚ハ吾身体ノ外面ノ全部ニ廣ガル者ナレトモ、其中  
殊ニ手ハ此知覚ヲ得ル為メニ、格別ニ適當セル所ノ者ナリ、故ニ皮膚ノ

上ニ施ス所ノ壓ニ由リテ、一分ハ解體術上ノ結構ヲ知り、一分ハ更ニ密  
ナル注意ニ由リテ、夫ヨリ精細ナル知覚ヲ得ルナリ、

○第十九章 觸ノ官ニ由リ物ノ状態ヲ二様ニ知ルコトヲ得、一ヲ第一ノ  
状態ト云ヒ、一ヲ第二ノ状態ヲ云フ、此ノ如キニ様アレドモ、又此ニ様  
ニ通ゼル一定ノ模様アリ、是ハ觸ノ官ニ由リテ、物ノ現在シ居ルコトヲ  
知ルノミナラズ、又外物ニ觸ル、所ノ身体ノ各部ニ由リテ其知覚ヲ異ニ  
スルコト、是ナリ、又一種特別ノ知覚ニシテ他ノ觸ノ知覚ト相似ザル者  
アリ、即チ熱、痒、痛等ノ如キ是ナリ、是等ノ諸感ハ其一所ヲ限リタル  
部分ノ奮勵ノヨリ生ズル者ナレバ、亦之ヲ以テ觸ノ官ノ中ニ算入スルコト  
トセリ、

○第二十章 手ハ觸ノ感ニ付テ二種ノ注目スベキコトアリ、其一ハ物体  
ノ性質ト有形界ノ法則トヲ經驗スルノ知覚アリ、若シ手ノ觸官ヲ闕クト  
キハ、其他ノ四官ノミニテ、物ノ性質ト法則トヲ精密ニ知ルコト能ハザ  
ルベシ、其二ハ技藝ノ熟練ナリ、凡ソ手ノ熟練ヨリ生ズル所ノ利益ハ甚  
大ナル者ニテ、奇異ノ考案ヲ為セル理学者ハ人類ノ知慧ノ禽獸ニ勝レタ  
ル所以ハ全ク手藝ノ巧アルニ由ルト言フニ至レリ、

○第二十一章 手藝ノ巧妙ニ至ルコトヲ得ルノ機関ハ、人類ノ尋常ノ形  
體ニ就テ造物者ノ意思ヲ觀察スルコトヲ得ベキ者ニシテ、明カニ人類ヲ  
以テ四足獸ノ中ニ列セントスル理論ヲ破ルニ足ルベキ者ナリ、

#### 視

○第二十二章 凡ソ視トイフハ、諸物ノ衆点ヨリ許多ノ光線ノ光ヲ出シ、眼液ノ屈折スル力ニ由リテ其物ノ影ヲ眼ノ網膜ニ印スルコトニテ、其理ヲ説クハ固ヨリ視学ノ範圍内ノコトナリ、然レドモ此視ノ題旨ニ付テ、人心ノ理学ト密ニ相結合スル者アリテ、視学者此理ヲ以テ自己ノ学問ノ通常ノ本義ヲ説カントスレドモ遂ニ無益ニ帰スルコトナリ、其事ハ即チ視ノ法則ノ最モ簡單ニシテ且ツ普通ナルコトノ考問クエスチオン是ナリ、其法則トイフハ、視学者ガ已ガ推論ノ基礎ト定ムル所ノ者ファクト是ナリ、其法則ト視学者ガ解説上ニ生ズル所ノ困難デヒニルトイフ者ニハ非ルナリ、

○第二十三章 視トイヘル現象ノ中ニ於テ、人心ノ理学ト最相密合シテ又最モ大切ナル者アリ、其事ハ即チ本来ノ視ノ認識オリジナル、ベルセブトシヨシ、オフ、サイトト得着ノ視ノ認識アコイハド、ベルセブトシヨシ、オフ、サイトトノ區別ノ上ニ在リ、未タ經驗ヲモ為サザル以前ニ、先ツ視ノ官ニ由リテ得ル所ハ、物ノ大小、形体、及ヒ種々ノ色彩、光澤等ナリ、然レドモ之ニ次ギテ、視ノ認識ト觸ノ認識トヲ比較シ、物ノ外面ヨリ見ルベキ状貌ト、之ニ一致セル眼ノ感ト合スル時ハ、直チニ其物ノ觸ルベキ兆表サイント、視ノ官ヨリ離レタル距離ノ兆表ト為ルナリ、或ル場合ニ於テハ、吾等ノ判断トイフ者ハ此二個ノ模様オリシナルト得着ノ結合ノ状ニ由リテ之ヲ得ルナリ、然レドモ人智ノ敏ナルヲ以テ其認識スルコト甚峻速ニシテ間ニ髪ヲ容ルハコト能ハズ、

○第二十四章 視ノ認識ニ本来ト得着トノ區別ヲ立ルコトハ、是ニ由リテ能ク視ヨリ生ズル異常ノ現象ヲ説クコトヲ得シムル者ナリ、此事ハ実

体ヲ主義トセル視学者ハ屢困逼ヲ生ズルコトナリ、然レドモ道德理学ノ學士ハ却テ之ヲ以テ要切ノ事ナリトシ、殊ニ智慧ノ進行ノ為メニ明瞭ナル試験ヲ與フル者トナス、其智慧ノ進行ハ、記憶ノ中ニハ痕迹ヲ留メザル者ナリ、

○第二十五章 此他、視ノ官ニ付テハ要用ノ訊問アリテ、心ノ理学ト密ニ相結合シ、又造物者ガ定メタル視官ノ界限リ考究スル為メニ、便利ヲ得シムルコトナリ、其一ハ網膜ニ於テ轉倒ノ影ヲ寫スニ由リテ、物ヲ正直ニ視ルコトヲ得ルナリ、其二ハ二個ノ眼ヲ以テ單一物ヲ視ルコトナリ、

○第二十六章 視ノ官ニ由リテ認ムル所ノ物ノ状態ハ、第一ト第二トノ二類アリ、物ノ大小ト形体トハ第一種ニ属シ、物ノ色ト諸種ノ光輝トハ第二種ニ属スル者ナリ、

○第二十七章 上文論スル所ニ由リテ之ヲ考フルトキハ我等ノ動物体ノ構造ハ、吾等ノ智慧ノ良能ト相協同シアルト云フコトヲ知ルベシ、是ニ由リ更ニ問考スルトキハ下文ノ條件ヲ推究シ出スニ至ルベシ、

(一) 吾等ノ知覚ノ機關ヲ以テ、所ヲ限りテ体中ニ分配スルコト

(二) 吾等ノ認識ノ力ハ、実物界ノ性質ト法則トニ適合シ居ルコト

(三) 人類ノ構造及ヒ強力ハ、吾身ノ居住セル行星ノ実体上ノ安排アラシメント相管係シ居ルコト、

(四) 人ノ性質ハ風土ノ異ナルニ從ヒテ變化スルコト

## 第二節

### 認識ノ総説

○第二十八章 吾等ノ會得<sup>イシ</sup>ハ体ヲ認識スルモ、心ヲ認識スルモ、共ニ他ニ相管係屬スル者ナリ、即チ体ヲ認識スルハ、只吾等ノ五官ニテ受取リタル性相ニテ之ヲ得、心ヲ認識スルハ、自覺ノ働ニ由リテ之ヲ得ル者ナリ、

○第二十九章 体ノ性相ト心ノ働ト固ヨリ相同シキ者ニ非ザレバ、吾等ハ此二者ヲ以テ全ク別知識ノ物ト考フルナリ、然ルトキハ、二者ノ如キハ格別ノ方法ヲ以テ之ヲ学ヒ知ラサルベカラズ、一ハ吾自覺ノ働キ、注意シテ之ヲ知り、一ハ吾等ノ認識セル外物ニ注意シテ之ヲ知ルベキコトナリ、此事ハ決シテ空論ニ非ズシテ、確タル実事ナリ、即チ其事ハ吾等ノ体ト心トヲ會得ノ中ニ包含シテ、能ク実事ヲ造成スルニ堪當セル者ナリ、

○三十章 然レトモ、認識ノ現象ト、<sup>ボリユンタリイ</sup>自好ノ運動トヨリシテ、体ト心トノ間ニ親密ナル結合アルコトヲ看出セリ、此結合ノコトニ付キテハ、是ヲ鮮明センガ為メニ種々ノ理論アリ、此理論ハ多クハ吾等ガ性能ノ達スルコト能ハザルノ高点ニ在リ、故ニ此事ニ付キテハ、吾等ハ只其結合ノヨク整理セル法則ヲ知ルノミニテ、其他ノ諸事ヲ決定スルコトハ、吾等ノ力ノ能ク及ブ所ニ非ルナリ、

○三十一章 前章(第十五章)ニ於テ、物ノ第一ノ性相、第二ノ性相トイヘル區別テ之ヲ論シタリシガ、此第二ノ性相トイフ者ハ全ク係屬ノ者ナリ、此者ハ、吾等ノ知覺ノ力ヲ以テ、或ル物ノ成立シ居ルトイフコトハ知ルコトヲ得ベケレドモ、其物ノ生スル原因ハ知ルコト能ハザル者ナリ、此物ノ原因ヲ知ラント欲セバ、理学ノ考究ニ由ラザレバ之ヲ知ルコト能ハズ、第二ノ性相トイヘル名ハ、何レノ国語ニ於テモ兩意ヲ含メル語ニテ、知覺ヲ表スル義ナレドモ、又其知覺ヲ引起ス原因ヲ知ルコト能ハズトイヘル義ヲモ含有セルナリ、彼カルテシヤンノ理学ノ奇説ニ、天下ニハ、全ク、熱、冷、香、音、色、トイフ物ハ無キ者ナリトイヘルハ、蓋シ是等ニ源スルナリ、

「徳學綱要」 解題

「徳學綱要」は、八二七—一九「道徳理學」に「道徳理學」「修身學」「修徳學第一編」と合綴されている。

「徳學綱要」は、Dugald Stewart(一七五二—一八二八)の著述である *Outlines of moral philosophy. For the use of students in the University of Edinburgh.* の部分訳である。本書の初版は、一七九三年に出版されているが、確認出来たのは一八〇一年出版の第二版である。西村が依拠したのも、おそらく第二版であろう。

本書の本文の構成は、Introduction と Subject and Arrangement of This Treaties を置いた後、本論が Part I と Part II の二部門からなる。Introduction ' Subject and Arrangement of This Treaties ' 二つの Part それぞれの下位に Section を置いている。ただし、Part II は、二つの Chapter に分節したその下位に Section を置き、その Section の下位に Article という分節を置いている。また、Introduction と Subject and Arrangement of This Treaties ' Part I と Part II は、小区分かれて番号が付されている。

Introduction は序論、Part は篇、Section は解、小区分は章と訳されている。西村が翻訳したのは、Introduction から Part I の Section II の中途の小区分三二まで、本文の三二二頁である。

Dugald Stewart は、イギリスの哲學者、数学者であり、エジンバラ大

学教授をとつとめ、いわゆるスコットランド啓蒙主義を体系化したとされる。彼は、Thomas Reid の教え子であり、正統的な後継者とみなされているが、リードの使った常識 Common sense は、哲学の問題を通俗的な判断によって解決するかのような印象を与え、その代わりに、人間の信念の基本法則、すなわち人間理性の主要な要素 the fundamental laws of human belief, or the primary elements of human reason を使うことを提唱した。彼によって、スコットランド啓蒙主義は新たな展開を遂げたとされる。著書には、*Elements of the Philosophy of the Human Mind* (第一巻一八二二年、第二巻一八二四年、第三巻一八二七年) などがある。

## 総論

米國 裏希斯克 著

第一篇 知識ノ關係セ、リレーチウ、  
テ、ノウレチ

○余儕今、金類木類ノ立方ノ塊ヲ取り、其物ノ諸部ヲ觀ルトキハ我等ノ知覺ニ於テ其金木ノ塊、十分ニ堅美ナルヲ見ルナリ、余儕視覺觸覺ヲ以テ之ヲ認識スルニ、其塊ニ些少ノ破裂ナキトキハ、其塊ノ分子ハ尽ク相密着スルト想像セザルコトヲ得ズ、然レドモ若シ此意見ヲ分解シテ見ルトキハ、吾儕ヲシテ明白ナル不條理ノ中ニ陥ラシムルコトヲ免カレズ、グラビテ、  
テ、シ、常ニ其分子ヲ引縮シテ益々密結セシメ、又破壞力デス、  
チ、  
ホ、  
ス、即チ温力セル、  
アル、リテ常ニ分子ヲ分開セントスル者ナリト假定セシム、余儕ハ是ニ依リ、ニ、  
ト、牛董ノ見ルガ如ク、凡ソ固体ノ分子ハ常ニ全ク相粘結セル者ニ非ズシテ、其分子ノ有セルカヲ以テ、或ハ牽引シ、或ハ抗拒スル者ニシテ、其力ノ強弱ハ分子ノ間ノ距離ト反比例ヲ為ス者ナリ、

○然ルトキハ此假定ノ分子ノ構造ハイカナル物ナルヤ、之ヲ分解スベキ物ナルカ、分解スベカラザル物ナルカ、若シ分解スベキ物ナラバ、其已ニ分チタル分子ニ付キテ更ニ言フベキコトアルカ、此分チタル分子ハ再ヒ之ヲ分解シ、此ノ如クシテ何クマデモ分解スルコトヲ得ベキカ、若シ之ヲ然リト言ハバ、重複セル難解ノ項ニ出逢フナルベシ、其故ハ、一方

凡ソ物ノ諸部ハ皆壓迫シ得ベキ者ナリ、即チ従前ノ形体ヨリハ更ニ小ナル空間ヲ領セシムルコトヲ得ベキ者ナリ、而シテ此壓迫トイフコトハ物体内ノ分子ヲ更ニ近接セシムルコトナレバ、分子ト分子トノ間ニハ必ス幾何ノ空間ニ存スルトイフコトハ理ノ当ニ然ルベキコトナリ、故ニ物体ノ分子ノ相聚合スルトイフハ、分子ノ直接ニ相觸ル、ニ非ズシテ、其間、空虚ノ地アリテ分子ヲ隔離スル者ナリトイフコトヲ之ノ允許セザルベカラズ、

○然レドモ此假定説ニ付キテハ、余ハ再ヒ勝ツベカラザルノ困難ニ遭遇セザルコトヲ得ズ、余儕ノ經驗ニ據ルニ、凡ソ物体ハ、凝聚力コ、  
ヘ、  
シ、即チ重力ニ於テハ考察ノカヲ以テ、實際ナク其分子ヲ分解シ得ベシトイフコトヲ理會スルコト能ハズ、心中ニ此ノ如キ分解ノコトヲ現出セントスルニハ實際ナキ固數ヲ要セザルベカラズ、又一方ニ於テハ、物質ノ形体ハ固結セル物ナリト思ヒシ分子ガ、今之ヲ分解シ得ベキ物ナリト允許スルトキハ、吾儕ハ其門口ニ於テ抵拒ノ困難ヲ免カル、コト能ハザルベシ、其故ハ、此ノ如キ分子モシ実ニ分解スルコトヲ得バ、其分解シタル分子ハ初メニ示シタル金木ノ塊ト同一ナル形体ノ物ナルベシ、惟其形ノ彼ヨリ小ナルノミナリ、此分子ノ分子ハ、前ニモ言タルガ如ク、直チニ相密接スル者ニ非ズ、然ルトキハ此分子ハ直チニ相觸レザル所ノ分子相聚マリ、相互ニ牽引ノ抗拒トノカヲ起シ、以テ其形ヲ成セル者ニシテ、其力ノ強

弱ハ、其分子ト分子トノ距離ト反比例ヲ為スナリト、然ルトキハ此分子ノ分子ニ付キテ再ヒ左ノ問ヲ發シ、此微分子ハ分解スベキカ力分解スベカラザル物カトイフベシ、此ノ如ク分解スルニ伴ヒ、漸ク其問ヲ發シテ究極スル所ナカルベシ、

○以上ハ、物質ヲ聚合セル微分子を以テ分解スベカラザル物ト為ストキニ生スル困難ナリ、然レハ今微分子ヲ以テ分解スベカラザル物ト為スベシ、然ルトキハ此臆説ハ、化学ト經驗ト能ク相適合スルコトヲ得ベシ、然レドモ全ク分解スベカラザル微分子アルトイフコトハ、人智ヲ以テ之ヲ理會スルコト能ハザルナリ、若シ然ルトキハ、此ノ如キ微分子ハ、其上面下面右側左側ヲ有セザルベカラズ、若シ其微分子四形ナルトキハ、或ル面積ヲ覆フ所ノ周圍ナカルベカラズ、然ルトキ、吾儕智力ヲ費シテ、其存在ノ兩側面ト甚タ相近クシテ其間ニ破碎ヲ加フルノ平面ナキコトヲ想像シ得カラズ、又其円形ハ太タ微細ニシテ之ヲ兩半球ニ分チ能ハザル者ナルコトヲ想像シ得ヘカラズ、又此微分子ノ凝聚力ハ甚タ強クシテ、更ニ強大ナル破裂力ヲ用フルモ之ヲ破ルコト能ハストイフコトヲ想像シ得ヘカラズ、

○余儕今物質ノ一ノ分子ハ牽引抗拒ノ二力ニ由リテ其隣接ノ分子ノ上ニ働ヲ為ストイフコトヲ熟考スルトキハ、亦迷惑ヲ生セザルヲ得ズ、学士斯辺撒日ヘルコトアリ、凡ソ物<sup>ニ</sup>牽引ト抗拒トノカヲ表現スル者トシテ考フルヨリ外ニ理會スベキコトナシ、体<sup>ニ</sup>ハ、吾等ノ筋力ニ反抗ス

ルニ由リテ、空間トハ異レリトイフコトヲ自識スルナリ、此反抗ハ、物ノ凝聚力ナルコトヲ感ズルニ二様ノ状ヲ示ス、其一ハ之ヲ破碎セントスルノカヲ妨グ、其二ハ壓迫セントスルカヲ妨クル所ノ抵抗是ナリ、此抵抗ナキトキハ、唯世界ハ空虚ナル廣袤アルノミナリ、而シテ凝聚力ナキトキハ、抵抗トイフ者アルコトナシ、故ニ、凡ソ物体ハ、相互ニ或ハ牽引シ或ハ抗拒スル所ノ分子ヲ以テ成ル者ナリト考ヘザルコトヲ得ズ、吾等カ物体ニ付キテ經驗スル所ハ実ニ此ノ如キニ過ギズ、此ノ如ク言語上ニテハ、壓迫ト引張トノ二力ハ何レノ所ニモ常ニ並ビ存スト言ヘドモ、実ニ、一ハ他ヲ引キ一ハ他ヲ拒ク所ノ物質ノ最後ノ微分子ヲ現出シテ之ヲ人ニ示スコト能ハザルナリ、此説ハ、吾等ガ空間ニテ界斷セラレタル分子ノ或ハ牽引シ抗拒スルトイフ假説を攪乱スル者ニ非ズ、其故ハ此假説ハ、一ノ分子ハ全ク空虚ナル空間ヲ通過シテ他ノ分子ノ上ニ其力ヲ及ボストイフコトヲ理會セシムル者ナレバナリ、問、吾儕ノ智<sup>ハ</sup>此ノ如キ働ヲ理會スルニ至ラザルガ、如何シテ此困難ヲ通ル、コトヲ得ルヤ、格物学者ガ常ニ言フ如ク、分子ト分子トノ間ニハ至極微細ナル流動物、即チ秤ルヘカラザルノ精氣アリテ之ニ充ツル説ヲ採ラザルベカラザルガ、余儕ハ直チニ此問題ハ他ニ轉換セルヲ見ルナリ、今若シ此假定セル流動物ノ事ニ付キテ考究ヲ為ストキハ、亦前ノ微分子ノ考案ト同様ニシテ、更ニ夫ヨリ精切ナル考案ヲ得ルコト能ハザルベシ、其故ハ余儕此流動物ニ付キテモ、ヤハリ物質ノ極ニ微細ナル物トシテ考フル

ヨリ他ニ考案スベキ事ナケレバナリ、此流動物ハ余儕ハ固ヨリ其重量ヲ認識スルコト能ハザレドモ、極ニ微細ナル緻密ヲ具ヘタル物ト考ヘザルコトヲ得ズ、即チ流動物ノ極微分子ハ、何レモ其間ニ空虚ノ地ヲ隔テ相接合シ、其分子ト空虚トノ比例ヲ較スレバ所謂秤ルベキ物質ノ分子ト空虚トヨリハ其空隙ノ更ニ大ナルコトト考ヘサルコトヲ得ザルナリ、此精氣ニ付キテ深く考案スルトキハ、前ノ物質ニ付キテノ考案ト同ジク左ノ疑問ヲ発セザルコトヲ得ズ、問、精氣ノ微分子ハ、全ク真空ナル空虚ノ地ヲ通貫シテ接合スル者ナルカ、真空ノ地ニ於テハ如何シテ或ル物ハ其働ヲ為スコトヲ得ルヤ、運動ヲ起スベキ方法ナキ所ニ於テ如何シテ其微分子ハ運動ヲ為スヤ、此疑問ニ対シテハ竟ニ明白ナル返答ヲ為スコト能ハサルナリ、

○故ニ困難ノ稜角ハ何シヲ握ルト雖ドモ、為メニ刺突セラル、コトハ慥ナリ、吾儕ハ物質ハ十分ニ堅固ナル物ナリト言フモ、全ク気孔状ノ物ナリト言フモ、共ニ分解スヘカラス、逃避スヘカラサルノ疑問ニ出合ハザルコトヲ得ザルナリ、

○余儕今此宇宙ヲ構成スル物質ノ極端ヲ論スルトキハ、其明白ナラザルコト上ニ言フガ如シ、眼ヲ轉ジテ、又宇宙ノ由テ成ル所ノ根原ヲ考究スルトキニ其闇黒ニシテ理會スベカラザルコト亦之ト同ジキ者アリ、凡ソ宇宙ノ根原ニ付キテハ三種ノ臆説アリテ言語上ヨリミレハ皆精切ナルガ如キ者ナリ、其一ハ不信神教者アタイノ説ニシテ宇宙ハ自己ニ成立セル者

セルフ、エキシスチンツト言フ者ナリ、其二ハ万有神教者バンテノ説ニシテ宇宙ハ自己ニ創造スセルフ、クト言フ者ナリ、其三ハ信神教者ニライノ説ニシテ宇宙ハ外ニ在ル勢力ニ依リテ創造セラレリトエキステルナル此三個ノ表言ヲ以テ、孰カ真理ナリト考究スルコト能ハザレトモ、孰カ理會スベキ者ナルヤトイヘル見込ヲ以テ之ヲ考究セント欲ス、

○吾儕哲学ノ法ニ依リテ、先ツ自己ニ成立セルトイヘル不信神教ノ説ヲ以テ、果シテ真理ニ合ヘルカ否トイフコトヲ考フルトキハ、或ル度ニ於テ此説ハ理會スベカラザルノ者トナルナリ、吾儕先ツ、「自己ニ成立ス」トイヘル熟語ニ付キテ明白ノ理會ヲ為スコト能ハズ、其故ハ自己ニ成立ストイヘバ、外ニ成立スル者アリテ其者ニ從属スルニ非ズトイフコトハ明白ナリ、即チ或ル原因ニ由リテ定マル者ニ非ズ、又之ト約束スル者ニ非ザルナリ、自己成立ノ見ヲ支持スルトキハ、原因カウゼトイフコトヲ否拒セザルヘカラス、已ニ原因ヲ否拒スルトキハ又最初ユルグントイフコトヲモ否拒セザルベカラズ、物ノ成立スルハ必ス成立シ初ムルノ時アリ、モシ之アリトスルトキハ、其最初トイフ者ハ或ル原因ニ由リテ起リタル者ナルベシ、此説果シテ理ニ當ルトキハ、自己成立ノ臆説ト全ク反対スル者ナリ、故ニ若シ自己成立ノ説ヲ理會セントスルニハ、無限ナル過去ニ在リテ現在セル物アリトイフコトヲ理會セサルヘカラス、然レドモ此ノ如キコトハ、全ク吾儕ノ智力ノ外ニ在ル者ナリ、

○自己ニ創造ストイヘル万有神教者ノ説モ亦同シク理會スベカラザル者

トナルナリ、此説ハ自己成立ノ説ト同ジク、共ニ、外<sup>○</sup>。辺<sup>○</sup>。ニ<sup>○</sup>。決<sup>○</sup>。定<sup>○</sup>。ノ<sup>○</sup>。原因<sup>○</sup>。ア  
ルトイフ想念ヲ除却シタル者ナリ、若シ宇宙進行ノ順序、無成立又ハ  
勢力<sup>ポテンシャル</sup>ノ成立<sup>勢力ミアリテ、秀基形ナキモノ</sup>ヨリシテ、現実ノ成立ニ赴クニ、外面ノ原因ニ由リテ  
定マルトイフトキハ、之ヲ以テ自己創造トハ言フベカラズ、然レドモ此  
成立ハ、年久シキ間、或ル形体ニテアリシヲ、突然ニ現今ノ形体ヲ成セ  
リトイフトキハ、此ノ如キ変化ハ原因ナキノ変化イフベシ、然ルトキ  
ハ是亦理會スベカラザルノ説ナリ、

○信神教者ノ説ニ就キテハ、吾儕強テ之ヲ以テ考案ノ資助トセント欲ス  
ト雖ドモ是又前ノ二者ト同ジク理會シ難キ説ナルコトヲ免カレズ、其一  
ハ無物ヨリ有物ヲ創造スルトイフコトハ、全ク吾等ノ思想ノ上ニ現ハレ  
難キノコトナリ、其二ハ、果シテ、在外ノ大勢力ニ由リテ無物ヨリ宇宙  
ヲ造成ストスルトキハ、其大勢力ナル者ハ何処ヨリ来レル者ナルヤ、吾  
儕ハ更ニ其他ニ在外ノ原因アリト言ハザルコトヲ得ズ、此ノ如クシテ  
段々ニ在外ノ原因ヲ蹤迹シテ極マル所ナシ、而シテ其最極端ニ在ル原因  
ハ自己ニ成立スト言ハザルコトヲ得ズ、然ルトキハ忽チ最初ニ言ヘル不  
信神教者ノ受タル者ト同一ノ困難ニ逢フコトヲ免カレズ、其故ハ学士  
紐<sup>ニューマン</sup>曼<sup>マン</sup>ハ謂ヘリ、原因ナクシテ永遠ニ存在セル所ノ上帝ハ、原因ナク  
シテ永遠ニ存在セル所ノ世界ト同一ニ全ク理會スベカラザル者ナリ、  
上ノ三説ノ中ニ於テ孰カ最モ真理ニ近キ者ナルカ、現今ハ吾等ノ干係セ  
ザル所ナリ、余儕是ニ付キ何事ヲ注目スベキカ、此諸説ノ真理ヲ確定ス

ルコトハ吾等人類ノ智力ノ及バザル所ナリ、不信神教、万有神教、信神  
教ノ三説ハ其外面ハ大ニ異ナルガ如ク見エレドモ、其本ハ何レモ同一ノ  
根元ノ假定説ヨリ出タル者ナリ、其説ニ緩急ノ別ハアレドモ、何レモ一  
度ハ、原因ナク最初ナキ存在トイフコトヲ言ハザルコトヲ得ズ、此ノ如  
キ意見ハ竟ニ理會スベカラザル者ナリ、

○此ノ如キコトヲ理會スルハ固ヨリ能ハザルコトナレドモ、若シ此問題  
ニ理論ヲ付スルコトヲ廢セザルトキハ、此根元ノ假定説ハ亦取ラザルヘ  
カラザル者ノ一ナリ、其故ハ或ハ太元<sup>ホカウズ</sup>カ<sup>カウズ</sup>トイヘル考案ナキトキハ、原  
因ニ關セル考究ノ中ニ入ルコト能ハサレバナリ、余儕ハ単一ナル無能ヲ  
以テ、無限ナル原因ノ連続ヲ思考ノ中ニ存セザルコトヲ得ザルナリ、  
○太元<sup>ホカウズ</sup>ナル物ノ存在セルトイフコトヲ想定スルトキハ、自然ニ其物ノ性  
質ニ考ヘ到ラザルコトヲ得ス、太元ハ必ス無限<sup>インフィニット</sup>ナラザルベカラズ、  
其故ハモシ之ヲ以テ有限ナリトスルトキハ又之ヲ界限アル物ト考ヘサル  
ベカラズ、已ニ界限アレバ、界限ノ外ニ地面アリト考ヘサルヘカラズ、  
而シテ此ノ如キ地面ハ原因ノ外ニ在ル者ナリ、若シ此説ヲ以テ真ナリト  
スルトキハ、万物有原因ノ教義ヲ棄テサルベカラズ、故ニ余儕ハ太元ヲ  
以テ無限トスル外之ニ代ルベキ考案ヲ造ルコト能ハズ、

○余儕ハ之ニ固ヨリ又太元ヲ以テ獨立ノ物ト考ヘザルコトヲ得ズ、若シ  
附屬ノ物ナラバ、其附屬ノ歸スル所ノ物ハ即チ太元ナラザルベカラズ、  
故ニ太元ハ敢テ他ノ物ニ干係ヲ有セザル者ナリ、若シ完全ナル太元ニハ

必ス他因ノ現存ヲ要スルコトナラバ、其半分ハ他ニ從屬スル者ニシテ、之ヲ太元ト云フコトヲ得ズ、故ニ太元ハ無限ナルノ外ニ他ノ干係ヲ離レテ獨立ニ完全ナラザルベカラズ、即チ絶對<sup>○</sup>ニナラサルベカラズ、

○此ノ如ク決定シタル所ニテ、現今精密ナル形而上學ノ考究ニ依ルトキハ、容易ニ左ノ考ヲ起スコトヲ得ベシ、余等ノ狹隘ナル能力ニ依ルトキハ、凡ソ現象ハ皆太元アリトイフコトヲ考ヘザルヘカラズ、而シテ此太元ハ無限ニシテ又絶對ナリト考ヘサルベカラズ、

○然レドモ此ノ如キ決定ハ全ク幻想ナリトイフコトヲ示スハ、亦難キコトニ非ズ、今原因、無限、絶對トイヘル三個ノ念ヲ結合セントスルトキハ、余儕ハ最初ニ考察シタルヨリハ更ニ恐怕落膽スベキ反對ノ網ヲ胸中ニ織成ザルベカラズ、

○第一ニハ原因ハ同時ニ絶對トナルコト能ハズ、絶對ノ定義ハ凡テ干係ヲ離レテ存在スルノ義ナリ、然ルニ原因ハ其效驗ト一定ノ干係ヲ有スルノミナラズ、此干係ヲ有スルニ依リテ原因ノ名ヲ得タル者ナリ、若シ效驗ヲ除去スルトキハ、原因ハ原因トナルコト能ハズ、故ニ、絶對ノ原因トイヘル熟語ハ、恰モ形ナキ三角トイヘル熟語ニ同ジ、此二語ハ念中ニ於テ決シテ合シテ一トナルコト能ハザル者ナリ、學士曼塞<sup>マンセル</sup>曰ヘリ、  
“余儕ハ時ノ連続ノ考ヘニ由リテ、此表面ノ反對ヲ避ケンコトヲ務メタリ、絶對ハ最初ニ自己ノカヲ以テ成立シ、後ニ到リテ原因トナレリ、然ルニ第三ノ念、即チ無限ノ念ニ由リテ妨碍セラレタリ、問、如何ニシテ

無限<sup>○</sup>ハ最初ヨリテ無限トナルコトヲ得サリシヤ、若シ原因ハ万物成立ノ法則ナルトキハ、原因ナクシテ成ル所ノ物ハ無限ニ非ズ、原因トナル物ハ、最初ノ界限ノ外ニ超越セル物ナリ、”

○然ルニ今太元(無限ニシテ又絶對ナル物トシテ)ニ付キ、種々<sup>○</sup>障碍ニ勝チ、堅固ナル念ヲ造リタリト假定センニ、然ルトキハ能ク宇宙ノ根元ヲ解説スルコトヲ得ルヤ、絶對ハイカニシテ關係ノ原トナリ、無限ハ如何シテ有限ヲ提起スルトイフノ解説ニ向ヒテ一步ヲ進ムルコトヲ得ルヤ、更ニ學士曼塞<sup>マンセル</sup>ノ語ヲ連続セシムベシ、日ク“若シ活動セル原因ハ静着ヨリ高等ノ状態ナルトキハ、絶對ナル者ハ不完全ヨリ完全ノ地位ニ進ム者ナリ、然ラハ絶對ハ、本来ヨリノ完全ニ非ズ、若シ又活動ハ、静着ヨリ劣等ノ状態ナルトキハ、絶對ハ、原因トナル時ニ於テ其本来ノ完全ヲ失フ者ナリ、然ルトキハ、此二者ノ状態ハ共ニ同等ノ者ニシテ、造成ノ働ハ、無偏ナル完全中ノ一個ナリト假定セザルコトヲ得ズ、然レドモ此ノ如キ假定ハ絶對ノ獨一トイフコトヲ絶滅セザルベカラザルナリ、”

○以上擧クル所ノ諸例ハ、吾等ノ考究ノ初ニ於テ、知識ノ干係トイヘル教義ヲ鮮明強勒スルニ十分ナル者トス、此教義ハ至テ必要ナル者ナレドモ、受合フベキ證據中ノ小部分ヲ構成スルニ過ギザル者ナリ、形而上學ノ暗想ノ歴史ハ(若シ是ト異ナリタル心象學ノ考究ヲ除クトキハ)太元、宇宙ノ根元、太元ノ性質、及ヒ其内ニ包含セル万物ノ至極ノ構造ニ付キ

保守シ得ベキ臆説ヲ作ラン為メニ固執セル勉励ノコトニ過ギズ、此ノ如キ勉励ハ終ニ其功ヲ失ヒシコトハ歴史ニ由リテ之ヲ知レリ、而シテ人類ノ心ナル者ハ、太元、無限、絶対、及ヒ万物ノ内部ノ性質ニ付テ満足セル決定ヲ得ルコト能ハザルコトハ、帰納ト実験トノ証拠ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ、故ニ余儕ハ簡單二人ハ絶対ヲ知ルコト能ハズ、惟關係ヲ知ルベキノミナリト言得ベシ、此ノ如キ言フトキハ、之ニ由リテ、更ニ習行上ノ二個ノ決定ヲ述ブルコトヲ得ベシ、

第一 吾儕ハ物ハ人ノ智性ヲ離レテ獨立セリトイフコトヲ知ラズ、惟吾等ノ智性ト干係ノ中ニ成立スルコトヲ知レリ、

第二 思想ノ做シ得ベキコトハ、物ノ做シ得ベキコトト同一ニ非ズ、又同時ニ成ル者ニ非ズ、表言ハ必シモ真理ニ非ズ、其故ハ吾儕明白ニ其名辭ヲ理會スレバナリ、表言ハ必シテ不真理ニ非ズ、其故ハ余等ノ理會スヘカラザルノ名辭ヲ包有スレバナリ、

此理ニ由リ（尙此後ニ詳カニ説クベシ）吾儕ハ十分ナル真理即チ客觀上ノ真理ノ規則ヲ有セザルナリ、然レドモ現象ノ界域中ニ於テ、非理會ノ試験ヲ以テ、干係真理ノ堅固ナル法則ヲ有セリ、現象ハ吾等ノ通感、学科、哲学ノ決定ヲ作ル者ナリ、非理會ノ名辭ヲ有セル、現象ニ管セル表言ハ、現象ノ經驗ノ根元ナキ表言ナレバ、允許スルコト能ハザル者ナリ、非理會ノ名辭ヲ有セル、非象ニ管セル表言ハ經驗ト全ク干係ナシ、非象ハ經驗ヲ為スコト能ハズ、故ニ此ノ如キハ余ノ真理ト

否トヲ判断スルノ方法ヲ失ヘリ、是此本文ニ論スル所ノ本意ナリ、

○此僅少ナル經驗ノ例ニ由リテ解説シタル大真理ハ更ニ演繹法ヲ以テ之ヲ解説セザルベカラズ、凡ソ關係ノ外ハ何事ヲモ知ルコト能ハズ、理會スルコト能ハザルハ、吾等ノ心ノ真ノ構造ヨリ出ル者ニシテ又吾等ノ真ノ思考ノ為ス所ナリトイフハ、如何ナル故ナルカトイフコトヲ解説セザルベカラズ、此事ハ種ノ証論ニ依リテ之ヲ示スコトヲ得ベシ、

○第一ニ凡ソ知ルト云フハ彙類スルコトナリクラシク若シ余儕或ル現象ヲ解説シタリト云フトキハ、其意味ハ如何ナル事ゾ、吾儕ハ、以前ニ嘗テ聚合シタル現象ト同様ナル現象ヲ等列シテ、初テ之ヲ理會シタリト言フナリ、例ヘバ、十一月頃ノ晴明ナル夕、途上ヲ徘徊セシニ、勿チ室中ニ光輝ヲ発スル物アルヲ見タリシガ、乍ニシテ其光輝ハ消失タリ、余是ヲ以テ流星ノ飛行シタルコトヲ知ルナリ、然レドモ余ハ此現象ヲ解説スルニ疑アリ、因テ之ヲ或ル天文學士ニ質ス、學士語リテ曰フ、行星ノ道帯ハ、太陽ノ周圍ヲ遶ル、此道帯ノ路ハ地球ノ軌道ト相近キ者ナレドモ、又中心ニ集合スル者ニ非ズ、故ニ種々ノ点ニ於テ地球ノ軌道ヲ横截セザルベカラズ、然ルニ若シ或ル時節ニ於テ此横截ノ起ル時、地球ノ重力ハ、此道帯ヲ造レハ碎片ヲ己ノ方ニ引キ、自己ノ塊ト此塊トヲ合シテ一体ト為スナリ、此ノ如キ解説ハ、凡ソ重量アル物体、其大ナル中央ノ塊ノ周圍ヲ轉回スルトキハ、其重力ニ依リテ或ル距離ノ間ハ、周辺ノ物ヲ中央ニ引クヲ常トス、流星ノ現象モ之ト同シキ理ナルヲ以テ此ノ如

ク解説シタルナリ、此ノ如キハ汝ノ為ニ十分ノ解説トイフベシ、又牛董ガ行星ハ太陽ヲ周リテ能ク其位地ヲ保ツノ理ヲ解説スルトキ牛氏ハ其重カト接線力トノ假説ニ據リテ之ヲ説キタリ、今月ガ地球ヲ離レテ飛散セザルハ何ノ力ニ依ルカトイフハ、其事ハ第一ノ解説ニ由リテ之ヲ彙類スルコトヲ得ベシ、即チ従前已ニ知リタル力ハ、(引力)空ニ懸レル星体ヲシテ地球ノ上ニ落ルコトヲ得シムル者ナリ、又月ガ直チニ地上ニ落来ラザルハ何ノ力ニ由リテ然ルカトイフニ、是ハ第二ノ解説(牛董ノ説)ニ由リテ彙類スルコトヲ得ベシ、即チ、旋回セル石ヲ抛ルトキハ、接線ヲ以テ飛去ルトイヘル力(已ニ知り得タル)ニ由ルコトヲ知ルベシ、此ノ如キ場合ニ於テハ従前未ノ彙類セザル所ノ現象ヲ今彙類シテ之ヲ知リタルニ外ナラズ、而シテ此事ハ正當ナル解説タルコトヲ失ハズ、然レドモ此ノ如ク働ケル力ノ至極ノ性質ハ猶旧ニ依リ奇異トナシテ之ヲ存シ、其詳解ヲ與フルコト能ハザルナリ、

○更ニ一歩ヲ進メテ、今平果ヲ地上ニ墜ス所ノ力ハ如何ナル物ナリヤト問フトキ、吾儕ハ其力ノ自性ヲ知ルコト能ハズ、惟彙類セル現象ノ數多ノ上ニ發現セルニ由リ、其或ル者ヲ以テ、以前己ノ自識ニ現ハレタル者ト同シ種類ノ者ナリトシテ之ヲ認識スルナリ、吾儕ハ、或ル物ヲ、或ル他ノ物ト彙類スルトキニ由リテ之ヲ知ル、又其物ガ他ノ物ト同シキ時ノミ之ヲ見ルナリ、約シテ之ヲ言ヘバ、考認ハ惟再認<sup>レノ、コト</sup>ニ由リテ之ヲ得ルナリ、小兒ノ如キハ、或ル外物<sup>ヲ</sup>在テ一羣トシテ之ヲ整理シ、其物ハ

或ル羣ノ内ニ属スル者ナリト言フコトヲ再認セザルヲ以テ、未タ物ヲ考認スルニ至ラズ、已ニ大人トナルノ後ハ、已ニ述ベタルガ如ク、現今ノ印識ハ、以前二印識シタル者ト同一ナルダケヲ知ルコトヲ得ルナリ、若シ此解説未タ十分ナラザレバ、学士斯辺撒ノ語ヲ見テ其義ヲ了解スベシ、曰ク、<sup>レ</sup>従前未タ知ラザル所ノ動物ハ、一定ノ種族ニ干係セザル者ニテモ、大種族ノ一個、即チ乳哺、鳥、爬虫、魚ノ一二属スルコトヲ再認シ得ベシ、或ハ其物ハ是等ノ大種族ト和合セザル不規則ノ物ニシテ、其何レニ属スルヲ決スルコト能ハザルコトモアラン、然レドモ必ス有脊物カ無脊物中ノ一個ニ属セザルコトハ無カルベシ、又其物ハ動物ノ品性多キカ植物ノ品性ノ多キカヲ甚疑ハシトイヘドモ、尙其活物タルハ誤無カルベシ、又其物ハ有機体力、又ハ有形物ノ外ニ在ルカ、此ノ如キ物ヲ再認シタルニ由リ此ノ如キ物ナリト考認シタル力ヲモ考察セザルベカラズ、是ニ依リテ見レバ、凡ソ物ハ以前ニ觀察タル物ト何レノ点モ同様ナルトキノミ十分ニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、以前ノ物ト比シテ其不同ノ点甚多キトキハ不知ノ地面甚タ廣キ者ナリ、若シ其物絶対ニシテ、他ノ物ト共通ノ性ヲ有セザルトキハ絶対ニシテ吾等ガ知識ノ境界ノ外ニ在ル物ナリト言ハザルベカラズ”(第一ノ原理)

○以上擧タル所ノ大問題ハ惟單純ナル記載ヲ以テ之ヲ明白ニスルコトヲ得ベシ、所謂太元、無限、絶対ノ如キハ皆彙類シテ之ヲ示スコトヲ得ベシ、凡此等ノ物ハ只此ノ如キ物ナリト彙類シテ之ヲ理會スルコトヲ得、

即チ以前ニ理會シタル物ト同一ナリト理會スルコトヲ得ベシ、今宇宙ノ際ニ惟一ノ太元アリ、此物ハ原因ナキ物ナレバ、總テ他ノ原因アル物ト彙類スルコト能ハズ、又無限ノ如キハ、有限ト同一ナリト理會スルコトヲ得ズ、又他ノ無限ト彙類スベカラズ、其故ハ若シ無限ナル物二個アルトキハ、互ニ界限アルヲ以テ、其無限ハ共ニ有限ナルヲ以テナリ、又絶対ノ如キモ若シ他ノ或ル物ト干係ヲ有シ、又ハ其物ニ同シト説クトキハ、絶対ノ義ト全ク相反スルナリ、其故ハ絶対ノ意義ヲ解釈スルトキハ、總テノ干係ヲ離レテ獨立スルノ義ナレバナリ、故ニ太元無限絶対ヲ了解スル所ノ心ノ態ハ、原因アリ、界限アリ、干係アル事物ヲ了解スル心ノ態トハ全ク別異ノコトト為サザルベカラズ、

○余儕今更ニ他ノ点ヨリ意見ヲ起シ、干係アリテ差異アル景況ノ中ニ於テ心ノ態ヲ考思スルトキハ、尙同一ナル避クベカラザル決定ニ帰セザルコトヲ得ズ、余儕或ル事物ヲ知ラントスルニハ、其物ハ、或ル他ノ物ニ同シトイフコトヲ考認スルベカラズ、又或ハ他ノ物ニ異ナリトイフコトヲモ考認セザルベカラズ、余儕今白トイフコトヲ考認ス、其白ハ以前ニ吾自識ノ前ニ現ハレタル白ト同シキノミナラズ、又赤青黒ト差異アル物ナリ、天下ノ万物皆白ナルトキハ、白ノ知識ヲ有セザルベシ、吾考認ヲ造成スルニハ、差異（又區別）ハ同一ト共ニ必要ノ者ナリ、学士曼塞爾言ヘルコトアリ、〃自識ノ真ノ考認ハ、其中ニ此物ト彼物トノ差別ヲ包含ス、自識スルトハ或ル事物ヲ自識スルナリ、其事物ナル者ハ惟無キ物

ト區別シテ有ル物ヲ知ルニ過ギズ、然レドモ此區別ハ界限ヲ必要ナリトス、其故ハ今一物ヲ以テ他物ト區別スルトキハ、其物ハ他物ノ有セザル形態ヲ有セザルカ或ハ他物ノ有スル形態ヲ有セザルカナルベシ、〃故ニ余儕若シ何物モ皆太元ナリト理會スルトキハ、其太元ハ界限アル者ト理會セサルヘカラズ、然ルトキハ、太元ハ無限ニ非ザルナリ、又然ルトキハ太元ハ吾考認セル他ノ事物ト差異アル物ト考ベカラス、若シ然ルトキハ太元ハ干係ノ物ニシテ絶対ノ物ニ非ザルナリ、

○最後ニ於テ一言セントス、余ハ絶対ナル物ヲ知ルコト能ハズ、其故ハ吾等ノ知識ナル者ハ總テ關係ノ姿ヲ以テ之ヲ得ベキ者ナレバナリ、凡ソ此間ニハ認識スル所ノ主身ト、認識サル、所ノ客身アリ、主身ハ惟客身ヲ認識スルトキノミ主身トナルコトヲ得ベクシテ、客身モ亦主身ニ認識サル、トキノミ客身トナルコトヲ得ベシ、若シ此二者ヲ混淆スルトキハ、認識トイフコトハ全ク為シ得ベカラザルナリ、故ニ絶対ナル者ハ、若シ之ヲ知ルコトヲ得ベキナラバ、主身ニ干係セル客身ナラザルベカラズ、絶対ハ絶対ヲ以テ之ヲ知ルベカラズ、惟物ヲ知ル所ノ心ノ干係ニ於テノミ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、即チ惟其絶対ヲ止メタルトキノミ之ヲ知コトヲ得ベシ、

○故ニイカナル道路ヲ歩ムモ、逐一ニ同一ナル障礙ニ抵觸セザルベカラズ、認識ノ力モ、推理ノ才モ、永久ノ墻壁ヲ破壊スルコト能ハズ、永久ノ墻壁トハ何ゾヤ、事物ノ自身ヲ以テ其事物ヲ知ルトイフコトニ付キ

テ、余等人類ノ知識ヲ界断スル所ノ墻壁ナリ、余等ハ事物ノ自身以テ其運動ヲ知ルノ認識ナキコトヲ云余等モシ事物ノ性質、根元、及ヒ其活動ノ方法等ニ管シテ、或ル假定説ヲ立シコトヲ企ツルトキハ、余等ハ直チニ不能的イデオロジックトイフ物起リテ之ニ妨障セラ、ナリ、又余儕カ為ス所ノ企望ハ何レモ無益ナリト断念シタルトキ、余ハ何故ニ断念シタルカト考フルニ、余等ノ心ノ真ノ構造トイフ者ハ、肖似、差異、干係トイフ原質ニ依ラザレバ、決シテ事物ヲ認識スルコト能ハストイフコトヲ発見スベシ、即チ絶對ナル者ハ是等ノ原質ノ一物ヲモ表出セザル者ナレバ、恒久之ヲ認識スルコトハ能ハザル者ナリト知ルベシ、

○余儕モシ無形学ノ語ヲ以テ、通常用フル所ノ語ニ譯スルトキハ、此決定ノ義ハ何ト言フベキヤ、上帝ハ已ニ絶對ニシテ無限ナリト言フトキハ、固ヨリ吾等ノ測リ知ル能ハザル所ニシテ、吾等ガ上帝ノ性質智徳ニ付キテ考フル所ノ假定説ハ、惟吾等カ智力ノ軟弱ナルヲ表示スルニ過ギズ、然レドモ更ニ之ヨリ測知スベカラザル者アリ、又宇宙ユニバースナル物ヲ其自身ニ就テ知ラント欲スルトキハ、其測知スベカラザルコト上帝ニ同ジ、吾等ノ外面ニアル所ノ諸力ノ聚合ハ、種々ノ状ヲ以テ吾等ニ接觸シ、吾等ガ幼年ヨリ生命ノ終ニ至ルマデ吾等ヲ提起シテ認識スベキ活動ヲ為サシムルモ、遂ニ此力ヲ客身状ニ知ルコト能ハズ、惟吾自識ニ感ズルニ由リテ之ヲ知ルノミナリ、約シテ之ヲ言ヘバ、吾等ハ吾智性インテリジェンスニオルガニカリーイムボーストオルガニカリーイムボースト構造上ノ界限アリテ、此界限ヲ超越スルコト能ハザル者ナリ、吾等ハ

物ヲ知ラズ、只自識中ニ、並ヒ立ツ所ノ認識、抵抗、廣張、色、青、香等ト名クル所ノ一連彙グループヲ知ルノミナリ、吾等ハ動キレヲ知ラズ、惟眼ノ筋ノ微小ノ運動即チ接觸セル生器ガ、運動セル物ニ伴フ所ノ働ニ由リテ生スル所ノ、連続セル自識ノ状態ヲ知ルノミナリ、又吾等ハ力チカラヲ知ラズ、惟自識ガ力ノ発見ナリト考ヘテ、己カ自識上ニ絶エス生スル所ノ变化ヲ知ルノミナリ、更ニ吾等ハ自識ナル物ヲ絶對トシテ知ルコト能ハズ、惟其併立、連続、肖似、差異等ノ干係ニ於テ自識ノ状態ヲ知ルノミナリ、

○上文ニ言フ処ハ、現今ノ心象学ノ定説中ノ一トシテ認許サレタル者ナレドモ、此決定ハ、更ニ錯雜セル事理ヲ理會センコトヲ勉メザルベカラズ、此道理ヨリシテ、更ニ別ニ他ノ点ニ付キテ其義ヲ解説センコトハ甚必要ノコトナリ、吾儕内部ノ自識ノ感覺ハ、外物ノ為メニ生スル所ノ感覺ナリト雖ドモ、其外物ヨリ生スル所ハ、吾内部ノ感覺トハ、全ク同一ノ物ナリヤ否トイフコトハ、保證シ能ハザル所ナリ、例ヘバ赤アカ或ハ抵抗トイヘル感覺ハ吾等ノ外ニアル物ヨリ起ル者ナレドモ、此赤ト抵抗トヲ起ス所ノ原因ハ、赤ト抵抗トノ感覺ト同一物ナルヤヲ定ムルコト能ハザルナリ、他ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘバ、吾等ハ赤ト抵抗トイフコトヲ惟自識ノ現象即チ自識ノ变化ノミヲ以テ之ヲ知ル、而シテ吾等ハ此現象ヲ以テ、其原因ハ外物ニ在ルコトヲ推知スルコトヲ得、吾儕モシ之ニ感スルノ心ナキトキモ尙外物ノ原因ハ依然トシテ存在スル者ナルコトヲ知ルト雖ド

モ、然レドモ此外物ノ原因ナル者ガ（赤ト抵抗トノ現象ニ一致スル所ノ真ノ事物）果シテ現象ト真ニ同一ナルカトイフコトハ之ヲ定ムルノ能力ヲ有セザルナリ、

○以上ノ決定ハ、是等ノ事實ヲ屢々經驗シタルヨリ生スル所ニシテ、姑ク之ヲ真正ノ定説トスルモ、不可ナキガ如シ、然レドモ是ニ付キテ左ニ凝聚シタル短キ解説ヲ挙グルハ、無益ノ贅文ニハ非サルベシ、

○第一二ハ、同一ナル外物ノ原因ニ由リテ提起サレタル感覺ハ、二種ノ動物ニ於テ全く同一ニ感ゼストイフコトハ、其事実ニ近キ者ノ如シ、今ウ井—ニアウスギガ音楽室ニ於テ胡弓ヲ弾スルコトアランニ、人類ノ聴者ハ何レモ其自識ニ於テ胡弓ノ音ナルコトヲ區別シ得ベシ、然レドモ若シ其胡弓ヲ以テモリユスク（軟体動物ノ名）ノ多ク集マレル水溜ノ傍ニテ之ヲ弾スルトキハ、此動物ハ聴ノ機関ヲ所有セザルヲ以テ、全く異リタル感ヲ生スルナルベシ、此動物ハ此音ヲ以テ神經震揺ノ一種ナリト感スルコト、恰モ吾等カ震揺セル調子鐵ニ指ヲ觸ル、ガ如キ感ヲ為スナルベシ、而シテ其甲ニハ総テ聚縮ヲ感スルナルベシ、又此ノ如キ音楽ヲ以テ龍蝦ロブステルノ傍ニ奏スルトキハ、龍蝦ハ其足ト爪ト共ニ骨状ノ甲中ニ在ルヲ以テ、一定ノ場所ナキ感覺ヲ生スルコト、恰モ吾等カ箸ヲ以テ物ヲ突クガ如キ自識ト異ナルコトナシ、

○第二二ハ、同一ナル外部ノ原因ニ由リテ提起セラレタル主身ノ感覺ハ、同種族ノ動物ニ於テモ二人共ニ同一ノ感覺ヲ生スルコト能ハズ、ダルト

ニズム即チ色盲人ニ於テハ、赤ト緑トノ如キ、其震揺ヲ異ニスル明白ナル色モ、或ル同一ノ色ニ感スル者アリ、又一秒時二十六搏ノ高キ音モ、人ニ依リテ別々ニ之ヲ認識スルコトアレドモ、或人ハ又之ヲ以テ其低キ音ナリト感ゼリ、猶之ニ付キテ極端ノ例ヲ挙ゲンニ、一秒時二三万ヲ過クル高キ震揺ハ、之ヲ聴取スルコト能ハザルノ耳アリ、然レドモ余ガ假定セル差、同一ナラザル構造ノ耳ニ於テハ、此如キ急劇ナル震揺ヲ以テ甚シキ突鋭ナル音トシテ之ヲ聴得ルコトアリ、

○第三二ハ、通常ノ事實ニシテ、動モスレバ其意味ヲ輕忽ニ看過スル所ノ者ヲ挙テ之ヲ示スベシ、アムモニアノ噴氣ハ、モシ目ヲ以テ之ニ觸ルレバ疼痛ヲ生ス、之ヲ鼻孔ニ吸入スレバ、堪へ難キホドノ強キ臭氣ヲ感ス、之ヲ舌上ニ聚ムレバ、辛辣ノ味ヲ生ス、又之ヲ溶解シテ身体ノ柔軟ナル部分ニ貼スルトキハ、其部ヲ焚焼スルナリ、又震揺セル調子鐵ヲ以テ、之ヲ指ニ觸ルレバ、ビリヤスル感覺ヲ生ス、之ヲ両齒ノ間ニ置クトキハ、其他ノ諸部ニ感ズルト同シ感ヲ起ス、又之ヲ以テ腦ノ骨ニ通ズルトキハ、其震揺ハ音響ノ自識ヲ起スナリ、又太陽ノ光源、手ノ上ニ落ルトキハ、熱ノ感覺ヲ生シ、光ノ感覺ヲ生ゼス、モシ網膜ノ上ニ落ルトキハ、光ノ感覺ヲ生シテ熱ノ感覺ヲ生ゼス、是等ノ場合ニ於テハ、同一ノ外部ノ原因モ、其入ル所ノ通路ノ異ナルニ從ヒ、吾等ノ自識ニ生スル所ノ現象ニ大ナル差異ヲ生スト云フコトヲ注目スベシ、外部ノ原因ヲ總テ其現象、即チ其効驗ト同シカラズ、吾等ハ實ニ其同一ナルコトヲ

知ル能ハザルナリ、

○以上引用スル所ノ例ハ、斯邊撒ガ「心学ノ原理」ヨリ採ル所ナリ、此外ニ猶（其明瞭ハ少シク及ハザレドモ）此理ヲ説明スルニ足ル所ノ例証ヲ擧グベシ、今聚合セル太陽ノ光源ノ光線ヲ分解スルトキハ、単一ナル三個ノ光線ト為スルコトヲ得ベシ、第一ノ光線ハ中等ノ屈曲ニシテ、人目ヲ以テ視ルベク、赤ヨリ紫ニ赴ク所ノ者ナリ、此光線ハ一名ニユートニツクレイス、牛董光線トイフ、其二ハ光<sup>スペクトリウム</sup>影ノ外部ニ於テ紫色ノ外ニ、力的<sup>リツテツク</sup>光線アリ、此線ハ屈曲ノ最甚シキ者ナルヲ以テ、人目ヲ以テ視ルベカラズ、只化学ノ術ヲ以テ之ヲ探ルコトヲ得ベシ、吾等力撮影ニ用フル所ハ此光線ナリ、第二ハ、光影ノ他ノ一端ニ於テ赤色ノ外ニ黒<sup>ヘルシエリツク</sup>舌光線アリ、此線ハ屈曲ノ最少キ者ナレドモ、亦人目ヲ以テ視ルベカラズ、只温<sup>テルマル</sup>法ヲ以テ之ヲ現ハスコトヲ得ベシ、以上ノ光線中、其視ルベカラザル者ハ、視ルベキ者ト其運動（即チ波動）ノ度ノ異ナルニ由リテ其形体自ラ同ジカラズ、又其視ルヘキ色ノ中ニ於テモ、其色ノ異ナルニ由リテ其形姿自ラ同ジカラズ、今又物体ノ分子ノ震揺ノ度ノ増進ニ依リテ、吾自識ノ中ニ生スル効驗ヲ考フルトキハ、左ノ如キ状ヲ為セリ、一秒時、十六回ヨリ少カラザル震揺ハ自識ノ中ニ音響ノ連続ヲ感ズ、十六回ヨリ多く、三萬回ヨリ少ナキ震揺ハ音楽ノ調ヲ感ズ、其数ノ増進スルニ伴ヒ、益々音調ノ高キヲ感ズ、一秒時ニ於テ三萬ヨリ多く、四百五十八万億ヨリ少キ震揺ハ、モハヤ耳ヲ以テ聴クコト能ハズ、惟皮膚ノ神經デノミ感

ズベキ者ニシテ、皮膚ハ之ニ由リテ熱<sup>。</sup>ノ自識ヲ感スルナリ、更ニ進ンデ、一秒時ニ、四百五十八万億ノ度ヲ以テ現ハレタル震揺ハ、目ヲ以テ之ヲ感スルコトヲ得ベクシテ是ニ由リテ赤色ノ自識ヲ生ス、更ニ進ンデ五百七十七万億ノ震揺ニ至ルトキハ、自識ノ中ニ綠色ヲ生ス、七百二十七万億ノ度ニ至ルトキハ、自識ノ中ニ紫色ヲ生ス、更ニ之ヲ高キ度ニ登ルトキハモハヤ眼ヲ以テ知覚スベカラズ、惟自識ノ全体上ニ不定ノ状態ヲ現ハスノミナリ、此状態ハ、吾生器上ノ快樂ナル生存ノ感覺（震揺ナル）ト遙カニ相通スル所アル者ニシテ、又此生存ノ感覺ニ其一部ハ、吾身体ヲ通過セル化成力ノ上ニ及ボス、太陽光線中ニリツテリツクノ一分<sup>リツテリ</sup>（<sup>学用ヲ為ス</sup>光線學リノ間接ノ經驗ニ歸スベキ者ナリ、是ニ由テ觀レバ、吾等ノ外部ノ動力<sup>エセン</sup>トイフ者ハ惟一個アルノミ、即チ物質ノ分子ノ上ニ生スル震揺是ナリ、此一個ノ動力、我身ノ上ニ種々ノ感覺ヲ起サシメ、或ハ音トナリ、或ハ熱トナリ、或ハ光トナルナリ、若シ此同一ナル外部ノ原因ヨリ、同一ナラザル感覺ヲ生スル所以ヲ推問サル、トキハ、十分ニ明白ナル返答ヲ為スコトヲ得ベキヤ否、蓋シ音熱光ノ三者ハ少シモ相似タル所ナク、又互ニ比較スルコトヲ得ザル者ナレバナリ、吾等ニハ此ノ如ク明白ニ區別アリテ見ユル所ノ現象モ、遂ニハ相合シテ區別ナキ所<sup>モ、セプト</sup>ノ一副ノ外部ノ事実トナルベキ者ナリヤ、吾儕ハ此現象（知ルベカラザル外面ノ勢力ニ因リテ吾等ノ自識ニ生スル所ノ經驗）ヲ更ニ比較シ相類別シ、即チ總テ此事実ニ洞悉スル為ニ、更ニ證據ヲ要スルコトナリヤ、

○然レドモ今論シタル所ニ依リテ、吾儕ハ、外面ノ勢力ヲ或ル廣サニマデ知ルコトヲ得タリ、音熱光ノ感覺共ニ同一ニ物質中ノ分子ノ震揺ニ起ルトイフコトヲ定言スルニハ、吾等カ此震揺ノ何物タルヲ知ルト云フコトト、是物ガ客觀上ノ実物ノ名ヲ以テ、自識ノ種々ノ状態ヲ作ルコトヲ推量スルトイフコトハ、自然ニ其中ニ包含セリ、

○アルギルノ丟克、其理学ノヒ（原典註）ニ於テ謂ヘラク、吾等ハ光ノ自体ヲ知レリ、即チ光ノ性質ト組立トヲ知レリ、吾等ノ知覺ニ於テ之ヲ知ルニ非ズシテ、概念ノ示教ヲ以テ之ヲ知レリ、

然レドモ一タビ自身ニ立戻リテ此事ヲ考フルトキハ、遂ニ此ノ如キ定見ヲ立ツルコト能ハズ、即チ此篇ノ題目ニ演ベタルガ如ク（知識ノ關係）分子ノ震揺ハ客身ノ事實ナリト云フコトハ明白ニ吾身ニ知り得ベキコトニ非ズ、吾儕ハ見ルベク觸ルベキ震揺ニ由リテ提起サレタル吾自識ノ状態ヲ推度シテ、分子ノ震揺トイヘル理會ヲ得タル者ナリ、或ル震揺ノ運動ニ由リテ吾自身ニ得タル所ノ經驗、例ヘバ片石ヲ止水ノ中ニ投スルトキ、又ハ源ノ一端ヲ緊ク繋ギ、急ニ他ノ一端ヲ引クトキハ、常ニ吾等ニ震揺ノ理會ヲ生セシムルナリ、此理會ヲ以テ更ニ推度スルトキハ、有形ノ物ハ皆微細モレキユールス、エンド、アトムスノ分子ヨリ成ルトイフ思想ヲ生セシムルナリ、然ルトキ光熱音等ノ感覺ヲ客身ノ事實ト云ヘル語ヲ以テ鮮釈スルトキハ、吾儕ハ只自識ノ或ル状態ヲ、他ノ状態ノ語ヲ以テ之ヲ鮮釈シタルニ過ギズ、又同一ノ義ヲ種々ノ語ヲ以テ言フ為メニ、音、熱、光、アクチニズム

太陽光線ノ化學ノ性質ヲ生スル者ノ語ヲ用フルコト、尤モ適當ナルベシ、蓋是等ノ現象ヲ以テ震揺ノ他ノ現象ト區別スルトキニ於テ殊ニ然ルナリ、余等ノ信スル所ニハ、或ル一行ノ状態ニ於テ、吾自識ニ或ル状態ヲ生スル所ノ原因ハ、他ノ一行ノ状態ニ於テハ、自識上ニ或ル他ノ状態ヲ生スルコトナルベシ、原因ノ性。

質ニ関シテハ、或ハ之ヲ震揺ト名クル者ナルカ、或ハ之ヲ熱光ト名クル者ナルカ、共ニ之ヲ知ルコト能ハズ、又之ヲ確定スルコト能ザルナリ、

## 第二篇 理学ノ目的（哲學）

○吾等ハ惟原因アリ定限アリ干係アル所ノ物ヲ知ルノミナリト決定セリ、更ニ此決定ヲ進ムルトキハ、凡ソ理學者ガ自身ノ仕事ナリトシテ研究セシ所ノ事物ノ大分ハ、吾等ノ力ノ能ハザル所ニシテ、又無用ノ事ナリトシテ之ヲ棄擲セザルコトヲ得ズ、実行上ノ事例ニ於テモ、相調和セル推演ノ法ニ於テモ、（心象學ノ開ケタルニ由リテ吾等ガ知性ノ働ナルコトヲ知レル）絶對ト無限ト無原因トハ吾等ノ知識ノ全ク及ハザルコトナルヲ顯ハセリ、又吾等ハ物質ト心トノ性質ノ至極ハ如何ナル者カト云フコトヲ知ラザルナリ、又吾等ノ知識トイフ者ハ、惟知ルベカラザル外面ノ勢力ニ由リテ、吾心中ニ生シタル種々ノ自識ヲ彙類スルニ由リテ成ル者ナルコトヲ知レリ、然レドモ古代ヨリ理学ナル者ハ、絶對ニシテ無限ナル太元ノ天性ト屬性トニ関シテ堅固ナル決定ヲ得ンコトヲ務メ、又物質ト心トノ至極ヲ研究スルコトハ、此學ノ正當ノ問題ナリト信ゼリ、又其初

メ自識ノ經驗ニテ造成セル知識ヨリシテ、吾儕ハ或ル奇異ノ成行ニ於テ、所謂知識ノ高度ニ登ルコトヲ得ルナリ、此知識ノ高度ニ於テハ、真実（リアリイ）トイフ者、現象ヨリハ多ク思想ノ対身トナルナリ、希臘ノ古代ノ暗想ニテハ、殊ニ宇宙ノ根原ト、太元ノ性質、物質ノ至極ノ理論（是等ハ余輩前編ニ於テ、既二人智ノ及バザル所ナルコトヲ論ゼリ）ヲ考究センコトヲ務メタリ、布拉多ノパルメニデスト、ソヒスチスト、共ニ重ニ於テ絶對ノ性質ニ付キテ多クノ考案ヲ載セタリ、其意ハ極メテ精銳ナレドモ、猶許多ノ遁辭アルコトヲ免カレズ、且此題目ハ余輩ガ已ニ為シ得ベカラズト定メタル者ナリ、問、絶對ハ一個ナルカ、多數ナルカ、又問、一個ハ有限ナルカ無限ナルカ、此考究ニ付キテハ第一ニ出シタル問答書（パルメニデス）ニ於テ、余ガ嘗テ此問題ニ於テ、暗想家ノ必ス避クベカラザル結果ニ達セント示シ置キシガ、果シテ奇怪ナル言語ヲ發スルニ至レリ、パルメニデスハ第一ノ証論ニ於テ、一個ハ自己ノ中ニモアラズ、他物ノ中ニモアラズ、静息ノ中ニモアラズ、運動ノ中ニモ在ラズ、自己ト同様ニアラズ、自己ト差異ニアラズト言ヘリ、其第二ノ証論ニ於テハ、一個ハ自己ノ中ニモアリ、他物ノ中ニモアリ、静息ニモアリ、運動ニモアリ、自己ト同様ニシテ又自己ト異ナリト言ヘリ、第一ノ証論ニ於テハ、其反對ニシテ互ニ破壊スベキ表現ヲ共ニ拒否シ、第二ニ於テハ共ニ之ヲ肯定セリ、

○布拉多ノ後ニ至リ、希臘人ハ明白ニハ理會シ難ケレドモ、此ノ如キ研

究ヲ以テ無益ナルコトト感ゼリ、布拉多ノ門人ノ時ニハ、理学ハ多少懷疑ノ性質ヲ帶フルコトトナレリ、余ハ何事ヲモ論定セズ、何事ヲモ論定セズト云フコトサヘモ之ヲ論定セズトイヘルハ、希臘ノ後代ノ理学ノ法外ナル決定ナリ、其後ニ至リ、理学ハ獨立シテ研究スルコトヲ止メ、神学ヲ以テ之ヲ混淆スルニ至レリ、布羅格路ノ如キハ謂ヘラク、人ノ識性ノミニテハ、何程勉強スルモ十分ノ智識ヲ得ルノ望ミナシ、惟不思議ナル神力ニテ賜與セラレタル灵魂ノミ、獨リ能ク外間ノ実物ノ薄光ヲ攫取スルコトヲ得ベシト、

○其後ノ理学（哲学）ノ走路ハ、古代ニ於テ研究シタル者ト同一ノ線ヲ取レリ、中古ノ時理学ノ再興スルニ及ビ、彼古代ニ於テ精密敏捷ナル識性ヲ悩マシタル疑問ト殆ント同一ナル事ヲ研究セリ、斯古拉（スコラス）派ノ無形学ニテハ、事物ノ性質ヲ熱心ニ考究シ、凡ソ現象中ノ併存（コキシ）ト連続（コトシ）トノ關係ヲ少シク見定メタリ、猶其争論ノ中ニ在ル者ハ虚現（コイト）実体（サネツ）トノ關係ヲ少シク見定メタリ、エンチ（エンチ）オカルト（オカルト）エフヒセン（エフヒセン）チイ（チイ）隱伏セル徳（ウチユス）実効アル原因（カウゼン）等ナリ、近代ニ於テ（蓋シ近代ノ初ヲ指ス）理学ト云界限ヲ認識スルニ止マル者ナリトイフコトハ未タ之ヲ發見セズ、他ノ一方ニ於テ、近代ノ無形学ハ思想ノ能ク為スベキ界限ハ、事物ノ能ク為スベキ界限ト其廣延ヲ同ウシ、又明白ニ理會スルコトヲ得ベク、且ツ意法（ロジック）ニ由リ連鎖スベキ所ノ表言ハ、何レモ真理ナリト假定セリ、此假定ヨリシテ馬勒不蘭（マレブラン）偶然ノ原因（オナカシヨ）イヘル（イヘル）理論ヲ發見シ、萊伯尼士（ライブニツ）前定ノ調和（プレ、エスタブリ、ハニエニイ）イヘル（イヘル）教義ヲ考ヘ、士畢那撒（スピノザ）ハ

宇宙ユニバーストイヘル理論ヲ立テタリ、此宇宙トイヘル理論ハ、無形学中ニ於テ、尤モ巨大ナル概念ヲ有スル者ニシテ、意法上尤モ大膽ナル者ナリ、又坎德ノ必須ノ真理ネセツサリ及ヒ黒傑ルノ不信実ナル發見モ共ニ此假定ヨリ生シタル者ナリ、黒傑ルノ説ハ最モ高峻ナレドモ、動搖不定ヲ免カレザル者ナリ、

○老尔德倍根以来、英國ニ於テ卓越ナル思想家輩出シ、人類ノ知識ノ關係ニ在ルコトリレチテ、オフ、セ、ヒューマン、ノウレシヲ定言シ、又心象学ノ考究ニ依リテ事物ノ神異ヲ穿索スルコトヲ公然ト抛擲セル者多シ、即チ霍畢士、駱克、休模、哈多黎、伯羅温、葱米士弥爾、哈米尔敦、曼塞尔ノ如キ其人ニシテ、現今是等ノ人ノ説ハ、猶流行シテ勢力ヲ有シ、其説ノ大部ハ適當ノ者多シ、然レドモ余輩ハ後ニ論スルガ如ク、是等ノ理学家ト雖ドモ、尚其論説ヲ以テ事実ニ適合セシムルコト能ハザリシナリ、彼等ハ初メテ能ク知識ノ干係ノ理ヲ定言セシト雖ドモ、尚十分ナル意味ヲ心ノ中ニ送入スルコト能ハズ、而シテ是等ノ人ハ、猶思想ノ為シ得ルカハ、事物ノ為シ得ルカト同一ノ界域ヲ有スルトイヘル説ヲ持セルヲ以テ、屢他ノ攻撃ヲ受クルコトアリシナリ、

○故ニ余儕方絶對ノ知識フソリユ、トウレヂトイヘル説ヲ全ク排撃スルコトニ付キテハ、前人ニモ未ダ其援助ヲ為シタル者ナシ、彼等ノ為ス所ハ明カニ余輩ノ為ス所ニ反スル者ナリト考フルコトヲ得ベシ、余輩ハ以上ノ諸学士ノ門人ヨリ、其無益ナル勉強ヲ為スコト、小兒ガ月ヲ見テ叫ビ、鍊金術

家アルケガガ理学ノ石ヲ探求スルト同様ナリト言ヒテ非難セラルベシ、彼等ハ必ス二個ノ難問ヲ發スベシ、曰ク、汝ハ何ノ名權ヲ以テ、理学ノ法則ニ據リテ万物ヲ論ズルト托言シタルヤ、曰ク、近年マデ理学家ガ考究シテ未タ其解ヲ得ザル大分ヲ抛擲シタルハ、理学ヲ以テ、陳腐ニシテ無益ナル者トシタルカ、是ナリ、

○余ハ敢テ非理ヲ以テ此誹難ニ答フル者ニ非ズ、先ツ第一ノ難問ニ答ヘテ曰ヘルニ、絶對ノ物ハ決シテ知ルコトヲ得ベカラズト論定スル所ノ人ハ、自然ニ彼布拉多、士畢那撒、黒傑ルヲ以テ、知ルベカラザル事ヲ知ラントシタル無益ノ考究ヲ為シタル者ト言ハン、然レドモ是等ノ人ノ考究ハ決シテ無益ナル者ニ非ズ、凡ソ我等ガ此城堡ノ堅固ニシテ破ルベカラザルノ真理ヲ証シタルハ、其初メ試ミタル攻撃ノ無益トナリシニ由リテ之ヲ知リタルナリ、若シ初メニ強キ敗衄ニ逢ハザリシセハ、我力ノ眞実ノ分量ハ之ヲ知ルコト能ハザルベシ、無形学士ガ初メニ外見ノミ堅固ナル建築ヲ為シ、不幸ニシテ劫初ノ罡風ニ吹倒サレシニ由リテ、心象学士ハ此ノ如キ土地ノ上ニハ此ノ如キ建築ヲ為スベカラズトイフコトヲ經験シ得タリ、否、理学家ハ自己ニ企テタリシ事ニ付キテハ、敗北シタリト雖ドモ、其実ハ其嘗テ得ント欲シタル物ヨリ大ナル結果ヲ得タリシ者ナリ、理学家ハ勇氣アル敗軍ニヨリテ人類ノ知識ノ關係ニ付キ、幾多ノ評論ヲ聚メ、勝レタル正味ヲ吾等ニ與ヘタリ、彼ハ物体ノ眞実アリ、アライ、イニ付キ、其假定説ヲ尽シタル上ニテ、其説ノ確立シ難シトイフコトヲ知レリ、

彼ハ或ル真理ヲ求メテ得ザルヨリ、我等ノ為メニ更ニ他ノ真理ヲ推論セリ、其真理ハ、将来ニ於テ功ヲ奏スベキ考究ノ根底トナル者ナリ、問、然ルトキ、勞力ノ如キコトハ價值アル結果ニハ非ザルカ、又問、人間進歩ノ道路ハ、険峻ニシテ勞力スベキ者ナルコトヲ回想スルトキハ、知識ノ干係ノ如キ根元ノ真理ヲ定メタルコトハ二十五世紀ノ勉力ノ成効トスベキ價值アル者ニ非ザルカ、又問、蒸氣機關ノ如ク有形力ヲ聚メテ其体ヲ具備セシムルコトハ、疲レタル經驗ノ二代或ハ三代ヲ要スル力、人心ニ於テ經驗上ヨリ、此事ハ知り得ベシ、此事ハ知り得ベカラズトイフコトヲ自己ニ確定スルニ至ルハ、百代ヲ要セザルベカラザルカ、

○第二ノ非難ハ、一直ニ之ヲ卻クルコトヲ得ベシ、絶対ノ知識ヲ得ルノ力ナキコトヲ評論シ、又精神ト事物トノ天性、及ヒ宇宙ノ根元ヲ定ムルノ力ナキコトヲ評論シタリトモ、是ニテ理学ノ位格ヲ降スベキ者ニ非ズ、此事ヲ以テ、理学ヲ指シテ陳腐ニシテ無用ノ物トナスベカラザルナリ、余儕ハ之ニ及ンテ前人ヨリハ理学ヲ尊敬シ、無形學士ガ喜ンデ其位格ヲ定メタルガ如ク、今ニ好領地ヲ以テ理学ニ保存セシムルナリ、

○何故ニ此説ノ真理ナルカトイフコトヲ頭ハサンニハ、先ツ理学ノ目的ヲ定メ、又理学ヲ利スル所ノ考究ノ性質ヲ定ムルヲ以テ必要ノコトトスベシ、凡ソ理学ハ知識ノ種類ノ正当ニ定メザルベカラザル者ナレバ、先ツ第一ニ知識ノ種々ノ部類ノ間ノ実ノ差異ヲ指定セサルベカラズ、又ヒロソフヒイ サイエンス  
理学ト科学トノ差異ノ点ハ何処ニ在ルカヲ示サザルベカラズ、

又理学科学ノ二者ト無学ナル常人ノ不完全ナル知識トノ差異ハ何ノ処ニ於テ之ヲ見ルカト云フコトヲ指定セザルベカラズ、

○定見ナキ人ニテモ、科学ハ自ラ尋常ノ知識ニ異ナリトイフコトヲ假定スレドモ、少シク之ヲ熟慮スルトキハ、其間ニ明白ナル差異アルニ非ズ、惟科学ノ知識ハ尋常ノ中等ノ人心ノ、高等ニ開發シタル者ニ過ギズ、完全ナル方法ト、此方法ニ由リテ得タル結果ニ至リテハ、科学ノ思考モ常人ノ思考モ別ニ差異アルコトナキナリ、

○凡ソ知識トイフハ、經驗上ノ彙類(又類別)ニ之ヲ言ヘリ、吾等ヲ困遶セル現象ニ遭遇スルモ、心ニ於テ其區別ヲ立テザルトキハ、智慧ノ働トイフ者ハナキコトナリ、最下等ノ動物トイヘドモ、種々ノ外間ノ勢力ガ種々ノ方法ヲ以テ其身ニ感スルノミニテ其物ノ現存スルコトヲ認定スルナリ、最モ単一ナル受造物ノ如キモ、己カ周圉ニアル物ヲ有機無機ニ區別シ、又明ト暗トヲ區別スルコトヲ得ベシ、清水中ニ住ム小虫ノ如キハ、日光ノ照セル盂中ニ在ルトキハ、明ヲ避ケテ暗ヲ求ムル者ナレバ、是等ハ明ト暗トヲ區別シ得ル者トイフベシ、是ヨリ高等ノ動物ニ至リテハ、知覺ノ機關及ヒ神經ノ聚合セル組織アルヲ以テ、其區別ヲ為スコト、更ニ完全ニシテ、凡ソ己ガ為ニ多少ノ利用アリ、食物ニ要スルノ効アル植物、又ハ己レヨリ弱キ動物ノ種類ノ間ノ區別、及ビ利用シ、害ヲ為スベキ無機物ノ種類ノ間ノ區別、及ヒ我敵トナルベキ強猛ナル動物ノ種類ノ間ノ區別ノ如キハ、其間ニ何レモ己レノ希

望セル目的ヲ得ルト、恐ルベキ危害ヲ避クルトノ種々ノ方法ヲモ其内ニ含有シテ其區別ヲ立テ、以テ經驗上ノ廣大ナル比較ト類別トノ知識ヲ造成スルナリ、此外ニ又特別ナル品等ノ區別、即チ香、音、寒熱ノ種類、高度等ヲ分別スルコト、或ル場合ニ於テハ、人類ノ心ヲ以テ実験スルヨリ精密ナルコトナリ、殊ニ犬ノ如キハ何レノ時ヨリカ人類ノ朋友及ヒ其僕隸トナリシ者ニシテ、以上ノ諸知識ノ外ニ又粗ナル道德ノ知識ヲ有シ、例ヘバ隣家ノ羊羣ヲ奪ハントスル者アルトキハ、之ニ対シテ忿怒ノ所行ヲ現スコトアリ、

○昇リテ人類トナリテモ、其知識ヲ得ルコトハ全く同シ方法、即チ區別ヲ立ルニ由リテ獲得進歩スル者ナルコトハ、前ニモ之ヲ言ヒタルガ如シ、今爰ニハ惟大畧ヲ記セント欲ス、人類ガ幼年ノ時ニ得ル所ノ要用ナル知識ハ、皆其者ノ性質ニ從ヒテ區別ヲ立ルコトニアリ、次第<、ニ其物ノ硬固ト柔軟、甘ト酸、脆ト弾力、粗糙ト滑澤、湿ト乾、円ト角トヲ區別シ、又次第<ニ冷暖、音声、色彩ノ種類ト段階トヲ區別シ、又抵抗スル者ハ物質ニシテ、抵抗セザル者ハ空間ナルコトヲ知ル、是ヨリ生命ノ終尾ニ至ルマデモ、人知ノ學問ハ經驗ニ由リテ毎ニ進歩シテ止ムコトナシ、是ニ依リ、人ノ習慣上<sup>○</sup>ヨリ言フトキハ、事物ノ目的及ヒ其目的ト方法トノ關係ニ付キテ次第ニ完全ニ區別ヲ分ツコトヲ得、又理論上<sup>○</sup>ノ教育ヨリ言フトキハ、數學、格物、生器、法律、道德等ノ學ニ由リテ、次第ニ完全ナル組立ノ中ニ支分區別スルコトヲ得ルナリ、凡ソ其行為ノ道

路ト其幸不幸ヲ感ズル結果トノ間ノ干係ヲ尤モ明白ニ區別シ其將來ヲ明白ニ了得シテ其行為ノ線ヲ定ムル者ハ之ヲ智者ト云ヒ、又之ヲ堅固ナル判断者トイフナリ、マスタル彌爾ハ謂ヘラク、類似セル言語ヲ明白ニ區別シ、概念ノ聚合ノ精細ナル区分ヲ精到綿密ニ了解スル所ノ人ハ即チ完全ナル教育ヲ受ケタル人ナリ、モシ教育ノ度較低キトキハ、其概念ヲ以テ單一ナル者ト考ヘテ之ヲ推理シ、又ハ合一シテ之ヲ混淆スルコトアリト、

○上文ニ段々記セル所ニ由リテ、凡ソ知識ハ類別<sup>○</sup>ヲ立ツルニアルヲ以テ、智慧ノ度ノ高低ニ応ジテ、類別ノ立テ方ノ完全ニ亦多少ノ度アリト云フコトヲ知ルヲ得ベシ、心ノ開暢ノ至テ低度ナル者ハ現象中ノ甚シク反対セル物ノミ之ヲ類別スルコトヲ得、又其類別モ惟少數ノ種類ニ之ヲ分ツノミニシテ、其廣サノ界限モ不定ニシテ、其材料モ甚纏マラスモノナリ、是ニ異ニシテ智慧ノ進度増進スルトキハ、現象ヲ尚細分シテ之ヲ定ムルコトヲ得、是ニ由リ其反対セル者ハ漸々ニ狹隘トナリ、其界限ハ段々精密ニ限定シ、其材料ハ漸々ニ堅固トナルナリ、此ノ如ク得タル知識ハ、言語ノ完全ナル意味ニ於テ之ヲ科学上<sup>○</sup>ノ知識トイフナリ、然レドモ此知識ナリトテ別ニ天外ヨリ來レル者ニ非ズ、惟尋常ノ凡庸ノ知識、即チ小兒、野蠻、又ハ禽獸ノ得タル所ノ知識ノ、十分ニ開暢シテ高等ノ地位ニ達シタル者ナリ、犬ト獅トノ如キモ、必ス其心ノ中ニハ、晝ノ光明ナル天ニハ、一個ノ爛々タル固体ノ輝クアリ、夜ノ青白色ノ天ニハ、

無數ノ小ナル光輝ノ天ヲ以テ之ヲ飾レルコトノ間ヲ分別スルナルベシ、夜中ニ遊行スル所ノ野蚕ハ、星ノ種類ヲ粗畧ニ區別シ、以テ其土地トノ關係ヲ判断ス、<sup>(メンボタミア)</sup>美索波太迷ノ牧羊人、<sup>(アツシイカ)</sup>亜的架ノ農人ハ、其上更ニ衆星ノ中ニ規則正シク其道路ヲ行キ、又ハ不規則ナル道路ヲ行ク者アルコトヲ區別シ、又其昇降ノ時ニ由リテ星ノ種類ヲ分ツガ如キハ、已ニ粗末ナル科學上ノ研究法ニ達シタルトイフベシ、夫ヨリ大ニ進ンデ今日ノ天文学士ニ至レバ、天象ヲ以テ、太陽、行星、衛星ノ如キ相互ノ精密ナル干係ニ由リテ區別シ、又其觀ルベキ大サ、或ハ觀ルベキ天空ノ角度ニ從ヒテ類別シ、其自轉、其角度上ノ早サ、其軸ノ傾キ、其特別ノ重サ等ノ如キ、已ニ其確証ヲ得タル者ニ從ヒテ區別シ、而シテ又僅少ノ場合ニ於テハ、<sup>パクトラム、アナリス</sup>分光鏡ノ上ニ落タル光輝ノ分解ニ由リテ、其形体ノ構成ヲ類別スル等ニ至リシナリ、下等ノ野蚕ノ如キモ亦同シ方法ヲ以テ植物ト動物トノ間ニアル大ナル反対状ニ注目シ、更ニ其大ナル羣彙ノ内ニ付キテ小ナル區別ヲ立テ、以テ此物ハ食物薬用ニ必要ナリ、彼物ハ毒物ナリ又危害ヲナス物ナリトイフコトヲ定ムルナリ、又一方ニ於テ、科學ノ博物學士ハ、之ヲ分解シ之ヲ細分シ、以テ昆虫ノ種類ヲ分チテ數千種トナシ、植物ノ如キハ、其葉ノ形状、杖ノ螺状ノ装置、種子ノ數、木理ノ纖維ニ從ヒテ許多ノ種類ヲ分ツニ至レリ、

○余儕更ニ又推理<sup>リソフ</sup>ノ法ヲ用ヒテ、其<sup>クラシヒケーシヨン</sup>類別セル者ヲ聚合シテ觀ルトキハ、更ニ明白ナルコトナリ、野蚕ノ如キモ或ル<sup>オブセクト</sup>物ト或ル

<sup>アクト</sup>行為トノ間ノ干係ヲ其經驗ニ由リテ発見スルトキハ、同様ノ干係ノ將來ニ於テ亦興ルベキコトアルヲ判決スルナリ、若シ亦形体ノ性質中ノ或ル者ニ付テ、各別ノ種類ニ指定スルコトヲ得ベキ總テノ性質ヲ以テ之ニ歸スルトキハ、之ヲ稱シテ推度<sup>インフェレンス</sup>ノ行為(働キ)トイフ、<sup>セクレテ</sup>概括シヨントハ、同一ナル關係ヲ現ハス所ノ場合ヲ以テ、一個ノ種類ニ聚合セシムル者ナリ、<sup>シテ</sup>演繹ハ前ニ概括シタル場合ノ或ル種類ニ屬セル各個ノ種類ノ認識ナリ、<sup>シテ</sup>類別ハ同ジ物ヲ聚合シタル者ニシテ、<sup>シテ</sup>推理ハ物ノ中ニアル同シ關係ヲ聚合シタル者ナリ、<sup>シテ</sup>類別ニ付キテ漸々ニ仕上ゲタル完全ハ、十分ニ同様ナル物ノ羣ヲ造ルニ由リテ成リ、<sup>シテ</sup>推理ニ付キテ段々ニ仕上ゲタル完全ハ、全ク同様ナル場合ノ羣ヲ造ルニ由リテ成ルナリ”(土邊撒ノエツセイ)、

○知識ハ類別スルニ由リテ成ルノ理ハ上ニ言ヘルガ如シ、之ヲ背面ヨリ言フトキハ、無知ハ類別スルコト能ハザルニ由ルトイフベシ、即チ同様ナル現象ヲ聚合シテ一ト為スノ力ニ乏シキ者ナリ、又全ク同様ナラザル現象ヲ誤リテ同一ノ者トシテ之ヲ聚合スル者ナリ、凡ソ小兒ハ未タ硝酸ノ物ヲ焼クトイフコトヲ知ラズ、故ニ手指ヲ硝酸中ニ入ル、モ、熱キ金類ニ觸ル、モ同様ノ場合ナルコトヲ聚合シテ一トスルコトヲ知ラズ、又古代ノ人ハ、行星ガ其軌道ヲ守ルノ力ノ何物タルコトヲ知ラズ、故ニ此力ヲ以テ、地球ガ月ヲ引キ、地球ガ平果ヲ引クト、同シ場合ナリシテ之ヲ聚合スルコト能ハズ、又月ノ運行スルハ、之ヲ管理スル女神ノ意ニ出

タリトイヘル誤ヲ信ズル者ハ、天空ヲ通行スル天象ト、車夫ノ力ニ由リテ地上ヲ通行スル車ト、全ク其場合ヲ異ニスルモ、猶之ヲ聚合シテ一樣ノ場合トセリ、又日蝕ニ由リテ生スル所ノ冠状ノ火氣、及ヒ其他ノ簡單ナル現象ニ付き、十分ニ其理ヲ会得セザルトキハ、従前ニ經驗シタル所ノ現象ト此現象トヲ聚合スルノ方ヲ得ルコト能ハズ、

○以上ニ於テ言語ノ冗長ヲ犯シテ尋常ノ知識ト學問上ノ知識トノ同様ナルコトヲ詳説シタリ、是ヨリ以下ハ、尋常ノ知識ト學問上ノ知識ト差異アル所ヲ挙ントス、此二者ノ差異ハ種類ニ非ズシテ等級ノ異ナルニアリ、

○先ヅ第一ニ言フベキハ、學問ノ知識ハ尋常ノ知識ニ比スルトキハ、分量上ノ先知コテンチイナチ、エウラフ、エタト、プレヒシヨシニ大ニ同シカラザル所ナリ、即チ或ル原因ニ由リテ生スル効能ノ多少ニ付キテ預メ指定スルノ分量ニ異同アルコトナリ、單一ナル先知ハ敢テ特別ニ學問ニ属スル者ニ非ズ、我儕數々學問上ノ知識ハ、區別ノ性ヲ有スルヲ以テ事物ヲ先知スルコトヲ得ルノ幹能アルコトヲ言ヘリ、又學問上ノ先知ノ慥ナルコトハ既ニ巨大ノ勝利ヲ得タル者トシテ陳説セリ、今學童ガ石ヲ大氣中ニ擲ツニ、其童子ハ、其石ノ落ルヲ先知スルコト、天文学者ガ日月蝕ノ返帰ヲ先知スルト同様ニ確然ナリ、其先知ハ事実ヲ誤ルコトナシト雖ドモ、尚疎漏ニシテ不堅固タルコトヲ免カレズ、下婢ガ引火奴ヲ用フルニ方リテ、火ハ燃ルナリ、烟ハ烟筒ニ上ルナリトイフダケハ、化学ヲ以テ教フルヲ要セズシテ自ラ之

ヲ知レリ、然レドモ其養氣ト炭氣ト和合ノ秤量、及ヒ其燃料ヨリ發スル氣ノ容量ト、室ヲ暖ムルニ至ルベキ光焰ノ熱度ニ至リテハ、少シモ之ヲ知ラザルナリ、故ニ此下婢ノ先知セルハ、其物ノ性質上ノコトニシテ、分量上ノコトニ非ズ、下婢ハ効能ノ種類ヲ先知スレドモ、其容量ヲ先知スルコト能ハズ、

○更ニ之ヲ再考スルトキハ、以上ノ定論モ未タ真理ノ全体ヲ言ヒ尽スニ至ラズ、下婢ガ効能ノ種類ヲ先知シタリト言フモ、未タ十分ノ真理ニ非ズ、下婢ハ只其一分ヲ先知シタルノミナリ、下婢ハ其薪木ノ必ス燃ルトイフコトヲ言ヒ得ベシ、然レドモ養氣ト炭氣トノ結合ノコトニ至リテハ少シモ之ヲ知ラズ、故ニ性質上ノ先知ニ関シテモ、猶學問上ノ高等ナル理ヲ解説スルコト能ハザルナリ、又一方ヨリ言フトキハ、下婢ハ其粗野ナル働ノ後ニ、將來現ハルベキ効能ノ分量ヲ先知セリ、即チ其婢モ少シク智心アルトキハ、適度ノ温ヲ取ルニ至ルベキ薪材ノ分量ヲ料ルコトヲ得ルナリ、又野蚕ノ民ガ其矢ヲ遠キニ達セシメンガ為メニ、其弓ニ與フベキ必要ノ張力ヲ預料スルナリ、故ニ性質上ノ先知ニ付キテ言フモ、其精密ト廣大トニ至リテハ、學問上ノ知識ト尋常ノ知識トハ大ニ異ナル所アリ、學問ト尋常ノ知見トノ間ニ大ナル差異アルガ如ク、亦善ク發達セル學問ト、發達ノ不十分ナル學問トノ間ニモ同様ナル差異アルコトナリ、高等ノ完全ニ至リタル學問ハ分量上ノ先知ヲ、最遙ナル遠方マデ届カシタル者ナリ、天文学ト氣象學ト比較スルニ、天文学ハ、一万年後ノ

日食ヲモ精密ニ其時刻ヲ測ルコトヲ得レドモ、氣象学ハ一週間ノ天氣ヲ測ルコト能ハズ、此ニ学ノ完全ノ度ハ実ニ尺度ヲ以テ量リ難キホドノ差異アリ、又化学ト生器学トヲ比較スルニ、化学ハ其既ニ學知シタル性質ノ物ト、他ノ新ナル物質ト混合シタル後ニ生スル所ノ効果ノ分量ヲ精密ニ之ヲ知ルコトヲ得レドモ、生器学ハ、其生器中ニ注入スル所ノ藥物ヨリ生シタル効果ノ分量ヲ精密ニ知ルコト能ハズ、是ニ由リ余儕ハ化学ノ進歩、大ニ生器学ノ上ニ在ルコトヲ知ルナリ、又或ル学問ノ成リタル最初ノ日時ト云フハ、即チ其分量上ノ品性ニ付キ、明白ナル先見ヲ定メタルノ日ナリ、動力学○ハ伽利略ガ落体ノ其速度ヲ増スノ理ヲ見定メタル○時、初メテ学問トナリタルナリ、化学ハ、ラホアシ、デモルビエー、ダルトンノ諸人ガ必要ナル万物ノ原質合成ノ割合ヲ精密ニ発見シタルトキ、初メテ学問トナリタルナリ、熱ヒートノ学ハ、寒暑針ヲ作り、其寒熱ノ度ヲ精密ニ量ルコトヲ得ルニ至リ、初メテ学問トナリタルナリ、視学ノ如キモ割線、圓線、屈曲線ノ角ノ正弦線ガ互ニ割合ヲ有スルコトヲ発見シタル時ニ学問トナリタル者ナリ、又マスタルジニールガ熱ノ或ル度ハ器械上ノ或ル運動ト比例スルコトヲ発見シタルニ由リ、熱動力学○ノ学起リ、簡單ナル法式ニ依リテ、從來ハ全ク別異ナリトセシ諸力ノ働ヲ解釈スルコトヲ得タル者ナリ、

○学問上ノ知識ト尋常ノ知識ト第二ノ區別ハ、同ノ不同ノ間ノ關係ニ大ナル差異アリテ、学問上ニハ多ク発見シ多ク種別スル所アルコ

ト是ナリ、小兒ハ今柑子ノ其前ニ出ヅルヲ見ルトキハ、其心ニ之ヲ食フトキハ其味ノ美ナルコトヲ判定ス、蕃民ハ半食ハレタル羊ノ屍ヲ見ルトキハ、其近所ニ獅子ノ在リシコトヲ判断ス、シベリエー羊ハ天王星ノ運動、其預定ノ運動ニ密合セザルヲ以テ、是ヨリ遠方ニ更ニ行星アリテ、天王星ノ運動ヲ揚乱スルコトヲ推察セリ、小兒ハ柑子ノ性質ヲ其心ノ中ニ聚合シ居リ、若シ其後其性質中ノ一分、即チ形トカ色トカノ如キ者、其自識中ニ現ハル、トキハ、其他ノ性質ノ一分、即チ美味ナル者其心中ニ再現スルナリ、又蕃民ハ直接ニ風聞ノ經驗ニ由リテ、獅ガ羊ヲ食フコトノ場合ヲ心中ニ聚合セリ、而シテ其場合中ノ或ル現象ノ現出スルニ由リテ、其嘗テ聚合セル場合ト新ナル現象ト合シテ類別ヲ立テ、以テ嘗テ知リタル原因ト同様ナル原因ニ由リテ此現象ヲ生シタルコトヲ判断セリ、又天文学士ハ天象ノ運動ノ現象ト、重力ノ現象トヲ心中ニ結合シ、此重力、他ノ方角ヨリ行星ヲ引キテ其運動ノ度ヲ擾乱セシメタルコトヲ心中ニ聚合セリ、故ニ若シ此時天文学士ガ已ニ知リタル働ヲ算シタル後ニ、解釈スベカラザル所ノ混雜ノ運動ヲ見タルカ、彼ハ混雜セル運動ノ原因モ亦同様ナル力ナルコトヲ定メタリ、而シテ物質○ノ外ニハ力ヲ生スベキ物ナキヲ以テ、嘗テ知リタル行星ノ外ニ別ニ行星アルコトヲ決定セリ、彼ハ更ニ其推測ノ説ヲ加ヘテ、行星ガ相互ニ混雜セシムル場合ノ範圍ヲ大ニセリ、

「宇宙哲學第一冊」解題

「宇宙哲學第二冊」は、八二七—一二二「宇宙哲學」に単独でまとめられている。

「宇宙哲學第二冊」は、John Fiske (一八四二—一九〇二)の著述である *Outlines of Cosmic Philosophy based on the doctrine of evolution, with criticisms on the positive philosophy 1874* の部分訳である。

本書は、二巻本であり、第一巻に序文があり、本文は四六五頁、第二巻の本文は五〇八頁で、第二巻に索引が付いている。全体の構成は、Part I から Part III までの三部構成であり、それぞれの部門の中に Chapter を置いている。

西村が翻訳した箇所は、本文冒頭の Part I Prolegomena の Chapter I から Part II の中途までである。本文冒頭から三五頁までである。

Prolegomena を総論 Chapter を篇と訳しているが、Part については訳語をつけていない。西村の訳した「哲学語解」にフィスケへの言及がある。

John Fiske は、アメリカの哲学者、歴史家である。一八四二年コネチカット州に生まれ、一九〇一年に没している。西村の翻訳したこの書物では、自然科学的知識の相対性を明確に指摘し、伝統的な形而上学による自然の擬人観による無限性や絶対性の主張に代えて、自然の進化と人間の進歩における「コスモス」としての無限性と絶対性を主張している。

それは、ダーウィンの進化論とハーバード・スペンサーの社会的進化論の影響のもとに、自然科学とキリスト教との調停を試みたものということができる。彼の試みは、孤立したものではなく、当時のアメリカにおいて、*Cosmic Philosophies* という一つの哲学的潮流があり、その流れのなかにあったのである。こうした潮流がアメリカに与えた貢献は、ヨーロッパの主要な哲学的傾向についての知見をアメリカにもたらした点とである。とくに、自然や自然秩序についての新たな観念がヨーロッパの哲学や神学に引き起こしていた変革について、一定の社会的認識を生み出したところに重要な意味がある。

フィスケの著書の翻訳には、次のものがある。

杉浦義道訳『近世進化新論』明治二六(一八九三)年、*The Destiny of Man: Viewed in the Light of His Origin.*

鎌田亥四郎訳述『有神新論』明治二七(一八九四)年、*The Idea of God as Affected by Modern Knowledge.*

田中達訳『人の運命』明治三九(一九〇六)年、*The Destiny of Man: Viewed in the Light of His Origin.*

田中達訳『神の観念』明治三九(一九〇六)年、*The Idea of God as Affected by Modern Knowledge.*

米國 約翰 希斯克 著

日本 西村茂樹 譯

概論

第一篇 知識ノ管係

○余儕今金塊木塊ノ如キ物質ノ一分ヲ取リテ之ヲ考思スルトキハ、吾等ノ知覺ヲ以テ、其物ノ十分ニ堅硬ナルコトヲ知ルナリ、吾等ノ視官觸官ノ認識力ヲ聚合シテ之ヲ檢スルモ、其物ノ体中ニ些ノ缺孔アルコトヲ看ズ、吾儕是ヲ以テ此物質ノ分子ハ相互ニ甚タ密接スルコトヲ想像シ得タリ、然レドモ吾意見ヲ分解スルトキハ、此ノ如キ想像ハ、明力ニ愚蒙タルコトヲ知レリ、吾儕、此ノ如キ物質ノ諸部ノ壓低スヘキコトヲ思ヒ出サルベカラズ（即チ従前ヨリハ狹少ナル空間ヲ占領スルコト）又此壓低ハ物質ノ分子ノ、以前ヨリ更ニ密接セル者ナルコトヲ囿思セサルベカラズ、蓋シ分子ト分子トノ間ニ空隙アルニ非サレハ此ノ如キ状ヲ現スルコト能ハザルナリ、故ニ吾儕ハ、凡ソ認識スベキ物質ヲ成ス所ノ微分子ハ、實ニ相接合スルニ非ズシテ、其間ニ分子ノ入ラサル所ノ空間アリテ分子ヲ隔絶スル者ナリト定メサルコトヲ得ザルナリ、

○然レドモ此事ニ付キテハ、或人ノ注目シタルヨリ更ニ打勝チ難キ困難アリテ、吾儕、上ニ記セル假定論ノミヲ以テ十分ニ躲避所ト為スコト能ハザルナリ、吾儕万物ヲ実験スルニ由リテ、粘着カト重力トハ、常ニ物

質ノ分子ヲ強テ相互ニ密接セシメ、又抗拒力及ヒ暖氣ハ、常ニ其分子ヲ強テ遠距ニ分離セシメントスト考ヘタリ、吾儕ハ是ニ由リ、牛董ト共ニ、物質ナル者ハ、堅硬ナル微分子ヨリ成リ、而シテ其分子ハ常ニ十分ニ密接セズ、牽引ノカト抗拒ノカトノ兩者ヲ以テ、分子ノ距離ノ度ニ從ヒ、遠近ト強弱ト相反対シテ其力ヲ現ハス者ナルコトヲ假定セリ、

○問、然ルトキハ此假定セル微分子ハ如何シテ何物ヲ以テ成レルヤ、此分子ハ分ツベキ者ナルカ分ツベカラザル者ナルカ、若シ分ツベキ者ナラバ、其分チタル分子一分ニ付キテ猶言フベキコトアルカ、此分子ハ更ニ再ヒ分解シ、此ノ如クシテ際限ナク分解シ得ベキ者ナルカ、若シ分解シ得ベキ者ナリト答フルトキハ、吾等ハ直チニ二重ノ疑難ニ遭遇セサルベカラズ、其故何ントナレバ、其一方ニ於テハ吾等ノ思想ニ於テ、此ノ如キ物質ヲ際限ナク分解セントスルニハ、思想ノ幹能ナケレバナリ、他ノ一方ヨリ言フトキハ、若シ此ノ如キ無限ノ分解ヲ為サントスルニハ、吾心ニ於テモ無限ノ度數ノ思想ヲ用ヒザルベカラザレバナリ、又他ノ一方ヨリ言フトキハ、若シ物質ヲ結合スル所ノ分子ヲ以テ、分解スベキ者ト為ストキハ、吾等ハ其結合ノ最初ヲ究メザルベカラザルノ困難ヲ避クルコト能ハズ、此分子ノ每一個、更ニ皆分解スルコトヲ得ベキナラバ、其分子ノ一個トイフ者ハ、唯木塊金塊ノ形ノ小々ナル物者ト言ヒテ可ナラシノミ、此分子ノ更ニ分解シタル微分子ナル者ハ、之ヲ見ルコト能ハザレドモ、是亦決シテ直チニ相密接セル者ニ非ズ、然ルトキハ、是亦相密

接セザル所ノ微塵ヲ以テ成立シ、其間ニ牽引ト抗拒トノ相反セルニ力アリテ、微塵ト微塵トノ距離ヲ保チ居ルコトナルベシ、因テ再ヒ問ヲ發シテ曰ク、此ノ如キ微塵ハ分解スベキ物ナルカ、分解スベカラザル物ナルカ、其分解ノ度ハ際限ナキノ所ニ至ルベキ者ナルカ、

○物質ヲ造成スル所ノ分子ハ分解スベキ物ナリト言フトキハ、上文ニ記セル如キノ困難ニ出合フベシ、因テ今茲ニ此ノ如キ微分子ハ、分解スベカラザル物ナリトイフ説ヲ立テントス、若シ此説ヲ主持スルトキハ、疑ヒナク化学ノ実験説ト和合スルコトヲ得ベシ、然レドモ其全ク分解シ難キニ至ル所ノ微塵ハ、人智ヲ以テ其如何之ヲ了知スルコト能ハサルベシ、果シテ此ノ如キ物アリトスルトキハ、其微塵ハ亦上面下面、右側左側等ナカルベカラズ、若之ヲ円形ナリトスルトキハ、其大小ノ周圍アリテ、多少ノ地面ヲ占領セザルベカラズ、然レドモ、吾等ノ知力ヲ以テ、其微塵一粒ノ面甚相密接シテ、其上ニ瑕裂ナシトイフコトヲ想像スルコト能ハズ、又若シ円形ナルトキハ、之ヲ分チテ兩半球ト為スコトヲ得ベキ否ヤヲ想像スルコト能ハズ、又其微塵ニモ強キ凝聚力アリテ、他ニ同様ナル破開力アルモ之ヲ抵抗シテ其形体ヲ保チ得ル者ナルカラフ想像シ得ルコト能ハズ、

○今物質ノ分子ガ、牽引ノカト抗拒ノカト以テ、相互ニ其隣接セル分子上ニ働ク所ノ方法如何ヲ熟考スルトキハ、吾儕亦遲疑ヲ生セザルコトヲ得ズ、マスタル、斯分色曰ク、<sup>(スベンザル)</sup>凡ソ物質ハ、其牽引ト抗拒トノ力ヲ發

現セル時ノ外ハ、吾儕之ヲ領受スルコト能ハズ、吾等ノ筋力ニ抗敵スルノ有無ヲ以テ形体ト空間トノ區別ヲ自覺スルコトヲ得、而シテ此抗敵ハ二種ノ形状ヲ為ス、一ヲ凝<sup>ウ</sup>聚トイヒ、吾等ガ之ヲ破裂スルヲ礙ゲ、一ヲ抵抗トイヒ、吾等ガ之ヲ壓低スルヲ妨グルナリ、抵抗ナキトキハ、只空<sup>ウ</sup>虚ナル廣<sup>ウ</sup>寬<sup>ウ</sup>ニシテ、凝<sup>ウ</sup>聚ナキ時ハ、亦抵抗モアルコトナシ、故ニ吾儕、凡ソ万物ハ皆相互ニ牽引抗拒スル所ノ分子ヨリ成ルト考ヘザルコトヲ得ズ、其故ハ此事ハ、吾等ガ万物ニ付キテ經驗スル所ノ形ナレバナリ、然レトモ、言語ヲ以テ述フルトキハ、何ノ処ニモ壓<sup>ウ</sup>住<sup>ウ</sup>ト引張トハ併立スル者ナリト陳説シ得レドモ、此分子ヲ抗拒スル際ニ彼分子ヲ牽引シテ、物体ノ最後ノ結合ヲ為ストイフコトヲ實際ニ明示スルコトハ、遂ニ能ハザルノコトナリ、

○此説ハ未タ以テ彼、空間ヲ以テ分隔セル小分子ノ相互ニ牽引シ、又抵抗ストイヘル設<sup>ウ</sup>使<sup>ウ</sup>説<sup>ウ</sup>シヌ<sup>ウ</sup>苦<sup>ウ</sup>マ<sup>ウ</sup>スル困難ノ最後ノ者トスル能ハズ、何則此設使説ハ、一个ノ分子ハ、全ク空虚ナル地ヲ過ギテ他ノ分子ノ上ニ働キ及ブトイフコトヲ理會セザルヘカラサルコトナレバナリ、問、吾等ハ、此ノ如キ働キヲ理會スルノ知アラザルカ、吾輩如何シテ此困難ヲ通レ得ベキカ、凡ソ分子ト分子トノ間ニハ、極微細ナル流動物アリテ之ニ先ツ、此流動物ハ所謂秤量スベカラザル所ノ精<sup>ウ</sup>氣<sup>ウ</sup>ト稱スル物ニシテ、格物學士ガ屢々稱道スル所ナリ、吾儕、此精氣ノ説ニ據ラザルベカラザルカ、若シ然ルトキハ、問題ハ、其地位ヲ變スルナルベシ、吾儕今分子ノ間ニ極

微ノ流動物アルトイヘル設使説ニ付キテ考究スルモ、以前ヨリ格別ニ善キ考案ヲ得ルコト能ハズ、此流動物ハ何程極微細ナリトモ、ヤハリ物質中ノ微細ヲ極メタル形体ナリトシテ考ヘザルコトヲ得ズ、此物流動物ハ、全ク認識ヲ以テ其重サヲ感知スルコト能ハザル者ナレバ、余儕ハ、之ヲ以テ細微ノ極端ニ達セル緻密ヲ有スル者ト考ヘサルコトヲ得ズ、即チ秤量スベシト名クル物質ノ分子ト分子トノ間ノ空間ト比スルトキハ、此流動物ノ分子ト分子トノ空間ハ、其分子ノ割合ニ比スレバ、其空間ノ割合ハ、却テ大ナル者ト考ヘサルコトヲ得ズ、故ニ此精氣ニ付キテ実索スルモ、前二記セル物質ニ付テ考究スルト同ジク、左ノ疑問ヲ發セサルコトヲ得ズ、問、此精氣ハ、分子ハ如何シテ、相互ニ空虚ノ地ヲ過ギテ、其働ヲ及ボシ得ルヤ、搬移スル手立ナキノ処ニ於テ、如何シテ其働ヲ搬移スルヤ、此疑問ニ向ツテハ、嘗テ明答アリシコトナク、又明答ヲ案ジ出スコト能ハザルベシ、

○故ニ今論擧スル所ノ困難ハ、何レノ方ヲ採ルモ共ニ吾等ヲ困迫セシムルニ足ル者ナリ、吾儕若シ物質ハ、十分ニ硬固ナリトイフ説ヲ取ルモ、又ハ物質ハ十分ニ鬆疎ナリトイフ説ヲ取ルモ、共ニ分鮮シ難ク、遁避シ難キ疑問ニ觀面スルコトヲ免カレ難シ、

○吾儕今此宇宙ヲ造成スル所ノ物質ノ、最終ノ構造ヲ考究シ、又此宇宙ノ根元ハ何物ナルカト云フコトヲ考究スルトキハ、遂ニ理會シ難キ暗昧ノ地ニ沈没セザルコトヲ得ズ、此宇宙ノ根元ヲ推考スルコトニ付キ、巧

ニ言論セル三個ノ設使説ヲ造出セリ、其一ヲアテイストト云フ、宇宙ハセルフ、エキシスチング自己ニ成立存在スル者ナリト説ク者ナリ、其二ヲパンテイストト云フ、宇宙ハ自己ニ創造セルト云フ説ナリ、其三ヲテイストト云フ、宇宙ハ他ノ外物ノ力ニ由リテ成ルト説ク者ナリ、今此三個ノ説ヲ並ヘ掲ケテ之ヲ觀ルニ、其何レカ眞理ニ合フトイフコトハ容易ニ決斷スルコト能ハズ、唯其何レカ理會シ得ベキト云フコトヲ決斷スルヲ以テ足レリトスベシ、

○理学ノ法ニ遵フトキハ、自己ニ成立セルトイフアテイストノ説ハ、果シテ眞理ニ協ヘルカ、或ハ然ラザルカヲ決定セザルベカラズ、然ルニ之ヲ決定スルコトハ（或ル度ニ於テ）為シ能ハザルノコトナリ、吾儕、自己ニ成立ストイフ語ニ於テ、眞実ナル返答ヲ定ムルコト能ハズ、其故ハ自己ニ成立ストイフトキハ、外ヨリ來レル物ニ由リテ成立セルニ非ザルコトハ明白ナルコトナリ、而シテ又他ニ原因アリテ之ヲ約束シ、之ヲ定メタルニ非ザルコトモ亦明白ナレバナリ、故ニ自己成立ノ説ヲ主張スルトキハ、万物ニ原因アルノ説ヲ廢棄セザルベカラズ、原因ノ説ヲ廢スルトキハ又元始コメントノ説ヲモ拒否セザルベカラズ、其故ハ、成立ノ初マル時アリト言フトキハ、其成立ノ始マルハ、或ル原因ニ由ル者ナリトイフ説ヲ許容セザルベカラザレバナリ、而シテ若シ此ノ如ク説クトキハ自己成立ノ説ニ相反スルノ説トナルナリ、故ニ若シ自己成立ノ説ヲ立テントスルトキハ、此宇宙ノ成立ハ、際限ナキ古代ヨリ自己成立者ニシテ、其成立ノ力ハ、現世ニ在ル諸力ノ遠ク及フ所ニ非ザル者ナリト假定セザルベ

カラズ、

○又パンテイストガ、自己創造ノ説モ、前ト同シク理會シ難キ所ノ説ナリ、自己創造トイフトキハ、自己成立ト同様ニ、外ヨリ来リ及ボス原因トイフ物ノ考ヲ廢棄セザルベカラズ、若シ此宇宙、外ヨリノ原因ニ由リテ、或ハ無成立ヨリ、或ハ成立ノ勢ヨリ、現実ノ成立トナル時ハ、明カニ之ヲ以テ自己創造ト為スコト能ハズ、唯此宇宙、年久シキ時代ノ間、或ル形体ニテアリシヲ、別ニ原因ナキ變化ニ由リテ、現今ノ形体ト為リシト假定スルトキハ、稍自己創造ノ義ニ協フコトアルベシ、然レドモ此ノ如キコトハ、決シテ有ルベカラザルノコトナリ、

○テイストノ説ノ如キモ、是ヲ以テ務メテ吾考思ヲ助ケント欲スレドモ、到底前ノ二者ト同シク理會シ難キノ説タルコトヲ免カレズ、先ツ第一ニ、無物ヨリ有物ヲ造成ストイヘル働アロソセトイフ者アルコトハ、全ク吾考ニ上ルコト能ハザルノコトナリ、第二ニハ、先ツ暫ク此宇宙ハ、他ノ力ヨリ来レル力ニ由リテ、無物ヨリ成ルト假定スルモ、其所謂力ハ何レノ所ヨリ来レル者ナルヤ、吾儕ハ此宇宙ノ外ニ別ニ其力ヲ起スノ原因アリテ、永恒ニ存在スル者ナリト定メサルベカラズ、若シ然ルトキハ、其原因ナル者ハ自己ニ成立スル者ニシテ、其之ヲ解クノ困難ナルコトハ、アテイストノ設使説ニ於テ之ヲ述ブルガ如シ、マステル、ニューマン曰ク

原因ナク且ツ無尽エテルヨリ成ル所ノ上帝ハ、原因ナク且無尽ヨリ成ル所ノ世界ト同ク全ク理會スベカラザル者ナリ、何如様ニ理會コンセプシタル

ヲ以テ真理ニ協ヘルトスルカ、余儕ノ見ル所ニテハ、是ニ答言ヲ為スコト能ハズ、余儕是ニ付キテ如何注目スベキカ、盖シ人類ノ智慧ヲ以テハ、之ヲ眞実ニ定ムルコトハ、力及ハザルノコトナルベシ、今上ニセルアテイスト、パンテイスト、テイストノ三者ノ論スル所ハ、其表面ヲ見レバ、甚タ相異ナルガ如シト雖ドモ、其説ノ根元ヲ窮ムルトキハ、三者共ニ同シ論説ト為シテ可ナルベシ、盖シ此三者ノ宇宙ノ成立ヲ論スルヤ、其間ニ遅速ハアレドモ、之ヲ極ムレバ、共ニ原因即チ太初ベギンナクシテ成立シタリト為シタル者ナリ、然ルニ原因ナクシテ事物ノ成立スルトイフハ、決シテ能ハザルノコトナリ、

○三者ノ論説ハ事實能ハサルノコトナレドモ、若シ此題目ニ付キテ理論ヲ為サントスルトキハ、此三者ノ論説ノ如キモ、亦己ムコトヲ得ス之ヲ取ラザルヘカラザルコトアリ、其故ハ先ツ太元ホストノ理ヲ定メズシテ、原因ノ論ニ入ラントスルハ、能ハザルノコトナレバナリ、故ニ吾儕ハ原因ノ連続ノ無限ナルコトヲ究ムルノ才力ニ乏シト雖ドモ、亦深ク思考シテ其力ノ及ブ所ヲ窮メザルベカラズ、

○余儕今太元ナル者ノ現存セルコトヲ引受ケントスルトキハ、先ツ其太元ノ性質ヲ考究セザルヘカラズ、太元ナル者ハ無限インヒトナラザルベカラズ、若シ太元ヲ以テ有限ノ者ト為ストキハ、必ス界限アル者ト為サザルベカラズ、已ニ界限アルトスルトキハ、其界限ノ外ニ別ニ原因ナル者ナキノ地ナカルベカラズ、此ノ如ク説クモ猶可ナリトスルトキハ、總テ原因

トイヘル教義ハ尽ク棄擲セザルベカラズ、故ニ吾儕ハ、太元ハ無限ノ者ナリト云フ見解ヲ変スルコト能ハズ、

○吾儕ハ又太元ハ獨立<sup>イデス</sup>ノ者ナリト考ヘタリ、而シテ此考案ハ多ク之ニ抵抗スル人ナカルベシ、若シ太元ナル者獨立ニ非ズシテ、他ニ從屬スル者ナラバ、其從屬ヲ受クル所ノ者ハ即チ太元ナリ、故ニ太元ハ他ノ萬物ニ關係ヲ有スルコトヲ要セズ、若シ他ニ物アリテ、夫ト關係シテ初メテ全キ太元トナルトイフコトナラバ、即チ太元ト今言フ所ノ他ノ物ニ從屬スル者ナレバ、是ヲ太元ト名クルコトヲ得ズ、故ニ太元ハ其無限ナルノ外ニ又他ニ關係ナク、自己ニテ十分ニ獨立セザルベカラザルナリ、即チ太元ハ自主<sup>アウツリ</sup>ナラサルベカラズ、

○此斷決ハ、今日ノ最モ精純ナル形而上ノ論ヨリ推ストキハ、容易ニ之ニ及ブコトヲ得ル者ナリ、吾等ノ能性<sup>アノコ</sup>ニハ限りアルヲ以テ、吾儕、總テノ現象ノ太元ヲ考究セザルベカラザルコトナリ、而シテ之ヲ以テ無限ニシテ且ツ自主<sup>アウツリ</sup>ノ者ナリト考ベサルヲ得ザルニ至レリ、

○然レドモ更ニ深く考フルトキハ、上ニ記セル所ノ決斷モ亦幻景タルコトヲ免カレズ、而シテ原因、無限、自主ノ三者ヲ結合シテ一ニ帰セシムルコトハ、極メテ難事ニシテ、完全ノ解説ヲ得ルヨリハ、畏ルベキ抵抗ノ網ヲ結ブコトヲ見ントスルナリ、

○凡ソ原因ナル者ハ之ト同時ニ自主ナル者ニ非ズ、自主ナル語ノ解義ハ、總テ管係ヲ離レテ成立スルトイフ義ナリ、然レドモ原因ナル者ハ唯其

效驗<sup>アウツリ</sup>トノ管係ヲ保持スルノミナラズ、実ニ效驗ノ關係アルニ由リテ原因

トナルコトヲ得タルナリ、效驗トイフコトヲ押潰シタル後ニ非サレハ原

因ハ初メテ其原因タルノ功力ヲ停止スルコトナキ者ナリ、故ニ「自主ナ

ル原因」トイフ語ハ、「關係ナキ原因」トイフト同シコトニシテ、更ニ

他語ヲ以テスレバ「圓キ三角形」トイフニ異ナルコトナシ、然レハ念中

ニ在ル此二語ハ、合セテ之ヲ一ニスルコト能ハザル者ナリハ學士曼色尔<sup>マンセル</sup>

曰ク、「吾輩ハ時ノ連続ヨリ生スル明白ナル反抗ヲ避ケンコトヲ勉メザ

ルベカラズ、自主ナル者ハ其初メ自己ニ成立スル者ニシテ、後ニ至リテ

原因トナルナリ、然ルニ第三ノ念<sup>コンセツ</sup>即チ無限ノ事ニ至リテ忽チ支梧ニ

逢フヲ見ル、無限ナル者ハ最初ハ無キ者ナリシニ、如何シテ今無限トイ

フ者ヲ生シタルヤ、若シ原因トイフ者、物ヲ成立スルノ必要ノ方法ナル

トキハ、原因ナクシテ成立スル者ハ無限ニハ非ズ、原因トナル者ハ、其

最初ノ界限ノ外ニ走り出タル者ナリ、

○然ルニ吾儕今以上記スル所ノ困難ニ打勝タリト假定シ、原因ト、其自

主ト無限トニ付キテ堅固ナル念ヲ造立シ得タリト為ストキハ、吾儕ハ已

ニ宇宙ノ根原<sup>オリジン</sup>ヲ解説シ得タリト為スカ、又自主ハ如何シテ關係<sup>リレーション</sup>ノ根元

ニシテ、無限ハ何ヲ以テ有限ヨリ起ル者ナルカトイフ解説ノ方ニ歩ヲ進

メザルベカラザルカ、學士曼色尔又言ヘルコトアリ、曰ク、「若シ本来

ノ活動トイフコトノ状態、静息トフコトノ状態ヨリ高キ者ナルトキハ、

自主ナル者ハ、差、不完全ノ状態ヨリ、少シク完全ノ状態ニ進行シタル者

ナリ、若又活動ノ状態ハ、静止ノ状態ニ劣ル者ナリトストキハ、自主ナル者ハ、其原因ト為リタル時ニ於テ、其本来ノ完全ヲ失ヒタル者ナリ、是ニ於テ、二個ノ状態ハ共ニ様ナル者ニシテ、創造ノ働ハ、十分ナル不偏ノ働ナリトイヘル假定説ヲ存留スルナリ、然レドモ此、假定説ハ又自主ノ獨一ヲ廢滅スル者ナリ、”

○以上引ク所ノ諸例ハ、余カ此書ノ端緒ニ於テ、知識ノ關係ノ教義ノ解説シ、且勢力ヲ與フルニ十分ナル者ナリ、此諸例ハ甚要緊ノ者ナレドモ、吾等カ固言セル証拠中ノ小部分ヲ占ムルニ過キザルノミ、形而上學士ノ暗想ノ歴史（若シ心象学<sup>サイコ</sup>ノ吟味ヲ取遺スルトキハ、心象学ト形而上學トハ、太タ異ナレル者ナリ）ハ、宇宙ノ根元、太元ノ本性、宇宙間ニ在ル万物ノ最後ノ構造ニ付テ、固執セル設<sup>セツ</sup>使<sup>シ</sup>説<sup>ト</sup>ヲ造<sup>ル</sup>為<sup>ス</sup>セル勉勵ノ連續タルニ過ギズ、然ルニ歴史ハ此ノ如キ勉勵ノ無益タルコトヲ吾等ニ教ヘ、而シテ又廣キ帰納ノ證、即チ実験ノ證ヲ以テ吾等ニ開示セリ、其證拠トイフハ、凡ソ太元、無限、自主、即チ事物ノ内部ノ性質ニ至リテハ、人類ノ智ヲ以テハ、満足スベキ決定ヲ為シ得難シト云ヘルコト是ナリ、余儕故ニ簡畧ニ此義ヲ述ヘテ曰ク、余儕ハ自主ヲ知ラズ、唯關係ヲ知ルノミナリ、此ノ如ク言フニ付キテ、余儕ハ自ラ信シテ二個ノ決定ヲ主張セリ、

「宇宙理學前輯」解題

「宇宙理學前輯」は、八二七—一三五「實在理學譯解 谷蔽氏洛日克入門第二冊」のうちに「實在理學譯解」「政治學」「道德學」「谷蔽氏洛日克入門第二冊」「演知學」とともに合綴されている。

John Fiske (一八四二—一九〇二)の著述である *Outlines of Cosmic*

*Philosophy based on the doctrine of evolution, with criticisms on the positive philosophy* [1874]の部分訳である。同じ原書の翻訳である「宇宙哲學」と翻訳部分が重なっており、また、それより短いものであるが、「宇宙哲學」に先行するものとして、対比の意味で収載する。

心學及道學

アレキサンダー・ペーン  
亜勒山得便 著

西村茂樹 譯

上編 精神學及ヒ理學ノ由来

序論

第一 心灵ノ解義及ヒ其區別

○凡ソ人間ノ知識 トイヒ經驗 トイヒ自覺トイフ者ハ之ヲ區別ス

レバ二個ノ部分ト為ル、一ヲ體質ト云ヒ、一ヲ心灵ト云フ、理學者ハ更

ニ外 世界内世界、又不自身、自身ノ語ヲ以テ之ヲ區別ス、然レド

モ此區別ヲ用フルニハ、実體、虚體ノ二語最モ適當ナルヲ覺フ、

樹木ノ如キ、河川ノ如キ、星座ノ如キ者ハ、之ヲ見テ之ヲ經驗シテ其

有形タルヲ知ルベク、喜樂ノ如キ、苦痛ノ如キ、心意ノ如キ、思想ノ

如キ者ハ、之ヲ經驗シテ其無形タルヲ知ルベシ、此他、猶天地ノ間ニ

吾儕ノ知り能ハズ、理會シ能ハザル物アリ、然レドモ亦有形無形ノ二

ツニ外ル、コトナシ、是等ヲ總テ宇宙間ノ万物ト云フ、

○凡ソ有形ノ物、即チ有形世界ノ物ニハ皆大 小アリ、無形ノ物ハ從

来ノ經驗ニ據ルニ嘗テ大小アルコトナシ、

樹木ノ如キ河流ノ如キハ皆夫々ノ大サアリ、喜樂ノ如キハ長短厚

狭厚薄アルコトナシ、喜樂ハ大小アル物ト云フベカラズ、思想考察ノ

如キハ或ハ深遠ニ及ブコトアリ、然レドモ思想考察ヲ以テ大小アル物

體ト為スコト能ハズ、又志意願望信用等ハ許多ノ働キアル者ナレドモ

是ヲ以テ多少ノ地面ヲ押領スル者ニ非ズ、是ニ依テ見レバ、總テ無形

虚體ニ属セル物ハ何レモ、其大小ヲ言フコトヲ得ザル者ナリ、

右ノ譯ナレバ心灵ハ云フマデモナク無形ノ物ニシテ陰ノ理ニ属シ全ク

大小ノ形ナキ者ナリ、然レドモ獨リ心學ヲ論ズルニ至リテハ、假リニ心

灵ヲ以テ有形ノ物ト為シ、其中ニ三様ノ性質即チ職分ヲ固有スルコトト

為ス、所謂三様ノ性ハ一ニ感覺、一ニ志意又心意、三ニ思想又明悟是

ナリ、此ノ三性アルニ由リ、今無形ナル心灵ヲ以テ姑ク有形ノ物ト為シ

テ論ヲ立ントスルナリ、此三性ノ解左ノ如シ、

感覺ハスベテ喜樂ト苦痛トノ感、及ビ喜樂ト苦痛ニ拘ハラススベテノ

聳動ト了悟ヲ合セテ言フノ語ナリ、凡ソ温暖、食物、音樂ノ喜

樂、疲労、貧窮、悔恨ノ苦痛、急逼、驚愕、聳動、又ハ力ノナキ物ニ

寄り掛リ、几案ニ觸レ、延宝ニテ吠ヘタル狗ノ声等ハ皆感覺ニ属スル

者ナリ、感覺ヲ分チテ一ノ綱領トス、一ヲ知覺ト云ヒ、一ヲ感動

ト云フ、

志意及ヒ心意ハ感覺ノ為ニ起シ立テラレ、又ハ前導サル、所ノ人間

ノ働ヲ合セテ之ヲ言フノ語ナリ、凡ソ飲食シ、逍遙シ、家ヲ建テ、種

ヲ蒔キ、談談スル等ノコトハ、皆一ニ目的ヲ達スル為ニ生スル所ノ働

ナリ、其目的ハ何物ナルカト尋ヌレバ、喜樂ヲ求メ、苦痛ヲ避クルニ

外ナラズ、又感覺ニ由ラズシテ向起ル所ノ働アリ、此ノ如キ働キハ、

造物者ノ力能ニ基スルコトニテ、人々自己勝手ヲ以テ為スベカラザル者ナリ、即チ風ニ吹カレ、重力ニ引カレ、電気ニ感ズル等ノ類、又呼吸ノ器具、血液ノ運行、内蔵ノ運動ノ如キモ、皆此ノ働キニ属スル者ナリ、

サウト インテレクト  
思想、明悟トイフ語ハ、或ハ明哲、知識ト云フ悟通、記憶、コンセプション 理會又思索カ、考案又沈思、推論、判断、想像等ノ諸

カヲ併セテ言フノ名ナリ、是ヲ分解シテ見ルトキハ三ノ綱領ト為ル、曰クデスクリミネーション 區分、又差違ヲ知ルト云フ、曰ク同一、又同様ナルコトヲ知ルコトト云フ、曰ク保持又記憶ト云フ、心智ハ三性ノ内ニ

於テ唯一個ノ上ニ顯ハル、コトアリ、感覺ハ尋常志意ト思想ト相伴ヒテ顯ハル、コト多シ、若シ吾身喜樂スルトキハ吾等ノ志意ハ此喜樂ヲ

持續シ、或ハ増進セント思フナルベシイッツ (志意)、亦其同時ニ此時喜樂ハ何日何時ニ異ナルトカ同様ナルトカ云コトヲ思ヒ、亦此喜樂ヲ心ニ記シテ忘ル、コトハナカルベシハミルトン (思想) (哈美尔敦ガ、レクチュールス、

オフ、メタフィシクスニ出ツ)

是ニ由テ觀レバ心智ハデベリション 解義ト心智ノ區別トハ同様ノコトニテ、則チ心智ノ主要ニシテ基礎ノ分解ナリ、

吾儕上文ニ記シタル心智ノ解義ト區別ノコトニ就キ、猶考案ヲ附ス

リード ルコト左ノ如シ、蘇格蘭ノ学士黎徳曰ク、人ノ心智ハ之ヲ別テバシンキス 考思、レムバース 記念、リイン 推論、ウヰル 志意ノ四種アリト、今區別ヲ以テ解義トス

ルノ法ニ依テ、之ヲ論ズルトキハ、此黎徳ノ説ニハ不足ナル者アリ、過多ナル者アリ、不足トハヒールンク 感覺ヲ言ハザル是ナリ、過多トハ考思ナル語ニテ足ルベキヲ、之ニ記念、推理ノ二語ヲ加ヘタルナリ、

黎徳始メニ心マインド 靈ノ區別ヲ分チテ明悟ノ力ト動作ノ力トノ二種ト為シテ之ヲ論ゼリ、其明悟ノ力ノ内ニ余ガ論ズル処ノ感覺

ノ一部分ヲ含ミ居レリ、即道味ノ知覺及ヒ感動ノ如キ是ナリ、又其動作ノ力ヲ論ゼル中ニモ感覺ノ一部ヲ包ネタリ、即チ仁惠ノ

感、毒惡ノ感ヲ詳説スルガ如キ是ナリ、是ニ由テ觀レバ黎徳ノ説モ全ク感覺ト云コトヲ脱セシニハ非ルナリ、博士托馬伯羅温ハ

黎徳ガ心トーマスプロウ 靈ノ區別ヲ立コトニ付キ、動作トイフ用ヒシコトヲ以テ非ナリトシ、其極所ヲ論ジテ謂ヘラク、若シ此処ニ動作ノ字ヲ

用フルトキハ終ニハ感覺ト云フ者本来ノ位地ヲ離レテ心意ノ部ニ竄入スルニ至ルベシト、伯羅温ハ因テ心エキステルナルアツヘツション 靈ヲ分チテ

外部ノ感覺、内部ノ感覺ノ二種トセリ、外部ノ感覺トハインターナル 感覺ヲ指シテ、即余ガ所謂感動一名感思トイフ者是ナリ、内

部感トイフ者ハ伯羅温又是ヲ心ノ知覺ト感動ノ二種ニ區別セリ、是ニ依テ見レバ、伯羅温ノ説ハ、知覺、感動、慧知ノ三者ニ

區分スル者ト一様ニ歸シタル者ナリ、通常動作ノ性即チ意ニ属シタル現象ヲマデ伯羅温ハ皆感動ノ部ニ入レタリ、

ハミルトン 維廉哈美尔敦嘗テ道加尔斯的ドウガルドステワート 瓦ノ書ヲ論ズルニ因テ自己ノ説ヲ

記シテ曰ク、心灵ノ現象ヲ以テ形体ノ現象ト全ク別種ノ物ト為シ、唯自己ノ了悟ノミヲ以テ見出スベキ物ト為ストキハ、心灵ノ現象ニ三種ノ區別アルコトヲ知レリ、其一ハ知識即チ認識ノ現象、其二ハ感覺即チ喜樂苦痛ノ現象、其三ハ動作即チ意思及ビ志望ノ現象是ナリ、是ニ因テ見レバ、哈美尔敦ハ慧智、感覺、意思ヲ以テ別種ノ者ト為シテ之ヲ説キシナリ、

○第四 心灵ノ性ニ三様アルコトハ上文ニ記セル如シト雖ドモ、上ニ記シタル順序ニ從ヒ、以テ心灵ノ開發ノ順序ヲ定メントスルハ能ハザル所ナリ、

ヒールンク  
ボリシヨ  
感覺ト意向  
トハ常ニ其内ニ最初ノ原質ヲ含ミ居ル者ナリ、  
インテルレ  
クト  
智 心ノ如キハ是ニ異ニシテ第二ノ原質、即チ混合セル原質ヲ含ミテ常ニ最初ノ原質ノ上ニ働ク者ナリ、例ヘバ 知 覺ノ如キハ感覺中ノ最初ノ部分ニシテ、其發スル常ニ智心ノ前ニ在リ、又感動ノ如キハ、第二ノ原質ニテ他物ヨリ分派セル者ニシテ、智心ノ發動ノ後ニ起ル者ナリ、又意志ハ智心を保持シテ、其土地場所ヲ大ニ取廣ゲタル者ニシテ、初ヨリ終リマデ、感覺ノ場所ノ内ニ通貫シ、感覺ニ從ヒテ開發スル者ナリ、故ニ順序ヲ以テ論ズルトキハ、意志ヲ以テ最後ニ置カザルヲ得ズ、唯最初ニ於テモ亦意志初端ヲ發見スルコト是アリ、

今其順序ヲ整ヘ見ル時ハ左ノ如ク

第一 感覺ト意向ノ二者其萌芽ヲ生ジ、感覺ノ領内ニ属セル知 覺モ共ニ發生ス、又智心ノ一部ナル 辨 別モ亦此時ニ起ル、此等ノ諸物ニ相当ノ名号ヲ附スルトキニ活動、識 覺、性 向ノ三者ヲ以テ之ニ当ルベシ、  
第二 智 心 慧  
第三 感 動、是ヨリ感覺ノ部終ル  
第四 意 思

○第五 無形有形ノ二者（心ト形体ト）ハ吾輩ガ目撃經驗スル処ニテハ判然別物ナリト雖ドモ、自然法則ニ據テ考フルトキハ心灵トハ常ニ相結合シテ相離レザル者ナリ、

此二者ノ互ニ結合スル所以ノ義ハ吾儕下文ニ於テ之ヲ説カントス、凡ソ人タル者自己ノ心灵トイフ者ハ自分ノ固有ノ智ヲ以テ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、他人ノ心灵ヲ知ラント欲セバ、唯形 体ニ據リ推シテ之ヲ知ルノ一途アルノミ、  
形体ノ機關ノ心灵ノ妙用ニ管係スル者ハ左ノ如シ、第一腦及ビ神經、第二活動ノ機關、即チ筋、第三知覺ノ機關、第四内臟、滋養ノ管、肺、心等ヲ合セテ之ヲ言フ、此内管係ノ最モ大ナル者ハ腦ト神經ノ二者ナリ、

形体ト心灵相管係スルノ実景ヲ究ムルコトハ至難ノコトナリ、故ニ此事ニ付テ奇妙ノ説ヲ立テ之ヲ神經ニ歸スル者多シ、此管係ヲ究ム

ルノ難キ所以ハ此ニツ者所ヲ定テ相結合スルカ、所ヲ定メズトシテ相結合スルカヲ分別スルコトノ難ケレバナリ、

然レドモ精神学ニ於テ此等ノ區別ヲ細論スルコトヲ須ヒズ、唯心灵メンタルヲ以テ形体ノ内ニ寓スル者ト為シテ之ヲ説クヲ宜シトスベシ、デスカルト曰ク、心灵ハ「ピニアル、グラランド」腦ノ第三窩ノ床ニ附着シアル円錐形ノ内核ノ名ノ中ニ在リト、其他ノ博士、或ハ心灵ヲ以テ人ノ全体中ニ寓スト為シ、或ハ分レテ各部ニ寓スト為シ、互ニ是非ヲ辨論スル者多シ、此ノ如キ論ハ此篇ニ於テハ要用ノコトニ非ズ、余儕更ニ之カ説ヲ立テ曰ク心灵ト形体トノ結合ハ、附属ノ一種ナリ、然レバ必シモ所ヲ定メテ相繋着セル者ニ非ズト、

## 第二 神經ノ結構及ビ其職分

第一 腦ハ心灵ノ機関ナリ、而レ共其主要ノ職分ハ智慧ナリ、メンタル此説ノ憑據ハ左ノ如シ

(一) 過度ニ智心ヲ勞役スルトキハ必ズ苦痛ヲ覺フ、此時ノ苦痛ハ必ズ頭ノ一部ニ於テス、若シ過度ニ筋力ヲ勞スルトキハ必ズ其筋ニ苦痛ヲ覺フ、肺ニ激動ヲ起ストキハ必胸ニ苦痛ヲ覺フ、飲食消化セザルトキハ必ズ胃ニ苦痛ヲ覺フ、若シ智心ニ烈シキ激動ヲ生ズルトキハ苦痛ヲ覺ユルハ必ズ頭ニ在リ、

(二) 若シ腦ヲ傷ヒ又腦ニ病ヲ發スルトキハ必智心ニ多少ノ感觸ヲ為

ス、故ニ頭ヲ強ク打ツトキハコシヤスネス悟覺ノ力ヲ損ズ、神經ヲ損傷スルトキハ或ハ言語スルコト能ハズ、或ハ記憶ノ力ヲ失ヒ、或ハ發狂ト為リ、其他スベテ智心ノ惑乱亡失ヲ為スコト多シ、

(三) 神經ノ耗損スルヨリ出ル發生物ハ、常ニ智心ヲ勞スルノ後ニ之ヲ出スコト愈多シ、此發生物ハ多分腎臟ヨリ之ヲ出ス者ニテ、アマモニア、マグネシアト結合シタルアルカリ燐酸塩ナリ、燐トイフ者ハ人間ノ神經ノ主要ナル成分ナリ、

(四) 腦ノ大小ハ知力ノ強弱ト常ニ關係ヲ為ス者ナリ、禽獸ノ種類ヲ見ルニスベテ腦ノ大サノ増スニ從ヒテ其知力モ増シ居ルナリ、人ノ腦ハ禽獸ノ腦ニ比スレバ勝レテ大ナリ、人ノ中ニモ知力ノ勝レタル種類ハ其腦他ノ種類ノ者ヨリ大ナリ、知力ノ拔群ヲ以テ稱セラル人ハ通常其腦甚大ナリ、人類ノ腦ノ中等ノ重サハ四十八オンスナリ、「キユウ井エー」法蘭西ノ碩学ノ名ノ腦ハ六十四オンスアリシト云ヘリ、愚駭ノ人通常其腦皆小ナリ、

(五) 腦ト神經ノ上ニ就テ一事毎ニ精細ニ經驗シ見ルニ、此二者ハ智心ノ職分ヲ引受け居ルコトハ決シテ相違ナキコトヲ知ル、

○第二 神經ノ組立ハ其全体ヲ言フトキハ二勿リ成ルナリ、一ハ中央團、即チ塊ロムフニシテ、一ハ其枝脈、即チ線條ノ如キ物ニシテ神經ノ名ヲ得ル所以ノ者ナリ、

中央團即チ塊ハ或ハ之ヲ腦脊軸トイフ、其故ハ此物ハ腦ノ内ニモ脊骨

ノ内ニモ其居ヲ占ムレバナリ、即チ其大ナル円形ノ塊ハ脳ノ内ニ在リテ、脊骨内ニ在ル細キ杆ロツドト相繋着シ在ルナリ、

神經ハ銀様ノ線ニシテ、其本に中央塊ヨリ出テ、体ノ全部ニ分派スル者ナリ、脳ト全体トノ間ノ活動ヲ以テ尽ク神經ノ能力ニ在リトナストキハ、全身中ニ在ル神經ノ中半分ハ内部ノ働ヲ助、半分ハ外部ノ働ヲ助クル者ナリ、

第三 神經ノ質ハ二種ノ原素ヨリ成ル、其一ハ白色ノ物ニシテ其二ハ灰色ノ物ナリ、白白ノ物ハ微細ナル纖維ヲ以テ組立テ、灰色ノ物ハ纖維ト及ビセル窄トナクル微細ノ質ト混合シテ成ル者ナリ、

脳ヲ截開シテ之ヲ見ルトキハ其中ニ二個ノ原質アルヲ見出セリ、内部ニ在ル塊ハ土色ニ蠟白色ヲ兼ネタリ、此塊ノ周囲ハ灰色ニシテ完形ナキ円状ノ物ヲ以テ圍繞セリ、

顕微鏡ヲ以テ窺フトキハ神經ノ質ニ二個ノ原素アルコトヲ知レリ、其

一ハ纖維其二ハセル窄コルプスキレス或又細胞ト名クル、微細ノ物ナリ、白色ノ質ハ

纖維ヨリ成ル所ナリ、灰色ノ質ハ纖維ト窄ト混合シテ成ル所ナリ、

神經纖維ノ他ノ纖維ニ異ナルハ其微細ヲ極メタルニ在リ、其太サヲ度

ルニ或ハインチノ一千五百分ノ一、或ハ三千分ノ一、或ハ二万五千分

ノ一、或ハ三万分ノ一、ニシテ、其極微ナル者ハ十万分ノ一二至ル者

ニテ、神經杆一條ノ太サ凡一インチノ内ニ一千万ヨリ一百万ノ纖維ヲ藏スル者ナリ、纖維ノ此ノ如ク微細ナルト其數ノ此ノ如ク巨多ナルト

ハ、皆智慧ノ働ノ種類ノ多キト其錯綜ノ密ナルトニ管係スル者ナリ、コルプスキレス細胞ハ十分ニ血液ヲ以テ之ヲ給助スル者ニテ（神經纖維モ同ジ）

是ヲ定メテ神經ノ勢力 及ビ神經ノ感覺ノ第一ト為シタル者ナリ、凡ソ身体ノ中ニテ神經ノ力ヲ要スルノ処ナルトキハ此中心ヨリ常ニ諸方ニ向テ其力ヲ分チ助クルナリ、是ニ依テ考フルトキハ灰色ノ物質ハナルフセントラル神經ノ中心ヲ造立セル物ナルコトヲ知ル、

微分ノ第二ノ職分ハ脳ノ結構ニ於テ鎖鑰ノ用ヲ為ス者ナリ、凡ソ神經ノ纖維或ハ延長シ或ハ其結合ヲ増ス処ニ於テ、此細胞甚ダ大ナル結び目即チ横綴ノ用ヲ為スナリ、神經ノ纖維ハ体ノ諸部ヨリ来リ、一旦灰色質ノ細胞ノ内ニ入り、其中ヲ通貫シテ、或ハ前ニ出テ或ハ横ニ出テ、

再ビ他ノ纖維ト相連結スルナリ、此纖維ノ交錯連結スルニ依リテ、吾儕ノ知心ノ感覺ト活動トヲ集合齊一ニスルノ功アリ、

第四 セントラルブルブマツス中央神經團一名 セレブ脳脊 セイナル軸 アキスハ種々ノ部分ヨリ集成シタル者

ナリ、其諸部ハ各々別々ニ注目シ得ベキ者ニシテ、各部皆夫々ノ職分ヲ所有セリ、

スピナルコルト〔甲〕脊 髓ハ脊骨ノ内ニ在ル所ノ神經質ノ杆、即チ柱ナリ、脊髓ハ

多ク白色質ヲ以テ成リ、其中ニ灰色質ノコル仁ヲ含有セリ、

脊髓ハ蓋骨ノ窪ミタル処ノ端ニ至テ終リ、此処ヨリ柱状ヲ為メシテ蓋

骨中ニ入り、脳ト相連ル、脊髓此處ニ至レバ其太サト深サトヲ増シ、以テ多量ノ灰色質ヲ受容スルコトヲ得セシム、脊髓ノ太キ部ハ其長サ

大約一インチト四分の一ナリ、此部ヲ名ケテ長円髓メチユロオフロソングタトイフ、此部ハ要用ナル神經ノ中心ナレバ、体中ニ於テ大ニ緊要ノ部分ナリトス、○脊髓ノ職分ヲ分子論ズレバ、左ノ如シ、

(子) 脊髓ハ神經ノ大幹ニシテ全体ノ神經皆之ヨリ分派ス(頭ハ之ヲ除ク)、若シ脊髓ヲ損傷シ、或ハ其一部ヲ切断スルトキハ、此切断セル部分ニ附属セル肢節ノ神經ト全ク其氣脈ヲ絶ス、是ニ由テ其部ノ肢体ハ或ハ感覺ヲ失ヒ、或ハ麻痺ヲ発ス、

(丑) 脊髓ハ中位セントラルノ職分ヲ所有セリ、即チ神經ノ働キノ全局ヲ領スル者ニテ、総テ刺衝ヲ受ケテ之ニ応ズルノ感ヲ発スルコトハ脊髓ニテ專ラ之ニ任ゼリ、脊髓ニ此任アルハ其内部ニ在ル灰色質ノ仁ノカト相通ズルニ由ルナリ、今蝦蟇ノ頭ヲ截リテ、其体ノ皮ヲツメリ或ハ激動サスルトキハ、其肢即チ必屈伸顫揺スル者ナリ、

脊髓ト長円髓トヲ合セテ之ヲ觀ルトキハ、此二者ノ中ニ生活ノ働キ一種保有セリ、其働ヲ名ケテ自動機アウトマチック、又返答ノ働キト云フ、此自動機ハ自分ノ勝手ヲ以テ其働ヲ発止スベキ者ニ非ズ、又其働ヲ発スルニ感覺インテンション、意向ボリション、意向ノ力ヲ假ルコトナシ、自動機ヲ分ツトキハ又數種ト為ル、

(イ) 自動機ハ常ニ飲食消化機ト相通ズ、初メ食物ヲ中ニ入レテ之ヲ咀嚼スルハ随ボリユンタリイ意ノ働ニシテ腦ノ手傳ヲ假リテ之ヲ為スナリ、飲食既ニ舌ヲ過ギテ喉嚢ニ入ルニ及ンデハ、聚縮蠕動ノ働ニ由テ食道ヲ下

ルナリ、此働ハ不隨意インボリユンタリイノ活動ニシテ、此働ニ吾身ニ感觸ヲ為スコトナク、又吾儕ノ意ヲ以テ此働ヲ抑制スルコトヲ得ズ、食物下リテ消食管ノ面ニ觸ル、トキハ其面ニ布置セル神經ニ打チ當リテ其働ヲ起サスルナリ、此消食管ノ神經ノ動キハ直チニ其感覺ヲ神經ノ中央ニ及ボシ(腦ノ下部ニ在ル或ル部、蓋シ長円髓ト交感神經節トナリ)中央神經ヨリ消食管ノ筋ノ纖維ニ其感ヲ返答シ、消食管ノ筋ノ纖維忽チ聚縮ノ働ヲ起スナリ、

(ロ) 自動機ノ働ハ又呼吸機ト相通ズ、呼吸ノ働ハ素ヨリ我輩ノ意ヲ以テ自由ニ之ヲ動止スベキ者ニ非ズ、但シ自由筋ボリユンタリイスキレトイフ者ハ我輩ノ意ヲ以テ自由ニスルコトヲ得ベシ、呼吸ヲ内ニ引入ル、トキハ、胸ノ筋ニテ肺ヲ膨脹スベシ、又呼吸ヲ外ニ吐キ出ストキハ、其胸ハ自然ト押し付ラレ、腹筋ノ力ヲ以テ大氣ヲ吐出スベシ、此ノ如キ働ヲ為スニモ長円髓常ニ其中央ニ在テ其活動ノ權ヲ掌トルナリ、咳嗽ト打嚏モ亦肺ノ働ヲ以テ為シ出シタル返答ノ働ナリ、桀管ノ面ハ感覺至テ鋭ク、鼻膜ノ面モ亦同ジ、円長髓ノ感動此二部ニ及ブトキハ此二部ノ驅出筋エキイヒラトリイマスケル強ク其力ヲ發シ、劇シク大氣ヲ外ニ驅出スルナリ、孩兒ノ乳汁ヲ吸フ如キハ全ク單純ナル返答ノ働ナリ、

(ハ) 眼ニ交通シタル働キニ又返答ノ働アリ、眼ヲ瞬スルコトハ眼下、瞼ノ内面ノ觸レ合ヒテ生スル処ノ働ニテ、是ニ由テ涙ト眼脂トヲ分排シテ眼球ヲ明ニシムルノ切用ヲ為スナリ、又眼ハ光ヲ受タルトキ、之

ニ返答シテ瞳孔ヲ開張縮小スルノ働ヲ為者ナリ、

(三) 又身体ノ諸部ハ、一部ヲ限リテ刺衝ヲ受ルトキニ、其部ヲ筋ニ發スル処ノ單純ナル返答ノ働アリ、譬ヘバ首ヲ断チタル驀ヲ取り、其足ヲ鉗夾ルトキハ其足自然ニ引縮スルナリ、又睡リタル人ノ開キタル掌ノ内ニ物ヲ置クトキハ、其刺衝ニ因リ其人自ラ覺エズシテ、其掌ヲ握ルナリ、又孩兒ノ鰓ニ觸ル、トキハ孩兒自然ニ笑ヲ生ズル者ナリ、又物ヲ味フトキハ、惣體ノ感覺ヲ押シ出ス以前ニ、口ノ筋早ク其感覺ヲ起スナリ、物ヲ嗅グコトモ同様ニテ、若シ惡臭ヲ嗅グトキ、其鼻先ヅ之ヲ避クルナリ、總テ此ノ如キ身体ノ一部ニ於テ格別ニ發スル感覺ハ、尽ク脊髓ノ力ヲ以テ之ヲ為シ得ルニ非ズ、然レドモ全ク脊髓ヲ離レシ者ニハナク、脊髓中ニ一種返答ノ働ヲ保有スベキ能力アリテ夫ヨリシテ此ノ如キ働ヲ生出スル者ナリ、或ハ此働ヲ惣稱シテ機械力センソリノ感覺ト名ク、

(ホ) 諸筋ノ緊張健強モ亦自動機ノ中ニ屬ス、例ヘバ人々熟睡ノ時ヲ觀ルニ全ク何事モ知覺セザルガ如シト雖ドモ、其諸筋ハ猶少シク引縮ヲ為シ居レリ、死スルノ後ニ至リ、其筋弛解セリ、此ノ如キ些少ノ引縮ヲ為スハ、全ク脊髓ノ力ニ由ルコトナリ、脊髓ヲ打壞スルトキハ其引縮ヲ為スノ力全ク消亡スルナリ、

〔乙〕腦、一名「エンセロハン」ハ頭殼ノ内ニ充チタル円形即チ楕円形ノ神經織質ナリ、腦ハ塊然タル一物ナレドモ細カニ察スルトキハ之

ヲ數部ニ分解スベクシテ一部毎ニ各固ノ機能アリ、

腦ノ下部ヨリ之ヲ算スルトキハ先ツ脊髓ト相連ル処ニ長円髓メヂュラオフロソガタアリ、此部ノ事ハ前ニ既ニ之ヲ説ケリ、

其次ハ「ボンス、ワロリ」一名鑲狀凸ナリ、此部ハ其形鑲ノ如クシテ腦ノ大幹ヲ圍抱シ、下ニ在ル長円髓ト相連接ス、鑲狀凸ハ白色ノ纖維質ヲ以テ成リ、其纖維ノ半部ハ上下ニ走り、半部ハ之ヲ横ニ之ヲ引ク、横ノ纖維ハ灰色質ヲ以テ充滿セリ、其白色ノ質ハ下ヨリ上ノ方ニ連繫シ又小腦ノ二部ヲ相接合スルノ用ヲ為ス、灰色ノ質ハ神經連繫ノ反應ト乗加トヲ為スコトニ因リテ主宰セントルノ機能ノ一部ヲ掌ドル者トス、灰色質ノ職分ニ於テ此他特別ノ機能ノ記スベキ者ナシ、

「セレブラルヘミスヒアス」一名本腦ハ人腦中ノ最高部ニシテ又最大部ナリ、其形ノ卵ノ状ヲ為シテ其底ハ扁平ナリ、卵ノ大部恰モ腦ノ後部ニ居ル、本腦ハ全ク分チテ左右ノ兩部ト為スベシ、左右ノ間ハ円形ノ深キ溝渠アリテ、唯白色ノ帶條アリテ兩部ヲ連繫スルノミナリ、本腦ノ表面ハ平坦ニアラズシテ、許多ノ滑カニシテ且ツ婉曲セル高処ヲ作り成セリ、是ヲ捲コンボリユーション起ト名ク、捲起ノ間ハ皆彎曲セル渠アリ、但シ渠ノ深サハ一樣ナラズ、捲起ノ面ハ灰色質ノ餅様ケーキノ如キ物ヲ以テ成ル、厚サハ或ハ半「インチ」ヨリ少ナクシテ、捲起ヲ為スニ由リテ自然ニ張擴スル者多シ、餅様ノ内部ハ白色質ヲ以テ成ル、然レドモ其内閉合セル一小部ニ灰色質ヲ保有スル者アリ、

此灰色ノ質ノ一小部ヲ之ヲ小中心ト名ク、是ヲ以テ兩個ノ半球ヲ連繋シ、且ツ下ニ在ル大幹ヲ繋ケ者スルノ用ヲ為ス者トス、蓋シ此灰色質ノ内ニ纖維ノ根アリテ、此ノ内ヨリ發出シテ、全腦ニ蔓延セル白色質ノ体ト為ルナリ、此灰色質ハ二個アリテ通常合セテ之ヲ渠線コルボラ体ト云ヒ又視神座サラミ、オプチント云フ、共ニ腦半球内ノ白色質ノ中心ニ密着スル者ナリ、大幹ノ纖維此視神座ノ中ヲ通貫シテ半球中ニ蔓延スルナリ、此視神座ハ灰白色ヲ保有スルコト殊ニ多シ、第三ノ物質ハ「コルボラ、クワドリゼミナ」ト云フ、四倍ノ体質ト云フ義ナリ、此物ハ差々遠ク離レテ本腦ト小腦トノ間ニ在リ、此四倍質ノ中心ハ視神座ト密ニ相連リ視ルコトニ關係セル最要ノ機能ヲ有セリ、華東ノ脊骨動物ニ於テハ（魚ノ如キ）腦ノ他部ト比較スルニ此部最モ大ナリ、又四個ノ高処エミネンスノ中央ノ渠中ニ小ナル円錐狀ノ物アリ、之ヲ円錐核ト名ク、學士「デスカルテス」是ヲ以テ精神ノ居処ト為セリ、

腦ノ職分ハ專ラ心ヲ掌ドル、故ニ凡ソ心ノ諸性ハ皆腦ノ兩半球ト円長髓ノ中ニ包含シアル者アリ、若シ腦ヲ打壞シ、或ハ破傷スルトキハ全く知覚、感動、意向、智慧ノ諸能ヲ失フナリ、運動ニ至リテハ腦ヲ傷ルトイヘドモ或ハ為シ得ベシト雖ドモ悟コンシエンス覺ハ並ビ發スルコト能ハズ、即チ感覺知心ト並ビ行クコト腦ハズ又志望意向ノ如キハ少シモ發生スルコトナシ、

腦ハ固ヨリ心ノ諸能ヲ包含スル者ナレドモ、若シ心ノ何々ノ働ハ腦ノ

何々ノ部ノ職掌ニ屬スルカトイフコトヲ明言セント欲スルトキハ即チ大ナル差支ヘヲ生ズベシ、又腦ノ捲コレボリユーション起ノ内何レノ捲起ハイカナル感覺ヲ為シ、何レノ捲起ハ如何ナル智能ヲ發スルカト云フコトヲ精究セントスルモ是又能ハザルコトナルベシ、心ヒレノロジ學ヲ為ス者ハ力ヲ要ヒテ此事ヲ研究スレドモ到底曖昧タル臆想說ヲ脱スルコト能ハザルナリ、然レドモ腦ナル者ハ天下ノ人民一様ノ雛形ヲ以テ造リ立テラレタル者ナレバ何レノ人モ皆同ジ部分ニ同ジ機能ヲ有スルコトハ決シテ疑ナキ処ニシテ、道理ニ於テモ亦宜ク然ルベキ所ノ者ナリ、

「セレベリウム」一名小腦又後腦ハ本腦ノ後方ニシテ又其下ノ方ニ在リ、稍楔狀ニ類シ、分レテ二部ト為リ、其間ニ白色質アリテ、互ニ相連繋ス、小腦ノ面ハ灰色ノ質ノ餘ヲ以テ成レルコトハ本腦ニ同ジ、然レドモ本腦ノ如ク捲起ノ狀ヲ為サズ、唯薄板ノ如キ質ヲ重疊シテ其形ヲ成セリ、小腦ハ其下ノ方ハ大幹ノ枝ト相連リ、上ノ方ハホルトラ倍質クワトリゼミナヲ以テ本腦ト相連ル、二個ノ小腦ハ脇ノ方ニ鑲狀凸ヲ以テ上ニ相繋ル者也、

小腦ノ機能ハ、議論猶未ダ一定セズ、學士弗羅梭斯フロレンスハ、其ノ經驗ノ說ニ據リテ謂ヘラク小腦ハ音楽及ビ集合ノ運動の主宰ナリ、集合ノ運動トハ所謂移轉ロコモチーフノ運動ニシテ行歩、飛颺、浮遊ノ如キ者ヲ云フナリ、嘗テ鴿ヲ取りテ之ヲ試ミシニ、既ニ小腦ヲ壞ルトキハ、立ツコト能ハズ、又躍ル能ハズ、然レドモ心ノ主要ナル機能ナル知覚意思ノ力ハ之

ヲ失フコトヲ見ズト、フロウンセクワルド伯羅溫塞瓜尔其説ヲ駁シテ曰ク、啻ニ小脳ノミ  
ナラズ其他ノ腦ノ諸部ヲ打壞損傷スルトキハ亦運動ヲ妨障スルコト、  
小脳ヲ壞ル時ニ同ジト、兩人ノ説此ノ如ク相異ルガ如シト雖ドモ、詳  
ニ之ヲ考フルトキハ、両説共ニ両立ヲ得ベキ者ナリ、其故ハ（高橋註  
：以下、英文にして五行ほどを訳が途絶している）

神經

○神經ハ許多ノ枝ヲ分チタル筋様ノ物ニシテ其始メハ腦ノ中央ニ起リ、  
夫ヨリ普ク全体ニ分派スル者ナリ、

神經ハ其場所ニ由リテ脊髓神經ト腦髓神經ト二分ツ、脊髓ヨリ分派ス  
ル者ヲ脊髓神經ト号シ、腦ヨリ分派スル者ヲ腦髓神經ト号ス、腦髓神  
經ハ、頭殻ノ孔穴ヲ過ギテ、頭下面トニ円シ、其ノ餘ノ神經ハ腦ヨ  
リ合シテ脊髓ニ下リ、其働ノ目的ノ異ナル從ヒ、脊骨ノ間ニアル孔穴  
中ハ或ハ高处ヨリ出テ或ハ低処ヨリ出テ以テ全身ニ蔓延スルナリ、  
脊髓ヨリ神經ノ分出スルハ特別ノ状ヲ為セリ、此神經ハ脊骨ノ間隙ニ  
於テ一對ノ枝派ヲ生ジ、以テ身体ノ兩側ニ向フテ進ム、其神經ノ一方  
毎、兩個ノ部分アリ、一ヲ前根アンテリオルルートトイヒ、一ヲ後根ポストリオルルートトイフ、  
兩根ハ僅カニ相離レテ通幹コンセンナムニ結合ス、其中後根ハ少シク脹起スル  
処アリテ中ニ灰色質ヲ含メリ、前根ニハ此ノ如キ物ナシ、

・第六章 神經ノ一般ノ職掌ハ、此部ヨリ他ノ部ニ感覺ヲ傳達スルヲ以

テ主ト為ス

神經ハ何ゴトヲモ創案シ出スコトナシ、唯夫々固有ノ職分ニ応ジテ其  
感覺ノ力ヲ輸送傳達スルヲ以テ主務ト為ス、神經ノ最後ノ効驗ハ筋根  
ノ刺衝シテ其活動ヲ起サシムルニ在リ、若シ神經ノ刺衝ナケレバ諸筋  
ハ少シモ働ヲ為スコトナシ、然レドモ思想ノ領分内ハ全ク是ト異ニシ  
テ筋根ヲ刺衝スルコトナク、獨神經ノミ其領分ノ内ヲ周廻スルナリ、

○第七章 神經ノ活動運行スルニハ二様ノ働アリテ、之ガ為メニ、神經  
ノ種類モ二様ニ分ル、一ヲ輸入インカルリシテト云ヒ、一ヲ輸出アウトカルリシテトイフ、大幹ニ  
於テ、一ノ神經ニ此二様ノ働ヲ結合シ、脊髓神經ニ於テハ前根後根ノ區  
別ニ依テ各此働ヲ異ニセリ、

神經ノ感覺ハ一ツノ纖維ノ内ニ進退兩様ノ働ヲ混有セル者ニ非ズ、其  
一種ハ感覺ノ内部ニ引込ムノ用ヲ為ス者ニシテ、即チ知覺センセーションノ働ヲ  
生ズル者ナリ、其一種ハ感覺ヲ外ノ方ニ引出スノ用ヲ為ス者ニシテ、  
即チ意向ボリシヨノ働ヲ生ズル者ナリ、脊髓神經ニ於テハ、別ルノ神經ニテ  
此二種ノ働ヲ為スナリ、ベル學士伯爾、後根ハ前根ニ異ニシテ小サキ腫狀  
ノ脹起アリテ、其内ニ単ニ知覺ノ神經ヲ持チ居リ、前根ハ單ニ活動ノ  
神經ヲ持チ居ルト云フコトヲ發明セリ、又單純ナル神經ハ唯頭上ノ神  
經主心ノ中ニノミ在リテ五官ニ屬スル纖維ト、之ヲ活動サスル纖維ノ  
主心ト為ルト云フコトヲ發明セリ、是則チ真正ノ心學ノ發端ナリ、  
腦髓神經ハ大抵ハ他物ヲ雜ヘザル純粹ノ神經ナリ、昔ハ之ヲ九對二分

チシガ、近今ニ至リ実ニ十二対アルコトヲ審ニシタリ、

第二對ハ嗅神經ナリ、第二對ハ視神經ナリ、第三對第四對第六對ハ眼ノ諸筋ニ分配シ其筋ノ活動ヲ掌ル、第五對ハ重複ノ神經ニシテ其ノ運動神經ハ頤ノ諸筋ニ達シ、知覺ノ神經ハ面ノ知覺神經ト連リ、兼テ味神經ト為ル、第七對ハ動神經ニシテ面ノ諸筋ニ亘ル、第八對ハ聽神經ナリ、第九對ハ舌ト喉トノ感神經（味神經ノ第二等）ニシテ、又喉ノ動神經ヲ包有ス、第十對ハ気管、肺、肝、腎、胃ノ諸部ニ派出シテ大抵ハ感神經ナリ、第十一對ハ脊髓ノ加神經ト名ケテ動神經ナリ、第十二對ハ「ハイポ、グロサル」舌ノ動神經ナリ、

## 心學及道學 上篇

第一冊 ハイフメント センス インスチンクト 運動、知覺、感性

### 第二篇 運動及筋ノ感覺

第二章 諸筋ノ感ト心ノ感トハ身体ノ機関中ニ在リテ各固有ノ仕組ヲ以固有ノ位地ヲ占居シ心ノ感ハ感覺ト知識ノ妻書ノ根元ト為ス者ナレドモ、働キ掛ケノ勢力ヲ發スル時ニ至リテハ兩者共ニ一ニ合シテ恰モ一様ノ性ヲ固有スルガ如シ、

凡ソ人ノ心ノ内ニハ兩個相反スルノ性ヲ具フル者ナリ、一ツハ他動トイヒ、一ツハ受動ト云フ、小舟ヲ漕グトキノ働ハ他動ニシテ勢力ヲ發スルノ感ヲ顯ハス者ナリ、温湯ニ浴スルハ之ニ反シテ受動ノ感ヲ會得スル者ナリ、此相反セル兩個ノ感ハ、神經ノ結構ノ内ニ於テ已ニ其形ヲ成ス者ナリ、即チ輸 出<sup>オウトカリンク</sup>ノ神經ハ其根原ノ主心神經ト共ニ他動ノ感ト相通ジ、輸入ノ神經ハ其相連繫セル中心神經ト共ニ受動ノ感ヲ為スナリ、

筋ノ感ハ心ノ感ト別ニ其種類ヲ立ベキコトハ上ニ之ヲ言フガ如シ、又順序ヲ以テ言フトキハ、筋ノ感ハ心ノ感ノ前ニ之ヲ説カザルベカラザル者ナリ、其故ハ筋ノ感ハ常ニ心ノ感ニ先テ起リ、其初メニ於テハ外物ノ刺衝ヲ受クルコトナク、而シテ筋ニ此働アルハ心ノ感ノ或ル者ニ比スレバ身体ノ結構ニ於テ更ニ親密ナル者ニシテ、此働ハ心ノ感ト合シ、是ニ依テ心ノ感ニ集合セル形ヲ與フル者ナレバナリ、若シ心ノ感ニ合セル間ハ、筋ノ感ハ唯單純ナル性質タルニ過ギズ、

〔筋ノ組立〕 身体ノ働ハ筋ト名クル者ノ力ニ依リテ成ルナリ、筋ハ細小ナル纖維ノ聚マリテ塊ヲ為セル者ニテ其塊ニ大小ノ差別アリ、其每一塊ハ皆之ヲ稱スベシ、固有セル性ハ聚縮性ナリ、即チ勵ミヲ受クルトキハ此纖維甚シク聚縮シ、是ニ由テ其筋短カクナリ、筋ノ附着セル骨ヲ引寄スルナリ、筋ノ有様ヲ説ク為メニ脛ノ後ノ肉ノ筋ヲ例ニ出スベシ、脛ノ後ノ肉ハ肥厚ナル肉塊ニシテ、上下ノ兩端ニハ強クシテ色

白キ纖維ヲ以テ成リタル物アリ、之ヲ筋根トイフ、此筋根ヲ以テ筋ト骨トヲ連繫ス、上ノ筋根ハ脛骨ニ着キ、舌ノ筋根ハ踵骨ニ着ケリ、臥シタル体ヲ起サントスルニハ先ツ聚縮性ニ因リテ踵ヲ脛ノ方ニ引寄セ其後 身体ヲ起スコトヲ得ルナリ、

筋ノ纖維ハ細纖維ト云フ物（其直径一インチノ萬分ノ一ヨリ小ナリ）ノ聚マリタル者ニシテ細纖維ハ直角度ヲ成セル小分子ノ相列スル者ナリ、筋ノ聚縮ヲ為ストキ此小分子ハ縮マリテ太クナルナリ、細纖維ハ毎ニ集マリテ束ヲ成ス、一束ノ太サ凡ソ一インチノ四百分一程ニシテ、是即チ纖維ナリ、纖維再ビ合シテ束ヲ成シ、以テ綫状ヲ為スナリ、此綫ハ肉ヲ以テ組合セタル繩ノ如キ者ニテ肉眼ヲ以テ能ク其組織ヲ見得ベシ、

筋ノ聚縮ヲ為スハ神經ノ力ヲ假ラザルコトヲ得ズ、筋ノ部ハ神經毎ニ多ク滋蔓セリ、此外ニ筋ノ聚縮ノ力ヲ助クル者ハ動脈ノ血液ナリ、血液中ニ在ル物質ノ酸化セル者ハ筋力ノ發スル根原ナリ、肺ノ中ニ引ク処ノ養氣ト胃ノ内ニ受ル所ノ食物ハ共ニ筋ノ組立ノ力ヲ生ズル（ロウ、マテリアル）下地ノ物料ナリ、

○第二章 吾儕ノ身体諸部ノ振動ハ大抵ハ吾輩ノ感覺ノ為メニ刺衝セラル、ニ由リテ起ル者ナリ、即チ光ノ閃々タルヤ、響ノ轟々タルニ依テ吾輩ノ感覺ヲ動カスガ如キ是ナリ、然レドモ又是ト異ニシテ少シモ外ヨリノ刺衝ヲ假ラズ唯神經主心ノ力勢即チ純粹ナル内部ノ勵シノミニテ

振動ヲ起スコトアリ、此ノ如キ者ヲ名ケテ身体ノ自然ノ働ト云フ、自然ノ活動トハ、内ヨリ現出シタル有様ヲ解説シタル者ニシテ、理論ヨリシテ言フトキハ意思ト為ルベキ者ノ第一ノ原素ナリ、次ノ數條ハ此事ノ試験ト説明ト兩様ノ用ニ立ベキ者ナリ、

(一) 筋ハ此味ノ生活シアル間ハ決シテ全ク怠弛シ切ルトイフコトハナキ者ナリ、極メ熟睡シタル時ト雖ドモ猶少シハ引張り、即チ鞏固ノ力ヲ持ツ者ナリ、此有様ヲ名付テ筋ノ緊張又ハ引張りノ聚縮トイフ、此聚縮ヲ為スハ即チ神經ノ力ナリ、若シ神經ヲ切断スルカ又ハ神經ノ主心ヲ打壞スルトキハ諸筋皆緊張ノ力ヲ失フ、神經トイフ者ハ外部ヨリノ刺衝ニ關係セズ、常ニ諸筋ノ中ニ流通シテ已ム時ナキヲ以テ神經ニ此働ヲ所有スルナリ、

(二) 諸筋ノ中ニ絶エズ聚縮シ居ル者アリ、之ヲ名ケテ緊縮トイフ、其働ノ起ル原ハ上ト下ト同一ナリ、（アリスンタライ、カナル）消食管ノ最下ノ部ハ筋ノ自動力ニ由テ常ニ聚縮シテ弛解スルコトナシ、モシ此部ノ筋、神經ノ主心ト其連繫ヲ絶ツトキハ、其筋忽チ弛解スベシ、

(三) 呼吸ノ如キ、心臓ノ如キ、内臓ノ活動ノ如キ不随意ノ働ハ皆感覺ノ刺衝ヲ假ラズ、自ラ別ニ其活動ヲ為スベキ仕掛ヲ備ヘタル者ナリ、此諸部ハ常ニ其働キヲ止息スルコトナシ、又此諸部ノ働ヲ為ストキニ於テ其刺衝ト稱スベキ者ハ他ノ物質ノ觸合ニシテ、即チ待機ノ肺ニ於ケル、血液ノ脉管ニ於ケル、食物ノ腸胃ニ於ケル如キ皆是ナリ、

然レドモ此觸合ヲ以テ此部ノ活動ノ原因ト為シテ論ズルトキハ亦其實ヲ失フ者トイフベシ、問、最初ニ呼吸ヲ起スハ何ノ感ニ因ルヤ、若シ此呼吸ノ働ヲ妨障シテ其働ヲ為スコト能ハザルコトアランニ、其由テ来ル所ノ原ヲ尋ヌレバ、内部ノ機關ノ感覺ヲ失フニ由ルニ非ズシテ、必ズ外部ノ感覺ヲ受クル働キノ、其勢力ヲ失ヒタルニ由ル者ナルベシ、

(四) 人ノ睡ノ覺タルトキハ、感覺ヨリ先キニ其活動ヲ為スコト多シ、初メテ睡ノ覺メタルトキノ活動ノ状ヲ見ルニ、唯身体ノ乱動ニシテ是ヲ一定ノ舉動ト名クベカラズ、是則チ自然ノ活動中ノ一種ナリ、即チ四肢ヲ伸張シ、両眼ヲ闊開シ、顔面ヲ開展スルノ類ナリ、此舉動ヲ為シタル後ニ、外物ニ応ズルノ感覺随テ起ルナリ、知覺ノ刺衝ハ常ニ睡覺ノ時ノ舉動ノ前ニ在リト思フ者アレドモ是ガ為メニ明確ナル実證ヲ見出スコト能ハズ、故ニ吾儕謂ヘラク、身体ニ運動ノ力ヲ再起サスルハ、運動期間ノ中ニ神經力ノ突進スルニ由リテ、又之ト同時ニ知覺ノ感ノ再ビ起發スルニ由ル者ナリト、

(五) 小兒又ハ稚ナキ獸類又ハ一種特別ノ獸類ノ運動ハ、尤モ此論ニ付テ注目スベキ者ナリ、小兒ノ運動ノ力ハ殊ニ大ナル者ナリ、此事ハ穉兒幼兒共ニ同様ナリ、小兒ノ運動ノ強キハ早年ノ時其鋭敏ナル感覺ノ所為ニ係ルト雖ドモ、是唯其動力ノ強キ一偏ヲ論ズベキ者ニシテ其全面ヲ尽シタル者ニ非ズ、小兒ノ運動ハ心ニ感覺ヲ生ゼザルトキ却テ大ニ其働キヲ顯ハス者ナリ、是ハ休息ト乳養ヨリ生ズル身体ノ工合ヨ

リ發スル者ニシテ、又拘束サレ居リテ久シク待チ居リテ急ニ放サル、トキハ非常ニ其運動ヲ發スルコトアリ、

幼獸一般ノ運動及ビ格別ノ働ヲナス動物ノ運動(無血虫ノ類)ハ殊ニ我輩ノ想像ニ由テ其状ヲ論ズヘキ者ナリ、例ヘバ猫兒ガ毛製ノ球ニ戯ル、ガ如キハ畢竟ハ猫兒ガ自己内部ヨリ勵シニ由リテ満全セル運動力ヲ發スル者ニテ毬ノ如キハ只之ヲ借リテ其働ヲ現ハスノ物タルニ過ギス、又犬子ガ睡ヨリ覺メ又ハ繫ガレタル繩ヲ解カレタルトキハ(十分ニ奔走シタク思ヒ居ル故)忽チ狂奔馳走シテ其勢力ノ疲ル、マデハ其運動ヲ止ムルコトナシ、是ハ犬子ガ眼ニ觸レテ然ルニ非ズ、又耳ニ其放赦ノ甘言ヲ聞テ之ヲ喜ビタルニ非ズ、唯其肢体ノ内ニ活動ノ力ノ衝突シ来ルニ由リテ覺エズ此ノ如キ運動ヲ為ス者ナリ、吾今此如キ運動ヲ見テ、惟ニ感覺ニ由リテ起ル所ノ運動ト同様ノ者ニ非ザルコトヲ知レリ、自己ノ勵シヨリ起ル運動ト感覺ヨリ起ル運動トノ區別ヲ示ス為ニ猶左ノ一話ヲ加フベシ、今騎者其馬力ノ猶余リアルヲ知り其馬ニ向ヒテ進メト声ヲ掛ルトキハ、馬ハ之ヲ聞キテ益狂奔馳スルナリ、亦一様ノ獸畜ニテモ、戰場又ハ獵場ニテハ其奮發力殊ニ盛ニシテ全く平日ニ異ナリ、是皆感覺ヨリ起ル所ノ運動ナリ、

(六) 病ニ因テ起ル所ノ運動モ亦一種類ニ属スベシ、神經ノ仕組ノ異常ナル現象ヲ為ス場合ニ於テ、或ハ他ノ刺衝ナクシテ運動ヲ起シ、又ハ其刺衝ノ比例ヨリハ甚シキ運動ヲ起スコトアリ、其子細ハ此ノ時ハ

神經ノ主心、感覺ノ勢力ノ助ヲ假ラズシテ其働ヲ起スニ相違ナケレバナリ、人ノ身体ハ不健康ニ由リテ不随意ノ運動ヲ起スコトアレドモ又小兒ヤ強壯ノ獸畜ノ如ク健康ニ過ギテ不随意ノ運動ヲ起スコトアリ、不随意ノ運動發起シテ自ラ静息スルコト能ハザルハ内部ノ熱火發焰シテ之ヲ押付ルコト能ハザルニ依ル者ナリ、

又馬前質<sup>ストリクニヤ</sup>マチンノ原質ナリノ如キ藥料ヲ服スルトキハ亦甚シキ不随意ノ運動ヲ起シ身体ノ活動スル状ハ宛モ電氣ノ感ヲ受ケテ抽摘スル状ニ似タリ、

(七) 活動ノ感覺トハ一人ノ身ニ於テハ同ジ比例ヲ以テ發動スル者ニ非ズシテ毎ニ一輕一重ノ有様ヲ以テ發動スル者ナリ、強健ニシテ能ク動作シ、休息スルコトヲ欲セザル稟賦ノ人ハ其感覺ノ刺衝ニ依テ生ズル勵シハ常ニ少キ者ナリ、此ノ如キ人ノ動作ハ身体ノ自然ノ結構ニテ体格ノ自己ノ勵シニ依リテ其活動ヲ生ズル者ナリ、今人々ノ中ニ於テ此ノ如キ種類ニ属スル者ヲ穿鑿スルニ、常ニ身体ヲ静息セザル冒險者、決シテ疲弊スルコトナキ遍歴者、今日ノ仕事ニ非常ニ勉勵スル人、官務ノ煩劇ヲ喜ブ人ノ如キハ皆是ナリ、亦知覺ノ鋭敏ナル人ノ活動ハ感覺ノ勵シニ因リテ起ル者ナリ、此ノ如キ人ハ若シ其知覺満足スル時ハ其活動ヲ止ムル者ナリ、譬ヘバ名儒<sup>ウヰル</sup>井ルベルホルスノ如ク、常ニ惡事ヲ除キ去ラント思フ勵ミニ由リテ活動ヲ為ス者ニテ、若シ此勵ミナキトキハ遂ニ其動作ヲ止ムルニ至ルベシ、

身体ニ随意ノ運動ヲ起スハ、総テ諸筋ノ働ニ因テ成ル者ナリ、諸筋中此働ノ第一ニ属スル者ハ廻轉筋<sup>ロコモチーフアツバラストス</sup>ナリ、此筋ハ四肢ト胴トヲ包括スル者ニテ其奮勵ニ由リテ諸種ノ働ヲ生ズル者ニテ即チ歩行奔走飛揚及ビ身ブリヲ為ス等ハ皆此筋ノ働ナリ、嚼<sup>マヂケテシヨ</sup>ノ機関ハ廻轉筋ニ次デ第二ニ属スル者ナリ、又声音<sup>ボイカルオルガニス</sup>ノ機関ハ又不随意重要ナル機関ナリ、凡動物ノ声ヲ發スルハ此機関ノ強健ヨリ發スル者多シ、朝々鴉雀等ノ声ヲ發スルハ、外部ヨリノ感染ヲ受クルトイヘドモ其發声スルハ全ク不随意ノ働ヨリ生ズル者ナリ、小機関ノ中ニ於テハ舌ノ機関ヲ以テ不随意ノ働ヲ為ス者ト定ム、舌ノ機関ハ至テ柔軟ニシテ孩兒ノ舌ヲ弄スルハ即チ其不随意ノ働ニシテ他日明白ニ發音ノ始ヲ為ス者ナリ、

不随意ノ働ノ發スルハ刺衝ヲ受ケテ發スル働ト相反対スルコトハ禽獸ノ天性ニ於テ明カニ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、例ヘバ木勺<sup>トルベド</sup>鱗ノ電氣ノ如キハ平生其身ヲ滋養スルト一同ニ身体ノ中ニ詰メ込ミ置キ、其時節ノ来ルトキハ之ヲ他物ノ上ニ吐キ掛ケテ其身ニ在ル電氣ヲ消滅センコトヲ求ム、又虎ノ頤骨、蛇ノ齒、蜘蛛ノ絲ヲ吐ク機関ノ如キハ皆他物ノ上ニ其働ヲ及ボシテ己ガ充滿セル力ヲ發揮センコトヲ求ムル者ナリ、又蜜蜂ヤ海狸ノ綿密ニ其巢窟ヲ営ム如キハ自己ニ利益ヲ為スベキ目當ナキトキニテモ猶動シテ已ムコトナキ者ナリ、

凡ソ不随意ノ働ハ其働ヲ起ス筋節ノ強健ノ度ト滋養ノ力トニ由リテ

消長ヲ為ス者ナリ、極メテ健全強壯ナルトキハ其働過多ニシテ、疲労  
飢餓病苦等ヲ受クルトキハ其働大ニ減スル者ナリ、

## 筋ノ感覺

○第三章 筋ノ感覺二三種ノ區別アリ、其一ハ筋ノ機関ノ有様ト結合  
セル感覺ニシテ即チ疵傷、疾病、疲困、休息、養補ヨリ起ル感覺ノ如キ  
是ナリ、

此感覺ハ大抵ハ筋ト身体ノ他ノ組織ト同様ニ之ヲ配合スル者ナリ、此  
事ヲ詳細ニ説明スノ場所ハ猶下ノ篇ニ在ルベシ、此場合ニテハ、唯人  
類ノ性質中ノ他動ノ一方ヲ説クコトヲ主トシテ、受動ノ一方ハ先ツ之  
ヲ略スル者ナリ、

○其二ハ筋ノ働ト結合セル感覺ニシテ、働キノ喜樂ト苦惱トヲ併セテ尽  
ク其中ニ在リ、此第二條ハ筋ノ働ニ於テ、一个毎ニ皆之ヲ所有スル者ナ  
リ、

○第三ハ物ヲ區別スル筋ノ感覺ニシテ、即チ活動期間ノ伸張シ居ル間ニ  
起ル自覺ノ力ナリ、

區別ノ感覺ハ筋ノ借樂ニモ附カズ苦惱ニモ附カズシテ恰モ其中間ニ  
在ル者ナリ、然レドモ知心ノ感ノ根原ト為ルヲ以テ甚肝要ノ感覺ト為  
セリ、筋感覺モ其知覺ト同ジク二様ノ性ヲ有セリ、其一ハ尋常感覺ト  
稱スル者ニテ、快樂ノ如ク苦惱ノ如ク、恰モ感覺ノ名義ニ適合セル者

ヲイヒ、其二ハ知心ノ領分ニ入り込ミタル者ニテ物ヲ區別スルノ感覺  
即チ物ノ差違ニ付テノ自覺ヲ云フナリ、

## 第二 筋ノ働ノ感覺

筋ノ働ニ關係シタル感覺ハ其種類甚衆シ、今其數ヲ決定シテ之ヲ舉  
ルノ前ニ其全体ノ惣論ヲ出スハ少シク不適當ノコトト思ハル、余ハ  
依テ先ツ筋ノ感覺ト知覺トノコトヲ一舉ニ論ジ、感覺ノ法

則ト性質トノコトハ後ノ感動ノ條ニ於テ之ヲ説カントス、○感覺  
ノ義ヲ説キタル後ノ工夫ヲ考究スルハ此學問ノ要用ノコトナリ、故  
ニ今此見込ヲ以テ簡略ナル説ヲ述ブベシ

凡ソ感覺ニハ形體分ノ感覺ト精神分ノ感覺アリ、形體分ノ感覺  
トハスベテ身体ノ機関ニ管係スル所ノ感覺ニシテ、譬ヘバ物ニ感ズ  
ヘキ各個ノ機関ノ刺衝ニ起ル所ノ知覺ナリ、此知覺トイフ者ハ感動  
ト同ジク、自ラ外面ニ發顕スルノ性アル者ニテ此性アルニ由リテ他  
人ヲシテ知覺ト感動トノ起リタルヲ知ルコトヲ得シムルナリ、故ニ  
吾儕此感覺ノコトヲ記スルニハ常ニ必ラズ身体ノ働ト相伴フ者ト  
知ルベシ

本来ノ感覺即チ精神ノ感覺ハ心ノ三個ノ原性ト相管係シテ起發ス  
ルナリ、三個ノ原性トハ感覺、意向、知心ナリ、感覺ニ属スル者ハ  
其性質ヲ言フ者ニシテ喜樂、苦惱、及ビ二者ノ中間ノ如キ是ナリ、

此ノ三者ノ強弱及ビ分量ヲ云フトキハ此感覺ニ階級ヲ生ズベシ、又此三者ハ此外ニ一個一個毎ニ各別ノ性質ヲ固有セリ、又二歩ヲ進メテ説クトキハ、喜樂苦惱トイフ者ハ意思ノ起端トナル者ニシテ即チ意向ノ感覺ノ本質ナリ、更ニ一歩ヲ進メテ、區別シ比較シ、記憶スルノ感覺ノコトヲ考ヘ至ルトキ、此三者ハ已ニ知 心 ノ部ニ進入スル者ニシテ此知心ノ感覺ハ他物ト相合一スルコトアレバ此間ニ於テハ強テ互ニ合一セシムルコトハ要セザル者ナリ、

以上論ジタル処ノ考案ノ左ノ如キ者ナリ、  
形体分ノ感覺

形体ノ本原オリジン(重モニ感覺ニ付テ言フ)

形体ノ發頭發弘及ビ聚 成エンボチメント

精神分ノ感覺

感覺ノ固有

性質、即チ快樂、苦惱、不 偏インゲンデント

階級

鋭敏ノ強弱ニ付テ

分量ノ多少ニ付テ

特別ノ性質スペシャルカクテリスチクス

意向ニ管スルボリシヨ

意思ノ感及、即チ動作ノ起源ウヰル

知心ニ管スル感

分別ニ致トノ感覺

保守ノ度、即チ堅守ト恢復ノ意想レテーナヒリチイ

一般ノ法則ニ據リテ論ズルトキハ喜樂ノ感覺ハ形体ノ感覺ニ發頭シ、及ビ形体ト合シテ一体ト為ルベキ者ニシテ、此感覺ニ由テ其意志ヲ行フトキハ其連続シテ行フ間ニ常ニ其感覺ノ増加ト新鮮ノ生ズルヲ見ル、又苦惱ノ感覺ハ誰人モ皆同様ニ、之ヲ改ムルカ、之ヲ減ズルカ、之ヲ避クルノ感ヲ生ゼザル者ナシ、喜樂ト苦惱トノ進路ニ於テ此ノ合異ノ事起ルハ蓋シ自然ノ通則ナリ、

又、知覺ノ感ニ付テハ其中ニ属スル區別、一致、保守等ノ諸感ノ如キハ、其感シノ強弱、即チ其身ニ押シ込ミタル強サノ度ニ比例シ、見ルニ大ナル差等アルコトヲ知ル、此強弱ニ大ナル差異アルハ蓋シ其知心ト其人ノ固有ノ性質ト結ビ付タル処ニ大ナル差異アルニ由ル者ナルベシ、故ニ知心ノ感ノ度ヲ比例シ表記ノ如キ者ヲ作リテ之ヲ示スハ其要用ノコトニ非ザルベシ、唯一般ノ法則外レタル特異ノコトアルトキノミ之ヲ記載スルコトハ可ナルベシ、其事ニ付キテニ三條ノ例或ハ更ニ詳説スルコトアルベシ、

○第四章 筋ノ結構ノ内ニハ固有ノ感覺アリ、特別ノ感覺アリ、其働ハ共ニ筋ニノミ属シテ他物ト相結合スルコトナシ、

○其働ノ最初ノ發現シテ最モ單純ナル物ハ動カザル所ノ伸展ナリ、即チ

運動ノナキ張り込ミナリ、

〔形体分ノ感覺〕フィジカル サイド形体分ニ属セル筋ハ前ニ論ゼシコトモアル通りニテ左ニ言フ所ノ如シ、筋ハ其初メ細分子相聚マリテ小纖維ヲ為ス者ニテ此細分子ノ縮マリテ廣ガルニ依リテ筋ノ聚縮ヲ為シ、以テ其働ヲ為ス者ナリ、筋ノ収縮ヲ為スハ、腦中ニ在ル外出ノ神經、一名働作ノ神經、体中ニ流注シテ筋ノ中ニ入り、以テ活動ノ働ヲ起スナリ、其他又血液ノ助ヲ假ラザルベカラズ、筋ノ勢ヲ發スル多少ノ度合ニ從ヒテ血液ハ多少酸化スル者ナリ、

此外又筋ノ働ヲ為スニ間接ノ助ヲ為ス者許多アリ、養氣ヲ消尽シ、炭酸ヲ生ズル度多キトキハ是ニ依テ肺臟ニ多クノ働ヲ與へ、呼吸ノ力ヲ盛ンニスル者ナリ、是ト同様ナル原因ニ依リテ心臟ト血液ノ運行ヲ速カニシ、是ニ依テ身体ノ温度ヲ増スコトヲ得ベシ、一方ニ排泄スベキ渣滓ノ体中ニ積重シ、一方ニハ血液ノ流動感ニシテ其温度ヲ増スコトアルニ依リ、外皮ニ固有セル驅除ノ力ヲ増スコトヲ得ルナリ、又筋ハ血液ヲ要須スルコト甚ダ大ナレバ是ガ為ニ他ノ機関、即チ腦又胃ヨリ取りテ是ニ充テザルベカラズ、是ニ由テ腦ハ其知心ノ働ヲ減ジ、胃ハ一時其消化ノ力ヲ弱クスルノ患ヲ生ゼザルコトヲ得ず、然レドモ之ヲ滋養スル料十分ニ足ルトキハ動物体ノ惣体に其利益ヲ受ル者ニシテ、肺、心、皮ノ働ノ増加スルハ身体一般ノ為メニ至テ宜シキコトナリ、故ニ一時血液ヲ腦ト胃トニ資リ、其一部ノ力ヲ減ズルガ如シト

雖ドモ、是ニ由テ新タナル生活ヲ生ジ、嘗テ損失セシ分ハ容易ニ之ヲ

復スルコトヲ得ベシ、故ハ筋力ヲ勞役シテ、時間分量共ニ適宜ニ動作スルハ身体ノ健康ニ益アリト云フハ誰人モ已ニ了解スルコトナリ、筋ハ本ヨリ運動神經即チ輸出神經ヲ受クベキ者ナリ、然レドモ余ノ五官纖維即チ輸入纖維ナシトイフベカラザルナリ、生理学者ノ説ニ曰ク、筋ノ奮勵ノ感ハ外出ノ神經ノ流通ト共ニ發スル者ニシテ智覺ノ感ノ如ク五官ノ纖維ニ因テ起ル者ニ非ズ、其他ノ筋ノ感ハ受動ノ性ヲ有スル者ニシテ智覺ノ感ト伴ヒ起リ、内入ノ神經ト相合スルコトヲ見ルナリト、實事ニ驗スルニ此説亦然リト思ハル、ナリ、

發現ノ働即チ外部ニ發シテ筋ト一体ニナリタル働キハ、其部ニ管係セル筋ノ力ヲ以テ之ヲ成シ、又其他ノ諸機関モ同ク其方ニ向ヒ相合シテ此働キヲ成就シ得ベシ、是則チ一般ノ定則ナリ、此時ハ唯其部ノ筋ノミ獨リ他ニ先チテ其働キヲ為スコト能ハズ、必ズ發現ヲ助クル諸部、面貌亦ハ其餘ノ諸機関共ニ精神ノ感覺ノ時ノ如キ(喜樂苦惱等ノ如キ)有様ヲ顯ハシテ、以テ發現ノ働ヲ助成ス者ナリ、

〔精神部ノ感覺〕 此感覺ノ本質ヲ論ゼントスルニハ先ヅ感覺ノ性ヲ知ラザルベカラズ、細力ニ注意シテ見ルトキハ感覺ノ性ニハ喜樂、中性、苦惱ノ三種アリ、身體健康ナル人、或ハ休息シ、或ハ飲食シタル後ニ、自然ニ筋力ニ強壯ノ勢ヲ發スルハ甚ダ快キモノニテ真ノ喜樂ト云フベキ者ナリ、喜樂ニ發スルノ勢力漸々久シトキハ喜樂ナル者漸々

ニ変ジテ喜樂ニモ付カズ苦惱ニモ付カザル中性ノ者ト為ルベシ、其奮  
勵ノ時限甚長クシテ定度ノ外ニ越ルトキハ中間ナル者又變ジテ苦惱  
トナルベシ、尋常手エヲ為ス者ノ如キ、早朝力又食事ノ後ニハ仕事為  
スニ多少ノ快樂ノ氣アルベシ、然ルニ仕事ヲ為スコト半日ノ餘ニモ及  
ベバ奮勵ノ氣稍變ジテ中性ノ感ヲ起スベシ、凡ソ餘リアル所ノ筋力ヲ  
動作ニ發スルハ苦樂何レノ部ニ屬スルカト問ヘバ洛ノ部ニ屬スルニ  
相違ナカルベシ、

此事ハ人類ノミナラズ禽獸モ然ルベキコトト知ラル、ナリ、是ヲ実事  
ニ驗スルニ、人々己ノ為メニ動作スルハ天性ノ好ム處ニシテ、或ハ物  
ヲ製造算出スルノ目的ヲ以テスルアリ、或ハ己ノ健康ヲ保全スルノ主  
意ヲ以テスルアリ、又遊戯娛樂ノ事ニ由リテ動作スルトキハ殊ニ其勢  
力ノ励ミヲ強クスル者ナリ、凡此等ノ目的アル者ハ其動作ヲ好ムハ固  
ヨリ言フヲ待タズト雖ドモ目的ナキ者亦動作ヲ好ムヲ見レバ身体ヲ  
働カスルヲ好ムトイフコトハ、身体ヲ働カスルヲ好ム トイフコトハ  
人間ノ諸成分中ノ一部分ニ相違ナカルベシ、

喜樂ノ階級ヲ論ズルハ其氣ノ強弱ヲ以テスルヨリハ嵩サノ大小ヲ以  
テスルヲ宜シトスベシ、筋ノ運動ナキ伸展ニ於テハ喜樂ノ感ハ甚多カ  
ラズ、唯其為メニ大筋ノ數條全ク力ヲ伸シタルマデノコトニテ唯筋ノ  
擴張トシテ考フベキノミ、

喜樂ノ度ヲ直接ニ量ルニハ自覺ノ智ヲ以テ喜樂ヲ互ニ比較シテ之ヲ

定ムベシ、譬ヘバ二ツノ平果ヲ何レカ最モ甘キカヲ判断シ、又二ツノ  
画ヲ見テ何レカ最モ工ナルカヲ判断スルガ如シ、又是ヲ間接ニ量ルニ  
ハ喜樂ノ力ヲ以テ押し伏シタル苦惱ノ分量ニ依テ之ヲ定ムベシ、即チ  
一旦受ケタル苦惱ヲ押し伏セテ己ガ喜樂ヲ恢復スルトキニ於テ之ヲ  
見ルベシ、身体ヲ働カスルトイフコトハ本ヨリ自己ニ好ミテ之ヲ為ス  
力アルニ因ルナリ、然レドモ身体ノ働カスルハ悉ク喜樂ノ根原ニノミ  
限ルトイハバ又大ニ差支ルコトアルベシ、身体ノ働ハ又自然ニ体格ニ  
備ハリタル能力ニシテ血液ノ腦ヨリ分派スル工合ニ由テ發スル者多  
シ、其詳ナルコトハ猶下條ニ之ヲ説クベシ、

精神分ノ感覺トシテ論ジタル第三目ハ分量ト階級トヲ離レタル  
特別トイフコトナリ、凡ソ筋ノ本来ノ感ト本来ノ知覺トノ間  
ニハ元来自然ノ區別アルトイフコトハ前ニモ已ニ之ヲ言ヘリ、此元来

ノ區別ハ人々自己ノ經驗ニ依テ自ラ習熟シタルコトニテ其名ヲ擧グ  
レバ、力ノ感覺、奮勵ヲ發出スルノ感覺、抵抗ノ感覺等ノ如キ是ナリ、  
是等ハスベテ心ノ有様ノ上ニテ見レバ全ク受動ノ感覺ニハ反對シタ  
ル者ニシテ、其如何ナル者ナルカヲ知ルハ人々ノ自覺ニ在リ、爰ニ頭  
ハシタル名義ヲ以テ之ヲ見ルトキハ快樂ニモ付カズ苦惱ニモ付カズ、  
自ラ其中間ニ在リテ不偏ナル者ナルコトヲ知ルベシ、快樂ハ刺衝ヲバ  
受クベキ者ナレドモ感覺ヲ受クベキモノニ非ズ、此不偏ナル有様ハ勢  
力ノ自覺ト相連結スベキコトニシテ是ヲ外物ノ意味ノ極処トイフ、

内心ノ意味ノ反対ナリ、或ハ之ヲ名ケテ非我トイフ、我ノ反対ナリ、  
動作ノ快樂及ビ動作ヲ続ケタル苦惱ハ固定ノ感ニ非ズシテ一時消歇  
スベキノ感ナリ、勉強ヲ休息シ、已ニ成就シタル快樂ト苦惱ト二伴ヒ  
居ルトイフコトハ動作ト苦惱トノ間ニ在ルコトナリ、

知心ノ不偏、即チ快樂ト苦惱トヲ取除ケタル知心ノ生活ニ於テ二様  
ノ種類アリ、一ハ中性ノ感動即チ驚愕ノ如キ是ナリ、此ノ如キ者ヲ  
内部ノ不偏ト名ク、一ハ外部ニ管係セル有様ニテ感動ノナキ知心ノ  
発作是ナリ、

快樂、苦惱、及ビ筋ノ働ノ意向ノ性ハ意志ノ法則ト全ク其帰ヲ一ニ  
スル者ナリ若シ快樂ヲ得ルトキハ快樂ト努力ノ度ニ応ジテ自己ノ筋  
力ヲ増長連續スルコトヲ得ベシ、快樂ノ励ミハ本ト不随意ノ働ノ発動  
ナレバ、働キヲ起ス時ニ於テハ敢テ要用ノコトニ非ザルベシ、但其働  
ヲ始メタル後之ヲ保持シ行ク為メニハ大ニ助トナルベキ者ナリ、  
知心ニ属スル感ハ區別スルコト(同様にスルコトモ合ヒテ)記憶ノ  
中ニ保持スルトノコトニテ、此トキモ亦肝要ナル件ニシテ別ニ一題ト  
為シテ可ナル者ナリ、併シ此感ハ吾儕ノ身ニ顕ハル、中ニテ至テ小部  
分ヲ占領スル者ニテ譬ヘバ筋ノ働キノム格別愉快ヲ覺エタルトキ之  
ヲ記憶ニ留メテ、目今ハ其事ナシト雖ドモ(過去リタレドモ)、猶其事  
ヲ以テ願望及ビ追趕ノ目的トスルガ如キ是ナリ、此感ハ真ノ知心ニ  
管スルノ性ナリ、凡ソ娛樂遊戯ノ事ハ深く我筋力ノ働ノ中ニ嵌入シ、

逆ニ進ンデ其感覺ヲ思想ノ上ニ及ボシ、知心ノ有様ノ中ニ於テ此者亦  
高崇ノ地ヲ占ムルノ一ト為ル如キヘ至ル者ナリ、

第五章 動力ザルノ伸張ノ例ヲ今爰ニ舉ルトキ、或ハ重キ物ヲ支柱シ、  
或ハ強キ者ヲ引キ留メ、或ハ押し付ケ、搾メ寄せ、角力等ニ抵抗シテ力  
ヲ張込ムノ類皆是ナリ、此動力ザルノ伸張ヨリ、更ニ些少ノ動作ヲ生ズ  
ルコトアレドモ、動力ザルノ伸張ハ猶自己ノ固有ノ力ヲ変ズルコトナシ、  
例ヘバ重キ器物徐々ニ引摺ルガ如キ是ナリ、

#### ○第六章 運動ヲ以テ起ル所ノ奮励

運動トイフ者ハ感覺ノ新ナル一種ヲ起ス者ナリ、此感覺ハ其運動ノ為  
メニ費シタル所ノ力ナレバ、其發現スルコトハ甚ダ明晰ナリ、又其時  
ノ模様ニ因リテ此感覺ノ出来栄ハ筋ノ受動ノ感覺ト相交通連結スル  
者ナリ、

形体部 我儕運動スルトキノ実事ニ付テ知ル所ノコトハ筋ノ伸張ノ  
常ニ変スルコトナリ、即チ一定ノ向キニ其勢力ヲ發出スルコトノ代  
リニ、常ニ其伸張力ヲ変化交代スルコト是ナリ、

精神部 徐緩ノ運動ト球速ノ運動トニ依リテ其性質ヲ異ニス、

#### ○第七章 最初ニ徐緩ノ運動ニ由リテ生ズル感

徐遅緩慢ノ行歩、演説ノ時、引延シタル声音、厳格ナル身振り、緩々  
為ス所ノ家業等ニ於テハ其勢力ヲ費スコト至小ニシテ、許多ノ快樂ナ  
ル感覺ヲ持ツ者ナリ、其運動甚ダ徐緩ナルヲ以テ其為メニ費シタル勢

力ニハ心ヲ付テ之ヲ置テ論ゼズ、唯此運動ニ由リテ筋ノ上ニ生ズル受動ノ感ノコトニノミ氣ヲ付ル様ニナル者ナリ、即チ他動ノ發現アル時ハ夫ニ付テ必ず受動ノ成立アリ、受動ノ成立ノ有様ハ筋力ノ消費ヨリ生ズル反動力ニシテ、筋ノ安息ニ聯合シ、睡眠ニ

近ヅク処ノ者はナリ、徐緩ノ運動ハ元來和解ノ方ニ傾ク者ニテ是由テ激動シタル神經ヲ静メ、以テ十分ナル鎮靖ニ至ルノ路ヲ為ス者ナリ、此感動ハ又尊敬、嚴格、謹勅等ノ感ト密ニ相連繫スル者ニテ即チ葬送ノ礼式、神拜ノ儀ノ講明、音楽ノ音調ノ如キ、教門ニ於テ用フル処ノ者ハ皆徐緩ノ節ニ從フナリ、

○第八章 漸々ニ増加シ又漸々ニ減退スル処ノ運動ハ徐緩ノ運動ニ比スレバ、快樂ノ感ヲ生ズルコト猶大ナリ、即チ手踊、舞踏、演説、其外人ニ見スベキ運動ノ如キ、スベテ働掛ケニ属セル動作ノ徐々ニ増減ヲ為ス運動ハ皆快樂喜悅ニ属スル者ナリ、此ノ如キ運動ハ総テ自然ニ彎線、或ハ円形ヲ為スハ蓋シ此運動ニ固有セル特別ノ性ナリ、凡ソセンシビリティ 感覺ト感得ノ变化ト相連繫スルハ人心ニ有セル自然ノ法則ナリ、故ニ身体ノ運動或ハ増シ或ハ減ズルトキハ、夫ヨリ生ジタル效驗ニモ絶エズ变化スルコトナリ、

第九章 其次ハ急疾ナル運動ナリ、

急速ナル運動ハ其勢力ヲ費スノ多少ヲ論ゼズ、スベテ神經ヲ励マス方ニ向フ者ナリ、故ニ急速ナル運動ハ、大ナル音声又ハ煥發スル光ノ如

ク、是ヲ以テ刺衝ノ種類中ニ算入スルナリ、スベテ知心ノ持前トイフ者ハ、其知心ヲ働カセ居ル間ニ漸々ニ其速サヲ進ムル者ナリ、其速度ノ進ミ方ハ其效驗ノ快樂ノ得ルヤ苦惱ヲ得ルヤニ依テ相違ヲ為ス者ナリ、其神經ノ結構、健康強剛ナルトキハ其刺衝ナル者其神經ト一致シ、大ニ喜ビテ之ニ心酔スルニ至ルナリ、若シ神經ノ結構疲労シ居ルトキハ、其刺衝ヲ受タル效驗ハ苦惱難渋ノ者ナルベシ、筋ノ励ミニ付テハ猶第三ノ場合アリ、此場合ハ快樂ノ甚シクシテ發狂ノ如クナルヨリ、却テ其疲労ヲ忘レ、後日ニ至リテ大ナル苦惱ヲ生ジ以テ發狂ノ快樂ヲ償フ者ナリ、古代ノ時ノ祭礼ニハ此ノ如キ者アリテ「バックユス」「デメトル」ノ祭礼ノ如キハ人民皆粗野ノ舞踏ニ熱心シ、之ヲ喜樂スルコト宛モ狂人ノ如シ、東方諸國ノ祭礼ニモ亦屢々此ノ如キ者ヲ見ル、古今処々ニ行ハル、舞踏ノ如キモ其熱心ノ度ハ較低シト雖ドモ衆人之ヲ愛好スルコト甚多シ、元來人間ノ体格ノ結構ハ、血液ノ腦ニ入ルコト過多ナルトキハ夫ニ由テ励ミヲ起スコトモ亦強キ者ナリト考ヘ定メタリ、

凡ソ運動急疾ト徐緩ノ極処ニ至ルトキハ最ハヤ努力ヲ注スベキノ地所ナク其運動共ニ息ミテ他ニ變ゼントスルナリ、此時ニ當リテハ筋ノエナジー 勉力ノ自覺ニ付テハ大ナル実事ヲ顯出スルコトナク、唯偶然ノコトヨリシテ特異ノ状ヲ現出スルコトアルノミ、其事ハ我等ノ知心ノ部ニ於テ他動ヨリハ多ク受動ト相結合スル者ナリ、若シ運動ノ兩個ノ局所

ニ於テ猶大ナル勉力ヲ進發セントスルトキハ夫ニ付テ發生セル偶然ノ状態ハ、常ニ費消シタル筋力ノ本来ノ自覺ニ附屬セザルベカラズ、

○第十章 筋ノ働ト結合セル第三ノ場合ハ、其名ハ不適當ナレドモ受動ノ運動トイフコトヲ以テ之ニ充ツベシ、

此事ニ付テハ車駕ニ乗ルコトヲ以テ通常ノ場合トナス、乗車ニ快樂ヲ覺エ兼テ身体ノ健康ヲ助クルノ功アリ、乗車ニ徐緩ニシテ種々ニ替ル運動ヲ為スヲ以テ、人ノ為メニ温和ナル筋ノ励ミヲ起シ、受動ノ感ヲ其身ニ生ゼシム、博士アルノツト此事ニ付テ又謂ヘラク乗車ノ身体ヲ動揺スルニ因テ更ニ血液ノ運行ヲ進メ、只一筋ニ更新セシムルノミナラズ、又能ク全体ニ循環セシムベシ、大氣ノ清新ナルモ又此效驗ノ中ニ算入スベシ、又乗車ハ其進行ノ早キヨリ他ノ知心ノ感ヲ動カスベシ、譬ヘバ目ノ如キモ許多ノ運動ヲ勞セズシテ代ル／＼新景ヲ見テ之ヲ慰ムルコトヲ得ルノ益アリ、

運動ニ由テ感覺ノ娛樂ヲ得ル為メニ亜米利加人ハ所謂揺椅ナル物ヲ作レリ、此物ハ小兒ノ木馬及ビ鞦韆ヨリ工夫セシ者ナリ、

第三 物ヲ區別スル筋ノ知覺 即チ心ノ感覺

○第十一章 筋ノ感覺ハ、又階級ヲ自覺スルコト、其他ノ感覺ニ於ルガ如シ、

多キト少キヲ知ルハ、筋ノ階級ノ感覺ノ出来栄ナリ、我身ニ感ズル快樂ノ如キ者スラ猶其烈シキ度ニ從ヒテ多少ヲ分ツコトヲ得ベシ、凡ソ

物ニ異同アル時、其區別ヲ筋ノ感覺ニテ知ルコトハ人ノ知心即チ思想ノ最初ノ有様ナリ、是則チ區分差別ノ感ノ姿ニテ、同状均一ノ感ト全ク相反スル者ナリ、此色ト彼色トノ異同ヲ區別スルコト能ハザルハ盲人ノ有様ナリ、尋常ノ區別ノ上ニ猶一等精密ニ區別スルハ勝レタル知心ヲ持チ居ル人ナリ、故ニ筋ノ感覺ニ區別ノ感覺アルハ至テ肝要ノコトナリ、

○第十二章 第一ニハ努力エキセルシヨ力即チ用ヒタル力ノ階級ニ付テ論ズ、但シ運動ハ之ハ算用ノ外ニ置クナリ、

是ヲ論ズルニハ、先ヅ快樂ニモアラズ、苦惱ニモアラザル筋ノ働ヲ以テ之ヲ説カザルベカラズ、此働ハ元來「サブゼクチーブ」ノ有様ナレドモ、爰ニテハ「オプゼクチーブ」ノ形ト為シテ之ヲ説キ、我等ノ自覺ノ力ハ、単ニ用ヒ費シタル勉力ノ多少階級ノ上ニノミ意ヲ注ギタル時ノミノコトヲ云フナリ、此有様ハ抵抗ノ感覺ノ意味ヲ持チ、

又我輩ノ身体ノ筋ヲ了會シ、力量、動作、惰性、及ビ機関ノ工ヲ測ルコトヲ得ル者ナリ、凡人心ノ感ノ最其根原ト為リ、又永続変ラズ、又十分ノ効驗ノ中ニ働ク者ハ此筋ノ感覺ニ及ブ者ナシ、今若シ重キ物ヲ手ノ中ニ置クトキハ其為ニ力ヲ費用スルコトヲ覺ユルナリ、重物ノ量増加スルトキハ我等ノ為ニ費セル力モ其量ヲ増スコトヲ自覺スルナリ、此區別ノ感ハ其精細ナル者ニシテ少シク其重物ヲ増減スルトキハ、必其自覺ニ變化ヲ生ズベシ、尋常ノ人ニテモ能ク三十九オンスト四十

オンスノ重サヲ區別シ得ベシ、

段々ニ昇進セル抵抗ノ感ハ、運動セル我等ノ身体ヲ妨碍制抑スルコトヲ得ベシ、例ヘバ車ノ進行ヲ止メ、他人ノ進歩ヲ阻遏スルガ如キ是ナリ、又此感ハ、抵抗セル物ヲ動カス為メニ力ヲ出ストキハ顕ハル、者ナリ、小舟ヲ棹ニテ動カシ、土ヲ掘リ、其他手ニテ為ス處ノ勉力ニ多ク之アリ、又重キ物ヲ負擔スルモ同ジ理ナリ、又我等ノ力ニテ我身体ヲ支柱スルモ同ジク此感ニ属セリ、此感ニ属スル所ノ諸種ノ經驗ハ我筋力ノ諸種ノ自覺ヲ以テ成ル者ナリ、筋力ノ自覺ハ費セル勢力ノ仕方ノ一続キノ内ノ者ニシテ、常ニ記憶ニ留マリテ忘レザル者ナリ、此處ハ他ノ知心ノ有様ト連結スル者ニテ即チ色、音、觸等ノ感覺ト一途ニ歸スルナリ、我儕ヨク此抵抗ハ小ニシテ抵抗ハ大ナリトイフ階級ヲ定ムルコトヲ得、恰モ視感ニ於テ石片ト鋪砌ノ石トヲ比較シテ其階級アルヲ知ルガ如シ、

筋力ノ費シニ付キ、精密ニ其階級ヲ區別スルコトハ吾等ガ手ヲ以テ為セル仕事ニ多クノ用ヲ為ス、例ヘバ段々ニ打撃スルコト、矢玉ヲ標的ニ抛付ルコト柔カキ物アル形ニ形造クルコト等ノ如キ是ナリ、

區別ノ自覺ハ其之ヲ用フル筋ノ種類ニ由テ亦著ルキ有様ヲ現ハス、例ヘバ両手ノ如シ、一ポンドノ重サヲ左右ノ手ニ別々ニ持ツトキハ左右同ジ重トハ覺エズ、若シ左右同様ノ重サニ覺ユルナラバ左手ニ因リテ右手ヲ區別セヌトイフ古諺ハ無用ノ言ナルベシ、

○第十三章 第二ニハ筋ノ勉力ハ連續ニ由リテ一様ナラズ、是ハ緊張ノ度ニ由リテ變化ヲ生ズルトハ又別ノコトナリ、

今動カザル緊張ヲ為スニ、其緊張ヲ為シ居ル時刻ノ長短ニ由リテ、筋ニ感ズルノ度モ亦一様ナラズ、若シ一分時ノ四分一ノ間、物ヲ押し居リ、其後數時ヲ經テ再半分ノ押しテ見ルトキハ最初ノ押しト後ノ押しト自覺ノ差異アルベシ、持續スルトイフコトハアル度ヲ以テ、力ノ費用ヲ増加スル者ナリ、而シテ吾儕明白ニ此増加ヲ着目スルコトヲ得タリ、其増加トイフハ緊張ヲ強クスルニ因リテ之ヲ増加スルニ非ズ、其増加ニ二様ノ法アリテ、唯階級ニ於テ區別スベキノミナラズ、亦其仕方ニ由リテ區別スベシ、其一ハ抵抗、即チ力ノ感ノ度ナリ、其一ハ時刻ノ度ナリ、筋力ヨリ生ジタル感モ、真ノ知覺ヨリ生ジタル感モ、時ノ長短ニ由リテ其感覺ニ差異アリ、

持續ノ度ヲ量ルハ大抵ハ動カザル抵抗ヲ以テ量ルベキトトス、然レドモ中ニハ動カザル抵抗ノ外ニ在ル者アリ、吾儕今權ヲ曳キ、又ハ重物ヲ引揚ルトキハ亦運動ノ持續ニ種々ノ度アルコトヲ覺ユ、且ツ此ノ如キ運動ノ持續ト抵抗ノ持續トハ固ヨリ混淆シテ為スベキ者ニ非ズ、運動ト抵抗トハ其力ヲ出スニ別様ノ仕方アルコトハ甚明亮ナリ、両方ノ力ヲ同様ニ十分ニ發シタルトキ比較シテ見ルハ其同一ナラザルコトハ己ノ自覺中ニ明カナリ、

運動ノ持續ト、動カザル緊張ノ持續トハ実事ニ於テ相同ジカラズ、運

動ノ持続ハ己ガ身体ノ機関ヲ空處中或ハ時間カニ振廻ハスナリ、故ニ運動ノ持続ハ空處或ハ廣サヲ測ル者ナリ、此事ハ或ハ時間ヲ測ルルニ於テノ第一歩ニシテ即チ最初ノ感覺ナリ、此他ノ經驗ハ總テ此最初ノ感覺ニ結合スル者ニテ最先ノ原質ハ必此中ニ在ル者ナリ、

筋ノ持続ノ單純ナル有様ハ一方ニ向テ肢ヲ振廻ハス又引クカコトナリ、譬ヘバ一筋ニ長ク引キタメ形ノ如シ(腕ノ自然ノスウ井一プハ直線ニハ非ズ)夫ヨリ込ミ入タル運動ハ面積ノ形ノ如ク、猶一層込ミ入リタル運動ハ実績ノ形ノ如シ、然シ其出来栄ノ上ヨリ之ヲ見レバ、直線モ面積モ実績モ總テ連続シテ且交錯セル運動ノ外ニハ何モ一物ナシ、此運動ノ筋ノ諸部ニ連繋スル者ニシテ知心ノ上ノ記憶ニ留マル者ナリ、平面ノ一尺四方ハ筋ノ一群レト相合シテ一ト為リ、直径三尺ノ圈ハ他ノ筋ノ群レト合シ、九インチ立方ハ更ニ別ノ筋ノ群ニ合スルナリ、此筋ノ諸群ハ觸ルベク見ルベク所ヲ移スベキ者ニテ其事ハ猶後ニ之ヲ記スベシ、

○第十四章 第三ニハ運動ニ付テ其急速ノ度ニ変化アルトキハ吾儕ノ自覺ニモ亦必變化ヲ生ズル者ナリ、

徐緩ナル運動ト急疾ナル運動ト其性質ノ異ナルコトハ前ニ之ヲ記セリ、此外ニ又急速ノ度ノ變化ニ由テ區別ノ智ニ各異ノ感ヲ生ズルコトアリ、我腕ヲ運動スルトキ其運動ノ度ヲ迅速ニスルトキハ我等ノ氣力、我身ヲ去ルヲ覺ユルノミナラズ、又緊張ヲ増シ、持続ヲ増ス

ト同ジカラザル感ヲ覺ユル者ナリ、此一條ハ筋ノ區別力ヲ説クニハ必要ナル追加ナリ、此ニ因テ第一ニハ、自身ヨリスルト外ヨリ来ルトニ拘ハラズ、急速ナル運動ノ肝要ノ性質ヲ知ルコトヲ得ベク、第二ニハ同様ナル運動ノ持続ヨリ生ジタル廣張、禁遏、補助ノ度ヲ測ルコトヲ得ベシ、例ヘバ或ル時間ノ持続ヲ以テ太早キ運動ヲ為スト、夫ヨリ長キ持続ヲ以テ夫ヨリ遅キ運動ヲ為ス者ト恰モ相比均スルコトヲ得ベシ、

## 第二編 知覺

○第一章 知覺トハ我身体中ノ感覺ヲ受クベキ部分ノ上ニ、外物ノ来リテ其働ヲ為スヨリ生ジタル知心ノ感得、感覺及ビ自覺ノ有様ヲ指ス者ナリ、

味、嗅、聞、視等ノ如キ感、是ナリ、此ノ如キ感ハ内部(筋)ノ勵ミヨリ起リタル力勢ノ感ニ異ナリ、又内感ヨリ生ズル恐れ、怒リノ如キ者トモ異ナリ、恐れ怒リノ如キハ外面ヨリ刺衝ニ由リテ直チニ發スル者ニ非ズ、

○第二章 知覺ハ身体ノ機関ニ随テ種類ヲ分ツ、因テ之ヲ分チテ五種トス、

機関ノ種類ハ勢力及ビ感覺、即チ自覺ノ種類ト相伴フ者ナリ、光ハ勢力ナリ、而シテ音トハ全ク異ナリ、其他諸ノ勢力ニ就テ之ヲ自覺スル

ハ各別々ナリ、我輩決シテ視ヲ以テ声音ヲ自覺スル如キ混淆ヲ生ズル  
コトナシ、

通常定ムル所ノ五官ノ數ハ欠失多キ者ナリ、

吾儕モシ知覺ヲ以テ物事ヲ知ルノ源、即チ知心ノ基礎ト為シテ考フ  
ルトキハ、其數ヲ定メテ五トスルハ頗ル包容シ尽セルガ如シ、然レ  
ドモ快樂苦惱ノ景ヨリ之ヲ言フトキハ、五種ニテハ猶不足アリ、

飢、渴、飽、窒息、温、及ビ身体ノ安慰不安慰ニ係ル有様ニハ猶遺  
落セル者多シ、然レドモ是等ノ諸感ハ皆上ニ記セシ知覺ノ本質ヲ持

チ居リ、場処毎ノ機關即チ位置<sup>シート</sup>、夫ニ付テ定マリタル勢力、及ビ自

覺ノ各個ノ態アレバ、是ヲ知覺<sup>センセーション</sup>ノ中ニ加フルモ決シテ不當ノ事ニ

非ザルナリ、

此遺漏<sup>オMISSION</sup>ハ機關ノ知覺、即チ機關仕掛ノ性命ノ知覺ノ一群ヲ造成スルコ

トニ由テ之ヲ補給スルコトヲ得ベシ、

上ニ定メタル知覺ニ付テハ、是ヲ二種ニ分ツベキ肝要ノ著目アリ、是

ハ知心ノ働ク有様ヲ區別スルニ大切ノコトナリ、凡ソ機關仕掛ノ性命

ノ知覺ヲ經驗シ見ルニ、味、嗅トノ如キハ快樂ト苦惱トニ管係ヲ為シ、

知覺ノ景色ノ上ニ大ニ効ヲ顯ハス者ナリ、然レドモ吾儕ガ知心ノ進行

ニ於テ、永久ノ形体即チ永久ノ想像ヲ造成スルコト能ハズ、此ノ如キ

效驗ヲ呈スベキ者ハ觸、聞、視ノ知覺ノニシテ此三者ハ知覺中ノ殊ニ

勝タル者ニシテ之ヲ知心ノ知覺ト名クル所以ナリ、

此三者ハ亦他ノ職掌ヲ為スコトヲ妨グズ、亦他ノ知覺ノ内感内ニ入り  
テ其快樂ト苦惱トノ為スコトヲ妨グルコトナシ、

生器的ノ性命ノ知覺

○一般ノ知覺ト同ク亦一部毎ノ知覺アリ、其別左ノ如シ、

生器的筋ノ感覺<sup>ヒーリン</sup>

○第三章 筋ト結合セル受動ノ感即チ本来ノ知覺ハ、傷害ノ苦痛及ビ疲

勞安息ノ苦惱快樂等ナリ、

若シ筋ヲ切断シ、劈裂シ、又ハ其他ノ傷害ヲ為シ、或ハ痙攣ニ罹ルコ

トアレバ烈シキ苦痛ノ感ヲ起ス者ナリ、余今此烈シキ身体ノ苦痛ノ種

類ヲ一度ニ記載シテ全体ノ證例ト為サントス、

〔形体ニ属スル部〕 苦痛ノ形体ニ属スル部ハ筋ノ纖維ヲ破壊シ損

傷シ、

又無理ヲ以テ隱伏セル神經ニ激衝ヲ起スガ如キ是ナリ、

苦痛ノ有様ノ全身ノ蔓延スルコトハ種々アリテ勘考ノ為メニ緊要ノ

コトナリ、顔色ハ無理ニ捻テ曲ガリ、一種特別ノ有様ヲ現ハシ、声音

ハ尖锐ナル響ヲ押し出し、全体ハ皆震ヒ揺グナリ、合セテ之ヲ言ヘバ

苦痛ノ劇烈ノ度ニ從ヒテ運動ヲ勵マサル、ナリ、又嗚咽悲嘆ノ同伴

ニハ不随意ノ筋<sup>グラント</sup>ト肉核ト共ニ其感ヲ発スルコトアリ、是ハ是ノ如キ時

ニハ肺ト心トニ變化ヲ生ジ、又消化機ト表皮トニ變化ヲ起スヲ以テ之ヲ知ルナリ、此ノ如キ變化ハ鬱憂及ビ擾乱ノ自然ノ性ナリ、

〔精神ニ属スル部〕<sup>メンタル</sup> 苦痛ヲ受クルトキノ精神ノ感ハ名ヲ以テ之ヲ定ム

ベシ、其性質ヲ言ヘバ苦痛ナリ、其階級ヲ言ヘバ劇烈ナリ其性質ノ各種異ナルニ由リ、吾儕ガ區別ノカヲ以テ其名ヲ指數スルコトヲ得ベシ、

曰ク無理ニ引張ル痛、曰ク大傷、曰ク射傷、曰ク刺突、曰クヒリ／＼<sup>スマルト</sup>

スル痛、曰ク連続持久スル痛、曰ク打タレテ氣抜ノスル痛、及ビ病理論ニ掲グル種々ノ苦痛等ナリ、

無理ヲ受タル痛ミハ各種ノ内心ノ動<sup>エモーション</sup>ヲ生ズ、即チ悲傷、恐懼、憤

怒ノ如キ是ナリ、是等ノ諸感ノ起ルハ、苦痛ノ性質ヨリハ其人ノ天稟ト其トキノ模様トニ管係スルコト多シトス、

烈シキ痛苦ノ意向<sup>ボリション</sup>ニ属スル性質ハ意思<sup>ウヰル</sup>ノ法則ニ從ヒ、其苦痛ヲ輕ム

ルカ又ハ之ヲ避シタメニ勉力ヲ励マス者ナリ、此意向ハ実事ニ於テ必發スル者ナレドモ、唯其適應ノ勢力ヲ以テ之ヲ發セザルベカラズ、

意志ノ働ハ、他動ノ生器ニ持堪ユベキ力量ナカルベカラズ、凡ソ苦痛トイフ者ハ人ノ氣力ヲ減消スル者ナリ、故ニ苦痛ノ永続スル時ハ其為

メニ志意ヲ耗損スル者ナリ、一時ノ苦痛ハ勉力ヲ進ムレドモ、永久ノ焦苦ハ意思ヲ打潰スナリ、

苦痛ヲ受クル者ハ其苦痛ヲ輕メントスルノ見込ヲ以テ、随意ノ種類ノ働ヲ起ス者ナリ、此事ハ苦痛ヲ受タル身体ノ場所ト、外ヨリ襲撃セル

者ノ性質ニ因リテ其働ヲ異ニスル者ナリ、

身体ノ烈シキ苦痛ノ知<sup>インテレクチュニール</sup>心ニ属スルノ部ハ甚混淆錯雜シ居レリ、奮励スルコト甚シキトキハ感得スルコトモ亦至テ強シ、然レドモ奮励其極度

ニ至ルトキハ知心亦職務ヲ失フナリ、此二ツノ注目ハ、生器ノ有様ニ有セル區別ト固着ノ者ニシテ感覺ノ度ヲ測ル根基ト為ル者ナリ、此二

ツノ者ハ不十分ノ面想ヲ起ス者ナリ、

凡ソ苦痛ニ付テノ記<sup>レコレクシオン</sup>憶ハ言語ヤ要望ノ記憶ト異ニシテ大ニ效能ヲ顯ハス者ナリ、第一ニハ苦痛ノ記憶ハ預防ト注意トノ心ヲ起ス者ナ

リ、此心ヲ用心ト云フ、第二ニハ憐愍ノ心ノ根元ト為ル、此心ヲ惻隱<sup>シムハチイ</sup>

トイフ、ソクラチツクノ教学法ニ、知識<sup>ノレージ</sup>ハ徳ナリト云ヘリ、若シ知識ナル者ヲ以テ能ク善ト惡トヲ記憶スル者ナリト為ストキハソクラチ

ツクノ説モ甚深遠ナル真理アル者ト云フベシ、凡ソ徳トイフ者ハ知心ノ留存セルニ基ク者ナリ、然レドモ其留存記憶セルハ知識ニ因ルニ非

ズシテ感覺ニ由ル者ナリ、

各部ノ筋ノ攣急<sup>カラムフ</sup>即チ抽筋ハ別ニ注目セザルベカラズ、身体ノ上ヨリ言フトキハ、運動ハ筋ノ憤怒に由リテ筋ノ或ル部ニ起リタル無理ノ聚縮

ナリ、此苦痛ヲ輕ムルノ良法ハ其筋ヲ至極ノ処マデ弛メテ聚縮ヲ除キ去ルニ在リ、精神ノ上ヨリシテ言フトキハ、ラツキングト名クル苦痛

ノ一種ニシテ、其始メハ筋ヲ無理ヲ引伸スヨリ起リシ者ナリ、出産ノ時子宮ノ痛ミハ此性質ノ者ナリ、又セツナキ攣急ハ胃及ビ其他ノ内部

ノ筋二現ハル、者ナリ、

過度ノ疲労ニ由リテ生ズル苦痛モ亦烈シキ筋ノ痛ミノ中ニ算スベシ、是ハ變急ト同ジク特別ノ者トシテ考ヘザルベカラズ、即チ此苦痛ハ唯筋トノミ結ビ付ク、其他ノ纖維ト結ビ付クルコトナケレバナリ、

尋常ノ疲労ノ後ニ筋ノ休息ヲ得タルハ快樂ノ感覺中ノ一ニナリ、此休息ニ伴ヘル形体上ノ模様色々アリ、以前纖維ノ中ニ充滿シタル血液、此時、脳、胃等ノ如キ要部ノ内ニ立戻リ、筋ハモハヤ此餘ノ働ヲ為スコトヲ免サル、ナリ、此二ツノ者ハ共ニ快樂ノ感ヲ生ゼシムルノ因ト為ルナリ、其感覺ハ激烈ナラズシテ、嵩ノ大ナル感ナリ、此事ニ付テ伴ヒタル其他ノ生器ノ感アレドモ、何レモ筋ガ休息ノ感ヲ起ス為ニヲバナサヌコトナリ、此時ノ筋ノ感ハ、即チ勉力ノ反射ナリト知ルベシ、古語ニ曰ク、吾輩ガ灰ノ内ニモ亦習慣ノ火ヲ蓄フト、凡ソ筋ノ働カレタル後ニ休息スルトキハ睡眠之ニ伴ヒ至ル者ナリ、此事ハ前二已ニ之ヲ言ヘリ、此時ノ快樂ハ、身体ヲ疲労セシト、強ク働キタル返禮ナリ、

骨ノ交節筋ノ感覺モ亦此條下ニ於テ少シク之ヲ論ゼザルベカラズ、此二物ノ感覺モ亦損傷ト疾病トニ由テ苦惱ノ有様ヲ現ハス者ナリ、ペリオステウム骨膜ノ病亦ハ之ヲ損傷シタルトキハ烈シキ痛苦ヲ覺ユル者ナリ、又脛骨ヲ打撃サル、トキハ強ク痛ミテ煩ヒ仆踏スル者ナリ、交節筋ハタトヒ損傷ヲ受ケズトモ、扭振ラル、トキハ又大ニ痛ヲ覺ユルナリ、

筋ノ 腱テンドン部筋根ハ甚シキ疲労ノ時亦其苦惱ヲ分ツ者ナリ、骨節ハ痛ジョイントミアル病ノ居處ナリ、痛風又ハ傷冷毒ノ如キ是ナリ、

神經ノ生器ノ知覺オルガニク センセーション

○第四章 神經ノ諸感ノ中ノ中間物ナルコトハ前二已ニ之ヲ説ケリ、其外ニ神經ハ亦神經織質ノ生器ノ有様ノ管係シタル特別ノ感覺ノ居所ト為ルナリ、此特別ノ感覺ナル者ハ神經ノ烈キ感覺、神經ノ疲労及ビ費耗ヨリ生ジタル鬱抑神經ノ鮮新及ビ奮勵ヨリ生ジタル歡喜是ナリ、

(第二)神經ノ疾病及ビ損傷ハ烈シキ感覺ヲ生ズル者ナリ、頭痛及ビ其他ノ神經痛ノ如キ是ナリ、此一語ハ神經ノ烈シキ痛ミノ種類ヲ説クニ十分ナリシス、其神經ノ痛苦ノ感ヲ為ス有様ハ筋又ハ其他ノ織質ノ烈シキ痛ノ有様トハ些少ノ差違アリ、然レドモ此差違ヲ言頭ハスベキ言語ニ乏シキヲ如何ントモ為シ難シ、

(第二)神經ノ疲労及ビ費耗ハ、心思及ビ身体ヲ過度ニ勞スルト、休息及ビ滋養ノ不足スルト強ク困苦ヲ受ルト、久シク困苦ヲ受ルト等ニ由テ生ズル者ニシテ、是ニ依リ神ニ一種ノ感ヲ起ス、此感ハ通常抑鬱デプレッションノ感ヲ多シトス、學術上ヨリ言フトキハ此感ハ之ヲ苦惱ト名クベシ、劇烈ニ非ズト雖ドモ亦大小ノ嵩ヲ有セリ、其分量ハ他ノ感ト比較シテ之ヲ知ルコトヲ得べく、又此苦惱ヲ輕メテ平均ヲセシムル為ニ苦惱中ニ吸い込レタル快樂ノ分量ニ由テ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、氣力ナキ

コト、倦懈スルコト、氣ノ重キコト、甚シク鈍暗ナルコト、鉛ノ雰圍  
氣ニ押サル、如キ感覺、暗中ノ黒キ如キ想ヲ為スハ、皆神經ノ疲労費  
耗ヨリ来リタル有様ナリ、又神經清新ニシテ健康ナル時ト雖ドモ、苦  
悩及ビ失亡ノ感ヲ重積スルトキハ神經ノ悲哀ヲ生ズルコトアリ、例ヘ  
バ幼年ノ罪人ノ刑罰ニ逢フヲ見ルガ如キ是ナリ、又一方ヨリ言フトキ  
ハ神經ノ質ノ悪キ方ニ変化スルハ、喜樂ヲ以テ圍繞シ、苦難ヲ防禦セ  
ル有様ノ中ニ胚胎スル者ナリ、

(第三)神經ノ健康ナル有様ハ、喜エキスヒラレシヨシ悦エキスヒラレシヨシヲ生ズルノ根原ナリ、十分ナ  
ル健康ニ由テ言辭ニ述ブベカラザルノ快樂、幸運ニ由テ善ク組立タル  
身体ノ結構ヨリ生ジタル成果ハ皆此條目ニ入ルベキ者ナリ、  
此知心ノ有様ハ、神經上ニ働クベキ性アル刺衝藥ヲ用フルトキハ暫時  
ハ其平均ヲ得、暫時ハ其度ヲ過ゴスコトアリ、然レドモ身体ノ為メニ  
至テ危殆ナルコトナリ、

血ノ運行及ビニユートリシヨシ供養ニ付キ生器ノ感覺

○第五章、心ノ上ニ働クエシエンシ権力ノ異ナルニ從ヒ、生器ノ上ニ感觸ヲ為  
スコト一樣ナラズ、今一々之ヲ區別セントスルハ至テ容易ナラザレドモ、  
喜樂ノ感ト抑壓ノ感トハ血液ノ運行ト織失ノ供養ト相結合セルハ相違ナ  
キコトナリ、

渴ト空腹トノ如キ恐ルベキ有様ハ其始メ血液ノ欠乏ニ起ル、然レドモ

生器ノ壓抑不快ヲ覺ユルハ其生器中ニ自ラ生ズル苦惱ヨリ發スルコ  
トナリ、

渴トイフ者ハ単ニ胃ノ中ニノミ在ル者ニ非ズ、空腹ハ又飢餓ニ異ナリ、  
渴ト空腹トノ二者ハ精神上ヨリ言フトキハ苦難ノ有様ナリ、但シ本来  
ノ苦痛ノ如キ劇シキ痛アルニハアラス、然レドモ唯デシエツクシヨシ氣落位ニテ濟  
ムモノニテハナク、其苦難ノ嵩即チ分量ハ餘程大キクナル者ナリ、又  
空虚ヨリ起リタル抑壓ノ感覺ハ、妨害ヲ受タル生器ノ烈シキイルリテーシヨシ憤熱  
ト互ニ相結合セル者ナリ、

單ニ血液ノ運行ノミニ連係セル感覺ハスベテ一ノ場所ニ久シク停止  
スルヨリ起ル者はナリ、着座又ハ臥ノ如キ是ナリ、久シク着座セルト  
キハ皮膚ノ血液ノ運行妨障ヲ受ケ、不快ノ感覺ヲ起シ、其場所ヲ替ヘ  
ンコトノ念ヲ發スル者ナリ、床ニ臥シタル病人ノ為メニ最大ナル不快  
ヲ起シ、是ガ為ニ新病ヲ發スルコトアリ、此二件ノ為メニ良善ナル治  
療法ハドクトルアルノツトガ水ウオータルベツド床法ヲ最宜シトスベシ、

健康ト不健康トヲ自覺スルノ一部ハ血液ト神經織質トノ抵觸ニ屬ス  
ル者ナリ、然レドモ何分ハ神經ノ自己ノ性質ニ屬シ、何分ハ血液ノ抵  
觸ニ屬スルトイフ比例ヲ立ルコトハ至難ノコトナルベシ、但シ実事ノ  
上ニテ心ノ分解ヨリ言フトキハ此間ニ判然ト區別アルコトナリ、凡ソ  
脂肪多キカ、肥滿ナルカ、多血ノ人ハ特種ノ知心ノ勢力ヲ持ツ者ナリ、  
是ハ全ク神經ノ性質ヨリハ血液ノ運行ト滋養トニ多ク管係スル者ナ

り、

### 呼吸ノ感覺

○第六章 肺臟ノ表面ニ於テ常ニ養氣ト炭酸トノ交代アリ、其交代ノ度ノ變化ハ感覺ト相伴フ者ナリ、呼吸ノ苦惱ノ甚シ者ハサツケレシヨ窒息ナリ、此有様ノ反對ハ心地ヨキ活潑トエキシヒラレシヨ舒フツド歛ナリ、

養氣ハ天氣中ノ我儕ノ養物ナリ、我儕ノ生活力ナル者ハ我儕ノ食物ヲ酸化スル養氣ノ分量ヲ以テ之ヲ量ルナリ、此事ニ於テ第一ノ要用ナルコトハ肺ノ内ニ多量ノ養氣ヲ吸入ル、コトナリ、若シ吸入ヲ妨碍サル、トキハ歩ニ苦惱ヲ覺ユル者ナリ、又此吸入ヲ勸励サル、トキハ快樂ヲ覺ユルナリ、沈定ノ有様ハ即チ其中間ニ居ル者ナリ、

肺ノ特別ノ感覺ハ窒息ニ由テ顕ハル、ナリ、窒息ハ其源種々アレドモ、總テ大氣ノ不足ヨリ起ル、即チ水ニ溺ル、ガ如キ、或ル憤熱ノガスノ如キ(コロリン酸、硫酸ノ如キ)喘息及ビ其他ノ疾病ノ如キ是ナリ、呼吸ノ欠乏ヨリ来レル堪ヘ難キ感覺ハ他ノ感覺トハ全ク別種ノ者ナリ、此感ハ引伸シノ痛ト同シ原素ヲ持ツ者ナリ、引伸シノ痛トハ反對セル方ニ筋ヲ強ヲ引張ルノ痛ナリ、然レドモ呼吸ノ感ト筋ノ感トハ竟ニ一途ニ歸シ難シ者ニシテ呼吸ノ感ハ畢竟特異ノ作為ヨリシテ特異ノ成果ヲ顯ハシタル者ト定ムベキナリ、  
暫時ノ窒息ハ一時呼吸ノ力ヲ沈メ、別ニ他因ノ附添ナクシテ勢力ノ抑

鬱ヲ起ス者ナリ、譬ヘバ人ノ群集セル室内ニ入ルトキハ忽チデプレツシヨ抑壓ヲ受クルヲ覺フ、此抑壓ハ氣絶ニ近ヅク者ニテ、又氣絶ト為ルベキ者ノ幾分ヲ領シ居ルナリ、

清淨ナル大氣ノ処ニ移レバ忽チ喜樂ノ感ヲ生ズ、其喜樂ハ浮キウキトシタル、又ハ活潑ト名クル者ナリ、然レドモドレダケノ清淨氣アラバ、身体ノ全部ヲ亘リテ血液ヲ酸化シ、肺ノ面ニドレダケステミユルズ刺衝ヲ為スカトイフ算計ハ容易ニ定ムルコト能ハザルナリ、總テ窒息ノ極処ノ感ハ肺ノ各個ノ經驗ニ由テ知ル者ナリ、是ニ依テ考フレバ、大氣ノ變化ヲ感覺スルノ一分ハ固有スルコトト知ルベキナリ、

大空常ニ同様ノ状ニシテ變化ナキトキト、又ハ變化アルトモ其度甚舒緩ナルトキトハ共ニ人ノ智覺ニ感ヲ生ズルコトナシ、心ノ自覺ノコトヲ以テ例シテ之ヲ言フニ、イムフレツシヨ感得ノ有様是ヨリ彼ニ變ズルトキモ亦同様ナリ、

### 冷熱ノ感覺

○第七章 氣候ノ變化ハ亦身体ノ全部ニ感覺ヲ與フル者ナリ、其中ニ於テ殊ニ皮ノ感覺ヲ大ナリトス、

冷ト熱トハ共ニ生器ノ職掌ノ上ニ働キヲ為ス者ナリ、細キ血液ノ運行ハ第一ニ其感ヲ受クル者ナリ、ウエツセル血管ハ冷ニ由テ聚縮シ、熱ニ因テ張擴ス、血管ノ聚縮ハ血液ノ補給ヲ妨ゲ、諸部ノ滋養ヲ減ジ、生器ノ抑

壓下不快トヲ起ス者ナリ、然レドモ是ニ依テ直チニ肺ニ反射ノ励ミヲ生ジ、呼吸ノ働ヲ速ニシ、餘分ノ養氣ヲ肺中ニ引入ル、ナリ、即チ之ガ為メニ生活力ヲ増加スルナリ、之ニ依テ一時又ハ一処ノ抑壓ト差引算計ヲ立ツルトキハ生活力ヲ増スノ益ハ抑壓ノ不足ヲ償ヒテ猶餘アリ、故ニ冷氣トイフ者ハアル界限ヲ出ザル内ハ身体ヲ取締メ之ヲ強ムルノ益アル者ト考ヘテ可ナルベシ、温ノ感覺ハ冷ト全ク反対ヲ為ス者ナリ、

冷ノ感覺ハ管束ト疼痛トニシテ、アキユート強弱ト大小トノ兩様ヲ包含セリ、然レドモ何レノ場合ニテモ決シテ明白ニ此二者ヲ區別シ得ルコトハ亦能ハザルコトナリ、劇シキ冷氣ハ切ルガ如ク傷ツクガ如キ感ヲ起シ、身体ノ中ニテ十分ニ疼痛ヲ起ス者ナリ、アキユート織質ノ破壊、神經ノ痲傷ハ湯火傷ト同ジ痛ヲ發スル者ナリ、冷氣ノ嵩アル感ハ之ヲ寒感ト名ク、アキユート凜烈ノ極度ヲ指シテ之ヲ言フナリ、

温ノ感じハ若シ冷ヨリ變遷シテ來ルハ大ニ身体ノ快樂ヲ覺ユル者ナリ、熱キ飲料ヲ養ヒタルトキハ劇シキ温ノ感ヲ生ジ、温湯ニ浴シ、其他四面ヨリ温ニ圍繞セラル、トキハ大ナル温ノ感ヲ生ズルナリ、受動ノ姿ニテ快樂ヲ得ルヨリ温ノ有様ヲ言ハントスルニハ唯比喻ヲ以テ之ヲ説クコトヲ得ベシ、則チ之ヲ以テ快裕ナル内感ヲ以テ譬フルトキハ愛ト美麗トニ比スベシ、

イムプレッション  
上ニ記シタル押込ミノ變化ハ自覺ノ有様ニ亦變化ヲ生ズベシトイ

ヘルコトハ殊ニ冷熱ノ感ニ於テ適應スベシ、蓋シ氣候常ニ一様ニシテ冷熱ノ變化ナキトキハ人心ニ感覺ヲ為スコトナシ

#### アリメンタリカナル 消 食 管 ノ 感 覺

○第八章 此感覺ハ密ニ味ノ感覺ニ貼付スル者ナレドモ、亦味ト混淆スベキ者ニ非ズ、此感ノ主物ハ身体中ニ呑込ム処ノ食物ト飲料ト是ナリ、

食物ハ其種類太ダ多シ、水ハ飲料ノ根基ニシテ兼テ諸飲料ヲ作ルノ手立ナリ、固形物ノ食料ハ汾テ數種トス、一ヲ ウエヒセル糖 質 トイフ、糊及ビ砂糖ノ類之ニ属ス、一ヲ オイリ油質トイフ、諸種ノ脂肪及ビ油類ニシテアルコイルモ之ニ属ス、一ヲ アルブミナス蛋白質トイフ、(此内ニ ナイトロゼン淡氣窒素ヲ含有ス)蛋白、肉ノ線維、凝固分(牛乳餅ノ)膠ノ如キ、皆之ニ属ス、凡ソ人体ノ織質ハ皆許多ノ淡氣ヲ含有スル者ナレバ、織質ヲ回復スルニハ蛋白質ノ食物ヲ必要トス、其他ノ諸物ハ皆徐々ニ燃燒シ酸化スルニ由テ、身体ノ其他部ノ力勢ヲ増スニ要用ナル者ニテ(筋ノ力、神經ノ力、体温)兼テ又蛋白質ノ食物ノ力ヲ定ムル者ナリ、

○第九節 消化機能の生理論ヲ除去リテ見レバ、消食管ノ重立タル感覺ハ左ノ如シ、曰ク嗜好、曰ク飽饜、飢、悪心、及ビ消化ヲ妨ケラル、ニ由テ起リタル苦惱是ナリ、

嗜ト飽トハ物ヲ食フニ付テ快樂ノ有様ナリ、此感ハ生器ノ消食力ノ強

弱ト、食物ノ體質トニ由リテ一様ナラズト雖トモ、尋常ノ有様ヲ以テ之ヲ言フトキハ、人生快樂中ノ大部分ヲ占ムル物トイフベシ、初メハ嗜好ニ由テ快樂ノ感ヲ起ス、此感ハ大小ヲモ強弱ヲモ兼ルモノナリ、スベテ動物ハ嗜好ノ感ニ由リテ、意向ノ力勢ヲ引起スナリ、是ヲ以テ嗜好ハ人身ノ快樂ノ感ナルコトヲ證スルニ足ルベシ、飽飢ノ感ヲ嗜好ノ感ノ後ニ繼グ者ニシテ、嗜好ニ比スレバ愉快満足ノ意アリテ其感ノ起ル所ハ胃ノ面ニ在リテ、半ハ消化機ノ内ニ入込ム者ナリ、飽飢ノ満足ハ密ニ温暖及ビ滋補ノ增多ト合同一致スル者ナリ、

ホルゲル

飢ノ形体上ノ状勢ハ、胃ノ落ミ窪ミタル有様ニシテ機関ノ内ニ送ルベキ滋養物ノ不足ナリ、又其感覺ニ付テ言フトキハ第一步ニハ氣ノ引立タズシテ不快ノ感ヲ起シ、第二步ニハ胃ノ部ニ管係シテ物ヲ食ヒタキ苦惱ヲ起ス、此苦惱ハ一部分ハ筋ニモ管係スル者ナリ、其後ハ此苦惱全体ニ及ボシテ容量ノ巨重ナル感覺ヲ起シ、夫ヨリ甚シキハ全身空虚ト為リテ飢餓ニ至ルナリ、ナウシアヂスガスト悪心ト嫌心ハ消化機ニ固有セル力強キ感ニシテ譬へバ肺藏ニ窒息アルガ如シ、此感ハ常ニ嘔吐ノ働ト相伴フ物ニシテ、其極処ノ悪症ニ至リテハ船暈ノ如ク、苦惱堪フベカラザルニ至ルナリ、此感覺ハ単立ノ物ニシテ他ノ感覺ト關係スルコトナシ、消化力強健ニシテ常ニ爽快ノ習慣アル者ニテモ、其分量多キニ過グルトキハ変ジテ氣重モノ不快ヲ起シ、遂ニ烈シキ神經ノ苦惱ヲ受クルコトアリ、此悪心トイフ感ヲ忘レズニ居リ、時ニ因リテ之ヲ思ヒ出ス

コトハ、即チ 新ニ増心ヲ起スノ源ト為ルナリ、故ニ嫌心トイフ語ハ甚シキ反逆厭惡ヲ徴スルノ語ナリ、

デランジド、ヂゼスシヨ

消化ヲ妨碍スルノ苦惱ハ其種類至テ多シ、或ハ烈シキ痛ミニ由ル者アリ、内臓ノ一部分ニ痙攣ヲ起コサガ如キ是ナリ、スベテ不消化ヨリ来ル感ハ氣分ノ壓下ナ、或ハ強健ニナルベキ食物ノ為メニ快ヨキ感ヲ交フルコトアリ、凡ソ臟腑ノ怠緩ハスベテ重々シキ氣分ノ壓下ト相伴ヒ、之ニ反シテ臟府ノ反動ハ氣分ノ活澆ヲ起ス者ナリ、

○男女ノ性ニ結合シタル感覺モ亦此部中ニ算入スベキ者トス、婦人ノ乳ノ腺及ビ涙ノ囊トノ如キ是ナリ、是等ハ皆最初ノ時機ニ於テ成リタメ機関ノ働ナリ、然レドモ是等ハ猶我等ガ心動ト錯雜シテ性ズルコトアリ、夫等ノコトハ猶後史ニ於テ之ヲ記スベシ、

又皮膚ニアル機関ノ職分モ亦此部ニ属スベキ者ニシテ、亦喜樂ト苦惱トノ智覺ヲ兼タル者ナリ、此事ハ下ノ觸テツ官ノ部ニ於テ之ヲ詳説スベシ、筋ノ感覺ト機関ノ知覺トヲ合セテ見ルトキハ形体ノ安慰ヒツカル、コムホルト不安慰トイヘル二個ノ大ナル知覺ノ種類を現ハシ出シタリ、

味ノ官センス、オフ、テイスト

一 味ノ官ハ消食管ノ入口ニ在リテ、快樂ト苦惱トノ源ヲ為シ、食フ所ノ食物ヲ區別スルコトヲ掌ル、○味ノ物質オブゼトハ大要食料ト為ルベキ者是ナリ、

礦物中ニ於テ獨リ水ノミ味ナシトス、其他ハ諸種ノ流動物、及ビ溶解シ得ベキ固形物ハ大抵味アリ、醋、塩、明礬ノ如キハ尋常人ノ能ク知ル所ナリ、凡ソ植物動物ハ大概ハ味ヲ以テ其物ヲ區別スルコトワ得ベシ、其内或ハ僅ニ味ナキ者アリ、蛋白、糊、樹脂ノ如キ是ナリ、然レドモ其大部ハ味ヲ以テ其物ヲ徵標スルコトヲ得ベシ、即チ甘ハ砂糖ノ如ク、苦ハ幾那塩、阿芙蓉、ストリクナイン、モルヒネ黄連、クワツシア、相煤ノ如ク、酸ハ醋類ノ如ク、辛ハ芥子、胡椒、薄荷ノ如キ、熱ハアルコールノ如キ是ナリ、

ニ 味ノ機関ハ舌ナリ、而シテ知覺ノ居所ハ其上面ニ在リ、

舌ノ上面ニ細小ナル突出物アリテ、之ニ満布ス、之ヲ粒ペビト云フ、粒ニ三種アリテ、大小形状各異ナリ、其最小ニシテ最多数ナルハ其形円錐状ニシテ舌ノ大部ニ満チ、舌根ニ近クニ随ヒテ、漸々ニ消滅ス、其中等ノ大サナル物ハ其形差々円クシテ舌ノ中部ト前部トニ散布シ、舌端ニ至ルニ随ヒ其数益多シ、其大ナル者ハ其数八個ヨリ十五個ニ過ギズ、舌ノ後部ニ於テニ行ニ列シ、V字ノ形ノ如キ角度ヲ為ス、粒ハ何レモ細微ナル血管アルドワト神經ノ絲線フヒラヲ所持シ、舌ノ知覺ノ居所ト為ル、

舌ニハ二様ノ神經アリテ之ヲ纏繞ス、一ヲ舌喉神經アロツツ、フトイヒ、舌ノ後部ニ在リ、一ハ第五對ノ杖派ハレンダアル(顔面ノ觸神經)ニシテ舌ノ前部ヲ絡ブ、此二種ノ神經アルニ由リ自然ニ二様ノ知覺ヲ現ハセリ、味ノ本性

ハ舌喉神經ノ掌ドル所ニシテ苦味ノ如キハ殊ニ舌ノ後部ニ於テ之ヲ味フナリ、舌ノ全体ヲ以テ言フトキハ其知覺ハ大抵、其上面ニ在リテ、其内チ中部ハ其知覺差少ナク、根ト両側ト尖頭トハ其知覺差々多シ、食物ノ味ハ舌ノ前端ヨリ後部ニ至ルニ從ヒ両側ト漸々ニ之ヲ増シ以テ広報ニ食物ヲ送ルノ運動ヲ引起シ、終ニ之ヲ嚥下スルニ至リテ止ムナリ、

味ニ付テ決シテ離ルベカラザルノ有様ハ食物ノ溶解ナリ、又味ニ付テハ、舌トイフ者ハ決シテ乾燥シ居リテハナラヌコトナリ、味ノ知覺ハ適度ノ押シ付ケニ由テ之ヲ増シ、寒冷ニ由テ全ク之ヲ減却ス、

味ヲ為スノ間、神經ノ働ノ有様ハ之ヲ詳カニ言フコト能ハズ、蓋シ是ハ化合ノ性質ノ者ニシテ、溶解シタル食物ト、粒中ノ血管ヨリ排泄セル液ノ混合ニ由リテ成ル者ナリ、

三 味ノ知覺ハ是ヲ分チテ三ト為ス、(一)胃腑トノ交感ニシテ即チ嗜ノ如シ、(二)本来ノ味、(三)觸ノ感、是ナリ、

第一ノ件ニ付テハ、舌ト消食管トノ構造ヲ見ルニ明ラカニ相ヒ合スル所アリ、乃チ舌ト消食管トノ表面ハ共ニ粘滑ノ膜、腺、及ビ粒アリ、又本来ノ味ヲ離レテ、舌ノ感覺ナル者ハ、食フ所ノ物ノ能ク胃ノ好ミニ適スルカ適セザルカヲ指示スル者ナリ、故ニ舌ハ実ニ胃ノ始ナリ、猶一層進ンデ説ケバ、嗜ト味トハ別種ノ者ナリ、牛奶油ト煮タル肉トハ嗜ノ最強キ者ナリ、塩ト機那塩トハ味ノ最強キ者ナリ、然ルニ一ハ

胃ノ性ニモ適セズ、故ニ其甚シキハ船暈ノ如ク嘔吐ヲ發スルニ至ルコトアリ、一ハ之ニ反シ直ニ消化機ノ働ヲ受クルニ至ルナリ、

#### 四 味ハ胃ト交感シタル所ニ於テ嗜ト嫌チスガストノニツアリ、

嗜ハ上文ニ説明シタル如ク、美味ト名クル食物ト一致ルヨリ起リタル感覺ナリ、美味トイフハ動物ノ肉又ハ植物ノ厚質ナル物ノ如キ是ナリ、砂糖ハ嗜ト味ト兩様ヲ兼タル者ナリ、快樂ノ感ニ就テ言フトキハ嗜ノ感覺ハ、消化ノ知覺ニ比スレバ、其力ハ強クシテ其容ハ小ナリ、味ノ甘キト比スレバ、力ハ弱クシテ容ハ大ナリ、人此感覺ノ異ナルニ從ヒ(嗜ト嫌ト)消化ノ働モ亦異ナリ、然レドモ嗜ム物ハ、其性消化シ難キ者ト雖ドモ亦胃中ヨリ吐出スルコトナシ、此感覺ノ力ハ意向ノ押シ付ケニ由テ其働ヲ進メ、食フトイヘル働ヲ励ミ立ルニ至ルナリ、是時ニハ心知ノ力ハ甚ダ高カラザルナリ、嗜ノ反對ハ嫌ナリ、此嫌ノ胃ニ交感スルコトハ嗜ニ異ナルコトナシ、又消化力ニ管係ヲ為スコトモ嗜ト相同ジ、其反對ヲ状を為スニ由リテカク言フ

#### 五 本来ノ味ニハ甘スウエートト苦ビツテルトノ二様アリ、

甘ハ砂糖ノ味ヲ以テ之ヲ表スベキ者ニシテ、其味ノ在ル処ハ諸ノ果物其他種々ノ食物ノ中ニ現存セリ、甘ノ感覺ハ之ヲ味ノ快樂ユルツトト稱シ味神經ノ快ト刺衝ニ由リテ生ズル所ノ感ナリ、階級チヂヲ以テ言フトキハ此者ハ鋭敏アキユトト稱スベシ、種類スベシヲ以テ言フトキハ其感覺ハ言語

ヲ以テ明指スベカラズト雖ドモ、自等一種特別ノ感ニシテ其他ノ諸官ノ快樂ノ感トハ混乱スベカラザル者ナリ、意向ヨリニ屬セル性質ヲ言フトキハ快樂ト同ジ性質ノ者ナリ、此感覺ハ生語ノ他ノ感覺、即チ嗜レリシノ感ニ比スレバ心智ノ力差多ク、詳ニ其味ノ階級ヲ分別シ、其記憶モ嗜ニ比スレバ更ニ確切ナリ、凡ソ味ノ感ハ心智ノ方ヨリ言フトキハ五官ノ中ノ最下等ニ居レドモ生器ノ簇グループニ於テハ最高等ノ地ニ居レリ、

苦味ハ幾那塩ゲンチアン、黄连ビツテルアロー、苦苣薈、烟煤ニ於テ其例ヲ見ルベシ、苦味及ビ無酸味ハ甘味ノ反對ナリ、此感覺ハ味ノ苦惱ニシテ、味神經ニ不快ノ刺衝ヲ與ヘ、且ツ厭惡ヲ生ゼシムルヨリ起ル所ノ情態ナリ、此感ハ下ク細リノ減消ノ性質アルコト恰モ甘味ニ同ジ、

六 味ノ第三ノ種類ハ觸ノ神經ヨリ發シタル原質ニシテ、其固有ノ性ハ刺突ハンゼナリ、

此刺突ヨリ性ズル所ノ味ハ曰ク鹹、曰ク灰汁アルカ、曰ク酸、曰ク收縮、曰ク熱、曰ク辛、是ナリ、

鹹味ハ尋常ノ塩ヲ以テ之ヲ知ルベシ、塩ニ由リテ得タル味ハ甘ニモアラズ苦ニモアラズ、惟刺突即チ透入バイチンノ味ナリ、此感覺ハ第五對ノ神經ニ応ズル所ナリト考察セリ、然レドモ諸塩ノ中ニ於テ或ハ其固有ノ味ト刺突ト相結合セル者アリ、瀉利塩ノ如キハ其一分ハ刺突ノ力アレドモ、其固有ノ味ハ苦ニ相違ナカルベシ、

アルカリテスト、ソダ、ポッターシ  
灰汁ノ味ハ蘇打、波大沙、阿摩呢ノ如ク、鹹ニ比スレバ刺突ノ力更ニ  
強ク、神經ヲ悩マスコト更ニ甚シ、其刺突ハ鋭キ苦惱ヲ起シ、遂ニ網膜  
チツシユ破壊スルニ至ルベキ者ナリ、

酸ノ味ハ最モ尋常知ル所ノ刺突ニシテ、醋ニ於テ之ヲ知ルベシ、酸味  
ノ苦惱ハ苦味ノ苦惱ニ比スレバ差々火傷スカルドノ方ニ近キ者ナリ、  
酸味ヨリ生ズルハ快樂ハ同ク刺突ヨリ生ズル者ニシテ、其界限ハ苦惱  
ト同様ノ地ニ在リ、

收縮<sup>アストリ</sup>セントノ味ハ刺突ノ温和ノ状ナリ、即チ明礬ニ於テ之ヲ知ルベシ、  
收縮ノ働キハ一個ノ純粹ナル味ヨリ生ジタルコト明白ニシテ、觸神經  
ニ向ヒテ形体上<sup>メカニカル</sup>ノ動乱ノ起シタル者ナリ、收縮ノ味ハ表面ニ引縮ノ如  
キ感ヲ起ス者ニテ、皮上ニ於テ塩ノ溶解セル者ヲ乾上ガル如キ状ヲ頭  
ハスナリ、此味ヲ名ケテ粗糙<sup>ロウステ</sup>ノ味トイフ、丹寧<sup>タンニン</sup>ノ如キハ即チ收縮  
ノ味ヲ為ス者ナリ、

熱<sup>フヒ</sup>リトイヘル味ハ芥子、アルコール、樟腦及ビ揮発油ノ類ニシテ、  
其中ニ多少本来ノ味ヲ混合イルト雖ドモ、別ニ二種ノ味タルニ相違  
ナシ、辛<sup>アクリ</sup>トノ如キハ熱ト苦ト相結合シタ処ノ味ヲ云フナリ、

## 嗅ノ知覚

第一 嗅ノ知覚ハ肺藏ノ口ニ在リ、快樂苦惱ノ原ヲ為シ、其他ノ知覚ト  
異ナル所以ハ物ヨリ生ズル氣ヲ肺中ニ受クルヲ以テ其標別トス、

嗅ノ知覚ハ味ノ生器ノ甚ダ相近シ、故ニ嗅ト味トハ同ジニ相助ケテ働  
キヲナスコト多シ、

第二 嗅ノ物質<sup>グト</sup>ハ氣状ノ物ト飛散ノ物トヲ多シトス、是ラノ物ハ大抵  
香<sup>オド</sup>ヲ有スル者ナリ、

氣中ニ於テ香ノナキ者ハ大氣ノ原質ナリ、則チ陰氣、養氣、水蒸氣、  
及ビ炭酸(大氣中ニ涉獵ヲ含ム)ナリ、又香ノアル氣ハ炭養、硫酸、緑  
氣<sup>コロ</sup>、藍質<sup>イオ</sup>、硝氣ノ諸氣、安摩尼、硫化氣、磷化輕氣、及ビ諸酸ノ蒸氣  
ハ皆香アリ、近年發見セル阿純<sup>オレン</sup>ハ香氣ノアルヨリシテ其名ヲ得タル者  
ナリ、又礦物ノ中ニハ惡臭ヲ發スル者アリ、信石ノ如キハ青蒜ノ臭ア  
リ、白火石ノ如キモ之ヲ碎クトキハ亦臭氣ヲ發ス、植物ハ香氣アル者  
多シ、香ニ由リテ其性ヲ區別シ得ベキ者多シ、動物ノ香氣モ亦甚ダ多  
シ、

良キ香氣アル者ハ、化学ヨリ言フ時ハ輕炭氣<sup>ハイドロ</sup>ノ諸種ナリ、此物ハ  
大概輕氣炭氣ヨリ成ル者ナリ、即チ亞爾固<sup>アルコール</sup>、以的尔<sup>イーテル</sup>、号羅尼香水、  
玫瑰花油、及ビ其他ノ香料、皆是ナリ、忌嫌スベキ香ノ中ニハ硫黄其  
一分ヲ占ム、硫化輕氣ノ如キ是ナリ、最モ惡キ香氣ハ信石ヲ以テ多ク  
其基礎ト為ル、即チ加奇代尔<sup>カゴダイル</sup>ノ如キ是ナリ、此物ハ德国ノ學士本仙<sup>ブンセン</sup>、  
武重液<sup>リケアル</sup>ト名クル者ヲ試驗シテ合製シタル者ノ一ナリ、刺辣ノ香  
アル者ハ安摩尼ヲ以テ之ニ當ツ、鼻烟ノ原質ナル尼奇診<sup>ニコチン</sup>ノ如キモ亦其  
類ナリ、

第三 香ノ發散ハ熱ト光トノ助ニ賴ルコト多シ、濕氣モ香ノ發散ヲ助クルコトアレドモ皆然リトスルコト能ハズ、

熱ハ飛昇ノ力アルニ由リ最モ能ク香ノ解散ヲ助クルコト効アリ、光ハ化合ノ力アルニ由リテ其効モ亦熱ニ類セリ、濕氣ハ堅硬ナル物ヲ溶解シ其香ヲシテ飛昇スルノ途ヲ得セシムルノ力アリ、

第四 気状ノ物ハ散<sup>ヂヒューション</sup>佈ノ名アリテ殊ニ其香ヲ發表スルノ性アリ、

凡ソ香氣ノ輕ハ者ハ其發散スル異速ニシテ、又高ク上昇ス、  
硫<sup>サルハレットアトハイドロゼン</sup>化 輕氣ノ如キ是ナリ、又香料ノ諸物ハ皆馨烈ト發散サノ二性

ヲ兼ヌルヲ以テ能ク遠キ據リニ其香氣ヲ送ル者ナリ、印度群島中ノ香料島ノ如キハ航海者、遠キ距離ヨリ其香氣ヲ嗅ギテ此島ノアルコトヲ知ル、動物ノ臭氣ハ濃厚ナル氣ニシテ其發散スルコト峻疾ナラズ、又高ク氣中ニ飛昇スルコトナシ、故ニ獵犬ノ獸迹ヲ尋タルニ常ニ其鼻ヲ地ニ着ケテ之ヲ嗅グ、又体ニ害アル惡臭ハ地面ニ在ラバ濃厚ナレドモ地ヲ離ル、コト數尺ナルトキハ已ニ人ニ感ズルコト少ナシ、二三線内ノ卑湿ノ地ニ在リテモ高ク構造セル所モ眠臥スルトキハ其害ヲ受クルコトナシ、

第五 嗅ノ官ハ鼻ニシテ、其鼻ノ知覺ハ膜ニ在リ、其膜ハ孔及ビ其孔ヨリ分派セル衆小孔ヲ覆フ者ナリ、

鼻ノ内部ハ尺ク粘氣アル膜ヲ以テ被覆セリ、又數條ノ細骨アリテ此膜ヲ開張シ、以テ鼻ノ全部ニ嗅ノ知覺ヲ及ボサシム、又嗅ノ機關ノ解剖

ニ於テ必要ナルコトハ嗅神經ヲ知ルコトナリ、此神經ハ都テ内部ノ隱蔽セル所ニ多クシテ、鼻ノ門近傍ニ少ナシ、此嗅神經ニハ第五對ノ神經ノ支梢之二連ナリテ之二嗅感ノ知覺ヲ與フル者ナリ、

第六 香氣ノ發散ハ蓋シ酸化ヨリ來ル者ナリ、

格拉早<sup>グラハム</sup>ノ説ハ本文ノ意ヲ助クベキ者ナリ、凡ソ香氣アル物ハ、總テ養氣ノ力早ク之二及ブ者ナリ、即チ硫黃質ノ輕氣及ビ香物ノ如キ是ナリ、又香氣ナキ所ノ物ハ、尋常ノ溫度ニテハ養氣ノ力之二及ブコト能ハズ、單純ナ沼澤氣、及ビ炭化輕氣ノ如キハ共ニ香氣ナキ者ナレバ、數千年来養氣ノ力ヲ受ケズシテ深坑ノ中ニ存在スル者ナリ、凡ソ養氣鼻ヲ流通スルコトナキ時ハ香氣トイフコトハ全ク無キ者ナルベシ、

第七 嗅ノ知覺ハ分ツテ三ト為ス、其一ハ肺臟ト其知覺ヲ共ニスル者アリ、其二ハ嗅神經ノミノ力ヲ以テヲ得ル者アリ、其三ハ觸神經ノ發動ヲ兼ヌル者アリ、

○肺臟ト共ニスル所ノ嗅ノ知覺ハ、爽快ノ香氣、鬱閉ノ香氣ト名クル者之二屬ス、

香ノ爽快ト云フハ肺臟ノ働キヲ提起スルヨリ生ズル感覺ナリ、香氣アル物ノ中ニ此提起ノ効ヲ有スル者多シ、奇羅尼香水<sup>コロニー</sup>、拉芬他<sup>ラフエダ</sup>、薄荷及ビ香料ノ大分ハ皆此性アル者ナリ、又香水ヲ溶解スル酒精ニハ多ク刺衝ノ原ヲ為ス者アリ、此刺衝ノ性アル者ハ人群ノ雜沓ヨリ生ズル惡キ大氣ノ為メニ壓抑セラレタル精神ヲ蘇醒スルノ切アリ、香氣ノ爽快

ハ香氣ノ芬芳ト相結合スル者アリ、相結合セザル者アリ、消皮廠ノ臭氣ハ肺ヲ刺衝スルノ性アリ、牝牛ノ香ハ爽快ニシテ且ツ甘シ、麝香ハ蓋シ刺衝ノ性アル者ナリ、

鬱閉ノ香即チ窒息ノ香トイフハ肺ノ働キヲ壓抑スル所ノ香氣ナリ、人群雜沓ノ臭氣、植物動物ノ腐敗ノ臭氣、養氣ノ欠乏、炭酸ノ積重ハ人ノ生活力ヲ減ジ兼テ知覺ヲ壓抑スル者ナリ、此知覺トイフハ本来ハ肺ノ知覺ニシテ嗅ノ知覺ト送結合シタル者ナリ、焼麵包ノ竈ノ香氣ハ鬱閉ノ香ナレドモ、又甘味ノ香ヲ兼タル者ナリ、

硫化輕氣サルハレットド、ハイドロゼンノ如キ嘔氣ヲ催スノ香氣ハ胃腑ト其感ワ痛ズル者ナリ、然レドモ何ノ神經ヲ以テ何ノ方法ニ由リテ胃腑ト相感ズルノ理ハ未ダ明詳ナルコト能ハズ、

第八 本来ノ嗅ノ知覺ニ結合スル者ハ、芬芳ノ香フラグランス及ビ之ニ反スル所ノ香ナリ、

甘キ香即チ芬芳ノ香ハ玫瑰花、瑞草花、橙、茉莉花等ニ於テ之ヲ知ル、是等ノ花香ハ嗅ノ機關ノ本来ノ快樂、即チ嗅神經ヨリ生ズル処ノ歡喜ヲ得ル者ナリ、此香氣ハ香ヲ發スル物料ノ一所ニ集合スルト廣ク散開スルニ随ヒテ或ハ銳利アキュートト為リ、或ハ重大マッシブト為ル、例ヘバ拉芬他水、迷迭香ローズマリーノ香氣ト「ミグノネット」香氣アル草花ノ名ノ床、丁香ノ田ノ香氣トヲ比較シテ之ヲ知ルベキガ如シ、此種ニ属スル香料ノ純清度ハ嗅ノ感ノ快樂ノ度ヲ以テ之ヲ定ムベシ、刺衝ノ力ハ甚ダ緩ニシテ

久シク之ヲ嗅グドモ感覺ヲ害スルコトナシ、

甘キ香氣ニ反シタル香ハ之ヲ名ケテ臭氣オドールト云ヒ、其緩ナル者ハ之ヲ厭氣マロドト名ク、阿魏ノ如キハ即チ臭氣ヲ發スル者ナリ、此ノ如キ物ノ中ニ或ハ嫌フベキ臭氣ノ少分ヲ含ミテ、嗅神經ノ全キ苦惱ヲ發セザル者アリ、縹草、泥胡菜、沼澤ノ泡沫フラウオルト(指ノ間ニ壓シタルトキ)ノ如キ共ニ厭氣ヲ發スル者ナリ、凡ソ嗅神經ヲ攪動シテ不快ヲ發セシムル者ハ即チ苦惱マロドノ性ニ属スル者ナリ、惡臭ヲ發スル物ハ其類許多アリテ、苦惱ノ感覺ノ通常ノ徵候状態ハ適ニ其中間ニ在リ、

第九 兼テ觸神經を聳動スル所ノ香ヲ刺突ノ香ト名ク、

安摩呢アムモニア(香塩ト為シタル者)烟質烟草ノ原質ノ芥子、濃酸醋アセチク等ノ香ハ銳キ刺衝ノ感ヲ生ズル者ナリ、刺突ハ此香ニ適應セル名ナルベシ、人ノ此感覺ヲ起スハ蓋シ第五對ノ神經ノ活機ノ竦動ニ由ル者ニシテ、常ニ鼻烟ヲ用フル人ハ已ニ單純ナル嗅ノ知覺ヲ失ヘル者ナリ、刺突トイフコトハ神經ト心智トヲ聳動セル方法ニシテ、此刺突ノ界限ノ内ニ又多少ノ快樂アル者ナリ、凡ソ大ナル音響、光ノ内燦、急疾ノ行歩等ハ皆竦動トイヘル效能ヲ生ズル者ニシテ、其時若シ神經爽闊ニシテ空曠ナルトキハ快樂ノ感ヲ起シ、然ラザル時ハ苦惱ノ感ヲ生ズル者ナリ、

酒精ノ類ノ香ハ半バ爽快ニシテ甘ク、半バ刺突ノノ氣アリ、即チ亞尔箇兒アルコー、及ビ諸酒ノ香ノ如キ是ナリ、

又刺突ノ香ト悪キ香ト兼ネタル者アリ、是ヲ厭刺ノ香トイフ、石炭  
氣ノ工場ノ香ノ如キ是ナリ、

又肉体ノ嗜欲ノ發動スル所ノ香アリ、肉ノ香ノ如キハ能ク人ノ食欲ヲ  
發セシム、此如キ者ハ母香ノ一半ハ消化機ト相和合シ、其一半ハ消化  
機ト相交感スルニ由ル者ニシテ、其理ハ前ノ嘔氣ヲ催ス香氣ノ條ニ記  
スルガ如シ、禽獸ノ中ニハ又嗅ニ由リテ雌雄牝牡ノ欲ヲ發動スルコト、  
他ノ官能ノ各個ノ欲ヲ發動セシムルニ同ジキ者アリ、凡ソ一個ノ大ナ  
ル快喜ハ他ノ快喜ノ感覺ヲ發動セシムルトイフコトハ動物ノ身体ニ  
具ハレル通則ナリ、

液汁ヲ有セル物ノ中ニハ又香氣ヲ發スル者アリ、其香氣ヲ發スルハ之  
ヲ嚙ミテ既ニ畢リ、將ニ之ヲ咽喉ニ下サントスルトキニ於テ始メテ之  
ヲ鼻ニ感ズルナリ、是ヲ名ケテ餘香ト云フ、玉桂皮シナモンノ如キハ味  
ナキ者ナレドモ、之ヲ嚙ム時ハ餘香ヲ發スル者ナリ、

嗅ノ知覺ハ知慧上ヨリ言フ時ハ味ノ知覺ニナキ所ノ前進ヲ為ス者ナ  
リ、嗅ノ知覺ノ物ヲ區別スル力ハ甚大ニシテ、物ヲ識得スルニ此力ノ  
指教ニ受クルコト多シ、再嚙獸、厚皮獸ノ如キ動物ノ嗅ハ知覺人ヨリ  
強クシテ其最強キハ食肉ノ四足獸ナリ、犬ノ嗅力ニ至リテハ是ヲ奇異  
ト称スルモ可ナルガ如シ、

凡ソ回想ノ力レコロレト區別ノ力ネイショントハ毎ニ其強弱均シクスル者ナ  
リ、獨リ嗅ノ知覺ニ至リテハ回想ノ力却テ區別ノ力ニ勝リ、若シ心ヲ

其処ニ留ムル時ハ能ク玫瑰花ノ甘、香塩スメリングサルツノ刺突、香  
物ノ芬芳ヲ心ニ浮カマシムルコトヲ得ベシ、

#### 觸ノ感

第一 知慧即チ知覺ヲ與フル感ノ順序ヲ以テ言フ時ハ宜シク味ト嗅トノ  
上ニ在ルベシ、

○觸ニ感ズル処ノ主物ハ固形物ヲ通常トス、

氣類ハ強ク動ク時ノ外ハ觸ノ感ヲ起スコトナシ、流動物ハ冷熱ノ物ノ  
外ハ僅ニ觸ノ感ヲ起シ、或ハ全ク感ゼザル者ナリ、リ、外面ノ堅固ナ  
ル物ハ常ニ必ズ觸ノ感ヲ起ス者ナリ、

第二 觸ノ感ヲ掌ル所ノ官ハ皮膚、即チ身体ノ包被ナリ、口中、舌上、  
鼻内共ニ皮膚ノ被フ所ニ非ルハナシ、

皮膚之ヲ分ツテ二層トス、外面ニアルヲ表皮ト云ヒ、内面ニ在ルヲ真  
皮ト云フ、乳嘴ハダ、爪、毛及ビ二種ノ肉核クダアリ、一種ハ汗ヲ分泌シ、

一種ハ肉質ノ物ヲ分泌ス、是等共ニ真皮ニ屬ス、又血管ト神經トヲ具  
ヘタリ、

表皮ハ真皮ヲ保護スル者ニシテ知覺ヲ有セズ、其厚ハ印知インチノ二百四十  
分ノ一ヨリ十二分ノ一ノ差違アリ、足踵ト手掌トハ最モ厚シ、真皮ハ  
表皮ノ下ニ在リテ知覺アリ、乳嘴、神經、血管之ニ屬ス、真皮ハ処ニ  
由リテ畦状ヲ為シ、表皮モ亦之ニ從フ、此ノ如キ者ハ手ノ皮ニ於テ之

ヲ見ル、乳嘴ハ小ナル円錐形ノ突起ニシテ普ク真皮ノ全面ニ布置ス、手掌、手指、足踵ニテハ乳嘴ノ粒大ニシテ、且ツ密接セリ、其高サ手ニ在リテハ印知ノ二百分一ヨリ百分一二至ル、欠陥ト神經ト共ニ此乳嘴ノ中ニ透シ、以テ真皮ニ知覺ヲ生ズルノ媒ト為ス、二種ノ肉核又腺ト譯ス皮ヲ清浄ナラシムルノ機關ナリ、又真皮中ニハ極メテ微細ナル筋状ノ纖維アリ、此纖維ハ殊ニ寒氣ニ感ズルコト速ナル者ニシテ、皮膚ノ震慄スルハ此纖維ノ收縮スルニ由ル者ナリ、

第三 觸ノ感ヲ起ス者ハ唯一ノ壓プレッシャーノミナリ、固形物外ヨリ人ノ皮ヲ壓ス時ハ神經ノ纖維、乳嘴ノ間ニ沈ミ是ニ由リテ觸ノ感ヲ生ズルナリ、

第四 觸ノ知覺ハ之ヲ分ツ時ハ左ノ諸種ト為スベシ、曰ク感エモシ觸エモナル、曰ク觸インテクトノ本性アル智慧ノ觸デュアル、曰ク觸ト筋トノ感ニ合セタル觸等、是ナリ、

感エモシ觸エモナルノ中ニハ軟ソフトナル觸、刺突ポイントノ痛、氣候ノ觸等ノ諸類アリ、軟ナル觸トハ皮ノ外面ニ觸ル、物ノ軟和ナル感ヲ為スコトニシテ、例ヘバ衣服衾褥ノ体ニ觸ル、ノ類是ナリ、凡軟ナル觸ハ快樂ノ感ヲ為ス者ニシテ、若シ容積ノ大ナル者来リ觸ル、トキハ銳利シャープノ感ハ甚ダ少クシテ重大ノ感ヲ多シトス、軟ナル觸ト温ト合スル者ハ毎ニ快樂ノ感ヲ生ズル者ニシテ、例ヘバ温血物ノ両体間ニ抱持セラレ、又ハ身体ノ一部ヲ以テ他ノ一部ニ觸ル、ガ如キ是ナリ、然レドモ習慣ニ由リテ、此

感ノ減ズルコトハ關係リレーションノ理ヨリ起ル者ニシテ、例ヘバ衣服ノ如キハ常ニハ觸ノ感ヲ起スコトナク、唯衣服ヲ更換シ、又ハ裸体ニ衣服ヲ被ル時ノミ觸ノ感ヲ起スガ如シ、

觸ト温トヲ合セタル感ハ幼兒ノ母ニ抱擁セラレ、ニ於テ明カニ之ヲ知ルベシ、此感ハ獨リ人類ノミナラズ、禽獸モ亦同ジコトナリ、温觸ノ感ハ人ノ意思ノ力ヲ以テシテ之ヲ保持スルコト多クシテ人事ノ動作ノ上ニハ又此中ニ算入スベキコト少カラズ、例ヘバ指又ハ手ヲ以テ、口或ハ面ノ上ニ置ク等ノコトハ是ニ属スベキコトニテ、此如キコトハ男女ノ情欲上ニ於テモ、病者ヲ扶持スルコトニ於テモ、共ニ快樂ノ感ヲ起スベキ者ナリ、男女同寢ノ時ハ温ニシテ軟ナル觸ハ殊ニ手ヲ要スル者ナリ、

刺突ポイントナル觸ノ感、即チ觸ノ感ノ苦痛ナル者 凡ソ外物ノ尖ク強ク劇シク皮膚ニ觸ル、トキハ、刺突ト奮興トヲ合シタル感ヲ皮膚ニ起ス者ナリ、此外ニ又有形物ヨリ受クル所ノ烈シキ苦痛アリ、此刺突ノ感ハ前ノ諸感ニ於テ言フ所ノ刺突ノ感ト大概同ジ、此刺突ノ感ノ中ニ於テモ、若シ神經ニ爽快ヲ與フルトキハ快樂ノ感ヲ生ズルコトアリ、奮興ハ神經ノ力ヲ消磨セザルガ為メニ歡喜ノ感ヲ發スルコトニテ其大奮興ハ刺突ヨリシテ生ズル者ナリ、

皮膚ノ烈シキ苦痛ハ鞭答ニ由リテ之ヲ知ルベシ、此ノ如キ苦痛ハ其時ニ於テ發スル苦痛（意向ニ関スル）ト、後ニ留存スル苦痛（智慧ニ関

スル)トヲ兼ヌル者ナリ、

気候ノ感。凡ソ寒熱ノ感ハ之ヲ五官ノ知覺ノ中ニ算入スベキ者ニシテ、此感ヲ起スコノ大部ハ皮膚ニ在リ、皮膚ノ感ヲ起ス者ノ中ニ於テ寒―熱―、其大部ヲ占ムル者ナリ、氣候ノ身体ニ感ズルハ、神經上ニ機括ノ動ヲ為ス者ニシテ、即チ氣候ノ變ズル毎ニ神經ノ纖維或ハ伸展シ或ハ收縮ス、或人ハ寒熱ニ属スル特別ノ神經アリト言ヘドモ、明ナル證據ナシ、寒熱ノ感ヨリ生ズル所ノ快樂ト苦惱トハ明カニ其状態ヲ區別了知スルコトヲ得ベシ、

知慧ニ属スル氣候ノ感モ亦之ヲ述ベザルベカラズ、皮膚ノ感ズル生ズル所ノ區別ノカノコトハ學士物伯昔テ之ヲ論ゼリ、曰ク高度ノ氣候ニ於テモ低度ノ氣候ニ於テモ之ヲ區別スルノカハ一樣ナリト、吾儕皮膚ノ感ヲ以テ列奧摸レウムルノ寒暑針ノ三十度ト三十度四分トノ氣候ノ差違ヲ知り、又十四度ト十四度四分トノ差違ヲ知ル、此差違ハ花連海ハレハイノ寒暑針ニテハ共ニ大約一度ナリ、○凡ソ身体ノ諸部ニ於テ觸ノ感ノ鋭鈍ノ度ハ左ノ如シ、第一舌尖、第二目睫、第三頸、第四胸ナリ、此順序ハ未ダ精密ナルコトヲ得ズトイヘドモ、大要ハ先ヅ此ノ如キ者ト為スベシ、

其他ノ痛苦ナル皮膚ノ知覺。皮膚ノ機関ハ許多ノ知覺ヲ生ズル者ニシテ其健康ノ態ハ身体ノ安樂ヲ生ズルノ原質ナリ、久シク身体ノ一処ヲ抑按スルトキハ血液ノ流行ヲ遏メ、神經ノ感ヲ起シ、脣膏ノ大ナ

ル不快ヲ覺ユルナリ、摩擦、緊刷毛髮ヲ拔キ、爪ヲ裂ク等ノコトハ烈シキ苦痛ヲ發スル者ナリ、

此外ニ猶皮膚ニ生ズル処ノ感アリ、即チ痠軟チツキ是ナリ、物伯爾ウエイベルハ謂フ、脣、鼻孔ノ内囲、面ノ全部ハ共ニ此感發スルノ処ニシテ、若シ羽毛ノ類ヲ以テ是等ノ部ヲ撫ズルトキハ忽チ痠軟ノ感ヲ起シ、手ヲ以テ強ク之ヲ磨セザレバ其感ヲ止ムルコト能ハズト、鼻ノニ生ズル痠軟ノ感ハ其極ハ噴嚏ヲ生ズ、此感ハ忽チ肉核ノ溝中ニ及ビ、其内ノ蓄藏物ヲ洩出シ、是ガ為メニ其感ヲ益々増加ス、噴嚏ハ鼻ヨリ起リ、遂ニ眼ニ觸レテ生レタル強キ激動ヲ起ス者ニテ、即チ肉核ヨリ出ル流動物ト共ニ生ズル処ノ痠軟ノ本性ナリ、然レドモ身体ノ中ニ或痠軟ノ感ヲ起スノ部アリ、或ハ此感ヲ起サルノ部アリ、其理如何ニ至リテハ、之ヲ説クコト極メテ難シ、柔和ナル觸感ヲ區別スルノ性ハ爰ニ論擧スベキノ效驗ヲ見ハスコトナシ、

第五 觸ノ本性ナル智慧ノ感ハ、○兩點フリリライチイ、オフ、ポイント壓重プレジアリ、

兩點 觸ニ属セル智慧ノ特ニ他ノ感ニ異ナルハ皮膚ノ各処ニ各別ノ觸ヲ受クルトキハ各別ノ感ヲ發スルコトナリ、兩尖アルル又子ヲ手ノ上ニ置クトキハ、手ノニカ所ニ於テ觸ノ感ヲ覺ユ、嗅ノ如キハ香氣ノ強弱ニ由リテ感ノ度ヲ異ニスルコトアレドモ、単ニ一処ニ感ズルノミニテ決シテ此如ク兩処ニ感ヲ發スルコトナシ、  
觸ノ感ニ於テ兩點ノ區別ヲ覺知スルコト前ニ言フガ如クニシテ、其強



ウエーベル  
物伯爾謂ヘラク、指ノ先ニテハ、二十オンスノ重サト十九穩士二分ノ

重サトヲ區別スルコトヲ得ベク、前腕ニテハ二十穩士ト十八穩士七分  
トノ重サヲ區別スルコトヲ得ベシ、壓重ノ區別スルノ知覺ハ、其重サ  
ヲ受クル神經ノ多少ニ依リテフ其輕重ヲ異ニスル者ニ非ズ、

第六 觸ノ知覺ノ三種ハ、觸ノ感ト筋ノ感ト結合シタル者ナリ、即チ  
抵抗、重、壓、硬軟、糙滑、及ビ廣張<sup>エキステ</sup>シ<sup>ン</sup>ノ類、是ナリ、

抵抗、重、壓。此三者ハ上文ニモ已ニ論ゼシ如ク、皆筋ノ怒張ト結合  
スル所ノ感ニシテ、物ノ重サ愈増ストキハ筋ノ力ヲ勞スルコト愈多カ  
ラザルベカラズ、觸ノ感ニ於テモ言フ所ノ皮膚ヲ押スノ感ト、其押ヲ  
受タル近傍ニ生ズル処ノ感ハ、則チ筋ノ感ノ緒端ナリ、而シテ其輕重  
ノ度ヲ區別スルノ知ヲ論ズルトキハ、筋ノ知ハ觸ノ知ニ三倍セリ、其  
故ハ筋ノ知ハ即チ進動ノ知ニシテ吾身ニ重壓等ノ感覺ヲ生ズルハ多  
クハ筋ノ力ナレバナリ、手足等ニ生ズル壓重ノ感ハ受動ノ知覺<sup>サジエクチ</sup>  
<sup>ト</sup>ニシテ、疵傷ヲ受クルガ如キ痛苦ノ感ト相混淆スル者ナリ、怒張ノ  
感ハ全ク明白完決ノ知覺ニシテ、機関力ノ他動ノ現狀ナリ、機関力ハ  
物<sup>マツ</sup>ト名クル処ノ本原ノ自覺ナリ、

硬軟 硬軟ハ知ルノ感ニ亦壓重ト相結合セル感覺ノ中ニ算入ス、物ノ  
質ヲ変ズル毎ニ吾身ニ感ズル所ノ抵抗ノ度ハ即チ其物ノ硬軟ノ度ナ  
リ、物質ノ硬軟ヲ精細ニ區別スルハ之ヲ諸種ノ手藝ノ内ニ算入スベシ、  
即チ製糲工、木工、彫像工ノ若キ是ナリ、吾儕此知覺ヲ以テ多ク筋ノ

纖維ノ抵抗ヨリ生ズル者ト為ス、而シテ此硬軟ヲ區別スルノ度ハ各人  
ノ神經ノ性質ニ依リテ些少ノ差異ナキコト能ハズ、○跳返<sup>ヒラスチ</sup>  
云フハ、即チ硬ト軟ト相變更スルノ力ナリ、故ニ其壓重ヲ受クル所ノ  
体モ亦其抵抗ノ變更ヲ覺ユルナリ、

粗糙ト平滑トハ其第一著ノ処ニテハ前ニ記セル兩點ノ感覺ト相關係  
セル者ナリ、今指ヲ以テ刷子ノ上ニ置クトキハ、處々ニ刺突ノ感ヲ生  
ジ、其刷子ノ毛ノ少クシテ散疎ナルカ、多クニシテ緻密ナルカヲ判断  
スルコトヲ得ベシ、其緻密漸々其度ヲ進メ、指ノ知覺ヲ以テ其多少ヲ  
區別スルコト能ハザルニ至レバ此判断亦從ツテ止ムナリ、此知覺アル  
ガ故ニ剪絨ノ質ノ精粗ノ如キハ、唯指ヲ以テ之ヲ分ツコトヲ得ベシ、  
然レドモ指ヲ移動スルトキハ其區別ノ力ノ更ニ増スコトハ上ニ既ニ  
之ヲ論ズルガ如シ、粗糙ト平滑トヲ區別スル第三法ハ摩擦ナリ、若シ  
摩擦スル物ノ面、粗糙ナルトキハ其區別ノ力愈大ナリ、而シテ摩擦ヨ  
リ得ル處ノ感覺ハ、能ク其粗糙ノ鋭ト鈍トヲ區別シ得ル者ナリ、摩擦  
トハ研磨ノ行為ニテ物ノ粗糙ヲ去ルノ主意ナリ、○織リタル布疋ノ精  
粗ヲ別ツニハ平滑ト柔軟トノ兩性ヲ觸知セザルベカラズ、此感覺ハ天  
性ト練磨トノ兩様ニ依リテ人々ノ判断スル所必ニ二歸スルコト能ハ  
ズ、粉末ノ精粗ト脈ノ搏動トヲ鑒別スルハ、特別ニ皮膚ニ所有セル知  
覺ニ由リテ之ヲ判断スルコトヲ得ルナリ、

觸ノ感ハ、知性ト相合シ、區別ノ能ヲ有スルトイフコトハ已ニ述ブル

ガ如シ、此感ハ知性ノ外更ニ保持<sup>リーテンチ</sup>ノ性ト相結ブ者ナリ、凡ソ觸ノ想ハ之ヲ追憶スルコトヲ得べく、比較スルコトヲ得べく、又新タナル觸ノ想ヲ造成スルコトヲ得ベシ、唯視ノ能ニ火スレバ、少シク輕快順便讓ルノミナリ、盲者ノ如キハ此世界ハ全ク觸ノ世界ナレドモ其記憶ハ卻テ目アル者ニ勝レルコトアリ、

廣張、形體等 凡ソ廣張<sup>エキステ</sup>ト云フコトハ有形世界ニ於テハ大概ハ之アル所ノ性質ニシテ、此廣張ハ人類ノ筋ノ他動力ヲ以テ覺ルベキコトニシテ、受動ノ感覺ヲ以テ悟ルベキコトニ非ズ、觸ト視トハ此性質ヲ了悟スルニ必要ノ大部ヲ線量スル者ニシテ、抵抗ノ如キ單獨ノ感ヲ以テハ之ヲ了悟スルコト能ハズ、

廣張ノ感覺、即チ其思想中ニ於テ単ニ筋ニ属セル部ヲ擧グルトキハ抵抗ナキノ運動是ナリ、即チ障碍ナキ所ニ於テ手ヲ前後ニ揺ガシ、又ハ空闊ナル室内ニ散歩スルガ如シ、此ノ如キ障碍ナキ運動ニ於テ、其中ニ亦連續ト疾徐トノ度ヲ區別スルコトヲ得ベシ、然レドモ其廣張ノ度ヲ量リ又他ノ廣張ト比較スルノ力ハ觸（及ビ視）ノ助ニ由リテ之ヲ得ル者ニシテ其方法モ亦種々ナル者ナリ、（一）第一着ニ於テハ觸（或ハ觸ト抵抗トノ混合セル感覺）ハ手ノ揺動其始ト終トヲ微シ、是ニ由リテ其揺動セル空間ノ度ヲ知ルコトヲ得べく、又三步シテ觸ル、所ニ至レバ、其室ノ廣張ノ度ヲ知ルコトヲ得ベシ、廣張ハ抵抗及ビ障碍ヲ受ル運動ノ反對ナレバ之ヲ知ルコトハ唯反對ノ行為ニ由リテ

之ヲ得ベシ、故ニ搪着即チ觸ハ之ヲ知ルノ方ナリ、故ニ廣張ノ本義、抵抗ト抵抗トノ間ニ在ル空間ノ地ヲ言フ者ニシテ、始終ナク抵抗ナキ真ノ曠闊ノ地ハ之ヲ廣張ト云フコトヲ得ズ、真ノ曠闊ノ地ハ觸ノ覺ノ能ク知ル所ニ非ザレバ此處ニ於テ之ヲ論スルトキハ甚ダ不適當ノ異トナルベシ、（二）第二着ニ於テハ、若シ物ノ外面ニ随ヒテ手ヲ揺ガス時ハ、運動ノ連續スル感ト、觸ノ感ノ連續ト相結合スルヲ覺ユ、而シテ此二感ノ相合シタル者ハ一感ノ単立セル者ヨリ精密ニ其度ヲ定ムルコトヲ得ベシ、受動ノ感（本来ノ觸）、他動ノ感（力ヲ奮フコトニテ即チ動ノ如キ）ヲ加フル時ハ他動ノ根基ヲ自己ニ立定スルコトナクシテ此感覺ノ印記ヲ深クスルコトヲ得ベシ、（三）第三着ニ於テハ真空ノ内ノ運動ハ連續（時）ト共在（地）トノ間ノ區別ヲ指定スルコト能ハズ、今マ空地ニ物ノ共在スルトイフコトヲ知ルハ我儕意中ニ已ニ廣張ト云フコトヲ熟知セルニ由リテ之ヲ知レルナリ、而シテ共在トイフコトハ我儕ガセ經驗ノ一結果ニシテ、此經驗ヲ為シタルハ、知覺ノ助ニ頼リタルコト多キナリ、吾儕ノ今マ固定セル物ノ面ニ沿ヒテ手ヲ揺ガス時ハ運動ノ感ト共ニ觸ノ感ノ持續ヲ覺ユベシ、若シ其物ノ面ニ變化多キコト、盲人ガ手ヲ以テ讀ム所ノ如クナル時ハ、其感覺モ常ニ變化更換シテ、其事ニハ自ラ一連ノ姿ヲ為ス者ナリ、若シ其運動ヲ再三スル時ハ其一連モ再三スルコトヲ覺ユ、其運動ヲ反轉スル時ハ其一連モ亦其順序ヲ反轉スルコトヲ覺ユベシ、此固定セル一連ノ持續ハ、

単ナル運動ノ連續ト同ジカラズ、單ナル運動ノ連續ハ固定堅執ノ原質ヲ有セザル者ナレバナリ、今マ一個ノ固定セル物ニ傍ヒテ運動スルニ人アリ、其運動ノ間ニ於テ此人ヨリ彼人ヲ觀ルトキハ自ラ別物ノ感ヲ為ス者ナリ、是則チ運動ト感覺トヲ合セテ生ズル所ノ時ト地トノ區別ナリ、時即チ連續ハ單一ノ現状ニシテ空地ノ内ニ顯ハル、共在即チ廣張ハ重複ノ現状ナリ、而シテ感覺ノ固定セル一連ハ聚集体中ノ一原質ナリ、

廣張ハ分チテ之ヲ見ル時ハ線、平面、立方ノ三個アリ、三個ハ共ニ合体内中ノ一個ナリ、線ハ腕ヲ前後ニ振揺スルト其状大略相同ジ、然レドモ真ノ直線ニ至リテハ善ク其筋ヲ修整セザレバ之ヲ得ルコト能ハズ、平面ハ其状玻璃板ノ如キ者ニシテ十字線ノ運揺ヲ豎線ノ上ニ更ニ横線ヲ加ヘテ始メテ能ク之ヲ得ベシ、立方ハ聚集体中ノ高キ形ナリ、吾儕唯筋ノ各種集合ヲ以テ此廣張ノ三体ヲ知ルベキノミナラズ、一筋ノ集合ノミヲ以テ亦能ク其一体中ノ各種ヲ區別スルコトヲ得ベシ、例長線ヨリ短線ヲ區別シ四角ヨリ橢圓ヲ區別スルガ如キハ皆是ナリ、吾儕ハ又此三体ノ感ヲ永ヲ保留スルコトヲ得ベシ、例ヘバ一尺立方ノ物ヲ吾儕ノ觸ヲ以テ之ヲ測ル時ハ、其決定ニ由リテ、筋ノ働キ、集合、平均等ヲ保存シ固スルコトヲ得ベシ、此立方ハ、筋ノ感覺ノ続キヨリ出タル觸ノ一列ナルコトヲ吾等ニ知ラスル者ナリ、吾儕両手アリテ、一手ニ各五指ヲ具フ、是ニ由リテ面ト堅トニ付テ更

ニ他ノ諸端ヲ得ルナリ、若シ吾手ヲ開キテ物ヲ觸ル、トキニ複形ノ觸ヲ為スヲ以テ、面ヲ區別スルコト殊ニ明白ナリ、両手ヲ用フルトキハ、其感觸更ニ詳密ナリ、堅ヲ試ムルコトモ同様ニテ、一手ヲ兩個ノ面ヲ試ミ得ベシ、然レドモ若シ両手ヲ合セ用フルトキハ更ニ審ナルコトヲ得ベシ、両手ヲ合セテ、堅ノ感ヲ得ルコトハ、恰モ双方ノ眼ヲ以テ物ヲ見ルノ效驗ニ同ジ、

大小、方向、位置、形体ハ、都テ廣延<sup>エキキテ</sup>ニ屬スル者ニシテ、吾儕ガ筋ノ感ニ由リテ經識スルコトヲ得ル者ナリ、大小即チ大サハ、單ニ廣延ノ一名ナリ、距離ハ兩点ノ間ノ廣延ナリ、方向ハ算法ヲ以テ言フトキハ、一ノ準度ヨリ他ノ管係ノ方ニ向フ処ノ尺度ナリ、今吾形体ハ此準度ト管係トノ根原ニシテ、其四肢ヲ揺動スルニ由リテ方向ヲ生ズル者ナリ、例ヘバ右腕又ハ左腕ヲ前ニ出シ、手又体ヲ或ハ前後ニ出シ、或ハ上下ニ動カス等ハ、皆是ナリ、位置ハ距離ト方向ト相保合シタル者ナリ、形体ハ外部ノ方面ノ集リテ感性シタル者ナリ、其形体ト相付合セル揺動ヲ為スコトニ由リテ之ヲ定ムル者ニシテ、直線、圓、橢圓、球、立方及ビ其他其物ニ觸ル、処ノ筋ノ感ヲ子貢シテ、其感ト其体ト相合一シタル処ヲイフナリ、故ニ觸ト摩擦トニ由リテ廣延ノ諸法ヲ知ルニハ、無數ノ筋ト許多ノ神經ノカトヲ聚合シ、働ノ多數ヲ合併シテ之ヲ明ラムルコトヲ得ル者ナリ、

生得ノ盲人ハ機関ト知慧トノ働ヲ以テ、觸ヲ以テ觀ニ代ヘテ以テ物ノ廣延ヲ觀察ス、此觀察ニ因リテ考フル時ハ、視ノ感ナケレバ學問及ビ思考ノ高上ナル知識ヲ得難シトイヘル説ハ必要ナラザルコトヲ知ルベシ、凡ソ活動セル組立ノ勸善シタル者ハ、唯之ニ觸タルノミヲ以テ、廣サ、大サ、形体、力量、活動等ノ根原ヲ知ルコトヲ得ベシ、是等ノ根原ヨリ推シテ考フルトキハ、造化ノ大ナル実迹ヲ了解スルコトヲ得テ、數學、重學、物形學ノ理ニ進ムコトヲ得ベシ。

#### 聽ノ感覺

一 聽ノ主トナル者ハ打擊ヲ受ケテ、戰栗即チ揺動スル所ノ物料ナリ、此戰栗大氣ニ感ジ、大氣ヨリ耳ニ感ズルナリ、

堅硬ニシテ弾力アル者ハ最モヨク鳴ル物ナリ、故ニ金類ハ第一等ニ居リ、其次ニ木、其次ニ石、其次ニ土ナリ、流動物及ビ氣狀ノ物ハ、他ノ堅硬物ノ衝突ヲ得ザルトキハ其音甚微ナリ、風ノ沙々咆哮スルハ地面ニ衝突スルニ由リテ起レル、即チ大風琴ト同ジ理ナリ、瀑布ハ、水ト水ト相衝突シ、雷ハ大氣ト大氣ト相打擊スルニ由リテ声ヲ發スルナリ、

二 耳ハ聽ヲ掌ルノ生器ニシテ、是ヲ三部ニ分ツ(1)ハ外耳(2)ハ鼓膜即チ中耳(3)ハ螺旋即チ内耳ナリ、

中耳即チ鼓膜

外耳ト中耳トハ内耳ノ為メノ附屬物ナリ、内耳ハ其内ニ感覺ヲ有スル面アリ、外耳ニハ耳翼アリ、是ニ由リ反響ヲ為シテ音声ヲ大ナラシメ、且ツ耳中ノ通路ヲ為ス、耳中ノ極端ハ鼓膜アリテ之ヲ密開ス、中耳即チ鼓膜ハ窄クシテ歪形ナル管ナリ、エウスタチアン管耳ト口トノ間ニアル極細管ニ由リテ咽喉ニ痛ズ、中耳ニハ又小ナル骨アリテ、鼓膜ノ内面ヨリ、螺旋ノ孔ニ達ス、此処ニ又微細ナル筋アリテ此骨ニ附着ス、鼓膜ノ内壁ハ即チ螺旋ノ外壁ニシテ、骨ノ平等ナル面ナリ、而シテ其所ニ二個ノ孔アリテ一ハ楕圓ニ一ハ円シ、二孔共ニ膜ヲ以テ塞ゲリ、楕圓ノ孔ニハ又骨ノ鏈ノ終端アリテ其所ニ鐙骨アリ、又此鏈ノ外面ノ骨ニ筋アリ、他筋ヨリ差大ニシテ、之ヲ展張筋ト名ク、其故ハ此筋ノ働キハ内ノ方ニ引キ張リテ鼓膜ヲ展張スルヲ以テナリ、此処ニ在ル其他ノ二三條ノ筋モ同ク展張筋ノ名アレドモ、其力ノ有無ハ明亮ナラズ、

内耳一名螺旋ハ堅硬ナル窄骨<sup>テムボラ</sup>ノ中ニ在リテ、骨螺旋、膜螺旋ノ二物ヲ以テ成ル、骨螺旋ハ、其外部ハ、旋廻ト名ケタル螺旋狀ノ殼ト、半円溝ト名ケタル三個ノ凸出セル輪アリ、其内部ハ空虚ニシテ中ニ透明ノ水液アリテ薄膜ヲ以テ之ヲ包メリ、骨螺旋ノ内ニ膜螺旋アリ、其形ノ蜿蜒セルコト骨螺旋ニ同ジ、故ニ之ヲ膜螺旋ト名ク、此具ハ其中ニ水液ヲ貯ヘ、以テ諸方ニ支分セル聽神經ニ供給スルナリ、

3 聽ノ働キヲ生ズル所以ハ、螺旋中ノ水液、壓着ヲ受クルニ由リ、聽

神經ノ纖維モ亦壓着セラル、ニ由リテナリ、故ニ耳ハ実ハ精微ナル觸ノ感ヲ受クル生器ナリ、

初メ声音ノ波、外耳ニ入り、鼓耳ノ膜ヲ打チテ之ヲ震揺ス、此震揺骨ノ鏈ニ及ビ、最後ノ鏈、即チ鐙骨ヨリシテ、楯孔ノ緊張セル膜ニ打撃ヲ與フ、此震揺ノ勢、水液ノ中ニ入りテ聚密トナリ、以テ聽神經ヲ壓着ス、此壓着ノ力腦ニ及ビ、以テ音ノ知覺ト結合スルナリ、械器ヲ作リテ聽器ニ象レル者ハ頗ル能ク精密ナル聽ノ理ヲ標示スルニ足レリ、大氣ノ打撃ヲ能ク受クル者ハ、展張セル膜ノ面ナリ、此膜、大氣ノ打撃ヲ以テ之ヲ堅固ナル棍ロッドニ配與ス、此棍ト聽神經トノ間ニハ液アリテ之ガ媒介ヲ為ス、神經ヲ壓着スルノ或ハ烈シク或ハ急ナルハ共ニ大氣ノ声波ニ相符号ス、只其中ニ於テ解スベカラザルハ、一個ノ棍ヲ以テ、重複セル声音又ハ容積ノ大ナル声音ヲスルノ一事ナリ、余ガ假定スル所ニテハ、震揺ノ度ノ極メテ迅速ナルニ由リテ此働ヲ現ハスコトナリト思想セリ、余等更ニ声音ノ高低種々ノ度ヲ以テ、内耳ノ螺旋ノ種々ノ場所ニ置キ、以テ神經ノ纖維ヲ種々ニ區別センコトヲ勉メントスルナリ、

展張筋ハ何レノ時ニ於テ自ラ緊張シ、且ツ是ニ由リテイカナル働ヲナスカト云フコトハ明確ニ之ヲ知ルコト能ハズ、ウオラストン窩拉士敦ハ曰ク、若シ耳ノ膜緊張スルトキハ、雷又ハ大砲ノ如キ粗大ノ音ハ之ニ響クコト少ナク、清亮ノ音、即チ車ノ輾ル音、紙ヲ裂ク音ノ如キハ之ヲ感ズ

ルコト強シ、是ニ由リ、自然ニ耳ニ痛ムベキ粗大ノ音響ヲ防禦スルノ能力ヲ具ヘタル者ナリト、

4 音響ノ感覺ハ是ヲ三種ニ分ツ(1)声音ノ尋常ノ感動(2)樂器ノ声音(3)知慧ノ感覺、是ナリ、

声音ノ尋常ノ感動ハ又是ヲ三様ニ分ツ、曰ク性質(快樂苦惱)、曰ク緊漫、曰ク容積一名分量、是ナリ、

甘スウヤトネス 甘富饒、和熟、銀ノ如キ等ノ語ハ總テ、單純ナル声音ノ快樂ナル感覺ニ用フルノ語ナリ、凡ソ諸種ノ器械又ハ動物ノ音声ノ中ニ於テ能ク人ノ耳ニ快ク、人ノ耳ヲ娛マシムル者アリ、又或ハ快樂ニモアラズ苦惱ニモアラザルノ声音アリ、又或ハ粗澁、不快ナル感ヲ生ゼシムル者アリ、如何ナル結構ヨリ發シタル声音ハ如何ナル感覺ヲ為スカトイフコトハ尚疑團ノ中ニ在リ、我身体ニ觸ル、所ノ觸感ノ分解ヨリ、之ヲ言フトキハ、凡ソ聽神經ヲ温和ニ打ツ所ノ声音ハ快樂ヲ覺ヘ、強逼ヲ以テ打ツ所ノ声ハ苦惱ヲ覺ユル者ナリ、其他ノ聽感ノ嬢、「ヘルムホルツ」ノ説ニハ、合調ハルモノ一種アリ、此感ハ不和ノ背面ナリ、

甘キ声音ノ本性ハ鋭キ快樂ニ属スル者ニシテ、小ニシテ感覺アル生器ニ於テ之ヲ受クベキ者ナリ、若シ此甘キ性質ノ内ニ感動性ト決意性トヲ全ク混合スル時ハ、是ナリ、ヲ分割スルハ惟快樂ナル声音中ノ知慧ノ性ノ働キニ在リ、余今此点ニ付テ論ズル処ハ、其最極ノ度ニ非ザルモ、大抵其最極ニ近キ処ニ於テ之ヲ言フナリ、凡ソ快樂ナル聽感トイ

フ者(聴ノ全体ヨリ之ヲ言フ)ハ視ノ知覺ヲ除ケバ、其久キニ耐ヘ、堅固ニシテ又容易ニ意想ノ中ニ回憶シ得ルコトハ、其他ノ知覺ノ能ク及ブ所ニ非ザルナリ、

烈シキコトシテイ粗大ナルコトネラド甚ダ粗大ノ音ノ甚ダ低キ者ハ、上ニ記シタル鋭キ快樂ヲ與フル者ニ非ズシテ、唯単ニ和順ナル刺衝ヲ為スノミナリ、其度差々高キニ進ム時ハ感覺ヲ刺衝スルノ度モ亦随ツテ進メドモ、神經ノ激動ヲ起スニ至ラザルヲ以テ、只僅カニ和順ノ衝動ヲ起コズニ過ギザルナリ、又粗糙ナル快樂ハ粗大ナル声音ヲ以テ小兒又ハ強力ノ性質ニ與フル快樂ノ類ヲ言フ者ニシテ、此類ハ尚此外ニモアリ、若シ粗大ノ声音更ニ益シテ其度ヲ超ユルトキハ、神經ノ力ヲ費消シテ鋭ドキ苦惱ノ感ト變ズルナリ、即チ鸚奇園パロット、メナリイノ叫声、犬ノ清亮ナル吠声、小兒ノ強キ叫ビ、鉄道ノ汽笛ノ如キ是ナリ、若シ不意ニ此ノ如キ声音ニ逢フトキハ、其心知ヲ擾動スルコト更ニ甚シ、  
容量ボリユ即チ分量テイ 聴感ノ中ニ鋭トイヘル音アルハ前ニ言フ如シ、  
此鋭ニ對シテ又聴感ニ容量又洪トイヘル音ヲ覺ユルコトアリ、若シ廣大ナル物ノ面ヨリ容量ノアル音ヲ生ズル時ハ、即チ此洪ノ感ヲ起スナリ、例ヘバ群衆人ノ声、会場ノ波濤ノ声、雷ノ声、風ノ声ノ如キ是ナリ、是等ノ声ハ其声ノ大ナルニ從ヒテ衝動ハ増加スレドモ、夫ニ准ジテ神經ヲ費勞セシムルコトナシ、内部ノ甘受ト樂器ノ音トヲ除ケバ、凡ソ大ナル快樂ノ音声ハ毎ニ此洪量ノ声ノ内ヨリ發スル者ナリ、

第六 樂器ノ音声ニハ調子ビツ長大ワキシ減退ウエテ合和ハルモ不和チスコ等ノ諸性アリ、

調子ビツ即チ音調トハ樂器ノ声音ノ根元ノ性質ナリ、調子ニ銳烈アキユトアリ、沈重シロウアルコトハ人ノ耳ヲ以テ判定スル所ナリ、而シテ此兩種ノ調ヲ生ズル所以ハ、其發生物ノ自己ノ震揺ニ及ビ其震揺ノ數ノ多少ニ因スル者ナリ、誰人モ其自己ノ耳ニ於テ、銳烈ト沈重ノ調子医ヲ分別スルコトヲ知ル、是ヲ精密ニ分別スルコト能ハザル人ハ音樂ヲ為スコト能ハズ、經驗者ノ言ニ拠ルニ、凡ソ沈重ノ音ノ極度ニシテ、人耳ニ聴キ得ベキハ一秒時ニ二十震ノ音ナリ、銳烈ノ極界ハ人ニ依リテ同ジカラズト雖ドモ、最モ人ノ信用スル所ハ一秒時ニ七萬三千震ナリ、蝙蝠ノ叫声ハ甚ダ銳亮ニシテ、或人ノ耳ニハ聞取ルコト、能ハザル程ナリ、凡ソ人耳ヲ以テ聴クベキ処ノ銳亮ノ音声ノ極度ハ九「オクターブ」音樂ノ調名十「オクターブ」トノ間ニ在リ、  
同ジ根元ヨリ發出セル声音ニテモ、樂器ノ音ハ他物ノ音ヨリハ耳ニ甘味ヲ覺ユルナリ、其故ハ一ハ其音ノ他物ヨリ純清ナルニ由リ、一ハ鼓動ノ調ノ揃ヒタルヲ以テ合和ノ理ヲ得タルニ由ルナリ、  
音ノ長大及ビ減退 音ノ長大及ビ減退ニ由リテ、心ヲ娛マシムルコトハ、運動ノ長大減退ト其感ヲ同フスルコトハ衆人ノ能ク知ル処ナリ、「音樂ハ死ニ至ルマデ墜落ス」、風ノ号呼スルモ亦之ト類ヲ同フセリ、歌謡ニ練熟セル者ハ如何ンカ之ヲ變化シテ人耳ニ通ズルヤトイフコ

トヲ諳知セリ、人ヲ感ゼシムルノ講談ニ至リテハ、其進ト減トヲ為ス  
法大ニ品格ヲ下シテ、愁歎ノ声、又ハ拙キ歌謡ノ如キニ至ル者アリ、  
合和及ビ不和。若シ二個以上ノ声音同時ニ発スル時ハ、或ハ合和ト為  
リ、或ハ不和ト為リ、或ハ無區別イニチヘト為ルコトアリ、

合和ハ楽器ノ震揺ノ度ノ比例ヨリ起ル者ナリ、一ハ二ト為リ(オクタ  
ブ)ニハ三ト為リ(フヒフス)ニハ四ト為リ(フォールス)其他此ノ如ク  
度ヲ失フ時ハ合和変ジテ不和ト為ルナリ、連續(音調)ト一致(合和ノ  
自体)トニ於テ音声ノヨク修整ヲ得タル上ニ之ニ節奏ト強弱トヲ加フ  
ル時ハ則チ楽器ノ音調トナルナリ、合和ノ人耳ニ快樂ナルハ衆人ノ知  
ル所ナリ、然レドモ合和ノ調ニ動モスレバ單純ナル感覺ヲ踰越シ、更  
ニ高キ感動ノ上ニ上昇スルコトアリ、然ルトキハ更ニ其他ノ着意ヲ要  
スルニ至ルナリ、

第六 心知ノ感覺ニ属スル所ノ音ハ、就中分明アイテケレ遠隔トトネス方向チレクナリ、  
而シテ之ニ管係セル者ハ淨潔クルクリト混合ベルトナリ、

淨潔 淨潔トハ單純ノ一名ニシテ、混合聚雜ノ音ト差異アル所ノ音ヲ  
指シテ之ヲ言フナリ、音楽ノ快樂ト意味ノ會得トニ様共ニ淨潔ノ音ア  
リ、余儕前ニ既ニ音声ノ本来ノ甘美トイフ者ハ、單純ナル音、即チ淨  
潔ナル音ノ中ニアルベキコトヲ想察セリ、銀ト硝子トハ共ニ其音ハ最  
モ單純ニシテ甘美ナリ、  
混合即チ等品リタイ 諸種ノ物質、器械等須知度ニ声ヲ発シ、其音調同ジ

ク、強弱モ亦同ジト雖ドモ、其内ニ區別アリテ吾等ノ耳ニハ明白ニ  
種々ノ器械ノ音声トシテ達スルコトナリ、是ヲ名ケテ混合即チ種々ノ  
器械ノ合音ト名ク、希摩荷都ヘルムホルツ、嘗テ屢々試験ヲ行ヒテ、此區別ノコト  
ヲ明白ニ説明シ、又是ト共ニ音毎ノ声ノ他ニ異ニシテ獨リ明白ナル性  
質ヲ固有セルコトヲ説ケリ、

分明ナル音 此區別ハ即チ人間言語ノ根原トナル者ナリ、凡ソ韵子ハ  
其発声ノトキ各々別々ニ打觸ヲ為スニ由リ、人ノ耳ニ區別ヲ為シテ聞  
ユルナリ、則チ s ノ字ノ消音、r ノ雑音、m ノ字ノ蜂音の如キヲ以テ、  
其種々ノ音ヲ生ズルノ表例トスベシ、余儕ハ諸種ノ韵子ノ、聴神經ニ  
向ヒテ守株ノ打觸ヲ為スコトノ理ヲ理會セリ、則チ p、t、k、ノ如  
キ險短ノ音ト、b、d、g、ノ如キ長延ノ音トノ區別アルコト、及ビ  
m、n、g ノ如キ鼻音トノ區別アルコトノ道理ヲ見得タリ、凡ソ唇ト  
牙トノ間ノ打觸ノ區別ヲ説明スルコトハ甚十分ナルコトヲ得ザル者  
ニシテ、且又 p(唇音)ト k(喉音)トヲ比較シ見ルトキハ、kニ由リテ  
生ズル所ノ打觸ハ、pニ由リテ 生ズル者ヨリ、較々強キコトヲ知リ  
得ルナリ、

韵母ノ字ニ至リテハ、ロヲ開クコトノ仕方ニ由リテノミ、種々ノ音ヲ  
発スルコトナレバ、其解説ヲ為スコト更ニ韵子ノ字ヨリ甚シ、  
希摩荷都ヘルムホルツ、許多ノ經驗ノ後ニ左ノ論ヲ定メテ曰ク、凡ソ韵母ノ音ハ其  
原音ノ外ニ、更ニ原音ノ震揺ノ数ヲ二倍シ三倍スルニ由リテ或ハ上音

ヲ生ジ、或ハ副音ヲ生ズ、其場合ニ由リ、副加物ノ性質ニ随ヒテ別々ノ品性ヲ現出スト、ウ井ル<sup>ス</sup>、カグニアルド、ラトウルノ二人ハ、人エヲ以テ韵母ノ音ノ生ズル器ヲ作ランコトヲ工夫シ、希摩荷都ハ又各個ノ単音ヲ種々ニ工夫シテ韵母ノ音ヲ分明ニ發出センコトヲ考ヘタリ、

若シ全ク原音ノミヲ發スル時ハ其音ハu(ウ)ノ品性ヲ現ハス、oノ字ハ原音ト至近ナル第八ノ音<sup>オウ</sup>ト相結合シタル者ナリ、a(ア)ノ字ハ甚高キ第八ノ音ヲ以テ其声ヲ現ズル者ナリ、

遠近<sup>チステ</sup>ハ全ク其音ノ強弱ニ由リテ之ヲ判断スベキ者ニシテ、殊ニ元來知リ居ル所ノ音声ニ於テノミ睨ト判断スルコトヲ得ベキ者ナリ、同ジ物ノ音声ニテモ、遠方ニ在ル時ハ其音弱シ、其弱キヲ以テ遠方ニ在ルコトヲ知ルナリ、若シ同ジ物ノ音ヲ種々ノ距離ニ於テ之ヲ比較スルコトヲ得ザルトキハ、其遠近ノ判断ヲ或ハ其実ヲ誤マラザルコトヲ得ズ、例ヘバ雷声ヨ聞キ、大砲ノ声ヲ聞クガ如キ是ナリ、凡ソ距離ノ遠キハ声音ヲ微弱ニナスコトナルヲ以テ、本來弱キ所ノ音声、益々微ニシテ蜜蜂ノプウ／＼スルガ如クナル時ハ、余ハ明カニ其物ノ遠距ニ在ルコトヲ想察シ得ルナリ、

方向<sup>チレク</sup>ニ付キテハ原來固有ノ感覺トイフ者ナシ、或方向ヲ覺ユルハ、唯其音ノ清濁ト強弱トニ由リテ之ヲ得ル者ナリ、我首ノ位置ニ由リテ、物ノ音ハ同ジト雖ドモ、他ノ位置ニ於ケルヨリ強ク聞ユル

コトアリ、是ハ其音ヲ發スル物ノ位置、直チニ吾外耳ニ正向スルニ由リ、其声音直線ノ道ヲ以テ吾耳ニ達スルガ故ナリ、

吾先最初ニ一方ノ耳ヲ以テ物ノ音声ヲ聞クコトアルベシ、其後首ヲ回轉シテ聞クニ、以前ノ音ヨリヤ、弱ク、又ヤ、不明白ニ聞ユルコトアルベシ、然ルトキハ最初ニ聞キタルハ、其物ノ吾耳ノ直線ニ在ルカ、又ハ頭ノ此方ノ直角ノ直線ニ在リシトイフコトヲ判決シ得ベシ、若シ頭ヲ回轉シタルトキ、其音声最初ヨリ猶明白ニ聞ユルトキハ、最初聞タルトキハ其物ハ吾耳ノ直線ニ在ラザリシコトヲ判決シ得ベシ、

又両耳ヲ合セテ之ヲ聞クトキハ、大ニ吾會得ノ力ヲ助クル者ナリ、若シ物ノ声音、右ノ耳ニハ強クシテ明白ニ聞エ、左ノ耳ニハ左程ニ聞エザルトキハ、發音ノ物ハ我右ノ方ニ在ルコトヲ判断シ得ルナリ、又物ノ我前方又ハ後方ニ在ルコトハ療法ノ耳ニテ共ニ一様ニ之ヲ断決スルコトヲ得ル者ナリ、然レドモ審カニ之ヲ論ズル時ハ方向ノ感覺トイフ者ハ原來甚ダ精密ナル者ニアラズ、例ヘバ雲雀ノ空中ニ轉ル声ノミヲ聞キテ頓ニ其在処ヲ知ルコト能ハズ、又遠隔ノ地ニ鶯騒ノ響アルモ、其声ノ發スル土地ヲ指定スルコト能ハズ、

#### 視ノ知覺

第一 視ノ目當トナル者ハ總テ形体アル物質ナリ、

高サ熱度ニ由リテ自己ニ光ヲ發スル者、即チ火焰、亦熱ノ鐵ノ類ノ如

キハ此本文ノ言フ所ニ適當セル者ナリ、其他世界中ノ万物、月ノ如キ  
行星ノ如キモ、亦皆自己ニ光ヲ發スル物ノ反射ニ由リテ、吾等ノ眼ニ  
之ヲ見ルコトヲ得ル者ナリ、

第二 視ノ生器即チ眼ハ視角ノ凸鏡ト感覺アル面ト集合シテ成ル者ナリ、  
眼球ヲ構造スル諸器ノ外、尚是ニ付属セル要用ノ部分二個アリ、一ハ  
目眉ニシテ一ハ眼瞼ナリ、目眉ハ眼孔ノ上ニテ、厚キ弓形ノ凸イニシ  
テ、其働ハ筋ノ力ニ由ル者ナリ、此物人面ノ部分ヲ言フトキハ其一部  
ニ備ハル者ナリ、眼瞼ハ二片ノ運動スベキ襞積ニシテ、眼球ノ屏障ヲ  
為ス者ナリ、上瞼ハ下瞼ヨリ大ニシテ其運動スルコトモ亦多シ、是ガ  
為メニ又一條ノ筋ヲ有ス、眼孔ノ長サハ人々ニ由リテ同ジカラズ、其  
長短ニ由リテ、外見ニ大小ノ差違ヲ現ハスナリ、眼瞼ハ、外向角ヲ  
以テ眼球ヲ掩蔽シ、小ナル赤肉(涙癭)ハ内方角ニ於テ之ヲ中貫ス、此  
小赤肉ノ傍ニ淚溝アリテ兩瞼ヲ貫通ス、  
涙器ハ左ノ如シ、(一)涙腺又内核ハ眼孔ノ外面ニ在リテ淚ヲ貯藏スル  
所ナリ、(二)二溝又二管ハ眼孔ノ内面ニ於テ淚ヲ受クル所ナリ、(三)  
涙囊ハ管ト通ジ、此管ヲ過ギテ淚ヲ鼻ニ導クナリ、涙ハ其初メハ涙腺  
ノ内ニ貯藏シ、夫ヨリ出テ眼瞼ヲ經テ眼球ノ上ニ流れ、其後涙囊ノ内  
ニ入り、之ヲ洗淨シテ後ニ鼻ニ歸スルナリ、  
眼球ハ眼孔ノ前部ニ在リテ、其後面ニハ視神經アリテ之ヲ固持シ、其  
全面ハ眼瞼ノ筋アリテ之ヲ保持ス、然レドモ其運動ハ甚ダ自由ナリ、

球ノ形ハ圓体ナレドモ正円ニ非ズ、若シ此全球ヨリ其一片ヲ截リ取ル  
トキハ、其一片ハ小ナル環セグメント 缺ヲ為スナリ、此環缺ハ即チ前面ニ凸出  
セル透明ナル部分ナリ、或ハ感動ヲ受タル時ノ外ハ、兩個ノ眼球常ニ  
方向ヲ見ル者ナリ、蓋シ兩眼球共ニ其軸ハ殆ンド相平行セル者ナレバ  
ナリ、

眼球ハ三個ノ膜ト三個ノ透明ナル体トヲ以テ成ル者ハ、三個ノ膜ハ眼  
球ヲ被覆シテ其外殻ヲ為シ、三個ノ透明ナル物ハ之ヲ水体ヒューモル  
ト名ク視凸鏡ヲ造成スル者ナリ、眼球ノ前面ノ外面ニ薄クシテ透明  
ナル膜アリ、是ヲ連接膜オプテレンスコンジャンクチバト名ク、此物ハ眼瞼ノ裏面  
ニアル粘氣アル膜ノ連接ヨリ成リタル附加物ナリ、眼白ノ中ニ在ル赤  
キ線ハ、即チ此膜ノ血管ナリ、  
三個ノ膜ノ中ニ於テ、最モ外面ヲ被覆セル膜ハ、之ヲ剛膜スクレロチ  
ックト名ク、此膜ハ強クシテ透明ナラズ、強硬ナル纖維ヲ以テ成ル  
者ナリ、此膜ノ力ニ由リテ眼球ハ其形体ト堅固トヲ保持スルナリ、此  
膜ハ眼球ノ全体ヲ覆ヘドモ、前面ノ凸出セル部ハ之ヲ覆ハザルナリ、  
眼球ノ全体ノ前面ノ凸出シテ透明ナル部ニ、接続セル替物アリ、之ヲ  
角膜コルネアト名ク、此角膜ハ亦硬固ニシテ且ツ透明ナリ、剛膜ハ眼  
球ノ五分ノ四ヲ包裹シ、角膜ハ其五分ノ一ヲ被覆ス、  
剛膜ノ下ニアルヲ胞衣膜コロイド コートトイフ、黒色又ハ濃褐色ノ  
膜ニツシテ、眼球ヲ被覆シテ剛膜角膜ノ交界ニ至ル、此膜ハ数葉ノ層

ヲ以テ成リ、其外面ノ二層ニハ、血管、血脉、動脈ノ極メテ微細ナル者アリ、内面ノ一層ニハ黒色ノ物アリテ、此物ハ許多ノ血管ヲ充塞スル為メノ用ニ供スル者ナリ、黒物ハ微細ノ房中ニ貯藏ス、此小房ノ一個ハ大約直径一印知ノ千分ノ一ニシテ五ニ密ニ包裹シタルナリ、網膜<sup>ナリ</sup>一名神經被ハ胞衣膜ノ下ニ在リテ、其眼球ノ全面ヲ被覆スルコトハ胞衣膜ノ廣キニ及バズ、網膜ハ透明ニシテ赤色ナリ、赤色ナルハ血管ノ故ナリ、網膜ノ中央ニ小ニシテ楕円ナル黄色ノ斑点アリ、此斑点ハ長サ一印知ノ七分ノ一ニシテ廣サハ七分ノ一ナリ、斑点ノ中央ニ網膜ノ最薄キ部アリ、是ヲ網膜ノ中孔ト名ク、網膜モ亦種々ノ層ヲ以テ成ル者ナリ、先ツ前面ヨリ算スル時ハ、眼球ノ後鏡<sup>ハズ</sup>ト相接スル処ニ分界膜ト名クル透明ナル薄膜アリテ其厚サハ一印知ノ三分ノ一二過ギズ、其次ニ視神經ノ分支アリ、神經纖維ノ微細ナル網ニシテ最薄キ者ナリ、其中數ハ一印知ノ三分ノ一ニシテ、其殊ニ薄キハ十万分ノ一二及バザル者アリ、此分支ノ後ニ神經窩ノ層アリ、腦中ニニ在ル灰色ノ窩<sup>セル</sup>ト極メテ相似タリ、其次ニ粒層<sup>ラニ</sup>アリ、微細ナル粒ニシテ、網膜ト鉛直線ト為セル繊細ナル綫縷ヲ具フ、最後ニバシルラ<sup>ル</sup>ノ層アリ、此層ニ密ニ相接シタル直立ノ棍ニシテ、此棍ハ無色透明ニシテ、大約長サ一印知ノ千分ノ一ニシテ、直径ハ其三分ノ一ナリ、此小棍ノ間ニ更ニ差々大ナル棍アリテ其間ニ散布ス、之ヲ円錐トイフ、大約直径一印知ノ二千五百分ノ一ナリ、此大小ノ棍ヲ以テ網膜ト胞衣

膜トヲ連繫シ、円錐ノ六七ト、小棍ノ多數ニ膜ノ周圍ニ臭リ、黒色ヲ貯ヘタル房中ニ挿入セリ、小棍ハ何レモ直立セル綫縷ヲ以テ、網膜ノ神經纖維ト神經窩トニ結合ス、總テ網膜中ニアル諸原質ハ、黄色ノ斑点ノアル処、及ビ其近傍ニ多く、是ニ由リ外見ノ状モ自ラ他部ト異ナリ、

眼球ヲ被覆セル諸膜ノ説ヲ完フセンガ為メニ更ニ剛膜ト角膜トノ接合処ニ於テ、胞衣膜ノ延長シタル部分ノ事ヲ解釋セザルベカラズ、珊瑚<sup>ハ</sup>暗色ニシテ滿ル襞積ヲ以テ成レル三條ノ帶アリテ、之ヲ名ケテ邊毛列<sup>シリアリ</sup>トイフ、此中ニ於テ胞衣膜ト眼睛<sup>ト</sup>ヲ結合スル者ヲ邊毛帶<sup>シリアリ</sup>ト云ヒ、邊毛帶ノ後ニ在リテ邊毛列ノ外面ヲ被フ者ヲ邊毛筋<sup>シリアリ</sup>トイフ、極メテ緊要ノ筋ナリ、眼睛ハ眼ノ前面ニ在ル円形ノ帷障ナリ、其中央ニ瞳孔アリテ光線ヲ納入ル、処トス、此眼睛、剛膜ト角膜トノ接合処ニ於テ、円形ヲ成シテ之ニ密着シ、其條ヲ考フルトキハ胞衣膜ヲ延長シテ、差々其形ヲ變シタルトシテ之ヲ見ルベシ、眼睛ノ前面ハ、纖維ヲ以テ成レル線ニ由リテ着色シ、且ツ目印ヲ付ク、此纖維ハ筋アリテ、其状ニ様アリ、一ハ圈状ニシテ一ハ光輝アリ、此筋ノ縮張ニ由リ、或ハ瞳孔ヲ大クシ、或之ヲ小クシテ以テ光線ノ激射ニ堪ヘルコトヲ得シム、其次ニハ眼ノ水液体及ビ鏡体ヲ説クベシ、先ツ前面ニ水様液<sup>ア</sup>アリ、透明ナル水状ノ液ニシテ、角膜ノ下ニ在リテ、次ノ水液(水晶鏡)

邊毛列トノ繋着ニ由リテ其位置ヲ定ム、玻璃液<sup>アキドレウス</sup>ハ最後ニ在リテ  
眼球ノ後室ノ前部ヲ填充ス、此後室ハ凡ソ全眼ノ三分ノ二ヲ領スル者  
ナリ、此液ハ透明希薄ナル水液ニシテ、其周囲ハ膜ヲ以テ之ヲ包裹シ、  
其内部ハ、橙子ノ分界ノ如クニシテ光輝アリ、又其中央ノ一線ハ光線  
ノ眼ニ達スルノ道路ナリ、其全体ノ形ハ凸凹形ニシテ、前面ハ水晶鏡  
ヲ容ル、ガ為メニ深キ盂形ノ窪アリ、水晶鏡<sup>モキスタライ</sup>ハ透明ニシテ堅固  
ナル凸鏡ナリ、其形ハ二個ノ凸凹ヲ合セタル者ニシテ、後部ハ前部ヨ  
リ差々凹シ、此鏡ハ前後両水液ノ間ニ在リテ、玻璃液ノ膜ヲ以テ辺毛  
列ニ繋着スル者ナリ、

眼ノ運動ハ六個ノ筋ノ力ニ因リテ成ル、六筋ノ内四條ヲ直筋<sup>トイヒ</sup>トイヒ、  
二條ヲ斜筋<sup>トイフ</sup>トイフ、直筋四條ハ眼ヲ容ル、処ノ凹骨ヨリ起リ、眼孔ノ  
周囲ヲ遶リ(此処ニハ視神經ノ腦ヨリ來ル物リ)眼球ノ前方ノ外面ニ  
挿入シ、各剛膜ノ上角、下角、外角、内角ニ固着ス、大斜筋<sup>トイフ</sup>一條ハ真  
筋ノ大ナル者ト密接シタル処ヨリ起リ、前進シテ軟骨ノ圈ニ至ル、其  
腱ハ、圈ヲ通過シ、後方ニ反折シ、眼球ノ上面ノ後方ニ挿入ス、小斜筋<sup>トイフ</sup>  
一條ハ、眼孔ノ前部ノ内面ノ小ナル隅角ヨリ起リ、眼球ノ中央ノ後部ニ  
於テ、球ノ外面ノ中ニ挿入ス、  
眼ヲ八方ニ見廻ハシ得ルハ此諸筋ノ力ニシテ、或ハ一條ノミ働キ、或  
ハ數條相合シテ働ニ由リ、之ヲ得ルナリ、又眼ヲ運動スルハ、大抵ハ  
(惣体ニハ非ズ)四條ノ直筋ノ力ニシテ、其余ノ筋ハ、望ム所ノ運動、

恰モ其筋ノ働キト相応スル時ノミ其働ヲ顯ハス者ナリ、

第三 眼ノ働キハ第一ニ視覚<sup>オプティカル</sup>ノ成果<sup>コト</sup>ヲ以テ成シ得ル者ナリ、

今マ入ノ眼、樹木ノ如キニ二ノ物体ニ対向スルトキハ、光ノ線、瞳孔  
ノ中ニ入り、諸水液ノ集合ノ力ニ由リテ光線ヲ屈折シ、顛倒セル影像  
ヲ眼ノ後面ニ現出ス、其処ハ、透明ナル網膜<sup>コライト</sup>ガ、胞衣膜<sup>コイト</sup>ト相結合ス  
ル所ナリ、網膜ニアル所ノ神經纖維ハ、此ノ如キ微細ナル刺衝ノ為メ  
ニ感動スルコトナシ、唯胞衣膜ノ色彩アル小窩<sup>セル</sup>ハ自己ニ光ノ働ヲ感ズ  
ル者ニシテ視角ノ成果ヲ得ル為メニ要用ノ部タリ、

影像ハ、光線ノ輻輳ニ由リテ、網膜上ニ精密ニ其形ヲ印ス、決シテ其  
前ニモアラズ、又其後ニモ在ルコトナシ、若シ物体、甚ダ近キニ過グ  
ルトキハ、光線ノ聚合スルコト、網膜ノ上ニ在ラズシテ、其後ニ在リ、  
其距離ノ界限ハ人々同ジカラズト雖ドモ、多數ニ依リテ算スルトキハ、  
五印知ヨリ十印知マデノ間ニ在リ、

細微ナル物ヲ見得ルニモ自然ノ界限アリ、吾儕頗ルヨク細微ナル線又  
ハ点ヲ見ルコトヲ得ベシ、然レドモ其見ルベキ度ニ界限アリテ、其度  
ヲ踰ユレバ見ルコト能ハズ、此界限ハ、網膜ノ黄斑ノ中ニ在ル眼ノ細  
微ノ度ニ在ルナリ、凡ソ各個ノ神經、各個ノ纖維、各個ノ神經窩、各  
自ニ別々ノ感得ヲ受クルトイフコトハ視覚ノ成果ニ於テ、避クベカラ  
ザルノコトナルベシ、

種々ノ距離ニ於テ、何レモ物体ヲ明白ニ見センガ為メニ、眼ニ眼球ヲ

調整スルノ力アリ、今六印知ヲ離レテ明白ニ見ユル物体アリ、然ルトキハ六印知ナリ、或ハ遠ク或ハ近クニ在ル物ハ皆明白ナルコト能ハズ、其故ハ光線ノ湊合スル所、或ハ網膜ノ後ニ在リ、或ハ網膜ノ前ニ在ルヲ以テナリ、然レドモ若シ吾眼球ノ状ヲ変化サスルトキハ、遠キ物ハ明白トナリ、近キ者ハ漫漶トナルナリ、眼球ノ状ヲ変化サスルノ働キヲ為ス者ハ瞼ノ筋ナリ、物体甚ダ近キトキハ、瞼ノ筋短縮シ、以テ水晶液ヲ壓迫シ、是ニ由リテ水晶凸鏡ヲ前ノ方ニ押出シ、其押シ出スニ、中央ヨリハ囲端ヲ強ク押スヲ以テ凸鏡其凸形ヲ増スナリ、此変状ニ由リテ光線ノ湊合スルコト速カニシテ、網膜ノ後方ニ在ル所ノ物ノ影像ヲ前ノ方ニ進メ、以テ網膜ト精密ニ適合スルコトヲ得セシム、又物体遠キ時ハ瞼ノ筋弛緩シ、而シテ其部ニ有セル弾力ノ助ニ由リテ凸鏡ノ形ヲ恢復スルナリ、此調整法ハ能ク四印知ノ近距ヨリ三希多遠距マデニ適合スルコトヲ得ル者ナリ、

第四 兩個ノ眼ヲ以テ一物ヲ視ルニ、同様ナル物体ノ影像二個ヲ見ズシテ、一個ノ完全ナル物体ノ影像ヲ見ル、是ヲバイキューラ双眼ノパイクューラ視景ルノ共ヨシトト云フ、

今若シ、立方形ノ小匣ノ如キ物ヲ取リテ、面前數印知ノ所ニ置キ、吾両眼ヲ以テ、此一個ノ物ヲ見ルトキハ、其物各個ノ形ニ見ユルナリ、面ニ接スルコト愈近キトキハ、其物ノ各別ノ体ヲ現ズルコト愈甚シ、又之ヲ面ヨリ遠ザクルトキハ、各個ノ体ヲ現ズルコト漸々少

ナク、或ル一定ノ距離ニ至ルトキ、初メ二個ノ影像タリシモノ実ニ一個ノ物体ノ形ヲ現ハスナリ、此解説ハ最後ノ階級ニ於テ言フベキノコトナリ、然ルニ是ニ記載スルハ、更ニ遠距ニアル調整ノ働キ言ハシガ為メナリ、則チ或ル距離ニ於テ双眼其調整ヲ得テ、実ニ一物ヲ一物ナリト認視スルトキハ、夫ヨリ遠方ハ何程ノ距離ニ至ルトモ、此調整ノ働キヲ失フコトナキ者ナリ、

「心學及道學」解題

「心學及道學」は、八二七—一二五「心學及道學」に単独でまとめられている。

「心學及道學」は、Alexander Bain 1818-1903 の著述である *Mental and Moral Science. A Compendium of Psychology and Ethics.* の部分訳である。原書は「道德學 Alexander Bain」で述べたように、一八六八年に初版が出た後、*Psychology* の部門が同年に *Mental Science: A Compendium of Psychology, and the History of Philosophy* として独立した一冊となり、翌一八六九年に *Moral Science* の部門が *Moral Science: A Compendium of Ethics* として独立した一冊となっている。この資料で西村が翻訳したのは、*Psychology* 部門の本文初めである。初版と分冊以後の版に本文に変更はなく、西村の翻訳した時期も不明なので、西村の依拠した版を確定することはできない。

原書の *Psychology* 部門の本文は、Introduction と Book I から Book IV からなり、四二八頁ある。

Introduction の下位に Chapter を置き、その下位に番号を付して区分し、それぞれに見出しを付けている。Book の見出しは、次の通りである。

Book I. Movement, Sense, and Instinct. Book II. The Instinct. Book III. The Emotions. Book IV. The Will. Book の下位に Chapter があり、Chapter の下位の区分に番号を付し、Chapter と下位の番号に見

出しを付けている。

西村が翻訳した箇所は、*Psychology* 部門の Introduction と Book I の Chapter II の中途、冒頭から六〇頁までである。Book I は Chapter I から Chapter IV まであり、Chapter II は六五頁まであるから、いずれにせよ、内容的にまとまりのある箇所が終わっているわけではない。ただし、稿本としては、よく整理された形になっている。

Book を冊、Chapter を篇と訳し、下位区分の番号を章としている。西村は、明治十六（一八八二）年五月十五日と日付のついた『心學略傳中』の末尾で「倍因」すなわち Bain に言及しており、明治十八（一八八五年）三月の日付のある自序をもつ『心學講義』には、「倍因」の説にしばしば言及している。

Bain の心理学は、ジョン・スチュート・ミルの影響をうけた経験主義的連合心理学としての性格と、神経生理学を取り入れた生理学的心理学としての性格とをもっている。意識を身体的な行動との関連を事実を照らして明らかにしようするところがあり、心理学界に持続的な影響を与え続けた。彼が、一八七六年に創刊した心理学雑誌 *Mind* は現在まで存続している。

*Mental and Moral Science* の *Psychology* 部門の公刊された翻訳には、次のようなものがある。

青木輔清『倍因氏 心理新説』明治十五（一八八二）年、一八七五年

版の原書によって取捨折中したというものである。

松島剛ほか訳『心理全書』全四巻、明治十九（一八八六）年

矢島錦藏訳『倍因氏心理學』明治十九（一八八六）年、Book I、Book II  
の翻訳である。

他のペインによる心理学関係の書物の翻訳には、次のものがある。

森本確也・谷本富訳註『心身相関之理』明治二十（一八八七）年、*Mind and body: The theories of their relation.*

「道德學 Alexander Bain」 「倍因氏洛日克 一」を参照。

福均ノ修身學

○凡ソ物欲ヨリ生ズル所ノ惡ハ甚大ニシテ、我儕此書ヲ記スルニ默シテ止ムコト能ハザル者ナリ、其第一ノ危難ハ、其物欲ハ最上ノ目的アル者ナレドモ之ヲ用ヒテ危難ヲ致ス者ニシテ、此事ハ衆人之ヲ行フ者多シ、即チ淫欲是ナリ、凡ソ情欲ノ中ニ最高ノ旨趣ヲ具フル者ニシテ人類ニ欠キ難キ者ナリ、然レドモ之ニ蕩溺混陥スルトキハ、其衣服容兒ハ美ナルガ如キシトイヘドモ、其人物ノ汚穢ナルコトハ、エビキュリスノ豚ノ如ク、少シモ價値ノナキ者ナリ、而シテ此世界中ニ於テ己ガ物欲ヨリ貴キ者アルコトヲ知ラズシテ、此性命ヲ終却スル者ナリ、

○第二ノ危難ハ、此情欲ノ為メニ誘惑サレテ高崇ノ志望ヲ失ヒ、其全性命ノ音声ハ甚低下ナル響トナル者ナリ、凡ソ情欲ノ糞泥ヲ其身ニ附セザルノ人ノ甚罕ナリ、古賢ノ語ニ曰ク、肉体ノ時陽翌ハ吾身体ヲ害スルノミナラズ、吾心灵ニ対シテ戦ヲ挑ム怨敵ナリ、

○人欲ヨリ生ズル第三ノ危難ハ人工上ヨリ起ル所ノ者ナリ、此人工機ハ、其材料トスル者ハ、有害ノ毒物ナレバ、人ノ身体精神ノ堅立ノ為ニハ少シモ益ヲ為サズル者ナリ、是ヨリ生ズル所ノ快樂ハ、是ヲ以テ終リ、其分量ヲ増加セントスル所ノ刺衝ハ甚強烈ナリ、神經ノ組立ハ弱クナリ、習慣ハ不運ナル束縛ヲ受ケ、人ヲシテ道德力ノ高崇ナル有様及ビ最高キ心灵ノ働トハ、沈酔昏迷ノ刺衝ト一致スルヤ否ヤヲ疑問セシム

ルニ至ルナリ、

○人欲ヲ以テの当ノ場所ニ保存シ置クトキハ善ニ導入スルノ方トナルベキナリ、然ルニ古代ヨリノ歴史及び方今ノ世人ノ有様ヲ見ルニ、天然ノ人欲ト人造ノ人欲(是ハ其物ノ自己ニ其用ヲ失ヒ居ルナリ)トヲ誤用スルニヨリテ不幸禍難ヲ招ク者甚ダ多く、其事ハ実ハ人ノ思想上ニ出ル者ナリ、異教ノ国ノ風俗ノ頹敗セルハ情欲ノ自然ニ由ル者多く、殊ニ其宗門ニ於テ情欲ヲ以テ一ノ神トシテ之ヲ奉崇スル者アリ、基督教ノ国ニテモ、有名無実ノ地殊ニ繁華ノ都府ニ於テハ此風俗ノ頹敗甚多シ、惟基督教ノ実ニ行キ渡リタル土地ニ於テハ、人民ノ此汚泥ヨリ引揚ゲテ風俗ノ頹敗スル者少シ、此一点ニ於テ基督教ノ●益ヲ為スコトハ吾等ガ確ト憑證スル所ナリ、故ニ少年輩ハ能ク其人欲ヲ制シテ沈迷セザランコトヲ務ムベシ、一身ノ敗壞ハ一員一同ノ敗壞トナル者ハ有之、慎マザルベカラザルナリ、

○願望ノ心ニ在ルハ、人欲ノ形体ニ在ルガ如シ、願望ハ人ノ行為ニ於テ自然ニシテ且要須ナル主義ナリ、然レドモ此者ハ自己ノ中ニ道德ノ性質ヲ有セザルヲ以テ、必ズ人ノ制馭ヲ要スル者ナリ、之ヲ制馭スルノ法ハ人欲ト同ジク之ヲ押付クル主義ヲ用ヒズシテ、更ニ高崇ナル役目ニテ之ヲ用フルコトヲ要スベシ、即チ生命ノ願望、財産ノ願望、知識ノ願望、力ノ願望名譽ノ願望等ハ、若シ他ノ權理ヲ破ラズ、良心ノ指導ニ由リテ感情ノ用ニ供スルトキハ、何レモの當ノ願望トイフベシ、

○然レドモ、此願望モ、モシ其用法ヲ誤リ或ハ轉倒シテ之ヲ用フルトキハ人欲ト同ジク、大ナル危難ニ陥ル者ナリ、先ツ第一ニハ願望ノ或ル種類ヲ以テ最上ノ目的ナリト思ヒテ之ヲ引受ルコトニ付テ反テ危難ノアルコトアリ、

○願望ノ此場合ニ於テハ其人ニ己ニ一ノカクテルヲ造成セルヲ以テ人欲ヲ引受クルトハ大ナル差違アリ、凡ソ人欲ニハ界限アリ、人欲ハ満足シ易ク、満足スレバ其貪愛ノ念ヲ止ム者ナリ、若シ甚シク度ヲ過ゴストキハ忽チ身体ト心思トヲ衰弱疲弊セシム、色欲ノ範圍ハ殊ニ狹隘ニシテ死亡スルト亡失サル、トノ二者ニ限レリ、願望ハ之ニ異ニシテ天然ノ界限ナク、養成スルニ随ヒテ益生長シ、遂ニ他ノ百事ヲ吞併スルニ至ル、是ニ由リ吾儕ハ、マルチルヲ為スベキ所ニ臆病ナル者ヲ見、金ノ為ニ瘦損屈抑スル者ヲ見、天上ノ星ヲ研明スルニ嗜癖セル青白色ノ書生ヲ見、土地ヲ荒殘セントスル勝人ヲ見、公衆意想ヲ變ゼントスル迷信者ヲ見ル、此ノ如キ類、皆其行為ヲ以テ世界ニ充斥セリ、

「福均ノ修身学」解題

「福均ノ修身学」は、八二七—一三〇「理學問答」のうちに「理學問答」とその他の断片的な摘要とともに合綴されている。「理學問答」は、『増補改訂 西村茂樹全集』第9巻に翻刻されている。

「福均ノ修身学」は、Mark Hopkins (一八〇二—一八八七)の著述である。The Law of Love, and Love as a Law; or, Moral Science, Theoretical and Practical.の部分訳である。一四五頁から一四六頁、及び一五〇頁を訳している。

Mark Hopkins は、アメリカのウイリアムズ・カレッジで、道德哲学と知識哲学の教授をつとめ、また一八三六年から一八七二年まで学長の任にあり、アメリカの小都市におけるカレッジ教育の象徴的存在となつた。

西村の翻訳した原書を、一八八八年出版の第四版にもとづいて、岡村愛藏が、理論的部分である前半に註解をつけて抄訳した『註釋 實氏倫理學』として、明治二十五(一八九二)年に出版している。

斯丟亞的性理學

第一綴

性理及道学要畧

英国 大關斯丟亞的 著

総論

性理學ハ人ノ心ノ性質<sup>○</sup>力<sup>○</sup>法則<sup>○</sup>働<sup>○</sup>トヲ研究スルノ学問ナリ、  
修身学<sup>○</sup>ハ吾心ニ得タル知<sup>○</sup>以テ吾身ト上帝及ヒ人類仲間トノ管  
係トヲ確知シ、兼テ道德上ノ義務ノ根原<sup>○</sup>法則<sup>○</sup>界限<sup>○</sup>トヲ慥ニスルノ  
学問ナリ、

性理學ト修身学トノ性質<sup>○</sup>力<sup>○</sup>法則<sup>○</sup>働<sup>○</sup>トハ各各自ノ持場<sup>○</sup>ニ在リ、ハ已ニ之  
ヲ明解セリ、人ノ身体ト心ヲ合束シタル者ニシテ、其心ハ亦身体ト同ジ  
ク之ヲ以テ或ル品等<sup>○</sup>ヲ所有セル実物ト為シテ之ヲ考ヘタリ、即チ心ハ  
種々ノ能力アリ<sup>○</sup>感情アリ<sup>○</sup>感動アリ<sup>○</sup>是ヲ以テ人心ノ現象<sup>○</sup>ヲ造  
リ出セル者ナリ、吾儕「フヒシオロジイ」体理学トイヘル語ヲ形体ノ方  
ニ用ヒ、「サイコトジイ」心理学トイヘル一語ヲ心ノ方ニ用フルナリ、  
「フヒシオロジイ」ハ即チ体ノ理ニシテ觀者<sup>○</sup>トシテ經驗<sup>○</sup>トニ由リテ  
吾等ノ実質ノ部分中ニ顕ハル、変化ヲ推究シ、其変化ヲ類別シテ各之ヲ、  
呼吸<sup>○</sup>循環<sup>○</sup>滋養<sup>○</sup>等ヲ役目ニ區分ス「サイコロジイ」即チ心ノ  
理ニシテ人心ノ働及ヒ其変化ト其後続ノ事ヲ整フ為ノ法則トヲ着目シ、  
是ヲ以テ理會<sup>○</sup>記憶<sup>○</sup>裁斷<sup>○</sup>等ノ種類ニ分ツナリ、然レドモ此間ニ猶

左ノ差異アリ、

○吾等モシ体理ノ学ヲ為シ、身体ノストリクチャー造オルガ其機関システム及ヒ其役目フハンクノ変化等ヲ知ル時ハ是ニテ其学ニ通ジタル者ナリ、吾己ニ此学ニ通ジ、身体ノ品等、及ヒ夫々ノ場所ニ現存スルコトト、其自ラ働ヲ為スコトト、他ノ働ヲ受クルコトノ方法トヲ知り又自然ノ順序ニ從ヒテ其運動ヲ行ヒ、又他ヨリ害ヲ受タルトキ、之ヲ恢復スルコトヲ知ル時ハ、実体アル形質ノコトニハ既ニ通曉シタル者ト云フベシ、然レドモ更ニ心理ノ学ヲ為シ、其能力ト感動ト情欲ノ如キヲ知り、其結合コンネクト使用ユース変化チェンジ及ヒ相互ノ支感サポニ通スルトキハ、何処ニ働クカ、如何様ニ働クカト云フコトヲ知ルノ外ニ、更ニ如何様ナル仕方ヲ以テ働カネバナラヌカ、教示シタル或ル場合ニ於テ働ラカネバナラヌカトイフコトヲ穿鑿セザルベカラザルニ至ルベシ、

○人々ガ自己ニ得ル処ノ福昌エシヨ、同類ノ上ニ與フル処ノ福昌、及ビ自己ヨリ他人ニ施ス処ノ凶害モヒト他ヨリ我身ニ受クル所ノ凶害トハ、共ニ心理ノ学ノ外ノ品物ニシテ、即チ「エセツクス」ニ於テ用フル処ノ品物ナリ、○始メニ為スベキハ心智ノ分解ニシテインテルレクチュアルアナリシス即チ内部ノ変化、働キ、感動ト及ヒ外部ノ表現、単ニ之ヲ言ヘバ心ノ現像トイフ者ニ由テハ、人心ヲ分解スルコトナリ、其次ニ為スベキハ修身ノ分解エシカルニシテ即チ上帝ト我身ト吾等ノ同儕トノ管係ヲ分解スルコトナリ、修身ノ分解ハ、唯如何ナルコトガ為シテアリ、如何ナルコトガ考ヘテアルトイフコトヲ

考察スルノミナラズ、更ニ心ノ有様ハ此ノ如クナラザルベカラズ、此ノ如ク考ヘザルベカラズ、此ノ如ク感セザルベカラズトイフコトヲ穿鑿シテ、是ヲ以テ吾身ノ行為ト同一ニ歸セシメザルベカラザルナリ、

○夫故ニ「フヒジカル、サイエンス」ニ於テハ、總テ其領分中ニ在ル物件モノハ、如何様ナル物デアルカトイフ疑問ニ答フベキ者ニシテ、即チ実物モノヲ指シテ之ヲ言フナリ、此学問ハ、スベテ同形体ナル物ニ從ヒ、一般ノ通名ヲ夫々ノ物ニ付スルノ仕方ヲ以テ組立タル者ニシテ、其事ハ皆実迹ヨリ起ル者ナリ、又性理ノ学ニ於テハ其物件ニ向ヒテノ疑問ノ語ハ、物質ノ学ニ異ナルコトナクシテ、其物件ハ実物ニ非ズシテ人心ナリ、此学問ハスベテ心ノ有様、功力、感動ヲ録シ、又思想ノ法則ヲ講明スル者ニシテ、其思想ノ法則ハ唯我等ニ知識ヲ與フベキ者ノミヲ講明スルナリ、修身ノ学ハ其物件更ニ高等ニシテ、如何様ナルコトガ、考ヘザルベカラズ、感セザルベカラズ、為サザルベカラザルコトナルカ、トイヘル疑問ニ答ヘザルベカラズ、故ニ修身ノ学ハ心ノ俣ホリシタリノ働キヲ節制スル所ノ規則ル及ヒ心ノ俣ノ働キノ根原ト為ル心ノ本質ヲ支配スル所ノ法則トヲ慥ニ定ムルアッザル者ナリ、修身ノ学ハ又總テ此ノ如クナラザルベカラザルコト、正道ニアラザルノコトハイカナルコト、及ヒ職分トハイカナルコト、其反対ハイカナルコト等ヲ決定セザルベカラズ、此職分ハ、職分ノ自己ノコト、及ヒ我身ニ負擔シ、仲間ノ者ニ対シ、吾等ノ廣大慈悲ナル上帝ニ対シテ行フベキ職分ハ如何トイフコトヲ決定スルコトナリ、

○性理学及ヒ修身学 性理学ハ人ヲ以テ智アリ且ツ徳アル者ト為シテ、

其上ニ發現スル処ノ実事ヲ吟味スルノ學ナリ、修身学ハ同ジク此実事ヨ

リ起リタル管係ヲレリニ定メル処ノ學ナリ、性理学ノ目的ハ何

ンデアルカトイヘルニ語ニ在リ、修身学ノ目的ハ何ガ正直ナルカト

イヘルニ語ニ在リ、性理学ハ發現ノ事ニ因ル者ニシテ、其學ニ景驗

ニス。論理及ヒ各個ノ物ノ帰納ヲ決定ノ推論アリ、修身学

ハ正當ト不正當トニ管係スル者ニシテ其中ニ道德ノ能力及

ヒ我等ガ上裁ヲ乞フベキ上帝ノ默示アリ、

「メタフヒジツクス、及ヒエセツクス」 此二語ハ性理学ト修身学トノ

一名ナリ「メタフヒジツクス」ハ「フヒジツクス」ノ後トイフ義ニシテ、

羅底島ノ「アンドロニコス」ガ亜立斯度徳ガ死後一百六十三年、其著述

セル十四冊ノ書ニ命ズル処ノ名ニシテ亜立斯力著ハセル書中ニテ、其「フ

ヒジツク」ノ後ニ在ル処ノ書トイフ義アリ、即チ其書ハ人心ニ管スル処

ナレバ、「フヒジツク」即チ物質ノ書ノ後ニ続テ書ベキ書トイヘル

意ナリ、是ニ依リ「メタフヒジツク」ノ語ニ様ノ意味ヲ生ジ、第一ハ物

質ト人心トノ學問ヲ為スベキ順序ヲ指スコトト為ル、自然ノ順序ヲ以

テ言フトキハ始めニ根原アリテ効驗アルベキノ理ニシテ、人身ノ如

キモ始めニ最上ノ智ニ成テ後ニ成形ノ智ニ成テ後ニ形質アルベ

キノ理ナリ、然レドモ學問ノ順序ハ是ト異ニシテ、形質アル実物ヲ以テ

始め、後ニ無形ノ心智ニ及ブコトナリ、第二ハ「メタフヒジツク」ナル

語ハ此順序ニ於テ學フベキ學問ノ名ト為スナリ、故ニ「メタフヒジツク」

ハ性理学ノ全体ヲ包括スルノ名ニシテ、深微詭謀隱奧等「メタ

フヒジカル」ノ語ヲ用フルモ其原ハ是ヨリ來ル者ナリ、(ヂューバルガ

疑辭辨ニ出ツ)

○「エセツクス」トイフ語ハ(道誼ノ性質及ヒ行為ノ義)廣狹二個ノ意

味アリ、其狭キ意味ハ修身ノ原理、(修身ノ義務ノ根原、及

ヒ修身ノ感覺ト行為トノ法則トヲ考究スルノ學問ヲ指ス、又其廣キ意味

ハ行為上ノエセツクスノ義ト為リテ、スベテ修身ノ職分ヲ論ジ、教法

上ノ職分モ政治上ノ職分モ包括シテ論スルナリ、即チ人タル者ノ上帝ニ

対シ、我身ニ対シ、又我等ノ同類ニ対シテ行フベキ職分ニシテ、人ヲ以

テ獨立ノ者ト為シ、又、以テ人間交際中ノ仲間ト為シテ之ガ説ヲ立タル

者ナリ、

#### 心理學

○「人体構造ノ諸部」 人ハ形体ト靈魂即チ實質ト心智

トヲ以テ成ル者ナリ、形体ハ禽獸ノ如キモ之ヲ所有スルコト人類ニ同シ

靈魂、唯人ノミ之ヲ所有セリ

○形体ハ実物ニシテ死亡シ腐壞スベキ者ナリ、靈魂ハ虚体ニシテ死亡ス

ルコトナク腐朽スルコトナシ、故ニ人ノ体ノ最貴キ部ハ心智ナリ、此心

智ノ力ニ由テ、人タル者ハ皆行為スベク、交際スベク、身ヲ修ムベク、

神ヲ敬スベキ動物トナルコトヲ得ルナリ、

「心智及ヒ実質」 心智ハ我身体中ニ於テ或ハ考へ、或ハ回想シ、或ハ道理ニ付クル等ノ事ヲ為ス部分ナリ、知覚<sup>○</sup>ノ助ヲ以テ我ガ身外ノ万物ト相交ハルコトヲ得、万物ヨリシテ心ニ印記<sup>○</sup>ヲ受クルナリ、○形体ハ 実質ノ結合ニテ堅サ、大サト、分解スベキ性ヲ有セル一ノ物体ト為リタル者ニシテ、吾輩ノ其形体タルコトヲ知ルハ、唯其本質<sup>○</sup>ニ由テ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ、又心智ハ<sup>○</sup>事業<sup>○</sup>ノ衆合シテ、或ハ感シ、或ハ考へ、或ハ思ヒ或ハ道理ヲ付クル等ノ一個ノ力<sup>○</sup>ト為リタル者ニシテ吾輩ノ其心智タルコトヲ知ルハ、唯其事業ノミニ由テ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ、実質ハ吾等ノ知覚ノミニ由リテ之ヲ知り、心智ハ吾等ノ自覚<sup>○</sup>ノミニ由リテ之ヲ知ル、然レドモ二者ノ本原ノ質<sup>○</sup>ハ之ヲ知ルコト能ハズ、吾輩ハ二物ヲ知ルハ唯其性質上ヨリ之ヲ知ル者ナレバ、二者互ニ相通用スルコト能ハズ、或人曰ク、実 質、心智ノ格別ノ表見ノ効驗<sup>○</sup>ナリ、心智ハ実物ノ格別ノ変化ノ効驗ナリト（「アベル コロムビイ」ノ心理論）

「チュガルド、ステワート」ノ説ニ、凡ソアラユル実事<sup>○</sup>ノ内ニ於テ其存在セルコトノ尤慥ナル者ハ心ナリト、「ハーケレイ」ノ持論ハ、万物実ニ存在セル者ナシトイフ説ナレドモ、是ヲ彼ノ実物<sup>○</sup>ノ外ハ何モ存在スル者ナシトイヘル説ニ比スレバ、却テ理會シ得ベキヲ覺ユルナリ、「バキステル」曰ク、人タル者ハ皆妄信シ易カリシ者ナリ、然ルニ今ハ理学ト知学トノ大氣ニ感シテ外面ハ至テ智者ノ如クナリタリ、

然レドモ今日猶生活ナキ実物モ、生活ト道理トノ効驗ヲ生スルトイフコトヲ信スル者アリ、万物ハ常ニ存在スルトイフコトヲ信スル者アリ、而シテ前者ハ後者ニ比スレバ、百倍モ輕信ニ近キ者ナレドモ、今人ハ未タ其然ル所以テ究メザル者多シ、

吾儕今金ノ状ヲ言ハンニ、一種ノ重量ヲ持チ、其色黄ニシテ、之ヲ打テ延長スベク、或ル熱度ニ由テ溶解スベク、又互ニ結合スベキ性ヲ有スル者ナリト言フモ之ト同様ニシテ、理會スベク、記憶スベク、比較スベク、又種々ノ感覺ト感動トヲ受クベシト云フベシ（「ブラウンノ説」）

然レドモ形体ト心トハ共ニ造物者ノ造ル所ニシテ、其造リタル形質ニ由リテ各個ノ名ヲ下セシ者ナリ、東方ノ理学<sup>○</sup>（東國ニ流行セルヲ以テ此名アリ、其起立者ハ波斯人マネスナリトイフヲ以テ「マニケイヅム」ト名ク、）ニハ実体ハ受造物ニ非スシテ且ツ不朽ノ者ナリ、然レドモ惡事ノ根原ナルヲ以テ之ヲ黑暗<sup>○</sup>ト名ク、心ハ善事ノ根元ナルヲ以テ之ヲ光明<sup>○</sup>ト名ク、万物ノ根原ナル一ノ造物者アリテ、黑暗ト光明ト善ト惡トヲ造レリトイフ、此説ハ偽ノ理学ニシテ、其故ハ邪和華ヲ以テ実体アル物、即チ肉体ト為サズシテ、唯之ヲ以テ現象<sup>○</sup>ト為ス者ナレバ、此学ヲ稱シテ「ドセテ」<sup>○</sup>ト云フ、此ノ如キ説ハ病患アリテ、罪業ノ器械トナリ、零落ノ状ヲ顯ハシタル者ト為シ、又上昇不朽美妙光明ナル体ヲ説ク者ト相反シテ上帝ヲ以テ鄙賤ナル体ト為シタルヲ以テ滅亡敗毀ヲ受クベキ者ナリ、

〔推究<sup>イエンベスチ</sup>ノ法〕 実物ノ性質状態ヲ推究スルノ法ハ觀察<sup>オブザルベ</sup>ト実験<sup>エキペリメント</sup>トヲ用ヒ、心ノ性質状態ヲ推究スルハ專心<sup>アツクシ</sup>ト自覚<sup>コシユ</sup>トヲ用フ、

○此法ニ從ヒテ行クニ勉勵<sup>アツクシ</sup>ト怠惰<sup>サマシ</sup>トアリ、而シテ其成功ハ事実ト假説<sup>フハク</sup>トオ  
ア、ヒボ、知識<sup>ウチカ</sup>ト理論<sup>リョウロン</sup>ト或<sup>オ</sup>ル真理<sup>マコト</sup>ト單ナル意見<sup>イエン</sup>トナリ、

○倍根曰ク、人ハ上帝ノ從僕ニシテ、其通詞ナリ、故二人ハ造化ノ為シ  
タル迹ヲ推究セントスルモ、其行為<sup>カウシ</sup>ト悟曉<sup>ワカシ</sup>トニ界限アリテ、知覺<sup>チカク</sup>  
及ヒ心智<sup>チシ</sup>共ニ自己ノ得タル知識ト力トノ外ニ出ルコト能ハズト、

〔鮮明〕 磁石ノ鋼鐵ヲ引クト云フコトハ実事<sup>マコト</sup>ニシテ觀察ト実験トノ成  
功ナリ、然レドモ其内ニ視ルベカラザルノ流動物アリテ此働キヲ起スカ  
或ハ其他ニ働キヲ為ス者アルカト云フコトハ唯理論<sup>イイロ</sup>ニテ推スノミナリ、

故ニ此時ニ至リテハ意見<sup>イエン</sup>ヨリ其他ニ此磁石ノ理ヲ判断スル者アルコ  
トナシ、又行星ナル者ハ時期ヲ定メ、楕円ノ軌道ヲ歩ミテ太陽ノ周期ヲ  
運行シ又其光線ヲ吾地球上ニ反射スルト云フコトハ觀察ト実験トニ由リ  
テ得タル事実ナリ、然レドモ其行星ノ面ニ人類ノ住居スルカト云フコト

ハ唯吾等ノ意見ノミナリ、  
〔実物<sup>マツ</sup>ト心<sup>ココロ</sup>ノ推究ノ差異〕 凡ソ実物ヲ推究シテ之ヲ受納<sup>ウケトル</sup>シ之ヲ比  
較シ、之ヲ整理<sup>ツクリ</sup>スルハ皆心ノ働キナリ、唯其現象ト器具<sup>クキ</sup>トハ共ニ

我身ノ外ニ在リ、又心ヲ推究スルハ之ヲ驗視スル所ノ同ジ心ナリ、而シ  
是ハ其現象ト器具トハ共ニ我身ノ内ニ在リ、故ニ心ヲ推究スルハ知覺<sup>チカク</sup>  
ヲ以テ知ルコト能ハザレバ、実物ヲ推究スルニ比スレハ甚々難シ、然レ

ドモ心ハ常ニ現存シテ、又繁雜ナル器械ヲ用フルニ及ハザレバ、却テ推  
究ニ易キ所モアリ、心ヲ推究スルノ器械ハ、其題目<sup>イデ</sup>ト太相親近ニシテ

常ニ預メ用意シアリ、而シテ何レノ目的ヨリ考フルモ、別シテ要用ニシ  
テ管係<sup>キョウヘイ</sup>アル者ナリ、故ニ回光鏡又ハ數學ノ助ニ因リテ、初メテ木星ノ  
從星ノ摂動力ヲ算シ得ルトイフコトハ其器械ノ為ニハ恥辱ナルコトニ非

ザルカ、又百事ヲ為シ得ル所ノ内心ノ力ハ如何ナル者カトイフコトヲ知  
ラズ、又世界ノ現象ヲ見ル時、我心ノ内ニモ之ヲ見ルトイヘル現象ヲ生  
ズルコトヲ知ラサルハ、同ク其器械ノ為ニ恥辱ナルコトニ非ザルカ

○勞尔德倍根ガ學問ニ贈リシ大ナル賜ハ(倍根ガ創案セシ処ナリトイフ)  
學トイフ者ハ人ノ心ヲ轉シ、暗想<sup>アンソウ</sup>ヲ去リテ実験<sup>ジケン</sup>ニ趣カシムルニ  
在リト、夫レ學ナル者ハ各個ノ發明<sup>チセカ</sup>ノ聚マリタル者ニシテ發明ハ実験

ト觀想<sup>カウザベ</sup>トノ成功ナリ、而シテ其積重セル実験ト聚合セル發明トヲ以  
テ學問ノ基礎立チ其原質成ルナリ、物理学ノ如キハ牛董<sup>ウエイトン</sup>ノ大識見<sup>ダイシケン</sup>  
ヲ以テ其形体様式全ク定マリタリ、○心理学ノ材料ハ萊伯尼子<sup>ライブニツ</sup>、駱

克ノ時ヨリ漸々集合シタリ、然レドモ未タ牛董ノ如キ者アリテ其形体様  
式ヲ定ムルニ至ラズ、  
〔知識及ヒ似是<sup>シイ</sup>ノ意見〕 「ワツテリイ」<sup>人名</sup>「ロジック」ニ曰ク、

知識ハ第一ハ確然ル信用、第二ニ事実ヲ知ル、第三ニ其基礎ノ堅固  
ナル、三者ヲ合セタル者ナリ、若シ或人歐克立得<sup>ユークリッヂ</sup>ノ示シタル證據ヲ  
疑フトキハ、其論說スル所ノ題目ハ是ヲ知リタリトイフコト能ハズ、

又眞実ナラザル事ヲ実ナリト主張スル時ハ、自分ニ其事ヲ知りタリト思フハ却テ謬誤トナルナリ、○又爰ニ二人アリテ其人ハ月中二人ノ住居スルトイフコトヲ十分ニ信シ、他ノ一人ハ人ノ住居セザルトイフコトヲ十分ニ信ゼンニ（此兩人ノ意見ノ中何レカ眞理ニ協フ者アリトイヘドモ）此兩人ハ共ニ実理ヲ知ルトイフコト能ハズ、其故ハ此事ニ付テハ、二人共ニ十分ナル実験ナケレバナリ、

次ニ擧クル所ノ説ハ試験スルコトナキヲ以テ眞理ニ届カズ、唯似是<sup>幾</sup>ノ重積セル者ノ例本ト為スニ足レリ、

「チャルメル」氏ノ天學書ニ曰ク吾儕ハ、諸行星ヲ見テ、其大小ヲ知ルノ外ニ猶其上ニ住民ノアルトイフ意想ニ依據シテ必ス種々ノ物ノアルベキトイフコトヲ主張セリ、吾儕ハ又此地球ノ自己ニ轉回スルヲ知り、天上ノ諸曜モ地球ト同様ナル運動ヲ為ストイフコトヲ觀察セリ、吾儕ハ地球ノ一年間ニ太陽ノ周圍ヲ運行シ了ルヲ知り、同シ太陽界ニ在ル所ノ諸行星ハ皆同シ有様ヲ以テ同様ノ運行ヲ為ストイフコトヲ看得タリ、諸行星ハ晝夜アルコト地球ノ如ク、四時ノ更換アルコト又地球ノ如シ、是ヲ晝ノ光明ハ夜ノ暗黒ト相代リ、夏ノ快樂ハ冬ノ幽鬱ニ由リテ来リ續ガル、ハ宜シク有ルベキノコトト思ハルハナリ、

### 人心ノ能幹<sup>フハコ</sup>ノ総區別

○「人心ノ力ヲ會得<sup>アンダルス</sup>ト意思<sup>ウ</sup>ト二分ツコト」人ノ心<sup>マインド</sup>ノ力<sup>パワー</sup>即チ能幹ハ二個ニ大別スルヲ適當トスベシ、一ヲ智ノ力<sup>インテレクチュアル</sup>トイヒ、一ヲ動作ノ力<sup>アクチヴ</sup>トイフ、智ノ力ハ又之ヲ悟性ト云ヒ、動ノ力ハ又之ヲ意思ノ力トイフ、此力ト幹能トイフ字ヲ、或ハ改メテ形状<sup>ト</sup>トイフ者アリ、或ハ改メテ職分<sup>フ</sup>トイフ者アリ、又意思ノ力ヲ改メテ、通義ノ力<sup>キョウギ</sup>ト云フ、或ハ情慙<sup>エモト</sup>ト云フ、

○此如ク種々ノ名目ヲ付スル所以ハ心ノ働キヲ為ス時ニ至リテハ、是等ノ諸性混淆シテ發スル者ニシテ、其現狀ニ於テ十分ニ一定ノ名目ヲ立つコト能ハザレバナリ、故ニ今名クル所ノ一個ヲ引抽キテ、特ニ其名ノミヲ用ヒントスルハ畢竟能ハザルコトナルベシ、○故ニ意思ニ於テ動力ノ字ヲ用フルトイヘドモ、智慧<sup>イシケル</sup>ニモ亦動力アレバ、専ラ動力ノ字ヲ以テ意思ノ方ニ属セシムルハ當ラザルガ如シ、乍併若シ道義ノ字ヲ以テ専ラ意思ニ属セントスレバ、智ノ方ニモ道義アリテ、其分量却テ意思ノ方ヨリ多シ、是止ムコトヲ得ス、動力<sup>又</sup>ノ字ヲ以テ意思ニ属セシムル所以ナリ、又智慧トイフ字モ単ニ心智ノ能幹ニノミ属スル者ト思フトキハ其誤亦前ノ如シ○故ニ心ノ力ヲ區別スルニハ其中ニ於テ最モ多ク其部ニ固有セル者ヲ挙テ之ニ名クルコトナリ、悟性ノ力ニ智慧<sup>インテレクチュアル</sup>ヲ用ヒ、意思ノ力ニ活動ノ字ヲ用フルハ即チ是ガ為ナリ、

○「單獨<sup>ソリタ</sup>ト交際<sup>アタル</sup>トノ區別」上文ノ區別ハ黎德ノ説ニ依據スル者多シ、黎德ノ説ニ又曰ク、心ノ幹能ハ、尋常ノ區別ノ外ニ又單獨ト交際ト

ノ區別アリト、因テ其説ヲ述ベテ曰ク吾等ハ我身ノ外他ニ智慧アル物  
ノナキ時ト雖モ亦能ク、自ラ了悟シアンデル思想シウサ道理ヲ付ケン決断シジユ  
理會シアツフレ得ルナリ、然レドモ若シ吾身ノ外ニ智慧アル物アリテ夫ト相  
接ハルトキハ、学ブ為メニ問ヒ、教フル為メニ答ヘ、我身ニ證據ヲ表シ、  
他ノ證據立ヲ認め、人ニ恩恵ヲ乞ヒ、他人ニ是ヲ與フル等ノ如キ、單身  
ニテ了悟思想スルノ外ニ、尚幾多ノ人ノ能ヲ顯ハスベキコトアリ、此働  
ハ皆智慧ニ属スル者ナレドモ、尋常單獨ノトキニ顯ハル、理會、決断、  
按理等ノ諸種ノ内ニ包含スベキ者ニハ非ルナリ、

○此ノ如キ區別ノ不完全 黎德ハ方今ノ他ノ学士ヨリ最モ心理学ニ遠  
キ者、故ニ心理学ハ多ク此人ノ説ヲ採ラザルベカラズ、黎德ノ言ニ曰ク、  
心ノ働キハ紛糾混淆シテ發スル者ニテ意思ト智慧ト結合シテ生スルコト  
アリ、悟性ハ又意思ノ方向ヲ示シ之ニ力ヲ添ユルコトアリ、然レドモ學  
問上ノ便利ヲ以テ言フトキハ、是ヲ分チテ各別ニ理會スルヲ宜シトシ、  
又之ヲ區別スベキダケノ差異ハアル者ナリ、

「心ノ力ノ區分」 心ノ実物ト同ジク唯其性質アロバ形態クワ行動オレニ  
就テノミ知ルベキコトニテ其本体ユスセニ至リテハ之ヲ知ルコト能ハ  
ズ、故ニ種々ノ目的ニ向ヒ、種々ノ仕方ニ働キ、種々ノ景色ニ現ハ  
ル、所ノ心ノ現象ハ本ト別々ノ力、即チ幹能ナルカ或ハ何レモ一様  
ナルカ、即チ幹能ナルカ、又最初ノ物事ヲ受取リベルシ其次ニ之ヲ考ヘ  
レム又其次ニ之ヲ判断チシスルハ一個ニシテ分ツベカラザルノ心ナル

カトイヘル所ノ疑問ハ、心理学士ノ中ニ於テ衆説各異ニシテ、未タ  
一ニ歸スルコト能ハザルナリ、

アベルコロムセイ  
亞伯哥倫比ハ人ノ心ノ幹能ヲ分チテ三種トス、第一ニハ單純ナル  
智慧シシブルニシテ、受取リベルシ思考シレム事實或ハ出来事トト結び合  
セ、又相互ニ比較スル等ノ能ニシテ、即チ悟解ベルセ記憶シヨ想像イメ  
判断ジユ等ノ力はナリ、第二ニハ受方ノ情愍ハツツニシテ、此力ニ由  
リテ心ニ快樂又ハ苦痛ノ感ヲ起ス者ナリ、但シ此力ノ働キハ其身一  
己ノ事ニノミ關係スル者ナリ、此力ヲ分チテ二種ト為ス、感覺ト智  
慧トアル者ニ由リテ引起サル、者、即チ愛、希望、欣喜、悲哀等ノ  
如シ、其二ハ物質即チ活動ナル物ニ由リテ引起サル、者、即チ味道  
超勝、美麗、恐怕、嘲笑等ノ如シ、第三ハ他動ノ情愍ニシテ、即チ  
道義上或ハ責任アル者又ハ社會ノ仲間ノ行為ニ就テ生スル所ノ心  
力ノ活動ナリ、初メノ件ハ道學ト宗教学トヲ包括シ、後ノ者ハ政治  
經濟ノ事ヲ其中ニ包含ス、  
ブラサ  
伯羅温ハ上ニ言ヘル悟通ノカト意思ノカトノ區分ヲ以テ論理ノ法  
ニ合ハズトシテ之ヲ非トセリ、其言ニ曰ク、名ヲ以テ言フトキハ、  
意思ト智慧トハ全ク相對セル者ナリ、然レドモ事實ヨリ之ヲ言ヘハ  
全ク之ニ異ナリ、區分ヲ主張スル者ノ説トイヘドモ、猶思意ヲ以テ  
智慧ノ領分中ヨリノ働キ出ントセリ、智慧ノ領分ハ甚タ廣クシテ心  
理ノ主觀ハ其中ニ在リ、余等カ道理立テシ、謀慮シ、發明スルハ、

我等ガ貴ビ、恨ミ、恐ル、ト同様ニ我等ノ自由ニ為シ得ベキコトナリト、然ルニ區分ヲ主トスル者ノ説ニ謂ヘラク、心ハ其發動ノ時ニ於テ相互ニ混淆シテ其職分ヲ發現スルヲ以テ、明カニ區別シ、是ハ智

慧ノ働、是ハ何レノ働キトシテ逐一ニ之ヲ分解スルハ為シ難キコトナリ、元來別々ノ物ノ別々ニ其働ヲ現ハストハ同様ニ論スベキ者ニハ非ルナリト、伯羅温、又曰ク心ノ感覺ヒトリト思慮サウトハ共ニ心中ニ成立スル者ニシテ唯其状態トノ異ナルノミナリト、伯羅温、感覺ト思慮トノ状態、即チ其感情アツヘクヲ分チテ二ト為ス、一ハ外面ニ事物ノ現在スルヨリ起リ、二ハ事物ニ付テ發シタル我心ノ情感ヨリ起ル者トセリ、伯羅温ノ言ニ曰ク、一ハ外面ノ事物ノ内ニ我心ノ情感ヲ置キ、又心ノ内ニ、心ヨリ生シタル易感サセセシヲ置キ、以テ実物ト心トノ法則ヲ求ムル者ナリ、二ハ造物者ノ造作ヲ受ケ、他物トノ關係ニ於テ或ル連續ヲ生スル所ノ、心自ラ易感ノ中ヨリノ成功ヲ求ムル者ナリ、第一種ノ感ハ外物ノ己ガ前ニ現出スル時ニ發シ、第二種ノ感ハ、心ノ状態ニ變化ヲ生スル時ニ發スル者ナリト、故ニ伯羅温ハ心ノ現象ヲ分チ、外部ノ感エキステルナル内部ノ感インテルナルト為ス、其感ノ字ヲ用フルハ唯状態ノ変ズルヲ示ス為メノミナリ、伯羅温又内部ノ感ヲ分ツテ智慧ノ状態イテレルクチュト情動エモーショント二種ト為ス……

## 人心ノ能幹ノ第一種

### 智慧ノ力インテルクチュアル、ボーリス

○心ノ學ヲ為スノ學士、心ノ能幹ヲ分解シテ或ハ單一ナル者トシ、或ハ組織セル者ト為ス、其分解ノ異ナルニ從ヒ、其智慧ヲ論スルコトモ或ハ単トシ或ハ複トシ、遂ニ二歸スルコト能ハズ、然レドモ諸説ノ間ニ亦合一セルコトアリ、即チ一樣ナル語サムヲ用フルコト是ナリ、此定義ニ於テ尋常ノ語ヲ用ヒザルノ人ハ、自然其辯論ヂスカツニ於テ其語ヲ用フルナリ、其區別ヲ論スレバ、此等ノ語ヲ以テ心ノ能幹ノ根元ト區別トヲ頭スコトニテ、一ハ此等ノ語ハ更ニ簡易單一ナル他ノ能幹ノ働キ及ヒ更改ヲ頭スコト能ハザルトノ差異ニ過ギズ、

○余儕ノ目的ハ、此論題ニ總テ他ノ者ヲ引付クルニ在リ、故ニ余儕ハ斷言シテ心ノ能幹ヲ以テ組織ノ者トセリ、是ニ因リ、今ニ心ノ力、即チ能、及ヒ智慧ノ状態及ヒ活動ヲ以テ本原プライ附屬サブオル造作クリイト三者ト為ス、

### 智慧ノ本原ノ能幹

○智慧ノ本原ノ能ハ、感覺センセー即チ受納ベルセ思考レフレク記憶メモ判斷ジュージ及ヒ按理リイソ是ナリ、

○凡ソ智慧ノ力ヲ以テ外面ノ物ニ向クルトキハ是ヲ感覺ト云ヒ、自己ノ心ノ上ニ用フルトキハ是ヲ思考トイフ、此二者ハ本ヨリ同シ力ナリ、又一様ナル智ノ働キヲ以テ、是ヲ題目ブロポジノ上ニ用フルトキハ判斷ト名ケ、判斷ヲ為スタメニ適當ニ整理スルヲ按理ト名ク、故ニ此ノ如ク論スルト

キハ智慧ノ力ノ第一ノ種類ハ感覺即チ受納、記憶、判断ノ四者ト為スベシ、然レドモ少年生徒ノ為メニ、以上ノ諸能ヲ格別ニ説クトキハ少シク是ト異ナラザルコトヲ得ズ、

〔甲〕 感覺センセーション即チ受納レセプション

○感覺即チ受納ハ知覺ノセプションノ助ヲ以テ、外間ノ事物ヨリ我力意思アイチアス旨イム即チ感覺ヲ得ル所ノ心ノ力、即チ心ノ能ナリ、

〔物體ノ主義〕感覺ヲ得ルニハ身エキステルナ外ノ物ルオブゼクトト吾身ノ機関オルトノ二者ナルベガラズ、是ヲ心ニ受取ル時ニ至リテハ唯一個ノ自覺ユスアルアルノミナ

リ、機関ニ受取ルトキハ機関ニ受取ルコトナドモ、心ニ受取ルトキニ至リテハ只自覺ノ一個ナルナリ、然レドモ事物ヲ受取ル心トイフ者ハ夫ヲ

受取ル物質物質トハ決シテ同様ノ物ニ非ズ、○古代ノ学士外物ヲ想像スルニ思想アイヲ用ヒタリ、其説ニ謂ヘラク、凡ソ天下ノ万物ハ皆吾等ノ

四面ニ於テ縦横ニ散乱シ、空气中ニ浮動シ、吾等ノ機関ヲ通過シテ心中ニ入ル者ナリト、機関ニテ事物ヲ受取ラズシテ、事物ノ方ヨリ機関ニ入り込みナリ、近年ニ至リ、此理論大ニ世ニ廢棄セラ

レ、受納ニハ唯物オブゼクト機関オル心マイノ三者アルノミトセリ、此三者相合シテ所謂感覺即チ意旨イムトナルトイフコト略クノ時ヨリ起リシコトナリ、

○知覺ハ其數五アリ、曰ク嗅スマル曰ク味アヂ曰ク聴ヒカリ曰ク視サイ曰ク觸スグ是ナリ、

〔智覺ノセプションヲ以テ感覺及ヒ受納ヲ得ルコト〕知覺ノ力ニ由リテ外物ヨリ知識ヲ得ルノ仕事ハ通常之ヲ二級二分ツ、一ヲ感覺ト云ヒ、二ヲ受納ト云フ、感覺ハ形体ノ働キニ属シ、受納ハ心ノ働キニ属ス、或ハ受納

ノ語ヲ以テ形ト心トノ双方ニ用フル者アリ、伯羅温ワラウエンハ謂ヘラク、感覺ハ、知覺ノ機関ニ由リテ得タル単一ノ感得イムナリ、受納ハ此感得ト外面ノ衆物トノ間ニ成リタル一致アワツクニシテ、外物トイフ物ハ受納ノ力ニ由リテ其物ノ果シテ有リトイフコトヲ確然タラシムル者ナリト、此知識ヲ得ル所ノ知覺ハ吾儕、其數合セテ五アリトセリ、曰ク視曰ク味曰ク嗅曰ク觸、是ナリ、伯羅温ハ是ニ筋力マキユヲ加ヘテ六官ト為ス、亜伯哥倫比モ亦此説ヲ是トセリ、曰ク、吾等ガ堅固ソリチトイヘルコトヲ知ラント欲セバ、筋ノ働キニ由リ其抵抗ヲ驗シテ之ヲ知ルベシ、獨リ觸ノ官ノミニテハ物ノ堅固ヲ知ルコト能ハザルナリト、

○第一 嗅ハ外物ヨリ生スル香ト大氣ト混和シタル者ヲ、我身ノ嗅官ニテ之ヲ受取り、嗅神經オルフクハクトリヲ經過ニシテ我能ニ達スル者ナリ、其香氣ニ芳香、惡臭、刺衝ノ諸類アルニ由リテ、我身ノ感覺ニモ快意不快、不快ヲ混合スル等ノ諸種ヲ生ス、然レドモ外物ト我身ノ感覺トハ相似類セル者ニ非ズ、即チ其薔薇ノ香ト其香ヲ起ス感覺トハ全ク別種ノ者ニシテ感覺ナル者ハ唯我心ノ状態ヲ言フニ過ギズ、故ニ此事ニ付テハ他ノ諸官ト同ク、物、機関、及ヒ感觸ヒカリ或ハ感覺センセーション或ハ理會リウイノ三者アルコトナリ、

○第二 味ハ、口、脣、齶、舌等ノ以テ物ノアル性ヲ受取ル所ノ知覺ニシテ、此知覺ヲ名ケテ味ノ機関ト云フ、此機関ヲ以テ受取ル所ノ性ヲ味ノ體ト名ク、

第三 聴ハ音ノ助ニ因リテ生シタル感得ヲ、聴機関ニ引受ケ夫ヨリ腦ニ達スル所ノ知覺ヲ云フ、音トハ弾力アル物ノ衝動ニ由リテ大氣ニ震揺ヲ起ス者ニシテ、聴機関トハ耳ヲ指シテ言フナリ、例ヘバ鼓弓ノ如キモ、其音ヲ發スルハ、弦ヲ打ツノ抵觸ヨリ起ル者ノ如ク見ユレドモ、其器械ニ震揺ヲ起サレハ決シテ此ノ如キ音ヲ發スルコト能ハズ、蓋シ此器ハ其震揺ヲ發セシムベク作りタル者ナリ、而シ又器械ト吾耳トノ間ニ弾力ノ震揺ナキ時ハ十分ニ其音声ヲ以テ組織周密ナル我耳ニ送り、聴神經ヲ通シテ我腦ヲ達スルコト能ハザルヘシ、若シ能ク之ヲ為シ得ルトキハ即チ聴ノ感覺トナルナリ、然レドモ何ノ理ヲ以テ我身ニ此感覺ヲ得ルカノコトハ、遂ニ之ヲ知ルコト能ハズシテ、此事ハ他ノ諸知覺モ皆同ジ、是レ人身ヲ以テ上帝ノ造作スル所トナス所以ナリ、

○聴ノ知覺ニ又言語ニヲ附属スベシ、言語ニ自然ト巧術ノニツアリ、自然ノ言語ハ、是ヲ以テ思想ト感覺トノ間ニ通信ヲ指示スル者ナリ、巧術ノ言語ハ、詩賦様ニ是言語ヲ飾リ流暢爽快ニ言フ者ニシテ、伯羅溫ノ如キハ此術ニ由リテ、声音ノ分解者又又巧妙ナル音ノ發聲者レ、

○第四 視トハ光アル物ヨリ出タル反射ノ光線ヨリ、吾眼ノ網膜形像ヲ現出スルノ知覺ナリ、此知覺ハ殊ニ品等、美麗ノ思想ヲ起ス者ナリ、

〔眼〕 人類ノ眼ハ其状球形ニシテ、數層ノ膜アリ、最外面ノ膜ハ至テ堅キヲ以テ之ヲ「スケレロチカ」ト名ク、此膜ニ數條ノ筋脈附着シテ之

ヲ以テ眼球ヲ動かスノ用ヲ為ス、此膜ノ前面ニ欠処アリテ其処ニ透明ナル角状ノ物アリテ之ヲ填ム、之ヲ「コルネア」ト云フ、此膜ノ背後ニ空處アリテ、清淨ナル水液其内ニ充ツ、是ヲ「アケリユス、ヒューモル」ト云フ、此液ノ後ニ黒色ノ瞳子スアリ、瞳子ノ中央ニ円形ノ小孔アリ、是ヲ瞳孔トト云フ、其次ニ水晶ノ如キ中凸ノ鏡ノ如キ物アリテ其中央ニ透明ノ液アリ、此鏡ノ如キ物ニ視神經纏絡シテ眼ノ後ニ在ル網膜ニ連ナリ、夫ヨリ其感得ヲ腦ニ送り、心ニ感通スルコトニテ其通路ハ吾儕モ之ヲ知ルコト能ハザルナリ、

〔視〕 我等、遠方ノ処ニ於テ物ヲ見ル、例ヘバ河ニ對セル岡ノ上ニ塔ノアルヲ見ル、此塔ハ他ノ光輝アル物（光輝アル物トハ、其物ノ受取リタル光ヲ反射スルノ物ヲ言フ）ト同様ニ、吾眼ニ其光線ヲ返照スルナリ、然ルニ光線トイフ者ハ凡ソ我ガ視界中ニアル諸物（木石橋河ノ類ノ如キ）ヨリ同様ニ發シテ一緒ニ我眼中ニ集合スル者ナルニ、何ヲ以テ木石橋河ト塔ト區別シタル感覺ヲ得ルヤ、夫レ眼ハ光線ヲ屈折スルノ力アル者ナリ、故ニ諸物ノ光線ヲ始メテ眼ノ前ニ來ルトキハ悉ク混合シテ來レドモ、己ニ眼ニ入ル時ハ光線皆屈折スルヲ以テ、其來ル所ノ物ニ応シテ別々ノ影像ヲ作レリ、此影像ヲ作ルノ場所ハ眼中ニ於テ視神經ノ纏絡セル部分ナリ、此神經直ニ腦ニ通シテ視ノ知覺ヲ得ルナリ、

視ニ由リテ得タル所ノ物ノ形象ハ其実體ニ非ズシテ、其物ヨリ發セル

光ナリ、故ニ吾ガ眼ト物トノ間ニ光ヲ変化サスル他物ヲ挿ムトキハ、其物形ヲ変ズル者ナリ、例ヘバ紙ハ白キ物ナリ、然レドモ吾眼ト紙トノ間ニ種々ノ色アル玻璃ヲ置テ之ヲ見ルトキハ、其紙ノ色ハ玻璃ノ色ニ随ヒテ変化ス、又凸凹或ハ凹圓ナル透鏡ヲ隔テ、物ヲ見ルトキハ、同シ一物ニテモ、或大キク見エ、或ハ小サク見ユルハ、唯其光線ノ衆散ニ由リテ然ル者ナリ、故ニ見ル所ノ物ハオホセ一物ナレドモ、其中間ニ入ル物ノ模様ニ由リテ、吾眼ニハ別々ノ受納ベルセフヲ為ス者ナリ（伯羅温）

第五 觸ハ物体ノ模様ヲ受取ル所ノ感ニシテ、是ヲ以テ物ノ熱ト寒ト、硬ト軟ト、粗糙ト平滑ト、固定ト活動ト、大サエキステト不透トノ類ヲ知ルコトヲ得ル者ナリ、

〔觸ニ付テ伯羅温ノ説〕 伯羅温ハ通常觸ノ感中ニ在ル諸状態ヲ以テ全ク別種ノ感トシ、之ヲ抵抗グレンスト名ク、硬ト軟トノ如キハ是ヲ以テ抵抗ノ大ト小ト為シ、粗糙ト平滑トノ如キ是ヲ以テ抵抗ノ不規則ト齊一ト名ケ、流動ト粘着トノ如キハ之ヲ抵抗ニ順従スル者ト名ケ、固定ディントノ如キハ之ヲ抵抗ヲ拒絶スル者ト名ク、其他ノ状態ハ伯氏ハ皆以テ大サノ変態ト為ス、即チ形フヒキハ大サノ境界アル者ニシテ、容アウニチハ大サヲ包含スル者ナリト、云ヘリ、故ニ伯氏ハ物体ヲ以テ抵抗ト大サトノ二ツニ分ケ（活動ヲ除キ）一ヲ觸ノ感ニ属シ、一ヲ抵抗ノ感ニ属セリ、吾儕ハ此両感ヲ以テ合セテ觸ノ感ト為シ、手ハ最モ觸ノ感ノ顕敏ナル者ナレバ、是

ヲ以テ此感ニ属セル機関トセリ、

○脳ト心。 知覚ノ機関ノ最大ナル者ハ脳ナリ、凡ソ直接ノ物イムメチエトオフセクト即チ外ヨリ来ル知覚ノ源、例ヘバ視ルコトニ於テ光ノ分子、嗅グコトニ於テ香ノ分子ノ如キ者、神經ノ中人ヲ以テ之ヲ脳ニ送り、直チニ知覚ノ機関、即チ物質ニ達スルナリ、其成功ハ知覚センセノ想像イムノ印記イムトナルナリ、然レドモ其結合ノ法ト如何シテ此ノ如キ感ヲ発スルノ理ハ微妙ニシテ窺ヒ知ルコト能ハズ、此ノ如キ者吾儕人類ノ体格ト云フ、

〔受納ノ理論〕 黎德ハ想像イム即チ思想イムノ理論ヲ主張シ、想像ヲ以テ思想サウノ標的物オフゼト為セリ、斯的瓦多亦其師ノ説ニ同意セリ、巴格黎バルクレイヒュームトイフ者ハ心ノ受納ヨリ得タル物オフゼニシテ、外間ノ物体ト夫ヲ受納スル心トハ自ラ別ノ者ナリト、休母及ヒ巴格黎ノ疑問ハ全ク此説ノ上ニ在リ、

ウイレムハミルトン  
維廉哈美爾敦曰ク、理学ハ簡易二人ノ自覚ヲ導キ、合一ト真理トヲ得シムルヲ貴ブ、吾儕、知覚ヲ以テ物ヲ受納スル時ニ当リ、唯二個ノ物アルヲ覺フ、其一ハ吾身ニシテ物ヲ受取ルベキ者ナリ、其一ハ身外ノ事エキステルナニシテ、吾等ノ知覚ニ感スル者、即チ受取ルベキ物ナリ、此二物ヲ知ルニハ他物ノ援助ヲ假ルコトナクシテ直チニ其物ノ現存スルコトヲ自覚スベケレバ其事實ニ在ルコトハ甚確然ナルコトナリ、併シ此二物ヲ各別ニ認識スルハ甚難キコトナリ、其故ニ此二物ハ一様ニシ

テ分界スベカラザル勢力ノ上ニ同時ニ発スル者ニシテ、一個ハ他ニ先  
ダチ、一個ハ他ニ後ル、ト云フコトモナシ、兩者相合シテ其姿ヲ現ハ  
ス者ニテ、一個離立シテ現出スル者ニ非ザレバナリ、

〔乙〕思考即チ反射

○思考ハ人智ノ幹能ノ一ニシテ、自覚ノ中接ニ由リテ、心ノ想像ヲ  
吾身ニ受取ル所ノ力ナリ、

〔自覚〕 黎徳及ヒ其他ノ諸人ハ自覚ヲ以テ特別ノ力ニシテ、自覚トイ  
フ者ヲ造成スルニ非ズシテ、自覚ノ物ナル感覺ヲ造ル所ノ者ナリト  
セリ、伯羅温ハ其説ニ反シ謂ヘラク感覺ハ自覚ノ物ニ非ズ、然レ  
ドモ特別ノ感覺ハ頃刻ノ自覚ナリ、特別ノ悲哀、恐怖、願望、憤、怨  
及ヒ簡單ナル記憶等ハ其次ノ頃刻間ノ自覚ナリト、

○〔言辭ノ區別〕 學者ハ能ク精密ニ言辭ヲ述ベント欲セバ宜ク左ノ數語  
ノ區別ヲ知ラサルベカラズ、

〔良心ノ自覚〕 自覚ハ我心ノ内ニ在ル隱密ノ自得ナリ、良心ハ我等  
ノ己ニ自覚シタル物事ヲ判断スルノ力ナリ、

〔受納ノ感覺〕 此ニ二語ハ共ニ他ノ意味アル者ナシトモ、是ヲ人智ノ  
幹能ヲ言フコトニ用フル時ハ其意味ノ異ナルコト左ノ如シ、感覺ハ五官  
ノ中接ヲ以テ外物ノ想像ヲ受取ル所ノ心ノ働ナリ、受納ハ五官ノ中接ヲ  
以テ外物ヲ受取ルト同時ニ自覚ノ中接ヲ以テ之ヲ心ノ自分ノ上ニ受取ル  
所ノ心ノ働キナリ、吾ハ山岳ヲ受取ル、吾ハ真理ヲ受取ルトイフモ共ニ

適當ノ語法ナリ、

○感覺ノ語ハ又理学ニテ稱スル所ノ幹能ニ用フルノ外ニ更ニ五官ノ機關  
ノ中接ニ由リテ外物ヨリ生ジタル感覺即チ印記ヲ示ス為メニ用  
フルコトアリ、

〔想像ノ印記〕 此ニ二語モ其他ノ語ト同シク比体ニ用ヒタル者ナリ、想  
像ノ語ノ原來ハ唯視ノ機關ニ由リテ得タル受納ノミヲ指シ、印記ノ語ハ  
蠟ノ面ニ印ヲ捺スコトヨリ假リ来リタルナリ、今心學ニ於テ用フル所ハ、  
想像ト印記トハ精密ニ區別ヲ立テ、想像ハ五官ノ中接ヲ以テ外物ヨリ得  
タル所ノ者ヲ指シ、印記ハ自覚ノ中接ヲ以テ心ニ得ル所ノ者ヲ指スナリ、  
〔思考即チ反射〕 人智ノ内ニハ思考ト名クベキ幹能即チ力ナシ、思考ト  
ハ人智ノ力ノ集合セル働ニシテ、深ク想ヒ静カニ勘辨シタルコト  
ノ結果ナリ、

〔知識ノ根源〕 此事ニ就テハ心理学ノ諸家ノ説各異ニシテ一様ニ歸ス  
ルコト能ハズ、或人ハ謂ヘラク知識ノ原ハ全ク五官ニ由リテ得タル  
受納ヨリ来ルト、或人ハ謂ヘラク知識ノ半分ハ自覚ヨリ来リ、半  
分ハ思考ヨリ来ルト、或人ハ又此二者ニ加フルニ一ノ固有ノ意想  
ヲ以テシ是ヲ以テ吾ノ心ト受取リタル外物トノ外ニ在ル者ト為ス、此  
説ハ衆人皆之ヲ賤棄セリ、○凡ソ外物ヨリ得タル印記トイフ者ハ其物  
ノ来ル時ノミニ心ノ内ニ起ル所ノ働ナリ、故ニ印記ハ自覚ト思考トノ  
發現物トナリ、此印記ノ力猶大ニ働ク時ハ更ニ人智ノ意見ヲ興起スル

者ナリ、○是等ノ説ニ據ルトキハ吾等ノ知識ノ原ハ、理学ノ見込ヲ以テ言フ時ハ受納ト思考トノ二ツニ歸スルナリ、

固有ノ意想インテクトト心ノ未タ体ト合セザル以前ニアル所ノ意想ニシテ、本来心ノ内ニ固有シ、目今ノ形体ヲ成ザル以前ノ知識ノ殘物ナリト定メタル者ニシテ、古代布刺多フラトノ學派ニテ此説ヲ信用セリ、其據ル所ハ聖經ニ固有ノ罪惡オリジナト云フ者アルヲ以テ大ニ相結合スル者ナリト謂ヘリ、併シ固有ノ意想ヲ主張スルハ古代ノ誤謬ナリトシテ今日ハ復之ヲ信スル者ナシ、

### 〔丙〕記憶メモリー

○記憶ハ感覺センセート感觸フヒ意思アイヲシテ其初メ是ヲ引起シタル原因ヲ離シタル後保持シ再起シ関涉セシムル所ノ心ノ力即チ能ナリ、

○故ニ記憶ハ本来ノ智慧ノ力ナリ、其要領ニシテ大切ナルコトハ感覺及ヒ思考ニ異ナラズ、其故ハ感覺ト思考トハ觀察オササルベ發明チスカ整理アラシヲ為スニ働キヲ為スノ力ニシテ、記憶ハ其事ヲ堅固スタビ永續ベルマ自得ホニススルマデノ手續セメントキヲ為ス者ナレバナリ、故ニ記憶ハ真理ツルノ家屋ヲ建築スルノ練石セメント灰ナリ、

○〔記憶ノ法則〕 記憶ノ働キヲ現ハスニ自ラ一種ノ原理アリ其原理ヲ論ズル者許多アレドモ其重ナル者ニナリ、

○其一ハ或ハ物事ノ受納ニ由リテ引起シタル感觸ノ活氣カヒスハ自ラ記憶ヲシテ久シク回想ロンダレシレバ容易ニ再起セシムロヂユースド○第二ハ意想ヲ數再

起スルトキハ、是ニ由リテ、注意アツクレノ扶助ヲ以テ記憶ヲ固定セシム、

○〔記憶ノ状態〕 記憶ニハカヲ用ヒテ為ス者ボリユントカヲ用ヒズシテ為ス者ノ二様アリ、カヲ用ヒテ為ス者ハ強キ努力ヲ以テ、過ギ去リタル經驗ノ上ニ心ヲ存留シ、是ヲ以テ既往ノ事ヲ呼返ス者ニシテ是ヲ名ケテ回想レコレト云フ、カヲ用ヒズシテ為ス者ハ是ヲ再起スルニ故ラ二意向ボリシヲ用ヒズシテ得ル所ノ思想或ハ感觸ニシテ、之ヲ名ケテ記住レムト云フ、○〔記憶ノ易納ト云フコトサセツ〕 是ヲ以テ意想ヲ心ノ中ニ貯蓄スル所容易セト敏捷リチト言フ、

○〔便利フシ〕ト云フ語ハ是ヲ記憶ノコトニ用フルトキハ此力ヲ心ノ内ニ呼ビ込ミ、以前ニ得タル所ノ意想ヲ固定スル所ノ快捷デュードヲ言フ、

○〔保持レナチ〕ハ心ノ前ニ再生シタル意想を保守シテ、己ガ望ム処ノ後繼エツトノ生スルヲ待ツ所ノ力ナリ、

○〔記憶ノ習慣ハビ〕 習慣ト云フ語ハ元來同ジ事ヲ數々繰返スニ由リテ生ズル所ノ行為ノ便利フハシナリ、若シ此語ヲ記憶ノ一編ニ用フル時ハ、記憶ノ力ヲ整齐審固ニ用フルニ由リテ生スル処ノ敏捷リチヲ指スナリ、

〔造構セル記憶ノ秩序〕 記憶ノ力ニハ原來種々ノ類アリテ、其注意ト使用トニ依リテ其力ヲ強クシ又之ヲ改善スルコトヲ得ル者ナリ、己レノ注意使用ト之ニ相接スル所ノ事物トノ結合ニ由リテ所謂造構セル記憶アトセシヤヲ作り出ス者ナリ、其種類ハ大要左ノ如シ、○第一理學狀ノ記

憶ヒロコフ 是ハ我が注意スル所ノ事物、或ハ事理ツリトニ由リ

テ以前ニ知リタル所ノ事物ト相交ハリ、其事ハ我注意スル所ノ事ト相  
關係シ、又我鮮明スベキ論題ナルトキニ於テ生スル所ノ記憶ナリ、○  
第二ハ一處ロカ即チ偶然上ノ會合インシデンタル、ア  
ンソシエーションニシテ、是ハ吾等ノ事物、即  
チ印記ト、我等ノ交ハリタル人、又ハ我等出合タル土地ト會合スル時  
ハ、吾心ニ回想ヲ生スルナリ、但シ是ハ其人ト土地トヲ或ハ目ニ賭  
或ハ記録シタル者ヲ讀ミ、或ハ其事ヲ考フル時ニ生スル記憶ナリ、

○第三ハ隨意即チ想像ノ會合アルビトラリイ、オア、フビク  
チシヨス、アソシエーション 是ハ好シテ為ス所ノ心  
ノ努力ニシテ、己ガ努力ヨリ起ル所ノ者ノ外ニハ別ニ交ハル所ノ事物  
ト云フ者ナシ、此會合ハ吾等記セルコトヲ願フ所ノ事物ト忘失ノ危難  
ナキ所ノ事物ノ間ニ結合スル所ノ記憶ナリ、例ヘバ堂宇ノ中ニ在ル装  
飾ノ如キ類ニテ、堂宇ハ固ヨリ忘失ノ患ナキ物ニシテ其内ノ裝飾ノ記  
住センコトヲ望ム所ノ物ナリ、理学士希那古尔殊ヒーナゲルニ此事ヲ論ジ、其記  
憶ヲ欲スルハ、時日ト文字ノ畧文トニ在リトイフ、即チ英国ノ頤利一  
千三百六十六年、生ル、トイフコトヲ記スルハ時日ナリ、muffノ文字  
ヲ代用スルコトヲ記スルハ畧文ナリ（亜伯哥倫比）

○「記憶ノ事物グシト件事イブトノ管係スルコト」事物ニ管シテハ、思想ハ往  
事ヲ尋求スルコトナク、又時ノ新古等ニ關係スルコトナシ、件事ニ付テ  
ハ時ノ前後新古ノ意想ハ全ク記憶ト相伴フ者ナリ、

#### 「丁」判断ジュヂ メント

○判断ハ事物ト事物トノ管係ニ付テ働ク所ノ能ナリ、他語ヲ以テ言フ時

ハ判断ハ有形無形ヲ論ゼズ、感覺ト思考トヲ論ゼズ都テ事物ト事物ト相  
比較シテ其相互ノ關係ヲ定ムル所ノ力ナリ、判断ヲ以テ能ク之ヲ言語ヲ  
発スル時ハ陳說シフ、ロボシ  
ンフ、エレンチアルト為ル（陳說ノ語ノ條下ヲ見ルベシ）

○判断トイヘル幹能ハ人類ニ限りテ所有セル者ナリ、禽獸ノ如キ、感覺  
アリ、又幾分力ノ記憶アレドモ、自然ノ法則ニ於テ判断ノ能ヲ有スルコ  
ト能ハザルナリ、

○「民間常用ノ判断ノ語」 民間ニテ常ニ言フ所ノ判断ノ語ハ、裁智アリ、ユエ、ス  
サカシ、インテリ等ノ語ト一様ニ之ヲ用フルナリ、故ニ民間ノ語ニテハ、  
判断ヲ以テ心ノ單一ニシテ本原ノ幹能ナリトセズシテ、是ヲ以テ総テ心  
ノ力ノ適當ノ成果ヲサシテ之ヲ言ヘリ、

○判断ジュヂナル語ハ又明言シタル心ノ決定ノ意ニ之ヲ用フ、即チ他事ニ  
由リテ確定シ又拒抗サル処ノ物事ニ之ヲ用フ、此意ハ原来司法ノ審院コ  
ル、ゾ、オ  
フ、ジャ  
スチス  
言スルノ義ヨリ取レル者ナリ、

○「判断ノ特性」カラク、アリス、チツク、  
オフ、ジャチメント 單一ナル判断ハ物事ノ比較ノ直チノ成果  
ナリ、物事ノ比較ニ由リテ其相互ノ管係ヲ定メタル者ナリ、

○「敏慧ノ判断ジュチメント、  
イントイチ」ハ物事ノ比較スルニ精密ナル仕業ヲ用ヒズ唯一  
瞥見ニ於テ其管係ヲ定ムルコトヲ得ルナリ、

○「定見ノ判断ジュチメント、  
メン、フ、エレンチアル」 前ニ經過シタル證據ヲ根基トシテ夫ヨリ成果  
ヲ得ル所ノ判断ナリ、

「状態<sup>カテゴ</sup>、本質<sup>アプレチ</sup>」判断ノ外面ニ表白シタルハ陳說<sup>プロボガ</sup>ナリ、亞立斯度德ト波爾希利トノ說ニ從ヒ、此陳說ヲ分チテ状態ト定質トノ二様トス、「カテゴリー」ハ希臘語ニテ「ブレチカブル」ハ羅馬語ナリ、原來ハ二語共ニ同シ意味ニシテ、方今用フル処ハ、俱ハ陳說セル物事ノ種類ヲ推シ廣メテ陳說ノ數ヲ許多ニ分チタル者ナリ、此ノ如ク種類ヲ分ツコトハ高等ナル講義ニ於テ、其事物ヲ堅定スル為メニ適當ナル者トセリ、○状態ハ亞立斯度ノ說ニ從ヒ之ヲ十個ニ分ツ、曰ク○質<sup>カプス</sup>曰ク分量<sup>クオン</sup>曰ク状態<sup>クオン</sup>曰ク管係<sup>リチイ</sup>曰ク進動<sup>アクシ</sup>曰ク受動<sup>パシ</sup>曰ク時<sup>タイ</sup>曰ク地位<sup>ホシ</sup>曰ク所有<sup>ホセツ</sup>是ナリ、彌爾氏謂ヘラク此區別ハ民間常用ノ粗陋ナル言語ヨリ之ヲ定メタル者ニシテ、理学ノ法ニ由リテ之ヲ分析スルトキハ全ク道理ノ部分ニ透入スルコト能ハザル者ナリト、定質ハ波爾希利ノ說ニ從フトキハ是ヲ五種ニ分ツベシ、曰ク類<sup>セニ</sup>曰ク種<sup>スベシ</sup>曰ク差異<sup>チフェ</sup>曰ク固有<sup>プロバ</sup>曰ク偶然<sup>アツ</sup>是ナリ、彌爾氏曰ク、此五個ノ定質ハ、之ヲ講說スルニ是ヲ以テ主意ト為シテ之ヲ說クニ非ズ、唯講說ヲ為スノ時ニ於テ其論題トナル者自ラ此五個ノ定質ニ關係ヲ為ス者ナリト、

〔戊〕按理ニシテ 又照理

○按理ハ判断ノ結果ヲ比較シ、及ヒ決斷ヲ為シ、眞理ヲ辨シ、此ノコトヲ為シ續ル所ノ智力、即チ力ノ結合ナリ、故ニ按理ハ判断ト異ニシテ、判断ノ一連系ヲ前察預定<sup>フレサツ</sup>スル者ニシテ、判断ハ又單一ナル物品及ヒ

思想ノ如キ、此智力ノ因テ働キヲ為ス処ノ物料ヲ前察預定スル者ナリ、故ニ判断按理ハ俱ハ單一ナル心ノ幹能ニハ非ザルナリ、

○按理ハ其根原ノ異ナルニ從ヒテ眞實ト虚偽トノ二ツヲ分タザルベカラズ、又多分<sup>プロバブル</sup>ノ證據ト確実ナル證據トノ上ニ立タザルベカラズ、又其決定ヲ為スニ了覺ト妄想トノ二者アルニ由リ、其決定信據ニモ從テ差異ヲ生セザルコト能ハズ、

○道理按理<sup>リイ</sup>常用ノ語法ニテハ、道理ハ眞實ヲ虚偽ヨリ別チ、正ヲ邪ヨリ別チ、是ヲ以テ己カ見込<sup>ド</sup>ヲ成就スル為メニ手立<sup>ミ</sup>ニ之ヲ用フ、時トシテハ又此語ヲ以テ證據<sup>アル</sup>及ヒ主意<sup>アル</sup>ノ意ニ之ヲ用フルコトアリ、此證據主意ヲ得ルハ、即チ按理ト名クル心ノ能力ノ働キニ由ル者ニシテ、此按理ハ、其上ニモ益廣ク道理ヲ穿索スベキ所ノ器械ナリ、理学ノ語法ニテ精密ニ之ヲ言フトキハ、道理ハ眞實ヲ虚偽ヨリ別ツ所ノ心智ノ力ナリ、恰モ良心<sup>コンセ</sup>即チ道德ノ能力<sup>ハコル</sup>ノ正<sup>ライ</sup>ヲ邪<sup>ロン</sup>ヨリ別ツガ如シ、而シテ道理ハ又ハ目的<sup>ド</sup>ヲ成就スル為メノ方法<sup>ミ</sup>ト為ルナリ、按理ノ如キ道理ニ據リテ其決定<sup>コンクリ</sup>ヲ得ル者ナリ、

○道理及ヒ天性<sup>インス</sup>天性ハ自然ノ衝力<sup>イス</sup>ナリ、道理ハ考思<sup>テラ</sup>ノ成果ナリ、詩ニ曰ク、汝ハ道理ヲ以テ天性ノ上ニ置クコトヲ為ス、天性ハ上帝ノ指示ナリ、道理ハ人類ノ指示ナリト、

○通常ノ言語ニ於テハ、道理<sup>リイ</sup>判断<sup>シ</sup>理會<sup>アンデル</sup>ノ三語ノ意味ハ甚僅少ノ差違アルノミナリ、即チ睨トシタル道理、睨トシタル判断、睨トシタ

ル理會トイフガ如シ、

○「道理ト睿智ト」道理ト睿智トノ差異ハ左ノ如シ、睿智ハ始メヨリ正シキ目的ノ上ニ定マリタル者ニテ殊別ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ得ルナリ、道理ハ是ニ異ニシテ、其得ントスルモ望ム処ト望ニ反スルトノ二者アリテ此兩者ヲ比較シテ其得ル所ヲ定ムル者ナリ、

○「駱克ノ四歩」 按理ノ心智ヲ働カシテ、其望ム所ノ目的ヲ得ルニ至ルノ順序ハ、駱克之ヲ四歩ニ分ツ、第一歩ハ「憑據」ヲ見出スコトニテ、是ニテ先ツ真理ヲ光明処ニ持チ出スナリ、第二歩ハ「慥」ニナリタル憑據ヲ整理「アランジ」メントスルコトニテ、是ヲ按理ノ力ト憑據トノ結合ヲ合点スルナリ、第三歩ハ種々ノ針路ニ向ケテ此結合ヲ理會スルコト、第四ハ正當ナル決定「コンクリユ」ヲ除シ留ムル「デンタク」コト、是第四歩ノ「真正」ノ按理ト稱スベキ者ナリ、

○「大教長裴多利ノ説」按理ハ引決ヲ取ル「インシエ」ト憑據ヲ求ムル「フルト」ノ二者ヲ兼タル者ナリ、此二ツハ別々ノ事柄ニ非ズ、唯一物上ニ顯ハシタル二個ノ目的ナリ、彼ハ、引決ヲ取り憑據ヲ求ム、又曰ク彼ハ憑據ヲ求メ引決ヲ取ル、此ノ如ク言フトキハ、引決ヲ取ルトイフ語ハ、先ツ心ヲ預定「ブレマ」ノ上ニ置キ、次ニ決定「コンクリユ」ノ上ニ帰着スルコトヲ言ヒ、憑據ヲ求ムルトハ、是ニ反シテ心ヲ導キテ決定ヨリ預定ニ至ルコトヲ言フナリ、故ニ憑據ヲ求ムルハ、今マ出シタル題目ヲ保持スル為メニ道理ヲ其事ニ配當スルコトナリ、引決ヲ取ルハ、先キニ出シタル預定ヨリ、決定ヲ引キ

取ルナリ、引決ヲ求ルトイフハ理學者ノ言ナリ、憑據ヲ求ムルトイフハ代言者ノ言ナリ（裴多利ノロジック）

○「分解法ノ按理」按理ノ法、聚合「コムラ」ヨリ進ンテ漸々不聚合「レックス」ニ趣クトキハ是ヲ名付テ分解シテ道理ヲ附クルト云フ、學士伯羅溫左ノ一例ヲ挙テ分解ノ按理ヲ示セリ、曰ク人ハ「謬ル」ヘキ者ナリ「フハル」故二人ハ自己ニハ過誤ニ非ズト思フコトニテモ、屢其真ヲ誤ルコトアリ、人ハ自己ニハ明白ナリト思フトモ其為ス処ハ悉ク誤リナシト言フコト能ハズ、故二人ハ己ニ異ナル者ヲ惡ンテ之ヲ責ムベカラズ、己ニ異ナリトモ、彼却テ正理ニ協フコトアリ、然ラハ則チ己ノ意ヲ以テ殘酷ノ刑法ヲ立テ人ヲ罰スルハ最モ道理ニ違フコトナルヲ知ルベシ、此文ハ即チ分解ノ按理法ナリ、文中ノ論題「アレチ」ハ皆後ニ出セル陳說「フロボ」ノ主意「サフセ」ト為リ、終リニ出セルコトハ、皆前文中ニ其義ヲ含蓄シ居リ、中間ニ在ル語ノ如キモ亦同様ナリ、即チ方正ナル文法ヲ以テ言フトキハ人ハ謬ルベキ者ナリ、謬ルベキ所ノ人ハ自己ニハ過誤ニ非スト思フコトニテモ云々、以下皆同様ナリ、

○「二様ノ按理」按理ヲ為ス時ニ當リ、何レヨリ見テモ可ナル所ノコトヲ以テ、此事ト彼事ト比シテ恰モ同様ナルトキハ是ニ依リテ其道理ヲ決定スルナリ、是法ハ其事ノ理ヲ是ナリトスルトキモ非ナリトスルトキモ共ニ之ヲ用フルナリ、此按理法ヲ名ケテ「一様又符合ノ按理」ト云フ、教長「ブツトレル」其著名ナル著書「アナロジイ」ニ此法ヲ説テ曰ク、

「アナロジイ」ニハ宗教ノ真理ヲ以テ根原ト為サズ、然レドモ駁論ニ答フル為メニハ宗教ノ真理ヲ用フルナリ、其故ハ駁論スル者若シ宗教ノ理ヲ以テ来リ論スルトキニ自然ノ理ヲ以テ答フルトキハ其駁論ニ効ナキヲ以テナリ、

(驛者補) 赫文ノ真理書ニ符合ノ按理ヲ解テ曰ク、牛董、金剛石ヲ見テ、其緻密ノ度ニ比スレバ屈折ノ力殊ニ強キコトヲ知レリ、此ノ如キ現象ハ燃燒スベキ物質ニ多ク有ル所ノ者ナリ、牛董因テ金剛石モ亦燃ユベキ物ナルカト考ヘタリ、又金剛石ト同シ現象ヲ顯ハス者ハ其道理ノ同シキニ由リテ共ニ燃燒ノ性ヲ具フル物ナルヲ考ヘタリ、即チ水ノ如キ是ナリ、牛董此兩物ヲ比較シテ其同様ノ処アルヨリシテ遂ニ確然タル定説ヲ得ルニ至レリ、

○三段論法ノ按理シルロジスチツ 此法ニ於テハ按理ノ證明アルキユト方法ツロセヲ以テ是ヲ二部ニ分ツ、一ハ證據ヲ取ル所ノ者イヌニシテ、一ハ此者ニ由リテ證據ヲ得ル所ノ者ナリ、先ツ按理ノ法ヲ行フトキニ当リ最初ニ為スベキハ疑問クエスチナリ、其事ノ決定已ニ成リ、実験已ニ満足スル時ハ之ヲ決定コンクリユト名ク、三段論法ハ、大マ小コ二個ノ豫定イスマ一個ノ決定コンクリユトヲ以テ成ル所ノ證明法アルキユナリ、初メニ出セル二個ノ陳説プロポジハ共ニ豫定ニシテ、第三次ニ出ル者ハ決定ナリ、故ニ三段論法ハ先ツ真理ト認メタル者(豫定)ニ因リテ、其次ノ者ノ真理ヲ定ムル者(決定)ナリ、又三段論法ハ(唯ロジック)上ノ体ニ就テ言フ)唯發現ノ体ノミニ由リテ

決定ヲ取ル所ノ證明ナリ、三段論法ノ規則及ヒ其教示ニテハ斐多利ノ書ニ詳ナリ、

〔驛者補〕物伯斯的ノ辭書ニ三段論法ノ例ヲ示シテ曰ク、草木ハ他ニ移轉スルノ力ナキ者ナリ(大豫定) 橡樹ハ草木ノ類ナリ(小豫定)、

故ニ橡樹ハ但ニ移轉スルノ力ナシ(決定)、是ナリ、

故ニ三段論法ハ二個ノ豫定ト一個ノ決定トヲ有シタル者ナレトモ、是ヲ異常ノ斷證法アルキユト言フベカラズシテ、ロジック法ノ規則ニ協ヒタル斷證法ト云フベシ、而シテ此法ヲ以テ定メタル主義アリシハ按理法ノ通用ノ主義ナリ、

三段論法ノ按理ハ或ハ希臘人ノ創案シテ亞立度徳之ヲ修整シタル者ナリト云ヒ、或ハ印度人ノ發明ニシテ夫ヨリ歐羅巴ニ入リシ者ナリト云ヒ、其論今ニ至リテ一定セズ、維廉約翰ウイリヤムジョンハ婆羅門ブラミンノ文章ノ中ニ三段論法アルコトヲ見タリト曰フ、又曰ク加利士カルリスの尼、亞歷山徳大王ニ從ツテ印度ニ赴キ、ロジックノ法則ヲ譯シテ之ヲ其教父亞立斯度徳ニ贈レリ、是即チ亞立斯度カロジックヲ説キシ根原ナリト、又一説ニ曰ク、回教ノ徒、ロジックノ法ヲ印度人ニ傳ヘ、婆羅門教ノ徒ハ是ヨリ其法ヲ得タル者ナリト、

(高橋註) ……ここは原書六七頁第一段落であり、翻訳はここで切れている。次は七三頁下部からとなっている。( )

## II 智慧ニ附属セル性能

○智慧ノ附属ニ注意アツク寫想コソセ交通アツク離立アツク概括セテ等ノ諸性能アリ、

### 第一 注意

○注意ハ凡テ其所ニ現出セル事物ノ上ニ心ヲ固定スルノ力ニシテ、其事物ハ感覺ニ属セル事物ト回想ニ属セル事物トヲ別ツコトナシ、

○注意ハ若シ之ヲ以テ全ク身外ノ物ニ施ストキハ、是ヲ名ケテ觀察オウザベト云ヒ、若シ又之ヲ以テ自覺ノ物ニ用フルトキハ、注意ノ名殊ニ之ニ適合スルナリ、

○注意ハ、心ノ働キヲ發出進行セシムルニ甚タ必要ナル者ニシテ、若シ注意ナキトキハ、記憶トイフ者ハ全ク成立スルコトナシ、記憶ト注意トハ本来其性ヲ異ニスル者ナレドモ若シ記憶ノ働ハ（記憶ハ意想ノ活動ト保持トノ内ニ包藏スル者）注意ノ力ノ分量ニ関スル者ニ、已ニ記憶ヲ得タルノ後ニハ注意ノ力強キトキハ、記憶ノ働ヲ發スルモ亦強キ者ナリ、

○激烈ノ力ヲ用ヒタル注意 若シ甚烈シキ力ヲ注意ニ用フル時ハ其人ハ他ノ事物ノ現在セルコトヲ自覺セザルコトアリ、アルキメデス亞奇默德ガ深ク數學ノ理ニ注意力ヲ用ヒタル時、シラクサ叙拉古ノ落城ニモ心付カズ、羅馬ノ兵卒ガ己ノ房室ニ入りシヲモ知ラザリシハ、是故ナリ、

「不適當ニ過度ナル注意」 若シ吾思想一事物ノ上ニ固定シ全ク之ニ留住スル時ハ、其思想甚堅実ト為リ、竟ニハ偏狂トナルコトアリ、例ヘハ兇殺ノ如キ、甚畏惡スベキ思想トイヘドモ、此思想心中ニ満ツルト

キハ、人性ノ天則ニ從ヒテ、此思想ノ益強盛トナルハ避クベカラザル理ナリ、而シテ此兇想ト相結合セル諸思想ハ生得ト偶然トノ差別ナク、兇殺ノ思想ノ發スルトキニハ皆尽ク呼出サル、ナリ、アツク意想交結アイチカズノ天則アルヲ以テ是等ノ諸思想ハ決シテ消滅スルコト能ハザル者ナリ、兇殺ノ思想ノ為メニ吹キ込マレタル恐怖オホ又ハ利益ノ思想ハ、其召喚ノ力ノ強弱ニ應シテ、思想ノ強弱ヲ現ハスナルベシ、

若シ人ノ血液一方ニ流注シテ停畜スルトキハ、之力為メニ其所ニ焮衝ノ病ヲ生ス、人ノ思想モ之ト同シク一方ニ流注シテ、他ニ之ヲ向クルコトナキトキハ、其度ヲ過モラシテ偏狂トナルコトアリ、是ヲ恢復スルノ術ハ血液モ思想モ同様ノコトニシテ、焮衝ヲ去ラントスルニハ、血液ヲシテ他所ニ流通セシメザルベカラズ、心ノ如キモ、更ニ之ヲ他ノ目的ニ向ケ、新ナル意想ト其文

「斯丟亞的性理學 第一綴」解題

「斯丟亞的性理學 第一綴」は、八二七—一三二「斯丟亞的性理學」に単独でまとめられている。内題は、「性理及道學要畧」である。

「斯丟亞的性理學 第一綴」は、David Stuart の著述である *Outlines of Mental and Moral Science; intended for the purposes of general instruction : As well as for the Use of the Higher Classes in Male and Female Academies, and as an Introduction to the Logic, Metaphysics, and Ethics, of Colleges and Universities.* の部分訳である。原書は、一般教養的性格の書物であり、大学における論理学、形而上学、倫理学の入門書である。

本書の初版の発行は一八四六年であるが、西村が依拠したのは、一八五三年出版の第二版以後のものであることが確認出来た。

一例は、西村翻訳の冒頭の次の語句である。  
人ノ心ノ性質ナチュール力ポワワ法則ル働オベシヲ研究スル

これは、原書本文冒頭の文章の一部であるが、初版と第二版では、次のようになっている。

初版 *investigate the nature, powers, operations, and laws of the mind of Man.*

第二版 *investigate the nature, powers, laws, and operations of the mind of Man.*

初版における *Operations* と *Laws* の位置を、第二版では入れ替えているのであり、西村はその第二版の位置にもとづいて訳している。

原書は、著者の序言の後に、内容細目、*mental and moral science* の代表的な著作を紹介し、また、その歴史的素描を置いて、入門書としての配慮を示している。*Mental Science* のもっとも新しい成果として前年刊行されたウィリアム・ハミルトンの *Dissertations on Philosophy and Literature* をあげている。また、歴史的素描においても、最近のもっとも重要な人物としてハミルトンをあげている。

原書の本文は三九頁から始まり、はじめに *General View* を置いて、後を大きく *Mental Science* と *Moral Science* の二つの部分からなる。西村が翻訳した箇所は、本文の三九頁から七四頁までであるが、途中に一部の省略があり、また、終わりの文の途中で切れている。省略部分は、原書六四頁から七三頁にかけてのところである。西村翻訳では連続した形になっているから、原書を参照しない限り、省略があることに気付くことは困難である。

省略部分は、論理的な部分である。西村が翻訳しなかったのであるから、あるいは翻訳不必要と考えた可能性はある。しかし、彼は、別に論理学にかんする翻訳をいくつもしているのであり、この省略部分を内容的に不必要とみなしたかどうかは判断できない。

西村が翻訳した内容は、総論と訳した *General View* と心理学の訳語

を当てる Mental Science の一部である。Mental Science の訳語を

心理学としたり、性理學としたり一定してはいない。また、Moral Science の訳語も、修身學あるいは道學となっていて、やはり一定しない。ただ

し、巻頭の書名として Mental Science を性理學としていることは一応注意しておきたい。

### 道義之學叙言

#### 「道學解義」

第一 道學グエツ ハ之ヲ解シテ人ノ職分ノ學セサイエンス トスベシ

○此學ハ猶修身學モラル、フヒソヒイ 人道學デオントロジイ 等ノ名アリ、「デオントロジイ」ハ本ト希臘ノ語ニシテ職分ノ學ト云ヘル義ナリ、

#### 「方法」

○人ノ性命ト行爲トニ管スル學ハ一ナラズシテ、道學ノ結構ノ其他ノ學ニ異ナル所以ハ道學或ハ専ラ職分ノ主義ヲ説キ或ハ其主義ヲ以テ之ヲ人ノ身ニ行ハシメ更ニ其主義ヲ行ヒ以テ人ノ德行ヲ完成スルノ成果ヲ求ムル者アリ、

○故ニ道學ノ語ハ其解義一様ナラズシテ其解義ニ由リテ其學ノ結構ヲ定メ或ハ之ヲ以テ職分ノ法則ラウ、ヂユナイ ト為ス者アリ、或ハ人ノ職分ノ學サイエンス ト為ス者ナリ、或ハ人ノ德行ノ學エトモ、カクテル ト為ス者アリ、

○道學ノ學タル所以ヲ説ク者ハ其結構ノ異ナルニ由リテ少シク其方法ヲ異ニスト雖モ、其學ノ本質ハ少シモ変ズルコトナク、又之ヲ變ズルコトヲ欲セザルナリ 道學ハ算術又修辭ノ如キ真ノ術アール ト称スル者ニ異ニシテ、適當ノ様式ト修練トヲ以テ時ヲ遂ヒテ各個ノ職分ヲ修行スル者ニ非ズ、又其主義ヲ以テ一々人ノ行為上ニ適用セシムベキ者ニ非ズ、

「道義之學叙言」解題

「道義之學叙言」は、八二七—一三三「道義學叙言 福氏道德學叙言」に「修徳之學」「福氏道德學講義」と合綴されている。これは、原本で一頁の短いものであるが、稿本整理の際に、後につづく「修徳之學」と同一の資料とみなされたのだと思われる。「道義學叙言」という標題は、「道義之學叙言」と「修徳之學」とを一体のものともみなして、与えられたものであろう。

「道義之學叙言」は、Henry Noble Day (一八〇八—一八九〇) の著述である *The Science of Ethics: An Elementary System of Theoretical and Practical Morality* の冒頭を訳したものである。この原書は、「修身學」「修徳學」「デー氏ノモラル」「頭利參氏修身學」「頭利參氏道德學」のそれと同じであり、解題は、そちらに記述してある。「修身學」は、この資料と同じく *Introduction* を翻訳しているが、訳し方に多少の違いがある。

修徳之學

亜米利加合衆国

約瑟哈芬 著

日本 下総

西村茂樹 譯

叙言

モラル、フヒロソフヒイ  
修徳學ノ性質 疆界

○修徳學ノ義 修徳ノ學ハ徳ヲ修ルコトヲ論ズルノ學ニシテ即チ道  
理ノ學○ゼ、サイエンスナリ、造化ノ學○ナチュールハ人身外ノ萬物ノ法則ヲ教へ、  
心智ノ學○インテレクチュール、フヒロンヒイハ人ノ心ノ法則ヲ示シ、修徳ノ學○モラル、フヒロンヒイハ人ノ行為ト  
職分○チユウノ法則ヲ説ク者ナリ、修徳ノ學ト道義ノ學○エセツトハ其名異ニシ  
テ其实ハ同ジ、此學ハ又職分ノ學○ゼ、サイエンス、チユウチイト名ク、徳誼ノ挙動ヨリシテ  
言フトキハ、道理ト職分トハ同一物ナレバナリ、  
○此語ヲ廣キ意味ニ用フ 英国ノ古代ノ學士ハ修徳ノ學ト云ヘル語ヲ  
以テ較廣キ意味ニ用ヒ、総テ心智ノ學ヲ以テ此語ノ内ニ包括シ、以テ物  
理學○フヒソガル、サイエンスト相對シ、智○チト物○モノトヲ並べ懸ケテ其區別ヲ示タリ、修徳ノ  
學ノ語ヲ以テ此意ニ用フル時ハ、性理學○サイコロジイ及ヒ其他ノ學モ亦此語ノ中ニ  
含蓄スルコトニシテ、今日ニ至リテモ猶此語法用フル者多シ、英吉利蘇  
格蘭ノ理學者ガ著セル性理學ノ書ニ數ト修徳學ノ名ヲ冠セシムル者アリ、  
法蘭西ノ學士ニモ亦修徳ノ學ヲ以テ相對シテ論スル者多シ、

○然ルニ心智修徳ノ二學ノ書ヲ著ハス者モ、精密ニ此二學ノ間ノ境界線ヲ画スルコト能ハズ、亦今廣ク世間ニ行ハル、修徳學ノ書ヲ見ルニ其中、コレニシテ 心智學ノ題目ヲ載セ、コレニシテ 良心、コレニシテ 智覺リチイ、コレニシテ 意思ル 等ノ性質ニ論及スル者多シ、良心智覺ノ類ハ皆心ノ能ルナレバ、其等ヲ論ズルハ素ヨリ心智學ノ内ニ在ルベキコトナリ、然レドモ修道學ハ此如キ心ノ現象ヲ以テコレガ用ト為サルベカラザル者ナレバ、其事実ヲ論シ、解説ヲ為ス為メニ、心智學ノ疆界中ニ進入セサルベカラザルコトハ恰モ行星ノ運行ノ事実ト法則トヲ論ズル者ノ天文学ノ疆界中ニ進入シ思想ノ法則ト辯理ノ様式トヲ説ク者ノ明論學ヲノ疆界ニ進入スルガ如シ、修徳學ノ正當ノ職掌トシテ教フル所ハ明論學ニ非ズ、天文学ニ非ズ又心智學ニ非ズシテ唯正理ノ學即チ本分ノ學是ナリ、若本分ノ事ヲ考究論説セズ、徒ニ感情、情動アノ意思ル等ノコトノミヲ論究スルトキハ之ヲ修徳學ト稱スベカラザルナリ、

○心智學ト修徳學ト親密ノ結合 此二學ノ間ノ結合ハ実ニ甚タ親密ナル者ニシテ、極メテ精細ニ意ヲ用ヒサレハ其區別ヲ立ルコト能ハズ、正理ト云フコトノ思想ハ人心ノ本原ノ思想像中ニ在リテ正理ノ何物タルヲ理會又之ヲ判断スルハ、心ノ回想力ノ主要ノ職掌ナリ、又情動ノ如キ感情ノ如キ願望ノ如キ者モ人ノ行為上ニ在ル正理非理トヲ注目スルコトニ於テ許多ノ助ヲ為ス者ナリ、又意志ハ自由ニ心ノ働キヲ為スノ力ニシテ人類ノ万物ニ応スベキ性ヲ構成スル者ナレバ、此物ハ実ニ修徳學

ノ為メニ基礎ト為ルベキ者ナリ、是ニ由テ觀レバ、古代ノ理學者ガ、心ノ諸能ヲ以テ人ノ行為ノ力又修徳ノカト名ケレハ、決シテ不適當ノコトニ非ルベシ、心ノ諸能ニ此名ヲ命ゼレハ、即チ丟伽チユガトの斯的チユワート瓦ナリ、

○心ノ諸能ヲ以テ上文ニ言フ所ノ如キ者ト為ス時ハ心智ノ學ニ錯誤ナキハ修徳ノ學ニ錯誤ナカラシムル為メニ要緊ノコトナルベシ、

○他ノ面ヨリ之ヲ觀ルニ、亦心智修徳ノ二學ノ密ニ結合セル所アリ、凡人ノ本分トイフハ、唯人ノ外面ノ行為ノミニ屬シタルコトニ非ズシテ責任アリテ聰慧ナル人ノ心ニ屬スルヲ多シトス、心ニハ思想感覺ニ意向アリテ共ニ外面ノ行為上ニ發現シ其力ニ依リテ道德ノ品行ヲ定ムル者ナリ、故ニ人タル者ニ其本分ヲ教フルト云フハ即チ人タル者善ク思想ト感情トヲ養フコトヲ教フルナリ、人タル者ニ善ク其本意ト意向トヲ造成發達スルコトヲ教フルナリ、約シテ之ヲ言ヘバ全心ノ智能ハ其行爲ノ上に發現スル者ナレバ心智ヲ教フルハ即チ品行を教フルコトナルナリ、心智ノ學ハ、審ニ心ノ活動ノ諸種ノ現象ヲ確知スルノミヲ以テ足レリトスベシ、修徳ノ學モ其注目スル所ノ事物ハ同様ナレドモ（即チ人心）唯其心ノ諸能ノ法則ト動作トハ何如ントイフコトヲ知ルノミヲ以テ足レリトセズ、必其法則ト動作トハ此ノ如ク為サルベカラズトイフコトヲ考究スベキコトナリ、

○修徳學ノ全体ノ區分 修徳學ハ其全体ヲ法カト実チトノ二部ヲ分ツヲ以テ適當トスベシ、凡ソ人ノ德行ト為ルベキ種々ノ職分ノ義

ヲ説クノ前ニ、先ツ修徳學ノ根基ト為ル所ノ總主義<sup>セセラル</sup>ヲ考究シ、道徳上ノ善行ハ此主義ニ頼リテ成ルト云フコトヲ説カザルベカラズ、所謂修徳學ノ主義ナル者ハ正理ノ性質、正理ノ根原、正理ノ規則、正理ノ疆域是ナリ、此ノ如ク修徳學ノ根基ト為ルベキ總主義ヲ考究論説スル者ヲ名ケテ此學ノ法<sup>セセラル</sup>ノ部<sup>セセラル</sup>ト云ヒ、人類ナル者其居ル所接ハル所ニ從ヒ、其身ニ行フベキ種々ノ職分ノ義ヲ論舉解説スル者ヲ名ケテ此學ノ実ノ部<sup>セセラル</sup>ト云フ、

## 修徳學之法部

### 第一篇

#### 道理ノ性

#### 第一解 道理ノ自己ニ就テ論ズ

○本来ノ性質 道理トイフ語ハ原来單一ニシテ至極ナル思想ヲ言フ者ナルヲ以テ其義ヲ分解詳説スルコトハ至テ難ク、又其義ヲ會得スル為メニ必シモ其解説ヲ要セサルコトハ其他ノ思想ハ解説ヲ要セサルト恰モ相同ジ、道理ト云フ者ハ万物ノ性質ニ固著セル永久不変ノ象ニシテ、人力又ハ神力ヲ以テ恣ニ之ヲ造為セシ者ニ非ズ、凡ソ智慧アリテ道理ヲ知レル動物<sup>人倫ヲ</sup>ノ平常ノ行為ニハ必ス道理ト非理トアル者ニシテ、道徳上ノ行為トイフモ亦此二者ノ外ニ在ルコトナシ、道理ト非理トノ區分ハ世人ノ普ク之ヲ認識スル所ニシテ、道理ノ思想ハ人心ノ單純ナル文飾彩ト首頭

ノ主義トノ中ニ在リテ、條理ト智慧トノ光輝ニ由リテ外ニ發現スル者ナリ、此思想ハ又學校ノ中ニ在リテ會得シ、性理學士ニ非サレハ、能ク其理非ヲ詳ニスルコト能ハザル者ニアラズ、此思想ハ學業ニ熟達セル者ト心思簡單ナル者ト共有スル所ニシテ即チ小兒ト理學士トハ同ク此思想ヲ有スル者ナリ、○若シ何物カ道理ナル行為ニシテ何物カ非理（不正）ノ行為ナル、此法式ト年期トハ道理ニ協ヒテ彼法式ト年期トハ非理ナルカトイフコトヲ究メントスルトキハ道理ノ主意放散シテ聚拾スベカラズ、唯我思想ニ現スル道理ト非理トノ區別、即チ行為ノ主義ヲ定ムル時ハ年期法式ノ類ハ之ヲ論スルヲ要セス、而シテ人心トイフ者ハ其力或ハ微弱ナルコトアレトモ、決シテ理非ヲ混淆スル者ニハ非ザルナリ、

○道理ノ思想ハ何レヨリ来ルカ 道理ノ思想ノ由テ来ル所ヲ尋ネタルハ要緊ナル疑問ノ件ナリ、或人ハ是ヲ以テ風習ト教育トヨリ来ルト云フ、<sup>ロツキ</sup> 駱克及ヒ其門人ノ説ノ如キ是ナリ、或人ハ神法ニ於テ之ヲ禁スルノ行為ト之ヲ好ミスルノ行為アルニ由リ、其法ヨリ来ルト云フ、或人ハ又、人類ニハ特別ノ智覺アリテ其職ハ道徳ノ徵ヲ認識スルニ在ルコト、恰モ眼ノ色ニ於ケル、耳ノ声ニ於ケルトニ同シ、道理ノ思想ハ即チ此知覺ヨリ来リト言フ、又或人ハ道理ノ思想ハ單一ニシテ至極ナル者ニシテ他ヨリ来ル者ニ非ス、即チ人心固有ノ智ニシテ即チ道理ノ定説原質ナリト謂ヘリ、

○道理ノ天下思想ノ一様ナルコト

此思想ハ小兒ノ時己ニ發現シテ

教育ニ先ダツコト、其事実ノ感ヲ人心ニ及ボスコト、交際ノ地位ト人身ノ情状トニ由テ發現セル此思想ノ清淨ニシテ氣力アルコト等ニ據テ考フル時ハ道理ノ思想ハ全ク人心ノ結構ノ内ニ固有在リテ、決シテ外ヨリ来リテ附加スル者ニ非ルコトヲ知ルベシ、○此説ニ反シテ道理ノ思想ヲ論ズル者ヲ觀ルニ其説常ニ完全ナルコト能ハズ、其教育ヨリ来ルト云ヘル者ノ如キハ、此思想ヲ教フル最初ノ教育者ハ何人ナルカト云フコトヲ詳説セズ、又人法神法ヨリ来ルト云フ者ノ如キハ其説更ニ漠然ナルヲ覺フ、其説ハ法トイフ者ハ常ニ道理ニ依據ニシテ道理ハ法ノ基礎ナリト定メタル者ナレバナリ、故ニ道理ノ思想即チ道理ノ根原ハ法ヨリ来ルト言フハ基礎ノ上ニ家屋ヲ建ルニ非ズシテ、家屋ノ上ニ基礎ヲ建ルト云フニ異ルコトナシ、又道理ヲ認識スベキ特別ノ知覺アルト云ヘル如キハ、心ヲ此ノ如キ特別ノ官能アルコトト此ノ如キ能ナカルヘカラザルノ證據ヲ説カズ、

○猶此題目ヲ詳ニ考究セント欲セバ讀ム者ハ余ガ著セル心智ノ書ヲ觀ルベシ、其書中ニハ此疑問ニ就テ種々ノ理論ヲ挙ルコト頗ル明詳ナリ、

第二節 道理ノ他ノ思想トハ異ナル所以ヲ論ズ

○道理本分 道理ト本分トハ字義ヨリシテ之ヲ言フトキハ其甚相類似セルノ語ニ非スト雖モ、意義ヨリシテ之ヲ言フ時、大抵一樣ニ歸スルノ語ナリ、吾儕ハ宜シク道理ノ協フノコトヲ為スベキノ義務チオリダアリ、是即チ吾儕ノ本分ナリ、本分トハ道學ニ於テ道理定メタルコトヲ以テ、何

レノ時ニ於テモ能ク之ヲ行フコトナリ、道理ハ義務ノ基礎ニシテ義務ト並ヒ立ツ者ナリ、凡ソ約結ノ力ホルヲ生シテ、吾等ヲ義務ノ中ニ置ク所ノ事ハ皆道理ニ合フ事ナリ、道理ニ合フ事ヲ為サズシテ、道德上ノ義務ヲ為サントスルハ、決シテ能ハザル所ナリ、

○道理ト本分トハ並ヒ立ツ者ナレドモ、亦全ク意旨ヲ同クスル者ニ非ズ、道理ハ獨立者ニシテ自己ニ其意義ヲ有スル者ナリ、本分ハ道理ナレドモ人ノ動作ニ關スルコトニシテ之ヲ行フ人ニ賴リテ其意義ヲ顯ハス者ナリ、義務ハ吾等ニ我本分ヲ行ハシムル為メノ道理ノ約結力ナリ、

○異説 世ノ理學者、義務ト本分トノ區別ニ就テ、或ハ余ガ爰ニ論セル所ヨリ更ニ深キ區別ヲ立テ、義務ヲ以テ本分ヨリハ其包含スル所至テ廣キ者ト為ス者アリト、其説ニ曰ク、人ハ其時ノ勢ト土地ノ法律ノ威力トニ由リ、或ハ道理ニ中ラザル事ヲモ為サザルベカラサルコトアリト、此言ハ夫耶尔ヒューエル英國ノ理學者、千七百十五年ニ生シ、千八百十六年ニ歿ス。カ其著書ノ道德ノ原質エレメンツノ中ニ記セル語ナリ、夫耶尔ハ是ヲ以テ義務ナリトスレドモ、其実ハ義務ニ非ズシテ、強逼コルシナリ、不得已ネセツナリ、時勢ノ來會ト法律ノ威力トハ道德ノ義務ヲ生スル者ニ非ズ、唯尊キ道理ノ印ヲ打チタル者ノミ道德ノ義務ヲ生スルコトヲ得ル者ナリ、凡ソ道理ノ外ニ行ク者、道理ヲ破ル者、及ヒ時勢ノ勢力、壓逼、法律ノ管制威權ハ共ニ人ノ良心ヲ約束スルコト能ハズ、即チ人類ノ靈性ヨリ道德ノ義務ノ抵抗ヲ生スル者ナリ、法律ハ其管制ト罰責トノ威力ヲ以テ道理ヲ助ケテ之ヲ成就セシムル者ナリ、重量ノ分明

ナラザル天秤ニ重キ刀劍ヲ擲ツコトヲ得ル者ナリ、非理ヲ抑制強勒スルコトヲ得ル者ナリ、此法律ハ此ノ如キノ力アレドモ、従前皆テ無キ所ノ道徳上ノ義務ヲ造立スルハ決シテ能ハザル所ナリ、法律ノ文ニ掲載セズト雖ドモ人ノ本分ハ固ヨリ道理ニ協ハシメサルベカラズ、仮令法律ニ於テ之ヲ禁ズルトモ、道理ヲ行フハ、是即チ吾等ノ本分ナルベシ、余故ニ曰ク義務ト本分トハ常ニ並ビ立ツ者ナリト、

○道理ノ字ノ両義　道理ト云フ語ハ之ヲ名詞ニ用フル時ト形状詞

ニ用フル時トハ素ヨリ其義ヲ異ニスレドモ、之ヲ專称ニ用ル時トシ複称トニ用フル時トハ更ニ大ニ其義ヲ異ニスル者ナリ、単称トニ用フル時トハ吾等ガ他人ニ対シテ施スベキ行為ヲ節制スルノ主義トナリテ、譯シテ道理ト為スベキ者ナリ、複称トニ用フル時トハ實際上ニ於テ我ヨリ他人ニ對セルニ適當ノ要求即チ他人ノ我ヲ恭敬スルコトヲ望ムノ主義ト為リテ、譯シテ権理ト為スベキ者ナリ、凡ソ吾等義務ノ在ル所ハ、他人ノ義務又職分ノ在ル所ニシテ他人ノ権理ノ在ル所ハ吾等ノ義務ノ在ル所ナリ、故ニ権理ナル者ハ皆之ニ對スルノ義務アル者ナリ、例ヘハ上帝ニ服従スルハ吾等ノ義務又職分ニシテ上帝ハ我等ニ服従ヲ望ムノ権理アリ、又政府ノ適當ナル要求ニ應シテ是ヨリ高等ナル義務ニ抵觸セサルノ事ハ皆之ニ服従スルハ我等ノ義務ニシテ、ハ我等ニ此服従ヲ要求スルノ権理アリ、故ニ我等ノ権理ハ皆之ニ對セル他人ノ義務ニ視ラフ者ニテ、我等ノ義務ハ又皆他人ノ権理ニ視ラフ者ナリ、

○最初ニ道理ト云フ者ナキ時ハ権理トイフ者ハ起ラザルコトナリ、故ニ道理ヨリ義務ヲ生シ、本分ヲ生シ、又権理ヲ生スルコトナリ、

○呼物ル、及ヒ其他ノ学士ノ説ヲ論ズ　呼物ル及ヒ其他ノ学士ノ説

ニ権理ハ法律ニ由テ成ルト言ヘリ、若シ此説ニ據ル時ハ、凡ソ法律ノ助ヲ以テ認許造立スル所ノ外ハ社會上ニ復権理ト云フ者ナカルベクシテ、法律ノナキ地ニハ、其人民絶テ権理ヲ有スルコトナカルベシ、然レドモ此ノ如キコトハ世間ニ決シテ無キコトナリ、法律ハ我等ノ権理ヲ定メ之ヲ指示シ、又其力ヲ強クスル者ナリ、故ニ権理ハ法律ノ恭敬注目ヲ受ル者ナレドモ法律ノ力ヲ以テ権理ヲ造ルコトハナク、又造ルコトヲ能ハザル者ナリ、権理ト云フ者ハ天然ノ公正ノ主義ト普遍ニシテ更易スベカラザル道理ノ主義トニ本キテ生ズル者ナリ、故ニ未タ法律アラザルノ地又ハ實際ノ法則ヲ掃去ルノ地ト雖ドモ、智慧アリテ道理ヲ知ル動物ノ相互ニ多少ノ關係ヲ以テ住居スルノ地ニハ必権理トイフ者アルナリ、例ヘハ今爰ニ二人アリテ共ニ身ヲ荒島ニ投スルコトアランニ、其島本ヨリ居民ナケレバ政府モナク法律モナシ、然レバ此二人ハ天然ノ法則ニ由リテ各幾多ノ権理ヲ所有シ、之ヲ奪フテ他ニ移スコト能ハサルナリ、其権理ハ自己ノ身体ノ権理、自己ノ勞力ノ権理、自己ノ財産ノ権理等ニシテ、若シ他人強テ此ノ権理ヲ奪フ時ハ、其人ハ明カニ非理非義ノ罪ヲ犯セル者トナルナリ、

○上ノ説ヲ為ス者ハ又、法律ハ道理ト公正トニ基クトイヘル義ニ論ジ及

ボシ、謂ヘラク、此如キハ必ス有ルベキコトナレドモ、或ハ不幸ニシテ、常ニ此ノ如キコト能ハサルベシト、凡ソ不公平不正ノ法律ヲ設ルコトアルハ人事ニ於テ免カル、能ハザルノ行勢ニシテ此ノ如キ法律ハ、或ハ曾テ見タルコトアリテ、後來モ或ハ見ルベキコトアルベギナリ、論問ノ意ニ従フ時ハ此ノ如キ法律モ亦権理ヲ生シ、義務ヲ命ズルコトヲ得ル者トナルナリ 若シ論者ノ理論ヲ以テ據テ之ヲ言フトキハ、吾儕ハ道理ニ協ハザル所ノ事ヲ他人ニ要求スルノ権理アリテ、又道理ニ合ハザル所ノコトヲ為サザルベカラザルノ義務アリト云フニ至ルベシ、

○論者ハ應ヘテ謂ハン、爰ニ言フ所ノ権理ハ法律上ノ権理ニシテ道德上ノ権理ニ非ズト、吾又對ヘテ曰ハン、論者ノ説ノ如クナレバ権理ナル者ハ尽ク法律ニ属スベクシテ、未タ道德アラザルノ前ニ既ニ法律ナカルベカラズト、論者ノ言ニ據ルニ、法律ハ権理道德等ヲ生スベキ者ナリ、道德ハ法律ヲ預定シ又法律ニ従属スルコトハ恰モ性質ノ物体ヲ預定スルカ如シト、此説ヲ以テ定メタル法律上ノ権理ト道德ヲ加ヘタル権理トヲ區別セントスルトキハ論者カ嘗テ定メタル法律ハ権理ヲ生スルトイヘル理論ニ對シテ自ラ逡巡セザルベカラズ、

○実事ヨリ之ヲ視レバ、道理権理ナル者ハ其成立ニ於テ共ニ法律ニ管係スル者ニ非ズ、凡権理ハ法律ノ定ムル所ニ非ザル者アリ、又或ハ法律ノ禁ニ逢フベキ者アリテ其成立ハ共ニ法律ノ定斷ヲ經サルノ前ニ在リ、凡吾等カ義務ト権理トハ皆道理ニ由テ成立スル者ニシテ、其道理ナル者ハ

交際ニ附属スル者ニ非ス、又法律ニ附属スル者ニ非ス、唯事物ニ固有セシル永久ニシテ移易スヘカラザル天性ニ本ヅク者ナリ、

○法律上ニ於テ定ムル所ノ権理ハ道德學上ノ権理ト其旨ヲ同ジクスル者アリ、其旨ヲ異ニスル者アリ、修徳學ニ於テハ總テ法律上ノ権理ハ之ヲ問ハザルニ置キ、獨道德上ノ権理ノミヲ推究スルコトヲ務ムルナリ、法律ノ學固ヨリ修徳ノ學ト異ナル者ニシテ成立セル法律即チ政治ノ學ノ外他ニ範則ヲ取ル所ナキ者ナリ、

## 第二篇

### 道理ノ根礎

○義務ノ主義 職分ハ其内ニ義務ヲ包含スル者ニシテ、命ゼラレタル事ヲ為スハ我等ノ職分ナリト云フコトハ、我等ハ其事ヲ為サザルベカラズト云フコトト同ジ義ニ帰スルナリ、然レバ義務ト云フコトノナキ所ニハ職分ト云フコトモ無カルベシ、故ニ義務ノ主義ハ道德ノ切要ナル原質ナリト云フコトハ一日シテ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、義務ハ我カ入ラントスル學ノ門闕ニ於テ已ニ之ニ逢ヒ、又此學ヲ建造スル所ノ基礎ト為ルナリ、

○凡ソ人心、道理ヲ會得スルト義務ヲ認識スルトハ毎ニ同時ニ在ルコトニテ、先ツ其行ハントスル事ノ道理ヲ會得シテ後、其事ノ義務ヲ認識スルトイフハナキコトナリ、是則チ人心ト道理ノ悟通ト相離レザルノ證據

ニシテ、其一個ヲ得レハ他ノ一個ハ決シテ通レ去ルコト能ハザル者ナリ、  
○道徳上ノ義務ノ根原 此題目ニ於テハ左ノ疑問ヲ起サズルベカラズ、  
問、此根原ハ何ゾ、之ヲ造成スルハ如何ナル物ゾ、我等ニ同シ事ヲ為ス  
ベキ義務ヲ負ハスル者ハ何物ゾ、我等ハ彼此共ニ之ヲ行ハザルベカラズ、  
其行ハサルベカラザルハ何故ゾ、

○此疑問ニ答フベキノ語ハ甚タ多シト雖モ、要スルニ左ノ簡單ナル一語  
ニ歸スベシ、曰ク道理アルニ因リテ之ヲ行ハサルベカラズト、道理ハ義  
務ヲ造成スル者ナリ、故ニ此疑問ハ此答ニ由テ自然ニ了解スルコトヲ得  
ベシ、是ニ由テ又問フ、道理ヲ造成スルハ何物ゾト、

○此疑問ハ太緊要ノ語ニシテ、古来ヨリ幾多ノ學士ガ此問ニ對シテ種々  
ノ答語ヲ發シ、其合語ハ即チ道徳學上ノ諸種ノ理論ト為リタル者ナリ、  
此等ノ理論ハ理学ノ思想ノ全キ順序ノ中ニ深遠ナル問題ヲ包含シ、吾  
等ヲ導キテ、切要ニシテ利益アル考察ノ田野ニ至ルコトヲ得シムル者ナ  
リ

○余、第一篇ニ於テ道理ノ思想ノ根原ヲ論ジ、我等ノ推理ヲ構造スルハ  
何物ゾト云ヘル疑問ヲ掲ゲタリ、此疑問ハ此篇ニ論スル所ト全ク其旨ヲ  
異スル者ニシテ、今論スル所ハ道理ノ思想何如ヲ問フニ非ズシテ道理ナ  
ル者ハ此何ヲ問フニ在リ権理ヲ構造スルハ何物ナルカヲ問フニ非ズシ  
テ、道理ヲ構造スルハ何物ナルカヲ問フニ在ルナリ、

○理論中ノ主要ナル者 道徳即チ義務ノ根原ノ理論ハ古来ノ學士其

説ク所甚多シト雖モ其主要ナル者ヲ求メテ之ヲ數フルトキハ、大概四種  
ノ外ニ出ルコトナシ、一ニ曰ク便益ユチリニ曰ク法則ホウニ曰ク上帝ノ垂  
迹、四ニ曰ク事物ノ變更スベカラサル天性、是ナリ、是等ノ論ヲ立ル者、  
各自己ノ見ル所ヲ以テ道徳ノ真ノ根礎ト為シ、道理非理ノ區別ハ此根礎  
ニ憑テ立チ、道徳上ノ義務モ是ヨリ生スルト謂モヘリ、四種ノ理論ノ中  
ニ於テ第一第二ノ理論ハ各更ニ分レテ二様ノ状ヲ為ス、便益ノ如キモ固  
ヨリ道理ノ根礎ナリトシテ論シタル者ナレドモ、其中ニ利益ノ途ヨリ生  
スル所ノ快樂、幸福コウフ、便益ノ直接ノ結果ナル利リ、  
リ、又法則ヲ以テ道理ノ根礎ナリトシ、道理非理ハ皆是ヨリ成レリトス  
ル者モ其法則ヲ以テ或ハ人造ノ者ト為スナリ、或ハ天造ノ者ト為スナリ、  
○是ニ由リ吾儕ノ目前ニ數道ノ理論現出シ、吾等ノ疑問道徳學上ノ何物ニ答フ  
ルノ正解ト為シテ之ヲ陳説スル者アリ、思想ノ域内ニ於テ他人ノ勢力ノ  
為メニ踏破セラル、者アリ、今再ビ之ヲ掲クルトキハ先第一ハ要益ノ理  
論ニシテ、分レテ快樂ト利益トノ二様ト為リ、第二ハ法則ノ理論ニシテ  
分レテ人造法則、天造法則ノ二様ト為リ、第三ハ上帝ノ垂迹ヲ以テ道理  
ノ根礎ト為スノ理論、第四ハ事物ノ不変不易ノ天性ニ根スルノ理論、是  
ナリ、

○以上叙スル所ノ順序ニ從ヒ、四種ノ理論ヲ挙テ之ヲ論スルコト左ノ如  
シ、  
第一 要益 快樂ヲ表明スルヲ以テ要益ト為ス説 要益ノ説ヲ挙ン

トスルニハ先快樂ヲ主トスルノ説ヨリ始ムベシ、快樂ノ説ニ謂フ、凡ソ  
此事ハ何ヲ以テ道理ニ協ヒタルコト、他事ハ何ヲ以テ道理ニ協ハザルコ  
トト名付クルヤ、ト問ハバ、此事ヲ為シタル者ハ其心常ニ快樂ヲ覺へ、  
他事ヲ為シタル者ハ其心常ニ苦惱ヲ覺ユルヲ以テ、其理非ヲ定メタリト  
答フベシ、乃チ此事ハ之ヲ行ヒタル者ニ幸福ヲ與へ、彼事ハ之ニ行ヒタ  
ル者ヨリ幸福ヲ奪フコトナリ、凡ソ一意ニ幸福ヲ求ムルコトハ（此事ハ  
論セザルヘカラノコトナリ）人類ノ大ナル意向ノ主要ナル者ニシテ又人  
類ノ行為ノ根原ナリ、若シ道理ニ協フ所ノ行為トハ即チ其身ノ幸福ヲ進  
ムル所ノ者是ナリトイヘル思想ヲ心中ニ固定スルトキハ、其行為ニ就テ  
ハ更ニ別ノ道理アルモ再ヒ他ノ考案ヲ心中ニ置クコトヲ得ザルベクシテ、  
此ノ如キハ今日數々目前ニ在ルノコトナリ、若シ今如何ナル者ヲ以テ道  
理アル行為ト名クベキカト問フトキハ、總テ快樂ノ感ト同行スル所ノ行  
為ヲ名ケテ道理アル行為ト為スベキナリ、吾等カ道理アル行為ノ名ヲ命  
ズルノ根原ハ即チ今言フ所ノ快樂ノ感ト同行スルニ在ルナリ、  
○道理ニ協ヒタル事ヲ行フトキハ現在ノ満足ト真正ノ幸福ト得ルト云フ  
コトハ之ヲ斥クルコトヲ得ザルノ説ニシテ、人類ノ性固ヨリ自ラ此ノ如  
キ者ナリ、是ニ由テ吾等ガ其幸福ヲ得ント欲スルノ意向ハ能ク其行フ所  
ノ事ヲシテ道理ニ協フコトヲ得シムベキ者ナルカノ疑問ヲ發スルニ至レ  
リ、又問フ、此事ハ能ク幸福ヲ生シタルニ由リテ之ヲ道理ニ協フノコト  
ヲ名付クルカ、道理ニ協ヒタル故ニ能ク吾等ノ幸福ヲ進メタルカ、何レ

ヲ以テ真正ノ確説ト為スベキカ、又吾儕往日ノ事ヲ想ヒ、其行ヒタルコ  
トヲ以テ道理ニ協ヒ、道德ト許ス所ト為スハ、之ヲ回想スル時ニ当リ、  
我心ニ大ナル快樂ヲ覺ヘタル故ニ由ルカ、又往日ノ行為ヲ回想スル時、  
自ラ悔ルノ念ヲ發スルハ、時ニ行ヒタル事、不快ニシテ苦惱ナル感覺ト  
同行スルニ由リテノ故ナルカ、

○此理論ハ十分ナラズ 此簡單ナル一語ハ此論題ヲ判スル為ニヨク  
其意ヲ見ルニ足ルベシ、吾儕ハ自然ニ快樂ヨリ猶高等ノ地ニ於テ道理ノ  
在ル所ヲ決斷シ、又之ヲ応許スルコトヲ知レリ、徳ト幸福トハ本ヨリ同  
様ノ者ニ非ズ、故ニ各別ノ語ヲ以テ之ヲ名ケ其名ニ由リテ各別ノ物タル  
コトヲ表示ス、故ニ徳ト云ヘル語ヲ以テ幸福ノ義ヲ解クコト能ハズ、幸  
福ト云ヘル語ヲ以テ徳ノ義ヲ解クコト能ハズ、若シ道理アル事物ハ必快  
樂ナリト云フ説ヲ以テ信スベシト為ストモ、決シテ快樂ナル事ハ皆道理  
ニ協フ者ト云フベカラス、殊ニ快樂ハ物事ヲ以テ道理ニ協ハシムベキ者  
ト云フベカラザルナリ、凡ソ快樂トイフ者ハ多ク腐壞ノ道ニ傾ク者ニシ  
テ、其放蕩ハ、道德ニ合ハザル所ノ目前ノ満足ト相伴フ者ナリ、此ノ如  
キ快樂ハ誘惑ノ強力ノ為メニ遂ニ惡道ニ墮落スル者ナリ、然ルニ此ノ如  
キ誘惑ヲ受ル者ト雖ドモ己レノ行フ所ノ事ヲ以テ良善ナリト思フコトナ  
ク、其惡事ヲ犯セルハ決シテ道理ヲ行ハントスルノ心ヲ以テ之ヲ為シタ  
ルニ非スシテ、常ニ良心ノ爭議ヲ受ケ、又自賤シミ自ラ罪スルノ感覺ヲ  
侵シテ之ヲ為シタルコトナリ、上ニ擧タル理論ニ從ヘハ此ノ如キコトハ

決シテ有ルベキコトニ非ルガ如シト雖ドモ、実ニ之アルヲ如何セン、然ラバ人タル者ハ己ガ幸福ヲ求ムルコトヲ以テ基礎ト為シ、以テ己ノ行為ニ就テノ満足ヲ求ムベシ、此自ラ善シトスルノ心ハ其身ニ受クル所ノ快樂ノ大小ニ從ヒテ高低増減ヲ為スベキコトナリ、

○公衆ノ幸福ヲ表明スルノ説 自己ノ幸福ヲ得ルヲ以テ道理ノ基礎トスルト、他人ニ幸福ヲ得シムルヲ以テ道理ノ基礎トスルトハ、実形

上ヨリ之ヲ言フトキハ別ニ変化アルコトニ非ズ、凡ソ道理ニ協フ所ノ行為ハ公衆ニ幸福ヲ与ヘ又全世界ノ幸福ノ量ヲ増スコトハ決シテ疑ナキ所ナリ、然レドモ行為ヲ造成シテ道理ニ合ハシムルハ果シテ公衆ニ幸福ヲ与フルノ力ニ由ルカ、人ノ重キ禍害ノ壓抑ト陰暗ナル時世ノ幽鬱トノ下ニ立チテ全身ノ力ヲ竭シテ我心思ヲ固定シ道理ヲ蹈ミ行フトイヘル貴重ナル覚悟ハ唯公衆ニ幸福ヲ与フルトイフノミノ一點ヨリ生スルコトナルカ、其公衆ニ幸福ト為ルノ證據ハ我身其事ヲ行ヒタルノ後、衆人皆自己ノ為メニ最モ利アリト思フニ由リテ之ヲ知ルベキカ、公衆ノ幸福ノコト管セズ、偏ニ自己ニ於テノミ道理ニ協ヒタリト思ヒ、又自己ノ為メニノミ行フ所ノ事ハ、總テ高貴ナル心ノ満足ヲ得ルコト能ハザル者ナルカ、○今舉タル所ハ古代ノ耶俾古路エビキヨロスノ理学ノ説ニシテ、後世英国ノ休慕ヒュームシヤフアスベリシヤフアスベリ、沙弗の伯利及ヒ其他ノ學士此説ヲ奉ズル者多シ、○利益ヲ表明スルノ説 要益ハ利益ト便宜エキスベトヲ表明スル者ナリトイフ説ハ前ノ快樂ヲ主トスル説ニ比スレバ、全ク其基ヲ異ニスト雖ドモ

此説ト前説トハ一様ノ論辯ヲ以テ之ヲ攻撃防守スルコトヲ得ベキ者ナリ、実ニ前説ハ後説ノ變形ト為スベキ者ニシテ利益ヲ以テ道理ノ規則ト為ス者ノ説ニ從ヘバ、快樂ハ利益中ノ一種ノ者ト言ヒテ可ナルベシ、故ニ汎ク之ヲ言フ時ハ、前説ノ代言人タル者ハ亦後説ノ代言人タルコトヲ得ベシ、但後説ハ二根ノ基礎ノ上ニ立チ、其旨ノ在ル所前説ヨリハ較廣クシテ高崇ナリ、

○後説ニ據テ言フ時ハ己ヲ愛スルセルラト云フコトハ人タル者ノ重要ノ意思ニシテ何事ヲ為スニモ先ツ己ガ為ノ利益ヲ謀リテ後動ク者ナリ、実験ニ據テ之ヲ視レバ、凡ソ人ノ行為ハ利益ヲ求ムルカ為メニ之ヲ行フト、不利ヲ防クガ為メニ之ヲ行フトノ二道アリ、乃チ一道ハ道理アル者ト為シテ之ヲ得ンコトヲ欲シ、他ノ一道ハ非理ナル者ト為シテ之ヲ避ンコトヲ欲スルナリ、約シテ之ヲ言ヘハ、凡ソ道理ノ基礎原由ヲ造成スル所ノ事ハ皆要益ニシテ便宜ナルコトナリ、此説ハ便坦ベンタン及ヒ其門人ノ言フ所ナリ、

○上ノ理論ニ據レバ、道德ノ行為ハ彼此ヲ論セズ、總テ之ヲ行フ者ニ利益ヲ与フルトイフコトハ謬ナキ所ナリ、是ニ由リテ凡ソ人ノ行為ヲ道德ニ協ハシムルハ利益ノ力ナルカ、利益ナル者ハ行為ノ道理ヲ造成スル者ナルカノ疑問ヲ生スベシ、又問フ、其事ハ便宜ナルニ由リテ之ヲ道理ニ協フトスルカ、道理ニ協ヒタルニ由リテ便宜ヲ得ルコトナルカ、

利益ノ理論ノ後繼又効驗

(一) (前ニ論ズルカ如ク) 便宜ヲ以テ

道理ノ基礎トスルトキハ、利益ト職分ト云フ者ハ思想上ニハ一様ノ物トナルナリ、凡ソ人ノ人行事ヲシテ道理ニ合ハシメントスルニハ、先ツ其事ハ利益アルト云フコトヲ示サザルベカラズ、若シ其利益亦〇〇不利ト為ル時ハ同シ精神同シ目的ヲ以テ同シ意思ヨリ同シ事ヲ為シタリトモ、其事タル、此一人ニハ道理ニ協フノ事ナレドモ、他ノ一人ニハ反テ非理ノ事ト為ルベシ、特リ是ノミナラズ、一人ニテ一様ノ事ヲ為スモ其時ニ因リテ或ハ道理アルコトナリ、或ハ道理ニ協ハザルコトト為ルベシ、吾輩ノ行事果シテ我身ノ利益ヲ為スヤ否ヤヲ知ラザルノ間ハ、其行事ハ実ニ道德ニ協フヤ否ヤヲ判定スルコト能ハザルナリ、縦令高崇ニシテ純清ナル主義ヲ以テ其身ヲ行フト雖ドモ、其事、若シ吾身ノ為メニ利益ヲ為サバ爾時ハ之ヲ以テ遠ク道理ニ離レタル者ト為サザルベカラズ、然ル時ハ高崇ニシテ純清ナル主義ヲ行フト雖ドモ吾等ハ常ニ自賤ミ自悔ルノ感覺ヲ壞クコトヲ免カレザルナリ、

(二) 利益ヲ以テ道理ノ基礎トスル説ニ據ルトキハ、其効驗ハ故意ニ惡事ヲ為ス者ナシト云ヘルコト是ナリ、人タル者ハ常ニ己ヲ愛スルトイヘル主義ヲ以テ其身ヲ行ヒ、総テ自己ノ利益ナルベシト思フ事ハ之ヲ為シ又經驗上ニ於テ此事ハ利益ノ方ニ向フ者ナリト知ル時ハ、常ニ其事ヲ以テ道理ニ協合事ト考へ、其ニ反スルコトハ同シ因由ニ據リテ非理ノコトト考フルナリ、問、明理学ノ法ヲ以テ此事ヲ推理スル時ハ如何、

○凡ソ人タル者ハ皆自己ノ利益ヲ謀リテ事ヲ為ス者ナリ、今自己ノ利益

ヲ謀ルコトヲ以テ道理ニ協フノ事トスル時ハ人タル者ハ常ニ道理アルノ事ノミ行ヒテ決シテ變易スルコトナキ者ナルベシ、然レドモ時アリテ自ラ謬誤シ、自己ニ不利ナルコトヲ行フコトアリ、此不利ヲ行フコトハ、全ク自己ノ失錯ニシテ裁斷ノ謬ヨリ出タルコトナレバ、是ヲ以テ故意ノ惡事ト名クベカラズ、此事ハ事物ノ光景ノ全体ノ上ニ利アルコトニテ、是ニ由リ世上衆人ガ人類ノ性ヲ思錯シテ心ヲ苦シムル憂鬱ノ情景ヲ癒スコトヲ得ベシ、人類タル者到底不善ナル者ニ非ズ皆其私利ヲ謀リ、自己ノ利益ヲ商量シ能ク利益ヲ得ベキカヲ知リテ後其志ス所ハ私利ニ在リテ、自己ノ利益ヲ商量スルヲ專トス、此旨趣ニ由リテ行フトキハ自ラ道理ニ協フベキコトナレドモ若シ或ハ己カ職分ヲ錯ルコトアルハ是其意見ノ其意見の誤ニシテ中心ヨリノ誤ニハ非ルナリ、

(三) 上ノ理論ニ從ヘバ又私心ナラザル徳ナシト云ヘル事ヲ生ズルナリ、利益ハ正直ノ根原ニシテ又義務ノ基礎ナリ、故二人ノ行事ノ理非ヲ信スルハ、其人自己ノ利益ニ注意スルノ多少ヲ比較シテ之ヲ定ムベキコトナリ、此ノ如キ自己ノ利益ニ注意シテ行フ所ノ事ハ道理ニ協フノ事ニシテ己カ職分ヲ行フコトモ亦此中ニ在リテ己ヲ利スルハ心ヨリ出ザルコトニハ決シテ道德ト云フモノナシ、若シ事毎ニ能ク我身ノ便宜ヲ謀リ、我身ノ利益ヲ進メテ、又他人ノ權理ヲ破ルコトナキ時ハ、殊ニ完全ナル行為ニシテ、此ノ如キ人アラバ、吾等ハ心中ヨリ其人ヲ尊敬スベキコトナリ、又之ニ反シ、其行フ所総テ我身ト他人トノ利益ヲ謀ルコトニ非サレバ、

吾輩ハ之ヲ行フ人ニ対シテ全ク其恭敬ノ念ヲ絶ツベシ、

○然レドモ世上ノ人ヲ以テ皆私利ヲ謀ル者トスルハ頗ル異常ノ説ニシテ此言ヲ以テ確論ト為スコト能ハザルナリ、凡ソコトヲ為スニ己ヲ利スルヲ以テ主意ト為シテ之ヲ行フトキハ、是力為ニ大ニ道德上ノ稱賛ヲ滅スベシ、又其事ヲ行フハ全ク他ノ主意ヨリ出テ毫モ己ヲ利スル為メニ非スト云フ時ハ大ニ衆人ノ賞歎尊敬ヲ得ベキコトナリ、

○前説ノ論駁　利益ヲ以テ道理ノ基礎トスルノ理論ハ、人ノ思想上

ニ背反ノ感ヲ生セシムベキ者ナリ、若シ要益ヲ以テ道德上ノ義務及ヒ道ノ基礎ナリトスル時ハ、凡ソ我等ガ認許シテ義務トスル所ノ者ハ其源ハ皆利益ニ在リト為サルベカラズ、又其事ハ之ヲ行フ人ノ幸福ト利益トヲ進ムル方ニ向フ者ト為サルベカラズ、而シテ其事ヲ以テ義務ト為スノ證據ハ、其事ノ利益ヨリ起ルニ因リテ之ヲ定メサルベカラズ、然ルニ事實ニ據テ之ヲ觀ルトキハ、今言フ所ノ如キコトヲ見ルコトナクシテ、却テ之ニ反對スルコトヲ見ルコト多シ、義務ヲ行フベシト云ヘル感覺ハ、幸福利益ノ意想ト相管係セザルノミナラズ、或ハ全ク其意想ニ反對スルコトアリ、吾身ノ幸福利益ヲ望ムノ心ハ此一條ノ路ニ向フテ進ミ、義務ヲ行ハントスルノ感覺ハ別ニ他ノ一條ノ路ニ進ム者ナリ、本分ト利益ト云フコトハ素ヨリ同様ノコトニ非サルヲ以テ各別ニ其名アリ、其名ノ異なるニ由リテ其事ノ異なるコトヲ知ルナリ、二者各其主義ヲ異ニスルカ故ニ此主義ヨリ出タルコトハ本分ト名クベクシテ、他ノ主義ヨリ出タル

コトヲ以テ利益ト名クベキナリ、自其惡事ヲ知り故ニ意ヲ以テ之ヲ犯ス者ハ決シテ之ナシトイヘル如キハ甚タ信用スベカラザルノ説ニシテ、其謬ハ瓊克拉底及布刺多ニ出ヅ、二人ノ道德ノ説ニ德ハ學問ヨリ生シ、惡ハ無知ヨリ來ルト云ヘル主義ヨリシテ此大ナル缺失ヲ生ジタル者ナリ、何人モ此覺悟ニ抗シテ證明シタル者ナキカ、阿關オビントノ詩人トユーリビデス歐利俾德オビント詩人ト

トノ詩ヲ見サルカ、阿關ノ詩ニ曰ク、  
：  
歐利俾德曰ク、吾等カ行ハント欲スコトハ皆惡事ナリ、唯志望ノ力、思欲ノ力ヨリ強キノミト、此兩詩人ノ語ヲ見ルニ、前ノ理學者ノ説ヨリハ其言正理ニ近キヲ覺フ、又保羅バルルノ詩ノ如キモ道理ナシト云フベカラズ、曰ク、我行フ所ノ事ハ、吾自ラ之ヲ許サルナリト、

○吾等カ事ヲ為スハ總テ己カ身ノ為メニ謀ル者ナリト云ヘル説ハ根據スベカラザルノ言ニシテ、吾等ノ意思ハ全ク之ニ反シ、常ニ吾等ノ當ニ行フベキノコトヲ行ハントスルニ在リ、所謂當ニ行フベキノコトハ、道理ニ協フノ事ニシテ吾身ノ利益ヲ求ムルノコトニ非ズ、吾等ノ良心ハ此事ノ是非ヲ裁斷シテ決シテ之ヲ非ナリトセズ、切ニ之ヲ稱譽シテ其事ノ善ナルヲ認定スルヤ必セリ、仮令向上ノ利益ヲ謀ラズシテ行フコトハ至テ賤シムベキコトナリト云フ説アルモ、吾等ノ良心ハ必ス此ノ如キ卑陋ナル主義ヲ以テ行ヘル所業ヲ罪スルナルベシ、  
○然レドモ吾等ノ自ラ覺悟スル所ニ據レバ利益ヲ以テ道理ノ基礎トスルノ説ヲ以テ盡ク非ナリト為スコト能ハザルナリ、

○要益ノ語ヲ以テ多数ノ人衆ノ利益ヲ為ス者ト為シテ之カ説ヲ立ル者吾儕若更ニ要益ナル語ノ意味ヲ廣衍シ、唯一人ノ利益ヲ指ス者ニ非ズシテ多数ノ人衆ノ利益ヲ指ス者ト為スル時ハ、此要益ナル語ハ、道理ノ根礎、道德上ノ義務ノ基本ト為ルベキ者カ、此ノ如ク説ヲ立ルト雖ドモ猶撃破スベカラザルノ阻碍アリテ常ニ其前ニ横ハレリ、

○此理論ヲ行ハントスルニハ、先ヅ如何シテ多数ノ人衆ノ利益ヲ進ムルコトヲ得ベキカト云フコトヲ知ラザルベカラズ、凡ソ事物ノ傾向ト成果トハ、人智ヲ以テ之ヲ測ルコト能ハザル者多シ、吾儕實ニ未タ如何ナル事ヲ為サバ、衆人ノ利益ト為ルベキカヲ詳ニスルコト能ハズ、若シ其事ノ實ニ利益ヲ為スヤ否ヤヲ知ラントスルニハ、其事ノ效驗ヲ精算セサルベカラズ、此ノ如キ勞ヲ為ストモ、到底之ヲ以テ確然ノコトト為スコト能ハザレバ、其論スル所ト定ムル所トハ果シテ謬誤ナキ者ナルカ未之ヲ信スルコト能ハザルナリ、故ニ我儕ハ道德上ノ行為ニ就テ未タ能ク公衆ノ幸福ヲ為シ得タルト云フ事ヲ知ラザルノ間ハ其事ノ道理ナルカ非理ナルカヲ決定スルコト能ハザルナリ、事ノ效驗ヲ預算シテ謬ラザルト云フコトハ尋常平民ノ材能ヲ以テ能クスベキコトニ非ズ、獨聰明ニシテ先見ノ智アル人ノミ僅ニ能ク此判断ヲ為スコトヲ得ベクシテ、其人ト雖ドモ猶夫ヲ以テ確乎タル定見ヲ立ルコト能ハザルベシ、然ル時ハ、唯世界上少数ノ人ノミ道理非理ノ別ヲ知リテ人道ニ協フノ事ヲ行フコトヲ得ベク、其他ノ億兆ノ人衆ハ皆道理ノ辯別ヲ知ルノ智ナクシテ道德ニ合フコトヲ

行フコト能ハザル者ト為サルベカラズ、

○事○實○ト○相○合○ハ○ズ○

利益ヲ以テ道理ノ根礎トスルノ理論ハ之ヲ實

事ニ照シテ考フルトキハ直チニ相合ハザルノコトアリテ、益其説ノ通セザルヲ覺フ、今事實ニ據テ言ヘバ、未タ其事ノ正邪ヲ知ラサルノ前ニ、既ニ其事ノ效驗ヲ算スルトイフコトハ必無キノコトニシテ、吾等ガ常ニ事ヲ行フニ決シテ此ノ如キ覺悟ヲ生スルコトナシ、吾等ハ固ヨリ公衆ノ幸福ヲ進ムルニ庶幾キハ如何ナル行為ナルカト云フコトヲ知ル能アリト雖ドモ其事ヲ為スノ始ニ於テハ敢テ此事ニ考問ヲ費スコトナキヲ以テ竟ニ其事ノ何タルコトヲ知ラザルナリ、吾等カ行為ノ適當ナルヤ否、道理ニ協フヤ否トイフコトヲ知ルハ天性ノ然ラシムル所ニシテ事ノ效驗ヲ見テ之ヲ決スルニ非ス、又事ノ便宜ヲ根礎トシテ之ヲ定ムル者ニ非ルナリ、○論者ノ所謂要益ナル者ハ一人ノ幸福利益ヲ指ス者ナルカ公衆ノ幸福利益ヲ指ス者ナルカ、尋常ノ道德上ノ行為ノ覺悟ニ於テハ、一人ノ為ニスル者ト公衆ノ為ニスル者トハ其理非全ク相反スル者ト知ルナリ、是要益ノ理論ノ利益ヲ求ムルノコトニ非ズ、吾等ノ良心ハ此事ノ是非ヲ裁断シテ決シテ之ヲ非ナリトセズ、切ニ之ヲ稱譽シテ其事ノ善ナルヲ認定スルヤ必セリ、仮令自己ノ利益ヲ謀ラズシテ行フコトハ至テ賤シムベキコトナリト云フ説アルモ吾等ノ良心ハ必ズ此ノ如キ卑陋ナル主義ヲ以テ行ヘル所業ヲ罪スルナルベシ、

○然レドモ吾等ノ自ラ覺悟スル所ニ據レバ、利益ヲ以テ道理ノ根礎ト

スルノ説ヲ以テ盡ク非ナリト為スコト能ハザルナリ、

○要益ノ語ヲ以テ多数ノ人衆ノ利益ヲ為ス者ト為シテ之カ説ヲ立ル者、吾儕若更ニ今要益ナル語ノ意味ヲ廣衍シ、唯一人ノ利益ヲ指ス者ニ非ズシテ多数ノ人衆ノ利益ヲ指ス者ト為スル時ハ、此要益ナル者ハ、道理ノ根礎、道德上ノ義務ノ基本ト為ルベキ者カ、此ノ如ク説ヲ立ルト雖ドモ猶撃破スベカラザルノ阻碍アリテ常ニ其前ニ横ハレリ、

○此理論ヲ行ハントスルニハ、先ツ如何シテ多数ノ人衆ノ利益ヲ進ムルコトヲ得ベキカト云フコトヲ知ラザルベカラズ、凡ソ事物ノ傾向ト成果トハ、人智ヲ以テ測ルコト能ハザル者多シ、吾儕実ニ未タ如何ナル事ヲ為サバ衆人ノ利益ト為スベキカヲ詳ニスルコト能ハズ、若シ其事ノ実ニ利益ヲ為スヤ否ヤヲ知ラントスルニハ、其事ノ效驗ヲ清算セザルベカラズ、此ノ如キ勞ヲ為ストモ到底之ヲ以テ確然ノコトト為スコト能ハザレバ其論スル所ト定ムル所トハ果シテ謬誤ナキ者ナルカ之ヲ信スルコト能ハザルナリ、故ニ我儕ハ道德上ノ行為ニ就テ、未タ能ク公衆ノ幸福ヲ為シ得タルト云フコトヲ知ラザルノ間ハ其事ノ道理ナルカ非理ナルカヲ決定スルコト能ハザルナリ、事ノ最モ通ゼザルノ所ナリ、凡ソ道德上ノ裁断ヲ以テ道理ト為シ非理ト為スコトハ、論者ノ言ヘル如キ精微ナル考案ヲ用フルコト能ハザルノ時ニ於テ既ニ定ムルコトナリ、例ヘハ今爰ニ童子アリテ其年齢已ニ能ク道理ヲ會スルニ足ル時、其童子ニ向ヒ、大ニ道理ニ戻レル邪曲不正ノ説話ヲ為サバ、童子ハ之ヲ怒リ、先尙險ニ赤ヲ発

スベシ、童子ガ已ニ固有セル道德ノ天性ヲ以テ此説話ノ非理ヲ裁断シ、之ヲ賤シメ、之ヲ罪スルノ状ハ其目、其肩、其握リタル拳、即チ其容貌形状ニ由リテ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、問、此童子モ亦其事ノ便宜利益ヲ考ヘテ其理非ヲ定メタルカ、其事ノ效驗ヲ算シ、公衆ニ於テ其邪惡ヲ罪シタルノ後ニ始メテ之ヲ決シタルカ、

○要益ハ義務ヲ預料ス

要益ヲ以テ道德上ノ義務ノ根礎トスルノ説

猶其他ノ障碍アリ、右論スル処ノ主義ニ據ル時ハ、要益ヨリシテ道德上ノ義務ノ成立ヲ預料スベクシテ、要益ヲ以テ義務ノ根礎ト為スコト能ハズ、例ヘバ此事ヲ行フハ幸福ヲ得ルノ途ナリト知ル時ハ此説ノ代言人タル者ハ、故ニ余ハ其事ヲ行フノ義務アリト云フベシ、然レドモ代言人ガ故ニト云フハ何ヲ以テ然ルヤ、何故ニ夫ヲ以テ為サバ爾可カラザルノコトト為スヤ、余若シ好シテ、吾身ノ幸福ヲ得ベカラザルノコトヲ為ス時ハ之ヲ何ト云フベキヤ、何レノ事ヲ以テ吾身ニ固有スル所ノ者トスルヤ、幸福ヲ求ムルモ、幸福ヲ棄ルルモ其間ニ我等ノ義務ハ有ルベカラズ、又要益ヲ以テ便利ノ義ニ用フルノ説ニ於テモ亦同シク其事アリ、凡ソ我々要用便利ト見タルコトハ尽ク之ヲ行フトイフ者ハ之ニ由テ生スル義務ヲ預料スル者ナリ、然レバ是ニ付テハ一疑問ノ遂ニ止マリテ融解セザル者アリ、曰ク要益ノ理論ヲ立ル者ノ預料セル義務ノ根礎ハ何物ゾト、

○第二 法律ヲ以テ道理ノ根礎トスルノ理論 今爰ニ道德上ノ義務ノ基礎ヲ以テ一定セル法律ノ地面ノ上ニ置トイフ説ヲ述ブベシ、凡ソ法

律ハ人造ノ者アリ天造ノ者アリテ、或ハ其事ヲ勸メ、或ハ他ノ事ヲ禁ズルニ在リ、吾等ノ人ノ行事ヲ賞讃シ或ハ之ヲ誹議シ、又吾等ノ義務ヲ證定スルハ皆此法律ニ憑據スル者為リ、人類ノ行為ノ正、不正、道理、非理トイフコトハ、只法律ニ協フト、法律ニ違フトヲ以テ之ヲ決定スベキコトナリ、

○此説ヲ主トスル者ノ説ニ據ルトキハ、天下ニ人造ノ法律ヨリ貴キ者ナク、公道ノ源、及ヒ道德ノ義務ノ根基ハ皆之ニ在リト為ス、人造ノ法律ハ事物ノ道理非理ヲ定ムル者ニシテ十分ナル道德ノ至極ノ準度ト為スコトヲ得ベシ、故ニ人造ノ法律ノ外ニハ別ニ高等ノ法律ト云フ者ナクシテ、凡ソ吾等ガ此ノ如キ事ヲ為スベク、此ノ如キ事ヲ為スベカラストスルハ、皆其土地ノ法律ノ之ヲ望ムニ由リテ之ヲ定ムルコトニテ其外ニハ、今日ノ行為ヲ可否取捨スルノ條理ヲ有スル者アルコトナシ、

○此理論ハ古代ノ「ソヒスト」学派ノ説ニシテ、布刺多ハ其書ノ「デレジビユス」、亜立斯度德ハ其「エセツクス」ノ書ニ於テ此論ヲ記シ、當時既ニ此ノ如キ理論アルコトヲ言ヒタリ、

○近代ニ至リテモ喀仙底ガクセンデイ、霍畢士ホツベスノ二家毅然トシテ此理論ヲ保守シテ之ヲ主張シ、其通常世間ノ意想ト普通ノ正義トニ背キ、道德ノ主義ヲ破壊スルコトヲ厭ハザリシナリ、然レドモ智慮アリテ縝密ナル人ヨリ愛國ノ心深キ人ノ所行ニハ罕レニハ専ラ法律ニ依據スルコトノアル者ナリ、此ノ如キ人々常ニ本国ノ憲法規則ヲ遵守スルコトノミニ心ヲ委ヌルヲ以テ

緊急ノ事アル時ハ、己ノ身ヲ忘レ、唯國ノ法律ノミヲ以テ最上審院ト為シ、夫ヨリ以上ニハ復威權アル者ナシト為シ、慎ミテ之ヲ循奉スル者ナリ、此ノ如ク法律ヲ信據スル者ト雖ドモ法律ヲ以テ義務ノ基礎トスル説ヲ以テ十分ニ自然ノ道理ニ協フ者ト為サズ、又学社ヲ結ンテ此説ヲ保守スル者アルコトヲ聞カザルナリ、

○上ニ出セル二人ノ學士ハ既ニ萬物ハ一元質ニ歸スルト云フ説ヲ非トシ、又修徳学ノ主義ニ於テ勢力ハ道理ヲ為スマイト、メイキス、ライトト云フ説(此説ハ日耳曼ノ理学者之ヲ地獄ノ理説ノ名ヲ命ゼリ)ヲモ斥ケ、又上帝ヲ蔑如スル「アテイズム」ノ説モ排セリ、是等ハ皆其當ヲ得タル者ナリ、然ルニ獨人類ノ道德ノ本原ヲ論スルコトハ甚タ忽畧ニシテ、唯人造ノ法律ハ道德ノ定規ニシテ道理ライト又正理ノ基礎ナリト説キシハ甚異トスベキコトナリ、

○前説ノ論駁　前説ノ如キハ理學ノ名ヲ冒スハ頗ル適當セザルコトニシテ、若シ靜着シテ其説ノ非ヲ論セントスルニハ、唯如何シテ此人ノ法律ト他人ノ法律ト比較スベキカト問ハゞ、夫ニテ十分ニ之ヲ論破スルコトヲ得ベシ、蓋シ前説ヲ主トスル者ハ法律ヲ以テ心理人道ノ理ノ根原及ヒ基礎トスレバナリ、試ミニ問フ、(トラロン)達拉固ノ律ト、(ワロン)梭倫、(リクルゴス)利古爾尼ノ律ト比較シ、ネロ尼囉ノ法ト(コンスタンチン)剛士但丁ノ法ト比較スルトキハ、一ハ濃厚ニシテ慈愛アリ、一ハ暴横ニシテ殘忍ナリ、能ク此人ノ法ヲ以テ他人ノ法ヨリ正直公義ナリト言フコトヲ得ベキヤ、若シ法律ナル者ハ自己ニ威權ヲ有シ、自己ニ道理ヲ造リ、法律ノ背後ニハ復タ上控ノ審院ナク、即チ公

直<sup>ユレク</sup>ノ至極ノ準度<sup>スタン</sup>ナシトスル時ハ、一タヒ発シテ命令ト為リ、定マリテ法律トナリタル事ハ、其事ノ如何シテ論セズ、総テ之ヲ以テ正理ト為シ、必ラス之ニ服従セザルベカラザル者トナリ、彼是ヲ計較スルトイフコトハ却テ理ニ協ハザルノコトトナルナリ、故ニ此説ニ従フ時ハ甚シキ暴横ノ君ノ法律モ寛厚善美ノ君ト法律ト同様ニ之ヲ公正義直ノ法律ト為シ、吾等ノ良心ヨリ之ニ服従セザルベカラズト言フニ至ルベシ、夫レ法律ハ法律ナリ<sup>天理ニ非ル</sup>而シテ又事<sup>マツ</sup>ナリ<sup>道理ニ非</sup>法律ニ道德上ノ不善アルト云フコトハ理ニ合ハザルノコトニシテ又有ル能ハザルノコトナリ、且法律ハ国ニ依リテ異ナル者ニシテ、此地ニ在テ正理トスル所ノ事モ、山川ヲ踰エルトキハ忽チ非理トナルコトナリ、荷<sup>オランダ</sup>蘭國ニ於テ德行トスルコトモ、比<sup>ベルギー</sup>利時國ニ於テ惡業ト為ルコトアリ、

○上帝ノ法律ヲ以テ正理ノ基礎トスル説　　上帝ノ法律及ヒ其意思ヲ以テ道德ノ規則ノ根原トスルノ説ハ、前ノ説ニ比スレバ大ニ道理ニ協ヒ、理學ノ教ニ近キ者ニシテ<sup>スコラスチック</sup>ス格拉斯チックニ於テハ<sup>ペーリ</sup>巴利及ヒ其他ノ諸學士之ヲ採用スル者多シ、然レドモ此説ニモ亦攻破スベカラサルノ異議アリ、

○前説ノ論駁　　第一　若シ此説ヲ以テ正當ノ者ナリトスル時ハ、上帝ノ意思ナル者ハ常ニ變化スル者ト為サルベカラズ、已ニ變化スル時ハ今非理トスル所ノ事モ頃刻ニ正理トナルベク、善惡德罪皆一時ニ其性質ヲ變化スベシ、上帝ノ今日ノ意思此ノ如シト雖ドモ、其外ニ又

他人ノ意思アルコトヲ知ラサルベカラズ、今日ノ命令此ノ如シト雖ドモ、其外ニ又他ノ命令アリテ十誠ヲ顛倒スルコトアルヲ考ヘザルベカラズ、然ル時ハ今命令スル所ノ事モ非理トナルコトアルベク、今禁止スル所ノ事モ正理トナルコトアルベシ、兇殺、姦淫、偽證、竊盜、貧慾ノ如キモ德行ニシテ稱譽スベク、従事スベキ者トナリ、己カ父母ヲ恭敬シ、吾同儕ヲ愛スルコト吾身ノ如クスルノ等ノコトモ道德上ノ惡事トナルベシ、又修徳上ノ善惡ニ就テハ自己ノ自得ニ於テハ之ヲ分別スルコト能ハズ、其分別ハ単ニ或ハ勸奨シ或ハ禁止スルノ一命令ニ在リ、即チ上帝ノ意思ニ因リテ正理非理ノ分界ヲ立ルコトトナルナリ、

○彼ノ上帝ハ神聖ナレバ、其命令ニ不善トイフコトナカルベシ、上帝カ確然不動ノ者ナレバ其意思ニ變化ハアルベカラズトイフ説ハ、此事ニ付テノ疑問ヲ解釋スルニ足ラズ、此事ニ付テノ疑問ハ其事<sup>マツル、オ</sup>フハクトノ上ニ就テ言フニ非ズシテ、實ニ言フ所ノ如クナルベキヤ否ヤニ就テ之ヲ問フ者ナリ、其疑問ニ曰ク、若シ上帝其法律ヲ施行スルニ由リテ、罪業ヲ棄擲スルコトヲ得バ、偏ニ上帝ノ法律ヲ奉スルトキハ罪惡ニ變シテ神聖トナルコトヲ得ベキカ、人間ノ行為ノ正不正ハ全ク上帝ノ法律ノ内ニ成立スル者ナルカ、

○第二　若シ上帝ノ法律ヲ以テ人ノ行為ノ善惡ヲ定ムルコトナクンバ、人ノ行為ニハ德モナク惡モナク、善モナク不善モナク、スベテ何事ニモ差別ナキ様ニナルベシ、然ル時ハ同輩ヲ嫉怨シ、他人ノ財産、令名、生

命ヲ奪フコトノ如キモ、畜之ヲ許スベキノミナラズ、反テ之ヲ称賛スルニモ至ルコトアルベシ、此ノ如キ時ハ、世界上ニ不義モナク不善モナカルベシ、

○第三 上帝ノ法度ハ正理ニ協ヒ、其命令ハ神聖ナレバ法律ハ、公正善良ナリトイフ説ハ未タ其當ヲ得ザルナリ、凡ソ宇宙間ニ正理ノ準度ト義務ノ根原トイフ者ナキ時ハ、法律ハ是等ヲ外ニシテ、何物ニ據リテ其望ム所ノ目的ヲ得ルヤ、上帝ノ法度ハ公平ニシテ正直ナリト云フハ、恰モ上帝ノ法度ハ上帝ノ法度ナリト云フガ如シ法律ヲ以テ直チニ正理ナリトイフ説ヲ駁ス若シ神聖公正等ヲ以テ法律上ヨリ定ムルコトトスルトキハ道德ノ本性ハ全ク法律ノ中ニ存スル者ナルカ、然ルトキハ其法律ノ中ニ存スルノ状ハ如何ン、若シ法律ナル者ハ道德ヲ造成スル者ナリトスル時ハ、法律ノ自己ニ道德ノ性質ヲ所有スルノ理ハイカン、正理トイフヲ以テ上帝ノ創造スル者ナリトスル説ハ姑ク之ヲ信用スベシ、然レドモ正理ノ創造ハ法律ノ創造ノ以前ニ在ルコトハ決シテ疑ヒナキコトナリ、

○第四 若シ上帝ノ法律ヲ以テ正理ノ基礎トスルノ説ヲ主張スルトキハ遂ニ上帝ヲ以テ道德ノ外ニ追出セシムルニ至ルベシ、法律ハ正理ノ基礎ニシテ其法律ハ上帝ヨリ来ル者ナリ、法律ノ背後ハ復タ他ノ法律ナシ、故ニ法律ノ外ハ正理ノ基礎ナシ、若シ此ノ如ク説キ来ル時ハ上帝ノ身ハ法律ト離レタル者ニシテ、帝ハ法律ヲ作ル者ニシテ當ニ其身ニ法律ヲ有レバナリ即チ道德ノ性ナキ者トナルナリ、夫レ上帝ハ自己ノ意思好尚ノ外ニハ復タ之ニ服従スベキ己カ身ノ正理非

理ヲ定ムベキ法律アルコトナシ、上帝ノ為ス所ハ此一事モ正理ニシテ他ノ一事モ亦正理ナリ、到底何事モ皆正理ナリ、詳密ニ之ヲ言フ時ハ、上帝ノ身ニハ正理非理ノ両道アルコトナシ、

「修徳之學」解題

「修徳之學」は、八二七―一三三「道義學叙言 福氏道徳學叙言」に「道義之學叙言」「福氏道徳學講義」と合綴されている。

「修徳之學」は Joseph Haven (一八一六―一八七四) の著述である *Moral philosophy: including theoretical and practical ethics.* の部分訳である。初版は、一八五九年に出版されており、版を重ねているが、確認できた初版と西村翻訳に矛盾するところはない。

原書の構成は、詳細な内容目次の後に、本文が Introduction、DIVISION FIRST THEORETICAL ETHICS、DIVISION SECOND PRACTICAL ETHICS からなる。DIVISION FIRST の下位区分は Chapter、その下位は (すべての Chapter ではないが) Section であり、DIVISION SECOND の下位区分は Part、その下位は Chapter、さらにその下位は Section である。

西村は、Introduction、DIVISION FIRST の Chapter I と Chapter II の中途まで訳している。DIVISION を訳し、Chapter を篇、Section I を第一解、Section II を第二節と訳している。

注意したいのは、「日本 下総 西村茂樹 譯」と記していることである。西村が、茂樹と名乗るのは明治四(一八七二)年八月からであるから、この資料の翻訳はそれ以後である。下総とする記述が西村の下総在住を意味するとすれば、翌明治五年五月に東京へ移るまでのこととなる。

Joseph Haven は、マサチューセッツ州に生まれて、アマースト大学の知識哲学、道徳哲学の教授を勤めた。この翻訳「第一篇 道理ノ性 第一解」で「猶此題目ヲ詳ニ考究セント欲セバ讀ム者ハ余ガ著セル心智ノ書ヲ觀ルベシ」と言及されている。「心智ノ書」は *Mental Philosophy: including the Intellect, Sensibilities, and Will.* である。この書は一八五七年初版が出ているが、実験心理学以前の記念碑的テキストブックとする評価が与えられている。

参照 *Amherst Professor Joseph Haven and His Influence on America's Great Social Critic, Thorstein Veblen.* By Gerald F. Vaughn. *Historical Journal of Massachusetts* Volume 34, No. (Winter 2006).

上編

福氏道德學ハ全部ヲ上下ノ二編ニ分チ、上編ハ道德ノ理論ヲ挙ゲ、下編ノ道德ノ實際ヲ説ク、又其上編ヲ分チテ、一序論、三篇ト為ス、

第一篇

序論

〔甲〕人類ノ動作アタクシ

動作ハ又単ニ動ト譯スベクシテ俗語ニ働キトイフ位ノ義ナリ、動作ハ行為ドト同ジカラズ、行為ハ専ラ身体ニ属スレトモ動作ハ心トド身体ト双方ニ通ジテ之ヲ言フ、

○道德學トイヘル學ノ義ニ付キテハ諸家ノ説各同ジカラズ、或ハ人ノ職分○(ヂューチイ)ノ學ナリト言ヒ(職分ハ俗ニ義務ト譯スル者ナリ、然レドモ義務ノ訳字隱当ナラズ、朱子ガ大學ノ序ニ、無レ不レ有レ以知其性分之所ニ固有ニ職分之所ニ當レ為而各俛焉以盡レ其力甲トアリ、此職分ノ字恰モ英語ノ「ヂューチイ」ノ語ニ適當ス、故ニ今之ヲ職分ト訳ス)或ハ人ノ責任○(ヒリスボンシ)ト職分トヲ講明スルノ學ナリト言ヒ、或ハ人ノ動作(正邪ノ如キ)ヲ指向整定スルノ學ナリト言ヒ、或ハ道德性ノ感覺モラル○ヲ并○ノ學ナリト言ヒ、或ハ人類ノ行為○ト及ヒ處世○ノ道ヲ論ズルノ學ナリト言ヒ、其説一定セザルガ如シトイヘドモ、諸家ノ説ヲ通覽シテ初メテ道

徳學ノ全体ヲ領會スルコトヲ得ベシ、但シ其職分ト言ヒ、感覺トイヒ、行為ト言フモ其初メハ人心ノ動○(即チ人類ノ動作)ニ因ラザルハナシ、道德學ノ首ニ於テ先ツ人類ノ動作ヲ説クハ是ガ為メナリ、

○動作トハ能力ノ働ナリ、能力トハ認識領會感覺意思等ノ如キ心ノ活動力ノ総名ナリ、動作ニハ外動○ト内動○ト二者アリ、外動ハ動作ノ外面ニ現ハル、者ニシテ、内動ハ内ニノミ働キテ外ニ現ハレザル者ナリ、世間通常ノ法ニテハ動作ヲ分チテ三ト為ス、一ヲ思想○ト云ヒ、二ヲ言語○トイヒ、三ヲ行為○ト云フ、然レドモ審ニ之ヲ論ズルトキハ、思想ト言語トハ動作ニシテ、行為ハ我力ニテ為シ得ベキコトヲ為スノ義ナリ、動作ニハ又否定○ト肯定○ト二者アリテ、廢棄○ト委託○トノ働ヲ為スナリ、動作ニ反シテ又受動○アリ、動作ハ變化ヲ生スル所ノ力ニシテ、受動ハ變化ヲ受クル所ノ力ナリ、動作ノ原語ニアクト、アクションノ別アリ、アクトハ単一ノ働ヲ指ス者ニシテ専ラ之ヲ心ニ用ヒ、アクションハ聚合ノ働ヲ指ス者ニシテ、常ニ之ヲ身体ニ用フ、

○人類ノ動作○トハ、凡ソ人類ハ道理ヲ有セル動物ニシテ、十分ニ知慧○ト意思○トノ能力ヲ有セリ、此動物(人類)ノ動作ヲ人類ノ動作ト云フ、動作ハ必ス其性質○ト應効○トアリ、此性質ト應効トヲ見分クルハ道理ノ力ナリ、其性質ト應効トヲ見分ケタル上ニテ、其動作ヲ決定スルハ意思ノ力ナリ、即チ余等ガ進ンテ働カントスルニハ、必ス或ル目的○ト定メテ之ヲ行フナリ、此時ハ動作ハ其目的ヲ得ントスルノ方法トナ

ルナリ、

○目的トハ、之ヲ求メンガ為メニ動作ヲ起ス所ノ主トナル者ナリ、故ニ古人之ヲ解シテ目的ハ事ヲ行フガ為メニ、希望決定スル所ノ原理ナリト言ヘリ、凡ソ目的ハ既ニ其一個ヲ得ルトキハ、其目的ヲ方法トシテ更ニ他ノ目的ニ達スルコトアリ、是ニ由リ目的ヲ分ツテ最上ノ目的シユフリイム、エント、從屬ノ目的サトルネ、イト、エントトノ二者ト為ス、最上ノ目的トハ專ラ自己ノ必要ノ為メニ求ムル所ノ目的ニシテ、從屬ノ目的ハ他ニ別ニ要スル所アリテ求ムル所ノ目的ナリ、最上ノ目的ノ中ニモ又單一ナルシムフリシテ最上ノ目的ト第二等ニ屬スルセコングム、コイト最上ノ目的トノ二者アリ、單一ナル者ハ他ノ目的ヲ棄テ專ラ自己ノ必要ノミニ任カスル者ナリ、第二等ノ者ハ、連続セル動作ノ中ニ於テ、其最後ニ留マル所ノ目的ヲイフナリ、

○人タル者ガ其目的ニ達セントシテ為ス所ノ動作ノ上ニ自ラ法則ラ(天則)即チ規則ル(規矩又準則)アル者ナリ、宛モ天地間ニ現ハル、現象ウツク、メシ現事イフニ自ラ法則規矩アルガ如シ、造化ノ法則ヲ知ルニハ、先ツ人類ガ其現象現事ニ付テ得タル所ノ知識ヲ記憶聚合シ、其經驗ヲ推度シテ、其確實ナル法則アルコトヲ知ルナリ、然レドモ惟之ヲ知りタルノミニテ、人類ノ智ヲ以テ其現象ノ原質及ビ其変化ニ些少ノ感觸ヲモ及ボスコト能ハズ、人事ノ動作ノ法則ハ是ニ異ニシテ、元ト造化、即チ上帝ノ意思ト、人類ノ特性品質ヨリ出タル者ニシテ、其天則ハ、人類自ラ之ヲ以テ其動作ヲ整理スル所ノ規矩ナリト信ゼリ、造化ノ法則ハ惟確實ナリト言フノ

ミナリ、例ヘハ火星ハ楕円形ニ其軌道ヲ運行スト云フガ如シ、人類動作ノ法則ハ命令ニ出ル者ナリ、此ノ如キ命令ニ出タル法則ハ即チ之ヲ規矩ト名クベキ者ナリ、(休物尔氏ノ道德論) ヒューエル天地間ノ現象現事ニ尽ク法則アリトイフハ詩經大雅ノ天生蒸民ニ有レ物有レ則ノ義ニシテ、詩經ノ則ノ宗ハ即チ此章ノ法則ト同意ナリ、人類ノ法則ハ命令ニ出ルトイフハ、中庸ノ首章ニ天命此之謂レ性、率レ性此謂レ道、修レ道之謂レ教ト云フ者之ナリ、此章言フ所ノ規則即チ規矩ハ中庸ニ言フ所ノ道ナリ、

○此規矩(規則)ヲ知ルコト、此規矩ニ從フコト、動作ノ性質ト其応効トヲ見出スコト、熟慮ト先見トヲ以テ動作スルコト、其動作ヲ以テ目的ニ達スルノ方法ナリト理會スルコトハ、何レモ道理ヲ具ヘタル動物、即チ責任ヲ負ヘル動物ノ特性ナリ、禽獸ハ方法トノ結合ヲ知ラズ、唯衝力イムスヲ以テ動作ヲ起スナリ、人類ハ之ニ異ニシテ、ヨク方法ト目的トノ結合ヲ知り、適當ノ方法ヲ用フルトキハ、其望ム所ノ目的ニ達スベキヲ以テ、是ニ由リ其規則ニ從フコトヲ得ベシトイフコトヲ領會セリ、此ノ如ク為ストキハ、其動作ヲ名ケテ人類ノ動作ヒューマン又道德ノ動作モラルト云フ、○人類ノ動作ハ分ツテ正ライト邪トノ二者ト為スベシ、(英國人ハ常ニ正邪ノ語ヲ用ヒテ善惡ノ語ヲ用フルコト罕ナリ、然レドモ已ニ正邪ト言ヘバ善惡モ其内ニ包含スルコトト知ルベシ) 此正邪トイフコトハ常ニ必ス天則即チ規矩ト關係ヲ相為ス者ナリ、天則ナキトキハ從順モナク背戾モナク、又正理モナク邪曲モナシ、道德ノ法則即チ規則ハ、或ハ目的ヲ達

センカ為メニ、宜シク為スベキ或ル動作ヲ差図スルナリ、然レバ健康ヲ保ツ為メニ能ク節度レイトヲ守レリ、此時其動作ハ天則即チ規則ト相協合セラルヲ以テ、其動作ハ正ト言フベシ、又節度ヲ守ルコトハ健康ヲ得ル為メノ正法ナリ、此時ハ正トイヘル形容詞ハ他ニ干係スルノ語ナリ、即チ動作ノ目的、及ヒ其目的ヲ得ル所ノ規則ニ干係スルナリ、然レドモ動作ノ目的ハ、其一個ヲ達スレバ、更ニ他ノ動作ヲ起スノ方法トナリ、以テ更ニ高等ナル目的ヲ得ンコトヲ求ムル者ナリ、此場合ニ於テハ、最初ノ目的ノ價值如何ハ、後ノ高等ノ目的ノ價值ニ由リテ定マルナリ、又其最初ノ動作ニ於テ遵フベキ規則（其目的ヲ得ルノ方法トナル）ノ勢力イカンハ、其上ニアル高等ノ規則ノ勢力イカンニ由リテ生スル者ナリ、

○休物ルヒユ曰ク、方法目的トノ連続（從属ノ規則ト、高等ノ規則トノ連係ヨリ生スル）ハ、或ル場所ニ於テ終極ヲ告ケサルベカラズ、又初等ノ目的ハ、只高等ノ目的ノ先導トナルノミニシテ、高等ノ目的ノ價值ノ外ニハ別ニ自己ノ價值トイフモノヲ有セザルナリ、高等ノ規則ハ、自己ニ相応ノ堅固ヲ有スルノミニシテ從属ノ規則ニ其堅固ヲ付與スルコトナシ、然レドモ高等ノ規則ナキトキハ、從属ノ規則ハ自ラ堅固ナルコトヲ得ザルナリ、

○最高等ノ規則ニ適合スル者ハ純然タル正理ナリ、此ノ如キ者ヲ単ニ（殊別ノ目的及ヒ規則ニ干係ナク）正ト又正理ト名ク、正ノ反對ハ邪トナリ、正ト邪トハ道德ノ動作ノ特性ナリ、道德ノ法則、即チ規則ニ適合スルコ

トモナク反對スルコトモナキ動作ヲ名ケテ無ク差別トノ動作トイフ、或ハ坐シ或ハ立チ或ハ歩行スルガ如キ、単ニ身体ノ動キヨリ生スル所ノ動作ハ、正ニモ属セス邪ニモ属セザルナリ、又目的ヲ立テ為スコトニテモ遊娛ノ為メニ或ハ歩行シ、或ハ歩行セザルガ如キハ亦之ヲ無差別ノ動作ト名クベシ、然レドモモシ智識ニ本ヅキ、又ハ主意トアリテ為スコトノ動作ハ、道德上ノ動作ニシテ、正ナルアリ邪ナルアリ、単ニ身体ノ動キヨリ起ル動作ハ動作ノ抽象トニ過ギザル者ナリ、（動作ノ抽象トハ或ル動作ノ中ノ一分支トイフノ義ナリ）人類ノ動作ト稱スル者ハ總テ熟慮シテト為スコトノ動作ナレバ、其動作ハ或ル正理ニ適フカ或ハ否ラザルカノ二者ニ歸スベシ、

○斯ト究格ト（古代希臘ノ哲学ノ学派ノ名）ノ学士ハ曰フ、凡ソ人ノ動作ハ正カ邪カノ二ツニ出デズ、正シキ動作ヨリ生スル事ハ皆正理ニシテ、邪ナル動作ヨリ出ル事ハ皆邪曲ナリト、然レドモ其動作ト事情トトノ如何ニ由リテ或ル徳ハ他ノ徳ヨリモ高貴ニシテ大ニ賞賛スベキコトアリ、或ル不徳ハ他ノ不徳ヨリモ甚悪クシテ大ニ嫉ムベキコトアリ、（西塞魯トノ書ニ出ヅ）

○動作ハ又有形ノ正又善トト合成ノ正又善トトイフコトアリ、其目的意向ノ如何ニ關係セズ、其動作ノ道德ノ法則ニ協フ者ヲ名ケテ有形ノ正トイフ、又其目的趣意ハ正シクシテ、其動作ハ有形上ノ邪惡ニ非サル者ヲ合成ノ正ト云フ、例ヘバ多クノ貨財ヲ與フル者ノ如キハ、其人ノ



モ共ニ其本人ノ力ニシテ、其人自己ノ意思ノ働ニ依リテ之ヲ決定スルコトナリ、故ニ或ル動作ハヲ起スモ、或ル動作ヲ制止スルモ共ニ本人ノ智識ト企図トニ由リテ之ヲ為スナリ、反意ノ動作ハ其動作ノ原因ヲ為ス者、本人ノ身ニ在ラズシテ、本人ノ外ニ在リ、本人ノ智識ト企図トニ由ラズシテ起ル者ナリ、今本人ハ或ル動作ヲ為サントスルモ為スコト能ハズ、又或ル事ヲ為サミラントスルモ、已ムコトヲ得ズシテ之ヲ為スヲ名ケテ反意ノ動作ト云フ、即チ其本人ノ本意ヨリ出タル動作ニ非ザル者はナリ、故ニ反意ノ動作ハ本人自ラ之ヲ為スガ如クナレトモ、他ニ力アル者アリテ、之ヲ為スナリ、本人自ラ之ヲ為サミルガ如クナレトモ、他ニ力アル者アリテ之ヲ為サシメザルナリ、

○又本人ハ他ノ抑制ヲ受ケ居ラズシテ、其為ス所ハ本人ノ意ヨリ出タル者ナレドモ、十分其意ニ於テ之ニ満足セズ、十分ニ其決定ヲ快シトセズ、其動作ハ少シク狐疑躊躇ノ意ヲ帶ブル者アリ、此ノ如キ者ヲ名ケテ混合ノ動作トイフ、即チ單純ナル本意ニ非ズ又單純ナル反意ニモ非ズ、本意ト反意ト相混合セル者ナリ、譬ヘバ、海上ニテ難風ニ遇ヒタル時、其船ノ沈没ヲ防ガシメメニ貨物ヲ海中ニ投シ、或ハ途中ニテ劫盜ニ逢ヒタルトキ己ガ生命ヲ助カラシメメニ、財囊ヲ盜ニ與フルガ如キハ、共ニ混合ノ動作ナリ、即チ大ナル災難ヲ免カレンガ為メニ小ナル災難ヲ擇取ルナリ、

○此ノ如ク區別ヲ立ツレドモ、道德者ガ為ス所ノ道德ノ行為ハ、皆本意

ノ動作ナリ、凡ソ道德ノ動作ノ根元ハ、皆本人ノ中ニ存シ、本人ノ知識又ハ或ル目的ヲ以テ動作スルナリ、其目的ヲ選択シ決定スル度ノ明白ナルト明白ナラザルトニ從ヒテ、其意思力動作ニ協同スルノ満足ト不満足トノ異ナルコトアリ、然レドモ凡ソ道德ノ行為ト云フ者ハ、皆道德者本人ノ知識ト意向トヨリ生スルコトナリ、道德ノ動作ハ皆其本人ニ歸着シ、本人ハ動作ノ行為者及ヒ原因トナリテ其責ニ任ズルべき者ナリト言フハ、是ガ為ナリ

### 【乙】動作ノ原理 アリシブルス、オラ、アクション

○テリストテレス 垂立士度徳曰ク、原理トハ其レヨリ或ル事物ヲ成シ、或ル事物ヲ生シ或ル事物ノ知ヲ得ル所ノモノナリ、リード 黎徳曰ク、原理トハ、此事物ニ或ル他ノ事物ノ属スルコトナリ、故ニ本原ノ法則、本原ノ元質、共ニ之ヲ原理ト稱スベシ、甲ノ場合ニ於テハ、其原理トイフ者ハ整定性ノ原理ニシテ、乙ノ場合ニテハ構成性ノ原理ナリ、

○原理ハ之ヲ物オブノ原理ト、知ノノ原理トノ二者ニ分ツベシ、知ノ原理トハ、直覺ヲ以テ知ル所ノ真理ニシテ、此真理ノ方便ヲ以テ他ノ真理ヲ知ルコトヲ得ル者ナリ、物ノ原理ハ、又之ヲ本原ノ原理ス、アリシブル、オラ、トトノ二種ニ分ツベシ、元来ノ本原ノ原理ト云フ者ス、オラ、アクションノ原理ト云フ者ハ獨リ万物ニ形質ト存在トヲ與フル所ノ上帝（造物者）ノミニ之ニ当ルコトヲ得ベシ、（夫底遜ノ語ヲ用フ）、フチツ 附属ノ原理ハ、又之ヲ原因カワサトリチイ固有インフェノ二者ニ分ツベシ、第一ノ者ハ其原因ヨリシテ現在ノ成迹ヲ



ト邪トノ分界トシテ明白神聖ナル大界標ヲ立ツルニ在リ、

○凡ソ人類ヲ以テ知り得ベキ現象ハ之ヲ分ツテ三ト為スベシ、其一ハ識力、即チ認識、其二ハ感力、即チ感覺、其三ハ意力、即チ活動是ナリ、此三方ノ發現スル所ニ就テ見ルトキハ、或ル事物ヲ知り、或ル事物ヲ感シ、或ル事物ヲ為スコトニシテ、同時ニ此三現象ヲ自識スルコトヲ得ベキ者ナリ、或ル事物ヲ知り、又ハ之ヲ思考スルトキハ、是ヨリシテ感覺ヲ生シ、感覺スルトキハ、是ヨリシテ意思ヲ生シテ、遂ニ動作トナルナリ、知ルト感スルト意ヲ発ストハ吾等ノ心性上ニハ、結合シテ発スル者ナレドモ、學問上ニ於テハ之ヲ抽象シ、三性別々ノ物トシテ之ヲ考究スルナリ、今若シ動作ノ最初ノ根元ハ何処ニ在ルカト問フニ、即チ意ノ原ヲ為ス所ノ動機○モトトイフ物ニアリテ、此動機ハ知識ニモ非ズ、意思ニモ非ザルヲ以テ、之ヲ感覺ノ中ニ含有スル者ト為サバ○モトコトヲ得ズ、坎徳ハ心ノ能ヲ分ツテ三ト為シ、其一ヲ認識、即チ知識ノ能力、其二ヲ感覺、即チ快樂苦痛ノ幹能、其三ヲ願欲及ヒ意思、即チ進動ノ力ト為シ、哈美尔敦ハミルトンモ亦此說ニ從ヘリ、曼塞尔マンセルハ願欲ヲ以テ感性ノ中ニ加ヘタリ、其意ニ謂ヘラク、願欲ニ伴フ所ノ心ノ態ハ常ニ受動ノ性ヲ有シ、意思ニ伴フ所ノ心ノ態ハ之ニ及ンテ常ニ自動ノ性ヲ有セリ、此理及ヒ其他ノ事理アルニ由リ、願欲ハ意性ト同種類ト為スベカラザルナリト、

○凡ソ人類ノ動作ノ起発ヲ考フルニ、其初ハ快樂ト苦惱トニ原シ、次テ

之ニ傾向シ、之ヲ忌避スルニ起ル、吾等ノ身体ノ構造ノ自然ヨリ生スル或ル感覺ハ、或ハ吾等ニ快樂ヲ與ヘ、或ハ苦惱ヲ與フ、又或ル事物ハ或ハ卓越、或ハ美麗、或ハ賤侮、或ハ嫌忌ノ感ヲ生セシム、或ル行為ハ賞賛愛好ヲ提起シ、或ル行為ハ輕蔑憎怨ノ感ヲ生セシム、凡ソ善良ニシテ、吾等ノ幸福ヲ為ス事物ハ之ヲ願望シ、邪惡ニシテ吾等ノ不幸ヲ為ス事物ハ之ヲ忌避ス、吾等或ル事物ノ方ニ傾向シ、又之ニ接近シ、或ル物ヲ嫌忌シ又之ヲ退避ス、凡ソ是等ニ付キテ吾心ニ起ル所ノ姿態、即チ感覺、知覺、動感、願欲、好、不好、傾向、忌避、贊美、賤蔑等ト名クル所ノ者ハ、總テ吾感性中ノ或ル姿態ニシテ、即チ感性中ノ一分ナリ、是等ノ諸觸力、此ノ如キノ働ヲ為スニ由リテ、吾意思ニ感及シ、夫ヨリ動作ヲ提起スルナリ、故ニ動作ノ原理ハ概シテ之ヲ言ヘバ、感性ノ中ニ在リト言ハザルコトヲ得ズ、即チ快樂苦惱ヲ知ル所ノ知能ト、之ニ繼ギテ起ル傾向ト忌避トノ知能ニ基スルナリ、

○自識ハ知ルコトト感ズルコトトノ差別ヲ証スル者ナリ、世ニ知識ヲ以テ感覺ノ中ニ包含シ、又ハ識性ヲ以テ感性ノ本原ナリトスル者アリ、此ノ如キ人ハ常ニ知ルコトト感ズルコトトノ差別ヲ曖昧ニ付スルナリ、然レドモ知識ノカト動作ノ原理トハ其実全ク同ジカラザル者ナリ、以下ノ數條ヲ見テ之ヲ知ルベシ、

○第一 認識ト感覺トハ別種ノ物ナリ、認識ハ識性ノ現象ニシテ、感覺ハ感性ノ現象ナリ、知ルコトノ為ニハ知識ノ對身ナカルベカラズ、

○知り得タル對身ハ、知ル所ノ主身ト同ジカラズ、感ズルコトハ惟自体ヨリ出タル變形ナリ、感ズルコトノ状態ハ主身ニシテ一個ナリ、知ルコトノ状態ハ、主身ト客身トノ併立ナリ、博士黎徳曰ク、〃今判断ヲ為スニ方リ、余ハ判断サル、所ノ事物ト、判断ヲ為ス所ノ心ノ活動ト同ジカラザルコトヲ知レリ、感覺ニ於テハ此ノ如キ區別アルコトナシ、感覺ハ自身ノ外ニ縁故又ハ原因ヲ有シ、而シテ又自身ト同ジキ者ニアラズ、是等ノ件ハ、先行セル識性ノ働ニ因リテ之ヲ知ルナリ、時トシテハ原因ヲ知ラズシテ、快樂苦惱ヲ感ズルコトアリ、〃

○第二 認識ハ之ヲ真ト偽ト二分ツベシ、感覺ハ快樂ト苦惱、又ハ協意ト不協意ト二分ツベシ、

○第三 認識ハ恒久、不変同一ナリ、感覺ハ無定ニシテ變化シ易シ、又感覺ハ人ニ由リテ異ナルノミナラズ、同ジ人ニテモ、時ニ由リテ同ジカラズ、○知識ハ増加スルコトヲ得ベキモ、變化スルコトナシ、知識ハ分量ニ差異アレドモ、性質ニ差異アルコトナシ、今日真実ナル物ハ、何レノ時モ真実ナリ、一個ニ於テ真実ナル物ハ他ノ物ニ於テモ真実ナリ、此ノ如キハ知識ノ確固セル特性ニシテ、又進歩改善ノ基礎ヲ為ス者ナリ、感覺ハ之ニ反シテ常ニ一定スルコトナシ、趣味嗜好ノ如キハ皆一樣ナル者ニ非ズ、此人ヲ樂シマシムル者ハ、彼人ヲ樂マシムルコト能ハズ、今日其人ヲ樂シマシムル物モ、後日ハ其人ヲ樂マシムルコト能ハズ、今日其人ノ厭フベキ物モ、他日ハ其人ヲ樂シマシムルコトアリ、

○第四 識性ノ働ハ之ヲ反復習熟スルニ由リテ堅固トナリ、感性ノ働ハ、之ヲ反復習熟スルニ由リテ軟弱トナル、

○第五 認識ハ感覺ヨリハ堅固ニ保持シ、容易且ツ完全ニ喚起シ、反思スルコトヲ得ベシ、認識シ、干係ヲ知り、決定ヲ為シタル所ノ事物ハ心上ニ再起再現スルコトヲ得ベシ、感覺ハ心上ヲ通過シテ後ニ痕迹ヲ留ムルコト少ナシ、感覺ノ再起シタルハ、其感覺ノ認識ト結合セルニ因ル者ナリ、

○第六 識性ハ同時ニ反対ノ想念ヲ有スルコトヲ得レドモ、感性ハ同時ニ反対ノ感覺ヲ發スルコト能ハズ、例ヘバ運動トイフコトヲ知ル人ハ同時ニ静息ト云フコトヲモ知ル、此反対ノ想念ハ同時ニ之ヲ思考スルノ妨ヲ為スコトナシ、感性ハ之ニ異ニシテ、同時ニ喜樂ト悲愁トヲ感ズルコトナク、愛ト憎トヲ感スルコトナシ、甲ノ感覺ハ常ニ他ノ感覺ト相交代スルナリ、

○合セテ之ヲ視レバ、凡ソ識性ノ養成ハ感性ノ開發ヲ妨ケ、感性ノ開發ハ、識性ノ養成操作ニ利益ナキ者トス、今若シ苦痛ト快樂トノ二感高度ニ進ムトキハ、必ス識性ノ活動ヲ妨碍スル者ナリ、或ハ自慢或ハ自利等ノ感覺ハ、真実又ハ正理ヲ知ル所ノ智ヲ暗クスル者ナリ、又熱情ノ盛ニ發スルトキハ、全ク道理ノ力ヲ失フ者ナリ、慈愛親睦ノ情ノ至テ強ク發スルトキハ識性ノ力ヲ弱クスルモノナリ、又識性ノ方ヨリ言フトキハ、盛ンニ識性ヲ養フトキハ、感覺ノ開發ヲ妨クル者ナリ、若シ專ラ知識ノ

一方ニカヲ用フルトキハ、一家并ヒニ社會ノ交際ニ缺クベカラザル感覺ヲ失フコトアリ、

○以上ノ差異ハ以テ道德學ガ直接ニ樹立セル所ノ心ノ學ト、識性ノ學トノ區別ヲ知ルコトヲ得ベシ、即チ動作ノ原理ヲ以テ、知識ノカトノ區別アルコトヲ知ルベシ、動作ノ原理ノ元質ハ知識ノ力ノ元質ノ中ニ包含スル者ニ非ルナリ、

○然レドモ此差異ニ付キ、諸哲家ノ説同ジカラス、或人ハ曰フ、識性ノ活動ハ感性ノ先行ナリト、或人ハ曰フ、感性ノ感覺ハ、人心固有ノ特性ニ非ズ、又其元質ニ非ズ、唯識性ノ活動ノ終結ナリト、其意ニ謂ヘラク、自識ハ即チ知識ナリ、感覺スルノ人ハ、感覺スルト云フコトヲ知ラザルベカラズト、以上ノ如キ説アレドモ、到底知ルコトト感ズルコトトハ混淆シテ同一トスルコト能ハザルナリ、其故ハ

○其一 余等ハ知識ノ先行スルコトナキ時ト雖ドモ疾病ト健康、飢餓ト満腹トノ時ニ於テ、快樂ト苦惱、欣喜ト憂愁トヲ感ズルナリ、

○其二 快樂苦惱欣喜憂愁ヲ以テ、全ク吾心ノ状態ナリトスルモ、必ス知識ノ先行アリテ、其欣喜憂愁ノ根礎ヲ知ル者アリ、然レドモ此知識ハ感覺ノ原因ニ非ズシテ、其状態コンヂナリ、即チ感性ト同行セル識性ニ由リテ、之ヲ知ルナリ、身体上ノ印象（識性）ハ感覺ニ先行スレドモ、感覺ニハ非ズ、先行スル所ノ認識ヲ以テ後継スル感覺ト混合スベカラザルナリ、

○其三 吾等ノ感覺、殊ニ同情ノ感覺ハ、吾等ノ知識高度トナリタレバトテ、夫ト同様ニ高度トナル者ニ非ズ、此ノ如キ感覺ハ、只認識ノ後継、即チ終結タルニ過ギザルナリ、

#### 「丁」動作ノ原理ノ分類デ、クラシフヒケイション、オフ、ブリシシブル、オフ、アクシオン

○既ニ動作ノ原理ト知識ノカトノ差異ヲ論定シタル後ニ其動作ノ原理ヲ整頓シ分類スルコトハ、自然ノ順序ナリ、此事ハ極メテ必要ナコトニシテ、亦多少ノ困難ナキニ非ズ、

其一 人類動作ノ原理ニ數個ノ種類アルニ因リ

其二 動作ノ原理中ニ於テ、互ニ和合連結スル者アルニ因リ

其三 數々急劇ノ起發アルニ因リ

○動作ノ原理ヲ發見スルニハ左ノ法ニ依ル、

其一 自己ノ品性ト行為トヲ考察經驗スルニ依リ

其二 他人ノ品性ト行為トヲ考察經驗スルニ依リ

甲ノ場合ニ於テハ、私心ト自愛トニ由リテ誤マラレ、乙ノ場合ニ於テハ、無知ト偏見トニ由リテ誤マラル、コトアリ、

○此部ニ付キテノ困難ハ諸家ノ理論ヲ見テ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、博士黎徳日ク、吾等ハ行星彗星ヲ無限ノ大空中ニ運行セシムルノ力ハ何物ナルカヲ定ムルコトヲ得タリ、然レドモ人々ガ自己ヲ知り、又其行為ヲスルノ力ハ何物ナルカヲ明白ニ定ムルコトヲ得ズ、明白正當ノ知識ノ欠亡セルヨリシテ明白正當ナル言語ノ欠亡ヲ來タス、此ノ如キ時ハ動作ノ原

理ヲ決定整頓スル為メニ、益々甚シキ困難ヲ生ズルナリ、

○然レドモ動作ノ原理ハ、人ノ意思ニ関スル者ナリト考フルトキハ、此原理ヲ以テ二大種類ノ中ニ整定セザルベカラズ、今時辰儀及ヒ其他ノ機器ヲ見ルニ、運動ヲ始め又之ヲ連続セシムル所ノ部分アリ、又此運動ヲ指導調均スル所ノ部分アリ、人類ノ心ノ構造モ之ニ類似シ、其動作ヲ興起セシムル所ノ原理アリ、又其動作ヲ指導整定スル所ノ原理アリ、甲ノ原理ハ提擲ニシテ、乙ノ原理ハ管治ナリ、甲ノ一種ノ原理ヲ人類動作ノ機發（スチムラリ）ト名ケ、乙ノ一種ノ原理ヲ人類動作ノ指導（ガイ）ト名ケ、

甲ノ種類ニ属スル者ハ

気性 知欲 躰欲 情感 動感 熱情

乙ノ種類ニ属スル者ハ

利益順便（アドバンテ）ニ管スル者 正義（ライ）ニ管スル者

道理（リ） 良心

是等ノ原理ヨリ發シテ右ノ二義トナル、一ハ智慮（インテリヤンス）ノ義、二ハ職分（デューティ）ノ義ナリ

○通常稱スル所ノ動作ノ原理ニ、道理的ニシテ且ツ管理的ノ原理、一名道理的ニシテ且ツ道德的ノ原理ト云フ者アリ、此原理ハ皆自動（アクチ）ノ性ヲ有シテ、人類ノ品性行為ヲ作ルニ其有力ノ者ナリ、此物ハ通常稱スル所ノ自動ト云フ者ト同ジカラズ、此通常ノ者ハ意思ノ上ニ感及スル所ノ衝動提擲ノ力ハ、指導管理ノ力ニ及ハザル者ナリ、

博士黎德ハ動作ノ原理ヲ彙類スルコト左ノ如シ、其一ヲ機関（メカニ）ト名

ク、此原理ハ注意ヲ要スルコトモナク、熟慮又ハ意思ヲ要スルコトモナシ、即チ気性ノ如キ、習慣ノ如キ者ナリ、其一ヲ動物（アニ）ト名ク、此原理ハ意思ト主意トヲ以テ働ク者ナレドモ、判断ト道理トノ働ヲ要セザル者ニシテ、其中ノ大分ハ人類ト禽獸ト相共通スルナリ、即チ体欲、知欲、情感、熱情、偏性（チスガシ）意見（オピニオン）是ナリ、其三ヲ道理（ラシヨ）ト名ク、此原理ハ獨リ人類ニノミ固有スル者ニシテ、其働ハ主意ト意思トヲ有スルノミナラズ、兼テ判断ト道理トヲ有スル者ナリ、此原理ハ万物ノ善惡ト、我身ノ職分トヲ知ラシムルノ根元ナリ、

士的瓦得（スチウワート）ハ吾等ノ動作ノ原理ヲ數ヘ 左ノ順序ヲ立タリ、其一躰欲、其二知欲、其三情感、其四自愛、其五道德ノ能力、是ナリ、初メノ三者ハ之ヲ気性、状、即チ職興性ノ者ト名ケ、後ノ二者ハ道理的、即チ管理的原理ト名ケ、士氏又曰ク、吾輩更ニ精密ニ注意ヲ加フルトキハ左ノ如ク之ヲ整定スルコトヲ得ベシ、其一ハ本元ノ動作ノ原理、其二ハ後ニ得タル動作ノ原理是ナリ、本元ノ原理ハ又之ヲ動物的ト道理的トニ細分スベシ、気性ト体欲トハ動物的ノ原理ニ属スル者ナリ、後ニ得タル原理ハ凡ソ習慣ヨリシテ成ル所ノ偏性ハ皆此中ニ算入スベシ、總テ人造ノ体欲、人造ノ知欲及ヒ流行交際ニ基スル所ノ行為ノ動機ノ如キハ皆是ナリ、

第一卷

人類ノ動作ノ機發

スクリンク  
ハムフデ

含田曰ク、吾等ハ内部ニ弾力アル所ノ動作ノ機發ヲ有セリ、此機

發ハ常ニ吾等ヲ外方ニ衝進シ、吾等ヲシテ生活ノ舞臺ニ出テ世人

ト共ニ其枝ヲ演セシムル者ナリ、

○人類動作ノ此種ノ原理ハ、其性質ト其根元トノ異ナルニ從ヒテ、之ヲ小分シテ三種ト為ス、

○此原理ノ通常ノ根元ハ快樂ト苦惱、善ト惡トヲ感スルコトノ能力ノ中ニアリ、然レドモ此感覺發シテ動作トナルノ前ニ、嗜好<sup>アツベ</sup>ト忌避<sup>アホシ</sup>トイヘル姿態ヲ作ルナリ、即チ或ル動作ト或ル物体トヲ或ハ近ツカラント欲シ、或ハ遠ザカラント欲シ、又或ル事物ニ感スルノ状ニ從ヒテ或ハ求め或ハ避ケントスルノ願欲ヲ起スナリ、而シテ動作ノ諸種ノ機發ハ其傾向願欲ノ性質ト原因トニ由リテ其種類ヲ分ツコトヲ得ベシ、

○願欲ハ吾動作ヲ提起スル者ナレドモ、或時ハ動作ニ付キテ思考ニ伴フコトモナク、成シ遂ゲントスル方法ニ伴フコトモナク、又動作ニ關シテ返答スベキ目的モナク、単ニ盲衝力ノミニテ動クコトアリ、此種ヲ名ケテ氣性狀一名天賦狀<sup>イムフシ</sup>ト衝力<sup>イムベ</sup>トイフ、此衝力ニ於テハ、氣性ト願欲トノ二者、動作ノ機發トシテ發現スルナリ、

○他ノ場合ニ於テハ、願欲ノ感覺、盲衝力ニ出デザル者アリ、即チ動作ノ知識ト相伴フ者ナリ、凡ソ人類ノ許多ノ願欲、許多ノ事業ノ中ニ於テ、

初メテ其事ヲ思考シタルトキニ於テ、早ク吾心ニ其協意ヲ感スル者アリ、又初メニ吾心ニ協意ヲ感セザレドモ、後ニハ其事ヲ行フコトアリ、又或ハ最初ニ其事ヲ思考シタルトキニ早ク吾心ニ不協意ヲ感スル者アリ、然レドモ習慣ト交際トノ感化ニ由リテ、最初トハ全ク反対ノ感覺生スルニ至ルコトアリ、是ニ付テ考フルニ、最初ニ意ニ協フ所ノ念ト自然ノ構造トノ間ニハ、本来ノ適合ヲ存セズ、然レトモ漸々ノ經驗ニ由リテ、吾心ハ自ラ其事物ノ方ニ傾向スルナリ、此事實ハ即チ動作ノ機發ニ區別ヲ生スルノ根元ニシテ其事ハ下ニ之ヲ説クベシ、

○凡ソ望ム所ノ事物ト、人心ノ構造ト、本来ノ適合ヲ有スル者ヲ最初ノ願欲及ヒ自然ノ願欲ト名ク、最初ノ願欲トハ其事物ノ現出セル最初ニ於テ協意ノ感覺ヲ生スル者ナリ、自然ノ願欲トハ事物ト人心トノ本来ノ適合ヨリシテ、之ニ一致セル所ノ願欲ヲ、或ハ少ナク發スル所ノ事實ヲ云フ、知識ノ欲交際ノ欲ノ如キハ之ヲ最初ノ願欲ト名ク、其故ハ是等ノ欲望ノ事物ト、人心ノ構造トノ間ニ、本来ノ適合アリテ、最初是等事物ノ發現スルトキニ於テ、早ク快樂ノ感ヲ生スレバナリ、而シテ又衆人ガ多少是等ノ事物ヲ願望スルヲ以テ、之ヲ自然ノ願望ト稱スルナリ、又喜、憂、愛、憎、怖、怒ノ如キモ亦之ヲ最初又ハ自然ノ感ト名ク、其故ハ總テ適合セル場合ニ於テハ、其事物ニ對シテ是等ノ感ヲ發スレバナリ、又心ノ中ニ感覺力増進シ、單ニ感覺ノ力ノミヲ以テ知識ノ境界ヲモ擔當スルトキハ之ヲ熱情<sup>ハッシ</sup>ト名ク、又情感ノ中ニテ尊重<sup>ニスチ</sup>満足<sup>ニスチ</sup>友情<sup>ニスチ</sup>シツプ<sup>ニスチ</sup>等

ノ如キハ、氣性狀ノ者ト名クルヨリハ寧ロ最初及ヒ自然ノ願欲ト名クベシ、其故ハ是等ノ諸能力ノ發動ト成長トハ、常ニ識性即チ理性ノ助ヲ得テ其力ヲ強クスル者ナレバナリ、

## 修治學第二篇

### 叙言

○凡ソ人タル者ノ擔任スベキ職分ハ多数ニシテ不一ナルヲ以テ其類ヲ分チテ之ヲ説カザルヘカラザルニ至レリ、

○其類ヲ分ツテ四綱トセシハ久シク世ニ行ハレタル説ナリ、○此四職分ノ頭首ニ各々一徳ヲ擧グ、之ヲ首徳ト名ク、即チ智慧カルチナルワイチユー節度フリエー堅忍テムベ

ホルチチ公チヤス正チヌス是ナリ、○智慧二名ホド聰明チヌスハ都テ知識ウイハヲ愛スル心ヨリ生ズ

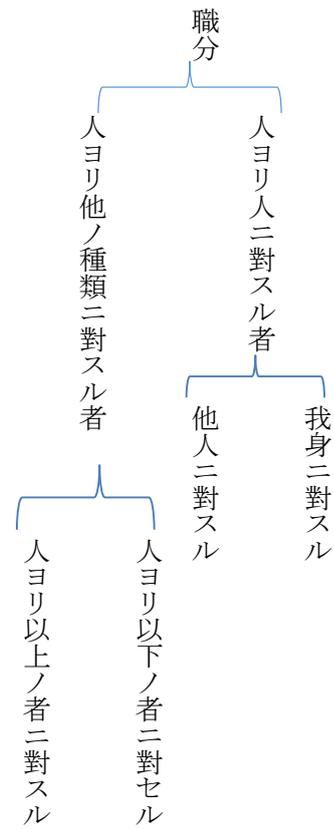
ル所ノ諸徳ヲ其内ニ包含シ、公正ハ、交際ヲ愛スル心ヨリ生ズル諸徳ヲ其中ニ包含ス○堅忍ハ親愛ノ徳カインドレツドトヲ合セテ、之ノ廣大セルフレスヲ愛スル

コトニ歸シ、節度、即チ己ヲ制スルコトセルフレストハ秩序及ヒ礼儀ヲ愛スルコトニ歸スルナリ、○此區分法ハ事ニ寄リテ適合セザルノ所多シ、殊ニ上

帝ニ對セル職分ノ為メニ、恰好ノ地位ヲ與フルコトナシ、  
首徳ノ狀ヲ示シタルハ聖「アムブローズ」三百四十年ニ生レタル羅馬ノ神学士ヲ始トス、

「アムブローズ」以上ノ四徳ヲ以テ衆徳ノ原始ト為ス、

○幹多ガ定ムル所ノ分類ノ法ハ、凡ソ諸種ノ動物ノ間ニハ相互ニカント道徳上ノ職任アルト云フコトヲ考ヘテ之ヲ論定セシ者ニシテ、其區別エンカル、オブライジメント左ノ如シ、



○此區分法ハ能ク盡セリト雖ドモ亦多キニ過グルノ病アリ、○人ヨリ以下ノ動物ハ固ヨリ道理<sup>リレン</sup>ナキ者ナレバ、盡スベキ職分モナク、受クベキ權利モナシ、故ニ吾儕、直チニ吾身ヲ此ノ如キ動物ノ下ニ置テ彼ニ對シテ我職分ヲ尽ストイフハ無キコトナリ、○此ノ如キ動物ハ之ヲ以テ無活体ノ受造物ト同一ニ見做シ、吾等ノ意思ニ從ヒ、吾等ノ採用ニ供スベキ物ト為シテ可ナリ、○此意見ヲ定ムルト雖ドモ是ニ就テ亦又言フベキコトアリ、其一ハ人ヨリ以下ノ動物、及ヒ非動物ハ我等及ヒ他人ノ為メニ必要ナル者ナレバ、若シ徒ニ之ヲ傷害シ、之ヲ殄滅スル時ハ、我身ヲシテ我職分ヲ行フノ方法ヲ失ハシムルニ至ルベシ、○其ニハ生活アル受造物ヲ無益ニ苦痛セシムルトキハ我同等人類ノ艱難ヲ見テモ之ニ感セザルニ至リ、遂ニ我仁愛ト哀憐ノ職ヲ尽ス為メニ大ナル支障ヲ為スナルベシ、  
 萊伯尼子<sup>ライブニツ</sup>嘗テ君長タル者ノ教育ノ為ニ一小冊子ヲ著ハセリ、其中ニ

曰ヘルコトアリ、君長タル者ノ幼年ノ時ニハ能ク戒メテ生活セル物ヲ殘害苦痛セザラシムベシ、是即チ他日人類ヲ愛憐スルノ心ヲ失ハザラシメンガ為ナリト、○「ジョッフロイ」曰ク、人類ノ職務ヲ分類スルコトニ於テ、人類ト、人ヨリ以下ノ動物及ヒ非動物トノ間ノ管係ヨリ起レル諸事ヲ以テ人類ノ職分ノ中ニ加フ、○然レトモ「ジョッフロイ」ノ意ハ是ヲ以テ人タル者ノ我身ニ歸セル職分ナリトセシ物ニシテ、即チ我身ノ生命ノ保守、天性<sup>ナチュール</sup>ノ全身、身分<sup>コンデション</sup>ノ幸福ヲ主トシテ之ヲ論セルコトハ容易ニ了解シ得ベシ、

人ヨリ以上ノ者トハ、上帝ノ其全能ヲ施ス所ノ神靈ニシテ、此神靈ト我等トノ關係ハ甚了知理會シ易カラズシテ、是ヨリ起リタル職分、及ヒ是ヲ以テ基礎ト為シタル所ノ職分ハ有ラサル者ノ如シ、然レトモ人タル者己ガ職務ノ由テ起ル所ヲ考フルトキハ三個ノ管係アリ、其別左ノ如シ、

- 第一 我身ヲ一個ノ人ト為シ、我身ニ對スルノ職分
  - 第二 世間ノ人ヲ以テ社會中ノ活物ト為シ、之ニ對スルノ職分
  - 第三 上帝ヲ以テ造物者管治物審判者ト為シ之ニ對スルノ職分
- 總テ人タル者ノ職分ハ此三個ノ關係ヨリ起ルト云フコトハ使徒<sup>アポストル</sup>既ニ經文ニ於テ之ヲ教ヘタリ(チトス第二章十二節) 曰ク上帝ノ恩ニ賴テ吾儕嚴肅ト<sup>ハム</sup>公正ト<sup>スライ</sup>虔信<sup>ゴット</sup>トヲ愛スルコトヲ知レリト、嚴肅ハ總テ我身ニ歸スル所ノ職分ヲ示シ、公正ハ世間ノ人ニ向ツテ尽スベキ職分ヲ示シ、虔信ハ總テ上帝ニ對シテ行フベキ職分ヲ示シタル者ナリ、

西塞魯モ亦是ト同様ナル區別ヲ立シコトヲ其語ニ於テ之ヲ見タリ、マルコス アントニノス又曰ク、我身ニ於テ行フベキ三個ノ倫理アリ、第一ハ万物ノ根原ナル上帝ニ對シ、第二ニハ同ク此世ニ生活セル人ニ對シ、第三ハ我身ニ對シテ之ヲ行フベシト、東方ニ於テモ亦此ノ如キ區別ヲ見タリ、其事ハ「ゼ、チユンカ、ナメー」、ト名クル書中ニ見エタリ、其書ハ塞哥人ノ尊シテ聖書ト為ス者ナリ、其書ニ曰ク、塞哥人ハ其心ヲ上帝ニ盡シ、仁愛ニ盡シ、洗清<sup>ヒヨ</sup>ニ尽スベシト、

○人類ノ職分ノ區別ノ順序ヲ論ズルニ付テハ、凡ソ人類ノ職分<sup>ヂイ</sup>義務<sup>リゲ</sup>ヲ

其極ハ皆上帝ニ歸セザルハナシ、又我身及ヒ世人ニ對シテ行フベキ職分ノ如キモ、猶皆教法上ノ道理ト感覺トヲ根基トシ、威勢ト定規トハ、唯其上ニ附加シタル者ナレバ、其順序ハ、上帝ニ對スル職分ヲ以テ最初ニ置クベキニ似タリ、然レトモモラル フヒロソフヒイノ教示ノ順序ヲ以テ言フトキハ、彼使徒力定メタル順序ニ從フヲ以テ宜シキニ協ヘリトス、乃其論著スル所左ノ如シ、

第一 一身ノ道德<sup>インヂビシエ</sup> 第二 交際上ノ道德<sup>ソインアル</sup> 第

三造化ノ神学<sup>チユール</sup>一名 虔信ノ道德<sup>シーテク</sup>

## 第二冊

一身ノ道德即チ我身ニ對セル職分

○人タル者ノ我身ニ對シテ行フベキ職分ニ付テハ其初メハ先ツ坑逆<sup>コト</sup>ニ對シノ意味ヲ顯ハス者ナリ(幹多ノ著書ニ出ツ)「余ハ其事ヲ以テ尽ク我身ニ歸スベシ」トイフコトハ通常人ノ言フ所ナレトモ、其言フ所トハ自ら異ナルコトナルヲ免カレズ、義務ヲ言付ル所ノ人々義務ヲ行フ所ノ人モ同ジク一人ナルトキハ、義務ヲ言付ル人ハ他人ニ義務ヲ行ハシムルノ權力アルヲ以テ、自身ニハ職分ナリ、又職分ニ結束サル、コトモ無キガ如クナルベシ、然レトモ人ト云フ者ハ本来其身ノ為メノ法則<sup>ラウ</sup>トシテ、(即チ道理アリ責任アル動物)良心<sup>コンシ</sup>ナル者ハ其内部ニ在ル法則ノ建立者兼知告者<sup>アプロシユル</sup>ニシテ己ニ固有セル法則ヲ告ケ知ラスル者ナレバ、常ニ其身ヨリハ一等高キ法則ト組合居リ、我身ヲ以テ我身ノ固有<sup>フワン</sup>ヨリ高等ノ地ニ置カントスル者ナリ、此ニ良心ナル者ノ力ヲ以テ決定シ得タル処ハ左ノ如シ、凡ソ職分ナル者ハ總テ上帝ニ歸着スル者ニシテ、上帝ノ性質<sup>ナチユール</sup>ト意思<sup>イシ</sup>トハ衆義務ノ基礎ナリト、故ニ若シ或ル職分ハ上帝ニ歸シ、或ル職分ハ世人ニ歸シ、或ル職分ハ我身ニ歸スルト云フ時、其趣意<sup>ミイニシテ</sup>ハ其職分中ノ或ル個條ハ專ラ上帝ニ義務ヲ尽スコトニ非ス、或ル個條ハ專ラ世人ニ義務ヲ尽スコトニ非ス、又他ノ個條ハ專ラ我身ニ義務ヲ尽スニ非ザルコトアリ、然レトモ凡テノ職分ハ皆上帝ノ性質ト意思トニ基ク者ナレバ、或ル個條ハ上帝ト直キノ管係ニ於テ行ヒ、或ル個條ハ世人ト直キノ關係ニ於テ行ヒ、又或ル個條ハ我身ト直キノ管係ニテ行フマデノコトニシテ、我身ハ道理アリテ責任ノアル動物ナレバ、吾天性ヲ保守シ且ツ進善<sup>イムフルン</sup>ス

ルノ意ヲ以テ其義務ヲ行フコトナリ、

○吾身ニ管係シタル職分ニ於テハ、凡テ人ノ職分トイフ者ハ吾身ノ天性ト地位トヲ進善シ且完全シ、此ノ如クシテ吾身ノ幸福ヲ得ントスルニ在リ、今マ人ノ天性ヲ進善シ、人ノ幸福ヲ進益セントスルニハ左ノ諸職分ヲ尽サザルベカラス、

第一 我身ヲ護ルコト セルフ・コセ  
ルベーション 第二 我身ヲ養フコト セルフ・カ  
ルチヨール

第三 我身ヲ制スルコト即チ我身ヲ管治スルコト セルフ・コントロール、オ  
ア、セルフ・ガウレンメント

## 第一篇

### 我身ヲ護ルコト

○法国ノ学士デ、ボナル曰ク人ハ機関ヲ具ヘタル灵物ナリト、他語ヲ以テ之ヲ言フトキハ、人ハ精神ト身体トヲ以テ成ル者ナリト、幹多曰ク、

人タル者、其身体ニ負擔サスル職分ハ（身体、義務ヲ行フベキ物ト為ル）別ニ思慮シ得ルコト能ハズ、然レトモ精神ヲ以テ義務ヲ行フベキ者トシテ考フルトキハ、身体ニ注意スルヲ以テ其職分トスルノ理、明白ナリ、學士ジューフロイ曰ク、身体ハ器ナリ、此器ナキトキハ我身、外物ニ向ヒテ働ク為スコト能ハザルベク、又我等ノ能力ハ十分ニ開發スルコトヲ得ザルベシ、若シ身体、軟弱ナルカ疾病アルトキハ我行ハントスル目的ノ方ニ進ミ行クコトハ能ハザルベシ、凡ソ世界ノ万物ヲ吾等ニ知ラスル所ノ知覚ハ、身体ノ機能力ニ由テ得ル所ニシテ、例ヘハエゴ―自己善

ナルハ、身体ノ健康安全ト密ニ相繋著スルカ如シ、故ニ人タル者ニ命ゼラレタル其身ニ対スルノ職分ハ、或ハ直チニ其身体ニ管スル者アリ、或ハ直チニ精神ニ管スル者アリ、或ハ身体ト精神トノ両様ニ管スル者アリ、今吾等ノ為メニ其順序ヲ示サンコトヲ乞フ、我身ヲ護ルノ職分ハ直接ヲ以テ言ヘバ単ニ身体ニノミ關係スル者ナレトモ、間接ニハ又精神ニ關係スルナリ、此目的ヲ以テ生活セル人ヲ保持進善スルナリ、即チ人ヲ以テ生活セル体ト為シテ之ニ対スル職分ヲ詳論スルトキハ左ノ如シ、

第一 其生命ヲ保護シ、総テ死亡ノ方ニ近ヅク処ノ諸事ヲ防避ス、

第二 其身ノ健康ヲ増シ、総テノ病患ヲ防避ス、

第三 其身ノ富ト外面ノ安全トヲ備辦シ、貧困ト缺失トヲ防避ス、

第一節 人ハ其性命ヲ保護シ而シテ総テ死亡ニ傾クノ諸事ヲ避スベキ職分アリ、

○此職分ノ半分ヲ破壊スル者ハ自ラ毀傷スルコトナリ、此職分ノ部ヲ破壊スル者ハ自殺スルコトナリ、

○第一 自ラ毀傷スルコトニ付テハ、或ハ此ヲ以テ、己カ灵魂ヲ淨潔ニシ、前進サスル為メノ高等ノ手段ナリト思ヒテ之ヲ行フ者アリ、古人嘗テ其身ヲ天国ニ生セシメントノ願望ヲ以テ自ラ陰囊ヲ截去セシ者アリ、

古代ノ基督ノ教士阿里然<sup>オリゼン</sup>ニ此意ヲ以テ此事ヲ行ヒタリト言ヘリ、然レトモ是ヲ行ヒタル徳ニ由テ、道理上及ヒ黙示<sup>シリシ</sup>上ニ於テ良善ナル証據ヲ得タルコトナシ、若シ自毀傷スルトイフコトハ己カ灵魂ヲ完全前進スル為メニ益ヲ為ス者ニ非ストイフコトヲ明示シタルナラバ、私心<sup>セルレシ</sup>ヤ又ハ悪キ目的ヲ以テ自ラ其身ヲ毀傷スル者ハ大ニ其數ヲ減ズベシ、東国ノ民ノ史ニ、信任<sup>ツルスト</sup>ノ格別ナル場所ハ自ラ毀傷シタル人ヲ以テ之ヲ克タシムベシト云フコトアリ、此説ハ一ノ悪事ヨリ他ノ悪事ヲ生産スルノ説ナリ、東国ノ民ノ懦弱放蕩ナルヨリシテ嫉妬ノ風習ヲ生シ、嫉妬ノ風習ヨリシテ、自ラ毀傷セシ者ニ屈伏謙抑シ、毀傷ヲ為サシメシ者ヲ喜悅保護セザルノ風習ヲ生ジタル者ナリ、

○又悪事ヲ犯シタル者其身体ヲ毀傷スルニ因リテ其罪過ヲ償却スルコトヲ得ベシト思フ想案ヨリシテ好シテ自ラ其身ヲ毀傷スル者アリ、此ノ如キハ其罪過ヲ改善セント欲シテ却テ其罪ヲ深クスル者ナリ、此ノ如キハ古代ニ於テ多ク行ハレタルコトナリ、又自毀トイフコトハ實際上ニ於テノ悪事ナリ、其故ハ若シ之ヲ行フトキハ、人ヲシテ他人ノ身体性命ヲ以テ利益<sup>ゲイン</sup>トスルノ權利ヲ失ハシムレバナリ、併シナガラ此事ニ付テ一ノ疑問アリ、曰ク人タル者ハ、己レノ利益ヲ為メ、又ハ他人ヲ助クルガ為ニ、我身ノ体ノ一部ヲ随意ニ分チ求ルコトヲ得ベキ者ナルヤ、否ヤト、(例ヘバ他人ノ倚頼又ハ文飾ノ為メニ我齒ヲ抜キ、我髮ヲ剪ルガ如シ)此ノ如キコト是ヲ行フベシト命スベカラズ、寧之ヲ行フベカラズト禁ズベキノ

ミ、然レトモ我ガ病ヲ受タル身体ノ一部ヲ截断スルハ止ムコトヲ得ス行フベキコトニテ之ヲ苦痛<sup>ペインフルヂエニテ</sup>ノ職分ト言フベシ、

○第二 自毀傷スルヲ以テ罪アリトスルトキハ、自殺ノ如キハ最モ自身ニ對セル職分ニ反逆スル者ト云フベシ、

○凡ソ国ハ、人民ノ身体ヲ使用スルノ權理アル者ナリ、故ニ自殺ハ諸國ノ法律ニ於テ皆之ヲ禁スル所ニシテ、即チ国ニ對シテノ罪ナリ、然レトモ自身ニ對セル職分ニ反對セルトハ如何ナルコトカ、蓋シ人ハ其身ヲ保護スルヲ以テ職分ノ一ツトスル者ナリ、此間ノ分解ハ下ノ如シ、

(第一) 自殺ハ我身ノ性来ノ最モ強キ願望ノ一ツニ反對セル者ナリ、○我身ヲ保護スルハ自然ノ法則ノ第一ナリ、此事ハ有體物ノ動物ハ言フマデモナク、其外ノ物マデニモ及ビタル自然ノ法則ナリ、生活セル植物ノ如キモ亦此目的ヲ以テ其性命ヲ保護持續センコトヲ望ム、智ノ劣リタル動物ト雖トモ、自己ノ食ニ適應スベキ食物ヲ選ブコトヲ知り、若シ己ニ害アル物ニ逢フトキハ忽チ之ヲ棄去リテ顧ミズ、又自然ノ仇敵ハ自然ニ之ヲ惡ムノ性アリテ總テ己ガ身ニ危難ヲ為スベキコトハ、極テ用心シテ之ヲ避クルコトヲ知ル、又外ヨリ之ヲ推察スルニ、此ノ如キ動物ニテモ、決シテ自好<sup>グッド</sup>ンデ生命ヲ短縮滅亡サスルノ事ヲ為スコトナシ、

毒蛇ノ如キハ若シ火焰ニ囲マルトキハ、漸々圈ノ中央ニ退縮シ、自ラ其身ヲ蝥<sup>クマ</sup>シテ死ス、此等ハ自ラ知ラザル所ノ筋ノ聚縮ニ由テ生スル所ノ舉動ナリ、又馬ノ其儕輩ノ為メニ虐セラルトキ、自ラ其

脳ヲ以テ樹木ニ觸レ、栗鼠ガ其同儕ノ攻襲ニ逢フトキハ自ラ水中ニ投ジテ溺死スルガ如キハ、恐クハ道学ニ云フ所ノ自殺シユウサイドノ部ニ算入スベカラザルニ似タリ、(ムール氏ガ精神ノ力ハ身体ノ力ヲ制スル

### 論ニ出ツ)

人類ニ至リテハ、一時ノ癡狂ノ外自殺ヲ好ム物アリヤノ問題アリ、凡ソ人ノ生命ヲ愛スルコトハ最早ク最強キコト他ノ動物ト異ナルコトナシ、而シテ自殺セルワマルダトイヘル語ノ十分ナル意味ハ自然ニ背クト云フ義ト為ルベシ、其故ハ自然ハ全ク人類ノ性質ニ反対シ、又此性質ノ所有者ガ自己ニ対セル職分ニ反対セル者ナレバナリ、

(第二) 自殺ハ性命ヲ與ヘタル目的ニ反シ、且ツ性命ヲ有セル性質ニ反スル者ナリ、

○道学ノ趣意ヲ以テ言フ時ハ、人類ナル者ハ朽腐スベキ禽獸ノ如ク、或ハ食ヒ或ヒハ飲ミ或ハ睡リテ事済ム者ニ非ズ、必夫々ノ事案ヲ為サズルベカラズシテ、之ヲ為スニハ必ス其時ヲ要セザルベカラズ、人間ノ事業ハ至テ大ニシテ其時ハ至テ短シ、其短キ時ヲ猶好シテ之ヲ短縮スルノ道理アルコトナシ、人ノ生命ライフハ譬ヘハ戰場ノ如シ、其戰場ノ中ニ人々皆己ノ陣営ト立場トアリ、己ノ意ヲ以テ自由ニ其立場ヲ退去スベカラズ、其規則ヲ守ルベキコトハ軍法ヲ以テ立場ヲ守ルヨリ嚴ナルベシ、人ノ生命ヲ以テ戰場に譬ヘシコトハ古ノ道学者己ニ之ヲ言ヘリ、彼答臥拉曰ク、誰人ニテモ大将ノ命令ナキニ其立場ヲ立退クベカラズ、所謂大将ハ上帝

ナリト、布刺多又曰ク、我生命ヲ守ルハ、恰モ我身ヲ屯營中ニ置クガ如シ、己ノ意ヲ以テ其所ヲ引キ去ルコト能ハズト、西塞魯能辯ヲ以テ敷衍シテ此義ヲ演述セリ、

○他ノ一方ニ於テシニツク、及ヒシレナイツクノ理学ノ学校ニテハ、自殺ヲ以テ公正ナルコトト為シ、其理ヲ以テ生徒ニ教授セリ、ヘジシアスハ勸死者ノ副号ヲ得タル人ナリ、此数部ノ書ヲ著ハシテ、人間ノ性命ノ價ナキコトト利益ナキコトトヲ極論セリ、学師ブツトレル曰ク、(理学史ノ講義ニ出ツ) 此墳墓ノ代言者善シヘジシノ悲愁ナル論説ハ其勢力甚強ク、埃及王ヲシテ己ムコトヲ得ズ、此人ノ論説ヲ公行スルコトヲ禁セシムルニ至レリト、猶太ノ學士亦參孫サムソン掃羅サウルノ所行ヲ以テ許スベキコトト為シ、且之ヲ以テ相當ノコトト為シタル者アリ、後世ノストイク派ノ學士ノ説ニ亦曰ク、人タル者ハ己カ性命ヲ短縮サスルモ、絶滅サスルモ共ニ自由ナルベシ、若シ人間ノ性命ヲ以テ幸福ノ物ナリトスルトキハ(然レトモ若シ人タル者己ガ性命ノ長キニ倦キ、是マデ受ケタル性命ノ半部分ヲ以テ十分ナリト思フトキハ) 譬ヘハ食物ニ飽キタル賓客ガ、自己ノ前ノ案上ニ美味ヲ排列シアレドモ、直チニ立去リテ、他人ノ食料ト為スト同様ナルコトニテ、是等ハ自己ノ自由ニ任スベキコトナリ、若シ又人間ノ性命ヲ以テ不幸ノ物ト為ストキハ、其身体ハ病疾ト苦痛トヲ以テ充タシメ、其心ハ苦勞ヲ以テ充タシメ、之ヲ輕快スルノ見込ナシ、何ゾ、永ク歡樂ヲ受ケガタキ劇場ヨリ、此苦痛ヲ受クベキ体ヲ脱離シ去ルコト、恰モ烟

塵充滿シテ身体ヲ庇フコト能ハザル家屋ヲ見捨ルト同様ニセザルヤ」此  
ストイクノ理論ハ此ヲ造化自然ノ進行ト天命ノ安排ト及ヒストイク派ノ  
碩学ナルエピクテトスノ説ト戒飭ノ言ト比シテ見レバ、其生活ノ原理ヲ  
論スルコト甚タ相適合セザルヲ覺フ、「エピクテトス」ノ戒飭ノ言ニ曰ク、  
吾ハ常々上帝ノ吾ニ指示セル地位ノ上ニ在リト、西塞魯本ヨリ自殺ヲ  
不可トスルノ説ナレトモ、加多ノ自殺ノ如キハ却テ之ヲ許シテ曰ク、此  
人ハ己ノ性命ヲ棄ルニ正當ナル道理アルコトヲ見定メタル上ニテ、自安  
ンジテ其身ヲ捨タル者ナリト、奥古斯丁ハ更ニ説ヲ為シテ加多ノ死ヲ稱  
賛スルコト西塞魯ニ過タリ、然レトモ加多ノ自殺ニ付テハ猶此ノ如キ疑  
問ノ存留セルアリ、曰ク、塞撤ノ進劇ノ威勢ニ由テ、加多ヲシテ此ノ  
如キ所行ニ出ルマデ其心ヲ攪乱シタル者ニ非ズヤト、

学士アデゾンハ加多ノ自殺ヲ以テ悲痛ノ場合ニ陥リタル者ト為シ、  
以前ニ加多ノ所行ノ理アルコトヲ稱賛セシ諸人ヨリモ猶一層此ヲ  
称美シタリ、然レトモ、恐ルベキ疵傷ヲ拭ヒ消シ、又罪アル自殺人  
ノ墳墓ヲ修飾スルガ如キハ、畢竟良キ感覺アリテ好キ道味ヲ知ルノ  
人ニ非ルナリ、凡ソ他ニ著述アリテ、堅固ニ虔敬ト道德トヲ論説シ  
タル人、若シストイクノ詭辯ニ恩恵ヲ假サントスルトキハストイクノ自殺ヲ善  
ナリトスル助  
先ツ其平生ノ持論ヲ差止メ置キ、民間一般ニ行ハル、論説ノ流  
行ノコトヲ引キ出シテ其論ノ主本ト為サルベカラズ、希臘羅馬ノ  
智者ガ名ケテパルバロイ擴狃ト為ル所ノ一人(大流士)ノ言ニ曰ク、余ハ自己

ノ悪事ニ依リテ死スルヨリハ、寧ろ他人ノ悪事ニ由リテ死セント、  
此定義ノ如キハ実ニ加多力無益ナル光輝ト學問ニ由テ準備シタル  
所行ニ比スレバ其智モ勇モ共ニ大ニ勝レルヲ覺フ、基督ノ學士等、  
其才學ヲ以テ此定義ヲ修整シテ益完美ニ至ラシメタリ、而シテ若シ  
此ノ如キ場合ニ出逢フトキハ基督教徒タル者ハ大流士ノ言フ所ヨ  
リ猶其身ヲ全フスルヲ以テ美スベキコトトセリ、

○塞内加ハ預メ自殺ヲ為スコトハ理ニ當ラザルコトナルヲ先知セリ、然  
ルニ塞内加ハ幸ニシテ皇帝ヨリ罪ヲ赦サレタリ、塞内加此時説ニ曰ク、  
人ハ恐ルベキ者ナリ、動モスレバ人ヲ係蹄ニ投ゼントス、神ハ恐ルベキ  
者ニ非ルナリ、常ニ人ヲ活路ニ導カントスト、

○古代ノ基督教徒ノ内ニ於テ、異教ノ偶像ヲ破壊シテ自ラ好シテ其身ヲ  
死地ニ置く者アリ、此ノ如キ者ハ之ヲ「マルチルス」ノ中ニ加フルコト  
能ハズ、又「シルカムセリヤン」（聖ニ華リ固マ  
リタル教徒ノ名）ノ如キハ「マルチルドム」ヲ求  
メント欲シ、故サラニ他人ヲ怒ラシテ己レヲ殺サシム、若シ他人、己レ  
ヲ殺サレハ遂ニ自殺ストイヘリ、此ノ如キ者狂人ト稱スルヨリ外ニ名  
稱ヲ與フベキ者ナシ、

○幹多ハ此事ニ付キ左ノ疑問ヲ出シテ人ニ示セリ、問、曰ク、吾等ノ近  
代ノ大王（弗勒得力第二）常ニ毒藥ヲ携持セリ、其意ヲ察スルニ、蓋シ  
戰場ニ於テ（弗勒得力ハ必自ラ戰場ニ臨メリ）若シ敵ノ擒ト為ルトキハ  
敵ヨリ吾身ヲ貨トシテ許多ノ償金ヲ求メ、以テ本国ノ難儀ヲ為サシメザ

ルニ在リ、此ノ如キハ是ヲ罪惡ト為スベキヤ否ヤト、幹多又恐水病ヲ患フル病者ノ意感ヲ引キテ例ト為シテ曰ク、此病者ハ、若シ此病終ニ療スベカラサレバ、寧ロ我身ヲ殺シテ看護者ノ難儀ヲ滅セント思フ者アリ、此ノ如キ病者ハ過惡ナルヤ否ヤヲ問ハザルベカラズト、

○凡ソ人タル者ハ己ノ身体ヲ毀傷シ、又己ノ性命ヲ断絶スルコトヲ以テ禁戒スベシトスルトキハ、他人ヨリ我身ニ向ヒテ横逆ヲ働キタルトキ之ヲ防禦スルノコトニ論ジ及バザルベカラズ、造化ノ法則ニ従フトキハ、人タル者ハ都テ此ノ如キ横逆ニ抗シテ之ヲ防禦ヲ為スベキノ權利アリ、我身ヲ防禦スルガ為メニ或ハ敵人ヲ疵傷スルコトアリ、然レトモ其通りノコトヲ為サレバ我身ヲ防禦スルコト能ハザルトキハ敵人ヲ疵傷スルモ亦罪スベキコトニ非ズ、或ハ自己ヲ防禦スルニ依リテ敵人ヲ殺スコトアルモ亦之ヲ罪アルト為スベカラズ、然レトモ他人ノ横逆ヲ受ケ又ハ之ヲ防禦スルハ其状種々様々ナル者ナレバ、近來人間交際ノ進歩スルニ從ヒ、是等ノコトハ定マリタル法律ヲ以テ精細ニ之ヲ吟味スルコトト為リタリ、其他此事ニ付テノ權理ト義務ノコトハ下ノ交際上ノ道德篇ニ於テ之ヲ詳説スベシ、

## 第二節 セクション

人タル者ハ己ガ身ノ健康ヲ進メ、其身体ハ善ク開

発セルカヲ尽シテ、健康ト強剛トノ有様トヲ保守セサルベカラ

ザル者ナリ、「エフェシアンズ」ノ第五章第二十九段ニ曰ク、人

タル者己ノ内身ヲ忌嫌フベカラズ、宜ク之ヲ愛育養成スベシト、

○巴斯加パスカルノ言ハ甚タ信スベシ、曰ク、其身ヲ天使ニ為サント欲シテ却テ其身ヲ禽獸ニ陥シタリト、自然ニ違フタル神ヲ求メント欲シテ己カ身体ヲ忘却シ、或ハ之ヲ苦痛サスル者ヲ戒ムルノ語ナリ、凡ソ苦身アスセスマチズムノ学ヲ為ス者ニ二種ノ別アリ、一ハ神通ノ苦身ニシテ、一ハ理学ノ苦身ナリ、

神通ノ苦身ハ己カ罪過ヲ贖フノ趣意ヲ以テ之ヲ為ス者ニシテ、其意ニ謂ヘラク、吾身若シ罪過ヲ犯ストキハ、神ハ其罪ニ当レル精密ナル罰ヲ下スベシ、吾因テ自好シテ吾身ニ苦痛ヲ與ヘ神ノ怒リヲ宥メントルト、理学ノ苦身ハ吾儕魂ヲシテ身体ノ奴隸ト為ルコトヲ免カレシメ、外物ノ感覺ヲ脱去シ、灵魂ヲシテ智覺ノ喜樂ト苦痛トノ上ニ超然ラシメ、以テ其本来ノ目的ヲ達セントスルニ在リ、然レトモ宗教理學共ニ通常ハ自然ノ法則ニ從ヒ、身体ノ健康ヲ保守スルコトヲ尊フベキコトト為セリ、東國ノ民ノ飲食及ヒ洗浴等ニ心ヲ用フルモ其意ハ身体ノ健康ヲ保ツニ在ルコトト知ルナリ、希臘及ヒ羅馬人ノ公行ノ遊戯公共ノ浴場ヲ行フモ、健康ヲ増シ、身体ヲ強剛ニ為スノ旨趣ナリ、基督ノ教法ニテハ固ヨリ灵魂ト肉体トヲ差別シ、其肉体ヲ制守シテ灵魂ノ命令ニ從ハシムルコトヲ説クトイヘトモ、吾身体ヲ健康スルコトハ之ヲ打棄テ少シモ頓着セヌトイフコトニハ非ズ、己ニ身体ヲ以テ灵魂ノ住所ニシテ且器械ナリトスルトキハ亦十分ニ注意シテ灵魂ノ為メニ其住所ヲ保護セサルベカラズ、古代ノ道學者ノ祝拜レイセルノ文ニ曰ク、堅固ナル心灵ハ、健康ナル身体ノ中ニ在ルベキ者ナリト、此言ハ凡ソ人間ノ完全幸福ハ身体ヲ健強ニスルノトキ

ニ在ルコトヲ包含セリ、健康ノ有様ハ即チ福氣ニシヨノイメントノ有様ナリ、スヘテ自餘ノ福氣ヲ享クルニハ身体ノ健康トイフコトハ必ス欠クベカラザルコトナリ、我身セルフラブヲ愛スルトイフヨリ外ニ高崇ノ意思ナキ人ハ却テ我身ノ健康ヲ保ツトイフコトニ心ヲ用フル者ナリ、

○然レトモ身体ノ健強ハ心ノ堅剛健強ヲ得ル為メニ必要ノコトナリ、身体健強ナラザルトキハ心ノ能力ノ最ノ開發ニ必要ナル働エキセルサイスト教練ヂスチプリントヲ妨クル者ナリ、心智漸ク開發シタル後ニ若シ病ニ侵サル、トキハ又真心智ノ用ヲ妨害減削スル者ナリ、身体久シク健康ナラザルトキハ生活上ノ職分ヲ十分ニ尽ス為メニ大ナル障礙ヲ生シ、又瘦乏ト昏慣トヲ現ハシ、他人ヨリ願望請求スルコトアルモ明了ニ之ヲ分別スルコト能ハズ、故ニ道理正シキ法ヲ以テ身体ノ健康ヲ保守高進スルコトハ、心ノ堅強靜安ヲ得ル為メ、又生活ノ身ニ備ハレル働キヨリ且ツ喜バシキ能力ヲ伸張スル為メニ必要ノコトニシテ、道德アリテ且ツ幸福ナル位地ニ進ムノ道路ナリ、

○身体ノ健康ヲ保護シ恢復スルノ法ヲ知ルハ医者ノ関スル所ニシテ其事ハ、食法ヂエテヂクストト摂生ニクストノ條下ニ之ヲ記ス、体操ヂムナスハスベテ体格ノ健強ヲ進ムル為ニ行フ処ノ諸運動ヲ為ス者ニシテニカスハ運動ヲ輕便且ツ秀雅ニ為スタメノ方法ナリ、是等ノ事ハ道學上、別ニ論著セズ、然レトモ亦身体ヲ取扱フコトニ付テ道學ノ一部ト名クベキ者アリ、例ヘバ淨クリンネスノ如キ是ナリ、

○此淨潔トイフコトハ本ト人間自然ノ感覺ヨリ出テ来リ、而シテ身体ノ健康ト安慰トヲ得ル為メニ切要ナルノミニ非ズ、兼テ亦心ノ健剛ト淨潔ヲ得ル為ニ肝要ノ事務ナリ、疾病ハ淨潔ヲ怠ルヨリ生スル者多ク、或ハ淨潔ニ由テ其疾病ヲ療スルヲ得ルトキアリ、凡ソ身体ノ淨潔ト健康トノコトニ意ヲ用ヒザル人ハ、其思慮ノ淨潔ト智慧共他人ニ秀出スルコト能ハザル者ナリ、又淨潔トイフコトハ教法ノ趣意ト相結合スル者ナリ、此事ノ管係ハ嚴密ニ旧約全書ノ免許中ニアリ、「アポストル」徒トイフ語モ元来ハ惡シキ存慮ヲ洗滌シタル心ト清淨ナル水ヲ以テ洗ヒタル身体トイフ義ヲ合セタル者ナリ、

○其外猶道德ノ職分ニ屬スベキ者ハセシイナリ、此語ノ意味ハ衣服及ヒ身体ノ行作ヲ適宜節制ヲ指シテ言フナリ、此職分ハ、人々己ガ身体容儀ノ不好者ヲ頭ハスハ恥ツベキコトナリトイフ感覺ヲ引出ス者ナリ、シカシ此感覺ハ數ニ變化スル者ニシテ、此一時、此場所ニテ不好者ト思フコトモ、他ノ時他ノ場所ニテハ不好者ト為サルコトアリ、然レトモ智慧アリテ善良ナル人ハ己カ身体ノ風儀容儀ノ不好者ニ由リテ他人ヲシテ惡シキ感覺ヲ起サシムルコトハ決シテ為サルコトナリ、故ニ己ガ容儀ヲ惡クシテ他人ニ輕ンゼラル、ハ、善キ智覺ヲ欠キ又己ヲ恭敬スルトイフコトヲ知ラザルノ人ナリ、

○身体ノ健強ヲ高進保守スルコトニ付テハ、更ニ心學カウニスノ種類ニ屬セルコトヲモ考究セサルベカラズ、幹多曰ク自ラ我身ニ痘ヲ種ルノ人ハ險

ヲ冒シテ吾身ノ安危ヲ試ル者ナリ、知ラズ此種痘トイフコトハ上帝ノ法則ニ協ヒタルコトナリヤト、此間ヒニ向ヒテ確然タル返答ナスコトハ至テ容易ナルコトナルベシ、又吾身〔ノ健康〕ヲ進ムルノ意ヲ以テ、痘瘡又ハ其他ノ疾患ノ類ヲ好シテ引キ込ムコトハ如何ントイフ間ニ至テハ、以前ノ問ヨリハ少シク深く考案省察セザルベカラズ、熱病ノ炎氣ニ由リテ或ハ血中ニ伏匿セル毒氣ヲ焼キ去ルコトアリ、暈浪○。○。暈浪ツギキスノ如キハ或ハ「危」難ヲ醸スノ人アリ、或ハ此為メニ身体ノ益ヲ為スコトアリ、是等ハ医術ニ依テ裁断スベキコトナリ、然レトモ道学者ハ彼麻痺セル胃ヲ刺衝スルノ名ヲ假リテ放恣縱逸ヲ為スコトヲ勸ムル者ヲ惡ム、此ノ如キ勸奨ハ思慮ナク勸ムル者モ思慮ナク受ル者モ共ニ非ナリ、厚亜ホアルド忒ハ土牢ノ壞毒ナルト囚獄ノ感染ノ中ニ陥リタルトキ、仁慈ノ心ノ発動ニ由リ、無病者ヲ看護シテ、遂ニ自ラ死ヲ致セリ、又「フロレンス、ナイチンゲール」ハ常ニ傷者死者ヲ看護セシニ由リ、殆ント其貴キ性命ヲ失ハントセリ、然レトモ此二人ノ如キ者ハ之ヲ「ヒーロス」英雄ノ義ノ徳ヲ為スニ堪ヘタリトイフベカラス、即チヒーロスノ徳ヲ行ヒ得タルトイフベカラズ、医術ノ習學ト經驗トニ由リテ、此ノ如キ傳染毒アル場所ニテモ、頗ル能ク其身ヲ保全シテ之ニ入ルコトヲ得ベシ、教門ノ師父トリスハ己ノ身ヲ保守スルノ意ヲ以テ病者死者ノ牀側ニ就テ安慰ヲ行フコトナシ、然レトモ身体ノ構造稟賦ノ異ナルト心思ノ剛強確定ノ殊異ヨリシテ、爰ニ記シタル規戒モ格別用ヲ為サズ、其人自己ノ知覺才智ニ任カセ置キテ可ナルコトアリ、

### 第三節 セクション

#### 我身ヲ護ルノ職分ハ唯性命ヲ保全シ、健康ヲ高

進スルノミナラズ、又自己ノ富ト外面ノ財産トニ意ヲ用ヒテ福氣ヲ享ルノ方法ヲ求メザルベカラズ、

○ドクトル潤ジョン係ガ「ボスウエル」ニ與フル書ニ曰ク、貧乏ニナラザル様ニ氣ヲ付クベシ、何程多ク所持シタリトモ、成タケ少シ費スベシ、貧乏ハ人間ノ幸福ノ大敵ナリ、貧乏ハ慥ニ自由ヲ打壞ル者ナリ、而シテ又道德ノ或ル者ヲシテ行フコト能ハザラシメ、或ル者ヲシテ之ヲ行フコト難カラシム、富ハ人ヲ放蕩淫逸ニ導ク者ナリ、然レトモ貧モ亦人ヲ惡事ヲニ導クコト多シ、凡ソ智慮アリテ善良ナル人ハ貧富ノコトニ意ヲ注ガザル者ナシ、智徳アル者ハ貧富ノ感覺〔ト理會ト〕ヲ有スレトモ、富ノ為メニ不正ノ愛好ヲ起シ、富ヲ得ル為ニ不正ノ方法ヲ行フコトナシ、唯此感覺ト理會アルトニ由リ、勤勉ト公正ノ努力ヲ行ヒ、以テ生活上ノ好物中ノ適當ナル部分ヲ得テ之ヲ保守セント欲スル者ナリ、若シ甚シキ貧困ニ依リテ要用ナル飲食ト適応〔ナル衣〕服トヲ失フニ至ルトキハ、其身ハ疲憊衰弱ヲ招キ、病患羸瘦ノ人ト為ルベシ、此ノ如クナルトキハ其心モ常ニ苦勞ト腐蝕トニ責メラレ、到底良善ナル思想ヲ發出スルコト能ハザルベシ、徳ト幸福ト両方ノ見込ヲ以テ考ヘタル処ニテ、我身ノ身分及ヒ其時ノ模様相応ニ生計上ノ方法ヲ立テ之ヲ保守スルコトハ智者ニ於テ欠クベカラザルノ職分ナルベシ、

○富ハ親ヨリノ讓與ニ由リテ得ル者アリ、又自己ノ努力ニ由リテ得ル者

アリ、是ニ由リ之ヲ管係セル職分ニモ勉強インダストリイト節約エコノミイトノ二種アリ、若シ勞力ヲ以テ富ヲ得ントスルトキハ、公正信実ノ事業ニ己カ身ヲ担任セテ之ヲ勉強シ、衆人ノ見ル所ニ於テ善良ナリト思フ処ノ仕事ヲ為スベキコトナリ、若シ又我身己ニ富ヲ得テ居ルトキハ、能ク意ヲ用ヒ、節儉ヲ以テ其財ヲ使用シ、勉メテ我身ヲシテ、貧窮又ハ夫ヨリ生スル諸悪ニ陥ラザラシメ、又其有餘ヲ散シ、適度ヲ量リテ貧困ナル世上ノ兄弟ニ施與スベシ、

○勉強ト節約トハ或ル意味ト、或ル廣サトニ於テハ、何レノ人ノ上ニモ當テ嵌マルモノナリ、工作ヲ為ス者インダストリア、經濟家エコノミカ、職業ヲ為ス者プロフェッショナルト云ヘル如キ區別ト、日々ノ食物ヲ得ル為ニ骨ヲ折ラヌ人、學術中ノ各科ヲ學ブカ為メニ其智ヲ用フルコトヲ為サヌ人トイヘル如キ區別トハ全ク反對ノ區別ナリ、併シ何レノ種類ノ人ニテモ怠惰トイフコトハ必ラス除去セサルベカラルノコトナリ、怠惰ハ心ノ安着ニシテ是ヨリ諸悪ヲ生スル者ナレバナリ、而シテ、善ク我身ノ幸福ヲ得ント欲スル者ハ皆、美好ニシテ公正

ナル職業ヲ撰ビ、勉強奮勵ヲ以テ之ニ従事シ、以テ其幸福ヲ高進堅固ニセンコトヲ求メザルハナシ、又節儉トイフ務ハ、財貨ノ乏キ人ノミ之ヲ行フトイフコトニ非ズ、富ト貧トイフハ互ニ相依リ相關係スルノ言語ナリ、此人ニハ富ト稱スベキ貸財モ、他ノ人ニハ其丈ノ貸財ニテハ貧ト稱スベキコトアリ、凡ソ人ハ皆己ガ必要ナル需要ヲ備フル為ニ骨ヲ折ルベ

キノ義務アル者ニシテ、其貸財ヲ節用シテ、己ガ需用ニ足ルベキ者ハ、他人ハ稱シテ貧人ト云フトモ、其身ニ於テハ富人ナリ、己カ得ル処ノ収納ト比較シ、我身ヲ養フ為メニ相応ニ貸財ヲ費スハ決シテ誹議スベキコトニ非ズ、然レトモ其所有セル物ヲ以テ放蕩スル愚駭ノコトニ費スベキノ權理ハ誰人モ持タヌ者ナリ、己ニ吾身ノ生活ニ不足ナキダケヲ保全シタル上ニハ、更ニ檢束フリユカト節約リチイトヲ用ヒテ、益々其安慰ヲ増シ、倍々外ヨリ得ル模様ヲ善クシ、以テ其幸福ヲ進ムベキナリ、人タル者ハ我身ノ所有スル貨物ノミニ目ヲ著クベカラズ、スヘテ我ト同ク住居スル人ノ貨物ニモ目ヲ著ケザルベカラザルナリ、

○勉強ハ怠惰ノ反對ナリ、節約ハ浪費濫用ノ反對ナリ、檢束ハ奢侈ノ反對ナリ、

○吾身体ノ健康ヲ保守スルノ義務ノ上ニ注目シ、又己カ外面ノ貴重ノ富ヲ増スコトニ意ヲ用フベキトイフコトハ西塞魯己ニ之ヲ言ヘリ、正直ヲ以テ得タル富ニ由リテ其身ノ利益ヲ為ストイフコトハフホン キルバルト之ヲ言ヘリ、

## 第二編

己ヲ養フコト セルフ、カ  
ルチニール

○前編ニ論セル我身ヲ護ルノ條ハ重モニ其身体ノ事ニ付テ之ヲ言ヘリ、爰ニ記セル我身ヲ養フトハ重モニ心ニ付テ之ヲ論スル者ナリ、ロルド倍根、此事ヲ名ケテ知メンタルノ農業セオリス、オ  
スバド、リイ又心ノ農業ゼオリス、オ  
セ、マイト謂ヘリ、

○心ハ身体ト同ジク本来固有セル力<sup>ポワ</sup>能<sup>カバシ</sup>トアリ、此力ト能トハ共ニ常ニ開發<sup>デベロップメント</sup>ノ勢ヲ含メル者ナリ、然ルニ此開發ナル者或ハ遲緩<sup>レタル</sup>シ<sup>レタル</sup>或ハ高進<sup>プロモ</sup>ス<sup>テッド</sup>其開發ヲ高進スベキ者ヲ總テ名ケテ己ヲ養フ<sup>セルフ</sup>ル<sup>チユール</sup>ノ義務トイフナリ、父母、後見人、教師ヨリ為ス所ノ教育ハスベテ此義務ヲ行フベキ為メノ支度ヲ為ス者ニシテ決シテ其義務ヲ廢絶スベキ者ニ非ズ、人ハ道理アリテ<sup>ラシヨ</sup>且ツ責任アル<sup>レスポンス</sup>動物ナレバ自ラ其身ヲ教育セザルベカラズ、其教育ハ此趣意アルヲ以テ幼年少年ノ時ニ止マル者ニ非ズ、性命ノアル限りハ、教育ヲ為スベキコトナリ、一日ニテモ此世ニ存スルノ間ハ、如何シテ我職分ヲ益々善ク務ムルコトヲ得ベキカ、イカゞシテ我機會<sup>オポポルニテイ</sup>ヲ益々十分ニ進歩セシムルコトヲ得ベキカトイフコトヲ考究セサルベカラズ、知識ノ田野ハ廣大ニシテ其種類甚多シ、而シテ行<sup>アクト</sup>ノ<sup>オン</sup>田野モ亦決シテ之ヨリ小ナル者ニ非ズ、無知<sup>イダノ</sup>ハ<sup>ラント</sup>之ヲ驅逐スベシ、過失<sup>エラー</sup>ハ是ヲ除キ去ルベシ、了簡<sup>ミステ</sup>痴呆<sup>ホル</sup>トハ之ヲ防避セザルベカラズ、誠信ト善良ナル処ノ者ハ何ニテモ之ヲ求めザルベカラズ、正直<sup>ライト</sup>ト智慧<sup>アリユ</sup>トアルト事ハ尽ク之ヲ為サルベカラズ、心知<sup>インテル</sup>ハ<sup>レクト</sup>之ヲ光明ニシ之ヲ強固ニ為サルベカラズ、愛情<sup>アツベク</sup>ハ<sup>ジョン</sup>之ヲ清淨ニシ、之ヲ高崇スベシ、而シテ吾身ノ全体ノ品行ハ職分ヲ尽シ、幸福ヲ安享スルノ見込ヲ以テ道理<sup>リイ</sup>ト良心<sup>ンセン</sup>トノ認識指向ニ從ヒテ之ヲ保守セザルベカラザルナリ、

第一節 己ヲ養フコトトイフコトハ心智<sup>インテル</sup>ノ力、即チ知識ト相親メ

ルカヲ高進セシムルコトヲ言フナリ、

○凡ソ人ハ皆知識ヲ得シ事ヲ望ムノ性アリ、而シテ又知識ヲ得ルノ力アリ、天地間ニアル万物人ノ周圍ヲ圍遶シ、人ノ探問ノ心ヲ刺衝シ、人ノ穿鑿ノ勞ニ報答セリ、此万物ハ皆本来ノ性質アリテ各其品種ト模様トヲ表シ出シ、是ニ由テ人ノ需要ヲ充タシ、人ノ福氣ヲ増スコトヲ得ル者ナリ、故ニ此力<sup>知識得</sup>ヲ養成シテ知識ノ利益ヲ為シ、其身ノ幸福ヲ高陞スルコトハ人タル者ノ職分タルコトハ至テ明白ナリ、(路基<sup>ロキ</sup>ノ諸ニ出ヅ)所謂智力ヲ養フトイフコトハ唯心知<sup>インテル</sup>ト其働トヲ養成スルノミニ止マラズ、又必ス記性<sup>メモ</sup>トイフ者ヲ高進セシメザルベカラズ、此記性ノ力ニ依テ知識ヲ留存シ置キ、又之ヲ再喚スルコトヲ得ベシ、以テ未来ノ用ヲ助クルコトヲ得ベシ、經驗<sup>エキペ</sup>ハ我身ノ為ニ利益ヲ為ス者ナリ、其經驗ヲ得ルハ、我身ニ記性ノ力アル故ナリ、凡ソ怪異非常ナル知告ノ為ニ驚愕動乱スルコトナリ、恐ルベキヲ恐れ、望ムベキヲ望ミ、以テ危難ヲ前知シ、安全ノ方法ヲ求ムルコトヲ知ルハ皆經驗ノ力ナリ、我等ノ想案ヲ實地ニ試ムルコトヲ得ルハ經驗アル故ニシテ、其確實ナル者ヲ堅固ニシ、欺罔ヲ驅斥シ、而シテ我等此謀ヲ作シ、此目的ヲ行ハントスルニ当リ、以前起リシ其事ト大抵同様ナル事柄ノ結果ヲ以テ憑據ト為シ、十分ナル勇氣ヲ以テ其事ニ進入スルコトヲ得ベシ、(コーガン)グエチカル、ツリート、オン、パツシヨンス、ニ出ヅ)

第二節 己ヲ養フトイフコトハ、味<sup>テイ</sup>ノ力ヲ進ムルコトヲモ其

中ニ包有スル者ナリ、

○人身ノ五官ハ、知識ノ入口ニシテ人間快樂ヲ得ルノ根原ナリ、此五官ノ外更ニ造化ノ仕事ト工藝ノ勝利トノ美麗、卓絶ニ意ヲ用フル処ノ内部ノ知覚、即チ精微ナル理會ノ力ヲ知ラザルベカラズ、此力、即チ此才質<sup>カッパシチイ</sup>ノ萌芽ハ人々皆固有シ居リテ自己ノ力ヲ以テ之ヲ養成進善シテ、以テ己カ快樂<sup>フレシユール</sup>ニ供スルコトヲ得ベキノ性アル者ナリ、此ノ如キ快樂ハ誰人モ之ヲ得ラル、コトニテ、決シテ其間ニ制限アルコトナシ、甚シキ労働力作ヲ為ス人ニテモ造化ノ美麗ノ秀逸トヲ感ゼヌトイフコトハナシ、

「アケンサード」ノ詩ニ曰ク、余、農夫ニ問フ、汝夏日ノ長キ劳作ヲ為シテ家ニ帰レハ其勞ヲ忘レ安眠スルハ何ノ故ゾト、農夫夕陽ノ琥珀ノ如キ雲ヲ穿チテ照耀スルヲ見テ暫時躊躇セリ、余忽彼ガ粗野ナル言語ト不学ナル状貌ヲ見ルニ、其言語力ノノ外ニ於テ、造化ノ美麗ノ心ヲ悦バシタルコトヲ頭ハセルヲ考ヘ得タリ、

今誰人ニテモ淙潺タル流水ノ岸ヲ逍遙シ、凸凹タル山ノ頂上ニ登リ、青々タル原野ニ花ヲ以テ飾レル地ヲ見下シ、又ハ衆星ヲ嵌鑲セル蒼天ノ穹窿ヲ仰キ望ムベシ、此ノ如キ大觀<sup>コンテラフ</sup>レイシヨシハ其物自己ニ淨潔<sup>ピューリチイ</sup>ヲ頭ハスノミナラズ、其淨潔ヲ以テ、之ヲ見テ満足スル処ノ人心ニ分配シ、以テ人ヲシテ其快樂ノ心ト相伴ハシム、凡ソ物事唯ニ適用<sup>ネモツ</sup>シチイトイフコトヲ以テ意限トシ、要用外ノコトハスベテ打棄テ顧ミザルトイフハ人ノ快樂ヲ得ル為メニ大ナル障碍トナルコトナリ、造化ノ工ト人類ノ心ト相適合スルト

イフコトハ明ラカニ人ノ幸福ヲ得ルノ根原ナリ、故ニ快樂ヲ成シ得ル所ノ才質ヲ養フハ人類ノ職分タルコトハ相違ナキコトナルベシ、

○又精妙ナル人工ニ管係セル觀想<sup>コンテムラ</sup>レイシヨシヨリ起ル快樂ハ衆人尽ク同様ニ此觀想ヲ持チ居ル者ニ非ズ、然レトモ、古代ノ希臘人ノ美麗ヲ好ムノ感想ト古今ノ日耳曼人ノ音樂ノ味ヲ知ルノ感想トヲ見テ此感想ノ廣衍彌蔓延シタルヲ考フルニハ、從來精微ナル快樂<sup>レハイドグラ</sup>チヒケーションナル者ハ唯少数ノ人ノミ之ヲ知ル者ト思ヒシカドモ實ハ人民ノ多数亦皆此快樂ヲ知り得ベキ者ナルコトヲ了解セリ、“(カンニングノ「オン、セルフ、カルチュール」ニ出ヅ)又精妙ナル人工ヨリ出タル快樂ヲ十分ニ且ツ相當ニ得ン為メニ、夫々ノ用意ヲ為シ、費用ヲ出スコトアランニ、衆人皆同意シテ其事ヲ為ストイフコトハアラズ、唯勝レテ其事ヲ好望喜樂スル人ノミ之ニ與カルコトナリ、併シ何事モ皆然リト言フ譯ニハアラズ、其大要ヲ擧ケレバ、其精妙美麗人ノ心ヲ感セシメテ、其精妙美麗ヲ以テ人ノ心ニ移ス者、又外面ノ身振りノ丰彩秀麗ナル者、又其状態ノ秀美ナル仁愛ノ性質等ノ類皆是ナリ、

物事ニ氣ヲ付ルトイヘル心<sup>アツテンチイ</sup>ハ自己ノ力ニアル和調<sup>ハルモ</sup>ニ働キニ由リテ自分と調<sup>マイレド</sup>姿ト為リ屢々、身外ノ物ヲ觀テ造化ノ迹ノ秀逸ナルコトヲ會得スルニ慣ヒ、又己ガ家ニ在リテ親戚ノ親切ニ感ジ、自己ノ心中ニ仁愛ノ秀美ヲ引起シ、此美好ナル感ヨリシテ其和調ノ心ヲ適度ニシ遂ニ全ク其心ヲ清淨ニシ、其發スル処ノ七情ハ尽ク温和

慈恵ニシテ人心ヲ引寄スベキ有様ヲ持ツニ至ルベキナリ、

凡ソ職業ニ由リ、又ハ自己ノ好ミニ由リテ精妙ナル工術ニ達シタル者ハ、其工術ノ為メノ養ヒハ、又他事ヲ為ス時ノ心ノ養ヒト為リテ、其所行ノ上ニ秀美ノ状ヲ顯ハシ出スコトアルベシ、然レトモ人タル者ハ唯信実「ト美麗（アールト）トヲ認知スルノミニテ足レリト為スベカラズ、更ニ正理（ト）トイフコトヲ知ラサルベカラズ、其事ハ下ニ記スルガ如シ、

第三節 己ヲ養フハ、其中ニ道義ノ感覺（モラルセ）ヲ進修スベキコトヲ包

含スルコト、

○道義ノ味ナル者有リ（モラルデイズト） 此味ハ道義ノ所行ヲ美麗秀逸ニ為スヲ心ニ觀想スルノ才能ニシテ、天造人工ノ秀越美麗ナル者ニ感スルノ心ト差、相同シキコトノアル者ナリ、又堅強ナル信実慈恵ナル仁愛ノ所行ヲ觀想シテ之ヲ感歎喜好スルコト、又吾等ノ味ノ力ノ働キヨリ起レル者ト其種類ヲ同ジクスルコトアリ、而シテ此道義ノ感覺ヲ養フトイフコトハ人間ノ幸福ト満足（イメンツト）トヲ得ルノ根原ナリ、此感覺ハ又適當シタル名ヲ用フルトキハ道義ノ能力（モラルフハコキ）ト称スベクシテ、彼シヤフテスブライ（イ）及ヒ其他ノ学士ノ説ク所ノ如キ者ニ非ズ、道義ノ能力ハ衆多ノ能力ヲ併合シタル者ニシテ、判断及ヒ感覺ノ力ヲ所有セリ、而シテ其他ノ能力ト同様ニテ常ニ漸々ニ開發スル者ニシテ、其開發スルノ間、種々ノ感得（インフリュ）ニ由テ感動変化ヲ為ス者ナリ、故ニ最大ナル能力ヲ養フコトノ最モ肝要ナルコトハ是ガ為ナリ、良心ナル者ハ実ニ人間ニ幸福ト災難トヲ分與スル者

ナリ、若シ良心明白ナラズ、又其命令ニ従フトキハ何事モ皆平安和靜ナリ、之ニ反シテ良心明白ナラズ、又其命令ヲ聽カザルトキハ、混雜ト惡事ヨリノ外ハ何モ生出スルコトナシ、故ニ正（ト）ト邪（ト）トヲ分別スル為メニ其良心ヲ明力ニスルハ智アリテ善良ナル人ノ職分ナリ、スベテ良心ノ命令ニ背キ、良心ノ感覺ヲ滅ストイフコトハ、能ク氣ヲ付ケテ為サヌ様ニスベシ、然ルトキハ人間ニ対シ、又上帝ニ対シ、罪咎ヲ免カル、コトヲ得ベシ、

第四節 己ヲ養フトイフコトハ、其中ニ宗教ノ感覺（セリチヂス）ヲ進修スルコトヲ含有スルコト、

○人ノ良心、実ニ光明ニシテ曇ナキトキハ、己ニ邪ト正トノ法則ヲ知りタル上ニ、更ニ自己ニテ知りタル法ヨリハ最上ノ法則ヲ求ムルニ至ルベシ、是ニ至リ、我身ヨリ推シテ、夫ヨリ最上等ニアル者、即チスベテノ法則及ヒ正義ヲ建立スル所ノ上帝ニ考ヘ到リ、夫ヨリシテ我身ノ新ナル幸福ヲ得ルノ源ヲ啓クコトヲ得ベシ、凡ソ人タル者ハ、上帝ヲ認識知シ、又満足ト恭敬トノ感覺ヲ（是ハ受造物ヨリ造物者ニ行フベキ義務ナリ）養フトコトヲ知ラザル間ハ、決シテ其天性ノ真ノ位格ヲ得ルコトハ能ハザル者ナリ、今我等ガ思想ヲ以テ、見ルベクシテ朽腐スベキ物ヨリ、見ルベカラズシテ朽腐スベカラザル物ニマデ引キ上グルトキ、又形体アル者ノ軟弱ニシテ不完全ナルコトハ、形体ナキ者ノ完全ニシテ堅固ナルニ及バザルコトヲ考フルトキ、又我等ノ形体ハ上帝ノ意想ヲ以テ造ル所

ニシテ、上帝ノ善キ所ノ多分ヲ我身ニ分配シアルコトヲ知りタルトキハ、人タル者ハ己ノ心思ヲ静和ニシ、己カ行為ヲ純潔スルトイヘル高崇ニシテ快樂ナル先見ヲ以テ我身ニ充滿スルナルベシ、人タル者モシ此ノ如ク觀想ヲ為スコトヲ怠リ、又此觀想ヨリ出タル感覺ヲ養フコトヲ怠ルトキハ、直チニ己カ職分ヲ失ヒテ兼テ己ガ幸福ヲモ失フニ至ルベシ、

#### 第四節 意見（マヤ）ヲ形作ルコト

○人ノ意見、即チ存意トイフ者ハ人ノ行為ト幸福トノ上ニ、大ニシテカ強キ感ジヲ顯ハス者ナリ、故二人タル者其意見ヲ造成スルトイフコトハ、己ヲ養フコトニ於テ肝要ノ條件ナリ、

○人ノ意見ハ種々無量ナル者ナレトモ、其中ニ於テ其大分ハ以前ニ受タル教育ノ結果ヲ顯ハス者ナリ、又其中ノ一分ハ主權（マヤ）ニ服従スルコトヲ甘ズルノ意見アリ、又其一分ハ怠惰ニ任セ、又ハ他人ヲ見倣ラヒ、又ハ證例ニ依據スル等ノ意見ナリ、然レトモ、モシ是マテ定メタル存意ノ外ニ、更ニ夫ヨリ大ナル經驗カ又ハ夫ヨリ大ナル知識ヲ得ルトキハ、以前ノ意見ハ直チニ打消シ、以前ヨリ正シキ見込ニ從フベキコトナリ、其故ハ凡ソ我等ノ行為ヲ有徳ニシ、吾等ノ身分ヲ幸福ニスルトイフコトハ、唯我等ノ性質（ナチュ）「ルト有様（コンデ）トヲ善良ナル位格ヲ造成スルニ在レバナリ、又凡ソ我等ノ周圍ニ在ル処ノ物ハ皆美麗ナル形状ヲ所有シ居ル者ナレバ、之ニ對シテ信任（ツト）ヲ與ヘザルベカラズ、又彼等ノ望ム所ノ位格ノ許サズルヘカラストイフ意見ハ、人類ニ於テ肝要ノコトナリ、又人ノ働キハ

自分勝手（セルフヒビ）ヲ以テ提起スベキ者ナレバ、仁恵ヲ以テ私心ヲ以テ為スコトニテ、感恩モ誠心ヨリ出タルコトニ非ストイヘル考案ハ、其身ヲ幸福ヲ高崇セザル人ノ意見ニシテ、智アリテ善ナル人ハ、決シテ自分勝手ヲ回護スルガ為メニ、是ニ付テ空虚ナル論理ト欺罔ナル状貌ヲ為サルベシ、此世界ニ於テ惡事ノ増長シ、道德ノ押し付ケラル、ヲ見テ、此世界ヲ以テ道德混淆破壊ノ世界ナリト思フハ、天理ノ法則ニ違フ者ニシテ、此存念ヨリシテ遂ニ許多ノ謬誤ノ見込ヲ生ズルニ至ルベシ、故ニ善ク我身ノ幸福ヲ求ムルノ人ハ、務メテヨク注意シテ、公正ナル見込ヲ造成シ、又我身ヲ支配セル法則ニ付キテ正シキ存意ヲ定ムルコトヲ以テ肝要トスベシ、天命（プロビデ）ノ睿智ニシテ善良ナルコトトイフコトニ倚信シ、天ヨリ命ゼラレタル己カ立場ニ在リテ其職分ヲ尽シ、以テ己ガ幸福ヲ得ルコトヲ務ムベシ、是ヲ行フニハ、其職分ノ困難ニ堪ヘ、其利益ヲ撈取ラセ、心思ノ安靜ヲ保守シ、良心ノ一致ヲ守リ、上帝ノ支配ニ確乎タル信用ヲ置キ、上帝ノ取扱ニ喜ンデ安心スルヲ以テ其要ト為スベシ（リイドノ「エツセイ」ニ出ヅ）

#### 第五節 習慣（ヒビ）ヲ造成スルコト

○巴札（パレイ）ノ言ニ曰ク人間ノ幸福ノ多量ヲ深く蓄藏スル所ノ術ハ、變化スル毎ニ、漸々ニ善ク變化スル所ノ習慣ヲ造成スルニ在リト、然ルニ人タル者多クハ不幸ニシテ蚤年ノ間ニ其習慣ヲ引縮スルコト多ク、所謂是ヲ以テ第二ノ天性ト称スルニ至ルコトアリ、然レトモ習慣ナル者ハ、古クシ

テ根ニ入ルタ者ニテ、随分之ヲ打返シ打消スコトノ出来ル者ニテ、智得アル処ノ人ハ若シ其習慣ノ悪クシテ邪曲ナルコトヲ知ルトキハ忽チ之ヲ變改スルコトヲ勉ムル者ナリ、

○成年ニ於テ習慣ヲ造成スルコトニ付テハ、ピタゴラスノ訓誡ニ之ヲ言ヒタルコトアリ、曰ク、行為ノ道筋ハ最モ善キ者ヲ撰ブベシ、習慣ナル者ハヨク行為ヲシテ其道筋ニ由ルコトヲ得シムベキ者ナリト、夫故ニ己ガ生涯ノ行路ト職業トヲ撰フダケノ力アル人ナラバ、成タケ邪惡ニ途ニ入ラズシテ、兼テ大ナル利益ヲ生スベキノ收穫ヲ撰ブコトヲ知り得ルナルベシ、已ニ習慣ヲ撰ブコトヲ知ルトキハ、習慣ヨリ生スル不適合ノコトハ次第ニ減少シ、満足ヲ以テ善キ習慣ヲ堅固ニスルコトハ漸々ニ長進シ、若シ一たび誤リテ悪シキ行為ヲ取ル時ハ、忽チ早く心附キ惡事ヲ繰返シテ行ハヌ様ニ其身ヲ惡キ習慣ニ陥イレヌ様ニ自ラ防禦スルナリ、唯自ラ防禦スルノミナラズ、更ニ其力ヲ進メテ、善キ行為ヲ取り、善キ習慣ヲ得ルコトヲ容易ナラシメ、惠賜ト幸福ノ結果ヲ受クルコトヲ求めベシ、

### 第三篇

己ヲ制スルコトセルフコト

○己ヲ制スルコト、一名己ヲ支配スルコトセルフ、ガブアンメントトイヘル條目中ノ重立タル職分ハ節度ヲ守ルテムベラシストイフコトニ在リ、此テムペラシストイフ語ハ廣ク云フトキハ或ハメヂオリチイ又ハモデレーシヨ共ニ節度ヲ守ルノ義ト云フ義ニ

ナリテ、此二語ハ古代ノ理學者或ハ之ヲ以テ衆徳ハ皆節度ヨリ生ズトセシ者アリシコトアリ、新約全書ニ於テハ、*Eykrataia*ノ語ヲ譯シテテムペラシスト為セリ、此原語は「吾身ヨリハ立勝リタル力」トイフコトニテ即チ己ヲ支配スルノ義ヲ包括スルニ足ル者ナリ、此語ノ義ヲ推ストキハ、人ヲ以テ、獨立ノ者ト為シ、其活動ノカト天性ノ偏向トヲ防制調理スル為ニ、務ムベキ諸職分ヲ總括シテ言フノ語ト為ルナリ、

○此職分ヲ務ムルノ目的ハ、活動ノカト天性ノ偏向トヲ根絶ヤシスル譯ニテハナク、唯之ヲ防制シ又刈リ込ム為メナリ、又之ヲ削リ消ス為ニテハナク、唯之ヲ支配シ規則ニ適當サスル為ノミナリ、此ノ如クシテ、其動力ト變更トノ全体又ハ一分ヲ以テ適應ナル配下、及ヒ順序ニ從ハシメ、而シテ此二者ヲ以テ（此者ガ思ヒ付ク通り）進動アキチイタルビチイメトノ為メニ必用ナル刺衝物スチミト為シ、又兼テ吾等ノ快樂ノ案内者ト為サントスルナリ、此快樂ナル者ハ吾身ヲ保守スル為ニシテ、又吾身ノ清白イシノニ害ナク、更ニ味ノ為メノ徳ヲ養フノ益ヲ為スベキ者ナリ、

○己ヲ制スルノ職分ハ之ヲ分ツ時ハ左ノ如シ、

#### 第一 天性ノ物欲オチユール

○天性ノ物欲ハ分ケテ三種ト為ス、曰ク飢ホシ曰ク渴カガシ曰ク男女ノ欲アアベタ、フ、セ是ナリ、

○飢、即チ食物ノ欲ハ吾等ヲシテ食物ニ適當ノ調味ト適當ノ分量ヲ得セシメ、以テ吾身体ノ健康ト強剛トヲ保全スルコトヲ得セシムル為メノ趣

意ノ者ナリ、此食欲ニ由リテ生スル所ノ快樂ハ、モシ此物欲、自然ノ満足ヲ得ル時ハ是ニ由テ忽チ消滅スル者ナリ、故ニ食欲ナル者ハ自己ノ力ヲ以テ獨立シ、自己ニ其至極ノ目的ヲ立ルコトヲ得ル者ニ非ズ、唯物欲トイフ者ヲ人心中ニ植付タル趣意ヲ助ケ成スニ過ギザル者ナリ、

○此欲ヲ肆ニスルヨリシテ生スル所ノ惡事ハ○<sup>アリユツ</sup>貪食トニイト○<sup>リユキシ</sup>奢侈ト○<sup>アスネス</sup>ストノ二者ナリ、

○貪食トハ食物ノ分量ノ度ニ過クルヲ指シテ之ヲ言フナリ、此貪食ナル者ハ先第一ニ身体ノ健康ヲ害シ、兼テ心ノ剛強ト清潔トヲ損スル者ニテ、後條ノ害ハ前條ノ害ヨリ大ナリ、獸類トイヘトモ其食欲ヲ満足セント欲シテ其制馭ヲ受クル者ハ至テ少ナシ、故ニ貪食ニ陥ルノ人ハ獸類ニ劣ルトイフモ不可ナルコトナシ、貪食ノ害ハ人ノ身体ヲ弱クシ、精神ヲ羸クシ、貴キ希望ト、活動ニハ奮興力ヲ発スルコト能ハズシテ、以テ人ヲシテ造物中ノ最下等ノ奴隷ト為ラシメ、兼テ又定數ヲ得ズ人ノ憐レミヲ得ザル死ヲ招クニ至ラシムルコトアリ、

○奢侈ハ食物ノ種類及ヒ性質ノ勝レテ美ヲ極メタルヲ云フ、凡ソ衆人大抵一樣ニ食フ所ノ食物ハ是ヲ撰ビタリトモ敢テ惡事トイフ程ノコトモアラザルベシ、唯食物ノコトニ練磨學習シテ、異常ノ形ヲ作り、自然ニ非ザルノ味ヲ調シ、新ナル食品ヲ發明シ調理シ、且ツ之ヲ供給スル為メニ許多ノ時日ト財用トヲ費ス如キニ至リテハ、大ニ道理アリテ不朽ナル人心ノ位格ヲ貶スルコト為ルベシ、簡易淡薄ナル食物モ、價貴クシテ珍異

ナル食物ヨリモ、其味ノ口ニ美ナルコトアリ、勞動スル人ハ麵包モ其味其美ニシテ、怠惰ニシテ驕奢ナル人ハ盛饌ハシモ甚タ口ニ甘カラズ、造物者ハ食物ニ付テ罪ヲ犯シタル人ニ向ヒテ夫ダケノ罰ヲ與フルト云フハ至テ慥ナルコトト知ルベキナリ、凡ソ奢侈放恣ニ生活スル者ハ常ニ疲勞ト嫌惡トイフ者アリテ待チ居ルコトニテ、是ヲ彼ノ飢トイフ者ノ待チ居ルニ比スレバ却テ心地惡シキ者ニシテ、決シテ之ヲ以テ食欲ノ不快ヲ全ク治療スルコトハ出来ヌ者ナリ、總テ食物ヲ欲スルノ心、即チ何ニテモ喜ンデ之ヲ得タシト思フ心ハ、人間ノ為ニ自己ノ身分ヲ守リ、食物ノ度ヲ鮮シ、且其恩ニ感スルコトヲ得シムルノ有様ナリ、

○戒食ハチ、即チ時ヲ限リテ食物ヲ扣ヘルトイフコトハ古今トナク東西トナク常ニ流行スルノコトナリ、然レトモ其食物ヲ扣ヘント思フマデニ至リシ手續ヲ取除ケ、又戒食ニ由テ得タル效驗ヲ取除ケ、但單ニ戒食トイフコトノミヲ引取シテ之ヲ見ルトキハ、食物ヲ扣ユルトイフコトハ決シテ有徳ノコトニハ非ザルベシ、吾身ノ職分ト幸福トハ我物欲ニ敵對セズト雖トモ得ラル、コトニテ、唯物欲ヲ制御支配スレハ足ルコトナリ、物欲ハ天ノ吾身ニ與ヘタル目的ヲ自ラ辨解スルコトヲ得ベキ者ニシテ、是ヨリ高クシテ貴キ目的モ敢テ物欲ヲ以テ邪魔ナリトナスコトナシ、戒食モ時ニ依リテハ適當ニシテ宜シキニ合フコトアリ、或ハ身体或ハ心思ノ構造又ハ身体心思兩様ノ構造ノ模様ニ由リ、戒食ヲ行ヒテ大ニ我身ニ利アルコトアリ、然レトモ吾等ガ食物ノ欲ニ付テ言フ処ノ職分ナル者ハ全

ク適度<sup>モラレ</sup>ニ在リテ制御<sup>アラスチ</sup>ニアラズ、時ニ依リテ食物ヲ扣ユルトイフコトハ智者ノ為ル所ナレドモ、食物ニ付テノ正則ハ平常其節度ヲ守ルト、之ヲ用フルニ其恩<sup>ニ感ズ</sup>ニ感ズ<sup>ル</sup>アルトノ二者ニ在ルナリ、

○渴<sup>サ</sup>ハ自然ノ人欲ノ他ノ一種ニシテ是又之ヲ制シ之ヲ支配セザルベカラサル所ノ者ナリ、何レノ国民ニ於テモスベテ渴ヲ療スル所ノ方法ハ遂ニ酩酊<sup>イソトキ</sup>ニ傾ク者ナレバ、此人欲ヲ満足セシムルコトニ付テハ必ス己ヲ制スルトイフコトヲ力行セザルベカラザルコトナリ、渴トイヘル不快ナル感覺ヲ療セント思フハ法ニ協ヒタル正シキコトナリ、然レトモ之ヲ行ヒテ酩酊ノ氣違ニ陥ルハ悪シキコトナリ、凡ソ人間ノ有様ノ憐レムベキ状ヲ頭ハスハ沈酔ノ人ヨリ甚シキハナシ、過飲トイフコトハ人ノ健康ヲ傷リ貸財ヲ費シ生命ヲ短縮シ、又朋友ノ間ヲ悪クシ、仇敵ヲ生シ、喧嘩口論ヲ弘メ、其周圍ヲ取巻ク所ノアヲユル者ハ皆我ヲ賤悔セザルハナシ、此ノ如キハ是ヲ名ケテ飲酒過度ノ人ト云フベカラスシテ、唯之ヲ名ケテ飲酒ノ禍ヲ受タル人ト云フベシ、己レ一身ノ過惡ヨリシテ遂ニ家族及ヒ朋友ヲ災難或ハ零落ノ中ニ陷入セシメ、又己ノ悪キ手本ヲ朋友又ハ交際上ニ及ボスコトアリ、若シ過酒ヲ為スノ人、一時己ガ狂行ヲ止メ、己ガ受タル零落ニ氣ヲ付クルトキハ、己カ過酒ノ惡行ハ唯己ガ賤シムベキ心ノ内ニ止マラズ、更ニ之ヲ推シテ己カ保護ト為リ、手本ト為ル人、即チ隣保ノ全社ニ其禍ノ及ボスコト恰モ疾病ト咒咀トノ如クナルコトヲ知ルベシ、

○飲ト食トハ人ノ性質ヲ鮮新ニシ強盛ニスル者ニシテ、之ヲ壓伏シ強服スル所以ノ者ニ非ズ、而シテ此物欲ニ付テノ己ヲ制スルノ規則ハ、飲ハ其欲ヲ満足シタル後、其末ダ飲食セザル前ニ比スレバ己カ職分ヲ行フニ却テ都合善キニ在リ、

○食物ニモ戒禁<sup>アラスチ</sup>アルガ如ク、人ヲ酔ハシムル飲料ニモ之ヲ用フルニ当リ、之ヲ制抑<sup>ニシテ</sup>スルノ義務アリヤ否トイヘル疑問アリ、此疑問ハ人々ノ了簡次第ニテ其用フルノ適度ヲ定メザルベカラズ、凡ソ等輩ニ對シテ行フベキ職分ハ其大ナルコトナレドモ、己ガ身ニ對シテ行フベキ職分ト反背シテ之ヲ行フハ決シテ望ム処ニ非ルナリ、夫故ニスベテ適宜ニ用フレバ、法ニ協ヒテ正シキ所ノ物ヲ、唯他人ガ之ヲ用フルコトヲ惡シク思ヒタリトテ尽ク禁抑<sup>アラスチ</sup>スルトイフコトハ決シテ賞スベキコトニ非ザルナリ、吾等ノ儕輩トイフ者ハ素ヨリ吾等ノ天性ノ自由ヲ奪ヒ、又我道理ニ協ヒタル安慰ヲ短縮スルノ權理ヲ有スル者ニ非ズ、吾輩カ勝手に廢止セント思フコトハ、皆我自ラ其事ノ結果ノ利益ヲ先見シテ之ヲ行フコトナリ、若シ之ヲ禁抑スルニ力ヲ費スコトモナク、又我身ヲ損傷シ又便宜ヲ失フコトモナク、而シテ之カ為メニ怠惰ヲ警戒シ、惡事ヲ改修スルコトヲ得ルコトナラバ、唯其事ノ法則ニ協フノミナラズ、常人ハ過量ニ流レ易キノ物ヲ制抑スルトイフハ甚公正ノ道理ニ適合シタルコトナリ、又若シ之ヲ制抑シテ吾身ノ健康ヲ損シ、吾身ノ安慰ヲ減シ、疾病或ハ不平ヲ起シ、又正シキ満足ノ習慣ト、程ヨキ生活上ノ要須ヲ破ルコトアラバ

、禁抑アプステノ義務ハ之ヲ行フニ及バザルコトナリ、凡ソ人類ハ加様ナル満足ヲ正シク程ヨク用フルニ由リテ、吾身ノ健康ト幸福ト一般ノ要須トヲ商量斟酌スル者ニシテ、此満足ナル者ハ上帝其至善ノ心ヲ以テ人類ノ為メニ準備シ置タル者ナリ、

○男女ノ欲ヲ適宜ニ之ヲ支配スルトキハ純貞チヤイト節欲コンチトノ二徳ヲ高クシ、若シ之ヲ恣ニスルトキハ淫乱イコント放蕩ライセントノ惡事ニ陥ル者ナリ、

○此欲ニ付テ己ヲ制スルノ職分ハ世上一般ニ思フ処ヨリハ其界限廣クシテ且切要ナリ、即チ心思ヲ節制シ、スベテ淨潔ナラザル感覺ト想像トヲ防遏除去スル等ノ事ニマデ及ビ、之ヲ為スニハ、スベテ純貞ト節欲トノ規則ヲ破ルベキ身体上ノ舉動ヲ禁スルハ勿論ノコトニテ、兼テ又我口舌ヲ制馭シ、放從輕薄ナル說話ヲ為スコトヲ禁スベキコトナリ、

○男女ノ欲ヲ始メテ其他ノ人欲ニ付テ己ヲ制スル為メニ利益アル題旨ハ、道理ノ訓誡、吾等ノ性質ノ幸福、吾行為ノ徳ノ三者ナリ、上帝ノ意ニ必ス、此ノ如クナルベシ、此三者ノ力ニ由テ人欲ヲ節制スルコトヲ得ル者ナリ、凡ソ其度ヲ過ゴシテ吾身ニ害ヲ來ス者ハ男女ノ欲ヨリ甚シキ者ナシ、吾身ヲ以テ此欲ニ任セタル者ハ暴君ノ下ニ立テ最モ賤悔ヲ受ケタル奴隸ノ如シ、此人ハ己ガ心ノ清淨ト安靜トヲ打崩シ、其健康ト体格トヲ損シ、其身ヲ以テ卑賤醜惡ノ地ニ置ク者ナリ、此人ハ己カ身ニ屬セル美名聲譽ヲ次第々ニ消亡シ、罪過ノ疾病ヲ以テ前進ヲ被覆シ、己

ガ醜惡ニシテ價值ナキ仲間ノ外ハ、世間一般ノ交際ヲ為スニ不安心ニシテ且不適当トナルナリ、

○心理学ノ法ヲ以テ人欲ノコトヲ論ズルトキハ、更ニ身体上ノ傾向テラテラトイフ者アリテ人欲ト同ジク發生スルコトヲ知ル、此傾向ナル者ハ本ハ形体ノ自然ノ有様ニ根シ起リ、其時ノ態様ニ由リ不快ナル感覺ヲ起シ、一時此感覺ヲ取除ンガ為メニ生スル処ノ者ナリ、其傾向ノ重ナル者ヲ數フレバ、働キノ傾向ノ如キハ、總テ幼獸ニ於テ明カニ之ヲ見ルベク、休息ノ傾向ハ疲労ノ後ニ起リ、睡ノ傾向ハ長ク行歩スルノ後ニ起リ、又温処ヲ求メ、隱蔽所ヲ尋ヌルノ傾向アリ、此傾向ノ如何ンヲ論スルトキハ遂ニ大氣、運動、睡眠ナル者ノ人ヲ健康ニ益アル感觸ヲ生スルトイフニマデ論シ至ラザルベカラズ、此ノ如ク論ジ至ル時ハ心理学ノ區域ヨリハ多ク生理学ノ區域ニ屬スベキコトトナルナリ、道德ノ趣意ヨリ之ヲ言フトキハ人欲ニ付テ己ヲ制スルノ職分ハ其自然ノ傾向ヲ満足サセ、自然ノ需要ヲ充タストイフ所マデ

弘達スベシ、又是ヲ節度ニスルコトニ付テ同シ場所ト同シ道理アルベシ、若シ傾向ニノミ従フトキハ一方ハ休息スルコトナクレストレ一方ハ怠惰ニ陥リレインド共ニ過惡タルコトヲ免カレサルベシ、智アリ徳アルノ人ハ必ス之ヲ制抑スルヲ以テ己ガ職分ト為スベシ、

○己ヲ制スルノ職分ニハ左ノ條件アリ、

第二節 願望テサト欲情パッショントニ付テノ克己

○願望ニ二種アリ、其一種ノ者ハ其身ニ固有セル天性ノ傾向ニシテ、其身ヲ以テ自然ニ其方ニ連レ行ク者ナリ、此ノ如キ者ハ我等ノ性質ト其為サント欲スル目的トノ間ニ本来ノ契合適當スル所アル者ナリ、他ノ一種ノ者ハ段々ノ經驗上ニ於テ我身ニ必要ナルコトヲ知り、夫ヨリ願望ノ心ヲ起ス者ナリ、此二者ニ対シ己ヲ制スルノ職分ヲ行ハザルヘカラザルコトナリ、若シ吾等ノ傾向ヲ或ル目的ノ上ニ差向クルトキハ、其傾向ハ過度ニ其目的ニ服從シ、其外ニ是ヨリ緊要ノ事アリトイヘトモ、却テ其事ヲ打捨テ顧ミザルニ至ルコトアリ、故ニ此ノ如キ傾向ニハ謹慎着意スルヲ殊ニ要須トスベシ、其故ハ吾輩ノ願望ハ若シ自然ノ允許ノ境界ヲ越ユルトキハ吾輩ノ人欲ト同ジク自警戒スルトイフコトハナキ者ナレバナリ、此願望トイフ者ハ其目的ヲ得タレバトテ、夫ニテ減消スル者ニアラズ、之ヲ養ヒ上グルニ從ヒテ漸々ニ增長スル者ナリ、故ニ其願望ナル者初メハ天性ノ者ニテ随分許スベキ者ナレドモ、其意ヲ得ルヨリ、其度ヲ進メ遂ニ第二ノ願望、即チ新願望ヲ生スルコトアリ、此願望ヲ養ヒ立ルハ自然ニ非ス又正理ニ非ルナリ、吾等ノ感キ易キ処ノ願望及欲情ヲ以テ成ルタケ之ヲ仕遂ル様ニシ、又己ヲ制スルノ職分ヲ行ヒテ其願望ノ一二件及ヒ全部ヲ制抑整理スルトイフコトハ、最モ利益アリテ且肝要ノコトナリ、一般ノ見込ハ是ニテ足ルコトナリ、

○人ノ願望及ヒ人ノ職業中ニ於テ重立タル者ハ左ノ如シ、曰ク榮<sup>ウ</sup>養<sup>オウ</sup>曰ク富<sup>フ</sup>貴<sup>ク</sup>曰ク快樂<sup>ク</sup>是ナリ、

○他人ヨリ賞譽讚稱ヲ受ケ、夫ヨリシテ分別<sup>ヂスチン</sup>榮<sup>ウ</sup>養<sup>オウ</sup>トノ傲ヲ得ント欲スルノ願望ハ自然ニシテ且正シキ者ナリ、然レトモ世上ノ榮譽贊稱トイフ者ハ動モスレバ其実ニ過クルコトアリテ、之ヲ求ムルニ過度ノ熱心ヲ為ス者アリ、己ヲ制スルノ職分ハ、実ニ過クルノ虚名ヲ得ンコトヲ欲セズ、又慎ンテ過度ノ熱心ヲ以テ之ヲ求ムベカラザルナリ、虚譽ヲ得ルニ由リテ歎喜ニ堪ヘズ、又之ヲ失ヒタルニ由リテ大ニ脱力スルハ道德ノ禁ズル処ナレハ、此ノ如キコトノナキ様ニ心掛クベキコトナリ、

○富<sup>フ</sup>貴<sup>ク</sup>ハ願望及ヒ進取スベキ目的中ノ佳好ニシテ且稱美ヲ受クベキ者ナリ、併シ富ナル者ハ之ヲ得ルニ從ヒテ益其望ヲ増シ止マル所ヲ知ラザル者ナリ、若シ富ヲ求ムルノ心其度ヲ過クルトキハ、之ヲ得ント欲スル誠実ノ目的ト、之ヲ行フ処ノ良善ナル所為ハ、共ニ亡失シ、是ヲ得ルノ道ハ唯其末節上ニノミ止マルナリ、故ニ若シ之ヲ失フトキハ大ニナル災難ニ逢ヒタル如キ思ヲ為シ、憂愁鬱悶ノ極ニ沈没スル者ナリ、己ヲ制スルノ役目ハ富ヲ愛スルノ不正ナルヲ制シ、甚シク之ヲ追掛クルノ心ヲ和ラゲテ適當ノ所ニ止ラシメ、是ヲ得タリトテ甚シク驕傲ノ心ヲ長スルコトナク、是ヲ失ヒタリトテ痛傷スルコト勿カラントヲ要スベシ、

○凡ソ吾等ノ性質ノ無罪ナル感覺ヲ満足サセ程ヨク吾等ノ道理アル遊娯ニ結合セシメ、是ヲ以テ適宜ニ己ガ快樂ヲ嘗ムルコトハ大ニ心ヲ勞使シタル後ニ於テ其心力ヲ恢復シ、再度ノ働キノ準備ヲ為サシムベキ者ニシテ本ヨリ法則ニ協ヒタル公正ノ事ナリ、睡眠ノ身体ノ力ヲ再新スルニ必

要ナルガ如ク遊娛モ亦勞役シタル心力ヲ恢復スルニ於テ太必要ノ者ナリ、  
聖經ニモ亦躍ル為、歌フ為メノ時間ヲ持ツトイフコトアリ、然レトモ此  
遊娛ナル者ハ動モスレハ其度ヲ過ギテ、怠惰輕浮又ハ惡事ニ陥ルコトア  
リ、己ヲ制スルノ役目ハ快樂遊娛ノ漸々ノ蠶食ヲ防クニ在リ、此者ハ直  
チニ之ヲ目シテ惡事トハ為スベカラズト雖ドモ、吾等ノ全クノ心思ヲ奪  
ヒ、全クノ時間ヲ亡失シ、吾輩ノ行フベキ職分ニ付テノ感覺ヲ薄クシ、  
遂ニ其職分ヲ行フニ堪ヘザルニ至ル者ナリ、

○己ヲ制スルノ役目ハ又感觸アッフク感覺キリ調整スルコトニ付テ用フベ  
キコトアリ、然レトモ感觸ノ如キハ仁惠惡意ノ兩様共ニ彼感恩怨恨及ヒ  
哀憐懇親等同ジク、他人ニ對セル上ニ於テ頭ハル、者ナレバ、此感觸  
ヲ調理整頓スルノ教ハ下ノ交際上ノ道德ノ部ニ於テ論スルヲ適當ナリト  
スベシ、乍併其内ニ亦一個ノ道德部ニ屬シテ吾輩ガ能ク注意セザルベカ  
ラザルノ題目アリ、凡ソ吾等ガ性来ノ人欲及ヒ性来ノ願望欲情トニ付キ  
テ己ヲ制スルノ役目ハ如何様ニ現出スルカヲ考フル時ハ、其徳トイフ者  
ハ皆知覺ノ請求ノ娛樂ノ誘惑ヲ防クヨリシテ生ズルコトニシテ、惡トイ  
フ者ハ自放恣ニスルト淫情ヲ肆ニスルトヨリ起ル者ナリ、然レトモ行為  
上ノ役目ナル者ハ唯誘惑ヲ防クノミテ足レリトスベカラズ、亦危苦困難  
ニ抵敵シ、苦痛兇惡ニ打勝ソコトヲ勉メザルベカラズ、若シ打勝ソコト  
能ハサレハ之ニ忍耐スルコトヲ務メザルベカラズ、夫故ニ猶下ノ條目ヲ  
以制己ノ中ニ算入セサルベカラズ、

### 第三節 我身ノ艱苦困難ノコトニ付テ己ヲ制スルコト

○前ニ言ヒタル己ヲ支配スルトイフコトノ條件ハ、多ク我性来ノ物欲ト  
願望トノ管係ニ在ル者ニシテ是等ノ者ハ皆節度テムベトイヘル主徳ノ下ニ  
付屬スル者ナリ、此節度ノ役目ハ己ガ心智ノ力ヲ強クシ、娛樂ノ誘惑及  
ヒ我等ガ性質ニ協フ処ノ事物ノ誘引ニ抵敵スルニ在リ、此ノ如キ者ハ動  
モスレバ吾等ヲシテ過度又ハ過惡ノ中ニ陥ラシムルヲ以テナリ、今言フ  
処ノ己ヲ支配スルトイフ條件ハ多ク我身ノ困苦患難ノ中ニ處スル時ノコ  
トニ付テ之ヲ言フ者ニシテ、皆剛氣コウキトイヘル主徳ノ下ニ屬スル者ナ  
リ、剛氣又論ノ職掌ハ我心ヲ以テ正理テイリナリト信スル所ニ固定シ、苦痛ト  
艱難ト抵敵スルニ在リ、節度ハ我等ノ願望ト放肆トヲ調整シ、強忍ハ吾  
等ノ恐懼ヲ制シ、怯弱ヲ強固ニス、此事ハ衆徳ヲ己レニ得、又之ヲ保存  
スルニ欠クベカラザルノコトナリ、凡ソ人間職分ノ道路ハ總テ困難ヲ以  
テ困遶セリ、故ニ職分ノ中ニ入ラントスルニハ、必許多ノ困難ト戰テ之  
ニ勝タザルベカラズ、「シセロ」ノ言ニ曰ク……

○強忍ニハ他動ト受動トノ二種アリ、是ニ其敵對スル惡事ノ模様ニ依リ、  
或ハ之ニ打掛リテ打勝ツベキコトアリ、又ハ之ヲ引受テ堪ラヘ通スベキ  
コトアルニ由テナリ、此他動受動ノ二種ノ強忍ハ大量マツナニ平氣ヘイクニ  
ノ二徳ノ區別ニ相似タリ、此二徳ハ古代ノ道學者ハ皆其書中に甚々之ヲ  
尊重セシ者ナリ、

○大量ハ心ノ勝レタルコトノ一種ニシテ、我身ヲ以テ世界ノ万物ノ善

悪ノ上ニ卓出セシムルコトナリ、譬へハ此一事ハ我身ニ幸ヲ為スベキコトナリトモ、偏ニ其事ノミヲ以テ必要ノコトト為ルコトナク、又他ノ事ハ吾身ニ禍ヲ為スベキコトナリトモ、其事ヲ打捨置テ、其事二十分ノ威勢ヲ振ハスルコトナドハ為サズルナリ、此活発ナル説ハ、西塞魯ノ書ヨリ引用セリ」此大量トイフハ単純ノ徳ニ非ズシテ、彼強忍及ヒ其他ノ諸徳ヲ生スル心ノ有様トハ同ジカラス、大量ハ、危難又ハ誹謗レフコロチ恥辱ヲ恐ル、トイフ尋常ノ心ニ一層卓越シタル心ヲ包括シテ言フ者ナリ、「ハビユース、マキシミュス」ハ危難ト恥辱誹謗トヲ畏レサルヲ以テ之ヲ大量ノ人ノ模範ト定メタリ、

○平氣ハ此身ノ有様ノ種々ニ変化スル中ニ於テ其心ヲ平静ニシテ少シモ動揺スルコトナキナリ、其身貧賤ニシテ人ニ服事スル時ト雖トモ、諂媚諛曲ヲ為スコトナク、又富貴威勢アル時トイヘトモ、傲慢輕侮スルコトナク、何レノ場合ニ於テモ共ニ親切ト恭敬トヲ尽スコトナリ、此性質ヲ「ホーラーセ」詩ニ賦シテ・・・ト曰ヘリ、西塞魯又其著書ニ於テ大ニ此平氣トイフコトヲ稱賛セリ、通用ノ語法ヲ以テ言フトキハ、大量ナル者ハ精神ノ高大ニシテ危難ト困苦ト戦ヒ之ニ打勝ツ者ニシテ、他動ノ強忍ニ相似タリ、又平氣ハ災厄ヲ堪ラヘ通スニ適當シタル者ニシテ受動ノ強忍ニ相似タリ、

○他動ノ強忍ハ決志レシヨシ及ヒ確定コンスタト、剛毅イデレトヲ包含セリ、

○決志ト確定トハ、善人己カ緊要ニシテ約束シタル職分行フヘキ付テノ

徳ニシテ、若シ之ヲ行フトキハ吾身ニ災難ノ来ルコトアルモ、睨ト其心ヲ定メテ少シヲ動揺スルコトナキヲ言フナリ、古代ノ学士常ニ確定ノ例ニ引用スル処ノ実蹟ハ「レキユリユス」ノ事ナリ、此人ハ己カ残酷ノ死ヲ得ヘキ前知スト雖トモ、本国ノ不利ヲ為サズル為メ、羅馬人ニ勸メ、(カルタゴ)加爾達額人ト俘虜ヲ交換スルコトヲ否マシメタルナリ、

○剛毅ト勇敢トハ危難ノ中間ニ在テ、其心ヲ定メ精神ヲ現存スルコトヲ言フナリ、決志ト確定トハ免カルベキノ目當ナキ危難ノ中ニ陥リタルトキ、己カ職分ヲ堅ク守リテ失ハズ、死亡ニ罹ルベキヲ先見ストイヘトモ少シモ其志ヲ変ゼザル者ナリ、剛毅ト勇敢トハ是ニ異ニシテ、力ヲ以テ打勝ツベキ危難ノ中ニ陥リタルトキ、己カ心志ヲ奮發指揮シ其危難ヲ踏越エテ其禍ヲ免カレンコトヲ求ムル者ナリ、兵士己カ立場ヲ守ルトキ、地雷火ノ其足下ニ破裂セントスルヲ知ルトイヘトモ其立場ヲ去ラザルハ、決志ト確定トノ力ナリ、兵士伏兵ニ陥リタルトキハ其精神ヲ引起シ、敵ヲ打破ツテ其禍ヲ遠レンコトヲ求ムルハ剛毅ト勇敢トニ在ルナリ、

○決志ト確定トニ反対セル惡徳ハ不決定イルレリ不定者インコントナリ、此二ツノ者ハ若シ危難又ハ困苦ノコトニ出逢フトキハ忽チ其守ルベキ職分ノ道路ヲ踏違フ者ナリ、又剛毅ト勇敢トニ反対セル惡徳ハ怯懦ワイノ畏怖ヒールフルネストナリ、此二者ハ自己ノ心ヲ把持スルコトヲ忘レテ、勇ヲ奮ツテ抵抗シ且ツ亦勝ツベキコトニ逢ヒ、却テ自ら畏縮スル者ナリ、然レトモ剛毅勇敢トイフ者其度ヲ過タルトキハ又冒昧ラシトナル、冒昧ナル

ハ危難困苦ノ事ヲ見レバ、無闇ニ突進シテ之ニ觸ル、者ニテ、己ノ職分ヲ行フニ妨ナキ事トイヘトモ亦前シテ之ニ抵敵スルノ病アリ、又決志ト確定ト其度ヲ過クルトキハ頑固。

オフシチ  
ナシイト云ヘル惡徳トナルナリ、決志ハ固ヨリ美德ナリト雖トモ、此事ハ道徳ニ於テ必為サブルベカラザルコトナリト決心シ、少シモ他ヲ顧ミス、是ニ由テ却テ其事ヨリ高等ニ在ル義務ヲ押シ破ルコトアリ、併シナカラ實際上ヨリ言フトキハ此事ハ至テ罕ナルコトナリ、

○受動ノ強忍トイフコトハ皆堪忍ハチエトイヘル條目ノ中ニ含有セルコトナリ、

○謙遜ヒミミハ他人ヨリ我身ヲ賤辱輕侮シタルトキ、之ニ對シテ怨惠ヲ抱クコト甚少キコトヲ得ルノ性ナリ、又順良ネスキトイフコトモ他人ヨリ我ニ障害ヲ為シタルトキ、寛心ヲ以テ之ニ堪フルコトヲ得ルニ適スルノ性ナリ、此兩者ハ共ニ堪忍トイヘル語ノ内ニ包容スベキ者ニシテ、他人ヨリ妨害ヲ受タルトキ、平心ヲ以テ之ニ耐ルコトヲ得ベキ者ナリ、災害ヲ免カレ、又ハ輕クスベキ景色ノ猶殘リ居ル時ハ他動ノ力ヲ奮ヒテ之ヲ免カル、ノ道ヲ求ムベシ、若シ道ノ途全ク絶エタル時ハ受動ノ心ヲ固クシ、安ンジテ他来ノ災難ヲ受クベシ、

○忍耐前ニ堪忍ト  
誤セル者ノ我身ニ益アル所以ノ道理ヲ推スニ、一ハ、凡ソ世界上ノ利益ハ常ニ一定セル者ニ非スシテ消散スベキノ性質アルニ因リ、一ハ此性質アルヲ以テ眞実ニシテ十分ナル幸福ヲ造成スルコトハ至テ難キニ因リ、

一ハ何レノ場合ニ逢フテモ、常ニ我心ヲ平静安易ヲ望ムニ由リ、一ハ不平憤怒ヲ抱クハ我身ノ為メニ甚不幸不福ナルニ由ル者ナリ、然レトモ忍耐ノ徳ニハ此上ニモ猶巨大ノ益アリ、即チ苦痛困難ナル者ハ我身ニ受クルレハ甚難儀ナル如シトイヘトモ、是即チ上帝ガ道徳政治ノ一部分トナルコトニシテ、無益ニ我等ヲ苦痛困厄セシムル為ニ非ズ、其災厄困難ナル者ハ我等ノ天性ヲ修養シテ吾等ノ幸福ヲ進ムル者ニシテ、平心忍耐シテ受クルトキハ是ニ由テ我身ノ職分ヲ尽シ、我身ノ利益ヲ享ルコトヲ得ル者ナリ、

○忍耐ヲ行フニ當リ、其除クベキ惡徳ハ不快ハチエ不平等マシマ短氣フレツト怒り易キヒヒ辛抱イムチ弱キエンス等ナリ、是等ノ惡徳ヲ抑制スルニハ自ラ制スルノ篇中ニ猶守ルベキノ條件アリ、

#### 第四節 偏性ハムニ付テノ克己

アンヂン  
安底孫曰ク、余嘗快活チルラト相管係スルコトヲ知レリ、樂ハ人ノ心ノ行為ニシテ、快活ハ人ノ心ノ状態ナリ、喜樂ハ短クシテ消滅シ易ク、快活ハ固定ニシテ永久ナル者ナリ、最モ憂悶ノ中ニ沈ミタル処ノ人或ハ移リテ大ナル喜樂ヲ得ルコトアリ、快活ハ人心ニ勝レタル歡欣ヲ與フル者ニハ非ザレトモ常ニ吾等ノ憂愁ノ深潤ニ沈ムヲ防ク者ナリ、喜樂ハ黒雲ノ際ヲ透シテ電光ノ閃メクガ如ク、其光ヲ發スルコト暫時ニ過ギズ、快活ハ心ノ中ニ太陽ノ光ヲ保存シ、常ニ替ラザル清晏ヲ保持スル者ナリ。

○吾身ノ幸福上ニ付テ吾性質ノ是ト相管係スル者アリ、学士ステワルト  
之ヲ名ケテテムペルト云フ、今譯シテ偏性ト云フ、「ステワルト」此語ヲ  
以テ、人ノ心ノ怒リ易キ有様ニ用ヒタリ、即チ人間仲間トノ交際ニ於テ  
博愛ノ感情、忿恨ノ感情共ニ常度ニ過クル処ノ習慣ヲ云フナリ、今此  
書ニ引用スル偏性ノ義ハ、廣ク人心上ニ現ハル、勢力及ヒ變化ニシテ、  
人間仲間ノ交際上ニ發スル者ヨリハ、銘々一個ノ身ノ上ニテ、其幸不幸  
運不運ニ發スル者ヲ多ク指シ言フナリ、学士レイド曰ク動物ノ原理（願  
望、感情、欲情ヲ指ス）ノ權衡ハ、スベテ人間自然ノ偏性ヲ生スル者ナ  
リ、此偏性ナル者ハ善惡共ニ道德ニ協フコト能ハズ、此偏性ヲ支配ス  
ルコトニ付テハ、善惡共ニ、道德ノ學習、幸福ノ上進トノ為メニ廣濶田  
野アルコトナリ、

○凡ソ人ノ偏性ヲ感動變化スル所ノ者ハ左ノ如シ、曰ク吉昌リチイロ曰ク  
災難シチイロ曰ク健康ヘル曰ク疾病シキネ等ナリ、

## 第二冊 交際上ノ道德ソシアル エセツクス

「トムソン」ノ詩ニ曰ク、理學ナル者ハ唯架空ノ謀慮、空塵ノ想象  
ニ非ズ、交際上ノ規則ト所行トハ理學中ノ大部ヲ領セリ、

○我等ト同シ受造物ニ對シテ行フヘキ職務ハ之ヲ大別シテ二ト為ス、一  
ヲ公正ヂヤストイヒ、一ヲ仁愛レントト云フ、此二ツノ職務ヲ行ハントスルニ  
ハ、先ツ己カ目的トスル者ニ對シ、我仁愛ノ心、即チ善良ノ意グット  
ワイルヲ以テ

公正ヂヤスヲ行フコトナリ、故ニ仁愛ノ所行ト稱スル者ハ其実ハ即チ公正ノ所  
行ナリ、此二德ハ我等ノ交際仲間ノ居ル場所ト其模様トニ從ヒテ互ニ之  
ヲ施行スベキ者ナリ、此二德ハ我等ノ交際ノ性、即チ道理ノ性ナリ、此  
二德ハ天命ノ安排、上帝ノ意思ト其歸ヲ一ニスル者ナリ、今公正ノ職分  
中ノ個條ヲ掲出シ、仁愛中ノ個條トヲ並べ見ルトキハ、一方ノ個條ニ多  
ク道德ノ義務ヲ行ヒ、一方ニ少ク義務ヲ行フトイフコトハ之ナキコトナ  
リ、此二德ハ共ニ吾等ガ道德上ノ性質及ヒ交際上ノ有様ノ根基ニシテ、  
道德者ノ眼ヨリ之ヲ見ルトキ、此二德ハ互ニ連合約束セル者ナリ、

○学士「ヒューム」曰ク、仁愛ハ自然ノ徳ニシテ公正ハ人為即チ約束ノ  
徳ナリト「ヒューム」ガ自然ナル語ヲ用ヒテ指シタル徳ハ、人間ノ天  
性ニ屬セル知覚、感情ヨリ發シ、道德ノ感覺ニ力ト能トヲ與へ、以テ道  
徳上ノ義務ヲ行フコトヲ得セシムルノ徳ヲ指シテ之ヲ言フナリ、凡ソ我  
等ノ性質ニハ道德ノ能力ト一致シテ、吾等ヲ親切憐憫ノ中ニ引入ル、処  
ノ感情知覚至テ多シ、然レトモ吾等ヲ公正ノ中ニ引入ル、処ノ感情知覚  
アルコトハ未ダ之ヲ考ヘザルナリ、是仁愛ヲ以テ自然ト名ケ、公正ヲ以  
テ人為ト名クル所以ナリ、然レトモ公正ノ感覺ハ、親切憐憫ノ感覺ト異  
ニシテ、全ク自然ノ者ニ非ルカト問フトキハ、亦之ニ許多ノ疑ナキコト  
能ハズ、吾等ガ公正ノ事ヲ為スベシト感ズルノ心ハ、公正ハ何事ナリト  
穿鑿スルノ心ニ先ダツ者ナリ、公正ノ事ヲ為スベクシテ、之ヲ為サズル  
ノ間ハ、我心ノ安靜ナラザルコトハ、恰モ苦惱ヲ引受テ、之ヲ除キ去ル

コト能ハザルトキノ心持ニ同ジキ者ナリ、公正ニ事ヲ為スベキノ職分ハ  
深ク我天性ニ根スル者ニシテ慈悲ノ職分ヲ行フト同シキ者ナリ、故ニ仁  
愛ト公正ト、共ニ天性自然ニシテ且互ニ相連繫スル者ナリ（「リイド」ノ  
エッセイ、「ステワルト」ノ  
モラル書ヲ參看スベシ）

○然レトモ嚴格ニ公正ヲ行ハントスルニハ、成文法即チ民法ノカヲ假ラ  
サルベカラズ、仁愛ノ如キハ決シテ法律ノカヲ假ルコトナシ、人タルハ  
負債ハ是非トモ之ヲ還償セシメサルベカラズ、貧者に施捨スル如キハ必  
之ヲ為サシムルコト能ハズ、此事則チ道德ト律道（ジュリス）トノ相違ナル所  
ナリ、道德律道ハ共ニ造化ノ光輝ニ由テ知ラレタル正ト邪トノ大法則ヲ  
根礎トシタル者ナリ、道德ハ總テ我等ヲシテ正シキコトヲ行ハシム、  
其故ハ道德ハ正シキ者ナレバナリ、律道ハ我等ヲシテ正シキコトヲ他人  
ニ與ヘシム、其故ハ法律ハ造化ノ光ニ由テ道德ノ範圍ニ歸スベキコトヲ  
本據トシテ之ヲ定メタル者ナレバナリ、然レトモ之ヲ実事ニ顯ハスニ至  
リテハ（他人ヨリ我等ニ望ムコトアルトキ）直チニ成文律ノ力ニ由リテ  
成ル者ナリ、此區別ヲ明ラカニスル為ニ、或ハ律道ニ由テ命スル所ノ者  
ヲ十分ナル義務（ベルフエクト）トイヒ、道德ニ由テ命スル所ノ者ヲ不十分ナル  
義務（イムベルエクト）ト云フ、然レトモ此語ニハ病アリテ道德ノ義務ハ律道ノ  
義務ニ及ハザル如クニ見ユルナリ、其実ハ律道ノ義務ハ道德ノ義務ヲ以  
テ根本トシ、國民ノ法律ハ造化ノ法律ヨリ分出スル者ナリ、故ニ此區別

ヲ明カニスルノ為メノ真正ノ語ハ、一ヲ決定ノ義務（デテルミネト）ト名ケ、成文  
律ヲ以テ之ヲ行フベキ者トシ、一ヲ不決定ノ義務（インデテルミネト）ト名ケ、成文  
律ヲ以テ之ヲ実行スベカラザル者ト為スナリ、

○道德ト律道トハ其品級ノ異ナルノミナラズ、正理（ライ）ナル語モ道德ニ用  
フル者ト律道ニ用フル者トハ少シク其意味ヲ異ニセリ（形状詞、名詞ト  
モ）（ホウエ、ヒノ脱）而シテ道德ニ用フル者ハ律道ニ用フル者ヨリ其包ヌル所較廣ク、  
スベテ正シクアル所ノコトハ皆此ヲ指シテライトト云フ、律道ニテハ、  
其人ニ附着シタル別段ノ正理ノミヲライトト稱スルナリ、律道ハ人間交  
際ノ義務ノ全体ヲ包括スル者ニ非ズ、唯交際中、一定セル憲法ノ題目ト  
ナルベキ一部分ノミヲ論ズル者ナリ、故ニ交際上ノ職分ノ篇ハ公正ト  
仁愛トノ二部ニ區別スルヲ以テ適當ノコトトナスナリ、然レトモ公正ヲ  
論ズルニ方リテハ、律字ヨリ出タル言語ト區別トヲ用スルヲ以テ利益ア  
リトス、然ルトキ公正ニ屬シタル義務ヲ明白確實ニ圖取リスルノ助ヲ得  
ルコト多シ、（「レイド」ノ「エッセイ」ニ出ヅ）若シ仁愛ノ職分ヲ論ズルニ  
至リテハ純粹ナル道德ノ教ヲ以テ之ヲ説カザルベカラズ、公正ノ職分ノ  
如キハ一分ハ道德ニ據リ、一分ハ律道ニ據ルヲ宜シトスベシ、其故ハ嚴  
格ニ公正ヲ行ハントスルトキハ、多少成文律ノ助ヲ假ラザルベカラザレ  
バナリ、

## 第一部分

仁愛（ベネボール）  
レニス

○交際ノ職分ノ第一ハ人類ナル者ハ皆何レモ自然ニ平等ナル者トイフコトヲ知ルニ在リ、亜立斯度徳曰ク（其政治書ニ出ヅ）人タル者ハ自然ニ主人ト奴隷トノ差別アリ、而シテ希臘人ハ自ラ他国ノ民ヲ管治スルヲ為メニ成リシ者ナリト、羅馬人ハ自国ノ疆域ノ外ニ住ム所ノ民ヲ總テ蛮夷ト為シ、冷情ヲ以テ之ヲ遇スル者ト定メタリ、猶太人ハ唯亜伯拉罕ノ子孫ノミニ限リテ仁恵ヲ施スベキコトト為ス、獨基督教ハ之ニ異ニシテアラユル人類ヲ敬スベシトイフコトヲ教ヘタリ、即チ人タル者ハ何レモ同様ナル天性ヲ分配シ得タル者ナレバ、同様ニ之ヲ恭敬セザルベカラサルノ理ヲ有セリ、仁愛即チ兄弟ノ如キ愛情ノ法則ハ一般同様ナルニ在リ、但シ人生ノ管係ノ模様ニ從ヒ、少シク変易セサルベカラスト雖トモ、其仁愛ノ境界ヲ限リテ其他に及ホサバルトイフコトハナキコトナリ、吾等ハ中心ヨリ仁愛ヲ起シテ廣ク全衆ヲ結合スルコトニ注意スルコトニテ、恰モ水面ニ波紋ヲ生スルガ如ク初メハ一点ノ波紋ヨリ漸々廣張スルコトハ、親愛ノ順序一家ヨリ起リ一國ニ及ホスト恰モ相似タリ、即チ一握ノ仁愛ハ廣張シテ全世界ノ人類ヲ抱擁スルニ至ルベシ、上帝一個ノ血液ヲ以テ分ツテ天下ノ人類ヲ造リ、之ヲ地球ノ表面ニ栖止セシメタリ、縦令朋友ノ感情、愛國ノ性質等ノ如キハ衆人ノ温熱心ヲ以テ容易ニ承認スル処ナリト雖トモ、決シテ天下ノ人類ヲ合併結合スル所ノ大關係ヲ忘却スベカラズ、即チ天下ノ人類ハ皆共同ノ父母ナル上帝ノ兒子ニシテ愛情アル後嗣人ナリ、故ニ無限ノ人徳善徳ヲ上帝ヨリ分與シ、不朽ヲ期スベキ

者ナルトイフコトヲ了知スベシ、

○然レモ己ガ仁愛ノ境界ニ限リヲ付ケテ其境界ノ外ニ及ホサバル者ト、一般ニ區別ナク仁愛ヲ施シテ其仁愛ヲ費シ尽ス者（若シ之ヲ少數ノ人ニ用フルトキハ大ニ功ヲ為スベキ者）トハ共ニ善事ト為スベカラズ、而シテ又謀計ヲ誘導スルハ己カ身持ヲ整フコトヲ以テ必要ト為スガ故ニ、人ニ施與スルコトニ付テハ、敢テ境界ヲ立テス、又其目的ヲ前定スルコトナシ、唯我等ノ隣人ヲ愛スベシト云フコトヲ命セラル、ノミナリ、教長「ブツトレル」曰ク、聖經ハ理論及ヒ謀計ノ書ニ非ズ、唯人間ノ平正ナル規則ヲ示シタル書ナリ、而シテ聖經ニハ人間固有ノ性ニ原キ来リ、同類ヲ愛スルヲ以テ人徳ノ原理ト定メタリ、同類ナル者ハ世界ノ一分、人類ノ一分、本国ノ一分ヲ為ス者ニシテ、直チニ我等ノ注目ノ内ニ来リ、吾等ノ交情吾等ノ相感ヲ通シ、且ツ之ヲ以テ我等カ仁愛ヲ行フコトヲ得ベキ者ナレバナリト、

○道徳ノ教誡ニ於テ、己ガ同類ヲ愛スルコト吾身ノ如クスベシトイヘリ、此言ハ彼、吾等ノ仁愛ハ我身ヲ愛スルト其階級ヲ同クスベシトイヘル說明シヲ要スル所ナリ、是ニ依ルトキハ二様ノ感情ヲ以テ同性質ノ二物類トノ上ニ施ス者ニシテ即チ二物ニ施スニ一様ノ仁愛ヲ以テスルコトナレトモ、他人ニ向フト、吾身ニ向フトニ依リテ二様ノ感情トナルナリ、是ヲ以テ彼我ノ上ニ於テ感發スル処ノ感覺、及ヒ提撕スル所ノ進動ハ、彼我共ニ一様ナルベシ、教長「ブツトレル」曰ク、道徳ノ義務トイフ者

ハ、自然ニ能クスベキコト丈ヲ限リトシ其ノ外マデニ及ブコトナシ、我等ハ皆自己ノ利益ト我身ノ現存トヲ會得シテ是ヲ以テ我身ノ上ニ運ビ来スコトヲ知レリ、其利益ノ永續ト種類ト階級トヲ以テ他人ノ利益ニ比スルニ他人ノ利益ニ注目スルハ我身ノ利益ニ注目スルニ及バズ、然レトモ己ニ他人ノ利益見込ト感覺トニ入込ムベキノ能力アルカラニハ、他人ノ利益ヲ高メテ吾身ノ利益ト同等スルコトノ義務ヲ有スベキコトナリ、又他人ト同ジク通ジ合ヒノ仁道及ヒ同等ノ權理トイフコトヲ回想スベキコトナリ、

○仁愛即チ友愛ノ職分ハ直接ノ目的ト傾向トニ從フテ言フトキハ分レテ三様ト為ル、第一ニハ幸福ヲ増スコト、第二ニハ難儀ヲ拯フコト、第三ニハ誘害ヲ宥スコト是ナリ、

### 第一篇

#### 幸福ヲ増ス為メニ引キ立タル仁愛

##### 第一節 談話ト様子トニ由リテ之ヲ為スコト

○吾輩ノ談話ト様子トニ由テ仁愛ヲ行フコトハ能ク礼儀シレヒト丁寧又承順ホライトホストニ進ムコトヲ得ベキ者ナリ、此等ノ類礼儀ト承順ハステ之ヲ名ケテ小道德リッセルモト云フ、然レトモ道德ニ於テハ必要ノ部分ト為スコトナリ、此ノ者ヲ能ク行フトキハ、社會ノ交際ニ安慰ト便益トヲ與フルノ利アリ、若シ之ヲ行フコトヲ怠ルトキ是カ為メニ交際上ノ不安ト抑阻トヲ生ジ、人間秀美ノ光ヲ減ズルコトアルベシ、ドクトルフェルギユン

ン」曰ク、礼儀ハ他人ニ凌辱ヲ與フルコトヲ避ケ、美俗ハ快感アブヲ求ムル者ナリト、

○礼儀ニ進マントスルニハ先ノ凌辱ヲ與ヘザルコトノ願望ヲ養ハザルベカラス、又凌辱トハイカ様ナル者カトイフコトヲ區別スルコトヲ求メザルヘカラス、凌辱トハ如何ナル者カト云フコトヲ知ルハ、社會トノ交際ニ於テ之ヲ学習セサルベカラズ、然レトモ若シ凌辱ヲ與フルコトヲ欲セザル天性ノ人ハ容易ニ礼儀ノ職分ニ習熟スルコトヲ得ベシ、是ヲ為スニハ一定ノ言語アルニ非ズ、又學ビ得ベキ格別ノ様子アルニ非ズ、又此事ハ人ノ自分階等ヲ限ル者ニ非ズ、農民モ上等ノ貴人モ同様ノコトナリ、此言語様子ヲ善クスルトイフコトハ其始メニ仁愛ヨリ生スルコトニテ、使徒ガ言タル処オノ慈愛ノ心ノ一枝ナリ、使徒ノ言ニ曰ク、自ラ誇張スルコト勿レ、自ラ見苦シキ様子ヲ為スコト勿レト、而シテ若シ其人此善ル言語様子ト心中ノ友愛ト相結合スルトキハ、言語様子ナル者ハ其人ノ真ノ仁愛ノ真ノ根源ヲ指定スル者ナリ、使徒彼得曰ク、兄弟ノ如ク親愛スベシ、憐愍アルベシ、丁寧ナルベシト、礼儀ニ及ヒタル過惡ハ粗暴ハドナリ、粗暴トイフコトハ他人ノ權理ト感覺トニ注意セザルヨリ起ル、又仁愛ノ欠亡ヨリ起ル、而シテ又勘辨ヂセルト欠亡ニ由テ其罪ヲ大ニシ、遂ニ凌辱ヲ行フニ至ルナリ、

○丁寧ゴフトト云フコトハ礼儀ニ比スレハ又一等強キ仁愛ノ表現ナリ、丁寧トハ唯人ノ氣ニ忤ブヘキ言語ト行為トヲ慎ムノミナラズ、更ニ他人ノ感

覺ヲ満足サスル様ナル言語ト行爲トヲ務ムルコトヲ言フナリ、「ドクトル、  
 フェルギューソン」曰ク「丁寧ナル語ハ希臘ニテハ  $A\delta\alpha\mu\eta\sigma\tau$  ト  
 云ヒ、羅馬ニテハ 文札 ウルバ ノスト ノスト 云フ、文札トイフ語ハ即チ無作法 ラステ ノ反対ナ  
 リ、然レトモ真ノ丁寧トイフ者ハ都會或ハ田舎ニ在テ成長スル者ニ非ス、  
 唯人ノ心ニ在テ成長スル者ナリ、丁寧トハ我言語行爲ノ他人ノ氣ニ入ル  
 様ナル仕方ニセント思フ処ノ真実ナル願望ヨリ生スル所ノ者ナリ、此丁  
 寧ヲ分チテ一定セル丁寧 エト ト相管スル丁寧 レト ト 二種ニ分ツ「マステ  
 ル、シエツプハード」曰ク一定セル丁寧ハ人々皆人類タルノ感覺ヲ所持  
 セルヨリ生スル者ニテ、之ヲ天然ノ性質ニ歸スベシ、此丁寧ハ朝廷ノ上  
 ニ於ルモ田舎ノ中ニ於ルモ格別ノ差異ナシ、若シ此丁寧ヲ失フトキハ道  
 徳ノ感覺ヲ破リ、其丁寧ヲ失ヒタル者ヲ視テ甚タ嫌惡スベキ者ト為ス、  
 相管スル丁寧ハ其模様ニ依リテ種々一様ナラズ、社會ノ異ナルニ從ヒテ  
 其丁寧モ亦各異ニシテ、其規則モ社會ノ精神ニ從ヒテ差異アリ、故ニ同  
 シ丁寧ニテモ此風俗ノ定規ニテハ至テ良善ナルコトト定ムレドモ、彼風  
 俗ニテハ是ヲ以テ善カラザルコトト為スコトアリ、又同ジ人ニテ、此社  
 會ニテハ己ノ身分相応ナル取扱ヲ得テ居ル者ナルガ、一旦俄ニ他ノ社會  
 ニ入ルトキハ、其人ノ他人ニ求ムル処ノ礼儀ハ甚シキ不善ト思ハル、コ  
 トアリ、丁寧ニ付テ加様ナル反対ノコトノ起ル根原ハ多分ハ都會ト田舎  
 ト其風俗習慣ノ異ナルヨリ生スル者ナリ、然レトモ良善ナル仕方 グット、  
マンチル  
 良善ナル養育 グット、  
リージング ハ我仁愛心ノ他人ヲ感セシムルノ根基ナレバ風俗習

慣ハイカ様ナリトモ此二者ハ決シテ之ヲ遺却スベカラズ、人ニ從フト オウラ  
イジラ  
 ト人ヲ喜バスル ブ ト ノ 二者ヲ取除クルトキハ丁寧ナル者何モナキ物ナリ、  
 若シ此二者ヨリ接木シ、又是ヨリ發出スルトキハ丁寧ナル美德ハ高キ成  
 功ヲ見ルコトヲ得ベシ、

○礼儀ト丁寧トノ二者ハ本ヨリ他人ノ幸福ヲ高ムル方ニ傾向スル者ナレ  
 ドモ、是ヲ以テ新規ニ幸福ヲ他人ニ附與スルコトハ能ハザルコトナリ、  
 此二者ハ他人自ラヲ喜悅サセ、又他人ノ固有セル利益ヲ以テ之ヲ悅バス  
 ルコトヲ為シ得ル者ニテ新ナル利益ヲ與フルコトヲ得ズ、此二者ハ又尋  
 常ノ交際上ニ文采ヲ附スル者ナリ、然レトモ仁愛ノ大ニシテ光輝アル所  
 行ヲ以テ尋常ノ者ト區別スルコト能ハズ、此事ハ更ニ高等ナル仁愛ノ現  
 示ニシテ、其原理ノ強健ニシテ純情ナル等級ヲ儲藏スル者ナリ、

## 第二節 親切 タノ仕事ニ發シタル諸務

○親切ノ義務ハ人類ノ目的ト求需トノ多キニ從ヒテ其仕事ノ種類モ亦太  
 タ多シ、然レトモ其根原ハ、吾等ガ結合サシテアル證據 コヒク  
シヨク ヨリ 起ル者  
 ニシテ即チ人々皆自分ノ事ニノミ目ヲ着ケズシテ兼テ又他人 ネイ  
バル ノ事 ニモ  
 目ヲ着クベシ、而シテ若シ他人ノ為メニ善ク為サントスル機會ハ常ニ之  
 ヲ求メ又我ヨリ之ヲ擱取セサルベカラズトイフコトナリ、  
 ○或人ハ吾輩ハ助言ヲ以テ他人ヲ惠ムコトアリ、又或時ハ責斥ヲ以テ惠  
 ムコトアリ、他人ハ励マシ、補助又ハ勸戒、意見ヲ要スル者アリ、吾輩  
 恐クハ他人ノ為メニ艱難危害ニ抗敵シ、又ハ勞力奮勵ヲ為サザルベカラ

ザルコトアリ、吾儕他人ノ中間ニ立チ、又吾輩ノ骨折ニ由テ大ナル患難ヲ避ケシメ大ナル善事ヲ得セシムルコトアリ、他人其声誉ヲ侵犯サル、トキ吾等代リテ之ヲ防禦スルコトアリ、他人ノ信用若シ正路ニ迷ヒ居ルトキハ吾等之ヲ曉シテ正路ヲ得セシムルコトアリ、他人又其他ノ人ノ怨怒ニ逢フコトアルトキハ、吾等其怒レル人ノ心ヲ慰諭鎮定セシムルコトアリ、他人物事ヲ企テ、己カ力ニ及ハス又其方法ヲ失ヒテ困迫スル時、吾等其人ヲ難義ノ中ヨリ救ヒ出サンコトヲ勉メザルベカラズ、他人其職業ヲ失ハントスルトキ、吾等為メニ之ヲ保持スルノ力ヲ與ヘザルベカラズ、他人若シ声誉名望ヲ得ンコトヲ欲スルトキハ、吾儕之ヲ助ケテ其目的ヲ達セシムルコトヲ務メザルベカラズ、以上ノ諸件ヲ把テ合セテ之ヲ言フトキハ、働キ出シタル親切ノ精神ノ提起セル義務ハ、人間生活ノ模様ト關係トニ随ヒテ其類甚タ衆シトイフベシ、凡ソ自分勝手私心カノ人ハ唯自己ノ福祉ヲ得レハ夫ヲ以テ満足シ、他人ノ福祉ヲ與フルコトノ為メニハ少シモ己ガ心身ヲ働カスコトナシ、親切ニシテ仁愛アル人ハ我周囲ニアル総テノ者ノ福祉ヲ得ルコトヲ好ミ、他人ヨリ来リ頼マザルモ、自ラ進ミ出テ其事ニ勉励スル者ナリ、又仁愛アル人ハ、他人ニ好事ノ為メニ常ニ好機會ヲ求ムルコトヲ怠ラズ、悪人及ヒ恩ニ負ク人ニ向ヒテモ亦然リ、然レトモ此人ハ其仁愛ノ心ヨリシテ亦己カ管係内ノ人、即チ自然、交際、教法等ニ由テ結合シ居ル人ノ為メニ、殊ニ意ヲ用ヒテ其人ノ利益ニナル様ニ助言スルコトニマデ、自己ノ心ヲ提擲スルナリ、塞内加嘗テ

「ベネフィシストイヘル書八冊ヲ著ハシ、仁愛ヲ施スベキコトト仁愛ヲ受クベキコトトヲ詳論セリ、西塞魯又其「オフェシス」トイヘル書ニ仁惠ノコトノ詳論アリ、

### 第三節 大氣ナルコトリベラ

○大氣トハ他人ノ幸福ヲ高ムル為メニ己ガ收納スル財産ヲ配與スルコトニテ、此事ハ即チ仁惠ノ自然ノ果実ナリ、然レトモ大氣ハ必スシモ仁惠ト共ニ發スルトイフニモ非ズ、人タル者其同類ノ為ニ財産ト收納トヲ與フルコトヲ惜メドモ、時ト勉力ト相談トヲ與フルコトアリ、又或ハ他人ヲ利センガ為ニ自由ニ之ニ貨幣ヲ與ヘテ自ラ之ヲ痛苦セザル者アリ、然レトモ是ヲ為スニハ仁惠ト大氣トヲ以テ並ヒ行ハザルベカラサルコトナリ、西塞魯嘗テ此二者ノ輕重ヲ比較シ、働キタル仁惠ヲ以テ心ヲ用ヒサル大氣ニ勝レリトセリ、

○然レトモ大氣トイフコトハ他人ヲ好クスル為ニ金銀ヲ與フルコトノミニハ限ラザルナリ、聖經ニ曰ク、大氣ナル人ハ大氣ナル事ヲ考出シ、此人ハ大氣ナル事ノ間ニ立定スル者ナリト、奇麗ニシテ開豁ナル様子、他人ノ權利ト感覺トヲ耽ト注意スルコト、若シ之ヲ行ヒテ他人ノ害トナルトキハ己ガ權理ヲ抑制スルコト、凡テノ口論争議ヲ避クルコト、他人ト同シ道ニ進ンデ共ニ利益ヲ求ムルトキハ、己其事ニ先進スルコトヲセザルコト、右等ノ諸件ハ皆他人ニ対シテ行フヘキ大氣中ノ條目ナリ、(フェエルギューソン)ノモラル、エンド、ポリチカル、ヒロソヒイ」ニ出ヅ)

○古代ノ理學者ハ愛客<sup>ホスヒタ</sup>トイフコトヲ以テ大氣ト並ヘ称シ、以テ仁惠ノ心ヨリ發出セル善事ノ一トセリ、交際ノ初メテ開ケ、人民ノ口數猶稀少ナルノ時ハ、旅人又ハ寄寓人ハ都合ヲ得ルコト甚難キヲ以テ最モ愛客トイヘル徳ヲ称譽シタリ、旧約全書ニハ數々愛客ノ親切ニシテ純実ナル所行ノ例ヲ出セリ、此愛客ノ所行ヲ為ス者ハ多クハ教門ノ法則ヲ守ルノ人ニシテ常ニ之ヲ以テ愛客ノコトヲ好ムノ人ト為セリ、而シテ基督教門ノ徒ハ、スベテ人々ノ擇嫌ヒナク、尽ク善ク之ヲ取扱フコトニ勉強セリ、其教始メテ起リシトキハ殊ニ深く愛客ニ心ヲ用ヒ、其同教ヲ奉スル者ハ言フニ及バズ、他國ノ民トイヘトモ厚ク之ヲ取扱ヒシコト異教ノ徒ノ深ク其仁惠ニ驚キシ所ナリ、基督ノ教法中衰スルコト數百年ナリシモ、其間愛客ノ徳ハ猶光ヲ發シテ消滅スルコトナシ、此時愛客ノ実ヲ顯ハセシハ、僧徒ノ誓願ト騎族ノ職分ニ由リテ之ヲ見タリ、交際ノ状一変スルヨリ、愛客ノ徳ノ肝要ナルコト往時ニ及ハストイヘトモ、尚是ヲ以テ基督教士及ヒ紳士ノ文采中ニ算入セリ、

○愛客ノ反対ハ吝嗇<sup>チヌリ</sup>ナリ、此者ハ天授ノ賜賚ヲ以テ他人ト分ツコトヲ好マズシテ、又廣ク幸福ヲ衆人ニ施スヲ嫌ヒ、己一人ニシテアラユル天授ヲ受領シ、口一杯ニ物ヲ食ハントスル者ナリ「ナーバル」ハ餓人、其苦ヲ免カレンコトヲ求メシ時、之ニ答テ曰ク、吾ハイカンシテ、余ガ知ラザル処ノ人ニ麵包ト酒トヲ與フルコトヲセシヤト、旧約書ヲ譯スル者「ナーバル」ノ所行ヲ譯シテ吝嗇ノ名ヲ下セリ、<sup>シヤクスビーア</sup>舌克斯畢ノ詩ニ此ノ

如キ性質ノ人ノ状ヲ賦シテ曰ク、余等ノ主人ハ吝嗇ナリ、故ニ愛客ノ舉ヲ為シテ天上ノ道路ヲ求ムルコトニ意ヲ用ヒズト、吝嗇ハ挾隘ニシテ己ノ精神ヨリ出テ、愛客ノ開豁ニシテ大度ナル精神ヨリ出ヅ、然レトモ、ムヤニ吝嗇ナリト思ヒ、吝嗇ノ名ヲ下シタルコトニテモ、若シヨク其事情ヲ詳察スルトキハ反テ智慮アル節儉ト称スベキコトアリ、

## 第二篇

### 患難ヲ輕メン為メニ引立タル仁惠

#### 第一節 憐愍トイヘル吾等ノ自然ノ感覺ヲ養フコト

○凡ソ世界上ニ患難トイフ者ハ至テ許多ナレドモ、何レモ輕減スルコトハナラヌトイヘル考案ハ無キコトナリ、時ノ長サト習慣ノカトニ由リテ自然ニ其患難ノ輕クナルコトハ、上帝ガ吾等ニ輕減スベカラザル禍害ヲ與フルコトヲ望マザルノ證據ヲトスルニ足ルベキ者ナリ、又余等ガ他人ノ患難ヲ受タルトキ、他人我患難ヲ相憐ムノ心ヨリシテ其患難ヲ輕減スルコトハ同シ仁愛アル性質ノ用意ナリ、吾等、他人ノ患難ヲ憐ムノ感覺ハ、唯吾身ニ苦痛ヲ與フルノミニテ、他人ニ快樂ヲ與フルコト能ハズ、然レトモ若シ吾等カ相憐ムノ情ニ由リテ他人ノ難儀ヲ輕減スルヲ得ルコトアルトキハ、是ニ由テ、吾等ガ他人ノ事ニ付テ發シタル哀痛ノ心ヲ僅カニ満足スルコトヲ得ベシ、是ヲ以テ考フルトキハ吾等ガ天性ノ憐愛ノ感覺ヲ保守シ且之ヲ養フコトハ明カニ吾等カ職分ナリト知ルベシ、凡ソ人ノ禍患困難ノ事ニ於テハ吾等ノ力ヲ以テ之ヲ輕減除去スルコト能ハザ

ル者多シ、此ノ如キ場合ニ於テハ吾等ハ只之ニ感スルノミナリ、然レトモ此感覺ノ發顯ナル者ハ、即チ輕減ノ一種類ニシテ、加様ナル場合ニ於テハ直チニ之ヲ輕減ト名クルモ可ナルベシ、此ノ如キ輕減ハ吾等ガ天性ノ憐憫ノ感覺ノ發動施行ヲ許ル者ナレバ、吾等ヲ以テ容易ニ物ヲ以テ人ニ與フルノ場合ニ進マスルコトヲ得ベシ、憐憫コムハツト云フコトハ難義ヲ受タル人心ノ祭壇ノ上ニ置カザルベカラザル所ノ供物ナリ、許多ノ場合ニ於テ、富者ノミ獨リ多ク此心ヲ養フトイフコトナリ、何レノ場合ニ於テモ貧者ハ僅ニ此心ヲ養ヒテ可ナリト云フコトハナカルベシ、凡ソ吾等力柔和ナル相憐ムノ情トイフ者ハ數、人ノ難義ヲ輕減スルコトノ出来ル者ニテ、此外ニハ決シテ難義ヲ輕減スベキ者ハ無キコトナレバ、ヨク之ヲ養育シ發行スルコトヲ務ムベキコトナリ、

## 第二節 吾等ノ行為ハ仁愛憐愍ニアルベキコト

○吾等ノ憐愍ノ感覺ヲ養フトイフコトハ、唯吾身自己ノ職分ナルノミナラズ、更ニ其他ノ職分ヲ施行スル為メノ準備且提撕トナルコトナリ、患難ヲ見テ誠実ニ發シタル相憐ムノ情ハ、患難ヲ輕減スル為メノ最良純情ナル方法ヲ得ルノ本ナリ、若シ此感覺發動興起スルトキハ患難ニ逢ヒタル人ヲ救フ為ノ方法ヲ得シコトヲ決心シ、且之ニ付テ發明ヲ得シコトヲ急グ者アリ、而シ其時ノ模様ニ寄りテ、仁惠ノ役目、及ヒ施與ノ所行直チニ之ニ繼テ起ルナリ、

○仁愛ヒトミノ役目ハスベテ親切ナル注意ヲ以テ得ベキコトニテ、病者ノ

苦惱ヲ輕シメ、痛苦ヲ和ラゲ、憂悶ヲ喜バセ、失意ノ感覺ヲ驅除スル等ノコト是ナリ、仁愛アル人ハ他人ノ患難アル者ニ向ヒ、唯和柔ナル博愛ノ情ヲ發言シタルノミテ自ラ満足スルコト能ハズ、必ス、其患難ヲ輕減ノ驅除スベキノ事ヲ行ヒ、以テ其憐愛ノ実迹ヲ顯ハスベキコトナリ、此ノ如キ仁愛者ハ、病人アレハ就テ之ヲ見舞ヒ、其痛苦ヲ輕減スベキコトヲ務メ行ヒ、密閉シテ温熱ナル室ヲ開キテ清涼ヲ引ク等ノコトヲ為シ、又憂悶失意等ノ人アレバ、トモニ逍遙シ、其衰陷セル精神ヲ再興シ、其人ヲシテ進取ト望ミヲ起スコトヲ得セシメ、又父ヲ失ヒテ哀痛スル者アレバ行テ之ヲ弔ヒ、其親切ニ因テ彼ガ父ヲ失フノ悲痛ヲ輕クスルコトヲ得セシム、又心ノ不満足ニシテ落付カザル者ト對話シ、之二道途ヲ與ヘテ憂愁又ハ狂癲ニ陥ラザラシム、又心ノ騷擾定マラザル者ニ助言ヲ與ヘ、怯懦ナル者ニ勇氣ヲ励マシ、悲愁セル者ヲ慰解スルコトヲ務ムベシ、合セテ之ヲ言ヘバ、スベテ他人ノ難義ヲ輕減スヘキコトハ尽ク之ヲ行ヒテ己カ時間ト精力トヲ惜マヌコトヲ云フナリ、

○凡ソ我等ノ周圍ニ現ハル、所ノ患難ナル者ハ何レモ皆之ヲ輕減スルコトヲ望ムベク、又輕減シ得ベキ者ナリトイフコトヲ知ル時ハ、吾等ハ更ニ進ンデ我智力ノ及フダケハ其事ヲ行ハントイフコトヲ思ヒ立ツベシ、是ヲ行ハントスルニハ仁愛及ヒ友愛ト同趣意ニ歸スル施與チキギト云フコトヲ以テ最強ク望ムベキコトト為ス、公行ノ施與、即チ貧窮人ヲ一般ニ賑恤スルハ、經濟學ノ所有ニ屬スル者ナリ、然レトモ一己ノ天性及ヒ義

務ニ付テ論スル時ハ施與ノコトニ付テ着目スベキ件左ノ如シ、

第一 他人ノ求需ト難渋ニ向ヒ眞実ノ慈悲心ヨリ發スルコト

第二 親切ニシテ且実情アル仕方ヲ以テ其事ヲ成スベキ事

第三 能ク勘考熟察シテ最モ其人ノ必需ノコトヲ選ビテ之ヲ行フベキ

コト

○凡ソ施與ヲ為スニハヨク勘考シ氣ヲ利カセテ、其時ノ模様ニ応シテ其物ヲ施スノ多少ヲ定メサルベカラズ、然レトモ施與スル人ト施與ヲ受クル人トノ有様ト場合トハ甚種々ナル者ニシテ、其事ニ付テ規則ヲ定ムルハ至テ難キコトナリ、只仁愛ノ感覺トイフ者ハ、施與ノ起ル根源ナレバ、到底此感覺ヲ失フコトナキヲ要トスベシ、

○吾等仁愛憐愍ノ義務ヲ為スベキ所以ハ左ノ道理アルニ由ル、

第一ハ吾身ノ天賦ノ結構ニ因ル 不幸ナル者ヲ助クルガ為メニ憐愍ノ心ヲ呼び出スハ自然ノ願望ナリ、譬ヘバ飢ナル者ガ自然ニ食物ヲ呼び出スガ如シ、

第二ハ 天命ノ仕組ニ由ル 世界ノ物品ヲ人々ニ不平均ニ分配スルトイフコトハ、貧人ヲ憐憫救助スルノコトヲ起シ、富人ノ公平不吝ノコトヲ為サシムル所以ナリ、聖經ニ於テハ、富ミテカアル者ヲ名ケテ地上ノ神ト云フ、人ニ幸福ヲ與ヘ、貧窮ヲ救フコト神ノ如キノ仕業アルヲ以テナリ、

然レトモ基督教ニ於テハ此義務ヲ為フニハ猶力強キ定説アリ、

其一ハ 上帝ノ明命ニ基ス

其二ハ 邪蘇ノ衆生ノ為メニ贖罪セル仁心ニ基ス

第三篇

公正ニ管係シタル仁愛

第一節 忿怒ノ感覺ヲ鎮靖スルコト

○忿怒ノ感覺ヲ靖ムルコトハ己ノ身ヲ管治スルコトナレバ、交際上ノ道德ヨリハ一身上ノ道德ニ属スベキカ如シ、然レトモ此忿怒ノ目的ハ自己ニ向フニ非ズシテ他人ニ向フニ在リ、故ニ此感覺ヲ節制スルハ交際上ノ道德ニ属スルヲ適當ト為スベクシテ、己ヲ愛スルヨリハ他人ヲ愛スル仁惠ニ属スベキコト太々明白ナリ、

○忿怒リゼンノ感覺ト密ニ相連結セル者ナリ、忿怒ノ感覺ノ始メハ、他人ヨリ我ニ向ヒテ惡意ヲ企テ又ハ惡事ヲ仕掛タルニ由リ、吾ヨリ其惡意惡事ヲ罰セントスルノ心ヲ引起スニ始マル者ナリ、吾等ノ此感覺ヲ起ス一定ノ原因ハ吾等ノ損害ヲ防禦シ又ハ之ヲ償還セントスルニ在リ、若此感ヲシテ相当ナル界限ノ内ニ止マラシメバ、法度ニ協ヒ道理ニ合ヒタルコトナルベシ、然ルニ此感ハ動モスレハ定度ヲ過ギテ甚シキニ至ルコト多シ、故ニ此感ニ意ヲ注キ又此感ヲ節制スルヲ以テ人ノ職分トスルコトナリ、此職分ハ我等ノ怒ノ場合ト階級ト連続トニ從ヒテ各見込ヲ定ムル者ナレバ、今キアンド、キユオモド、キユアムヂユートイヘルラ丁ノ三語ヲ以テ其區別ヲ立ントス、

第一 何レノ時キマ 忿怒ノ感覺ヲ許ストスルハ何レノ時ゾ、 氣早ナル人ハ実ニ其身ニ傷害ヲ受ケズトイヘトモ、 最早自分ニ傷害ヲ受タリト思フコトアリ、 又行事モナキ時ニ他人ヨリ悪意ヲ企ツルコトアリト想像スルコトアリ、 此ニツノ場合ニ於テハ精神ヲ落付ケテ吟味考察スルトキニ能ク己ノ忿怒ノ感覺ヲ押し止メ又ハ之ヲ和ラグコトヲ得ベシ、 或ハ又実ニ傷害ヲ受クルコトアレトモ其事ハ全ク他人ノ疎漏ヨリ起ル者アリ、 此ノ如キ者トイヘトモ其疎漏トイフ者固ヨリ深ク罪スベキ者ニ非ズトイフコトヲ知ルトキハ吾身ノ忿怒ハ忽チ消滅スベシ、 又他人実ニ悪意アリテ我身ニ害ヲ加ヘントスルモ、 他事ニ妨ゲラレテ其事ヲ果シ得ザルコトアリ、 此時ハ随分、 他人ノ不親切ヲ怒ルノ感ヲ起スベキコトナレドモ、 其感ハ亦真ノ忿怒トメシト少シク異ナリ、 忿怒トイフコトハ他人ヨリ我身ニ為シタル曲事ヲ罰スルノ權理ヲ含ム者ナリ、 若シ他人未タ曲事ヲ我身ニ施サバル間ハ之ヲ罰スルノ權理ナシ、 他人ノ悪シキ企ハ、 夫ニ由リテ吾身ニ引起サレタル不親切ナル感覺ヲ以テ之ヲ罰スルナリ、 然レトモ未タ悪シキ行為ヲ吾等ニ施サバル内ハ、 吾ヨリ之ニ向テ之ヲ罰シ之ニ報怨スルコト能ハズ、 尤モ実ニ悪事ヲ受クルトキハ之ニ対シタル公正ノ忿怒ハ、 止ムベカラサルコトニテ又適當ノコトナルベシ、

第二 何如ナル仕方キマ 此問ハ吾儕ノ忿怒ノ感覺ノ階級尺度ニ管係スル者ナリ、

○他人ヨリ我ニ向ヒテ悪意ヲ企テ又悪事ヲ施シタル時、 吾等ノ之ニ対シ

テ怒ヲ起スコトハ正當ナリト定メタル時ハ、 又吾等ノ忿怒ノ感覺ハ吾等ノ受タル害ト比シテ高下ノ度アルトイフコトヲ知ルベキナリ、 他人ヨリ吾ニ施スコトニ由リテ其事ニ相当シタル感覺ヲ起ストイフコトハ、 智慧善良ナル人ノ性質中ノ一部分ナリ、 然レトモ忿怒ノ感覺トイフ者ハ程ヨク調理セサルベカラズ、 又甘ンジテ他人ヨリノ傷害ヲ受ケ、 他人ヲシテ再度其事ヲ試ミントスルノ心ヲ起サシムベカラズ、 又他人ヨリ施セル不正ヨリ、 猶甚シキ不正ヲ以テ之ヲ驅斥スベカラズ等ノ諸件ハ皆至テ肝要ノコトナリ、 此ノ如キ時ハ吾ハ平心ニシテ他人ニ我ニ施シタル傷害ノ性質ト分量トヲ考ヘテ其値ヲ定メ、 夫ニ付テ報復ニ望ムベキ忿怒ノ性質ト分量トヲ定ムベキコトナリ、 他人ヨリ瑣小ノ悪事ヲ為シタルニ之ニ対シテ巨大ノ忿怒ノ発スルハ甚ダ笑フベキコトニシテ、 汝ハ此ノ如キ憤怒ノ熱ヲ發シテ何ヲ為サンコトヲ求ムルヤトイヘル愚弄ノ問ヲ得ル所以ナリ、 又夫ニ反シ、 実ニ他人ヨリ傷害ヲ蒙フルトキ、 手ヲ束ネテ其傷害ヲ受ケヌトイフコトハ又正當ノコトナルベシ、 然レトモ亦其忿怒ノ度ヲ量リテ之ニ報復スルニ適當ナラシムベク、 彼ヨリ再ヒ我ニ向ヒテ害ヲ施サバル様ニ其防キヲ為スベキコトナリ、 我等ハ道理ナクシテ吾同類ヲ怒ルノ權理ナク、 又道理ノ外ニ向ヒテ同類ヲ怒ルノ權理モナシ、 若シ我等ノ忿怒ヲシテ其度ヲ過サシムルトキハ是ヲ道理ナシトイフベシ、 故ニ能ク戒メテ度ヲ過ギザル様ニ心掛ケ、 己ヲ愛スルノ心ヲ抑制シ、 他人ヨリ更ニ大ナル傷害ヲ施スコトノ減スル様ニスベシ、 是ヲ為サント欲セバ、 吾等ノ

仁愛ノ感覺ヲ養ヒ、他人ガ吾等ニ對シテ行ヒタル蕪雜ノ意思ヲ寬許シ、吾等カ憤怒ノ感情ヲ抑制シ、彼等ガ賤侮嘲笑ノ行為及ヒ吾等ノ疾怒憤怒ヲ提起セシムル所ノ行為ヲ以テ、吾等ノ傷害セシメザルヲ度ト為スヘシ、

第三 行程ノ長サ クワムヂネー 此間ハ、吾儕ノ忿怒ヲ鎮靖スルニ、久シク忿怒ヲ蓄ヘザルニ在リ、

○忿怒ノ起ル原因ハ、行為又ハ思謀ヲ以テ我ヲ害スルヨリ生ス、然レトモ若シ其原因去ルトキハ、吾熱情モ消滅セサルベカラズ、若シ其損害既ニ償還スル後、尚其忿怒ヲ貯藏スルハ正理ニ非ズ、又彼ヨリ施シタル悪シキ思謀モ、甚全ク誤想ニ生セシコトヲ説明シ、又ハ彼自ラ己カ所為ノ悪シキコトヲ認め、之ニ就テ後悔ヲ表頭スルトキハ、我不快ノ感覺ハ廢弭セサルベカラズ、此事ニ管シテ人々稟賦ノ差異ヲ見ルコトヲ得ベシ、或人ハ其性嚴刻ニシテ和平ナリ難シ、此ノ如キ人ハ抵抗忿怒ノ情強クシテ、容易ク媾和親睦スルコト能ハズ、然レトモ其性仁愛深く、人ノ悪ヲ忘レ、又和好シ易キ所ノ人ハ、吾等ノ幸福ヲ以テ隣人ニ分與スルコトヲ樂ムモノナリ、忿怒ハ苦痛ナル感覺ナリ、其之ヲ發スル根源モ公正ニシテ、其怒ノ度モ道理ニ協ヒ、其持續ノ時間モ道理ニ協フトイヘトモ、猶其忿怒ノ止マザル間ハ甚苦痛ノ者ナリ、其忿怒靜マリタル後ニ及ヒ初メテ苦痛ヲ除クコトヲ得ル者ナリ、

○塞内加ハ、其デ「イラ」ニ於テ、怒ノ感ヲ制スルカ為メニ光明ナル証論ヲ立タリ、

其一 過度ノ忿怒ハ、仁愛ト兩立セズ、  
其二 吾等ノ品性幸福ニ管シテ最モ有力ナル智慮ト兩立セズ、  
其三 最モ吾身ニ有害ナル事件ヲ續生ス、  
其四 上帝ノ行為ニ於テ、經驗シタル長キ堪忍ト兩立セズ、

第二節 忿怒ノ感覺ヲ鎮靖スルノミナラズ、更ニ吾忿怒ヲ提起シタル所ノ損害 ホルギーヲ容赦セザルベカラズ

容赦(堪忍)ヲ完全ニセントスルニハ左ノ諸條目ヲ包含セサルベカラズ、

其一 報償セントスルノ權理(適當ナル時)ヲ放釋スルコト  
其二 損害ノ為メニ提起サレタル忿怒ノ感覺ヲ消遣スルコト  
其三 善意 ソフトノ感覺ヲ復起スルコト、此感覺ハ習慣ヲ以テ之ヲ養フコトヲ得ベシ、

容赦即チ堪忍ヲ行フニハ左ノ諸件尤之ニ干係スルナリ、  
其一 損害ノ分量ノ多少  
其二 損害ヲ起シタル原因、偶然ノ過誤カ又ハ有意ノ悪行カ  
其三 損害ヲ施シタル敵手ノ行為、其最初ニ於テ、又ハ始終不斷  
其四 行害者ノ後悔

容赦即チ堪忍ヲ行フニ利益アル証論

其一 吾ニ對シテ害ヲ施シタル人ハ真ニ憐憫スベキノ人ナリ、教長バソトレル曰ク、凡ソ世間ニ好ンデ他人ニ害ヲ施ス者ハナカルベシ、若

シ此ノ如キ人アラバ其他人ヲ害スルノ時ニ於テ吾身ヲ害スルコトハ更ニ甚シカルベシ、”ト故ニ此ノ如キ人ハ人類天然ノ感情ニ従ヘバ、是ヲ不快樂ニシテ、憐憫スベキ人トイフベシ、

其二 容赦ノ義務ノ困難ナルコトト秀美ナルコトトハ、之ヲ実行シタル寛裕ナル心ニ由リテ之ヲ実験スベシ、瑣羅門嘗テ言ヘリ、”罪惡ヲ宥恕スルコトハ人ノ榮譽グロリーイナリ”ト、縱令天性ノ利己ト忿怒トヲ全ク鎮定スルハ極メテ難キコトナリトモ、堪忍ニ因リテ得タル所ノ真正ノ位格ハ、ヨク人々ノ寛裕心ヲ刺衝シテ、獨リ之ヲ以テ惡意ニ勝ツコトヲ得シムベキノミナラズ、又遂ニ善意ヲ以テ惡意ニ勝ツコトヲ得シムベキナリ、

其三 吾等他人ニ対シテ、施シタル罪惡ノ事實、及ヒ他人力之ニ向ヒテ堪忍シタル事實トハ能ク吾等ヲ導キテ堪忍ヲ行フコトヲ得シムルナリ、  
其四 吾等上帝ニ対シテ、施シタル罪惡ノ事實及ヒ上帝力吾等ニ対シテ堪忍シタルノ事實トハ能ク吾等ヲ導キテ、他人ガ吾等ニ対シテ行ヒタル罪惡ヲ容赦スルコトヲ得シムル者ナリ、

○吾等ガ正義ヂキスト公平ヒョウヘイトイヘル天然ノ知覺ハ能ク吾等ヲ導キテ、我身ニ対シテ為スコトハ、他人ニ対シテ為スコトト同一ナルコトヲ得シム、  
教長バツトレル曰ク、人類ノ天性ノ中ニハ或ル一物アリテ、吾等ガ決定ト相一致スルノ性ヲ有ス”ト慈善ナル上帝ノ管轄ニ生育シ、数々其法則ニ違背スル所ノ吾儕人類ハ常ニ他人ガ吾身ニ対シテ行ヘル罪惡ヲ容赦ス

ベキノ法アルコトヲ感ジ、若シ吾等其容赦ヲ為サバルトキハ、今世及ヒ来世共ニ吾身ハ夫ヨリ甚シキ罪業ヲ犯シタルコトヲ感ズルナリ、此ノ如キ吾等ノ天然ノ先見ハ、救主及ヒ使徒ノ教義ト相一致スル者ニシテ、此教義ハ、更ニ吾等ガ測量スル所ノ尺度ハ、再ヒ吾等ヲ測量スル所ノ尺度トナルコトヲ示シタリ、吾等ハ公平トイヘル上帝ノ大法ニ従ヒテ事ヲ行フ者ナリ、上帝ガ吾等ノ罪惡ヲ容赦スルハ、即チ上帝ガ吾等ニ他人ノ罪惡ヲ容赦スルコトヲ教ヘタルニ外ナラザルナリ、

#### 第四篇

##### 感恩オングラチ

○損害ハ忿怒ノ感覺ヲ提起ス、吾等ノ職分ハ之ヲ鎮靖モデレスルニアリ、親切クワンハ感恩ノ感覺ヲ提起ス、吾等ノ職分ハ之ヲ養成チユスルスルニアリ、  
○感恩ハ細力ニ之ヲ言フトキハ、「中心ノ記憶」メモリー、オスゼハートト称スベシ、他人ヨリ吾等ニ施シタル或ル親切ヲ付度シタル者ニシテ、其中ニ愛スベキ感覺ト之ニ報ゼントスル願望トヲ包含セリ、凡ソ吾等ニ對シテ親切ヲ為シタル人ハ、本ヨリ其報償ヲ望ム者ニ非ズ、然レトモ其親切ハ吾等ヲシテ、其人ヲ愛シ又之ニ報償スルノ本分ヲ生ゼシムル者ナリ、吾等ニ仁愛ヲ表スル人ヲ愛スルハ、吾等ノ心ノ天然ノ衝動ナリ、此ノ如キ衝動ヲ阻碍シ、已ニ動キタル仁心ヲ遺棄スルハ、鄙惡淺褊ナル心ノ表章ナリ、  
○巴黎ハ謂フ、”忘恩ノ事例ハ自生ノ仁愛ヲ阻遏軟弱ニシ、忘恩ノ罪惡ハ皆是ヨリシテ發生スル者ナリ”ト、然レトモ親切トイフコトヲ認識ス

ルノ良知ハ、吾身ニ対セル親切ノ効驗ヲ考案セザルノ前ニアリ、即チ我身ニ親切ヲ受ケ、夫ヨリ感恩ノ効驗ヲ生シテ之ヲ他人ニ及ボスノ前ニ在ルナリ、故ニ親切ヲ顯ハス人ニ向キテモ、親切ヲ受クル人ニ管シテモ、巴黎ノ説ハ根基ヲ誤ル者ナリ、

○凡ソ感恩ヲ現ハスノ状ハ、其時ノ景況ニ從ヒテ大ニ同シカラザル者アリ、然レトモ從前ノ義務ヲ敗リテモ感恩ヲ現ハサ、ルベカラズト云フハ、決シテ無キコトナリ、若シ他人ノ施シタル親切、吾等ヲ輕侮スル意ニテ行ヒタルコトナラバ之ヲ親切トイフベカラズ、況シテ不真ノ事ヲ行ヒテ吾等ニ親切ヲ現ハスオヤ、此ノ如キ親切ハ、總テ感恩ノ義務ヲ解散シ、吾等ノ苦痛ヲ助クルト思ヒシ心中ノ準備ヲ変改セシムル者ナリ、

## 第五篇

### 友情フレンドシップ

○此外ニ猶仁愛ベネボレンスヨリ起リテ、之ヲ養成セザルベカラザル所ノ情感アリ、此情感ハ種々義務ノ由テ生スル所ニシテ、許多ノ幸福ノ原トナル者ナリ、之ヲ友情トイフ、

○友情ハ相互ノ親切ヨリ養成スル所ノ尊敬エスタイムナリ、此情ハ時ニ応シテ屢興起スル者ニシテ、常ニ相互ニ善意ノ行為ヲ以テ相交結スル者ナリ、然ルニ是ニ付キテ論者アリ、謂ヘラク、友情ハ吾等ノ精神ノ軟弱ヨリ起ルト、又謂フ、吾儕自己ノ幸福ヲ得ントスルニ其力不十分ナリ、因テ他人ノ情感ヲ求メ、夫ヨリ吾身ノ利益ヲ流出セントスル者ナリト、此友情

ノ根元ノ意見ハ、西塞魯、其レ「アミシチアトイヘル書ニ於テ大ニ其非ヲ攻撃セリ、

○其他ニ猶友情ノ根元ニ管シテ一ノ謬説アリ、曰ク友情ハ一般ノ性質ノ相互ニ肖似スル朋友ノ間ニ相当肖似セントシテ興起スル所ノ情感ナリト、是ニ由リ或人ハ説ヲ為シテ曰ク、友情ハ自愛セルブノ形ヲ現ハシタル者ニシテ、其他人ヲ恭敬スル者ハ、則チ轉シテ我身ヲ恭敬セシメントスル者ナリト、

古代ノ哲家ノ中ニ於テ、「エムペドキレス」ハ友情ハ相肖似セル朋友ノ間ニ起ル者ナリト説ケリ、其格言中ニ、同様ナル者ハ同様ナル者ヲ愛ストイフコトアリ、又「ユーリピデス」及ヒ「ヘラクリトス」ハ之ニ反シテ差異ノ性質ノ中ニ起ルトセリ、其言ニ、凡天地間ノ完全ノ調和トイフコトハ、差異アル事物ノ間ニ生スト説ケリ、「アリストートル」ハ友情ニ付キ、此ノ如キ物理的生理的ノ解釈ヲ用ヒズ、謂ヘラク、道德ノ情感ハ養成スルコトヲ得ベキ人類ノ力ナリ、

然レトモ多クノ場合ニ於テ見ルニ、朋友トナリ居ル人ノ性質ノ肖似セルコトハ、其友情ノ先ニ在ラズシテ、其友情ノ効驗ニアリ、即チ友情ノ結果ニ成ルヲ多シトス、凡ソ我々他人ニ対シテ尊重敬畏スル所ノ事ハ、吾等ノ性質ニ移轉肖似スルニ適當ナル者ナリ、是ニ由リ常ニ友情ニ皆習熟セル人ハ自然ニ相互ニ肖似スルニ至ル者ナリ、然レトモ此ノ如キ效驗上ノ肖似ヲ以テ友情ノ作ル最初ノ原因トスルコトハ、其見ノ太々誤レル者

ニシテ、譬へバ友情ヨリ流出スル所ノ快樂ノ感覺洪大ナル仁恵ヲ以テ、誤リテ本原ノ動機トスルガ如シ、故ニ友情ハ其根元ニ於テ、天然ニシテ又不偏私ノ者ナリ、

○博士ブラウンハ謂へラク、友情ニ干スル所ノ義務ハ、之ヲ三條ニ分ツテ説クベシ、其一ハ友情ノ初、其二ハ友情ノ持続、其三ハ友情ノ終、是ナリ、サシイノ分解法ヲ亦之ニ全シ、

#### 第一 鮮 セクシヨシ 朋友ノ選擇

○此点ニ付キテハ、注意ト熟考トノ二者ヲ要ス、我儕惟生業亦ハ事務ノコトニ管シテ偶然ニ相會スル所ノ人ニ対シテ、急ニ交誼ヲ發スルコトナシ、亦遊娛ノ為メノ儕輩ハ甚タ不安ナル朋友ナリ、吾等カ朋友ニ対シテ情感ト尊恭トヲ頭ハスノ以前ニ於テ、其朋友ガ吾等ノ服従ヲ受クルニ堪フベキノ價値アルヤ否ヲ定ムル為メニ幾多完全ナル好機會ヲ與へザルベカラズ、何則若シ後來友情ノ破壞亦ハ失望ヲ生スルガ如キコトアラシヨリハ、寧初メヨリ不安ノ朋友ニハ友情ヲ呈セザルヲ以テ勝レリトスレバナリ、サシイハ問フテ曰ク、汝ハ永キ間能ク友情ヲ連続シテ衰へザルコトヲ得ルカ、

答、永キ間常ニ友情ヲ引クニ在リ、古語ニ曰ク、汝カ朋友ト為サントスル所ノ人ハ、其以前ニ其人ハ幾斗フツシ塩ヲ食フトイフコトヲ知ラザルベカラズ、此語ノ意ハ、汝ハ彼ヲ久シク知リ能ク之ニ習熟シ、彼ノ眞実ノ徳性ヲ判断スルノ手段ヲ有セザルベカラズトイフ義ナリ、

其一 西塞魯曰ク、真正ノ友情ハ、尊恭厚德ノ嚴正ナル原理ヲ以テ相励マス所ノ兩人ノ間ニノミ成立スル者ナリト、此言以テ根元ノ格言ト為スベシト、真正ノ友情ノ成立ニ必要ナル尊恭厚德ノ嚴正ナル原理トイフ者ハ、其実ハ友人ニ安全ト利益トノ情感ヲ呈スルコトナリ、友人ノ風儀習慣ハ無言ノ物ナリ、然レトモ我身ニ感觸ヲ與フル為メニハ甚有力ナリ、而シテ吾等ノ名誉幸福ヲ破壞スル所ノ風儀習慣ハ、尊恭厚德ノ原理ト並ビ立ザル者ニシテ、吾等ガ之ニ肖似スルコト能ハザル者ナリ、

其二 朋友ヲ擇ブニ付キテハ左ノ條件モ亦甚必要ナリ、凡ソ擇ンテ朋友トセントスル所ノ者ハ、惟堅固ニシテ有徳ナル原理ヲ有スルノミナラズ更ニ謹慎温和ヲ以テ此原理ヲ実行セザルベカラズ、彼ヲ若シ自身ニ於テ節度ト裁智トヲ欠クトキハ、吾等ノ困難ニ当リテ、吾等ノ相談トナルコト能ハザルベシ、彼若シ性急ニシテ又情ニ動カサレ易キトキハ、自身并ニ我身トヲ以テ共ニ混雜ノ中ニ陥ルベシ、博士ブラウンハ凡ソ友情ニ付テ言フベキ所ノコトハ、大抵古詩ノ一行ノ中ニ含有セリトイフ、其詩ニ曰ク、彼若シ其身ニ於テ朋友タルトキハ、汝ノ為メニ朋友タルベシ”

其三 朋友ヲ擇ブ其他ノ規則ハ、吾身ニ齊シキ者ヲ擇フベシ”トイフコトナリ、此規則ニ適合セシメントスルニハ(一)朋友ハ其位格及ヒ生活上ノ状態ニ於テ、吾身ト同シカルベシ、(二)凡ソ要用及ヒ利益ノ事ニ関シテ、吾身ト其意見ヲ同フスル者タルベシ、

(一) 世上ニハ、生活ノ状態ノ大ニ相違セル人ノ間ニ於テ立派ナル

友情ヲ表スル者アリ、此相違ハ尊崇注意ノ減少ヲ生セザル者アリ、凡テ友情ハ之ヲ養成スル人ノ間ノ平均ヲ造ル者ニシテ、位格ノ高キ人ガ、下等ノ人ニ對シテ堅固ナル情感ト親切トヲ顯ハスコトヲ得ルハ之ガ為ナリ、然レトモ一般ノ規則ニ從ヘバ、友情ハ生活上ニ於テ位格狀態共ニ同一ナル人ノ間ニ於テ、殊ニ眞實ニシテ且ツ永続スル者ナリ、其故ハ此ノ如キ人ハ其趣味、習慣事業ヲ同フスルヲ以テ、友情ヲ發スルニ最モ適合ニシテ、且ツ之ヲ堅固永続スルニ利アレバナリ、未<sup>マルトシ</sup>敦<sup>ニ</sup>ノ詩ニ曰ク「社會ニ依リテ區別サレタル不平等ノ間ニ、如何ナル調和ト眞實トヲ樂ムコトヲ得ルカ」ト、

(二) 西塞魯ハ曰ヘリ、凡ソ宗教及ヒ世間ノ事ニ管シテ、其意見ノ十分同一ナルコトハ、人々ノ互ノ尊崇情感ヲ結合スル最高ノ度ナリト「實ニ朋友ノ間ニ、世事ト教法トノ意見ノ相一致スルハ甚望ムベキコトナリ、尊崇注目トイフコトハ人々カ己ノ真理ヲ擴メ、同一ナル己ノ主義ヲ顯ハサンガ為メニ、相會合スル時ニ於テ、之ヲ養成増進スル者ナリ、若シ人々世事教法ニ於テ相反對セル位他ニ立ツトキハ、互ニ厭嫌ト敵對トヲ生スルナルベシ、尋常ノ用事、及ヒ遊娛ニ於テモ朋友ハ、其交際上ニ於テ甚差異ナラザルコトヲ要スベシ、同シ快樂ヲ共有シ趣味嗜好ノ満足同シ習慣風俗ノ模倣ハ、人々相互ノ親切ナル感覺ヲ強クシ、情感及ヒ友情ノ紐帶ヲ堅固ニスル者ナリ、

## 第二解 友情ノ持続ノ間ノ職分

○友情ヲ持続スル間ニ望ムベキ重要ノ義務ハ曰ク信實<sup>コンフヒロク忠告<sup>カウシ</sup></sup>、曰ク親切<sup>ドネカイン</sup>、曰ク恒久<sup>コンスタ</sup>、是ナリ、

其一 希臘ノ賢人ノ一ナルピアスノ言ニ曰ク、「凡ソ朋友ハ一時吾敵トナルコトアルヲ想ヒテ之ト交ハルベシ」ト、西塞魯ハ此言ノ非ナルコトヲ咎メ、謂ヘラク、友情ガ望ムル所ノ、完全ニシテ眞實ナル交誼ヲ保タザルベカラズト、後世ノ道德家ハ、皆朋友ノ間ニハ十分ナル<sup>コンフ</sup>信實<sup>ニ</sup>ナカルベカラズトイフ說ニ一致セリ、然レトモ縱令信實ヲ以テ相交ハルトモ、凡ソ秘密ノ封印ヲ以テ吾身ニ委托サレタルコトハ其朋友ニモ打明タルコトヲ許サレザルナリ、凡ソ朋友ノ間ニ成ルベキ所ノ信實トイフ者ハ、相互ノ思惠利益ヲ為ス者ニシテ、他ノ一人ノ為メニ傷害ヲ醸成スル者ニ非ザルナリ、

其二 眞正ノ友情ノ眞根元ハ、相互ノ敬重<sup>ムニ</sup>ニ在ルヲ以テ、朋友タル者ハ常ニ相互ニ其行為ニ注意セサルベカラズ、勸言<sup>アドバ</sup>ト戒責<sup>レツル</sup>トハ、平常生活上ニ於テ相交ハル人々ノ間ニ於テ行フベキ所ノ義務ナリ、朋友ノ間ニ於テハ殊ニ必要ナリトス、然レトモ朋友間ニ於テ此義務ヲ怠ル者常ニ多シ、是ヲ怠ルヨリシテ、友情ハ病ニ犯サレテ其健康ヲ失フコト少ナカラズ、人タル者ハ他ヨリ詰責ヲ受ケザルトキハ、其過失ヲ增長シ、遂ニ危險不幸ナル終結ヲ得ル者ナリ、誠實ヲ以テ朋友ヲ告戒非責シ、朋友ヲ其零落ヨリ救ヒ、以テ苦痛ナル回想ヲ免カレシムルコトヲ得シムルハ、即チ友情ノ目的利益ト全ク相合ニスル者ナリ、西塞魯曰ク「爰ニ友情中

二一ノ義務アリ、罪惡ノ危険ヲ避ケシメンカ為メニ行フ者ニシテ、吾儕カ朋友ニ對シテ行フ所ノ恒久ノ信実ト、偏廢スベカラザル者ナリ、余ハ彼ヲ勸戒詰責スルノ義務ヲ有ス、此義務ハ能ク情感ヲ以テ之ヲ行フトキハ、必ス歡ンテ受納サルベキ者ナリ、信用フルフェイスハ、朋友ノ瑕疵ナリ、軟膏ト董香トハ能ク心ヲ怡バス者ナリ、此ノ親切ノ告戒ヲ以テ、友人ノ甘味ヲ成スナリ、”

其三 西塞魯ハ三個ノ規則ヲ記セリ、其一ハ朋友間ニ於テ親切ノ交易、其二ハ良善ナル務メノ交易、其三ハ全ク賞賛スル所ニ非ザル者ノ交易、是ナリ、併シナガラ此三個ニ就キテ特別ノ規則ヲ要スルコトナシ、其故ハ若シ吾等ノ友情ナル者、道德ノ原理ノ上ニ立チ、價値アル目的ノ方ニ進行スルトキハ、吾等ガ適當ノ行為ノ提起スルニ誤リナケレバナリ、西塞魯曰ク”友情ノ諸級ハ、一モ罪惡ノ行為ヲ允許スル者ナシトイヘルハ取除ナキ所ノ規則ト稱スベシ”ト、凡ソ通常有ル所ニシテ殊ニ困難ナルハ、朋友ガ其榮譽又ハ利益ノ地ヲ得ンコトヲ吾等ニ要望シ、吾等ヲシテ尽力セシメントスルコトニシテ、其事ハ朋友ハ自身ニハ適當ノコトナリト考フレトモ等ハ之ヲ適當ノコトニ非ズト考フルノ事、是ナリ、若シ其望ム所全ク不適當ナルトキハ吾等ハ為メニ尽力スルノ友情ヲ以テ束縛セラルベキ者ニ非ズ、榮譽ト官職トハ公然ノ物ナリ、私ノ情感ヲ以テ之ヲ求メ之ヲ得ベキ者ニ非ザルナリ、朋友ヲ不適當ナル職分ノ中ニ置クハ、親切ニ非ズシテ、反テ無情ナルコトナリ、若シ吾等ヲシテ此ノ如キ地位

ニ置カシムル人アラバ、吾等ハ其人ノ愚昧ニシテ擅行ナルコトヲ感スベシ、然レトモ、モシ吾等ノ朋友ニ適當ナル利益ヲ得ルノ途アラバ、夫ヲ得シムルガ為メニ十分ノ助ヲ為サズルベカラズ、此ノ如クシテ汝ガ得タル所ノ幸福ハ、我身ニ反對シ、相互ノ情感友情ハ益強堅永固トナルコトナリ、

其四 西塞魯ハ又左ノ疑問ヲ設ケタリ、”問、新ナル朋友ヲ得ルノ快樂ハ、旧キ朋友ヲ有スルヨリ更ニ快樂ニ非ザルカ”、西氏自答ヘテ曰ク、”否否、吾等ハ此問ヲ以テ道理アル動物ニ不相応ナル言トセリ、凡ソ事物ニハ數々之ヲ得テ、忽ニ飽饜スル者アリ、友情ハ決シテ此ノ如キ者ニ非ズ、年ヲ積ムコト久キニ從ヒテ、益其滋味ト價値トヲ増スコト、恰モ葡萄酒ノ年ヲ經テ益美ナルカ如キ者ナリ、”故ニ真正ノ朋友ヲ得タル所ノ人ハ眼ノ瞳子ノ如ク之ヲ愛養セザルベカラズ、若シ常ニ新ナル朋友ヲ求メンコトヲ務ムル者アラバ、其人ハ己ガ心ノ軟弱ニシテ變易シ易キヲ表章スルニ過キザルノミ、此ノ如キ他人ノ對シテ吾心ノ恒固ナラザルコトヲ示ストキハ、其事ハ亦必ス我身ノ上ニ交ル者ニシテ、他人ヲ遺棄スル所ノ者ハ我身モ亦必ズ他人ニ遺棄セラルハナリ、然レトモ我等ガ生命ノ進行中ニ於テ新ナル朋友ヲ得ントスルコトハ、亦敢テ非トスベキコトニ非ズ、唯旧時ノ朋友ニ對シテ變改亦ハ不親切ヲ現ハスコトナク、最初ニ現ハシタル情感ヲ持續シテ、後ニ新ナル朋友ヲ求ムベキコトナリ、

然ルニ爰ニ亦餘義ナクシテ友情ノ破裂溶解スベキ時アリ、下ニ記スル所ノ如キ、是ナリ、

其一 朋友間ノ一方ニ於テ大ニ其身分ヲ變スルトキハ是ヨリシテ友情ノ破裂溶解ヲ生スルコトアリ、最初ニ於テハ其朋友ノ身分位地モ相均シク、是ニヨリテ屢懇親ナル交際ヲ為シタリ、然ルニ一方ハ其身分高クナリ、一方ハ其身分卑クナルトキハ、自然ト疎遠トナリ、又厭嫌ヲ生スルナリ、然レトモ良善ナル人ハ其外面ノ状態ノ變化ニ由リテ其内心ヨリ發スル所ノ友情ヲ變化スルコトナシ、蓋シ友情ハ<sup>ホルチユレ</sup>幸福ニ比スレハ之モ價値アル物ナレバナリ、又自身ノ幸福ノ朋友ヨリ低キ者ハ決シテ従前ノ朋友ヲ妬忌スベカラズ、又其朋友ガ或ハ傲慢或ハ我ニ親切ノ不足ナルコトヲ責ムベカラザルナリ、

其二 此外ニ於テハ朋友ノ一方ニテ其職分ヲ怠リ、又ハ其義務ヲ破ルトキハ友情ノ破裂スルコトアリ、凡ソ朋友ノ名譽ヲ防護シ、利益ヲ高進スルハ、人タル者ハ必務ムベキノ職分ナリ、然レトモ朋友間ニ於テ、此兩者ヲ怠リ、或ハ之ヲ行フコトヲ勉メザルトキハ真正ナル友情ヲ欠失シタル者ト稱セラル、ナリ、然レトモ此ノ如キ場合ニ於テハ自愛<sup>セルフ</sup>トイフ者、動モスレバ、我心ヲ謬誤ノ方ニ導キ、我朋友ノ親切ニ付キ、過度ヲ求望希待ヲ我心ニ生セシムル者ナリ、此ノ如キ求望希待ハ、實ニ朋友ガ吾等ノ名譽利益ヲ怠リ、十分ニ我怒ヲ起スニ道理アル時ニノミ之ヲ發スルコトヲ得ベシ、吾儕ハ此ノ如キ罪障ヲ根元ヲ取ルコトハ、甚好マシ

カラヌコトナリ、若シ之ヲ為サバハカラザルノ事ニ逼ラバ、宜シク忿怒ノ氣ヲ平カニシテ之ヲ行フベシ、吾儕ハ其時ハ平靜ノ心ト哀憫ノ心トヲ以テ、徐ニ其朋友ニ對セル信義ト情感トヲ引キ去ルベシ、決シテ彼ニ報復スルノ意ヲ以テ之ヲ為スベカラズ、凡ソ無理ナル謗責ト苦惡ナル思想トハ務メテ之ヲ除キ去ラザルベカラザルナリ、

其三 更ニ惡シキ場合ヲ説カザルベカラズ、今吾朋友ト名クル所ノ者、獨リ吾名譽ヲ防護シ、又我利益ヲ増スコト能ハザルノミナラズ、反テ此兩者ヲ害スルコトアリ、又或ハ吾等ヲ傷害敗滅セントスルノ志望ハナシト雖ドモ、彼ノ所有スベキ良善ノ性質ヲ失亡シ、又世界ノ腐敗誘惑ニ從ヒテ、吾等ノ尊恭ヲ與フルノ價值無キ者アリ、此ノ如キ朋友ニ對シテハ、大ニ其改正悛過ヲ望ムト雖ドモ、其望全ク其効ヲ失フトキハ、終ニハ彼人ト分離スルノ止ムヲ得ザルニ至ルナリ、然レトモ此ノ如キ種類ノ場合ニ於テハ、忿怒スルコトヲ止メ、憂愁ヲ以テ彼ト絶交セザルベカラズ、西塞魯曰ク、此ノ如キ種類ノ場合ニ於テ、尤モ忠告スベク且ツ智慮アル行為トイフハ、沈黙ニシテ且ツ遲鈍ナル度ヲ以テ、吾等ノ親切ヲ滅却スルニアリ、又吾等カ加多<sup>カト</sup>ト分離シタルトキヲ回想スルカ如キ強キ發言ヲ用フル時ハ、友情ノ繫帶ハ急ニ之ヲ断絶セズシテ、徐々ニ之ヲ分解セザルベカラズ、然レトモ又常ニ彼ノ罪ハ、吾等ノ榮譽ニ関シテ、絶対ニシテ直接ナル厭倦ヲ與フル如キ甚シキ罪惡ノ者ニ非ストイフコトヲ假定セサルベカラザルナリ、

其四 凡ソ友情ナル者ハ、朽腐スベキ生命ノ運命抵争ノ間、多クノ衝撃、及ヒ偶然ノ事ニ遭遇スト雖トモ、若シ友人ノ一方死亡スルトキハ、此友情ハ終テ溶解ニ帰セザルベカラズ、然レトモ友人一方ノ死亡ハ猶生存者ヨリ義務ヲ要望スルナリ、死者ノ要望ハ、常ニ嚴ニ神聖ナル者ト認メラル、ナリ、其要望果シテ許諾セラル、トキハ、生存者ハ注意シテ之ヲ成就セシメザルベカラザルナリ、吾等ノ義務ハ、吾身ノ上ニ轉落セルコトノミヲ以テ限リト為スベカラズ、博士伯羅温カ引用セル馬貴斯(マルクイゼ)デラムベルトノ言ニ、「朋友ノ名、其榮譽、其家族ハ常ニ吾等ノ情感ヲ要望スルナリ、(吾情感ヲ起スコトノ悪シカラザル時)、是等ノ物(名、榮譽、家族)ハ、其所ニ存スル所ノ動感ニ依リテ吾心中ニ吾等力數、回想スルニ依リテ記憶ノ中ニ、吾等力讚詞ニ依リテ、吾言声ノ中ニ、彼ノ徳ヲ擬スルニ依リテ、吾ノ行為ノ中ニ、猶生活スルナリ、

## 第二部<sup>ペー</sup>

### 公正<sup>ヂヤス</sup>又公義<sup>チヌス</sup>

○公正ハ仁愛ト異ニシテ、其定義ハ、「人々ニ彼ノ正理ヲ與フル為メニ、堅固ニシテ永続セル決定ト心地<sup>ヂヌホジ</sup>トイフコト是ナリ、拉丁ノジヤストイヘル語ハライトイヘル名詞ト相通スルノ語ニシテ、博士黎德ハ、「或ル事ヲ為シ、或ル物ヲ有シ、或ル他人ヨリ或ル出金ヲ要望スル所ノ、正シキ願望ナリ」ト解シ、休物爾<sup>ヒューエル</sup>ハ、是ヲ以テ「人身安全ノ正理<sup>ライト</sup>又<sup>チヌ</sup>財產ノ正理、約束ノ正理」ト為シ更ニ其公正ヲ分解シテ「政治ノ正理<sup>ライト</sup>、婚姻ノ正理<sup>ライト</sup>」ノ二者ト為ス、政治ノ正理ハ、上司ト人民トノ間ノ管係ヨリ起リ、之ヲ政治上ノ公正ト名ク、婚姻ノ正理ハ、夫婦、父子、主従ノ間ノ干係ヨリ起リ、之ヲ一家ノ公正<sup>チヤ</sup>ト名ク、人身、財產、約束ノ正理ハ、人ト人トノ間、及ヒ社會ノ仲間ノ間ニ起ル者ト為シ、之ヲ道德ノ公正<sup>エチカ</sup>ト名ク、

○道德ノ公正ハ、人々ニ其人身、財產、約束ノ正理ヲ與フルヨリ生スル者ニシテ、此公正ニハ、消極積極ノ二者アリ、

第一篇 消極(否定)ノ見込ヲ以テ述タル道德ノ公義<sup>エチカ</sup>又<sup>チヌス</sup>

○人類ノ正理(權理)トイフ者ヲ尊重スルヨリシテ考フルトキハ、凡ソ人ニ對シテ暴虐壓制ノ行為ハ皆宜シク禁止スベキ者ナリ、古代ニ於テ他人ニ對シテ為ス所ノ惡事ノ條目ハ、出埃及記ニ見エタリ、(第二十一章)、

此ノ如キ悪事ニ對セル種々ノ法律ハ、「汝ハ人ヲ殺スコト勿カレ」トイヘル天主ノ十誡ニ根スル者ナリ、無道ナル囚繋及ヒ健康ノ上ニ為シタル傷害ノ如キハ共ニ他人ニ對セル悪事ノ内ニ包括セリ、

○「爾ハ竊ムコト勿カレト」イヘル十誡ノ文ハ、都テ他人ノ所有物ニ向ヒテ為シタル罪惡ノ法律ノ基本ナリ、凡ソ他人ノ動産不動産ニ對シ、又ハ他人ノ名譽ニ関スル罪惡ハ皆此中ニ包括セリ、

○人身ノ自由、財産ノ所有、榮譽ノ享有ノ正理（權理）ハ之ヲ天然ノ權利ト名ク、其故ハ人タル者ハ何レモ他人ニ對シテ此權利ヲ有スレバナリ、

是則チ天然ノ人身權利ニシテ、又完全ノ權利ナリ、

○約束ノ權利（ライト、オス、コントラクト、ハ偶然、アドベチ、コンヂシ、權利ト名ク、此權利ハ天然ノ者ニ非ズ、即チ人類ニ固着セル者ニ非ズ、唯協同ノ続キニ於テ成リタル權利ナリ、故ニ之ヲ偶然ノ權利ト名ク、此權利ハアラユル人ニ對シテ得タル者ニ非ズ、只約束ヲ為シタル對手ノ人ニ向ヒテ互ニ之ヲ有スル者ナリ、其對手ニ對スルモ亦完全ノ權利ニ非ズ、只取極メ上ノ權利ナリ、即チ對手ニ與ヘタル權利ヲ交換スルノ有様ニ於テ自己ノ權利ヲ要望スル者ナリ、此ノ如ク為スコトヲ忘失シ又ハ厭フコトハ、他ノ對手ノ權利ヲ損傷スル者ナルヲ以テ、消極ニ公義ヲ破リタル者ト定ムルナリ、然レトモ約束ヲ仕遂クルトイフコトハ、吾身力其事ニ關係スルニ因リテ生スル者ニシテ、此義務（仕遂ゲ）ヲ以テ積極ノ公義ト考フルナリ、其故ハ、是ニ由リテ兩方ノ得ル所ノ權利ハ、生命、自由、財産、名譽ノ權

理ノ如キ天然ノ者ニ非ズ、唯預メ成文ノ法律ニ依リテ其權利ヲ定メタルコト、天然ノ正義ト異ナルコトナシ、

○ブツヘンドルフ曰ク、完全ナル義務ノ続キ、即チ預メ人類ノ法律ニ先チテ、世人ニ尽ク服從セザルベカラサル所ノ義務ノ続キニ付キテハ、下ノ記スル所、第一ニシテ高崇ノ地位ヲ領スル者ナリ、曰ク、人タル者ハ他人ヲ傷害スベカラズ、若シ他人ノ為メニ傷害サレタル時ハ其他人ハ賠償ヲ為スコトヲ怠ルベカラズ”他人ヲ傷害スベカラズトイフハ、完全ナル義務ナリ、他人ニ傷害セラレタルトキハ他ノ人ハ賠償即チ恢復ヲ為スベシトイフハ状態上ノ義務ナリ、

○賠償ノ義務ハ成ルベキタケ其事物ヲ恢復シテ不公義ナラザルノ状態ニ至ランコトヲ求ムベシ、猶之ヲ確實ニセント欲セバ、吾儕モシ、吾隣人ニ傷害ヲ為シタルコトヲ知ラバ、夫ト同時ニ務メテ之ヲ賠償セザルベカラズ、是吾儕ノ義務ナリ、然レトモ其賠償ヲ為スニハ、利己又ハ虚偽ノ恥ノ如キ感覺ヲ以テ之ヲ為スベカラズ、又時ニ依リテ賠償ヲ宥恕スベキノ場合モ亦少ナカラズ、

其一 全ク賠償ヲ為スベカラザルノ場合 生命ヲ失ヒテ之ヲ恢復スベカラザル時、又ハ財産ヲ敗滅シ之ヲ恢復スヘカラザル時ニハ、凡ソ人タル者ハ為スコト能ハザル事ヲ為スベキノ義務ヲ有セズ、故ニ此ノ如キ時ニハ賠償ハ之ヲ宥恕セラル、ナリ、然レトモ十分ニ賠償セラレザルモ、加害者ハ己ノ力ヲ尽シテ、少シニテモ之ヲ恢復センコトヲ勉メザル

ベカラズ、

其二 時トシテハ、一方ニテ傷害ヲ加ヘタル時、傷害セラレタル者其賠償ヲ望マザルコトアリ、此ノ如キ場合ニ於テハ、*Violenti non fit injuria* (被害者ガ自ラ甘受スル所ノ傷害ハ、法律ニ於テハ之ヲ穿索セズ) トイヘル、法律ノ格言ニ随ヒ、其賠償ヲ宥恕スルナリ、然レトモ此格言ハ動モスレバ誤リテ真意ノ外ニ出ツルコトアリ、初メニ他人ヲ傷害シ、尋テ賠償ノ宥恕ヲ求ムルハ、重複ノ悪事ナリ、吾儕負債ヲ延期スルコトヲ許容スルハ、猶仁恵ノ施與ヲ許容スルガ如シ、然レトモ二者共ニ自由ナラザルベカラズ、賠償ヲ宥恕サル、ノ先ニ於テ、其相手ヨリ甘ンジテ、其賠償ノ要望ヲ軽減セラレザルベカラズ、而シテ其相手ハ之ヲ軽減スルモ、不都合ノコトナキトイフコトヲ以テ自ラ満足セサルベカラズ、

其三 吾儕他人ニ損害ヲ加ヘタリトモ、他人ヨリ又我ニ向ヒテ、同一ノ損害又ハ之ヨリ大ナル損害ヲ加ヘタルトキハ、吾儕ハ従前為シタル損害ハ賠償スルコトヲ要セズト云フ者アリ、然レトモ惡ニ報ユルニ惡ヲ以テスルハ、惡シキ事ナリ、吾儕ハ他ヨリ來レル損害ヲ防禦抵抗スルノ權利アリ、若シヨク防禦シ得ルトキハ、他人ニ向ヒテ害ヲ加フルヲ要セズ、又他人ニ賠償スルヲ要セザルナリ、然レトモ吾儕忿怒ニ乗ジテ道理ノ界限ノ外ニ出テ、過度ノ恢復ヲ要スルトキハ、最初ニ為シタル不公義ノ干係ヲ以テ限リトシ、其餘ハ、賠償ヲ宥恕スルコトナシ、

第二篇 積極(肯定)ノ見込ヲ以テ述タル道德ノ公義

○此公義ハ思想、言語、行為ノ三者ニ就キテ發見スル者ナリ、

### 第一 解 セクシヨシ 思想ニ付キテノ公義

○思想ノ公義ニ眞実ウラカシク即チ明白ハクニノ徳ヲ造成スルナリ、(其一)ハ他人ノ品性ト行為トヲ思考スルニ由リテ成リ、(其二)ハ搜索イリコトト爭論ケンゴトニ由リテ成ルナリ、

其一 他人ノ品性ト行為トヲ考察スルコトニ於テ、動モスレハ或ハ苛刻或ハ寛縦ノ一辺ニ偏リ易キ者ナリ、眞実ナル者ハ他人ノ品性ト行為トニ関シテ公平ナル價值ヲ立ルニ由リテ成ル、他人ハ之ヲ受クルノ權利アリ、吾等ハ之ヲ行フノ義務アリ、

○此義務ヲ行フニ、主ナル障礙ハ、自慢セルヲ妬忌ウラヤミトニアリ、自慢ハ自愛セルヲラズノ惡シクナリタル者ニシテ、妬忌ハ競争ウラヤミノ万流ニ赴キタル者ナリ、

○吾等カ輒モスレバ眞実ノ義務ヲ失ヒ易キ者ハ、一ハ其品性ノ勝レテ秀美ナル人ニ對セル時ニアリ、一ハ其行為ニ缺失過誤多キ人ニ對セル時ニアリ、

○其品性ノ勝レテ秀美ナル人ハ其或ル物ハ、吾等カ殊ニ自ラ價值スル物ニ勝レリ、此ノ如キ人ハ過度ニ之ヲ價值シ、過度ニ之ヲ稱賛スル者ナリ、而シテ又其秀美ナルニ管セズ、其品性ハ缺失ト誹謗トヲ免カル、コト能ハザルナリ、此ノ如キ景況ハ、眞実ノ發現ヲ最モ困難ニ為ス者ナリ、

○又其品性ノ缺失過誤アリト認メラル、者ハ、倉卒ニ咎責セラル、者ナ

リ、此人ハ其誘惑ノ強キヨリシテ、適當ノ宥許ヲ受クルコトヲ得ズ、而シテ吾等ハ吾身ノ罪ニ陥ルコトヲ考ヘズシテ、本来ハ哀憐スベキ物ナルヲ、却テ輕卒ニ之ヲ誹謗賤侮スルナリ、

其二 搜索ト争論トノ事ヨリシテ、眞実ナル物ハ、其事実ヲ得タルヨリ、成ル者ナリ、其事実ハ何レノ方ヨリ来ルモ、又其以前ニハ反對ノ意見ヲ作り居ルモ事實ヲ得タル上ハ眞実ヲ生スルナリ、其眞実ヲ生スルノ妨トナル者ハ、(一)ハ体裁<sup>シス</sup>ノ勢力、(二)ハ其名ノ權勢(三)ハ衆人同意シテ其成果ヲ信スル所ノ教義ノ見込、

(四)ハ才力或ハ能弁、身分或ハ勢力、特別ナル教義ノ防護、其人ノ引受タル衆民ノ愛等ニ依リタル者、是ナリ、

## 第二解 言語ニ管セル公義

○此義務ハ二様ノ公義ヲ包含ス、(其一)ハ、尋常ノ說話及ヒ証言<sup>テスチ</sup>ノ眞実、(其二)ハ約束ノ眞実、<sup>フヒテリチ</sup>是ナリ、

○言語ニ干セル公義ノ義務ハ、必シモ上ノ二種ヲ以テ限リトスル者ニ非ズ、然レトモ此二種ノ場合ハ尤モ明白完全ニ理會セザルベカラザル者ナリ、博士黎德曰ク、咄者ハ其言語ヲ發スルコト狗ニ勝ルコト能ハズ、然レトモ信号ニ由リテ証拠ヲ示スコトハ、他ノ人ガ言語ヲ以テスルニ異ナルコトナシ、咄者ハ人ノ虚偽ヲ知ルコト尋常ノ人ニ異ナラズ、又之ヲ悪ムコトハ常人ニ同ジ、彼ハ亦己ノ信実ヲ擔保シ、又約束ヲ守ルベキコトヲ知レリ、”

○眞実ハ落日克樣ナリ、或ハ之ヲ分チテ形体様ト道德様トノ二種トナス、ボスウエル曰ク、”形体様ノ眞実トハ或ル事物ヲ、有ノマ、言フコトナリ、道德様ノ眞実トハ、汝ノ見タル所ヲ以テ眞実ナリトシテ或ル事物ヲ言フコトナリ、余ハ或人ガ街上ヲ徘徊スルヲミタリト言フ、或人実ニ街上ヲ徘徊シタルナラバ、余ガ言ハ形体様ノ眞実ナリ、余ハ実ニ或人ガ街上ヲ徘徊シタルト思ヒタレドモ、若シ誤見ナルトキハ、余ガ言ハ道德様ノ眞実ナリ、”

其一 尋常談話ノ眞実ニ付キテハ、明白ナラザル語或ハ兩様ニ聞取ラレベキ言語ハ之ヲ避ケサルベカラズ、此ノ如キ語ヲ故意ニ之ヲ用フルトキハ曖昧<sup>ニコイカ</sup>ノ罪ニ陥ルナリ、曖昧ハ音声ニモ意味ニモ之アルコトナリ、何レモ共ニ眞実ニ反スル者ナリ、又尋常談話ノ眞実ニ付キテハ藏蓄<sup>レサルベシ</sup>或ハ制限<sup>クシヨント</sup>ト云フコトアリ、是ニハ又実<sup>ル</sup>ト心<sup>タル</sup>トノ二様アリ、今或ル事ヲ有体ニ發言スルトキハ、眞実ニ非ズ、然レトモ若シ事情ヲ考ヘテ發言スルトキハ虚偽ニ非ザルコトアリ、此ノ如キヲ名ケテ実<sup>ル</sup>ノ制限ト云フ、又今發言スル所ハ眞実ニ非ズ、然レトモ彼ハ心ノ中ニ其言ノ虚偽ナラザル鮮積ヲ有セリ、此ノ如キヲ名ケテ心ノ藏蓄又制限ト云フ、然レトモ此ノ如キハ、言者唯心ノ中ニ眞実ナリト思フノミニテ、之ヲ聞ク者ニ對シテハ眞実ナリト言フコト能ハズ、

○曖昧及ヒ心ノ藏蓄ハ、其一其言ノ反對、又ハ其言異ナリタル者却テ眞実ナリ、故ニ此ノ如キ語ハ虚偽ナリ、其二ハ、其意ハ人ヲ誘惑スルニア

レドモ、其言語ハ教示様ニシテ、又明白ナリ、故ニ曖昧ト心ノ藏蓄トハ、其形体ヨリ言フモ性質ヨリ言フモ共ニ虚偽タルコトヲ免カレズ、

○有体ナルコトシムフリト誠実ナルコトシセトハ上ノ曖昧及ヒ心ノ價值ニ反  
對セル者ナリ、吾儕ハ同儕トノ交際ニ於テ、獨リ平直信切ニ談話スベキ  
ノミナラズ、又胸襟フレンキヲ開キ、且ツ底ニ意ナク談話スベシトイフコトハ一  
般ノ規則ナリ、交際上ノ快活ヲ助クル者ハ胸襟ヲ開クヨリ他ニハ多クア  
ラザルナリ、此事ノ反対ハ秘密クロウスキト包藏レセウトナリ、此二者ハ温和ノ態ヲ欠  
キ、時トシテハ差錯或ハ過害ニ陥ルコトナリ、

○然レトモ又時トシテハ十分ナル真実ヲ言フニ及バザルコトアリ、凡ソ  
談話ハ平直嚴正ニ真実ヲ言フベキハ人ノ通則ナリ、然レトモ或ハ真実ノ  
必要ナラザルコトアリ、吾儕ハ吾隣人ガ誤謬ニ陥ランコトヲ防クガ為メ  
ニ、又吾等ノ沈黙ニ由リテ隣人ヲ害セザランガ為メニ、事実ヲ明白ニ述  
ベザルベカラザルノ義務アリ、然レトモモシ吾等十分ニ真実ヲ言ヒ、為  
メニ他人ヲ誤リ又ハ傷害スルコトアルトキハ、却テ真実ヲ言ハザルノ義  
務ヲ生ス、問、外科医ハ患者ハ其病ノ危殆ナルコトヲ告知スルノ義務ア  
ルヤ、何人モ必反對ノ意見ヲ執ルナルベシ、

○又左ノ疑問アリ、問、モシ真実ヲ顯セバ吾等ノ不利益トナルトキハ、  
真実ヲ言フコトヲ避クルコトヲ得ベキヤ、西塞魯ハ此種ノ事ニ関シテ論  
証セシコトアリ（体物ルノ書ノ第三册十五扁ヲ見ルベシ）此疑問ハ現今  
ニ於テモ之ヲ論ズル者アリ（パロウノ書ニ出ヅ）

○此事ニ関シテ更ニ他ノ疑問アリ、問、真実ハ之ヲ破ルコトヲ得ベキカ、  
審ニ言ヘバ、虚言モ之ヲ許スノ場合アリヤトイフコトナリ、

○凡ソ人タル者言語真実ヲ失フノ場合三アリ、（其一）或人ヲ害セントス  
ルノ志謀ヲ以テ、（其二）或人ヲ惠マントスルノ志謀ヲ以テ、（其三）善  
トモ惡トモ一定ノ志謀ナク唯遊戯ヲ以テスル者、是ナリ、

（其二） 第一ノ虚偽ハ、衆人皆之ヲ罪スル所ナリ、此事ハ隣人ヲ愛ス  
ベシト言ヘル上帝ノ意思ト反スル者ニシテ、之ヲ大ニシテ社會ノ交際ヲ  
害スル者ナリ、

（其二） 第二ノ場合ニ於テ、虚偽モ時ニ依リテハ之ヲ許スベキカトイ  
フニ至リテハ、大ニ疑ノアル所ナリ、或ル場合ニ於テハ、虚偽ニ因リテ、  
真実、一般、恒久ノ善ヲ求ムルコトヲ得ベキヤ、又一個人又一社會ノ身  
分ニ於テ、専ラ真実ヲ守ルコトヲ要セズ、唯其効驗ノミヲ取ラント欲シ、  
目前ノ不都合ヲ避ケントシテ後來恒永ノ罪惡ニ陥ルコトヲ顧ミザルコト  
ナキヤ、真実ノ語ヲ言ハザルベカラズトイフコトハ、順序ニ於テモ、威  
權ニ於テモ、最先ノ義務ニシテ、其事ノ効驗ヲ算スルヨリ生スル義務ニ  
先ダツ者ナリ、又此事ハ十分ニ開張セントスルトキハ、適當ノ判断ヲ有  
スルコト能ハザル者ナリ、真実ツルメトイヘル神聖ナル威權ニ反對シテ、吾等  
ノ短視ノ意見ヲ定ムルコトハ、不智ニシテ且ツ不信ナリ、

○信心上ノ虚言又ハ教法ノ主意ニ利益アル虚偽トイヘルコトハ、甚タ不  
合理ノ事ニシテ、自家擔着ノ成語タルコトヲ免カレズ、教法ハ熱心ナル

眞実ナリ、正シキ信用ノ外ニハ、一助ノ要スル者ナシ、虚偽ノ朋友ヲ畏ル、コトハ公然ノ仇敵ヨリ甚シキ者ナリ、

○小児ヲ宥メ、又神經ノ恐怖ヲ鎮メンガ為メニ虚言ヲ吐クコトハ甚宜シカラザルコトナリ、巴黎パレイハ言ヘリ、吾儕、狂人ニ其人ノ利益ノ為メニ、盜賊ニ我貸財ヲ匿ス為メニ、刺客ニ其志謀ヲ誤マラシメンカ為ニ虚言ヲ言フハ罪トナルコトナシト、是等ハ皆極端ノ場合ナリ、然レトモ若シ彼等ニ付キテ允許ヲ與フルトキハ、左ノ格言ニ恩恵ヲ與フルコト能ハサルベシ、曰ク『凡ソ善事ハ是ヨリ来ルト考フル所ノ惡事ハ之ヲ為スコトヲ得ベシ』

(其三) 巴黎ハ曰ク『虚言ニシテ欺罔ニ非ザル者アリ、即チ罪惡トナラザル者アリ、例ヘバ小説、比喻、滑稽等ノ如キ唯談話ヲ文飾シ、又之ニ快樂笑戯ヲ與フルノ類ハ、其格言者ノ意ハ其事ヲ人ニ教ヘントスルニ非ズシテ、唯人ヲ娛シマシメントスルニ在ル者ナレバ、為メニ人モ之ニ欺カル、者アルコトナシ、書翰ノ署名ノ礼式、奴僕カ其主人ヲ辞スルト、罪人ガ其無罪ヲ辨スルコト、弁護人ガ自ラ正義ヲ信スルカ又ハ托訟者ノ為メニ法官ニ證言スルコトノ如キ是ナリ、

○小説、比喻等ヲ用フルコトハ、何レノ時代ニモ、何レノ国民ニモ流行スルコトニテ、最上ノ威權ニ於テ認許サレタル者ナリ、

○稗官イレルニ管シテハ左ノ疑問アリ、凡ソ人類ノ義務ト、生活ノ困難ナルトニ付キテ良善ナル準備トイフ者ハ、此世界ノ道德管治ノ中ニ実ニ現出セ

ル事ヲ視察スルノミニテ足レル者ナルカ、或ハ更ニ想像ノ図形ニ依リテ考究セザルベカラザル者ナルカトイヘル疑問是ナリ、

○又通常談話ノ間ニ於テ言フ所ノ礼式及ヒ書簡ノ署名ニ記スル所ノ礼式ノ如キハ、東方ニテ用フル詩歌上ノ過大ノ語ヨリハ却テ其下ニアリ、然レトモ此事ハ猶改正スルコトヲ得ルノ餘地アル者ナリ、

○奴僕ガ其主人ヲ辞スルノ習慣ハ、古代ヨリノ弊風ナレドモ、若シ其主人タル者、訪問者賢者ヲ見ルコトヲ望マザルトキハ此ノ如ク言フコト、又ハ此效驗ヲ得ベキコトヲ奴隸ニ教フルハ更ニ善キコトナルベシ、

○人タル者ハ自ラ吾身ヲ罪スルノ義務ナシ、故ニ自ラ無罪ヲ弁スルヨリ左ノ如キ言辭ヲ吐クニ至ルコトアリ、曰ク訟ヘラレタル者ハ吟味ノ執行ヲ受タルコトヲ望ミ、又証拠ノ受合ニ依リテ罪罰ナリ宥赦ナリ何レニテモ甘ンジテ之ヲ受クベシト、又弁護人ガ被告者ノ無罪ヲ証セントスルトキハ、其托訟者即被ハ実ニ無罪ナリトイフ意見ヲ呈出スルコトナク、只法律上ノ無罪トイフノ意見ヲ呈出シ、又被告人ニ對セル証拠ハ、証拠トナルコト能ハズト云フコトヲ論述スルナリ、

西塞魯ハ謂ヘラク、凡ソ無罪ノ人ヲ防護セントスルニハ、其有罪ナリト疑ハル、所ノ原因ノ弁明ヲ必要ナリトス、然レトモ世間知レ渡リタル罪人ヲ防護スルハ甚道ニ背ケルノコトナリト言ヘリ、

○巴黎パレイハ、凡ソ無根ノ言又ハ過大ノ言ヲ用フルトキハ、嚴正ノ談話ヲ蕩敗スル者ナレバ、甚不可ナリト言ヒ、又嬉笑シテ為メニ滑稽ノ談話ヲ造

リ、或ハ談話ニ嘲笑スベキ追従ヲ用フルガ如キハ皆罪スベキコトトセリ、  
○以上ノ諸説ヲ合セテ視レバ其要左ノ如シ、凡ソ眞実○ソルハ吾等ノ同儕ト  
相交際スルノ間常ニ之ヲ習熟保有スベシ、言語ハ曖昧又ハ両端ノ意味ヲ  
用フベカラズ、又心中ニ藏匿スルコトナク、常ニ天然ノ意味ヲ以テ平易  
明白ニ之ヲ言フベシ、又他人ノ欺罔セントスルノ企謀ハ甚悪シキコトナ  
レバ、明カニ之ヲ避ケンガ為メニ、社会ニ対セル談話ハ、務メテ人ヲ誤  
謬ヲ陥ラザラメンコトヲ求メ、有体ニ甚誠実ニ之ヲ言ハザルベカラザ  
ルナリ、

其二 約束ノ確實フヒテチイ、眞実ベラシハ過去ト現在トニ干係セル言語ノ誠信  
ナリ、確實ハ未來ニ関セル誠信ナリ、

○自好ノ約ポリシテハ他人ヲ利スル為メニ或ル事ヲ為サントスル吾志ヲ言  
ヒタル者ナリ、約束イスマハ請求ノ続キニ於テ為シタル者アリ、約束又片  
約ト譯スベシハ双方ノ人アルベシ、一ハ約束ヲ為ス者ニシテ、一ハ約  
束ヲ受クル者ナリ、取極トクハ二人又ハ其以上アルベシ、取極ハ此点ニ於  
テハ契約ラクト（又双約ト譯スベシ）ト相一致ス、即チ二人以上モ亦之ヲ取  
極ノ中ニ加フベシ、然レトモ契約ハ皆取極ナレドモ、取極メハ皆契約ナ  
リト言フコト能ハズ、契約ハ法律上ニ於テ堅固ノ者ニシテ、貿易ノ約定  
バルダモ亦此中ニ属ス、民間ノ常語ニ之ヲコイド、プロ、コーツーパーチス（同値亦平均  
ノ義）ト言フ、二人又ハ夫ヨリ以上ノ人間何レモ互ニ熟思シ、同意スル  
ニ非ザレバ其約束ハ相互ノ利益ノ情状ヲ以テ衣被スルコトナキ、只裸体

ノ取極バクトメナリ、此ノ如キ者ハ法律ヲ以テ之ヲ堅固ニスルコト能ハズ、  
（二）約束プロマイス又片約 道德者ハ主トシテ約束ヲ以テ事ヲ為ス、十分ナ  
ル約束ヲ造成スルニハ左ノ諸件ヲ要ス（イ）約束ノ為ス者ガ熟考シタル  
上ノ意志インテンション（ロ）此意思ノ発言或ハ告知（ハ）約束ヲ受クル者ガ、ヨク  
之ヲ承諾スルコト、是ナリ、

○巴黎ハ約束ヲ踐行スルノ義務ヲ推延シテ、其必要ネセシチイヨリ始メテ、安全幸  
福ニ及ベリ、即チ人類社会ノ眞ノ成立ニマデ及ベリ、然レトモ約束ヲ守  
ルトイフコトハ、自身ニ於ケル正義ライイトノ行為ナリ、吾等ハ約束ノ中ニ美麗  
ト恰當アルコトヲ認識セリ、約束ヲ破ルトイフコトハ、甚タ陋悪ニ見エ、  
又吾等ニ苦痛ト不満足トヲ感ゼシムル者ナリ、故ニ約束ヲ履行スルコト  
ハ、吾心ノ構造ト吾行為ノ天性トニ於テ、其職分ナルコトヲ現ハス者ナ  
リ、此義務ヲ行フニ由リテ流出スル所ノ善事ハ、上帝ノ道德管治ト相協  
合スル者ニシテ、上帝ノ言語ノ告知ハ、上帝ノ高崇ナル意思ト相一致ス  
ル者ナルコトヲ知ルベシ、

○約束ハ人々ガ其授ケタル意味ト受取タル意味トニ從ヒテ之ヲ履行スベ  
シ、尋常ノ談話ニ於テモ、意味両端ノ語又ハ心中包藏、秘密ノ制限ヲ避  
クベキコトナレバ、約束ニ於テハ殊ニ是等ヲ避ケザルベカラズ、若シ能  
ク是等ヲ避ケンコトヲ勉ムルトキハ、吾等ノ意味ヲ明白ニ人ニ示スコト  
ハ、甚難カラザルノコトナルベシ、果シテ然ルトキハ、履行スベキ約束  
ノ意味ニ付キテ疑問ヲ發スルハ不用ノコトナルベシ、若シ約束ノ意味ニ

付キテ疑問ヲ發スル様ニテハ、約束ヲ為ス者ハ、其言語ノ意味ヲ匿シテ、約束シタルヨリ些少ノ事ヲ為サンカ、又ハ耳ニ約束ノ言ヲ聞クモ心ニ約束ヲ破ランカノ疑アルヲ以テ、遂ニ其正義ヲ失フコトナリ、受約者ハ亦約束中ノ言語ノ正当ノ意味ヨリ多クノ事ヲ為サシメント主張スルカノ疑アルヲ以テ、同シク其正義ヲ失フコトナルナリ、此場合ニ付キテノ解説ハ巴黎ト威尔突トノ書ニ詳ナリ、

○或ル場合ニ於テ、約束ヲ履行スルノ義務ヲ或ハ怠慢或ハ破壊セラレコトアリ、

(1) 約束様ノ約束ハ、若シ其状態廢滅シタルトキハ、之ヲ履行セザルモ可ナリ、然レトモ其約束ノ廢滅トイフハ、為約者受約者共ニ同一ニ偶然ノ事ニ依リテ其約ノ消滅スルトキニ限ル、(コンヂシヨナルハ又身分上或は情形上ト訳スベキカ) (この箇所は頭註の形になっている。)

(2) 成ルベカラザルノ約束ハ之ヲ履行セザルモ可ナリ、然レトモ為約者ハ初メニ其成ルベカラザルヲ知リテ約束ヲ為スベカラズ、又約束ヲ為シタル後ニ於テ、其約ヲ成ラザルガ如クニ造作スベカラズ、

(3) 法則ニ合ハザルノ約束<sup>アンララル</sup>ハ之ヲ履行セザルモ可ナリ、例ヘバ奴僕ガ其主人ニ背カントシテ約束スルガ如キハ極メテ法則ニ合ハザル者ナレバ、此約束ヲ為スハ罪惡ニシテ、此約束ヲ破ルハ罪惡ニ非ズ、若シ又約束シタル後ニ、不法則ノ事起發スルトキハ、其約ハ之ヲ履行スルコトヲ要セズ、商人ガ貨物ヲ他國ニ出スコトヲ約シ、未其事ヲ執行セ

ザル前ニ其貨物ヲ出港スルハ不法則ナリト表明サル、トキハ、其約束ハ必シモ之ヲ踐行スルコトヲ要セズ、

(4) 誤謬ノ約束ハ履行セザルモ可ナリ、是ニ付キテハ左ノ如キ場合アリ、

(イ) 為約者若シ受約者ノ為メニ欺カル、トキハ、其約束ハ踐マザルモ可ナリ、シセロ曰ヘリ、<sup>虚网ヲ以テ欺キタル者ノ為シタル約束</sup>ハ、之ヲ履行スルノ義務ナシトイフコトハ誰カ之ヲ知ラザル者アラン、<sup>巴黎</sup>ハ曰ヘリ<sup>乞者吾等ノ施與ヲ得ンガ為メニ極メテ憫レムベキ説話</sup>「<sup>モモシ其説話ハ全ク虚偽ナルコトヲ發見シタルトキハ、此發見ハ、疑ナク、余ハ約束ヲ解クノ力アル者ナリ、</sup>」

(ロ) 若シ双方ニテ約束ヲ為シタル所ノ根元共ニ誤謬ナルトキハ、此誤謬ノ發見ハ、直チニ其約ヲ廢スルコトヲ得ベシ、此ノ如キトキハ、即チ上ニ言ヘル身分上ノ約束トナルナリ、然レドモモシ為約者ノミ誤ルトキ<sup>其約ヲ廢スルコト能ハズ</sup>、例ヘハ或ル日ニ於テ、或ル金貨ヲ拂フコトヲ約センニ、其日ニ至ルモ、其金ヲ拂ハザルガ如キ是ナリ、<sup>此</sup>然レトモ若シ外ヨリ起レル不意ノ事件ニ依リテ其金ヲ拂フコト能ハザルニ至ルトキハ、第二項ニ言ヘル成ルベカラザル<sup>イムボツ</sup>ノ約束トナルナリ、

○未丁年ノ者ト為シタル約束ノ如キモ亦誤謬ノ約束ノ中ニ算入スベシ、

此ノ如キ約束ハ法律上之ヲ履行スルノ責ナシ、然レトモ未丁年ノ者相互ニ約束ヲ為スコトハ正理ナリト認ムルコトヲ得ヘシ、只成年ノ後ニ至リ、此ノ如キ約束ハ之ヲ履行スルノ義務アリヤ否ニ至リテハ、猶熟考ヲ要スベキ者アリテ存スルナリ、

○發狂セル人ハ責任ヲ負フベキ人ニ非ザルヲ以テ、道德者ハ狂人トノ約束ヲ認許セザルナリ、過酒ヨリ生スル一時ノ發狂ノ如キハ、若シ之ニ由リテ罪惡ヲ犯ストキハ、法律ハ、其罪ヲ宥サザルナリ、プツヘンドルフ曰ク過酒ニ因リテ為シタル罪惡ト、過酒ニ由リテ為シタル約束トハ、其間ニ大ナル區別アリト、ブ氏ノ意ニ罪惡ノ方ハ、其責ニ任セサルベカラズ、約束ノ方ハ、其醒時ニ於テ之ヲ固定スルニ非ザレバ其責ニ任スルヲ要セズトイフニ在リ、然レトモ此區別ハ、道德社ノ眼ヨリ見レバ、甚々明白堅固ナラザル者ノ如シ、

(5) 脅迫ノ約束エキストルテツドプロマイスニ付キテハ心学者ノ説一様ニ帰セズ、然レトモ世間一般ノ意見ハ、此約束ハ履行スルノ義務ナキ者トセリ、強盜ハイウェイマンハ、汝ニモシ金円ヲ與フルコトヲ約セザレバ汝ヲ殺スベシト脅迫スベシ、此ノ如キ約束ハ守ラザルベカラザル者ナルカ、シセロハ曰ヘリ、強盜ハ人類ノ公敵ナリ、敵ニ対シテ誠実ヲ務ムルヲ要セズ、故ニ此ノ如キ約束ハ守ルベキ者ニ非ズト、ドクトルルーテルフォルツハ曰ヘリ、此ノ如キ約束ハ獨リ為約者ノ恐怖ヨリ出ルノミナラズ、又之ニ対スル者ノ甚不正ナルヲ以テ、之ヲ守ルコトヲ要セズト、凡ソ權理(即チ正理)ハ傷害ノ

上ニ立ツベキ者ニ非ズ、總テ不正ノ行為ハ、道德ノ效驗トシテ之ヲ避クベキ者ナリ、故ニ罪惡ノ人ヨリ要求ヲ為スコトヲ得ベキ者ニ非ズ、ギスポールンハ此説ニ反シ、脅迫ノ約束モ數々其履行サル、ヲ見タリト言ヘリ、此ノ如キ約束ヲ履行スルハ或ハ智トハ言フベキコトアリ、然レトモ義務ト言フコトハ甚難シ、

国ノ法律ハ皆吾等ヲ防護シテ此ノ如キ約束ヲ守ルコトヲ要セザラシメタリ、自主ノ同意トイフコトヲ以テ約束ノ本質ナリト定ムルトキハ心事ノ威權ヲ有セザルノ人ガ自己ノ利益ノ為メニ脅迫ノ約束ヲ為シ得ベキ者ニ非ズ、然レトモ父母師道及ヒ官府ハ其所有セル正當ノ威權ヲ以テ、其下ノ者ノ好マザル所ノ約束ヲ強テ為サシムルコトアリ、然レトモ此ノ如キ約束ハ之ヲ履行セザルベカラズ、其故ハ一ハ是等ノ人ノ所有セル威權ハ法則ニ協フ者ナルニ由リ、一ハ此ノ如キ約束ハ、長上ガ自己ノ利益ニ非ズシテ、其下ニ屬セル者ノ利益ノ為ナレバナリ、

(二) 契約コントラクト又双約 約束ニ於テハ、双方ノ間ノ一人ノミ義務ヲ負ヒ、他ノ一人ハ約束ノ物ヲ受クルノ權理アルノミナリ、契約ハ是ト異ニシテ、双方共ニ相互ニ義務ヲ負ヒ、又其約シタルコトニ付キテハ相互ニ權理ヲ有スル者ナリ、故ニ契約ノ定義ハ左ノ如シ、契約ハ二人又ハ其以上ノ人ガ、同一ノ事ニ於テ同意シ、法律ニ協ヘル義務ヲ或ハ構造シ或ハ解散セントスルノ志謀ヲ以テ成リタル者ナリ、  
○契約ノ本原ハ、人タル者ガ一己ニテ自己ノ安慰幸福ヲ受クルニ不十分

ナル事実アルヨリ生シタル者ナリ、是ニ由リ吾等ガ為シ能ハザル事ヲ為スコトヲ得、吾等ガ得能ハザル物ヲ得ルコトヲ得ルナリ、故ニ吾等ノ希望ヲ為シ得ベシト信ズル人アルトキハ其人ニ向ヒテ吾等ノ希望要求ヲ發言ス、其人能ク吾言ニ同意スルトキハ、吾等モ亦之ニ報答スル所以ヲ述ベザルベカラズ、此ノ如クシテ互ニ熟慮シタル後、結フ所ノ契約ハ交換スベキ正義ノ行為トナルナリ、コムニユクテ人類カ互ニ交換スル事物ノ種類ノ甚多キガ如ク、契約ノ種類モ亦甚多シ、又種々ノ風俗習慣ハ種々ノ契約ノ仕方ヲ為サシムルコトトナレリ、契約ノコトヲ細カニ考究スルトキハ、自ラ法理学ト経済学ノ範圍ニ入ラザルコトヲ得ズ、今言フ所ノ契約ハ唯言語ヲ以テ相約スルノコトニ止メ、其信実トイフモ、又其契約ノ言語ヲ守ルヲ以テ限リトスル者ナリ、

○上文約束ニ於テ其信実ヲ守ルベキコトノ規則ハ、契約ノ條ニモ適當スル者ナリ、契約ノ言語ハ単純ニシテ、且ツ直接ノ意味ヲ以テ之ヲ言フベシ、二様ノ義ニ用ヒラル、ノ語、本意ヲ隱匿スル等ノ語ハ之ヲ用フベカラズ、契約ヲ踐行スルノ義務ハ、約束ヲ守ルコトト相同シガルベシ、此義務ノ意味ハ、吾安慰ヲ求ムル為ニ天然ノ欠処アリ、又不完全ナルコトヲ心ニ知ルトキハ、益其度ヲ高クスルコトトナル、又契約ニ依リテ得タル交換ニ由リテ吾利益ヲ多クスベキコトヲ了知スルトキハ、同シク義務ノ意味ノ度ヲ高クスルナリ、

○契約ハ約束ヨリ正格ノ物ニシテ、熟考注意ヲ用フルコト多シ、故ニ契

約ノ無効トナル場合ハ約束ノ失効トナル場合ヨリ更ニ少ナシ、然レトモ契約ハ其習慣ニ由リテ、既ニ契約トナリタルヤ否ヤニ付キテハ其考案一様ナラズ、是ニ由リ其契約ヲ踐行スルコトニ付キテモ種々ノ疑問アリ、約束ニ於テ無効トナレル道理ハ、リレン契約ニ於テ又無効トナルベシ、例ヘバ勢力、欺騙、又ハ法則ニ合ハザル者、成リ難キ者、相手方ニ害アルコトヲ見出シタル時ノ如キハ皆商議スルニ及バザルコトナリ、

(第三誓約) 約束契約ヲ堅固ニセントスルトキハ誓約トナル、誓約ハ一般ニ神ニ誓フノ意ヲ含ムヲ常トス、プツヘンドルフハ曰ク、誓約ハ教法ノ誓言ニシテ、若シ信実ヲ言ハザル時ハ、天ノ恩恵ヲ失ヒ、其罪責ヲ受クベシトイフコトヲ誓フ者ナリ、

○誓約ニハ過去ノ者アリ、未来ノ者アリ、過去ノ者ヲ確言トリアツトト名ケ、未来ノ者ヲ約言プロミストイフ、然レトモ或人ハ、誓約ハ尽ク未来ニ属スト云ヘリ、過去ノ誓約ハ、信実ノ証拠ヲ以テ約束シタルトイフコトヲ堅ムル者ニシテ、未来ノ誓約ハ、其義務ヲ果タサントイフ約束ヲ堅メタル者ナリ、

○誓約ハ新ナル義務ヲ生ズルコトナシ、只従前己ニ為シタル義務ノ意味ニ生活力ヲ付スルニ過ギズ、約束ニ信実ヲ話スベキトイフコトハ、誓約ナシト雖トモ之ヲ踐行スベキコトハ誓約アルト異ナルコトナシ、余儕モシ事物ヲ遺忘スル動物ニ非ザルトキハ、誓約アルトキモ、無キ時ト同ク之ヲ守ラザルベカラズ、然レトモモシ吾等カ義務ノ意味、薄弱消滅セン

トスルトキハ、此誓約ノ吾同儕ノ目前ニ有スルト、是ニ由リ吾信実ノ証  
拠ノ現在スルト（此証據ハ信実正義ノ作者ナル上帝ノ威權ヲ顯ハス嚴格  
ナル取極メト相結合タルヲ以テ）ニ由リテ、直接ニ虚偽不正ヲ拒ギ、信  
実ヲ言ハントイフ意思ヲ強クスルコトヲ得ルナリ、故ニ誓約ヲ破ルノ人  
ハ單純ナル約束ヲ破ル人ヨリハ其罪重シトス、巴黎ハ、偽誓○ベルシヨリイヲ以テ  
虚偽○フハルスヨリ罪大ナリトシテ、左ノ景況ヲ擧タリ、

- 1 偽誓ハ虚偽アリ、更ニ熟考シタルヲ以テ其罪大ナリ、
- 2 偽誓ハ最上ノ信実ヲ破ル、

3 上帝ハ己ノ名ヲ以テ誓フベキコトイヌラエレ以色列人ニ命ジタリ（創世記  
六章十三節、十章三十節）而シテ上帝ハ自己ノ意見ノ堅固ニシテ破ルベ  
カラザルコトヲ現ハスガ為メニ、誓約ヲ以テ之ヲ堅固ニスルコトヲ喜ヘ  
リ、然レトモ此誓約ハ上帝自身ニ之ヲ為シタルコトヲ示サズ、又為スコ  
トヲ望ムコトヲモ示サズ、否、聖書ニ於テハ之ヲ禁スルノ文章アリ、此  
文章ハ馬太マタイノ書ノ五章二十三節ヨリ三十八節ニ出ツ、

○然レトモ此文章ノ意味ハ、無益ノ誓又ハ褻瀆ノ誓ニ對シテ言ヘル者ニ  
シテ、嚴格ニシテ法律ニ協ヘル誓約ニ對シテ言ヒタル者ニ非ズ、次ノ文  
ヲ見テ知ルベシ、

(1) 爰ニ特別ニ記セル誓約ノ法ハ、猶太人ノ間ニハ一般ニ行ハレ  
タル方法ナリ、

(2) 猶太人ノ行ヘル法律上ノ誓約ノ法ハ、上帝ノ名ヲ以テ誓フコ

トナリ、然レトモ爰ニハ其方法ヲ記セザルヲ以テ、法律上ノ誓約ノコト  
ハ、之ヲ考慮シタルニテモナク、又之ヲ罪シタルニモアラズ、

○此文章（新約書中ノ）意義ヲ堅固センニハ更ニ左ノ件ニ注目セサルベ  
カラズ、

a、吾救世主ガ誓約シタルトキニ答タルコト、及ヒ其為シタルコト  
ハ正格ナル誓約ノ法ナルコト、

b、使徒ノ言ニ依ルニ、其種々ノ要用ニ從ヒテ、誓約ノ法ニモ種々ア  
ルコト、

c、本来ノ基督教ハ、皇帝ヲ以テ偶像信者ト為シ、其性質ニ依リテ  
誓約スルコトヲ嫌フ、然レトモ亦サアツテスタシヨネ ウエリタチ  
スノ証拠ヲ與ヘタリ、

○然レトモ法律上ノ誓約ハ法ニ協ヒ且ツネセツサライ要用ナルガ上ニ更ニ必要ノ  
コトナカルヘカラズ、而シテ正格ト尊敬トヲ以テ之ヲ行ハサルベカラズ、  
エピクテトスハ曰ヘリ、若シ為スコトヲ得ベクンバ、誓約ハ全ク之ヲ破  
ルベシ、若シ能ハザレバ、能ク之ヲ遵行スベシ、シムプリシユース之  
ヲ釋シテ曰ク、吾等ハ大ナル必要ノ時ノ外ハ、全ク誓約ヲ破ルコトヲ  
得ベシ、メニユーノ法律ニ於テモ亦同一ノ意義ヲ示セリ、不注意ニシ  
テ數々誓約ヲ為スニ依リテ生シタル罪惡ノコトハ夫底遜ト巴黎トノ書  
ハチン  
ニ詳ナリ、

○後世ニ至リテハ、不要且ツ罪アルノ誓約モ之ヲ允許セラレタリ、クエ

「カー」及ヒ其他ノ宗徒ハ、誓約ノ法律ニ協ヘルトイフコトニ付キ、正シキ疑ヲ抱ケル者ナリ、是等ノ宗徒モ信実ナル言語ヲ更ニ堅固ニスルコトヲ可トシ、若シ其誓約ノ言虚偽ナルトキハ偽誓ノ罪ニ陥ルベシトセリ、

(第四) 神約<sup>○ボウ</sup>ハ神ニ對シテ為ス所ノ約束ナリ、故ニ此事ヲ考究スルハ、直チニ神ニ對スル義務ノ部ニ属スル者ナリ、吾等ハ我自身ノ如ク、吾同儕ノ為メニモ神約ヲ為スナリ、此場合ニ於テハ、神約ハ、

上帝ノ面前ニ於テスルガ如ク或ル目的ヲ追想スル所ノ約束亦ハ企望ヲ堅固ニスル為メ、亦ハ或ル行為ヲ完成センコトヲ堅固ニスル為メニ嚴格ニ之ヲ行ヒ、若シ之ヲ怠慢スルトキハ、上帝ノ譴罰ヲ受クベキノ意ヲ以テ之ヲ為スナリ、故ニ一たび神約ヲ為シタルトキハ、念々注意ヲ怠ルベカラザルナリ、モシ之ヲ怠慢ニスルトキハ、神約ニ付キテノ義務ヲ輕侮スルノミナラズ、其時ニ呼ビ掛タル上帝ノ名ヲモ輕蔑スルコトトナルナリ、

### 第三解 行為ニ関セル公義<sup>ジャステス</sup>

○行為ニ干セル公義ハ(第一ニ)他人ニ對スルニ、總テ法律ト社會ノ習慣トニ適合シタル者ヲ以テスルコト、(第二ニ)法律及ヒ社會ノ習慣ノ禁ゼザル場合ニ於テ、公正且ツ適當ニ見ユル者ヲ為スコト是ナリ、是ヲ為スニハ第一ハ正義<sup>リチイ</sup>第二ハ公平<sup>エウイ</sup>ニ由リテ成ルナリ、

其一 嚴正<sup>ストリクト</sup>即チ法律上ノ正義ハ道德中ニ於テ等級ノ低キ者ナリ、然レトモ法律ニ服従スルトイフコトハ、専ラ恐怖ヨリ生スルニ非ズシテ、義務トイヘル良性ノ感覺ヨリ起リ、又法律ト社會ノ法制ヲ守ルコトハ社

會ノ平安幸福ヲ保ツニ必要ナリトイフコトヲ先見スルニ因リテ起ル者ナリ、古代ノ道德家ノ法律ニ服従スルトイフコトヲ以テ道德ノ中心トセリ、謂ヘラク若シ此服従ヲ欠クトキハ、社會ノ組立ハ解散シ、其義務ハ廢絶スル者ナレバナリ、希臘人ガテルモピレニ於テ國ノ為ニ戦死セシ著名ノ事蹟モ、其墓ニ表スルニ「彼等ハ法律ニ從ヒテ死セリ」ノ語ヲ以テスルヲ見テ知ルベシ、

○法律ト社會ノ習慣トニ適合セル正理ヲ以テ、之ヲ吾隣人ニ施行スルトキハ、正義<sup>リチイ</sup>即チ正直<sup>アウソフ</sup>ノ徳ヲ成ス、此徳ノ表現セル情状ハ、其干係セル事ノ多キホドニ其數甚多シ、又社會ノ仲間ト夫ヨリ起リタル正理ノ間ニ入ル所ノ務モ同ク其數甚多シ、

其二 法律ニ於テ禁ゼザル場合ニ於テ公正且適當ニ見ユル者ヲ為スコト、亞立士度徳ハ其道德書ノ第五卷ニ於テ、公平<sup>エウイ</sup>ノコトニ付テ論シ、公平ハ概括シテ論ズルトキハ公義ト同一ノ者ナリトイヘリ、又公平ヲ以テ法律ノ公義ヲ改正スル者ト名ケタリ、法律ノ公義ハ元來改正ヲ要スル者ナリ、其故ハ總テ法律ハ、概括ノ語ヲ以テ之ヲ述ベザルベカラザル者ナレバ特別ノ場合ノ如キハ、審官ノ考案ヲ要スル者トシテ之ヲ遺留スルコトナリ、亞氏ハ公平ヲ以テ鉛製ノ尺度ニ比セリ、此尺度ハレスピアン即チ田家ノ建築ヲ量ルニ用フベシ、其故ハ田家ノ建築ハ、其石ハ或ハ突出シ、或ハ陷入スルモ、鉛尺ハ夫ニ從ヒテ、能ク屈曲スルコトヲ得ベケレバナリ、(原書一九七頁十五行目で途切れ、ほぼ一頁をとんで、二九

八頁から再開している。」

一家ノ公義エゴノミカル  
シヤスチス

○家族即チ家内ノ權理ト義務トヲ包括ス、是ヲ分ケテ三ト為ス、

其一 夫婦ノ管係

其二 父子ノ管係

其三 主従ノ管係

第一篇 夫婦ハズバンド、エ  
ンド、ワイフ

第一 解 婚姻マリエージセクシヨ

○フハミリアトイフ語ハ羅馬人ノ用ヒタル者ニシテ、双親及ヒ従僕トヲ

併セテ一家ノ内ニ集合シタル人ノ義ナリ、家ノ首長ヲパテルフハミリア

スト名ク、其妻ヲマテルフハミリアスト名ク(休勿尔ノ道德書ニ出ヅ)

○ドクトル ペッチイハ婚姻ヲ以テハ一男一女ガ、相互ノ恭敬ニ基キ、

生涯嚴密ニ結合シテ、一家族ヲ為シ、以テ兒子ヲ生ミ、之ヲ教育シ、相

互ノ幸福ヲ高クスルノ思謀ヲ有スル者ナリト言ヘリ、

○婚姻ハ社會ノ父母ニシテ社會ノ小兒ニ非ズ、希臘人羅馬人共ニ法律ヲ

以テ婚姻ノ勢力ヲ助ケ、モシ婚姻ヲ怠ル者ハ之ヲ賤侮シ或ハ之ヲ罰スル

コトアリ、造物者即チ天命ノ全体ノ志謀ハ蓋シ、人ノ種類ヲ永続セシム

ルニアリ、微弱ナル人類ヲ防護シ養育スルニアリ、人類ハ相互ニ結合ス

ル所ノ情感ヲ愛養シ情淨ニスルニアリ、然レトモ婚姻ハ、天然、道理、

相當、管束ナル者ナルニ、又此結合ニ由リテ、許多ノ幸福アル結果ヲ生

センコトヲ望ムナリ、此事ニ付キテハ人々自身ニ之ヲ判断センコトヲ要

ス、又立法官ハ直接ニ婚姻ヲ勸奨シ、又ハ必要ナキニ之ヲ阻碍セザルヲ

以テ尤モ宜シトスベシ、然レトモ此感覺原理（人ノ天性ニ固有シ、其目

的ヲ成スニ慥ナル）ノ働ル依ル所ハ全ク吾等形体ノ構造ニ基ク者ナリ、

○然レトモモシ両性ノ者、同居生活スルコトニ同意スルトキハ、法律ハ

之ヲ以テ、社會ノ幸福道德ノ生活セル基礎トシテ、其勢力ヲ助ケ、其結

合ヲ防護スルヲ宜シトス、故ニ婚姻ヲ論スルコトハ法律ト道德トノ光輝

ノ中ニアルベクシテ、其問題ハ共ニ法理学ト道德学トニ歸スベキ者ナリ、

第一小分 婚姻ヲ為ス以前ノ情態ト景況

○身体ノ欠失、精神ノ軟弱、遺傳ノ疾病、甚シキ老年、是等ハ婚姻ヲ行

ハントスルニ大ナル妨碍トナルコトハ明白ナルコトナリ、

(一) 然レトモ法律ニ於テ之ヲ定ムルノ前ニ、凡ソ両性ノ者ハ、

熟考シテ且ツ自由ニ同意シ得ベキ者ナラザルベカラズトイフコトヲ知ラ

ザルベカラズ、此ノ如クシテ上文ニ記セル諸條ノ婚姻ハ皆不堅固ナル者

ナリ、法律ニ於テ婚姻ヲ定ムルノ年齢ニ依リテ各同一ナラズ、造物

者モ之ニ付キテ一般ノ規則ヲ定メザルガ如シ、其故ニ成熟ニ達スルノ年

ハ必シモ一定セザレバナリ、凡ソ男女ノ者ガ婚姻ノ上ノ状態ト職分トヲ

十分ニ理會シ成就スベシト假定セルノ以前ニ於テ為ス所ノ婚姻ハ其力ノ

薄弱ナル者ナリト云フコトハ公衆全体ノ意見ナルガ如シ、

(二) 其他諸国ノ法律ガ注目スル所ハ、婚姻ノ以前ニ両者ノ間ノ

管係如何ト云フコトナリ、羅馬律ニ於テ、婚姻ハ之ヲ分ツテ、親族婚姻  
インセス不釣合インデ有害ウスノ三者トス、共ニ法律ニ於テ禁スル所ナリ、親  
族ヲ分ツテ二トス、一ヲ血族婚姻コンサントイフ、同シ血統ヨリ出タル者ノ

婚姻ニシテ、例ヘハ兄弟ト姉妹トノ如シ、ニヲ姻族婚姻ニチイトイフ、婚  
姻ニ因リテ成レル者ニシテ、例ヘバ、岳父ト媳婦トノ如シ、不釣合即チ

不相応ハ、譬ヘバ西那多又ハ西那多ノ子ト家格ノ卑キ者、又ハ人ニ賤惡  
(元老院議員)

セラル、賤業ヲ継グ者、又ハ公然ノ刑罰ヲ受タル者ト婚スルガ如キ是ナ  
リ、有害ノ婚姻トハ猶太教徒ト基督教徒、後見人ト後見ヲ受タル者、地

方ノ公然ノ官吏ト其治下ニ在ル所ノ人民ト相婚姻スルガ如シ、  
○羅馬ニハ親族律レヒチカトイフ者アリテ、婚姻ヲ禁スル所ノ親族婚姻ノ

等級ト密ニ相一致ス、此律ハ英國ニテモ亦之ヲ用フ、博士夫底遜ハ謂フ、  
法律ニテ禁スル所ノ近親ノ婚姻ハ人々天然ニ之ヲ嫌惡スルノ気性アリ、

而シテ此事ハ古代ヨリ神意ノ禁ズル所ナリトシテ之ヲ記載シ、是ニ付キ  
諸国民ノ間ニ保存スル所ノ記憶ハ、多少區別アルコトナリ、此ノ如キ婚

姻ノ勢力ナク、又禁止スベキノ根元ニ付キテハ多少適當ノ論說アリ、  
(1) 社會ヲ結合スル所ノ結束ハ、若シ以前ニ干係ナキ人々ノ間ニ

婚姻ヲ行フトキハ、自然ニ其數ヲ増シ、又鞏固ニナルノ理アリ、  
(2) 若シ同一ノ親族ノ間ニ重縁ヲ結び、僅ナル家族ノ内ニ富ヲ限

制スルヨリハ、此法ニ由リテ社會ノ平均ニ廣衍スルノ益アルベシ、

(3) 最初ニ干係ナキ、父母ノ間ニ生レタル兒子ハ、干係アル父母

ノ間ニ生レタル兒子ヨリモ、身体心力共ニ健康ニシテ強剛ナルヲ常トス、  
(三) 婚姻ハ一男ヲ以テ一女ニ配スルヲ法トス、基督教ノ諸国ニ於

テハ、凡ソ夫婦ハ共ニ他ノ男女トノ結合ヲ為スベカラズ”トイヘルヲ  
前定ノ格言トシテ其法律ヲ立テタリ、而シテ多妻ホリガノ風ガ、天然ノ光輝

ニ反シ人類ノ幸福ト進歩トヲ破壊スル者ナルコトハ下ノ諸條ニ言フガ如  
シ、  
(イ) 世界ノ間ニ男子ト女子トノ數ノ大抵同様ナルハ、一男ガ一女

ヨリ多クニ配スベカラザルノ理ヲ示シタル者ナリ、  
(ロ) 婚姻ノ第一ノ目的ハ種族ノ連続ニ在リ、此目的ヲ違セントス

ルニハ一男必ス一女ニ配スルヲ以テ之ヲ得ベキナリ、  
(ハ) 一夫一婦ノ間ニ生レタル兒子ハ、殊ニ親切ナル養育ヲ受クベ

キ者ナリ、  
(三) 多娶ハ父母ノ愛情ヲ分裂セシメ、其安全ト幸福トヲ破壊スル

者ナリ、  
(ホ) 多娶ハ婦人ノ地位ヲ賤辱シ奴隸ノ状態ニ陥ル者ナリ、

○聖經ニ依リテ人類ノ起原ヲ案スルニ最初ハ上帝ハ唯一男ト一女トヲ造

リシ者ナリ、巴黎曰ク”若シ上帝人類ノ多娶ヲ欲セシナラバ、其人類ヲ

造ルニ方リ、先ヅ多妻ヲ以テ始メシナルベシ、事ニ亞當アダムニハ教妻ヲ與ヘ、  
以テ人類ノ繁殖ヲ急ニセシナルベシ”、大洪水ノ後ノ如キハ殊ニ地上ニ

人類ノ繁殖ヲ要スルノ時ナレドモ、<sup>ツツ</sup>椰亜ハ唯一妻ト共ニ其命ヲ保チ、其

三子モ各一妻ヲ有シタルニ過ギザリシナリ、

○多娶ノ習慣ハ蓋シ<sup>モーゼ</sup>摩西ノ法律ノ前ニ起リテ、摩西ノ時代ニモ猶行ハ  
レシ者ナルベシ、然レトモ摩西ノ法律ハ一モ多娶ヲ許シタル者ナク、況  
シテ之ヲ批准命令シタルコトハ毫モ之ナキナリ、創世記第二十一章第十  
五節ノ記セル文ノ反譯ニ依ルニ男子ハ同時ニ兩妻ヲ有スルコト能ハズト  
イヘトモ、連続シテ兩妻ヲ有スルコトハ之ヲ許ストアリ、又妻ハ同時ニ  
一人以上ノ夫ヲ有スルコトハ、摩西ノ法律ニ反スル所ナリ、最初ノ夫ヨ  
リ離縁ノ状ヲ得ザル間ニ第二ノ夫に婚スベカラザルナリ、均一ナル道理  
ニ依ルトキハ、男子ハ同時ニハ唯一妻ヲ有スベキ者ナリ、レビット十八  
章十八節ニ於テハ專ラ同時ノ多妻ヲ禁スルコトナリ、  
○新約書ニ於テ、多妻ノ事ヲ記セル者ナシ、蓋シ耶穌ノ時ヨリ以前ニ、  
猶太ニテハ、既ニ此習風ハ廢止セシ者ト知ラル、多妻ノコトハ、福音中  
ニ通貫セル<sup>〇</sup>清<sup>〇</sup>淨<sup>〇</sup>ト克己トノ精神ト互ニ相容レザル者ナレバナリ、

一妻ヨリ多クヲ娶ルコトハ、猶太ニ於テハ法律ニ合フノ事トスルカ、

此間ハ千八百〇六年七月廿九日、<sup>ナボレオン</sup>拿破波良ノ命令ニ由リテ<sup>パリ</sup>巴黎ニ開

キタル大サンヘドリム(猶太ノ長老ノ集會)ノ時、十二問題中ノ第

一問ナリ、此時ノ答ハ、猶太人一妻ヨリ多クヲ娶ハ法律ニ協フコト

ニ非ズトアリ、

第二小分 婚姻ノ取極メヲ准行シ賞美スルノ方法、國ニ依リ

テ各同ジカラザルヲ論ズ、

○婚姻ニ付キ、宗教ノ儀式ヲ用フルコトハ、蓋シ羅馬人ヲ以テ初メトス、  
羅馬ニハ婚姻ニ関シテ三種ノ礼式アリ、其中ノ最モ古キヲ「コンフハル  
リーシヨ」トイフ、<sup>ロムルス</sup>羅馬路ノ定ムル所ナリ、此儀式ハ、男女双方、十人  
ノ証人ノ前ニ於テ、妻ノ餅ト塩ト水トヲ食シ、其一方ノ者ハ他ノ一方ノ  
者ヲ以テ之ヲ神ニ奉獻スルナリ、或ル祭司、例ヘバ<sup>ジュピテル</sup>入必的ノ祭司ナル「フ  
ラメン、デアリス」ノ如キ、又ハ火神ノ燈明ヲ守ル処女ノ如キハ、此婚  
姻ヨリ生ジタル子女ノ中ヨリ之ヲ選ブナリ、

○此「コンフハルリシヨ」ノ婚禮ハ<sup>チペリユス</sup>底伯流王ノ時ニ至リテ殆ント廢絶セ  
リ、之ニ代リテ「コ、エムプシヨ」トイフ儀式起ル、此式ハ男女互ニ貨  
幣ノ片ヲ授受シ、以テ信実ヲ表スルノ徴トス、又「ウスカピオ」トイフ  
儀式アリ、此式ハ男女共ニ同居生活シテ渝ルコトナキヲ誓フノ式ニシテ、  
即チ婚姻ヲ堅固ニスル者ナリ、

○「ヘインシュース」ハ謂ヘラク、「コ、エムプシヨ」ノ儀式ハ、羅馬ノ  
ミナラズ、諸國多ク之ヲ行ヒ、殊ニ猶太ニ行ハレタリ(創世記第二十九  
章、十八節)、古代ノ<sup>アッシリア</sup>亜述里人ハ、女子ノ美麗ナル者ハ、尤モ多額ノ金ヲ  
出ス者ニ之ヲ與フルコトト定ム、此ノ如クシテ得タル金ハ、面貞ノ美ナ  
ラズシテ、人心ヲ誘スルニ足ラザル女子ニ贅装科トシテ之ヲ分與スルナ  
リ、<sup>ホメロシ</sup>和墨耳ノ詩ヲ見レバ人ノ夫タラントスル者ハ、其婦ヲ得ルニ價ヲ出  
サザルベカラザルコトハ、希臘人ノ風俗ナリシコトヲ知ルベシ、古代ノ

日耳曼、古代ノ法蘭西ノ風俗大抵相同シ、英国ノ古代ノ法律ヲ考フルニ、人ノ夫タラントスル者ハ、其婦ヲ得ルニハ、金銀ヲ出サズバカラス、蓋シ其婦ヲ買フノ義ナレバナリ、

○摩西ノ法律ニ從ヘバ、祭司即チ「レビテ」ガ婚姻ノ儀式ノ時ニ出席スルトイフハ必要ノコトニ非ズ、古代ノ基督ノ法ニ依レバ、婚姻ハ時ニ依リテ、教門ノ長老ノ出席ニ由リテ其式ヲ嚴正ニスルコトアリ、然レトモ「ビンガム」ガ言フガ如ク、必ス為サズバカラストイフニ非ズ、「テルチユリアン」ハ第二期世ノ人ナリ、其言ニ、当時ノ婚姻ハ最初ニ禮拜堂ニ於テ公然ト布告セザレバ、名譽ノ者ト為スコト能ハズト、又此世期ノ終リニ於テ、羅馬ノ第十五世ノ教長「ソテル」ハ規則ヲ立テ、言フ、最初ニ祭司ノ依リテ婚姻ノ式ヲ擧ケザル所ノ婦人ハ法律ニ協フ所ノ婦ニ非ストセリト、然レトモ此規則ハ一時ノ事ニシテ、又其行ハル、土地ニ限アリ、而シテ羅馬全国ハ總テ尽ク婚姻ノ約束ハ専ラ俗間ノ儀式ナリト考ヘタリ、然ルニ第十二世ノ時、「ペートル、ロムバルド」、上帝ニ七種ノ精霊アリトイヘル神秘ノ考案ヲ出シ、七種ノ礼式ノ定規ヲ發見セリ、即チ聖霊ニ七種ノ働アリトイヘルコトヲ証論シタル者ナリ、其一ハ洗礼バプテスマ其二ハ上帝ノ晚餐サツベル、オールド其三ハ保證コソフ、ハ其四ハ贖罪ベナ其五ハ品階オル其六ハ婚姻マトリ、モニ其七ハ最後ノ塗膏エキストリムナリ、羅馬ノ教門ニテハ、直チニ此教義を採用シタリ、是ニ由リ從前民政ノ管理内ニアリシ所ノ婚姻ヲ以テ教門ノ管理ノ内ニ移セリ、第十世ノ終ニ方リ、羅馬教門ノ教義ト礼式

トハアルピゼンヌ亞昆然士ノ為メニ強ク反抗サレタリ、其教義ニ從ヘバ、同意一致ヲ以テ成レル夫婦ハ、教師ノ祈祷ナシト雖ドモ、正シキ婚姻ト為スベシト説ケリ、第十四世ノ時、宗教改革ノ一党ナル「ローラド」ハ教義亦之ト同シ主義ヲ示セリ、然ルニ千五百四十五年ヨリ千五百六十三年ノ間ニ開キタル特連多トレントノ宗教會議ニ於テハ左ノ法ヲ告示シタリ、若シ婚姻ヲ以テ基督教ノ七礼式ノ一ナリトセズ、之ニ満足ヲ表セザル者ハ、宜シク之ヲ罪スベシ、若シ婚姻ニ於テ祈祷ノ礼ヲ廢シ他ノ礼式ヲ用フル者ハ宜ク之ヲ罪スベシト、

○宗教改革ニ由リ、英国ノ国教ハ、婚姻ヲ以テ教式トセル羅馬ノ教義ヲ用ヒズ、然レトモ教門ノ人ニ依リテ祝セラル、ヲ以テ、婚姻ノ定規トセリ、英国ノ高門空コモンウエルズ 共和国ノ時ニ至リ、婚姻ハ全ク民政上ノ官吏ニ依リテ之ヲ鄭重ニセラル、コトトナレリ、查尔斯第二ノ發セシ十二條ノ布告ニ、千六百四十二年五月一日ヨリ千六百六十年ニ至ルマデ、此法ヲ以テ結ビタル婚姻ハ皆堅固ナル者ト定メタリ、宗教恢復レストレノ時ニ及ビ、教門ノ僧徒再ヒ婚姻ノ事ニ關係シ、婚姻ハ總テ禮拜堂ノ壁内ニ於テ、正シキ言語ニ從ヒ、神聖ナル僧徒ニ由リテ之ヲ嚴正ニセザルベカラスト發言セリ、英国ノ国教中ニ異説ノ者ヂッセン大ニ其教ヲ増スニ及ヒ、大声ニ婚姻ノ法ヲ改革スベキコトヲ要求セリ、其後段々ノ法律ニ由リテ不平ノ歎ハ漸々ニ除去サレタリ、而シテ「ヂッセンテルス」ハ今ハ、英国ニ於テモ阿アイルランド國ニ於テモ、宗教ノ代リニ、自己ノ形姿ニ從ヒテ婚姻ヲ為スコトヲ得ルニ

至レリ、即チ教法ノ礼式ヲ要セザル所ノ登記ノ廳ノ法ニ從ヒテ婚姻為スコトヲ得タリ、

○蘇 国(スコットランド)ニ於テ、(トリント)特連多ノ會議ノ定款ハ勢力ヲ有セザルナリ、其故

ハ此定款ノ施行セラル、前ニ、宗教改革ノ説已ニ此国ニ入りタレバナリ、而シテ婚姻ノ法ハ英国ニ比スレバ、更ニ民法上ノ約束ニ頼ルコト多シ、然レトモ之ヲ成就セシムルハ、宗門ノ教徒ニ依ルヲ常トス、且ツ近代ニ至ルマデハ之ヲ礼拝堂ノ内ニ於テ行ヒタリ、若シ婚姻ヲ為スニ、其為メニ定メラレタル官吏ニ非ズシテ、其他ノ者ニ其儀式ヲ行ハシムルトキハ、嚴ニ罰金ヲ命ズ、然レトモ若シ其男女、証人ノ前ニ於テ、宜シク婚姻スベキ者ナルコトヲ証明スルトキハ、民法ニ依リテ其堅固ナル婚姻ナルコトヲ表明スルナリ、若シ其男女、官吏ノ前ニ出テ、不規則ノ婚姻ヲ為シタルコトヲ懺罪スルトキハ、(ヘリアメント)巴力門ノ法則ニ依リテ、其二人ニ罰金ヲ命ジ、而シテ其罰金ヲ命セシ記録ヲ拔萃シテ、婚姻セル男女ノ證據ニ留メ置クナリ、然レトモ是等ノ男女ハ尚彼等カ付属セル教門ノ僧徒ノ責罰教化ノ下ニ從フ者ナリ、

○蘇国ニ於テハ、婚姻ノ成立スルニ四個ノ法アリ、(其一ハ)公明ニシテ規則正シキ婚姻ハ、其結親ノ知告ノ後、ミニステルノ之ヲ祝スル者、(其二ハ)「デ、プレゼンチ」トイヘル語ニ依リテ、相互ニ熟慮シタル同意ヲ交換シタル後、妾ト為ナルノ<sup>コソキユ</sup>祈念ヲ用ヒザル者、(其三ハ)「コピユラ」ヲ以テ継グ所ノ婚姻ノ約定ニシテ、少シクモ會議院<sup>コウルト、オセツション</sup>ニテ之ヲ

表明シタル者、(其四ハ)夫婦トナリテ同居シ、世人ヨリモ允許賞賛ヲ受タル者、是ナリ、

○巴黎ハ曰ク、夫婦ノ約定ニ付キテ大ナル條件ノ一ハ、交換ヲ以テ、世界ノ流行トスルナリ、現今ハ婦ハ貨幣ヲ以テ其夫ニ贈ルコトナレドモ、古代ハ夫タル者全ク以テ其婦ノ家族ニ與ヘタリ“此社會ノ初メニ於テ、勞力ヲ以テ職業トスル一家ハ、其家主タル者ハ、其勞力ノ欠失ヲ償フコトナクシテ、家族ノ分立スルコトヲ嫌ヘリ、亦其婦ノ助ヲ得テ、其家ノ資産ヲ増スコトヲ望ム所ノ人ハ、此目的ヨリシテ、其既ニ得タル所ノ富ノ一分ヲ分ツコトヲ好メリ、然レトモ社會ノ進歩スルニ從ヒ、家族ヲ保存スルコトト費用ト相伴フニ至レリ、是ニ由リ、夫タル者ハ其婦ガ資裝金ヲ以テ來リ嫁スルコトヲ希待セリ、埃及人ハ古代ニ於テ開明セシ民ナリシガ、其女子ニ資裝金ヲ與ヘシ最初ノ民ナリシ、(フアラオ)法老ハ其女ノ所有物トシテ加撒<sup>ガザ</sup>ノ邑<sup>ソロモン</sup>ヲ瑣羅門ニ與ヘタリ、此事ハ国王ヨリ平民ニ至ルマデ皆然リ、而シテ公義ノ原理ニ依リテ、婦ノ持來レル資裝金ハ其婦ノ為メニ慥カニ遺物トナルナリ、是ヨリシテ成文法ニ記スル所ノ相互ノ權理ト要望トイフ者起ル、然レトモ猶婚姻ニ干シテ左ノ注目スベキコトアリ、

第三小分 委托サル、一ツノ義務

○此職分ハ、第一ハ夫婦トモニ通用スル所、第二ハ各個別ノ義務是ナリ、通用ノ職分ニ於テ、第一ハ親愛<sup>ラ</sup>ニシテ第二ハ信實<sup>リヂイナリ</sup>ナリ、此二者ハ双方ニ於テ宣言シ、且ツ約束スル所ナリ、各個ノ職分ニ付キテ、夫ノ務ム

ベキハ管理ツツミニシテ婦ノ務ムベキハ順從ツツミナリ、又夫ニ付キテ言フトキハ、家事ヲ保持スルガ為ニ相當ノ貯峙ヲ備フベキハ其職分ニシテ、婦ヨリ言フトキハ、一家ノ保持方法ハ、智慮ト節儉トヲ以テ之ヲ処置スベキコトハ其職分ナリ、(ホステル、フリートウード、デラニイ、諸家ノ説大抵相同ジ、)

#### 第四小分 婚姻ノ永続ト分離、

其一 婚姻ハ一時ノ者ナルカ、永続ノ者ナルカ、

○婚姻ノ目的ハ惟兒子ヲ生育スルノミナラズ、又世ニ生活スルノ義務ノ為メニ準備ヲ為ス者ナリ、希臘ニ於テ、一家ノ親ハ、之ヲ「パトリキイ」トイフ、同シ父母ヨリ生レタル仲間ノ義ナリ、亜立士度徳ハ此語ヲ廢シ、更ニ一家ノ親ヲ稱シテ「テクオポイチヤイ」ト云フ、兒子ヲ生育シ教育スルノ義ナリ、然レトモ此目的ニ答ヘントスルニハ、双親永ク同居スルトイフコトハ必要ニ非ザルカ、「モンシール、バルベイラツク」ハ駱克アルゲルノン(シドニユ)悉徳尼ノ語ヲ引キ、之ヲ稱賛セリ、其語ノ意ハ、婚姻ノ性質及ビ目的ハ、夫婦タル者其子ヲ養育シ、其子自身ニ其身ヲ保持スルノ方法ヲ備ヘタル後ニ、夫婦同居シテ其生ヲ終ルノ外、他道アルコトナシト、巴黎ノ言モ其婦スル所ハ亦之ト同シ、然レトモ此意見ハ缺失アリテ又誤謬ノ所アリ、

(甲) 其欠失アリトイフハ、此説ハ、婚姻ノ真ノ目的ハ只其小兒ヲ養育スルノミニ在ルガ如シ、凡ソ婚姻ヲ為シタル双方ノ者ノ幸福ト安全

トハ此結合ノ大目的ノ一ト言ハザルベカラズ、此目的ハ婚姻ヲ除キテ、他ニ之ヲ得ベキ者ナシ、婚姻ニ由リテ生スル所ノ双方ノ情感ハ常ニ永続シ増長スル者ニシテ、親愛ノ去ルマデハ減退スルコトナシ、親愛ハ双方ノ年齢ト病身トニ由リテ變化スルコトナク、惟死亡ニ由リテ分解スルノミナリ、

○(乙) 其誤謬アリトイフハ、父母ガ其兒子ニ對セル義務ハ、其兒子

ヲシテ世界ニ立テ生活ノ道路ヲ得シタルヲ以テ完成ストイフニアリ、孟(モンテスキユ)の斯答曰ク「吾等ハ食フノミヲ以テ足レリトスベカラズ、吾等ハ助言セサルベカラズ、教導セザルベカラズ、吾等ハ生計ヲ得ル為メニ堪アツルフ、然レトモ能ク自己ヲ管治スルニ堪ヘズ」、凡ソ一家ノ範圍トイフ者ハ、吾等ガ、服従、恭敬、感恩等ノ感覺ヲ習学スル所ノ学校ニシテ、其等ノ感覺ハ社會ノ生活ヲ安固ニシ又之ヲ文飾スル所以ノ者ナリ、然レトモ若シ早く一家ノ圈内ヲ脱出スルトキハ、此感覺ハ、其養成ト強堅トヲ失フコトアルベシ、一家ノ帳幕ハ、小兒カ之ニ隱蔽シ、少年ガ之ニ坐臥スル所ナリ、吾輩此帳幕ヲ出テ去ルトキハ、吾等ノ弱キカヲ以テ世界ノ撞擠ト詭謀トノ中ニ立タザルコトヲ得ズ、然レトモ吾等ノ良善ニシテ親切ナル天然ノ情感ハ為メニ大ニ災害ヲ被ブルナルベシ、吾儕ハ熟練シタル光輝ヲ分布スル所ノ、熟成シテ且ツ清淨ナル親愛ヲ、婚姻後ノ晩年ニ於テ之ヲ有セリ、然レトモ其初メニ於テハ、未ダ此ノ如キ実例ト經驗トヲ有セザルナリ、吾等ハ是等ノ事ヲ吾兒子ニ遺言スルコト能ハザルナリ、然

レトモ駝鳥ガ其子ヲ砂中ニ委置シ、其後ハ更ニ何事ヲモ知ラサルガ如ク、人類モ亦其父母ノ家ノ蔭蔽セル巢中ニ於テ、養ハレタル柔軟ナル情感ヲ奪ヒ去ラレテ、裸体ニシテ且ツ硬固ナル雛トナリテ成長セサルベカラズ、而シテ又實際社會ノ全部ニ通ジテ、和樂ナル温氣ヲ開廣セザルベカラズ、社會ハ、白髮ヲ尊崇スルコトヲ學ビタル人々ヨリ成ルニ非ズ、又其兒子ヨリ老人ニ適當シタル尊敬ヲ受クルコトヲ待ツ人々ヨリ成ルニ非ズ、過早ニ天然ノ學校ノ結束を脱セシメントセル、大声短氣ノ騷擾者ヨリ成ルトイフコトヲ知ルベシ、社會ノ運動ハ、善良ナル順序ト親切ナル感覺ノ上ニ進行スル者ニ非ズシテ、背叛ニシテ且ツ自分勝手ノ自立ヲ以テ其形ヲ成ス者ナリ、

其二 婚姻ヲ一時休止スルニ付キテ道理アル者ナルカ、

○使徒保羅パウロハ(コリント)哥林多一、七章十節) 分離ニ管シテ都合ヨク又避クベカラザルノ場合アルコトヲ説ケリ、婦ハ其夫ト離ル、事能ハザル者ナリ、然レトモ若シ之ト離ル、トキハ他人ト婚姻スベカラズ、又其夫ト仲直リセザルベカラズ、而シ夫ハ其婦ヲ離別スベカラズ、此ノ如キ分離ハ止ムコトヲ得ザル時ニ非ザレバ之ヲ許スベカラズ、若シ一時ノ事ナラバ仲直リヲ為サザルベカラズ、夫故ニ此時ハ夫婦共ニ他に婚姻スベカラズ、又此ノ如キ分離ハ惟双方ノ意思又ハ好ミノミヲ以テ為スベカラズ、必ス主權又ハ法律ニ依リテ之ヲ為サザルベカラズ、婚姻ハ公然ノ行為ニシテ、一個人ノ權理利益ヲ包括スルノミナラズ、又社会全体ノ權理利益ニ関ス

ル者ナリ、故ニ適當ナル原因ナキトキハ、一時ト雖トモ之ヲ休止スベキ者ニ非ザルナリ、

其三 婚姻ノ結合ハ全ク消亡スベキ者ナルカ、若シ然ラバ何ノ原因ニ由リテ消亡スベキカ、

○世界中、世ノ新古ニ関セズ、国ノ遠近ニ関セズ、姦通アダテルイハ、婚姻ノ結合ヲ消亡セシムベキ十分ノ原因ト考ヘタリ、然レトモ羅馬ノ教門ニ於テハ、婚姻ハ神恩ヲ以テ伴ヒタル必至ノ神式ナリ、故ニ決シテ消亡スルコト有ルベカラズト、寺院ノ法律ニ依リテ精密ニ言フトキハ、離縁ヂホハ婚姻ノ消亡ニ非ズ、唯或ル場合ニ於テ、一時ノ妨碍ノ続キヨリシテ、此結合ノ都合ヨク繋着セザルトイフコトヲ知告スルニ過キサノミ、婚姻ナル者若シ正シキ法律ニ協ヒタル者ナラバ、姦通ノ如キモ亦之ヲ消亡スルコト能ハザルベシ、此ノ如キ時ニ教門ニテ為ス所ハ、唯其離居シヨクヲ許スノミ、然レトモ再嫁セントスルニハ、特別ニ教王ノ允許ヲ得サルベカラズ、

○此婚姻ニ付キテノ意見ハ、路惕教ルタシ、及ヒ最初ノ改革教レホニテハ、大ニ之ヲ異論ヲ唱ヘ、婚姻ノ結合ハ決シテ消亡セザルベカラザル者ニ非ズ、即チ姦通ハ十分ニ消亡ノ原因トナルベキ者ナリト論ゼリ、

○「プツヘンドルフ」ハ姦通ノ外天然ノ光輝ニ従フニ、夫婦ノ一方ニ於テ、悪心アリテ之ヲ捨去ルコトモ、亦十分ナル消亡ノ原因トスルニ足ルベシト言ヘリ、「フツチソン」ハ此事ハ使徒保羅モ亦之ヲ保證ストイヘリ、

(第一哥林多、七章、十五節ヨリ十八節ニ至ル)、男女ノ一方ニ於テ、頑固ニ且永続シテ退去スルコトモ、婚姻ノ目的ニ全ク反対スルコトナレバ、法律ハ婚姻ノ約束ヲ成就セシメンカ為メニ之ニ挿贅スベク、又何故ニ之ヲ成就スルコトヲ得ザルカノ原因ニ付キテ挿口スルコトヲ得ベシ、蘇国ニ於テハ、若四年間頑固ニ退去スルトキハ、離縁ノ根元ト定ムルコトヲ得ベシトセリ、

○巴黎ハ謂フ、若シ生命ノ上ニ危険ヲ行ヒ、無情ナル暴悪ヲ為シ、治スヘカラザル発狂ニ逢ヒ、或ハ陽痿ノ病ニ逢フトキハ、天然ノ法則ニ於テ婚姻ノ約束ヲ解散スルコトヲ得ベシト、此ノ如キ、又ハ是ト同一ナル場合ニ於テ、羅馬ノ耶穌信者ナル諸王「テオドシウス」「ワーレンチニアン」ハ、危難ナレトモ、離縁ノ治療ヲ允許セリ、然レトモ左ノ疑問ニ對シテハ、大ナル意見ノ差異アリ、問、天質<sup>テムベル</sup>ノ相協ハザルコト、及ヒ是ヨリ起リタル忿怒ハ離縁ノ十分ナル根元トナルベキ者ナルヤ否、

○米<sup>(ミルトン)</sup>尔敦ハ是ヲ以テ離縁ノ原因トスベシト定論セリ、此人ハ自己ニ苦痛ナル經驗アリシヨリ、益々其意ヲ尖鋭シ、若シ之ヲ許サザルトキハ双方ノ幸福安全トイヘル婚姻ノ大目的ヲ破ルノミナラズ、更ニ禍害ヲ生ズルニ至ルベシ、故ニ離縁ノ自由ヲ許スコトハ、夫婦ノ不和ノ極端ニ至ルコトヲ防ギ、是ニ由リテ其怨恨ニ終リヲ告クルコトヲ得シムベキ者ナリト言ヘリ、然レトモ又之ニ反抗スル左ノ諸説アリ、

(一) 若シ性質ノ相協ハザルコトヲ以テ離縁ノ十分ノ基礎トスルト

キハ、相互ノ和熟又ハ順從ヲ求ムルノ方法ハ全ク断絶スルナルベシ、

○蘇国ノ立法院ニ於テハ、宗教改革ノ少シ後ニ於テ、姦通ニ由リテ離縁ヲ許ストイフコトヲ以テ国ノ習慣法ノ一分ナリト定メタリ、此時ヨリ離縁ハ男女ノ一方ヨリノ請願ニ由リテ之ヲ許スコトトナシ、其後(一五七三)蘇国ノ巴力門<sup>(スーリメント)</sup>ノ法令ニ於テ、悪意ヲ以テ久シテ捨去リタルトキハ、双方共ニ公然其離縁ヲ許スコトト定メタリ、「エルキンス」ハ此離縁ノ基礎ハ聖保羅モ亦之ヲ稱譽シタリトイヘリ(哥林多一、七章、十五節)、

(二) 意見ト利益トノ分離、是ヨリ起ルナルベシ、

(三) 人類情感ノ天然ノ反対、是ヨリ其力ヲ増スナルベシ、

○便宜ノ意見ニ依リ、又聖書ノ威權ノ獨立ニ依ルモ、離縁ヲ允許ストノ基礎ハ、唯男女ノ一方ニ於テ姦通ヲ為セル時ニ限レル者ノ如シ、

○教長「バルネット」ハ謂フ、離縁ハ伯萬尼<sup>ベルン</sup>ノ州ニ於テモ自由ニ之ヲ許セリ、然レトモ、其離縁ヲ許スノ前ニ於テ、先ツ其夫婦ノ者ヲ六週間、狭キ室ニ同居セシメ、椅一脚、皿一枚、匙一枝、床一座、其他皆此法ヲ以テ家具ヲ給シ、唯夫婦ノ職分ヲ記シタル小冊子ハ夫婦共ニ各其寫シヲ與ヘ置クナリ、此規定ヲ行ヒ居ル中、相互ニ和熟センコトヲ望ムノ状ヲ発見スルトキハ、直チニ秀美ナル言語ヲ以テ、其分離ノ念ヲ止息セシメ、再ヒ此ノ如キ意ヲ発スルコト無カラシムルナリ、

## 第二篇

親ト子<sup>パイレツ、エン  
ド、チルデレン</sup>

○「パレント」トイヘル語ハ、父母双方ニ同様ニ之ヲ用ヒ、「チャイルド」トイヘル語ハ、男子ト女子トニ通用スルナリ、時ノ今古、地ノ東西ヲ論ゼズ、親ト子トノ間ノ干係ハ、尊上リシユベト卑下リイラフエト定マリ、一ハ威權リチイナリ、即チ命令スベキ權理ヲ有シ、一ハ服屬リシユベ即チ順從スベキ義務ヲ有スルナリ、両親ノ勢力ハ、古代ヨリ諸國ノ民皆殊ニ神聖ナル者ト定メタリ、故ニ左ノ諸件ヲ考究スルハ極メテ適當ノコトナルベシ、

### 第一解 父母ノ威權ノ根原

○父母カ服屬ノ意味ヲ以テ、其兒子ノ造作者ナリトイフコトハ、彼グロチユス哥羅周其他ノ人力ヲ爲セシ如ク、其事實ヲ發見シ難シト雖ドモ、人類タル者ノ天性ト状態トニ依リテ、自然ニ父母ノ威權起リシトイフコトハ、疑ナキノコトナリ、此事ハ其父母カ其兒子ニ對シテ有セル天然ノ情感ニ基ク者ニシテ、一ハ其父母ガ其兒子ヲ生マントスルノ前、年齢モ長シ、經驗モ増スニ由リ、一ハ其兒子ガ生レテ助ヲ要シ、又無知ナルニ因リ、一ハ其兒子ヲ保持シ、指導シ、教育スルヲ以テ、其兒子ヨリ自然ノ感恩ト愛情トヲ發スルニ因リテ起ル者ナリ、故ニ一家ハ即チ世界ノ育嬰室ニシテ、家内ニテ習練シタル所ノ威權ト服屬トハ、他年公然ノ法律ヲ守リ、社會ノ秩序ヲ守ル為メノ準備トナルナリ、而シテ社會ノ幸福ト進歩トハ、兒子カ社會ノ仲間トナルノ瞬間ヨリ商量サル、者ナリ、彼等ハ情感ノ萃リタル組織ノ中ニ生シ、健全ヲ保タンガ為メ制抑ヲ受クルノ地ニ成長シ、父母ノ親切ナル訓誨ニ從フコトニ由リテ、彼ガ後年其中ニ獨立ノ生活ヲ

為ス所ノ社會ノ法律ト規則トニ從フコトヲ學ブナリ、故ニ何レノ國ノ歴史ニ於テモ、公然ナル安全ノ擁護ハ、父母ノ威權ノ智慮アリテ幸福ナル働ニ出ル者ナリ、彼國民ノ位格ヲ卑汚ニシ、公然ノ乱階ト為シ又ハ破壊ノ前導タル者ニ常ニ必ス一家ノ幸福ト管理トヲ忘失シ侮蔑スル者ナリ、此ノ如キ公然ノ平安ト私家ノ平安トノ連結即チ一家ノ安慰ト、國家ノ安全トノ間ノ結合ハ、父母ノ威權ノ適當ナル操作ニ更ニ許多ノ利益ト要用トヲ與フ者ナリ、故ニ左ノ權ヲ考究スルハ亦必要ノコトナリ、

### 第二解 父母ノ威權ノ性質及ヒ分量

○父母ノ威權ハ其兒子ノ達シタル年齢ニ依リテ其働キト廣サトヲ異ニスベキ者ナリ、哥羅周ハ之ヲ三時期ニ分テリ、

(一) 第一時期ハ兒子ノ嬰幼ノ時ニアリ、此世期ニ於テハ、父母ノ威權、子ノ服從、共ニ十分ナル者トス、

○羅馬ノ古代ノ法律ナル父母權勢立パトリアポステタス、パテルフハミリス、父母所有律ニ依レハ、父母ハ其小兒ト奴隸トノ所有主「トル」ナレバ、此二者ヲ生殺スルノ權理ヲ有セリ、父母ハ又兒子ト奴隸トヲ賣却シ、之ヲ放逐シ、又家法ノ判断ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得、重罪ノ如キモ亦私ニ之ヲ行フコトヲ得ベシ、十二案ノ律ニハ父母ハ純全ナル一家ノ財産ノ所有者ナレバ、兒子ノ得タル所ノ財産モ、父母ノ財産トスルコトヲ得ベシト命ジタリ、此十分ナル威權ハ共和政治ノ時ニ於テ少シク更改セリ、然レトモ帝政ノ時ニ至リ、父母ノ威權、人身ト兒子ノ財産ニ關セル者ト共ニ、漸々ニ限制ヲ受ケタリ、天然ノ光

輝ヲ受ケテ、父母ノ權勢ハ、最早諸国ニ行ハレシ如ク、廣大ニシテ絶對ノ力ヲ有セザルコトナレリ、即ち父母ハ其兒子ヲ疵傷シ、賣却シ、奴隷トシ、殊ニ之ヲ殺スコトニ得ル權理ナキ者ト定マレリ、然レトモ兒子ノ財産ニ付キテハ、猶十分ニ之ヲ商議シ、之ヲ運用スルノ勢力ヲ有セリ、此第一時期ノ間ハ、小兒ハ、自身ノ為メニ良善ナリト思フコトモ自ラ判斷スルノ力ナク、父母ノ同意ナキ事ハ、之ヲ為サント欲スル事モ之ヲ廢止セザルコト能ハズ、其判斷ノ未タ熟セザル、意思ノ未タ完全ナラザルヲ以テ、此ノ如クシテ為シタル行為ハ、道德上、法律上、共ニ堅固ノ者ト認ムルコト能ハズ、

(二) 判斷已ニ熟シ、意思已ニ完全トナリ、一個獨立ノ返答能ク為シ得ルノ年齢ニ達スルトキハ、自然ノ光輝ヲ以テ、固定セル管理ヲ免カル、コトヲ得ベシ、

○心ノ力ハ、体ノ力ト同ジク、種々ノ時代、種々ノ国土ニ於テ、種々ニ開發スル者ナリ、一國ノ内ニ於テモ、其一個人毎ニ其開發ヲ同フセザル者アリ、然レトモ諸国ノ法律ハ、大抵其國民ガ自己ニ判斷シ行為スル堪フルホドニ心得ノ堅固ナルヲ察シテ、為メニ一定ノ時期ヲ定ムルヲ常トス、此時期ヨリシテ、父母ノ威權ハ前時ノ如ク絶對ナラズ、「ルーテルフォルス」曰ク、  
「兒子ガ自考思シ自判斷スルニ堪フルノ後、モハヤ父母ノ職分ハ、兒子ニ向ヒテ思考シ判斷スルコトヲ要セズ、兒子ノ意思ハモハヤ父母ノ意思ノ十分ナル管理ノ下ニ立ツコトヲ要セザルナリ」、

○此第二時期ノ間兒子ハ、絶對ニシテ不道理ナル威權ニ服従スルコトハナシト離トモ猶感恩ト尊崇トノ感覺ヲ以テ其父母ヲ敬セザルベカラズ、父母ノ命令ト訓誨トニ對シテ注意ト恭敬トヲ致サバルベカラズ、其他第二時期ノ間、父母ハ猶一家ノ主長トシテ、分レタル威權ヲ有シ、分レタル服従ヲ要望スルナリ、若シ兒子其父母ノ家ヲ出テ、他ノ家族ノ間ニ養ヒ取ラル、トキハ、其養ハレタル家ノ主長ノ定メタル規則ヲ恭敬遵守セザルベカラズ、而シテ又其生家ノ主長タル父母ニ對シテ恭敬ト服従トヲ棄ツベカラズ、猶感恩ト尊敬トヲ務メザルベカラズ、然レトモ此ノ如キ重複ノ威權ニ服従スルトキニ於テ、其威權ハ果シテ道理ノ命令ト正義ノ願望ト一致スルヤヲ判斷セザルベカラズ、而シテ之ニ由リテ吾身ヲ管理セサルベカラズ、若シ此威權ニ服従スルニ由リテ、徳義ノ利益ト良心ノ權理トヲ破ラル、コトアルトキハ、兒子タル者ハ服従ノ義務ナキノミナラズ、自由ニ服従セザルモ可ナリ、

### 第三解 父母カ其兒子ニ對セル職分

○是ハ大概兒子カ父母ノ家ニ在ル間ニ於テ之ヲ行フ者ナリ、即ち父母タル者ハ

(一) 其兒子ニ適當ノ移植ノ供給ヲ與フルコト、

○此事ハ父母ノ天然ノ情感ノ提撕ニ由リテ之ヲ為スコトヲ得、即ち道理ト良心トノ声掛リニ由リテ引立ラレテ之ヲ為スナリ、文明国ニ於テハ、此事ニ関シ、或ル度マデハ法律ヲ以テ之ヲ命セリ、天然ノ光輝ニ由リテ、

兒子ハ、其父母ノ身分ト景況トヨリ利益ト分配トヲ有スルナリ、若シ其父母ノ身分ト景況ト高崇ニシテ榮譽アルトキハ、其兒子モ自ラ之ニ一致セル風習ヲ得ルナリ、又之ニ反シテ、父母ノ身分ト景況ト、賤辱ニシテ貧乏ナルトキハ、其兒子モ自賤辱ト貧乏トノ生活ヲ始ムルナリ、然レトモ是等ノ身分ノ者トイヘトモ、困苦勉強ヲ以テ仕上タルトキハ、其生時ハ貧乏ニシテ賤辱ナリト雖ドモ、能ク其身分ヲ高等ノ地位ニ上グルコトヲ得ベシ、

○此條ニ関シテ左ノ疑問起ル、

(伊) 男子ト女子トハ其家ノ財産ノ配合ヲ平均ニ受クルトキヲ得ベキカ、天然ノ光輝ニ依レバ、此差異ノ根元ヲ発見スルコトハ其難事ナリ、男子ハ其己カ受タル部分ヲ以テ利益アル様ニ之ヲ用フルコトノ材能アリ、之ニ反シテ女子ハ己ノ身分ヲ善クスルノ機會ヲ有セザル者ナレバ、多くハ財産ノ為メニ奮力スルコト能ハザルナリ、

(己) 学士格羅羅伯言ヘリ、グロロブ「長子ニ選擇ノ權ヲ與フルヲ見ルトキハ、習行上ニ付キ、道理ヲ発見スルヨリハ、通常ノ仕方ヲ発見スルコト却テ容易ナリ」、若シ法律ニ由リテ特別ノ位階名譽ヲ長子ニ讓與スルコトト定マリ居ルトキハ、長子ノ為メニ殊ニ大ナル幸福ヲ得ル為メニ必要ナル処ノ大ナル財産ヲ讓與スルハ適當ノコトナリ、若シ然ラザレバ長子ハ其費用最モ多キヲ以テ、眞実ハ他ノ諸子ヨリ却テ少キ讓與ヲ受タルト恰モ相同シ、若シ此ノ如キコトナキトキハ(法律ニテ位階ヲ讓ルコトヲイフ)

長子權ト言フ者ハ、唯其年齡、經驗、判断ノ他ノ諸子ニ勝レタルカ為メニ、他ノ諸子ノ尊敬ヲ受クルニ必要ナリトイフノ外、適當ナル要望(クレイム)(需要)ハナキコトナリ、

○創世記(甲命記の誤り)(廿一章、十五ヨリ十七節)ニ、習慣ニ由リテ長子ニ特別ノ權理アルコトヲ假定セリ、而シテ此事ハ唯偏愛ヨリ出タルノミトイフコトノ非難ハ之ヲ受ケザルナリ、其事實ニ現ハレタルハ歴代紀畧第一、五章一節ニ於テ、路便ルイベンヨリ約瑟ヨセフニ讓與シタルコトアリ、而シテ其財産ハ天然ニ他ニ讓リ難キ者トハ認メザルナリ、達尔タルゴツト及ヒ其他哲学士ハ長子權ノ說ニ反抗シ、父母ノ財産ハ平均ニ諸子ニ分配スベシト論ゼリ、然レトモ他ノ学士ハ、諸子ノ天稟ノ差異、職業ノ差異、男女ノ別、健康、強壯、才智ノ等級、及ヒ其他ノ事情ハ其父ヲシテ、完全ナル平均ト、不偏ナル情感トヲ以テ、諸子ノ間ニ同一ナラザル配當ヲ為サシムルニ、綽々タル餘地ヲ與フル者ナリ」ト言ヘリ(「グローブ」ノ道德論)

○父母ハ更ニ左ノ事ヲ為サバカラズ、

(二) 其兒子ニ善良ナル教育ヲ為スコト、此事ハ  
(甲) 体形ノ教育、即チ体格ヲ發達シ強健ニスル所ノ適當ノ方法ニシテ、身体ニ善キ食物、健康ニナルベキ操作、及ヒ休息ト勞動、起ト寝トノ適當ナル交替是ナリ、

(乙) 知性ノ教育 心ハ元來知識ナキ者ナリ、然レトモ知識ヲ得ルニ堪フルノ性ヲ有セリ、父母ハ其兒子ノ成長セントスルヲ注意スルニ、

良善ノ機會ヲ有スル者ナレバ、其兒子カ幸福ヲ得、又必要ナル心智ノ開  
廣ニ適當ナル所ノ事物ヲ習學セシムルハ、亦父母ノ職分ナリ、

(丙) 徳性ノ教育、正ト邪トノ區別ハ、人タル者初年ノ時ニ於テ  
己ニ自ラ能クスル所ナリ、父母タル者ハ注意シテ、其兒子カ得タル天然  
ノ區別ニ從ヒテ其行為ヲ正クスルノ必要ヲ感得セシメサルベカラズ、凡  
ソ此區別ノ知覺ヲ或ハ暗クシ或ハ弱クスル所ノ習慣事業ハ務メテ之ヲ遠  
ザケサルベカラズ、遊戲タリモ、殘忍ノ所行、他物ニ苦痛ヲ被ラスル如  
キ事ハ、之ヲ廢止セシメザルベカラズ、神聖ヲ玩弄スルガ如キコトハ、  
遊戲トイヘトモ必ス之ヲ禁制セザルベカラズ、凡ソ傲慢、又ハ他人ノ財  
産名譽ヲ損傷スルコトハ、之ヲ禁スベク、又親切ナル感覺、及ヒ善事ヲ  
交換スルコトノ如キハ、務メテ之ヲ行ハシムベシ、凡ソ命令ハ実例ニ如  
カザルヲ以テ、父母タル者ハ其行為ニ於テ、甚タ正当ナル事ノ外ハ兒子  
ニ示サズランコトヲ要スベシ、又父母ハ小兒ノ心中ニ繫着セル愚昧ナル  
言行ヲ宥恕セザランコトヲ欲ス、若シ此ノ如キ言行ヲ發シタルトキハ、  
之ヲ押付クルコトヲ務ムベカラズ、必ス規戒ト修正トヲ以テ之ヲ止メン  
コトヲ求ムベシ、此事ハ父母ノ弱クシテ愚ナル柔情ニ由リテ之ヲ為スヲ  
怠ルコトアリ、然レトモ其怠リヲ以テ无罪トスルコト能ハズ、  
責トハ智慧ヲ與フル者ナリ、然ラザレバ小兒ハ其身ヲ以テ、母ニ恥ヲ貽  
ルナリ”、(箴言二十九章十五節)

(丁) 宗教ノ教育、父母ハ兒子ノ安全ニ對シテ天然ノ守護者ナ

リ、今世生活セル世ニ於ケルノミナラズ、未來ノ關係ニ於テモ亦然リ、  
父母ハ兒子ニ此尊敬畏懼感恩親愛ノ感覺ヲ提起セシムル為ニ好機會ヲ有  
セリ、此感覺ハ兒子ヨリシテ廣大ニシテ仁愛アル上帝ニ對シテ發スル所  
ナリ、父母ハ家内ノ師僧ナリ、上帝ヲ知り、之ニ奉仕スルコトヲ教フル  
ニ役目ヲ命セラレタル者ナリ、其故ハ父母ハ其兒子ニ宗教ノ廣大ニシテ  
必要ナルコトヲ教へ、又其感化ノ下ニ生活スル者ナルコトヲ教へ、以テ  
上帝ノ養育ト勸戒トノ中ニ兒子ヲ成長セシムル者ナレバナリ、

(三) 父母タル者ガ兒子ニ對セル其他ノ職分ハ、其子ノ為メニ生  
活ノ職業ヲ定ムルコトナリ、

○或ル国ニ於テハ、此事ヲ法律即チ風俗ヲ以テ定ムル者アリ、其法ハ全  
國民ヲ幾種族<sup>デカス</sup>ニ分チ、其種族ニ從ヒテ職業ヲ定ムルナリ、其或ル種族  
ニ属スル者ハ他ノ種族ノ職業ヲ為スコトヲ得ズ、英國ニ於テハ、此種族  
ノ法ナシ、然レトモ職業ニ就クノ準備トシテ、長キ年期ノ修業トイフ者  
必要ノコトトナリ居レリ、此年期ノ修業ハ成タケ早ク仕上ゲンコトヲ望  
ム者ナリ、故ニ兒子ガ未タ自ラ其職業ヲ擇ブコト能ハザルノ先ニ於テ、  
父母タル者代リテ之ヲ擇ハザルベカラズ、然レトモ此事ニ關シ、一方ニ  
ハ左ノ疑問アリ、天然ノ光輝ニ從ヘバ、父母タル者ハ此ノ如キ事ヲ為シ  
得ベキ者ナルカトイフコト是ナリ、然レトモ此疑問ニ對シテハ決定ノ返  
答ヲ為スコト能ハザルナリ、一般ノ規則ニ依リテ言フトキハ、道理アル  
動物ハ、自己ニ尤モ適當セル職業ヲ擇フコトヲ允許サルベキ者ニシテ、

是ヲ為シテ、自ラ勝レタル幸福ト功能トヲ希待スベキノ道理アル者ナリ、人ハ総テ自身ニ好メル所ノ事ハ、殊ニ喜ンテ努力ヲ為ス者ナリ、若シ自己ニ好マザル事ヲ強テ為サシムルトキハ、功能ヲ得、幸福ヲ享クルコト付キテ、前者（自ラ好メル者）ニ比シテ其利運甚少ナシ、若シ父母ノ挿口ニ由リテ此ノ如キ場合ニ至ルトキハ、兒子ハ之ニ付キ其後悔スルノ道理アリ、又一方ヨリ言フトキハ、父母タル者ハ、其兒子ガ其生活ノ路ニ於テハ甚タ本人ニ不適當ナル職業ニ強ク傾クトキハ、父母ハ之ヲ規正告戒シ、又ハ強テ之ヲ抑制スルノ餘地ヲ有セリ、然レトモ兒子ガ明白ナル良心ヲ以テ此ノ如ク為ストキ及ヒ自己ノ恒久ノ安全ヲ犠牲ニスルコトナクシテ、此ノ如ク為ストキハ兒子ハ其父母ニ順ハザルベカラサルズト言フニ止マリテ、是ニ付キテ一般ノ規則ヲ定ムルハ能ハザル所ナリ、又父母ハ其兒子ガ無勘弁ニ自己ノ威權ヲ張ルコトヲ怒ルベカラズト言フコトニ止マルナリ、

（四） 此他更ニ父母カ兒子ニ對シテ行フベキ職分ハ兒子ノ婚姻ニ関シテ其威權ヲ行フコトナリ、

○男女ガ年齢未タ熟セズ理會モ猶弱キ時ニ於テ婚姻ヲ為サントスルトキハ、此事ニ関シテ、父母ノ威權ニ順フベキハ正当ノ道理ナリ、諸国ノ法律ハ大抵此ノ如ク定メアル者ナリ、然レトモ兒子己ニ法律上ノ成年ニ達シ、夫婦ノ幸福、社會ノ幸福ヲ了解スルニ至ルトキハ、生涯共ニスベキ婚姻

ノ關係ヲ作ルコトニ於テハ、自然ノ光輝ニ於テ兒子ニ属スベキ所ノ情感及ヒ選擇ノ自由アルヲ以テ、父母カ抑制強逼ヲ以テ之ニ挿嘴セントスルニハ明白強力ナル道理アラサルベカラザルナリ、是ニ付キテ父母カ異見ト助言トヲ為スコトノ餘地ト道理トハアルコトナリ、然レトモ此場合ニ於テ、父母カ數々為セルガ如キ猛惡ナル壓制ヲ行フコトニ付キテハ、決シテ堅固ナル根礎ハアラザルナリ、然レトモ此ノ如キ場合ハ、一般ノ規則ヨリ言ヘハ、甚タ精密ニ甚タ異常ニ過ギタル者ニシテ、其ハ男女ガ善良ナル知覺ト親切ナル感覺トニ決斷ヲ任カセ置クベキコトナリ、

#### 第四解 兒子ガ其父母ニ對セル職分

○兒子カ其父母ニ對セル職分ハ、兒子ガ一家内ノ仲間トナリ居ル間ハ、其職分ハ順從<sup>オベデ</sup>トイヘル一語ニ歸スルナリ、而シテ此順從ノ性質ト分量トハ兒子ガ父母ノ家ニ在ル間父母カ兒子ニ對セル職業ト相結合シテ説クベキ者ナリ、然レトモ父母ト兒子トノ干係ニ於テハ第二ノ時期<sup>フオーリス、フアミリエーション</sup>アリ、夫ハ兒子己ニ長シテ自身一家ノ主人ト為リ、自己父母トナリテ更ニ幾多ノ家眷ヲ有スルノ時ナリ、此時期ニ於テ兒子タル者ノ職分ハ尊敬<sup>オウルトイヘル</sup>トイヘル一語ニ歸スルナリ、爾ノ父母ヲ尊敬スルトキハ、上帝之ニ因リ、爾ヲシテ永ク此国土ニ在ルコトヲ得シム<sup>（エベソ人への手紙）</sup>（達以弗所人書、六章、二三節）此言ハ使徒ガ、上帝ガ約束シタル命令ヲ述ベタル者ナリ、○父母ヲ尊敬スルノ職分ハ、其中ニ、愛<sup>オラ</sup>、恭敬<sup>レベレ</sup>、感恩<sup>グラーチチ</sup>、報応<sup>レコイ</sup>等ノ諸徳ヲ包括スルナリ、

(一) 兒子ハ其時期ノ如何ンヲ論セズ、常ニ其父母ニ対シテ親愛ト恭敬即チ情感ヲ有セル尊恭ヲ顯ハサバルベカラズ、

○「ウオラストン」曰ク「上帝ハ万物ノ原始ナルヲ以テ、比喩ノ義即チ世界ノ大ナル意味ヲ以テ之ヲ世界ノ父、又万物ノ父ト名ク、若シ吾儕上帝ヲ以テ父ト為シ之ニ事ヘントスルニハ、上帝ヲ尊敬ヨリ他ノ事ハ之ヲ為スコト能ハズ、時トシテ、其度ハ低シト雖ドモ、上帝ト其子孫トノ場合ニ比擬シテ、父母ト兒子トノ間ノ干係ヲ又此ノ如ク見ルコトヲ得ベシ、若シ上帝ヲ神トシテ尊奉セザルベカラザルコトナレバ、人類ノ父母タル者ニモ亦大ナル恭敬尊重ヲ要スルコトナリ、何レノ国何レノ教徒ニ於テモ、父母ヲ尊敬スベキノ訓誨アルハ、其初メハ蓋シ此ノ如キ感覺ヨリ起リタルコトナルベシ、其故ハ凡ソ此ノ如キコトヲ説キタル書籍ハ、通常上帝ヲ信奉スル続キニ依レル者多ケレバナリ、

吾儕ハ上帝ノ法案ノ序ヲ考ヘテ第五ノ誠ヲ（爾ノ父ト母トヲ尊敬セヨ） ヲ以テ第二ニ置カント欲ス、然レトモ猶太人ハ他ノ異説アリ、「アバルバネル」ハ謂フ、第五誠ハ第一案ノ最後ノ文ナリ、父母ヲ愛敬スルトイフコトハ、教法ノ主意ナリ、

其他ノコト或ハ然ラザル者アレドモ兒子ヲ此当務ノ下ニ置クトイフコトニ於テハ、教法者ノ意見ハ大抵同一ナリ、使徒モ亦「兒子ハ爾ノ主ニ依リ、尔ノ父母ニ順フベシ、何則其事ハ正理ナレバナリ」（以弗所六章一節）ト言ヘリ、又「兒子ハ諸事尽ク汝ノ父母ニ順フベシ、何則此事ハ爾

主ノ大ニ喜ブ所ナリ」（哥羅西、三章廿節）トアリ、彼等ハ皆兒子カ其父母ニ聽従スルヲ万物ノ父タル上帝ヲ尊奉スルト同ジク、共ニ宗教ノ品行トシテ之ヲ勸メタリ、

(三) 兒子ハ其初メ父母ヨリ受タル所ノ総テノ親切ニ対シテ、感恩ノ意ヲ顯ハシ、又之カ報応ヲ為サバルベカラズ、

○此職分ハ明白ニ自然ノ光輝ト相一致スル者ナリ、使徒ハ是ヲ以テ、最先ニシテ重要ナル職分トセリ、曰ク「彼先ツ孝行ヲ家ニ学ビ、以テ其父母ノ恩ヲ報スベシ、」（堤摩太一書、五章四節）父母ニ報スベクシテ、其兒子ノ力量中ニ在ル所ノ報応ハ宜シク其時ノ狀況ニ従フベシ、父母タル者ハ大抵ハ其兒子ノ手ヨリ一時ノ必要ノ給與ヲ求メザル者ナリ、而シテ兒子カ其父母ニ報スル者ハ、感情深キ恭敬ヲ為スト、又是ヨリ生シタル親切柔軟ナル奉事トニ過ギザルナリ、然レトモモシ其狀況ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ、兒子ハ其父母ニ向ヒテ一時ノ欠亡ヲモ供給セザルベカラザルナリ、此職分ヲ兒子ニ負ハスルコトハ自然ノ光輝ニ依ル者ニシテ、開明諸国ノ法律ハ、大抵此事ヲ命令セリ、兒子ニシテ此職分ヲ為スベキノ機會ヲ有スレドモ之ヲ怠慢ニ付スル者ハ、世上一般ニ之ヲ罪スルナリ、其機會ノアル時、喜ンテ其職分ヲ為シ、成ルベクタケ其父母ニ報応スル者ハ所羅門ノ箴言ニ於テ之ヲ「兒子ノ光榮」トイフナリ、其故ハ若シ社會ノ衆人ノ中ニテ、何レノ者ヲ好ムトナラバ、年老テ助ナキ所ノ父母ガ、往昔己レガ與ヘタリシ所ノ者ヨリ其親切ト防護トヲ受クルハ

最モ喜フ所ナルベシ、

### 第三篇 主人ト從僕マスタ、エン ド、サルバン

○服役セルビチハ之ヲ完全ト不完全トノ二種ニ分ツ、完全ノ服役ハ通常之ヲ  
○ユード○リミテッド○ボロンタリイ  
奴隷スレーブト名ク、不完全ノ服役ハ制限アル服役又自由ノ服役ト名ク、

#### 第一解 奴隷スレーブ

○奴隷ハ、其主人二十分ノ權理アリテ、惟奴隷ニ勞動ヲ命スルノミナラズ、  
○スレーブ○スレーブ  
盡ク其行為為舉動ヲ命令シ、又其奴隷ノ身ヲ賣リ、其主人ガ奴隷ニ付  
キテノ權理ヲ他人ニ賣ルコトヲ得ル者ナリ、

○天下一人モ天然ノ奴隷トイフ者アルコトナシ、其身体ト智力トノ天稟  
ノ齊シカラザルヨリシテ遂ニ他人ノ命令ニ從ハザルベカラザルニ至レリ、  
然レトモ此事ハ奴隷ニ關シテ堅固ナル根原ト定ムルコト能ハズ、

(一) 人ハ自己ノ自由ノ同意ヲ以テ奴隷トナルコトアリ、天然ノ  
法則ニ於テ、或人ガ他人ノ同意ヲ約束ヲ以テ、其行為ノ或ル者ニ關シテ、  
命令ヲ為スベキ、一時ノ權理ヲ與フルコトハ、天然ノ法則ノ許ス所ナリ、  
然レバ、或ル行為ヲ總テノ行為ト為シ、一時ノ權理ヲ永久ノ權理ト為ス  
コトハ天然ノ法則ノ許サザル所ナルヤ否、是ヲ決スルハ極メヲ難事ナル  
ベシ、此ノ如キ奴隷ノ初メハ、蓋シ社會ノ早時ニ起リシコトニテ、貧  
困ニテ助ナキ所ノ民、或ル有力ナル隣人ニ其防護ヲ依頼シ、初メハ其從  
屬トナリシモ、終ニハ全ク其奴隷トナリシ者ナリ、

(二) 其他ノ奴隷ノ起原ハ、或人ガ他人ヨリ債ヲ負ヒ、又ハ他人ヲ

損害シテ、之ヲ返弁償還スルコト能ハザルトキ、他人ノ利益ノ為ニ、己  
ノ勞力ト自由トヲ與フルニ起レル者ナリ、

(三) 又奴隷ハ法律ノ審判ニ由リテ起ル者アリ、罪惡アル者ヲ責罰  
シ、更ニ其者ガ他人ノ惡事ヲ為スコトヲ抑ヘンガ為メニ、其者ノ自由ヲ奪  
ヒ、或ハ長時期或ハ短時期ヲ定メテ、十分ナル他人ノ配下ニ置キテ其行  
為ヲ檢束セシムルコトアリ、又死罪ニ当ルベキ惡ヲ犯シタルモ、其情況  
ニ由リテ其一死ヲ赦シテ奴隷ト為スコトアリ、

(四) 然レトモ奴隷ノ主要ナル原因ハ、戰爭ニ於テ敵ノ俘虜ニ施シ  
タルヲ初メトス、上古ノ時ニ於テハ、凡ソ戰爭ニ於テ捕獲シタル者ハ、  
勝者ノ暴驕心ヲ満足セシメ、又之ヲ養ヒ置クノ困難ヲ除クガ為メニ、  
○スレーブ○スレーブ  
ク之ヲ殺スヲ常トス、然レトモ時トシテ或ハ後來其者ノ勞力ヲ用フルコ  
トノ必要アリト考フルトキハ其生命ヲ助クルコトアリ、此故ニ由リ古代  
ノ國民ノ中ニ家ノ奴隷ドメナツック、  
スレーブトイフ者アルコトナリ、

○基督教ノ弘マルニ及ヒ、奴隷ニ干セル諸ノ兇惡ハ大ニ減少セリ、教法  
改革ノ後暫時ニシテ、歐洲ノ諸國ハ其本国ニ在ル家ノ奴隷ナル者ヲ廢セ  
リ、然レトモ其藩屬地ニ於テハ、奴隷ノ法ヲ以テ利益アリトシテ之ヲ存  
セリ、然レトモ近時ニ至リ、此法ハ自然ノ光輝ニ反シ、又人類ノ進歩ト  
幸福ト敗ル者トナシ、其奴隷ノ状態モ己ニ罪惡ニシテ、其効驗モ甚壞惡  
ナリト考定セリ、

第二解 自由ノ服役

○自由ノ服役ハ通常年月ヲ限り、又ハ其為スベキ仕事ノ種類或ハ分量ヲ定メテ之ニ従事スル者ナリ、或人ハ疑フ、人タル者ハ其服役ヲ全部又ハ永久他人ニ移スノ權利アル者カト(ホステルノ天然宗教論、又疑フ、此ノ如キ服役ハ法律ニ協フベキ者ナルカト、然ルニ此事ハ初メ相互ノ約束ニ起ル者ニシテ約束ハ界限モアリ、法律ニモ協フ所ノ者ナリ、已ニ約束ヨリ成ルトキハ、此干係ヨリ生スル所ノ義務ニ双方共ニ之ヲ負ハザルベカラズ、

#### 第一小分 従者僕ノ職分

○従僕カ第一ニ守ルベキ職分ハ従順<sup>オベデンス</sup>ナリ、  
○此事ハ約束ノ規定ナリ、而シテ従僕ハ喜ンテ之ヲ履行セザルベカラズ、使徒ノ言ニ「従僕ハ唯其主人ニ従順スベキノミナラズ、更ニ善意<sup>グットウィル</sup>ヲ以テ服役ヲ為サザルベカラズ」、従僕快樂ヲ以テ行フ所ノ服役ハ、主人タル者ハ殊ニ價値アル者ト認ムルナリ、親切ノ心ヲ以テ其服役ヲ受納サル、トキハ、従僕ハ自ラ其職分ノ輕キヲ覺ユルナリ、

○従僕ガ第二ニ守ルベキ職分ハ信実<sup>フェイス</sup>ナリ、  
○其時ノ都合ニ由リテ、元來命シタル服役ヨリ餘分ノ事ヲ為サシメ、又ハ異ナリタル服役ヲ為サシムルコトアリ、此ノ如キ場合ニ於テ、従僕カ十分ノ力ヲ尽シテ之ヲ為スハ即チ信実ナリ、従僕ハ呵責ヲ免カルノミヲ以テ自ラ満足スルコトナク、更ニ其服役ノ信実ナルト熱心ナルトヲ以テ主人ノ稱譽ヲ得ンコトヲ求ムベキナリ、主人ノ居ラザルトキ、又ハ知ラ

ザルトキニ於テ、自己ノ利益ヲ為スベカラズ、又同儕カ自己ノ利益ヲ為スコトヲ許スベカラズ、従僕ニ仕事ヲ托セラルトキ、其事ノ不熟練ト其效驗ノ不足ナルコトアルモ、之ヲ為スニ真正ノ願望ト勉強トヲ以テ為シタル明白ナルトキハ、其欠點ハ宥恕セラルベシ、然レトモ信実<sup>フェイス</sup>ノ欠亡ハ決シテ宥恕セラル、コト能ハズ、其故ハ、此ノ如クナレバ最初ニ自由ニ結ビタル約束ニ背キ、又其約束ヲ履行セシムルコトハ、主人ノ有セル權利ナレバナリ、

#### 第二小分 主人ノ職分

(一) 従僕ガ其主人ニ服従セザルヘカラザルガ如ク、其一方ニ於テハ主人ハ又其従僕ニ約定タル給料<sup>ジヤウチ</sup>ヲ與ヘサルベカラズ、  
○人ヲシテ他人ノ威權ニ服従シ、其意思ト努力トヲ他人ノ為メニスルトイフコトハ、實ニ己ムヲ得サルコト<sup>ネセツ</sup>ニシテ、又苦痛ナル必要ナリ、他人ヲ服役セシムルノ權理ヲ得タル者ハ、言ハゞ此人ノ獨立ト自由トノ一分ヲ得タル者ナリ、他人ニ服役スル者ハ自己ノ自由ト獨立トニ價ヲ立テ、約束ヲ結フトキニ於テ其算計ヲ為スハ正當ノコトナリ、努力ノ給料トイフ者ハ神聖ナル物ニシテ、天下一般ニ認許スル所ナリ、彼力額ノ汗ニ由リテ得ル所ノ物ハ、彼ノ血ヲ以テ買ヒタル所ノ特權ト同ジク、之ヲ保守スベキ物ニシテ決シテ破壊スベカラザル者ナリ、摩西ノ法律ニ、努力ノ給料ハ、直チニ努力ヲ行ヒタル者ニ拂フベシトアリ、雇傭シタル人ノ給料ハ、夜ト雖トモ之ヲ拂フベシ、明朝マデ之ヲ延滞スベカラズ

(利未記、十九章十三節)、其日ニ至ラハ必ラス之雇値ヲ給スベシ、宜ク日ノ未タ没セザルニ於テスベシ、其故ハ雇者ハ貧乏ナル者ナレバ、恐クハ上帝ニ訴フルコトアラン(申命記、廿四章十五節)、雇人ハ其給料ヲ得ンコト望ミアルニ由リ、永キ労力及ヒ困難ナル時間ノ労力ニ堪フルコトヲ得ルナリ、若シ其時間ヲ過グルトキハ、其氣ヲ引立テ其力ヲ増スノ方ヲ行ハザルヘカラズ、是レ他人ヲ雇役スル方便ナリ、其方便トイフハ、其主人タル者、己ノ幸福ヲ其服役者順從者ニ分配スルノ意ヲ以テ、其勞力ニ對シテ賞譽ヲ與ヘ以テ彼ヲシテ其生活ノ度ヲ改良スルノ途ヲ開カシムルコトハ、富ミテ力アル者ノ最高ノ職分ニシテ又最高ノ快樂ナリ、故ニ其從僕タル者、能ク注意シ能ク眞實ニ服役ヲ為ストキハ、其者ニ賞與スルコトハ、主人タル者ノ職分ニシテ又其快樂ナルベシ、

(二) 主人ハ其從僕ニ吝惜ナク給料ヲ與フルノミナラズ、其仕事ヲ勤ムルノ間親切ト垂念<sup>コンシデレ</sup>トヲ以テ之ヲ扱ハザルベカラズ、

○服役トイフコトハ、何レノ姿態ニ於ケルモ、謙卑ニシテ苦痛ナル状態ノ者ナリ、故ニ主人タルノ關係ヲ有スル者ハ、成ルベク、從僕ノ感覺ヲ寬待セザルベカラズ、主人ハ、其命ジタル事ヲ為シ得ルカ監スルノ權利アリ、然レトモ嚴緊ナル要望ハ之ヲ為サズランコトヲ務ムベシ、主人ハ服役ヲ受クベキ位格ヲ有セリ、然レトモ聖經ニ於テ、主人タル者ガ脅迫ヲ為スコトヲ禁ゼラレタリ、凡ソ暴虐ノ方法、賤侮ノ言語ハ之ヲ禁セサルベカラズ、其故ハ主人ハ更ニ天上ニ他ノ主人ヲ有シ、其造作セル人類

ハ之ヲ恭敬スベキノ理アレバナリ、此現世界ニ於テノ區別ハ、上帝ノ意思ニ一致シ、上帝ノ語ヲ以テ認許サレタリ、然レトモ之ニ由リテ相互ニ不安又ハ押シ付ケノ為スノ手立ト為スベカラズ、主人タル者ハ其謹心ト親切トヲ以テ其要望ヲ調和シ、其從僕ノ運ニ當レル人ノ感覺ヲ、無益ニ損傷セザランコトヲ務メザルベカラズ、主人ハ嚴刻ナル事業ヲ強テ課スベカラズ、又強キ羈束ヲ以テ他ノ生活ヲ苦難ニ為スベカラズ、惟親切ニ且ツ垂願セル仕方ヲ以テ、苦運ニ在ル所ノ勞力者ヲ甘クセンコトヲ求ムベキナリ、

「福氏道德學講義第一冊」解題

「修治學 第二編」解題

「福氏道德學講義第一冊」は、八二七—一二三三「道義學叙言 福氏道德學講義」に「道義學叙言」「修徳之學」と合綴されている。

「修治學第二編」は、八二七—一五四「修治學」に単独でまとめられている。

「福氏道德學講義第一冊」「修治學 第二編」は、William Fleming(一七九一—一八六六)の *A manual of Moral Philosophy: With quotations and references for the use of students* の部分訳である。

本書の本文は、PART I と PART II からなり、それぞれが INTRODUCTION 及び BOOK I から BOOK III まごとからなっている。

西村が翻訳したのは、原書の PART I の INTRODUCTION 全部と、それに続く BOOK I の初めまでである。「修治學 第二編」の翻訳箇所は、原書の PART II の BOOK I と BOOK II である。

「福氏道德學講義第一冊」と「修治學 第二編」との翻訳時期が異なることは、標題として与えられた訳語の違いからも明らかである。前者は、Moral Philosophy を道德學として、後者は修治學としている。また、INTRODUCTION を前者は序論、後者は叙言としている。

西村は、明治二十八(一八九五)年六月出版の「徳學講義第一冊」で、

「モラルフィロソフィ、モラルサイエンス」の訳語として当てている(増補改訂 西村茂樹全集』第2巻、一四頁)。また、ここで、「余ガ説カントスル道德学ハ誠意、正心、修身、齊家ノ学ト云フベク、又窮理、正心、修己、接人ノ学ト名クベシ、治国平天下ノ道モ其根礎ハ此学ノ中ニ樹立スト雖ドモ、其詳ナルニ至リテハ、別ニ政事、法律、経済等ノ諸学アレバ其学ニ譲リ、爰ニ言ハズ」(同)と述べている。

「修治學」の語は、「大学」の誠意、正心、修身、齊家、治国、平天下に由来することは明らかである。だが、西村は、「徳學講義第一冊」において、道德学の範囲を「大学」における齊家までとし、治国平天下を除外していることに注意しておきたい。

「修治學」の語は moral philosophy を道德学と訳すようになる以前に当てられていた訳語である。それがいつ頃にまで遡るのかは確定し難いけれども、明治十四(一八八二)年より前ではあるだろう。というのは、この年十一月に出版されている西村茂樹の編集した「小學修身訓」では、Haven の *Moral Philosophy* を Fleming の *Moral Philosophy* も「修身学」としているからである。『増補改訂 西村茂樹全集』第2巻、六六九頁、六七〇頁)。

## 西國道學纂論 上

### 西國道德哲學講義稿本一

#### 第一篇

#### 道德學ノ定義及ヒ目的

○道德學ノ範圍及ヒ此學ト縁故ヲ有セル題目ノ關係トニ付キテハ、古代ヨリ道德學家ノ説ク所各一様ナラズ、又人類一般ノ考フル所モ甚差異アリ、今之ヲ一語ノ中ニ約シテ其定義ヲ立ントスルハ極メテ難事ナリ、又此エシックストイフ語ヲ分解シテ説キタリトモ、是ヲ以テ其定義ヲ説クノ助ケトナルコト能ハズ、エシックストイフ語ハ元來品行ニ關係スルノ義ナリ、然レドモ亞立士度德氏ハ初メ此語ヲ用ヒタルトキ、唯單一ニ品行トイフ義ニ之ヲ用ヒズ、專ラ善惡ノ性ニ關係セル品行ニ於テ之ヲ言ヘリ、實ニ善ト惡ト言ヘル反對ノ語ハ、總テ其中ニ道德ノ定義ヲ包括シ、而シテ善ト惡トノ形相ハ、道德學ト有<sub>フィジカル、イノコイケー</sub>形<sub>アチテシス</sub>學トノ本來ノ差異ヲ為ス者ナリ（西日烏ノ英國學術語典）、

#### (一) 坎德ノ説

若シ自主ノ法則ヲ以テ、人類ノ行為ニ應用スベシトスルトキハ、其内面ヲ定ムルガ如ク、又行為（外面）ヲ定ムルノ根據トナリ、外面ニ於テ法則ト相契合スルコトヲ得ベシ、然ルトキハ、意思（自主）ニ付キ、

正シキ決定ヨリ生シル先天<sub>ホーメル、デテルミネーション</sub>ノ知識ヲ得ルコトハ道德ノ學問ナリ（道德ノ無形學）、

#### (二) 由伯物ノ説

道德學ハ、善ト云ヘル想念ノ上ニ安定スル所ノ人類ノ意思及ヒ行為ニ管セル正シキ法則ノ學ナリ、道德學ガ哲學ノ全体中ニ於テ占ムル所ノ地位ハ、論理學、味通學ノ線中ニ於テ、心象學ノ後、教育學、宗教哲學、史學ノ前ニアリ、（由伯物ノ論理學）、

#### (三) 弗勒明ノ説

道德學ハ人類ノ本務ノ學ナリ、人類ノ本務ヲ知ルコトハ人類ノ天性ヲ知ルコトノ中ニ包含セリ、人ハ如何ナル事ヲ為サルベカラザルカト云フコトヲ理會セントスルニハ、先ヅ人ハ如何ナル物ナルカト云フコトヲ知ラザルベカラズ、道德學家ハ、其已レニ屬セル天性ヲ考究スルノ前ニ、先ヅ廣ク人類ノ性質ノ學問ヲ為サルベカラズ、然レドモ其性質中ニ於テ、殊ニ直接ニ人類ノ行為ノ上ニ干係スル所ノ原質ヲ吟味セザルベカラズ、是ニ由リ道德學ノ全躰ハ分レテ二部トナル、第一ハ人類ノ幹能ト力量トヲ考究鮮積スル者ニシテ、其幹能ト力量トヲ有スルニ由リテ、人々己ノ行為ヲ提起シ、又之ニ依リテ、道德ノ範圍内ニ於テ、其運動ヲ為スニ適スルナリ、第二ハ人ヲ以テ道德性ヲ所有スル動物ト定メ、其行ハザルベカラザル本務ヲ排列顯明スル者ナリ、（道德哲學）

#### (四) 哈巴斯辺撤ノ説

エシックス サブセクトマツター  
道徳學ハ其主觀ヨリ之ヲ言ヘバ、最モ高等ニ進化セル物体ビーイング（人）

ノ現ハシタル、最モ高等ニ進化セル行為ヲ論シタル者ニシテ、其行為ハ進化ノ極界ニマデ達シタリト假定シテ分類区画ヲ為シタル者ナリ、故ニ此學ハ羣居聚合シタル上ニ生スル正義ノ法則ヲモ其内ニ包括セル者ト考ヘタルヲ以テ、尋常指定セル道徳ノ行為ヨリハ更ニ廣キ地面ヲ領スルナリ、通常或ハ正トシ或ハ邪トシテ之ヲ賞賛誹議スル行為ノ外ニ、更ニ直接間接ニ於テ、自身及他人ノ安全幸福ヲ或ハ進メ或ハ妨クル所ノ行為ヲモ其中ニ包括スルナリ、（道徳學ノ定準）、

#### （五） 亞歷山得倍因ノ説

道徳學ハ、天文學生器學心象學ノ如キ知識ト思考トノミノ學ニ非ズシテ、航海學醫學政事學ノ如ク其知識ヲ以テ、實行、即チ必要応用ノ目的ニ応用セサルベカラザル者ナリ、凡ソ實行ノ學ハ何レモ其目的アリ、其定マリタル目的ハ即チ其學問ノ定義ナリ、航海學ノ如キハ、其種々ノ知識ト種々ノ工夫トヲ以テ尽ク之ヲ舩ヲ以テ海ヲ渉ルノ目的ニ応用セントスル者ナリ、

#### （六） 加得烏ノ説

道徳哲學ハ、吾等ノ道徳ノ行為、道徳ノ性質、道徳ノ干係ヲ、道理ニ據リテ解説シタル者ナリ、道徳學ハ道徳ノ區別（善惡邪正）ヲ知ルノ學ニシテ、又道徳ヲ實行スルノ學ナリ、又現存セル道徳ノ構造、即チ世界ニ於ケル秩序ノ學ナリ、道徳學ハ又知識ト身体トノ理論ナリ、然レドモ其

知識ハ唯道徳ノ區別ニ干係スルノミノ知識ナリ、其身体ハ、唯此ノ如キ知識ヲ所有シ得、又應用シ得ル所ノ身体ナリ、

#### （七） 格勒革力ノ説

道徳學ハ人タル者ノ本務デューティ（職分）ノ學ナリ、即此現世界ニ於テ行ハザルベカラザル所ノ學ナリ、道徳學ハ學サイエンスノ種類ニ屬ス、其故ニ此學ノ目的ハ事實ノ或ル一羣ヲ定論シ彙類シ、且ツ道理ニ據リテ解釈スルニ在レバナリ、此目的ヲ論定セントスルノ方法ハ、心象學及有形ノ諸學ト同ジク歸納法ニ據ラザルベカラズ、然レドモ是等ノ諸學ガ十分ナル學問上ノ結果ヲ得ルノ前ニハ、更ニ演澤ノ方法ヲ以テ、其歸納ノ方法ト相結合セシメザルベカラズ、

#### （八） 植寧ノ説

道徳學ハ學ト為シ又術ト為シテ考フルコトヲ得ベシ、學トシテハ、人々ヲ同一ノ目的ニ結合セシムル真理ノ全部ヲ教フル者ナリ、故ニ學ノ主トスル所ハ知識ニアリ、術トシテハ、一定ノ目的ニ從ヒテ運動スル規則命令ノ全部ヲ教フルナリ、故ニ術ノ目的ハ行為ニアリ、學ハ理論即チスペキエラチーフ想考ナリ、術ハプラクティカル實行ナリ、道徳學ハ道徳ノ原理ト性質トヲ知り、又之ヲ推論センコトヲ求ムルニ由リ之ヲ學ト名ケ、其原理ヲ我身ニ応用シ、又之ヲ以テ我身ニ命令スルニ由リテ之ヲ術ト名ケ、學トシテハ之ヲ善ノ學、又本務ノ學ト云フベク、術トシテハ之ヲアイト、オフ、リビシグ身世ノ術又ライトアクチング正シキ行為ノ術ト云フベシ、

## 第二篇

良心又本心コンシ  
エンス

### (一) 定義

○西塞魯シセロハ良心ヲ名ケテ「上帝ガ人ノ内心ニ於テ人ヲ管理スル者ナリ」ト云ヒ、斯兌格ストイクハ「道理ノ主權ナリ」ト云ヘリ(列幾ノ欧州道德史)

○何物ニテモ我心ノ中ヲ通過スルトキハ、其物ニ付キテ或ハ愛好シ、或ハ厭棄シ或ハ感シ或ハ驚キ、其他種々ノ心ノ態ヲ生スルナリ、此ノ如キ働ヨリシテ、我心ハ或ル事物ヲ好シトシ、或ル事物ヲ不好トシ、或ハ稱美ヲ為サズ、憎惡ヲ為サズルコトアリ、此ノ如クシテ人ノ或ハ中心、或ハ天稟、或ハ行為ヲ、或ハ好トシ、或ハ不好トスル所ノ能力アプリシブルヲ良心ト名ク、良心ノ語ハ猶廣キ意味ニ用フルコトアレドモ本来ノ意義ハ適ニ此ノ如シ、(拔多勒ノ勸言)、バットレルセルモンス

○良心ハ心ノ一種ノ力ニシテ、此力ニ依リテ、人々ニ行為ノ指導トナルベキ道德ノ法則ヲ知ラシムルナリ、又絶對ナル道德ノ真理ヲ発見セシムル所ノ道理ニシテ、道德ノ法則ノ主權ヲ有スル者ナリ、又賢キ自主ノ意思ヲ指導スル為メニ必要ナル者ニシテ、道德ノ義務オブリゲーショント身世ノ責任トノ為メニ根礎ヲ為ス者ナリ、(加得烏ノ道德哲學)、カーデルウード

○良心ハ人類ノ及バザル所ヨリ以上ノ道理ヲ人ニ示ス者ニシテ、人類ノ力ニテ造作スベカラズ、變改スベカラザル正理ノ至高權ヲ表明シ得ル者

ナリ、(毛里西ノ良心)、マウリス

○良心ノ単一ノ衝動ニ非ズシテ服屬隨從ノ意味アル衝動アリ、其服從ノ目的トスル所ハ、上帝ト上帝ノ所領ナリ、良心ガ道德ノ旨趣ニ於テ如何ナル事ヲ務メザルベカラザルカ又灵魂ノ保全ニ於テ、如何ナル事ヲ戒メザルベカラザルカト云フコトヲ人ニ知ラシムルハ、禽獸ノ氣性インスタンクツトノ如キ単一ナル氣性ノ働キニ非ズ、禽獸ノ氣性ハ自身ノ保全ノ為メ、又ハ害ヲ避クルガ為メニ必要ノコトヲ知ラシムルニ過ギザル者ナリ、人類ハ是ニ異ナリ、其良心ハ、自識コンシエンスニシテ、我身ト上帝ト相交親スルコトヲ知リ、其自識ヲ都テ回想ノ自識ト異ナリ、其服從ノ想念ハ獨リ法則ニ服從スルノミニ非ズシテ、其法則ノ出ル所ノ威權ニ服從スルノ意味アル者ナリ、(馬典先ノ邪教道德)、マルテンセン

○良心ハ汚点ナキ神鏡ノ不朽ナル光輝ニシテ、又上帝ノ美善ノ影像ナリ、(聖伯爾那)、セントベルナルト

(二) 良心ハ人類ガ特別ノ所有物ナリ、

○或人ハ高等動物ノ中ニ良心ノ徴アルト云フコトヲ主張スレドモ、審力ニ之ヲ察スレバ決シテ明白ナル蹤迹ヲ見出スコト能ハズ、即チ其動物ガ、其生命ノ全時ト、其連続セル行為トニ於テ此感性アルヲ発見スルコト能ハズ、人類ハ此ニ異ニシテ、其行為ハ常ニ尽ク其一個ノ人身タル元質ヲ備へ、其行為ニ付キテ常ニ責任ヲ有スルコトヲ感知スルナリ、(物斯ノ基礎及道德學)、ワエニス

○良心ハ特別ニ人類ニ有スル者ナリ、禽獸ノ中ニハ吾儕其痕迹ヲ見出スコト能ハズ、人類モシ禽獸ノ如キ悪行ヲ為ストキハ、衆人ノ賤辱ヲ受クルコト甚シ、禽獸ハ已レノ類ニ對シ人類ニ對シ、損害ノ行ヲ為スコト多シ、禽獸ハ元來此ノ如キ損害ヲ為スベキ性質ト習慣トヲ有セリ、若シ之ニ罪惡ノ名ヲ命ズルコトヲ得ベキナラバ、皆之ヲ罪惡ト名クベシ、然レドモ禽獸ニ於テハ之ヲ不道德ナリト誹ルベカラズ、又道德ナリト稱スベカラズ、禽獸ハ自ラ其身ヲ管理スルノ能力ヲ有セズ、體驗又ハ熱情ノ為メニ擾動サル、モ之ヲ治ムルノ規則ヲ立ツルコト能ハザルナリ、(黎德ノ全書)、

(三) 良心ノ存在ノ試験

(甲) 道德ノ判断ニ由リテ之ヲ知ル、

○吾等ガ或ル事物ヲ道德上ニ於テ好トシアツプロベシクチスアツプロベシク不アツプロベシク好トスルノ能力ヲ有ストイフコトハ我身ノ上ノ經驗ト他人相互ノ間ノ認識トニ由リテ之ヲ知ル者ナリ、其良心ヲ有セルト云フコトハ、假偽ノ品性ナリトイヘドモ、亦之ニ對シテ必ス好ト不好トヲ生スルニ由リテ之ヲ知ル、正ト邪、所憎ト所愛、卑陋ト高崇ノ如キ、人類ノ行為ト品性トニ用フル幾多ノ言語ニ由リテ之ヲ知ル、吾等ノ天然ノ満足ノ感覺中ニ単ノ善ノ器械ト為ルト、意アリテ善ヲ為ストノ區別アルニ由リテ之ヲ知ル、又人々我身ガ為シタル傷害ト単ニ惡念トノ區別ニ由リテ之ヲ知ル、惡念ハ霍畢士ガ專ラ人類ニ限レリト言ヘル者ナリ、又損害ト正當ノ刑罰トノ區別ヲ為スニ由リ

テ之ヲ知ル、正當ノ刑罰ハ未タ法律ヲ學バザルノ前ニ於テ天然ニ之ヲ知ル者ナリ、以上ハ社會上ニ通常行ハル、ニ言語ト行為トノ中ニ於テ其大分ヲ表スル者ニシテ、何レモ道德ノ幹能(良心)アリト假定セル説ノ上ニ安定スル者ナリ、(拔多勒ノ論説)

(乙) 其働キニ由リテ之ヲ知ル

○吾儕世間ニ良心ヨリ確實ナル者アルコトヲ知ラズ、良心ヲ拒否スルノ説ハ、世界ノ確實ノ基礎ヲ倒壊シ、道德ノ構造(確實ヨリ生ス)ヲ滅尽スル者ナリ、良善ナル良心ヲ以テ良心ヲ拒否スル者ハ天下一人モアルコトナカルベシ、吾儕今試ミニ良心ヲ拒否セントスルトキハ、先ツ内心ニ於テ、早く我身ヲ責斥スルナリ、吾儕我身ヲ誣ヒズシテ、良心ヲ拒否スルコト能ハザルナリ、(盧太得ノ根原ノ真理)

(第四) 良心ノ理論

(甲) 單純ニシテ本原ノ物トスル者

○良心ハ人身固有ノ物ニシテ附加ノ物ニ非ズ、人類ハ良心ヲ求め得ルノ職分アラズ、然レドモ人ハ道德ノ動物ナレバ、自然ニ之ヲ所有スルナリカント (坎德ノ道德二元形學)

○或ル哲學者ハ道德上何物カ善、何物カ惡ト云フコトヲ定ムルノ力ヲ以テ人類固有ノ力、即チ幹能ニ歸シ、此力ヲ名ケテ道德ノ知覺、道德ノ能力又良心ト言ヘリ、此ノ如ク人心ノ固有力ニ由リテ善惡ヲ知ルト云フ説ハ、真理ニ合スルヲ覺ユ、余儕事理ヲ領會シ、又思考スルノ年齢ニ達

スルトキハ、行為ノ上ニ於テ正邪ノ意見ヲ有スルノミナラズ、又或ル事物ハ正ナリ、或ル事物ハ邪ナリト云フコトヲ認識スルコトヲ得ベシ、

リード  
(黎徳ノ全書)

○良心ハ之ヲ分解シテ其元質ヲ発見セザルノ間ハ吾儕之ヲ単純ニシテ分解スベカラザル者ト定メザルベカラズ、此分解法ヲ得ザル間ハ、道徳ノ善ト惡ト、道徳ノ服従ト背反ト、其功績ト過失トノ想念ヲ人心中ニ生スルニ、良心ヨリ單純ノ物アルヲ見ザルナリ、(馬古西ノ上帝管理ノ方法)、

○良心ノ状態ハ、吾等ノ天性ニ於テ全く單獨ノ者ナリ、吾等ノ知覚体欲ハ皆其活動ノヲ範圍ヲ限制セラルレドモ良心ノ機能ハ之ニ異ニシテ、吾全身ノ結構ヲ通覽シ、吾熱情ト願欲トノ満足ニ界限ヲ指定セリ、故ニ良心ト知覚願欲トハ其階級ヲ異ニスルノミナラズ、又其種類ヲ異ニセリ、凡ソ吾等ノ行為ノ良心ニ背ケル者ハ、天然ノ体験ト併行スルトキトイヘドモ之ヲ天然ニ背ク者ト名ケザルコトヲ得ズ、其故ハ良心ハ總テノ行為ヲ判断シ、又之ヲ抑制スルノ特權ヲ受ケ居レバナリ(列幾ノ欧州道徳史、

マルチニエー  
此外馬底紐、毛里斯ノ諸家ノ說皆之ニ全シ、

(乙) 複雑ニシテ他ヨリ来ル物トスル者

○道徳ノ能力(良心)ハ單純ニ非ズ、複雑ニシテ且ツ他ヨリ分派シタル者ナリ、道徳ノ能力ヲ分解シ、其特別ノ性質ト、人々ノ中ニ存セル道徳判断ノ同一ナルトヲ説明スルハ、頗ル為シ得ベキコトナリ、余儕ガ考フル所ヲ以テスルニ、

○(一) 裁智フリニエ即チセルフ、インテレスト已アルヲ利スルトイヘル能力ニシテ、是等ハ明白ニ道徳ノ行為ヲ提起スルコトヲ得ル者ナリ、(二) 同情シムス即チ同儕ノ感覺ニシテ、我等ガ私心ナキ行為ノ源ヲ為ス者ナリ、(三) 一般ノ動感シキニシテ、常ニ裁智及ヒ同情ト相伴シテ動ク者ナリ、此動感ノ援助アルニ由リテ、裁智同情共ニ十分ニ其功ヲ奏スルコトヲ得ルナリ(倍因ノ心學及德學)、

○道徳ノ感覺ハ其一分ハ氣性狀ノ物ナルコトハ、人ノ允許スル所ナリ、社会ノ年久シキ經驗ノ結果トシテ、道徳ノ感覺及ヒ其判断ト云フ者其形ヲ成シ、終ニ之ヲ以テ其兒孫ニ移シ、氣性狀ノ性ヂスポジヨン偏トナリ、自然ニ道徳ノ法則ト相一致スルニ至リタル者ナルベシ、然レドモ道徳ノ幹能トイフ者ハ人身ノ中ニ堅立シタル大柱ナリト云フコトハ決シテ非難スベカラザルノコトトナレリ、(撒黎ノ心象學)

良心ヲ以テ複雑ノ物トセシハ英國ノ霍畢士ニ起ル、勒斯利士捏反モ其說ニ全シ、德國ノ庶シューベン遍ハウエル好威ハ曰ク、良心ノ元質ノ五分ノ一ハ、人ノ恐怖心、五分ノ一ハ迷シュール信ベルスチヨン、五分ノ一ハ我意プレヂエチス、五分ノ一ハ虚驕バニーチイ、五分ノ一ハ習慣ナリト云ヘリ、

(丙) 進化理論エボリュション

○社會構造物ノ一個(一個人ヲ云フ)ガ其同情ト認識トノ増進スルニ從ヒ、自身ノ必須ト願欲トヲ満足スルニハ其同儕ノ忿怒ノ為メニ、我身ニ苦痛ヲ来サバランコトヲ要スルヲ知リシヨリ、次第々々ニ利己ノ衝動ヲ

実行スル或ル界限中ニ於テ、他ニ服従スルノ必須ナルコトヲ領會シ、自  
己ノ幸福ニ関スルコトニ於テモ、常ニ其同儕ノ要須ト希望トヲ心ニ有ニ  
セザルヲ得ザルニ至レリ、野蠻ノ民ニ於テモ、エキスベチレンテイ 便宜ノ為メニ其同儕  
ノ為ニヨリ、我身ノ行為ノ自由ノ上ニ或ル制限ヲ負荷スルト云フコトヲ  
認識セリ、此ノ如キ考思ハ、其増進セル同情ト相協合シ、自然ニ其内心  
ニ勸誡者、モニトル 即チ良心ナル物ヲ創造スルニ至ル、是ト同時ニ權利ト職分ト  
ノ意見ノ萌芽ヲ生シ、モラルセンス 以テ道德ノ知覺ノ基礎ヲ建立スルニ至ルナリ、  
バスターン (霸斯祥ノ腦力論)、

(第五) 良心ハ教育スベキ者ナルカ

(甲) 多數ノ人ハ然リト答フ、

○吾等ノ他ノ諸力ト同ジク、良心ハ知覺シ難キホドノ進度ヲ以テ成熟シ、  
又適當ナル養成ニ依リテ其強健ヲ増加スルナリ、生命ノ最初ノ時期、即  
チ小児ノ時ニ在リテハ、人類ノ行為ニ付キテ其正邪ヲ弁別スルノ力ハ甚  
乏シ、上帝ハ我等ヲ造ル時、道德判断ノ種子ヲ我心中ニ種付ケタリ、此  
種子ハ適當ノ時期ニ於テ漸々成長スレドモ、其最初ニ於テハ、甚タ柔軟  
ニシテ、極メテ屈撓シ易シ、其進歩ハ適當ノ養成ト使用トニ由リテ之ヲ  
得ルナリ、故ニ人タル者ハ天然ニ正邪ヲ弁別スルノ力ヲ有スル者ナレバ  
敢テ教育ヲ要セズト云フコト能ハズ、又此力ハ養成モ進歩モ要セザル者  
ナリト云フコト能ハズ、又良心ハ心ヨリノ知ラセ、即チ其得タル所ノ考  
案ニ付キテ安全ナル返答ヲ為ス者ナリト言フコト能ハズ、(黎徳ノ全書)

○良心ノ發達ハ殊ニ知識ノ發達ト約束ヲ相為ス者ナリ、又意思トモ約束  
ヲ為ス者ナリ、意思ハ知識ニ同シガラズ、否、知識ニ反對スル者ナリ、  
古今ノ歴史ハ能ク良心養成ノ説ヲ妨クル者ヲ破ルノ力アリ、故ニ良心ハ  
人類ノ力ヲ常ニ改正シ光明ニセンコトヲ望ム者ナリ、良心ハ元來遲鈍ノ  
物ナリ、故ニ之ヲ鋭敏ニセンコトヲ望ム、元來多睡ノ物ナリ、故ニ之ヲ  
覺起センコトヲ望ムナリ、(馬典先ノ基督道德)、

○道德ト知識トヲ養成センコトヲ務ムルハ人ノ恒常ノ職分ナリ、我等ハ  
吾良心ヲ光明ニシ、又之ヲ教育スルコトニ尽力セザルベカラズ、此課業  
ハ決シテ終極ナキ者ナリ、生命ノ存在シ、思考ノ力ノ存スルノ間ハ、其  
生レ付タルヨリハ更ニ明白ニシ高崇ニシ、以テ人身ノ最高ノ法則ニ達セ  
ンコトヲ望ミ得ル者ナリ、良心ハ初ヨリ完全ノ姿ヲ具ヘタル者ニ非ズ、  
唯々完全ノ姿ヲ具フルコトヲ得ル者ナリ(休物尔ノ道德原論)、

(乙) 少數ノ人ハ否ト答フ、

○良心ハ真个天性ノ能力ニシテ、教育ヲ受クベキ者ニ非ズ、教育ハ教導  
ノ意味ニ於テスルモ、練習ノ意味ニ於テスルモ、共ニ良心ニ向ヒテ施ス  
コト能ハズ、目ハイカンシテ見ルカ、耳ハ如何シテ聞クカ、良心ハ如何  
シテ道理ヲ認識スルカ、此ノ如キ事実ハ皆天然ニシテ、人類ノ構造ニ自  
然ニ備ハル所ナリ、(加得鳥ノ道德哲学)、カデルウト

○良心ニ失誤アルハ幻想ヨリ出ルナリ、人タル者ハ客觀ノ判断ニ於テ輒  
モスレバ、迷路ニ陥ルト雖ドモ主觀ニ於テ、其行為ト習熟上ノ道理(爰  
チメラ フラクチカル リイメン)

ニテハ審院ジュチカリイトナルトヲ比較スルトキハ、容易ニ錯誤ニ陥ルコトナシ、若シ然ルトキハ誤謬モナク真理モナシト云ヘル習慣上ノ判断ヲ為スコト能ハサルベシ(坎德ノ道德無形学)、

(第六) 良心ハ腐敗シ弛廢スル者ナリ、

(甲) 良心ノ衰弱シタルニ非ズ、

○人ノ行為ノ道德ヲ失ヒタルハ、其良心ノ力微弱ニシテ、他ノ能力ヲ管治スルコト能ハザルニ因ルト云フハ通常人ノ言フ所ナリ、良心ガ其相當ノ管理ヲ失ヒタルト云フハ実ニ然リ、然レドモ良心ハ決シテ其力ヲ失ヒタルニ非ズ、或ル反對ノ点ヨリ見ルトキハ、此ノ如キ時ト雖ドモ、其活動スルコト旧時ニ異ナルコトナシ、乃チ良心ハ其力ヲ減ジタルニ非ズシテ、其力ヲ破壊的ニ用ヒタルナリ、譬ヘバ公正ノ審院、變シテ不公平ノ審院トナリ、其不公正ニ働ク所ノ力ハ、公正ニ働ク所ノカト適ニ其量ヲ均フス、彼西班牙ノ宗教裁判所インクイジション英國ノ斯丟亞亞的朝ノ星審院スター・チ・ハイ等法院コウルト、オフ、ハ、イコムミンション法国ノ恐怖政治ノ時ノ巴理法院トリビュナルス、イン、パリスノ如キハ嘗テ是等ノ諸国ニ在リシ公正ノ審院ニ比スルニ、其勢力ハ少シモ減ゼザリシナリ、(馬哥西ノ上帝ノ管理法)

(乙) 良心ノ衰弱シタルニ帰スル者

○良心ハ一般ノ腐敗ヲ受ケザルコト能ハズ、是ニ依リテ人間社会ニ罪惡ノ蔓延ヲ来スニ至ルナリ、已ニ腐敗ヲ受ケタルトキハ其真理其力量共ニ衰弱スルナリ、邪教ノ国ニ於テハ其民ノ良心皆正当ニ其職分ヲ理會セズ

シテ道理ニ反行スル者多シ、是ニ由リ罪惡ヲ為スノ力其上位ヲ占メ、良心ノ働ハ甚麻痺シテ其威權ヲ失フ者多シ、然レドモ此ノ如キ良心ノ腐敗顛倒ノ中ニ於テ、事フアクト実ハ決シテ廢滅スルコトナシ、(盧太得ノ道德真理)

(第七) 良心ノ機能フハレンクシヨ

(甲) 総通

○良心ハ其本来ノ幹能トシテ見ルモ、又ハ瓜蔓[association 連合]想ノ成果トシテ見ルモ、二種ノ機能ヲ有スルコトハ明白ナリ、其一ハ正ト邪トノ區別ヲ指定ス、其二ハ若シ其命令ヲ阻碍スルトキハ、或ル苦難混雜ヲ蒙ラスルナリ、第一ノ機能ハ畢生間常ニ其働ヲ為ス者ニシテ、第二ノ機能ハ或ル特別ノ境遇ニ於テ其働ヲ現ハス者ナリ、人タル者ハ此幹能ヲ有スルヲ以テ大ナル惡事ヲ為ス者モ、自ラ其罪惡ヲ犯セルヲ知ラザル者ナシ、判断ノ感ヲ有セル自識ナシニ惡事ヲ為スト云フハ至テ罕ナルコトナリ(列幾ノ欧列道德史)

○良心ノ發言ノ働ハ如何ナル者ゾ、良心ハ正理ノ法則ノ特權ト相和合スル者ナリヤ、又之ニ反シテ吾等ノ中心ヲ穿索シ吾等ノ思想ヲ試ミ、若シ其中ニ惡キ部分アラバ之ヲ發見スルコトヲ為サザルカ、良心ハ不思議ノ公平ヲ以テ、我身ノ品性、及ヒ秘密一個特別ノ責任ト事ヲ共ニシ、又我等ノ柔弱ヲ允許シ、其罪惡ヲ罰スルコトヲ為サザルカ、猶其上ニ我身ノ身世ニ於テ時々刻々警戒ト指導トヲ我身ニ加フルコトヲ為サザルカ(ウエニス)  
(物斯ノ基教及道德学)

(乙) 各別

(イ) 良心ハ正邪ヲ証定ス<sup>テステハイ</sup>

○我等ノ道德ノ能力ニ由リテ直接ニ証明シタル真理ハ都テ道德ノ推理ノ最初ノ原理ナリ、我等ノ本務ニ関セルノ知識ハ皆之ヨリ流出スルナリ、道德ノ推理ニ由リテ、余ハ此ノ如キ行為ハ正クシテ道德ノ稱賛ヲ受クベク、此ノ如キハ邪ニシテ、其責罰ヲ受クベク、此ノ如キハ無差別ニシテ善ニモ非ス悪ニモ非ザル者ナルコトヲ試定スルコトヲ得ルナリ (黎徳ノ全書)、

<sup>テステモニイ</sup>

○人類ノ良心ハ自己ニ明白ナル証據ヲ有スル者ナリ、此物ハ我等ガ天然ノ能力ニシテ又人身ノ中ニ存スル、審官 (上帝) ノ代理者ナリ、殊ニ罪惡ノ關係ニ於テハ、其罪状ノ記録者ナリ、良心ハ回<sup>レフレンシヨシ</sup>想的ト気性的トノ自識ヲ兼ネタル者ナレドモ、寧ロ気性的ヲ多シトス (波布ノ基督神学)、

○良心ハ世界ノ音声ノ全ク沈黙セル時ニ於テモ明白ニ我等ニ説話スルナリ、又醒覺ノ時ニ於テ繼續シテ言フ能ハザルコトハ、夢時ニ於テ我等ニ言ヒ得ル者ナリ、(馬典先ノ基督教道德)、

○良心ハ精神ノ照身鏡ナリ、良心ヲ以テ自ラ照ス人ハ、<sup>ゼームス</sup>聖惹米斯ノ示シタルガ如ク、鏡ヲ以テ自己ノ面貌ヲ照ス者ト相比スベキナリ、<sup>ゼレミイテイロル</sup>惹列米迭羅ノ全書、

(ロ) 良心ハ上帝ヲ證明ス

○意思ノ上ニ明白整齊セル順序階級アルハ良心ノ力ニ由リテ成ル者ナリ、

此ノ如キ意思ハ人類ノ上ニ実ニ生活セル管理者アルコトヲ指定スル者ナリ、若シ己ノ意思ヲ破壊スルニ非ザレバ、是ニ付キテ其不信ヲ起スコト能ハザルナリ (力敦ノ宗教入門<sup>リツドソ</sup>)

○人ノ良心ハ人ノ識性ヨリモ真実ナリ、識性何程ニ偽計ヲ用ヒテ良心ヲ鈍クセントスルモ、人ハ其中心ニ於テ、世ニ審判者 (上帝) アリテ惡事ハ必ス罰セラレ、罰セラル、ハ必ス惡事スルコトヲ感ズルナリ、識性ト云フ物ハ、数々自身ヲ以テ、<sup>サルマイシグ</sup>当テ推量又ハ争論ノ境域ノ中ニ誘導スル者ナリ、良心ハ自己ノ審院ニ坐シテ其裁判ヲ下シ、以テ其謬誤ヲ破卻スルナリ、異教ノ神ノ如キハ種々ニ其怪異ノ形ヲ現スル者ナリ、若シ之ニ對シテ真実ノ返答ヲ與フルトキハ、其良心ハ畏縮シ、逡巡シ、回避スベシ、然レドモ最後ニ於テ良心ヲ以テ裁判ヲ為ストキハ、真実ノ返答ヲ為スコトヲ得ベシ (彪些ノ少前知者<sup>ビューセイ</sup>)、

(ハ) 良心ハ人ヲ指導ス

○良心ハ人類ガ事理ヲ解スルノ年齢ニ達スルトキハ、自然ニ我等ノ行為ヲ指導スル者ナリ、譬ヘバ身体ニ具セル眼ノ如シ、或ル過去ヲ回視ルコトアルモ、其天然ノ性ハ前方ヲ視ルニアリ、若シ其職掌ハ専ラ過去ノ行為ヲ回想シ、之ヲ賞賛シ之ヲ誹難スルノミニ在リト云フトキハ、譬ヘハ眼ノ職掌ハ唯通過シタル道路ヲ回視シ、其清潔ナルト汚穢ナルトヲ知ルノミニ在リト云フニ異ナルコトナシ、我眼ヲ適當ニ用フル人ハ、決シテ此ノ如キ謬誤ニ陥ルコトナカルベシ (黎徳ノ全書)、

(二) 良心ハ上帝ニ代リテ言語ス、

○上帝ハ自己ノ代リトシテ良心ヲ我等ニ與へ、法律ヲ我等ニ命ジ、精密ニ其法律ニ服セシメ、之ヲ輕侮スル者ヲ責罰シ、之ヲ循守スル者ヲ賞賛セリ、故ニ良心ハ家内ノ後見人、家ニ属スル神、我住居ノ精灵、即チ天使ナリ、(迭羅尔ノ全書)、

○上帝ハ我精神中ニアル上帝ノ声音ニシテ、我等ノ罪惡ヲ證明シテ、其的切ナル公正ヲ示ス者ナリ、凡ソ人タル者ハ、其上帝ニ関セル道德ハ其生時ヲ以テ終ル者ニ非ザルコトヲ知レリ、是ヲ以テ卓越ナル良心ノ證明ハ、人類ノ意思感覺等ノ差異アルニ似ズシテ、常ニ上帝ノ言語ト相符合スルナリ、此上帝ノ言語ハ我等ノ死後ニ於テ、是ヲ以テ最後ノ判断ヲ為ス者ナリ、(何示)<sup>ホジイ</sup>

(ホ) 良心ハ能ク記録ス、其記録ハ恒久ニ存ス

○良心ノ記録ハ恒久ニシテ渝ルコトナシ、他人ニ於テハ既ニ死シタル行為モ本人ニ在リテハ常ニ生活セリ、<sup>コレリジイ</sup>奇勸利日ガ嘗テ無知ノ下婢ノ話ヲ為シタルコトアリ、此婢其熱病ニテ喪心セルトキ、希臘及ヒ希伯来ノ古語<sup>ヘブライ</sup>ノ幾句ヲ吟誦セリ、其故ヲ尋タルニ、此婢ノ主人タル者常ニ是等ノ古語ヲ誦セシヲ以テ、婢ハ之ヲ聞キテ自然ニ暗記セシ者ナリ、氏ハ此談話ヲ以テ之ヲ課業ニ引用セリ、此婢女ノ事ヲ以テ是ヲ單一ナル行為、單一ナル思想ニ比スレバ頗ル忘失シ易キノ理アリ、蓋シ行為ト思想トハ自主ノ意思ト共ニ發現スル者ナレバ、生命ノ連鎖中ニ各個ノ鎖鑲ヲ着タルガ如

ク其忘失ヲ防グノ便トナル者ナリ、此記憶ハ奇怪ナル象形字ヲ以テ記セル判決ノ帳簿ニシテ、甚タ恐怖スベキ者ナリ(毛里斯ノ良心)、

(ヘ) 良心ハ裁決ヲ為ス<sup>ジャヤシス</sup>

○人タル者ハ皆自己ニ小世界ヲ具有セリ、此小世界中ニ審判ノ廳ヲ建立シ、良心ハ上帝ノ下ニ立チテ最高等ノ判官トナリ、其裁決スル所ハ、更ニ他ニ上告スルコトヲ許サズルナリ、此審院ハ我等ノ行為ニ付キ、我等ノ志謀ニ付キ、裁判ヲ下シ、我身上ニ関シテハ、或ル事ヲ容赦シ、或ル事ヲ責罰シ、我行為ニ管シテハ、<sup>アクションス</sup>或ル事ヲ允准シ或ル事ヲ禁止スルナリ、若シ此審院ニテ我等ヲ責罰スルトキハ、世界擧リテ赦罪セントスルモ其効ヲ奏セズ、又此審院ニテ清潔ナリトスルトキハ、世界ヲ擧テ之ヲ罪セントスルモ其効力ハ至テ微々タル者ナルベシ(何爾ノ全書)<sup>ホール</sup>

○良心ガ判官トナリテ行フ所ノ法則ハ、其一ハ良心ハ心ニ就キテ判決ヲ為ス即チ特別ニ心ノ働キノミニ関シテ判決ヲ為スナリ、身体上ノ働ハ如何ニアルモ、夫ノミニテ判断ヲ下スコトナシ、今余窓外ヲ眺望スルニ、二人ノ男子各処ニテ各別ニ二人ノ小兒ヲ責ムルヲ見タリ、是ヲ見テ余ガ感覺ハ發動シタレドモ二人ノ男子ガ此行事ヲ為セル意思ヲ知ラザルノ間ハ、何レニ就キテモ我良心ハ裁断ヲ下スコトナシ、其二ハ良心ノ判決ハ意思ノ働、殊ニ特別ナル意思ノ働ヲ判決スルナリ、此処ニテハ意思ノ語ハ廣大ナル意味ニ用ヒ、上帝ガ人心ノ中ニ賜與シタル部分ナリトシテ之ヲ視ルナリ、故ニ凡ソ願欲ニ意向決定ノ如キ、人心ニテ適當ニ活動ス

ル者ヲ包括シテ之ヲ言フナリ、其<sup>三</sup>ハ良心ガ或ハ賞シ或ハ非トスルハ、単立ナル行為ニ非ズシテ、此行為ヲ現ハシタル心、即チ行為者ニ就キテ之ヲ判決スルナリ、其<sup>四</sup>ハ良心ハ責任アル行為者ノ心ノ上ニ就キテ判決ヲ為ス者ナリ、良心ハ恰モ狀師ノ地位ニ在ルガ如ク常ニ法律上ノ難事ニ関シテ其意見ヲ問ハル、ナリ、兩個ノ場合ニ於テ、判決ハ其發現セル現象ニ付キ精密ナリト假定スル者ヲ以テ之ヲ行フナリ、然レドモ現象ハ數、偏頗ニシテ、且ツ顛倒スルコトヲ免カレザル者ナリ、其<sup>五</sup>ハ良心ノ判決中ニ或ハ不正確或ハ混雜或ハ明白ナル誤謬アルコトアリ、此ノ如キハ虚假ナル現象ノ上ニ就キテ判決ヲ下セバナリ、今二個ノ人ノ良心、或ハ一個ノ人ニテモ、其時ヲ異ニスルトキハ、同一ノ行事ニ付キテ各異ノ判断ヲ下スコトアリ、実ニ二個ノ行事各異ナルトキハ、判決モ亦各異ナルベシ、其故ハ各異ノ行事ハ良心ノ前ニ於テ同一ナル者ニ非ザレバナリ、其<sup>六</sup>ハ良心ノ判決ニハ幾許ノ種類アリ、之ヲ左ノ如ク分ツベシ、第一良心ハ道德ノ正義ヲ賞賛ス、第二都テ罪惡ナル者ヲ罰責ス、第三、若シ罪惡ヲ犯ストキハ、之ヲ罰責スルハ、適當ナリト宣言ス（馬哥西ノ上帝管理法）、

(ト) 良心ハ勸誡ス、

○我等ノ道德性ハ人々ニ特別ノ通信ヲ為シ、審官（上帝）ニ服從セザルベカラザルコトヲ告知ス、人ノ現今ノ状態ニ於テハ、多クハ睡眠シテ此通信ヲ聞カザルコトアリ、例ヘバ今日ノ事務ニ心ヲ委ネ、又ハ世上ノ矜

高ノ企謀ニ吞併セラレシ時ノ如シ、然レドモ是ニ付キテ真理ヲ知ラスル為メニ幾多ノ平靜ノ瞬間ヲ領取シ、又惡キ偏性ノ烈シキ熱ノ続キテ弛緩ノ状態トナリタルトキ、恐ルベキ力ヲ以テ人ヲ醒覺シ、又暗黒ナル失望ノ時ニ於テ、閃々タル光輝ヲ發シ、又病床ノ間寂ナル時、尖キ声ヲ揚ケ、而シテ又死期已ニ近ヅキ、思想ヲ実行セントスルトキニ於テ、先見アル發言ヲ與フルナリ、良心ハ身上ニ於テ、天使長ノ喇叭ガ衆人ノ為メニ判断ヲ呼出スガ如ク、又他ノ世界ニ於テ不死ノ蟲、不滅ノ火ト為ルガ如シ（馬哥西ノ心ノ直覺）

(チ) 良心ハ罰責ス

○若シ良心ヲ惡クスルトキハ、必ス其内部ニ於テ不穩混雜苦惱ヲ發スルナリ、モシ法律ヲ損害スルトキハ、良心ハ恰モ壓制セル重荷ノ如キ感ヲ為シ、為メニ意ヲ鬱悶スルナリ、若シ此ノ如クナルトキハ、唯良心ヲ以テ重荷トスルニ止マラス、其惡人ヲ責ムルコトハ野獸ニ用フル鞭箠ノ如キ感ヲ為スナリ、彼阿勒士的（希臘ノ小国ノ王子ニシテ、其母ヲ殺シテ父ノ仇ヲ復シタル者ナリ）ガ常ニ羣衆ニ追逐サル、ガ如キ感ヲ為シ、該因（<sup>アブラハム</sup>亞伯拉罕ノ子ニシテ、其弟<sup>アベル</sup>亞伯ヲ殺シタル者ナリ）ガ各地ヲ飄泊シ、我身ヲ脱シテ、己ノ罪惡ヲ呼ブノ声ヲ免カレント欲セシモ遂ニ能ハザリシナリ、凡ソ罪惡ヲ犯シタル者ハ、無人ノ地ニ戰慄シ、木葉ノ落ル音ニ恐怖シ、仇敵ノ精霊、不意ニ其身ヲ襲ヒ、我身ヲ災難ノ中ニ投セントスルコトヲ想像スル者ナリ、（馬典先ノ基督ノ道德學）

(リ) 良心ハ快樂ヲ附與ス

○道德ノ目的ハ感覺ノ我灵魂ニ道德ト幸福トノ結合ヲ成セシムルニ在リ  
(古參)、

○道德ノ幹能ハ、感覺ナクシテ單獨ニ発スル者ニ非ザルナリ、感覺ハ道德ノ能力ノ伴侶隨行ニシテ、其能力ニ快活ト熱心トヲ與フル者ナリ、仁惠、善キ縁由ノ専心、愛国心、慈善ノ諸方ノ如キコトヲ熟考シタル上ニ生スル感覺ハ我精神ニ高崇ナル品位ヲ配與スル者ナリ、(馬哥西ノ上帝管理法)、

(ヌ) 良心ハ我道德性ノ調和ヲ為ス

○良心ハ我身ノ他ノ能力ヲ其威權ノ下ニ服從セシメ、以テ我等ノ諸能力ニ道德ノ調和アルコトヲ表示シ、而シテ吾身ノ全体ニ於テ道德ノ習練ニ必要ナル勢力ヲ備フル者ナリ、凡ソ服從セル諸能力ハ、其働キニ於テ、自ラ法度ノ下ニ立ツノ力ニシテ、管理ヲ為ス諸能力ハ習練ニ用立ヲ所ノ力ナリ、此方法ニ於テ我等ノ氣質、情感、願欲ハ共ニ道德ノ要望ト一致セル指導ノ下ニ置カル、者ナリ (加得烏ノ道德哲学)、

(第八) 良心ノ管理

(甲) 良心ノ權理

○此幹能ハ我身ニ具シタル相当ノ管理者ニシテ、都テ原理、情欲、行為ノ意端ヲ指導整理スルナリ、是則チ良心ノ權理ニシテ、又其職分ナリ、人ハ數、假定セル利益ヲ得ンガ為メ、又ハ情欲ヲ満足センガ為メニ良心

ニ服從スルコトヲ厭ヒ、或ハ之ニ反シ、或ハ之ヲ破ルコトアリト雖ドモ、遂ニ良心ガ天然ニ所有セル權利ト職分トヲ變化スルコト能ハザルナリ

(拔多勒ノ講説)

(乙) 良心ノ威權

○他ノ行為ノ能力ハ良心ヨリモ強キ力ヲ有スル者アリ、然レドモ良心ハ獨リ其威權ヲ有セリ、其天性ヨリシテ、良心ハ吾等ノ行為ニ関シテ指導シ決定スルノ威權アリ、乃チ或ハ判断シ或ハ宥恕シ或ハ非難シ或ハ罰責スル等ノ行為ノ如キ是ナリ、此威權ハ人心ノ他ノ能力ニ屬スル者ニ非ズ、良心ハ上帝ガ吾等ノ内心ニ立テ吾等ノ歩行ヲ導ク所ノ燭炬ナリ、他ノ能力ハ能ク懲懲シ能ク強逼スレドモ、威權ヲ有スルハ獨リ良心ノミナリ、他ノ性能ハ良心ニ管理セラレザルベカラズ、良心ハ決シテ他ノ性能ニ管理セララル、コトナシ (黎徳ノ全書)、

○良心ハ威權ナリ、他ノ能力ハ皆其前ニ屈服セリ、吾儕ハ其命令ヲ蔑視スルコトアリ、然レドモ其詰責ノ声音ヲ聴カザルベカラズ、吾等ハ其詰責ニ反抗スルコトアリ、然レドモ之ヲ廢絶セシムルコト能ハズ、良心ハ意思ノ外ニ獨立スル者ナリ、吾等良心ニ命令ヲ與フルコト能ハズ、然レドモ良心ハ吾等ニ命令セリ (盧太得ノ本原ノ真理)

(丙) 良心ノ威權ハ至極ノ者ニ非ズ、

○余儕ハ良心ノ威權ヲ以テ至極ノ威權ナリト為サズ、此威權ハ他ニ服屬スル所アリテ最上ノ法則ト人類ノ行為ノ中間ノ位ニ立ツ者ナリ、良心ノ

威權ハ最上ノ法則ニ從ヒテ、之ト一致セザルベカラズシテ、人類ノ行為ハ良心ノ威權ニ從ハザルベカラザル者ナリ、良心ハ道德ノ地位ニ非ズ、其目的トスル所ハ、如何ナル者ガ正義ナルカヲ定ムルニ在ルナリ（体物爾ノ道德原始）

（第九）良心ノ表見 マニフレステーションス

（甲）立法上ニ於テ表見ス

○異教ノ世界ニハ良心ハ立法ノ内ニ伏匿ス、上帝ノ威權ハ此ノ如キ法律ヲ求メ又之ヲ創造ス、以色別ノ法律ハ実ニ神意ノ默示ナリ、故ニ其法律ハ此國民ノ客觀ノ良心トナリ、其道德ノ知識ト考案トノ造作者及ビ純清者トナルナリ、天主ノ十誡ノ現ハル、ヤ、國民全体ノ文章中ニ於テ、道德ノ自識ノ純清真実普遍ナルコトニ於テハ、一モ之ト比較スベキ者アルコトナシ、（盧太得ノ道德真理）、

（乙）社會上ニ於テ表見ス

○良心ハ一個人ノ上ニ於テ發見スルノミナラズ、又社會ノ上ニ於テ發見スベシ、獨リ一個人ノミナラズ亦社會ノ良心アリト云フコトハ、左ノ理ニ根スル者ナリ、凡ソ一個人ナル者ハ唯人類社會ノ細分子ニシテ、各一個人ノ本務ヲ有スルノミナラズ、社會ノ全体ニ於テ有機狀ノ結合ヲ為シ、社會ノ本務ニ付キ、集合ノ義務ヲ有シ（衆人ニ對セル一人、一人ニ對セル衆人）因テ共通ノ責任ヲ有シ、若シ罪惡アルトキハ、相互ニ同一ノ罪業ヲ受クルナリ、社會ノ道德ノ活潑有力ナル所ニ於テハ、又公衆ノ意見

ニ據リテ、自己ヲ保持スルコトアリ、（馬典先ノ基督教道德）

（丙）國民上ニ於テ發見ス ネーション

○余ハ或ル一句ヲ智慮アル人ノ語ト、良善ナル書トニ於テ之ヲ見テ之ヲ信セリ、曰ク「國民ノ良心」ト、余ハ謂フ若シ之ヲ失フトキハ、言フベカラザルノ災禍トシテ之ヲ視サルベカラズ、國民ハ共ニ一國ノ中ニ生死シテ満足スル者ナレバ、國民ノ良心ヲ有セサルベカラズ、國民ノ良心トハ、國民各控訴ヲ為シ得ル所ノ良心ナリ、惡事ヲ為スコトヲ得ルノ良心ナリ、昔ヨリ今ニ至ルマデ恒久ニ抱持スル所ノ良心ナリ、（毛里斯ノ良心）

〔第十〕良心ノ狀態及ヒ其種類 ステート カイン

○良心ハ其種ノ習慣及ヒ其適當ノ目的ニ關係シ傾向スルニ由リテ之ヲ諸種ニ分ツベシ、

（一）正シキ、即チ慥カナル良心、正シキ良心ハ、正シキ目的ニ達セ

ンガ為メニ、正シキ方法、又ハ之ト齊シキ方法ヲ以テ、吾等ノ行為ヲ指導スル者ナリ、即チ上帝ノ榮光、公義及宗教ノ尊貴ナル志望、喜捨、有禮ノ交際ノ類ナリ、正シキ良心ニ付キテハ、正シキ道理ヲ以テ実行ニ應用シ、及ヒ道德ノ行為ニ導クノ外、他ニ一物アルコトナシ、

（二）自信ノ良心即チ誤謬ノ良心ハ其実ハ誤解セル良心ナレドモ

真ノ正理ニ從ヒテ為ス者ト同様ノ自信ヲ以テ、其目的ヲ達センコトヲ欲スル者ナリ、吾等ノ良心ハ真実ナル知識ヲ得ルニ非ザレバ良善ノ指導者トナルコト能ハザル者ナリ、吾儕モシ自己ノ良心ヲ信ズレドモ、其良心

ニ誤謬アルトキハ、吾儕ハ路ヲ失ヒタル旅人ノ如ク、此道ナリト考ヘタル、道路ニ向ヒテ其馬ヲ進ムル者ナリ、

(三) 実ラシキ良心、即チ思考セル良心ハ、不堅固ナル意見ニ不十分ニ同意スルコトニシテ、即チ其意見ノ一分ハ十分ニ之ヲ擇ヒ取レドモ、其反對ノ分ハ或ハ明白ニ或ハ含糊ニ之ニ同意スル者ナリ、実ラシキ良心ハ、慥ナル良心ト疑ハシキ良心トノ中間ニ在ル者ニシテ、其兩者中ノ或ル部分ヲ分チ取ル者也、

(四) 疑ハシキ良心ハ両面共ニ眞実ナルベシト考フレドモ、敢テ之ヲ擇ビ取ルコトモ為サズ、又之ヲ抽象スルコトモ為サズ、恐惧ト不堅固ノ精神トニ由リテ、吾等ノ意思ハ其中ニ入りテ判断ヲ為スコト能ハズ、故ニ此良心ハ問題ノ何レノ側ニモ同意スルコトナク、何レニモ直接ノ義務ヲ行フコトナシ、

(五) 用心深キ良心、用心深キトイフコトハ、小ナル意端ヨリ生スル所ノ大ナル心配ニシテ、大ナル不快ナリ、是ニ由リ、良心ハ適當ノ証論ニ由リ十分ニ決定スレドモ、断シテ行為ニ現ハスコト能ハズ、或ハ之ヲ行フモ安心スルコト能ハザル者ナリ、或人ハ過食ヲ恐ル、ヨリシテ、物ヲ食フコトヲ敢テセズ、或人ハ彼力太多ク睡眠センコトヲ怕レテ、數々之ヲ揺リ覺マスコトアリ (送羅ルノ全書)、

○若シ其事ニシテ正ナルカ邪ナルカ明白ナラザルトキハ、其良心ハ疑惑状ヲ為ス者ナリ、若シ此疑惑、行為ノ全体ノ道筋ヨリハ寧ろ各別ノ点ヲ

指ストキハ良心ノ用心トナル、モシ其疑問、熟考ヲ以テ發言シ、自己ノ心ニ由リテ鮮明シ得ルトキニ、吾良心ヲ損害スルコトナクシテ是ヲ為シ得ントスルニハ、安全ナル良心、即チ善良ナル良心ヲ以テ為サンコトヲ要ス (休物爾ノ道德原始)

#### 〔第十一〕 良心ノ管理

(甲) 管理スベカラズト云フ者

○問、規則ヲ以テ良心ヲ管理スルハ必要ナルコトナリヤ、余ハ此問ニ向ヒテ反對ノ意見ヲ有セリ、余ハ良心ニ用フベキ管理法ハ有ラザルベシト考ヘタリ、彼若列未送路ルノ如キ能辯ヲ以テ管理ノ利ヲ説者アレドモ、規則ハ能ク良心ノ判断ヲ定ムル者ニ非ズ、良心ニテ判断シ難キ事ハ、規則ヲ用フルモ其用ヒザル以前ニ異ナルコトナシ、良心ハ法則ヲ求ムレドモ管理ヲ求メズ、自主ヲ求ムレドモ束縛ヲ求メズ、教育ヲ求ムレドモ壓制ヲ求メズ、良心ノ管理ハ十分ニ良善ニシテ信実ナル人ガ、大ナル才幹ヲ以テ之ヲ為ス時トイヘドモ、実行上ニ於テ利益ヲ為ス者ニ非ス (毛里斯ノ良心)、

#### (乙) 管理スベシト言フ者

○良心ハ或ル規則ヲ立テ、之ニ服從セシメザルトキハ、其為スベキ職務ヲ為シ得ルコト能ハズ、其故ハ今我天性ニ於テ全ク不決定ニシテ、善モ悪モ為シ得ル所ノ自動ノ力アリトセンニ、或ル法則又ハ規則ヲ以テ其働ヲ管理指導スルハ、必要ノコトアルベケレバナリ、良心ノ如キモ其試験

判断ノ指向ヲ誤ラザラン為メニハ或ル規則ヲ立テ以テ準度ト為シ、良心ヲ以テ一ニ之ニ據ラシメンコトヲ求メザルベカラザルナリ、(散達孫ノ良心ノ説話)、

(丙) 良心ノ最上ノ規則

○若シ良心ノ最上ノ規則ハ如何ナル物カト尋タレバ、之ニ答ヘテ曰ハン、上帝ノ意思ニシテ、上帝ガ人ニ知ラスル所ノ者はナリ、道理ノ道德学、耶穌ノ道德学ハ共ニ上帝ノ意思ヲ我等ニ知ラスル者ナリ、此ニ學ハ良心ノ最上ノ規則ノ二大部ナリ (休勿爾ノ道德学原始)、

〔第十二〕 良心ノ事情

○人タル者ハ良心ニ於テ正理ナリト考フル所ノ事ヲ行フノ義務アリ、然レドモ如何ナルコトヲ以テ正理ナリトスベキヤト云フコトヲ定ムルニハ、務メテ其能力ヲ使用セザルベカラズ、多クノ場合ニ於テ職分ノ規則ハ明白ニ行為ノ進路ヲ指定シ得ベシ、此ノ如キ時ハ、内部ノ考究ノ為メニ良心ノ工夫ヲ費スコトヲ要セザルナリ、然ルニ或ル職分、即チ道理ト、行為ノ進路ト、反對ヲ現ハスコトアリ、然ルトキハ我等ハ良心ヲ光明ニシ、又之ヲ開導シテ、此二者ノ間ノ差異ニ付キテ之ヲ決断スルコトヲ務メザルベカラズ、是ヲ良心ノ事情ト名ク (休物ルノ道德原始)、

○良心ノ事情ハ其場合頗ル多シ、決疑論者ハ其事情ニ付キテ、宜ク為スベキ事ト、宜ク為スベカラザル事トヲ宣説スレドモ、此事ハ頗ル我行為ヲ混雜セシメ、我思想ヲ苦シムル者ニシテ、其混雜苦惱ハ左ノ要望ヨリ

起ルナリ、我等ハ我快樂、我苦痛、又ハ我師タル所ノ天性ノ命令ニ従ハザルベカラザルカ、或ハ従フベカラザルカ、我等ハ社会ノ命令、即チ社会多數ノ命令ニ従ハザルベカラザルカ、或ハ従フベカラザルカ、社會ノ命令ハ、畏ルベキ責罰ヲ以テ其命令ノ力ヲ強メ、又ハ同情ヲ有セシメンガ為メニ、我等ニ種々ノ賄賂ヲ贈ル者ナリ、吾儕ハ又見ルベカラザル神ノ命令ニ従ヒ、或ル物ヲ犠牲ニ供シテ、或ル職務ヲ成就セザルベカラザルカ、或成就スベカラザルカ、(毛里斯ノ良心)

〔第十三〕 良心ノ自主

(甲) 此意見ニ付キテノ誤謬

○良心ノ自主 (自由) ト云フコトニ付キテハ、粗心ナル思想家ハ其意義ヲ誤ルコトアリ、(一) 良心ノ自主ハ吾好ム所ノ事ヲ為スノ義ニ非ズ、智慮アル人ガ、其經驗上ヨリ言フ所ニ従ヘバ、良心ノ自主ハ反テ束縛ノ如キ者アリ、余若シ其自主ノ人ト為ラント欲スルトキニ、其允許ヲ得タルヲ喜好スルヨリ生スル所ノ自由ナリ、(二) 良心ノ自由ハ、余ガ好ム所ノ事ヲ考思スルノ自由ヲ言フニ非ズ、人ノ思想ナル者ハ常ニ之ヲ管理ノ下ニ置キテ、壓制者ト為ラシムベカラズ、学術家ハ曰ヘリ、吾等ハ常ニ我身ト事物トノ間ニ事物ノ思想ト認識トヲ置クノ危難ニ逢ヘリ、思想ハ吾等ニ、事物ヲ其本来ノ面目ニ於テ見シコトヲ要求ス、吾等ハ我実験スル所ノ事實ヲ誤ラザランコトヲ務メサルベカラズ、吾等ノ決定ハ、總テ事物ノ真理ヲ発見シテ之ニ従ハサルベカラズ、(三) 良心ノ自主ハ西那多、

参黒多林サンヘドリム（猶太教徒ノ會議）又ハ国民ノ集會ニ依リテ得タル者ニ非ズ、

彼若シ之ヲ贈ラント欲スルモ、之ヲ受クル者ハアラザルベシ、彼等ノ仲間中ニハ良心ノ自主ヲ拒ム者モ混淆シ居レバ、到底ニ是等ノ結合体ハ、良心ノ自主ト云フコトヲ知ラザル者做スベシ（毛象斯ノ良心）、

（乙）是ヲ妨グルノ危害

○吾等ガ指示シタル場合ニ於テハ、其仲間中ノ或ル者ノ良心ヲ痿弱シタル社会ハ自己（社会）ノ存立ヲ甚危クシタル者ナリ、社会ノ保存安全ヲ欲セバ、此ノ如キ事実ノナカラシコトヲ要スベシ、摩爾人モールスヲ西班牙ヨリ驅逐シタルコトノ如キハ、彼騎士隊ノ徳アリタル基督教ノ国民ヲ以テ、矜高、貪慾、暴虐ノ国民ニ変ゼシメタルノ助ヲ為セル者ナリ、斯ノ斯丟亜的家ニテハ、英国ト蘇国トニ於テ、彪里单ヒュリタント格惟難得コウヂナゲルヲ滅尽センコトヲ務メタリ、吾等ハ大比敦国ノ中ニ存スル強剛ハ、此王家ノ衰滅ニ由リテ得タルコトヲ知ルナリ、（同上）、

（丙）良心ノ自主ハ基督教ノ利益ナリ、

○基督教ノ最初ノ防護者ハ即チ最初ニ良心ノ自主ヲ唱ヘタル人ナリ、此原理、一時羅馬教門ノ状師ノ為メニ有罪トシテ論ゼラレタレドモ、今日ニ至リテハ、良心ノ自主ト云フコトハ、世界同一ニ証明シ、認許スル所トナリテ、基督教門ノ收果トナリタリ、（盧太得ノ本原ノ真理）、  
○良心ヲ約ビレドスル者ハ獨リ上帝ノミナリ（馬典先ノ基督教道徳）、

〔第十四〕 良心ノ平靜ピース

（甲）真ノ平靜ノ徴候

（一）良心ノ平靜ハ、強キ考究ノ後ニ在ル所ノ歩息レストナリ、希世家ヘゼキヤガ特ニ死セントスルトキ、其生涯ノ行事ヲ回顧シ、其大体ノ行為ニ於テハ、無罪ナルコトヲ考定シ、確然トシテ深く自ラ信ゼリ、良心ノ平靜ハ聖字ノ結果ナリ、故ニ心ノ悪キ人ハ之ヲ得ルコト能ハズ、又悪シキ行事ヲ以テ生活セル人モ之ヲ得ルコト能ハズ、

（二）幸福ノ日ニ於テノミ得ル所ノ平靜ハ、適當ナル神聖ノ平靜ニ非ズ、苦痛心勞ノ時ニモ之ヲ得ル者ヲ以テ真ノ平靜ト為スベシ、若シ苦痛ノ時ニ於テ、内心ヨリ責罰ヲ受ケザルトキハ、心中ニ甚シキ參差不齊ヲ感ズベシ、然レドモ是則チ神聖ノ平靜ナリ、

（三）良心ノ平靜ハ、神聖ナル後悔ノ為メニ與ヘラレタル天幸ニシテ、是ニ由リテ後悔ノ後ニ在リテ能ク其希望ヲ行フコトヲ得ル者ナリ、

（四）真正ナル良心ノ平靜ハ、常ニ神聖ナル畏懼ヒヤアト相結合スル者ナリ、其畏懼トハ、悪事ヲ犯スコトノ畏懼、及ヒ神ノ怒ニ觸レンコトノ畏懼ニシテ、此畏懼ハ道理アリ神聖ニシテ、又謙遜ノ性ヲ有スル者ナリ、決して不注意ト自恃トヲ其間ニ挾ムベキ者ニ非ザルナリ、

（五）真正ナル良心ノ安靜ハ、諛言者ノ舌、又ハ人ノ意想ヲ以テ得タル睡眠ニ非ズ、唯上帝ガ定メタル、正当ナル法度ノ上ニ安定セル内心ノ安靜ナリ（送羅尔ノ全書）

（乙）良心ノ平靜ハ社会ノ支柱ナリ、

○社會ノ大支柱ハ（法律ニ注目シ、公義ヲ分配シ、信任ヲ拂ヒ、約束ヲ守ルニ依リテ、社會ノ堅固平安幸福ヲ保ツ所ノ）良心ナリ、即チ上帝ニ對シテ職分ヲ行フ所ノ感覺ナリ、此感覺ハ上帝ヨリ受クル所ノ賞譽ヲ望ミ罰責ヲ畏ル、ノ心ヨリシテ公義ト平等トヲ仕遂ゲンコトヲ勉ムル者ナリ、又浮世上ノ考案ヲ以テ強ク我身ヲ緊束スルコトナク、又体欲、利益、人情（甚タ円滑ニシテ、不堅固ナル事物）ニ從フヨリハ、寧ロ正理ヲ為シ信仰ヲ注目シ平靜ヲ保ツコトニ向ハシムル者ナリ、（巴午婁）、

### 第三篇

モラル、スタンダード  
道德ノ原理

ゼネラル アイデア  
〔第二〕 全体ノ想念

グット ライト  
（甲） 善及ヒ正

グット  
（イ） 古代ノ道德学 善ノ義

○道德學ノ目的ハ一個人ノ最上ノ善是ナリ、此善ハ人ノ願欲行為感覺トニ關係セル衆目的中ノ一個ノ目的ナリ、又自己ニ對シテ求ムベクシテ、外物ノ志望ノ外ニアル所ノ目的ナリ、又他ノ目的ヲ以テ単ニ其一分、又ハ器械ノ用トシテ之ヲ包括シ、之ト比較シテ其價值ヲ定ムル所ノ目的ナリ、（格羅多ノ亜立士度德）、

○凡ソ道德上ニ於テ自己ニ善ナリトシテ動ク所ノ行為ハ、獨リ外部ノ善ヲ為ス方法ヲ指スノミナラズ、是ヲ以テ自己ノ至極ノ善ノ一部トシテ考へタル者ナリ、此意見ハ、希臘ノ道德學ノ通共ノ想念ニシテ、斯究格ノ

如キハ古代近代ノ兩道德ノ間ノ連鎖ヲ為ス者ナレドモ、亦此意見ヲ採レリ、（西日威ノ道德學集論）

○凡ソ知識ノ中ニ於テハ、善ノ想念ヲ以テ尤モ勝レタリトス、故ニ之ヲ發見センコトハ最モ勉ムル所ナリ、已ニ之ヲ發見シタルトキハ、此想念ハ他ノ万事万物ノ原因トナル者ニシテ、美麗ナリ正義ナル者モ皆原因ヲ愛ニ取ルナリ、実物世界ニ於テハ、光ノ父母及ヒ其主君ノ父母ノ如キ、識性世界ニ於テハ自身ニ主君ノ威權ヲ有シ、自身ヨリ真理及ヒ道理ヲ供給スルナリ、此事ハ睿智ヲ以テ行為スル人ハ、一身ニ對シ、社會ニ對シ、共ニ之ヲ眼中ニ定メ置カザルベカラズ（布拉多ノ公衆）

カテゴリカル、イムベラチーフ  
（ロ） 無上大法

○或ル一個ノ大法アリ、直接ニ或ル行為ヲ命令スル者ニシテ、或ル他ノ志望ヲ由リテ之ヲ得タル者ニ非ズ、此大法ハ即チ無上ナリ、此大法ハ行為ノ事態ニ關係スル者ニ非ズ、又其傾向セル結果ニ干係スル者ニ非ズ、唯自己ノ其形体及ヒ原理、即チ直チニ其結果ト為ル者ナリ、凡ソ眞実ニ善トイフ者ハ人心ノ氣質ノ中ニ成ル者ニシテ、其効驗ハ如何ナルモ敢テ之ヲ問ハザルナリ、此無上ヲ名ケテ道德ノ無上ト曰フ、無上大法ハ唯一個アルノミナリ、即チ世界全体ノ法則トナルベシト考へ得ル所ノ格言ニ依ル所ノ行為是ナリ、（坎德ノ道德性理）

アソリユートグット  
（ハ） 絶對ノ善

○理想ノ念（現在セル事物ノ上ニ超越セル無限ノ想念）ハ道德學ニ必要

ノ者ナリ、道徳学ハ各個ノ場合ニ於テ、人ノ天然ニ從ヒテ動ク所ノ行為ノ上ニ、更ニ夫ヨリ良善ナル行為アリテ、其事ハ殊二人ノ本質ト相協合スベキ者ニシテ、之ヲ成就スルハ獨リ道理ノ命令ニ從フノミナリ、故ニ真正ナル人類ノ學問ト云フ者ハ、唯人類ノ天性ヲ回想スルノミニテ止ムベキ者ニ非ズ、真正ノ人ハ實在ノ人ト同ジカラズ、例ヘバ乙ノ人ハ生命ヲ大切ニシ愛シ、生命ヲ保有スル為メニ或ル物ヲ犠牲ニ供ス、甲ノ人ハ之ニ反シ、我身命ヨリ他ノ物ヲ大切ニシ愛シ、其為メニ何物ヲモ犠牲ニ供シ、我生命ヲモ惜マザルナリ、此ノ如キハ真ニ正義ノ人ト曰フベシ(檀寧ノ道徳学性理)、

## 〔第二〕道徳學ノ主義

(甲) 利己セルフヒト即チ主我エゴイ

(子) 此性質ヲ道徳ノ原理ト為ス、

○主我論ハ一個人ノ幸福、即チ快樂ヲ目標トシテ其行為ヲ定ムル所ノ學說ナリ、此主義ヲ管理スル所ノ意原モチチフハ自愛是ナリ、主我ト自愛トノ二語ハ其意義甚疑似ノ間ニ在ルヲ以テ、道徳学ノ論說ニ於テ數々混雜ヲ致スコトアリ、余儕ハ此語ヲ以テ學問上ノ論說ニ適合セシメシガ為メニ更ニ精密ニ之ヲ解釈セントス、主我論ト云フハ、専ラ我身ヲ主トスル主義ニシテニシテ、人々ノ行為ノ目的ハ、成ルベキタケ、自己ニ最大ノ幸福ヲ得ントスルノ義ナリ、最大ノ幸福トハ、成ルベク快樂ノ大ナル分量ヲ得ントスルノ義ナリ、更ニ語ヲ易ヘラ言ヘバ、快樂ニ反対スル所ノ苦痛ハ

二者相衡リ、苦痛ヨリ快樂ノ最大分量ヲ留存スベキコトナリ(西日威ノ道徳学ノ方法)、

○主我論ノ原理ハ、薩佛ノ和墨耳野ノ寺院ニアル羅伯賽格羅弗ノ碑石ノ文、殊ニ巧ミニ其要ヲ言ヘリ、曰ク余ハ我身ヲ以テ歩行シ、我身ヲ以テ言ヒ、而シテ我身ニ對シテ話ル、又我身觀察シ、我身ニ注意ス、世間一モ我ヨリ注意ヲ為スノ人アルコトナシト、主我説ハ此ノ如ク何事モ皆我身ノ利益ノ中ニ歸セザルコトナシ、(馬典先)、

(イ) 赫威セルウラフ周ノ理論ルウエチユリス 赫氏ハ法國ノ哲學家リ、千七百十五年ニ生シ、千七百二十一年ニ卒ス、

○赫氏ハ自愛心(快樂ヲ求メ苦痛ヲ除カントスル者)ノ中ニ、人類ノ本來ノ意原アルコトヲ発見シ、教育ト法律トヲ以テ、正シク此自愛心ヲ指導スルトキハ、能ク公共ノ善ト協和スルコトヲ得ベシトセリ、十分ニ情欲ヲ押シ付クルトキハ、人ヲシテ遲鈍ナラシムルノ恐アリ、情欲ハ心ヲ肥ス者ナリ、然レドモ法ヲ以テ能ク調整セザルベカラズ、凡ソ一己ノ我意ヲ主張セズ、他人ノ利益ヲモ考ヘ、以テ自己ノ利益ヲ擁護スル人ハ善良ノ人ト云フベシ(由伯勿ノ哲学史)

(ロ) 同人ノ教義

○大人トナラントスルノ望ミハ常ニ苦痛ヲ怕ル、ト、嗜欲的ノ快樂ヲ好ムトヨリ生ス、凡百ノ快樂ハ皆此嗜欲的ノ快樂ニ帰宿スル者ナリ、親愛ノ中ニハ必要ヲ包括ス、必要ナキトキハ友愛ノ情ヲ生スルコトナシ、其故ハ若シ然ラザレバ原因ナクシテ結果ヲ生ズルノコトトナレバナリ、

凡ソ人タル者ハ皆其必要ヲ同フセズ、故ニ彼我ノ間ニ成ル所ノ友誼モ同一ノ意思ヨリシテ成ル者ニ非ズ、或人ハ快樂ヲ必要トシ、或人ハ金錢ヲ必要トシ、或人ハ信用ヲ必要トス、故ニ朋友ニハ金錢ノ朋友アリ、イントリギ隱謀ノ朋友アリ、オネステイ戲笑ノ朋友アリ、不幸ノ朋友アリ、友情ノ力ノ強弱ハ、兩人ノ信実ノ比例ニ非ズシテ、兩人ガ相結合スル所ノ利益ノ比例ニ在リ、我儕ガ平等ヲ好ムハ、エケ井チイ勢力ヲ好ムニ基ス、自己ノ事ニノミ屈托セル人ハ、自己ノ幸福ノ外一モ他ニ求ムル所ナシ、若シ平等ヲ好ムコトアルハ、其人餘儀ナキコトニ逼ラル、ニ由ル者ナリ、吾等何程私心ナキ愛情ヲ發スルコトアルモ、徳ヲ好ムニ由リテ利益ヲ生スルコトナキコトハ、決シテ徳ト云フ物アルコトナシ、マルチニユス(馬底紐ノ引用セル赫氏ノ論説)

(丑) 此主義ニ對セル異見

(イ) 堅固ナル規則ヲ立ツルコト能ハズ

○一個人ノ幸福ヲ得ントスルニ、確實ナル學問ヨリ出タル正当ノ方法アルコトナシ、人々皆此目的ヲ得シガ為メニ、預メ大道ヲ發見センコトヲ務ムレドモ、遂ニ<sup>エムヒリル</sup>実驗ノ方法ニ立歸ルハ、勢ヒ避クベカラザルコトナリ、其故ハ一般ニ堅固ナリト定メタル原理ニ代ルニ、唯吾考案ノ中ニ成レル動搖不定ノ規則ヲ得ルニ過ギザレバナリ、此規則ハ其全体ヲ通觀スルコト能ハズ、只一個人ノ經驗ヲ、注意シテ觀察シ比較シタル關係上ノ價值ニ過ギザル者ナリ、(西日威ノ道德學ノ方法)、

(ロ) 此主義ハ徳誼ト本務トニ反對セザルコトヲ得ズ、

○徳義ト幸福トノ一致ハ完全ナル者ニ非ズ、又一般ナル者ニ非ズ、其完全ナル一致ハ唯<sup>ユトピア</sup>ユトピア(完全ナル社会ヲ想像シタル小説)ニ於テ之ヲ見ルノミ、<sup>ユトピア</sup>ユトピアハ數學ノ問題ノ如ク、法律ナル者ハ道德ノ意見ト相協合シ、<sup>ユトピア</sup>ユトピアハ盡ク發見サレ、適當ニ責罰サル、コトトシテ作りタル者ナリ、然レドモ現存ノ社会、現存ノ人類ヲ以テ之ヲ比較スルトキハ、此理想ハ全ク事実ト相異ナルヲ見ルナリ、主我ノ原理ニ基キテ立タル所ノ行為ノ規則ハ、今日世人ガ習熟セル本務ト徳義トノ規則トハ遂ニ相一致スルコト能ハザルナリ(士提反ノ道德學)

(ハ) 人類ノ天性ノ良善ナル部ヲ破ル

○人ハ天生ノ情感アリテ、能ク同儕ノ利益ヲ感じ、其情感ニ從ヒテ、他人ノ為メニ運動スルコトヲ得ルナリ、此情感ヲ名ケテ愛<sup>アルトロ</sup>他<sup>イズム</sup>心<sup>ト</sup>云フ、我儕ハ、他人ガ得ント欲スル所ノ物ヲ與へ、他人ガ避ケント欲スル所ノ害ヲ防ガンコトヲ望メリ、此情感ハモシ利己心ヲ以テ之ヲ妨グルコトナキトキハ、我同儕ニ對シ、泉水ノ如ク流出スル者ニシテ、又彼等ガ我ニ對シテ利益ヲ得ルガ如ク、吾等モ亦彼ニ對シテ仁愛ヲ行フヨリ生スル高尚ナル快樂ヲ得ベキナリ(馬哥西ノ動感)、

(ニ) 仁愛ノ行為ヲ卑クス

○主我論ニテハ、彼ノ他人ニ快樂ヲ與フルハ、我が至極ノ意原ナリト云フ説ヲ非ナリトシ、他人ニ幸福ヲ與ヘントスルノ願欲ハ、更ニ一層ノ分析ヲ要シ、乃チ基本ハ我身ニ幸福ヲ得ントスルノ願欲ヨリ出ル者ナリト

説ケリ、然ルトキハ余ガ爾ニ親切ヲ尽スハ、後來爾ガ余ニ親切ヲ尽サンガ為メニ為ス者ニシテ、其親切ヲ與フル瞬間ニ於テハ、余ハ至極ノ目的ヲ自識スルコトナシ、然レドモ主我家ノ説ニ從ヘバ、其目的ハ常ニ現存セザルベカラズト云ヘリ、凡ソ自識スベキ願欲ノ目的ハ、我身ノ為メノ自識ト相一致スル者ナリ、余ハ将来ノ遠景ノ終ヲ見ルコト能ハズ、見得ンコトナラバ、余ハ常ニ自ラ回想スル所アルベシ、(士提反ノ道德学)

(ホ) 罪業ノ原理ナリ、

○罪業ト云フ者ハ、人タル者ガ自ラ上帝ノ臣僕ナリト云フコトヲ知ラズシテ、妄リニ主人タランコトヲ望ムニ起ル者ニシテ、是ニ依リ遂ニ上帝ニ不從順トナルナリ、凡ソ人類ノ罪業ハ此不從順ノ連続スル者ナリ、彼ノ主我論者ノ如キハ、罪業ノ国中ニ於ケル第一ノ運動者ト定ムベシ、其故ハ人ハ高等ナル精霊上ニ於テ、世界ノ人ヲ愛スルノ關係アル者ナルニ、自ラ回想シテ利己ノ主義ヲ採リタレバナリ、此主義ハ全ク禁止セラレタル果実ヲ取リテ満足コトヲ望ミシ意思ト全ク同一ノ者ナリ、(馬典先ノ基督道德)、

(乙) 邦國ノ法律、即チ人類ノ社會

(子) 古代ノ社会ノ根元

(伊) 家長法ノ理論ペトリアーカ  
テオリイ

○比較法理学ヲ研究シ得タル所ノ結果ニ依レバ、上古ノ人間社会ノ組織ハ所謂家長主義ニ依ル者ナリ、此家長主義ノ本原ハ、耶蘇教ノ聖書ニ載

ル所ノ下亜細亞ニ居リシ、希伯来人種ノ制度ニ在リ、今聖書創世記に據レバ、一家族中年長ノ男子其家長トナリテ專制權ヲ以テ家族ノ者ヲ支配ス、家長ガ其妻子ニ對スル權ハ、奴隸或ハ家屋ニ對スルト等シク無上無限ニシテ、生殺與奪ノ權ヲ包含ス、唯子孫ハ他日自ラ家長トナルコトヲ得ルト雖ドモ、奴隸ハ然ルヲ得ザルノ差異アルノ外、家長ニ對シテ子孫ノ權敢テ異ナルコトナシ、一家ノ財産ハ、其家ノ共有物ノ如クニシテ、家長、族人ニ代リテ獨リ之ヲ所有スルノ姿アリ、家長死亡スルトキハ、其財産ヲ其子ニ分配ス、長男ハ天然生得ノ權理ニ由リテ、或ハ其弟タル者ヨリ一倍ノ財産ヲ享クルコトアレドモ、通常ハ名譽上ノミ其弟ノ上位シ、財産ノ分配ニ至リテハ平等ノ額ヲ受クルヲ法トス(緬ノ古代法)、

(呂) 古代ノ社会ノ道德ノ責任

○古代ノ社会ニ於テハ、善惡邪正ニ関セズ、之ヲ行ヘル一人ノ行為ヲ以テ、其人ノ属セル族類ノ行為ト混同スルナリ、若シ一族罪ヲ犯スコトアレバ、其罪惡ハ、現ニ犯シシ者ノ罪惡ヲ總計シタル總額ヨリモ大ニシテ、其責ハ獨リ之ヲ犯シ、者ノ一身ニ止マラス、之ニ與カラザル不知情ノ人ニ及ブ、若シ又一人明カニ獨リ罪アルトキハ、其子孫同家族同種族ノ人、若クハ同國ノ人、其人ト共ニ罪ヲ蒙ルコトアリ、或ハ其人ニ代リテ責ニ當ルコトアリ、故ニ子孫其父祖ノ責任ヲ傳承スルコトハ、今日開明ノ時ニ於テハ、怪ムベキガ如クナレドモ、上古家族ハ決シテ死亡セズ永久連続スル者トセシ時代ニ在リテハ、自ラ腦裏ニ浮カビテ、尤モ領會シ易カ

リシナリ(同上)、

(波) 國ノ法律ヲ以テ道德ノ根元トスルノ意見

(イ) 霍畢士ノ説

○人類ノ願欲ト情欲トハ其自躰ニ於テハ罪惡ノ者ニ非ズ、人タル者、其事ノ法律ニ於テ禁止セル者ナルト云フコトヲ知ラザルノ間ハ、全ク情欲ニ從ヒテ行為スルノミナリ、法律ノ製作ナキ間ハ、人ハ則ト云フ物ヲ知ルコト能ハズ、法律ヲ作ラントスル者全国一致セザルノ間ハ、法律トイフ物ヲ製作スルコト能ハズ、凡ソ共同ノ力ナキ所ニハ法律ナク、又不正<sup>インヂヤ</sup>スチスト云フコトモナシ、力<sup>ホ</sup>ト欺詐<sup>ウラ</sup>トハ戰爭ニ於ケル一己ノ首德ナリ、正<sup>シヤ</sup>チス不正(又公義不公義)ハ身体ノ能力ニ非ス、又心ノ能力ニ非ズ、若シ能力ナラバ、知覺物欲ト同ジク、全世界ノ人ハ皆之ヲ具有セザルベカラザルナリ、正不正又公義不公義ハ唯々人ガ社會トノ關係ニ於ケル性相<sup>クワリチイ</sup>ニシテ、獨処ニ於ケル性相ニ非サルナリ(レビエタン書名、水中ノ怪物ノ義)、

○道德学ハ、人類ガ交際上ニ於ケル善ト惡トヲ考究スル所ノ学ニ過ギス、善惡ト云フ語ハ、愛好シ厭惡スルノ意味ヲ表スルノ名目ナリ、此意味ハ人ノ天賦習慣教育ノ異ナルニ從ヒテ、人々皆一樣ナラズ、凡ソ人タル者ハ唯味嗅聽觸視ニ付キテ其快意不快意ノ知覺ノ同ジカラザルノミナラズ、社会ノ公衆ノ行為ニ関シ、其道理ニ協フト、協ハザルトノ知覺ニ於テモ、人々又各同一ナルコト能ハザルナリ、(同上)、

○賣買ノ約定ヲ為ザルノ処ニテハ、讓渡シニ付キ、未ダ正理(權利)ト云フモノアルコトナシ、故ニ人々或ル物ニ付キ、一モ権理ヲ有セル者ナシ、故ニ其行為ニ不正トイフモノ有ルコトナシ、然レドモ若シ賣買ノ約定成ルトキハ、其約定ヲ破ル者ハ不正トナルナリ、而シテ不正(不直)ト云フ語ノ定義ハ約定ヲ履行セザルト云フコトヨリ他ノ義アルコトナシ、之ニ反シ凡ソ不正ナラザル者ハ皆公正ナリ、然レハ相互<sup>コベナント、オフ、シユチュール、トラスト</sup>ノ信用ノ約束ハ、一方ニ於テ之ヲ履行セザランカノ恐レアルヲ以テ、縱令約束ノ本原ハ公正ニ出ヅルト雖ドモ之ヲ不堅固ノ約束ト云フ、然レドモ恐怖ノ根元ヲ除去セザルノ間ハ(恐怖ノ根元ヲ除去スルハ法律ノ力ニ由リテ之ヲ為ス)一モ不正ト云フモノ有ルコトナク、自然ノ戰鬥ノ状態ニ陥ルコトナシ、故ニ不正ノ名義ノ成ル以前ニハ、或ル強迫ノ力ヲ有スル者アリテ、人ニ逼リテ其約束ヲ行ハシムル者ナカルベカラズ、其強迫ノ者ハ責罰ノ力ヲ有シ、人ヲシテ其約束ヲ破リテ得ル利益ヨリハ、更ニ強大ナル責罰ニ遇ハンコトヲ恐怖セシメザルベカラズ、此ノ如キ力ハ国政ノ建設ヨリ以前ニハ決シテアルコトナシ(全上)、

(ロ) 霍畢士ノ説ニ反對スル者

○法律ハ人類ノ職分ノ表示<sup>オキスボ</sup>ニシテ、其根元<sup>オリヂネ</sup>ニ非ズ、法律ハ正義<sup>ヂキヤス</sup>ノ如何ナル物ナルカヲ解説スレドモ、或ル正義ヲ造成スル者ニ非ズ(布拉斯ノレビユー)、夫底孫、士的瓦得ノ説共ニ同ジ、  
○規則ト規則ノ道理トノ間ニ差異アルガ如ク、法律ト法律ノ原理トノ間

ニモ亦差異アリテ、或ハ其反對ノ方ニ進行スルコトアルト云フコトヲ注  
意スルハ肝要ノコトナリ(ワルドフ)（瓦德婁ノ基督教道德）、

○霍氏ノ説ニ謂ヘラク君主ノ臣庶ニ於ケルハ要求スベカラザル所ナシ、  
之ニ反シテ臣庶ノ君主ニ於ケルハ、一モ要求スベキ所ナシト、君主ノ權  
既ニ此ノ如クナルトキハ、其廣大ナルコトイカンゾヤ、彼レ義ヲ行フコ  
トヲ得、亦不義ヲ行フコトヲ得、苟モ君主ノ令スル所ナルトキハ、人ノ  
子ニ教ヘテ其父ヲ殺サシムルモ亦不正ト為スヲ得ズ、君主ノ為ス所固ヨ  
リ理ニ合フコトアリ、亦合ハザルコトアリ、然レドモ君主ノ為ス所ハ、  
理ニ合ハザルモ、亦之ヲ理ニ合ハズト言フコトヲ得ズ、君主ノ權此ノ如  
クナルトキハ、凡ソ國人ノ宗教ヲ崇奉シ、及ビ人倫ノ間ニ處スルニ係リ  
テモ、君主固ヨリ強テ其情ヲ奪フコトヲ得、國人ノ身体ナリ財産ナリ生  
命ナリ、君主皆之ヲ奪フコトヲ得、蓋シ一國ヲ

擧テ君主ノ掌握ニ歸シテ其為サント欲スル所ニ任カス者ナリ、(フイキ)（希衛  
ノ哲学史）

○霍畢士ノ意見ハ道理ヲ侮慢スルノ通言ニシテ道德ニ於テハ利己ニ  
傾向シ、哲学ニ於テハ唯物論トナリ、政事学ニ於テハ壓制政治ヲ奉ズ  
ル者ナリ(ボウカ)（抱宛ノ無形学道德学、  
フロフエツサルベイン）

### (八) 學 師 倍因ノ説

○道德学ノ目的ハ社會ノ中ニ生存セル人類ノ安全幸福ノ一分ニアリ、此  
目的ハ適當ニ強迫サレタル行為ノ規則ニ由リテ之ヲ実行スルコトヲ得ル

者ナリ、○道德ノ明白ナル主意ハ人類ノ安福(グッド、オフ、マンカインド)ニアリ、竊ムベカラズ、  
殺スベカラズ、約束ヲ遂グベシ、誠実ヲ語ルベシト云ヘル神命ハ、之ニ  
他ノ道理ヲ附スル者アルモ、人類交際ノ間ニ起ル所ノ大ナル被害ヲ防グ  
ノ意ニ外ナラズ、(同人ノ道德学)、

### (三) 道德ハ政治ニ似タリ

○道德ノ職分ハ或ル範圍中ニ於テ、人類ノ行為ヲ指定スル所ノ規則命令  
ノ一具ナリ、此規則ヲ管理スルニ二個ノ意原アリ、一者各別ニ之ヲ理會  
セザルベカラズ、其一ノ規則ハ強 迫(コンパルソリイ)ヲ以テ之ヲ行フベキ者ニシテ、若  
シ其規則ヲ破リ、又ハ之ヲ怠ルトキハ、苦痛ヲ以テ之ニ加フルナリ、此  
苦痛ハ責罰又ハ刑罰ト名ク、即チ社會ニ生存スル人類ガ容易ニ熟知セル  
ノ一事ナリ、○此種類ノ規則ヲ發出シ、又ハ之ニ従ハザル者ヲ責罰スル  
所ノ組立ヲ名ケテ政治(ガバメント)又ハ威 權(アウソリテイ)トイフ、此規則ハ皆威權ヲ有シ、又  
義務ヲ負ハスル者ナリ、是ヲ名ケテ本来ノ法律ト云フ、責罰、政治、威  
權、最上權、義務、法律、職分等ノ語ハ、其意義ハ同一ナラザレトモ、  
同一ノ事実ヲ指ス所ノ種々ノ方法ナリ、  
道德学ハ種々ノ点ニ於テ、國ノ政事、即チ法律ニ類似セリ、否、其大部  
分ハ政事ノ威權ヲ以テ之ヲ整理セリ、此二者ガ相吻合スルノ点、及ヒ相  
合ハザルノ点ハ、以下簡單ニ之ヲ述フベシ、

(1) 道德学ノ最要ノ部ハ、都テ國ノ法律ニテ之ヲ引受ケ、又之ヲ支  
持セリ、人身及ヒ財産ノ防護、約束ノ履行、相互ノ義務ノ完成ノ規則ノ

如キハ皆国ノ法律即チ規則ニシテ、国家ガ自己ノ器械ヲ以テ其力ヲ助クル者ナリ、公然ノ威權（政事）ニ由リテ蒙ラスル所ノ責罰ハ総テ之ヲ法律ノ制裁ト云フ、此責罰ハ其他ノ責罰ニ比スレバ嚴厲無情ニ之ヲ執行スル者ナリ、

(2) 道德学ノ職分ニハ、政事ノ威權ヲ以テ其力ヲ助クル者アルノミナラズ、又私設ノ社會ノ勢力ヲ以テ其力ヲ助クル者アリ、此ノ如キ者ヲ或ハ名ケテ榮譽ノ法則ト云フ、其故ハモシ已ノ職分ヲ破ルトキハ、其社會ノ儕輩ヨリ榮譽尊敬ヲ失フノ罰ヲ受クレバナリ、勇氣、身ヲ守ルノ智、貞節、正教ノ信心、及ヒ或ル趣味ト風習トニ協合スル等ノコトハ、社會ノ衆意ニ於テ多少希望スル所ナリ、若シ之ヲ損壞スルトキハ、社會ニ於テ、或ハ之ヲ賤侮シ、或ハ絶交スル等ノ罰ヲ與フルナリ、此ノ如キ者ヲ名ケテ社會ノ制裁又ハ民間ノ制裁ト云フ、

公衆ノ意見ハ又法律ト一致スルコトアリ、是ニ由リ、若シ之ヲ犯ス者アレバ社會ノ制裁ノ上ニ更ニ法律ノ罰責ヲ加フルコトアリ、但シ法律ト公衆ノ意見ト相抵觸スルトキハ然ルコト能ハズ、凡ソ法律ニ由リテ刑罰ヲ受クルトキハ、更ニ社會ノ賤辱ヲ受クルノ罰ヲ加ヘラル、ヲ常トス、

(3) 国ノ法律ハ廣ク道德ノ法律及ヒ其実施ノ機關ノ外ノ事ヲモ包括スル者ナリ、政治ノ界域ハ適當ナル防護ノ職分ノ外ニ進出シ、公衆ノ便宜ノ為ニ多クノ法制ヲ定ムルコトアリ、此法制ハ或ハ正邪ノ定義ト相一致セザル者アリ、(同人ノ道德学)

(ホ) 道德ノ規則ハ賞美ヲ以テ支持ス

○規則ノ第二種ハ罰責ヲ以テ支持セズシテ（上ノ2号ノ符ヲ見ルベシ）賞美ヲ以テ支持スルナリ、社會ハ人ノ不慈悲不親愛ナルヲ責ムル代リニ、又慈悲親愛ナル者ヲ賞美ス、道德ニ於テハ固ヨリ仁愛トイフコトヲ教フレドモ、法律ノ本旨ニハカ、ルコトナシ、法律ノ上ヨリ言フトキハ、仁愛慈悲ノ如キハ必ス為サ、ルベカラズト云フコトニハ非ズ、唯全ク人ノ自 由ヲ以テ之ヲ為ストキハ、之ヲ德義又ハ高尚ナル行為ト名クルノミナリ、社會ニ賞美サル、所ノ行為ハ自己ノ功績トナルナリ、或ハ他人ノ為メニ我心力ヲ勞シ、我身ヲ犠牲ニスルコトアルモ、其望ム所ハ惟其人ノ満足ヲ得ルニ止マラズシテ、社會公衆ノ賞賛ヲ得ント欲スルニアリ、

凡ソ我本務ト名クル所ノ事ヲ誠実堅固ニ執行スル者ハ公衆ノ尊恭ヲ受クルヲ常トス（同人ノ道德学）、

(ヘ) 學師倍因ノ説ノ批評

(イ) 倍因ノ説ハ高崇ナル品性ヲ損ス

○凡ソ兵士及ヒ水夫ノ如キヲ訓練スルハ、倍因ノ格言ナル公共ノ良心ニト云ヘル主義ニ從ヒテ教育ヲ為スベシトイヘルハ衆人ノ信ズル所ナリ、然レドモ其兵卒又水夫タル者ガ自己ニ我トイフコトヲ感知スル者アルトキ、即チ余ハ或ル事ヲ為サ、ルベカラザルカ、余ハ或ル事ハ為スベカラザルカトイフコトヲ考フルトキハ、其処ニ如何ナル事ノ生ズルヤ、

余等ノ答ハ左ノ如シ、若シ此自身トイヘル感覺ノ起ラザルトキ、若シ人タル者ガ、自己ノ職分ヲ為サバカラストイフコトヲ知ラザルトキ、若シ士卒或ハ水夫ガ其職分ヲ行フハ、倍因カ所謂刑罰ノ畏怖ヨリ生スル者ト理會スルトキ、若シ將校タル者其士卒ノ服従ヲ以テ奴隷ノ畏怖ノ如クナランコトヲ望ムトキハ、自ラ判断シテ我身ヲ以テ吾身ト為スコト能ハズ、若シ士卒水夫ノ從順、全ク倍因ノ論スル所ニ反對スルニ非ザレバ、余ハ戰場ニ於テ背ヲ敵ニ示スノ陣隊ナシト言フコト能ハズ、又旗ヲ卸シテ降伏スルノ船艦ナレト言フコト能ハズ、將校ノ眼ノ如キ声ノ如キ其舉動ノ如キ、其同情ノ如キハ皆能ク羣衆ヲシテ野蠻人ガ為セル報復ヨリ更ニ恐ルベキ敵軍ニ向ヒ其苦痛ヲ忘レテ突進セシムルハ、明白ナル症例ニ由リテ知ルベキコトナリ、凡ソ一個人ヲシテ死セザルベカラザルノ地ニ立タシムルコトハ、多数ノ人ガ或ハ言ヒ或ハ行フコトニ因リテ之ヲ考フベキ者ニ非ザルナリ、而シテ能ク其事ヲ為シ得ルハ、其人、余ハ此處ニ在リ、此處ハ余ガ在ラザルベカラザルノ地ナリトイフ心ヨリ起リテ之ヲ為シ得ルナリ、(毛里西ノ良心)、

(ろ) 社會ハ尤モ恐ルベキ怪物

○凡ソ世間ニ解シ難ク、見ルベカラズシテ、又利益ナキ所ノ力ハ社會ノ力ヲ第一トス、此力ハ特別ニ生存セント務ムル所ノ各人ヲ恐怖セシメ、又之ヲ押潰ス者ナリ、其力ハ何處ニアル、其力ハ如何ナル物ゾ、其力ヲ出スハ誰人ゾ、父母、教師、立法者ハ其行為人ナリ、此力ハ現今

ノ光明ヲ我等ノ小兒室ヨリ驅逐セリト自負スル所ノ怕ルベキ幽魂ヲ其中ニ聚合セル者ナリ、(同上)、

[丙] 制欲教

(伊) 其主義ヲ記ス、

○制欲教ノ原語ヲ「アツセチズム」ト云フ、本ト希臘ヨリ出デテ、力士ガ角技場ニ於テ其身ヲ鍛練スルノ義ナリ、此語ニ比喻法ヲ轉ジテ、劣等ノ目的ニ傾ク所ノ身軀ノ欲望、及ヒ情感ヲ抑制服従シテ、純潔ニシテ有徳ナル、高等ノ人身トナランコトヲ欲スルノ意ニ用ヒタル者ナリ、是ニ由リ、人心ハ浮世ノ障碍ト誘惑トヨリ離レ、凡ソ精神ト眞実トニ屬スル事ニ付キテ、其見込ヲ明白ニスルナリ、其下等ノ階級ニ於テハ、断食、懺悔、及ヒ此ノ如キ類ノ事ヲ行ヒテ、其肉欲ヲ抑制スルコトヲ謀レドモ、高等ノ意味ニ於テハ、都テ恒久ナラザル浮世ノ欲望ヲ根絶シ、生命ノ天然ノ關係ヨリ退去セシムルニアリ、(比利敦學術語彙、  
○制欲教ト云フハ、人ヲシテ道理ト職分トノ法則ニ從ヒテ其要須ヲ管理セシムルノミナラズ、更ニ全ク之ヲ滅絶セシムルカ、然ラザルモ、為シ得ル限りハ之ニ抵抗セシムル所ノ教義ヲ云フ、此制欲ハ獨リ身体ノ要須ヲ抑制スルニ止マラズ、更ニ中心、想像、心智ノ要須ヲモ抑制セシムル者ナリ、社会ト家族ト、又ハ文明ノ學術ヲモ、時トシテハ形体上ノ快樂トシテ之ヲ制スルコトアリ、獨リ灵魂ニ注意シ神明ヲ顧念スルヲ以テ、已ノ事業トスルナリ(哲學辭書)、

○凡ソ明白公正ナル心ノ中ニ我<sup>ブレチユエチス</sup>意ヲ發生セシムルノ一例トシテハ、  
本<sup>ベシタム</sup>黨ノ書ヲ引クコトヲ得ベシ、本氏曰ク余制欲教ノ主義ヲ觀ルニ、利益  
説ノ主義ト同ジク、或ル行為ヲ或ハ賞美シ或ハ嫌惡スル者ナリ、即チ或  
ル一派ノ利益ヲ或ハ増シ或ハ減セントスル行為ニ就キテ好惡ヲ為スナリ、  
然レドモ其方法ハ全ク相反シテ、制欲教ニテハ幸福ヲ減ズル所ノ行為ヲ  
賞美シ、幸福ヲ増ス所ノ行為ヲ厭惡スルナリ（道德法律ノ原理）、

(呂) 其根元及ヒ成長

(イ) 一般ノ人類ニ於テ

○此思想ト行為トハ、其初メ東國ノ意見ニ、獨一<sup>ユニ</sup>即チ同一<sup>アイデン</sup>ハ真正  
ノ善ト幸福トニシテ、<sup>マルク</sup>複雑<sup>マルク</sup>即チ<sup>デフエ</sup>殊異<sup>レシテ</sup>ハ惡ト困窮ナリト云フコトヨ  
リ起レリ、上帝、絶對、精神ニ於ケル抽象ノ語ニシテ、<sup>マター</sup>複雑<sup>マター</sup>ハ物ニ對  
セル抽象ノ語ナリ、東國及ヒ希臘ノ人ハ共ニ物ヲ以テ惡ノ根元ナリトセ  
リ、今人身ニハ精神ト形体トノ二者アリ、精神ハ神ノ影ニシテ、又其發  
生物ナリ、身体ハ其中ニ種々ノ願望情欲ヲ具シテ、物ノ性ヲ有セリ、故  
ニ身体ハ元來惡ナル者ナリ、真ノ幸福（吾、人ノ真ノ生命）ハ上帝ヲ  
<sup>コンテムプレション</sup>顧念シ、總テ上帝ノ獨一元氣ニ歸着スルヨリ生スル者ニシテ、此  
最好ノ意見ハ、獨リ精神ヲ養成シ、身体ヲ抑制スルニ由リテ之ヲ得ベキ  
者ナリ、凡ソ願欲情欲ハ之ヲ壓抑根絶セザルベカラズ、其稱贊スベキ行  
為ハ、離羣索居、窮困、不嫁娶、齋食、懺悔ナリ、故ニ余儕ハ諸國ニ於  
テ上帝ノ光明ヲ得ント欲スル者ハ、常ニ是等ノ行為方法ヲ以テ自ラ準備

スル者ヲ見ルナリ、印度ノ「フハキルス」、<sup>ジヨギス</sup>「デルヴ井セス」、  
裸形外道<sup>ジムソフ</sup>ノ如キ、及ヒ佛法ノ諸派ノ如キ、希伯來ノ「ナザリテス」、  
「チャシデム」、及ヒ希臘ノ諸神ノ祭司ノ如キハ皆此法ヲ奉行セル者ナリ  
（英国學術語典）、

(ロ) 婆羅門教ニ於テ

○制欲忍苦ノ行為ハ婆羅門教ノ中ニ組織セラル、者ニシテ、此教義ハ全ク制  
欲ノ主義ヲ除キ去ルトキハ、成立スルコト能ハザル者ナリ、

婆羅門教ニ於テハ、制欲ノ原理ハ上古ニ於テ起リタル者ニシテ、此行為ニ依  
リテ尤モ強大ナル勢力ヲ有スルニ至ルベシト假定セリ、近代ノ印度ノ制  
欲家ハ、是ヲ以テ人類ノ命運ヲ完成シタル者ニシテ、死後ニ於テ他ノ形  
體ニ變ズルノ代リニ<sup>ワイルデルニス</sup>荒殘ノ狀ニ立戻リ、以テ最高等ノ元氣中ニ吸入  
セラル、ノ準備ヲ為ス者ナリト説ケリ、婆羅門教ニ於テ肉食ヲ禁ズルコトハ  
佛教ヨリ嚴ナリ、然レドモ瞿曇ノ門徒ハ、好シテ生命ヲ失フコトヲ為サ  
ズ、故ニ婆羅門ニ於テ高等ノ功能アリト稱スル「パシユヤジナ」即チ「ア  
スワメダ」（其身ヲ犠牲ニスルノ義）ヲバ之ヲ惡シテ甚シク非付セリ、  
<sup>ハルヂイ</sup>（哈尔底ノ東方修行教）<sup>モナキズム</sup>

(ハ) 基督教ニ於テ

(イ) 何レヨリ來レル

○制欲ノ主義ハ基督教ヨリ早く行ハレタルコトハ衆人ノ許ス所ナリ、例ヘ  
バ猶太人ノ「エッセネス」（教派ノ名）ノ如キハ、全ク此主義ヲ以テ成リ

タル教派ナリ、此主義ハ東方ニ於テ、心ト物ト反對セルトイフ教義ニ於テ殊ニ其勢力ヲ有シ、希臘ノ、快樂ヲ以テ主義トセル哲学ニ於テモ亦之ヲ認定セリ、然レドモ基督教ニ於テ制欲主義ノ十分ニ發達シタルハ実ニ基督教ト亜勒山得黎ノ教義ト相結合スルノ時ニアリテ、猶太教ト布拉多哲学ノ聚合ノ感化ノ下ニ立テル国ニ於テ初メテ其実事ヲ現ハセリ、此制欲ノ本来ノ主義ハ、其狭キ意味ニ於テ二個ノ道徳ノ行為トナレリ、其一ハ是ヲ以テ公衆全体ニ於テ行フベキ義務トシ、其二ハ高等ナル聖教ヲ奉スル者ノ行フ所ニシテ、情欲ノ如キハ唯之ヲ抑制スルノミナラズ、全ク之ヲ根絶スベキ者トセリ、此教義ハ布拉多派即比答臥拉派ノ教義ニ於テ、万物ニ從ヒテ生活スルト、万物ノ上ニ生活スルトノ區別ヲ立タル者ト大ニ相似タリ（斯密士ノ古代基督教辞典）、

(三) 其發達ノ順序

○基督教ノ第一世及ヒ其後ノ半期ニ及ブマデ、其教義中ニ制欲ノ一科ヲ設ケシコトナシ、改宗ノ熱ノ盛ナリシトキ、教門ハ縮小密合ノ姿ヲ為シテ四方ノ敵ト抗争セリ、此時ニハ基督教ノ事業ハ恰モ制欲苦行ノ事業ヲ為セリ、即チ忍耐、堪苦、克己等ノ行ヲ為シタリ、紀元後百五十年後ノ一世期ニ於テ、制欲ノ意義更ニ嚴密トナリ、幾ンド特別ナル制欲教ノ状態ヲ現ハセリ、然レドモ其行為者ハ敢テ此科ヲ以テ他ノ學業ト分立スルコトヲ望マザリシナリ、アテナゴラス 亜の拔拉ハ男女婚嫁ヲ禁ズベキコトヲ説キ、ユージェニウス 欧泄彪ハ制欲ニ身ヲ委スル人ハ貧賤ノ地位ヲ守ルベキコトヲ述ベタリ、

第三世ノ中葉ハ基督教制欲主義ノ發達ノ時ナリ、アントニウス、パウロ・アムモン 及ヒ自余ノ埃及ノ基督教家ハ都邑村里ニ於テ嚴正ナル制欲ノ行ヲ為スヲ不可トシ、土地ノ係属ヲ離レザルベカラザルコトトシ、自ラ率先シテ荒野山林ニ住居シ、全ク社會ノ交際ヲ避ケテ其中ニ生死セリ、

第四世ノ中葉ニ及ビテ、基督教ノ初メテ一個形体ヲ成セル性質ヲ帯ビタリ、此時ニ至リ制欲ノ語ハ殆ント修行ノ語ト同一ノ意義トナレリ、修行教派ノ設立セシ以來、制欲主義ノ歴史ハ修行士ノ歴史ニ合セリ、(同上)、  
(波) 其顛倒及ヒ使用

(イ) 制欲主義ノ過失

○制欲主義ハ全ク徳ノ運用ナリ、其徳ハ自己ニ運用スルノミニテ、他ノ物質ヲ含有スルコトナシ、此主義ハ社會ヲ以テ、己ノ境域ノ外ニ置キ、社會ノ利益ヲ以テ我職分ト為サズ、唯自己ノ天福ヲ得ルヲ以テ己ノ事業ト為シ、純潔嚴正ナル行為ヲ以テ自勉ムル者ナリ、ビーチズム 制欲家ノ身世、修行士ノ身世ハ、共ニ一偏ノ者タルコトヲ免レズ、基督教ニテ、此主義ヲ実行スル者ハ、肉体ヲ制シ、浮世ノ事ヲ滅シテ、全ク其身ノ罪惡ヲ消除セントスルニ在リ、然レドモ基督教ノ精神ニ由リテ人ノ智力發達スルニ及ビ、竟ニ此事ヲ稱説スル者ナキニ至レリ、此主義ニ依レバ、唯天福ヲ受ケタル死アリテ、現世ニアル天福ヲ受タル生活ハ、之ヲ注目セザル者ノ如シ、(馬典先ノ基督教道徳)、  
○制欲主義ハ勝利ニ非ズシテ敗北ナリ、争鬪ノ場ヲ立退キタルナリ、有

形ノ原質ヲ服從セシムルノ望ヲ絶チタル者ナリ、虚無ノ外ニ一ノ方法アルコトヲ知ラザル者ナリ、(布勒銑色ノ修行士ノ生活)、

(ロ) 真正ノ制欲主義

○制欲ノ主義ハ何レモ宗教ノ傾向ニヨリテ發達スル者ニシテ、最高ノ制裁ヲ有スル者ナリ、其定義ハ聖保羅ハ之ヲ賞賛シ、之ヲ守護シ、又眞実ノ結果アルコトヲ約セリ、其言ニ曰ク、爾自ラ神信心ノ為メニ之ヲ行フベシト、宗教家タル者ハ必ス信神ノ心ヨリ制欲ヲ為サザルベカラズ、此ノ如キ制欲ハ、其中ニ傲慢、廣言、功業ヲ好ムノ感覺、外面ノ宗教ノ悦樂、腐敗セル自己ノ解剖等ヲ全ク壓服スルコトヲ包含セリ、信神ハ此習練ヲ称美シ、且之ヲ以テ其目的トスルナリ、保羅又曰ク、余ハ上帝及ヒ人類ニ對シテ、良心ヨリ罪過ヲ呼ハル、トキニ之ヲ行フナリ、此前後ノ二言ニ於テ、純情ナル制欲ハ共ニ之ヲ稱美セラレタリ、(波布ノ基督教神学)、

○上ニ記セル者ノ外、猶惡事ヲ言ヒ、惡事ヲ聽クコトヲ戒メ、汚穢ヲ去リ報復ノ感覺ヲ除キ、貪婪ヲ戒メ、以テ真心ヲ清淨ニシ、而シテ齋食ノ日ニハ麵包ト野菜ト水トヲ以テ自ラ満足シ、以テ上帝ニ礼謝スベシ、然レドモ又此日ニ於テ、爾ガ餘マスベキ食料ヲ概算シ、之ヲ寡婦孤兒貧人ニ平等ニ分與スベシ、(ヘルマスノ牧羊者)、

(ニ) 豪傑ニ於ケル制欲ノ價値

○凡ソ一ノ志望ヲ懷キ、事業ヲ立ント欲スル者ハ何人ヲ論セズ、必ス先

ツ已ヲ誘惑スル者ヲ除キ去ランコトヲ務メサルベカラズ、拿破崙一世帝ハ常ニ快意ノ事ヲ棄テ、難苦ノ事ヲ擇ビ取レリ、此時法蘭西ノ民ハ皆快樂ヲ以テ生活ノ目的トシ、苦痛ヲ避クルヲ以テ最大ノ希望トセリ、拿破崙其難苦ヲ擇ビ取ルノ氣力ヲ以テ、此民ヲ踏倒シテ遂ニ其君ト為レリ、亞力伯山ノ雪モ、帶甲セル軍士モ一モ帝ニ抗敵スル者ナシ、唯帝ガ修煉シタルト同様ノ修煉ヲ為シ、世俗ノ上ノ世界ニ望ヲ屬シ、高等ノ目的ノ為メニ、苦痛ヲ忍ヒ得ル所ノ人ニ出合ヒタル時ノミ帝ハ其制欲ノ功ニ依リテ得タル強力ヲ失ヒタリ(毛里斯ノ良心)、

(ハ) 羅馬教ト波羅特士教ト相反ス

○羅馬教ノ教義ニ依レバ、制欲ノ行ハ、其事、即チ神聖、功績ニシテ贖罪ノ力アル者ナリ、波羅特士ノ教義ニ依レバ、制欲ノ主義ハ特ニ肉軀ノ健全ヲ保ツ方法ニ過ギズシテ、其行為ハ健全ヲ得ルニ必要ナルヲ以テ限リトスル者ナリ、羅馬ノ教門ニテハ、節抑制欲ノ行為ヲ以テ信神ノ証拠ナリトシテ之ヲ貴ベリ、我等ノ教門(新教)ニテハ、此教義ヲ採ラズ、其制欲ノ行ヲ為スハ信神ノ証拠ニ非ズ、唯是ヲ得ンガ為ノ方法ナリトシテ之ヲ行ヘリ、此最後ノ見込ハ能ク法則ニ協ヒ、又要用ナル者トスベシ、(盧答多ノ道德真理)

(丁) 道德知覺ノ理論

(伊) 沙弗の不利

○沙氏ガ道德知覺ノ教義ニ付キテノ説ハ、簡畧ニ爰ニ述ブルコトヲ得ベ

シ、凡ソ人タル者ハ、皆最初ヨリシテ天然ニ正邪ノ知覚ヲ有セリ、之ヲ  
モラルセンズ モラルセンズ コンセンズ 道徳ノ知覚又良心ト云フ（沙氏ハ此ニ語ヲ以テ異形同義ノ語ト為セリ）、  
此知覚ハ其天然ノ有様ニ於テ全ク（或ハ大分）イモーションナル 動感状ヲ為セリ、然レド  
モ教育ト進修トヲ受クベキ者ナルヲ以テ、其中ノ道理分即チ  
反省ノ元質分子ハ漸々ニ高崇トナルナリ、此知覚ハ直接ノ認識ニシ  
テ、又道理状動感状ノ元質ヲ認識スル外ニハ、之カ分析ヲ試ムルコト能  
ハザル者ナリ、此意見ニ付キ、沙氏ノ道徳ノ知覚トイヘル語ハ、後ニ記  
セル拔多勒ノ「良心」トイヘル物ト少シク同シカラズ、其尤モ異ナル所  
ノ点ハ、拔氏ノ説ニ依レバ道理状ト反省状トノ元質ハ、沙氏ノ説ヨリ高  
等ノ位格ヲ領セリ、又拔氏ノ良心ト云フ物ハ、沙氏ノ道徳知覚ヨリハ絶  
對ニシテ、又画一ノ性ヲ有スル者ナリト考ヘタリ、ユニホルム（厚勒爾ノ沙弗的不  
利及夫底遜）

（呂）師朗士夫底遜ノ教義

○凡ソ或ル情感ト此情感ヨリ發セル行為トヲ天然直接ニ之ヲ稱賛  
スルノ決デテルミネーション定ヲ有シ、敢テ他ノ知覚又ハ推理ノ力ヲ假ラズト云フコ  
トハ、世人モシ精密ニ注意シ反省スルトキハ、皆自己ノ身ニ於テ之ヲ証  
明スルコトヲ得ベシ、若シ此決定ヲ以テ知覚或ハ気性ト名クルトキハ、  
此知覚即チ気性ハ、禽獸ノ有スルガ如キ単ニ形体ノ構造ニ属スル劣等ノ  
種類ニ非ズシテ、判断力又ハ推理力ノ如ク我灵魂中ニ固有セル決定ナル  
コトヲ知り得ベシ、リーズン道理ナル者ハ唯吾等ノ認識ト意思トノ決定ヲ補助ス

ルノカタルコトハ明白ナルコトナリ、アルチメートメント終極ノ目的ハ、或ル知覚ト或ル意  
思トノ決定ニ由リテ定マル者ナリ、吾儕ハ或ル知覚ニ由リテ幸福ヲ喜ビ、  
又自愛ノ性ハ推理ノ力ヲ用フルコトナクシテ、幸福ニ決定スルナリ、道  
理ハ唯方法ヲ指定スルニ要用ナルノミナラズ、又預メ他ノ直接ノ力ニ由  
リテ成リタル目的ヲ比較スルニ要用ナル者ナリ、システム（道徳哲学ノ組織）

（子）徳ト仁愛トニ干係セル道徳ノ知覚

○夫氏ノ説ハ、沙氏ノ汎然タル意見ニ、新ナル心象学ノ區別ヲ加ヘテ更  
ニ明白ニ發達セリ、乃チ靜定セル仁愛ト（拔氏ノ所謂靜定セル自愛ニ同  
ジ）タルヒューメント、パツションズ騷擾セル情（利己及ヒ社会ニ對セル）トノ區別ヲ立テタリ、夫  
氏ハ又拔氏ノ説ニ從ヒテ、道徳ノ知覚ノ上ニ、之ヲ管理スル力ヲ要スル  
コトヲ説ケリ、然レドモ又親切ナル情感ヲ以テ道徳中ノ賞美スベキ重要  
ナル目的ナリト言ヘリ、乃チ靜定シテ廣張セル情感ハ、騷擾シテ狹隘ナ  
ル情感ニ勝レリトセリ、夫氏ハ又謂フ、凡ソ勝レタル稱賛秀美ヲ得ル所  
ノ秀美ナル氣質ハ、衆人ニ對シテ靜定堅固普遍同一ナル善意○ヲ在  
リ、是ニ由リ其人ハ感覺アル形身ノ最高ナル幸福ヲ望ムコトヲ得ルナリ、  
又道徳上ノ秀美ノ願望愛好モ是ニ由リテ望ムコトヲ得ルナリ、此秀美ナ  
ル者ハ此尤モ稱賛セラル、普遍ノ善意ト相離レザル所ノ者ナリ、此二個  
ノ原理（形身ノ幸福ト道徳ノ秀美ノ見）ハ相抵觸スル者ニ非ズ、故ニ何  
レヲ以テ最高トスルノ要用アラズ、夫底遜ハ此二者ヲ以テ同等ノ者ナリ  
トシテ之ヲ論ジタリ、惟第二ノ意味ヨリ之ヲ言フトキハ、稱賛ヲ得ルコ

トハ、人ノ材能ト氣 質トニ属スル者ニシテ、又直チニ誠実、剛毅、榮譽ノ知覺ノ如キ、有徳ノ感覺ト相結合スル者ナリ、又是ヨリ下レル等級ニ及ビテハ其稱賛ハ學術ヨリ得タル熟練ト才能トニ由ル者ニシテ、全ク道德ヨリ得タル者ニ非ズ、即チ榮譽ノ意味ノ如ク、道德ヨリ離レテ惟恰當ト位格トニ干係スル者ナリ、夫氏ハ靜定セル自愛（自愛ノ体）ヲ以テ道德上ノ稱賛不稱賛ノ目的トセズ、唯自愛ヨリ生スル所ノ行為（自愛ノ用）ニシテ、仁愛ヲ欠クコトナリ、又他人ニ損害ヲ與フルコトナキ者ハ、全ク道德ノ意味ニ異ナルコトナシト考ヘタリ、夫氏ハ又此時ニ於テ幸福ノ元質ヲ精密ニ分解センコトヲ求メ、以テ一己ノ利益ハ公衆ノ利益及ヒ仁愛ト相一致スル者ナルカヲ究メントセリ、沙氏ハ一己ノ善ハ公衆ノ善トハ相協合スル者ナルコトヲ主持シタレドモ、夫氏ハ殊ニ注意シテ、仁愛ノ感覺ハ実ニ私心ヲ離レタル美德ナルコトヲ論定セリ、（西日鳥ノ道德史要、

〔戊〕同感ノ道德学 エテツクス、オ  
ブ、シムバチイ

アダムスミス  
亜當斯密士ノ説

○若シ人類タル者、少シモ己カ儕輩ト交際スルコトナク、寂莫ノ地ニ於テ單獨ニ成長スルトキハ、其人ハ自己ノ面兒ノ醜ヲ知ルノミニテ、自己ノ品性、自己ノ感覺ト行為トノ適當ナルト過失アルト、及ヒ自己ノ心ノ美麗ナルト醜惡ナルトニ付キテ、一モ考案ニ上ルコトナカルベシ、是等ノ諸件ハ、天然ニハ之ヲ見ルコト能ハズ、又之ニ注意スルモ、之ヲ映

ジ出スベキ鏡ナキトキハ、容易ニ之ヲ知ルコト能ハザルベシ、然ルニ此人ヲ以テ社會ノ内ニ入ル、トキハ、従前未タ所有セザリシ鏡ヲ直チニ備フルコトヲ得ベシ、此時ニ方リテ、其人ノ目ニ、其交際スル所ノ衆人ノ面貌行為ヲ現シ、衆人ハ又我感覺ニ付キテ可否ヲ為ス者アリ、是ニ於テ初メテ吾情欲ノ適當不適當ト、我心ノ美好ト醜惡ナルトヲ見ルコトヲ得ルナリ、初メヨリ交際ニ慣レザルノ人ハ、吾情欲ノ目的トナル外物（或ハ我ヲ喜バセ、或ハ吾ヲ害スル）ニ付キテ十分ノ注意ヲ起スコトナカルベシ、此外物ニ提起サル、所ノ或ハ好ミ或ハ厭ヒ或ハ喜ビ或ハ哀シム所ノ情欲、直接ニ其人ノ前ニ現ハル、者ナレドモ未タ其人ノ思想ノ目的トナルニ至ラザルナリ、此情欲ノ想念ハ未タ其人ノ意ヲ注グル思慮ヲ喚起スルホドノ必要ヲ與ヘザルナリ、此情欲ノ原因ハ屢、之ヲ提起スト雖ドモ、其喜樂ノ思慮ハ新ナル喜樂ヲ提起スルニ至ラズ、憂愁ノ思慮ハ新ナル憂愁ヲ提起スルニ至ラズ、若シ此人ヲ社會ノ中ニ入ル、トキハ、其人ノ自己ノ情欲ハ直チニ新ナル情欲ノ原因トナルベシ、其情欲中ノ或ル者ハ世人ニ稱賛セラレ、或ル者ハ他人ニ厭忌セラル、ナルベシ、是ニ由リ或ル場合ニテハ、高擧セラレ、或ル場合ニテハ賤視セラレ、其人ノ愛好厭忌喜樂憂愁ハ、數、新ナル愛好厭忌喜樂憂愁ノ原因トナルベシ、故ニ是等ノ感情ハ此人ノ為メニ深ク感ジ、其注意強キ思考ヲ呼起スニ至ルナルベシ（亜當斯密士ノ道德感覺ノ理論、

○休摸ハ徳義ト罪惡トノ效驗ヲ或ハ認識シ或ハ推知シ、是ニ由リテ同

○<sup>シムハバチツク</sup>感的満足<sup>フレヂュール</sup>ヲ得ルコトノ要用ニシテ且ツ現実ナルコトヲ説ケリ、  
○<sup>シムハバチツク</sup>当斯密士ハ敢テ休摸ノ此説ヲ拒否スルコトナシ、然レドモ斯密士ハ人類  
○<sup>シムハバチツク</sup>總体ノ道德ノ感覺ノ切要ナル部分ハ休摸ノ言フガ如キ者ニ在ラズシテ、

○<sup>シムハバチツク</sup>唯行為ト言語トニ由リテ提起サレタル衝動ト、直<sup>シムハバチツク</sup>發<sup>シムハバチツク</sup>ノ同感<sup>シムハバチツク</sup>ト在リト  
為ス、此ノ如キ時ハ、自然ニ發スル同感ハ人類天性ノ固有ニシテ、其義  
ヲ解説スルコト能ハザル者ナリ、然レドモ其同感ノ働ハ、甚有力ノ物ニ  
シテ、人々皆何レモ自己ノ感覺ト他人ノ感覺ト相一致スルトキニ於テ満  
足ヲ生シ、此満足ニ由リテ同感ノ働ヲ保ツ者ナリ、此最初ノ元質(天然  
ノ同感)ハ種々ノ方法ヲ以テ錯綜スル者ナレバ、斯密士ハ是ガ為メニ道  
徳ノ自識ニ生スル種々ノ現象ヲ一々<sup>セミモアル</sup>鮮明セリ、先ツ第一ニ<sup>シムハバチツク</sup>適合<sup>シムハバチツク</sup>即チ  
○<sup>シムハバチツク</sup>順応<sup>シムハバチツク</sup>ノ如キハ、半<sup>シムハバチツク</sup>道德トシテ考フベキ者ニシテ、社會上ノ他人ニ行為  
ニ付キテ、此意見(適合)ヲ応用セントスルニハ、此ノ如キ行為(適合)  
ノ為メニ發シタル我同感ノ度ニ由リテ其意見ヲ定メザルベカラズ、此目  
的ニ恰当シタリトテ他人ノ感情ヲ稱譽スルハ即チ他人ノ為メニ同感ヲ發  
シタル者ナリ、又我等ノ同感ノ達セザル度ニアルカ、又ハ我等ノ同感ノ  
欠亡セルトキハ、他人ノ感情ヲ厭忌スルニ至ルナリ、其故ハ吾儕多クハ  
他人ノ想像ノ感覺ニ由リテ同感ヲ起スコトナレバ、若シ実ニ他人ニ此感  
覺ナキヲ知ルトキハ、同感ハ忽チ消滅スルナリ、故ニ發現セル感覺ノ好  
趣味ハ、總テ觀覽者ガ發スル同感ノ表現ニ從ヒテ、或ハ減シ或ハ上ル者  
ナリ、若シ感情ヲ制抑スルノ勉力、驚欲又ハ快樂ノ或ル度ニ於テ表見ス

ルトキハ、徳誼ト秀美トニ付キ<sup>シムハバチツク</sup>感服<sup>シムハバチツク</sup>ヲ提起ス、斯密士ハ此感服ヲ名  
ケテ<sup>シムハバチツク</sup>畏敬<sup>シムハバチツク</sup>又ハ<sup>シムハバチツク</sup>尊恭<sup>シムハバチツク</sup>ト名ケ、<sup>シムハバチツク</sup>溫和ナル徳ト全ク異ナル者トセリ、(西日  
威ノ道德史要)、

○夫レ人我相感ズルノ情ハ、自然ニ發スル者ニシテ、人々ノ自ラ好ミテ  
之ヲ出タス所ニ非ズ、之ヲ要スルニ此一情ハ意性ノ自由ト絶ヘテ交渉有  
ルコトナシ、然ルヲ斯密士ハ是ニ慮及セズシテ、此ヲ以テ道德ノ本原ト  
為シ、ハ蓋シ謬レリ、且感激ノ一情ハ人々高下相同ジキ者ニ非ズシテ資  
質ノ異同ニ随ヒテ大ニ其度ヲ異ニスルヲ免カレズ、斯密士是ニ於テ一則  
ヲ垂示シテ以為ラク感激ノ情ヲ料理シテ過不及ナカラシメント欲セバ、  
唯務メテ傍觀者ノ感情ヲ以テ模範ト為シコトヲ求メテ足ランノミ、他ナ  
シ、傍觀者ハモト虚心平氣ナルヲ以テ、其感情自ラ公平ナレバナリト、  
殊ニ知ラズ傍觀者ノ能ク公平ナルコトヲ得ル所以ノ者ハ他ナシ、彼能ク  
其良智ニ諮詢シテ之ヲ出シテ情念ニ純ナラザルガ故ナリ、然ルヲ斯密士  
此良智ニ見ルアラズシテ、出入定メナキノ一情ニ由リ、以テ確乎不易ノ  
道德ノ法則ヲ得ントスルハ、豈前後矛盾スルニ非ズヤ、(非<sup>シムハバチツク</sup>衛<sup>シムハバチツク</sup>ノ哲學史)、

(己) 利益論<sup>ユニフルサリスチ</sup>即チ一切ノ主樂教<sup>ユニフルサリスチ</sup>、  
(子) 其概論<sup>ユニフルサリスチ</sup>

○利益論トハ道德學ノ主義ノ名ニシテ、凡ソ明白ニ<sup>シムハバチツク</sup>正理<sup>シムハバチツク</sup>ナリトイフ行為  
ハ、人類全躰ノ為メニ<sup>シムハバチツク</sup>最<sup>シムハバチツク</sup>多<sup>シムハバチツク</sup>量<sup>シムハバチツク</sup>ノ幸福ヲ生ズル所ノ者ヲ指ス、若

「西國道學纂論 上」解題

「西國道學纂論 上」は、八二七―一三四「西國道學纂論 聖語録」

に「聖語録」と合綴されている。内題は「西國道徳哲學講義稿本一」と

なっているから、道徳哲學の講義のための準備資料であると思われる。

すべて英語原書からの摘要であるから、あるいは、道徳哲學にかんする

アンソロジーの原書があるかとも考えて探索したが確認できなかった。

西村が、道徳哲學について講義するために、自ら研究して集めた諸説を、体系的に配列したものかと推測する。

聖語録第一冊

米国 但以利坤威 編  
（タニエル・コンウェイ）

日本 西村 茂樹 譯

第一篇

法則ラウ

第一章

〔西乃山中〕シナイ 余ガ此日ニ於テ汝等ニ告クル所ノ訓誡ハ、汝等ニ匿ス所ア

ルニ非ズ、又汝等ニ遠隔セル者ニ非ズ、若シ天ノ中ニ在ル者ナリトセバ、

汝等ハ謂フベシ誰カ我為メニ天ニ上リ、我為メニ之ヲ携ヘ歸リ、我ヲシ

テ之ヲ聞キ、且ツ之ヲ行ハシムル者アランヤト、然ルニ此訓誡ハ天上ニ

在ル者ニ非ズ、若シ又海ノ外ニ在ル者ナリトスルトキハ、汝等ハ謂フベ

シ誰カ我為メニ海ヲ踰エ、我為メニ之ヲ携歸リ、我ヲシテ之ヲ聞キ、且

ツ之ヲ行ハシムル者アランヤト、然ルニ此訓誡ハ海ノ外ニ在ル者ニ非ズ、

此訓誡ハ汝等ガ為メニ甚タ至近ニシテ、汝等ノ口ト汝等ノ心トニ在リテ、

能ク汝等ヲシテ之ヲ行フコトヲ得シムル者ナリ、（ヘブライ）（希伯來經申命記）

第二章 法則ラウ

汝ハ汝自身ノ為メニ彫像セル偶像ヲ作ルベカラズ、所謂偶像ハ凡ソ天上

ニ在ル所ノ物、地上ニ在ル所ノ物、地下ノ水中ニ在ル所ノ物ニ象トリテ

作りタル物ヲ言フナリ、

汝ハ汝ノ身ヲ此偶像ノ前ニ屈スルコト勿カルベシ、又偶像ノ為メニ役ヲ執ルコト勿カルベシ、

汝ハ父ト母トヲ尊敬スベシ 汝ハ兇殺ノ罪ヲ犯スコト勿カルベシ、

汝ハ他人ノ物ヲ竊ムコト勿カルベシ、

汝ハ汝ノ隣人（同儕）ノ為メニ偽證ヲ立ツルコト勿カレ、

汝ハ汝ノ隣人ノ所有物ヲ貪求スルコト勿カレ、

汝ハ他国ノ人ヲ害シ、又ハ之ヲ陵虐スルコト勿カレ、

汝ハ寡婦ト孤兒トヲ苦シマシムルコト勿カレ、

汝ハ裁判及ヒ尺度量衡ニ於テ不正ヲ行フコト勿カレ、正シキ天平、正シ

キ稱量、正シキエバ（希伯來）正シキヒ（同上）ハ汝ノ所有物ナルベシ、

汝ハ隣人ヲ愛スルコト、汝ノ身ヲ愛スルガ如クスベシ、（希伯來聖經）創

世記、利未記

### 第三章 禁條

爾ハ騙局ト強逼トヲ以テ他人ノ所有物ヲ奪取シ、又ハ之ヲ佔有スルコトヲ戒ムベシ、

爾ハ爾ノ望メル適當ノ目的ニ非サルノ人ヨリ之ヲ避クベシ

爾ハ言語ト行為トヲ以テ他人ヲ欺クコトヲ戒ムベシ、

爾ハ酒ニ爛醉スルコトヲ戒ムベシ、（佛書）シヤメース

### 第四章 四個ノ徳誼アル志向

他人ノ為メニ幸福ヲ求ムルコトハ、吾身ノ為メニ之ヲ求ムルニ同ジ、

萬姓ノ安全ノ為メニ憐憫アル情感ヲ起ス、

萬姓ヲ愛患シ、又之ヲ好樂ス、

選取ト我意トヲ防遏シテ偏頗スルコトナシ、（佛書）シヤメース

### 第五章 八種ノ道路

第一ハ正當ナル教法ノ想念、第二ハ正當ナル意思、第三正當ナル説話、

（言語ノ精密）、第四正當ナル行為、第五正當ナル生活（罪惡ト好勝トヲ

去リ）、第六、正當ナル懇求（即チ最上ノ吉昌ナル涅槃ヲ求ムルノ勉力）

第七、正當ナル記憶、第八、十分ナル静定ニ於テ正當ナル熟慮、（佛書）

シヤメース

按スルニ支那譯佛書ニ八正道アリ、一曰正見、二曰正思惟、三曰正語、四曰正業、五曰正精進、六曰正定、七曰正念、八曰正命、

### 第六章 倚頼ノ謬誤

世俗間ノ利益ヲ以テ自ラ誇ルコト勿レ、甚シク世俗ノ文飾リ為スコト勿カレ、甚シク富ニ倚頼スルコト勿カレ、君主ニ倚頼スルコト勿カレ、過

度ニ受ケタル尊敬ニ倚頼スルコト勿カレ、己ガ親族ト、祖先ノ高大トニ

倚頼スルコト勿カレ、己ガ生命ニ倚頼スルコト勿カレ、生命ハ終ニ死ス

ベキ者ナレバナリ、（彼斯書） 智ノ精神

### 第七章 道徳

淫慾ヲ以テ汚穢レタル人ハ韋陀（梵）モ、寛洪モ、供奠モ、細心モ、信心ノ戒行モ皆以テ吉昌ヲ與フルコト能ハズ、

智者ハ常ニ教門ノ礼式ヲ習學セズト雖ドモ、眞実ニ己ガ道德ノ職分ヲ勉メ行フ、若シ礼式ノミヲ修ムル時ハ、其人品卑下シ、道德ノ職分ヲ十分ニ行フコト能ハズ、

完全ナル徳ヲ行フ為メニ二條ノ道路アリ、一ハ誠実ナルコト、二ハ受造物ニ害ヲ施サズルコトナリ、(印度ノマニユール)

#### 第八章 種子及果実

ブリギユーハ其心ニハ純粹ナル徳ヲ以テ充タシ、其学ハマニユーヨリ出タル者ナリ、

大聖者<sup>マニシ</sup>嘗テブリギユーニ語リテ曰ク、此世界ノ行為ニ於テ果実ヲ得ルニ錯誤ナキ規則アリ、爾宜シク之ヲ聴クベシ、

知ノ行動、言語ノ行動、身体ノ行動共ニ善ナレバ善果ヲ結ビ、悪ナレバ、悪果ヲ結ブ、又人々ノ知言行、或ハ高崇ニ或ハ中等ニ或ハ卑陋ニ移易スルニ從ヒ、果実モ亦高中卑ノ数等ヲ結ブ者ナリ、

行動ニハ知言行ノ三様アレドモ、之ヲ指令シテ行動セシムル者ハ吾心ニ在ルコトハ衆人ノ明カニ知ル所ナリ、

善良ハ固ヨリ眞実ノ知識ナリ、<sup>ダークネス</sup>暗昧、<sup>パッション</sup>無知、<sup>パッション</sup>情感、<sup>パッション</sup>願欲ノ動、此ノ如キ性相ハ衆人ノ皆具有スル所ナリ、

神道ヲ学知シ、信心、清潔、克己、職分ヲ完成シ、上帝ノ存在ヲ熟考スルコトハ、善良ノ性相ニ伴フ所ノ諸徳ナリ、

教法及ヒ道德ノ行為ヲ好ムノ意思、小事ニ逢ヒテ心ノ擾亂スル、法律ノ

禁スル所ノ事ヲ犯ス、利己ノ満足ヲ恣ニスルコトハ感情ノ性相ニ伴フ所ノ諸性ナリ、

貪欲、無知、吝嗇、誹謗、不信心、人ノ恩恵ヲ求ムルノ習慣、必要ナル事業ニ注意セザルコトハ、暗昧ノ性相ニ属スルコトナリ、

暗昧ノ性相ニハ、総テ人ノ恥辱トナルベキ行為ハ皆之ニ属ス、感情ニハ、総テ高擧好名ノ行為之ニ属ス、善良ニハ総テ上帝ヲ知ランコトヲ望ムノ

行為之ニ属ス、此ノ如キ行為ハ、決シテ世間ニ恥辱ヲ受タルコトナク、又己ノ本心ノ安和ナル歎喜ヲ得ル所ノ者ナリ、

善良ヲ賦與セラレタル心霊ハ、神ノ性質ヲ得、好勝ノ感情ヲ賦與セラレタル心霊ハ人ノ性質ヲ得、暗昧ノ中ニ決シタル心霊ハ、禽獸ノ性質ヲ得、

是レ三段變遷ノ順序ナリ、(印度ノマニユール)、

#### 第九章 公道

余ハ我身ノ助ニナルベキコト、及ビ害ニナルベキコトヲ管理スルコト能ハズ、此事ハ両ナガラ共ニ上帝ノ意思ヨリ出ル者ナリ、余モシ上帝ノ秘密ヲ知ルコトヲ得バ、必ス利益ヲ呼返シ、害悪ハ我身ニ觸レザル様ニスベシ、

事物ノ最モ善キ事ヲ為セ、総テ公道ニアル所ノ事ヲ命ゼヨ、無知ヲ遠離セヨ、吾身ノ外ハ、他人ニ重荷ヲ負ハシムルコト勿カレ、

父母、親族、孤子、貧人、隣人(自国人他人ノ別ナク)、同ク旅行スル人、路人、奴隸ヲ善ク遇スベシ、

嗚呼信者ヨ、上帝ノ前ニ於テ証據ヲ得タルナラバ、爾ノ身、爾ノ父母、  
爾ノ親族ノ意ニ抗スルトモ、能ク公道ヲ守リテ自立セヨ、其抗論スル人  
ノ貧富ニ関セザレ、上帝ハ爾ヨリハ二者益ニ親シ、故ニ爾ハ真理ヲ誤マ  
ラザランガ為メニ、爾ノ情ニ随フコト勿カレ、

実ニ偽善ハ最低キ地獄ノ底ニ在ル者ナリ、

上帝ハ已ガ為メニ世人ニ二個ノ心ヲ與フルコトナシ、

虚偽ヲ以テ真実ヲ被覆スベカラズ、爾モシ真実ヲ知ラバ、決シテ之ヲ隠  
匿スベカラズ、

爾ハ已レノ身ヲ忘レテ、他人ノ為メニ正理ナル事ハ、尽ク之ヲ行ハント  
欲スルナルカ、

嗚呼信者ヨ、上帝ノ証憑ニ據リテ、正直ノ上ニ立定スベシ、爾ヲ不正ニ  
導クベキ悪シキ意思ヲ生スルコト勿カレ、必ス正直ニ其身ヲ行フベシ、

此事ハ虔信ニ最近キノコトナリ、

衆生ヨ、能ク朝ニ其目前ニ現ハル、事物ニ注意セヨ、

## 第十章 相互ノ務

孔子ノ語ヲ集ム 畧ス

## 第十一章 職分ヂユ チーヌ

足ルコトヲ知ル、善ヲ以テ悪ニ報ユ、男女ノ情慾ヲ制抑ス、不正ノ利益  
ヲ戒ム、戒行ヲ淨潔ニス、五官ノ感覺ヲ管治ス、神聖ノ書ヲ学ブ、超秀  
セル靈智(天帝ヲ指ス)ヲ知ル、誠実ヲ守ル、忿怒ヲ除ク、是ヲ人間十

條ノ職分ト言フ、

人タル者ハ常ニ誠実公道、賞賛ヲ受クベキ習慣、及ヒ淨潔ナル事ノ中ニ  
於テ自ラ快樂ヲ取ルベシ、能ク已レノ言語手腕及ヒ欲心ヲ制シテ、已ガ  
臣下ト為シ置クベシ、

法則ニ背キタル富ト快樂トハ之ヲ遠離スベシ、假令法則ニ協ヒタル行為  
ニテモ、未來ノ苦惱ヲ生スベキコト、及ヒ他人ニ害ヲ及ボスベキコトハ、  
共ニ之ヲ遠離スベシ、

人ハ敏捷ナル手、休息セザル足、運轉シ易キ眼ヲ有スベカラズ、又已ノ  
道路ヲ迂曲ニ取ルベカラズ、又説話ヲ為ス輕快ナルベカラズ、悪事ヲ為  
スニ智慧アルベカラズ、

人タル者ハ、善人ノ歩ミタル道路ニ循ヒテ歩行スベシ、(印度ノ「マニユ」)、

## 第十二章 法則

爾ハ自カラ好マザル所ノ方法ヲ以テ、爾ノ兄弟ヲ處スルコト勿カレ  
驕誇傲慢ヲ為スコト勿カレ、

能ク誠実ノ道ヲ守リ、尔ガ可ナリト言フコトハ実ニ可ニシテ、尔ガ否ナ  
リト言フコトハ実ニ否ナラシメヨ

過実ノ言及ヒ誇大ノ言ヲ吐クコト勿カレ

爾ノ事業ヲ以テ微弱及ヒ瑣末ナルコトニ委托スルコト勿カレ、

醜キ滑稽、恥辱ノ言語、背後ニ誹謗スル等ノコトヲ好ムコト勿カレ、  
爾ノ怒ヲ制シテ不當ノ語ヲ吐クニ至ラシムルコト勿カレ、若シ然ルトキ

ハ爾ノ身ニ斥罵凌辱ヲ来タスノミナラズ、或ハ酷ナル返報ヲ得ルコトアラシ、

怒リ懲ラシ、言語ヲ慎ミ、精神ヲ戒淨ニスル所ノ人ハ、能ク諸ノ禍害ニ勝ツ者ナリ、

悪人ヲ罪スルコトヲ急グベカラズ、

若シ人アリテ、爾ニ對シテ悪事ヲ行ハ、夫ニ付キ、其人ヲシテ自己ノ罪ヲ知りテ之ヲ改メシメヨ、然ラザルトキハ、其人已レノ悪事ヲ知ラズシテ、再ヒ罪ヲ犯スコトアルベシ、

爾、万事ヲ以テ上帝ニ委託スベシ、上帝ハ能ク事物ノ秘密ヲ知レリ、上帝ハ爾ノ管治者トナルニ十分ナルベシ、又爾ノ為メニ美ナル決断ヲ命令スルニ十分ナルベシ、(亜拉伯ノサベインノ書<sup>エヒラチ</sup>ハセテ法律<sup>エヒラチ</sup>)

### 第十三章 公平

爾等ハ虚欺ノ報告ヲ為スコト勿カレ、爾等ハ害ヲ為スベキ証據ヲ立テンガ為メニ、悪人ト手ヲ組合フコト勿カレ、爾等ハ悪ヲ為サントシテ、大家ノ所為ニ倣フコト勿カレ、又顛倒シタル判断ヲ為サントシテ、大家ノ方ニ傾倚スルコト勿カレ、又其訴訟ニ付キテ貧人ノ方ニ偏助スルコト勿カレ、

若シ爾ノ敵人、牛驢ヲ路ニ失フニ逢ハ、之ヲ其主人ニ送り還スベシ、又爾ヲ苦シメタル人ノ驢ヲ見タルトキ、及ヒ其人ヲ助ケンコトヲ思ハザル時モ、務メテ助ケザルベカラズ、

爾ハ訴訟ニ於テ、貧人ノ裁判ヲ顛倒スルコト勿カレ、常ニ虚偽ノ事ヲ遠ザクベシ、又賄賂ヲ貪ルコト勿カレ、何則賄賂ハ明白ニ見ユル眼ヲ盲ニシ、公正ノ言語ヲ顛倒セシムル者ナレバナリ、爾ハ他国ノ人ヲ凌虐スルコト勿カレ、爾ハ他国ノ人ヲ知ルナルベシ、何則埃及ノ地ニ於テハ、爾等モ亦他国人ナレバナリ、

六日間ハ爾等ハ動作スベシ、而シテ爾等ノ牛驢ヲ休息セシムルガ為メ、又尔ノ侍婢ノ子、及ヒ他国ノ人ニ氣力ヲ蘇セシムルガ為メニ、第七日ニ於テ休息スベシ(希伯来經ノ出埃及記)

### 第十四章 職分

(イラエル)以色列ノ諸子ノ集會ニ語ラン、爾等ハ宜シク聖潔ナルベシ、尔等ノ人々ハ、爾ノ母ト父トヲ尊敬スベシ、尔等偶像ニ心ヲ向クルコト勿カレ、鑄造セル諸神ヲ信奉スルコト勿カレ、

若シ爾等ノ土地ノ收穫ヲ刈ル時ハ、尔等ハ尽ク田野ノ木穂ヲ收ムベカラズ、又葡萄園ヲ刈リ尽スコト勿カレ、又其園ノ葡萄ヲ悉ク採拾スルコト勿カレ、是等ヲ以テ貧人又ハ他国ノ人ノ為メニ残シ置クベシ、爾等竊盜スルコト勿カレ、虚偽ヲ為スコト勿カレ、他人ヲ欺クコト勿カレ、爾ノ隣人ヲ凌虐スルコト勿カレ、又之ヲ掠奪スルコト勿カレ、爾ハ傭使セル奴僕ノ給金ヲ與ヘズシテ、終夜ヨリ明朝ニ至ルコト勿カレ、

爾等聾者ヲ困苦セシムベカラズ、又盲者ノ前ニ躓クベキ木石ノ塊ヲ置クコト勿カレ、

尔等ハ裁判ヲ為スニ不公平ナルコト勿カレ、尔等ハ貧賤ノ人ヲ恭敬スルコト勿カレ、又威權アル人ヲ尊重スルコト勿カレ、爾ノ隣人ヲ裁判スルニ、常ニ正直ニ依ルベシ、

爾ハ尔カ同国ノ讒者テイルヒレルト事ヲ共ニスルコト勿カレ、又隣人ノ鮮血ニ抗敵シテ奮起スルコト勿カレ、

爾等ハ兄弟ヲ中心ヨリ怨疾スルコト勿カレ、爾ノ隣人ヲ誹謗スルコトナク、隣人ノ身上ニ害惡ヲ施スコト勿カレ、爾ハ国民ノ兒子ニ向ヒテ報復ヲ為スコト勿カレ、唯隣人ヲ愛スルコト已ノ身ノ如クスベシ、

爾等ハ占考ヲ用フルコト勿カレ、又時代ヲ注目スルコト勿カレ、年ヲ経タル人ノ居ル所ニテハ、爾等ハ起立スベシ、爾等ハ老人ノ面ヲ尊敬スベシ、

魔術ヲ使フ者ヲ見ルコト勿カレ、并ヒテ魔術ヲ求ムルコト勿カレ、若シ他国ノ人、尔等ノ国ニ於テ爾等ト同居スルトキハ、其人ヲ苦シムベカラス、

若シ尔等ノ間ニ一人ノ出生スルコトアラバ、其人ハ尔等ト同居スル所ノ他国人ナリ、尔等ハ、其人ヲ愛スルコト、尔等ノ身ノ如クスベシ、(希伯来経ノ利未記)

第十五章 仁恵 ヒューマニテイ

若シ奴隸ノ其主ヲ遁レテ来ル者アラバ、爾等ハ之ヲ其主ニ還スベカラス、其奴隸ハ自己ノ好ヲ以テ門戸ヲ擇バセ、尔ト共ニ居住セシムベシ、尔等

ハ其人ヲ凌虐スルコトアルベカラス、

爾等ハ其雇ヒタル奴僕ヲ凌虐スルコト勿カレ、其奴僕ハ貧窮ニシテ已ムコトヲ得ザルヨリ、尔等ニ雇ハレタルナリ、其人ハ自国人ナリトモ、他国人ナリトモ、尔等ノ門戸ノ内ニ住居スレバ皆同ジコトナリ、其日ニ於テ爾等ハ賃銀ヲ雇人ニ與へ、日ノ未タ下ラザル前ニ於テスベシ、其故ハ其人ハ甚貧ナルヲ以テ、常ニ心ヲ賃銀上ニ置ク者ナレバナリ、爾ハ埃及ノ地ニ在ル間ハ、其身モ亦俘囚ノ身ナリト云フコトヲ反思スベシ、爾ノ牛若シ尔ノ穀木ヲ踏ミタルトキハ、尔ハ其口ヲ纏絡スルコト勿カルベシ、(同上ノ出埃及記、

第十六章 不公道 インジャステス

天ト夜来者トヲ以テ尽ク世界ノ人ヲ監視セシム、夜来者ハ何ゾヤ、光輝透徹ナル星ナリ、尔等ハ孤兒ヲ恭敬セズ、又相互ニ貧窮者ヲ救育スルコトヲ勸励セズ、爾等ハ貧冒ニシテ人ノ遺財ヲ貪レリ、又過度ノ愛情ヲ以テ富人ヲ愛セリ、嗚呼物ヲ度量スル人、若シ他人ヨリ物ヲ取ラントスルトキハ、十分ニ度量ヲ満タシメ、人ニ物ニ與ヘントスルトキハ、度量ヲ減シテ之ヲ量ル、然レドモ尔等ニハ常ニ監視人アリ、尔等ノ行為ヲ知りテ明白ニ記録スル人アリ、(亜拉伯ノ哥蘭)、

第十七章 公道 ジャステス

凡ソ公道ヲ失ヒタル人ハ、其人ヲシテ自ラ死シタル人ト思ハシムベシ、公義ヲ行ヒテ、世間ヨリ大ナル稱賛ヲ得ザルコトアルモ、廣大ノ意想ア

ル人ハ、決シテ此人ヲ輕賤セサルベシ、

得ト失トハ共ニ原因ナシニハ来ラザル者ナリ、此理ヲ知ルコトハ、心ノ平正ヲ保ツ為メニ智者オルナメント、オフ、ゼ、ワイズノ文飾トナル者ナリ、

固定シタル天平ノ如ク、偏頗ナク靜定スルコトハ智者ノ文飾ナリ、

公義ニ非ズシテ得タル所ノ利益ハ、直チニ之ヲ棄去ルベシ、商賈ノ誠実ノ商賣ハ、他人ノ事物ヲ保守シ使用スルコト、我事物ヲ保守シ使用スルニ異ナルコトナキニ在リ、

欺騙ヲ以テ得タル財産ハ、外見ノ増加ト同シ割合ヲ以テ減少スベシ、

欺騙ト名クル黑暗ナル知識ハ、義氣ト名クル大徳ヲ望ム人ニハ決シテ無キ者ナリ、

尔等ノ自身ト雖ドモ、欺騙ノ為メニハ望ヲ失フコトアルベシ、諸神ノ世界ト雖ドモ、公正ニ由リテハ望ヲ失フコトナシ、

#### 第十八章 志意バルボレニス

此世界ハ爾等ノ自身ヲ教導スル為メニ賜與サレタル者ナリ、奢麗ナル家屋ヲ造築スルノ志意ヲ懷クベカラズ、道德及ヒ教法上ノ職分ヲ盡スガ為メニ此生ヲ過ゴスベシ、娛樂ヲ得ンガ為メニ放恣ヲ行フベカラズ、財貨ハ好ンデ人ニ施與スベシ、貪心ヲ以テ之ヲ貯蓄スベカラズ、良善ナル行為ヲ為シ出スコトヲ學フベシ、無益ナル論辯ヲ為スコト勿カレ、(亜弗利加ニ在ル回教ノ寺院ノ銘文)

#### 第十九章 秀美エキセルレンシス

佛陀ルモットイエタバナニ在リ、一夜天神光輝ヲ發シテイエタバナヲ照シ、佛陀

ノ傍ニ来リ之ヲ謂テ曰ク、凡ソ善徳ヲ希望スル所ノ諸神諸人、皆幸福ヲ受クベキ各種ノ事アルヲ知レリ、今宜シク其中ニ於テ殊ニ秀美ナル者ヲ舉テ之ヲ示スベシ、佛陀曰ク、智者ニ服事シテ愚者ニ服事セザルコト、

尊敬スベキ値アル人ヲ尊敬スルコト、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、善人ノ隣ニ住居スルコト、善事ヲ記憶シテ忘レザルコト、精神ニハ、正直ナル願望ヲ充滿セシムベキコト、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、

真理ヲ知ルコト、諸學ヲ學ブコト、心ヲ訓練スルコト、談話ヲ爽快ニスルコト、此ノ如キハ秀美ナルコトナリ、

父母ヲ尊敬スルコト、妻子ヲ給養スルコト、非難スベカラザル職業ニ従フコト、此ノ如キハ秀美ナルコトナリ、

慈恵ナルコト、篤実ナルコト、親戚ヲ扶助スルコト、罪過ナキ様ニ世ヲ渡ルコト、此ノ如キハ秀美ナルコトナリ、

淨潔ナルコト、節度ヲ守ルコト、良善ノ行為ニ堅固ナルコト、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、

謙遜ナルコト、恭敬ナルコト、足ルヲ知ルコト、恩ニ感スルコト、教門ノ教導ニ従フコト、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、

温良ニアリ、誹謗ニ逢ヒテ能ク之ヲ忍ビ、適當ノ時機ニ於テ教法ヲ説ク、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、

己ニ克ツコト清貞ナルコト、大ナル道理ヲ知ルコト、永久ノ安息ヲ希望

スルコト、此ノ如キハ秀美ナル事ナリ、

幸福禍難ノ為メニ心ヲ動かスコトナク、憂愁ニ近ヨラズ、平安ニシテ静定セリ、此ノ如キハ秀美ナルコトナリ、

凡ソ此諸件ヲ能ク行フノ人ハ、何物モ之ニ勝ルコト能ハズ、何レノ方ニ向ヒテ進向スルモ常ニ安全ナリ、此ノ如キ人ハ完全ナル善徳ヲ得タル者ナリ、

(セイロ) PARI, BUBU, KADUKA, PATA,  
(錫蘭ノバリ、ブツダ、クツダカ、パタ)、

## 第二十章 福祥

耶穌羣衆ノ来ルヲ見テ山ニ登リ、既ニ坐ニ就クトキ、其門徒等其傍ニ聚マレリ、耶穌口ヲ啓テ之ニ誨ヘテ曰ク、精神ニ貧ナル者<sup>虚心</sup>ハ福アリ、其故ハ天國ハ此人ノ国ナレバナリ、温和ナル者ハ福アリ、何則將ニ土地ヲ得ントスレバナリ、哀慟スル者ハ福アリ、何則宜シク弔慰ヲ受クベキヲ以テナリ、正義ニ遵ヒテ飢且渴スル者ハ福アリ、何則遂ニ飽クコトヲ得ベケレハナリ、矜恤スル者ハ福アリ、何則其人ハ他人ヨリ矜恤セラルベキヲ以テナリ、心ノ清浄ナル者ハ福アリ、何則上帝ヲ見ルコトヲ得ベキヲ以テナリ、平和ヲ為ス者ハ福アリ、何則其人ハ上帝ノ子ト稱セラルベキヲ以テナリ、正義ノ為メニ迫害ニ遭フ者ハ福アリ、何則天國ハ此人ノ國ナルヲ以テナリ、人若シ己ノ為ニ爾ヲ詬誶シ、尔ヲ迫害シ、且妄リニ諸悪ヲ言ヒテ爾ニ帰スルトキハ、爾ハ福アリ、爾宜ク欣喜シ、又大ニ歡樂スベシ、何則爾ガ天上ニ在リテ得ル所ノ報賞甚大ナレバナリ、蓋シ世

人嘗テ爾ヨリ以前ノ預言者ヲ此ノ如ク迫害セシコトアリ、(新約書、馬太)

## 第二十一章 福祥

眞実ニ後悔ノ心ヲ以テ謙遜スルコトハ、知慧ヲ得ルノ方法ナリ、海ノ床ノ如ク能ク水ヲ保持スベシ、土製ノ器皿ノ如ク能ク酒ヲ受容スベシ、門ノ國ノ如ク、人々之ヲ踏ミテ通行スベシ、壁ノ釘ノ如ク、人々外套ヲ其上ニ掛クベシ、

涙ノ中ニ種ヲ蒔ク人ハ、喜悅ニ於テ其実ヲ刈リ取ルベシ、

温和ナル人ハ国ヲ得ベシ、仁恵ノ眼、精神ノ謙退、傲慢ヲ離シタル心ハ、

テブラハム  
亜伯拉罕ノ真ノ弟子ナル標識ナリ、

神聖ナルコトト、浄潔トヲ熱望スルノ人ハ、上天ヨリ佑助ヲ賜フナルベシ、

己カ同受造物ニ對シテ慈悲ノ心アル者ハ亦他ヨリ慈悲ヲ受クルナルベシ、浄潔ヲ以テ、爾ハ己カ浄潔ヲ顕ハスベシ、

平和ヲ愛スベシ、平和ヲ求ムベシ、人類ヲ愛スベシ、又之ヲシテ法則ニ直接セシムベシ、凡ソ世界ノ道德ノ性質ハ三事ニ歸ス、曰ク誠実、曰ク、公道、曰ク、平和是ナリ、

人ヨリ害ヲ受クルモ、之ニ報ユルニ害ヲ以テスルコト勿カレ、他人ヨリノ傷害ヲ忍受スル者ハ、上帝ノ愛ヲ受クル者ナリ、喜悅ノ心ヲ以テ苦難ニ耐ユル者ハ、上帝ノ約束ニ從ヒテ賞譽ヲ受クベキナリ、其約束ニ曰ク<sup>コロド</sup>「上帝ヲ愛スル人ハ、太陽ノ昇ルガ如キ勢力アリテ、何人モ之ニ勝ツコ

トヲ得ザルベシ”、(希伯来ノタルミユツドノ書)

第二十二章 職分及ヒ當務

我兄弟ヨ、余ハ上帝ノ慈ヲ顧念シ、尔ノ身ヲ獻シテ生活セル犠牲ト為サ  
ンコトヲ勸ム、上帝カ神聖ナリトシテ喜悅スル所ハ、乃チ爾ガ當然ノ信  
仰ナリ、爾ハ今日ノ流行ニ效フコト勿カレ、唯尔ガ心ノ改新ヲ以テ自ラ  
変化スベシ、其改新ハ尔ノハ經驗ニ由リテ上帝ノ意ノ善良快樂且ツ完全  
ナルコトヲ知り得タリシヨリ生スル者ナリ、余ハ上帝ガ余ニ賜ヒタル恩  
ニ頼リテ尔衆中ノ各人ニ告ク、尔ハ自ラ考思スルコト、宜シク考思スベ  
キ度ヨリ高キニ過グルコト勿カレ、宜シク上帝ガ尔ニ賜フ所ノ虔信ノ度  
ニ従フベシ、余儕ノ一體中ニハ許多ノ肢アリテ、其肢ハ皆同一ノ職ヲ行  
フ者ニ非ズ、是ト同ジク吾儕ハ衆多ニシテ合セテ基督ノ一体ヲ為ス者ニ  
シテ、吾儕各人ハ、各其一肢ヲ為スニ過ギザルナリ、  
吾儕上帝ノ恩賜ヲ受クレドモ、其穫ル所各異ナリ、若シ預言受ケシナラ  
バ、吾虔信ノ比較ニ准ジテ預言ヲ為スベシ、若シ事ニ役セラル、ナラバ、  
慎ンデ其役ニ従事スベシ、若シ教誨ヲ賜與セラレシナラバ、宜シク教誨  
ヲ行フベシ、若シ勸戒ヲ賜與セラレバ、宜シク勸戒ヲ行フベシ、若シ  
施濟ヲ賜ハラバ、寛心ヲ以テ施濟スベシ、若シ他人ヲ管理スルコトヲ命  
セラルレバ、宜ク勉強シテ之ヲ為スベシ、若シ矜恤スルコトヲ命セラレ  
バ、宜ク欣喜シテ矜恤ヲ行フベシ、  
愛ハ宜シク信実ナルベシ、惡ヲ憎ミテ善ヲ慕フベシ、兄弟ノ愛ヲ以テ他

人ヲ愛スベシ、榮譽ニ於テ能ク人々ヲ尊敬スベシ、勤勉ヲ棄ルコト勿カ  
レ、熱心ヲ以テ上帝ニ服事スベシ、希望ヲ喜ビ、患難ヲ忍ビ、善ク遠人  
ヲ接スベシ、尔ヲ迫害スル人ノ為メニ福ヲ祈ルベシ、常ニ福ヲ祈ルベシ、  
咒詛スルコト無カルベシ、樂ム者ト共ニ樂シミ、泣ク者ト共ニ泣クベシ、  
人々互ニ同一心トナルベシ、心ヲ高慢ニ為スコト勿カレ、謙遜ヲ以テ自  
ラ安ンスベシ、自ラ思考シテ智ナリトスルコト勿カレ、誰人ニモ惡ヲ以  
テ惡ニ報ユルコト勿カレ、衆人ノ前ニ於テ務メテ榮譽トナルベキ事ヲ為  
スベシ、若シ尔ノカヲ以テ為シ得ベクンバ、宜シク衆人ト平和ヲ以テ此  
生ヲ送ルベシ、愛友ヨ、尔ノ怨ヲ報ズルコト勿カレ、寧口憤怒ノ為メニ  
餘地ヲ與フベシ、若シ尔カ仇敵飢ウレバ、之ニ食ハシメ、若シ尔カ仇敵  
渴スレバ之ニ飲マシムベシ、爾惡ニ勝タル、コト勿カレ、宜シク善ヲ以  
テ惡ニ勝ツベシ(達羅馬人書)、

第二十三章 愛ヲ以テ成ル法則

宜シク與フベキ所ノ人ニハ之ヲ與フベシ、貢稅ヲ納ムベキ所ニハ之ヲ納  
ムベシ、恭敬スベキ所ノ人ハ之ヲ恭敬スベシ、兄弟ノ如ク相愛スルノ外  
ニハ、他ニ必要ノコトアルコトナシ、何則他人ヲ愛スルノ人ハ法則ヲ成  
シ得タル者ナレバナリ、爾ハ姦淫ヲ為スコト勿カレ、人ヲ殺スコト勿カ  
レ、偷盜スルコト勿カレ、貪ルコト勿カレ、或ハ他ノ訓誨アルモ皆此訓  
語ノ中ニ包含セリ、爾ハ隣人ヲ愛スルコト爾ノ身ノ如クスベシ、愛ハ害  
ヲ隣人ニ致スコトナシ、故ニ愛ハ法則ヲ為シ遂グルノコトナリ、夜既ニ

過ギ、晝將ニ近カントス、吾儕宜シク昏暗ノ行ヲ棄擲シテ光明ノ甲冑ヲ被ブルベシ、吾儕宜シク日中ニ於ケルガ如ク、明白ニ歩行スベシ、(同上)

第二十四章 寬許

度信ニ弱キ者ハ宜ク親切ヲ以テ之ヲ容ルベシ、彼ノ思想ニ付キテ判断ヲ為スベカラズ、他人ノ奴僕ヲ判断スルハ何者ゾ、奴隸カ或ハ立子或ハ倒ル、ハ皆其主人ノ意ナリ、

或人ハ、此日ハ他ノ日ニ勝レリト言ヒ、或人ハ諸日皆同ジト言フ、人々宜シク自己ノ心ニ於テ之ヲ堅定スベシ、日々注意スル者ハ、上帝ノ為メナリトシテ之ヲ注意シ、日々注意セザル者ハ、上帝ノ為メナリトシテ之ヲ注意セズ、凡ソ人ハ自身ノ為メニ生レタル者ナク、又自身ノ為メニ死スル者ハナシ、然レドモルハ何故ニ爾ノ兄弟ヲ判断スルヤ、何故ニ爾ノ兄弟ヲ輕賤スルヤ、吾儕ハ復相互ニ判断ヲ為スコトナシ、然レドモル自己ニ頼リテ判断シ、兄弟ノ道路ニ碍石又ハ陷阱ヲ設クルコト勿カレ、吾儕宜シク平和ヲ進メ、互ニ教誨ヲ行フベシ、自ラ寬許セル事ニ於テ罪ヲ為サバル者ハ幸福ノ人ナリ、(同上)

第二十五章 愛ノ法則

何人ニテモ、隣人ニ向ヒテ已ガ手ヲ舉グル者ハ、縦令隣人ヲ打タズトモ、其人ハ犯罪ノ人ト名クベシ、

同受造物ニ對シテ犯ス所ノ罪ハ若シ預メ自ラ改善スルカ、又ハ被害者之ヲ中和スルニ非ザレバ、後悔モ代償ノ日モ共ニ其罪ヲ淨刷スルコ

ト能ハズ、

爾モシ他人ヲ傷害シタルトキハ、其傷害ハ小ナリトモ、爾ハ之ヲ大ナリト思フベシ、尔若シ他人ニ恩恵ヲ施シタルトキハ、其恩恵ハ大ナリトモ、尔ハ之ヲ小ナリト思フベシ、尔カ隣人、尔ニ親切ヲ顯ハシタルカ、爾ハ其事ヲ賤シク値スルコト勿カレ、隣人、尔ニ損害ヲ與ヘタルカ、尔ハ其事ヲ貴ク値スルコト勿カレ、

淫蕩ノ眼ヲ以テ他人ノ妻ヲ睥視シタル者ハ、姦淫ヲ行ヒタル者トシテ、之ヲ論ズベシ、

爾カ然リト言フコトハ必ス公正ニ出ヅベク、否ト言フコトモ亦必公正ニ出ヅベシ、(希伯來ノタルミニユツト)

第二十六章 愛ノ法則

我が来ルハ律法及ヒ預言者ヲ壞ルガ為ナリト意フコト勿カレ、我来ルハ之ヲ壞ルニ非ズシテ、之ヲ完成スルナリ、

爾古者ノ言ヲ聞キタルナルベシ、曰ク // 殺スコト勿カレ、凡ソ殺ス者ハ、皆審判ノ危難ノ中ニ在ル者ナリ、 // 我又尔ニ語ラン、凡ソ其兄弟ヲ怒ル所ノ者ハ亦皆審判ノ危難ノ中ニ在ル者ナリ、

若シ爾、禮物ヲ携ヘテ神壇ニ来ル時、尔ガ兄弟、尔ト怨恨ヲ抱クコトアルヲ憶ハズ、其礼物ヲ壇前ニ留メテ去リ、先ツ兄弟ト相和シ、然後来リテ礼物ヲ献ズベシ、

爾ハ古人ノ言ヲ聞キタルナルベシ、曰ク // 姦淫ヲ犯スコト勿カレ // 惟我

レ爾ニ語ラン、凡ソ婦人ヲ見テ淫情ヲ生スル者ハ、中心已ニ姦淫ノ罪ヲ犯セル者ナリ、

爾又古語ヲ聞キタルナルベシ、曰クスウ井ルフハルスレイ爾ハ偽誓スルコト勿カレ、上帝ノ為メニ爾ノ誓ヲ完成スベシ、〃惟我爾ニ語ラン、何事ニモ概シテ誓フ發スルコト勿カレ、爾ノ言ハ宜シク是ヲ是トシ、否ヲ否トスベシ、其度ヲ過グル者ハ何レモ惡ヨリシテ起ル者ナリ、(新約書、馬太)、

### 第二十七章 仇人ヲ愛ス

爾ノ仇人エネマイ死スルコトハ歡喜スベカラズ、爾ノ仇人跌落スルトキハ、爾ニ心ニ快シトスベカラズ、

勝人コンクエロルノ名ニ副ヒタルハ如何ナル人ゾ、爾ノ毒惡ナル情ニ勝テ、尔ノ仇人ヲ化シテ朋友ト為サシムル者ハ真ノ勝人ナリ、

爾ハ余ハ智者ヲ愛シ、不智者ヲ惡ムト言フベカラズ、尔ハ惟世界ノ人類ヲ尽ク親愛スベシ、

爾ハ汝ノ隣人ヲ愛スベシ、若シ其人罪ヲ犯シテ死刑ニ處セラル、コトアルトキハ、其死期ニ於テ惠愛ヲ其人ニ施スベシ、

凡ソ已レカ為メニ為スコトヲ欲セザルノ事ハ、總テ他人ノ為メニ之ヲ為スコト勿カレ、

此事ハ法則ノ根元ナリ、(希伯来ノタルミユド)

### 第二十八章 仇人ヲ愛ス

爾ハ「汝ノ隣人ヲ愛スベシ、汝ノ仇人ヲ惡ムベシ」ト云フ語ヲ聞キタルナルベシ、

然レドモ余ハハルニ語グ、爾ノ仇人ヲ愛シ、爾ヲ苦メン者ノ為メニ福ヲ祈ルベシ、

爾ハ天上ノ父ノ子ナルベシ、天父ハ人ノ善惡ヲ擇バズ、太陽ヲ以テ之ヲ照ラシ、公正不公正ヲ擇バズ、雨ヲ以テ之ヲ潤セリ、(新約書、馬太)

### 第二十九章 偽善ヒボクリシイ

爾公直ヲ行ハント欲セバ、衆人ノ前ニ於テ、衆人ヲシテ之ヲ見セシムベカラズ、若シ然ルトキハ、爾ハ天上ノ父ヨリ賞譽ヲ獲ルコト能ハザルベシ、故ニ爾モン貧人ニ施濟セント欲セバ、尔ノ前ニトロムベツト竝トヲ吹クコト勿カレ、彼偽善者ガ會堂及ヒ街衢ニ於テ賞贊ヲ人ニ求ムルガ如クスルコト勿カレ、余誠ニ爾ニ告グ、彼ハ之ニ依リテ賞贊ヲ受ケタリ、然レドモ爾ノ如キハ若シ施濟ヲ行ハント欲セバ、右手ニテ之ヲ為スモ、左手ヲシテ之ヲ知ランムルコト勿カレ、

爾上帝ヲウオルンツ祈禱セバ、偽善者ノ所為ニ倣フコト勿カレ、偽善者ハ常ニ會堂又ハ通衢ノ角ニ立テ之ヲ行ヒ、人ヲシテ之ヲ見セシメント欲ス、我誠ニ尔ニ告グ、彼ハ之ニ依リテ賞贊ヲ得タリ、然レドモ爾モシ祈禱セント欲セバ、密室ニ入り、門戸ヲ鎖閉シ、隱微ニ在ル所ノ爾ノ父ヲ敬拜スベシ、

爾祈禱ヲ為ス時、異教者ノ為スガ如ク、無益ニ重複ノ語ヲ為スコト勿カ

レ、

彼ノ意ニハ、言ヲ多クスルトキハ、聴カル、コトヲ得ベシト思ヘリ、然レドモ爾ハ之ニ傲フコト勿カレ、爾ハ未ダ上帝ニ願求セザルノ前ニ、上帝ハ已ニ尔カ要需スル所ノ事ヲ知レリ、(新約書 馬太)、

### 第三十章 地界ノ風景

爾ノ財貨ノ在ル所ニハ、又爾ノ心アルベシ、眼ハ身体ノ燈ナリ、尔ノ眼明白ナルトキハ、爾ノ全体光明ナルベシ、若シ爾ノ眼、其常ヲ失フトキハ、爾ノ全体ハ暗昧トナルベシ、爾ノ身体中ニ在ル所ノ光明悉ク暗昧トナルトキハ、其暗昧ハ幾許ノ大サナルゾ、人タル者ハ二人ノ主人ニ事フルコト能ハズ、其故ハ彼ハ其一人ヲ恨ミ其一人ヲ愛スレバナリ、又或ハ彼ハ其一人ニ愛着シ、其一人ヲ厭離スレバナリ、爾ハ上帝ト財貨トニ事フルコト能ハズ、故ニ余ハ爾ニ言フ、尔ハ食ハザルヘカラザル所ノ生命ニ付テ掛慮スルコト勿カレ、生命ハ食物ヨリ大ナル物ニ非ザルカ、身体ハ衣服ヨリ大ナル物ニ非ザルカ、尔ノ掛慮スルニ由リテルノ生命ニ一尺ヲ加ヘタルカ、何故ニ尔ハ衣服ニ付キテ掛慮ヲ為スヤ、原野ノ百合花ヲ見ヨ、如何ンシテ生長スルヤ、彼ハ劳作ヲ為サズ、又紡績ヲモ為サズ、然レドモ余ハ爾ニ言フ、瑣羅門ガ其威光赫灼タル時ニ於テスラ彼ノ或ル者ノ如ク裝飾サル、コト勿カレ、尔ハ明朝ノ事ヲ掛慮スルコト勿カレ、何則明朝ハ自己ヲ掛慮スレバナリ、夫ニ付キ、今日ニ於テ十分ナルコトハ、至テ悪シキコトナリ、

### 第三十一章 尺度ノ尺度

他人ヲ議スルコト勿カレ、尔ガ議セラレザランコトヲ思フベシ、尔ハ何ノ判断ヲ以テ人ヲ議スルカ、尔ハ又判断ヲ以テ議セラルベシ、尔ハ何ノ度ヲ以テ人ヲ測ルカ、尔ハ又其度ヲ以テ測ラルベシ、尔ハ何故ニ尔ノ兄弟ノ眼ニ細屑モートアルヲ見得テ、尔ガ自己ノ眼ニ梁木ビームアルヲ認めザルヤ、爾兄弟ニ語リテ、余ハ尔ノ眼ヨリ細屑ヲ出サント言フ、而シテ梁木ノ已ノ眼ニ在ルヲ知ラザルカ、尔ハ先ツ爾ノ眼ヨリ梁木ヲ抜き去リ、然シテ後兄弟ノ眼ヨリ細屑ヲ取り去ルベシ、

聖物ヲ以テ狗ニ與フルコト勿カレ、恐クハ轉ジテ爾ヲ噬マン、明珠ヲ以テ豚ニ與フルコト勿カレ、恐クハ之ヲ足下ニ蹂躪セン、

凡ソ人ガ尔ニ施サント欲スル所ノ事ハ、尔ハ又之ヲ人ニ施スベシ、其故ハ法則ト預言者ノ言ト共ニ此ノ如クナレバナリ、(基督教馬太)

### 第三十二章 現実ト外見

虚偽ノ預言者ニ注意セヨ、羊ノ衣服ヲ着テ爾ノ前ニ来ルト雖ドモ、其内心ハ食食スル豺狼ナリ、爾、彼等ヲ知ラント欲セバ其果実ニ於テ之ヲ見ルベシ、人ハ荆棘ヨリ葡萄ヲ採リ、薊ヨリ無花果ヲ採ルコトヲ得ベキカ、凡ソ善木ハ必ス、善果ヲ結び、悪木ハ皆悪果ヲ結び、善木ハ悪果ヲ結ブコトナク、悪木ハ善果ヲ結ブコトナシ、我ニ對シテ、上帝上帝ト言フ人ハ未必シモ皆天国ニ入ルコトヲ得ル者ニ非ズ、能ク天父ノ意ヲ奉行スル者ハ天国ニ入ルコトヲ得ル者ナリ、(基督教馬太)

第三十三章 偽善 ヒボクリシイ

一手ニテ悪事ヲ為シタルトキハ、他ノ一手ニテ其罪ヲ償フコト能ハズ、  
隱密ノ施與ハ能ク怒ヲ靜定ス、Recht. Yacht. ラビ ヤネイ 公衆ノ前ニテ施與ヲ為ス  
者ニ謂テ曰ク、「爾ハ彼ニ物ヲ施與スルニ最良ノ法ヲ行ハザリシ、爾ガ彼  
ニ施シタル方法ニテハ、彼ノ感覺ヲ傷害セザルコト能ハズ、  
爾ハラビ及ヒ教師ノ如キ智者ト稱セラル法則ヲ學ブコトヲ要セズ、惟尔  
ハ法則ヲ愛スルコトヲ學ブベシ、

沈黙ハ上帝ヲ稱譽スル所ナリ、若シ言語ニシラシラング（貨幣ノ名）ノ價ア  
リト言フトキハ、沈黙ハ二者ノ價ヲ兼タルナルベシ、過度ノ稱譽ハ金剛  
石ノ價値ヲ増スニ足ラザルガ如ク、過多ノ讚頌ハ、上帝ノ光輝ヲ増スニ  
足ラザルナリ、（希伯来ノタルミユツド）、

第三十四章 尺度ノ尺度

爾ハ彼人ト同ジ地位ニ居ラザルノ間ハ彼人ヲ議スルコト勿カレ、  
總テ人ヲ議スルハ寛裕ヲ以テスベシ、  
香料ヲ賣ル行商、シボラーノ近隣ニ至リ、 高声ニ呼ンデ曰ク、誰カ生命  
ノ藥ヲ買ハント欲スル者アルカト、羣衆之ヲ聞キ、行商ノ周圍ニ聚マリ、  
煉丹ヲ買ハントス、行商羣衆ニ向ヒ、若シ生命ヲ延ブルノ藥ヲ買ハント  
欲セバ、其藥ハ爰ニ在リト謂ヒテ、ポケット 其腰袋ヨリサーム 聖詩ヲ取出シテ高声ニ之  
ヲ讀ンデ曰ク、「生命ヲ望ム人ハ何處ニアル、幸福ニ日ヲ送ラント欲スル  
人ハ誰人ゾ、爾ノ口ハ悪事ヲ言フコトヲ慎メ、爾ノ舌ハ虚偽ヲ吐クコト

ヲ慎メ、」

世界創造ノ始ニ於テ、上帝此適當ナル應報ヲ作レリ、即チ尺度ヲ測ルノ  
尺度ナリ、若シ天然ノ法則盡ク崩壞スルモ、此法則ハ變化スルコトナカ  
ルベシ、

余等カ測ル所ノ尺度ヲ以テ、余等ハ再ヒ測ラル、ナルベシ、  
若シ此世ニ於テ忠告ヲ受クル所ノ或人アラバ、大ニ余ニ驚カスナルベシ、  
若シ、彼、彼ノ眼ヨリ木屑ヲ取り去レト忠告サル、トキハ、彼ハ爾ノ眼  
ヨリ梁木ヲ取り去レト答フナルベシ、

爾ノ身ヲ經驗シ又考察セヨト云フ語ハ、何ノ意義ナルカ、凡ソ他人ヲ謗  
ラント欲スル者ハ、其自身ハ純粹ニシテ、無瑕ナラザルベカラズ、  
爾モシ公然タル善意善思ヲ有スルナラバ、爾カ供給ノ為メニ智慧ト法則  
トノ原泉ヲ公然ト流出セシメヨ、若シ然ラザルトキハ、爾ノ自身ヲ制抑  
シ、自ラ隱匿スベシ、（希伯来ノタルミユツド）、

第三十五章 黄金ノ規則 ゼ、ゴールド、ルール

爾ノ隣人ヲ愛スルコト爾ノ身ノ如クスベシ、此事ハ聖經中ノ根元ノ法則  
ナリ、  
爾ノ同儕ヲ敬重スルコト、爾ノ自身ノ如クスベシ、其財産ニ注意スルコ  
ト、爾ノ財産ノ如クスベシ、生活ノ状態ヲ變化セシムル真実ノ施捨ハ、  
全ク浮世ノ考案ヲ脱却スルコト、John Barter's Law 約拿單ガ大關ヲ愛スルカ如クスベシ、  
善良ナルコトハ上帝ニ模倣スベシ、上帝ハ全世界ノ受造物ヲ視ルガ如ク、

爾ノ同儕ヲ視ルベシ、裸体者ニハ衣服ヲ與ヘヨ、病者ハ之ヲ療セヨ、  
悲傷者ハ之ヲ慰メヨ、爾ガ父ノ子ナレバ、皆爾ガ兄弟ナリ（希伯来ノ  
タルミユツド）

### 第三十六章 果実ニ因リテ樹木ヲ知ル

人ハ田野ノ樹木ニ似タリ、果実ノアル樹木ハ、林木ニ比スレバ、何故ニ  
其葉豊盛ナラズシテ、其声モ喧噪ナラザルヤ、果木答テ曰ク、余儕ハ  
許多ノ葉ト許多ノ声トヲ有スルコトヲ免カレタリ、余儕ハ甘美ナル果  
実ヲ以テ林木ト區別セルヲ以テ、其現存スルニ付キテ、喧噪ナル声ヲ  
要セザルナリ、

徳ハ善良ナル果木ノ豊饒ナル産物ナリ、惟現世ニ生存スルノミナラズ、  
未来ニ於テモ亦子孫ノ為メニ福祉ヲ與フルナリ、罪惡ハ之ニ反シテ至  
テ荒瘠ナリ、

凡ソ知識ノ其善行ニ勝レル人ハ、豊盛ナル葉ト瘦弱ナル根ヲ有セル樹木  
ニ比スベシ、風ノ吹ク毎ニ必ス其枝ヲ破リ又其根ヲ抜クナリ、善行ノ  
其知識ニ勝ル所ノ人ハ、些少ナル葉ト強固ナル根ヲ有セル樹木ニ比ス  
ベシ、若シ颶風満世界ニ起リ、風雨之ヲ撼カストモ、其位地ヲ變ズル  
コトハ無カルベシ（希伯来ノタルミユツド）、

### 第三十七章 外貌

或ル大道ノ上ニ、更ニ二條ノ道路ノ左右ニ分カル、者アリ、其一ハ初メ  
ハ平坦ニシテ正直ナリシモ、忽チ高低崎嶇トナリ、荆棘之ヲ壅塞セリ、

其一ハ初メハ狹隘ニシテ、困難ノ状アリシモ、其終リハ平滑ニシテ、道  
路ノ断絶スルコトナク、以テ其希望セル所ニ達スルコトヲ得タリ、（希伯  
来ノタルミユツド）、

### 第三十八章 朋友

人ハ三個ノ朋友ヲ有ス、曰ク貨財、曰ク家族、曰ク善行、是ナリ、其死  
期ノ特ニ近カントスル時、其朋友ヲ呼ンデ解脱ノ道ヲ求ムルニ、貨財ト  
家族トハ之ヲ如何ントモスルコト能ハズ、惟善行ノミ獨リ之ヲ答ヘテ曰  
ク、汝ガ我ニ求メザルノ前ニ、我既ニ汝ノ為メニ善ク道路ヲ造レリト（希  
伯来ノタルミユツド）

### 第三十九章 知識ト行爲

法則ヲ學ヒ且ツ其命令ニ遵ヒテ行爲スルノ人ハ、家ヲ建ルニ砂石ヲ以  
テ基礎トシ、煉瓦ヲ以テ其上部ヲ造ル人ニ似タリ、暴風洪水共ニ此家ヲ  
破損スルコト能ハズ、法則ヲ學ビ、善行ヲ虧ク所ノ人ハ、家ヲ建ルニ、  
煉瓦ト灰坭トヲ以テ基礎トシ、堅固ナル石ヲ以テ其上層ヲ造ル人ノ如シ、  
洪水ハ忽チ其家ヲ浸シテ之ヲ顛倒スベシ（希伯来ノタルミユツド）、

### 第四十章 知識ト行爲

我ノ言ヲ聞キ、其言ヲ行フ所ノ人ハ、岩石ノ上ニ家ヲ建ル所ノ智者ニ似  
タリ、雨降り、流水来リ、風吹キテ此家ヲ打ツモ、転倒スルコトナシ、  
何則崑石ノ上ニ在レバナリ、我ノ言ヲ聞キテ其言ヲ行ハザルノ人ハ、沙  
上ニ家ヲ建ルノ愚者ニ似タリ、雨降り、流水来リ、風来リテ此家ヲ打ツ

トキハ、忽チ顛倒スベシ、而シテ唯其大ナル者ハ其廢墟ナルベシ（基督  
教、馬太）

#### 第四十一章 黄金規則

爾ノ隣人ニ強テ其頭ヲ傷クル所ノ帽ヲ被ラシムルコト勿カレ、  
真正ノ信心アル人ハ、尊敬、熱心、施捨ヲ以テ其身ヲ造成ス、  
愚者ハ己ガ身ノ精神ヲ苦シマシム、生活上ノ職分ヲ怠ル人ハ此世界ニ適  
當セズ、是ヨリ高等ノ世界ニハ更ニ適當セズ、

#### 第四十二章 原理

上帝ヲ保ツ人ハ万物ヲ保ツ、上帝ヲ保タザル人ハ一物ヲモ保ツコトナシ、  
過多ノ偽計ハ一事ヲモ成スコト能ハズ、  
力ハ悪人ヲ弱ハム、上帝ハ無過ノ者ヲ擁護ス、  
人類ノ最良ノ燈燭ハ、其人ノ了識ナリ、  
深キコトハ、心ノ言語ニ在リ、

上帝ハ永ク留任スステイカス、然レドモ最後ニ打撃ス、  
總テ上帝ノ造ル所ノ物ハ、上帝ハ之ヲ損害セズ、  
智慧ハ沈黙ニ齊シカラズ、  
施與スル所ノ手ハ又聚積ス、  
高キ者ハ痴愚トナリ、大ナル者ハ崩落ス、  
智慧ト勇剛トハ柱杖ヲ要セズ、  
真理ハ最善ノ干楯ナリ、

上帝ハ黄金ヨリ良善ナリ、  
今日ハ黄金、明日ハ塵埃、  
各箇ノ罪過ノ中ニ愚呆アリ、

智慧ナラザルノ事ハ、總テ危殆ナリ、（亜拉伯ノ古諺）

#### 第四十三章 國王ノ職分

嗚呼余ノ兒子等ヨ、上帝ヲ讚美セヨ、人ヲ愛セヨ、何則不朽ノ生命ヲ得  
ルノ道ハ齋食ニ非ズ、離羣獨居ニ非ズ、モシク修道士ノ生活ニ非ズ、惟善ヲ為  
スニアリ、貧人ヲ遺忘スルコト勿レ、之ヲ養育スベシ、上帝ヨリ来レル  
富ヲ想ヒ、汝ニ暫時之ヲ賜與セラレシコトヲ思ヘ、汝ノ貨財ヲ地ニ埋ム  
ルコト勿カレ、孤兒ノ為メニ父トナレ、寡婦ノ訴訟ヲ判断スベシ、強者  
ヲシテ弱者ヲ凌虐セシムルコト勿カレ、無罪ヲ殺スコト勿カレ、有罪モ  
亦殺スコト勿カレ、不信者ノ運ヲ恐ル、コト勿カレ、汝ノ心ヨリ傲慢ノ  
知告ヲ放逐スベシ、吾等ハ總テ亡滅スベキ者ナルコトヲ回想セヨ、今日  
ハ願望ヲ以テ充ツルモ、明朝ハ棺ノ中ニ在ルベシ、欺言大酔酒色ニ溺ル、  
者ヲ惡ムベシ、常ニ知識ヲ得ンコトヲ務ムベシ、（魯國烏拉日密第二、第  
十二世期）、

「聖語録第一冊」解題

「聖語録第一冊」は、八二七—一三四「西國道學纂論 聖語録」に「西國道學纂論」と合綴されている。

「聖語録」は、Moncure Daniel Conway (一八三二—一九〇七)の編集による *The Sacred Anthology; a book of ethnical Scriptures* である。

一八七四年に初版が出ている。確認出来たのは第四版を出すにあたっての著者の序文のついているものであるが、西村の翻訳したものと矛盾するところはない。新約聖書、旧約聖書だけでなく、インドのマヌ法典、コーラン(クルアーン)、タルムードなどの金言が集められている。

原書は、Laws、Religion、Theism などの見出しのもとにそれぞれの見出しに関連する金言を集めて、それぞれの金言にもいわば小見出しを付けている。そして、すべての金言について冒頭から末尾まで通し番号をローマ数字によってつけている。

西村が翻訳したのは、最初にある Laws という見出し項目の冒頭から第四十三番目の金言までである。

Conway は、アメリカのバージニア州出身のユニテリアン派の牧師であり、著述家である。彼は、奴隷制度廃止論者として活動し、イギリスにも渡っている。

実在理學譯解

奥古士都昆多 原著

留斯 譯解

西村茂樹 重譯

第一部

基礎ノ學

第一篇

ボジチビズム  
実在理學ノ総論

○実在理學ヲ論スルニ於テ世間往々誤謬ノ意見ヲ為ス者アリ、其誤ハ固ヨリ智者ノ誤ナリト雖ドモ、学問ノ害ヲ為スコト亦甚シ、其人ノ説ニ以テ為ク、此學ハ唯物學<sup>サイエンス</sup>ヲ学フ者ニノミ要用ナル乾枯ニシテ且ツ狹隘ナル学問ナリト、即チ唯物學上ノ事物ノ光景ノミヲ説テ、感動心理ノコト技術、道德、宗教等ノ大問題ハ措テ論セザル者ナリ、暗想<sup>フチレーフ</sup>ヲ好ム少数ノ人ノ心智ヲ樂シマシムル者ニシテ、公衆ノ之ニ服從センコトヲ要望スル者ニ非ズト、此ノ如キ誤解ハ、其害少ナカラズ、其故ハ、不幸ニシテ此考思世界ヲ以テ二種ニ分タザルヲ得ザレバナリ、其一種ハ理學ヲ闕ク所ノ物學ノ士ニシテ、此人ハ大概理學ヲ造成スル所ノ概括ヲ把握スルノ見ナシ、其一種ハ、形而上<sup>メタラヒ</sup>ノ學ヲ為ス人ニシテ、単ニ概括ニノミ心

ヲ傾ケテ、物學ノ瑣細ノ採拾ヲ委棄スル者ナリ、故ニ理學ヲ知ラサル所ノ物學ト、物學ヲ知ラザル所ノ理學トハ、共ニ其知ラザル所ヲ棄擲スルノ危害アリ、昆多ノ實在理學ナル者ハ、此二者ノ弊ヲ調和シ、經驗ヲ主トスル者ガ、物ノ各個ニ付テ窮ムル所ノ説ハ、理學ニ於テ全体ノ概括ニ十分ナル志向ヲ與フル為メノ者ナルコトヲ開示セリ、然ルニ世ノ道德學士、形而上學士、文學士ノ如キハ多ク謂ヘラク、昆多ノ論説、著ルク他人ノ説ニ異ナルハ、道德ノ意見ニ於テ大ニ他人ノ説ニ卓越スル所以ナリト（智慧ハ嚴ニ道德心ニ服從セザルベカラズトイヘル説）、又暗想ヲ主トスル者ハ專ラ智力ノ活動ヲ尊ビ、以テ此道德説ヲ非議セリ、又物學ハ、世上ニテ想像スルガ如ク、唯之ヲ感覺中ノ或ル物ニ求め、道德者ヲ動かシテ、針ヲ造ルノ工事ヲ考案セシムルガ如キ者トセリ、文學士、工術士、道德士ガ物學ニ對シテ半邊ノ抵敵ヲ為ス者ハ、知慧ノ跋扈ヲ抑ユル所ノ天然ノ反者ト言フベキ者ナリ、其言ニ曰ク、人ハ知慧ノ生活ヨリハ、道德ノ生活ヲ以テ更ニ大ナリトス、又曰ク道德ノ生活ハ、此世ニ於テ決シテ已ムヘカラサル者ナリ、物學ノ力ハ決シテ道德ノ力ヲ調整スルコト能ハズ、又曰ク、理學ニ於テハ、專ラ勞力<sup>ラボラトリー</sup>ノミヲ論スル者ヲ賤シムト、以上世間ニ於テ論スル所ナリ、然レドモ昆多ノ物學ハ全ク此ノ如キ者ニ非ズ、昆多ノ所謂物學ハ、社會建造ノ基礎トナル者ニシテ、理學ニ材料ト方法トヲ與フル者ナリ、

○實在理學トイフ者果シテ上ニ言フ所ノ如キ者ナルトキハ、此理學ハ總

テ人道<sup>ヒューマン</sup>ニチイマ<sup>ニチイマ</sup>整理スル所ノ教義ナリトイフベシ、即チ単ニ形体上ノ學ヲ説クニモ非ズ、又單ニ社會上ノ學ヲ説クニモ非ズシテ、總テ智慧ニ管セル活能ヲ包括シテ其順序次第ヲ立テタル所ノ教義ナリ、昆多其最新ニ著ハセル書ニ曰フ、實在ノ教義ハ、實ニ理學ト政學トヲ合セテ成ル者ニシテ、此二者ハ實ニ分離スベカラザル者ナリ、其故ハ此二學ハ、人ノ知慧ト交際トヲ結合スル法則ノ根基ニシテ且ツ又其目的ナレバナリト、昆多又曰ク、物學ヲ概括スルト、交際ノ法則ヲ立ツルコトハ、實在教義ノ役目ナリト、昆多又他ノ書ニ於テ、實在教義ハ、新交際ノ新ナル真理ノ根原ヲ定ムル為メニ、物學上ノ理學ナル者ヲ造ラサルベカラズト云ヘリ、交際ノ學ハ、實在教義ノ目的ニシテ、物質ノ學ハ、實在教義ノ方法ナルコトハ、恰モ人身ニ於テ知慧ハ生命ノ服役者ニシテ兼テ説明人タルト相同ジ、

○此教義ニ關シテ昆多ガ首トスル所ノ考案ヲ提記センニ、其第一ハ、凡ソ形体上ノ物學ト交際上ノ物學トノ如キ總テノ物學ハ、皆一物學ノ枝派ニシテ、一ノ方法即チ同様ノ方法ヲ以テ研究セサルベカラザル者ナリ、○学科一個ナレバ、其研究ノ方法モ亦一個ナリトイフコトハ、輕急ナル學者モ亦別ニ發明ヲ要セズシテ、其確説ナルコトヲ知り得ベシ、然レドモ、若シ一タヒ深く考思スルトキハ、昆多ヨリ以前ハ、一般ノ思想ハ已ニ形体物學ヲ結合スルニ意アリシト雖ドモ、索麥維<sup>ソームウェゼル</sup>ノ書ト、里尔舌<sup>ヘルシエル</sup>ノ解説ナキ以前ハ、未タ精密深奥ノ理ニ通スル者ナク、形体物學ヨリ流出セ

ル社會物學トハ共様ノ方法ヲ以テ之ヲ研究スベキ者ナルコトヲ知ル人ナカリシナリ、實ニ今日ノ人ハ、道德ノ疑問ヲ以テ、實在物學ニ引付クルトキハ、之ヲ以テ道理ニ當ラズトセリ、今人ハ皆實際物學及ヒ道德物學ナル熟語ヲ常用ス、然レドモ道德ハ形體物學ト同様ノ根ヨリ生シテ、形體物學ヨリ更ニ高崇ナル一大枝ナリト云フコトヲ知ラズ、却テ、形而上ノ學又ハ神道ノ學ヲ以テ道德ノ現象ヲ説キ、又歴史ヲ讀ムニモ、古今ノ事迹ハ法則ノ支配ノ下ニ在ルコトトイフコトヲ知ラズ、只是ヲ以テ偶然ノ起発ト為シテ見ルニ過ギズ、

○第二ノ首ナル考案ハ人智暢開ノ法則ヲ示シ觀タル者ニシテ、殊ニ讀者ヲシテ習熟セシムベキ者ナリ、曰ク凡ソ人智ノ進化ニハ三個ノ經過アリ、一人ノ上ニ就テモ、公衆ノ上ニ就テモ皆然リ、第一ハ神奇テオロ（奇怪）第二ハ形而上メタラヒ第三ハ實在ホシチ是ナリ、

○此人智ノ法則ハ後ニ至リテ詳カニ之ヲ説クベキコトナレバ、此處ニハ唯其大畧ヲ記スベシ、先ツ神奇ノ時代ニ於テハ、人ノ心ニ於テ事物ノ原因カワヲ求メ、又其本质エッセヲ知ランコトヲ欲シ、何故ニ此ノ如キ働ヲ生スルカトイフコトヲ考思シ、總テ效驗ナル者ハ、道理以上ノ力勢ナル者アリテ夫ヨリ發出スルコトナリト思フ、非常ノ現象ハ、或ル神ノ喜怒ノ徵候ナリト解説スルナリ、形而上ノ時代ニ至リテハ少シク改革ヲ為シ、道理以上ノ力勢トイフ者ハ措テ論ゼズ、唯種々實質中ニ特別ノ力アフストラ即チ実力エンチナル者アリテ、諸ノ現象ヲ生出スルノ力アリトス、進ンテ實在ノ

時代ニ及ンデハ、従前ノ原因ト本質トヲ考究スルノ愚ナルコトヲ知り、現象ノ觀察ト種別トヲ為スコトノミヲ以テ限リトシ、事物ノ相互ニ負荷スル所ノ繼續ト一様トノ管係ノ動カスベカラザル者ヲ發見セントスルニ在リ、即チ万物ノ現象ノ法則ヲ發見センコトヲ求ムル者ナリ、

○第三ノ首ナル考案ハ、光明ナル主義ヲ以テ定メタル諸物學ノ種別ヲ美麗ニ立ツルコトナリ、其主義トハ物學ハ単一ナル（最モ一般ナル）現象ノ習學ヲ以テ始メ、漸々進ンテ混合コムフト特別パイテキトノ現象ニ及ブ者ナリ、此ノ如クシテ諸物學ヲ相互ニ管係セシメテ整理スルナリ、

○此三個ノ考案ハ従前未タ之ヲ論定セシ者ナシ、蓋シ昆多ノ出ルヲ待タリシ者ノ如シ、然レドモ「昆多ハ如何ンシテ此總則ヲ適合セシメル者ナルカ、」（重力ノ規則之ヲ言ヘリ）若シ此三個ノ考案ヲ昆多ホルミユハ只形体ニ就テノミ之ヲ考ヘ、睨トシタル試験ナキトキハ如何シテ之ヲ適合セシメタル者ナルカ、故ニ今此三個ノ形体ニ付キ、貴キ試験ヲ為サルベカラズ、而シテ余カ三個ノ定則ヲ以テ、デカルト、ベーコンガ、實在ノ論說ヲ定メタル以來理學上ノ最大ナル發明ナリトシテ之ヲ認許スベキコトノ深遠ナル証拠ヲ有セリ、

○然ルニ此實在主義ボジチヒズムトイヘル語ハ、後來ニ於テ爭論ヲ起スベキノ語ナリト思ハル、方今新ナル時世ノ天明ニ逢ヒ、又藉土ノ法ノ破壊ヨリ新ナル社會ノ方法ヲ造成スルノ時ニ逢ヒ、此事ハ、淺薄ナル觀察者モ能ク之ヲ見ルコトヲ得、而シテ又今日社會ヲ動乱スル深キ擾動ノ兆候ハ、明カニ

幻想説アイチアルヨリ起リタルコトニテ、此幻想説ハ、許多ノ考思学士ノ心ヲ引ク所ノ共有主義コムミニニズムノ法ニ帰スルコトニテ、是ニ由リ盛シニ衆心ヲ發動シタル者ナリ、然レドモ此共有主義ナル者ハ、社會ノコトニ付キテノ疑問ヲ十分ニ解釋断定スルニ足ルベキ者ナルカ、實在主義ヨリハ答ヘテ否ト言ハシ、然ル所以ハ左ノ道理アルニ由レリ、共有主義ハ専ラ政治上ノ問題ヲ解尺断定シタル者ナリ、而シテ其問題ハ政治學ヨリハ更ニ高崇深遠ナル疑問ヲ包含セリ、共有説ハ社會ノ向ハント欲スル標マウニシテ、之ニ達セントスル道路ニ非ズ、唯共有主義ニテ言フ所ノ共ニ協力シ、及ヒ交際上ノ符語等ノ如キハ縦令誠実ニ之ヲ用フトモ、決シテ其問題ノ全部ヲ困難スルコト能ハザルナリ、其故ヲ知ラント欲セバ、先ツ吾儕ニ、政治學上ノ疑問ヲ安定排列スベシ、又合和セル成効ノ平面方形ヲ想像セヨ（共ニカヲ協ハスルハ人類ノ蜂窩ナリ）此ノ如クシテヨク悉ク安定シ得ルカ、教法及ヒ理學ノ急緊ナル問題ノ尚明答ヲ要スル者アラザルカ、人タル者ハ蜜蜂ノ上ニ登ルベキハ明確ナリ、而ルニ共有説ハ、人類ヲ以テ全ク祭司ト教師トニ委託セント欲ス、夫レ祭司ト教師トハ自己ノ間ニ各異説アリテ相統一スルコト能ハズ、而シテ總テ政治ハ、共同ノ中ニ信用セル意思ヲ以テ根基ト為スガ如ク、社會ノ問題ニ於テハ、政治ヲ道德ヨリ分離スルコト能ハズ、道德ヲ教法ヨリ分離スルコト能ハズ、而シテ共有主義ニテハ、獨リ社會ヲ以テ無政治アナルキヤイ（壞乱）ニ委棄セリ、

○方今政治ノ壞乱セルハ意思アイチアルノ壞乱セルヨリ起レルナリ、往昔ノ信用ハ、

其散換セザル所ニ於テ破裂シ、新ナル信用ハ、旧信用ニ代ルベキ者ナルニ、来ラントシテ未タ来ラズ、当今歐羅巴ニ欠乏ナル者何ナルカト問フニ、吾儕ノ思念ノ全体ヲ包括スルニ足ルベキ一大教義ナリ、此教義ハ実學、生活、教法ノ總共ニ疑問ニ十分ニ返答セザルベカラズシテ、吾儕ヲシテ此世界ト職分ト上帝トノ管係ヲ知ラシメサルベカラザル者ナリ、目今歐羅巴ノ状態ヲ通觀スルニ、合一ユニテノ欠亡ニ在ルトイフコトハ衆人ノ知ル所ナリ、此合一ノ欠亡ハ、種々ノ問題ヲ包括スルニ足ルベキ十分ニ概括セル教義ノナキニ基スル者ナリ、而シテ此實在主義ノミハ獨リ之ヲ包括スルニ足ル教義ニシテ、抵抗スベカラザル證據ヲ有スル者ナリ、（カトリック）加持力ノ教門ノ如キハ元來此概括（セネラ）ヲ主トスル者ナリ、然レドモ彼羅特士敦ノ證據ノ為メニ破ラレタリ、凡ソ教門ニ流派アルトイフコトハ、何レノ教門ニ於テモ天下ノ人ヲ合セテ一教派ノ下ニ屬セシムルコト能ハザルノ證據ナリ、宗教ニ於テモ已ニ此ノ如シ、理學ニ於テモ亦然リ、一モ世界共通ノ教義ナル者アルコトナシ、殆ント理學ノ教派ノ多キコト理學者ノ數ニ比スベキ程ナリ、日耳曼ノ理說（ドクマ）ハ、英吉利人蘇格蘭人之ヲ笑ヒ、蘇格蘭ノ心象學ハ、日耳曼人之ヲ嘲リ、英吉利人ハ之ヲ修メズ、是等ノ宗門理學ノ分派ノ外ニ、此二者ノ中ニハ尚多少抵敵爭論スルノ學派、其數甚多シ、

○然レハ一般ノ教義ニ付キテ通觀スルハ明ニ左ノ事實アリ、教法ハ教法ト相反抗シ、理學ハ理學ト相反抗ス、加之教法ト理學トハ實ニ相互ニ反

抗ヲ相為スナリ、

○實在ノ学ニ於テハ、其争抗他ノ学派ノ如ク多カラズ、然レドモ、其一般ノ教義ト為ス能ハサルコトハ他ノ理学ニ異ナルコトナシ、各个ノ実学皆真理ヲ以テ根基トシ、其上ニ堅固ニ堅立シ、而シテ又速カニ改進スルナリ、然レドモ実学ノ理学トイフコトハ、今日ニ至ルマデ奥古土都昆多（オレギヌストコルト）ノ書ノ外、他ニテ見タルコトナシ、実学ヲ専ラストスル人ハ、其学ニノミ特殊（スベシヤ）ニシテ、一般ノ思想ヲ發生シ又包含スルノ力ニ乏シトイフコトハ、久シク世ニ存セル公正ノ貶議ナリ、彼人ハ汚土ノ灰斗ヲ持スルノ人ナリ、然ルニ自ラ建築者ナリト妄想セリ、此ノ如キ力ニ乏シキ理ヲ知ラント欲セバ、先ツ何故ニ矇昧タル形而上ノ理學、久シク、貴キ心ノ働キヲ費シタルカノ道理ヲ求メザルベカラズ、凡ソ種々ノ実学ヲ何程精密ニ窮メタリトモ、此実学ヲ以テ理学ヲ構造スヘカラザルコトハ衆人ノ明ニ知ル所ナリ、故ニ曰ク、磚瓦ハ家屋ニ非ズト、実学ノ初世ニ於テハ一般ノ見込ヲ立ツルコト極メテ容易ナリシ、其材料ノ益混合錯雜スルニ及ビ、実学ノ中ニ種々ノ区分ヲ生セリ、是ニ於テ此人ハ力ヲ此実学ニ尽シ、彼人ハ力ヲ彼実学ニ尽スニ至レリ、此ノ如キ時ト雖ドモ概括ナル者ハ全く消滅シタルニ非ズ、然レドモ近代發明ノ上ニ發明ヲ重ネ、其勢波濤ノ疊進スルガ如ク、従前發見セザリシ真理ノ荒野ニ於テ考究ノ新路ヲ開キ、一人畢生ノ全力ヲ竭シテ、実学中ノ一小部分ヲ考究シ、概括ノ如キハ全く他人ノ發見ノ工課ニ委託シテ之ヲ顧ミルニ違アラザルハ亦勢ノ已ムコ

トヲ得サル所ナリ、然レドモ実学ヲ修ムルノ士ハ専ラ其特別ノ学ニ従事スルヲ以テ、遂ニ概括教義ノ構造ヲ以テ、形而上學士ハ委棄スルノ結果ヲ現ズルニ至レリ、吾儕現今ノ學士ノ思想ヲ見ルニ、大抵ハ力勢ナキ者ナリ、其故ハ、皆實在ニ非ザレバナリ、然レドモ實在ノ実学モ亦力勢ナキ者ナリ、其故ハ實在ナリト雖ドモ實學ニシテ、概括ニ非ザレバナリ、昆多ノ目的ハ實在ノ実学ヨリ精選シ上ゲ、形而上學ノ如キ概括ノ力ヲ有シテ、其空虚、無根、不適當等ノ諸病ヲ除キ去リ、以テ確然タル實在ノ教義ヲ定メントスルニ在リ、

「実在理學譯解」

「実在理學譯解」は、八二七—一三三「実在理學譯解 谷蔽氏洛日克入門第二冊」の内に「政治學一」「道德學 Hubbard Winslow」「宇宙理學前輯」「谷蔽氏洛日克入門第二冊」「演知學一」とともに合綴されている。

「実在理學譯解」は、George Henry Lewes(一八一七—一八七八)の著述に於て *Comte's Philosophy of the Sciences: being an Exposition of the Principles of the Course de philosophie positive* (つまり、オーギュ

スト・コントの『実証哲学講義』の英語による解説書の部分訳である。本書は、冒頭に *Biographical Introduction* をおいた後に、本文の Part

I と Part II からなる。Part I は二十一の Section、Part II は十二の Section からなる。

ルイスの序言によると、Part I は、六つの予備科学の哲学を含み、Part II は社会科学であつて、前者については、コントの見解を説明する他に、新たな批評、例証、新たな思索と事実を大幅に混合したが、後者についてはコントの見解にほとんど付け加えることをしなかつたとしている。

西村が翻訳したのは、本文の Part I の Section I の八頁から十四頁六行目までである。Part I は第一部、Section I を第一篇と訳している。

George Henry Lewes は、イギリスの哲学者、文芸批評家、自然科学者である。コントの後、スペンサーの影響を受けて、進化論の立場から哲学の諸問題を解決しようとした。

政治學一

米國 吳爾璽 (ワールゼヒ) 著  
日本 西村茂樹 譯

第一篇

理權トハ公義シヤクナル政府ノ基礎

序論

第一章

〔此論説ノ係画プラン及ヒ其起步〕

○真正ナル理論ニ據ルニ、凡ソ人類ニハ人身ノ理權トイフ者アリテ、此理權ハ政府ノ施政ノ力ニ由リテ初メテ眞実ノ理權トナルコトヲ得ルナリ、モシ公義ニ從フノ政府アルトキハ、其官職ノ一部ハ必人身ノ理權ヲ保護スル為メニ設アルモノナリ、此ノ如キ時ハ、理權ト政府トハ密ニ相結合スル者ニシテ、或ハ政府ノ事ヲ論スルニ付キ、理權ノ法則ノ理論ヲ為サバ、ルベカラサルコトアリ、或ハ理權ノ義ヲ実験シ、是ヲ以テ建造セル會社(政府ヲ指ス)ヲ論ズル為メノ起点ト為サバ、ルベカラザルコトアリ、今余カ此書ヲ著スニ當リ、此二者ヲ包含シテ之ヲ論セントスルノ意アリ、然レドモ理權ノ理論ハ、是ヲ以テ天然ノ法則ニ於テ論ズルガ如ク、獨立ノ地位ヲ占ムル者ト為サズシテ、是ヲ以テ政府ノ理論ノ前言ノ用ニ供スルヲ以テ其宜キヲ得タリトスルナリ、

○此外ニモ亦理權ト同シク、此篇ニ於テ舉論セザルベカラザル者アリ、

吾儕ハ人類ヲ以テ道德性ノ者トナシ、人品<sup>ヘルツナト</sup>責任<sup>レスレン</sup>ト云フコトヲ採レリ、余ハ又此世界上ノ道德ノ法則ヲ以テ実利<sup>リチイ</sup>ノ上ニ建立スル者ト為サズ、所謂実利トハ人類ノ行為ノ法則ヲ実利ニ依拠シテ定ムルヲ言フナリ、然レドモ上帝ハ総テ人類ノ為メニ実利ヲ主トシテ世界ヲ經營スルハ疑ナキコトナリ、吾儕ハ又大幸福ノ理論ヲ以テ用ヒ難キノミナラズ、政治上ノ用ニハ害アル者トシテ之ヲ卻ケント欲ス、吾儕ハ又人類ノ交際上ニハ仁愛ト公義トノ區別ナカルベカラズト云フコトヲ信セリ、吾儕又同時ニ、幸福ナル者ハ一個人ト政府トヲ論ゼズ、正理ニ據リテ之ヲ望ムコトヲ得ベキ目的ナリト許セリ、幸福ハ正理ニ服従スベキ者ニシテ、人ノ道德性ノ下ニ立ツベキ者ナリト雖ドモ、亦一身上ト政府上ニ於テ、甚タ必要ノ者ナリ、吾儕ハ又最後ノ本元<sup>ルカス</sup>ヲ信ズ、凡ソ人類ノ天性ヲ視ルニ、善良公正ナル社會ヲ為スニ、極メテ恰好適當ナル準備ヲ具フル者ニシテ、且ツ形体上ノ結構ヨリハ道德及ヒ社會上ノ結構ニ就キテ、尤モ明白ニ天意ノ在ルコトヲ推知スルニ足ルベキ者ナリ、

○余今読ム者ニ預告セントス、此書ハ初メニ、一個人ノ理權ヨリ説キ出スナレドモ、其初メニ於テハ、理權ハ政府ノ成立スル所以ノ者ナレバ、人民モ亦必ス之ヲ保護セザルベカラズト云フコトハ敢テ之ヲ言ハズ、吾儕又良善ノ政府ハ、公義ノ外ニ更ニ要<sup>イムボクタン</sup>用<sup>オフセクツ</sup>ノ目的アルベキト云フコトヲ知レリ、其事ハ下文ニ於テ之ヲ述べントス、然レドモ政府モシ理權ヲ有スルコトナキトキハ人類社會ノ為メニ適當シタル構造ト名クルコト能

ハズシテ、乃チ公義ナル政府ニハ非ザルナリ、人類ノ理權ニ付キテ真正ノ意見ハ、凡ソ政府ナル者ハ故ラニ意ヲ用ヒテ公義ヲ行ハザルベカラズト云フコトナリ、公義ナルノミニテハ猶不完全ノ政府ナルベシ、然レドモ公義ナラザルトキハ、人類ノ為メニ立テタル政府トハ稱シ難カルベシ、

○此書編纂ノ趣意ハ、初メニ理權ニ付キテノ概念ヲ會得セシメ、次テ各個ノ理權ノ必要ナル解ヲ為シ、其後政府ノ事ノ解説ニ入ラントス、而シテ又其次ニハ嘗テ行ハレタリシ政治學上ノ実績、即チ史籍上及ヒ判断上ノ論説ヲ記シ、以テ政府ヲシテ其成立ノ為メニ、衆人ノ尊恭スル良政府タルノ目的ヲ得ルニ適セシメント欲スルナリ、

## 第二章

### 〔理權ト天然ノ法則〕

○余カ此書ノ第一篇ニ於テ論スル所ハ、或ハ天然ノ法則<sup>ルラ</sup>ト称スル學科ノ中ニ包含スル者ナルモ料リ難シ、天然ノ法則トイヘル語ハ、本ト羅馬ノ法律家ヨリ出タル語ニシテ、今日ニ於テハ、其用法ハ差<sup>グロテユス</sup>異ナレドモ、猶一般ニ採用スル所ノ語ナリ、格祿周ハ天然ノ法則トイフ語ハ、人ノ道德ニ管セル行為中ニ、人類ノ道德性又ハ交際性ト、或ハ協合シ或ハ協合セザル者アルヲ、正當ノ道理ニ依リテ之ヲ決断スルノ法則ナリト解セリ、然ルトキハ、天然ノ法則トイフ語ハ、道德ト滯<sup>セム</sup>斯<sup>マツ</sup>トノ双方ノ意味ヲ含有セル者ナリ、葱迷士馬金多西<sup>ゼームスマツキントシ</sup>ハ、天然及國民ノ法則トイヘル書ノ首ニ、左ノ如ク言ヘリ、

人類及ヒ政府ノ理權ト職分トヲ教フル

所ノ学ヲ現今ハ天然及國民ノ法則学ト名ク、此廣キ語ノ内ニ道德ノ規則ヲ包含シ、其規則ニ依リテ、一個人ガ此世ニ於テ、他人ト相交ハルノ行為ヲ定メ、又國民ノ法律ニ服從スルコトト、法律ヲ作り政治ヲ行フ所ノ政府ノ勢力トニ付キテ、其宜キヲ調理シ、又獨立國ガ他國ニ對シテ、治世ニハ親和ノ交際ヲ為シ、乱世ニハ戰爭ニ常法アルコトヲ示ス、故ニ約シテ之ヲ言ヘバ、此要用ナル學問ハ、人身ノ道德中ニ於テ、規則ヲ立テ之ヲ制スルコトヲ得ベキ一分ヲ以テ、其骨子ト為スナリ、〃此解義ニ據ルニ、天然ノ法則ノ學問ハ總テ一身上ト政治上下ト外國交際上トノ理權ト職分トヲ包括スル者ナレドモ、其學問ヲ以テ、一定ノ條規ヲ立タル道德学ノ範圍ノ内ニ限制セントシタル者ナリ、然レドモ其動カスベカラザル一身上ノ道德トイフ者ハ、唯人類ノ天性ハ此規則ニ從ハザルベカラザル者ナリトイヘル想念ヨリ生シタル者ナレバ、若シ天然ノ法則ハ、何故ニ一身上ノ道德ノ抑制ヲ受ケザルベカラザル者ナルカト問フトキハ、之ヲ解スルコト極メテ容易ナラザルベシ、又國民ノ法律ナル者ハ、一個人ノ理權及ヒ公衆ノ理權ト共ニ一様ニ道德学ニ屬スル者ナリトイフ理論ハ、本ヨリ真理ニ合フ理論ナレドモ、其實際上ノ方便ハ、國民ノ法律ヲ以テ獨立ノ者トシテ之ヲ論ズルニ在リ、何則万国公法ノ大部ハ、定然ノ品性<sup>ボクテ</sup>ニ於テ確定スル者ヲ多シトスレバナリ、凡ソ一國民ハ皆獨立ノ社會ナレバ如何ナル契約ヲ以テ他ノ國民ト相交際スルモ、自由ニ之ヲ為シ得ベキ

者ナリ、

○是等ノ學問ノ諸派ハ皆道德ノ原理ノ下ニ屬スル者ナリ、然レドモ理權ト云フコトノ會念ハ、道德ノ廣濶ナル界域ヨリ、殊別ノ田地上ニ吾等ヲ導ク者ナリ、(理權ノ念ハ固ヨリ道德ノ區域ノ内ニ包含スル者ナレドモ)、而シテ政治ノ学ヲ為ス者ノ為メニハ、理權ノ学ト政府ノ学トヲ以テ、政學ノ二大枝ト為シ、是ニ由リテ天然ノ法則ト云ヘル古語ヲ廢除スルコトヲ猶豫セサルホドニ、大切ノ學問トナレリ、

### 第三章

#### 〔道德ト法律トノ範圍〕

○道德ノ学ハ道德性ヲ具ヘル動物ノ内部外部ノ行為ニ干係ヲ為シ、夫ニ依リテ意思ハ常ニ其身ヲ管理シ、若シ之ヲ失フトキハ、十分ナル正シキ人トハ為リ難キ者ナリ、然レドモ道德ノ行為ノ中ニ於テ感覺、起意、志向ノ如キ内部ノ行為ハ、之ヲ自識スルノ所ノ人ニ非サレバ、之ヲ一種類ノ物トシテ精密ニ判断スルコト能ハズ、故ニ此ノ如キ内部ノ行為ハ、人類ノ法則ノ(或ハ固定シ或ハ禁止ス)主体<sup>サマゼ</sup>トニ非ス、人類ノ法則トシテ注目スベキ所ノ物ハ、内部ノ志向ト、結合スル所ノ外部ノ行為ニシテ、其行為ヲ怠棄スルコトモ亦此中ニ屬スルナリ、正理ヲ思考セル社會ニ於テ、責罰ノ法、及ビ邪曲ナル外面ノ行為ニ付キテハ、イカニ注目スルカト云フコトハ、是ヨリ後ニ於テ考究スル所ノ論題ナリ、目今ニテハ、完全ニ結構セル道德法ノ寬宏ナル區域ノ内ニ於テ、社會ノ法ノ為メニ一界

限ヲ立テザルベカラズト云フコトヲ以テ論旨トスルヲ宜シトスベシ、社

會ハ固ヨリ一個人ノ完全ヲ保持スル為メニ主要ナル方法ニ非ズ、然レドモ社會ノ法則ナケレバ、亦人類ノ完全ハ之ヲ得難キ者ナリ、

○此工事（完全）ヲ為シ得ンガ為メニ、各個人ハ行為ノ或ルカヲ有セサルベカラズ、此力ハ公然ノ法律モ他人ノ意思モ之ヲ支配スルコト能ハザル者ナリ、故ニ人々モシ自ラ行為セント思フトキハ、各自巳ノ筋力ヲ自由ニ使用セザルベカラズ、若シ他人ト結合シテ行為セント思フトキハ、其二人ハ約束ヲ以テ相一致セザルベカラズ、モシ男子ト女子ト婚姻ヲ結バント欲スルトキハ、強力ノ者他ノ者ヲ挾制スル時ノ外ハ、互ニ自由ノ約束ヲ為サルベカラズ、

○然レドモ是ニ付キテ更ニ左ノ疑問ヲ生セリ、問、社會ノ法則ハ、一個人ノ行為ノ力ヲ整理スルコト能ハザルカ、即チ一個人ハ、自ラ如何ンシテ巳ノ筋力ヲ用ヒ、又ハ約束ヲ為スノ力ヲ用フルカヲ判断シ能ハザルホドニ整理スルコト能ハザルカ、其返答ハ、其事ハ全ク社會ノ力ノ外ニ在ルコトニテ、恰モ吾心ヲ識了スルト同様ノコトナリト云フベシ、凡ソ社會ノ半部ハ、他ノ半部ガ此力ヲ不適當ニ用セザルカト云フコトヲ見ル為ノ用ヲ為ス者ニシテ、之ヲ監督スルノ多數ノ人ハ、其上ニ已レヲ監督スル人ヲ有セザルナリ、自由行為ノ力ハ、廣キ度ニ於テ見ルトキハ、他ノ半部ニ與フル為メニ、之ヲ此半部ヨリ取ルコトトナルナリ、

## 第一篇

### 理權ノ総論

#### 第四章

〔理權ハ自由ノ行為ノ力ナリ〕

○一個人ノ有セル行為ノ力ハ、國民トナリタル上ヨリ之ヲ視レバ（或ル廣サニマデ）自由ノ行為ノ力トナルナリ、然レドモ一個人ガ、制抑ヲ受ケザル、行為ノ力ヲ有セサルベカラズト云フコトハ、獨リ事機ノ之ヲ要スル（社會ノ力、一個人ノ動作ヲ管理スルニ足ラサルトキ）ノミナラズ、又其起発スベキ道理アルニ由リテ之ヲ発スル者ナリ、凡ソ人類ノ状ヲ按スルニ、其天賦ニ関セル或ル分量ノ自由ハ、人類ノ品性ヲ高崇ニスル為メニ必要ノ者ナリ、則チ自由ナル物ハ、徳、勇氣、特性ノ強健、責任ノ義、高キ希望等ニ付キテ欠クベカラザルノ者ナリ、

〔主觀狀ノ理權〕

○此力即チ自由ノ行為ノ力ハ、之ヲ理權ライ、又主觀狀ノ理權ライト名ク、蓋シ己ガ心ニ於テ、此力ヲ用ヒント欲スルトキハ之ヲ用ヒ、之ヲ欲セザルトキハ、之ヲ用ヒザルコトハ、一個人上ニ於テ正理ライナルコトナリ、若シ或人、正理ニ於テ此力ヲ用ヒントスルトキ、他人ヨリ之ヲ妨障スルトキハ、其妨障スル者ハ、邪曲トナルナリ、語ヲ易ヘテ之ヲ言ヘバ、其他人タル者ハ、妨障スルコトハ之ヲ戒メサルベカラズ、其人ヲシテ自由ニ其見込ヲ行ハシメザルベカラズト云フコトトナルナリ、

〔互ニ關係アル義務〕

此自由ノ力、即チ正理ノ為メニ繫住セラレテ、其中ニ包含セラレタル力ヲ義務オブリゲーショント名ク、而シテ此書ニ於テハ務メテ正理ライトト理權ライトトイフ語ヲ區別シテ用ヒ、又職分ヂユイト云フ語ハ道德上ノ汎キ意味ニ之ヲ用フ、吾儕ハ近世ノ學士李伯リーベル、休耶爾ヒューエル、維托曼等ウイトルマンノ説ニ從ヒ、本論ヲ分チ法律ジュノ範圍、道德ノ範圍ト為ス、理權及ヒ義務ヲ以テ為ス所ヲ法律分トシ、道德上ノ要求クレム及ヒ職分ヲ以テ為ス所ヲ道德分トス、此ニ學ノ親密ノ關係、及ヒ其差異ハ後文ニ於テ詳ニ之ヲ論ズベシ、

第五章

〔理權ノ存在スル実試〕

○問、如何ンシテ一個人ニ管スル自由ノ行為ノ力アリテ、何ヲ以テ其力ニ理權ライトノ名ヲ與ヘタルヤ、又問、何ノ方法ヲ以テ、一個人ニ此力アルコトヲ發見シ得ベキヤ、此第一問ニ答フルニハ左ノ語ヲ以テスベシ、凡ソ人類ニ此力アリトスルコトハ、滿天下ノ人ノ協同一致スル所ナリ、但シ其念ノ明白ナラザルト其理權ノ多少ヲ擧グルトニ至リテハ時代ト人種ト異ナルニ從ヒテ甚タ一樣ナラザルナリ、

〔其一ハ一家ノ状態ヨリ言フ〕

其一 一家内ニ於テ小兒ノ状態ニ付キテ之ヲ言フベシ、今假リニ大中小ノ三兒アリトセンニ、父母其仲兒ニ或ル物ヲ與ヘ、仲兒ハ其物ヲ以テ我物ト名付タリ、然ルニモシ大兒已ノ力ヲ以テ其仲兒ノ物ヲ取ルトキハ、

仲兒ハ、其大兒ガ已ニ對シテ曲事ヲ為シタリトイフ感覺ヲ起シ、亦力ヲ以テ之ヲ取還サントスルナルベシ、

「政治學一」解題

「政治學一」は、八二七―一三五「実在理學譯解 谷蔽氏洛日克入門 第二冊」のうちに「実在理學譯解」「道德學 Hubbard Winslow」「宇宙理學前輯」「谷蔽氏洛日克入門第二冊」「演知學一」とともに合綴されている。

「政治學一」は、Theodore Dwight Woolsey (一八〇一―一八八九)の著述である *Political Science; or, The State Theoretically and Practically Considered.* の部分訳である。本書は、一八七七年に出版された二巻本である。確認できた一八七八年版と西村翻訳に矛盾するところはない。

原書第一巻の本文は、Part I から Part III の三部門に分かれており、各 Part の下位に Chapter を置いている。ただし、Part I だけは冒頭に Introduction を置き、その後 Chapter I 以下が続いている。このような分節とは別に、全巻にわたり、通し番号を付けて分節している。

西村は、第一巻の冒頭部分、つまり Part I の Introduction 及び Chapter I のはじめのところまでを訳している。

Part I を第一篇と訳し、Introduction を序論と訳している。全巻を通して付された分節の数字については章としている。ところが、Chapter を篇と訳したために、Part を篇としたことと矛盾をきたしている。

また、right に理權の訳語を与えているのは注目される。

Theodore Dwight Woolsey は、アメリカのイエール大学に学び、イエール大学学長になり、そこで政治経済学、政治学、国際法を教えた。一八六〇に初版が出た *Introduction to the study of International Law* は多くの読者を得た。

## 演知學一

米利幹 維尔孫 著

日本 西村茂樹 譯

### 序論

「魯日ノ諸般ノ定義」

○第一章 演知學ハ西語ニ魯日ト云フ、此魯日トイフ語ハ、人々尽ク其説ク所ヲ異ニシ、其中ニ論スル所モ、人々其思想ト研究ノ異ナルニ從ヒ、差異太多シ、或ハ是ヲ以テ単ニ思想ノ法則ヲ論スル所ノ學トシ、或ハ是ヲ以テ人ヲ辨倒コンウキ説服ベルシユスルノ術ト為シ、或ハ是ヲ以テ真理ヲ發見スルノ方法ト為シ、又以テ方法ノ通主義セラル、プリンシト為ス、

「理學ハ演知學ニ先ダツ」

○第二章 演知學ノ未タ特別ノ學術ト為ラザルノ以前、理學ハ已ニ成リテ之ヲ養成スル者アリシナリ、此理ハ甚明白ナルコトニテ、凡ソ真理ツルノ謬ルノ恐レナク、經驗上ニ於テ苦キ果物ヲ採摘セザル以前ハ深く真理ノ法則ヲ探討スル者ナキハ自然ノ理ナリ、希臘ノ古代ノ教學（印度ノ教學ハ其年代ヲ詳ニセザルヲ以テ爰ニ之ヲ記セズ）以阿尼イオニイ、畢大各拉ピタゴリアンノ二派ノ如キハ是ニ抗敵スル者ノ恐レナク、偏ニ己カ教ヲ確信シ、定論斷言スルヲ以テ未タ演知學ヲ要スルニ及バザリシナリ、

「演知學ノ根原」

○第三章 然ルニ此二派ノ教學、漸々争軋ヲ生スルヨリシテ遂ニ真理ノ

法則カン或ハ真理ノ試法テスヲ求ムルコトノ要用ナルニ至レリ、是ニ於テ、唯其發論ノ要点トナル術語アルノミナラズ、第一ノ主義ノ研究、主義ヨリ生スル所ノ諸事ニ至ルマデ、共ニ真理ヲ發明スルノ欠クベカラザルコトヲ知り、真理ヲ驗シ得ベキ所ノ適當ノ方法ヲ求ムルニ至レリ、

「亜立ハ演知學ノ法則ノ創立者ナリ、」

○第四章 然レドモ亜立斯度徳ガ未タ世ニ出デサルノ前ハ、未タ演知學ノ法則順序ヲ定メタ者ハナカリシナリ、然ルニ亜立斯度徳ハ自ラ曰ヘリ、塞諾セノ「ゼ、エリーチツク」ハ演知學即チ論辯術ノ發明者ナリト、

「理學ノ三大支」

○第五章 然ルニ理學ノ、己ガ占領スベキ田野ヲ審ニ研究シ、其中ニ包含セル事物ニ付テ一定ノ思考ヲ下スニ及ビ、布刺多其理學ノ疆界中ニ三支ノ並ヒ存スルヲ發見セリ、其一ヲ物性フヒジト云ヒ、其二ヲ道德ト云ヒジ其三ヲ演知ロジト云フ、物性ハ總テ造化自然ノ諸學ヲ包含シ、道德ハ人ノ交親ト職分トノ事ニ関シ、演知ハ心ノ學ニシテ、其活動ヲ導キテ適當ノ終歸ヲ得シムル所ノ規則ナリ、

「布拉多ノ演知ノ説」

○第六章 演知學ノ原語「ロジック」ハ希臘ノ λογος、トイヘル語ヨリ出ヅ、布刺多ハ是ヲ以テ總テ心ノ内ニ保有セル無形ノ力能ニシテ、言語説話ヲ以テ之ヲ發出スル者ニシテ、即チ道理リイヲ指ストイヘリ、方今稱スル所ノ演知學ハ、知慧ノ理學アル、ヒロソヒイ即チ心理學メタフヒト云ヘル学科中ニ舉

クル所ノ全部ヲ表明スル所ノ学ヲ指シテ之ヲ言フナリ、

○第七章 然レドモ知慧ノ理學トイフ者ハ其疆域頗ル廣クシテ其中二三種ノ学科ハ包含ス、其目左ノ如シ、

「心性学」

(一) 心性學<sup>サイコロジイ</sup>ハ心ノ現狀<sup>クワット</sup>ヲ論ズル者ニシテ其現狀ハ人々自己ニ之ヲ覺知スル者ナリ、即チ感覺<sup>センヤク</sup>會得<sup>ヘセフ</sup>選擇<sup>アハストラ</sup>理會<sup>コンヤク</sup>聚合<sup>アツクシユ</sup>想像<sup>イメヂチ</sup>記憶<sup>メモリー</sup>直覺<sup>イントイ</sup>判斷<sup>ジヤク</sup>推考<sup>インフ</sup>等ナリ、

「心理学」

(二) 心理學<sup>メタラヒジツ</sup>自己<sup>クワット</sup>ハ思想ノ先天ノ情態ト法則トヲ探討シ、認識<sup>コグニ</sup>ト判斷トヲ定ムル所以ノ意想トヲ考究シ、及ヒ諸学ノ依據ト為ル所ノ必要ナル原則<sup>アキツム</sup>即チ第一ノ本義<sup>ホニスト</sup>ヲ研究シ、是ヲ以テ心ノ所能<sup>ホツシビ</sup>ト體質<sup>イリ</sup>トノ基礎ト為シテ之ヲ定ムル者ナリ、

「狭キ意味ノ演知學」

(三) 演知學<sup>ロジク</sup>ハ彼我相互ノ理會ノ管係、第一ノ者ヨリ第二ノ者ノ推論、直覺ノ判斷、及ヒ綜合ノ法則<sup>ラウス、オフ</sup>ヲ論ズル者ナリ、此綜合ノ法則ハ真理ヲ以テ法式<sup>システム</sup>ニ依ラシムル者ナリ、

「近年方法ハ演知學ノ中ニ入ラス」

○第八章 此最後ニ記セル綜合ノ法則ハ通常之ヲ方法<sup>メタ</sup>ト名クル者ナリ、近年此方法ヲ以テ別ニ獨立ノ學ト為シテ之ヲ論ズル者多シ、今ニ方法ヲ以テ演知學ノ外ノ事ト為シテ之ヲ觀ルトキハ所謂演知學ハ、推論セル

思<sup>サイ</sup>考<sup>エンス</sup>ノ學<sup>オフ、データ</sup>ト云フコトニナルナリ

「演知ヲ學ト為シテ説ヲ立ツ」

○第九章 凡ソ推論ニハ真實正義ノ推論アリ、又欺偽証惑ノ推論アリ、是ニ由リ推論ノ学<sup>サイエンス</sup>ヲ以テ一個ノ学ト為シ立テ、以テ真ト偽トヲ區別セザルベカラズ、其推論ノ法則範式ハ其決定<sup>コンクリエ</sup>ヲシテ正義ニ出デシメ以テ欺罔ノ説ヲ驅除スルノ方法ヲ選ブニ適セシメントスル者ナリ、

「演知ハ術ト為リテ辨論ト修辭トニ管係ス」

○第十章 乍併此学ヲ發達進行セシメントスルニハ先ツ其演説セントスル言語信号ノ標示ト、考案シ推理スル所ノ物事トヲ定メザルベカラズ、殊ニ常語ニ憑證<sup>アルジュ</sup>ト名クル者ヲ造成スル所ノ範型<sup>ミョウ</sup>ヲ定メザルベカラズ、此形体ヨリ見ル時ハ演知ハ學ニ非ズシテ術トナルナリ、演知ヲ以テ術トスル時ハ、之ヲ辨論術又修辭

術ト名クベシ、然レドモ此書ニ於テ論スル所ハ主トシテ演知ヲ以テ學ト為シテ之カ説キ立タル者ナリ、

「演知學ハ如何ナル者ヲ以テ善キ推理ナリトスルヤトイフコトヲ教示ス」

○第十一章 今此所ニ演知ニ付求ムル所ハ、事ヲ説カンニ、敢テ演知ヲ以テ發明ノ方法ヲ得ル者ト為サズ、又辨論ニ於テ必要ナル憑證ノ方法<sup>演</sup>説及ヒ著書ニ於テ必要ナリトスル)ヲ造成スル者ト為サズ、簡約ニ之ヲ言ヘバ、如何セバ善ク理ヲ推スコトヲ得ルヤト云フコトヲ教指セズ、唯如何ナル者ヲ以テ善キ推理ナリトスルカ、何故ニ然ルヤト云フコトヲ教

示ス

示スルニ過ギザルノミ、

「演知學ハ文法書等ヲ學トスルニ似タリ、」

○第十二章 是故ニ演知學ハ譬ヘバ文法書ニテ公行ノ書法ト語法トヲ教ヘ、道德學ニテ善キ道德ヲ教ヘ、樂術ニテ善キ歌謡ヲ教ヘ、或ハ解體術ト生理學トヲ以テ製藥術、醫學、養生法ノ主義ト、製藥術、醫學ノ行習ヲ教フルガ如シ、

世間ノ人、文法書ヲ知ラサレトモ能ク言説シ、合調ノ理ヲ學ハサレトモ能ク歌フ者多シ、然レドモ文學ト音學トヲ知ル時ハ、其言語歌謡更ニ善カルベシ、又此學ナキ時ハ之ヲ整理シ又之ヲ人ニ教フルコト能ハズ、

「演知學ハ判断ノ器具ナリ」

○第十三章 文法書ニハ言辭ノ諸部ヲ標示スル所ノ語アリ、名アリ、又其語ヲ變幻シ、此語ト彼語ト相關係シ、又ハ全句ヲ成スノ法ヲ定ムル所ノ規則アリ、演知學モ亦之ニ同ジク、思想ノ行動ノ諸部ノ名、他ノ思想ヲ辨明分解シ、我思想ヲ適當ニ發出スル為メノ互ノ關係ノ方法規則ナカルベカラズ、此補助ノ方法ナキ時ハ、修辭術、論辯術オウマツ或ハ心性學、心理學ヲ學フニ好成果ヲ得ルコト能ハズ、而シテ此名ト規則トハ此學問ノ諸部ニ於テ何レモ最肝要ノ者ナリ、

○第十四章 演知學ニ於テ思想ノ行動ト思想ノ領スル所ノ事物マツト別物ナルコトハ自ラ判然タリ、思想ハ其順序、整齊、及ヒ彼此相互ノ服屬ハ

何レモ其中ニ於テハ同様ニ在リテ、事物ニ至リテハ全ク思想ト別物ナリ、又之ヲ反轉シテ見ルトキハ、事物ハ何レモ同様ニ在リテ、思想ノ順序後續ニ至リテハ全ク之ト別物ナリ、故ニ之ヲ分ツ時ハ一ハ思想ノ憑確或ハ行動ノ形体ホルニシテ一ハ事物ナリ、形体ハ只思想ノ順序、附屬、整理ヲ示スノミナリ、故ニ我儕今「人類ハ朽腐スベキ者ナリ、故ニ終ニ死ノ準備ヲ為サズルベカラズ」ト云ヒ、又「人類ハ死ノ準備ヲ為サズルベカラズ、其故ハ人類ハ朽腐スベキ者ナレバナリ」ト云フ時ハ、両文共ニ事物ハ同様ナレドモ、形体ニ至リテハ相同シカラズ、又余儕「人類ハ朽腐スベキ者ナリ、故ニ人ハ死ノ準備ヲ為サズルベカラズ」トイヒ、或ハ又「春ハ既ニ來レリ、故ニ我輩ハ夏ノ準備ヲ為サズルベカラズ」トイフ時ハ此兩文ノ形体ハ同様ナレドモ、事物ハ各相異ナリ、

「方法」

○第十五章 然レドモ又演説、論文モノ著書ノ如ク、憑證ヲ連續セシメント欲スル時ハ、種々ノ管係ヨリ形体、即チ範型ヲ綴合シ、各自各別ノ順序ニ從ヒテ其位置ヲ定ム、是ノ如キ時ハ、憑證ノ事物ト形体トノ外ニ、又一ノ方法オウマツト云フ者ヲ現出ス、此方法ト云フハ、種々ノ形体ヲ造成スルノ手段ナリ、故ニ余今試ミニ、二十四ヲ四倍スルトキハ一百ナリト云フコトヲ證示センニ、或ハ二十四ヲ四回連續シテ書シ、之ヲ漸次ニ前ノ二十四ノ上ニ加フル時ハ一百ヲ得ベク、或ハ二十四ヲ一冊書シ、其下ニ四ヲ書シテ之ヲ乘スルトキハ亦一百ヲ得ベシ、此ノ如キハ結果ハ同様ナ

レドモ、方法ハ異ナル者ニシテ、前ノ方法ヲ加法トイヒ後ノ方法ヲ乘法ト云フナリ、

「正式」

「推理」

「應用」

○第十六章 演知學ハ若シ其形体ノ種類ト法則トノミヲ推究スル時ハ、是ヲ正式ホルマルノ演知學又分解ノ演知學ト云フ、又更ニ進ンテ此形体ノ根原ヲ搜索スル時ハ之ヲ推理ノ演知學ホルナルト云フ、又更ニ一歩ヲ進メ、事物ノ諸種ノ異同ヲ考へ、此事物ヲ言フ所ノ發言ノ區別ヲ察シ、事物ノ用法ニ從ヒテ發言ノ形体ヲ變更スル時ハ、是ヲ名ケテ應用ノアツク演知學ト云フ

演知學一

形式ホルミノ分解

第一篇 名目タイ

「名目ノ定義」

○第二十三章 名目トハ知得コンセツ或ハ識得セルコトヲ、此心ヨリ彼心ニ輸送セン為ニ表章スル処ノ語辭即チ記号ナリ

第一解 知得コンセツ

○第二十四章 若シ我心、物ニ隨ヒテ動作スル時ハ、心性學ノ語ニ之ヲ認識スト云フ、此動作ノ結果ヲ名ケテ認識ベルチト云フ、然ルニ其物既ニ

我前ヲ過キ去リ、我心トノ對照全ク絶ユルノ後、猶其結果ヲ心ノ中ニ留存シ、自在ニ之ヲ呼出スコトヲ得ベシ、此ノ如キ光景ヨリ言フ時ハ、此結果ヲ名ケテ知得コンセツ又識得コグニト云フ、

「即時ノ動作」

○第二十五章 認識ハ即時ノ動作ナリ、而シテ何レノ時ニ於テモ、若シ最前ノ一事物再ヒ我知覺ニ感スル時ハ、吾儕又新ニ其事物ヲ認識シ、是カ為メニ新ナル識得ヲ心中ニ造リ出ス、故ニ我儕第二回ノ時ニ於テハ、新ニ第二ノ認識ヲ得、是ヲ以テ第一回ノ時ノ認識トヲ比較シ、其事物ノ前ノ事物ト同一物ナルコトヲ判断シ得ルナリ、

「認ムル所ノ事物ノ同一及ヒ差異」

○第二十六章 然レドモ前後両次ノ認識ヲ察シ、其前後ニ認ムル所ノ兩事物ノ固有ノ性質判然同シカラザルトキハ是ニ由リテ其事物ノ余ノ前ノ事物ト異ナルコトヲ知ルナリ、

「同一物ノ種々ノ認識」

○第二十七章 演知學ニ於テハ、同一ノ事物ニ付テ種々ノ認識ヲ為スコトアルモ、總テ之ヲ一ノ認識ト為シテ論ズルナリ、唯事物ノ自己ニ現存ノ方ヲ改ムル等ニ由リテ變化スルコトヲ思量スル時ハ此例ニ非ス、但シ其變化ハ事物ノ同一ノ性ヲ變スルコトナクシテ變化ヲ得タル時ノミヲ云フアリ、

「識得ト知得トノ區別」

○第二十八章 識得<sup>コトヲ</sup>云フ語ト知得<sup>コトヲ</sup>ハ或ハ其用法ヲ異ニスルコトアリ、即チ識得ハ、單一ニ其物ヲ指スコトニテ、例ヘバ人、筆等トイフガ如シ、知得ハ、其種類ヲ指シテ之ヲ言フ語ニシテ、例ヘバ人類、村落、衆筆等ノ如キ、是ナリ、併シ、是非トモ精密ニ此區別ヲ立ザルベカラズトイフコトハナキコトナリ、故ニ識得ノ語ハ是ヲ以テ物ノ種類ヲ指スコトハ無シトイヘドモ、知得ノ語ハ或ハ之ヲ以テ單一ニ物ヲ指スコトニ用フルコトアリ、

「完全及ヒ不完全ノ知得」

○第二十九章 知得識得ニハ共ニ完全<sup>アト</sup>ト不完全<sup>エト</sup>ト二者アリ、凡ソ其指ス所ノ物ノ性質、功用、志望、及ヒ事迹等ヲ尽ク包括スルトキハ之ヲ完全トイフベシ、此數者ヲ包括スルコト能ハザル者ハ之ヲ不完全ト云フベシ、

「殊異ノ知覚ヲ以テ完全ノ知得ヲ得」

○第三十章 五官中ノ一官ノミニテハ或ル物ノ完全ナル知得ヲ造成スルコト能ハズ、例ヘバ目ハ惟其物ノ色ノミヲ見、鼻ハ惟其香ノミヲ嗅ギ、舌ハ惟其味ヲ味ヒ、皮膚ハ惟其粗糙ト平滑ノミヲ知ルガ如シ、又吾等ノ五官ノ覚知ノミニテハ、物ノ大部ハ之ヲ知り得ルト雖ドモ、少シモ遺ス処ナク之ヲ知ルコト能ハズ、故ニ亦是ヲ完全ノ知得トイフベカラズ、是ニ由リ、他ノ證據、即チ史家、通行者或ハ其餘ノ學術ノ觀察者ノ言ニ依信シ、以テ、已カ未ダ知ルコト能ハザル小部分ヲ填成センコトヲ求

ムルナリ、

「想像ノ知得」

○第三十一章 此外ニ猶思想ノ主物<sup>オモセクト</sup>アリ、其物ハ吾身ノ五官ヲ以テ之ヲ識得スルコト能ハザレトモ、然レドモ確然タル知得ヲ得ル者ナリ、即チ信実、公正、善徳、無尽、等ノ類ナリ、此ノ如キ主物ハ或ハ之ヲ想像<sup>オモイ</sup>ト名ケ、惟道理ノミヲ以テ成立スル者ト為セリ、

「窮屈ナル完全ノ知得」

○第三十二章 凡ソ知得識得ノ中ニハ甚罕レニ、窮屈ナル意味又ハ自己ノ恣意ニテ定メタル完全ノ知得アリ、此ノ如キ知得ハ、其目指ス所或ハ十分ニ届カザルコトアルヲ以テ、尋常之ヲ不完全ノ知得ト名付ルナリ、例ヘバ鐵ノ上ニ文字ヲ書スル法ノ如キハ、鐵ノ質何ヲ以テ能ク磁石ノ質ニ変ズルカノ理ヲ知ルコト能ハザレバ、乃チ鐵ノコトニ付テ未タ完全ナル知得ヲ得サル者ナリ、然レドモ鐵ノ性質ハ能ク文字ヲ書スルニ適當スルトイフコトダケヲ知り得ルトキハ、猶其目的ニ付テノ知得ダケハ完全ナリト云フベシ、然レドモ惟其磁石力ニ感ズルノ理ハ意ニ之ヲ知ルコト能ハザルナリ、

「如何シテ知得ヲ完全トナスカ」

○第三十三章 演知學ニ於テハ、凡其形体ノ原質トナル所ノ知得ハ何レモ之ヲ完全ナル者ト為シテ之ヲ論ズルコトナリ、モシ其中ニ一二ノ不完全ノ者アル時ハ、心ニ生ズル思想ノ指物ト更ニ親和セシメテ之ヲ償興シ、

解義、解說等ノ法ヲ用ヒテ他ノ心中ニ輸送シ、以テ完全ノ知得トナスナリ、

「可成不成實在ノ主物」

○第三十四章 吾等ノ識得ヲ造成スル所ノ主物ハ、之ヲ分ツテ可成ホツシ不成シムル實在ルノ三種ト為ス、實在ノ主物トイフハ總テ實ニ現存エキスセシムル者ヲ指ス、可成ノ主物トハ、明カニ現存スルトイフコトハ知レザレドモ、姑ク之ヲ現存セルト假定セル所ノ者ヲ指ス、故ニ凡ソ實在ル主物ノ未タ全ク現成セザルノ間ハ、即チ可成ノ主物トナリテ現ハル、ナリ、不成ノ主物トハ、心中ニ於テ未タ全ク完成セザルノ物ヲイフ、即チ二面ダケノ成リタル三角形ノ如シ、

○第三十五章 實在ノ主物ハ又之ヲ二種ニ分ツ、一ヲ成立ノ實在オス、ヒトシト云ヒ、二ヲ真理ノ實在オス、ツルスト云フ、心及ヒ他ノ有形物ハ總テ之ヲ成立ノ實在ト為ス、公正徳誼等ノ如キ心ノ性質ヲ云フ者、及ヒ、時、廣、點、線等ノ如キ知識ノ最初ノ正則ヲ指ス所ノ者ハ之ヲ成立ノ實在トイフコト能ハズ、其者ノ性質ハ決シテ實在ナル者ニ非ズ、然レドモ此ノ如キ者ハ成立セル実物ノ性質ヨリ出タル者ニシテ、有形物無形物共ニ然リ、心ヲイフイヘドモ亦其現存ヲ變化スルコトナシ、

「名目ノ反對」

○第三十六章 或ハ謂フ、既ニ不成トイヘバ知得スベキノ物ナシ、故ニ

不成ノ知得ヲ此中ニ加フルハ如何ナリト云フ者アリ、イカニモ嚴密ニ言フ時ハ、不成トイフ者ハ知得ヲ造成スル者ニ非ズ、惟其近キ物ノ分子ツヲ造リ出セルノミノ者ナリ、例ヘハ兩面ト三角トイヘル二個ノ分子ヲ現出セリ、然レドモ此二者ハ固ヨリ相附合スルコト能ハザル者ナレバ、終ニ合シテ一ト為ルコト能ハズ、即チ兩面ノ三角トイフ知得ヲ得ルコト能ハズ、故ニ兩面ト三角トイヘル二個ノ分子ヲ強テ合セテ一トスル時ハ、通常ノ語ニ之ニ名目ノ反對ト云フナリ、

○第三十七章 凡ソ知得識得ヲ造り成ス所ノ我思想ノ指物ハ、其相管係スルノ狀許多ニシテ、種々ノ方法ヲ以テ之ヲ推論セザルベカラズ、即チサツ實體デンスノ性質ツ全體ト分子ツ原因ズト效驗エツト同一ニ別異レンス尙似レセララシス、又反對コト同行ア是ナリ、

## 第二解 実体及ヒ性質

「実体」

「性質」

○第三十八章 実体サツトハ總テ自己ニ存在スル者ヲ指シテ之ヲ言フ、性質アロバトハ実体ノ内ニ固有セル者ニシテ、特立單行セル者ニ非ズ、例ハ鐵ハ実体ニシテ堅剛ハ其性質ナリ、  
「一ノ実体ハ數多ノ性質ヲ有ス」

○第三十九章 一ノ実体ニ數多ノ性質アリ、故ニ一ノ題目サツニ數多ノ解說アレチアリ、例ヘハ有形物マツハ大サノアル者アリ、又曰ク有形物ハ分解

スベキ物ナリ、又曰ク有形物ハ慣性アル者アリ、等ノ如シ、又曰ク鐵ハ堅キ剛ナル者ナリ、鐵ハ鍛フベキ者ナリ、鐵ハ引伸バスベキ者ナリ、鐵ハ要用ノ者ナリ等ノ如キモ亦同ジ、

「一ノ性質、數多ノ実体ヲ兼ヌ」

○第四十章 又一个ノ解説ニ數多ノ題旨アル者アリ、故ニ鐵ハ堅キ者ナリト云フノ外猶鉛ハ堅キ者ナリ、金剛石ハ堅キ者ナリ、橡樹ハ堅キ者ナリト云フコトヲ得ベシ、

「解説」

「確定」

○第四十一章 總テ解説ノ用ヲ為ス所ノ名目ハ、之ヲ名ケテ題旨ヲ解説スト云フ、其題旨ノ用ヲ為ス者ハ之ヲ名ケテ解説ニ由リテ確定<sup>カテゴ</sup>シタリトイフ、例ヘハ人ハ朽腐スベキ者ナリトイフ時ハ、此朽腐トイヘル語ハ即チ人トイヘル語ヲ解説スル者ニシテ人トイフ語ハ朽腐ノ語ニ由リテ確定シタル者ナリ、

○第四十二章 凡ソ數多ノ題旨ヲ以テ解説スベキ所ノ語即チ名目ハ是ヲ解説語<sup>アレチカ</sup>ト云フ、又題旨語確定語<sup>カテゴ</sup>ト云フ、一個ノ題旨ヲ限リテ解説スベキ語ヲ単説語<sup>アレチカ</sup>トイフ、此ノ如キ語ハ単立ノ物、定名詞等ノ語ニアル者ナリ、

「俱生ノ名目」

○第四十三章 凡ソ実体ニ固着シ又ハ附属スル性質ヲ言フ所ノ語ヲ俱生

ノ名目<sup>コンクリート</sup>ト云フ、白キ、長キ等ノ類是ナリ、然レドモモシ是等ノ性質ヲ以テ特立シタル思想ノ主物ト為シテ説クトキハ、之ヲ無形物ノ名目<sup>トク</sup>ト名ク、即チ白キコト<sup>トク</sup>長キコト<sup>トク</sup>等ノ如シ、

「標示及ヒ兼用」

○第四十四章 併シ、白キ長キ等ノ語ハ、無形物ノ性質ヲ標示スルニ常トスレトモ或ハ、兼テ又白キ所ノ物、長キ所ノ物等ヲ標示スルコトアリ、然ルトキハ此ノ如キ名目ヲ稱シテ兼用ノ名目<sup>コンクリート</sup>トイフ、即チ長キコトノ性質ヲ示シ、兼テ又長クアル所ノ物、即チ実物ヲモ兼示ス所ノ名目ナリ、

「了識ノ範圍及ヒ主意」

○第四十五章 了識<sup>コンクリート</sup>ハ皆何レモ二個ノ原質ヲ所有ス、一ヲ範圍<sup>スベキ</sup>ト云ヒ、二ヲ事情<sup>マツ</sup>トイフ、或ハ範圍ヲ名ケテ包含<sup>コトナリ</sup>トイヒ、事情ヲ名ケテ專指<sup>インテ</sup>ト云フ、

「範圍」

○第四十六章 範圍即チ包含ハ、先ツ一語ヲ了識スルトキハ其内ニ籠モリタル、一物一物ノ名稱ハ皆之ヲ其語ノ範圍中ノ者トナスナリ、例ヘハ堅剛トイヘル一語ヲ舉クルトキハ、スヘテ堅剛ナル物体ハ、皆此了識ノ内ニ包含スルコトナリ、

「事情」

○第四十七章 事情即チ專指ハ、先ツ一事ヲ了識スル時ハ、其事物ニ属

スル所ノ性質ノ名稱ハ即チ了識ノ事情ナリ、例ヘハ先ツ鐵トイフ者ヲ了識スルトキハ総テ鐵ニ属セル堅剛、可引長、可鍛鍊等ノ性質ハ皆了識ノ事情ナリ、

○第四十八章 人トイフ者ヲ了識スルトキハ其範圍ニハ塞撤(カエサル)、西色魯(キケロ)、華盛頓等(ワシントン)ノ如キ人々ヲ包含シ、則チ此ノ如キ一個ノ物物ハ皆是レ人ナリ、又其事情ヨリ言フ時ハ、両手アリ、両足アリ、道理ヲ知り、信心アリ、責任アル等ノ語ハ、形体ヨリ言フモ、知慧ヨリ言フモ道德ヨリ言フモ、共ニ人タル者ノ性質ヲ指スコトニテ、尽ク了識ノ事情ノ内ニ属スル者ナリ、

「了識ノ内ト下トニ在リ、」

○第四十九章 二個ノ了識ノ原質ノ區別ヲ言フ時ハ、一ハ了識ノ内ニ在リ、一ハ了識ノ下ニ在ルナリ、事情ハ了識ノ内ニ在リ、故ニ道理ヲ知ルトイフ語ハ、人トイヘル了識ノ内ニ在リ、塞撤、華盛頓、保那巴(ボナパルト)、仏蘭格林等(フランクリン)ハ人トイヘル了識ノ下ニ在ルナリ、

「演知學一」 解題

「演知學一」は、八二七―一三五「実在理學譯解 谷蔽氏洛日克入門第二冊」のうちに「実在理學譯解」「政治學一」「道德學 Hubbard Winslow」「宇宙理學前輯」「谷蔽氏洛日克入門第二冊」とともに合綴されている。「演知學一」は、William Dexter Wilson (一八一六―一九〇〇)の著述である *An Elementary Treatise on Logic* の部分訳である。本書は一八五五年に初版が出版されているが、確認できた第三版と西村翻訳に矛盾するところはない。

原書の構成は、一八五五年初版の序、一八五七年第三版の序の後に、詳細な内容目次を置き、Introduction、そして本論となっている。本論は、Part I は Analysis of Formula と Part II Logical Methods の二つの部門に分かれており、それぞれの Part の下位に Chapter、Chapter の下位に Section が置かれている。また、Introduction と本論部分に通し番号を付けて区分している。

西村は、Introduction を序論、Chapter を篇、Section を解と訳している。原書には、通し番号の区分に見出しはないが、西村は頭註の形で、それぞれの番号に見出しをつけている。Logic の学問名に演知學を用い、Logic の読みに魯日を当てているのも、他の場合と異なっている。

翻訳したのは、Introduction と Part I の中途までで、原書の頁数にして十四頁と少しである。

William Dexter Wilson は、アメリカの哲学、数学、教会史学の研究者である。コーネル大学の道德哲学と知識哲学の教授をつとめた。

致知學即洛日克

百科新編 七十一

百科新編卷七十一目錄

致知學即チ洛日克

〔甲〕 洛日克ノ主意

〔乙〕 名目<sup>ネム</sup>ノ種類<sup>シユ</sup> 判言<sup>フロボク</sup>

〔子〕 名目ノ種類

〔丑〕 種類<sup>クラ</sup>ノ注念<sup>ノウシ</sup> 即チ會念<sup>コウシ</sup>

〔寅〕 定言即チ判言<sup>アツサイシヨク、オ</sup>

〔丙〕 定義<sup>テイギ</sup>

〔丁〕 演澤<sup>エンザク</sup>

〔戊〕 歸納法<sup>キナクホウ</sup>

演澤ノ方法<sup>エンザクノホウ</sup>

〔己〕 誤謬<sup>ゴミョウ</sup>ノ及ヒ證據ノ開剖

〔庚〕 學術<sup>ガク</sup>ノ洛日克

ロジック  
洛日克

〔甲〕洛日克ノ主意

○洛日克ノ主意ハ、文法及ヒ修辭ノ主意ト同ジク、其一半ハ理論ニ屬シ、其一半ハ習行ニ屬セル者ナリ、其理論ニ屬セル部ハ事物ノ名目ノ天性ニ付キテ其普通ノ想念ヲ示シ、定言<sup>アッサン</sup>及ヒ其真理ノ根元、并ニ思想ト考究トノ種々ノ類ヲ人ニ知ラシムル者ナリ、其習行ノ部ハ、人心ニアル誤謬ノ傾向ヲ防ギ、真正ノ收結<sup>コンクリュ</sup>ヲ為シ得ルノ前ニ於テ、思想ト考究トノ全体ニ付キ注目セザルベカラザルノ情態ヲ学バシムル者ナリ、

○凡ソ人ハ洛日克ヲ知ラザルモ、亦能ク推理スルコトヲ得ル者ナリ、譬ヘバ、文法ヲ知ラザル者ニテモ、正シク文ヲ綴リ、修辭ヲ知ラザル者ニテモ、公衆ニ対シテ能ク辯論シ得ルガ如シ、此ノ如キ者ハ、縦令善ク之ヲ為ストモ、皆夫々ノ規則アルコトヲ知ラズシテ之ヲ妄行スル者ナリ、然ルニ洛日克ハ、凡ソ推理スル所ノ至極ノ天性及ヒ其用フル所ノ器械ト其推理ヲ安定スル所ノ基礎トノ天性ヲ教フル者ナリ、此ノ如キ規則ハ、協意ト利益トヲ兼タル者ナリ、洛日克ハ人ヲ導キテ大ナル發明ヲ為サシムル者ニ非ズ、又推理スルニ於テ、尽ク其誤謬ヲ免カルベキ者ニ非ズ、

又誤謬ニ傾向スル心ヲ全ク根治シ得ベキ者ニ非ズ、惟是等ノ為メニ其治術ヲ助クルニ過ギザル者ナリ、

○洛日克ノ學ハ、歴史上ニ於テ古代ヨリ二期ノ變革を経タリ、其一人ハ<sup>アリストテレス</sup>亞立士度德ノ洛日克ニシテ、其一人ハ<sup>ジョン スチュアート ミル</sup>裏士丟亞的彌爾ノ洛日克ナリ、此二者共ニ實際上ノ必要ヨリ起リタル者ナリ、<sup>アテン</sup>亞氏ノ洛日克ハ<sup>アテン</sup>演澤法<sup>アテン</sup>ト云フ者ニシテ、<sup>アテン</sup>雅典ノ民ガ公會又ハ法律ノ審院ニ於テノ需用ニ適當セル者ナリ、此等ノ場所ニ在リテ其論辯ヲ聽ク者ハ其論旨ニ由リテ已ガ意見ヲ作り、已ガ嘗テ信ズル所コリシテ、假造ノ推度ヲ為シ、以テ已ガ信スル所ヲ固クセントスルヲ常トス、故ニ是等ノ人ノ為メニハ、普通ノ原理ヲ以テ、各個ノ場合ニ貼用スル為メノ適當ノ形式ヲ知ラシメ、又若シ誤謬ノ決定ヲ為ストキハ、此形式ハ忽チ曖昧トナルコトノ方法ヲ知ラシムルハ甚タ切要ノコトナルベシ、是則チ<sup>アテン</sup>亞立氏ノ洛日克ノ實際ヨリ見タル所ノ必要ノ点ナリ、<sup>アテン</sup>彌爾ノ洛日克ハ、<sup>アテン</sup>歸納法<sup>アテン</sup>ナル者ニシテ現今學術ノ考究上ニ於テ最モ必要ナリトスル者ナリ、<sup>アテン</sup>彌爾ハ堅固ナル歸納ノ元則即チ堅固ナル<sup>アテン</sup>想考<sup>アテン</sup>ノ<sup>アテン</sup>情狀ヲ<sup>アテン</sup>發見シタルニ非ズ、其元則ハ古代ヨリ幾多ノ推理家ガ多少之ヲ用ヒ、學術ノ士、已ニ其形式ヲ作レル者アリシナリ、獨リ<sup>アテン</sup>彌爾ハ、始メテ<sup>アテン</sup>歸納ノ元則ヲ以テ洛日克ノ中ニ包括スベキ者ナリト考ヘ、是ヲ以テ推理ノ為メノ原理ナリト考定メタル者ナリ、此両法ノ根元ハ共ニ同一ニ歸スルコトニテ、<sup>アテン</sup>演澤ノ洛日克ノ實際ノ價值ハ<sup>アテン</sup>整合<sup>アテン</sup>ヲ據保ヲ助クルニ在リテ、<sup>アテン</sup>歸納ノ洛日克ノ實際ノ價值ハ<sup>アテン</sup>眞理

ズルノ據保ヲ助クルニ在リ、此ノ論旨ハ、學師倍因ノ洛日克ニ依據シテ之ヲ述ベタル者ナリ、倍因ノ洛日克ハ、此學ニ於テハ完全ナル著述ナリ、

〔乙〕名目種類判言

○演澤モ歸納モ其歸スル所ハ信用ノ基礎ヲ表示スルニ在リ、信用セル人ト、信用セザル人トノ間ノ通意ハ、言語ヲ以テ器械様ニ之ヲ用フルニ在リ、其言語ノ体ハ、常語ニ之ヲ定言ト云ヒ、文法ニ之ヲ句ト云ヒ、洛日克ニ之ヲ判言ト云フ、

○信用ト云フ物事ハ、余等ガ其上ニ働ヲ為スノ事ナリ、又或ル物事ヲ得ンガ為メニ、此物事ヲ為スノ事ナリ、余儕今「麵包ハ滋養スル物ナリ」ト言フトキハ、麵包ト云フ物ト、「滋養」トイフ性質トヲ別々ニ言フ時ヨリハ、其意味更ニ多シ、余儕ハ此二物（麵包ト滋養）ヲ以テ、人心中ノ活用ノ力ヲ以テ之ヲ結合シ、今示シタル所ノ意味ヲ造リ成スナリ、信用ト云フ者ハ行為ニ先チタル心ノ状態ナリ、又偶然ノ事ノ起発スルトキハ、行為ノ準備ヲ為ス所ノ心ノ状態ナリ、而シテ定言、即チ判言ハ、信用ノ主位トナル者ナリ、

○定言ヲ為スニハ、先ツ第一二個ノ物事ヲ記セザルベカラズ、信用不信用ヲ定メントスルニハ、單一ナル物事ヲ記スルノミニテハ、之ヲ為スコト能ハズ、故ニ「火ハ焚燒ス」「金ハ黄色ナリ」「麵包ハ滋養スル物ナリ」「太陽ハ行星ノ運行スル中心ニ在リ」ト言フガ如キハ、何レモ皆二個ノ物事、即チ二個ノ念ヲ連繫シテ一ノ定言ト為スナリ、今火ハ焚

燒スト云ヘル定言ニ於テ、此外ニ信用スベキ他ノ意味又ハ他ノ物事アルトキハ、火ハ一物ニシテ、焚燒ハ又一物ナリ、然レドモ此語ノ如クニテハ、二個ノ物事ヲ記スルコト甚タ十分ナラズ、又「金」ト云ヒ、「黄色」ト云ヘル二個ノ名ノミヲ並べ言タルノミニテハ、定言ヲ為スコト能ハズ、此時ハ確定スルノ力ハ全ク「ナリ」（原語ニテ是）ノ動詞ニ由リテ生スルナリ、余儕因テ定言ヲ為スニハ、動詞ノ必要ナルコトヲ知り、又動詞ハ定言ノ力ヲ完成スル者ニシテ、人心ノ中ニ信用不信用ヲ生スルノ力アル者ナルコトヲ知レリ、

○定言ハ必ス二個ノ物事ノ記載ヲ要スル者ナルヲ以テ、「判言ハ一个毎ニ必ス二個ノ名辭ヲ有セザルベカラズ、此二個ノ名辭ノ中ニテ、其說話ノ主身トナル者主位（又題目）ト名ケ、說話ノ對身トナル者客位（解釋）ト名ケ、主位ト客位トヲ合セテ名辭ト名ケ、名辭ニ又兩極ノ名アリ、其故ハ主位ハ每ニ最初ニ在リテ、客位ハ常ニ最後ニ在レバナリ、而シテ此兩極ノ中間ニ在ル者ヲ連辭ト名ケ、此連辭ハ判斷ノ働ヲ指示スル者ニシテ、客位ガ主位ヲ或ハ肯定シ、或ハ否定スルハ、皆此連辭ニ由リテ定マル者ナリ（維多利ノ説ヲ採ル）、上ノ例ニ由リテ言フトキハ、「金」ハ說話トナル物ニシテ「題目」ナリ、「黄色」ハ客トナル者ニシテ「解釋」ナリ、而シテ、「是」ハ連辭ナリ、英語ノ連辭ハ、通常 to be ノ辭ヲ用フ、肯定否定ニハ幾多ノ語アリトイヘドモ皆此 to be ニ歸宿スルナリ、

(子) 名目ノ種類

○判言ニ用フル所ノ名称、即チ其主位ト客位トハ必ス名目<sup>ネ</sup>ヲ用フルナリ、是ヲ以テ判言ハ一個毎ニ少クモ二個ノ名目ヲ有セザルヘカラス、洛日克家ハ洛日克ニ干係スルダケノ意味ヲ以テ其名目ヲ用フルヲ大要ノコトトス、凡ソ名目ヲ用フル所ノ学科ハ、洛日克ノ外ニモ尚數多アリ、博言学文法学修辞学ノ如キ是ナリ、是等ノ学ハ、何レモ自己ノ目的ニ從ヒテ名目ヲ類別シ、博言学ニハ、<sup>アリアン</sup>亜利安語塞米の語ノ別アリ、文法学ニハ名詞、形状詞、動詞ノ別アリ、修辞学ニハ平易、比喻、攪動、傷心ノ別アリ、洛日克ノ如キモ亦其目的ニ適合スル所ノ名目アリ、先ツ名目中ニ於テ二個ノ別ヲ立ツルコトハ、此学ニ於テ尤モ益アルコトナリ、一ハ<sup>ゼネラル</sup>共通ノ名目(総名) <sup>ネムス</sup>ニハ單一ノ名目(単名) <sup>シンギユラ</sup>是ナリ、又此外<sup>ボジチ</sup>ニ正面名目(定名) <sup>ブネム</sup>反面名目(否名) <sup>ネガチ</sup>ノ二者アリ、

○「單一名目ハ、一個ノ事物ニ貼用スル名目ナリ、共通名目ハ、同一ノ所アリ、共通ノ所アル衆多ノ事物ニ貼用スル名目ナリ、」(倍因)、單名、即チ固有名ハ、羣聚セル事物ノ中ヨリ、一個ノ事物ヲ提出シ、或ハ吾指ヲ以テ其事物ヲ指示シ、又ハ他人ヲシテ認視セシムルノ用ヲ為ス者ナリ、即チ英吉利、<sup>テイセ</sup>尼羅河、<sup>モソラン</sup>蒙伯朗山、<sup>チイアガ</sup>尼亞加拉瀑、<sup>チボレン</sup>拿破侖ノ如キ名目ハ、其表示シタル事物ノ外ニハ別ニ知識ヲ得ルコトナシ、即チ此語中ニ事物ノ性質又ハ屬性ヲ包含スルコトナキヲ以テ、又之ヲ狗猫牛ノ名ニモ貼用スルコトヲ得ベシ、洛日克ハ事物ノ性質ニ付キテ定言ヲ為ス者

ナルヲ以テ、此ノ如キ單一ノ名目ハ、之ヲ貼用セル者ニ付キテ肯定ヲ保持スルトキノ外ハ、其利益ヲ為スコト至テ少ナシ、洛日克ノ為メニ利益アル名目ハ、共通名目ナリ、即チ國、川、山、瀑布、人ノ如キ名目ハ、其時代ト土地トノ異ナルニ從ヒ、是等ノ名目ガ共有スル所ノ物ハ、幾多ノ物ニモ貼用スルコトヲ得ルナリ、故ニ共通名目ハ意味アル名目又含蓄アル名目ト稱セラル、ナリ、其故ハ總名ハ之ヲ貼用スベキ許多ノ事物ニ共有セル屬性ヲ所有スレバナリ、

○名目ノ其次ノ區別ハ、正面名目反面名目ナリ、此區別ハ更ニ巧ナル者ニシテ、此所ニハ詳細ニ之ヲ述ブルコト能ハズ、今若シ或ハ題目ニ付キテ定言ヲ為ストキハ、暗裏ニ他ノ或ル事物ヲ拒否セザルコトヲ得ズ、若シ此鐵棍ハ熱シト言フトキハ、此鐵棍ハ冷ナリト云フコトヲ、自然ニ拒否スルコトナルナリ、乃チ熱ト冷、温ト乾、新ト旧トノ如キ名目ハ、定名及ヒ否名ト名クベキ者ニシテ、其一否名ナルトキハ、他ノ一ハ定名ナリ、其一定名ナルトキハ、他ノ一ハ否名ナリ、若シ深く此區別ノ事ニ進入スルトキハ、反對ノ干係ヲ為ス者ノ外ハ、一物ヲモ表出スルコト能ハザルニ至ルベシ、是ヲ知識ノ干係ノ原理ト言フナリ、然レドモ現今ノ目的ハ左ノ如キコトヲ言フヲ以テ足レリトスルナリ、即チ洛日克ノ行為ニ於テハ、凡テノ事物ヲ表示スルニ、人トカ、善トカ云フ如キ俗名ヲ以テスルヲ必用ノコトナリトス、此俗名ハ、非人非善トイヘル事物ニ反對シ、又此俗名ヲ貼用スルコト能ハザル事物ニ反對シテ立ツ者ナリ、

(丑) 種類クラ注念ノウシ即ち會念コシ

○上ニ記セル名目ノ二様ノ區別ハ、更ニ進シテ、事物ヲ整排シテ種類クラトスルニ至ルコトヲ得ル者ナリ、凡ソ事物ハ何レモ他ノ事物ト同一ノ点アル所ノ共通ノ性質ヲ有スル者ナルヲ以テ、其性質ヲ根基トシテ其種類ヲ分ツコトナリ、圓キ物ハ、其円トイフコトヲ根基トシテ一ノ種類ヲ作り、礼拝堂ハ宗教信仰ニ付キ衆人ノ公立ト云フコトヲ根基トシテ一ノ種類ヲ作ルナリ、若シ同種類中ニ於テ、同一ナル所ノ点、抽象ノ思想ヨリ成ル者ナルトキハ、其点ハ注念又會念ヲ作ルト言フ、即ち建築ナリ、公共ナリ、宗教ノ信仰ニ用フル者ナルトキハ、之ヲ礼拝堂ノ會念ヲ作ルト言フナリ、故ニ總名ハ種類ヲ表示スル者ナリト云ヒ、會念ヲ含蓄スル者ナリト言フ、即ち各個ノ事物ニ於テ共通スル所ノ点ヲ含蓄スル者ナリ、○共通ノ点ノ数ノ多キ者ハ、其種類ハ小ナル者ニシテ、共通ノ点ノ数ノ少キ者ハ、其種類ハ大ナリ、「人」ト云ヘル種類ハ、「動物」トイヘルヨリハ小ナル種類ナリ、而シテ其一種類ノ每一个ハ、其共有スルノ点、反テ動物ト云ヘル種類ノ每一个ヨリ多シ、種類ハ其廣サニ從ヒテ、之ヲ高等下等ニ分ツ、高等ノ種類ハ之ヲ類オモトト名ケ、是ニ属スル種類ヲ有ス、下等ノ者ハ種シト名ケ、類ノ下ニ属スルナリ、故ニ動物トイヘバ類ナリ、人、鳥、魚ト云フハ種ナリ、一類中ニ在リテ、甲ノ種ト乙ノ種トノ差異ノ点ハ之ヲ異点オトト名ケ、

(寅) 定言即ち判言アツサイシヨシ

○事物ノ種類ノ全体ニ関シテ定言ヲ為ストキハ、之ヲ全稱ノ判言トタルト名ケ、種類ノ一分ニ関シテ定言ヲ為ストキハ、之ヲ分稱ノ判言ア、ユニフルト名ケ、此區別ヲ名ケテ判言ノ分量クオントイフ、洛日克ノ形式ヲ以テ之ヲ示ストキハ、「Aハ皆Bナリ」「或ルAハBナリ」ト云フ者是ヨリ、尋常ノ説話ニ於テ分量ト言ヘバ精密ニ其全稱多少ナルカ分稱ナルカヲ定ムルコトナシト雖ドモ、推理ヲ為ス者ハ、分量トイフトキハ、最初ニ其全稱ナルカ分稱ナルカヲ定メザルベカラズ、「信実ハ最善ノ計畧ナリ」「急遽ハ毀損ヲ為ス」ト云フコトハ、Aハ皆Bナリニ属スルカ、又ハ或ルAハBナリニ属スルカ、此定言ハ、全稱ナルカ分稱ナルカ、凡テノ信実ナル行為、凡テノ急遽ナル行為ニ貼用セル者カ、又ハ或ル同様ノ行為ニ貼用セル者ナルカ、○判言ハ之ヲ肯定アツタト否定シト二者ニ分ツ、此區別ハ名ケテ状態クオニ関セル區別ト言フ、上ニ記シタル形式ハ肯定ノ判言ナリ、否定ノ形式ハ左ノ如シ、Aハ何レモBニ非ス(全稱)或ルAハBニ非ス(分稱)、否定ノ全稱ハ肯定ノ全稱ト全ク相反對セル者ナレドモ、否定ノ分稱ハ、其中ニ緩ナル界限アリ、凡ソ判言ト云フ者ハ、全稱ノ肯定、分稱ノ肯定、全稱ノ否定、分稱ノ否定是ナリ、○今或ル一事ヲ肯定スルトキハ、暗裏ニ他ノ事ヲ否定スルコトトナルナリ、又其形式ニ付キテ其名辭ヲ轉換シ得ベキコトヲ知ラザルベカラズ、此法ハ之ヲ判言ノ轉換コンヴァーシヨシト名ケ、洛日克ノ一体ト為ルナ

リ、肯定ノ分稱判言ニテハ、單純ニ此轉換ヲ為スコトヲ得ベシ、「或ルAハBナリ」ト云フコトヲ許ストキハ、「或ルBハAナリ」ト云フコトヲモ之ヲ許スベキナリ、即チ「或ル急遽ノ行為ハ毀損スベキ者ナリ」ト云フヲ許セバ、「或ル毀損スベキ行為ハ急遽ナリ」ト云フコトヲモ許サバルベカラザルナリ、否定ノ分稱即チ「或ルAハBニ非ズ」トイフコトハ、單純ナル轉換ヲ為スコト能ハズ、此轉換ニ屬スベキ者ハ「或ルBハAナリ」「Bハ一モAニ非ズ」「Bハ皆Aナリ」等トイフニ過ギズ、全稱ノ否定ハ又單純ニ轉換ヲ為スコトヲ得ベシ、「Aハ一モBニ非ズ」トイフコトハ之ヲ轉換シテ「Bハ一モAニ非ズ」ト云フコトヲ得ベシ、即チ二個ノ種類ハ相互ニ包容スルコト能ハザル者ナリ、又Aハ皆Bナリトイヘル全称ノ肯定ハ、「或ルBハAナリ」トイフコトモ許スベシトイヘドモ、其正式ノ轉換ハ「Bハ皆Aナリ」ト言フニ在ルナリ、

○全稱ノ肯定ハ、實際上ニ於テ、其轉換ヲ行フニ、極メテ大切ナル者ナリ、此肯定ヲ以テ單純ニ轉換ヲ為シ得ベシト思フコトハ、尋常ノ誤謬ノ一ナリ、今通常ノ例ヲ以テ示サンニ、「悪シク為ス人ハ、悪シク畏ル、人ナリ」ト云ヘル諺語ヲ以テ「悪シク畏ル、人ハ悪シク為ス人ナリ」ト轉換スベシト思ヒ、又「凡テノ新教者ハ私ノ判断ノ權理ヲ行フ」ト云フ判言ヲ以テ、「凡ソ私ノ判断ノ權理ヲ行フ者ハ皆新教者ナリ」ト轉換スベシト思フ者ハ皆誤謬ノ見ナリ、

〔丙〕定義アラビヤニシヨニ

○倍因ベインノ洛日克ハ、定義ト云ヘルコトノ元則ヲ精密ニ解説スルノ目的ヲ以テ、之ヲ演澤法ト帰納法トノ後ニ置ケリ、然レドモ余カ著論ハ甚々簡短ヲ主トスルヲ以テ、此処ニ於テ定義ヲ説クヲ却テ便利ナリトス、洛日克ナル者ハ、固ヨリ總稱ノ判言、即チ種類ヲ以テ言ヒタル判言ニ由リテ之ヲ為ス者ナルヲ以テ、其種類トイフ物ニ、精密ナル定義ヲ立ツルハ至テ切要ノコトナリ、種類ノ定義ヲ立ツルハ、其種類中ノ各個ノ物ニ共通スル性質ヲ定ムルニ由リテ成ルナリ、故ニ其種類ニ定義ヲ立ツルハ、其會念ニ定義ヲ立ツルナリ、今一種類ヲ組織セル所ノ各個ノ事物ノ周圍ニ円環ヲ画セントスルハ能ハザル所ナレドモ、其事物ノ共有セル性質ヲ定言セントスルハ、亦能クスベキコトニシテ、其事物ガ所有セル性質、即チ會念ノ中ニ來ル所ノ事物ノ外ニ、種類ノ界限ヲ擴メントスルハ、亦能ハザル所ナリ、

○然レドモ又吾心ヲ以テ自由ニ會念ヲ定メ、是ヲ以テ具体ノ事物ヲ彙類スルコトハ能ハザル所ナリ、唯終リニ至リ、具体ナル各個物ヲ以テ、抽象ノ會念ニ從ハシムルナリ、然レドモ最初ニ於テハ、反テ各個物ヨリ其會念ヲ取ラサルベカラズ、會念ハ全ク一種類中ノ伴侶ニテ有スル肖似ノ点ヨリ成ル者ニシテ、其種類ナル者ハ、学科ニ於テハ嚴密ナル原理ヲ以テ造レル者ナリ、肖似セル事物ノ夥中ニ於テ、最モ多数ニ、最モ切要ナル屬性ヲ共有セル物ヲ選擇ス、此言ハ彙類ヲ為スニ黄金ノ規則ナリ、屬性ニ付キテ、切要ナリト考フル者ハ、人々ノ見込ニ由リテ常ニ同一ナラ

ズ、然レドモ何レノ場合ニ於テモ（哲学状ノ彙類ニ於テハ）又肖似セル点アル事物ヲハ空想ニ聚合スルコトヲ止メ、種類ヲ作ル為メノ堅固ナル道理ニ依據シテ之ヲ為スベシ、又其肖似ノ点ハ、其物ヲ其種類ニ属セシムベキホドニ、其類ノ多カラシコトヲ要スルナリ、

○種類ヲ作ルニハ或ル道理アルコトヲ前ニ之ヲ言ヘリ、是ヲ為スニ二條ノ元則アリ、其一ハ、「定義ヲ立ントスル會念、下ニ来ルベキ各個物

ヲ、比較ノ為メニ聚合スベシ、」今總テノ單一物ノ例ヲ尽ク聚合セントスルハ固ヨリ能クスベキコトニ非ズ、只最分明ナル種類ヲ包括シテ表示スルニ十分ナル例ヲ聚合センコトヲ務ムベシ、今「堅硬」トイフ定義ヲ立テントスルトキハ、心ト物トヲ論ゼズ、凡ソ堅硬ヲ表示スベキ多數、即チ金類、岩石、樹木、骨骼等ヲ聚合シ、是等ノ物ガ相一致セル所アルヲ見シガ為メニ之ヲ比較セサルベカラズ、已ニ比較シタル上ニテ、是等ノ物ガ何レモ壓迫（其形ヲ変ゼシメンカ為メノ）ニ抵抗スルノ性ヲ有スルコトヲ見タリ、是ニ於テ抵抗ヲ以テ此種類ノ注意ト為シ、其定義ヲ立テ曰ク、堅硬ハ其形ヲ變ゼシメンガ為メニ来レル力ニ抵抗スルノ体ナリト、

○第二ノ元則ハ、關係ノ原理ヨリ来レル者ナリ、「反對ノ注意ヲ生スベキ各個ノ物ヲ比較ノ為メニ聚合スベシ、」反對ノ定義ヲ立ツルコトハ注意ニ大ナル精密ヲ與フルノ益ヲ為ス者ナリ、反對ノ定義ヲ立ツルノ法モ、實在ノ定義ヲ立ツルト同一ノ法ニシテ、即チ表明トナルベキ各個物

ヲ聚合シテ、其一致スル点ハ何ナルカヲ見ルニ在リ、今堅硬ト云ヘル定義ヲ更ニ精密ニセントスルニハ、流動、氣状ト云ヘル反對ノ物ノ定義ヲ立テザルベカラズ、因テ此二物ヲ表出スベキ例ヲ聚メ、流動ト氣状トハ、堅固ニ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ、僅カナル壓迫ニ從ヒ、一定ノ形体ヲ有セザル者ナルコトヲ發見スルナリ、

○堅硬ト流動トノ念ノ外、不明了ナル中間物アリテ、此二者ノ何レニモ属セザルナリ、例ヘハ膏凍ジェリイノ如キハ堅硬ナリトモ流動ナリトモ定ムルコト難シ、此物ハ流動ノ如ク全ク其形体ヲ保タザル者ニモ非ズ、又堅硬ノ如ク全ク壓迫ニ抵抗シ得ベキ者ニモ非ズ、此類ハ是ヲ區別スルニ短線ヲ画スルコトヲ要セズ、唯中間物ハ疑ハシキ物トシテ之ヲ差置クヲ宜シトスベキナリ、

#### 〔丁〕 演澤デタク シヨク

○凡ソ人、己カ知ル所、信スル所ノ事物ヲ堅固ニ定メントスルトキ、又議論ノ場ニ於テ敵手ノ論說ヲ吟味セントスルトキハ、先ツ第一ニ各個ノ判言ノ周圍ヲ漸々ニ張擴シ、以テ其事物論說ヲ尽ク其中ニ包括セントスルハ自然ノ理ナリ、其次ニハ凡ソ真理ナリト許ス所ノ判言ヨリ、正シク推度シテ得ル所ノ事物ハ、如何ナル事物ナルカト云フコトヲ會得セザルベカラズ、若シ種類ノ天性ヨリ言フトキハ、凡ソ其種類ニ付キテ為シタル定言ハ、其種類中ニ包含セル各個ノ事物ニ付キテモ亦真理ナリト定メサルベカラズ、其故ハ其各個ノ事物ハ本ヨリ其種類中ノ伴ナレバ、其

同一ナレハ言ヲ待タザレバナリ、即チ種類ニ付キタル定言ハ、其種類ニ共通セル性質ヲ有セル一個ニ付キテモ亦真理ナルナリ、「壓制者ハ悪シキ政事家ナリ」ト云フコトハ、凡ソ壓制ノ性質ヲ有セル各個ノ政事家ニ付キテ皆真理トナル所ノ判言ナリ、故ニ壓制者ハ悪シキ政事家ナリト云フコトヲ許ストキハ、此判言ハ総テ此種類ニ属セル共通ノ性質ヲ有セル各個人ニ付キテ尽ク之ヲ許サズルベカラズ、此原理ハ即チ演澤ノ推理ノ根基ナリ、而シテ誤謬ヲ防グ為ニ定メタル推測式ハ、此原理ヲ貼用シテ、都合ヨク演澤ノ推度法ヲ作りタル者ナリ、

○二個ノ判言ト一個ノ収結コンクリュトトハ共ニ正シキ演澤法ノ中ニ包括セル者ナリ、總テノ推理ノ根元トシテ事物ノ種類ニ關係セル一般ノ判言アリ、「急遽ハ損傷ナリ」「信實ハ最良ノ計畧ナリ」トイヘル判言ハ、此根礎ヨリ出ヅルナリ、故ニ「此ノ如キ行為ハ損傷ナリ」、「最良ノ計畧ナリ」トイヘル判言ヲ為スノ前ニ、是等ノ行為ガ、一般ノ請合トナルベキ判言ニ貼用スベキコトヲ知ラザルベカラズ、即チ急遽ナル行為、信實ナル行為トイヘル種類ニ属スルト云フコトヲ知ラザルヘカラズ、此二個ノ判言ヲ演澤ノ前提レマト名ク、以上ノ推度ヲ正シク發言シ、且ツ之ニ収結ヲ加フルトキハ左ノ如シ、

急遽ナル行為ハ皆損傷スベキ者ナリ、

此事ハ急遽ナル行為ナリ、

故ニ此事ハ損傷スベキ行為ナリ、

此全体ヲ推測式シロジト名ク、其語ノ意義ハ判言ヲ綴合ストイフ義ナリ、

○推測式ノ實際上ニ大ナル利益アルコトハ、演澤法ヲ以テ、堅固不堅固ヲ同時ニ明白ニナスニ在リ、二個ノ前提ハ共ニ真理ナル者ト假定スルヲ以テ、推測式ハ、其収結ガ果シテ能ク其前提中ニ包含スベキカヲ表示スルニ在リ、故ニ推測式ハ實用ノ器械トシテ、専ラ前後相反ヲ防グノ功アル者ナリ、此ノ如ク用フルトキハ、推測式ノ價值ハ決シテ小ナル者ニ非ザルナリ、今辯士アリテ、衆人ノ同意ニ反シタル弁論ヲ以テ、賤民政治ノ悪シキコトヲ説クコトアラシニ、汝ハ賤民政治ハ悪事ナリトイフ判言ノ根元ノ真理ヲ尋ヌルノ力ナカルベシ、然レドモ汝ノ辯士ガ其収結ニマデ導クノ前ニ於テ、「新ナル選挙ハ賤民ナルベシ」前後ノ判言相反トイヘル判言ヲ為ストキニ、其判言ハ信ズベキコトナルヤ否ヲ考思セザルベカラザルナリ、

○推測式ノ元則及ヒ其形式ヲ精好ニセンガ為メニ、洛日克家ハ、判言ヲ以テ主位サツゼト客位ケンヂトノ二類ニ分テリ、是此学ニ於テ極メテ必要ノコトナリ、實際上ニ就テ言フトキハ、一個ノ演澤法ヲ三個ノ判言ニ分ツヲ以テ良善ノ規則ト為ス、其一ハ種類ニ付テノ定言、其二ハ其種類ニ属セル或ル物（各個物又ハ他ノ種類）ニ付キテノ定言、其三ハ（正シキ収結トシテ）此種類ニ付テ言固メタル最初ノ判言ニ關セル定言是ナリ、以上ノ規則ニ從ヒテ演澤ノ形ヲ作ルトキハ、金等ガ自己ノ了識ノ光輝ニ由リテ、如何ニシテ兩個ノ前提ノ真理ニ合フ者ナルカトイフコトヲ決定スル

コトヲ得ベシ、若シ之ヲ決定スルトキハ、イカンシテ其收結ヲ為スコトヲ得ベキト云フコトヲ決定スルコトヲ得ベシ、收結ハ一個ノ判言ノミニテモ之ヲ為スコトヲ得ベシ、「此人ハ詐偽者ナリ、彼ハ他人ノ信用ヲ得ザルナリ」ト云フガ如キ是ナリ、然レドモ收結ヲ為サントスルニハ、必ス二個ノ保證トスベキ前提ナルベカラズト云フコトト、此場合ニ於テハ、判言ノ一個ハ、允許ノ用ニ供セザルベカラズト云フコトトハ、心中ニ了解スル所ナリ、余儕ハ上ニ引ケル例ニ於テ、完全ナル推測式ヲ作ル為メニ、隱伏セル前提ヲ發見セザルベカラズ、隱伏セル前提トハ、其種類ト全体トニ關セル判言ニシテ、「詐偽者ハ決シテ信用ヲ得ザル者ナリ」ト云フコト是ナリ、

○以上述ブル所ノ整定法ハ、實際上ニ於テ完全ノ者ニシテハ又直接ニ推測式ノ原理ニ基ク者ナレドモ、亜立士度徳及ヒ其他ノ洛日克家ヲ論述スル所ノ洛日克ノ形式ノ如キモ之ヲ學ビ知ルハ亦甚タ利益アルコトナリ、亜氏以下ノ諸學士ハ、余ガ前ニモ言タル如ク、判言ヲ以テ二個ノ名辭ニ分テリ、推測式ノ全体ノ中ニハ必ス三個ノ名辭ナルベカラズ、其名辭ノ中ニ於テ主要ナル定言、即チ收結ノ客位ニ立ツ者ヲ大名辭マヨナルト云ヒ、其定言ノ主位ニ立ツ者ヲ小名辭コナルト云ヒ、其最モ大切ナル者ヲ中間名辭ミソナルト云フ、中間名辭ハ二個ノ前提中ニ在ル種類ノ名辭ニシテ、收結ノ客位ハ是ニ由リテ定マリ、收結ノ主位モ是ニ屬スル者ナリ、故ハ「詐偽ハ決シテ信用ヲ得ザル者ナリ」、「此人ハ詐偽ナリ、」故ニ此

人ハ信用ヲ得ザルナリ」ト云フ推測式ニ於テ「信用ヲ得ザル」ハ大名辭「此人」ハ小名辭ニシテ、「詐偽」ハ中間名辭ナリ、

○推測式ノ正格、モシ其根原トナルベキ判言ニ依リテ整定セラルトキハ、中間名辭、即チ綴合ヲ為ス種類ハ大判言即チ根元判言ノ主位ニ立チ、小判言即チ貼用判言ノ客位ニ立ツナリ、凡ソ堅確ナル推測式ハ皆此式ニ從フ者ナレドモ或ハ推測式ヲ以テ、名辭ノ綴合ナリト考ヘ、務メテ名辭ヲ堅固ニ綴合シ、以テ益々推測式ヲ精密ニセントスルトキハ、(簡約ニ之ヲ言ヘバ、推測式ヲ以テ數字狀ニ專ラ抽象ノ符號ノ綴合ト考フルナリ)推測式ニ幾多ノ異形ヲ現ハスコトナリ、簡畧ニ其事ヲ述ブベシ、○或洛日克家ハ、推測式ヲ三種ニ分チ、或人ハ四種ニ分テリ、其種類ヲ分ツハ、中間名辭ノ位置ニ在ルコトニテ、或ハ之ヲ以テ兩前提ノ主位ニ置キ、或ハ兩前提ノ客位ニ置キ或ハ一ノ前提ニハ主位ニ置キ、一ノ前提ニハ客位ニ置ク等ノコトアリ、通常ノ法ハ上文ノ例ニ出セルノ如ク、中間名辭ヲ以テ大前提ノ主位ト小前提ノ客位ニ置ク者ナリ、此法ヲ名ケテ第一ノ式ト云フ、若シ中間名辭ヲ以テ兩前提ノ客位ニ置クトキハ、是ヲ推測ノ第二式トイフ、(虚言ヲ吐ク者ハ、皆人ニ信ゼラレズ、善良ナル人ハ皆人ニ信ゼラル、故ニ善良ノ人ニ虚言ヲ吐ク者ナシ、)此例ニ於テ「信ゼラル、」トイフ中間名辭ハ兩前提ニ於テ共ニ客位ニ在リ、若シ中間名辭、兩前提ニ於テ共ニ主位ニ立ツトキハ、之ヲ推測ノ第三式トイフ、

（「怒ノ中ニモ非難スベカラザル者アリ、怒ハ何レモ熱情ナリ、故ニ或ル熱情ハ非難スベカラザル者ナリ、」此式ニ於テ、中間名辞ハ「怒」ナリ、即チ両前提ニ於テ共ニ主位ニ居レリ、）第四ノ式ニ於テハ、中間名辞ハ小前提ノ主位ニシテ、大前提ノ客位ニ在リ、此第四式ハ蓋シ第二式ノ粗鹵ナル者ナレバ、實際上ニ於テ推理ノ價値ヲ有セザル者ナリ、

○推測ノ形式ニハ又判言ノ分量ラヂント判言ノ性質クワイアリ、之ヲ合セテ様子トト云フ、判言ノ全稱分稱ハ其分量ニシテ、判言ノ肯定否定ハ其性質ナリ、

○次ニ記セル形式ノ表ハ最モ正シキ様子ヲ示シタル者ナリ、即チ此式ニ示セル者ハ其收結ハ皆其前提ニ従ヘル者ナリ、Aハ小名辞ニシテCハ大名辞、Bハ中間名辞ナリ、

#### 第一式

##### 其一

Bハ皆Cナリ Aハ皆Bナリ 故ニAハ皆Cナリ

動物ハ皆死スベキ者ナリ 人ハ皆動物ナリ 故ニ人ハ皆死スベキ者ナリ

##### 其二

Bハ一モCニアラズ Aハ皆Bナリ 故ニAハ一モCニ非ス

動物ハ一モ植物ニ非ス 人ハ皆動物ナリ 故ニ人ハ一モ植物ニ非ス

##### 其三

Bハ皆Cナリ 或ルAハBナリ 故ニ或ルAハCナリ

人ハ皆道理性アリ 或ル動物ハ人ナリ 故ニ或ル動物ハ道理性アリ

##### 其四

Bハ一モCニアラズ 或ルAハBナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

黒人ハ一モ白キ者アラズ 或ル人ハ黒人ナリ 故ニ或ル人ハ白クアラズ

#### 第二式

##### 其一

Cハ一モBニ非ス Aハ皆Bナリ 故ニAハ皆Cニ非ス

禽獸ハ一モ道理性ヲ有セズ 人ハ皆道理性ヲ有セリ 故ニ人ハ一モ禽獸ニアラズ

##### 其二

Cハ皆Bナリ Aハ一モBニ非ス 故ニAハ一モCニ非ス

人ハ皆道理性ヲ有セリ 禽獸ハ一モ道理性ヲ有セズ 故ニ禽獸ハ何レモ人ニ非ズ

##### 其三

Cハ一モBニ非ス 或ルAハBナリ 故ニ或ルAハCニ非ス

人ハ何レモ禽獸ニ非ス 或ル動物ハ禽獸ナリ 故ニ或ル動物ハ人ニ非ズ

##### 其四

Cハ皆Bナリ 或ルAハBニ非ズ 故ニ或ルAハCニ非ズ

人ハ皆道理性アリ 或ル動物ハ道理性アラズ 故ニ或ル動物ハ人ニ非ズ

第三式

其一

Bハ皆Cナリ Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCナリ

人ハ皆道理性アリ 人ハ皆動物ナリ 故ニ或ル動物ハ道理性アリ

其二

Bハ何レモCニ非ズ Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

人ハ何レモ不道理ニ非ズ 人ハ皆動物ナリ 故ニ或ル動物ハ不道理ニ非ズ

其三

或ルBハCナリ Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCナリ

或ル動物ハ道理性ヲ有セリ 動物ハ皆生活セリ 故ニ或ル生活ハ道理性ヲ有セリ

其四

Bハ皆Cナリ 或ルBハAナリ 故ニ或ルAハCナリ

禽獸ノ人ハ皆不幸ナリ 或ル食欲ノ人ハ富裕ナリ 故ニ或ル富裕者ハ不幸ナリ

其五

或ルBハCニ非ス Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

或ル動物ハ人ニ非ズ 動物ハ皆生活物ナリ 故ニ或ル生活物ハ人ニ非ズ

其六

Bハ一モCナル者ナシ 或ルBハAナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

悪行ハ一モ稱譽スベキ者ナシ 或ル悪行ハ快樂ナリ 故ニ或ル快樂ハ稱譽スベキ者ニ非ズ

第四式

其一

Cハ皆Bナリ

Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCナリ

其二

Cハ皆Bナリ Bハ一モAナル者ナシ 故ニ或ルAハCニ非ズ

其三

或ルCハBナリ Bハ皆Aナリ 故ニ或ルAハCナリ

其四

Cハ一モBニ非ズ 或ルBハAナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

其五

Cハ一モBナル者ナシ 或ルBハAナリ 故ニ或ルAハCニ非ズ

○第四式ヲ發明シタルハ伽連ナリトイフヲ以テ通常ノ説トスレドモ確

證アルニ非ズ、洛日克家ハ此式ヲ以テ唯第一式ノ前提ノ位置ヲ替ヘタル

ノモノ者ナリトシテ之ヲ非議スル者多シ、然レドモ其全体ヨリ見レバ不

要ニシテ且ツ完美ナラザルヲ以テ之ヲ却クベシト雖ドモ、然レドモ亦之

ヲ用フベキノ場合ナキニ非ザルナリ、(倍涅ノローヤル | ロシツクノ反

譯、

○上ニ記シタル推測式ハ皆法則ニ協ヘル者ナリ、即チ其前提共ニ真理ナルトキハ、其收結モ亦真理ナラザルベカラズ、又全称分稱、肯定否定ノ判言ノ外ノ綴合ハ、真正ノ收結ヲ得ルコト能ハズ等ノ法則ニ從ヘル者ナリ、

○例ヘバ今第一式ノ第一法ヲ見ルニ(Bハ皆Cナリ、Aハ皆Bナリ、故ニAハ皆Cナリ、動物ハ皆死スル者ナリ、人ハ皆動物ナリ、故ニ人ハ皆死スベキ者ナリ)其言語ノ意味ニ於テ其真理ハ已ニ明カナリ、是則チ自證<sup>○。○モセズ、エ</sup>ト名クル者ナリ、若シ余儕「動物ハ皆死スル者ナリ」トイフ

トキハ、余儕ハ已ニ凡ソ動物ハ何ノ類何ノ種ヲ論ゼズ總テ動物トイヘル意義ノ中ニ入ル者ハ尽ク死スベキ性質ヲ有スル者ニシテ、人ノ如キモ亦是非トモ此中ニ算入セザルベカラザル者ナルコトヲ心ニ定ムルナリ、故ニ余儕收結ノ主位(人)全ク大前提(動物)ノ主身ニ属スル者ナルコトヲ知ルトキハ、其大前提ハ已ニ收結ヲ定ムルコトヲ得ルナリ、小前提

(人ハ皆動物ナリ)ニ於テ、必至ノ理ヲ以テ收結ヲ為セルニ由リテ、其保証ハ小前提ニテ之ヲ為スナリ、故ニ收結ハ、已ニ前提ニ於テ定メタル者ヲ、別ノ語ヲ以テ之ヲ定ムル者ナリ、是ガ為メニ新ナル事實ハ一モ表出スルコト能ハズ、唯以前ニ表出シタル事ニ付キテ異ナリタル陳説ヲ為シタルノミナリ、此ノ如ク種々ノ形式陳説ヲ用フルコトハ肯定ヲ為スニ要用ナルコトナレドモ、若シ之ヲ以テ新ナル事物ノ上ニ進行スベシト思フトキハ、大ナル誤謬ニ陥ルベシ、推測式ノ堅固ニシテ且ツ自證ノ性ヲ

有スルト云フコトハ、前提ニ於テ肯定セザル所ノ事物ハ、收結ニ於テモ之ヲ肯定スル能ハズト云フ法則アルニ由ルナリ、若シ此法則ニ從ハザルトキハ、其推理ハ甚悪シキ推理ナリ、余儕ハ二個ノ前提ノ規圈ノ外ニハ一步モ歩ミ出ヅルコト能ハズ、唯吾儕ハ新ナル言語ヲ以テ幾多ノ形式ヲ作り、是ヲ以テ前提ガ肯定シタルト同様ナル事實ヲ肯定スルコトヲ得ルノミナリ、余儕ハ事實ヲ陳説スルトキノ言語ノ混雜ヨリシテ、數々前提ノ境界ノ外ニ越出スルノ危険ヲ犯スコトアリ、此時推測式ハ吾等ガ越出ヲ防障スルノ功アル者ナリ、

○第二式以下ノ形式ノ事ヲ論ゼンニ、余儕ハ各個ノ推測式ヲ精密ニ經驗シ、又其位置ヲ轉換スルモ、收結ハ実ニ前提ノ内ニ包容スルト云フコトハ、第一式ト全ク其方法ヲ同フセリ、然レドモ各個ノ場合ニ於テハ推理ノ完全ヲ為スニ、更ニ他ノ方法アリ、乃チ第二式以下ノ推測式ヲ以テ第一式ノ下ニ移ス者ニシテ、若シ第二式以下ノ式ニ於テ其事實ヲ証定スベキ者ハ、第一式ニ於テハ、皆之ヲ証定シ得ベシ、此法ハ、第二以下ノ形式ヲ以テ第一式ニ約シ、又第一式ヨセテ第二式以下ヲ演出スルノ法ナリ、是則チ數學ニ於テ事實ノ單獨ヲ避ケ、一ノ真理ヲ以テ衆多ノ真理ヲ証定スルノ法ニシテ、余儕カ欧克主得<sup>ユークリット</sup>(幾何学)ニ於テ常見ル所ノ如シ、故ニ洛日克家ハ第二第三第四式ノ證論ヲ以テ第一式ノ中ニ投入シ、第一式ニ属セル堅固ニ據リテ第二式以下ノ堅固ヲ得ルナリ、洛日克ニ於

テハ此法ヲ名ケテ推測式ノ還元法レダクト云フ、其方法ハ兩前提ノ一個又ハ兩前提ノ兩個ノ轉倒コンバートト名ク、

○余儕此所ニテハ、還元法ノ活用ノコトハ大畧ニ止メテ、深ク之ヲ述ベザルナリ、此法ハ實際ノ價值ヨリハ更ニ巧妙ナル働ヲ為シ得ル者ナリ、今現実ノ事ニ付テ困難ナル演澤法ニ逢フトキハ、獨リ抽象ノ符号ノミニニテハ何事ヲモ理會セザルコトアリ、此ノ如キトキハ符号ハ演澤ノ助トナラズシテ却テ其妨碍トナルナリ、若シ其難ヲ解カントセバ、實際上ニ於テ、一ノ良法アリ、其法ハ相協合セザル收結ノ根原ヲ以テ二個ノ判言ノ中ニ投入シ、其孰レカ種類ニ管セル全稱判言ヲ得タルカ、孰レカ其種類ト收結ノ主位トノ合一ヲ定ムル判言ナルカヲ見ルベシ、其收結モシ能ク此ノ如キ二個ノ判言ニ由リテ支持セラル、トキハ、普通ノ道理ヲ建造シ得ルコトハ疑ナキ所ナリ、

〔戊〕 歸納法インダクション

歸納トハ全稱ノ判言、原理、法則、真理即チ定言ヲ作り、且ツ之ヲ固定スルノ働ニ用フルノ語ナリ、獨リ單一ナル場合ニ用フベキノミナラズ、總テ特別ノ定標ヲ有セル衆多ノ場合ニ用フベキ者ナリ、例ヘバ余ガ「金ハ重キ物ナリ、」ト言フトキハ、此場合ニ於テ余儕ハ凡ソ或ル色ト光輝トヲ有スル所ノ実物ハ、皆大ナル重量即チ特殊ノ重力ヲ有セルトイフコトヲ定言セルナリ、

○此ノ如キ全稱ノ定言ニ於テ第一ニ起ルベキ疑問ハ左ノ如シ、余儕ハイカニシテ此ノ如キ廣濶ナル定言ヲ為シ得ルヤト、余儕ハ造物ガ吾等ニ現示セル事物ヲ觀察スルノ外ニハ、一モ宇宙間ニ定マリ居レル法則ト一致トヲ知ルノ方法ヲ有セザルナリ、余儕モシ黄色ト特殊ノ光輝トノ性相、重量トイフ物ト相結合シアアルヲ見タルトキハ余儕此經驗ニ由リテ必定セラルガ如ク他ノ場合に於テモ、亦事實ヲ定言スルコトヲ得ルナリ、又余儕、水ハ火ヲ消ストイフコトヲ見タルトキハ、余ガ見ザル所ニ於テモ、亦同様ナルコトヲ定言スルコトヲ得ルナリ、然レドモ此外ニ猶一ノ難事ノ残留セルアリ、此ノ如キ一致ト連続トイフハ、獨リ余等ガ觀察シタル場合ニ於テ言フコトヲ得ルノミナラズ、又余等ガ觀察セザル場合ニ於テモ之ヲ言フコトヲ得ルハ、如何ナル故ナルヤ、蓋シ此ノ如キ事ハ常ニ全稱ノ判言ノ中ニ包括スル者ナリ、

○此疑問ニ對シテハ、進化ハ画一ナリト云フコトヲ觀察シタルノ後ニ於テ、初メテ之ニ返答スルコトヲ得ベシ、造化画一ノ法ノ一ヲ一致同コイ在コトニシテ、ナセス、オス、  
コキンス、オス

ト云フ、此種類ハ常ニ連續シテ變化セザル者ニシテ、唯其時ト場所トニ付キテ一時觀察ヲ要スル者ナリ、一ハ連續サクセツノ種類ニシテ、是ノ原因應效ノ連続ト名ク、此種類モ亦不變化ノ者ニシテ、昨日ト今日ト同様ナルガ如シ、以上ノ二種類ニ於テ共ニ一個ノ觀察良善ナルトキニ千万ノ觀察モ亦良善ナリ、吾等実ニ目撃シタル所ノ外モ、亦實際ナク之ヲ定言ス

ルコトヲ得ベシ、是則チ造化ガ同ジ事実ヲ反復シテ其終極ナキ所以ニシテ、吾儕人類ハ是ニ由リテ、吾身ノ勞力ヲ省キ、人類ノ短キ生命ノ間ニ於テ廣大無邊ナル世界ノ万物ヲ觀察シテ悉ク之ヲ會得スルコトヲ得ルナリ、

○余儕ハ前ニ於テ造化ハ画一ノ者ナリト定言ナリ、即チ同種類ノ性質ノ一致スルト、原因応効ノ連続トニ於テ共ニ画一ナリ、然レドモ此定言ハ、之ヲ推廣シテ、凡テ他ノ定言ノ根基トナシ、單一ニ得タル觀察ノ場合ヲ以テ、一般ノ信用ノ觀察ニ轉換スルノ方法トナル者ナルニ、如何ナル試験ヲ以テ此定言ノ支柱ト為スカトイヘル疑問ハ直チニ起發スベキコトナリ、

○造化ノ画一ヲ試定スルハ、人類ノ不断ノ經驗ヨリ外ニハ之ヲ得ベキ者ナシ、古来ヨリ何レノ代ニモ皆此ノ如ク經驗スベキコトアリ、人類ノ最近ノ歴史ニ於テハ、大ニ其方法ノ變化セルヲ見タリ、然レドモ全ク例外ノ事ハ之ヲ記録セル者ヲ見ザルナリ、古代ニ於テハ、其事迹上ニ疑惑アリシ時代アリ、其憑據ノ界限ノ甚狹キ時代アリ、此主位（造化ノ画一）ト熟和セザル明白ノ例外ノ事アリ、然レドモ是等ノ時代ハ今日ニ至レハ皆既ニ經過シ畢リ、原理ノ根基ハ已ニ固定シ復之ヲ破壊スベカラザル如クニ見ユ、是ニ由リ現今ノ人類ノ将来ノ苗裔ハ、動搖セザル憑証ノ上ニ原理ヲ安定スルコトヲ得ルニ至ルベシ、或人ハ此原理ノヲ試験ヲ以テ人類天然ノ気性ニ出ツル者ニシテ、其気性ハ万物ノ画一ナルコトヲ期待セ

ル者ナリト言ヘリ、然レドモ此説ハ甚タ危殆ナル意見、即チ人類ノ天然ノ気性ハ万物ノ法則ヲ正シク先見スト云ヘル意見ノ上ニ立定スル者ニシテ、眞實ハ此意見ハ真理ヲ離ル、コト頗ル遠キ者ナリ、凡ソ吾等ヲシテ造化ノ画一ナルコトヲ期待セシムル所ノ気性ハ、又吾等ヲシテ、他人モ亦吾等ト同様ナリト云フコトト、吾等ノ經驗ハ全世界ノ經驗ト同様ナリト云フコトト、此經驗ニ異ナル所ノ事物ハ、皆虚偽ナリトイフコトヲ信ゼシムル者ナリ、寒道地方ノ居民ハ、水ヲ以テ玻璃ノ如ク堅硬ノ物ナリトス、然ルヲ熱道地方ノ民ハ、之ヲ聞キテ、彼ヲ以テ虚偽ヲ吐ク者ナリト思フハ、気性ノ働ナリ、此ノ如キ気性ハ世界ノ実物ノ觀察ヲ以テ之ヲ改正スルニ非ザレバ全ク倚信ノ價ナキ者ナリ、然レドモ気性ハ吾等ノ經驗ノ結果ト同一ノ方向ヲ以テ前進スル者ナレバ、此働ニ付テ言フトキハ亦價値アル者ト云フベシ、

○原因ノ法則、即チ造化ノ定メタル事件ノ後継及ヒ其法則ノ變化ナキコトハ、帰納法ノ考究ノ第一ノ旨趣ナリ、此場合ニ於テ鮮明セザルベカラザル所ノ大問題ハ、總テノ原因ノ應効ヲ見出スコトト、總テノ應効ノ原因ヲ見出スコトトノ二者ナリ、

○造化ノ畫一トイヘル元則ハ、是ヲ以テ事物ノ外相ニ貼用シ能ハザルコトアリ、或ル日ハ南風ニテ雨ヲ降シ、或ル日ハ南風ニテ開晴スルコトアリ、其他許多ノ場合ニ於テ、原因ノ法則或ハ其事実ニ合ハザルコトアリ、此道理ニ些少ノ經驗ヲ用フルトキハ容易ニ之ヲ發見スルコトヲ得ベ

シ、世界ノ事物ノ外面ノ現象ニシテ、吾等ノ注意ヲ留住スル所ノ事物ハ、単一ナル原因ノ後継ニ非ズシテ、許多ノ後継ノ錯雜シタル者ナリ、画一ノ法則ノ如キハ、単一ナル現象事件ノ連続ノ外ハ、明白ニ其原理ヲ表示スルコト能ハズ、若シ數個ノ原因相合シテ數個ノ応效ヲ發生スルコトアランモ其後又是ト同一ノ原因相合スルトキハ、必ス同様ノ応效ヲ反省スルコトハ疑ナキ所ナリ、然レドモ此如キ數個ノ原因実ニ同一ノ者ナリトイフコトヲ保証スルハ、決シテ容易ノコトニ非ザルナリ、若シ之ヲ為サントスルニハ其原因ヲ每一个毎ニ別々ニ會得セザルベカラズ、故ニ此場合ニ於テハ、帰納法ト云フ者ハ全ク分解法アナリシスニ異ナルコトナク、即チ錯雜セル原因ノ線條ヲ分解シテ單一ナル線條ト為シテ之ヲ看サルヘカラス、此ノ如クシテ原因ノ諸線ノ條理明白ナルトキハ、初メテ錯雜セル原因ノ応效ヲ算スルノ準備ヲ得タリト云フベシ、造化ガ原因ト応效トヲ單純二人ニ示スハ甚タ罕ナルノコトニシテ、尋常ノ場合ニテハ、應效ノ許多ハ原因ノ許多ヨリ流出スル者ナリ、故ニ心ノ分解力ヲ十分ニ使用シ、其原因應效トヲ以テ全ク單純ナル一對ノ者トセンコトハ、帰納法ニ於テ最モ必要トスル所ナリ、

○帰納法ノ大目的ハ、原因應效ノ干係ニ以テ互ニ連結セル事物ヲ考定スルニ在ルヲ以テ、余儕ハ觀察ト經驗トノ二者ヲ以テ之ヲ確定スルノ方法ト為スナリ、經驗ノ力ヲ以テ、造化ガ吾等ニ示シタル結構ストラクチャーヲ變化シ、原因應效ノ單一ナル連続ヲ諦認センガ為メニ、吾等力自己ノ新ナル

結構ヲ造成スルコトヲ得ルナリ、故ニ造化若シ混淆錯雜セル連続ヲ示シテ、吾等ノ觀察ニ供スルトキハ、吾儕ハ其錯雜ヲ離レテ單一ナル連続ニ帰セシメンガ為メニ、其景況ノ幾多ヲ除去センコトヲ務メザルベカラズ、此ノ如キ働ハ全ク經驗ノ力ヨリ生スル者ナリ、又吾儕、或ル土地、殊ニ健康ニ益アルコトヲ觀察スルトキハ、吾儕ハ其土地ニ健康ヲ助クル特別ノ原因アルコトヲ確定センガ為メニ、之ニ反スルノ景況ハ之ヲ驅逐センコトヲ務メサルベカラズ、此ノ如キ働モ之ヲ經驗上ヨリ為シ得ルト云フナリ、彌爾ハ、經驗ノ力ニ由リテ原因應效ヲ得ルニ四種ノ方法アリト云フ、其一ハ合一ノ法アグリゲーション、其二ハ差異ノ法ディフференス、其三ハ殘餘ノ法レジデュ、其四ハ伴随ノ變化コンコミナントナリ、

○或ハ現象ニ先チ、或ハ現象ニ後レ、実ニ其現象ト相結合スル所ノ（不變ノ法則トシテ）景況アリ、此景況ヲ撰出シテ單一ニ之ヲ見ントスルニ二個ノ明白ナル方法アリ、其一ハ現象ノ發出セル種々ノ時状ヲ合セテ之ヲ比較スル者ニシテ、其二ハ現象ノ發現セル時ノ情状ト、現象ノ發現セル時ノ情状（其他ノ様子ハ同一ナレドモ）トヲ比較スル者ナリ、此二法ノ中ニテ、甲ヲ合一ノ法ト名ケ、乙ヲ差異ノ法ト名ケ、

○「此二法ヲ詳解セントスルニハ、先ツ現象ノ法則ヲ推究スルガ為メニ、二種ノ品性ヲ心ノ中ニ記存セザルベカラズ、即チ其一ハ目今ノ應效ノ原因ヲ推考スルコトニシテ、其二ハ目今ノ原因ノ應效ト其性質トヲ推究スルコトナリ、

○例へハ<sup>アルカリ</sup>ト油トノ結合スルコトヲ以テ、或ル現象ノ先項<sup>アルカ</sup>ト為

シ、種々ノ方法ヲ以テ此化合物ヲ試験セシニ（他物ヲ加フルコトナク）

其結果ハ同一ニシテ、油氣アリテ垢膩ヲ去ルベキ物質ヲ生出スルナリ、

故ニ油ト鹼トノ結合ハ石鹼ヲ生出スト云フコトヲ決定スルナリ、

○彌爾ハ合一ノ方法ニ付キテ正シキ元則ヲ述フルコト左ノ如シ、若シ二

個以上ノ現象アリテ、之ヲ考究セントスルトキ、其現象（二個以上ノ）

ニテ一個ノ景況ヲ共有スルトキハ、其時状ノ尽ク合一スル所ノ景況ノミ

其現象ノ原因（或ハ応效）ナリ、

○差異ノ方法ハ二個ノ景況ヲ比較スルニ由リテ得ル者ニシテ其一ハ応效

ヲ有シ、其一ハ應效ヲ有セザル者ナリ、此二者ノ間ニ於テ唯一ノ特別ノ

事ノ外ハ、別ニ差異ヲ見ルコトナシ、「若シ人アリテ其胸ヲ洞射セラレ

テ死スルトキ、余儕其銃彈ヲ受タルコトヲ知ルニハ此方法ニ依ル者ナ

リ、其故ハ其人ハ疵ヲ受クル少シ以前マデハ身体ノ健康完全ニシテ、目

今ノ有様ニテモ、其創傷ノ外ハ、其以前ト身体ノ状態少シモ變ズルコト

無ケレバナリ、」此推考ノ元則ハ左ノ如シ、若シ或ル現象ノ發現スル時

状ト、現象ノ發現セザル時状ト、俱ニ（一個ノ外ハ）各ノ景況ヲ共有

シ、而シテ其一ハ唯最初ノ場合（現象ノ發現セル時）ニ於テノミ現ハ

ル、トキハ、二個ノ時状ノ同シカラザル景況ノミ其現象ノ応效或ハ原因

或ハ其原因ノ要分ナリ、

○殘餘ノ方法モ亦錯雜セル後継ヲ分解シ、原因応效ノ働ケル真正ノ特別

ノ上ニ後継ノ堅固ナルコトヲ定メンガ為メノ者ナリ、其元則ハ、現象中

ニ於テ以前ノ帰納ノ力ニ依リテ、或ル先項ノ応效ナリト知レタル部分ダ

ケヲ取除クトキハ、其餘ノ現象ハ、残留セル先項ノ応效ナリ、

○「以上ニ論ジタル三個ノ方法ヲ用フルモ、猶之ヲ堅固ニスルコト能ハ

ザルノ法則アリ、即チ恒久ノ原因ノ法則<sup>ベルマシ</sup>一名破壊スベカラザル造

化ノ勢力ノ法則ニシテ、人力ヲ以テ之ヲ除去スルコト能ハズ、隔離セシ

ムルコト能ハズ、又其已ニ有ル者ヲ障碍スルコト能ハズ、又單獨ニ其力

ノミヲ存在セシムルコト能ハザルナリ、」此力ノ一例トシテ熱ノコトヲ

説クベシ、余儕熱ヲ有セル物体ヲ裸体ニスルコト能ハズ、又他ノ物体ヨ

リ熱ヲ分離シ單獨ニ之ヲ示スコト能ハズ、是ニ由リ上ニ記シタル三法ハ

如何ナル物ガ原因應效トシテ熱ト結合シ居ルカト云フコトヲ定ムルコト

能ハズ、此困難ヲ解クガ為メニ、余儕、彌爾ガ伴<sup>ト</sup>隨<sup>ト</sup>ノ變化ト称スル方法

ヲ用フルナリ、乃チ此ノ如キ時状ニ当リ、若シ其熱ノ増ストキハ、其応

效ハ如何様ニ増シ、其熱ノ減スルトキハ、其應效ハ如何様ニ減スルカト

云フコトヲ觀察スルナリ、此方法ノ元則ハ左ノ如シ、凡ソ一二ノ方法ヲ

以テ變化スル所ノ現象ハ、或ル他ノ現象ガ一二ノ特別ノ方法ヲ以テ変化

スルトキニ、其各個ハ此現象ノ原因或ハ応效ナリ、即チ原因ノ或ル事實

ニ由リテ之ト相結合セル者ナリ、」若シ一個ノ事件、他ノ事件ノ原因ナ

ルトキハ、二者共ニ或ハ昇リ或ハ降ルベシト云フコトハ正當ノ判断ナ

リ、此判断ヨリシテ、吾儕ハ事物ノ分量ノ増減ノ應効ヲ觀察シ、如何ナル應効ヲ生スベキカト云フコトヲ知ルガ為メニ、屢々伴隨ノ變化ノ方法ヲ用フルナリ、

○然ルニ原因應効ノ甚々錯雜シテ、前ノ四法ヲ以テ之ヲ解クベカラザル者二種アリ、此ノ如キハ必ス他ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ解カザルベカラザル者ナリ、其一個ハ之ヲ原因ノ重複アグリニラリテト名ケ、其一ハ之ヲ應効ノ

錯雜インテルミキステニト名ケ、原因ノ重複トハ、或ル一個ノ應効ハ數多ノ原因

ヨリ起ル者ニシテ其應効ノ原因何レニ在ルカ甚々疑ハシキ者ナリ、例ヘ

バ運動ノ如キハ衆多ノ力ノ中ノ或ル者ヨリ起リ、幸不幸ノ如キハ、無數

ノ勢力ヨリ生スル者ナリ、此ノ如キ場合ニ於テ、其原因中ノ或ル物ヲ除

キ、或ル物ヲ以テ此應効ノ原因ナリト定ムルコトハ上ニ記シタル方法ヲ

以テ之ヲ為スコト能ハズ、又應効ノ錯雜ハ（其應効單一ニ非ズシテ、衆

多錯雜セルナリ）原因ノ重複ニ比スレバ、之ヲ解釋スルコト更ニ困難ナ

リ、例ヘバ擲出物ノ進行ノ如キハ、單一ノ應効ニ非ズシテ錯雜ヲ應効ヲ

有セリ、即チ同様ナラザル二個ノ應効、共ニ一個ノ原因ニ結合スル者ナ

リ、此ノ如キ原因應効ノ發見ハ經驗ノ方法ノミヲ以テ其功ヲ奏スルコト

能ハズ、然ルニ此外別ニ學術ノ考究ニ利益アル方法アリ、學術ノ進歩

シ、發明ノ廣大ナルニ從ヒテ、其方法モ亦勢力ヲ有スルニ至ル者ナリ、

#### 演澤ノ方法デダクチ フメンド

○此法ハ是ヲ歸納法中ノ演澤ト云フ、即チ演澤ノ法ヲ以テ、歸納ノ法ヲ助クル者ナリ、經驗ノ方法（歸納法）ハ事物ノ新ニシテ未タ探討ヲ經ザル題目ニ用フベキ者ニシテ、即チ未タ全稱共通ノ原理ヲ得ザル所ニ於テ用フベキ者ナリ、故ニ此法ハ考究ノ最初ニ於テ之ヲ用フルニ適當セル者

ナリ、然レドモ一個又ハ數個ノ錯綜セル法則ヲ證得スルトキハ、總テ是

ト一様ナル働ノアル所ニハ、尽ク此法則ヲ貼用シ、以テ全稱共通ノ原理

ヲ發明セザルベカラザルナリ、故ニ今動体ノ恒久ベルセランス、オフ、ト云ヘル法

則ヲ發見スルトキハ、此法則ヲ以テ地球ノ自轉スルト、諸行星ガ一定ノ

距離ヲ以テ太陽ヲ周圍スルノ事實ニ貼用スルコトヲ得ベシ、是等ノ事實

ハ他ノ法則ニテハ之ヲ鮮明スルコト能ハザル者ナリ、又牛ニヤートン董ガ反動

ノ法則セセル、ラウ、オ  
フ、リタクシヲ發見スルニ由リテ、太陽カ行星界ノ中央ニ在リテ、

自ラ動揺スルノ原因ヲ定ムルコトヲ得、又數個ノ原因相合スルニ由リ、

互ニ中立シテ相依ラザルヲ以テ、明白ナル應効ヲ發生スルコト能ハザル

時ノ如キハ、特ニ演澤ノ方法ノミヲ以テ、其原因ノ種類ヲ踪跡スルコト

ヲ得ベシ、之ヲ平稱ノ法則エヨイリ  
ト云フ、

○演澤ノ方法ヲ十分ニ活用スルニ三様ノ階級アリ、第一歩ハ歸納法ニシ

テ即チ經驗ノ方法ニ由リテ共通ノ法則ヲ定ムル者是ナリ、第二歩ハ此法

則ヲ以テ總テノ場合（此法則ヲ貼用スベシト見ユル）ノ鮮説ニ用フルコ

トニシテ、殊ニ二個以上ノ原理相合シテ其働ヲ為シタリト思フ所ノ働ヲ

探究スルニ用フルナリ、例ヘバ擲出物ガ曲線ヲ為シテ進行スルノ原因ヲ

尋タルガ如キハ演澤ノ方法ニ依リ、力ノ恒久ノ法則ト、進行セルカヲ催促スルノ法則トノ結合ニ由リテ、其物体ガ二個ノ働ノ下ニ画セル道路ヲ行クコトヲ定ムルヲ得ルナリ、第三步ハ立證<sup>ベリキ</sup>ナリ、此法ハ已ニ證明セル応効ト、特ニ證明セントスル応効トヲ比較シ、二者精密ニ相一致セル者ナルカト云フコトヲ推演スル者ニシテ、其一致スル所ハ、今証明セントスル法則ノ試験トナルナリ、例ヘバ牛董ガ帰納ノ法ニ依リテ万物ノ重力ノ法則ヲ発見シ、距離ノ度ノ増スニ從ヒテ重力ノ度ノ漸々ニ減少セルトイフコトヲ證明シタルトキ、牛氏此法則ヲ演澤シテ、月ノ地球ニ向ヒテ常ニ接近スル事ニ此法則ヲ貼用セリ、牛氏又月ノ脇道ニ偏向スルハ、其原因ハ其重力ニ在リト云フコトヲ推定シ、以テ躲偏ノ多少ヲ算定シ、其後其算定セル多少ト觀察セル多少トヲ比較シ、以テ完全ナル確定ヲ得ルニ至レリ、牛氏又此働ヲ行星ニ貼用シ、凡ソ行星ハ空中ヲ直行スベキニ、自己ノ重力ニ由リテ其中央ナル太陽ノ方ニ偏向スルハ、全ク此法則ニ依ルコトヲ證定セリ、

○或ハ現象ヲ解説スルガ為ニ、時トシテ或ル法則ノ成立セルコトアルベキヲ假定スルコトアリ、然レドモ帰納法ノ正則ニ依リテハ、其法則ヲ見出スコト能ハザルナリ、此ノ如キ思考ヲ名ケテ假設<sup>ハイポ</sup>ス又ハ臆說<sup>アッサム</sup>ト名ク、若シ之ヲ実試スルニ方リ、此ノ如キ假設ノ法則、十分ニ事実ト一致スルトキハ、之ヲ以テ進化ノ真正ノ法則トシテ信用スルニ足ルベキナリ、例ヘバ達敦<sup>ダルトン</sup>ガ極微分子ノ親和ノ教義ノ如キモ、其初ハ唯假設タ

ルニ過ギズ、即チ実験ナキ所ノ説タルニ過ギズ、然ルニ其後幾多ノ実験ニ於テ其功績ヲ奏シ、竟ニ之ヲ立テ試験ノ元則トスルニ至リシナリ、○此ノ如ク演澤ヲ用ヒテ発見シタル法則ハ、進化ノ共通<sup>ゼネラル</sup>ノ法則、即チ尤モ包含多キ法則ナリ、即チ單一ナル原因ノ中ニ包括セル許多ノ現象ノ全部ヲ貫キテ通覽スル所ノ定言ナリ、何レノ事件ニ於テモ、此ノ如キ法則ハ、人類ノ智ニ由リテ善ク之ヲ発見シ得ベシト云フコトハ普通ノ事実ナリ又此法則ハ、原因ノ系統ノ細小ニシテ且ツ單一ナル者ニ於テモ之ヲ求ムルコトヲ得べく、或ル事件ノ後継ノ分析スベカラザル者ニ於テモ之ヲ求ムルコトヲ得ベシ、例ヘバ重力ノ法則ノ如キハ、人々ノ知レル如ク原因ノ單純ナル系統ヲ現ハス者ナリ、然レドモ其中罕レニ其応効ノ發生中ニ他ノ景況ヲ混合スル者アリ、是ヲ注目スルコトハ、本元<sup>アルチ</sup>ノ原因ト傍起<sup>チリス</sup>ノ原因トヲ區別スル為ニ必要ノ事ナリ、傍起ノ原因トハ、他ノ景況ヲ本元ノ原因ノ中ニ混入シ、是ニ由リテ其條線頗ル錯綜シ、其応効ヲ貼用スルノ界限較ニ狹隘トナル者ナリ、例ヘバ行星ガ橢圓ノ軌道ニ循ヒテ運行スト云フ法則ノ如キハ、二個ノ本元ノ原因相合シテ其働ヲ為シ、以テ其行道ヲ整理スル者ニシテ、即チ傍起ノ原因ナリ、其一個ノ原因ニノミ從ヘバ行星ハ太陽ヨリ放擲セラレテ或ル方向ニ走飛スベキニ、他ノ原因ノ混合ニ由リテ、或ル度ヲ以テ太陽ヨリ適宜ノ距離ヲ保ツコトヲ得ル者ナリ、凡ソ此状態即チ此整理法ト一致スベキ所ノ物体ハ甚罕ナルヲ以テ、此ノ如キ橢圓運行ノ法則ハ、恒力及ヒ重力ノ法則ニ比ス

レバ其貼用ノ界限甚タ狭シ、演澤ノ法ヲ以テ此法則ヲ發見スルトキハ、之ヲ傍起ノ法則デリベチト名ケ、帰納ヲ以テ發見スルトキハ之ヲ實驗ノ法則エムヒリカト名ケ、橢圓運行ノ法則ハ刻白爾最初ニ帰納法ヲ以テ之ヲ發見シ、午董後ニ演澤法ヲ以テ之ヲ試定セリ、故ニ刻白爾ノ行ヒシ如キハ單純ノ實驗法ナリ、凡ソ原因ト結合セル応效ヲ帰納スルハ、皆實驗法ノ種類ニシテ、其貼用ノ界限ノ狹隘ナルハ此法ノ特別ノ性質ナリ、其故ハ其貼用スル所ハ其状態ト整理トヲ精密ニ包含セル場合ノミヲ以テ限リトスレバナリ、余儕今寒キ大氣ヲ吸入スルハ、感冒ノ原因ナリト云フコトヲ觀察スルトキハ、此応效ハ單純ナル實驗上ノ物ニシテ、其貼用スベキハ、或ル状態ノ發現セル場合ヲ以テ限リトスルナリ、而シテ其状態ヲ精密ニ定メザルノ間ハ、其觀察セル所モ、未タ實驗上ノ共通ノ事實ナリト論定スルコト能ハザルナリ、平常民間ニ於テ為ス所ノ定言ハ、今言フガ如キ確然タラザルノ事ヲ多シトス、即チ其應效ヲ証スルニ必要ナル精密ノ状態景況トヲ定メズシテ、或ル応效ヲ以テ或ル原因ニ帰スル者多シ、○余儕今帰納法中ノ大問題ヲ大畧ヲ畢リタルヲ以テ、更ニ論旨ヲ他ノ判言即チ同在オコエキシ場所オコエキシノ次序オコエキシ尚似オコエキシ等ノ判言ノ方ニ轉向セントスルニ、是等ノ為メニ要スル發明実試ヲ為サントスルニハ、少シク他ノ方法ヲ用ヒザルヘカラザルコトヲ知レリ、同在ノ判言ノ切要ナル分ハ、其種類ノ性質ヲ定ムルコト、即チ吾等ノ前ニ發現セル事物ノ中ニ於テ相互ニ一致スル所ノ属性ヲ定ムルコト是ナリ、故ニ余儕、金、鐵、養氣、橡

木、馬、人、等ノ如キ物ノ性質ヲ定メントスルトキハ、殊ニ同在ノ判言ヲ撰用スルナリ、是ヲ為サントスルニハ、專ラ帰納法ニ依リ協アグリー合メントノ法ヲ用ヒテ之ヲ試定セザルベカラズ、此時ハ他ノ經驗ノ方法及ヒ演澤ノ方法ノ如キハ共ニ用ヲ為サルナリ、又協アグリー合メントノ法ハ普通原因ノ法則ユニブルノ中ニ於テ（全ク格外ノ者ヲ除キ）發見セル試驗ノ重積セル者ノ外ニハ、一物モ存スルコトナシ、○肖似ノ判言ハ數學ノ因ヲ立ツ所ナリ、事物ノ肖似ヲ定メントスルニ、其裁決ヲ取ル所ノ者ハ人ノ五官即チ人類ノ經驗ニ帰セザルベカラズ、吾儕モシ三ト四トハ七ニ齊シト云フトキハ、吾儕ノ此時ノ意ハ三ト名ケタル數ト四ト名ケタル數トヲ合保スルトキハ、其聚合ノ結果ハ七ト名ケタル數ト同一ノ結果ナリト云フニ在ルナリ、又幾何學ノ真理ハ傍起ノ法則ニシテ、場所ノ次序ト云フコトハ其景況中ノ一個ナリ、但シ幾何學ノ本原ノ法則ハ、平等ノ法則ユニブル即チ數學ノ總括ノ法則ト同様ノ者ナリ、○帰納ノ題目ヲ終ラントスルノ前ニ於テ更ニ記セザルベカラザルコトアリ、凡ソ其事物ノ吾前ニ發現スルノ初、未タ其事物固有ノ憑証ヲ以テ之ヲ試定セザルノ以前ニ於テハ、已ニ其事物ヲ或ハ信用シ、或ハ信用セザルコトアリ、此ノ如キ信不信ヲ生スル根元ヲ尋ヌルニ、若シ今或ハ事實アリテ、其真ナルカ偽ナルカヲ知ラストイヘドモ、其事或ル帰納ノ法則ニ一致スルトキハ、之ヲ信用スベキ事實ト名ケ、尋常ノ証據ヲ得タルト

同様ノ度ヲ以テ其事ヲ信用スルナリ、例ヘハ高山ノ巔ヨリ大雪塊落下シ、其力勢ニ由リテ其通路ニ當ル所ノ諸物ヲ摧倒セリト語ル者アルトキハ、吾儕之ヲ以テ信用スベキ事トスルナリ、其故ハ其事ハ自然ノ力ノ變動ニ於テ必ス生スベキノ事ナレバナリ、又死人ノ魂魄生人ノ側ニ来リテ竊カニ談話セリト言フ者アルトキハ吾儕之ヲ信用スベカラザルノ事トスルナリ、其故ハ此事ハ都テ他ノ事物ノ法則ニ反背シ、或ル概括ノ方法、又世界ノ習慣行為ヲ以テ之ヲ支柱スルコト能ハザレバナリ、凡ソ造化ノ運用ハ極メテ廣大ナル者ニシテ、種々ノ景況ニ於テ種々ノ現象ヲ發スル者ナレバ、或ハ一個ノ現象ニハ、殆ント真理ヲ解スベカラザル者ヲ見ルコトアリ、此ノ如キ現象ハ其未タ造化ノ概括ノ中ニ算入シ、是ト同一ナル品性ノ物ヲ發見セザルノ間ハ、全ク之ヲ信用スルコトヲ得ザルベシ、

〔巳〕<sup>○</sup>誤謬<sup>シテ</sup>及ヒ證據ノ開剖

○人類ノ通常犯ス所ノ誤謬ノ性質ヲ觀察スルコトハ、上文ニ論セル原理想念ヲ解説ヲ擴ムル為メニ甚タ切要ノ者ナリ、凡ソ誤謬ノ種類ハ甚多シト雖ドモ、其中ノ主要ナル者ヲ筭フレバ左ノ如シ、其一ハ教育ヲ受ケザル人ノ知告ヨリ生スル所ノ誤謬、其二ハ論理法、即チ演譯法ノ失錯ヨリ生スル所ノ誤謬、其三ハ惡シキ帰納法即チ經驗法ノ瑕疵ヨリ生スル所ノ誤謬、其四ハ抽象法ノ誤謬、其五ハ推理ノ器具、即チ言語ノ缺失ヨリ生スル所ノ誤謬ナリ、

○凡ソ世界ノ運動ノ支柱タル原因結果ノ連続ヲ經驗スルニ、能ク造物者ノ意思如何ヲ了得スルハ至テ難キコトニシテ、其事ハ上文ニモ畧之ヲ論セリ、最初ニ人心ニ印スル所ノ外物ノ状ハ、真正ノ外物ノ状ト大ニ異ナル者アリ、例ヘハ天上諸星ノ運行ノ如キモ、初メニ人ノ知覚ニ感スル所ノ現象ハ數々其事実ト全ク相反スル者アリ、又光線ノ屈折ニ由リテ人眼ヲ昧セラル、トキハ、其物ノ無キ處ニ反ツテ其物アリト誤認スルコトアリ、又吾等ノ感覺ニ属スルコトニ於テモ、其信ズルコトト事実トハ大ニ相違スルコトアリ、例ヘバ神經ヲ突進スルノコトアルトキハ、或ハ水液ノ全身ヲ亘リテ流動スルガ如キヲ感ズルコトアリ、吾儕ガ重力、即チ引力ノ感覺ハ、世界ニ對趾ノ人アルト及ヒ人民ノ居住セル地球ノ円形ナルヲ信ゼシムルコト甚タ難シ、又吾等ノ気性ハ吾等ガ万有二付キテノ意見ヲシテ益々其事実ニ反對セシムル者ナリ、余儕ハ凡ソ我ガ見ル所、經驗スル所ノ物ハ、我見ザル所ノ物ノ真正ノ表様、即チ其物ト同一様ナリ、造物者ノ工事ハ恰モ余儕ノ工事ハ全ク同シ者ナリトイヘル假定ヲ為スノ偏性ヲ有スル者ナリ、凡ソ視ノ力ヲ假ルヨリ外ニ、見ザル物ノ念ヲ造ルノ方法ナク、又物ノ念ハ物ノ本体ト同様ナリト信ズルノ性アルヲ以テ、余儕ハ「意見ノ狹隘」ト云ヘル心ノ特別ノ状態ヲ假設スルニ至レリ、古代ニ於テ支那、<sup>アヘンニア</sup>阿比西尼、及ヒ亜米利加ノ本土ノ如キ遼遠ノ地ヲ旅行セル人ノ紀行ヲ讀ンデ之ヲ信ゼザルハ、此意見ノ狹隘トイフ心ヨリ生スル者ナリ、其他人類ノ心中ニ預メ固定セル意見ハ、吾等ノ勉力行為抵抗等

ノ知覺ヨリ推シテ、造化ノ力勢因果トイフ者モ亦此ノ如キ者ナルベシト云ヘル念ナリ、余儕屢々世界ノ活動運行トイフコトモ、吾儕人類カ世界ノ万物ノ上ニ為スト同様ナル方法ヲ以テ現ハル、者ナリト考ヘタリ、凡ソ事物ノ真理ニ反セルハ、此意見ノ誤謬ノ如キ者罕レナリ、人類ガ其力ヲ以テ物ヲ動カシテ其位置ヲ易ヘシメントスルニハ、必ス其力ヲ出ス物ヲ以テ其動カサントスル物ニ密接セシメザルベカラズ、然ルニ造化ノ力ハ特別ノ者ニシテ、中間ニ距離ヲ隔テ、其働ヲ為シ、即チ力ト物トノ間ニ空地ヲ置キテ其力ヲ及ボス者ナリ、重力ノ如キハ、上ニ天ヨリシテ下モ地ニ及ビ、其間ニ幾千里ノ距離アルカ、殆ント計算スベカラズ、熱ト光トノ如キモ亦遠遠ノ距離ヲ隔テ、其感化ヲ及ボス者ナリ、然レドモ其初メ人力ノ經驗ヨリ出タル密接ノ想念（力ヲ以テ物ニ密接シテ初メテ動ヲ起ス）ヨリシテ、造化力ヲ度ルモ、亦中間ニ媒介トナル者ナケレバ、此ノ如キ遠大ノ距離ヲ隔テ、此物ヨリ彼物ニ力ヲ及ボスコト能ハザルベシト思考セリ、此想念ハ実ニ精氣イイサルノ流動塵空中ニ充チ、以テ重光、熱ノ力ヲ働カシムル者ナリトイヘル教義ノ根元ナリ、然レドモ余儕力ノ知覺ヲ誤解セルヨリシテ、虚空中ニ於テ此物ハ他ノ物ヲ引キ、又或ル物ハ同シ虚空中ニ在リテ他ノ物ヲ熱シ、又ハ此ヲ輝ラスコトノ事実ヲ以テ之ヲ造化ノ命令ナリト假定セリ、余儕ハ如何ナル關係ヲ以テ、此力ノ能ク遠距離ニ及ボシ、又物ノ性質ニ及ボシ、又其応效ヲ生スベキ他ノ

景況ニ及ボセルカト云フコトヲ查明セザルベカラザルナリ、畢竟人類ト云フ物ハ、未ダ全ク誤謬ノ境ヲ脱スルコト能ハザル者ナリ、

○其二 論理法、即チ演繹法ノ誤謬ハ、彼両前提ト收結トノ干係ヲ正シク行為スル所ノ推測法ニ就キテ生スル所ノ誤謬ナリ、此洛日克ノ瑕疵ハ其働ヲ閉塞スルコト、即チ其働ヲ以テ誤謬ノ小部分ノ境界中ニ限制スルコトナリ、若シ今或ル特別ノ收結ヲ支柱スル所ノ証論ヲ吾思想中ニ現ハストキハ、此判言ガ收結ヲ支柱スルヲ發見スルト同ジク、又判言ヲ作ル所ノ帰納ト抽象トヲ踪跡スルヲ以テ、必要ノコトナリトス、今假リニ自殺ヲ非ナリトスル左ノ証論ヲ引テ其例ト為スベシ、「自殺ハ

アンソニシヤル社會ニ反スルノ行為ナリ、故ニ社會ニ於テハ、之ヲ以テ其人ノ恥辱ヲ遺留スルノ罪惡ナリトシテ之ヲ論ズルナリ、」此証論ハ他ノ演繹ノ推理法ト同ジク、三個ノ別々ノ判言、即チ二個ノ前提ト一個ノ收結トヲ以テ成ル者ナリ、前提ノ一個、其大前提ト名クル者ハ、全体ノ定言、即チ肯定ト為ル者ニシテ、收結ノ客位ニ立ツ者ナリ、故ニ比例ニ於テハ、「凡ソ社會交際上ニ違反スル行為ハ、之ヲ犯シタル一個人ノ上ニ恥辱ヲ遺留シタル惡事ナリ」ト云フコト是ナリ、小前提ハ收結ノ主位ニ備ハル者ニシテ、此例ニ於テハ「自殺ハ社會ニ反スル者ナリ」トイフ者ナリ、收結ハ「自殺ハ之ヲ行ヒタル人ノ上ニ恥辱ヲ遺留スル者ナリ」トイフコトナリ、此ノ如ク綴合セル推理ハ、能ク法ニ協ヘル者ナリ、若シ第一第二ノ判言、即チ両前提共ニ真理ナルトキハ、收結ハ又同ク真理ナラザルベカ

ラザルナリ、<sup>スコラスチック</sup>教學法ノ洛日克（即チ演澤ノ洛日克）ニ於テ此証論上ニハ誤謬ヲ見ルコトナシ、然レドモ吾儕ハ此証論ヲ以テ満足セズト云フハ明白ナルコトナリ、吾儕此証論ガ帰納演澤及ヒ二个ノ抽象ヲ包含セルカト云フコトヲ考へ、此判言ニ付キテ更ニ精密ニ之ヲ推究セザルベカラズ、又此立論ハ正シク構造シ得タル者カ、此立論ハ世界ノ事實ヲ以テ堅固ニ憑證シ得ベキ者カト云フコトヲ見出サザルベカラズ、若シ吾儕「社會ニ反スル行為ハ罪スベキ惡事ナリ」ト云フ大前提ヲ假定スルトキハ、先ツ此「社會ニ反スル」トイフ物ニ精密ナル鮮義ヲ下シ、其行為ニ就キテ曖昧ナラザル意味ヲ定メザルベカラズ、吾儕今社會ニ管セル衆多ノ行為ヲ通覽スルニ、真中ニ於テ、或ハ直接ニ社會ノ害トナル行為者アリ、或ハ害モナク益モナキ行為アリ、或ハ害ニモアラバ、無利無害ニモアラズ、世人ノ要用ナリト思フ所ノ尊重ナル礼義ノ如キ是ナリ、今若シ社會ニ反スルトイヘル語ヲ以テ、社會ノ利益ヲ保護スル法律ヲ破ルノ義トシテ之ヲ鮮スルトキハ、上ノ証論ハ実ニ社會ノ關係セザル事（當人ノ恥辱トナルコトヲ言フ）トハ全ク別様ノコトトナルナリ、凡ソ社會ノ仇敵トナル行為ハ之ヲ責罰スベキハ當然ノコトニシテ、敢テ辯論ヲ要セザル所ナリ、又其小前提ニ於テ、自殺ハ社會ノ害トナルトイヘル意ヲ以テ、「自殺ハ社會ニ反スル行為ナリ」トイフトキハ、吾儕此言ノ真理ニ合フヤ否ヲ精密ニ考察セザルベカラズ、此判言ノ語法ハ已ニ明白ナルヲ以テ、吾儕ハ更ニ自殺ハ社會ノ大利益ノ一二ニ反抗スルト云フコトハ、社

會ノ事實ト一致セル者カ、又自殺ト相並ビ又ハ相後レテ社會ノ利益ヲ害スル一二ノ事ヲ發見セルカトイフコトヲ考察セザルベカラズ、此ノ如キ場合ニ於テ之ヲ考究スルノ方法ハ、第一ニ、一般ニ自殺トイフ物ト相結合セル總テノ副加物ヲ算セザルベカラズ、即チ、總テノ自殺ノ行為、及ヒ其許多ノ行為ノ比例ヲ以テ結合セル副加物ヲ算セザルベカラズ、第二ニハ、吾儕此副加物ハ社會ヲ害スル品性ヲ有スル物、即チ社會一般ノ利益ヲ妨グル物ノ中ニ入ルベキ者ナルカヲ定メザルベカラズ、此ノ如キ方法ノ外ハ上ニ引キタル問題ヲ定ムルニ、良善ノ方法アルコトナシ、

○今論擧セル例ヲ考察スルトキハ、演澤帰納及ヒ抽象ノ推度ノ法ニ於テ一個又ハ全部ノ誤謬ノ隱伏セルヲ見ルナリ、此例ヲ以テ誤謬ノ種類ノ根原トセシハ、此理アルニ由ルナリ、此例文中ノ或ル者ヲ以テ不十分ニ其形式ヲ造成スルトキハ、誤謬ハ忽チニ發生スルナリ、若シ之ヲ改正セント欲セバ、之ヲ變シテ精密ナル造成ノ規則ニ従ハサルベカラズ、無規則ハ余儕ガ上文ニ數論シタル所ニ由リテ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、

○其三 誤謬ノ種類ノ甚大ナル者ハ、言語ノ誤用ニ在リ、言語ハ、吾儕カ推理ノ大分ヲ作ルノ器械ニシテ、凡ソ洛日克ノ範圍内ニ在ル推理ノ為メニハ、其全体ヲ作ルノ器械ナリ、言語ヨリ生スル誤謬ハ、其他ノ原因ヨリ生スル誤謬ト同様ノ誤謬ニシテ、敢テ區別ヲ為スベキ者ニ非ズ、然レドモ言語トイフ者ハ其他ノ原因トハ離レテ特別ノ誤謬ノ種類ヲ生スベキノ傾向アル者ナリ、言語ハ其發言スル所ノ事實ノ圈内ニ吾心ヲ固定セ

シムル者ナルヲ以テ、或ハ時トシテ世界ノ事物ニ付キテ、真実ノ見込ヲ妨クルコトアリ、言語ハ又吾等ノ想念ヲ定ムル為メニ有力ノ器械ナルヲ以テ、誤謬ノ助ヲモ、真理ノ助ヲモ、共ニ之ヲ為ス者ナリ、是ニ由リ若シ言語ノ上ヨリ誤謬ヲ生スルトキハ、其誤謬ハ永世ニ亘リテ改ムルコト能ハザルナリ、凡ソ普通名ヲ用フルコトハ、其物ト同様ニ恒久ノ肯定トナルト云フコトハ上文已ニ之ヲ述ベタリ、故ニモシ或ル場合ニ於テ、悪シキ概括法ヲ用ヒ、或ハ幾許ノ物ニ或ル通性ヲ有セリト誤解スルトキハ、其普通名、即チ概括名ハ世上ニ於テ虚偽ヲ保持スル所ノ器械トナルナリ、其他言語ヨリ生スル所ノ誤謬ハ、凡ソ別々ノ名目ヲ有スル者ハ、皆別々ノ現体ヲ有スル物ナリト考認スルコト是ナリ、実体學リテリノ主義ハ是ヨリ出タル者ニシテ、總テ抽象ノ語ハ、皆之ニ属セル特別ノ現物アリテ、具体セル物ハ、實ニ此抽象セル特別ノ物ノ聚合シテ其形ヲ成シタル者ナリト謂ヘリ、故ニ智徳、政事、円形、堅硬ノ如キ、夫々ノ名目ハ唯人ノ智性上ノ區別ナルヲ、実体家ニテハ、之ヲ以テ一々別々ノ現体アリ、即チ具体ノ物ヲ難レテ別ニ智徳、円、硬等トイフ物アリトセリ、中古ノ時ノ教學派ノ大家グレート、ス起リテ此說ニ反抗セシガ、第十七期ノ時、世人一般此ノ如キ抽象ノ名目ハ唯智性上又言語上ニテ區別シタル物ナリトイフコトヲ知ルニ至ルマデハ、実体家ノ説猶頗ル世ニ行ハレタリ、

○上ニ記シタル推測法、即チ教學派ノ洛日克ノ附録トシテ、常ニ此洛日克ト相伴フ所ノ誤謬ノ件ヲ記スベシ、爰ニ記スル所ノ誤謬ハ、頗ル錯

雜セル品性ノ者ニシテ、其中ノ或ル誤謬ハ、推測式ノ正格ヲ破リタル者ニシテ、其餘ハ夫ト異ナル所ノ種々ノ誤謬ヲ多シトス、總テ是等ノ誤謬ハ、日常多ク見ル所ナルヲ以テ、是ヲ誤謬中ノ大ナル者トスルモ不可ナルコトナカルベシ、

○中間不給ノ誤謬アンチストリビューハ全ク推測式ノ法ニ違ヒタル者ナリ、凡ソ名辭ハ其貼用スル所ノ諸物ニ一々適合スベキ者ヲ分給ヂストリト名ク、若シ其一半ノミニ適合シテ、其他ニ適合セザルトキハ、之ヲ不給ト名ク、故ニ「アラユル食物」即チ食物ノ各個ノ種類ト言フトキハ、凡ソ「食物」ト名クル物ニ尽ク分給スルコトヲ得ベキノ名辭ナリ、又「或ル食物」ト言フトキハ、其中ノ一分ニノミ分給スルコトヲ得ベキノ名辭ナリ、今「食物ハ生命ニ必須ノ物ナリ、穀類ハ食物ナリ、故ニ穀類ハ生命ニ必須ノ物ナリ」ト云フ推測式アランニ、是則中間不給ノ誤謬ヲ犯シタル者ナリ、其故ハ「食物ハ生命ニ必須ノ物ナリ」トイヘル肯定法ハ、其形体ハ全稱判言ニヒフルサルニシテ、其實ハ分稱ニヒシヨシ（特稱）判言ナレバナリ、

○双関謎語エゴホハ一語ニテ二様ノ意味ヲ為シ、中間名辭ニ疑義ヲ起シ、實ニ中間名辭ノ用ヲ為サザルトキ、或ハ收結ニ於テ名辭、両前提ニ用フル名目ト同一ナラザルトキニ生スル所ノ誤謬ナリ、例ヘバ「總テ刑法ニ關セル行為クリミナルハ法律ヲ以テ罰スベキ者ナリ、窃盜ヲ告訴スルコトハ刑法ニ關スルノ行為ナリ、故ニ窃盜ヲ告訴スルコトハ法律ニ於テ罰スベキ事ナリ、」此中間名辭ハ意味曖昧ニシテ、「刑法ニ關スル」トイフ話

ト、「行為」ト云フ語ト共ニ二個ノ前提ニ於テ、別々ノ意義ヲ有セリ、又左ノ例ハ第三期ノ時ノ書ニ見エタリ、「狗ハ皆四足ヲ以テ走ル天狼星（一名狗星）ハ狗ナリ、故ニ天狼星ハ四足ヲ以テ走ル、」

○綴合及ヒ分解ノ誤謬フラシテ、コトガシヨンス、エ、ハ綴合スベカラス、分解スベカラザルノ事ヲ以テ、或ハ綴合シ或ハ分解スルヨリ生ズル所ノ誤謬ナリ、故ニ「二ト三トハ偶數及ヒ奇數ナリ、然レドモ五ハ偶數及ヒ奇數ニ非ザルナリ」トイフガ如キ是ナリ、

○音節ノ誤謬フラシテ、アハ發音ノ明白ナラザルヨリ起ル所ノ誤謬ナリ、凡ソ一語ノ上ニ甚シク力ヲ用ヒテ發音スルトキハ、通常人ニ誤謬ノ意味ヲ傳フル者ナリ、例ヘバ「汝ハ隣人ニ對シテ偽証ヲ立ツベカラズ」トイフ訓語ヲ高座ノ上ニテ讀ムトキ、若シ其音節惡シケレバ、或ハ人ニ反對ノ意見ヲ生セシメ、或ハ假誓サツオルネ「ハ之ヲ禁ゼザル者ト思ハシメ、又証拠ノ無キ者ハ皆虚偽ナリトノ考ヲ起サシメ、或ハ此禁戒ハ唯偽証ヲ證明スルコト能ハザル人、又ハ隣人ニ對シテノミ守ルベキ者ト思ハシムルガ如キ是ナリ、

○以上記スル所ハ言語上ノ誤謬インテク即チ言語ノ明白ナラザルヨリ起ル誤謬ナリ、即惟四語ヲ并列シ、其二語ハ、同一ノ名目ヲ擧タル推測式ヲ作リタルニ過ギザル者ナリ、是ヨリ以下ハ、言語ニ結合セザル所ノ誤誤エキヲ挙  
クシ  
トス、  
ゲントス、

○偶然ノ誤謬フラシテ、アハ偶然ニ發セル性相ヲ見テ其物ヲ定ムルナリ、臆測ノ誤謬アト、チクテム、シムラリシルハ或ル景況ニ於テ真理ナルトキハ、全ク

絶對ノ真理ナリト定ムルナリ、第一ノ誤謬ハ、其單一ナル主觀ノミニ於テ先言スベキ事ヲ、更ニ偶然ナル主觀ノ推度ヲ為シタルヨリ生シ、第二ノ誤謬ハ、偶然ノ事ヲ以テ、其主觀ヲ先言スベキヲ、却テ單一ナル主觀ヲ推度シタルニ由リテ生シタル者ナリ、第一ノ誤謬ハ左ノ例ヲ以テ之ヲ知ルベシ、「酒ハ甚害アル物ナリ、故ハ酒ハ禁止セザルベカラザルナリ、」此前提ハ過度ニ飲ミタル酒ニ付キテ言フベキノ語ナリ、而シテ其

収結ハ其多少ヲ論ゼズ、總テ酒ニ付キテ言フ所ノ語ナリ、（モルガン）  
ルマルロジック）、

○妄斷ノ誤謬ベチシヨフハ疑フベキコトヲ疑ハズシテ、確定セルコトト思フノ誤謬ニシテ、尋常生活上ニ於テ屢々見ル所ノコトナリ、「伽利畧ハ亜立士度德ガ地球ハ世界ノ中心ナリト言ヒシコトヲ論ジ、ガリレオ 亞氏ハ自ら此誤謬ニ陥リタリト言ヘリ、亞氏ノ証論ニ凡ソ重量アル物ノ性ハ、宇宙ノ中心ニ傾向シ、輕量ノ物ハ、其中心ヲ離ル、者ナリ、今經驗ニ由リテ、重キ物ハ地球ノ中心ニ傾向シ、輕キ物ハ地球ノ中心ヲ離ル、コトヲ知レリ、故ニ地球ノ中心ハ即チ宇宙ノ中心ナルコトヲ知レリ、」今之ヲ見ルニ、此証論ノ大前提ノ中ニ妄斷ノ誤謬アルコト明白ナリ、其故ハ余儕重キ物ノ地球ノ中心ニ傾向スルコトハ之ヲ見タリ、然レドモ宇宙ノ中心ニ傾向スト言フハ、蓋シ亞氏地球ノ中心ヲ以テ宇宙ノ中心ト同一ナリト臆

想シタルニ非ザルナキカ、則チ垂氏ガ此証論ニ由リテ收結セル所ハ全ク此定見ニ據レル者ナリ、」(ポルトローヤルロジック)

○外圍ノ斷證アイキユイング、イ、エ、サキルハ其誤謬ハ、上ニ記セル者ト全ク同一ノ根原ヨリ出ツル者ナリ、

○辨駁ノ誤謬イタラシハ正鵠ヲ誤リタル返答ヲ為シ、又ハ他人ノ論定セルト相反對セザル事ヲ、故ラニ証明スルノ類ナリ、此誤謬ハ形式ニモ事物

ニモ現ハル、者ニシテ、他ノ誤謬ニ比スレバ、其境界最モ廣キ者ナリ、

○對人辨論アイキユンタ、ホレキムハ各個ノ人ニ對シテ説話スル辨論中ニ於テ、此誤謬中

ノ一分ヲ犯スコト多シ、互ニ相罪シ、レクリミテ、イシヨシ及ヒ前後相反ノ攻撃チャイチ、オフ

シノ如キハ其中ノ一二ナリ、「汝ハ此定言ヲ為スコト能ハザルベシ、何

則汝ハ嘗テ此ノ如キ場合ニ於テ、此定言ニ反對シタル者ナレバナリ、」

然レドモ最初ノ証論已ニ他人ヲ攻撃スル者ナルトキハ、此ノ如キ反駁ハ

却テ堅固ナル自防トナルベシ、

○應効ノ誤謬アタシテ、コ(現今ハ之ヲ無効ノシ、マトイフ)ハ兩前提ニ依

ラズシテ、單一ニ收結ヲ為スヲ言フ、

○原因ノ誤謬ノシ、カガサ、ハ不完全ナル歸納法ノ誤謬、即チ原因應効ノ結合

ヲ推度スルニ、唯應効ノミアル所ノ誤謬ナリ、彼ノ著名ナルテンテルデ

ンノ塔ヲ以テグードウ井ン沙洲ノ原因ナリトスル田舎人ノ説ノ如キ是ナ

リ、

テンテルデンハ英國根德州中ノ小都府ノ名、グードウ井ン沙洲ハ同國同州ノ瀕海ノ洲ナリ、昔時グードウ井ン侯ノ所領セル陸地ナリシガ、今變シテ海ニ沈ミ、航海ノ害ヲ為ス沙洲トナレリ、

又ホストホック或ハプロプテルホックトイフ語モ上文ト同様ニシテ、相連続セル二個ノ事件ノ結合ヲ言フニ付キテ生スル誤謬ナリ、例ヘバ十分ニ信用セル藥劑ノ功能ヲ説キ、或人此藥ヲ用ヒテ大ニ功ヲ奏セリト言フガ如シ、」

○複問ノ誤謬フラシテ、アリユリユム、ハ數個ノ問ニ對フルニ一個ノ返答ヲ以テセ

ントスルノ誤謬ナリ、此事ハ、牧師力憑證ヲ為ストキハ、或ハ之ヲ行フ

コトニシテ、十分ナル疑問ニ對シ、條ヲ逐ヒテ別々ニ返答セザルベカラ

ザルヲ、只一個ノ然リトカ否トカ云ヘル語ヲ以テ之ニ答ヘントスルノ誤

謬ナリ、

〔庚〕學術サイエノ落日ク

○上文ニ記載セシ方法ニ由リテ發見スルコトヲ得ベキ普通ノ法則及ヒ抽象ノ法ハ、夫々ノ干係セル主意ニ從ヒテ之ヲ聚合シ之ヲ分解スルコトヲ得ベシ、此ノ如クシテ為シタル概括法ノ聚合セル者ヲ學サイエトイフ、若

シ其聚合ノ法、造化ノ現象ノ各個部分ヲ蒐ムルノ目的ヲ以テ為シタルト

キハ、之ヲ單純學一名抽象ノ學ト云フ、故ニ進化ノ現象ノ中ニ於テ、其

機動生活セル部分ノ法則ヲ聚合スルトキハ、之ヲ單純ナル生活ノ學トイ

フ、此ノ如キ者ヲ生器學フシキ又生理學ハクシト名ク、若シ又或ル実行上ノ

志謀即チ其場所ニ限レル發現ヲ解説センガ為メニ、他ノ諸部ヨリ種々ノ現象ヲ聚メテ造化ノ真理ヲ示ストキハ、之ヲ混合ノ学ミキキ又具體ノ学コソクト云フ、故ニ醫學ニ於テ、疾病ヲ治セントスル実行上ノ目的ヲ以テ、格物学、化学、生器学ノ活用ヲ説キ、地質学ニ於テ、地殻ノ現状ノ錯雜ナルヲ解説センガ為メニ、以上同一ノ諸学ヲ聚合スルガ如キハ皆此義ニ依ル者ナリ、是ヲ以テ抽象ノ学ノ彙類ハ、造化ノ用ヲ為ス所ノ種々ノ活動ノ種類ニ從ヒテ之ヲ立テ、混合ノ学ノ彙類ハ、生活上ノ実行ノ目的及ヒ其場所ニ屬セル活用ノ方法ニ随ヒテ之ヲ立テザルベカラザルナリ、

○奥古士都坤篤オキストコトハ、初メテ此ノ如キ学科上ノ大區別ヲ完成シタル人ニ

シテ、且ツ抽象ノ部分ニ於テ、殊ニ嚴正ノ定義ヲ立テタリ、坤篤ノ説ニ從ヘバ、抽象ノ学ハ、数学、天文學、格物学、化学、生理学、交際学ニシテ、此六学ハ、進化ノ性質行為ノ根基ナル六元ト相一致スル者ナリト云ヘリ、即チ数学ハ萬物ノ數ト量ト大トニ関シ、天文学ハ重力ノ學ニシテ、格物学ハ物質ノ凝聚力コヘシツノ学ナリ、化学ハ不用ノ微塵分子ノ親和ヲ説キタル者ニシテ、生理学ハ生活物ノ法則ヲ論シタル者ナリ、而シテ交際学ハ人間社會ノ構造ニ付キテ其説ヲ立タル者ナリ、坤篤ハ、此順序ヲ以テ、是等ノ学ノ真正ノ天然ノ順序ナリトシ、其學問ノ發見モ此順序ニ因リ、彼此互ニ相從屬セルヲ以テ、此順序ニ從ヒテ之ヲ学ブトキハ、之ヲ学ブコトモ亦極メテ容易ナリト言ヘリ、余儕ノ考フル所ニテハ、天文学ヲ以テ格物学ノ中ニ合シ、生理学ノ甚タ包含多キヲ以テ、其中ヨリ心

学ヲ抽キテ別ニ一學トセント欲スルナリ、然ルトキハ学科ノ目ハ左ノ如シ、曰ク数学、曰ク格物学、曰ク化学、曰ク生理学バイオロジイ（生命）、曰ク

心學サイコロジイ曰ク交際學（社會）是ナリ、此六學ハ造化ノ現象及ヒ其法則ノ各種ヲ擧ゲタル者ニシテ、余儕ノ知ル所ヲ以テスルニ、凡ソ世界上ニ在ル所ノ事實活動ハ、此六種ノ外ニ出ル者アルコトナシ、算數、格物、化成、植物動物ノ生器解剖、人心、人類ノ交際ヲ知ルトキハ、造化ノ全体ヲ知リタル者ト云フベシ、余儕能ク此六學科ノ法則ト抽象トニ通曉スルトキハ此世界上ニ發現スル無數ノ事件ヲ了得スルノ準備ヲ為シ得タリト云フベシ、

○以上記スル所ノ抽象諸学ノ、其順序ニ從ヒテ天然ニ相係屬スルコトハ爰ニ其義ヲ解説セザルベカラズ、總テ此諸学ハ己レヨリ上ニ位スル所ノ学ニ從屬シ、己レヨリ下ニ位スル学ニ從屬スルコトナシ、而シテ其上論ヨリ降りテ下端ニ及ブニ從ヒ、最モ單一ニシテ最モ概括セル性質ト法則ヨリ降りテ、最モ複雑ニシテ最モ界限アル性質ト法則トニ及ブヲ見ルナリ、即チ從屬ト概括トノ結合アルヲ見ルナリ、最初ニ立ツ学科ハ他ニ從屬スルコトナク、其概括スルコト殊ニ廣シ、最後ニ立ツ学科ハ最モ多ク他ニ從屬シテ、又特別ノ性ヲ有スル者ナリ、○数学マテマハ量ト數トノ性ト法則トヲ論スル者ナルヲ以テ、宇宙間ノ總テノ物質ト活動トニ及ビ、凡ソ多少現體ゴトノ性ヲ有スル者ハ、一モ量ノ法則ノ中ニ入ラザル者ナシ、故ニ其他ノ諸学ニ論ズル諸現象ハ尽ク数学ノ目的ノ中ニ歸シ、直チ

ニ数学ノ教義ノ下ニ付属スルナリ、然ルニ数学ノ教義ノ如キハ、他ノ学科ニ従属スルコトナク、全ク獨立ノ体面ヲ保持セリ、格物学化学ノ如キハ、若シ算術幾何学ノ規則變化スルトキハ其規則尽ク變動スルナルベシ、然レドモ格物学化学ノ性質ノ變化ハ毫モ数学上ノ性質ニ變化ヲ與フルコトナシ、六ヲ三倍スルトキハ常ニ二十八トナルハ熱ト微塵トノ法則ニ變動ヲ生スルモ、二項式二項式ノ法則ハ常ニ變化スルコトナシ、○格物学格物学ハ物質物質ノ性ヲ論ジタル者ニシテ、其中ニ物体ノ會聚ハ、重、熱、電、光ノ四大力ノ法則ヲ包括シタル者ナリ、此学ハ全ク物質ノ數量ノ性ニ従属スル者ニシテ、化学ノ性ニハ従属セザル者ナリ、格物学ノ性ハ、物ノ形体ト大小トニ從ヒテ増加シ、是ニ依リテ其属性ヲモ變スル者ナリ、化学ノ性ノ如キハ、其下ニ立ツ所ノ増加ナリ、○化学ケミストリーノ力ハ、格物学ノ力ニ由リテ變改ヲ受クルコトアレドモ、格物学ノ力ハ化学ノ性ノ為メニ變改セラル、コトナシ、重力ハ何レノ物ニモ一樣ノ働ヲ為ス者ニシテ、其物ノ化学ノ親和力ノ如何ニ関セズ、又親和力ノ全ク消失シタルトキモ、同様ノ働ヲ為スナリ、○生活力バイタルノ如キモ亦同一ノ理ニシテ、其中ニ論セル物質ノ性ハ、數量、格物、化成ノ性ニ由リテ變更スルコトアリト雖ドモ生活学ノ力ヲ以テ上ノ三學ニ反動ヲ生セシメ、其物性ヲ變更セシムルコト能ハズ、心學サイコロジーノ法則モ亦同様ニシテ、更ニ複雑シテ且ツ従属ノ者タリ、又其界限更ニ狭ク、兼テ特性ノ者タリ、○凡ソ有形物ノミナラズ、無形物トイヘドモ、皆數量ノ性ヲ有セザル者ナシ、又

總テ有形ノ物ハ、何レモ格物学ノ性ヲ現ハサバハナシ、有形物中ノ或ル部分ハ、化学上ノ親和分離ノ勢力ノ下ニ屬シ、其中ノ選擇セル幾片ハ生活学ノ形体ヲ構成シ、更ニ其中ノ狭小ナル部分ヲ以テ心ノ現象ノ結合ニ用フルナリ、余儕モシ數量ノ合成ヨリ生スル事ヲ知ラザルトキハ、格物学ノ現象ヲ了解スルコト能ハザルベシ、數量ト格物トノ二者ヲ知ラザルトキハ、化学上ノ現象ノ知識ヲ得ルコト能ハサルベシ、而シテ此三種ノ學問ハ、生活ノ學ノ為メニハ必要ノ準備トナルナリ、先行セル学科中ノ種類ヲ知ラズシテ、直チニ或ル学科中ノ種類ノ性質ヲ了解セントスルハ、事物ノ順序ヲ顛倒シタル者ニシテ、譬ヘバ階ナクシテ高キニ登ラントスルガ如ク、到底望外ノ事ナルベシ、先行セル現象ノ法則ヲ知ルニ先チテ、現今遭遇シタル現象ノ法則ヲ知ラントスルハ、又為シ得ベキコトナレドモ、其法則ハ実験上ノ法則エムピリカルニシテ、惟之ヲ視察シタル時ノ景況ニ限リテ、為シ得ベキコトナリ、例ヘバ生器学ノ法則ノ如キハ殆ント純然タル実験ノ法則ナリ、蓋シ此学ハ余儕其生活力ニ結合セル格物及ヒ化学ノ活動ヲ十分ニ了知セズシテ能ク之ヲ為シ得ベキヲ以テナリ、○以上論スル所ノ六種ノ根元学ハ各落日克上ノ品性ヲ有セリ、即チ各学科中ニ擧グル所ノ現象ノ異ナルニ由リテ、其之ニ貼用スル総概ノ法則及ヒ其性質ニ付キ、多少其論旨ノ在ル所ヲ異ニセリ、故ニ此六種ノ学科ヲ學バントスルニハ、人々ノ知性ノ上ニ別々ノ教導ヲ為サバハカラス、例ヘバ天文学ノ如キハ觀察ト推演トノ二法ニ於テハ、実ニ最高度ノ働ヲ

為ス者ニシテ、凡ソ精密ナル觀察ノ工夫方法ヲ用フルハ、他ノ学科ニハ一モ之ニ及ブ者ナシ、凡ソ現象ナル者ハ、動機ノ至極ノ法則ニ、重量ノ法則ト、數量ノ理トヲ加ヘテ推演スル者ナレバ、天文学ノ如キモ亦完全ナル推演法ニ由リテ、其真理ニ違スルコトヲ得ルナリ、余儕今天文学ヨリ地上ノ格物学ニ考ヘ及ポストキハ、格物学ニハ固形、流動、気体、熱、動機、静水、視、電気等ノ法則ヲ包含セルヲ見ル、而シテ是等ハ皆試験ニ由リテ知ル所ナリ、天上ノ格物学ニ於テハ、是等ノ諸法則ヲ試験スルニ適セズ、而シテ試験ノ工夫、及ヒ已ニ知リタル原因ト景況トヲ或ハ包含シ、或ハ排除スルコトヲ学ブハ、其高度ニ於テハ、全ク習行上ニ属スルコトナリ、近今ノ二世期以来、格物学ハ、試験考究ノ一大田地ト為レリ、故ニ此学科ハ他ノ学科ヲ撰スルコト能ハズト雖ドモ、精密ナル試験ノ術ハ、格物学ノ田地ノ中ニ在リト云フニ至レリ、大氣ノ重量及ヒ壓力ヲ定メタル試験、牛董ノ光ノ試験、伯拉克ノ潜温ノ考究、及ヒ此七十年來試験シタル電気ノ考究ノ如キハ、獨リ格物学ノ歴史ニ於テ著名ナル事迹ナルノミナラズ、人類ノ理識ノ歴史ニ於テ著名ナル進歩トイフベシ、○化学ノ如キモ亦格物学ト同シク、全ク試験上ノ學問ナリ、惟其異なる所ハ此学ハ地球上ノ物質ヲ其混和調合ニ從ヒテ之ヲ彙類シタル者ナリ、凡ソ此地球ハ六十餘ノ單一ナル元質ヲ以テ成リ、其元質ハ相混和スル為メニ、無限ノ力ヲ有セル者ナリ、故ニ此学ハ其元質ノ結合ト分解トニ伴ヒタル景況ヲ論定シ、其已ニ成形セル物体ヲ以テ、其原本ナル元質

ニ依リテ、適當ナル彙類ヲ為スニ在リ、是力為メニ新ニ此学ニ属セル名稱ト整理法トヲ定メテ之ヲ用ヒタリ、此法ハ他ノ学科ニ於テハ、此学ニ於ルガ如ク廣ク貼用セズトイヘドモ、亦全ク化学ノ目的ヲ離レテ、其外ニ之ヲ用フル者ニ非ザルナリ、○生命ノ学ハ、其學ノ特別ノ助手トシテ類及ヒ種ノ彙類法ヲ用ヒ、以テ其工夫ヲ至極ノ完全ノ地ニ達センコトニ盡スナリ、○心ノ学、社會ノ学ハ、是ト同様ニ亦其學問ニ付キ、特別ノ方法ヲ有シ、心智ヲ養フニ洛日克ノ法ノ特別ナル部分ヲ貼用センコトヲ務ムルナリ、○總テ以上ノ諸学ハ、之ヲ学ブニ通用ノ一法アリ、即チ道理（理識）ヲ以テ已ガ知覺ノ氣性トノ上ニ立タシムルコト、及ヒ其定言ヲ以テ堅固ナル試験ニ当ラシムルコト是ナリ、余儕是ヨリ諸ノ学科中ニ包含セル現象ヲ、夫々ノ種類ニ從ヒテ特別ニ記載シ、以テ六元学ノ大意ヲ説カント欲ス、○数学ハ之ヲ二派ニ分ツ、其一ハ抽象ニシテ、中ニ算術代數及ヒ高等ノ分解法ヲ包括ス、其二ハ具体ニシテ、幾何ト普通ノ動機学トヲ包括ス、抽象ノ一派ハ特別ノ事物ニ関セズシテ、一般ノ數ト量トヲ説キ、具体ノ一派ハ特別ナル分量ノ種類ヲ説タル者ニシテ、其一ハ幾何学、其二ハ普通ノ動機学ナリ、幾何ハ、空處ト、空処ヲ充ツル物ノ形體トヲ論シ、動機学ハ運動ト、運動ヲ現ハスニ必要ナル物、即チ空處ト時間トヲ論ズル者ナリ、然レドモ、動機学ノ本性ヲ言フトキハ、通常幾何ヲ學ブヲ以テ其極端トスルナリ、

算術ハ十數ノ記号ト十數ノ用法トヲ説キタル者ナリ、是ヨリ以上ノ數ニ付キテ別ニ名目ヲ創造スルコトナクシテ、能ク簡易整齊ニ高等ノ大數ヲ言フコトヲ得、今日ニ至ルマデ、未タ何レノ国民モ算術ノ算法ニ付キテ別ニ改善ヲ為シタルコトナク、即チ此上ニ學術上ノ進歩ヲ為シタル者ナシ、算術ノ方法ノ主要ナル者ハ、聚合セル數ヲ以テ一個ノ全形ヲ作ルニ在リ、即チ一十百等ノ位ニ從ヒテ其形ヲ作ルニ在ルナリ、故ニ此術ノ原則ヲ含セル乘法ニ於テ、其用ハ專ラ二個ノ合數ヲ以テ一ノ成數ヲ作ルニ在リ、「九回ノ七八六十三ナリ」トイフコトハ、若シ七ノ行ヲ九回算スルトキハ其成數八十ノ行ヲ六回ト其餘二三ヲ算スルニ同ジト云フコトナリ、若シ總テ成數皆十ノ數ニ綴合スルコトヲ得ルトキニ、其數ヲ比較スルニ於テ、甚タ便利ニシテ、各別々ノ數ニ綴合スルニ勝レリ、故ニ今九回ノ六ト、十一回ノ五ト比較セントスルニ、吾儕此兩者ヲ以テ共ニ十ノ數ニ綴合スルトキハ、其比較ニ甚タ便利ナリ、即チ一八五十四トイヒ、一八五十五ト言フナリ、

イオン

○代數學ハ算術ニ比スレバ頗ル高等ニ位シ、專ラ等式比例ノ解式ヲ説ク者ナリ、此学ノ一種特別ノ法ハ各同等平均ヲ保ツベキ二個ノ別様ノ多數形ヲ記シ、之ニ加減等ノ術ヲ施シテ、此二種ノ多數形ヲ漸次ニ減シ、終ニ根元ノ比例式ヨリ成レル一個ノ定數ヲ得ベキ單一形ニ成スニ在リ、今代數學ニ於テ其了解シ易キ一例ヲ擧シ、未知數アリ、之ニ其數ノ自乗シタル冪數ヲ加フルトキハ、其數五十六個トナルトセンニ、此數

ヲ知ラント欲スルニハ、先ツ未知數ヲ假リニ $X$ ノ字ヲ以テ之ヲ定メ、而シテ同等ノ符号ノ一方ニ五十六ヲ記シ、一方ニ $8X$ ノ未知數ニ、其數ノ自乗セシ冪數ヲ加ヘタル多數形ヲ記シ、而シテ後其方術ヲ施シ、一方ニハ未知數ノ假定ヲ頭ハセル文字一個ノミトナリ、一方ニハ其定數ヲ現ハス通例ノ數只一列ニ至ルマデ之ヲ行フナリ、是ヨリ更ニ高等ノ分解法ハ、牛董萊伯尼士ノ發明スル所ナリ、即チ弧面ノ周圍及ヒ面積ノ計算、又急動ト緩動トノ時間ノ計算ノ如キハ皆二人ノ算定セシ所ナリ、

○幾何学ハ線、面、円、直、曲等ノ法則ヲ論ズル者ニシテ、之ヲ分ツテ特別ノ幾何学、総概ノ幾何学ノ二種ト為ス、特別ノ幾何学ハ欧克立特ノ定メタル所ニシテ、三角、圏等ノ如キ各個ノ形体ヲ相連続シテ論ジタル者ナリ、

メカニク

○普通即チ理性ノ動機学ハ運動ノ原理、即チ其法則ヲ論ジ、之ヲ以テ單一又ハ複雑セル力勢ノ諸種ノ応効ヲ算定スル者ナリ、力ニ二種アリ、其一ハ靜定ヲ生スル為メノ平均力ニシテ之ヲ靜力<sup>スタチ</sup>ト云ヒ、其二ハ運動ヲ生スル所ノ力ニシテ之ヲ動力<sup>ヂナミ</sup>ト云フ、此二力ヲ區別スルハ至テ肝要ノコトナリ、射擲物ノ進路ヲ定ムルコトハ、動機学中ニ於テ最初ノ問題ナリ、則チ動靜ノ二力ハ此射擲物ニ別シテ応効ヲ生セシムル者ナルヲ以テ、一物上ニ合併セル二力ノ応効ヲ發見スルハ、此学ノ要用ナリ、

○天文學ハ普通ノ動機学ト地上ノ格物学トノ間ノ連鎖ヲ為ス者ナリ、此学ハ造化ノ能動力ナル重力ト運動ト力勢トヲ生スル所以ヲ究ムル者ナ

り、重力ノ法則、ヨク天上ノ諸象ヲ約スルノ力トナルト云フコトヲ帰納法ニテ之ヲ經驗シタル後、動機學ノ原理ハ又數學ノ補助ヲ以テ、總テ此力勢ノ応効ヲ算定シ得ルナリ、詳ニ之ヲ言ヘバ、月ガ太陽ト地球トノ感觸ヲ受ケ（此二者ハ其大小ト遠近トノ差異ニ依リ、或ル力勢ヲ有スル者ナリ）是ニ由リ空中ニ或ル軌道ヲ画シ、又或ル時間ヲ以テ運行スルト云フコトヲ算定スルナリ、又潮汐ノ進退ノ如キハ、地上ノ現象ナリトイヘドモ、其原因ハ遠距ノ重力ニ在ルヲ以テ、天文学ニ於テ之ヲ論ズルナリ、

○地上ノ格物學ノ第一段ハ通常之ヲ物質ノ性フロバチキ、マシ、ト名ク、物質ノ聚合シテ固形流動氣狀ノ諸体トナリタル上ニテ、其法則即チ其特性ヲ論ズル者ナリ、○重力ニ次ク所ノ能動力ハ凝聚力コハシ、コハシニシテ、物質ノ微分子ヲ以テ、多少結合シテ其形ヲ成サシムル者ナリ、此力ハ有形世界ヲ構造スル最初ノ原力ニシテ、量ニ由リテ牽引アツトク、アツトク、抗拒レバル、レバルノ力ヲ有セル微分子則チ微塵ヲ綴合シテ物体ヲ成スコトヲ得シムルナリ、此牽引抗拒両力ノ調整ノ度ニ依リテ固形（聚合ノ粗密ノ度ノ異ニセル）流動氣狀ノ三体ヲ造出スルナリ、凝聚ノ力ハ右ノ如ク粗密緊緩甚タ一様ナラズ、此点ヨリ言フトキハ、重力ノ画一ニシテ齊整ナル者ト全ク相反セリ、凝聚力ハ獨リ其物体ノ異ナルニ依リテ緊緩ノ度ヲ異ニスルノミナラズ、熱ト名クル造化ノ大勢力其中ニ流行スルトキハ、同一物ニ於テモ大ニ其緊緩ノ

度ヲ異ニスルコトアリ、此熱ハ第一ニ太陽ノ中ニ寓シテ能ク有形物ノ凝聚力ヲ轉倒變改セシムル者ナリ、

○地上ノ格物學ノ第一部ハ物質聚結マテリアル、アツ、レグレーションノ法則ニシテ、第二部ハ熱ノ法則ナリ、是ニ次ク者ハ実行ノ動機學、靜水學、大氣學、音聲學ナリ、而シテ是等ノ諸學ハ最初ノ二學ノ有セザル新原理ヲ有スルコトナシ、此外ニ猶二個ノ學アリ、電氣ト光トナリ、此二者ハ前ノ諸學トハ別種ノ原因ヲ有スル者ナリ、電氣ノ學ハ（近年頗ル完全ノ域ニ達シタル者ニシテ、）消積二極ノ力ポイナル、ネチユアノ廣大ナル効用ヲ説キタル者ナリ、此二力ハ之ト結合セル物質ノ異ナルニ從ヒ、種々ノ形態ヲ現ストイヘドモ、常ニ其兩極力ヲ變スルコトナシ、電氣ハ之ヲ靜息スタチタル、オ、オ、運動モビリティ、レトノ二種ニ大別シ、又之ヲ六種或ハ七種ニ小別ス、其小別ノ第一ハ最古ノ種別ニシテ、相電氣ツツネ、ツツネト名ケ、鐵又ハ其他ノ磁氣アル金類ノ大塊ニ對シテ發動セル兩極ノ力ヲ現ハス者ナリ、第二ハ靜息電氣ノ種類ニシテ、之ヲ摩擦電氣フリクシヨナル、エレクトリシテイトイフ、通常ノ機器ニ發スル所ノ電氣ナリ、此一種ハ前世期ノ後半期ニ於テ仏蘭克林及ヒ其他ノ學士ノ創見スル所ナリ、流動電氣ノ第一種ハ佛爾塔電氣ボルタ、一名佛爾塔堆ノ發動ト稱スル者ニシテ、電氣ト化力トノ緊密ナル結合ヨリ發スル者ナリ、其次ハ電磁氣ロ、マグネチスム、ヒ、レクトロシテイ及ヒ磁電氣マグネト、エ、レクトロシテイニシテ一ハ電氣ヨリ磁氣ヲ發動シ、一ハ磁氣ヨリ電氣ノ發動スル法則ヲ説キタル者ナリ、其次ハ熱電氣テルモ、エレ、キトリシテイト名ケ、熱氣ヨリ發動スル者ニシテ、熱電ノ二大勢力ノ結合ノ試驗ヲ完成シタル者

ナリ、電氣ハ猶此外ニ動物植物ノ身体ニ關係ヲ為ス者ニシテ、活物ノ身体中ニ於テ、或ハ之ヲ發生シ、或ハ之ヲ消費スル者ナリ、

○光ハ其性質中ノ或ル部分ハ他ノ諸物ト大ニ異ナル所アリ、即チ其發揚、反照、曲折等ノ如キハ、數學ノ干係上ヨリ看ルトキハ、殊ニ他物ト殊異ノ性ヲ有セリ、然レドモ其此ノ如キ現象ヲ發スルノ原因、及ヒ吾眼上ニ映スル光ノ働ノ原因ノ如キハ、共ニ未タ明晰ナルコト能ハズ、凡ソ実物ハ或ル度ノ熱ヲ與フルトキハ、光輝ヲ發スル者多シ、然レドモ其光ヲ補充シタルニ由リテ其熱ノ分量ヲ減スルコトナシ、光ト熱トノ結合ハ實ニ明白ナリトイヘドモ、其結合ノ法ハ亦全ク熱ト電氣トノ結合ニ異ナリ、熱氣ナル物体ハ、其熱力ノ外ニ更ニ光輝ナリ、此ノ如キ物体ニ電氣ヲ加フルトキハ、電氣ノ發動スルニ從ヒ、熱氣自然ニ消滅スルナリ、光ノ如キハ、今日ニ至ルマデ、未タ其力（光）ニ依リテ物ノ面ニ變化ヲ生スルノ原理ヲ發見セシ者アラズ、獨リ撮影術エトガノ發明ノミハ僅ニ此原理ノ發明ノ一端ト稱スベキナリ、

○化学ハ熱ト電氣トヲ以テ格物學ニ干係ヲ為ス者ナリ、化学ケムストル単元體ヲ結合シテ合元體ト為シ、合元體ヲ分解シテ單元體ト為スコトヲ論ズル者ナリ、此學ノ結合法ハ其比例ニ確然タル一定ノ法アリ、而シテ二個ノ物質ノ結合ニ由リテ第三ノ物質ヲ現出スルナリ、此第三ノ物ハ、元素ノ二個ノ物質トハ全ク別様ノ物ニシテ、此二者ハ孰レヨリシテ成ルカヲ知ルコト能ハザル者ナリ、

○結合ト分解トハ化学中ノ大ナル事實ニシテ、其精密ナル学科トナリシハ學士達敦ダクトンガ是ニ付キテ其法則ヲ立シ以來ノコトナリ、化学、通常無機有機ノ二類ニ分チ、有機化学ハ植物ト動物トヲ造成セル物質ノ聚合ト行為トヲ論スル者ニシテ、其礦物即チ無機物ト異ナル所以ハ、此二物（植物動物）ハ礦物ニ比スレバ其物質ノ組織甚タ複雑セルニ在リ、沙糖ノ如キハ有機物中ニテ複雑ノ少ナキ物ナレドモ、之ヲ無機物ノ酸、即チ綠礬曲ノ如キ單一ナル物質ニ比スレバ、其微分子ヲ包含スルコト二十倍ノ多キニ至レリ、動物ノ身体ノ組織ニ至リテハ、沙糖ヨリ其複雑スルコト猶甚多シ、凡ソ此世界上ニ在ル有形物ノ數ハ、化学ノ法ニ依リテ之ヲ分ツトキハ、十萬ニ及ブベシ、是皆人類ガ是等ノ物ニ付キ適當ノ知識ヲ得ルニ從ヒ、其考案ヲ以テ之ヲ撰別シ得タル者ナリ、此ノ如キ許多ノ有形物ノ中ニ於テ植物ト動物トハ、其單一ナル者トイヘドモ、皆化力ノ聚合ヲ以テ成リタルニ非ザル者ナシ、

○有機化学ハ化学ト生活學トノ間ノ連鎖ヲ為ス者ナリ、生活學ハ殘餘レキノ經驗法ニ由リテ、如何ナル物ガ所謂生活力バイタル即チ生活性ニ適合セルカヲ知ル為メニ、植物動物ノ組織ノ化力ノ性ヲ研究スルヲ以テ必要ト為ス、例ヘバ消化ノ働キノ如キ、一分ハ形体上ノ分解力ニ由リ、一分ハ化力ノ結合性ニ由リテ成ル者ナレドモ、尚此二者ノ力ノ外ニ歸スベキ応効ノ部分アルナリ、

○生活ノ学ハ之ヲ解剖<sup>アナトミ</sup>ト生器<sup>フランシス</sup>トノ二科ニ分ツ、解剖ノ学ハ生活セル物体ノ構造ヲ記述スルガ為メニ之ヲ行フ者ニシテ、生器ノ学ハ其物体中ニ流行セル働ト變化トヲ記述スルヲ主トスル者ナリ、

○有機体ノ特別ナルコトハ、其形体、微塵<sup>アトム</sup>ヨリ成ラズシテ細窠<sup>セル</sup>ヨリ成ルコトナリ、此細窠ハ其中心及ヒ側面ニ在ル仁ヨリシテ更ニ他ノ細窠ヲ生スルノ力ヲ有スル者ナリ、此細窠相互ニ凝聚シテ織体<sup>チシユ</sup>ヲ作り、其織体ハ其物ノ生活セル間ハ、常ニ糜落新生ノ働、即チ旧窠破開シテ新窠發生スルノ働ヲ為ス者ナリ、此窠状ノ物質ト無機体ノ物質ト相逢フトキハ、細窠之ニ粘着シ、合シテ一ト為リ、遂ニ無機ノ物質ヲ變シテ活氣アル織体ヲ為スナリ、此ノ如キ生産ノ原理即チ有機形ノ物ヲ以テ無形ノ物ニ結合スルノ原理ハ亦生活ノ法則中ノ一個ナリ、

○生器学ノ一難事ハ、植物ノ種子、動物ノ萌芽ノ如キ細小ナル物ノ中ニ如何ンシテ後來生長増大スベキ品質ヲ含有セルカヲ指定スルコトナリ、今人類ノ将来ノ大成モ、或ル時節ニ於テハ、僅ニ二三ノ細窠ノ内ニ包含セルコトナレドモ、此細窠ヲ以テ、之ヲ造成セル極微塵ト、其大小ヲ比較スルトキハ、聖保羅<sup>セントパウロ</sup>ノ礼拝堂ヲ以テ一個ノ石ニ比較スルト異ナルコトナシ、故ニ其初ニ於テハ顕微鏡ヲ用フルモ之ヲ視ルコト能ハザレトモ、其細窠中ニハ、人類ノ十分ニ生長スベキ品質ヲ包含スルニ足ルノ空地アルコトヲ知ルベシ、

○解剖ノ学ハ是ニ由リテ動物ノ身体ノ構造ヲ漸々簡單ニ解説スルコトヲ得ルニ至レリ、甚大ナル發明ハ学師阿温<sup>オウエン</sup>ガ動物ノ骨骼ヲ考究シ、其脊骨ヲ有スル所ノ動物ヲ以テ、彼ノ甲骨、即チ硬キ骨ヲ以テ軟キ肉ヲ被覆セル動物ト區別シテ論ズルヲ以テ始メトセリ、阿温氏、魚、爬虫ヨリ人ニ至ルマデノ動物ハ皆同式ニ出タル者ニシテ、只特種ノ小異同アルニ止マル者ナリトセリ、其根元ノ骨骼、即チ其普通ノ骨骼ハ全種類ノ區別ノ標点ナリト言ヘリ、是ヨリ更ニ簡單ニ説到レバ、此根元ノ骨骼ナル者ハ、其頭ヨリ足ニ至ルマデ同一ノ骨片ヲ重積シタル者ナリ、今モシ脊骨<sup>ベルテレ</sup>ノ椎骨一個ヲ取リテ見ルトキハ、其單一ノ骨片ヲ知ルコトヲ得、此骨片ハ之ヲ重疊シ、之ヲ變形シテ、人類、四足獸、鳥、魚、爬虫ノ脊骨ノ全部ヲ造成スルナリ、四個ノ椎骨相綴合シ、其一分ハ尋常ノ者ヨリ廣張シ、以テ頭ト両腕トヲ作ルナリ、故ニ或ル動物ノ骨骼ヲ達成セントスルニハ、先ツ此脊骨ノ重積トナルニ十分ナル十字片骨ノ數ヲ要シ、次ニ其形体ノ諸部ニ於テ、其造形ニ要用ナル生長廣張ヲ要スルコトナリ、学師阿温ハ脊骨類ノ動物ノ骨ヲ以テ、形状ノ異ナレル他ノ種類ノ動物ト比較シ、以テ之ヲ同一ニ帰セシメ、又脊骨ノ十字片ヲ見テ、其諸骨ヲ發生セル部分ヲ指定スルコトヲ得タリ、又頭ノ構造ノ密ナルコトニ付テ、阿温ハ凡ソ同種類ノ動物ハ皆同一ナルノ證論ヲ立テ、以テ従前ノ学士ガ久シク疑惑セシ題目ヲ明白ニ解釋スルコトヲ得タリ、是ニ由リ今日ニ至ルマ

デ、動物ハ其高等ニ属セル一半ハ、皆大ナル思想ヲ有スル者ナルコトヲ信ゼリ、

○人心ハ生活体ノ一分ニシテ、其為メニ形体上ニ特別ノ生器ヲ具フルコトナリ、故ニ其生器(腦)ヲ知ル為メニ、心ノ学ヲ為スノ前ニ、先ツ解剖学ト生器学トヲ為サルベカラザルコトハ自然ノ理ナリ、此見込ヨリ言フトキハ、心学ヲ学ブハ生活ノ諸学ノ最後ニ在ルベキコトナリ、

然レドモ此方法(三学ヲ順次ニ学ブコト)ニ非ザレバ心ノ題目ニ近寄ルコト能ハズト言フニ非ズ、若然ランニハ近年ニ至ルマデ、天下ノ學士ハ一モ心ノ現象ヲ知ル者ナキノ理ナリ、何則有形ノ諸器ヲ解剖シテ、心ノ法則ヲ求め出スコトハ、輒近学問ノ進歩ニ由リテ初メテ得タル者ナレバナリ、又心ノ題目ニ付キテハ、更ニ知識ノ二大原アリ、其一ハ思想感覺自識ノ外面ノ發見ニシテ、其二ハ人々ノ心中ニ流行スル内面ノ知覺是ナリ、此事ハ前ノ人心篇ニ於テ、已ニ之ヲ説ケリ、

○然レドモ後來解剖生器ノ二学ニ大ナル進歩ヲ為ストキハ、是ニ由リテ心ノ法則性ノ上ニモ大ナル光輝ヲ與フベキコトハ疑ナキ所ナリ、凡ソ變化無窮ナル心ノ働ハ、獨リ腦ノ一器ニ属スルノミナラズ、知覺ノ生器、筋ノ結構ノ如キモ亦神經ノ許多ノ極點ヲ領スル者ナレバ、腦ト同様ニ甚タ大切ナルコトナリ、然レドモ筋ノ諸部ノ結構ノ如キハ、又心ノ思想感覺行動及ヒ發意ト干係ヲ為スコト少々ナラザルナリ、若シ心ノ法則ハ何レモ身体ヲ解剖スルニ由リテ十分ニ之ヲ踪跡スルコトヲ得ルコトナラバ

(殆ンド望ムベカラザルノコトナリ) 心学ハ単ニ生理学ノ附属学タルニ過キザルベシ、然ルニ心學ト云フ者ハ、自ラ獨立ノ性質ヲ有スル者ニシテ、且ツ古昔ヨリ他ノ抽象諸学ノ法則ヲ假ラズシテ、之ヲ習學スル者多ク、此學ノ或ル度マデハ之ヲ了會スルコトヲ得タリシナリ、此事ハ蓋シ六原學ノ嚴密ニ相從属スル法則ノ破缺ト言フベキ者ナリ、

○今日以後ニ至リテハ、心学ハ解剖、外面ノ發象、自識ノ三原知識ト相協和セザルベカラザルコトハ、此学ノ大ナル特性ト稱スベキコトナリ、此三知識ニ堅固ノ証憑ヲ得ザルノ間ハ、人類ノ天性ノ原理ハ決シテ之ヲ盡スコト能ハザルナリ、

○交際學一名社會学ハ、以前ノ諸学ノ現象ヲ尽ク包羅セル者ニシテ、最モ複雑セル性ノ者ナレバ、殊ニ諸學ノ最後ニ置カザルベカラザルナリ、凡ソ社會ノ構造ハ、一方ニ於テハ、有機無機ノ性質ノ上ニ属シ、一方ニ於テハ、人心ノ品性ニ属スル者ナリ、人類及ヒ社會ノ生命ハ、之ヲ困遶セル万物ノ數理上、天文上、格物上、化学上、生活上ノ法則及ヒ状態ニ從フ者ニシテ、人ノ皆知ルガ如ク、比較上ニ於テ、頗ル完全ノ地位ニ達シタル者ナリ、

○社會ノ構造ハ殊ニ人心ノ特性ニ從フ者ナルトイフコトハ、人心學ノ初メテ天明ニシテ、他ノ諸学科ノ尚幼稚ナル時ニ於テ、已ニ暗想ヲ以テ之ヲ知レリ、然レドモ坤篤ノ言ニ、凡ソ諸学ノ進歩ハ、社會ニ関セル考究

ノ進歩ト相一致伴行スル者ナリ、外貌ハ獨立セルガ如ク見ユルモ、其実ハ相從屬スルコトハ、歴史上ニ明證ヲ見ル所ナリト、

○結構ノ最モ複雑セル社會学ヲ以テ、簡單ニ之ヲ通覽セシメントスルニハ、以前ニ記セル諸学ノ法ニ從ヒテ、其間ニ明白ナル區別ヲ立ツルヲ以テ必要ノコトトス、動機学ニ於テハ、之ヲ靜重學動重學ノ二者ニ區別シ、生理学ニ於テハ、有機体ノ生命ヲ保持スルノカト、有機体ノ級進歩スルノカトヲ區別ス、社會学ニ於テモ亦秩序オルト進歩プログトノ二語アリテ互ニ相交通セル意想ヲ言ヘリ、秩序ハ社會ノ平安ヲ保持スルノ義ニシテ、進歩ハ或ル構造ヨリ他ノ勝レタル種類（例ヘバ奴隷ノ身分ヨリ自主ノ身分トナルガ如キ）ニ進ムヲ言フナリ、此ノ如ク二個ノ題目ヲ區別シテ、解説スルニ由リ、從前社會又ハ歴史上ニ於テ常ニ錯雜困難ナリトスルノ疑問ハ、自由ニ之ヲ解釋スルコトヲ得ルニ至レリ、

○社會ノ秩序ハ殊ニ人性天然ノ法則ニ從フ者ニシテ、此法則ヲ精密ニ知得スルノ度ニ准シテ、秩序ノ適合モ亦精密トナルナリ、社會ノ根元ノ本意ハ、一般通共ノ目的ヲ得シムルガ為メニ、公衆ヲシテ協合同力セシムルニ在リ、此本意ヲ達セントスルノ初歩ハ、中央政府、即チ管理ノ勢力ヲ立定スルニ在リテ、良善ナル秩序ヲ得ントスルノ希望ハ、公衆ガ能ク此勢力ニ服從オベジスルニ在リ、国民能ク政權ニ服從スルトキハ、他ノ惡事アリトイヘドモ能ク其秩序ヲ保ツコトヲ得、之ニ反シテ国民全ク政權ニ服從セザルトキハ、社會ノ秩序ヲ紊乱シテ、所謂無政府ノ状ニ陥ルベ

シ、故ニ如何シテ國民ノ服從ヲ得ルカトイフコトハ、秩序ニ付キテノ問題ナリ、而シテ人心ノ中ニ於テ最モ勢威アル衝動力ヲ以テ政權ノ相結合スルコトハ、國民ノ服從ヲ得ルノ要法ナリ、今人ノ子タル者ガ、其父母ニ服從スルノ感覺太タ強キヲ以テ、國民ヲ導キテ、其君主ヲ尊信スルコト、已ガ父母ノ如クナラシムルコトハ、其國民ハ人子タル者ノ尽スベキ全力ヲ以テ、其君主ニ服從スルナルベシ、又國民ガ教法ヲ信スルノ感覺太タ強キニ由リ、之ヲ教ヘテ人主ノ權ハ神權ニ齊シキ者ナリト信ゼシムルトキハ、此根原ヨリシテ、國民ノ服從ノ念ヲ堅固ニスルコトヲ得ベシ、又社會ハ國民大數ノ利益ノ為メニ構造セル者ナリト信スルトキハ、人民ガ自利セル、イノ感覺、ヨク服從ノ精神ヲ保ツニ十分ナルベシ、故ニ秩序ヲ保持スルコトハ、現在政府ノ基礎ナル原理、及ヒ託言ト相協和セル所ノ人類行為ノ大節ナリ、故ニ國民ノ品性ヲ知ルコトハ、其服從ヲ堅固ニスル方法ヲ立ツル為メニ必要ノコトナリ、

○秩序ト云フコトハ、獨リ國民全躰ト中央政府トノ間ノ干係ヲ協和スル為ノミナラズ、又此全体ノ中ニ包括セル各個ノ小社會ノ協和ニモ必要ノ者ナリ、一地方ノ政治、教法ノ管理、一家ノ交際、主人ト從僕、師ト門人トノ關係ニ於テモ、人々一己ノ意思ヲ制スルヲ以テ、能ク其整理ヲ保ツコトノ要法ト為ス、而シテ一國全体ノ規則ハ、是等ノ小社會ニマデ及ボスコト能ハザル者ナリ、

○進歩ハ或ハ又之ヲ開化<sup>シ</sup>ト名ク、秩序ノ或ル状態ヨリ更ニ高等ノ状態ニ進ムノ意ニシテ、即チ人類ノ幹能ノ高等ナル者其働ヲ逞フスルノ状態トナルヲ言フナリ、若シ迷溺セル卑屈ヲ本トセル政治ノ姿態変シテ社會ノ安全幸福ヲ得ルヲ基トシ、道理ニ本キテ政治ヲ為スコトトナルトキハ、進歩ノ効ハ已ニ現ハレタルナリ、故ニ若シ巫覡ノ術ニ代ルニ、明白ナル政治ノ知識ヲ用フルトキハ、是ニ由リ国民ノ信任ト協力トヲ得テ、社會ハ更ニ高等ナル進歩ノ境域に入ルナリ、

○開化ノ本来ノ真義ハ、人類ノ状態ヲ改善スル為メニ智慧ヲ貼用ストイフコトナリ、故ニ開化ハ天然ノ事物ヨリ直接ニ生出スル者ニ非ス、即チ天然ト開化ト相合併シテ人類ノ現存ヲ為スナリ、凡ソ人類ノ気性状ノ才能ハ、直接ナル天然ノ賜予ナリ、智慧ト意思トノ使用ニ由リテ得タル力、習慣ニ由リテ堅固トナリタル力、教育ニ由リテ漸々ニ移遷シタル力ノ如キハ開化ナリ、人類ノ本原ノ才能、即チ其發見力ハ、人類ノ進歩中ニ在ル事物ノ根原ナリ、故ニ開化ハ身世ノ諸術、人智ノ造作ニ諸種ノ區別アルガ如ク、數條ノ流派ヨリ成ル者ナリ、工作ノ術、教導ノ術、医治ノ術、社會ノ交際ノ術、及ヒ其姿態、華術、文学、生活ノ術等ハ、皆此複雑セル意義（開化）ノ中ニ包含セル者ナリ、

「致知學即洛日克 百科新編 七十二」解題

「致知學即洛日克 百科新編 七十二」は、八二七一―一五二「百科新編」に単独でまとめられている。

この資料はよく整理されてまとまっているが、原書を探し当てることのできなかつた。標題が、「致知學即洛日克 百科新編」であり、Logicの訳語として致知學をまず当てて、それを洛日克としている。Logicの訳語として論理學が定着する前に、演知學、致知學といった語が当てられていたことを示す資料である。

リーゾン (道理)

○リーゾンナル語ハ、諸學士ノ用フル所甚ダ一様ナラザルコトハ、恰モ其他ノ心學ノ言語ト相同ジ、ヂユガード ステワートハ、此語モ最モ廣キ意味ニ用ヒ、凡テ知覺ト認識トニ由リテ得タル知識ノ材料ノ上ニ及ボス所ノ知性ノ働ハ、皆之ヲリーゾントイヘル語ノ中ニ包括セリ、因テリーゾンノ職ヲ以テ、真理ヲ虚偽ヨリ分チ、正理ヲ邪曲ヨリ分チ、及ヒ各個ノ目的ヲ得ルタメノ方法ヲ結合スルニ在リトス、マスタル ヒュームハ正理ヲ邪曲ヨリ分チ、美麗ヲ其反対ヨリ區別スルコトヲ以テ、リーゾンノ界域ヨリ除キ去リ、而シテ又一方ニ於テリーゾンヨリ指定スル所ノ真理ノ堅確ナリトイフコトヲ拒否セリ、駱克ハ、或ル文章ニ於テハ、リーゾンハ、二个ノ<sup>アイ</sup>理想<sup>デア</sup>符合スルカ符合セザルカ、及ヒ其相結合スルカヲ發見スル為メノ方法ヲ見出し、又其方法ヲ正用スルノ能力ナリト云ヒ、或ル文章ニ於テ、リーゾンハ、単ニ堅確<sup>サマ</sup>トイフ者ノミト親合スル者ニシテ、偶然ノ同意又ハ意見ヲ強ムル所ノ能力ハ、別ニ判断トイヘル能力アリテ、之ニ帰セル者ナリトイヘリ、又ポルドハ、判断トイフ語ニ依テ、直覺ノ真理ヲ合点スルノ義ナリト為シ、又駱克ノ言フガ如ク、判断ヲ以テリーゾン (道理) ノ一分トナシ、他ノ一分ヲ以テリーゾニング (推理) ナリト為シ、証論ト道德トノ兩様ニ用フベキ者ナリト言フ、然

レドモ合セテ之ヲ見レバ、駱克ノ心ニハ、推理ト照理トハ、殆ント同シ價ノ物ナリト見タル者ナリ、然レ共リーゾニング (推理) 及ヒデダクシヨシ (推論) トイフ語ハ共ニ明カニ人知ノ位格・權力ノ根原ニ非ズ、其故若シ其以前二人ノ心ニ、推理ノ依リテ倚賴シ、推理ノ為メニ根原基礎トナル所ノ、十分自由ナル或ル物ナキトキハ、其論說ハ、畧限ナキノ地ニ進行シ、而シテ其決定ハヒュームノ言フガ如ク、同意ヲ言頭ハスノ勢カヲ有セザルベシ、之ニ依テ思フニ、人ノ心ノ中ニハ自ラ要須ニシテ且ツ一般ナル主義アリテ、試験ヲ假ラスシテ甚タ疑ナキ者ナリ、而シテ此主義ハ、其他ノ總テ間接ノ主義又ハ偶然ナル主義ヲ管轄スルノ威權アリテ、其位地ハ全ク推理ノ上ニ在リ、此主義ヲ名ケテ道理 (リーゾン) ト云フナリ、

○英国ノ理學者ハ道理 (リーゾン) 悟性 (アンタースタンヂング) トイヘルニ語ヲ殆ント同様ノ意味ニ用フ、ステワートノ如キ是ナリ、然レドモカントノクリチカルノ理學ニ於テハ、二語ノ間ニ大ナル區別アリ、道理ハ主義ノ主義ナリ、想像上ニ用フル諸種殊別ノ主義ニ於テモ、又実行上人、人類ノ行為ノ目的ヲ定ムルコトニ於テモ、共ニ同シ、蘇各<sup>スコット</sup>ノ理學者ガ、道理ヲ以テ、人類知性ノ構造ノ法則ナリト言ヒシハ、カントノ說ニ近似セル者ナリ、又悟性<sup>ウチ</sup>トイフ語ハ、カント派ノ說ニハ、本来ノ道理ト並立シテ存スル者ナリト言ヘリ、故ニ悟性ハ、全体ノ存念中ニ於テ或ル一二ノ目的<sup>指物</sup>ヲ受納スルノ能力ニシテ、又再ヒ其全体ノ存念ヲ他ノ存念ト

比較シ、又ハ他ノ全体中ノ各個ト比較シ、又ハ自己ノ存念中ノ諸指物ヲ相互ニ比較スルナリ、故ニ此旨意ヨリ言フトキハ、悟性ハ即チ回想レフト概括セシメノ能力ナリ、然ルニ比較ノ働ハ之ヲ判断シヤセト名ケ、悟性ノ如キモ其比較ノ意味ヲ指ストキハ亦判断ノ能力ト称スベシ、然ルニ其陳説ノ真理ノ一ナラザルハ未タ其正確ヲ説ヲ得ルコト能ハズ、其正確ヲ試ミントスルニハ、預メ他ノ陳説ヲ置クヲ許サズ、曰ク、悟性ハ、此判断ヲ他ノ判断ヨリ導ク者ナルヲ以テ、推論ノ能力（即チ推理）トナルナリ、更ニ遠ク考フルトキハ、リージンハ、此ノ如キ間接ナル真理ヲ発見スルコトニ於ケルト、又真理ヲ決定センガ為メニ、整齊セル整頓ヲ為スコトニ於ケルト、又此目的ヲ完成セントスル方法ヲ擇フコトトニ於テハ、共ニ合宜アタフツクノ力ヲ發出スル者ナリ、

○概括ノ能力ハ明白ナル説話ニ於テ、必要ノ結果ヲ有スル者ナリ、而シテ、人ノ性ト禽獸ノ性トノ間ノ至極ノ區別ハ、人タル者ハ抽象ノ力ヲ有シ、而シテ禽獸ノ気性ト、人類ノ道理ハ、全ク反対ノ中ニ在ラザルナリ

（言語）（ユキス）

#### ポリチツクス（政治學）

政治學ハ、管治ノ理論ト實際トヲ併セ論シ、而シテ其内ニ包含スル所ノ趣旨ハ、左ノ如クニ整頓スルヲ通常トス、第一、天然ノ法則、第二、抽象（特別）ノ政治、即チ国ノ目的、及ヒ国ト、一人ノ国民トノ關係、第三、政治上ノ理財、第四、警察ノ學、即チ相互ノ整定、第五、實際上ノ

政治學、即チ国ノ公事ノ行為、第六、政治學ノ歴史、第七、歐羅巴諸州ノ政治ノ史、目今ノ状ニ於テ、政治術ノ實際上ノ開達シタル者ナリ、第八、統計表、第九、国事ニ管セル一定ノ法律ト通常、国ノ憲法ト称スル者、第十、国民ト国トノ實際ノ法律、第十一、公使ノ派遣、第十二、政治學ノ藝術上ノ學問、諸国ニ於テ、政治ノ形体及ヒ方法等ヲ通知スルコト、是ナリ、古代ノ希臘ノ學士ハ政治學ヲ以テ、一般ニ想像ヲ以テ完全ナル国ヲ造為シ、其国ノ組立ハ、理學士自己ノ暗想ヲ以テ深遠ノ所ニ至リ、而ル後、現今成立セル政府ハ、我想像セル進度ト比シテ、其差異アル所ハ、何ノ点ニ在リトイフコトヲ考ヘ、又其差異ノ原因ヲモ推究スル者ナリ、（ユキス）

○廣キ意味ニ用フルトキハ、政治ノ學ト術トノ両方ヲ論スル者ナリ、即チ、國中ノ一個人ヲ以テ国ノ社員ト為シ、之ヲ調理スルノ法ヲ講ズルノ學ニシテ、併セテ此學ヲ實地ニ用フルノ術ナリ、然レドモ通常此名ハ、一國ノ政治、殊ニ此国ト他国トノ關係ニ由リテ行フ所ノ行路ヲ標示スル者ナリ、国ナル者ハ人タル者ノ相互ニ利益ヲ為シ、且ツ生命ノ目的ヲ最好ク為サンガ為メニ集合スル者ナリト定メルトキハ、ポリチツクスハ此目的ヲ完成セントスル種々ノ方法ヲ論究シ、凡ソ一定法律ボシチト名クル中ニ在ル所ノコトハ尽ク之ヲ包括スルナリ、即チ万国公法、国ノ憲法、理財學、公使派遣、警察法等ノ諸事ヲ含有ス、政治學ハ通常之ヲ二種ニ分ツ、一ヲ抽象、即チ、單純ナル理學的ノモノ、一ヲ歴史的及ヒ實際的



如キハ純然タル理財學ノ範圍内ノコトナルヲ以テ社會學ニテハ之ヲ論説スルコトヲ要セズ、又國民ノ代議政治ノ如キハ、全ク政治學ノ城内ニ屬スルヲ以テ、是又社會學ニテハ之ニ管係スルコトナシ、是ト異ニシテ人間ノ健康不健康ニ由リテ生命ニ長短アルガ如キハ社會學ノ論スベキ題目ニシテ、其健康不健康ハ、氣候及ヒ其他學問上ノ考究ニ係ルコトヨリ感受スル者ナリ、又土地ノ分配聚合ニ管セル法律規則ノ效驗ノ如キモ社會學ノ考究スベキコトニシテ、其事ハ大抵都府即チ人造ノ法令ヨリ起ル者ナリ、其他社會學ハ理財學ニ比スレバ、更ニ統計ヲ要スルコト多シ、其故ハ例ヘバ衆人ノ生命ニ大關係ヲ有シ為メニ社會ノ大部ニ、或ハ容易或ハ困難ヲ生セシムル所ノ小麥ノ如キハ精密ナル農業上ノ統計ヲ要シ、歳ノ豊歉及ヒ其他ノ凶害ヲ精算セザル一カラザレバナリ、社會學ノ主義及ヒ方法ヲ講明解読スルノ目的ヲ以テ集會スルコトハ、法蘭西ニ於テハ久シクソシエーテド、ブーンフエーサンスノ名ヲ以テ之ヲ行ヘリ、英國ニ於テモ所謂比利敦會中ノ理財學ノ部中ノ疑問ヲ討論解読スルノ目的ヲ以テ同様ノ集會ヲ開ケリ、社會學ノ第一ノ會合ハビルミンガムニ於テ開ケリ、其首座ハホルド、ブラウハムニシテ、此人ハ千八百五十八年九年ノ二年ノ外ハ常ニ此會ノ首座ナリ、議長ノ演説ノ後ニ於テ、此會ニ於テ為ス所ノ事務ハ、分ツテ左ノ諸部ト為ス、其一ハ法理及ヒ法律ノ改正、其二ハ教育、其三ハ衛生、其四ハ理財及ヒ貿易、

## 英吉利心象學

発端

○古代ハ総テヒロソフヒイヲ以テ諸學ヲ総括セシガ、(數學ノ如キモ亦此内ニアリシ)漸々ニサイエンスノ獨立ヲ生シ遂ニハ語ノサイエンス、皆ヒロソフヒイヲ離レテ獨立シヒロソフヒイハ唯万物ノ最初ノ原理ト伝来ノ道理ニ依拠セル人心ノ暗想インキンニ過ギズ、(古代ノヒロソフヒイハ、原理ト效驗、原因ト事実、一般ノ真理ト結果トヲ尽ク包括セリ)、サイエンスヲヒロソフヒイヨリ分カチタルハ、數學ニ於テアルキメデス、ユウクリッドノ二人、天文ニ於テケプレル、哥白尼古ノ二人、格物ニ於テ、ガリレオ、ホイゲンズ、ニュートンノ三人、化學ニ於テラボアシイ、生物學ニ於テビチャット、及ヒ其同時ノ人、語學ニ於テボツフ、マキシミューレルノ二人ナリ、(原書一頁、九頁)

○サイコロジイモヒロソフヒイヨリ分立シタル者ナリ、ウオルフ初メテ經驗上ノ心學、(現象ノミヲ主トス)道理上ノ心學(心ノ実体ノミツ主トス)ノ二種ニ分ツ、(原書一五頁)

○第十七期ノ時ハ、精神ノ學ハ皆メタヒジツクスト名ク、デカルト マレブラン ライブニツノ如キハ他ノ語ヲ用ヒタルコトナシ、ロツク、コンヂルノ如キモ亦此語ヲ用ヒタリ、サイコロジイノ語ハ、曖昧ナルゴレク ニユースノ創造スル所ニシテ、ウオルフハ直チニ之ヲ以テ其書ノ題号ニ用ヒタリ、トアレム ペト其エンサイクロ ペチアニ於テ述ヘ

テ曰ク駱克ハメタヒジツクノ語ヲ以テ、「經驗セル精神上ノ格物」トイフベキ者ニマテ引減セリ、蘇国ノ人ハ此語ヲタシナミテ用ヒ、特ニ「人心ノ理學」トイフコトノミニ用ヒタリト、幾クモナクシテサイコロジイノ語ハ大ニ流行シ、法蘭西日曼英吉利ニ於テ共ニ一般ニ之ヲ用ヒタリ、最後ノ二百年間ニ於テサイコロジイ大ニ養育ヲ受ケテ、獨立ノ學科トナリ、凡ソポジチビズムノ教義ヲ明白ニ奉セサルノミナラズ、或ハ之ニ抵抗スル所ノ學士ハ、此學ヲ以テメタビジツクヨリ分離スルヲ見レバ、只人心ノ傾向ノミニハ非サルコトヲ許スナリ、〔二三三頁〕

○此ニ論述シ來ル所ニ抛レハ、サイコロジイハ、専ラ經驗上ニ属スル者ニシテ、其現象其法則、其直接ノ原因ヨリ外ニ目的アルコトナシ、而シテ精神及ヒ現体ニ関シテ考索スルコトナシ、精神現体ノ二者ハ經驗ト実証トノ外ニ在リテ、全クメタヒヂクスニ属スル者ナリ、サイコロジイハ精神ノ學ナレドモ、直チニ精神ヲ論スル者ニ非ズ、譬ヘハ、「バイオロジイ、フヒシツクスガ直チニ生命ト、物質トヲ論セザルカ如シ、若シ直チニ精神ヲ論スルトキハ心學ハ進歩スルコト能ハズ、サイコロジイハ經驗ヲ以テ漸々其學ヲ富饒ストイヘドモ、メタヒジツクハアリストートル以來少シモ其歩ヲ進ムルコト能ハズ、〔同〕

○「スチュアート　ミルハサイコロジイヲ分ツテ二トナス、一ハ經驗ニシテ、一ハ推論ナリ、經驗ノ心學ハ、觀察ヲ主トシ、其事実ハ考ヘテ其法則ヲ定メ、人性ノ理學中ニ於テ、其総概ト抽象トノ部ヲ

構造スルナリ、推論ノ心學ハ、エトロジイ即チ品性ノ學ニシテ、一人ノエトロジイ、国民ノエトロジイ、人種ノエトロジイアリ、〔原書一九頁〕  
○「霍畢士、駱克ノ時ヨリ英国ニハサイコロジイノ學ヲ為ス者多シ、吾時代ニ當リ、英国ニ兩派ノサイコロジイ流行ス、一ハ先天ノ學ニシテ、サハ、ウ、ハミルトン、ドクトル、ホウエール、マスター、マンセル、マスター、フヒルリール等ナリ、一ハ後（アツクシエーションサイコロジイ）天ノ學ニシテ、ゼームス　ミル、ジョン　スチュアート　ミル、メツセルス、ペイリイ、ハバート、スペンセル、ベーン、リユース等ナリ、完全ナル英国ノ心學（サイコロジイ）ヲ説カントスルニハ此兩者並ヒ挙げザルベカラザルナリ、〔原書二三三頁〕

○

○英国ノ今代ノサイコロジイヲ説カントスルニハ先ツ第一ニ「哈多黎ヲ舉ゲザルベカラザルナリ、哈多黎ノ結構ノ全体ハ先ツ二個ノ理論ヲ造ルニ在リ、

- 一ハ 「震動ノ理論　是ニ由リテ総テ神經ニ属スル現象及ヒ之ヨリシテ生スル所ノ格物ト道德トノ管係ヲ論ス、
- 二ハ 「交親ノ理論　是ニ由リテ総テ心ノ構造、及ヒ是ヨリ生スル諸現象ヲ論ス、

第一ノ理論ハ牛　董ノオプチクス及ヒプリンシピア　フヒロソヒアヲ根據トシ、第二ノ理論ハ駱克方其エッセイ　オフ　ゼ　ヒューマン　アングスタンヂングノ書ニ載セタル意想ノ交親ヲ以テ根據トス、〔原書

三五頁

○葱末斯彌爾ジョン・スチユアート・ミル 潤ステユアートミル曰ク、心象學ノ地ハ方今明カニ英

國ニ定マレリト、実ニ其言ノ如ク駱克以來、実験上ノ事実ヨリスル心學ハ英國ヲ以テ第一トスベシ、〔原書四四頁〕

○休模ヒュームノエッセイヲ讀ミタル人ハ皆記憶スベシ、此理學者ハ何事モ三物

ヲ以テ之ヲ解説セリ、曰ク銘記インプリン曰ク意想アイデア曰ク意想ノ結合、是ナリ、最初ノ現象ハ銘記ナリ、通常之ヲ名ケテ知覚センセーショント云フ、意想ハ知覚ノ寫本ナリ、意想自己ニ相結合シテ混雜偉大ノ現象ヲ為スナリ、

〔原書四七頁〕

○葱末斯彌爾モ亦知覚、意想、意想ノ交親ノ三者ヲ許容ス、其知覚ハ之ヲ八種ニ分ツ、曰ク見、曰ク聴、曰ク視、曰ク味、曰ク或ハ物ノ不成体ノ知覚、曰ク筋ノ知覚、曰ク食道ノ知覚、是ナリ、〔原書四八頁〕

ジョン・スチユアート・ミル  
潤斯丟亞的彌爾

○衆人皆弥尔ヲ以テ、アウゴスト コントノ後継者ナリトイヘリ、然レドモ詳ニ考フルトキハ所謂ボジチビズムハコント一人ニ止マル者ニシテ、譬ヘハデカルテノカルテシアニズムニ於ケル、坎德ノカンチズムニ於ケルガ如シ、ボジチビズムハ、実ニ目今サイエンスノ精神ナリ、然レハ唯其格別ノ形体ニシテ、即チ大潮流中ノ波浪タルニ過ギズ、〔原書七八頁〕

○メソッドノサイエンスニ大切ナルコトハ衆人ノ信スル所ニシテサイエ

ンスノ進歩遅キハ其メソッドニ関スルコト多シ、サイコロジイニ於テモ亦然リ、〔原書八一頁〕

○思想、知覚、知覚スヘキ物ノ働ハ、サイエンスノ指物ナリトイヘドモ、

外世界ノ現象ノ指物ト其意味ヲ同フセズト、是ヲ通常ノ意見トス、此意見ハ、サイエンスト、エキセクト サイエンストノ二者ヲ混淆スル

ニ由ル、凡ソ完全ナルサイエンスト全クノ不完全トノ中間ニ一个ノ位置アルコトヲ知レリ、譬ヘハ二個ノ原因ヨリ生スル所ノ一現象アリ、

其大原因ハ其現象ヲ生スルベキ大部ヲ領スレドモ、又小原因ナル者アリテ少シク之ヲ改調スルヲ以テ、合セテ之ヲ解説セサルベカラズ、〔原書八二頁〕

○潮汐ノ學ノ如キハ其大原因ハ日月ノ牽引ニ在リ、然レドモ又風ノ方向、

其他ノ形勢、海底ノ形体ニモ管スルコト少ナカラズ、是ヲ其小原因トス、其大原因ハ已ニ明詳ナリトイヘドモ其小原因ハ未ダ明詳ニ説クコト能ハズ、故ニ此學ハ、唯學トイフベクシテ精密ノ學トイフベカラズ、

天文ノ學ハ早く已ニ一ノ學トナリ、其後精密ノ學トナレリ、其故ハ唯星辰ノ運動ヲ説クノミナラズ、又其混乱ヲモ解説スレバナリ、人心ノ

學ハ潮汐ノ學ト恰モ其位ヲ同フス、〔同〕

○弥尔ハアツソシエーションノ心象學ノ党ナレドモ、ゼームスミル、ハバート スペンサー、ベーンノ如ク、規則ヲ以テ之ヲ論ジタル者ナシ、

只其ロジック、ハミルトンス ヒロソヒイ、ヂツセルテーション、ノ

諸書ノ中ニ散見セル者ヲ、今集合シテ之ヲ三段トナス、其一ハサイコロジイノメゾト、其二ハ、嚴密ニ限リタルサイコロジイ、其三ハ、心ト物トノ二象上ノ理論、是ナリ、〔原書八一頁〕

第一 心象學ノメゾト、之ヲ三節ニ細分ス

一 心學ノ目的

サイコロジイ

二 心學ノメゾト(方法)、三アリ、實在說、形

ホジチビスト

而上說、伴生說

アツクシエーシヨナリスト

三 品性ノ學、即チエトロジイ、〔原書八一頁〕

○心學ノ目的ハ已ニ定マリタリ、其指物ハ心ノ現象ナリ、其品性ハ已ニ定マリタリ、即チサイエンスニシテ、エキセクト サイエンスニ非ズ、然レドモ之ニ接近シタル者ニシテ、実践上ノ目的ニ十分ナル者ナリ、

〔原書八三頁〕

○心學ノ方法ニハ、二個ノ相反セルノ說アリテ、何レモ其中道ヲ失ヒタル者ナリ、其一ハ奥古土子坤篤ノ說、其二ハ日耳曼ノ形而上學士ノ說ナリ、〔原書八四頁〕

○坤篤ハ、知性及ヒ道德ノ現象ヲ學知スルコトヲ以テ専ラ生器學士ニ歸シ、心學家ノ言フ所ノ内部自識トイフコトヲ棄擲セリ、人類ガ吾心ヲ知ルコトニ他人ノ心ヲ知ルニ由リテ之ヲ得ベシト曰ヘリ、然レドモ前以テ吾心ノ働ヲ知ラズシテ、他人ノ心ノ働ヲ知り、又之ヲ解説スベキ

者ナリヤ、其事ヲ坤氏モ敢テ之ヲ說カズ、然レドモ坤氏謂ヘラク、自己ノ心ヲ以テ自己ノ心ヲ知ルコトハ、知覺ニ付キテモ、十分ナラズ、了悟ニ至リテハ更ニ之ヲ得ルコト能ハズト、〔原書八四頁〕

此單一ナル事實ハ、坤篤ノ全論ヲ破却スルニ足ル、凡ソ直接ノ自識ヲ有スル所ノ事物ハ皆之ヲ觀察スルコトヲ得ベシ、故ニ心ノ現象ノ中ニ得ル所ノ連続サクセツハ、神經ヨリ生スル生器學ノ法則ヨリ來レル者ニ非ス、而シテ其現象ノ連続ヲ實ニ知ルコトハ、少クモ長キ間觀察ト經驗トニ由リテ、心ノ連続ナル者ノ自己ノ直キノ學問ニ由リテ、之ヲ求ムベキコトナリ、故ニ、吾心ノ現象ノ順序ハ、即チ直チニ其現象ニ於テ學知セサルベカラズ、一般ノ現象ニ付キテ之ヲ求ムベカラズ、一般ノ現象ハ、其内ニ學問ノ區別差異アレバナリ、〔原書八四頁〕(或ハ生器學トナリ、或ハ心象學トナリ、其主トシテ觀ル処各異ナリ)、

○然レドモ心象學ト生器學トノ間ノ管係ハ決シテ埋没スベキ者ニ非ズ、凡ソ心ノ法則ハ皆生活セル動物体ノ法則ヨリ來ル者ニシテ、其真理ハ全ク吾形体ノ狀質ニ属セザルベカラザル者ナリ、然レドモ、心象學ノ分解法ヲ拋棄シテ、全ク現今ノ進歩ノ度ニ在ル所ノ生器學ノ定則ニノミ靠着スルハ、亦大ナル誤謬ト言ハサルベカラズ、〔原書八五頁〕

○坤篤ノ實在說ニ全ク相反スル所ノ日耳曼及ヒ其他ノ學士ノ言フ所ノ形而上說ハ、通常之ヲ先ア、ベリオリ天ノ理學ト名ク、〔同〕

○先天ノ理學ト後ア、ポストオリ天ノ理學トノ争ハ、蓋シ心象學ノ境界ヲ越ヘテ、

心実學ノ境界ニ入りタル者ナリト弥尔言ヘリ、〔同〕

此二ノ理學ノ差異ヲ究ムルニ、全ク、人心ノ錯雜セル現象ヲ究ムル所ノ理論ニ差異アルニ由レルナリ、〔同〕

○經驗トイフコトハ、兩理學共ニ之ヲ拒絶シタル者ニ非ス、共ニ之ヲ以テ材料トシテ用ヒタリ、其差異ノ根基ハ、其事実ニ關係セル者ニ非ズシテ、其本源ニ關係スル者ナリ、其一ハ錯雜セル心ノ現象ヲ以テ經驗ノ產物トシ、一ハ之ヲ以テ其本源ノ者トナス、〔同〕

○先天家ノ説ニ曰ク、思想ノ働ハ、其他ノ原質ノ如ク、心ニ與ヘラレタル者ニ非スシテ、心ニ具ヘタル者ナリ、故ニ現象中ノ尤モ単ナル者、即チ外物ノ知覚ハ、認識トイヘル所ノ心ノ原質ヲ要スル者ナリ、故ニ吾心中ノ受動ニシテ且ツ変化シ易キ有様ニ非ズシテ、外物ニ對セバ、心中ノ永続セル指物ナリ、大サ、堅サ、數、力、等ノ如キ、思想意見ハ、假令知覚ニ由リテ得ル者ナリト雖ドモ、知覚上ニ為シタル銘記ノ寫本ニ非ズシテ、知覚ニ由リテ働クトイヘル心ノ法則ヨリシテ造成セル者ナリ、經驗ハ、吾等ノ意想ノ根原ニ非ズシテ、外ヨリ受タル銘記ヲ完成セシムル為メニ、心ニ固有セル力ノ產物ニシテ、内心ノ原質ト外物ノ原質トノ兩者ヲ有スルナリ、經驗ハ、心ノ法則ヲ釋明スル為メニ、助ケ為ス者ナレドモ、即チ心ノ法則ニ由リテ成ル者ナリ、〔原書八六頁〕

○後天ノ理學ハ之ニ反シテ、吾意想之中ニ心ノ原質ノ存在ストイフコト

ハ之ヲ許ストイヘドモ、吾力大サ、堅サ、時、空間、徳等ノ意想ハ、吾等ノ知覚ノ上ニ為シタル銘記ノ精密ナル寫本ニ非ズシテ、吾心ノ骨折ノ產物ナリトセリ、其產物ハ、特別ノ法則又入込ムベカラザル所ノ法則ノ產物ニ非ストセリ、又此理學ハ上ニ反シテ其事ニ為スベキ者ナリト考ヘ、又心ノ原質ハ事實ナレドモ、至極ノ事實ニ非スト考ヘ、人其事ハ單一ニシテ、又一般ノ事實ニ於テ決定スベク、又此大ナル意想ヲ作ルコトニ於テ、心ノ為スベキ働キヲ發見スベシト考フ、約シテ之ヲ言フハ其創始ハ、決定サレ得タリトイフコトナリ、〔原書八六頁〕

○今一例ヲ挙げケテ二學派之差異アル所ヲ解説セントス、先天ノ學ヲ為ス者ハ、空間ト時代トノ意想ヲ吟味スルニ、此二者ハ共ニ、無限トイヘル意想ノ中ニ、在ル者ニシテ、其方法ハ之ヲ知ルコト能ハザル者トセリ、無限トイフコトニ付キハ、元ヨリ經驗上ノ知識ヲ有スルコト能ハズ、凡ソ其等ノ經驗ヨリ來ル所ノ意想ハ皆有限ノ者ナリ、然レドモ空間ト時代トノ如キハ無限トシテ理會ヨリ外ハ、他ニ理會スベキ様ナシ、故ニ此二者ノ意想ハ決シテ經驗ヨリシテ來ル者ニ非ズ、只之ヲ稱シテ餘義ナキ念ト言フベキノミ、後天ノ學ハ、其空間ト時代トハ、ヤハリ無限トシテ考フル者ナレドモ、此無限ハ至極ノ事實ニ非ズ、其無限ナリトスルハ、吾思想ノ交親ノ法則ノ表現ニ由リテ無限ナリト知ラル、ナリ、思想ノ交親ノ法則トハ、此事ヲ知ラントスルニ、他ニ曾テ經驗セル事アリテ、内密ニ思想ノ交親アルニ由リ、他ノ事ニ由リテ、推シ

テ此事ノ意想ヲ得ルナリ、余此空間ノ外ニ別ニ空間ナキトキハ、此空間ノ指スベキ点ヲ經驗スルコト能ハズ、此時代ノ後ニ、別ニ時代ナキトキハ、此時代ノ指スベキ点ヲ經驗スルコト能ハズ、之ニ依テ見レバ、吾等ノ交親ノ法則ハ、直接ニ他ノ点ヲ想像スルコトナキトキハ、此空間ト此時代トノ或ル点ヲ考フルノ力ナキ者ナリ、故ニ此党派ニテハ無限ナル者ハ余義ナキ念トシテ考ヘザルナリ、則チ空間ト時代トハ共ニ有限ノ者ナリ、然レドモ余等ガ現今ノ有様ニテハ、全ク夫ヲ了得スルノ力ナキ者ナリ、若シ空間ノ終端ニ達スルコトアラズ、吾等ノ知覺ニ新奇ナル感得ヲ受クルコトヲ直チニ報告スベシ、然レドモ現今ハ極メテ疎隔ナル意想ヲモ作り能ハザルナリ、〔原書八六頁〕

○以上ノ例ハ、後天ノ學ニ於テ二個ノ主要ナル教義ヲ示セリ、

其一 最モ深密ナル心ノ現象ハ、簡單ナル現象ニ由リテ之ヲ作り得

ベキコト

其二 此現象ヲ造作スル所ノ心ノ法則ハ、交親ノ法則ナリ〔原書八

七頁〕

○後天ノ理學ノ最十分ニシテ實學狀ヲ為シタル形体ハ、交親ノ法則ヲ以テ最勝ノ主義ト為ス者ニ在リ、而シテ其大疑問ハ已ニ決定セリ、其法則ハドレダケ廣張セル者カラ定ムルニ非スシテ(其故ハ此法則ハ意想、感動、欲、意向等ノ如キ諸物ニマデ及ブ者ナレバ)、其法則ハドレ丈ノ心ノ現象ヲ解読スルコトヲ得、又ドノ様ニ其現象ヲ解読シ得ルカト

イフコトヲ定ムルニ在ルナリ、此本題ニ付キテ、亦種々ノ教義理論アルコトハ、他ノ未完全ノ學問ノ理論ト同ジク、尚常ニ進歩ノ途ニ在ルコトナリ、〔同〕

○ミルハ此心ノ現象ノ解說法ヲ以テ、マテリアリストト名ケタリ、ミルハ、交親ヲ根基トシテ解說ヲ為サンコトヲ予等ニ望メリ、〔原書八八頁〕

○交親ノ理學家ノ說ニハ、凡ソ人ノ高等ナル心ノ状態ハ、下劣ナル心ノ状態ノ開發シタル者ナリト考ヘタリ、然レドモ他ノ場合ニ於テ、又造化ノ智睿奇妙ナル工術ガ、好ヲ不好ヨリ取り、善ヲ惡ヨリ取ルコトハ、同シ理ナリト説ケリ、果シテ然ルトキハ余等ガ天性ノ尤モ貴キ部ハ、本来此ノ如キ者ニ非ズ、然レドモ亦人造ノ者、即チ非天然ノ者ニ非ザルナリ、其產物ハ人類ノ天性ニシテ、即チ其貴重ナル者ヲ組立ル所ノ原質ナリ、水ハ世界上ニ在ル輕氣容氣ノ物質カラ成ル者ナリ、造物者ガ、之ヲ組立ル秘密工術ノ一分ヲ見出シタルヲ以テ、此廣大美麗成ル物ガ、全ク其奇幻ヲ笑ヒタリト思フハ凡俗ノ見ナリ、〔同〕

○凡ソ心ノ現象ヲ考究スルモ、實物ノ現象ヲ考究スルモ共ニ二様ノ方法アリ、其一ハ牛董ノ概括法ニシテ現象ノ連続ニ付キテノ考究セズシテ、現象ノ聚合ニ付キテ考究スルナリ、其二ハ其現象ヲ單一ナル原質ニ分ツコト、恰モ化學ニ於テ、一物ヲ分子テ數原質ト為スガ如シ、第一ノ法ハ或法則ヲ以テ、夫ヨリ單一ナル法則ニ分解スルナリ、第二ノ法ハ或ル物質ヲ以テ、夫ヨリ單一ナル物質ニ分解スルナリ、〔同〕

○ 其三 品性ノ學、即チエトロジイ〔原書八九頁〕

心學ノ目的ト方法トハ已ニ論定セリ、是ヨリ更ニ此學ヲ根基トシテ為スベキ工術ヲ求メサルベカラズ、〔同〕

總テ學問ハ其初メハ純粹ナル理論ヨリ起リテ後ニ實際ニ通用スルニ至ルナリ、〔同〕

今心學ヲ以テ聚合シテ之ヲ考ヘ又之ヲ調停シテ見ルトキハ、教育、政事、道德、社會ノ諸學ニ必要ナル助ヲナスベキ學術ナルコトヲ先見スルナリ、此學ニ於テ心學ノ其根基タルコトハ、物質ノ學ニ於テ格物學ノ其根基ヲ為スガ如シ、〔同〕

○ミルハ、此學ノ性質ト方法トヲ定メタリ、因テ其名ヲ定メテエトロジイトイフ、其考究ノ法ハ演繹ノ法ヲ用ヒテ、証拠ヲ挙グルナリ、心學ノ指物ハ、人ノ天性ノ法則ナリ、品性學ノ指物（標的）ハ導來セル法則ナリ、心學ハゼニエスヲ以テシ、品性學ハスペシイス、ベリーチーヌヲ以テス、〔同〕

心學ハ心ノ本初ノ法則ノ學ナリ、品性學ハ、差、遠キ方ニ用立ツ學ニシテ、人ノ形体ト道德トノ模様ニ由リテ、此物體ノ法則ニ協フ所ノ品性ノ種類ヲ定ムル者ナリ、故ニ品性學ハ教育ノ術ト相通スル者ニシテ、廣キ意味ニ從フトキハ、一國民ノ品性ヲ造ルコト、一個人ニ同シキトイフコトヲモ包含スル者ナリ、〔原書九〇頁〕

○格物學士ハ有形物ノ互ノ關係ヲ發見ス、故ニ些少ノ殘骨ヲ以テ全体ヲ

再造スルコトヲ知ル、脚ト髀トノ關係ヲ知リ、啖肉獸ノ齒ハ堅固ナルコトヲ知リ、全骸骨及ヒ脊骨軸等ヲモ推知スルナリ、〔原書三二頁〕

心學ニ於テモ確實ナル種ノ經驗ヲ積ムトキハ、或ル感覺ノ仕方ハ、或ル想像ノ種類ヲ假定シ、其想像ハ又判斷ト推理トノ或ル仕方ヲ假定シ、其推理ト判斷トハ或ル意想ト行為トノ仕方ヲ假定シ、而シテ此決定ハ頗ル精密ニ為スコトヲ得ベシ、〔同〕

○エトロジイハ、之ヲ一個人ノエトロジイ、一國民ノ——、一種族ノ——ノ三類ニ分ツベシ、一個人ノ品性學ハ三種中ノ最要ナル者ニシテ最モ密合セル者ナリ、此學ハ、男女及ヒ稟賦ノ異ナルニ從ヒテ、心象上ノ差異ヲ求ムベキ者ナリ、則チ心象ノ品性ニ依リテ心ノ種ノ形態ヲ區別スベキ者ニシテ、其心ノ形態ハ或ハ詩人、或ハ幾何學、或ハ工人或ハ軍人等ノ如キ名称ヲ指定スベキ者ナリ、而シテ此學モ亦其タイプニユガード ステワートノミ、甚不完全ナレトモ、品性學ノコトヲ為サント勉メタリシコト其書中ニ見ユ、〔同〕

○國民及ヒ種族ノ品性學ハ其言語ト歴史トヲ以テ材料トセザルベカラズ、然レドモエトロジイハ、歴史ト混スベカラザルコトハ明白ナルコトナリ、國民ノ品性ヲ定ムルト歴史ノ關係トノ差異ハ、人ノ同様ナルコトヲ述ブルト、傳記ヲ記録スルトノ差異ト相同ジ、國民ノ史及ヒ人ノ傳記ハ、其人ヨリ得タル事ヲ組立ルノミナラズ、又外面ノ景況ヲモ加味

セサルベカラズ、品性學ハ其品性ニ入ナルトキノ外ハ、外面ノ景況ハ棄テ用フルコトナシ、品性學ハ、品性ニ付キテ静重力法ヲ以テ學フベキ者ニ非ズ、只其時ノ變動アル現形ヲ定ムルコトヲ務メ、其變動ハエボリユーシヨノ規則ニ由ルコトヲ考ヘザルベカラズ、〔原書三二頁〕

○品性學ハ、精密ナル実學ナリ、然レドモ 其傾向ニ於テ精密ナルノミニシテ、事實ニ於テハ然ルコト能ハズ、此學ハ其事物ノ常ニ此ノ如シトイフコトヲ定ムルコト能ハズ、然レドモ此ノ如キ原因ハ此ノ如キ效驗ヲ為ストイフコトハ誤ナキコトナリ、例ヘバ、筋力ノ強健ナルコトハ、人ヲ勇猛ニ為ス方ニ傾クナリ、然レドモ筋力ノ強キ者尽ク勇猛ナリトスルコト能ハズ、經驗ハ智慧ヲ生スル方ニ向フ者ナリ、然ル經驗ニ常々必ス智慧ヲ生スル者ニ非ズ、〔原書九〇頁〕

○心象學ハ全ク觀察ト經驗ノ學ナリ、品性學ハ全ク演繹ノ學ナリ、〔原書九〇頁〕

總共ニシテ且ツ抽象ノ學ハ、觀察ト經驗トノ上ニ立チテ、其目的トスル所ハ、人心ノ現象ニ在リ（心象學ヲイフ）、特別ノ學ハ、其目的トスル所ハ品性ノ殊異ニ在リ（品性學ヲイフ）、此二學ハ共ニ未タ曖昧ノ課業ニシテ、未來ノ心學ニ望ム所ナリト弥爾言ヘリ、〔原書九二頁〕

第二 心象學 一 自識 二 外面ノ認識 三 意想ノ伴生  
四 原因 五 要須ノ真理 六 推理 七 意想

〔原書九二頁〕

○精神トイフ語ハ感覺スル義ヲ示ス、精神ヲ現ハス所ノ現象ハ、知覺、意想、感動、發意等ナリ、自識ハ直覺ノ知識ニシテ心ノ状態ノ根基ヲ為ス者ニシテ、自識ニ由リテ自識ノ中ニ成ル者ナリ、意想ヲ有ス、知覺ヲ有ストイフコトハ、其実ハ意想ノ自識、知覺ノ自識ヲ有スルコトナリ、自識ノ裁判ハ、他ニ上告スル所ナシ、スケツプチシズムハ自識ヲ非毀スレドモ、其説ハ取ルコト能ハザルナリ、其故ニ總テノ自識ヲ拒スレドモ、或ル者ヲ拒セザレハナリ、〔同〕

○問、自識スル所ノ心ノ現象ノ外ニ、自識セザル所ノ心ノ状態アリヤ、英国ノ理學ニ於テ、不自識ノ行為、或ハ心ノ動情ハ通達スベカラザル者ナリト論定セシハ、サウ ウキレムス ハミルトンヲ最初トス、英國 德國 法國ニ於テ、又自識ノ行動ノ理説ヲ主張スル者多カリシヲ、ハミルトン左ノ三條ノ論説ヲ以テ之ヲ拒絶セリ、

其一 吾儕ハ實學ト言語等トヲ知ル、吾等此物ヲ用ヒザルノ間ハ、

吾等ノ心中ニ、隱伏セル有様ヲ以テ存在セリ、

其二 常ニ變セル心ノ状態、即チ發狂、夜行狂ノ如キ者モ、猶夫ノ知識及ヒ行為ノ習慣アリ、併シ、是等ハ健全ナル時ノ自識ノ内ニハ決シテ有セサル所ナリ、

其三 吾等ノ觀ルコトヲ得ベキ物形ハ、微細ナル分子ノ集合シテ成ル者ナリ、其分子ノ一个ハ極々微細ニシテ吾等ノ自識ニ入ラ

ザル所ノ一点ナリ、聴クコトヲ得ベキ物モ亦同ジ、故ニ凡ソ  
意思ノ交親ハ、自識ニ由リテ生スル所ノ直接ノ交親ノ外ハ、  
其他ノ意思ノ交親ハ之ヲ解説スルコト能ハザルナリ、〔原書九  
三頁〕

○ミルハ此ハミルトンノ説ヲ生器學ニ依リテ解説シテ曰ク、余ハ、ハミ  
ルトンノ説ニ同意スルコトニ傾向シ、而シテ不自識ノ心ノ姿態ハ、唯  
全ク別種ノ意味即チ神經ノ姿態ニ於テノミ其不自識ヲ徴スベシトセリ、  
〔同〕

○兵士戰場ニ於テ創ヲ被フルトキ、其働ノ熱ニ由リテ其疵ヲ感覺セザル  
コトアリ、通常ノ説ニハ謂ヘラク、創ヲ受ケタル部ノ神經、實ニ其感  
覺ヲ失フト、然レドモ其實ハ此時中央神經他ノ感覺ヲ以テ充滿セルヲ  
以テ、創処ノ感ハ中央ニ達セズ、故ニ心ニ其創ヲ覺エザルナリ、〔原書  
九四頁〕

○我（エゴ）ト非我（ノンエゴ）トイヘル念ハ最初ニハ起ラザルナ  
リ、第一ノ法則ニ從ヒ、其羣ニ付キテ知覺ノ數ヲ實見シタルノノ後、  
初メテ非我ノ念ヲ起シ、經驗ニ由リテ提起スルニ非サレバ、第一ノ知  
覺ハ我ノ念ヲ起スコト能ハズ、我、非我、主位、客位、精神、物質ノ  
如キ反対セル二語ハ、主勢ヲ為シ客勢ヲ為セル二個ノ知覺ノ反対ヲ理  
會セシム、此ノ如クシテ一方ニハ、自識ノ一列アリテ、知覺ノ主位ヲ  
為シ、一方ニハ永続セル知覺ノ羣アリテ、其一分ハ吾知覺ノ働キニ由

リテ、其実体ヲ感ス、是ヲ知覺ノ客位トイフ、〔同〕

○吾等ノ知覺ノ中ニハ或ル物ヲ主状ニ理會シ、或物ヲ客状ニ理會スルノ  
習慣アリ、第一ノ場合ニ於テハ、其知覺ヲ以テ、吾種ノ感覺ニ  
關係スルコトヲ以テ考へ、次デ其諸感覺ノ總計ナル主位ニ關係スルコ  
トヲ以テ、考思スルコトナリ、第二ノ場合ニ於テハ、其知覺ヲ以テ、  
物ト名クル所ノ、一个又ハ集合セル者ニ關係スルコトヲ以テ考思スル  
ナリ、此二種ノ知覺ノ差別ハ、世ノ理學士ガ、物ノ第二ノ性相、第一  
ノ性相トイヘル差別トハ同ジカラズ、〔原書九五頁〕

○弥尔ノ説ニハ、物ノ第一ノ性相ハ、抵抗、廣張、形姿ナリ、總テ物ノ  
一羣毎ニ必ス此三個ノ原質アリ、其數何程アルモ皆一羣ナリ、羣中ニ  
在ル其他ノ原質ハ何レモ皆此三質ヨリハ微少ナル者ナリ、物体ト名ク  
ル所ノ知覺ヲ起ス所ノ一羣ニ於テ、觸即チ筋ノ知覺ナル羣中ノ一羣ハ、  
内部ノ核仁ニシテ他ノ者ヨリハ基礎タルニ近ク、其他ノ知覺ノ羣ハ皆  
之ニ属スル者ナリト考ヘタリ、此核仁、或ハ原因又ハ基本トシテ考ヘ  
タル者ハ、物質ノ最初ノ念ニシテ、其物質トハ抵抗、廣張、形姿ヲ具  
スル所ノ者ライフナリ、〔同〕

○物ノ三性質ノ尤根元トナルベキハ抵抗ニシテ、吾儕ニ筋ノ知覺ヲ與フ  
ル者ナリ、抵抗ノ感覺ハ、吾力皮ト物体ト相觸ル、ニ由リテ生スル觸  
ノ知覺ト常ニ相伴フ者ニシテ、此事ハ交親ノ法則ニ由リテ、觸ト抵抗  
トノ知覺常ニ相結ンテ離ル、コトナシ、凡ソ吾皮膚ニ觸ル、所ノ物体

ハ、壓迫スルコトナク、又筋ノ反動ヲ生スルコトナキモ、自然ニ或ル外部ノ原因ニ管係スル者ナリ、交親ノ法ニ由リテ、觸ノ知覺ハ抵抗ノ知覺ノ名代人トナリ、是ヲ以テ両者両立スルコトトナルナリ、眼ノ運動ニ伴フ所ノ色ノ種々ノ影及ヒ筋ノ知覺ハ、觸及ヒ轉地移動ノ名代人トナルナリ、〔同〕

○物ノ第二ノ根元性相ハ廣張<sup>エクス</sup>ナリ、此念ハ、黎德、斯低瓦的ノ如キ直覺ノ教義ニ於テハ、久シク整頓シ難シタル者ナリシガ、經驗ノ教義ヲ立ツル者ノ心象學上ノ分解ニ由リテ其根元ヲ説クコトヲ得タリ、其詳説ハベーン及ヒスペンセルノ注意ニ委遺スベシ、ミルノ詳論モ亦後ニ於テ之ヲ記スベシ、余ハ今之ニ付キ簡畧ナル合計説ヲ以テ自限リトスベシ、〔原書九六頁〕

○筋ノ働キノ知覺ハ、モシ之ヲ妨障スル者ナキトキハ、空間ノ念ヲ造成シ、之ヲ妨障スル者アルトキハ、実體即チ廣張ノ念ヲ造成ス、空間ノ想ハ、同時ノ現象ヨリ来ラズシテ、連続ノ現象ヨリ来ルナリ、予儕ガ其事ヲ信スルノ難キハ、眼アルニ因ル、眼ハ廣張ノ実ノ想念ヲ生スル者ナルヲ以テ、廣張ノ根元ハ連続ニ在ルトイフ固有ノ品性ヲ有ノ俣ニ我等ニ示スコトヲ妨グル者ナリ、〔同〕

○若シ此本説ヲ確ナラシメンニハ、生来ノ盲目ノ心學者ニ由リテ決定セサルベカラズ、プラトネルハ、近代ノ理學士ニシテ又醫師ナリ、此人チエセルデンノ盲人ガ心象學上ニ付キ論説セシコトヲ引ケリ、〔プラト

ネルノ引用セル外ニミルハ又二人ヲ引用セリ、一ハ来<sup>ワイフツインヒ</sup>責ノドクトル フランク、一ハ北ブリチス レビウノプロヘツソル フラセルナリ〕〔同〕

○プラトネル曰ク、觸ノ知覺ハ、廣張、及ヒ空間ヲ我等ニ示スニ不十分ナル者ナリ、眼ヲ失ヒタル人ニ外部ノ物ニ付キテハ、只我受動ノ感動ニハ差異アルコトト、數ノ多少ノ差異アルコトノ現存セルコトヲ知り得ルノミニテ、其他ハ十分ニ組織スルコト能ハザル者ナリ、故ニ生レ付キノ盲目ニハ、時間ヲ以テ空間ノ代リトセザルヲ得ズ、近キト遠キトハ、長キ時ト短キ時及ヒ少數ト多數トノ感覺タルニ過ギズ、是則チ此感覺ヨリシテ他ノ感覺ヲ得ル者ナレバナリ、〔同〕

○約シテ之ヲ言ヘバ空間ノ想念ハ時ノ想念ノ根底ニシテ、廣張及ヒ距離ノ想念ハ多少ノ連続ヲ為ス筋ノ働クノ想念ノ根底ナリ、〔原書九七頁〕

○弥尔ハ伴生ノ心學<sup>アンソニエ</sup>ノ執心者ナルコトハ前ニ之ヲ言ヘリ、ミルノ言ニ從ヘハ伴生ノ法則ハ、心學ノ現象ヲ支配スル一般ノ者ナリ、重力ノ法則ノ天學ニ於ケル、纖維ノ法則ノ生器學ニ於ケルハ、伴生ノ法則ノ心學ニ於ケルト異ナルコトナシ、伴生ノ法則ハ心學ニ於テ、解説ノ全方法ニシテ、經驗ノ教義ニ於テ最有力ナル器具ナリ、〔同〕

○ミルガ、伴生ノ法則ヲ説クコトハ、ハバート スペンサー、及ヒベーンノ如ク精密ナラズト雖ドモ、分離スベカラズシテ且ツ拘束セザル伴生ノ原因ノ想念ヲ定メ、推理ノ理論ニ原因ヲ立テタルハ全クミルノ力

ナリ、〔同〕

○伴生ノ第一ノ法則ハ、同様ナル想念ハ、相互ニ想起スルコトニ向フ者ナリ、〔同〕

○其第二ノ法則ハ、若シ二個ノ感得及ヒ想念ガ、經驗ヲ励ムトキハ、或ル直接ノ連続ニ於テ、其一個ハ、他ノ一個ヲ提起スル方ニ向フ者ナリ、〔同〕

○其第三ノ法則ハ此感得ノ一個、又ハ両者ノ強力ハ、其者ヲ互ニ一樣ニ提起セシカ為メニ結合ノ度数ノ大小ニ平均スル者ナリ、〔原書九八頁〕

○目今ハ、伴生ノ法則ヲ用フルニ由リテ、心象學ハ更ニ入組ミタル現象ヲ解説スルコトヲ得ルニ至レリ、然レドモ其仕事ハ至テ困難ナリ、其故ハ種々ノ原因相合シテ、働クトキハ、其別々ノ原質ヲ見出スコト能ハザル如キノ錯綜ヲ生スルコトアレバナリ、若シ錯雜セル現象ハ、諸種ノ原因ヲ合セタル結果ナリト見ルトキハ、是ニ付キテ二個ノ情形ヲ現出スルナリ、其一ハ力學ノ情形、其一ハ化學ノ情形是ナリ、力學ノ法則ノ情形ニ於テハ各個ノ原因ハ各個ニ其效驗ヲ現ハスコト恰モ其原因ガ單一ノ働ヲ為スガ如シ、集合セル原因ノ效驗ハ恰モ各別ノ效驗ノ總計ナリ、化學ノ法則ノ原因ハ是ニ異ニシテ、二個ノ形質ノ聚合ハ、第三ノ形質ヲ産出シ、其形質ハ、別々ニ見ルモ、合併シテ見ルモ、前二個トハ全ク其比例ヲ異ニスル者ナリ、〔同〕

○心ノ現象ノ法則モ力學ノ法則ニ似タル者アリ、化學ノ法則ニ似タル者

アリ、心智ノ聚合ノ例トシテ、一例ヲ引用セシニ白キ色ハ、目前在ル三角硝子ノ七色ノ迅速ナル継続ニ由リテ生スル者ナリ、橙子ノ想念ハ之二反シテ單一ナル色形味等ノ想念ヨリ生スル者ナリ、其故ハモシ吾自識ニ問フトキハ、吾想念ノ中ニ尽ク此知覺ヲ証スレバナリ、人心ノ化學ニ於テハ、精密ニ言ヘバ、單一ナル想念ハ聚合セル想念ヲ生ストイヒ、想念ヲ聚合スト言ハズ、心ノ化學ニ於テ聚合セル現象ヲ造ル所ノ原質ヲ知ルコトハ、唯養氣ト硫氣トノ性質ハ、硫酸ノ性質ナリトイフコトヲ學知スルヨリ多クハ、自己ニ其事實ヲ學知スルコトヲ許サザルナリ、〔同〕

○弥ルハ伴生ノ方法ニ二個ノ大種類アルコトヲ言ヘリ、其一ハ同時ノ伴生シメエルトエス  
アツクシエーションナリ、此伴ハ、銳烈ナル生器ヲ有セル人ニ在ル所ニシテ、強キ感得ニ由リテ經驗シタル知覺及ヒ想念ニ其内部ニ於テ交親伴生スル者ナリ、此伴生ハ、事物ヲ以テ、聚合セル形体、高等ナル色彩性質及ヒ解説ニ富ミ、想像ト名クル心ノ性ヲ作り、之ヲ以テ画工及ヒ詩人ノ能力ノ一トスル者ヲ發生スルナリ、〔同〕

○其二ハ継続ノ伴生サクセツ  
シューフンナリ、是ハ感得ノヤ、弱キ人ニ生スル者ナリ、若シ高崇ナル知慧ヲ有スルトキハ、工藝者トナルヨリハ、寧詩人又ハ実學者トナルベシ、此感覺ノ結果ハ、実學及ヒ抽象ノ真理ヲ愛シ、味道及ヒ熱心ニ欠乏ナルベシ、〔原書九九頁〕

○自識及ヒ外物認識ノ理論、實ニ総理學ノ根基ナラバ、原因ノ理論ハ亦

実ニ総理學ノ題ナルベシ、原因ノ論ハ吾等ノ為メ探リ尽スベカラザルノ地面ヲ開ケリ、故ニ余ハ心學ヲ以テ自限レリ、ミルハ形而上學ガ万物ニ付キテ其原因ヲ論スルニ倣ハザルナリ、〔同〕

○余ガ今論說セントスル所ハ、十分ナル原因ニ非ズシテ、特ニ形質上ノ原因ノミナリ此形質上ノ事實ハ、他ノ形質上ノ原因ナリトイフノ意味ノミヲ以テ形質上ノ原因トイフナリ、現象ノ十分ナル原因ニ付テハ、予ハ今意見ノ中ニ加ヘザルナリ、形而上學士ハ、目今考異ナルコト、尤モ錯雜シタルコトマテモ其原因ヲ考ヘントスルノ風アリ、即チ效驗之ニ從フノミナラズ、效驗ヲ生スル所ノ原因ヲモ之ヲ究メント欲スルナリ、〔同〕

○ミルハ、此形而上學士ノ論說ヲ取ラザルナリ、其ハミルトンノ經驗書ニ其事ヲ詳記セリ、ハミルトン曰ク原因ノ想念ハ、此知慧ノ特立セル能力ニ非ス、自カヲ以テ、始メタル事物ナリトシテ解説スルコト能ハズト、〔原書一〇〇頁〕

○ハミルトンノ教義ヲ試験スルニ、至極ノ效驗ニマデ、漸進スル者ニシテ、總テノ現象ヲ以テ永久ノ形質ト為シ、原因ト效驗トハ其時ニ由リテ發現スル者ナリトセリ、此說ハ全クエムピリカル家ノ說ニ反スル者ニシテ、ミルノ如キハ全クエムピリカルニ左袒スル者ナリ、〔同〕

○ミル曰ク、造化ノ現象ハ、二種ノ管係ヲ以テ現ハル、其一ヲ同時トイヒ其二ヲ連続トイフ、原因ハ全ク連続ノ部類ニ属セル者ナリ、然レド

モ連続ノ關係アル者ハ、尽ク原因ノ關係アリトイフニ非ズ、〔同〕

○或ル事實連続シタル後ニハ又或ル他ノ事實ノ連続スルコトアリ、不易ノ前行ヲ原因ト名ケ、不易ノ後繼ヲ效驗ト名ケ、原因ト效驗トノ管係ハ、通常、前行ノ一類ト、後繼ノ一類トノ間ニ在リ、或ル人ノ自俣ノ扱ヲ以テ、此前行中ノ一箇ヲ取離シテ原因ト名ケ、他ノ前行ハ總テ之ヲ情形シヨチト名クルコトアリ、故ニ、今人アリテ或ル食物ヲ食ヒタリ、然ハ其食物ノ為メニ死シタリ、因テ此食物ハ其死ヲ致スノ原因ナリトイフ、然レドモ原因ノ真ノ關係ハ、前行ノ全体ト（身体ノ特別ノ構造ハ健康ノ状、大氣ノ状等）、後繼ノ全体（死ヲ致ス所ノ諸現象）トノ間ニ在リ、故ニ理學上ノ語ヲ以テ精密ニ言フトキハ、原因ハ、〔以下、翻訳されていない〕〔同〕

○然レドモ此原因ノ定義ハ 半辺タルコトヲ免カレズ、不易ノ後繼ハ原因ハ 必シモ原因ト相一致セズ、後繼ハ或ハ無拘束ノ者アリ、今一般ニアル所ノ後繼ニシテ、原因ノ所為トシテ推シ難キ者アリ、夜ハ不易ニ昼ノ後ヲ繼グ者ナリ、然レドモ誰人モ夜ヲ以テ昼ノ原因トハ為サズルナリ、此繼續ハ無拘束ニハアラズ、晝ヲ生スルコトハ夜ノ先行スルニ非ズシテ、太陽ノ現在スル情形ヨリ現ハル、者ナリ、此事ハ諸學士ガ、原因ノ念ハ、要須ノ想念ヲ包含ストイフ所ノモノナリ、〔原書一〇一頁〕

○要須ハ無拘束ノ意味ヲ標スル者ナリ、故ニ現象ノ原因ハ左ノ如ク定メ

サルベカラズ、凡ソ原因ハ前行又ハ前行ノ聚合ニシテ、現象ハ夫ニ付  
キテ不易ニ又無拘束ニ後継スル者ナリ、〔同〕

○ミルハ、形体上ノ原因ヲ主張シ、例ヘハ寒ハ氷ノ原因ナリ、火焰ハ力  
ノ發張ノ原因ナリトイフガ如ク、都テ形体上ノ働ニ付キテ原因ヲ説ケ  
リ、意向ハ前行ナリ、四支ノ運動ハ後継ナリ、然レドモ後継ノ意味ハ  
理論ノ要望セルト同様ニ自識スル者ニ非ズ、〔同〕

○ミルハ又自証オアシト要須トヲ以テ共ニ經驗ニ関シテ説ケリ、先ツ第一ニ、  
一般ノ断言中ニ二箇ノ種類アリ、一般ノ信用ニ從ヘバ、要須ハ、經驗  
ヨリ生ス、經驗ノ外ニ在ル者ニ非ズ、經驗ヨリ外ニ要須ヲ造成スル者  
ナシ（例ヘハ、アラユル人ハ皆死スベキ者ナリ）又其一ハ假令經驗ニ  
依リテ指示サル、トイヘドモ、要須ノ品性ニ由リテ、經驗ノ外ニ出ル  
者アリ（例ヘハ二箇ノ平行線ハ毎ニ同距離ヲ保存ス）、ミルノ言ニ從ヘ  
ハ、後ニ記セル断言ハ、ラシヨナリストト言ヘル先エヒ天ノ真理ニモ非ス、  
又ホツブスノ如キノミナリストノ言ヘル単ナル純ナル言語ニモ非ザ  
ルナリ、然ラハ是ハ何者ゾ、実験来エヒルノ断言ナリ、〔原書一〇二頁〕  
○然ルトキハ、要須ノ品性ナル者アリ、問、要須ノ真理ハ何者ゾ、是所  
謂真理ハ即チ一箇ノ断言ニシテ、若シ之ヲ拒否スルトキハ、畜虚偽ト  
ナルノミナラズ、又理會シ難キ者ナリ、ミル、正シク此難理會ノ判断  
ヲ棄擲セリ、ミル謂ラク、理會シ難キ故ニ此ノ如キ事物或コトナシト  
云フハ誤ナリ、（此点ニ於テハミルノ説ハスペンサー及ヒレウ井ト異

ナリ）因テ実學上ノ記事ヲ擧ゲテ己ガ説ヲ堅固ニス、凡ソ断言ノ多キ  
中ニ、方今學問上ニ於テ異論者ニテモ、猶理會シ難キ者多シ、例ヘハ  
対趾人ノ現在スルコト、重力ノ現在スルコト（カルテジアンハ重力ヲ  
非トシ、謂ヘラク、運動ハ抵觸ナケレバ生スル者ニ非ズト）ノ如キ是  
ナリ、拒否ノ難理會ハ只分離スベカラザル伴生ノ場合ノミナリ、吾儕、  
最初ニ於テ、二箇ノ想念ヲ合併スルノ甚難キコトヲ知ル、其後習慣ト  
繰返シトニ由リテ二箇ノ者十分ニ相交親シ、之ヲ分離スルコトハ、光  
輝アル人心ニ於テモ尚理會シ難キコトヲ見ルナリ、故ニ自証オアシハ許多  
ノ証拠ヲ有セル經驗上ノ真理ニシテ、其証拠ノ根元ハ經驗ナリ、判断  
ハ実証ナリ、〔原書一〇三頁〕

○余ハ上文ニ於テロジツクニハ一定ノ界限アリテ其外ニ出ツヘカラサル  
ノ意ヲ述べたり、蓋シロジツクハ心象學中ノ一分ナルコトハ、恰モ部分  
ハ全体ノ中ニ在ルガ如シ、ミルハ理學ノ大家ナレドモ、心象學トロジ  
ツクノ間ノ管係ヲ其書ニ於テ論セザリシハ惜ムベキコトナリ、此難問  
ハ決シテ無益ノコトニ非ザルナリ、其故ハ此相接近セル二學ノ關係ヲ  
定ムルコトハ、第一ニ此二學ノ目的ヲ定メ、其次ニ方法ヲ定メ、以テ  
之ヲ進歩セシムル益アル者ナレバナリ、又心象學ハ、古来ハ形而上學  
ニ吞併セラレ、方今モ其獨立スルニ甚難ク、ロジツク（物質及ヒ第一  
ノ原因ヲ論定シ、他ノ人ノ能力ヲ全ク抽象ニ帰シ、事實ノ學即チ經驗  
上ノ心象學）ノ力ニ由リテ或ハ絶止シ、或ハ生養スルコトヲ得ル者ナ

レハ、其二學ノ關係ヲ定ムルコト更ニ大切ナル者アリ、〔原書一〇四頁〕

○余カ理會スル所ニ據リテ、此二學ノ關係ヲ論スルコトハ、ロジツクハ心象學ノ破碎セル枝派ナリ、實ニ心象學ハ其目的ハ自識ノ事實ニシテ、又其直接ノ原因ト其法則トニシテ、總テ是等ヲ包括スル者ナリ、ロジツクハ単ニ其定見ト其力學ノ働ノミヲ以テ自ラ充テサルベカラズ、其他心象學ハ、人ノ能力ヲ以テ、其種類及ヒエトノロジイノ法ニ從ヒ、進化ノ全体ニ由リテ之ヲ習學セサルベカラズ、ロジツクハ、只其已ニ成長シ、非人ニシテ、又學問上ノ形姿ニ由リテ推理ノ能力ヲ理會シ、希待ノ如キハ全ク之ヲ棄擲スルナリ、心象學ハ聚合ノ者ニシテロジツクハ単ニ抽象ノ者ナリ、故ニロジツクハ心象學ノ一部分ナリ、〔同〕

○故ニ余ハ、第十九期ノ大ロジツクト事ヲトモニスレドモ、今論スル所ハ全クロジツクヲ除キ、只心象學中ノ推理ノ理論ノミニ付キテ之ヲ言フベシ、〔原書一〇五頁〕

○実験説エムヒリテ想像説アイトテノ反對ノ点ハ明カニ之ヲ知ルコトヲ得ベシ、想像家ハ、演繹法ヲ以テ根元ノ働ト為ス、其故ハ、帰納法ハ、自己ニ引戻スノ外ハ更ニ一物ナキ者トシテ之ヲ棄擲スルニ由レバナリ、実験家ニテハ帰納法ヲ以テ主要トス、其説ハ事實ヲ本トシ、帰納ヲ以テ經驗ノ方法トシ、演繹ノ如キハ、只假定ニ出テ、而シテ証拠トスベキ者ナシトシテ之ヲ棄擲セリ、然ラバミルカ帰納法ヲ以テ其主旨トスルハ、蓋シ考異トスベキコトニハ非サルナリ、〔同〕

○推理スルコトノ為メ、即チ知ル所ノ事ヨリ知ラサル所ノ事ニ及バントスルニハ其根基ナル是ノ点ポイントヲ要用ナリトス、ミルハ此点ヲ以テ各個ノ者バヤキナリトス、曰ク推理スルトイフコトハ心ノ働ナリ、其働キハ、已ニ知リタル真理ヨリシテ、初ノ者ニ異ナル他ノ者ニ到着セントスル者ナリト、通常之ヲ二種ニ分ツ、一ヲ帰納トイヒ、一ヲ推測シロジトイフ、然ルニ推理スルニハ、此二者ノ外ニ更ニ第三種ノ者アリ、此第三ノ者ハ只確實ナルノミナラズ、實ニ前ノ二者ノ根基ナリ、是則チ特定インシエナリ、即チ各箇ヨリ各個ニ赴ク者ナリ、〔同〕

○今推理ノ最初ノ方法ヲ考フルニ、ロジツク家ハ皆特定ヲ以テ推理ノ本トスルコトヲ誤レリ、吾儕ハ概括ヲ要セズ、只各個ヨリ各個ニ行クノミニテ、能ク推理ヲ為スノミナラズ、更ニ之ヲ以テ永続シテ推理ヲ為シ得ルコトナリ、凡ソ吾等ノ最初ノ特定ハ天然ノ者ナリ、知慧ノ最初ノ開發ニ因リテ特定ヲ得、然レドモ一般ノ言語ヲ以テ之ヲ言述フルマデニハ許多ノ年月ヲ經ルナリ、小兒モシ己カ指ヲ燒クコトアルトキハ、再ヒ畏レテ火ニ近ヅクコトナシ、是則チ火ハ燒クトイヘル一般ノ格語ヲ知ラストイヘドモ、已ニ自ラ推理シ、自ラ特定シタル者ナリ、小兒ハ概括ヲ為シタルニ非ズ、只各個ヨリ各個ヲ特定シタルナリ、禽獸ノ推理スルモ亦之ト同ジコトナリ、〔同〕

○ミルハ謂ヘラク、吾儕、後繼ヲ以テ自身ノ經驗ヨリ取ルトキハ、各個ヨリ各個ヲ決定スルコトハ、全体ノ断言ノ法ヲ假ルヨリハ却テ多クノ

決斷ヲ得ベシト、〔原書一〇六頁〕

○較、高等ナル実行上ノ智慧ニ付キテ言フトキハ、方法ヲ以テ目的ニ適合セシムルニ、十分ナル道理ヲ説明スルノ力ヲシテ、奇妙ニ之ヲ為シ得ルコトアリ、是蓋シ其内に深秘ノ能力アリテ全ク之ヲ解説スルコト能ハザル所ノ者アルベシト、然ルニ此事ハ毎ニ適合スベキヲ推理スルコトニ久シク習熟シ、其兩者ニ付キテ別ニ物體ノ斷言ヲ用フルナキモ己ニヨク之ヲ為シ得ベキヲ以テナリ、〔同〕

○一般ノ斷言ナル者ハ、己ニ成功シタル特定ヲ單一幾多ノ經驗ヲ其斷言中ニ貯蓄シ其要用ノトキニ出シテ用ニ供スルガ為ニス、各箇ヨリ各箇ニ赴ク所ノ推理ハ、自然ニ吾儕ヲシテ歸納法ニ向ハシムル者ナリ、〔同〕

○歸納法ナル者ハ実ニ、各箇ヨリ全体ニ往キ、知ヨリ不知ニ行ク所ノ特定ノ方法ナリ、故ニ此法ハ經驗ノ概括又全体ノ斷言ヲ発見シ試験スル所ノ方法ナリト論定セラレタリ、其根基ハ蘇國人ノ言ノ如キ造化ノ進行ノ同一ナルコトヲ信用スルニ非ズ、然ル所以ノ者ニハ、信用ナル者ノ自体ハ歸納ノ法則ニ非ズ、而シテ歸納ノ証例ハ、最容易ニシテ最も明白ナル者ニ非ズ、其故ハ吾儕歸納ニ達スルノ前ニ、各箇ノ同一ナルコトヲ理會セザルヘカラザレハナリ、此各箇ノ合シテ全体トナリタル合一ハ、則チ其成功ニシテ其聚合ナリ、然ラハ歸納ノ根基ハ何者ゾ、答、原因ノ想念是ナリ、原因ノ念ハ歸納ノ理論ノ根ナリ、ミルノ言ニ從ヘバ視ルヘカラサル先行ハ、原因ナリ、原因ノ關係ハ無拘束ノ後続

ナリ、若シ二箇ノ事實、或ハ事實ノ一羣、此時ニ於テハ廢スベカラズシテ又無拘束ナル後続トノ關係ノ中ニ在ルトキハ、一ノ言語ハ、夫ト密合セル他ノ言語ヲ與ヘズ、即チ若シ原因ヲ保持スルトキハ效驗ヲ定ム、而シテ此通路ハ正シク知ルト知ラザルトノ間ヲ完成ス、〔原書一〇七頁〕

○歸納ノ方法ハ、殊ニ原因ノ場合ニ於テ穿索スルコトナリ、若シ何ノ原因カ何ノ結果ヲ生シ、何ノ結果、何ノ原因ヨリ來ルトイフコトヲ正當ニ指定シ得ルトキハ、吾儕ハ能ク造化ノ全進路ヲ知ルトヲ得ベシ、然ルトキハ凡ソ造化上ノ同一ナルコトハ皆原因ノ結果ナルコトヲ解説シ得ベク、而モ一箇ノ特別ノ事件ハ能ク前言スルコトヲ得ベシ、故ニ造化ノ中ニ成レル原因ノ法則ヲ論定スルコトハ〔各原因ノ效驗ヲ定メ、衆效驗ノ原因ヲ定ムル為メニ〕、歸納法ノ巨大ナル仕事ナリ、〔同〕

○故ニ演繹法ヲ以テ第二等ニ位スル者トセリ、或人ハ推理ノ全体ハ演繹ノ中ニ具ハリ、凡ソ進歩スベキ行動ハ、其最後ノ分解ニ由リテ此想念ヨリ他ノ想念ヲ引クニ通セル者ナリトスレドモ、ミルハ曰ク、推測法ハ、只推理上ニ於テ全体ノ斷言ヲ用フル為メノ者ニ過ギズト、全体ノ斷言ナル者ハ、各箇ノ場合ヨリ引キタル例ノ聚合タルニ過ギズ、ミル曰ク、吾ハ此者ナキモ推理シ得ベシ、更ニ單一ナル場合ニ於テ之ヲ為シ得ベシ、只推理ノ進行ヲ為スノミニ要用タリトス、又之ヲ容易ニシ証拠ヲ以テ堅固ニスルノ益アリトス、ミルハ、演繹ヲ以テ根元ノ法則

トスルコトハ之ヲ嫌ヘドモ、亦頗ル之ヲ称用セリ、謂ヘラク從前諸學之進歩之遲、セルハ、演繹ヲ用フベキ処ニ帰納ヲ用フルニ在リト、〔同〕

○約シテ之ヲ言ヘバ、推理トハ低キ度ニ付テ言ヘバ、想念ノ伴生ノ外ノ物ニアラズ、即チ各箇ヨリ各箇ヲ特定スルノ外他事ナキ者ナリ、例ヘハ燃ヘタル蠟燭ヨリ、指ヲ燒キ、夫ヨリ痛トイフコトヲ推理スルハ、相互ニ伴生シテ、此者ガ他者ヲ呼出スニ過ギザレバナリ、真正推理ハ吾儕モシ之ヲ擷取スルトキノミ、原因ノ管係ヲ生スル者ナリ、〔原書一〇八頁〕

○弥ルハ屢々自由ノ問題ニ付キテ論説シタルコトアリ、問、ミルハ、フハタリスト（運命ニ任カスルノ主義、即チ要迫ノ主義ト同様ノ者）ナルカ、或ハ自由意ノ党カ、ミルハ此兩者ノ党ニ非ズ、〔同〕

○要迫ノ党（キチ）ノ言ニ曰ク、意向（ガリ）ハ效驗ニシテ、之ニ原因アリ、其原因ハ起意（キチ）ナリト、自由ノ党ノ言ニ曰ク、最初ニ已ニ吾内心ニ自由ノ意想ノ感覺アリ、然ル後ニ、吾等、志謀シ企画ス、凡ソ吾等カ日常ノ行為ハ、要迫ノ奴隸ニ非ス、即チ僥倖ノ如キ拳動ヲ為スニ非ズシテ、自己一分ノ分ケ前ヲ所持スル者ナリト、〔同〕

○此ニ主義ノ教義ハ、半ハ曲説ニシテ、半ハ正説ナリ、其混雜不整ノ起リシハ、原因ノ理論ヲ誤リシニ由ル者ナリ、即チ原因ト效驗トノ關係ヲ以テ要迫ニ出ルト為シ、先行者ト後繼者ノ間ニ於テ、不思議ナル拘管アリト想像シ、此拘管ハ、自由ノ意思ヲ破壊スルニ非ザレバ成立セ

ズト想像シタル者ナリ、〔原書一〇九頁〕

○ミルハ曰ク、意向ニ付キテハ其間ニ不思議ノ拘管スルコトナシ、吾等ハ各箇ノ起意ニ服信スル為メニ魔法ノ符咒ノ如ク押付ケラル、コトナシ、若シ吾儕起意ニ抵抗スルカアルカヲ試ムルニ、即チ之ヲ為スコトヲ得、吾儕他事ヲ想起スルトキハ、起意ハ謙遜ニシテ之ニ從ヒ、別ニ秀美ナル願望アルトキハ、從前ノ起意ハ痿靡スルコトアリ、然レドモ此事ハ、著名ノ理學者ニ於テ未タ之ヲ説キタル者アラズ、〔同〕

○要迫説（又不得已説）ノ誤謬ハ、單一ナル後繼ノ同一ナルコト（其事ハ之ヲ許スベシ）ノミニ止マラズシテ、其余ノコトニモ亦要迫ノ義ヲ推求シタルニ由ル者ナリ、其學士ノ意底ニハ常ニ意向ト其原因トノ間ニ、單一ノ管係ヨリハ更ニ嚴泰ナル繫束アルベシト想像シ居レバナリ、〔同〕

○又其誤謬ハ要迫ナル語ノ用法ヲ誤解スルニ由リテ生スル者ナリ、此語ハ單一ナル原因ノ事實ヲ言フニハ、固ヨリ不適合ナル者ナレバ、モシ其義ヲ了得スルトキハ、大ニ其誤リヲ避クルコトヲ得ベシ、此語ノ本義ハ、本ヨリ單一ナル後繼ノ一致ニ限ラザル者ナルコトハ決シテ相違ナキコトニシテ、之ニ抵抗スルハ能ハサルベシ、然レドモ何レノ場合ニモ此語ノ本義ヲ貼用セント欲スルトキハ、人類ノ行動ノ状ヲ言フニ當リテ、精密ニ之ニ適合スルコト能ハザルコトアリ、〔同〕

○形体上ノ後繼ニモ、要迫（不得已）トイフコトアリ、即チ食物及ヒ大

氣ヲ欠クトキハ死亡スルガ如キ是ナリ、又要迫トイフベカラザルコトアリ、毒ニ因リテ死亡スルガ如キ是ナリ、其故ハ毒ノ如キハ、或ハ解毒藥ヲ用ヒ、或ハ胃ヲ灌ヒテ快復スルコトアレバナリ、〔原書二一〇頁〕

○人ノ行為ハ整全ナル者ナリ、約シテ之ヲ言ヘバ、要迫トイヘル不適当ノ語ノ押潰サル、マデハ、此問題ハ了解サル、コト能ハザルヘシ、〔同〕

○自由意ノ教義ハ、要迫ノ語ヨリ生シタル真理ノ一分ハ之ヲ除キ去リ、其品性ニ從ヒテ之ヲ助ケル心ノカヲ論ジタル者ニシテ、其通常ノ感覺ニ現ハル、所ノ状ハ、要迫ノ主義ヨリ、自然ニ差、真理ニ近キ者ナリ、

〔同〕

第三篇 心象學上ノ物ト心トノ理論〔原書一一三頁〕

一 物 二 心 三 休母ト弥ルトノ現象教義

○余儕ハ前ニモ言フ如ク此処ニテハ形而上學ノ界域ニハ入ルコトヲ為ザルナリ、故ニ物トイヒ心トイフモ之ヲ以テ一箇ノ実物トシテ説クコトヲ欲セザルナリ、心象學上ノ物ト心トノ理論ハ、リード、ステワート、其他ノ理學士ノ説ト相反スル者ナリ、蓋此教學士ハ主觀客觀トイフ語ヲ以テ、二個ノ根元ノ語ト為シ、生命ノ始メヨリ已ニ自識中ニ印告サル、者ト考ヘタルナリ、然ルニ經驗學ノ教義ハ物ト心トノ念ハ合併シタル者ニシテ、生命ノ後年ニ至リテ造成セル者ト考ヘタリ、此二者ヲ細カニ分解スルトキハ、其根本ニ達スルコトヲ得ル者ナリ、敵手ノ教

義ニテハ、物トハ、吾等ノ知覺ニ因リテ永久ニ為シ得ベキ者タルニ過ギズ、心トイフ者ハ自識ノ風景ニ於テ永久ニ為シ得ベキ者タルニ過ギズ、パーケレイノ説ハ第一説ニ近く、ヒュームノ説ハ第二説ニ近キ者ナリ、〔原書二二三頁〕

○余ハ是ヨリ物ノ解義ヲ為サントス、〔原書二一四頁〕

○外部ニ在ル物ニ向キテノ心象學上ノ理論ハ、二箇ノ要解<sup>ボズチユ</sup>ヲ堅ム、此要解ハ經驗ニ由テ定メタル者ナリ、〔同〕

○第一ノ要解ニ曰ク、人心ハ希望スル所アル者ナリ、他語ヲ以テ言フトキハ、現実ノ知覺ヲ得タル後ニ、更ニ得ベキ所ノ知覺ノ念ヲ造成スル者ナリ、〔同〕

○第二ノ要解ニ曰ク、吾等ノ想念ハ、或ル法則ニ從ヒテ自ラ相交親スル者ナリ、想念ノ伴生ノ法則ニ從フトキハ、現在ニ於テ確認スル所左ノ如シ、○其一 同様ノ現象ヲ聚合シテ考フルノ傾アリ、其二 時間ト空間トニ相毘連セル現象ヲ聚合シテ考フルノ傾アリ、其三 連接ニ因リテ生レタル交親ハ、重複ニ由リテ更ニ堅固ニ更ニ迅速トナル、是ニ由リテ分離スヘカラズ、散解スベカラザルノ交親ヲ生スルナリ、其四 若シ交親実ニ分離スベカラザルノ状ヲ得タルトキハ只二箇ノ想念自識中ニ於テ分離スベカラザルノミナラズ、此想念ニ一致セル所ノ事實即チ現象モ終ニハ其存在ニ於テ、分離スベカラザルノ状ヲ顯ハス者ナリ、或ハ熱ク或ハ冷、或ハ硬キ或ハ軟等ヲ見ルナリ、〔同〕

○其要解ハ左ノ如シ、〔原書一一五頁〕

○余ハ凡上ノ白紙ノ一片アルヲ見タリ、余ハ今他ノ室ニ行き、已ニ其白紙ヲ見ズ、然レバ余ハ白紙ノ前ノ凡上ニ有ルコトヲ証ス、余若シ以前ノ室ニ往クトキニ再ヒ其凡上ニ白紙ヲ見ルナルベシ、又余ニ其他ヲ目撃セストイヘドモ加ル各搭ナル地アルコトヲ信ジ、其居民ハ不意ニ死シ尽クストモ其地ハ依然トシテ存在スルコトヲ信ゼリ、余ハ信用ナル者ヲ分解スルトキハ、汝ハ全ク其所ニ導ク所以ヲ知ルナルベシ、余モ不意ニボーグレイノ海辺ニ着スルトキハ、初メテ知覺ノ經驗ヲ以テ、加ル各搭ノ現在スルコトヲ信スルナルベシ、此二箇ノ場合ニ於テ（此二者ハ全体ヲ包括スルナリ、我ガ外世界ニ付キテノ想念ハ、即チ実行<sup>アケユ</sup>アル及ヒ做得来<sup>ボツシ</sup>ノ知覺ナリ、此做得来ノ力<sup>ボシヒ</sup>ハ、外界ノ事ニ付キテハ吾等ノ為メニ尤モ大切ナル者ナリ、是則チ物ノ想念ト知覺ノ想念トヲ區別スル精密ノ特性ヲ有スル者ナリ、〔同〕

○又此知覺ノ做得来力ニ加フル所ノ他ノ特性アリテ以テ之ヲ証明スル者アリ、即チ單獨ナル知覺ニ非スシテ聚合セル知覺ナリ、若シ吾儕或ル一箇ノ物体ヲ考フルコトハ、我單一ナル知覺ニ付テ考ヘズ、諸種ノ知覺ニ付キテ之ヲ考ヘルナリ、即チ其諸種ノ知覺ハ、吾諸種ノ官ニ屬スル者ナレドモ、其諸種ノ知覺ヲ聚合シ、一箇ノ者トシテ之ヲ知告スル者ナリ、此ノ如クシテ一箇ノ全体ト為シテ現ハレタル聚合ハ、心ノ為メニ恒久ノ者トナルナリ、是則チ物ノ想念ト心ノ想念トヲ區別スル為

ノ主要ナル特性ナリ、〔原書一一六頁〕

○約シテ之ヲ言ヘバ、吾儕ハ只知覺ノ羣。固定シタルヲ認知シタルノミナラズ、知覺ノ順序ヲ固定スルコトモ亦之ヲ認知セザルベカラズ、此順序ハ、經驗ニ依ルニ、原因ト效驗トノ想念ヲ起スベキ者ナレバナリ、然レドモ先行ト後繼トノ變化ナキ繼續ハ、數々先行ト実ノ經驗トノ間ニ生ゼズシテ、其一部ノミ吾前ニ現ハル、所ノ數羣ノ間ニ生スル者ナリ、故ニ余等ノ原因、力勢、活動ノ想念ハ、皆吾知覺ニ交結セズシテ、知覺ノ做得来ノ羣ニ交結スルナリ、知覺ノ全体ヲ做得来ノ者トシテ考フルトキハ、実ノ知覺ノ為メニ恒久ノ根基ヲ作り、做得来ノ知覺ノ關係ハ原因ヨリ、其效驗マデ、画法ニ於テ下地木綿ヨリ、其画形マデ、根ヨリ其幹、其枝、其花マデ、地面ヨリ、之ヲ覆フ所ノ諸物マデノ關係トシテ之ヲ考察スルナリ、〔同〕

○然レドモ万物皆是ノ如キニ非ズ、已ニ考察シテ此点ニ達スルトキハ、恒久ノ做得力ト、知覺トハ同様ノ者ニ非ザルヲ理會スルナリ、余ハ做得力ノ知覺ヲ以テ根基トスルコトヲ忘却シ、内実ヨリシテ知覺トハ異なる者ナルコトヲ假定セリ、又他ノ人類、即チ他ノ感覺アル生物ハ、知覺ノ做得力ニ付キテ、余等力為スガ如ク、其希待ト行為トヲ形成スルコトヲ發見セリ、其他人ハ、余ト精密ニ同様ナル知覺ヲ有セザレトモ、余ト同様ナル做得力ヲ有セリ、若シ他人ノ生器、余力生器ト異ナラザルトキハ、其知覺ノ做得力ハ、全ク余ト異ナラズトイフコトハ、

他ノ事ニ於テ明ニ之ヲ知ル所ナリ、余身ト余同類トノ間ノ同様ナルコトハ、余等ガ、做得力ノ羣ハ、天性ノ根元ノ実ナリトイヘル想念ヲ完全ニスルコトヲ得ル者ナリ、〔原書二一七頁〕

○前論ヲ約言スルトキハ、做得来ルノ知覚、知覚ノ羣、羣中ノ順序、余ガ信用ト余カ同類ノ信用ノ間ノ一致、是等ヲ以テ、物ニ付キテノ全体ノ想念ヲ造成スルナリ、〔同〕

○是ヨリ心ノ理論ニ及ブベシ、心ノ知ルコトハ物ヲ知ルコト同様ニシテ全ク關係上ヨリ之ヲ知ルナリ、吾等ハ自識ノ現ハレヲ離レテ其他、何物ノ有ルコトヲ知ルコト能ハズ、余等ハ自識ノ種々ノ有様ノ続キノ外ニ、何物ヲモ知ルコト能ハズ、何物ヲモ想像スルコト能ハズ、心トイヘル念ハ、物トイヘル念ト同ジク、恒久ナル或ル物ノ念ニシテ、自識ノ有様ノ流動セルハ反対セル者ナリ、此恒久トイヘルハ、物ニ付キテ言タルガ如ク、唯做得ノ恒久ナリト吾等ノ心ノ現存スルコトハ之ヲ信ズレドモ、其本体ニハ感スルコト能ハズ、考フルコト能ハズ又其現存セルヲ自識スルコト能ハズ、此事ハ余ハ何クマデ導クヤ、心ノ有様ヲ恒永ニ做得ルコトマデナリ、故ニ余儕ノ心ニ付キテノ想念ハ、吾等ノ実ノ知覚ノ一行ト、不定ナル知覚ノ做得力トノ想念ニ過ギズ、其做得力ハ、其身ヲ適當セル有様ト成形シ得ル者ナリ、〔原書二一八頁〕

○此理論ヲ更ニ進前セシムルノ前ニ、ミルハ謂フ、人民ノ多数ニ、此道理ヲ判断スルガ為メニ以上ノ理論ノ真実及ヒ仮定ノ效驗ヲ早く見ンコ

トヲ求ム、衆人多ク此理論ヲ非難シテ曰ヘルハ、此説ハ吾等ノ同類人ノ現存スルコトノ信用ヲ破壊シ又高崇ナル世界、及ヒ上帝、及ヒ不滅トイヘル信用ヲ破壊スル者ナリト、〔同〕

○先ツ其第一疑ヲ弁ゼンニ、此理論ハ決シテ吾等ノ思考ヲ妨クル者ニ非ズ、其思考トハ、他ニモ吾ノ如キ動物アリテ、其心ハ吾ノ心ト同ジク唯其知覚ノ連続ナリトイヘルコトナリ、問、余等ノ前ニ逍遙シ、吾カ其談話ヲ聞ク所ノ動物ハ、余ノ如ク其想念ト知覚トヲ有シ、又余等ノ如ク心トイフ者ヲ有スルコトイフコトヲ信スルハ何ノ方法ニ由リテ然ルカ、夫、直覺ニ依リテ知りタルコトニ非サルコトハ明白ナリ、余ハ其ハ付号ヨリシテ、吾知覚ニ入ル者ニシテ、即チ其動物ヨリ送り出ス所ノ者ナリ、余ノ經驗ヲ以テ、吾ノ帰納法ノ根基ト為ス、〔原書二一九頁〕

○吾同類ノ現有スルコトノ確然タルヲ証ズベキハ、上節ニ言フ所ノ如シ、上帝ノ現存ニ付キテモ其確然セルコトハ亦之ニ同ジ、今先ツ假リニ、神ノ精神ハ、神ノ思想ノ如ク、無限ノ世、期間ニ延長スルコトト定メルトキハ、上帝ノ現存スルコト吾身ノ実ニ現存スルト同様ナルコトヲ理會シ得ベシ、是則チ或人カ為セル人類ノ性質ヨリシテ推シテ上帝ノ性質ヲ定メル所ノ法ナリ、故ニ上帝ニ付キテノ信用ハ、上文ノ理論ノ為メニ之ヲ存亡スルコトナシ、〔同〕

○不滅ノコトニ付テモ同様ナリ、知覚ノ連続ハ、自識ノ系ニ由リテ不朽ニ延長スルコトハ、恰モ、精神アル物体ガ、恒久ニ現存スト同様ナ

ルコトハ、容易ニ理解シ得ベシ、若シ根基トシテ、実ノ知覺ノ一列ニ於テ之ヲ為ストイフコトニ付キテハ、尚内面ノ困難ヲ有セリ、此事ハ、心象學ノ分解法ニテモ、決定スルコト能ハズトミル言ヘリ、實ニ心ノ現象ノ生命ヲ繫ク所ノ自識ノ源ハ、只現今ノ知覺ヲ以テ成ルノミナラズ、兼テ又期待ト回想トヲ以テ成ル者ナリ、故ニ自識ノ本源ハ現世ヲ以テ限リトス、兼テ過去ト未來トヲ包含スル者ナリ、〔同〕

### 哈巴的斯邊撤〔原書一二二頁〕

#### 第二篇 心象學

#### 第一三章 心象學ノ原理〔原書一四八頁〕

○心象學ニ付キテ進化ノ論ヲ提出セルハ、蓋シ斯氏ノ創見ニ出ツル者ナリ、心象學ノ原理フ、サイコロジイハ之ヲ學フニ二様重複ノ法ヲ用フ、一ヲ分解アツリストイヒ、一ヲ聚合シテストイフ、分解法ヲ以テ錯綜セル心象學中ノ一箇ヲ知り、聚合法ヲ以テ、其現象開發ノ連合コソチミイナヲ知ルナリ、原理ノ語ハ、自覺セル單一ノ事實、現象ノ全數、是ニ付キテ為ベキ所ノ吟味等ノ事ヲ指ス者ニ非ズ、是等ノ事實ヲ堆積スルハ、心象學ノ宝库ニシテ、病源學ニ於テ音楽ヲ記シ（誤アラン）植物學ニ於テ草木ヲ記録スルト相類スル者ナリ、此ノ如キ事ハ元來此學問ニ於テ大ナル利益アルコトナレドモ、斯氏ハ敢テ其事ヲ完成スルコトヲ欲セズ、斯氏ノ目的トスル所ハ是ヨリ更ニ理學様ニシ、更ニ結構システマツクヲ整理セント欲スルニ在ルナリ、斯氏ハ生理學、心象學社會學道德學ニ於テ共ニ此ノ如キ

事實ヲ集積スルノ事ヲ務メトセズ、只專ラ原理ヲ定ムルコトヲ主トシ、其原理ヲ定ムル為メニ、相互ノ關係ト其錯綜セル結果ヲ與フルニ足ルベキ十分ノ解説ト例證ヲ得ルヲ以テ自ラ足レリトセリ、〔同〕

○連合コソチノ法則ニ依リテハ第一ニ得タル所ノ結果ハ左ノ如シ（以下數条皆然リ）、凡ソ生器學ノ事實ト心象學ノ事實トノ間ニ精密ナル界源ナシ、此二者二十分ニ區別ヲ立ツルハ、誤謬ノ見ナリ、又知かく、感覺、氣性、智慧ノ如キハ、元來動物世界ヨリ來リタル者ナリ、其根原ハ動物世界ニ在リテ、夫ヨリ變形シテ、別世界ヲ造成シタル者ナリ、又謙下ナル職分ト、高崇ナル思想トハ決シテ反對セル性質ノ者ニ非ズシテ、只其階級ノ差異ノミナリ、是等ハ皆生命上ノ發象中ノ一個ニシテ、其發象ハ其數甚多ク筭シ難キ程ノ者ナリ、又身体ノ生活ト、心ノ生活トハ、種ヘスニシテ、生活ナル者ハユゼニナリ、又凡常ノ心象學ハ、専ラ内部ノ觀察ヲ主トシ、常ニ主觀法ヲ用ヒ、獨リ人類ニ就キテ考究ヲ為シ、人類トノ種ヘスノ性ヲ分類スルコトヲ務メ、微少ノ極ナル顕微鏡蟲ヨリ、最高等ナル白人種ニ至ルマデ、次第二コノ進化ヲ考究スルナリ、故ニ其心象學ハ、獨リ靜體ニ於テ之ヲ論スルノミナラズ、又動體チミニ於テ之ヲ論ジ、唯其事實ヲ論定スルノミナラズ其起發其開達、及ヒ其變化ニ至ルマテ之ヲ論究スルナリ、然レドモ皆チミ然リトイフニハ非ズ、凡庸ノ心象學ハ、思考上ニ或ル物ト、機制上ニ成ル物トヲ區別シ、抽象法ヲ以テ、之ヲ別ツコトトセリ、然ルニ經驗ノ心象學ハ、敢テ此ニ

語ヲ分離スルコトナシ、内世界ト外世界トノ間ニハ、常ニ恒固ナル相通<sup>コンスボ</sup>アリ、乃チ内世界ノ上ニ外世界ノ働ヲ及ボシ、外世界ノ上ニ内世界ノ反動ヲ為スコトニ由リテ相通ヲ得ルコトニシテ此事ハ人心ノ力ノ能ノ為シ得ル所ナリ、凡ソ吾等ノ思想天性ニ付キ、及ヒ其連続ノ次序ニ付キテ、主極ノ道理ヲ求メントスルニハ、有形世界ニ就キテ之ヲ求ムルノ外他法アルコトナシ、吾等ノ並立及ヒ続生トイヘル想念ノ根元ハ、有形物ノ同在及ヒ連続トイヘル者ニ非ザルナカラシヤ、吾等ノ想念ヲ連鎖スル所ノ力ノ根元ハ、前時ノ經驗ヨリ来ルニ非ザルナカラシヤ、此事ハ後ニ於テ漸ニ解説スルコトヲ得ベシ、〔原書一四九頁〕

○今吾等力ヲサントスル所ノ工事ハ、總合法ト分解法トノ二様ヲ合セ為サマルベカラズ、〔原書一五〇頁〕

○總合法ハ、純粹ナル生器學ノ法ヨリ發生スル者ニシテ、凡ソ人ノ知性ナル者ハ（最初ハ未タ明白ニ之ヲ區別スルコト能ハザル者ナリ）徐ニ其進化ヲ始メ、次第ニ増加ヲ受クルニ由リテ、都テ其本体ヲ構成スル者ナルコトヲ論ジ、又人心ノ働キハ、最初ハ、惟外世界ノ最モ単一ナル原質ヲ發現セシムル者ナレドモ、後ニ八種ノ入組タル關係ニ由リテ、終ニ其完全ノ地ニ到着スルコトヲ論ズル者ナリ、〔同〕

○分解法ハ、總合法ト反対シテ、主觀ト名クベキ所ノ者ニシテ、（總合法ハ客觀ト名クベキ者ナリ）諸類ノ知識ヲ分解シテ至極ノ原質ニ至ラシムル者ナリ、故ニ此法ハ最モ錯雜セル推理ヲ要シ、段々ノ分解ニ由リテ、

漸ニ錯雜ノ數ヲ減シ、單一ニシテ且本原ニ近キ所ノ者ニ及ビ、終リニ至リ、万物ヲ造成スル所ノ單元ト、無カルベカラサル所ノ思想ノ状態ニマデ達スルナリ、〔同〕

○此二様ノ方法ヲ論究スルノ前ニ、余儕ハ、先ツ斯氏ガ如何ニ心象學ト其目的トヲ混合セシカヲ論ゼント欲ス、〔同〕

○心象學ハ内部ノ諸現象ノ間ノ結合ニ非ズ、又外部ノ諸現象ノ間ノ結合ニ非ズ、内外両個ノ結合ノ間ノ結合ナリ、〔同〕

○心象學ノ命題ハ、各二箇ノ命題ヲ合セタル者ナリ、即チ其一ハ主觀ニ關係スル者ニシテ、其二ハ客觀ニ關係スル者ナリ、故ニ其命題ハ合セテ四個アリトス、今茲ニAトBトヲ以テ内部ノ結合ナリト假定スベシ、即チ果物ノ味ト其色トニ譬フベシ、今此結合ニ付テ注目考思スルトキハ、唯單ニ之ヲ格物學上ノ結合ト為スニ過ギズ、然レドモ更ニ一層ノ注目考思ヲ為ストキハ、此二箇ノ外部ノ状態ヨリシテ、吾身体上ノ感覺ヲ生スルコト、aトbトニ由リテ其標ヲ定ムベシ、今Aノ働ヲ以テ吾視力ニ屬シ、Bノ働ヲ以テ吾味力ニ屬セシムルトキハ、之ヲ以テ生器學上ノ事トシテ考ヘ得ベシ、又更ニ進ンテ吾等ノ形体中ニハ如何ニシテ、AトBトノ關係ト一致セル所ノaトbトノ關係ヲ生シ得ルヤトイフコトヲ考思スルトキハ、是ニ於テ心象學ノ範圍ニ入ルコトナルナリ、心象學ハ其本原ニ於テモ其性質ニ於テモ、其意味ニ於テモ、若シAトBトノ間ノ結合ヲ己ガ物スル者ナリ、〔同〕

○故ニ現象ナル者ハ心象學ノ標的ヲ為ス者ニシテ、現象ト現象トノ間ノ管係ヲ以テ殊ニ然リトス、心ノ実体ハ全ク此方法ヲ離レタル者ナルヲ以テ、吾等之ニ付キテハ何物ヲモ知ルコト能ハズ、其故ハ吾等ノ知性中ニハ心ノ実体ヲ知ルベキ知識ハ少シモ之ヲ有セザレバナリ、然レドモ吾自識ヲ造成スル所ノ知覚感動ナル者ハ、単一ニシテ分解スベカラザル者ノ如ク見ユレドモ、其実ハ決シテ単一ナル者ニ非ズ、今之ヲ分解セント欲スルニハ、現象ノ姿ニ由リテ之ヲ考へ、以テ吾心ヨリ生出セシメンコトヲ務メザルベカラズ、此事ハ、哈巴多斯辺撤ノ書ノ、尤モ精妙ニシテ且ツ根原ナル所ノ部分ナリ、〔原書一五二頁〕

○心ノ組織スル所ノ元質ハ二種アリ、其一ハ感覺ニシテ、其二ハ感覺ト感覺トノ間ノ關係ナリ、凡ソ衆多ノ感覺ハ、自識ヨリ視ルトキハ、単ニ一個物ノ如ク見ユレドモ之ヲ分解スルトキハ、更ニ細小ナル許多ノ元質トナルコトヲ得、即チ其単一ナル所ハ、唯微細ナル神經ノ衝突ニ至リテ止ム、知覚（適當ニ名クレバ）ヲ成ス所ノモノハ、此神經ノ衝突ノ集マリテ結合シタル者ナリ、〔同〕

○今單一ナル知覚ノ例ヲ示スガ為メニ假リニ音樂ノ一事ヲ引クベシ、若シ音樂ニ於テ震搖度、第二等ニ於テ十六ニ過キザルトキハ、其音ヲ毎一個ニ聞分クベシ、サレドモ、夫ヨリ速ニナルトキハ、自識ノ力ニテ、各個ニ其音ヲ聞分クルコト能ハズ、只連続セル音ノ如ク聞ユルナリ、震搖ノ度更ニ増ストキハ、音ノ性相ヲ變シテ更ニ尖銳ノ音トナリ、益

其疾速ノ度ヲ増ストキハ、尖銳ノ度益々高上シ、遂ニハ音聲トシテ聞クコト能ハザルニ至ルナリ、ヘルムホルツノ考究シタル所ニ據レバ、種々ノ樂器（胡弓、喇叭、クラリオネット、笛）ノ別々ノ調ヲ発スルハ、本原ノ音ノ上ニ、種々調和（ハモニー）ヲ加フルニ由リテ生スル者ナリ、此ノ如ク調子ノ殊異ヲ知ル所ノ知覚ノ殊異ハ、本来ノ音ヲ知ル知覚ト、加増ノ音ヲ知ル知覚ト同時ニ相結合スル者ニシテ、此二ツノ知覚ハ、同シ知覚ナレドモ、其度ヲ異ニスル者ナリ、〔同〕

○此分解ニ由リテ、知覚ナル者ハ、其單一ノ現象ヲ尋スルトキハ、実ニ微妙者ナルコトヲ理會スベシ、此分解法ハ獨リ音声ニ用フベキノミニ非ズ、香、色、及ヒ其他凡テノ知覚ニ於テ皆然リ、然ル時ハ知覚ハ組立テタル現象ナリ、然レドモ其現象ノ最初ノ原質ハ何物ナルゾ、其物ハ遂ニ発見スルコト能ハザルカ、〔原書一五二頁〕

○斯辺撤ハ之ヲ発見シ得ベシト信ゼリ、其言ニ曰ク自識上ニ覺ユル最後ノ一点ハ、神經ノ衝突ト名クル者是ナリ、吾儕、種々感覺ヲ験スルニ、其種類太タ一様ナラズト雖ドモ、其中ニ通共セル一物アリ、即チ其諸種ノ感覺ノ最後ノ基底ニ在ル者ハ神經ノ衝突ナリ、例へハ不意ニ発シタル破裂スルガ如キ響（永ク連続セザル）ハ亦神經ノ衝突ニ比類スベキ者ナリ、此ノ如クシテ生シタル自識ノ状態ハ、打撃（連続セル痛苦ヨリ之ヲ抽象シ）ニ由リテ生シタル自識ノ状態ト其性相ヲ比スベクシテ、則チ之ヲ以テ神經衝突ノ最初ノ姿ト定ムベキ者ナリ、此神經ノ衝

突ト同様ノ種類ヲ為ス者ハ、即チ自識ノ最後ノ一点ニシテ、吾儕種ノ  
 感覺ハ其類多シト雖ドモ、皆此最後ノ一点ノ結合セル種ノ有様ニ由  
 リテ成ル者ナリトイフコトハ、蓋シ必然ニシテ疑フベカラザルノコト  
 ナルベシ、余儕ハ、今言フ所ノ意見ト、従前普ク知り居レル神經ノ働  
 ノ品性ト、十分ニ協同一致セルトイフコトヲ注目セリ、經驗ニ依ルニ、  
 神經ノ伝動ハ、波浪ノ如ク、時ニ間歇アル者ナリ、又外面ヨリノ刺衝モ、  
 間断ナク知覚ノ中心ニ向ヒテ働ヲ及ボス者ニ非ス、只微塵ノ運動ノ脈  
 状ノ連続（其間ニ断続アリ）ヲ以テ其刺衝ヲ送ル者ナリ、故ニ、此主  
 観状ノ結果、即チ感覺ナル者ハ、心知ノ衝突ノ連続ヲ綴合シテ成ル者  
 ナリ、吾儕之ニ由テ此結果（感覺）ト、外物ノ原因トノ間ニ彷彿タル  
 所アルコトヲ決定セリ（フリンシプルス、オフ、サイコロジイ）〔同〕

○此論已ニ定マリタル時ハ、心ノ進化ハ其結合ノ進歩ニ由リテ成ルトイ  
 フコトハ容易ニ理會スベキコトナリ、斯氏ハ此後ニ、此原理ヲ踪跡ス  
 ル為メニ、精密延長ノ分解法ヲ記シタレトモ余ハ之ヲ録スルコトヲ欲  
 セズ、唯数語ヲ限リテ此説ヲ登載セント欲スルナリ、〔同〕

○結合インテグレーションノ最初ノ結果ハ、前ニ已ニ言ヒタル如ク、神經刺突ノ數個ヲ  
 合セタル者ニシテ、人はニテ所謂知覚ナル者ヲ作ルナリ、此種類ノ結  
 合ハ総テ之ヲ単一ノ知覚ト名クルナリ、然ルニ此単一ノ知覚數個、自  
 ラ互ニ相混合シ、其結合ニ由リテ所謂混和ノ知覚ヲ造リ出スナリ、此  
 混和ノ知覚亦自ラ互ニ相混淆結合シテ一個ノ大ナル知覚トナル、此大

ナル知覚、他ノ時ヲ限リ大サヲ限レル衆多ノ知覚ト合シテ、益々其体ヲ  
 大ニシ、最後ニ至リテ、其結合ノ一種、他ノ結合ノ一種ト相合シ遂ニ  
 羣聚クラステルノ最高位ニ達スルナリ、今此論ヲ助ケンガ為メニ更ニ左ノ説ヲ  
 述フベシ、其一ハ、凡ソ吾心ノ領地内ニハ、結合ノ不十分ナル者（知  
 覚）ヲ、自識ノ中ニ包含スルコトハ、至テ難キコトナリ、其二ハ、之  
 ニ反シテ、結合ノ力更ニ漸進シテ益々廣ク及ブベキ者ハ、是ヲ以テ吾心  
 ニ属シタル者トシテ之ヲ考フルコトナリ、今其一例ヲ挙ンニ、飢、渴、  
 疾病其ノ他凡テノ内臓ノ知覚、及ヒ愛、怒ノ如キ感覺ハ、其物ノ粘着  
 力ハ微小ニシテ其結合シタル一羣聚又房フヤモ甚タ不完全ノ者ナリ、故ニ  
 此ノ如キ者ハ心智ノ生命中ニ於テ僅ニ附属ノ地位ニ居ルニ過キザル者  
 ナリ、然ルニ之ニ反シテ觸、聽、視ノ如キ知覚ハ、其粘着力甚強クシ  
 テ、著ルキ結合ヲ為シ得ル者ナリ、吾等ノ知性ノ働ハ、大抵、聽ノ知  
 覚（言語ニ於テ結合ス）ハ、視ノ知覚（印記、物体、及ヒ其關係ニ於  
 テ結合ス）トヲ以テ限リトスルカ如キ者ナリ、〔原書一五三頁〕

○心ノ性ヲ以テ上ノ如ク理會シタル所ニテ更ニ之ヲ以テ物ノ性ニ比スル  
 トキハ其理ハ益々明白ナルコトヲ得ベシ、而シテ化學士カ之ヲ以テ物  
 ヲ定メ、心學士カ之ヲ以テ心ヲ定メタルコトノ間ニ平衡ノ成立セルト  
 イフ事実ハ、以テ吾意見ノ誤リナキヲ助クルニ足ルベシ、〔同〕

○凡ソ多數ノ実物ノ、其外状ハ同様ニシテ且單一ナリト見ユル物モ、其  
 実ハ異様ニシテ且ツ混合物ナルコト明白ナリ、而シテ全ク獨立シテ体

ヲ成スガ如ク見ユル物ニテモ、之ヲ分解シテ見ルトキハ、相互ニ相肖似セル所アル者ナリ、例へハ今酸類ノ中ニモ、硫酸ヨリ成ル所ノ酸類許多アリ、又硝酸ヨリ成ル所ノ酸類許多アリ、又醋酸ヨリ成ル所ノ酸類許多アリ、其他尚幾多ノ酸類アルベシ、此諸種ノ酸ハ、何レモ種ノ色相ニ付キテ異ナル所アリ、然レドモ、何レノ酸モ其相通用スル品性ヲ有ス、即チ酸素ヲ以テ尤モ働キヲ為スノ原質トシテ之ヲ有スルコトナリ、更ニ遠ク之ヲ考フルトキハ初メハ單一ナリト称スル所ノ実物モ其実ハ混合ノ物ニシテ、其最後ニ至リテ、其物質ノ至極ノ体アリ、其至極ノ体ヲ本トシテ、其他ノ体ヲ混合シ、此ノ如クシテ漸ニ完全ノ一物ト成ル者ナラントノ疑察ハ甚タ道理アルコトナルベシ、〔同〕

○人心ニ付テモ亦之ト同シ理アリ、心ノ活動ノ種類ハ、其数甚タ夥シク、自識ノ力ニ由リテ其種ノ情状ヲ知ルコトヲ得ベシ、此ノ活動ノ種類ノ迹タルニ、其ノ最後ハ、一点ノ感覺ヨリ総合セル者ニシテ、同シ種類ノ底ニアル其一点モ尚同様ニ綴合ヨリ成ル者ナリ、然ルニ此一様ナル一点、種ノ結合ニ由リテ、單一ニ見ユル（其実ハ混合）所ノ感覺ヲ生シ、其感覺漸ニ混合シ是ニ由リテ其間ニ差異ヲ生シ、此ノ如クシテ止マズ、以テ万殊ノ感覺トナルナリ、〔原書一五四頁〕

○今茲ニ心ニ付キテ言フ所ノ説ハ、前ニ記セル本論ノ著者ノ説ト相抵牾セサランコトヲ務メサルベカラズ、余儕ハ、心ニ付キテハ一物モ知ルコトナシ、若シ主觀客觀トイヘル二個ノ物ヲ以テ、還元シテ其極ニ至

ルトキハ、此二個ノ極端ノ名目、次ニ甚タ相似タルノ物トナルベシ、然レドモ此二者ハ本来差異アル物アレバ、全ク其區別ヲ去ルハ亦能ハザル所ナリ、此二者ノ差異ハ、他ノ差異ニ勝レテ、自識ノ中ニ存スル者ナリ、此要用ノ点ニ於テ、余ハ斯氏ノ言を擧テ之ヲ證スベシ、〔同〕

○余ハ今永ク人ニ指定セザルベカラザルノ境界ニ達セリ、乃チ其一ハ、心ノ現象ヲ以テ、実質ノ解説センコトヲ求ムル人ニシテ、其二ハ此ノ如キ解説ノ堅定センコトヲ恐怕スルノ人ナリ、第一人ハ心ハ物ノ名ヲ以テ之ヲ解説スベシト言フコトヲ信ジ、之ヲ実試センコトヲ望ムニ、第二ノ人ハ甚タ之ヲ恐レタリ、其恐ルト望ムト殆ント其度ヲ同フセリ、然ルハ実質學士ノ名ヲ以テ他人ニ擯斥セラル、所ノ多数ノ學士ハ、深ク考フル所アリテ、此二者（心ト物）ヲ解説スルニ、看テ遠隔ノ者トナスベカラザルコトノ証ヲ見得タリ、其故ニ前ノ決定ノ為メニ驚嚇セラレザル所ノ學士（即チ実質學士）ハ、更ニ其分解法ヲ進メテ至極ノ地ニ至リ、是ニ於テ明白ニ、此ノ如キ念ヲ得タリ、凡ソ吾等カ物ナリト思フ所ノ姿ハ、吾等ガ知ルコト能ハサル所ノ力ノ姿ノ表記ナリ、此表記ハ吾儕之ヲ実体ナリト假定スルコト能ハザル者ニシテ、吾儕亦反對ノ意見ヲ起スコトナキ者ナリ（ホルストプリンシプル）彼又、凡ソ活動ノ名ヲ以テ示セル物体ノ働ノ發現ハ、只其働ヲ見タル者ニシテ、其働ヲ知りタル者ニ非ズ、若シ活動トナリテ、吾等ノ見ユル所ノ力ヲ以テ、自己ニ有スル者、即チ活動トイヘル物ナリト考フルトキハ、直

チニ道理ニ中ラザルコトトナルナリ、〔同〕

○以上ノ説ニ依レバ、吾等ガ考フル所ノ物<sup>ワツ</sup>及ヒ動<sup>キョウ</sup>トイフ者ハ、知ルベカラザル現<sup>ゲン</sup>存<sup>ソン</sup>物<sup>ブツ</sup>ノ姿<sup>サマ</sup>ノ表記タルニ過ギザルナリ、吾儕ニ之ニ加フルニ、心モ亦知ルベカラザル物ナリ、而シテ吾儕其中ニ於テ、最モ単一ナル姿ヲ考フルニ、唯吾思想ノ中ニ入り能ハザル所ノ或ル表<sup>ヒラカ</sup>記タルニ過キトイフ語ヲ以テスルトキハ、此全題ノ問題ハ漸<sup>シ</sup>減縮シテ、此表記ハ何レノ表記ナリトイフコトノ言語ニ於テ言フダケヲ知ルニ過サルコトトナルナリ、而シテ問題ノ如キハ能ク之ヲ判決スルコトヲ得ザルナリ、其故ハ、余儕ハ吾等ノ前ニ現ハル、実<sup>マコト</sup>体<sup>タマ</sup>ヲ知ルコト能ハザルヲ以テ、其返答ヲ為サズレバナリ、〔原書一五五頁〕

「英國心學」解題

「英國心學」は、八二七―一六六「英國心學」に単独でまとめられている。

「英國心學」は『English Psychology Translated From the French of P. Ribot, 1874』の部分訳である。ただし、はじめの部分で、リボン、ポリチックス、マテアリズム、ソーシアルサイエンスといった用語を解説しているところは、この原書とは異なるものに依拠しているであろう。英吉利心象學と見出しを付けて以後の部分が、右の書物にもとづく翻訳である。

原書は、一八七三年に初版が、一八七七年に第二版が、ロンドンで出版されており、一八七四年にニューヨークでも出版されている。確認できた一八七四年版と西村翻訳に矛盾するところはない。

西村の翻訳は、通例、Introduction あるいは本文の冒頭から順次訳して行き（時に意訳や省略はあるが）中断することが多いけれども、「英國心學」の場合は少し事情が異なる。それは、冒頭から、適宜部分的に選択して訳す形をとっていることである。そこで、このたびは翻訳箇所原書対応頁を記しておいた。

原書は、Introduction において、古代ギリシヤ以来の心理学の歴史を概観して、本論にあたる部分では、Hartley、James Mill、John Stuart Mill、Herbert Spencer、Alexander Bain、George Henry

Lewis、そして Samuel Bailey の項目を立て、それぞれの学説を、当時の学問的状況との関連において叙述している。最初の Hartley と最後の Bailey については簡略な記述になっているが、他の人物については、下位にくくつかの Chapter を置き、Chapter のもとに項目番号を付して、詳述してゐる。

西村は、翻訳に際して、他の例と異なり、抄訳の形をとり、John Stuart Mill と Spencer の部分に多くを費やしている。

Introduction を発端と訳している。Chapter を篇とするのが通例であり、Spencer の箇所では篇としてゐるが、John Stuart Mill の箇所では、ただ第一と記すだけで篇をつけていない。

原書の原著者 Théodule-Armand Ribot (一八三九—一九一六) はパリ大学教授、コレージュ・ド・フランス教授をつとめたフランスの心理学者である。西村翻訳の原書の英訳本はニューヨークで一八七四年に出版されているが、翻訳者は確認できていない。

日本においても、リボアの著書は、翻訳されている。国立国会図書館の所蔵目録には、次のようにみえる。

葛西又次郎 訳『記憶・意志及人格の変態』大正十三(一九二四)年、

田中治六 訳『心理学史…独逸国最近心理学説史』明治二十七(一九〇四)年？

田中勝之丞 訳『心性遺伝論』明治三十二(一九九九)年

日本変態心理学会 訳『人格の変態』大正十四(一九二五)年

葛西又次郎 訳『意志の変態』大正十四(一九二五)年

葛西又次郎 訳『記憶の変態』大正十四(一九二五)年

山田吉雄 訳『リボア変態心理学』大正十四(一九二五)年。

○<sup>アラトシ</sup>布拉多謂ヘリ、<sup>アラトシ</sup>哲学ハ驚怪ノ中ニ起ルト、小児ハ、蠟人形ニ其目ヲ閉チ、小猫ガ其尾ヲ以テ戯ル、ヲ見テ其故ヲ知ラズシテ、驚怪ス、此驚怪ハ、即チ哲学及ヒ科学ノ為メニ其前途ヲ開クモノナリ、凡ソ識者ト無知者トノ區別ハ、惟其驚怪スル所ノ廣狹ニアリテ、又之ニ付キ謬迷ノ答ニ満足スルト満足セザルト、最初ノ返答ノ上ニ更ニ疑問ヲ出スト出サバルトニアリ、故ニ天文者ハ、天上諸象ノ運行ニ付キ、反抗又ハ混乱ノ状アルヲ見テ、先ツ之ガ為メニ驚怪ヲ起スナリ、古来ヨリ天文家ノ學說ニ種々ノ異説アル、即チ多利買派<sup>トリス</sup>哥白尼派<sup>コペルニクス</sup>牛董派<sup>ニユートン</sup>ノ相互ニ異同アルハ、各々自身ガ考案解釈ヲ以テ、満足ナリトスルヨリシテ、起ル者ナリ、今余ガ此論ニ於テ起サント欲スル所ノ要問ハ左ノ如シ、問、道德學ハイカナル驚怪ニ由リテ、起リタル者ゾ、此驚怪ハ何物ト相附接結合セザル、其初メハ何レノ所ヨリ起発セル、此驚怪ハ如何ニ自ラ開達セル、精細ナル論旨ノ要旨ハ後篇ニ讓ルヘシ、此処に於テハ、只、道德學ハイカナル物カトイフヲ論ズルノ前ニ、先ツ何故ニ道德學ハ一般ニ行ハレシカトイフコトヲ問フノミ、何故、道德學ハ其

何物カヲ知ラザルノ前ニ成ルカヲ問フハ、不條理ノコトナルベシ、然レドモ此場合ニ於テ、イカナル物カトイフコトハ、何故ニトイヘル語ニ由リテ定メラレタル良善ノ部分ナルベシ、又、此論ノ末ニ於テ述ベタル定義ト結果トハ此篇ト次篇トニ於テ詳説スベシ、

○言語論<sup>エチモロヂイ</sup>ハ現今ニ於テ用フル此語(エシックス)ノ精密ノ意味ニ於テ僅少ノ助ヲ為ス者ナリ、言語論ハ敢テ誤謬ヲ生ズルコトナシ、

例ヘバ政事學<sup>ポリチクス</sup>トイヘル語ヲ言語論ニテ定メルトキハ、社会生活スルノ學トナル、因テ之ヲ推シテ、此學問アル人ヲ政事家<sup>ホリチシヤン</sup>トイフトキハ、大ニ誤レリ、(ワットレイノロジック)ニテ言語論ノ誤謬ヲ論ズル条ニ出ヅ)

現今ノ場合ニ於テ言語論ハ、吾等ニ著ルキ佑助ヲ與フルナリ、エシックスノ語ハ、明カニ道德ノ品行ノ學トイヘル意ヲ含メル語ヨリ分出セリ、又言語論ヲ更ニ退却シテ考フルトキハ、エシックスノ語ハ更ニ習慣習行ノ意味ト結合スルナリ、蓋シ此學ノ古名ナルモラル ヒロソヒイナル語ヲ思スルトキハ、則チモーレスノヒロソヒイナルコトヲ知ル、拉丁ノ語ニテ、其一ハ習慣習行ノ義ヲ含ミ、其二ハ道德ノ行為、即チ品行<sup>カクタ</sup>ニ管シ、行為者ノ習行ノ義ヲ有ス、此ノ如クエシックスヲ以テ品行ノ學ト定メ、其品行ノ語ハ言辭論ノ法ニ從ヘバ、行為ノ習慣ナリト定ムルトキハ、爰ニ左ノ疑問ヲ生ズヘシ、

問、總テノ學問ノ根元ナル驚怪ハ、イカンシテ、國民又ハ一個人ノ行為

ノ習慣ト相接合スベキヤ、

○此問題ニ付キテノ定説ヲ述ブルコト頗ル難シ、其故ハ、此事ハ最初ハ習慣上ノ行為トシテ發現スレドモ、或ハ混乱ニ由リテ中止シ、或ハ擾攘ヲ起スヲ以テナリ、總テ習慣トイフ者ハ、心象学上ニ論ズルトキハ、此疑問ノ為メニ十分ノ答辞ヲ有スル者ナリ、逍遙スルニ於テ我関節ヲ動カスノ習慣ハ、則チ初メハ、右脚ヲ挙ゲ、次ニ左脚ヲ挙ゲ、同時ニ我身ヲ前方ニ送り、以テ我身ノ均衡ヲ保ツコトノ疑問ノ解釈ナリ、其事モシ度重ナリテ習慣トナルトキハ、此解釈ハ益々十分ナリ、其時ハモハヤ此問題ヲ以テ苦勞トセズ、吾等ハ其此ノ如キコトヲ為シタルトイフコトヲ自識セザルナリ、国民又ハ一個人ノ行為ノ習慣ニ於ケルモ亦之ニ同ジ、例ヘバ我身体ヲ制抑スルノ習慣、即チ古人ガ節度ト名ケタル所ノモノハ、反対ノ衝動ヲ満足セシムル為メノ問題ノ解釈ナリ、例ヘバ公会堂ニ赴カントスルノ衝動、又ハ家ニ帰り妻ノ傍ニ居ラントスルノ衝動ノ如キ是ナリ、習慣即チ品行ノ元質トシテノ此解釈ハ、完全ノ度ニ達スルコトヲ得ベシ、即チ完全ナル節度ヲ守ルノ人ハモハヤ彼ガ酒館ニ赴カントスルトキ、或ル反対、即チ解釈ニ自識セザルナリ、

○是ニ付キ、更ニ習慣ニテ定マリタル行為ノ詳説ヲ要スルニ至ルナリ、故ニ節度ヲ守ル人ハ何レノトキニ於テ、何種ノ酒ヲ何程ノ量、呑ムベキトイフコトヲ決定シ居ルカトイヘル疑問起ル、然レドモ此ノ如キハ

今言フ所ノ道德ノ意義ニ非ズ、此事ハ只各個ノ場合ノ状態ノ見込ニテスルコトニテ、彼何レノ時、何程遠ク、何程速クニ歩行スルカトイヘル間ニ同ジキ者ナリ、此ノ如キ間ノ心ノ中ニ起ルコトハ、日二百圓ニモ及ブベシ、然レドモ何レモ本来ノ道德ノ疑問ニハ非ザルナリ、道德ノ疑問ナル者ハ習慣ノ行為（モメント）ニ干係スル者ニ非ズ、然レドモ習慣自身（セ、ハビット、イットセルフ）ハ干係スルナリ、則チ如何ナル行為ヲ以テ、公正、勇氣、節制ナリトスルカトイヘル疑問に非ズシテ、イカナル者ヲ、公正、勇氣、節制トイフカトイヘル疑問ナリ、而シテ左ノ如キコトヲ回想スルハ、頗ル困難ナリ、凡ソ国民及ビ一個人ニ在リテ、実行上ノ疑問ヲ解釈スベキ行為ノ習慣ハ何レノ学科ノ題目トナレルヤ、

○簡短ナル答ハ左ノ如シ、其解釈、現時ノ状況ニ適合セル其間、委ク言ヘバ国民及一個人ノ行為ノ習慣ト、人生ノ実行上ノ疑問トノ間ニ協合ノアル其間ハ道德上ノ疑問ハ中止ノ姿ニナリ居ルナリ、然ルニ他ノ一方ニハ新タル疑問ノ發現スル者ナリ、此疑問ハ古ルキ習慣ハ之ヲ以テ解釈スルコト能ハズ、只疑惑ヲ以テ、風習ノ堅固ノ上ニ放擲スルナリ、此疑問ハイカニ見ルカトイフコトハ、国民タル者ガ自然ニ進歩スル所ノ種々ノ階級ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ベシ、

## 第二 疑問ノ起ル状態ニ付キ、全般ノ記述

○今言フ所ノ進歩ノコトニ付キテハ、之ヲ三階級ニ分ツコトヲ得ベシ、第一級ハ、人民ガ道德ノ習慣ノ初メヲ成レル時、即チ道德ノ成長ノ時代

ヲ指スナリ、此時代ハ之ヲ一個人ニ比スレバ、小児ノ時、及ビ少年ノ初ノ時代ニ齊シ、此時代ヲ教育ノ時代ト云フ、

此時代ノ教育ノ方法ハ、社会ノ必要ノ快樂ノ中ニ道德ノ習慣ノ開發、家族、国家、宗教ノ此時代ニ相応セル組立ノ起元、道德及ビ法律ノ規則ノ中ニ保持スル指導ノ形成ノ如キハ別々ニ之ヲ論述セザルベカラズ、蓋シ是等ハ何レモ未ダ明白ニ其形ヲ成ニ至ラザレバナリ、

其次ハ行為ノ時代ニシテ、壮年ノ初ニ齊キモノナリ、此時代ハ一国民ノ間ニ有スル所ノ種々ノ力ノ平均ヲ整フルノ時代ナリ、外面ニ於テハ、人類ノ種族ノ調和、憲法ノ平衡、利益ノ講和ヲ以テ、此平均ヲ現ハシ、内面ニ於テハ、人民ノ道德ノ傾向及ビ習慣ノ一様ニ歸スルヲ以テ、其平均ヲ得ルヲ見タリ、人民ハ其勢力ニ於テモ、是ノ職業ノ種類ニ於テモトモニ平均ニ近ヅケリ、前ノ時代ニ於ケル習慣ハ、未ダ軟体ナリシガ、此時代ニ至リテハ、甚堅固トナリ、古代相傳ノ道德ヲ奉ジ、其格言ハ定マリテ道德律トナリ、国家及ビ宗門ノ規則ノ後援ヲ為スナリ、余ハ是ヲ行為ノ時代エトジ、オス、ト名ク、其故ハ此事ハ、国民ハ良善ナル奮力ヲ興シ、又光輝アル冒險ヲ為シタルト其時ヲ同シクスレバナリ、国内ノ紛争ハ、此時代ニ其終リヲ告ゲ、国民ガ自由ニ其力ヲ弘張スルコトヲ得タリシナリ、

此時代ノ例トシテ、猶太ニ於テハ、大關ノ時、雅典ニ於テ、ペ

リクルスノ時、羅馬ニ於テハ、久シク紛争セシ貴族ト平民トノ和好成リテ、国内平靜トナリタル時ヲ當ツベシ、

最後ヲ考察ノ時代エトジ、オス、トイフ、内部ノ力ノ平均トイフコトハ、第二ノ時代ノ特別ノ状態ナリシモ、今新ナル力ノ開發ニ由リテ其事ハ他ニ埋没セリ、新力ノ主要ナル者ハ知識ノ進歩ナリ、国民ノ經驗ノ廣マルニ從ヒテ、知識モ進ミ、随ツテ勢力ヲ擴大セリ、此進歩ト共ニ、新ナル利益、工業、文学、工匠、哲学モ亦發生セリ、是等ノ諸事皆国民ノ生活ノ上ニ其坐ヲ占メタリ、此知識ノ進歩ハ従前成立セル習慣法度規式ヲ費消シテ、其事ヲ成シ得タリ、譬ヘバ新釀ノ酒ヲ以テ旧ルキ壇中ニ注入スルガ如シ、精神ハ外形ト全ク相反セリ、知識及ビ政治ノ混乱ノ時期ハ是ヨリ始マレリ、此時代ハ疑惑、擾乱、狐疑ヲ以テ之ヲ標スベシ、従前社会ガ安着セル所ノ法式ト規則トガ、今其基礎ナキヲ見タルヨリシテ、大ニ動揺ヲ起セリ、道德ノ法則、国法ノ構造、宗教ノ自体、何レモ、其根原ニ於テ破壊スルヲ見ル、是時ニ於テ世人ノ選取スル所ハ、一ハ現時ノ反対ノ有様ハ目ヲ閉テ之ヲ見ズ、只旧時ノ信用ノ中ニ其隱シ所ヲ求ムルト、一ハ未ダ実験ナキ所ノ改革及ビ無法ノ新道路ニ進出スルトノ外ニ出デズ、

### 第三 希臘ノ時代ニ就テ歴史上ノ説明

○歴史上ニ於テ之ヲ見ルニ、国民ノ生活ノ成長ヨリシテ、其従来国民間ニ存セル習慣ト傳説トハ漸々ニ溶解シ、又其時流行ノ法式ノイカ

ンヲ考究センコトヲ務ムルヨリシテ、道德及ビ政治ノ結構ノ溶解ニ及ボシ、進歩ノ道路ヲ作ルガ為メニ、従前ノ道德ト政治トノ價値ト其不完全ナルヲ明言スルニ至レリ、此ノ如キコトハ希臘ノ道德学ノ事实上ノ原因ヲ為ス者ニシテ、其事ハ実ニ此国ノ詭弁家ノ起レル時ニアリ、希臘ノ道德ノ大構造ハ布拉多、亜立士度德ニ至リテ全ク發生シタル者ニシテ、詭弁家ノ意見ハ未ダ精密説ヲ述ブルニハ至ラザリシナリ、只此説明ハ、読者ヲシテ、此国ニ於テ詭弁家ノ生ジタルハ、恰モ大ナル政治、工業、知識ノ開弘スルノ時ニ在リタルトイフコトヲ回想セシムレバ足レリ、雅典ハ小ナル都府ヨリ進ミテ大国ノ首府トナレリ、是ニ依リ、新ナル思想、新ナル利益、新ナル希望ハ、旧來ノ法式、生活ノ上ニ不安着、不満足スルヨリシテ、新ナル思想、新ナル利益、新ナル要求ヲ發生セリ、此時詭弁家ナル者、此都府ニ出テ、正邪ト、公義ト不公義ト、信心ト不信心トノ想念ニ付キテ、外面ヨリ攻撃ヲ加ヘ、抽象的ノ理論ヲ述ベテ、其説國中ニ傳播シ、此答辭ノ国民ノ生命、呼吸トナレリ、詭弁家ガ此挙動ニ依リテ、従來傳説ノ道德ノ上ニ隱伏セル其反對ノ意見ハ、雅典ノ教育アル人士ノ間ニ通達セリ、是ニ由リ、疑惑、不慥、及ビ一般ノ混雜ヲ生ジ、此事ヨリシテ、恰モ宜シキ時ニ於テ、瑣克拉的ノ力ニ依リテ、初メテ道德学ノ図稿ヲ造出スルコトヲ得タリ、

#### 第四 吾等ノ時代ニ於テノ説明

○然レドモ余ハ道德学ノ起リヲ以テ、雅典ニ於テ詭弁家ノ時代ニ在リト論定スル者ニ非ズ、余ガ今日ノ時代モ幾多ノ干係上ヨリ見ルトキハ、左ノ一点ノミハ亦雅典ノ詭弁家時代ニ似タル者アリ、即チ教育アル多数ノ人民ガ、自己ノ其下ニ生活セル道德ノ法則、及ビ其道德ヲ保持スル政法ヲ考究スルヨリシテ新ナル要望ヲ生ジ、是ニ依リ、道德及ビ政治学上ニ不安穩ヲ起シタルコトハ、古代ノコトト頗ル相似タリ、反對論者ノ少數ガ、外面ハ和熟スベカラザルノ批評ヲ世ニ公ニシタルヨリ、其時代ノ騷擾、混雜ヲ生ジ、先ヅ第一ニハ宗教界ニ於テ、信仰ト道理ト學問ト宗教、威權ト私ノ判断トニ付キテ、全クノ反對論ヲ生ゼリ、又政事界ニ於テモ、個人ト国家トノ間ニ反對ノ説ヲ起シ、一方ニ於テハ個人ノ權理ヲ説キ、一方ニ於テ、市民ノ義務ヲ説ケリ、個人ハ国家ニ反對スル者ナリトイフコトハ、此時代ノ主要ナル吟味トナレリ、  
(士辺撤ガ此表題ヲ以テ著シタル小冊子ニ詳ナリ) 殊ニ道德学ノ問題ニ付キテハ、我身ト他人、自己ノ利益ト最多數ノ最大幸福、快樂ト義務、自由ト不得已、法則ト自由、其他人民一般ノ生活ノ上ニ批評ノ光ヲ加ヘタルヨリ起レル難問ハ甚多シ、

○以上ノ問題及ビ之ニ類セル問題を解釈セントスルニハ、一個人及ビ社會ノ道德ノ基礎、開化セル人ノ道德習行ノ原因、意義、威權、及ビ道德ト相固着スル社會、政事、宗教ノ法式ノ基礎ヲ精密ニ分解スルノ外ニ方法アルコトナシ、道德ノ学ガ、今時ニ於テ新ニ發達セントスルニハ、此

ノ如キ困難ノ壓迫ノ下ニ立テリ、道德学ハ今日ニ於テ哲学ノ一部トシテ  
習学サレアルハ事実ナリ、道德哲学<sup>モラル  
ヒロソフィ</sup>トイヘル名ノ下ニ在リテ常ニ無  
形学ノ体統ノ中ニアリテ貴キ位地ヲ領セリ、此学ニ付キテ、今時ニ特別  
ニ見ルベキ者ハ決シテ新ナル学問ノ起リタルニハ非ズ、只旧ルキ学問ニ  
新ナル意味ノ附着シタルニ過ギズ、道德ノ学ニ於テ実行ヲ大切ニスルト  
イフコトハ、困難ナル問題ヲ解釈スルニ大ナル助ヲ為ス者ニシテ、此事  
ハ今日十分ニ認定サル、ニ至レリ、此認定ノ其他ノ証拠トシテ、此学問  
ヲ高崇ニセンガ為メニ所々ニ學會ヲ起シタリトイフコトヲ記スルヲ必要  
トス、

道德学ノ学会ハ倫敦、堪比日、壹丁堡、新約克、非拉特費、  
<sup>(ケンブリッジ)</sup> <sup>(エジンバラ)</sup> <sup>(ニューヨーク)</sup> <sup>(ライプツェル)</sup>  
<sup>(シカゴ)</sup>  
市加俄等其他ニモ近年所々ニ起レリ、

又國際道德日誌<sup>インテル、ナショナル、  
ル、オラス、エシックス</sup>ノ創立等モ起レリ、世上ヲ概見スルニ、道德ノ  
学ハモハヤ哲学ニ属スル一部トセズシテ、獨立ノ学問トスルコトヲ要望  
スル者多シ、此要望ノ確實ナルコトニ付キテ、余ハ更ニ此後ニ於テ之ヲ  
試論スベシ、

古代ノ哲学ノ上ニ存スル分科法ハ、竟ニ破壊スベシトイヘル卓越  
ナル問題ハ、ゼームス・ワルドノ著セルマインドトイフ書ニ詳ナ  
リ、

世間ニ於テ、従前道德学ガ倫理学及ビ無形学ノ煩冗ナル結合ヲ廢絶シ  
テ之ヨリ分離センコトニ注意シ、所論ノ趣意ノ錯綜セルト、其結論ノ

実行ノ必要ニ帰スルトヲ除ケバ、其他ハ都テ他ノ実験科学ノ如ク獨立  
ノ学問タラシメントスルニ至レリ、

#### 第五 吾等ガ生活ノ上ニ立テル道德ノ学ノ効驗

○余ガ道德学ヲ以テ実行ノ学ナリト定メタルコトニ回想スルトキハ、読  
者ハ必ズ問フベシ、実行トイヘル者ノ天性及ビ威權ノ考究ニ関シ、其  
全体ノ効驗ハ如何ナル者カト、余ハ答テ曰フ、其効驗ハ二様ニ分ルト、  
第一ハ、已ムコトヲ得ズ、其一分ヲ破壊的ニ為ス者ナリ、凡ソ科学ハ  
批判的<sup>クリティカル</sup>ノ者ナリト言ヘル語中ニ、上ノ一語ヲ包含シ得ベシ、總テ科  
学ハ常識ノ區別ヲ、或ハ批判シ、或ハ修正シ、或ハ増加シ、或ハ彙類  
スル者ナリ、科学ハ何レモ之ヲ為スナリ、之ヲ常識ノ批判(又判断)ト  
イフ、道德ノ学ハ、又特別ニ之ヲ行フナリ、或ル通常ノ區別、或ル無  
益ナル禁制、警戒、道德ノ威權、道德ノ制裁ニ付キテ、或ル疎鹵ナル  
意見ノ如キハ皆之ヲ廢止セザルヘカラス、何則道德法則ハ成文法ト同  
ジク、変化ト増加トニ由リテ進長スル者ナレバナリ、此変化ト増加ト  
ハ知ラズ、成ル者ナレバ、既往ノ事ヲ顧ミテ少シク注意固想セザル  
ベカラス、譬ヘバ段々ノ時代ニ於テ行ハレタル法律ノ、互ニ干係ナク  
シテ、其義ノ全ク反對シタル者アルモ尚成文律ノ上ニ留存スルガ如ク、  
或ル時代ノ道德法則ノ原質<sup>エレメント</sup>ヲ粗鬆ニ結び合ハセ、不十分ニ相和睦セ  
シムル者アリ、此ノ如キ者ニ科学上ノ批判ヲ応用スルノ結果ハ成文律  
ノ再校修正スルト恰モ相似タリ、

○又道德法ヲ保持スル所ノ社会ノ組インスチテューション立モ是ト同様ニ、其結果ハ、

消極的及ビ批判的方法ニ於テ見ルコトヲ得ベシト思ハル、此社会ノ組立ハ、道德法ト同ジク、知ラズ／＼ノ中ニ成長スル者ナリ、動物ノ生器ト同ジク、彼ハ生活ノ必要ニ応ジテ進化スルナリ、然レドモ動物ノ体中ニ、永ク生存スル部分ト、本原ノ部分トアルガ如ク、又社会ノ形体組織ノ中ニハ、其最初ノ状態ヲ存シテ永久ニ生殘ル者アリ、道德ノ学ノ最初ノ結果ニ於テハ、先ヅ此事實ヲ認識セザルベカラズ、

○又道德ノ土臺トナル所ノ威權ニ付キテハ、余ハ其初メニ於テ、先ヅ批判的及ビ明白ナル消極的ノ結果ヲ希望ス、人類ガ此威權ニ注目シタルコトハ、古代ノ詩歌及ビ神秘ノ時代ニ起ル者ナレバ、余ハ通常人ノ意見モ、此本原ノ色彩ヲ以テ塗ランコトヲ望ムナリ、此威權ノ本原ヲ批判スルコトハ、此学問ニ於テ必要ノ部分ナリ、是等ノ見込ヨリ見ルトキハ、*「批判ナキトキハ、科学トイフ者ハ遂ニ成ラザルベシ」*トイフコトヲ得ルナリ、

○更ニ他ノ一方ヨリ見レバ道德学ハ、積極(肯定的)ニシテ又再造ノ面ヲ有ス、解説ハ、解説ヲ除去スル者ニ非ズ、又解説ヲ除去スルハ、解説スルコトニ非ズ、道德学ノ起步ノ地ハ、權理ト義務トノ実事ナリ、初メノ部分ニ於テ、批判的ニ之ヲ攻撃スルガ如クニ見エルハ、唯其仕事ノ外面ノ假相ナリ、

凡ソ科学ノ教育ニ於テハ、何レモ破壊ヲ以テ其学ノ主要ノ仕事ノ如

ク見ユル時期アリ、布拉多ハ之ヲ狗子ノ時期(パッピイ、ドグ、ステージ)ト名ク、

深キ真相ヲ見ユルトキハ、其事ハ皆再造のナリ、即チ破壊スルニ非ズシテ、完成セントスル者ナリ、其事ハ要緊ヲ不要緊ヨリ分離シ、恒久ヲ經過ヨリ、精神ヲ道德及ビ社会ノ法式ノ形体ヨリ分離スル者ナリ、今構造上、人類ノ天性ト結合スル者(此者ハ傳統トシテ人類ニ價值及ビ神聖ヲ附與スル者ナリ)ヲ除クトキハ、其所ニ一物モアルコトナシ、故ニ道德学ハ務メテ再造ヲ為ス所ノ批判的ノ者ナリ、其者ハ堅固ナル要緊ヲ保タンガ為メニ、無用ノ者ト不要緊ノ者トヲ除キ去ルナリ、故ニ道德ハ大胆ナル否定的ノ姿ヲ現ハスナリ、然レドモ是ヲ為シタルトキニ、肯定的ノ截断セル稜角ヲ發見スルナリ、

## 第二編

何ノ処ニ道德学アリヤ

### 第六 此学問ヲ認識スルコトノ困難

○前論ニ於テ、余ハ道德ノ学ニ於テ実行上ニ必要ナル状態ト其問題ノ一般ノ性質ト人々ノ希待スル所ノ答辞トノ大畧トヲ擧タリ、是ヨリシテ余ハ、此学問自身ノ發達ニ付キテ都合ヨキ發足点ヲ求メント欲ス、然レドモ是ヲ為スノ前、此学問ノ想念ト結合スル所ノ困難アルコトナレバ、余ハ先ヅ之ニ注目セント欲ス、

○道德ノ学ハ、品性及ビ行為ノ学ナリトイヘル一般ノ定義ヲ立タル後ニ於テ、余ハイカル意味ヲ以テ此学問ヲ話ルベキカ、此学問ハ必要ナル真理ノ中ニ其論旨<sup>オオ</sup>マツタ<sup>マツタ</sup>ヲ有スルナリ、

此学ハ其事实ニ從ヒテ其道理ヲ尋ネ、其道理ノ働ク方法トシテ、法則ヲ作り、其概括ヨリ、即チ其綜合ヨリシテ、進ミテ新ナル続キヲ引出スナリ、此最後ノ仕事ハ、殊ニ此学問ノ他ノ学問ニ異ナル所ナリ、凡ソ科学トイフ者ハ、其已ニ知ル所ノ道理ノ法則ヨリ、各個ノ效驗ヲ明カニ預言セザルノマデハ、之ヲ完全ナル科学ト理會スルコト能ハザルナリ、

「埋尔黒氏道德學」解題

「埋尔黒氏道德學」は、八二七一―一六七「埋尔黒氏道德學 顛利爹氏道德學」に「顛利爹氏道德學」と合綴されている。

「埋尔黒氏道德學」は、John Henry Muirhead(一八五五―一九四〇)の著述 *The Elements of Ethics: an Introduction to Moral Philosophy* の部分訳である。本書は、初版が一八九二年に出版されているが、確認できたのは、一八九五年版である。西村翻訳は、一八九五年版と矛盾するところはない。

原書は、Book I から Book V まであり、それぞれの Book は、さらに Chapter に区分されているが、全体を通して九十九の番号を付して項目を立てて論述している。

西村は、*Ethics: Moral Philosophy* に訳語として「道德學」を当てている。Chapter を編と訳し、項目番号を章としている。翻訳したのは、Book I Chapter II の初め、第六項目の中途までである。

この原書は、桑木厳翼が「倫理學」として明治三十(一九〇二)年に刊行している。明治三十五年に起こった哲学会事件はこの翻訳書を使用して卒業試験を行ったことに端を発している。

Muirhead はグラスゴーに生まれ、グラスゴー大学を卒業し、ここでエドワード・ケアード(一八三五―一九〇八)に学んでいる。後にオックスフォードのベリオルカレッジに学んだ。一八八八年に王立ホローウエ

イカレッジの心理学道德学講師となり、一八九六年にバーミンガム大学

の哲学と政治学の教授となり、後に哲学のみの担当となった。The

*Elements of Ethics: an Introduction to Moral Philosophy* は、彼の最初

の著書で、非常に好評を得た教科書である。格別オリジナリティーがあるわけではないが、ヘーゲル学派の観点から論題についての一般的な導入をなしていると評価されている。

道學大意譯稿

道德學大意

米國 亞知巴亞歷山得 著

日本 西村茂樹蔭敏 講解

第一篇

良心コンシエ 即ち道德ノ性能フハコルチイ

(●者ハ皆道德ノ性相ヲ辨ズ)

○凡ソ人タル者ハ其道理ヲ知ルノ智已ニ開暢スル時ハ、其目ニ見ル所ニ於テ、自然ト此物ハ美ニシテ、彼物ハ美ナラズトイフコトヲ辨知スルナリ、其如ク又人ノ行為上ニ付キテモ、道德ノ性相ニ管セルコトニ於テ、其何レニ属スルカヲ判得スルノ力ヲ有スルナリ、此判断ハ我身直接ニ之ヲ判断スル者ニシテ、其事ニ付キテ、人ノ幸福ヲ助クルカ、害スルカナドノ關係ニ由リテ之ヲ判断スル者ニハ非ザルナリ、

(古往今來ノ真)

○此道德ノ性相ノ差別ニ付テハ、人々其性能ヲ異ニスルヨリシテハ多少其異見ノ差違ハアレドモ、古往今來、世界万国ノ人何レモ皆此性能ヲ有スルコトニテ、何々ノ行為ハ良善ナリトシテ之ヲ賞美シ、又何々ノ行為ハ醜惡ナリシテ之ヲ鄙賤スルノ心ハ皆同ジカラザルハナシ、

(人類一致)

○何レノ国ノ語ニモ皆道德ノ善美ト道德ノ醜惡トノ意ヲ言フ所ノ言辭アラザルコトナシ、全世界ノ諸国ニ於テ、昔ヨリ今ニ至ルマデ法律ト刑罰トノアラザル処ナシ、其意ハ皆何々ノ行為ハ之ヲ為スベカラズト定メタルニ由レル者ナリ、甚シキ不正ト甚シキ亡恩トノ如キニ何レノ代、何レノ国ニ於テモ、皆之ヲ道德上ノ惡事ト判断セザル者ナシ、人ノ道德ノ行為ノ善惡ヲ判断スルハ、草ノ色、蜜ノ味ヲ判断スルト大ニ相異ナルコトナシ、若シ人アリテ草ノ色ヲ綠ナリト言ハズ、蜜ノ味ヲ以テ甘キト言ハザル時ハ、余ハ、人ノ身体ノ知覚各異ナルニ由リテ此ノ如キ特異ノ感覺ヲ生ズルトハ謂ハズ、必ス其人ノ生器ニ闕失アルカ又ハ疾ニ由リテ生器ノ働ヲ變ジタル者ナリト謂フベシ、

(單一ナル場合ニ之ヲ見ル)

○人タル者ハ本来皆道德ノ性能ヲ有スルトイフコトハ、單一ナル善惡ニ付キテノ判断ニ於テ之ヲ見ルベシ、若シ其行為錯雜シテ一事ハ善ニシテ一事ハ惡ナル者、又其行為ニ付キテ精密ナル權衡ヲ量ラザルベカラザル事ノ如キハ、人類一般に有セル道德ノ判断ノ試験トスルニ適當ナル者ニ非ズ、彼ノ學士伯利ガ引用セル瓦勒留、馬西摩ノ史ノ如キハ其事頗ル混雜ニシテ、初メノ一見ニ於テ、何ノ処ニ道德ノ真ノ品性アルカヲ判決スルコト極メテ難ケレバ、余ガ志謀スル所ノ用ニハ能ク適合セル者ニ非ズ、(●●ノ事實ハ●●要セズ)

伯利ノ引ク所ノ語左ノ如シ、曰ク、加俞多拉牛ノ父、三權貴ニ惡マレ、

カイユーストラニエリス

見當リ次第ニ殺スベシトイヘル罪ヲ被ブレリ、加俞多拉牛ハ、三人黨ノ利益ヲ謀ルヨリシテ、其父ノ追捕ヲ命セラレシ將官ニ其父ノ隱匿所ヲ告ゲ、其父ノ狀貌ヲ見分ケ易キカ為メニ父ノ人相書ヲ添ヘテ之ニ送レリ、其ノ父ハ吾身ノ性命ヨリハ其子ノ安全幸福ヲ心ニ掛ケシガ、己ヲ捕ヘシ將官ニ向ヒテ、吾子ハ好在ナリヤ、吾子ハ諸大將ノ心ヲ満足セシムルダケノ職分ヲ為シ得タリヤト問ヘリ、將官ノ一人之ニ答ヘテ曰ク、汝ノ子由リテ汝ハ捕縛ニ就ケリ、汝今宜シク死スベシト、言畢リ、短劍ヲ以テ加俞ノ父ノ心ヲ刺シテ之ヲ殺ス、加俞ノ父ノ死ヨリハ、其死ヲ得ルノ次第、殊ニ人心ニ感心スル者アリ、以上史ノ文、若シ此說話ヲ以テ、數年前阿諾威ノ林中ヨリ捕ヘ來レル少年カ、又ハ經驗ナク教育ナク、幼年ヨリシテ同類トノ交際ヲ絶チ、先蹤威權、憐愍、習慣ナキ所ノ野蠻ニ問ハバ、何如、余等ガ多拉牛ノ行為に付キテ之ヲ賤惡スルノ感覺ト其度ヲ同フスルカ、又ハ全ク感覺ヲ生セルカ以上伯利ノ語

(●例ハ何故ニ證例トルニ足ラザルカ)

○余カ考案ニテハ、以上ノ事迹ハ、是ヲ以テ人類天然ニ道德ノ感覺ヲ有セリトイフ證例ト為スニ足ラズ、其故ニ、此ノ如キ人ニ向ヒテ此事ヲ問フハ、恰モ道德ノ性能ノ未タ開發セザル年齢ニ歳ニ過ギザル小兒ニ向ヒテ、之ヲ問フト大ニ異ナルコト無ケレバナリ、凡ソ人タル者、全ク他人ヨリ教育ヲ受ケズ、又交際ヲ為サバルトキハ、假令成年ニ至ルトモ、其

状態ニ(心ニノミ付テ之ヲ言フ)小児ノ時ト大ニ異ナルコトナカルベシ、  
道德ノ感覺二人ノ性能ヲ開發スル所ノ通常ノ方法ヲ用ヒザルモ、善ク自  
ラ働クトイフコトハ、受合難キコトナリ、今腦ノ機關ニ不足アリテ、知  
慧ノ働ヲ妨クル者アラシニ、其人ハ道理ノ力ヲ失ヒタルヲ以テ、此人ニ  
就キテ道理ノ開發ノ状ヲ試ミントスルハ決シテ得ベキコトニ非ズ、是ト  
同様ナルコトニテ、若シ茲二人アリテ幼年ヨリ暗黒ナル獄中ニ囚ハレ、  
少シモ他人ヨリ教示ヲ受クルコトナク、其心知ノ性能ヲ發スルノ途ナキ  
時ハ、此人ニ就キテ、人ノ性能ハ如何ナル者カトイフコトヲ証セントス  
ルモ、決シテ能ハザルコトナルベシ、前文ニ引ケル學士伯利ガ野蠻ノ兒  
童ニ向ヒテ質問セント言ヒシモ亦之ト同シ事ニシテ又開化ノ極メテ低キ  
蠻民ニ向ヒテ云々スルモ其差異ノ度ハ差小ナレトモ、猶同シ事ナルベシ、

(●●テ号一般●性能ハ何●)

○余カ此書ヲ著ハスノ主意ハ専ラ人ヲシテ明白ニ、良心ナル者ハ人類ノ  
固有シテ、且、世界ノ人衆ニ所有セル者ナルコトヲ理會セシメントスル  
ニ在リ、凡ソ人タル者其性能大ニ開發シ、其成熟ノ度ニ達スル時二人類  
ノ行為ノ道德ニ属スル者ヲ、辨別スルノ力アリ、即チ自然ノ智ヲ以テ此  
行為ハ正ニ属シ、彼行為ハ邪ニ属スルコトトイフコトヲ分別スルハ、此  
良心ノ働ニ由ル者ナリ、

(伯利ノ例ハ混合)

○學士伯利ノ引用セル史迹ハ不都合ナル処アリ、此事迹ハ單一簡純ノ正

邪ヲ考フルコト能ハズシテ混合錯雜ノ正邪ヲ考ヘザルベカラズ、其故ハ  
加愈多拉牛ガ此行為アルノ前ニ先ツ其父母ノ安全ヲ謀ル為メニ、天命ヲ  
受ケ居ル者カ、又ハ、公衆ノ安全ヲ謀ル為メニ、天命ヲ受ケ居ル者カノ  
判断ヲ為サバ、ルヘカラザレハナリ、若シ多拉牛、三人黨ニテ其父ヲ除ク  
時ハ公衆ノ利益ヲ高進スベシト信ズル時ハ、多拉牛ハ其父子ノ愛ヲ棄テ  
公衆ノ幸福ヲ求ムルノ感覺ヲ發セルナルベシ、此ノ如キ時ハ此事迹ハ道  
徳上ニ於テ混淆錯雜ノ場合ニシテハ人々ノ考察モ亦種々一様ナラザルベ  
シ、然レドモ余カ信ズル所ニテハ、世界上ノ人類(縱令少シモ教育ヲ受  
ケザル人ニテモ)ガ此事ニ付キテノ意見ハ、必ス一樣ナル光明ノ中ニ有  
ルナルベシ、

(●●ノ定斷)

○前ニ記シタル多拉牛ノ事迹ニ付キ、極メテ匹當ノ判断ヲ下ス時ハ左ノ  
如シ、曰ク多拉牛ノ父ハ其窮屈ナル義氣ヲ守リタル者ニシテ、其性命ヲ  
悪人ノ手ニ失ヒタル者ナリ、盖此三人黨ハ共和政体ヲ保守セントスル者  
ニ非ズシテ之ヲ破壞セントスル者ナリ、多拉牛ガ其父ノ隱匿所ヲ敵ニ告  
グシハ、極メテ自分勝手ナル意見、即其父ノ善良ニ似ザル不公義不道理  
ノ所行ナリ、若シ此事迹ヲ以テ世界ノ東端ヨリ西極ニ亘レル數千ノ人ニ  
示ス時ハ、其感覺ト判断トハ唯一個ニ歸スベシ、曰ク多拉牛ノ所行ハ甚  
悪ムベキノ行為ナリト、其教育ノ力ニ由リテ道德ノ性能開發ノ度ニ准シ  
テ其之ヲ惡ムノ度ニモ亦高下アルベシト雖ドモ、其所行ヲ以テ善良トス

ル者ハ決シテ一人モ之アルコトナカルベシ、獨リ多拉牛ノ行為ヲ賤悪スルノミナラズ、又其父ヲ殺セシ大將ヲモ之ヲ刑戮ニ処センコトヲ望ムナルベシ、凡ソ野蛮ノ民ノ、其良心ノ發顯其明白ナラズ、之ヲ修養シタル所ノ人ハ其發顯明白ニシテ其力モ至テ強大ナル者ナリ、

## 第二篇 本来ニシテ且ツ一般ナル道德ノ性能

(道德ノ思●●ルコト能ハズ)

○若シ良心ヲ以テ人類固有ノ性能ト為サバ爾時ハ、人ノ道德ノ性能ヲ理會スルハ、何ノ力ニ由リテ之ヲ得ルヤ、他ニハ決シテ之ヲ得ルノ方法ナキヲ知ルナリ、道德ノ感覺ハ只教育修養ノミニ由リテ之ヲ得ルトイヘル意見ハ最モ謬誤ノ意見ナリ、凡ソ人ノ種々ノ單一ノ意想ヲ生スルハ、皆夫々ノ之ニ通スルノ性能アルニ由ル者ニシテ、若シ其性能ナキトキハ、其意想ヲモ生スルコト能ハザル者ナリ、此事ヲ説クニ身体ノ知覺ヲ引キテ其證ト為ス時ハ猶明白ニ其疑問ニ答フルコトヲ得ベシ、今若シ身体ニ視ノ機關ナキトキハ、假令他ヨリ教示スルトモ、光ト色トノ如キ單一ナル思想ヲ造成スルコト能ハザルベシ、又聽ノ機關ナキ時ハ、外ヨリ送リ來レル音声ノ思想ヲ造成スルコト能ハザルベシ、其他ノ諸官ニ於テモ皆同シ事ナリ、此五官ノ外ニ内部ノ知覺ト名付クル所ノ知識ヲ得ルトイフコトモ亦真實ノコトナリ、若シ人ニ味道ノ性能ナキトキハ、假令美功ナル物ヲ見ルト雖トモ、其美好ナルコトヲ知ルコト能ハザルベシ、今マリアリ、馬ニ乘リテ美麗ナル物ヲ見ルニ、乗者ハ大ニ其物ノ美麗ニ感スレ

トモ、馬ハ少シモ之ニ感スルコトハ無カルベシ、馬ノ見ル所ノ物、固ヨリ人ノ見ル所ト異ナルコトナキナリ、道德ノ性能ニ於テモ亦是ノ如シ、我等ニ單純ナル道德ノ思想ヲ發セシムルハ、元來固有ノ性能アレバナリ、否ラザレバ、徳不徳ノ思想ハ人ノ心中ニ發スルコトナリ、人ノ自覺スル所ノ道德ノ當務<sup>○</sup>モ決シテ其感ヲ興スコトナカルベシ、

(利益主義ノ●論)

○余ハ利益<sup>ユイチリタリアン</sup>ノ主義ヲ主張スル所ノ説ニ付テ更ニ論ズル所アラントス、所謂利益主義トハ人ノ行為ノ利益ト為ルカ損害トナルカトイフコトノミヲ察シ、道德ノ當務ハ夫ニ由リテ之ヲ判決ストイフ者ナリ、學士伯利人ニ示シテ謂ヘラク、吾等此利益ノ主義ヲ執ルハ、其中ニ透入スベカラザルノ妙理ヲ有スルヲ以テナリト、

○然レトモ余ハ此主義ヲ以テ無益ノ理論ト為シ、道理ニ依リテ判スル時ハ其説ノ破壊スルコトヲ知レリ、是ヲ判断スルハ他ニ方法ヲ求ムルコトヲ要セズ、其之ヲ人々ノ自覺<sup>○</sup>ニ求メテ可ナリ、

(覺ニ問フ)

○若シ人アリテ、人ノ行為ニ、邪惡トイフ者アルコトナシ、只其行為ノ、明カニ人類ノ幸福ヲ害スルニ由リテ之ヲ邪惡ト名クベシト主張スル者アレドモ、己ノ自覺ヨリ生スル所ノ自證ヲ變改スベシトイフコトハ敢テ之ヲ言ハズ、又之ヲ言フコト能ハザルナリ、此ノ如キ人ハ其心ノ構造世間ノ衆人ト異ナル者ニシテ、此論旨ニ付キテ、中正ナル試験ヲ為スコトハ

決シテ能ハザルノ人ナリ、若シ此ノ如キノ人ニテモ、ヨク注意シテ己ガ自己ノ心ノ働ヲ研究スルコトヲ為サハ、大ニ宜シキコトナルベシ、畢竟此人ノ謬誤ハ、道德ノ善惡トイヘル思想ヲ以テ、全ク利益ノ思想ト別ナル者ト思フニ在リ、然ルニ実ハ此二者ハ其内部ハ其ヨリ密合セル者ニテ、其謬誤ヲ致スハ皆未タ深く考ヘザルヨリ起ルナリ、凡ソ道德ノ行為ハ常ニ幸福ヲ生スル者ニシテ又利益ヲ得ル者ナリ、然レドモ余儕ガ道德ノ品性ニ付キテノ思想ハ、此ノ如キ利益上ヨリ来ラズシテ、専ラ其行為ノ性質上ヨリ来ル者ナリ、是利益主義者ト其説ヲ異ニスル所以ナリ、

### 第三篇 道德ノ性能ノ命令ハ、全世界皆一様ナルヤ否

(不一致ヨリ論スル駁説)

○余カ所論ニ対シテ最モ有力ナル駁論ハ左ノ説ナリ、曰ク凡ソ世界ノ諸国ニ於テ其教育ノ全ク異ナル所ノ国民ハ、同一ノ行為ヲ判断スルニ、一ハ以テ道德ニ協フト為シ、一ハ以テ道德ニ協ハズト為シ、竟ニ一致ニ帰スルコト能ハズ、若シ道德ノ性能トイフ者人類固有ノ一物ナラバ、道德ニ付キテノ判断モ一致ニ帰スルコト、五官ノ万物ヲ覚知スルガ如クナラザルベカラズ、若シ良心ノ命令時代ト土地トニ由リテ異ナルコトアラバ、道德ノ感覺トイフ者ハ教育ニ由リテ之ヲ生スル者ニ非ザルコト無カラシヤ、然ル時ハ、道德ノ性能ハ人ノ本来ノ構造ニ存スルトイヘル説ハ、何ノ據ル所アリテ其勝ヲ制セント欲スルヤ、  
(人間ノ行事ニ道德上ノ差異アリ)

○余之ニ対テ曰ク、世界ノ万国ニ於テ、人民ノ有様高低、一様ナラズト雖トモ、人間ノ行為中ニ道德ノ品性ノ差異アルトイフコト、委ク言ヘバ、或ル事ハ邪惡ナレバ、之ヲ行フベカラズ、或ル事ハ良善ナレバ、之ヲ行フベシトイフコトアルハ、論者モ之ヲ許ス所ナルベシ、  
(全ク相反スルトイフコト能ハズ)

○世界万国ノ中ニ於テ其国人ガ正直ト認め、邪曲ト認メタルコトニ全ニ相反シタルコトアリトイフコトハ論者ハ之ヲ強辨スルコト能ハザルベシ、論者カ執論スル所ノ意見ノ差異ナル者ハ実ニ些少ナル差異ニシテ、若シ其事ノ全体ノ善惡ヲ論ズル時ハ亦俱ニ一致ニ帰スル者ナリ、余ガ前ニ言フ所ノ品性ノ差異ナルコトニ付キ、其原基トナル者ニテ下ヲ擧クベシ、何レノ国、何レノ族、何レノ人種ニ於テモ、他人ニ害ヲ為スコトヲ以テ、有徳合宜ノ事ト為ス者ハ決シテアルベカラズ、又他人ノ性命ヲ保護スルヲ以テ、他人ノ性命ヲ奪フヨリ善事ナリトスル者ハアルベカラズ、又忘恩ヲ以テ(事實、諸国ニ於テ普ク行ハルレドモ)称賛スベキコトト為シ、詐偽騙局ヲ以テ、忠実公正ヨリ貴シトナス者ハ決シテアルベカラズ、  
(人ノ品行ニ付キテ一般ニ相場ヲ以テ試ム)

○何レノ国ニ於テ、人ノ行為ノ仕方ニ由リテ、人ノ品性ニ殊別ノ價ヲ付スルアリ、或人ハ一般ノ相場ヲ以テ是ヲ善人トナシ、或人ハ同ジク之ヲ惡人ト為ス、善人ト為リタル者ハ人ニ敬重セラレ、惡人ト称セラレタル者ハ人ニ賤惡セラル、此ノ如ク良善ノ声名ヲ得タル所ノ行為ハ、他ノ二

三ノ国ニ於テ之ヲ悪行ト認ムル者ナシ、万国皆此行為ヲ以テ賞賛スベキ者トスルナリ、而シテ又良善ナル行為ハ、決シテ悪シキ声名ヲ得ルトイフコトナシ、

(習慣ハ道德ニ判断ノ有無ヲ定ムルコト能ハズ)

○凡ソ人民ノ行為ハ、是ヲ以テ其心中内部ノ如何ヲ試ムルノ方法ト試験器ト為スコト能ハズ、人タル者ハ、心ニハ其不可ナルコトヲ知レドモ、尚其行為ヲ中止スル能ハザルコトアリ、誘惑ノ力及ヒ怠肆ノ習慣ハ、良心ノ證覺ニ管セズシテ、身ニ悪事ヲ行ヒテ止マザルコトアリ、故ニ習慣ヨリ出タル行為ヲ見テ、其人ノ行為ハ、良心ノ命令ト一致セルヤセザルヤヲ定メントスルハ、甚不慥ノ決断ナリ、今此事ハ一個人ノ上ニテ言タルコトナレドモ、一国民ニ付テモ、一族民ニ付テモ亦同ジ事ナリ、此等ノ人民、其祖先以來受ケタル所ノ習慣ハ、道德ノ感覺ニテ良善ナリトスルコトト相合ハザルコトアリ、然レドモ其民其内ニ在リテ教育ヲ受タルニ由リ、其習慣ノ力極メテ堅固ニシテ自然ニ之ニ従フコトトナルナリ、

(貼用ノ誤)

○今日ノ行為ト道德ノ主義ト全ク反対ニ進行スルノ事実ニ尚審ニ説クトキハ、更ニ左ノ一事アリ、其行フ所ノ主義ハ、正シケレドモ、其無智ナルヲ以テ之ヲ事実ニ貼用スル時、其主義ヲ誤用スル者は是ナリ、

(子ヲ殺ス人)

○父母タル者、自ラ手ヲ下シテ其女子ヲ殺スガ如キハ(支那ニ於テハ此

習慣甚多シ) 其主義ハ、女子ハ此世界ニ於テ、幸福ヨリハ不幸多キ者ナリ、故ニ其父母ノ之ヲ殺スハ、反テ彼ヲ恵ム所以ナリト、殺人者ガ此事ヲ為スニ、父母タル者ハ最モ其子ノ利益ヲ謀ラザルベカラズト、主義ハ正當ノコトナリ、兄之ヲ殺スニ至ルハ其貼用ノ謬誤ナリ、彼老タル父母ヲ棄ツルトイフモ是ト同一ノ主義ニシテ、已ニ世界ノ幸福ヲ受享スルコト能ハザルニ由リテ、之ヲ委棄スルトイヘルナリ、

(異教ノ残酷)

○又異教ノ徒ガ教法ノ奉事ノ為メニ残酷ヲ所行ヲ為スガ如キモ(妻、其夫ノ死屍ト共ニ火中ニ投身シ、甘ンジテ其子ヲ安日)カンジス河ニ投ジ、シヤグ聖地ゲルナウト開闢ニ於テ自ラ車輪ニ輾殺セラルノ類)之ヲ行フ者ノ主意ハ、上帝此事ヲ望ムヲ以テ、其上帝ノ心ヲ喜バシムルハ、其身又ハ朋友ノ幸福ヲ得ルノ道ナリトシテ之ヲ行フ者ナリ、其上帝ノ意ニハ、吾身ヲ棄ルモ之ニ従ハサルベカラズト謂フハ真理ニ協ヘリ、然レドモ上帝此ノ如ク人ヲ殺スコトヲ好メルト思フハ、思想ノ誤謬ナリ、

第四篇

世人ガ一樣ニ道德ノ判断ヲ為スノ境界ハ何レノ所

ニ及ベル、

(道德ニ於テノ最初ノ真理)

○道德ノ論旨ハ其及ブ所至テ廣ク、其特別ノ場合ニ於テハ、甚入込タル事情ヲ生スルコトアリ、又人タル者ハ或ハ道德ノ主義ヲ知ラザル者アリ、或ハ之ヲ知ルト雖トモ、他ヨリ受タル教育ノ状ニ由リテ誤謬ヲ生スルコ

ト等ノ事情アルヲ以テ、道德ノ主義ニ付キテハ、他ノ事實耳目ノ類ヨリ、人ノ意思ニ大ナル差異不同ヲ起スコトアリ、然レトモ人類ノ知識ニ付キテ眞実ニアルコトハ、道德ノコトニ付キテモ亦眞実ニアルハ決シテ疑ナキノコトナリ、凡人タル者已ニ其道理ノ働ヲ有スルニ至ル時ハ、自己ノ天聰ヲ以テ自己ニ證覺スル所ノ真理アリテ、自然ニ心ノ中ニ發現スルナリ、此根元ノ真理ニ基キテ見ル時ハ、人ノ意思ニ差異アルトイフハ無キコトナリ、世界ノ衆人、道德ノ根元ノ真理ニ付キテ殊別ノ考察アルトイフコトハ甚信用シ難キコトナリ、其故ハ人々此事ニ深く注意スル者少ナク、嘗テ道德ノ論旨ノ上ニ返照シテ之ヲ考察シタル者無ケレバナリ、今不公義ノ行為ヲ衆人ノ目前ニ於テ之ヲ行ヒ、千人ノ人ヲシテ之ヲ視セシムル時ハ、千人只一思想一感覺タルコト疑ナシ、例ヘハ今力量アル二人、強テ己ヨリ弱キ人ニ逼リテ其財物ヲ奪ヒ取り、之ヲ取ルトキハ、只之ヲ貪ルノ外ニ道理ナキ時ハ、衆人尽ク其所行ヲ以テ罪アリトセザル者ナシ、又人アリテ他人ヨリ巨大ノ恩恵ヲ受ケシコトアルニ、惟其恩ヲ報セザルノミナラズ、反テ恩ニ報ユルニ怨ヲ以テスル時ハ、衆人皆其行為ヲ以テ邪惡ナリト判断スベシ、又人君タル者有罪者ヲ赦シテ、無罪者ヲ罰スル時ハ、世人皆之ヲ以テ道德上ノ害惡ナリトスベシ、道德ノ原理ニ付キテ、衆人ノ說皆一致ニ帰セズトイフコトハ、事實ニ於テ決シテ無キコトナリ、此点ニ付テノ判断ノ衆人一致ナルコトニ箒術ノ用語ノ尽ク一致ニ帰スルガ如シ、又星象燦爛タル者蒼天ハ、百人皆之ヲ見テ廣大美麗ナリトスル

ガ如ク、草木ノ色、緑ナル、虹ノ諸種ノ色アル万人ノ見ル所皆一樣ナルガ如シ、

(駱克)

○學士駱克ハ、生来ニ真理ヲ固有スルト云フ說ヲ非ナリトシ、此道德ノ根理ヲ以テ不堅固ナル者ト為サント欲セリ、

(天性ノ判断)

○若シ天性ノ道德ノ判断ヲ以テ、憑ムニ足ラズトスル時ハ、道德ノ職分ニ付キ恐ルベキ謬誤ノ中ニ落入ルハ期シテ待ツベキノ筈ナリ、殊ニ此全体論ヲ以テ各個ノ事物ニ貼合サスル時ニ於テハ猶更ノコトナリ、世間ノ人必シモ皆道理ヲ推究シテ事ヲ決スル者アルニ非ス、或ハ之ヲ推究スルモ、甚惡シク推究スル者アリ、或ハ正シキ道理ニ依リテ却テ不正ノ決定ヲ為ス者アリ、又世間ノ人多分ハ己ガ教ヲ受タルコトヲ以テ良善ナリト信ジ、又ハ世間流行ノ感覺ノ為メニ其意見ヲ支配サル、者アリ、又ハ己ノ利益ニナルベキコト、己ノ感覺ニ一致スルコトヲ以テ真理ト思フコトアリ、加之、人ハ多ク感覺ト血氣トニ使ハル、者ニテ、此二者ハ屢ヨク人ノ心ヲ擾リ、人ノ判断ヲ一方ニ傾向セシムル者ナリ、

以上記スル所ノ諸因ニ據リテ考フル時ハ、道德ノ行為ニ付キテノ判断ハ、常ニ其正路ヲ誤ルベキ筈ノ者ナルニ似タリ、然ルニ事實上ニ於テハ決シテ此ノ如キコトナク、万人其心ニ生スル所ノ道德ノ真理ハ尽ク一樣ニ帰シテ決シテ差異アルコトナシ、又彼巧詐家ソヒチカルノ論理ノ如キハ、其說ク処全

ク人生本来ノ道理ニ反シ、之ヲ學ブ者ヲシテ、背理ノ決定ヲ得シメ、偽計ノ如キモ、此論理ニ於テハ猶可トスル者アリ、然レドモ是等ノ邪説ノ力ヲ以テ造為スル処ノ判断ノ習慣ハ皆勒逼ニ由リテ成ル者ニシテ、此教ニ従フ人トイヘドモ、尚天性ノ真理ヲ信用スルノ力ハ十分ニ威勢ヲ持チ居ル者ナリ、此ノ如キ天性ニ戻ル所ノ教養ニ由リテ得ル所ノ一致ハ、擇

(教長霸基黎)

ンテ之ヲ取ルニ非ズ、皆已ムコトヲ得ズシテ之ニ歸シタル者ナリ、教長パーケレー霸基黎、常ニ吾身ノ外ニ、世界ニハ一物モナシトイフ説ヲ主張シ、其他ノ學士、霸氏ノ此論ヲ以テ毫モ瑕瑾ナシトスル者多シ、然レドモ其万物ナシトシテ説ヲ立ルハ、平日万物ノ有ルヲ信スルヨリシテ生スル所ノ疑ナリ、上帝アテイスチカルヲ信セサル理學及耶穌イシフヒデヲ信セサル理學者ハ、屢々正ト邪トノ間ニ本来ノ差別ナキモノナリト説ケリ、或ハ其中ニ於テ此意見ハ全ク真理ニ協ヘリト主張スル者アリ、然レドモ、此ノ如キ論者ハ、若シ他人又ハ此人ノ朋友ニ対シテ甚シキ不公義ヲ行ヒシトキ猶其行為ヲ以テ、道德上ノ惡事ト思ハザルカ、又此人自ラ私欲ヲ離レタル仁恵ヲ行ヒタルトキ、自之ヲ以テ道德上ノ善事ナリト思ハザルカ、

第五篇

良心ハ悟性アンダルスト同シ者ナルカ、又ハ夫ト異ニシテ、別ニ獨立

セル者ナルカ

(疑問ノ有様)

○或人ハ謂フ、道德ノ感覺及ヒ判断ハ、一種特別ノ知覺ノ働ニシテ、此知覺ベルゼンノ了解ト感覺トハ、悟性ト相關セザル者ナリト、此理論ヲ主トスル者ハ又謂フ、若シ心ノ状態、常ヲ變スルコトナキトキハ、良心ノ命令ハ、甚タ正実確当ナル者ナリト、

(真理ヲ先論ス)

○或人ハ又謂フ、良心ノ命令トイフ者ハ、即チ悟性ノ判断中ノ道德ノ職分ニ管セル者ナリ、故ニ悟性ノ判断若シ誤リテ其當ヲ得サル時ハ、其謬誤自然ト良心ノ判断命令ニ推及スル者ナリト、此論題ヲ明白ニシテ、暗昧混雜ノ域ヲ脱セシメンガ為ニ、余今左ノ論説ヲ述ヘント欲ス、

(混合セル働)

○第一 道德ノ性能、即チ良心ノ働トイフモノハ、只單一ナル知恵インテリノ働ニ非スシテ、二個ノ事物ヲ混合シタル働ナリ、二個トハ、一ハ判断ニシテ、一ハ感動エキナリ、感動トハ特別ナル種類ノ感覺ナリ、

○第二 凡ソ心ノアラユル判断ハ皆悟性ニ属スル者ナリ、此包含多キ性能ハ、総テノ知慧ノ働ヲ包括スル者ニシテ、外物ノ管スルコトモ、數學ノ管係モ、天然ノ美麗モ、超上ノ義即道德ノ職分モ皆其内ニ包含スルナリ、夫故ニ良心ガ道德ノ論旨ニ付キテ判断シ得ルダケハ、悟性ノ働ノ其処マデ及ビタルナリ、吾儕有形界ノ真理ヲ知ル為メニ一ノ性能ヲ持チ、數學ノ理ヲ決スル為メニ、又別ニ一ノ性能ヲ所持シ、味道ノ為メニ又別ノ性能ヲ所持スルトイフ理ハ決シテナキコトナリ、唯是等ノ諸題目ヲ判

断スル為メニ、一個限りノ悟性ヲ所有シ居リ、目的ノ替ルニ従フテ夫々ノ働ヲ為ス者ナリ、夫故ニ吾等ノ黙想スル所ノ目的若シ道德ノ性能ニ在ル時ハ、其考慮シ判断スル所ハ道理、即チ悟性ト別種ノ性能ニ非スシテ、畢竟ノ他ノ題目ニ付キテ働キタルト同ジ物ナリ、而シテ其差異アルガ如ク見ユルハ、其目的トスル所ノ異ナルヲ以テナリ、故ニ吾儕ガ判断スル所ニテハ、良心ガ、智慧ノ働、即チ心ノ判断ヲ為シ居ル間ハ、猶悟性ノ下ニ属スル者ナリ、

「道學大意譯稿」 解題

「道學大意譯稿」は、八二七―一七三「道學大意譯稿」に単独でまとめられている。標題は、はじめは「道學大意譯稿 卷一」であったが、卷一を赤線で見え消している。内題は、「道學大意」となっている。

この資料は Archibald Alexander (一七七二―一八五二) の *Outlines of Moral Science* の部分訳である。道學は、*Moral Science* の訳語である。

*Outlines of Moral Science* は、著者の没後、一八五四年に出版されている。Chapter I から Chapter XXX まで、全二五四頁である。それぞれの Chapter ごとに内容が簡略に示されているほか、さらに、小見出しをつけて、内容のまとめをはかっている。

西村が翻訳したのは、本文冒頭から Chapter V の中途、原書四二頁の第一段落までである。小見出しは欄外に記しているが、前半までのところでは、スキヤンの折に上部が切れているため、判読出来なかった。

Archibald Alexander は、アメリカのプレスビテリアンの神学者で、プリンストン神学校の初代校長となり、教授としても長くつとめた。

第七篇 国家ニ対スル職分

七十五章 社会ノ三類

シセロ及ビフェネロン共ニ人類ノ間ニ三種ノ社会アルコトヲ言ヘリ、第一ハ人類ノ全体ヲ包括スルモノ、最後ハ尤モ界限ノ狭キものハ之ヲ家族ト名ク、此家族ト人類全般トノ間ニ全体ワリ小サク、家族ヨリ大ナル一ノ社会アリ、是ヲ国家カウニオント名ク、

七十六章 愛国

吾等ヲ以テ我国ニ決着スル所ノ感覺アリ、是ハ明白一人ノ職分ナレリ、之ヲ愛国ト名ク、余儕ハ他處ニ於テ愛国ノ義ヲノ分解セシコトアリ、今其類ヲ爰ニ擧ゲベシ、

愛国ハ吾等ノ感覺ノ尤モ錯綜シタル者ノ一ナリ、愛国ハ許多ノ原質ヲ以テ組織セリ、第一ニハ我生レタル所ハ甚狭小ノ都ナリ、其地ハ余ガ眼目ト回想トヲ以テ包圍シスベキ者ニシテ、即チ我出生ノ村落又ハ都府ナリ、此感覺ハ国家ヲ包圍スルニハ足ラズ、我生地ノ寺院ノ塔ヲ愛スルハ愛国ニハ非ズ、寧却テ之ニ反対スル者ナリ、土地ハ段々ニ推廣メザルベカラズ、初メニ我生レタル家ヨリシテ村里夫ヨリ市邑、郡、州、全国トイフ様ニ増加シテ大キクセザメベカラズ、然レドモ何物ヲ以テ此土地ノ廣サヲ定ムベキカ、何人ガ是マデハ国ニ

シテ是以外ハ国ニ非ズトイフコトヲ定ムルヤ、是ヲ定ムルニハ又幾多ノ原質アリ、第一ニハ、居民、同郷人、同国人ナリ、荒漠無人ノ地ハ国家ニ非ズ、土地ヲ愛スルトイフニハ、我ト其地ニ同居スル人ヲ愛スルノ義ヲ加ヘザルベカラズ、即我等ノ同国人ヲ愛スルノ義ヲ加ヘザルベカラズ、遊牧ノ民ニ於テハ、国ハ只彼らノ部落ナリ、之ニ反シテ土地ナキ所ノ都人ハ亦国ニ非ズ、其故ハ一般ノ放逐ハ其人數ハ多キモ亦国ヲ成スコト能ハズ、又土地ト人民トノ聚合モ亦シモ国ヲ成スコト能ハズ、敗亡ノ国ハ尚其土地ト人民トヲ有セリ、然レドモ国ハ已ニ之ヲ失ヘリ、例ポランドバ彼蘭ノ如キ是ナリ、然ラバイカナル結合アリテ国ヲ成スコトヲ得ルカ、国ノ結合ヲ為ス所以ノ者ハ數種アリ、曰ク言語ノ同一、曰ク法律ノ同一、曰ク国旗ノ同一、曰ク歴史ノ傳統等ニシテ、其上ニ政府ノ同一、殊ニ人民ガ喜ブ所ノ政府ノ同一、是ナリ、然ル上ニ政治上ノ獨立ヲ保チタルトキニ国ヲ成スナリ、政治ノ同一アリトモ、他ニ欠失アルトキハ亦国ヲ成スコトヲ得ズ、モシ同一ノ政治ノ下ニアル所ノ国民ノ各異ノ風俗習慣傳統ヲ有スルトキハ、政治ハ妨碍ヲ受クルナリ、又之ニ反シテ言語ノ同一、習慣ノ同一ノ如キハ、モシ政治ノ同一、即チ或ル政治同一ノ形体ヲ欠失スルトキハ、十分ニ国ヲ成スコト能ハズ、然レドモ其事他ノ物ヨリ前ニ、国ヲ作ルハ何ナルカトイフハ、是ハ共通ノ精神、共通ノ灵魂ナリ、約シテ之ヲ言ヘバ共通ノ名ニシテ、其国ヲ為スニ必要ナル各々ノ事實ヲ合セテ一ツニ溶解セル者

ナリ、然レドモ、夫ニ付キテ、其各ノ物ハ、国ノ堅固ヲ増ス為メニ、加附シタル原質ナリ、徐最後ニ言フベキハ、羅馬帝国ノ如ク、甚多キ土地ニ跨リタル国ハ、亦国ヲ成スコト能ハズ、其故ハ国ノ廣大或ル界限ノ外ニ出ルトキハ、愛国心ハ却テ衰ヘル者ナレバナリ、

○造物者本来吾等ニ愛国ノ感覺ヲ附與シタルニ非ズ、凡ソ世間ニ己ノ国ヨリ他国ヲ愛スル者ハアラズ、自国ノ名誉ヲ揚言セザル者ハアラズ、其本国ガ降伏又ハ他ノ災難ヲ負ハザル者ハアラズ、然レドモ此感覺ハ人々ノ稟賦ニ依リテ其強弱一様ナラズ、或ハ只感覺ノミニ止マリテ行為ニ現ハレザル者アリ、愛国心ヲ以テ職分トスルハ、再現力ナリ、即チ此職分ハ其感覺ヲ進メテ行為ト為サシムルヲ要望スルナリ、而シテ國中ノ市民ハ各人別々ノ意向アルモ尚同一ノ行為ヲ為サシメンコトヲ要望スルナリ、

○人民ハ何レモ各種ノ社会ノ仲間ナリ居ルナリ、此人民ヲ負荷セシムル職分ヲ国民ノ職分シビルヂト名ク、其社会ニ在ルヨリシテ此人民ヲ市民シビト名ク、而シテ此社会ハ前ノ市民ヲ以テ仲間トシテ組立タル者ナレバ之ヲ国家トステ又ハ都府トシテト名ク、

○合セテ之ヲ言フトキハ、国トカオシトハ同一ニシテ、其間ニ區別ナシ、国ハ或時ニ於テハ社会及ビ土地トニ同ジ、若シ之ヲ一家族ト市民ヲ兒子トシテ見ルトキハ之ヲ国家ト名クベシ、又他ノ国民又ハ他ノ社会トノ干係ニ於テ見ルトキハ同ク国家ト名クベシ、国家ハ其土地ニ付

キテ考察セズ、只之ヲ組織セル人民ノ仲間ニ付キテ考察ヲ下シ、此仲間ハ合シテ一体ノ物トナリ、法律ノ支配ヲ受クルトイヘル内部ノ状態ヨリ觀察スルトキハネ社会ト同一ニシテ、只以上ノ諸点アルニ由リテ、其名ヲ異ニセル者ナリ、国トイフ語ハ、其感覺ニ於テ、密ニ聚合シテ其ノ活潑ノ意味ヲ含メル語ナリ、国家ハ道理ニ付キテ言フ者ニシテ、殊ニ抽象ノ意味ヲ有スル語ナリ、余ハ更ニ公共ノ威權及ワウ立ノ性質ヲ解釈スルトキハ、国家トイフ語ニ依リテ、イカナル義ヲ理会スベキカ、猶下ニ之ヲ詳説スベシ、

#### ○第七十七章 国家ノ基礎 權利

国家ノ性質及ビ威權、主權、官職、法律トハ何物ナルカトイフコトヲ理会センガ為メニ、先第一ニ權利ノ義ト及ビノ多種類アルコトヲ解説セザルベカラズ、

○義務（職分）ハ吾等ガ吾身ニ対シ、又他人ニ対シ為サバカラザル所ノ法則ナリ、是ヲ名ケテ道德ノ必須モラルネトイフ、權利ハ吾等命運ニ一致シテ働ク所ノ性能ノ力ニシテ、又他人ニモ同一ノ力ヲ許スル者ナリ、是ヲ名ケテ道德ノ力（ライプニツツ）トイフ、ミナ自由ト知慧トヲ受タルヲ以テ皆之ヲ人トイフベシ、決シテ物トシテ扱ハルベキ者ニ非ズ、古人曰、人ハ人ニ対シテ神聖ノ物ナリト、故二人ハ其人タルコトト、其人タルコトヲ發達スルコトニ於テハ破壊障礙ヲ受クルコトナシ、（七十八章） 人間ノ權利

人間ノ權利ノ首要ナル者ハ何ゾ、曰ク自身ヲ保持<sup>セル</sup>スル<sup>ベシ</sup>スルノ權利、  
往來ノ權利即チ個人ノ權利、動作ノ權利、財産ノ權利、思想ノ自由、  
良心ノ自由、家族ノ權利ノ類ナリ、

○又、人ハ最後ノ權利アリ、是ハ衆人ノ認許スル所ナリ、是ハ他人ガ我  
權利ヲ破ラントストキハ、我力ヲ以テ之ヲ防グノ權利ナリ、是ヲ他  
人ヲ強逼シテ我權利ヲ認メシメ、全ク破ルトキハ之ヲ罰責スルナリ、  
是權利ヲ總テ名ケテ、自防ノ權利トイフ、

(七十九章) 公共ノ威權

人ハ他ノ攻撃ニ抵抗シテ自防スルノ權利アリトイフヨリシテ、若シ一  
人ニシテ他人ノ援助ヲ得ルニ遠キトキハ余他ノ權利ヲ弄スルコトアリ、  
然レドモ此ノ如キ權利ヲ振フハ、社会ノ為メニ甚危殆ニシテ又不適當  
ナリ、人タル者我意思又ハ我欲望ニ反対スル者アルトキハ、常ニ其人  
ノ權利ヲ害センコトヲ考フル者ナリ、又人タル者ハ何レノトキニ於テ  
モ、自防ノ權利ヲ許サル、ヨリ”シテ、常ニ他人ヲ我武器ノ下ニ押付、  
此ノ如キ行為ヲ防グ為メニ、之ヲ整定スル力ナキトキハ、社会ハ彼ホ  
ツプスガ言フ如キ”衆人ニ敵シタル衆人ノ戦争”トナルベシ、故ニ此  
時ニハ国家トイヘル不偏不党ノ勢力ヲ以テ総テノ人ノ自防ノ權ヲ手ニ  
把リ、自防ニ付キテ、適當ノ働ヲ為スコトヲ保証スルハ極メテ必要ノ  
コトナリ、是ヲ名ケテ公共ノ威權トイフ、

(八十章) 社會ト国家

社會ト国家トハ一ハ天然ノ社会、一ハ政治ノ社会ナリ、今此二者ノ区  
別ヲ論ゼザルベカラズ、

社會トハ其根原ノ區別ナク、外面ヨリノ制抑ナク、只世人ハ皆人ナリ  
トイフ道理ニ依リテ、人々ノ間ニ成ル所ノ結合ナリ、ロッキハイヘリ、  
今英人ト印度人ト亜米利加ノ曠野ニ出遇ヒタリ、ロビンソン及ビブラ  
イデイ、此ノ如キヲ只是普通ノ天性ニノミ依ル者ニシテ、即チ社會ノ  
有様ナリ、

政治ノ社会、即チ国家ハ共同ノ威權、共同ノ法律、ニ從ヒタル人類ノ  
聚合ナリ、其相互ノ權利ヲ承認スル為メニ公共ノ力ニ依リテ制抑セラ  
ル、所ノ社會ナリ、

(八十一章) 三力

国家トイヘル想念ノ中ニハ、二个ノ必要アル元質ヲ包含ス、其一ハ法  
律、其二ハ勢力ナリ、法則ハ預メ之ヲ前ニ定メ、其後二人ヲシテ戒慎  
セシム所ノ普通ノ規則ニシテ、抽象ニ之ヲ言ヘバ各人ノ權利ナリ、勢  
力ハ執行スベキ法律ヲ以テ武器トセル公共ノ力ニシテ、有形ノ制抑ナ  
リ、此二个ノ元質アルヨリシテ、国家ニ二个ノ力アリ、一ヲ立法ノ力  
トイヒ、二ヲ行法ノ力トイフ、一ハ法律ヲ作ル者ニシテ、一ハ法律ヲ  
執行スル者ナリ、又之ニ一个ノ力ヲ加フルヲ普通ノ法トス、即チ審判  
ノ力、是ナリ、是ハ法律ヲ応用シ、又之ヲ解釈スルノ力ヲ與ヘラレタ  
ル者ナリ、

(八十二章)

主權ソウケン

此三方ハ其發生スルノ根原アリ、之ヲ主權ト名ク、何レノ国家ニ於テモ、主權ハ統治權ニシテ、上ニ記セル三權ヲ所有シ、又之ヲ差遣スルナリ、獨裁君主国ニ於テハ、主權ハ君主ニアリ、君主ハ自身ガ立法行政ノコトヲ行ヒ、時トシテハ又、審判ノカヲモ行フコトアリ、民主国ニ於テハ、主權ハ、市人、即チ国民ノ全体ニアリ、国民ハ三權ヲ差遣シ、或ルトキハ自ラ之ヲ執行スルコトアリ、

主權ノ根元ニ付キテ、或ル兩説ノ互ニ反抗スル者アリ、其一ハ上帝ノ權理、其一ハ人民ノ主權、是ナリ、第一ノ場合ニテハ、主權ハ上帝ヨリ發出シ、或ル民族ヲ擇ビテ之ニ命ズ、第二ニ於テハ、社會ハ一個人ト同ジク自由ナル決断者ナリ、而シテ主權ハ此者ニ属ス、社會ハ社會ノ命運ニ付キテ責任ヲ有シ、全社会皆同一ニ此主權ヲ有ス、或ル種族ノミ他ノ種族ニ勝レテ、各人ノ命運ヲ判決スルノ特權ヲ有スルカ甚疑ハシキコトナリ、故ニ人民ノ主權ナル者ハ、公共ノ勢力ニ分配ヲ得タル各人(自身タルト代人タルトヲ問ハズ)ノ權理ニ外ナラズ、此原理ハ漸々ニ開明セル国家ノ間ニ擴張スルナリ、

(八十三章)

政治上ノ自由

政治上ノ自由トハ、各市民ガ自己ノ權利ニ於テ、正当ナル行為ヲ無難ニスル所ノ担保ナリ、故ニ政治上ノ自由ハ国民ノ自由ノ制裁ナリ、此担保ノ主要ナル者ハ、第一ニ發言ノ權利、之ハ各人ガ主權ノ配分ヲ

得タルヲ無難ニスルナリ、第二ニ勢力ノ分配、是ハ国民ノ衆人ノ手ノ中ニ、行政力、立法力、審判力ヲ分配スルナリ、第三ニ出板ノ自由、是ハ小數人ノ權理ヲ無難ニシ、多數ノ人ノ思想、意見ヲ改正變化スルノ主意ニ用フルヲ許シタル者ナリ、

(八十四章)

刑罰ノ權利

国家ニ刑罰ノ權アルハ、制抑レステノ權ヨリ出ルナリ、制抑ノ權ハ上ニモ言タルガ如ク、国家ノ思想ニ固有セル者ナリ、其故ハ国家ハ只各人ノ權利ヲ慥ニスル為メニ成立スル者ニシテ、其事ハ只制抑ト勢力ヲ用フルシニ由リテ為スコトヲ得ベケレバナリ、問、此勢力ノ權利ハ何程ノ所マデ及ボスコトヲ得ベキヤ、例ヘバ人ノ生命ヲ奪フコトヲモ為スコトヲ得ベキヤ、此疑問ハ、公法学者ノ問ニ於テ其爭論ハ未ダ止マザルナリ、此事ハ前ニ已ニ之ヲ論ゼリ、(五十五丁及ビ其次)

此集合セル意見ニ由リテ、国家安定スル所ノ原理ト此思想ノ中ニ入ル所ノ真実ノ元質ヲ定メタル後ニ於テ、余ハ国民道德ノ適當ナル目的ニ近クノ準備、即チ市民ノ国及ビ国家ニ對シテ行フ所ノ職分ヲ説カント欲ス、

(八十五章)

国民ノ職分

此職分ハ左ノ如シ、曰ク、法律ニ服従ス、曰ク、上司マシストヲ尊敬ス、曰ク、投票ボト、曰ク、軍役、曰ク、教育ノ義務、是ナリ、(八十六章)

法律ニ服従ス

國民ノ職分ノ第一ハ法律ニ服従ハスルコトナリ、此道理ハ自ラ明白ナリ、國家ハ法律ノ上ニ安定スル者ナリ、一個人ノ意思ハ多少感情ノ為メニ動カサレ、自己ノ利益ノ為メニ支配サル、者ナリ、故ニ共通シテ偏頗ナキ所ノ規則ヲ以テ之ニ代フ、是則チ法律ナリ、法律ハ全体人民ノ保証ナリ、法律ハ勢力ニ反対ス、而シテ法律ヲ以テ公義ノ使役ト為シ、公義ヲ以テ勢力ノ奴隸ト為サズ、パスカル曰ク、ストロンツ強力ヲ以テ公義ヲ執行スルコト能ハズ、故ニ世人ハ強力ノ公義ナランコトヲ希望スルナリト、此言ハ人ヲ惡ム者ノ滑稽ナリ、實ニ法律ハ公義ヲ行ハントスル勉力ヲ失ヒテ、常ニ公義ナルコト能ハズ、其謂レハ、利益上ニ至極ノ錯雜アリテ、此兩者ノ間ノ真正ノ均衡ヲ得ルコト難ケレバナリ、然レドモ法律ハ強力ノ權利ヨリ正義ナルニ相違ナシ、若シ法律ナキトキハ強力獨リ其權利ヲ振フナルベシ、

故ニ法律ノ領分ハ、武者会ノ秩序ヲ保チ、社會ノ各人ニ擁護ト平安トヲ與ヘ、是ニ由リ、人々其事業ニ力ヲ尽スコトヲ得（知識ト有形トヲ問ハズ）、而シテ是ヨリ利益ヲ獲得スルコトヲ得ル者ナリ、

法律ハ内部ニ於テ秩序ヲ保証スルト同時ニ、又外部ニ向ヒテ國民ノ獨立ヲ保護スルナリ、何則國民ニ法則ナキトキ、或ハ全ク法律ニ服従セザルトキハ、其國ハ無政府トナリ、此地ニ侵入シタル第一ノ勝捷者ノ獲物トナル、波蘭ノ歴史ニ依リテ之ヲ知ルベシ、

民主共和政治ノ國ニ於テハ、法律ニ服従スルハ、尤モ必要ニシテ亦尤モ困難ナリ、

（モンテスキエ）  
孟的士咎ハ、民主政治ニ於テ法律ニ服従スルハ甚困難ナレドモ亦甚ダ必要ナルコトヲ巧ニ之ヲ論ジタリ、實ニ他ノ政体ハ、制抑ヲ以テ服従ヲ為サシムルコトヲ得レドモ民主政治ニ於テハ、惟市民ノ意思ニノミ任カセザルベカラズ、

孟氏ハ左ノ如ク言ヘリ、君主政ニ於テハ、法律ヲ執行スベキ人ハ、法律ヨリ上ニ在リ、此ノ如キ政体ニ於テ、之ヲ民主政ニ比スルニ、其道徳ヲ要スルコト少ナクシテ足レリ、民主政ニ於テ、法律ヲ執行スベキ人ハ、自ラ法律ニ服従セザルベカラズ、而シテ其法律ヲ破ル所ノ効果ヲ其身ニ負担セザルベカラズ、

又、君主政ハ、惡シキ叙言又ハ怠慢ニ由リテ、執行スベキ法律ヲ止息スルコトアルモ、容易ニ其過ヲ改ムルコトヲ得ベシ、則チ其評議役ヲ引替ヘ、及ビ自己ノ怠慢ヲ改ムルトキハ之ヲ改良シ得ベシ、然レドモ民主政ニ於テハ、徐の執行スベキ法律ノ止息シタルトキハ、徐の共和ノ腐敗ニ由リテ生ズルコトナレバ、國家ハ忽チ敗亡スルナリ、”

孟氏夫ヨリ強力ニシテ活潑ナル面色ヲ以テ、共和政体ガ法律ニ勢力ヲ

與フルノカナキコトヲ記セリ、

此ノ如キ人民ハ法律ヨリ自由トナレリ、彼らノ法律ナキジュウヲ得ンコトヲ望メリ、各ノ市民ハ主人ノ家ヨリ逃レタル奴隸ノ如キ状態ナリ、以前ニ法則ナリト稱シタリシ者ヲ以テ今ハ嚴罰ナリト稱シ、前ニ規則ナリシ者、今ハ制抑ナリトシテ之ヲ嫌ヒ、初メニ注意ナリシ者ハ今ハ恐怖トシテ之ヲ厭ヘリ、此ノ如クシテ共和政ハ分ケ取りノ物トナリ、徐ノ勢力ハ少数人ノ力ニ歸シテ、公衆ハ皆肆行度ナキニ至レリ、”

雅典及ビ羅馬ノ共和政ニ於テ、其隆盛強大ナル間ハ法律ノ力ニ甚驚クベキ者アリ、<sup>(ツクラテス)</sup> 瓊氏ハ其国市民ノ為メニ不公義罪セラレ、ヘムロツクヲ飲ムノ刑ヲ受ケタリ、即チ毒死ノ刑ヲ受タリ、其時彼ノ友人ハ瓊氏ニ強テ遁逃スベシト勸メタリ、而シ遁逃ノコトモ亦極メテ容易ナルコトヲ知り、判官ノ如キモ皆瓊氏ノ死ヲ免レシメンコトヲ望ミタリ、然レドモ瓊氏ハ其言ヲ聴カズ、其身ヲ免カレシムルノ方法ヲ行ハザリシナリ、其遁逃セザル主ナル道理ハ、已ニ其国ノ法律ニ依リテ刑ヲ受タルコトナレバ我身ヲ免カレントスルニハ、唯其国ノ法律ヲ破ラザレバ之ヲ為スコト能ハズトイフコトニアリ、

此事ハ、<sup>(フラトシ)</sup> 布拉多クリトトイヘル會話書ニ之ヲ詳記セリ、<sup>(ツクラテス)</sup> 瓊氏ノ談話ヲ以テ頭ハサレタリ、之ヲクリトトイフプロソポペイアトイフ、

○(口実トス除外例) 人民ガ法律ニ服従スルトイヘル職分ハ之ヲ原理ト定ムルコトヲ得ベシ、然レドモ此職分ハ 果シテ絶対的ナルカ、此職分ハ或ル除外例ヲ許シコトハアラザルカ、第十六世ノ学識アル神学者<sup>(シエズイット)</sup> 耶修的教ノシユアレツハ此職分ニ付キテハ、三个ノ除外例アルコトヲ言ヘリ、其一ハ法律若シ不公平ナルトキ、其の故ハ不公平ナル法律ハ法律ニ非ザレバナリ、此ノ如キ法律ハ之ヲ守ルノ義務ナクキノミナラズ、若シ強テ之ヲ守ラシメントスルモ、其命令ニ服従スルノ義務ナシ、其一ハ法律過嚴ナル時、此ノ如キ法律ハ君主ガ必ズ之ニ服従セシムベシトイフ絶対ノ意思アルニ非ズ、寧試験ノ為メニ之ヲ作りタル者ナリト自信シテ此ノ如キ法律ハ之ニ服従セザルモノナリトスルナリ、其三ハ若シ国民ノ多数、其法律ニ服セザルトキハ、少数ノ者ハ、多数ノ者ノ抛棄シタル法律ニ服従スル義務ナキナリ、其故ハ君主ハ、若シ多数ノ人民ガ服従セザル所ノ法律ヲ以テ、他ノ人民ニ之ヲ守ラシメントスルノ存意ナキ者ト假定スレバナリ、

○シユアレツガ題ニ出シタル此ノ除外例ハ、殊ニ最初ノ二條ハ做シ得ベカラザルコトナリ、不公正ナル法律ニ服従セザルトイフコトヲ允許ス

導キ入ル、者ナリ、凡ソ法律ハ皆公正ナル者ト假定セザルベカラズ、然ラザレバ法律ニ非ズ、我俚ノ規則ナリ、人々ハ屢々不公正ノ法律ニ依リテ其身ニ罰ヲ受クルコトアリ、若シ不公正ナル法律アルトキハ、余等ハ其廃止ヲ求メザルベカラズ、今日ニ在リテハ、出帆ノ自由アルヲ以テ、批評ノ必要ニ満足ヲ與フルコトヲ得ベシ、然レドモ其間○常ニ法律ニ服従セザルベカラズ、第一ノ除外例モ亦保持スベキ者ニ非ズ、法律ノ甚嚴酷ナルハ、君主ガ唯試験ノ為メニ作リタル者ナリト假定シテ、之ニ服従セザルモ可ナリトイフハ總テノ法律ヲ逃ル、コトヲ許シタルト其事正ニ相同ジ、何則法律ノ或條目ハ、其人ニ依リテ甚嚴酷ニ感ズル者ナレバナリ、且ツ此ノ如キ推測ハ想像ノ者ナリ、法律ヲ作ル所ノ君主ハ、之ヲ執行セントスルハ固ヨリ先天ノ希望ナリ、彼ガ之ヲ以テ我等ヲ試ムルトイフガ如キハ全ク勝手ナル假造説ナリ、法律ヲ廢棄セントシテヨク其見込ヲ達シ得ベキハ只君主ノ柔弱ナルトキニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得ベシ、然レドモ其事ハ決シテ公正ノコトニ非ズ、何レノ國家モ此ノ如キ崩壞ノ萌芽ヲ見テ之ニ抵抗セザル者ナカルベシ、第三ノ除外例ニ付テハ、世間ハ或ハ廢止シタル法律アリ、而シテ其法律ハ風俗習慣ニ反スルヲ以テ、モハヤ用フルコト能ハズトイフコトハ有ルアリ、然レドモ全ク此ノ如キ場合ノ外ハ、多数ノ者ハ服従セザル二十分ノ道理アリ、少数ノ者モ同ジク然リトイヘル法律アリトイフコトヲ得ザルナリ、例ヘバ多数ノ者ガ法律ヲ僭フンコトヲ欲シ、又刑罰

ノコトニ関シテ、詐偽ノ公告ヲ為スコトヲ欲スルガ如キハ、己ノ職分ヲ完成スルノ市民ノ位格ヲ失フ者トイフベシ、

○若シ法律ニ服従スルヲ以テ絶対ノ職分トスルトキハ是モ同時ニ法律ヲ改正センガ為メニ法律ノ批評スルノ權利ヲ許サバカラス、此權利ハハ実ニ少数人ノ權利ナリ、而シテ此權利ハ婚に津文明ノ諸國ニ於テ共ニ認許スル所ナリ、法律ハ実ニ不公正ニシテ又誤謬多キ者ナリ、法律ハ多ク党派ノ精神ヨリ生ズル熱情ヲ以テ作ル者多シ、本原ヨリ不公正トイフコトハナキモ習慣風俗ノ変化ヨリ時ニ依リ不公正トナルコトアリ、又偏見又ハ無知ヲ以テ法律ヲ働カスコトアリ、然ルトキハ害ヲ為スコト多シ、是ヨリ出版ノトイフコト起リ、是ヲ以テ少数人ヲ保護スル必要ノコトトナル、論辨ヂスカッションハ漫罵インシニユルトニ非ズ、凡ソ法律ハ其法律タルヲ以テ、何レモ尊敬スベキ者ト定メラル、則チ法律ハ則チ主權ヨリ公布シテ道理ニシテ又公然ノ意思ナリ、人ハ理ヲ以テ主權者ヲ勸説シ、彼ヲシテ法律ヲ變化セシムルコトヲ得、人ハ法律ヲ賤侮スルコト能ハズ、此ノ如キハ遂ニ法律違背ニ陥ラシムル者ナリ、

(八十七章) マジュストレット 大官ヲ尊敬ス

法律ニ服従スルニ次グ所ノ職分ハ、大官ヲ尊敬スルコトナリ、大官ハ法律ノ執行ヲ寄托サル、所ノ重職ナリ、之ニ服従スルハ只其勢力ヲ有

スルガ為ニ非ズ、寧法律ヲ表出スル者ナレバナリ、此理ニ依リテ大官ハ恭敬ヲ受クベキノ位格ナリ、敢テ其人ヲ恭敬スルニ非ズ、其恭敬スベキハ其威權ニシテ、其一個人ニ非ズ、無知ノ人ハ多ク重職ヲ以テ暴政者トシ、其威權ヲ以テ行ヘル事ヲ壓制ノ行為ナリト思ヘリ、然レドモ是ハ愚駭ニシテ又哀ムベキノ偏見ナリ、最モ大ナル壓制ハ、一個人ノ熱情ヨリ發スル者ニシテ、暴政ノ最モ危殆ナルハ、無制度ナリ、其故ハ此ノ如キトキハ、最強力者ノ權利ノミ他ニ超越スル者ナレバナリ、威權ハイカヤウナルモ、必ズ其特別ノ利益ノ秩序ヲ保護スル者ナリ、而シテ其秩序ナル者ハ各人ノ保護ヲ為ス者ナリ、大官ハ其上ニ又國ヲ代表スル者ナレバ之ヲ恭敬セザルベカラズ、モシ國ヲ以テ一家トスルトキハ、大官ノ威權ハ一家ノ首長ノ威權ト同一ナリト認メザルベカラズ、此威權タトヒ誤謬アルモ亦恭敬スベキ者ト定ラレテアルナリ、

(八十八章) 投票

國民ノ義務ノ特別ナル者ノ中ニ於テ、殊ニ必要ナルハ投票ノ義務ナリ、其故ハ此事ハ今ノ市民ノ意思ニ打任カサレ自由ニサレテアル者ナレバナリ、

他ノ義務ト相比シテ見ルトキハ、此義務ハ其制抑中ニ良善ノ意思ヲ含ム者ナリ、其職分ノ意味ナル、租税ヲ出サザル者ハ、強テモ之ヲ出サバ

ルコトトナルナリ、投票ハ之ニ異ニシテ太ダ自由ナリ、或ハ投票シ、或ハ投票セザルコトヲ得、或ハ我好ム人ニ投票ス、是ニ付キテ職分ノ意味ヨリ他ニ制抑ヲ為ス者アラズ、此道理ニ依リ、是ヲ以テ義務ノ種類ノ定ムルコトノ必要起ルナリ、

(一) 投票スルコトハ職分ナリ、市民ニ投票ノ權利ヲ允許シタル上ハ、法律ガ要望スル所ハ、市民ノ意思ヲ發表スルコトニアリ、而シテ其決定ヲ為スベキハ多数ノ意思ニアリ、多数ノ權利トイヘル原理ニ付キ數々疑問ヲ生ゼリ、其故ハ、何故ニ多数ノ意思ニハ悟リナキヤ、実ニ然リ、又何故ニ少数ノ意思ニハ亦悟リナキヤ、多数ハ、力ニ訴フル以前ニ於テ爭論ヲ定ムベキ規則ナリ、少数ハ實ニ不平ヲ起スベキ根元トナルナリ、少数ニ付キテ十分ノ規則ナケレバナリ、然レドモ少数ヲ變ジテ多数トスルノ機会ナキニ非ズ、自由ナル國家ニ於テ、多数ノ時々變化スルハ、屢々見ル所ナリ、此ノ如キ者、實ニ選擇政治ノ原理ナラバ(選擇權利ノ方法及ビ大小ハイカ様ナルモ)真正ノ多数ヲ現ハストイフコトハ、尤モ必要ノコトナルベシ、而シテ尤多数ナル投票者ヲ得ルニ依リテ成ルコトナリ、例ヘバ市民ノ半分ハ其權利ヲ拋棄シ、其投票スル者ハ其半ニ過ギズ、而シテ其中ニ一票ヲ増加スルトキハ、多数トナル、然ルトキハ市民ノ四分ノ一ニシテ法律ヲ作ルコトトナルナリ、此ノ如キハ多数ヲ取ルノ原理ト全ク反対スルコトトナル、然レドモ此

コトハ絶対ノ不公正ニ非ズ、其故ハ投票セザル所ノ人ハ、黙シテ其結果ヲ認許スル者ナレバナリ、然レドモ此ノ如キ消極ノ服従ハ、積極ノ服従ト同一ノ價值ヲ有スルコト能ハズ、

投票ヲ否ムニハ二個ノ原因アリ、其一ハ無頓着、則チ冷淡ナリ、其二ハ、命題ノコトニ付キテ、知識ノ欠乏ナルナリ、是ニ由リテ其何レカ可否ヲ決スルコト能ハザルナリ、第一ノ原因ニテ投票ヲ否ムハ罪アリトスベシ、市民タル者ハ公共ノコトニ付キテ、無頓着ニテ宜シトイヘハル權利ヲ有スル者ハ一人モアルコトナシ、此事ニ付キテノ誘惑ハ愛國心ノ欠失セルナリ、第二ノ原因ニ付キテハ、ヤ、精密ノ疑問ヲ要ス、或人ハ曰ク、余ハイカンシテ投票スベキカト、余ハ此問題ニ付キテ何モ理會シタルコトナシ、余ハ威權ヲ有セズ、余ハ候補者中ニ於テ可否ヲ知ラズ、此過誤ヲ治セントスルニハ、教育ニ大ナル發達ヲ得、自由ノ習慣風俗ノ中ニ進入セシムルノ外ナシ、然ルトキハ次第々々ニ市民ノ多数、公共ノ事ニ於テノ利益ヲ了解スルニ至ルベシ、然レドモ今日ノ有様ニ於テ、彼ガ信用スル所ノ人ヲ選出スルニ於テ尚勝レタル人ニ商議シテ初メテ其職分ヲ了スルコトヲ得、即チ教示ヲ得テ初メテ其勉カヲ為スコトヲ得ルナリ、

(二) 投票ハ不偏<sup>チラスイテ</sup>ナラザルベカラズ、投票ニハ尤モ貪冒(賄賂)ヲ惡ム、是ハ只恥ズベキノ行為ノミナラズ、又法律ニ於テノ罪人トナ

ルナリ、獨リ貪冒ヲ避クルノミナラズ、更ニ擴メテ不偏無私ナラザルベカラズ、凡ソ投票スル者ハ專ラ本国ノ利益ヲノミ考ヘテ之ヲ為スベシ、一地方ノ利益ヲ謀ルベカラズ、然レドモ其治法ノ官吏ヲ投票スルハ此限ニアラズ、

(三) 投票ハ自由ナラザルベカラズ、選者及ビ聚合体ノ名代人ハ、専ラ己ノ良心ノミニ服従スベシ、或ハ勢力アル者ヨリ出タル高慢ナル代人ノ押付ケハ之ヲ拒絕セザルベカラズ、

(四) 投票ハ總テ明白ナラザルベカラズ、選挙人ハ皆ヨリ候補者ノ道德、其意見、其職分ニ堪フルカ否ヲ投票スル為メニ、投票者ハ或ル教育ナカルベカラズ、其教育ハ、自然ハ、其父母ニ屬ス、然レドモ其身ニ屬スルコトハ嘗テ得タル教育ノ開發セル者ナリ、余等ハ新聞紙ヲ讀マザルベカラズ、然レドモ単ニ一紙ノミナルベカラズ、余等ガ警哨ノ語及ビ迷信者ノ奴隸トナリ居レリ、余等ハ更ニ光明ナル人ヨリ教示ヲ集合セザルベカラズ、

#### (八十九章) 租税

租税ヲ納ムルコトハ職分ナリ、其故ハ各市民ヨリ金ヲ出スコトナケレバ國家ハ財囊ヲ有スルコト能ハズ、又其委托サレタル役目ヲ為シ遂グ

ルコト能ハズ、

若シ金錢ナキトキハ、イカンシテ裁判ヲ行フベキ、イカンシテ教育ヲ施スベキ、イカンシテ国境ヲ守ルベキ、イカンシテ鉄道ヲ保持スベキ、此金錢ハ、此目的ノ為メニ選挙セラレタル国ノ代議士ニ由リテ發言セラル、ナリ、然レドモモシ国家ニ於テ代人ノ同意ト監督トナシニ、租稅ヲ賦課スルトキハ、人民ハ之ヲ出スコトヲ否ムベシ、此惡事ハ甚恐ルベキ者ニ非ズ、其故ハ己ニ善良ノ意思ヲ失ヒタルトキハ、不同意ナル市民ノ上ニ、無理押ヲ以テ賦課スルコトヲ得レバナリ、然レドモ亦市民ノ方ニハ法律ヲ欺クコトハ欺罔ニ非ズトイフコトヲ信ゼリ、彼等ハ其国境以外ニ禁制品ヲ出サントスルトキハ、虚言ヲ告知スルコトヲ猶豫セザルナリ、是其本ハ租稅ヲ出スコトヲ嫌フニ出タル者ナリ、

(九十章) 兵役

兵役ハ租稅ノ義務ト同ジク法律ヲ以テ定メラレタル者ナリ、故ニ一人ニテ之ヲ選擇就スルコト能ハズ、然レドモ余義ナルノ故ニ之ヲ職分ナリトイフコトヲ得ズ、此事ハ此我良心ヨリ發シ、誠心ヨリシテ之ヲ為サザルベカラズ、

更ニ公正ナル意見ヲ付加スベシ、軍役ハ、練習、秩序、服従、勇氣、

忍耐等ノ学校ニシテ、人身發達シ良善ノ市民ヲ作ル為メニ、精神ト身体トヲ強健ニスルコトヲ人々ニ與フル者ナリ、

兵役ノ職分ニ付キテ著明ナル犯法ハ左ノ數條ナリ、其一ハ身体ヲ毀傷スルコト、自ラ之ヲ行ヒテ其身ヲ軍役ニ不適當ニスルナリ、其二ハ偽リテ羸弱ナリトイヒテ、義務ヲ免レントスルコト、其三ハ戰爭ノ時ニ遁逃スルコトニテ、其尤モ罪ノ重キハ、逃レテ敵ニ歸スルコトナリ、其四ハ上官ノ命ニ従ハザルコトナリ、

此第四ノ罪惡ハ、殊ニ注目スルノ要アリ、其他ノ者ハ多少稀ナル罪惡ナリ、獨リ不從順トイフコトハ、我國ノ軍隊ニ於テ屢々見ル所ニシテ、又甚ダ危殆ナル惡事ナリ、今日ニ在リテハ、軍隊ノ働キトイフモノハ、甚ダ錯綜シテ困難ノ者トナリタレバ、若シ士卒ノ嚴格ナル服従トイフコトナキトキハ、何事ヲモ為スコト能ハザルナリ、彼一人ノ勇猛ヲ以テ尤モ大切ナリトシタル時代ニ於テハ、不從順モ、甚シキ不都合ハナカリシナリ、然レドモ今日ニ在リテハ何事モ聚合体ヲ以テ為サザルベカラズ、故ニ若シ兵士タル者、服従ヲ為サザルヲ以テ、已ムコトヲ得ズ擊破セラル、ニ至ルベシ、例ヘバ、今或ル処ニ、五万人ノ敵兵アラニ我等モ亦五万人ニシテ、尔ハ其中ニ属スルトセン、而シテ尔ハ其軍隊ト共ニ敵ト同時ニ同一ノ所ニ達セザルベカラズ、尔ノ兵ハ敵ノ兵ト同ジクシテ一ヲ以テ一ニ敵スルナリ、而シテ尔ハ敵ト共ニ多クノ

機会ヲ有セリ、

若シハ、敵ノ有セザル許多ノ形勢ヲ有スルトキハ、尔ハ敵ヨリモ多クノ機会ヲ有セリトイフベシ、然レドモモシ尔ノ陣隊ニ練習ナク、兵士從順ナラザルトキハ、例ヘバ行進ノ命令ヲ發スルニ当リ、各人ノ自己ノ勝手ニ歩行スルトキハ、尔ガ其地ニ達スルハ、太ダ遅クナルベシ、而シテ敵ハ已ニ早ク好キ地位ヲ占領スルナルベシ、其トキハ尔ガ軍ハ己ノ一ノ機会ヲ失フナリ、其上ニ尔ノ隊列ノ不整頓ニ依リテ、惣勢同時ニ到着スルコト能ハズ、其列ニ在ル者ハ、只二万五千人ニシテ其他ハ、猶後方ニ在ルトキハ、此二万五千人ハ敵勢ニ併吞セラルベシ、其人智ニ達セザル所ノ兵士ハ戰場ヲ遁レタル者ト考フベキヤ、決シテ遁レタルニ非ズ、不整頓ニ依リテ、此ノ如クナリタルナリ、モシ敵兵●追スルトキハ、此兵ハ防禦力ヲ失ヒテ其身ヲ敵ニ打任カセザルベカラズ、總テ不整頓不規則ハ●是ト同一ノ結果ヲ得ル者ナリ、又他ノ一方ヨリ言フトキハ兵卒ノ從順ノ至テ堅固ナルトキハ、其軍隊ハ一個人ノ如ク、總テノ謀計ト總テノ結合ヲ與フルナリ、此軍隊ハスベテ幸アル機会ノ利益ヲ取り、又其運動ハ速ニ全隊ニ亘ルヲ以テ其危難少ナク、又其方術ヲ用フルコト少フシテ結果ヲ得ルコト多シ、此ノ如キコトハ兵卒ニ精密ナル習練ヲ要スルノ道理ナリ、尔ハ言フナルベシ、此ノ如キハ人ヲ以テ器械ト為シテ扱フ者ナリト、然リ、モシ抵抗スルトキハ

器械トナルベシ、其故ハ抵抗スルトキハ必ず制抑ヲ行ハザルベカラズ、然レドモモシ尔教練ノ必要ヲ了解シ、尔ガ自己ノ同意ヲ以テ之ヲ服従スルトキハ、モハヤ器械トハナラザルナリ、即チ尔ハ人ナリ、故ニ器械トナラザル所ノ方法ハ、自由ノ服従ヲ為スニ在ルナリ、

左ノ條ハ今日ノ疑問トナレリ、兵卒ハ常ニ服従ヲ專トスルコトナレバ、モシ兵卒ノ良心ノ不同意ナル命令ニモ亦服従セザルベカラザルカトイフコトナリ、此コトハ危殆ヲ起スベキ疑問ニシテ、道德ニ些少ノ益ナクシテ紀律ヲ敗ルニ傾ク者ナリ、兵士モシ罪惡ヲ犯セトイヘル命令ヲ受タルトキ(タトヘバ防禦力ナキ者ヲ殺スベシトイフガ如キ)兵士ハ其命ニ從ハザルノ權利アルベシ、サント バルトロメウノ虐殺ノトキニ方リ、全国ノ州郡ニ命ジテ尽ク巴里ノ例ニ從ハシメタリ、此時知州ノ一人子爵ウラントヲルテトイフ者之ニ対ヘテ曰ク、我兵士ハ劊手ノ役ヲ為サシムルコト能ハズト、此答ハ世界ノ人皆之ヲ歎稱セリ、然レドモ此ノ如キハ甚罕ナルコトニシテ、且ツ命令他律ニ抗シテ不信用ヲ申込ムハ甚危殆ナルコトナリ、他律命令ハ、国ノ防禦及ビ獨立ノ或ル保障ナレバナリ、

(九十一章) 教育ノ義務

小兒ヲ教フルコトノ職分ハ自然ニ父母ト小兒トノ間ノ干係ヨリ成ルナ

リ、小児ヲ入学セシムルノ義務ハ、実ニ小児ヲ教化スルノ義務ヲ包含ス、教育ノ外ノ教化ヨリハ、ムシロ、教化ノ外ノ教育ナシ、今日ハ教育ノ義務ハ法律ノ中ニ加ヘラレ、又制裁モ其中ニ含有ス、然レドモ父母タル者ハ、制抑ヲ受ケズシテ自ラ法律ニ服従セザルベカラズ、

(九十二章) 政治ノ勇 シビル コウレヂ

政治ノ勇氣ハ軍陣ノ勇氣ニ異ナルトイフコトハ上ニ已ニ之ヲセリ、言ヘリ、今此条目ニ付テ言フベキノ時來レリ、因テバルン氏ノ民政ノ道徳ヲトイヘル書ヨリ左ノ条ヲ引用セリ、

## 第九編

### 国際ノ職分 国際ノ法律

凡ソ人類ハ、国家又ハ国民ト名クル種々ノ社会ニ分レ、此国家トイヘバ、体ハ一個人ト同様ノ状ヲ為ス、彼等ハ人類間ニ自然ニ成レル其國ノ本原ノ法律ニ服従シ、又習慣ニ依リテ國ト國トノ間ニ行ハル、或ル義務ニ服従ス、

(百十二章) 国際ノ法律 普通ノ原理

国際ノ法律ト名クル者、是ナリ而シテ、而シテ此法律ハ、即チ天然ノ法律ニシテ、又各国民ニ応用スル道德ノ法律ナリ、

各国民ハ皆平等ニシテ、又何レモ獨立ナリトイフコトヲ理會セルハ、此法律ノ功德ナリ、又各国民ハ相互ニ損害スベカラズ、又來リテ損害ヲ為ス者アラバ、相互ニ之ヲ驅逐セザルベカラズトイフコトモ、此法律ニテ了解セシ所ナリ、又攻撃ヲ受クルトキハ自国防禦ノ權利、無理ヲ以テ脅迫シ、又ハ壓制シタルトキハ力ヲ以テ之ヲ逐返シ、防禦スルノ權利トイフモ、是ヨリ生ジタルコトナリ、

若シ各国民相互ニ天然ノ法律ヲ遵用スルトキハ、相互ノ平和ノ状態ニアリ、力ヲ以テ敵ノ不公義ヲ黜ケザルベカラザルノトキハ、戦争ノ状態トナルナリ、

(百十三章) 戦争

各国民ニ於テ、其管治者（或ハ人民或ハ貴族、又ハ国王）ハ戦争ヲ出スノ權利ヲ有スルトイフハ、明白ナルコトナリ、其故ハ此權利ハ全ク自防ノ權利ト同一ノ者ニシテ、一国民ニ此權利アルハ一個人ト異ナルコトナケレバナリ、故ニ戦争ハ原理ニ於テ正当ナル者ナリ、然レドモ其戦争ヲ起ス道理ノ善惡ニ依リ、又ハ全ク道理ナキニ依リ、或ハ公義

トモナリ、或ハ不公義トモナルナリ、

(百十四章) 公義ナル戦ノ道理

豫ジメ一般ノ仕方ニ於テ、公義ナル戦ノ道理ライカント定ムルハ容易ノコトニ非ズ、何則戦ハグ体ノ状況ニ依リ一様ナラザル者ナレバナリ、然レドモ之ヲ收擧一ノ根元ノ原理ニ帰セシムルコトヲ得、即チモシ敵ニ威迫サル、トキハ、自防ノ主意ヲ以テ之ヲ為スノミナラズ、モシ同盟国ガ不公義ノ攻撃ヲ受クルトキハ、之ヲ防グ為メニ戦ヲ起スコトアリ、以下ニ記スル諸件ノ如キハ、屢々之ヲ以テ戦ノ口実トスル者アレドモ、道德者ハ之ヲ以テ、公義ト認めザルナリ、

(一) 強隣ヲ畏ル、コト、例ヘバ隣国ガ其國中ニ新ニ城砦ヲ築キ、又ハ新ニ軍隊ヲ編制シ、又ハ其数ヲ増加スルナドハ公義ノ戦争ノ道理トスルコト能ハズ、

(二) 利益ト必須(不得已)トハ同一ノ權利ヲ有セズ、例ヘバ我等ノ為メニ都合ヨキ土地アリトモ、又我等ノ境界ヲ守ルニ適當ノ土地アリトモ、其土地ヲ占有センガ為メニ戦争ヲ起スハ正当ノコトニ非ズ、

(三) 又其住居ヲ変移シ、或ハ沼沢沙漠ノ地ヲ棄テ、更ニ膏腴ノ地ニ移ラントスルノ希望ヨリ兵ヲ起スモ亦上ノ同一ノ理ナリ、

(四) 我国ヨリ知識開化ノ度低キヲ名トシテ、或ル国民ノ自由ト權利トヲ犯サントスルモ亦不公義ナリ、我等ガ野蛮ノ民ノ攻撃ヲ受ケザル間ハ開化ノ原因ハ、正シキ戦ノ原因トハナラザルナリ、

(四) (五) 吾等彼ニ勝テ彼土ニ利益ヲ為シ、又富ヲ與ヘ、自由ヲ與ヘ、道德ヲ教フル等ノ口実ヲ以テ、或ル国民ヲ征伐スルモ亦公義ニ非ザルナリ、

(百十五章) 防禦及ビ侵攻ノ戦

戦ハ之ヲ二種ニ分ツベシ、一ヲ防禦ノ戦トイヒ、一ヲ進攻ノ戦トイフ、甲ハ自国ノ土地ヲ防グ者ニシテ、乙ハ敵ノ土地ヲ攻撃スル者ナリ、

世人動モスレバ、此二者ヲ以テ戦ノ正不正ヲ區別シ、防禦ヲ以テ公義トシ、進攻ヲ以テ不正トスレバ、夫レハ誤解ナリ、防禦進攻ハ、只戦ノ原因ヲ區別シタルノミニシテ、只戦争ノ状ニ依リテ名付ケタル者ナリ、或トキハ敵ヨリ攻撃ヲ許スヲ以テ利トナルコトアリ、或人ハ吾等ニ不公義ヲ行ヒ、我ニ向ヒテ兵ヲ起サズシテ我ノ行ニ攻ムルヲ待ツ者アリ、此ノ如キハ敢テ其人ヲ以テ正理ト為スコト能ハズ、又或日トハ之ニ反シテ、不公義又ハ損害ヲ回復スル為メニ兵ヲ出スコトアリ、此

(百十六章) 用心及ビ預備

其原因ノ公正ナル時ニ於テモ、其戦争ヲ公正ナラシメントスルニハ、猶多少ノ用心ト預備トヲ要スルナリ、

(一) 戦争ノ事タル甚大切ノ者ナリ、瑣細ノ原因ヲ以テ衆人ヲシテ戦争ヨリ起ル禍害ニ罹ラシムルノ罪惡ト称スベキコトナリ、尤モ利益アル戦争ニ於テモ、尚然リ、

(二) 戦争ニ先ヅ良好ノ結果ヲ得ベキヤヲ料ラザルベカラズ、冒進シテ、其身ヲ破滅ノ中ニ投ジ、又ハ小ナル禍害ヲ避ケンガ為メニ却テ大ナル禍害ノ中ニ没入スルガ如キハ躁暴ノ惡ヲ犯セル者トイフベシ、

(三) 吾儕モシ此處置ニ温和ナル方法ヲ有セザルトキハ戦争ヲ起サズシテ両国ノ不和ヲ調理スルニ二個ノ方法アリ、其一ハ兩敵ノ間ニ神説ナル相談、其二ハ、不偏ナル第三ノ国ノ仲裁、即チアルビトラメント(仲裁人ノ裁判)、第三ハ今日ハ至テ罕ニテ、且世ニ擯斥セラレタル投賽<sup>カス</sup><sub>ロク</sub>ナリ、若シアラユル調和ノ方法ヲ行ジ、温和ノ手段ニテハ其効ヲ尽スルコト能ハザルニ至レバ、最後ノ義務トシテ干戈ニ訴ヘザルコトヲ得ズ、其時ハ此最後ノ手段ヲ用フルニ、決シタルノ義ヲ敵国ニ宣告スルナリ、是ヲデクレーション オフ ウォール トイフ、

(百十七章) 戦時ノ職分

戦争ガ兩國ノ間ノ悲シムベク、又、避クベカラザルノコトトナリタル時ハ、猶成ルベクタケ其事ニ及バザランコトヲ務メ、公義ノ方法ヲ以テ人類ノ權理ヲ和好センコトヲ求ムベシネ是ニ付テハ世ノ政法学者ガ規則ヲ定ムル者多く、殊ニ著明ナルグロチユースガ論著セル者多シ、グロチユースハ、國際法ノ創案者ナリ、

戦争ノ正利ニ付キテ、根基トナルベキ原理ハ左ノ如シ、總テ戦争ノ志謀ニ於テ、道德ノ必須ト相結合スル者ハ、之ヲ允許スベシト雖ドモ、更ニ其餘ニ及ブコトハ許サズ、實ニ不得已ノ方法ヲ用ヒズシテ其事ヲ成就スルコトヲ得ルナラバ、其事ヲ為スノ權利ヲ有スルハ全ク無用ノコトナリ、然レドモ、之ニ反シテ、自己ノ權利ヲ防守スルノ口実ヲ用フルトキハ、何事ヲモ、為シ得ベシト為シ、是ガ為メニ最終ノ極端ノ手段ヲ用ヒントスルハ、亦公正ノコトニ非ザルベシ、

此一般ノ原理ヨリシテ、次ノ応用法ヲ生ズルニ至ルナリ、

(一) 敵ノ兵卒ヲ殺スハ、法ニ協ヘルトイフハ慥ナルコトナリ、寔ニ戦争ノ志謀ハ敵ヲシテ阻止センガ為ナリ、若シ敵ニテ兵ヲ起サザルニ我ヨリ兵ヲ興スハ、虚驕トイフベシ、此事ハ兇殺ヲ以テ無罪ナリト考ヘ、人類ノ正当防衛ヲ權利ヲ許シタル場合ノ一ナリ、

(二) 然レドモ敵ヲ殺スノ權利ハ自ラ其中ニ界限アリ、原理ニ依ルトキハ、敵ヲ殺スハ唯其兵器ヲ執ル者ニ限りテ、兵器ヲ有セズ、自防ノ地下ラナキ所ナキ一己ノ私人ニハ及バザルコトナリ、左ノ如キ者ハ只偶然ニ戰場ニ命ヲ殞スコトアリ、例ヘバ互ニ相争フ所ノ村落ニ於テ、其住民ノ如キハ、戰爭中彼我ノ彈丸ニ觸ル、モ之ヲ防護スルコトハ為スコト能ハズ、自ラ防禦スル力ナキヲ知リツ、之ヲ殺スコトハ深く慎マザルベカラズ、

(三) 他國ノ人ハ戰爭ノアル土地ヨリ立去ルコトヲ許スベシ、若シ余義ナク其地ニ止マラザルベカラザルトキハ其地ノ市人ト同一ノ危難ハ仕方ナケレモ夫ヨリ餘分ノ危難ニ罹ラシメザル様ニスベシ、

(四) 俘虜ハ之ヲ殺スベカラズ、又奴隸ト為スベカラズ、然レドモ其危陰ヲ起ス事ヲ為スハ之ヲ防ガザルベカラズ、

敵ノ生命ヲ奪フノ方法トシテ、或ル卑怯ナル、又ハ不信実ナル行為ヲ禁ズルハ正当ノ道理ナリ、例ヘバ彈丸中ニ毒ヲ入レ、破壊スルニ甚シキ暴虐ノ手段ヲ用ヒ、又ハ暗殺ヲ行フノ如キ、是ナリ、

故ニ敵ノ大将ヲ暗殺セントシテ刺客ヲ敵陣ニ送ルガ如キハ甚惡ムベキ行為ナリ、

故ニ正シキ戰爭ニ付キテハ以下之ヲ述ブベシ、

(一) 戰ハ敵ノ財産ヲ破壊スル權利ヲ與フ、之ヲ劫掠ノ權利ライト、オートイフ、然レドモ劫掠ハ己ノ利益ノ為メニ之ヲ行フベカラズ、只敵ノ勢力ヲ弱ムル為ニノミ之ヲ行フベシ、故ニ成ベク公立ノ記念碑、工藝ノ製作物等ハ之ヲ破壊セザル様ニスベシ、

(二) 敵ノ所有セル貨財ヲ取りテ我物トスルハ戰ノ權利ナリ、是ハ和好ノ談判調ヒ戰爭ノ要用及ビ金錢償却ノコト定マラバ之ヲ止ムベシ、

(三) 海上ノ戰ニ於テ、敵ノ船舶ヲ奪フコトノ許サル、ハ、此原理ノ功ナリ、其船ハ軍艦ノミナラズ、商船又ハ其積荷物セラヘテ奪フコトヲ得ベシ、

(四) 敵ノ財産ヲ奪フノ權利ハ獨リ主權者ノ手ニアルベシ、彼ハ、賠償又ハ抵当ト称シ、國家ノ名ヲ以テ攻入リタル土地ノ財産ヲ我物トスルノ權利アリ、然レドモ一個人ニ敵民ノ財産ヲ取りテ己ガ有トスルノ權利ヲ與ヘズ、己レ一個人ニテ之ヲ為セバ強奪トナリナリ、

#### (百十八章) 戰捷

戰爭ノ權利ノ德ニ依リテ他國ノ全部或ハ一部ヲ、我主權者ノ名ヲ以テ

我國家ニ付屬セシムルヲ戰捷ノ權利トイフ、戰捷ノ權利ハ最強者ノ權利ナリ、此權利ハ現今ノ政治社会ノ原理ニ反對セリ、政治社会ノ原理ニ依レバ國家ナル者ハ國民トノ自由ナル約束ノ上ニ立ツ者ナリ、國民ハ只己ノ同意トタタル法律ニノミ服從スベシトイフニアリ、

官府ノカヲ以テ此同意ヲ確實ニスルコトハ容易ノコトニ非ズ、然レドモ人民ノ自由ノ選擇ニ任カストイフコトヲ加フハ慥ナルコトナリ、或ハ人民ノ自由ノ選擇ヲ許サザル者ナリ、近今發達シタル國民ノ公正ナル意思ニテ、第二ノ者ハ漸々ニ之ヲ行フ者ハ少ナシ、「この段落は、annexationを併合と解すべきところを、西村は「加フ」つまり付加と解したために混乱が生じている。この段落の中程は、「自発的意思にもとづく併合のあることは確かであるし、そうでない併合もある。」とい

(百十九章) 局外中立

局外中立トハ、戦争ノトキ、両敵ノ何レニモ屬セズ、其兩的ト平和ヲ保チ居ル所ノ国ライフ、故ニ此中立国ハ、戦争国ニ對シテ偏頗ナク天然ノ法則ヲ行ハザルベカラザルナリ、例ヘバ一方ニ對シテ人道ノ務メヲ為ストキハ、他ノ一方ニ對シテ是ト同一ナル務ヲ嫌フベカラズ、彼ハ戦争ノ双方ニ對シテ、戦争ノ方法ヲ供給スベカラズ、若シ供給スルナラバ、双方共ニ之ヲ供給セザルベカラズ、若シ両敵ニ於テ、我命ヲ

聽クノ機會アリタラバ、其平和ノ為メニ両敵ノ為メニ善良ナル役目ヲ貸サザルベカラザルナリ、

此規則ハ甚ダ單簡ナリ、然レドモ實際上ヨリ言ヘバ中立ノ位置ハ甚精密ナル工夫ヲ要スル者ニシテ、其中ニハ頗ル困難ノコトアリ、之ヲ解尺セントスルニハ、國際ノ法律ノ上ニ特別ノ條約ヲ為サザルヘカラズ、

(百二十章) 國際ノ條約 其性質 其形体

國ト國トノ間ニハ、一個人ト同ジク、天然ノ法則ヨリ流出スル所ノ義務ト權利アリトイフコトハ、上ニ之ヲ言ヘリ、然レドモ又、天然ニ根セズ、只特別ノ約束又ハ習慣ニ由リテ定ムル所ノ義務ト權利トアリ、凡ソ國際法ハ、其習慣ヲ本トスル者ヲ習慣法カタルリイライトト名ケ、約束ヨリ成ル者ヲ約束法コンベンションライトトイフ、國ト國トノ間ニ結ブ約束ヲ條約トリスライトト名ケ、條約ハ其約スル所ノ平衡エクォール不平衡ナルニ從ヒテ平衡及ビ不平衡ノ利アリ、又人的ペルソナルト實的リアルトノ別アリ、人的トハ只或ル人ニノミ干係スル者ニシテ、或ハ其人ノ一生ニ付テ定ムル、是ナリ、又單純ト約束トノ別アリ、單純ハ其約束タル絶対ナリ、約束ニ於テハ或ル約束ニ依リテ定ムルナリ、

條約ノハ其結ベル所ノ目的ノ異ナルニ從ヒテ其種類モ亦多シ、曰ク同

盟ノ條約、曰ク境界ノ條約、曰ク退讓ノ條約、曰ク航海及貿易ノ條約、曰ク中立ノ條約、曰ク和好ノ條約、是ナリ、

(百二十一章) 公共ノ條約 真正ノ狀態

国ト国トノ約束ヲ支配スル規則ノ原理ハ(些少ノ取除ヲ以テ)私人ノ約束ヲ支配スル規則ノ原理ニ全ジ、是二三ノ根原ノ狀態アリ、(一)合意、(二)正当ナル原因、(三)約束ヲ為ス兩者ノ幹能、是ナリ、

合意ハ、(一)宣告(二)自由(三)相互ナリ、

正当ナル原因ハ形体上ニテ為シ得べく、又道德上ニテ正当ナル者、是ナリ、不正ノ原因ハ道德ニ反対スル者ナリ、タトヘバ奴隸法ヲ堅定セントイフガ如キ、是ナリ、

約束ヲ為スニ堪フルノ幹能ハ只国家ノ主權者ニノミ属スルコトナリ、然レドモ其主權者ハ実ニ其勢力ナカルベカラズ、モシ其主權者、主權ノ力ヲ失フトキハ、タトヒ篡奪ノ人ニテモ、勢力アル者ハ亦約束ヲ為スノ權アル者トス、其故ハ他国ノ人民ハ其人ガ勢力ヲ得タルハ正当ナルカ不正ナルカヲ決定スルコト能ハザレバナリ、故ニ其目的トスル所ハ、其<sup>○</sup>實力<sup>○</sup>ニアリ、然レドモ之ハ通常ノ規則ナリ、或ハ他国ノ政府ニテ、篡奪セル人ノ勢力ヲ認許セザル場合モアルナリ、

(百二十二章) 條約ノ敬重

條約ヲ敬重スベキノ義務ハ、天然ノ法則ニ基ク者ナリ、国家ノ約束ニテモ一個人ノ約束ニテモ同一ナリ、相互ノ干係上ヨリ見ルトキハ、国家モ一個人ニ異ナルコトナシ、或ル政治家即チマキアペリイノ如キハ曰ク、條約ヲ敬重スベキノ義務ハ、唯其條約ニ我等ノ利益ニ相合フ間ノミ之ヲ守ルベシ、マキア氏ノ意見ハ甚鄙ムベキノ語ニシテ、余等ハ之ヲ評論スルノ無用ナルコトヲ知レリ、余ハ大政治家ノ美麗思想ヲ記スルノマ氏ノ邪説ヲ破ルニ足レリトシテ自ラ満足スベシ、

カルヂナル リセリユー曰ク、王ハ條約ヲ為スニ尤モ注意セザルベカラズ、若シ一度之ヲ為シタル後ハ、之ヲ尊敬スルコト宗教ノ如クナルベシ、多クノ政治家ガ此說ニ反対スルコトヲ余ハ之ヲ知レリ、

「ジャネイ道徳學」解題

「ジャネイ道徳學」は、八二七—一七九「雜録」十六に、断片的な摘要とともに合綴されている。裏紙を利用した覚書のような形である。

この資料は、*Elements of morals : with special application of the moral law to the duties of the individual and of society and the state / by Paul Janet* の部分訳である。原書は、Paul Janet (一八三—一八九九) によるフランス語原著 *Elements de Morale, 1870* を、Caroline Rollin Corson (c. 1819—1901) が英語に翻訳したものである。Corson は、ジャネの書の最新版をもとに翻訳したとしている。初版は一八七四年、第二版が一八八七年に出ている。確認できたのは、一八八七年版であるが、これによると、本文は十六の Chapter からなり、全体にわたり通し番号をつけて区分し、それぞれの番号に項目名をつけている。西村の翻訳は、確認できた一八八七年版と矛盾するところはない。Chapter を篇と訳し、通し番号に章を当てている。

この翻訳した部分は、原書の Chapter VII と Chapter IX について、注釈的部分など若干省略はあるものの、それぞれの Chapter の全体にわたっている。ちなみに、訳さなかった Chapter VIII は Professional Duties である。原書は、Duty の議論を多く扱っている書物である。西村が、西洋近代思想における権利よりも義務に大きく関心を寄せていることをうかがわせるものである。

ところで、この原書からの翻刻は、本文冒頭から Chapter V の初め部分まで、通し番号にして 1 から 53 の中途までが、『増補改訂 西村茂樹全集』第 8 卷に「檀寧氏道徳學」収録されている。その翻刻には、土田健次郎氏が担当され、わたくしが解題を担当した。解題執筆時に、翻刻は土田氏が担当したことを明記すべきであったが、それをしなかったのは土田氏に対して、大変申し訳ないことであった。

この場で陳謝する。

また、『全集』における翻刻に関連して、解題で触れるべきであったにもかかわらず、落としていることをここで補足しておきたい。

国立国会図書館による表記は「檀寧氏道徳學」であるが、これは自筆稿本に照らして、「檀寧氏道徳學」とすべきである。『全集』では、第一冊では「檀寧氏道徳學」としているが、第二冊では「檀寧氏道徳學」とし、欄外見出し、いわゆる「はしら」でも「檀寧氏道徳學」としている。

檀の音読みはサ、檀は口であり、いずれも Janet にあててにはいささか無理がある。明治二十六（一八九三）年に成った、西村の「読書次第」『増補改訂 西村茂樹全集』第 5 卷所収）では、保羅惹涅と<sup>パウル・ジャネイ</sup>している。Janet の実際の発音は別として、こちらの漢字を当てる方がふさわしいであろう。

ポール・ジャネは、ヴィクトール・クザンの弟子でソルボンヌ大学教授をつとめた。哲学、政治学、倫理学など広範な分野の著述がある。